

曾我墓所遺跡 第2・3次調査

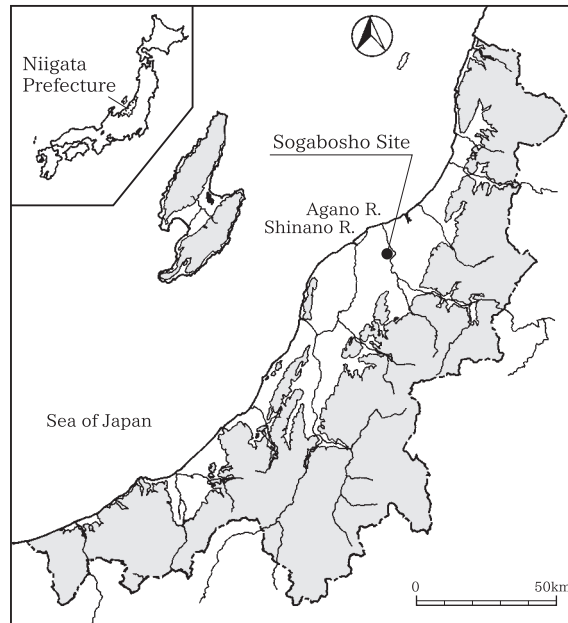
－ 横越排水区雨水調整池築造工事に伴う曾我墓所遺跡第2・3次発掘調査報告書 －

2023

新潟市教育委員会

そ が ぼ しよ
曾我墓所遺跡 第2・3次調査

— 横越排水区雨水調整池築造工事に伴う曾我墓所遺跡第2・3次発掘調査報告書 —



2023

新潟市教育委員会

例 言

- 1 本書は新潟県新潟市江南区横越字下郷 6052 ほかに所在する曾我墓所遺跡の第 2・3 次発掘調査記録である。
- 2 本調査は雨水調整池築造工事に伴い、新潟市教育委員会（補助執行：新潟市文化スポーツ部歴史文化課文化財センター）が新潟市長（担当：東部地域下水道事務所）から依頼を受けて行った。
- 3 令和元（2019）・2 年度に発掘調査と整理作業、令和 3・4 年度に整理作業、令和 5 年度に報告書刊行を行った。発掘調査と整理作業の体制は第三章に記した。
- 4 出土遺物及び調査・整理作業に係る記録類は、一括して新潟市文化財センター（以下、市文化財センターという）が保管・管理している。
- 5 本書の編集は龍田優子（市文化財センター）が行った。遺構図版及び遺構写真図版の作成は高柳俊輔（株式会社吉田建設）・龍田が行い、遺物図版及び遺物写真図版の作成は中川晃子（株式会社吉田建設）・龍田・西山美那（市文化財センター、令和 4 年 7 月まで）が行った。執筆分担は以下の通りである。

第 I・III 章、第 IV 章第 1 節、第 V 章第 1・3・5・8 節、第 VI 章第 1 節、第 VII 章第 3 節を龍田、第 II 章を脇本博康（株式会社吉田建設）・高柳・龍田、第 IV 章第 2～4 節 B、第 VII 章第 1 節を高柳、第 IV 章第 4 節 C を高柳・龍田、第 V 章第 2 節、第 VII 章第 2 節 A を中川、第 V 章第 7 節を中川・龍田、第 V 章第 4・6 節、第 VII 章第 2 節 B を西山が行った。

なお、第 VI 章第 2～7 節は株式会社古環境研究所に分析・執筆を委託し、龍田が編集した。
- 6 本書に掲載した写真の撮影者は、写真図版 1 が米軍（国土地理院発行）、写真図版 2～5 が株式会社オリス、それ以外の遺構写真は高柳・中川・阿部 司・田中万里子（株式会社吉田建設）である。遺物写真は株式会社吉田建設と有限会社 MAX に委託した。ただし、写真図版 98・100 の X 線画像は市文化財センターで撮影し、図版 116・117、写真図版 92～94・98・100 の X 線 CT 画像（立面像・断面像）撮影、及び図版 116 の X 線 CT 画像（立面像）の合成写真作成は新潟県工業技術総合研究所下越技術支援センターの中部 昇 専門研究員が行った。
- 7 遺構図・遺物出土微細図等のトレースは株式会社オリス、遺物実測図のデジタルトレース及び DTP ソフトによる各種版下の作成は有限会社不二出版に委託し、完成データを印刷業者へ入稿した。
- 9 今回の調査成果については、これまで現地説明会資料（令和元年 10 月 19 日・令和 2 年 10 月 10 日）や新潟市遺跡発掘調査速報会 2019〔澤野 2020〕・同 2020〔龍田 2021a〕で発表されている。報告書と齟齬のある場合は、本報告書をもって正とする。
- 10 調査から本書の作成に至るまで下記の方々・機関よりご指導・ご協力を賜った。ここに記して厚く御礼申し上げる。















荒川隆史・伊藤秀和・小野本敦・春日真実・加藤 学・加藤 竜・川崎 保・小林昌二・坂井秀弥・高橋照彦・滝沢規朗・寺崎裕助・田海義正・鶴巻康志・戸根与八郎・中島栄一・名村威彦・奈良貴史・福田仁史・古澤妥史・古谷 毅・増子正三・水澤幸一・宮尾 亨・山本 亮

新潟医療福祉大学・新潟県教育庁文化行政課（令和 4 年度より観光文化スポーツ部文化課）・
（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

（所属・敬称略、五十音順）

凡 例

- 1 本書は本文と巻末図版（図面図版・写真図版）からなる。
- 2 本書で示す方位は全て真北である。磁北は真北から西偏約8度である。
- 3 掲載図面のうち、既存の地形図等を使用した場合は、原図の作成者・作成年を示した。
- 4 引用文献は著者と発行年（西暦）を〔 〕中に示し、巻末に一括して掲載した（但し、第VI章は同章の中で一括し、引用・参考文献一覧の末尾に記した）。
- 5 遺構番号は発掘調査現場で付したものをを用いた。番号は遺構の種別ごとに付さず、通し番号とした。遺構の種別記号は〔文化庁文化財部記念物課 2010〕を参考に以下のように付けて表した。
竪穴建物 (SI) 掘立柱建物 (SB) 井戸 (SE) 土坑 (SK) 焼土遺構 (焼土) 性格不明遺構 (SX) 石列 (石列)
溝状遺構 (SD) 柱穴・ピット (P)
- 6 土層の土色及び遺物の色調観察は『新版 標準土色帖』〔小山・竹原 1967〕を用い、色調名と土層の土色のみ記号を掲載した。
- 7 遺物実測図は1/3を基本とし、これと異なる場合は各図面に明記した。
- 8 土器実測図で全周の1/12以下のような遺存率の低いものについては、誤差があるため中軸線の両側に空白を設けた。土器実測図の断面は、須恵器を黒塗り、それ以外を白抜きとした。トーンについては以下のとおりである。

土 器……黒色処理		赤彩		漆		スス		欠け	
土製品……磨耗		ハガレ		断面・欠け					
石製品……砥面・磨面		付着物		被熱（黒化）					
鉄製品……鉄残存部		柄の痕跡							
木製品……炭化									
- 9 石製品実測図に示す矢印は、断面表示箇所が磨耗範囲、遺物内表示箇所が研磨・磨耗方向を示す。
- 10 遺構の記述は、竪穴建物 (SI)、掘立柱建物 (SB)、井戸 (SE)、土坑 (SK)、焼土遺構 (焼土)、性格不明遺構 (SX)、溝状遺構 (SD)、柱穴・ピット (P) の順に、時代ごとで番号順に記述した。石列は性格不明遺構に伴うため、個別記載はしていない。
- 11 遺物の掲載番号は種別関係なく通し番号とし、本文及び観察表・図面図版・写真図版に共通して用いた。
- 12 本文中の挿図に用いた地形図、遺構・遺物図の縮尺は各図に示した。
- 13 遺構計測表における（ ）付きの値は残存値を意味し、遺物観察表中における（ ）付きの値は推定値を意味する。
- 14 遺構計測表では、遺構の新旧関係を表現する際に「<」や「>」を用いた。例えば、SK1<SK2 となる場合は SK1 が古く、SK2 が新しいことを示す。
- 15 土器・土製品の出土位置は実測図に記載したため、各観察表には主たる遺構・グリッドのみ示した。
- 16 遺物の注記は、遺跡名の略記号を第2次調査は「曾我墓所」、第3次調査は「ソガ」とし、出土地点や層位を続けて記した。また、各調査年度（西暦）の後半数字の「19」・「20」を略記号の前に付した。

目 次

第I章 序 章

第1節 遺跡概観	1
第2節 発掘調査に至る経緯	1

第II章 遺跡の位置と環境

第1節 遺跡の位置と地理的環境	2
第2節 周辺の遺跡	2
第3節 歴史的環境	6

第III章 調査の概要

第1節 確認調査	8
A 調査方法と経過	8
B 調査体制	8
第2節 本発掘調査	8
A 調査方法	8
1) グリッドの設定	8
2) 調査方法	10
B 調査経過	10
1) 第2次調査の経過	10
2) 第3次調査の経過	11
C 調査体制	11
第3節 整理作業	12
A 作業方法	12
1) 遺物	12
2) 遺構	12
B 作業経過	12
C 作業体制	12

第IV章 遺 跡

第1節 概 要	14
第2節 層 序	14
第3節 遺 構	15
第4節 遺構各説	15
A 古代の遺構	15
1) 竪穴建物	15
2) 掘立柱建物	17
3) 井 戸	19
4) 土 坑	19
5) 焼 土	28
6) 性格不明遺構	29
7) 溝	33
8) ピ ッ ト	34
B 中世の遺構	34
1) 溝	34

C 近世の遺構	34
1) 井戸	35
2) 土坑・墓坑	35
3) 性格不明遺構	37
4) 溝	37

第V章 遺物

第1節 概要	38
第2節 土器	38
A 記述の方法	38
B 古代土器の分類	39
C 土器各説	43
1) 古墳時代の土器	43
2) 古代の土器	43
3) 中世の陶器	58
4) 近世の土器・陶磁器	58
第3節 土製品	58
第4節 鍛冶関連遺物	60
第5節 石器・石製品	60
第6節 金属製品	62
第7節 木製品	64
第8節 その他	66

第VI章 自然科学分析

第1節 概要	68
第2節 花粉分析	68
A 試料	68
B 方法	68
C 結果	69
D 花粉分析から推定される植生と環境	71
第3節 植物珪酸体分析	72
A 試料	72
B 方法	72
C 結果	72
D 植物珪酸体分析から推定される農耕と環境	74
第4節 動物遺存体同定	75
A 試料と方法	75
B 結果	75
C 考察	76
第5節 花粉分析・寄生虫卵分析	76
A 試料と方法	76
B 結果	76
C 考察	77
第6節 樹種同定	77
A 試料	77
B 方法	77

C 結 果	77
D 考 察	80
第7節 放射性炭素年代測定・ウィグルマツチング	81
A 試 料	81
B 方 法	81
1) 化学処理	81
2) 測 定	82
3) 算 出	82
C 結 果	83
D 考 察	83

第Ⅶ章 総 括

第1節 遺構について	85
A 竪穴建物について	85
1) 新潟県内の竪穴建物	85
2) 曾我墓所遺跡の竪穴建物	85
B 建物遺構とその変遷について	87
1) 建物遺構について	87
2) 建物遺構の変遷	90
3) 小 結	90
第2節 遺物について	92
A 古代土器について	92
1) 編年的位置づけ	92
2) 遺構別器種構成比率と機能別構成比率	95
3) 時期別食膳具種別構成比率	98
4) 須恵器の胎土構成比率	99
B 金属製品・鍛冶関連遺物について	100
第3節 曾我墓所遺跡の位置づけ	102
A 祭祀の痕跡について	102
1) 祭祀遺物	102
2) 祭祀の場	108
B 遺跡の性格と位置づけ	109
引用・参考文献	112
別 表	121
報告書抄録・奥付	巻末

挿 図 目 次

第1図 曾我墓所遺跡周辺の地形分類図	3	第12図 花粉ダイアグラム②(試料⑫)	70
第2図 曾我墓所遺跡周辺の遺跡分布図	4	第13図 主な花粉の顕微鏡写真	71
第3図 確認調査トレンチ配置図と本調査範囲	9	第14図 植物珪酸体分析結果	73
第4図 確認調査土層柱状図	9	第15図 主な植物珪酸体の顕微鏡写真	74
第5図 現地説明会風景	13	第16図 動物遺存体顕微鏡写真	76
第6図 器種分類図1	40	第17図 土器内面の付着物(試料⑬)	76
第7図 器種分類図2	41	第18図 主な木材・炭化材の顕微鏡写真	79
第8図 器種分類図3	42	第19図 ウィグルマツチング試料採取位置	81
第9図 井戸側に転用された丸木舟の断面・模式図	65	第20図 暦年較正年代グラフ	84
第10図 SE278 出土種実	66	第21図 ウィグルマツチングによる木材最外年輪の 暦年較正年代グラフ	84
第11図 花粉ダイアグラム①(試料①~⑩)	70		

第 22 図	木材のウィグルマッチング	84	第 30 図	鍛冶関連遺構	101
第 23 図	県内の古代（8 世紀以降）における 竪穴建物検出遺跡	85	第 31 図	鳥形製品 1	104
第 24 図	竪穴建物分類図	86	第 32 図	鳥形製品 2	105
第 25 図	建物出土遺物の整理 1	88	第 33 図	鳥形製品・横型須恵器環状瓶・ 鉄製錫杖頭（古代）の出土遺跡	105
第 26 図	建物出土遺物の整理 2	89	第 34 図	横型須恵器環状瓶	106
第 27 図	建物遺構の変遷	91	第 35 図	鉄製錫杖頭（古代）	108
第 28 図	土器の変遷	93	第 36 図	調査区北側の祭祀痕跡	110
第 29 図	食膳具種類別構成比率・須恵器の 胎土構成比率	99			

表 目 次

第 1 表	曾我墓所遺跡周辺の遺跡	4	第 11 表	編年対照表	92
第 2 表	篩選別資料一覧	67	第 12 表	器種構成比率（機能別構成比率）1	96
第 3 表	花粉分析結果	69	第 13 表	器種構成比率（機能別構成比率）2	97
第 4 表	植物珪酸体一覧と含量	73	第 14 表	周辺遺跡の土器機能別構成比率	98
第 5 表	動物遺存体同定結果	75	第 15 表	周辺遺跡の食膳具種類別構成比率	99
第 6 表	樹種同定結果	78	第 16 表	遺構別鍛冶関連遺物出土重量（g）	101
第 7 表	測定試料及び処理	81	第 17 表	近世墓坑出土鉄製品及び釘頭部点数	101
第 8 表	測定結果	83	第 18 表	鳥形製品・横型須恵器環状瓶・ 鉄製錫杖頭（古代）出土地一覧	103
第 9 表	ウィグルマッチング結果	83	第 19 表	祭祀関連遺構出土遺物一覧	109
第 10 表	竪穴建物一覧	86			

別表目次

別表 1	遺構計測表	121	別表 5	石器・石製品観察表	146
別表 2	土器観察表	134	別表 6	金属製品観察表	147
別表 3	土製品観察表	146	別表 7	木製品観察表	147
別表 4	鍛冶関連遺物観察表	146			

図版目次

図版 1	周辺の旧地形図（1/50,000）	図版 14	遺構平面部分図 4（1/150）・ 古代遺構個別図（1/80）
図版 2	周辺の旧土地利用図（1/12,500）	図版 15	遺構平面部分図 5（1/150）
図版 3	周辺の遺跡（1/10,000）	図版 16	遺構平面部分図 6（1/150）・ 古代遺構個別図（1/80）
図版 4	グリッド設定図（1/2,500）	図版 17	遺構平面部分図 7（1/150）・ 古代・近世遺構個別図（1/80）
図版 5	遺構全体図（1/400）	図版 18	遺構平面部分図 8（1/150）・ 近世遺構個別図（1/80）
図版 6	小グリッド別出土遺物重量分布図 1（1/1,000）	図版 19	遺構平面部分図 9（1/150）
図版 7	小グリッド別出土遺物重量分布図 2（1/1,000）	図版 20	遺構平面部分図 10（1/150）・ 古代・近世遺構個別図（1/80）
図版 8	小グリッド別出土遺物重量分布図 3（1/1,000）	図版 21	遺構平面部分図 11（1/150）・ 古代・中世遺構個別図（1/80）
図版 9	基本層序（1/40）	図版 22	遺構平面部分図 12（1/150）・ 古代・中世遺構個別図（1/80）
図版 10	割付図（1/800）		
図版 11	遺構平面部分図 1（1/150）・ 古代・近世遺構個別図（1/80）		
図版 12	遺構平面部分図 2（1/150）・ 古代遺構個別図（1/80）		
図版 13	遺構平面部分図 3（1/150）・ 古代・近世遺構個別図（1/80）		

図版 23	古代遺構個別図 (1/40・1/80)	図版 72	近世遺構個別図 (1/40)
図版 24	古代遺構個別図 (1/40・1/80)	図版 73	古墳時代土器 1 古代土器 1
図版 25	古代遺構個別図 (1/40・1/80)	図版 74	古代土器 2
図版 26	古代遺構個別図 (1/20・1/40・1/80)	図版 75	古代土器 3
図版 27	古代遺構個別図 (1/40・1/80)	図版 76	古代土器 4
図版 28	古代遺構個別図 (1/40・1/100)	図版 77	古代土器 5
図版 29	古代遺構個別図 (1/100)	図版 78	古代土器 6
図版 30	古代遺構個別図 (1/40)	図版 79	古代土器 7
図版 31	古代遺構個別図 (1/40・1/100)	図版 80	古代土器 8
図版 32	古代遺構個別図 (1/40・1/100)	図版 81	古代土器 9
図版 33	古代遺構個別図 (1/40)	図版 82	古代土器 10
図版 34	古代遺構個別図 (1/40)	図版 83	古代土器 11
図版 35	古代遺構個別図 (1/40)	図版 84	古代土器 12
図版 36	古代遺構個別図 (1/40)	図版 85	古代土器 13
図版 37	古代遺構個別図 (1/40)	図版 86	古代土器 14
図版 38	古代遺構個別図 (1/40)	図版 87	古代土器 15
図版 39	古代遺構個別図 (1/40)	図版 88	古代土器 16
図版 40	古代遺構個別図 (1/40)	図版 89	古代土器 17
図版 41	古代遺構個別図 (1/40)	図版 90	古代土器 18
図版 42	古代遺構個別図 (1/40)	図版 91	古代土器 19
図版 43	古代遺構個別図 (1/40)	図版 92	古代土器 20
図版 44	古代遺構個別図 (1/40)	図版 93	古代土器 21
図版 45	古代・近世遺構個別図 (1/40)	図版 94	古代土器 22
図版 46	古代遺構個別図 (1/40)	図版 95	古代土器 23
図版 47	古代・近世遺構個別図 (1/40)	図版 96	古代土器 24
図版 48	古代遺構個別図 (1/40)	図版 97	古代土器 25
図版 49	古代遺構個別図 (1/40)	図版 98	古代土器 26
図版 50	古代遺構個別図 (1/40)	図版 99	古代土器 27
図版 51	古代遺構個別図 (1/40)	図版 100	古代土器 28
図版 52	古代遺構個別図 (1/40)	図版 101	古代土器 29
図版 53	古代遺構個別図 (1/40)	図版 102	古代土器 30
図版 54	古代遺構個別図 (1/40)	図版 103	古代土器 31
図版 55	古代遺構個別図 (1/40)	図版 104	古代土器 32
図版 56	古代遺構個別図 (1/40)	図版 105	古代土器 33
図版 57	古代遺構個別図 (1/40)	図版 106	古代土器 34
図版 58	古代遺構個別図 (1/40)	図版 107	古代土器 35
図版 59	古代遺構個別図 (1/40)	図版 108	中世土器 近世陶磁器
図版 60	古代遺構個別図 (1/40)	図版 109	土製品 1
図版 61	古代遺構個別図 (1/40)	図版 110	土製品 2
図版 62	古代遺構個別図 (1/40・1/100)	図版 111	土製品 3
図版 63	古代遺構個別図 (1/40)	図版 112	土製品 4 鍛冶関連遺物 石器・石製品 1
図版 64	古代遺構個別図 (1/40)	図版 113	石器・石製品 2
図版 65	古代遺構個別図 (1/40)	図版 114	石器・石製品 3
図版 66	古代遺構個別図 (1/40)	図版 115	石器・石製品 4
図版 67	古代遺構個別図 (1/40)	図版 116	金属製品 1
図版 68	古代遺構個別図 (1/40)	図版 117	金属製品 2
図版 69	古代遺構個別図 (1/40)	図版 118	木製品 1
図版 70	近世遺構個別図 (1/40)	図版 119	木製品 2
図版 71	近世遺構個別図 (1/40)	図版 120	木製品 3

写真図版目次

写真図版 1	曾我墓所遺跡周辺空中写真 1	SI207- 焼土 823 A-A' 土層断面
写真図版 2	曾我墓所遺跡周辺空中写真 2	写真図版 12
	曾我墓所遺跡周辺空中写真 3	SI207- 焼土 823 B-B' · C-C' 土層断面
写真図版 3	曾我墓所遺跡 完掘	SI207- 焼土 823 C-C' · SB252-SD468 土層断面
	路線部分 完掘	SI207 完掘
写真図版 4	竪穴建物・掘立柱建物集中区 完掘	SI243 B-B' 土層断面
	溝状遺構集中区 完掘	SI243 完掘
写真図版 5	SK413 · 418 · 419 · 488 完掘	SI451 A-A' ① 土層断面
	SK418 · 419 遺物出土	SI451 A-A' ② 土層断面
写真図版 6	SK419 遺物出土	SI451 A-A' ③ · SK455 土層断面
写真図版 7	調査前風景	写真図版 13
	調査前風景 路線区	SI451 B-B' ① 土層断面
	基本層序①	SI451 B-B' ② · SK460 土層断面
	基本層序②	SI451 C-C' ① 土層断面
	基本層序③	SI451 C-C' ② 土層断面
	基本層序④	SI451 C-C' ③ 土層断面
写真図版 8	基本層序⑤	SI451 遺物出土
	基本層序⑥	SI451- 焼土 820 A-A' 土層断面
	基本層序⑦	SI451- 焼土 820 B-B' 土層断面
	基本層序⑧	写真図版 14
	SI65 A-A' 土層断面	SI451 · SK455 · 460 完掘
	SI65 B-B' · P448 土層断面	SI453 A-A' ① 土層断面
	SI65- 焼土 817 A-A' 土層断面	SI453 A-A' ② 土層断面
	SI65- 焼土 817 B-B' 土層断面	SI453 A-A' ③ 土層断面
写真図版 9	SI65 完掘	SI453 B-B' ① · P597 · 598 土層断面
	SI103 A-A' · B-B' 土層断面	SI453 B-B' ② 土層断面
	SI103- 焼土 114 土層断面	SI453- 焼土 822 A-A' 土層断面
	SI103 完掘	SI453- 焼土 822 B-B' 土層断面
	SI108 A-A' 土層断面	写真図版 15
	SI108 B-B' 土層断面	SI453 完掘
	SI108- 焼土 211 土層断面	SI608 A-A' 土層断面
	SI108-P123 土層断面	SI608-P622 土層断面
写真図版 10	SI108-P200 土層断面	SI608-P773 土層断面
	SI108-P203 土層断面	SI608-P774 土層断面
	SI108-P204 土層断面	SI608 B-B' 土層断面 · 完掘
	SI108 完掘	SB251 完掘
	SI181 A-A' 土層断面	SB251-P95 土層断面
	SI181 C-C' 土層断面	写真図版 16
	SI181- 焼土 830 A-A' 土層断面	SB251-P101 土層断面
	SI181- 焼土 830 B-B' 土層断面	SB251-P149 土層断面
写真図版 11	SI181-P81 土層断面	SB251-P152 土層断面
	SI181-P188 土層断面	SB251-P176 土層断面
	SI181-P189 土層断面	SB251-P178 土層断面
	SI181-P198 土層断面	SB251-P256 土層断面
	SI181 完掘	SB251-P273 土層断面
	SI207 A-A' · SK242 土層断面	SB251-SD153 土層断面
	SI207 B-B' · SK215 土層断面	写真図版 17
		SB251-SK68 土層断面
		SB251-SK68 完掘
		SB251-SK106 土層断面
		SB251-SX130 土層断面
		SB251-SX134 土層断面

	SB252 完掘		SE388 土層断面
	SB252-P140 土層断面		SE388 遺物出土・完掘
写真図版 18	SB252-P169 土層断面	写真図版 24	SK29 土層断面
	SB252-P172 土層断面		SK29 遺物出土・完掘
	SB252-P179 土層断面		SK32 土層断面
	SB252-P191 土層断面		SK32 遺物出土・完掘
	SB252-P202 土層断面		SK48 土層断面
	SB252-P216 土層断面		SK48 完掘
	SB252-P257 土層断面		SK53 土層断面
写真図版 19	SB252-P270 土層断面	写真図版 25	SK53 遺物出土・完掘
	SB252-P276 土層断面		SK67 土層断面
	SB252-P458 土層断面		SK67 焼土検出
	SB252-SK71 土層断面		SK67 完掘
	SB252-SK76 土層断面		SK73 土層断面
	SB252-SK132 土層断面		SK73 完掘
	SB252-SK136 土層断面		SK79 土層断面
写真図版 20	SB252-SK137 土層断面	写真図版 26	SK79 完掘
	SB252-SD468 A-A' 土層断面		SK107 土層断面
	SB252-SD468 B-B' 土層断面		SK107 完掘
	SB252-SD468 C-C' 土層断面		SK131 土層断面
	SB252-SD468 完掘		SK131 完掘
	SB828 完掘		SK145 土層断面
	SB828-P286 土層断面		SK145 遺物出土・完掘
写真図版 21	SB828-P287 土層断面	写真図版 27	SK220 土層断面
	SB828-P326 土層断面		SK220 炭化物検出
	SB828-P328 土層断面		SK220 完掘
	SB828-P360 土層断面		SK281 A-A' 土層断面
	SB828-P366 土層断面		SK281 B-B'・P289 土層断面
	SB828-P372 土層断面		SK281 完掘
	SB828-P376 土層断面		SK285 土層断面
写真図版 22	SB828-P383 土層断面	写真図版 28	SK285 完掘
	SB828-P384 土層断面		SK298 土層断面
	SB828-P435 土層断面		SK298 完掘
	SB828-P442 土層断面		SK336 土層断面
	SB828-P450 土層断面		SK341 A-A' 土層断面
	SB828-P452 土層断面		SK341 B-B' 土層断面
	SB829 完掘		SK341 遺物出土・完掘
写真図版 23	SB829-P148 土層断面	写真図版 29	SK346 土層断面
	SB829-P151 土層断面		SK346 完掘
	SB829-P156 土層断面		SK350 土層断面
	SB829-P159 土層断面		SK350 完掘
	SB829-P160 土層断面		SK352 土層断面
	SB829-P161 土層断面		SK352 完掘
	SB829-P187 土層断面		SK356 土層断面
	SB829-P197 土層断面		SK356 完掘
	SE278 土層断面		SK363 A-A'・D-D' 土層断面
	SE278 遺物出土		SK363 完掘
	SE278 井戸側出土		SK413 遺物出土
	SE278 井戸側内 土層断面		SK413 B-B' 土層断面

	SK413 C-C' 土層断面		SK616 遺物出土
写真図版 30	SK413 完掘		SK616 完掘
	SK418 A-A' 土層断面		SK624・630 土層断面
	SK418 B-B' 土層断面		SK624 完掘
	SK418 遺物出土	写真図版 37	SK630 完掘
	SK418 完掘		SK631 土層断面
	SK419 A-A' 土層断面		SK631 完掘
	SK419 B-B' 土層断面		SK647 B-B' 土層断面
写真図版 31	SK419・SX486・SD380 土層断面		SK647 完掘
	SK419・SX486・487 土層断面		SK654・663・SD651 土層断面
	SK419 遺物出土		SK654 土層断面
	SK419 遺物(鳥足)出土		SK654 完掘
	SK419 遺物(鉄鐸・錫杖頭)出土	写真図版 38	SK658 A-A' 土層断面
写真図版 32	SK419 完掘		SK658 完掘
	SK455 A-A' 土層断面		SK668 土層断面
	SK455 完掘		SK668 完掘
	SK460 土層断面		SK674 土層断面
	SK460 完掘		SK674 完掘
	SK472 土層断面		SK680 土層断面
	SK472 完掘		SK680 完掘
	SK488 A-A' ① 土層断面	写真図版 39	SK689 土層断面
写真図版 33	SK488 A-A' ② 土層断面		SK690 土層断面
	SK488 B-B' ① 土層断面		SK690 完掘
	SK488 B-B' ② 土層断面		SK691 土層断面
	SK488 遺物出土		SK698 土層断面
	SK488 完掘		SK698 完掘
	SK499 土層断面		SK699 土層断面
	SK499 完掘		SK699 完掘
写真図版 34	SK532 A-A'・SD537 土層断面	写真図版 40	SK700 土層断面
	SK532 B-B'・SK546・SD537・538 土層断面		SK700 完掘
	SK532 完掘		SK706 土層断面
	SK533 A-A' 土層断面・SD380 完掘		SK706 完掘
	SK533 B-B' 土層断面		SK721 土層断面
	SK533 完掘		SK721 完掘
	SK543 B-B' 土層断面		SK722 土層断面
	SK543 遺物出土		SK722 完掘
	SK543 完掘	写真図版 41	SK758 土層断面
写真図版 35	SK546・P551 A-A' 土層断面		SK758 遺物出土
	SK546・P551 B-B' 土層断面		SK758 完掘
	SK546・P551 完掘		SK781 土層断面
	SK553 A-A' 土層断面		SK781 完掘
	SK553 B-B' 土層断面		SK785 土層断面
	SK553 完掘		SK785 完掘
	SK584 A-A' 土層断面	写真図版 42	SK802 土層断面
写真図版 36	SK584 完掘		SK802 完掘
	SK589 土層断面		焼土 374 A-B' 土層断面
	SK589 遺物出土		焼土 454 土層断面
	SK616 A-A' 土層断面		焼土 454 完掘
			焼土 588 土層断面

	烧土 810 A-A' 土層断面		SX425 完掘
	烧土 810 B-B' 土層断面		SX469 A-A' ① 土層断面
写真図版 43	SX3 A-A' ① 土層断面		SX469 A-A' ② 土層断面
	SX3 A-A' ② 土層断面	写真図版 49	SX469 A-A' ③ 土層断面
	SX3 A-A' ③ 土層断面		SX469 B-B' ① 土層断面
	SX3 遺物出土・完掘		SX469 B-B' ②・SI453 土層断面
	SX31 A-A' 土層断面		SX469 完掘
	SX31 B-B' 土層断面		SX509 A-A' 土層断面
	SX31 遺物出土・完掘		SX509 B-B' 土層断面
	SX63 A-A'・B-B' 土層断面		SX605・SD592・826・827 土層断面
写真図版 44	SX63 完掘		SX605・SD592・826・827 完掘
	SX64 A-A' ① 土層断面	写真図版 50	SX711 土層断面
	SX64 A-A' ② 土層断面		SX712 土層断面
	SX64 B-B' ① 土層断面		SD338 土層断面・完掘
	SX64 B-B' ② 土層断面		SD359 土層断面
	SX64- 烧土 816 A-A' 土層断面		SD397 土層断面
	SX64- 烧土 816 B-B' 土層断面		SD420 A-A' 土層断面
	SX64- 石列 381 検出・SX64 完掘		SD420 B-B' 土層断面
写真図版 45	SX66 土層断面		SD420 C-C' 土層断面
	SX70 A-A' 土層断面	写真図版 51	SD420 完掘
	SX70 完掘		SD515 土層断面
	SX124 土層断面		SD523・P522 土層断面
	SX125 遺物分布範囲		SD525 土層断面
	SX240 A-A' 土層断面		SD531 土層断面
	SX247・248 土層断面		SD538 A-A' 土層断面
	SX249 土層断面		SD538 B-B' 土層断面
写真図版 46	SX283 A-A' ① 土層断面		SD592 土層断面
	SX283 A-A' ②・SB828-SD357 ①	写真図版 52	SD606 A-A' 土層断面
	土層断面		SD606 C-C' 土層断面
	SX283 A-A' ③・SB828-SD357 ②		SD606 E-E' 土層断面
	土層断面		SD606 完掘
	SX283 B-B' ①・SE388 土層断面		SD651 土層断面
	SX283 B-B' ② 土層断面		SD652 土層断面
	SX283 B-B' ③ 土層断面		SD651・652・678 完掘
	SX283- 烧土 819 A-A' 土層断面		SD673 土層断面
	SX283- 烧土 819 B-B' 土層断面	写真図版 53	SD678 土層断面
写真図版 47	SX283 遺物出土		SD725 A-A' 土層断面
	SX283 完掘		P110 土層断面
	SX406 B-B' 土層断面		P165 土層断面
	SX406 完掘		P184 土層断面
	SX407 土層断面・完掘		P185 土層断面
	SX411 土層断面		P186 土層断面
	SX415 遺物出土		P212 土層断面
	SX415 A-A' 土層断面	写真図版 54	P219 土層断面
写真図版 48	SX416 土層断面		P254 土層断面
	SX421 土層断面		P272 土層断面
	SX421 遺物出土・完掘		P385 土層断面
	SX425 土層断面		P434 土層断面
	SX425 炭化物検出		P448 土層断面

	P489 土層断面	写真図版 61	出土遺物 2	古墳時代土器	古代土器 1
	P551 遺物出土	写真図版 62	出土遺物 3	古代土器 2	
写真図版 55	P587 土層断面	写真図版 63	出土遺物 4	古代土器 3	
	P590 土層断面	写真図版 64	出土遺物 5	古代土器 4	
	P610 土層断面	写真図版 65	出土遺物 6	古代土器 5	
	P610 遺物出土・完掘	写真図版 66	出土遺物 7	古代土器 6	
	P716 土層断面	写真図版 67	出土遺物 8	古代土器 7	
	P718 土層断面	写真図版 68	出土遺物 9	古代土器 8	
	P806 土層断面	写真図版 69	出土遺物 10	古代土器 9	
	P815 土層断面	写真図版 70	出土遺物 11	古代土器 10	
写真図版 56	SD47 A-A' 土層断面	写真図版 71	出土遺物 12	古代土器 11	
	SD47 B-B' 土層断面	写真図版 72	出土遺物 13	古代土器 12	
	SD226 土層断面	写真図版 73	出土遺物 14	古代土器 13	
	SD226 完掘	写真図版 74	出土遺物 15	古代土器 14	
	SE6 土層断面	写真図版 75	出土遺物 16	古代土器 15	
	SE6 完掘	写真図版 76	出土遺物 17	古代土器 16	
	SE20 土層断面	写真図版 77	出土遺物 18	古代土器 17	
	SE20 完掘	写真図版 78	出土遺物 19	古代土器 18	
写真図版 57	SK1 土層断面	写真図版 79	出土遺物 20	古代土器 19	
	SK8 A-A' 土層断面	写真図版 80	出土遺物 21	古代土器 20	
	SK9 土層断面	写真図版 81	出土遺物 22	古代土器 21	
	SK10 A-A' 土層断面	写真図版 82	出土遺物 23	古代土器 22	
	SK10 完掘	写真図版 83	出土遺物 24	古代土器 23	
	SK11 土層断面	写真図版 84	出土遺物 25	古代土器 24	
	SK13 土層断面	写真図版 85	出土遺物 26	古代土器 25	
	SK15 土層断面	写真図版 86	出土遺物 27	古代土器 26	
写真図版 58	SK15 遺物出土・完掘	写真図版 87	出土遺物 28	古代土器 27	
	SK16 土層断面	写真図版 88	出土遺物 29	古代土器 28	
	SK19 A-A' 土層断面	写真図版 89	出土遺物 30	古代土器 29	
	SK19 B-B' 土層断面	写真図版 90	出土遺物 31	古代土器 30	中世土器
	SK26 土層断面			近世陶磁器	
	SK52 土層断面	写真図版 91	出土遺物 32	古代土器 (拡大) 31	
	SK544・545 土層断面	写真図版 92	出土遺物 33	土製品 1	
	SK556 土層断面	写真図版 93	出土遺物 34	土製品 2	
写真図版 59	SK600 土層断面	写真図版 94	出土遺物 35	土製品 3 鍛冶関連遺物	
	SK600 完掘	写真図版 95	出土遺物 36	石器・石製品 1	
	SX42 B-B' 土層断面・完掘	写真図版 96	出土遺物 37	石器・石製品 2	
	SX476 A-A'・SK511・SD477・525 土層断面	写真図版 97	出土遺物 38	石器・石製品 3	
	SX476 B-B'・SD515・523・525 土層断面	写真図版 98	出土遺物 39	金属製品 1 X線写真	
	SD25 A-A' 土層断面	写真図版 99	出土遺物 40	金属製品 2	
	SD25 B-B' 土層断面	写真図版 100	出土遺物 41	金属製品 3 X線写真	
	SD25 完掘	写真図版 101	出土遺物 42	木製品 1	
写真図版 60	出土遺物 1 集合写真	写真図版 102	出土遺物 43	木製品 2	
		写真図版 103	出土遺物 44	木製品 3	

第 I 章 序 章

第 1 節 遺 跡 概 観

曾我墓所遺跡は新潟市江南区横越字下郷 6052 ほかにも所在する。昭和 60（1985）年に新潟県が行った詳細分布調査で平安時代の土器が採集され、曾我家の墓所に近かったことから曾我墓所遺跡として周知化された。阿賀野川左岸の自然堤防上に立地し、標高は 3.8 ～ 4.5m を測る。当初は周囲よりも一段高い南北約 250m × 東西約 50m の水田部分が遺跡として登録された。遺跡の東側に南北に延びる現集落内には、下郷遺跡や下郷南遺跡など古代・中世の遺跡が点在し、近年でも新たに遺跡が見つかっている。平成 29（2017）年度に遺跡の北側で行われた確認調査で、古代の土器が大量に出土したため遺跡範囲を拡大した。その後、今回報告する令和元・2 年度の本発掘調査により古墳時代から近世まで断続的に続く集落跡で、建物跡が複数検出された 8 世紀後半から 9 世紀初頭が最盛期の遺跡であると確認された。さらに、様々な祭祀具の出土により古代祭祀を考える上で重要な遺跡であることも分かった。

第 2 節 発掘調査に至る経緯

平成 29 年、曾我墓所遺跡の北側で雨水調整池築造工事が計画され東部地域下水道事務所建設課（以下、東部下水道事務所という）から新潟市教育委員会教育長（以下、市教育長という）あてに埋蔵文化財の事前調査依頼書が提出された（平成 30 年 1 月 10 日付）。工事着工予定が平成 30 年度であり、歴史文化課（市教育長）は文化財保護法（以下、法という）第 99 条の規定に基づき着手報告を提出し（県教育長あて、平成 30 年 3 月 1 日付け新歴 B 第 247 号の 2）調査を開始した。調査中、調整池建設に伴って整備する排水管敷設工事が遺跡の範囲内であることが分かり、対象範囲を拡大し確認調査に切り替えて同年 3 月 12 日～ 28 日まで実質 7 日実施した（第 1 次調査）。調査では、漆が付着した須恵器など奈良・平安時代の遺構・遺物が多量に見つかった。また、遺跡が事業予定地全体に広がることが確認され、終了報告（県教育長あて、平成 30 年 4 月 13 日付け新歴 F 第 17 号）・埋蔵文化財発見通知（県教育長あて、平成 30 年 4 月 13 日付け新歴 F 第 17 号の 3）・保管証（江南警察署長あて、平成 30 年 4 月 13 日付け新歴 F 第 17 号の 4）の提出とともに遺跡範囲の変更をした（県教育長あて、平成 30 年 4 月 13 日付け新歴 F 第 17 号の 5）。防災・安全対策のための雨水調整池であり、その建設地の変更は難しく、発掘調査に係る課題解決のため東部下水道事務所と歴史文化課（以下、歴文課という）との間で協議を重ね、平成 30 年 7 月、事業予定地全体の約 7,727m²を対象に現地調査 2 か年、整理・報告書作成 2 か年の 4 か年事業となることで合意した。その後、東部下水道事務所（市長）から法第 94 条第 1 項の通知（県教育長あて、平成 30 年 10 月 9 日付け新東下水第 909 号）が提出され、県教育長から市長あてに本発掘調査の勧告が行われた（平成 30 年 11 月 12 日付け教文第 1117 号）。これを受け、東部下水道事務所（市長）から本発掘調査依頼書（市教育長あて、平成 30 年 12 月 3 日付け新東下水第 1156 号）が提出された。歴文課（市教育長）は受諾し、本発掘調査の着手報告を提出し（県教育長あて、令和元（2019）年 5 月 27 日付け新歴 F 第 26 号）、同年 6 月 3 日から事業地の東側半分を対象に調査を開始した（第 2 次調査）。翌年、事業地の西側と排水管敷設部分、さらに前年度調査の遺構密集部分について東部下水道事務所から本発掘調査依頼書（歴文課長あて、令和 2 年 2 月 3 日付け新東下水第 1560 号）が提出された。歴文課（市教育長）は着手報告を提出し（県教育長あて、令和 2 年 4 月 1 日付け新歴 F 第 19 号）、同日から準備工事を開始した（第 3 次調査）。なお、法 94 条通知に係る幅 1m 以下の狭小工事については、職員が立会い必要な措置を執った。

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

第1節 遺跡の位置と地理的環境（第1図、図版1・2）

新潟市が所在する越後平野は、信濃川と阿賀野川の運ぶ土砂により形成された沖積平野であり、西縁には角田・弥彦山地、東縁には笹神丘陵と村杉低地帯を介して、五頭山地が分布し、南には新津丘陵が控える。海岸部には、村上から角田山麓に至るまで海岸線に沿うように南北幅約70kmにわたって10列の砂丘が存在し、その内陸側には低地が広がっている。これらは新潟砂丘と呼ばれ、分布形態により新砂丘Ⅰ（約7600～4800年前）、新砂丘Ⅱ（約4600～1400年前）及び新砂丘Ⅲ（約1800～900年前）に大別され、さらに各砂丘の細別は、それぞれ内陸側から算用数字の枝番号が付されている〔鴨井・田中・安井2015〕。

曾我墓所遺跡のある新潟市江南区は、西を信濃川、東を阿賀野川、南を小阿賀野川に囲まれた地域であり、江戸時代には横越島、近年では亀田郷と呼ばれた。亀田郷の地形は、北東から南西にかけて走る数列の砂丘、後背湿地、自然堤防、潟湖から成り立っており、古くからの集落は砂丘列と微高地に立地している。また亀田郷は、かつては信濃川、阿賀野川、小阿賀野川の氾濫による水害常習地帯であり、低湿地帯の排水は困難を極めた。河川の氾濫によってもたらされた土砂により形成された自然堤防は、現河道周辺以外にも広く認められ（第1図）、河川が頻繁に流路を変動していた事がうかがえる。このような地理的条件から、近世以降には新田開発など水害の回避を図るために放水路の開削が進められてきた。

今回調査を行った曾我墓所遺跡は、亀田郷の南東部（旧横越町）に位置し、阿賀野川左岸の自然堤防上に存在している。周辺の現況は主に平坦な水田地帯であるが、明治中頃の土地更正図などによれば、明治から戦前にかけては多くが畑地であった（図版2）。遺跡の標高は3.8m～4.5mを測り、洪水層が厚く堆積している。このことから、度々阿賀野川の氾濫による影響を受けていることが推測できる。

第2節 周辺の遺跡（第2図、第1表）

縄文時代 亀田砂丘周辺では、縄文時代前期初頭から人類の活動の痕跡が認められる。前期初頭の布目式土器が出土している砂崩遺跡（61）〔新潟市2007〕は中期初頭から前葉の拠点集落であり、前期前葉から後期後葉の笹山前遺跡（72）〔廣野2007〕からは新谷式土器が出土している。いずれも、角田山麓周辺地域との交流がうかがえる。また、前期後葉から中期の山ノ家遺跡（64）〔川上1993〕や、近年本発掘調査が行われ中期から晩期の土器・石器とともに遮光器系土偶が出土した砂崩前郷遺跡（60）〔遠藤ほか2020〕など、総じて亀田砂丘前列に集中するが、晩期後半の小杉上田遺跡（81）は低湿地に営まれている。ほかには、埋没砂丘上に立地する道正遺跡（8）では埋設土器・土坑・遺物廃棄域が検出され、多数の晩期中葉の土器や石器などとともに県内最大級のヒスイ製の勾玉が出土した。さらに、隣接する岡崎遺跡（7）では後・晩期の土坑2基が確認されている〔高橋2021〕。

弥生時代 弥生時代は、縄文時代晩期から弥生時代中期の土器や石器などが多く出土した養海山遺跡（23）〔新潟市2007〕、前期の足形付土版や管玉などの玉類、水田跡は見つからなかったものの前期～中期前葉の炭化米が出土した西郷遺跡（10）〔土橋ほか2009〕がある。特に、西郷遺跡は地表下3mに遺構確認面があり、このように沖積地下に埋没している砂丘上の遺跡が近年相次いで発見されている。これらの遺跡は、砂丘に営まれた遺跡が地盤沈下によって埋没したものと考えられる。中期後半の遺跡が最も多く、竪穴住居が検出された駒込小丸山遺



第1図 曾我墓所遺跡周辺の地形分類図

第2節 周辺の遺跡



国土地理院 1:25,000「新津」「水原」「新潟南部」「白根」一部修正

第2図 曾我墓所遺跡周辺の遺跡分布図

第1表 曾我墓所遺跡周辺の遺跡

No.	遺跡名	時代	No.	遺跡名	時代	No.	遺跡名	時代	No.	遺跡名	時代
1	鶴ノ子	平	31	亀田城山 A	縄・弥・古代	61	砂崩	縄・古代	91	下郷西	中世
2	下西	古墳	32	茨島	古代	62	迎山	縄・奈～室	92	新田郷南	古墳・平
3	亀田四ツ興野居付	平	33	所島前	縄・古代～近世	63	前郷	縄・弥・古代	93	曾我墓所	古墳・奈・平・中世・近世
4	泥瀧	平	34	亀田六枚田	古墳～奈・平	64	山ノ家	弥・古代	94	下郷中	平
5	早通前	平・鎌	35	岡田	平	65	駒込墓所	古代	95	下郷南	平・鎌～室・近世
6	西前郷	縄・古代	36	牛道	平	66	駒込小丸山	縄・弥・古代	96	横越館跡	室
7	岡崎	縄・弥・古墳・平	37	砂岡	平	67	駒込居浦郷	古代	97	古郷 D	平
8	道正	縄・弥・古墳・平	38	袋津向山	縄	68	上の山	縄・弥・平	98	上郷北	平
9	岡崎南	中世	39	塚ノ山	平	69	藤山	平・鎌	99	川根谷内墓所	平・室・近世
10	西郷	縄～弥・古代	40	前山	古代	70	平山	平	100	上郷 C	平
11	大蔵	古代	41	金塚山	縄・古代	71	神明社裏	平	101	上郷 A	古墳・平
12	市助裏	平・鎌	42	彦七山	古代	72	笹山前	縄・弥・古墳・古代	102	上郷 B	平
13	川西	平・鎌	43	北山	平	73	細山石仏	室	103	円通寺石仏	室
14	狐山	古代	44	大道外	平	74	中山	縄・古墳・古代	104	天王杉	平
15	亀田道下	古代・近世	45	清水が丘	平	75	城山	縄・古墳・平・鎌	105	結七島	古墳・古代
16	手代山北	平・中世	46	丸山	平	76	居附 B	不明	106	内畑	古墳・平
17	手代山	古墳・古代・鎌	47	茗荷谷墓地	平	77	居附 C	不明	107	中谷内	古墳・平・中世
18	貝塚	古代・中世	48	茗荷谷	古代	78	松銀寺	平	108	沖ノ羽	古墳・古代・中世
19	中の山	古代・中世	49	東圃	縄・弥・古墳	79	小杉申洲	古墳	109	内野	平・中世
20	日本	古代・中世	50	直り山 B	平	80	江尻	平	110	新久免の塚	室～江
21	荒木前	縄・平・中世	51	小丸山	縄・古墳・平・中世・近世	81	小杉上田	縄・古代	111	居屋敷跡	古墳・平・鎌～室・近世
22	三王山	平・中世	52	直り山 A	平	82	山のハサバ	平	112	曾根	平
23	養海山	縄・弥・古墳・平	53	小丸山東	平	83	居附 A	平～室	113	土居内	平
24	武左衛門裏	縄・弥・古墳・古代	54	松山	縄・中世	84	新田郷	平	114	亀田道下北	平
25	八幡前	弥・平	55	松山向山	平	85	宮尻郷	古代	115	五番田	縄・平
26	日本前	縄・弥・平	56	浦ノ山	平	86	下郷	平	116	宮尻郷南	平
27	日本南	縄・弥・古墳・古代・室	57	三條岡	古代	87	下郷経塚	安	117	居附 A 南	平
28	城所道下	平	58	砂崩上ノ山	古代	88	芥木	平・近世	118	沢海藩二代藩主 溝口政勝墓	近世
29	亀田城山 B	南・室・江	59	砂崩早稲田	縄・古代・近世	89	上沼	古代	119	沢海城跡	近世
30	斉助山	縄・弥・古代	60	砂崩前郷	縄・平・江	90	川根谷内	古代			

跡(51)〔家田1987〕をはじめ、前郷遺跡(63)、山ノ家遺跡(64)〔川上1993〕、上の山遺跡(68)などがある。いずれの遺跡でも北陸系土器を主体として東北南部系・信州系など外来系の土器が一定量混在するという越後平野北部に典型的な様相を示している〔酒井2000〕。また、前郷遺跡(63)からは管玉の未成品や玉作りの際に使用する工具である擦切具が、山ノ家遺跡(64)では擦切具が出土している。緑色凝灰岩の剥片が出土した駒込小丸山遺跡(51)なども含め近接しており、玉作り集落を構成していた可能性が指摘されている〔酒井2000〕。

古墳時代 古墳時代は、砂丘以外にも自然堤防上に展開する遺跡が現れるようになる。前期では砂丘の沿岸砂洲上の微高地に営まれ総量約4kgに及ぶ炭化米が出土した東冨遺跡(49)〔朝岡・諫山2003〕、阿賀野川左岸の自然堤防上には遺構の検出はないが、土師器の高杯や甕が出土した上郷A遺跡(101)〔上野・春日1997〕や、砂丘上で土坑が検出され土師器甕などが出土した武左衛門裏遺跡(24)〔土橋ほか2007〕がある。また笹山前遺跡(72)〔廣野1997〕は中期の竪穴建物や土坑、後期の掘立柱建物が検出され、一定量の祭祀遺物が出土したことから拠点的な性格を持つ集落と考えられている。近年発掘調査された埋没砂丘に位置する道正遺跡(8)からは古墳時代前期の特大型竪穴建物が検出された。また、古墳時代前期に限定される多数の土器とともに、2艘の準構造船が描かれた線刻土器などが出土した。

古代(奈良・平安時代) 古代は土木技術が発達して低湿地への進出が確認されるようになり、9世紀中頃からは砂丘上だけでなく自然堤防上にも爆発的に遺跡数が増加する。砂丘上の遺跡では、7世紀末から8世紀初頭に荒木前遺跡(21)〔渡辺1991、川上1996b〕が現れ、8世紀中頃には銅製帯金具の出土から官人層の関与が想定される茗荷谷遺跡(48)〔新潟市教育委員会1987〕のほか、8世紀後半には山ノ家遺跡(64)〔川上1993〕が成立している。また、新津丘陵窯跡群も8世紀半ばには操業しており、本遺跡でも多くの新津丘陵産須恵器が出土している。また、9世紀に入ると鍛冶関連遺構を伴う中の山遺跡(19)が成立し、同じく自然堤防上には手代山北遺跡(16)〔朝岡・丹下ほか2009〕、畝状遺構が検出された牛道遺跡(36)〔立木(土橋)ほか1999〕が分布する。9世紀後半になると、亀田郷にもさらに多くの遺跡が営まれるようになり、砂丘上には富裕層の居住域と想定される小丸山遺跡(51)〔小池・本間1995〕、砂丘間低地や後背湿地に水田跡と畝状遺構が検出された上郷A遺跡(101)〔赤羽・高橋1994、上野・春日1997〕などが展開する。さらに、本遺跡の北約5kmにある大淵遺跡では、出土した緑釉陶器とともに10世紀後半の土師器碗を大量に廃棄した痕跡があり祭祀的な意味をもつものと考えられている〔廣野・朝岡1999〕。古代の遺跡は他にも多数あるが、多くは10世紀中頃に途絶えるようである。

中世 この地域で人々の活動が再び始まるのは13世紀以降である。砂丘上では掘立柱建物10棟・井戸11基・溝などが検出された荒木前遺跡(21)〔渡辺1991、川上1996b〕や、運河的な機能を持つと推定される溝が検出された中の山遺跡(19)〔川上1982〕・貝塚遺跡(18)は隣接して立地しており遺跡の広がりから同一遺跡であると考えられている〔新潟市2007〕。付近の伝承を記録した『温故之葉』〔温故談話会1892〕には「金津荘城所手代山に古城あり、孤主せし小山の頂上凡二千坪平坦にて井壺空壕の痕幽に見ゆ、元享年中(1321～1323)より上杉家の一将荒木五郎左衛門為久の居城とす。」とあり荒木氏の居館が存在していた可能性が考えられている〔川上1996b〕。また掘立柱建物や井戸・溝などが検出され、珠洲焼や越前焼などの中世陶器が出土した三王山遺跡(22)〔酒井1980、朝岡ほか2010〕は、砂丘上に位置し、古代から中世にわたって営まれた遺跡と考えられる。

旧横越村内に点在する寺院のうち小杉の妙傳寺(文明16(1484)年創建)、法幢寺(天正17(1589)年創建)、木津の圓通寺(天文2(1533)年改宗)、横越の宋賢寺(文明13(1481)年創建)、沢海の大栄寺(天文4(1535)年頃前身の寺が創建)などが、室町から安土桃山時代にかけての創建伝承を持っていることなどから、この頃には自然堤防上に集落が営まれていた様子が推察できる〔帆苺2003〕。

なお、本遺跡の東側に隣接している宋賢寺は、文明13(1481)年真言宗寺院として創建された。その後、慶長6(1601)年に草水観音寺11世笑山全悦によって曹洞宗の寺院として再興された〔新潟県寺院名鑑企画編集委員会1983〕。明治中頃の土地更正図には寺域の西側には埋葬地が広がっており、今回の発掘調査の結果、多数の墓坑が検出されたことから、この埋葬地は本調査区の辺りまで広範囲に広がっていた可能性が考えられる。また、

宋賢寺の北側の下郷経塚(87)からは現存しないが金銅製の経筒が出土したと伝わり、周辺の中世の活発な信仰活動がうかがわれる〔酒井2000〕。また、周辺には遺構は何も残っていないが、館ノ越という小字名を持つ横越館跡(96)からは16世紀前葉の瀬戸美濃焼と茶臼が出土している。蒲原津を中心とした阿賀野川水上交通の中継地点として機能していた可能性が推測されている〔酒井2000〕。さらに、本遺跡の南東300mの自然堤防上に位置する下郷南遺跡(95)からはロクロ成形底部ヘラ切りの土師器皿が土坑から200点以上一括出土しており〔相澤2013〕、阿賀北地域とのつながりが中世にも続いていたことを示している。

近世 近世の集落跡は現在の住宅地と重なることが多く、発掘調査も少ないため実態は不明な点が多い。現在の集落と重なる江内遺跡では17世紀前半からの集落の一部が確認されている〔春日ほか1996〕。また、細池寺道上遺跡では屋敷地や道路状遺構、墓などの遺構が確認されており、肥前系の陶磁器を中心に17世紀後半から19世紀の遺物が出土している〔立木・奈良ほか2018〕。なお、大正時代中頃から昭和初期にかけての阿賀野川改修工事で破壊され、現在ではその痕跡をうかがうことはできないが、沢海城跡(119)は近世後期の絵図までその存在が確認できる。また、大栄寺の沢海藩二代藩主溝口政勝墓(118)は、全国的にも調査例の少ない近世前期の大名墓の発掘調査例である。調査では、武士階級の埋葬施設の構造と、ヒノキ製の木棺内からは8個体の割られた土師質のかわらけと、瀬戸美濃鉄釉四耳壺(蔵骨器)が確認されている〔福田1999、酒井2000〕。

第3節 歴史的環境

律令以前、日本海側の地域は広く越国と称されていた。大化三(647)年に淳足柵、翌年に磐舟柵が相次いで設置され、漸次北方の整備が図られていたと考えられる。越後国は、当初これら二柵の位置する阿賀野川以北の沼垂郡・岩船郡より北を指していたようである。越後国の領域の確定は、大宝二(702)年に越中国4郡(頸城・古志・魚沼・蒲原)を割いて越後国に編入〔『続日本紀』〕し、和銅五(712)年にそれまで越後国に属していた出羽郡を分割して出羽国を建国したことによる。その後、天平十五(743)年に佐渡国を越後国に合併し、ほぼ現在の新潟県と同一の領域となった。しかし、天平勝宝四(752)年には、渤海朝貢使節の来島により、朝廷による直接把握を目的として佐渡国が復置されている。天平宝字五(761)年に造営が始まった佐渡国分寺には、小泊窯で製作された瓦が大量に運ばれており、古代越後国に膨大な須恵器の供給をもたらす小泊窯操業の契機としてとらえられよう。なお、新津丘陵における須恵器生産は、7世紀後半に始まり8世紀前半から9世紀中頃が主な操業時期である。これらは越後国内の他地域の須恵器生産動向とほぼ一致しており、「一郡一窯制」であった。

曾我墓所遺跡のある亀田郷は、旧阿賀野川(現在の通船川)以西を蒲原郡とする一般的な説〔小林編1996〕に従えば蒲原郡に属していたことになるが、遺跡の多い亀田砂丘周辺が沼垂郡に属していた可能性も指摘されている〔坂井ほか1989、上野・春日1997〕。

古代の蒲原郡には宝亀十一(780)年の『西大寺資財流記帳』によって、鶉橋荘・槐田荘という荘園が施入されていた事が知られており、鶉橋荘は五泉市橋田、槐田荘は三条市周辺とされている。これらの西大寺領荘園は、神護景雲三(769)年の『越後国水田并墾田地帳』などから、8世紀中葉以降には確実に成立していたと考えられる。西大寺領荘園は早くに衰退したと思われるが、その理由として、東大寺領荘園に比べ進出が遅かったため、悪条件地に寺田を設定したためと考察されている〔木村1993〕。

平安時代末から中世にかけての越後は、本格的な荘園が多く成立する一方、律令制下の地方官庁である国衙が領有した土地(国衙領)も並存していた。新潟市域では、蒲原津があったと思われる信濃川下流域周辺が国衙領と考えられ、特に旧新津市を中心とした国衙領を金津保と呼んだ。金津保は11世紀後半から12世紀後半頃に成立したと考えられ、この地域の在地領主として平賀氏が知られる。平賀氏はのちに金津姓を名乗るが、その傍系には木津氏があり、『尊卑分脈』には木津氏が金津保の木津東方を伝領したことが記されている。また『遊行上人縁起絵』には時宗二世他阿真教を木津入道がもてなした記述がある。石井家文書「木津邑古老伝在来帳」に

よると、応永（1394～1427年）頃、阿賀野川の分流の一つが木津、沢海を通り、川根谷内から袋津・城山方面に流れ、栗ノ木川経由で蒲原津・沼垂津へ往来できたという。また、阿賀野川の渡し場のコクラノワタリが横越村内にあり、永禄7（1564）に京都醍醐寺の僧侶が阿賀野川を下って、会津から新潟湊へ向かうにあたって、横越のコクラノワタリを経由していることが『北国下り遺足帳』に記されており、中世においても交通の要所であったことがわかる〔大家2003〕。これらから、木津氏は交通要衝の有力な在地領主であり、横越地域は阿賀野川・小阿賀野川の水上交通の拠点の一つとして重要な役割を担っていたことがうかがえる。

16世紀になると、守護上杉氏と守護代長尾氏の対立が激化し、越後国内での内乱が勃発するようになるが、この時期の金津保の実態については不明な点が多い。天文6（1578）年に上杉謙信が急逝すると、養子である景勝と景虎の間で後継地位をめぐる「御館の乱」が起き国内領主層の分裂をもたらした。この間における亀田郷に関する直接的な資料はないが、天正年間に謙信方・景勝方として戦陣に参加した武将として亀田小三郎岳信・亀田小三郎長乗の名が見られるが、史料上では彼らの越後国での活躍は皆無である。

景勝の移封に伴い、慶長3（1598）年に加賀国大聖寺から新発田に溝口秀勝が入封し、亀田郷は新発田領となった。関ヶ原の戦いの際に会津国境付近より起きた「越後一揆」が画期となり、新発田藩は徳川方の支配大名としての地位を確立し、兵農分離が推進された。溝口秀勝の死去後、秀勝の次男に1万石を分知し、沢海藩が創設された〔後藤2003〕。新発田藩は、新田開発を積極的に行ない、多くの新田村が開村したことが寛永16（1639）年に作成された「横越島絵図」〔横越町2003〕から読み取れる。

新発田藩では領内を14の組に分けて支配した。横越村は近世初頭に成立した村で、寛政元年（1789）頃の石高は『寛政元年分年貢納高』〔後藤2003〕によれば、1710石7斗6升2合（横越、城山、所島、袋津、藤山、駒込の6か村）内貢租960石4斗2升6合6勺である。新発田領内で最大の石高の蒲原横越組の治所が置かれ、大庄屋・名主・組頭（宝暦9（1759）年以降は同前組頭）という村方三役が藩から任命されて村内の統治にあたった。大庄屋は当初、坂井氏や小沢氏、元禄7（1694）年からは曾我四兵衛が務めていた。本遺跡の一隅に葬られている曾我順次は、天保8（1837）年大庄屋の小林喜七の次男として生まれ、『横越村誌』を著した小林存^{ながろう}（明治10（1877）年～昭和36（1961）年）の叔父にあたる人物で、後に曾我家に養子として迎えられ曾我家4代目を受け継いだ〔小林1952〕。

明治22（1889）年の町村制施行に伴い、横越、小杉、沢海、二本木、木津の五か村が生まれた。明治34（1901）年には沢海、木津、二本木、小杉の四か村が旧横越村に合併し、横越村が成立した。平成7（1995）年以降は人口1万人を超え、基準審査による認可を受け、平成8（1996）年に「横越町」がスタートした。平成17（2005）年には横越町を含む13市町村が合併し、新しい新潟市となった。その後、平成19（2007）年の政令指定都市への移行に伴い8つの行政区を設置し、本遺跡は江南区に位置することとなった。

第Ⅲ章 調査の概要

第1節 確認調査 (第3・4図、図版2、写真図版1)

A 調査方法と経過

平成29年度に雨水調整池築造工事に伴う確認調査を行った(第3・4図)。25か所のトレンチを設定し、バックホウで表土から徐々に掘削した後、人力により精査を行い、遺構・遺物の有無と土層堆積状況を記録した。トレンチの大きさは6～16m²で合計344m²(建設計画面積に対して約4.4%)の調査を行った。

現況は水田・排水路・歩道である。一帯の水田は、昭和24年頃からの区画整理によって造成されたもので、それ以前は昭和23年の米軍写真(写真図版1)や明治24年発行の土地更正図によると、自然堤防の名残である微高地が点在し、広範囲が畑として利用されていた(図版2)。調査の結果、全域で古代の遺構・遺物が確認された。調査区は阿賀野川に由来する度重なる洪水堆積土で厚く覆われ、表土からも古代の土器が出土し、Ⅳ・Ⅴ層では平面プランが明瞭でない大規模な落込みや炭化物・焼土が集中する遺構が複数検出された。また、9・16トレンチではⅢ層で遺構が検出され、古代以降の遺構確認面もある可能性が指摘された。古代の遺物包含層(Ⅲ・Ⅳ層)までは地表面(GL)から0.3～1.2mであり、工事施工区全域について記録保存のための本発掘調査を実施することになった。第2次調査は調査区東側半分、第3次調査は西側半分とその南側の路線部分の2か年調査を計画した。なお、本発掘調査との層位の違いは第Ⅳ章第2節で記している。

B 調査体制

調査主体	新潟市教育委員会(教育長 前田秀子)
所管課・事務局	新潟市文化スポーツ部歴史文化課 (課長:藤井希伊子 課長補佐:廣野耕造 埋蔵文化財担当係長:朝岡政康)
調査担当	潮田憲幸(新潟市歴史文化課主査)

第2節 本発掘調査

A 調査方法

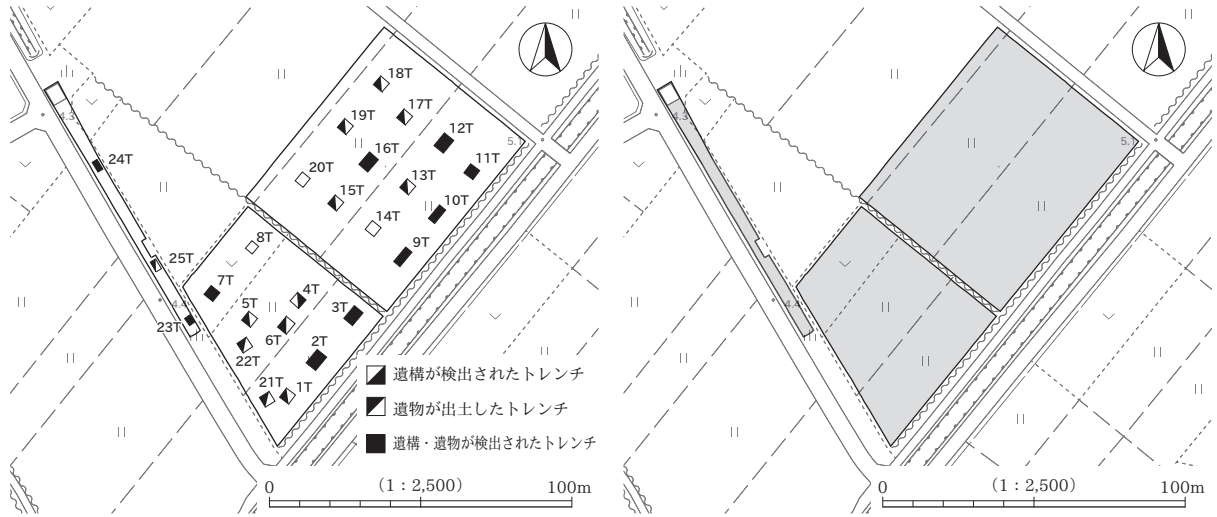
1) グリッドの設定(図版4)

グリッドは令和元年度の第2次調査の際に遺跡範囲が入るように調査地区の約500m北西を調査基準点として1A1杭を設定した。1A1杭は、X座標:206500.000、Y座標:57200.000(測地成果2011、平面直角座標系第Ⅷ系)、緯度:北緯37°51′32″9335、経度:東経:139°09′00″2165である。また、この基準点から10m方眼のグリッドを組んだ。大グリッドの名称は、南北方向をアラビア数字、東西方向をアルファベットとして表したが、東西方向はZの次をAA・AB…と表記した。さらに、大グリッドの中を2m方眼に区切って25分割する小グリッドを設定し、「24AL16」のように呼称した。基準杭の打設は測量業者に委託した。発掘調査区内2点北西隅の座標は次のとおりである。

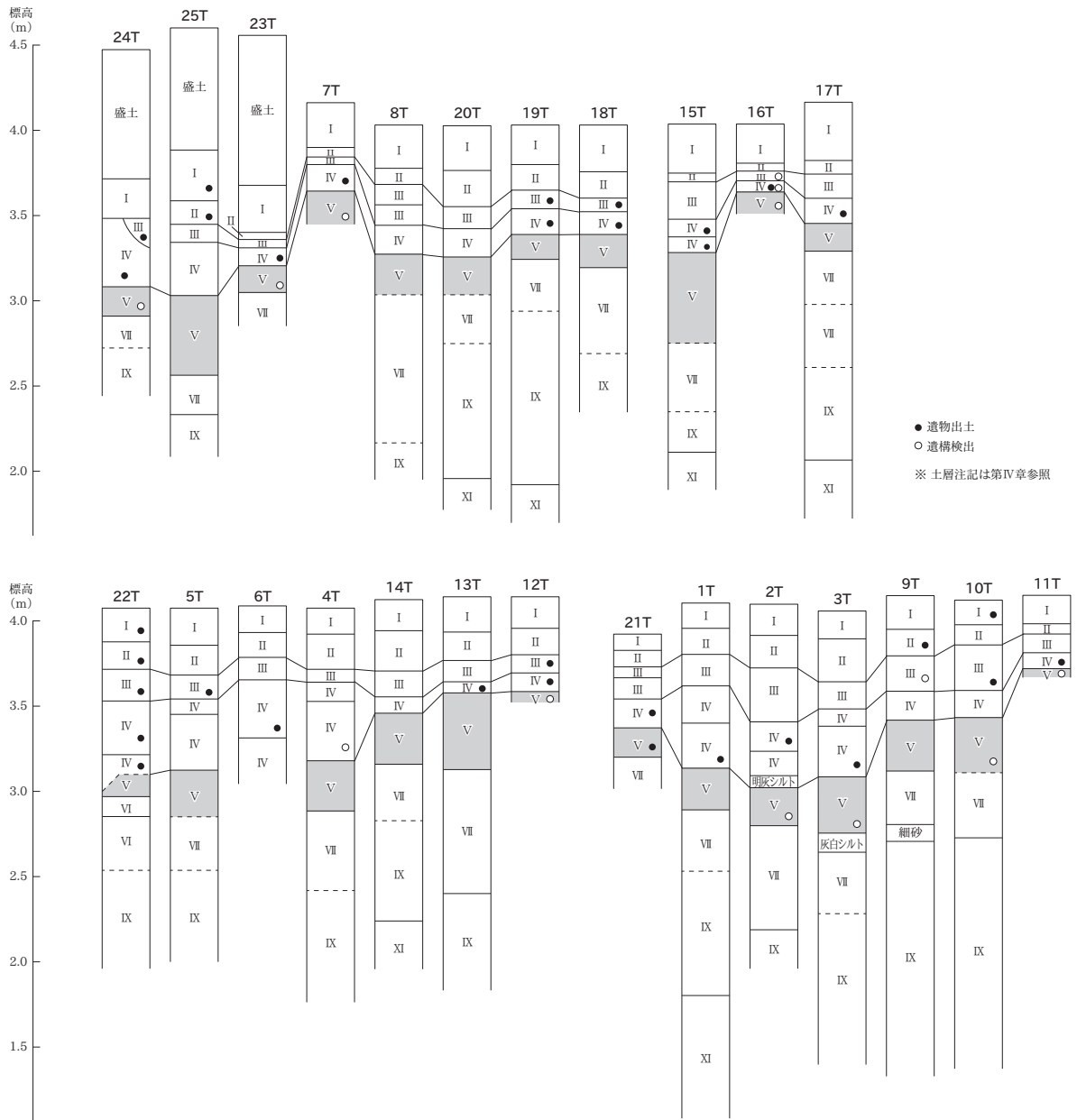
18AN(X座標:206330.000、Y座標:57590.000、緯度:37°51′27″3311、経度:139°09′16″1228)

21AF(X座標:206300.000、Y座標:57510.000、緯度:37°51′26″3762、経度:139°09′12″8415)

座標北は真北に対して0度24分05秒東偏し、磁北は真北に対して8度22分西偏する。



第3図 確認調査トレンチ配置図と本調査範囲



第4図 確認調査土層柱状図

2) 調査方法

① 表土剥ぎ：確認調査の結果から古代の遺構確認面がⅤ層であることは判明していたが、Ⅰ・Ⅱ層をバックホウにより除去しつつ古代以降の遺構確認面であるⅢ層上面でまず遺構検出作業を行った。遺構が検出された場合は島状に残し、遺物の出土に注意しながら数cmの厚さで遺物包含層（Ⅳ層）上面まで掘り下げた。出土遺物が少ない場合にはⅣ層の途中あるいはⅤ層上面まで掘削する場合もあり、平面的に層を捉えることが非常に難しかった。調査で生じた排土は調査後の埋戻しに使用されることになっていたため、第2・3次調査とも調査区内に仮置きした。また、湛水防止のため、表土剥ぎと並行して調査区の周囲及び調査区内に土側溝を掘り、2吋のポンプで24時間強制排水を行った。土側溝は、幅20cm、深さ20cm程度を人力で掘削した。土側溝による遺構の破壊が考えられたが、湛水により調査が不能になることを防ぐ処置である。

② 包含層掘削・遺構検出・発掘：重機で掘削後、人力で行った。包含層は連続した2層（Ⅲ・Ⅳ層）であるが、人力ではⅣ層を掘削している。ただ、場所によってはⅣ層が分層されるなど平面的には非常に区別の付きにくい土質であった。特に、遺構・遺物が密集する第2次調査区北東側では遺構のプランも不明瞭であり、3～5m間隔で調査区やグリッドに合わせてトレンチを入れ、断面観察をしながら遺物出土にも注意して作業を進めた。第3次調査では、遺構確認面の精査で検出された遺構プランは、1/100の略図に記録し遺構番号を付けた。遺構の発掘は、半裁して覆土の観察・記録をしてから完掘を行った。排土はベルトコンベアを用いて各調査区域外に排出した。

③ 実測・写真：調査に係る実測・測量は全て測量業者に委託した。断面実測は手取りと写真測量を併用し、平面実測はトータルステーションを用いて作業を行った。遺構断面・平面の写真撮影は、35mm版のフィルムカメラとデジタル一眼レフカメラを基本に、内容によって6×7版のフィルムカメラを用いて、白黒フィルム・カラーポジフィルムを適宜選択しながら行った。遺構の全体（俯瞰）写真は、ラジコンヘリコプター及び無人航空機（ドローン）により撮影した。

④ 遺物取り上げ：包含層出土遺物は小グリッド単位で取り上げたが、遺物が集中している場合は範囲不明瞭な遺構である可能性を考慮してトータルステーションによる地点測量で取り上げた。遺構出土遺物はトータルステーションと小グリッド単位の一括取り上げを併用した。また、重要遺物についてはトータルステーションを用いた。

⑤ 自然科学分析：古環境復元や栽培植物の解明のために植物珪酸体・花粉・樹種・種実の各分析を行い、遺構の年代推定の参考とするために放射性炭素年代測定（ウィグルマッチング法による測定をしたものもある）を実施した。なお、分析は専門業者に委託した。

B 調査経過

1) 第2次調査の経過

令和元年6月3日から諸準備を開始し、27日から調査区南側より表土掘削を開始した。Ⅲ層上面で炭化物・焼土が集中する近世遺構の検出範囲を島状に残しながらⅣ層上面まで掘削を進めた。7月9日からは表土掘削と並行してこれらの遺構掘削作業を開始し、調査後には再度重機でⅢ層の掘削を行った。調査区北東側では、Ⅳ層上面あるいはⅣ層中で炭化物や遺物、焼土などが集中して検出された。これらは複雑に切り合い、遺構埋土は包含層（Ⅳ層）との判別が難しかったため平面的な遺構プランを明確にできなかった。そこで、9月9日から調査区に合わせて約3mごとに幅30cm程度のトレンチをⅤ層上面まで適宜掘削して、断面で遺構の切り合いを確認しながら調査を進めた。その結果、縦穴状の遺構や鍛冶関連遺構が多数検出され、調査区全体の完掘が難しいことが判明し、北東側約900m²を次年度分と合わせて調査することに変更した。11月23日にラジコンヘリコプターによる空中写真撮影と高所作業車による撮影を行った。その後、土層確認の深掘りと自然科学分析のための土壌採取や測量の最終確認をして12月16日現地調査を終了、埋戻しを開始した。発掘調査の最終面積は3,726.2m²である。

発掘調査中の8月1・7日には動く市政教室（市の事業）が行われ、それぞれ29名と21名の参加があり調査中の現場や出土品の見学と土器洗いの体験をした。また、9月5日にはインターンシップの大学生3名の職場体

験実習を受け入れ、発掘現場や出土品の見学と土器洗いなどの体験をした。さらに、10月1・2日には亀田西中学校2年生4名の職場体験が行われ、現地で発掘体験をした。19日には現地説明会を開催し96名の参加があった。

2) 第3次調査の経過

令和2年4月1日から諸準備を開始した。前年度末から世界的に猛威をふるい始めた新型コロナウイルスの感染拡大防止対策で、発掘調査道具を共有しないため人数分準備し、プレハブ内の仕切り設置、全作業員へ県外往来制限やマスクの着用、毎日の検温や手指消毒の徹底などについて研修を行った。感染対策が浸透した5月11日から調査区北側より表土掘削を開始した。並行して土側溝掘削、法面仕上げを行い、翌日からは測量業者による杭打ちが行われた。遺構・遺物ともにほとんど検出されなかったためIV層上面まで数cm厚で下げていったが、部分的にV層上面まで掘削してしまう場所もあった。土層確認のため17グリッド上を東西に1m幅でベルト状に残す予定で表土掘削を進めていたところ、15日にベルト北側で鳥形製品が出土した(SK413)。昨年度からの継続調査か所も遺構精査・掘削を進めていたが、丸木舟を井戸側に転用した井戸(SE278)が新たに検出されるなど調査は捗らなかった。表土掘削が全体の1/3ほど終了したところで排土高が限界となった。一時的に排土は増えるが、増加の割合が少ないため表土掘削を一時中断して南側の路線部分の調査を優先して進めることにした。25日から西側より表土掘削を開始したが、大部分は隣接する道路敷設時の地盤改良によって包含層まで削られていた。改良土直下の遺構確認面は現地表面から-1.3mほどと非常に深かった。近世以降のハサ木の痕跡が北西から南東方向に検出されたが、古代の遺構・遺物は調査区東端以外では希薄であった。全ての調査を終了した6月16日に無人航空機(ドローン)による空中撮影を行い、19日には埋戻しも終了した。中断していた表土掘削は路線に隣接する南側から再開することにし、準備ができるまで調査区北側で遺構精査や土側溝を掘り下げて土層確認を行った。23日、土側溝中から鳥形製品(SK418)、さらに県内初の須恵器環状瓶が出土した。遺跡の性格を決定づけるような遺物に驚きつつ、25日には南側から表土掘削を始めた。並行して調査区北側で続けていた遺構精査中に須恵器大型甕(239)が潰れた状態で検出され(SK488)、須恵器環状瓶の周辺からは噐・高杯・鳥形製品の頭部などが次々と出土したが、埋土が非常に分かりづらく遺構プランも不明瞭であった(SK419)。各遺構内に複数のピットや周溝が検出されるのではないかという意見があり、8月12日に県内有識者による遺構検討会を現地で開催した(参加者:坂井秀弥氏(奈良大学名誉教授)、沢田敦氏・山崎忠良氏(県文化行政課)、春日真実氏・滝沢規朗氏(県埋蔵文化財調査事業団)、伊藤秀和氏(加茂市教育委員会)、古澤妥史氏(阿賀野市教育委員会)、市歴史文課、市文化財センター)。その結果、SX488としていた須恵器大型甕の廃棄遺構は大きな土坑と分かり(SK488に変更)、他の遺構もサブトレンチの断面で確実にV層を確認することで同様に理解できるという方向性が示された。同時に、本遺跡における遺構検出の難しさも共通理解となった。また、出土位置が重要であるためSK418・419の遺物取り上げは最後に一括して行うこととなった。昨年度からの継続調査区の調査が終了した9月10日に無人航空機(ドローン)による空中撮影を行い、SK418・419の遺物出土状況も記録した。15日にはSK419の遺物を取り上げ、その下から出土した鉄製品が錫杖頭であることが分かった。次々と類例の少ない遺物とともに、須恵器環状瓶は3本の鳥足を模した脚が付く全国初の出土品という記事が新聞等で報道されたため、10月10日の現地説明会には433名の参加があった。全ての調査が終了した11月13日に、ラジコンヘリコプターによる空中写真を撮影した。その後、土層確認の深掘りと自然科学分析のための土壌採取や測定の最終確認をして11月27日に現地調査を終了し、すぐに埋戻しを開始した。発掘調査の最終面積は4,345.7m²である。

C 調査体制

【令和元年度：第2次調査】

調査主体	新潟市教育委員会(教育長 前田秀子)
所管課・事務局	新潟市文化スポーツ部歴史文化課 (課長:小沢昌己 課長補佐:廣野耕造 埋蔵文化財担当主幹:朝岡政康) 新潟市文化財センター(所長:渡邊朋和 主幹:天野泰伸 遠藤恭雄 係長:立木宏明)

第3節 整理作業

調査担当	澤野慶子（新潟市文化財センター非常勤職員）
調査員	遠藤恭雄（新潟市文化財センター主幹） 脇本博康・高柳俊輔・阿部 司（11月～）（株式会社吉田建設）

【令和2年度：第3次調査】

調査主体	新潟市教育委員会（教育長 前田秀子）
所管課・事務局	新潟市文化スポーツ部歴史文化課 （課長：遠藤和典 課長補佐：廣野耕造 埋蔵文化財担当主幹：朝岡政康） 新潟市文化財センター（所長：渡邊朋和 主幹：天野泰伸 遠藤恭雄 係長：立木宏明）
調査担当	龍田優子（新潟市文化財センター主査）
調査員	澤野慶子（～7月）・前山精明（8～11月）（新潟市文化財センター会計年度任用職員） 脇本博康・高柳俊輔・阿部 司（～10月）・中川晃子（9月～）（株式会社吉田建設）

第3節 整理作業

A 作業方法

1) 遺物

第2次調査でコンテナ（内寸54.5×33.6×10.0cm）187箱、第3次調査で246箱と水槽（内寸1.6×1.0×0.6m）2槽分の遺物が出土している。土器が中心であり、他に土製品・石器・石製品・金属製品・鍛冶関連遺物・木製品・自然遺物などが出土している。

遺物の整理作業は、①洗浄→②注記→③グリッド別・種別の重量計測→④接合→⑤報告書掲載遺物の抽出→⑥実測図・観察表作成→⑦写真撮影の順を基本とし作業を行った。進捗状況によって、作業の順番が逆になったり、並行して行ったりしたものもある。

2) 遺構

現場の測量図はすべて測量業者作成のものであり、トータルステーションで測量した遺構平面図は1/20で出力したものを校正した。また、手取りの断面図についてはデジタル化し出力したものを校正した。さらに、平面図・断面図の整合については、それぞれ確認した図面を用いて作業を行い、原図と校正図データを残した。現場で撮影した記録写真については、フィルム写真はフィルムの現像・ベタ焼き（ネガフィルムのみ）を行いアルバムに収めた。デジタル写真は、撮影日ごとに整理しハードディスクに保存した。

B 作業経過

出土遺物の水洗・注記は発掘調査と並行して行い、現場でほぼ終了した。その後の作業については、第2次調査は株式会社吉田建設巻整理室、第3次調査は新潟市文化財センターと株式会社吉田建設巻整理室に場所を移して行ったが、現地説明会のために現場で接合までの作業を行ったものもある。遺構実測図等の測量図は、デジタルデータの出力紙による平面図・断面図の整合の後に掲載遺構の抽出を行い、図面図版・写真図版のレイアウトを行った。遺物実測図のトレース・各図版の版下作成はデジタル図化編集業者に委託した。令和3・4年度に全体編集等を行い、令和5年度に報告書を刊行した。

C 作業体制

【令和元年度】

調査主体	新潟市教育委員会（教育長 前田秀子）
所管課・事務局	新潟市文化スポーツ部歴史文化課 （課長：小沢昌己 課長補佐：廣野耕造 埋蔵文化財担当主幹：朝岡政康） 新潟市文化財センター（所長：渡邊朋和 主幹：天野泰伸 遠藤恭雄 係長：立木宏明）

調査担当	澤野慶子（新潟市文化財センター非常勤嘱託）
調査員	遠藤恭雄（新潟市文化財センター主幹） 脇本博康・高柳俊輔・阿部司（株式会社吉田建設）

【令和2年度】

調査主体	新潟市教育委員会（教育長 前田秀子）
所管課・事務局	新潟市文化スポーツ部歴史文化課 （課長：遠藤和典 課長補佐：廣野耕造 埋蔵文化財担当主幹：朝岡政康） 新潟市文化財センター（所長：渡邊朋和 主幹：吉沢範久 遠藤恭雄 係長：立木宏明）
調査担当	龍田優子（新潟市文化財センター主査）
調査員	脇本博康・高柳俊輔・中川晃子（株式会社吉田建設）

【令和3年度】

調査主体	新潟市教育委員会（教育長 井崎規之）
所管課・事務局	新潟市文化スポーツ部歴史文化課 （課長：遠藤和典 課長補佐：廣野耕造 埋蔵文化財担当主幹：朝岡政康） 新潟市文化財センター（所長：板垣正人 主幹：遠藤恭雄 係長：立木宏明 飯塚和美）
調査担当	龍田優子（新潟市文化財センター主査）
調査員	西山美那（7月～）（新潟市文化財センター主事）、中川晃子・高柳俊輔（株式会社吉田建設）

【令和4年度】

調査主体	新潟市教育委員会（教育長 井崎規之）
所管課・事務局	新潟市文化スポーツ部歴史文化課 （課長：遠藤和典 課長補佐：廣野耕造 埋蔵文化財担当主幹：朝岡政康） 新潟市文化財センター（所長：佐藤敏宏 主幹：遠藤恭雄 係長：立木宏明（～5月） 飯塚和美）
調査担当	龍田優子（新潟市文化財センター主査）
調査員	西山美那（～7月）（新潟市文化財センター主事）、中川晃子（株式会社吉田建設）

【令和5年度】

調査主体	新潟市教育委員会（教育長 井崎規之）
所管課・事務局	新潟市文化スポーツ部歴史文化課 （課長：萬歳真紀 課長補佐：廣野耕造 埋蔵文化財担当主幹：遠藤恭雄） 新潟市文化財センター（所長：村山 明 主幹：朝岡政康 係長：飯塚和美）
調査担当	龍田優子（新潟市文化財センター主査）



現地説明会（野外）



現地説明会（室内展示）

第5図 現地説明会風景

第Ⅳ章 遺 跡

第 1 節 概 要

曾我墓所遺跡は阿賀野川左岸（約 700m の位置）の自然堤防上に立地し、調査時における地表面の標高は約 4m である。調査前の現況はほぼ水田であり、遺跡周辺での高低差はほとんど見られない。遺構検出面の平均標高は、約 3.2 ～ 3.5m である。調査では古代・中世・近世の遺構と遺物が認められたが、古代の遺構・遺物が最も多い。遺構総数は 725 基で、内訳は竪穴建物 9 軒、掘立柱建物 4 棟、井戸 4 基、土坑 281 基、焼土遺構 25 基、性格不明遺構 61 基、石列 2 基、溝 56 条、ピット 283 基であった。時代ごとの遺構数は、各節で記載している。主体となる古代の遺構は北東部と南西部に多く分布しており、北東部には建物群、南西部には土坑や溝が集中している。北西側の遺構密度は希薄であるが、須恵器環状瓶や鳥形製品などが出土した SK418 や、ほぼ完形の須恵器大型甕が出土した SK488 などが検出されている。

第 2 節 層 序

基本層序はⅠ～Ⅺ層に分別でき、Ⅰ・Ⅱ層が近現代の水田耕作土、Ⅲ・Ⅳ a 層が古代の遺物包含層、Ⅴ層以下が自然堆積層である。中・近世の遺物包含層は、削平により失われている。遺構確認面は二面あり、Ⅲ層が中・近世、Ⅳb 層が古代の遺構確認面である。なお、確認調査のⅣ層はⅣa・Ⅳb 層に細分できる。Ⅳb 層はⅣa 層に比べ、わずかに色調が暗く、遺物を包含していない。このⅣa・Ⅳb 層の違いは特に調査区北東部で顕著だが、その他の地点では色調と土質を識別することが困難であった。さらに明確に遺構検出できるのがⅤ層であったため、Ⅳb 層で確認した遺構以外は、遺構確認面を「Ⅳ層」に統一した。

以下に土層説明を行う。Ⅵ層以下は、遺構調査等終了後の重機による深掘りによって得た認識である。

- Ⅰ層：褐灰色シルト（10YR6/1）。しまりなし、粘性あり。現代の水田耕作土。
- Ⅱ層：灰黄褐色シルト（10YR5/2）。しまりあり、粘性ややあり。調査区のほぼ全域に分布するが、路線部分には存在しない。現代の耕作土で古代～現代の遺物が混入する。
- Ⅲ層：にぶい黄橙色シルト（10YR7/3）。しまりあり、粘性あり。灰黄褐色シルトブロックを多量含む。古代の遺物包含層であり、中・近世の遺構確認面でもある。
- Ⅳa 層：にぶい黄橙色シルト（10YR7/4）。しまりあり、粘性あり。灰黄褐色シルトブロックを微量含む。古代の遺物包含層である。
- Ⅳb 層：明黄褐色シルト（10YR6/6）。しまりあり、粘性あり。灰黄褐色シルトブロックを微量含む。古代の遺構確認面である。
- Ⅴ層：にぶい黄橙色シルト（10YR7/4）。しまり強い、粘性あり。Ⅴ層以下が基盤層である。
- Ⅵ層：褐灰色粘土質シルト（10YR6/1）。しまりあり、粘性強い。水酸化鉄を多量含む。
- Ⅶa 層：オリーブ灰色粘土質シルト（5GY5/1）。しまりあり、粘性あり。
- Ⅶb 層：オリーブ灰色粘土質シルト（5GY6/1）。しまりややあり、粘性あり。水酸化鉄を少量含む。
- Ⅶc 層：オリーブ灰色粘土質シルト（5GY5/1）。しまりややあり、粘性強い。未分解腐植物を微量含む。
- Ⅷ層：灰黄褐色粘土質シルト（10YR6/2）。しまりなし、粘性強い。

IX層 : 灰色シルト (N5/)。しまりあり、粘性あり。同色のやや砂質土を含む。ラミナ堆積。

X層 : 暗灰色シルト (N3/)。しまり弱い、粘性ややあり。未分解腐植物を少～中量含む。

XI層 : 灰白色砂 (10YR8/1)。しまりなし、粘性弱い。腐植土を含む。

第3節 遺 構

遺構名は遺構の性格を示す(種別)記号と数字によって付けている。種別記号は〔文化庁文化財部記念物課 2010〕を参考に竪穴建物-SI、掘立柱建物-SB、井戸-SE、土坑-SK、焼土遺構-焼土、配石遺構-石列、性格不明遺構-SX、溝状遺構-SD、柱穴・ピット-Pとし、遺構番号は遺構の種別に関係なく検出順に付けた。掘立柱建物のように複数の遺構によって構成されるものについては、それを表す番号を各遺構番号の頭に付して表記した。本文では、主要遺構を時代ごとに竪穴建物・掘立柱建物・井戸・土坑・焼土・性格不明・溝状遺構・ピットの順で記述を行った。各遺構の属性等の情報は別表1に示したが、主軸方位の計測は竪穴建物・掘立柱建物・溝状遺構など長軸が捉えやすいものに限り、可能な範囲で計測したものである。また、遺構の検出位置や新旧関係について記載が煩雑になる場合は、大グリッドのみとするなど適宜省略している。また、別表1には遺物の有無だけ記し、その詳細は本文中で述べ別表2～7に示した。なお、遺構の形状は和泉A遺跡での分類〔荒川・加藤ほか 1999〕を参考に、平面形が円形・楕円形・方形・長方形・不定形の5種類、断面形が箱形・台形・皿形・U字形・不定形の5種類を基本として表中に記載したが判断が難しいものも多い。

第4節 遺 構 各 説

A 古代の遺構

古代の遺構は、竪穴建物9軒・掘立柱建物4棟・井戸2基・土坑258基・焼土25基・性格不明遺構58基(竪穴状の掘り込みを確認した遺構を含む)・溝39条、ピット280基をIV層で検出した。遺構埋土の土色は黒褐色(10YR3/1)または褐灰色(10YR4/1)が多いが、IV層との判別がつきにくいにぶい黄橙色(10YR7/2・10YR7/3)の遺構も存在する。そのため、炭化物の広がりや遺物の有無などを手がかりにして検出した遺構もある。

遺構の時期は出土した遺物により、おおむね8世紀後半～9世紀前半に収まると考えられる。

1) 竪 穴 建 物

竪穴建物から出土している遺物は、春日編年〔春日 1999・2005〕でIV1期～IV2・IV3期にあたり、おおむね8世紀後半～9世紀初頭とみられる。

SI65 (図版 16・23・41・63、写真図版 8・9)

17AQ、17ARグリッドに位置する。多くの遺構と重複しているため、新旧関係は別表1に記載した。主軸方位はN-1°-Wである。平面形は方形で、断面形は皿形を呈する。規模は長軸7.73m、現存短軸6.88m、深さ0.13～0.31mで、面積は約53.18m²である。埋土は単層でしまりが強く、硬化が認められるため、床面であった可能性がある。P372・452・347・360が規則的に配置されるため、主柱穴と想定されたが、P372・452・360はSB828の柱穴とみるのが妥当と考えており、SI65の主柱穴ではないと判断した。P347のみ、主柱穴の可能性を否定できないが、SB828-SD357に切られるため、詳細は不明である。

住居北辺中央部にカマド(SI65-焼土817)があり、1層で検出された。焼土817の埋土は2層で、1・2層ともに被熱痕跡がある。煙道はわずかに外側に張り出すが、カマド袖は検出できなかった。火床のみが残存していると考えられる。

遺物は須恵器無台杯(7～13)・有台杯(14～16)・杯類・杯蓋(17～19)・稜椀(20)、黒色土器鉢(21)・杯・杯蓋(22)・短頸壺、須恵器横瓶(23・24)・壺蓋・壺・瓶類・甕、土師器無台椀・鉢・長甕・小甕(25)・鍋、砥

石(654)、釘(713)・鉄製品(722)、鉄滓、粘土塊が出土している。

SI103 (図版15・23、写真図版9)

17AN、17AO、18AN、18AOグリッドに位置する。SI108、SI108-P203を切る。主軸方位はN-30°-Wである。平面形は方形で、断面形は台形を呈する。規模は長軸6.98m、短軸6.70m、深さ0.24mで、面積は約46.76m²である。埋土は2層である。1層はIV層由来の堆積土で、自然堆積と考えられる。2層は炭化物を多く含み、硬化が認められるため、床面の可能性がある。SI103の平面プランの中に土坑やピットが検出されているが、1層からの掘り込みであることや、規則的に配置されないことから建物に伴うものかは不明である。住居北辺の中央東寄りにカマド(SI103-焼土114)があり、2層で検出された。焼土114の埋土は4層で、2・3層に焼土を多く含む。カマド袖や煙道は検出できなかった。

遺物は、SI103から須恵器無台杯(26・27)・有台杯・杯蓋・甕(28)・横瓶(29・30)、土師器無台碗・長甕・小甕(31・32)・鍋、焼土114から須恵器無台杯(33)・有台杯(34)、土師器長甕・小甕・鍋が出土している。

SI108 (図版15・24、写真図版9・10)

18AO、19AOグリッドに位置する。SI103、SB252-SD468に切られる。主軸方位はN-0°である。平面形は長方形で、断面形は台形を呈する。規模は長軸8.72m、短軸6.01m、深さ0.22～0.28mで、面積は約52.40m²である。埋土は2層である。1層はIV層由来の堆積土で、自然堆積と考えられる。2層は炭化物を多く含み、硬化が認められるため、床面の可能性がある。主柱穴はP123・200・203・204とみられ、方形に配置される。住居北辺中央部にカマド(SI108-焼土211)があり、2層で検出された。焼土211の埋土は2層で、2層に焼土塊を含む。煙道はわずかに外側に張り出すが、カマド袖は検出することはできなかった。

遺物はSI108から須恵器無台杯(35)・有台杯(36・37)・杯蓋・壺・瓶類・甕、土師器長甕(38)・小甕(39)・鍋、羽口(639)、焼土211から須恵器無台杯・甕、土師器長甕(40)、P123から須恵器無台杯・有台杯・杯蓋が出土している。

SI181 (図版16・25、写真図版10・11)

18AQ、18ARグリッドに位置する。SX249・250、P199に切られる。主軸方位はN-39°-Eである。平面形は長方形で、断面形は台形を呈する。規模は長軸8.43m、現存短軸6.20m、深さ0.30～0.40mで、面積は約52.26m²である。埋土は2層である。1層はIV層由来の堆積土で、自然堆積と考えられる。2層は炭化物を多く含み、硬くしまっていることから床面と考えられる。主柱穴はP81・188・189・198とみられ、方形に配置される。住居北辺中央部に袖と煙道があるカマド(SI181-焼土830)を、2層で検出した。焼土830の埋土は7層で、2層が被熱した火床、5・6層は灰黄褐色シルト土でカマドの袖が崩れたものである。煙道の長さは0.92mで、緩やかに立ち上がる。

遺物は、SI181から須恵器無台杯・有台杯(41)・杯蓋・横瓶(42)・甕、土師器無台碗・鉢・長甕・小甕(43)・鍋(44)、焼土830から焼成粘土塊、P81から土師器小甕(45)が出土している。遺構の時期は出土遺物の年代観から8世紀末～9世紀初頭頃と考えられる。

SI207 (図版15・16・26・40、写真図版11・12)

17AP、18APグリッドに位置する。多くの遺構と重複しているため、新旧関係は別表に記載した。主軸方位はN-13°-Eである。平面形は方形で、断面形は皿形を呈する。規模は長軸7.12m、短軸6.70m、深さ0.22～0.34mで、面積は約47.70m²である。埋土は3層で、1層が自然堆積層、2層がしまりの強い炭化物を含む床面、3層が掘り方である。SI207の平面プランの中にピットが多数検出されているが、1層からの掘り込みであることや、規則的に配置されないことから建物に伴うものかは不明である。北辺の中央にカマド(SI207-焼土823)があり、2層で検出できる。焼土823の埋土は5層で、1層が被熱した火床、5層が白色粘土を含む袖と考えられる。煙道の長さは1.4mで、緩やかに立ち上がる。

遺物は、SI207から須恵器無台杯・有台杯・杯類・杯蓋(46)・短頸壺(47)・甕、土師器無台杯・長甕・小甕

(48)・鍋、鉄製品、鉄滓、焼土 823 から須恵器無台杯・有台杯、土師器長甕が出土している。

SI243 (図版 19・24、写真図版 12)

20AL、21AL、21AM グリッドに位置する。主軸方位は、N-66° -W である。平面形は長方形で、断面形は皿形を呈する。規模は長軸 4.92m、短軸 3.16m、深さ 0.15m で、面積は約 15.54m² である。埋土は 2 層である。中央よりやや南西側に炭化物が楕円状に検出され、カマドの可能性を想定したが、被熱痕跡が見られないため性格は不明である。柱穴は検出できなかった。

SI451 (図版 12・16・27、写真図版 12～14)

17AP、17AQ グリッドに位置する。SK455・460、SD422 に切られる。SD420 との新旧関係は、SI451 の掘削中に底面近くで SD420 を検出したため、現場の所見では SI451>SD420 とした。しかし、各遺構の出土土器の時期から新旧関係を誤認した可能性が考えられ、断面・写真等で精査したものの、明瞭ではなかったため出土遺物の傾向に従い、SI451<SD420 として扱った。東側は攪乱によって切られる。平面形は不定形で、断面形は台形を呈する。規模は短軸 6.12m、深さ 0.16～0.40m である。埋土は 2 層である。1 層は IV 層由来の堆積土で、自然堆積と考えられる。2 層は炭化物を多く含み、硬化が認められるため、貼床の可能性はある。SI451 の平面プランの中にピットは検出できなかったため、柱穴が伴うかは不明である。西辺の南寄りにカマド (SI451-焼土 820) があり、2 層で検出できる。焼土 820 の埋土は 5 層で、1 層に焼土を含む。カマド袖や煙道は検出することはできなかった。また SK821 はカマドをつくる際の掘り込みの可能性はある。

遺物は、SI451 から須恵器無台杯 (49～56)・有台杯 (57・58)・杯類・杯蓋 (59)・稜椀 (60)、黒色土器椀 (61)、土師器無台杯・鉢 (62・63)、須恵器鉢 (64)・短頸壺 (65)・壺・瓶類・甕 (66)、土師器長甕 (67～70)・小甕 (71・72)・鍋、土製紡錘車 (631)、砥石 (656)・敲石 (666)・軽石製品 (669)・編み物石 (685・687)、鉄製品、鉄滓、焼土 820 から須恵器無台杯・有台杯、土師器長甕・小甕が出土している。特に 72 の小甕底部は逆位の状態で出土した。

SI453 (図版 12・15・27、写真図版 14・15・49)

17AO、17AP グリッドに位置する。P597・598 を切る。出土遺物から遺構の時期は、8 世紀中葉頃と考えられる。主軸方位は、N-80° -W である。平面形は方形で、断面形は皿形を呈する。規模は長軸 6.49m、短軸 5.71m、深さ 0.16～0.22m であり、面積は約 37.05m² である。埋土は単層で、炭化物を含み硬くしめるため、貼床の可能性はある。主柱穴は P461・465・471 であると考えられる。西辺のやや南寄りにカマドと考えられる焼土 822 があり、1 層上面で検出できる。焼土 822 の埋土は 3 層で、1 層に焼土を多量含む。カマド袖や煙道は検出することはできなかった。

遺物は SI453 から須恵器無台杯・有台杯 (73)・杯類・杯蓋 (74)・壺蓋 (75)、土師器無台杯・鉢・長甕・小甕・鍋、須恵器壺・瓶類・甕、鉄製品、鉄滓が出土している。

SI608 (図版 12・26、写真図版 15)

15AO9・10・14・15 グリッドに位置する。遺構北側の大部分は調査区外に延びる。断面形は台形を呈する。規模は短軸 2.72m、深さ 0.48m である。埋土は 9 層である。P622・773・774 が主柱穴であると考えられる。遺物は須恵器無台杯、土師器長甕・小甕・鍋、羽口、鉄滓が付着した焼礫 (682)、鉄製品が出土している。

2) 掘立柱建物

SB251 (図版 15・16・28、写真図版 15～17)

18AP、19AP グリッドに位置する側柱建物である。建物の規模は、桁行 3 間 (7.18m)・梁行 2 間 (4.72m) で、面積は約 33.89m² である。主軸方位は N-47° -W で、平面形は長方形である。柱間寸法は桁行方向が 2.20～2.53m、梁行方向が 2.42～2.43m である。北西隅の柱穴は攪乱の影響で残存せず、8 基の柱穴が現存している。柱穴の形状は平面形が円形または楕円形であり、断面形は台形、皿形、U 字形を呈している。柱穴の深さは検出面から 0.19～0.89m で、底面標高は 2.21～2.98m である。P152・178・273 には柱根が遺存していた。ま

たSB829とP149が重複しており、短期間での建て直しが想定されるが、新旧関係は不明である。SB251の北側と南側に、SK106、SX130・134、SD153が存在し、これらは軒先下に掘られた雨落ち溝の可能性はある。SK68は、堆積状況に違いがあるもののSX130より新しくSK106より古いという新旧関係から、単独遺構ではなく同様に雨落ち溝と考えた。なお、東側と西側では検出できなかった。SK67・71・73・76・128から粒状滓や鍛造剥片などが多く検出されているため、鍛冶関連遺構である可能性がある。SK71・76はSB252の雨落ち溝ともしており、再利用されたと考えられる。

遺物はP95・101・149・152・256・273、SK68・106、SX130、SD153から須恵器無台杯(77)・有台杯(76)・杯類・杯蓋(78・81)、土師器無台碗・杯・鉢・長甕・小甕・鍋、須恵器甕(79・80・82)、鉄製品、鍛造剥片、鉄滓、焼成粘土塊が出土している。

SB252 (図版15・16・29・30、写真図版12・17～20)

17AP、18AO、18AP、18AQグリッドに位置する。周溝(SD468)がめぐる総柱建物である。建物の規模は、桁行3間(6.94m)・梁行2間(4.78m)で、面積は約33.17m²である。主軸方位はN-48°-Wで、平面形は長方形である。柱間寸法は桁行方向2.11～2.34m、梁行方向2.39～2.40mである。柱穴の形状は円形または楕円形であり、断面形は箱形、台形、皿形、U字形を呈している。11基の柱穴で構成されており、北西隅の柱穴は攪乱に切られる。柱穴の深さは検出面から0.14～0.73mで、底面標高は2.45～2.90mである。周溝(SD468)はSB252の北側と南側に位置し、弧状にめぐる。規模は長軸10m以上、短軸0.62～1.74m、深さ0.20mである。埋土は単層である。またSK76・132・136は軒先下に掘られた雨落ち溝の可能性はある。

遺物はP140・179・191・202・216・458、SK71・76・132・136、SD468から須恵器無台杯・有台杯(83～85)・杯類・鉢・杯蓋、土師器盤(86)・長甕・小甕・鍋、須恵器甕(87)、粒状滓、鍛造剥片、鉄滓、焼成粘土塊が出土している。

SB828 (図版16・31・33・63、写真図版20～22・46)

17AQ、17ARグリッドに位置する。柱穴の規模は並びがやや不整形であるが、周溝(SD357)がめぐり、北の妻と東の平に廂が付く二面廂付建物である。建物の規模は、桁行2間(4.38～5.04m)・梁行2間(2.94～3.66m)で、廂部を含めると桁行3間(6.48～6.64m)・梁行3間(4.01～5.06m)となる。身舎の面積は約14.83m²である。主軸方位はN-55°-Wで、建物の平面形は長方形である。身舎の柱間寸法は桁行方向2.05～2.20m、梁行方向1.30～1.70mである。14基の柱穴から構成されている。柱穴の形態は、円形または楕円形であり、断面形は、箱形、台形、皿形、U字形である。柱穴の深さは検出面から0.05～0.48mで、底面標高は2.73～3.60mと差が大きい。埋土断面に柱痕跡が認められる柱穴は、P383とP435のみである。周溝(SD357)はSB828の南東側に位置し、弧状にめぐる。規模は長軸14m以上、短軸1.10～1.46m、深さ0.15mである。埋土は単層である。

遺物はP286・287・326・360・366・372・383・384・435・442・450・452、SD357から須恵器無台杯・有台杯(88)・杯類・杯蓋(92)、黒色土器碗(90)・杯蓋(93)、土師器鉢(89・91)、須恵器壺・瓶類・甕、土師器長甕(94)・小甕・鍋、鉄鐸の舌(701)、鉄滓、焼成粘土塊が出土している。

SB829 (図版15・16・32、写真図版22・23)

18AP、19APグリッドに位置する。側柱建物である。建物の規模は、桁行3間(5.04m)・梁行2間(4.04m)で、面積は約20.36m²である。主軸方位はN-50°-Wで、平面形は長方形である。柱間寸法は桁行方向1.58～1.99m、梁行方向が1.75～2.21mである。柱穴の形状は円形または楕円形であり、断面形は箱形、台形、皿形、U字形を呈している。9基の柱穴で構成されている。柱穴の深さは検出面から0.10～0.57mで、底面標高は2.42～3.05mmである。埋土断面に柱痕跡が認められるものが多いが、柱根は遺存していなかった。SB251とP149が重複しており、短期間での建て直しが想定されるが、新旧関係は不明である。

遺物はP148・149・160・161から須恵器無台杯(95)・有台杯、土師器長甕・小甕、粒状滓、鍛造剥片、鉄滓(646)

が出土している。

3) 井 戸

SE278 (図版 16・33、写真図版 23)

17AQ22・23、18AQ2・3 グリッドに位置する。SX63 を切る。主軸方位は、N-30° -E である。平面形は楕円形で、断面形は台形を呈する。規模は長軸 2.47m、短軸 1.48m、深さ 1.94m である。埋土は 7 層で、1～5 層は井戸の堆積土、6～7 層は井戸側 (740～749) の裏込めである。井戸側には、2 艘の丸木舟を転用したものの (747～749) の隙間を埋めるように板材が使用されている。板材は 11 枚使用されているが、そのうち 7 点 (740～746) を図化した。井戸側の上部は腐食により失われており、横棧などは見られない。

遺物は須恵器無台杯 (96・97)・有台杯 (98・99)・杯類・杯蓋 (100)・甕、土師器鉢 (101)・長甕・小甕 (102)、編み物石 (692)、鉄製品 (716)、棒状木製品 (734・735)、箸状木製品 (732)、木製小皿未成品 (733) が出土している。また、篩選別資料からは多くの種実と炭化米などが検出された (第 10 図・第 2 表)。

SE388 (図版 16・33・63、写真図版 23・46)

17AQ13・14 グリッドに位置する。SI65、SB828-SD357、SK341、SX283 を切る。主軸方位は、N-63° -W である。平面形は楕円形で、断面形は台形を呈する。規模は長軸 1.02m、現存短軸 0.96m、深さ 0.86m である。埋土は 2 層である。井戸側はなく、素掘りである。

遺物は須恵器無台杯 (103)・有台杯 (104)・杯類・杯蓋 (105)、土師器無台杯、須恵器壺・瓶類・甕、土師器長甕・小甕・鍋が出土している。

4) 土 坑

古代の土坑は 258 基検出し、そのうち遺物が出土した土坑は 208 基あった。出土している遺物は春日編年で IV 1 期～V 期にあたり、おおむね 8 世紀後半～9 世紀前半とみられる。竪穴建物から、V 期にあたる遺物は出土していないため、竪穴建物よりやや新しい土坑も存在すると考えられる。

SK29 (図版 20・34、写真図版 24)

22AM25、22AN21 グリッドに位置する。主軸方位は N-30° -E である。平面形は方形で、断面形は台形を呈する。規模は長軸 1.20m、短軸 1.12m、深さ 0.29m である。埋土は 2 層ある。遺物は須恵器壺蓋 (106)、土師器長甕・小甕・鍋が出土している。

SK30 (図版 20・34)

22AM24・25 グリッドに位置する。南西側は調査区外に延びる。断面形は皿形を呈する。規模は短軸 1.25m、深さ 0.17m である。埋土は単層である。遺物は黒色土器碗 (107)、土師器無台杯・長甕・小甕が出土している。

SK32 (図版 20・34、写真図版 24)

22AN17・18・22・23 グリッドに位置する。主軸方位は、N-81° -W である。平面形は楕円形で、断面形は皿形を呈する。規模は長軸 2.64m、短軸 1.55m、深さ 0.23m である。埋土は 2 層である。遺物は須恵器無台杯 (108)、土師器長甕・小甕・鍋が出土している。

SK48 (図版 20・34、写真図版 24)

22AO3・4 グリッドに位置する。SK19 に切られる。平面形は円形で、断面形は台形を呈する。規模は長軸 1.32m、現存短軸 1.06m、深さ 0.23m である。埋土は単層である。遺物は須恵器無台杯 (109)、黒色土器杯、土師器小甕 (110・111) が出土している。

SK53 (図版 19・22・35、写真図版 24)

23AM18・19・23・24 グリッドに位置する。平面形は円形で、断面形は皿形を呈する。規模は長軸 1.62m、短軸 1.44m、深さ 0.21m である。埋土は単層である。遺物は須恵器無台杯 (112) と杯蓋 (113) が並んだ状態で出土しており、儀礼的な意図で埋設されたと思われる。そのほかの遺物は土師器長甕 (114)・小甕 (115) が出土している。遺構の時期は出土遺物の年代観から 9 世紀初頭頃と考えられる。

SK74 (図版 15・36)

19AP11・12・16・17グリッドに位置する。SK147を切る。平面形は円形で、断面形は台形を呈する。規模は長軸 1.80m、短軸 1.58m、深さ 0.39m である。埋土は単層である。遺物は須恵器壺・瓶類・壺蓋 (116)、土師器無台椀・鉢・長甕 (117)・小甕が出土している。

SK79 (図版 16・36、写真図版 25)

19AP5・10、19AQ1・6・7・11・12グリッドに位置する。南東側は調査区外に伸びる。断面形は皿形を呈する。規模は短軸 1.48m、深さ 0.17m である。埋土は単層である。SB252の周溝の一部とも考えられたが、SB252の位置から大きく外れるため、単体の遺構として扱った。遺物は須恵器無台杯・有台杯 (118)・壺・瓶類、土師器長甕・小甕 (119) が出土している。

SK85 (図版 20・35)

20AP2・7グリッドに位置する。平面形は楕円形で、断面形は皿形を呈する。規模は長軸 2.18m、短軸 1.28m、深さ 0.15m である。埋土は単層である。遺物は須恵器無台杯、土師器鉢・長甕・小甕 (120) が出土している。

SK90 (図版 15・37)

19AN10、19AO1・2・6・7グリッドに位置する。主軸方位は、N-48°-E である。平面形は不定形で、断面形は皿形を呈する。規模は長軸 3.56m、深さ 0.12m である。埋土は単層である。遺物は須恵器無台杯 (121)・有台杯・壺蓋 (122)・壺・瓶類、土師器長甕 (123) が出土している。

SK104 (図版 16・37)

18AP15グリッドに位置する。平面形は円形で、断面形は皿形を呈する。規模は長軸が 0.77m、短軸 0.71m、深さ 0.19m である。埋土は2層である。遺物は須恵器無台杯・有台杯 (124) が出土している。

SK107 (図版 16・38、写真図版 25・26)

18AP3・8・9グリッドに位置する。主軸方位は、N-82°-W である。平面形は楕円形で、断面形は皿形を呈する。規模は長軸 1.02m、短軸 0.75m、深さ 0.11m である。埋土は単層である。遺物は須恵器無台杯・有台杯 (125)、土師器長甕が出土している。

SK118 (図版 15・38)

19AO14・15グリッドに位置する。平面形は円形で、断面形は皿形を呈する。規模は長軸 0.38m、短軸 0.34m、深さ 0.09m である。埋土は単層である。遺物は須恵器短頸壺 (126) が出土している。

SK131 (図版 16・38、写真図版 26)

17AP24・25、18AP4・5グリッドに位置する。主軸方位は、N-34°-W である。平面形は楕円形で、断面形は皿形を呈する。規模は長軸 1.34m、短軸 0.88m、深さ 0.23m である。埋土は単層である。遺物は須恵器無台杯 (127)・横瓶 (128)、土師器長甕・小甕が出土している。

SK139 (図版 16・38)

18AP25、18AQ21、19AQ1グリッドに位置する。平面形は円形で、断面形は皿形を呈する。規模は長軸 1.66m、短軸 1.62m、深さ 0.16m である。埋土は単層である。遺物は須恵器無台杯、土師器長甕・小甕 (129) が出土している。

SK145 (図版 16・39、写真図版 26)

18AQ18・19・23・24グリッドに位置する。主軸方位は、N-84°-W である。平面形は楕円形で、断面形は皿形を呈する。規模は現存長軸 0.68m、現存短軸 0.42m、深さ 0.06m である。埋土は単層である。遺物は須恵器無台杯・有台杯 (130)・甕 (131) が出土している。

SK146 (図版 15・39)

19AO20グリッドに位置する。主軸方位は、N-48°-W である。平面形は楕円形で、断面形は皿形を呈する。規模は長軸 1.30m、短軸 1.04m、深さ 0.12m である。埋土は単層である。遺物は須恵器無台杯 (132)・有台杯、

土師器長甕が出土している。

SK166 (図版 15・39)

18AP21 グリッドに位置する。SB251-P178 を切る。平面形は円形で、断面形は台形を呈する。規模は長軸 0.50m、短軸 0.48m、深さ 0.30m である。埋土は 2 層である。遺物は須恵器無台杯 (133) が出土している。

SK182 (図版 15・39)

19AN3・4・8・9 グリッドに位置する。主軸方位は、N-72° -E である。SK127 に切られる。平面形は楕円形で、断面形は皿形を呈する。規模は長軸 1.10m、短軸 0.70m、深さ 0.10m である。埋土は 3 層である。遺物は須恵器甕 (134) が出土している。

SK215 (図版 16・26、写真図版 11)

17AP22・23 グリッドに位置する。主軸方位は、N-82° -W である。SI207、SK353 を切る。平面形は楕円形で、断面形は皿形を呈する。規模は長軸 1.80m、短軸 1.20m、深さ 0.40m である。埋土は単層である。遺物は須恵器杯類・杯蓋、土師器無台杯・長甕・小甕 (135)・鍋、編み物石 (684) が出土している。

SK220 (図版 12・15・39、写真図版 26)

17AP17 グリッドに位置する。平面形は円形で、断面形は皿形を呈する。規模は長軸 1.52m、短軸 1.33m、深さ 0.11m である。埋土は 2 層で、1 層に炭化物の集中範囲が見られる。遺物は須恵器無台杯・有台杯 (136)・壺・瓶類 (137)、土師器長甕・小甕 (138)、円面硯 (638)、鉄製品、粘土塊が出土している。

SK228 (図版 21・39)

24AJ11・12・16・17 グリッドに位置する。主軸方位は、N-65° -E である。平面形は楕円形で、断面形は皿形を呈する。規模は現存長軸 1.94m、現存短軸 0.90m、深さ 0.09m である。埋土は単層である。遺物は土師器長甕 (139)・鍋が出土している。

SK281 (図版 16・41・42、写真図版 27)

17AR1・2・6～8・11～13 グリッドに位置する。東側は調査区外に延びる。SI65 を切り、P289 に切られる。断面形は皿形となる。規模は深さ 0.08～0.17m である。埋土は単層である。遺物は須恵器無台杯 (140・141)・有台杯・杯類・杯蓋 (142)、黒色土器鉢 (143)、須恵器壺・瓶類・甕、土師器長甕・小甕・鍋、鉄製品、鉄滓が出土している。

SK282 (図版 16・42)

17AR13・14・18・19・23・24 グリッドに位置する。東側は調査区外に延びる。SK285 を切る。断面形は皿形となる。規模は深さ 0.15m である。埋土は単層である。遺物は須恵器無台杯・有台杯 (144)・杯類・杯蓋、土師器無台杯・長甕・小甕・鍋が出土している。

SK285 (図版 16・42、写真図版 27)

17AR8・13・14・18 グリッドに位置する。東側は調査区外に延びる。SK282 に切られる。断面形は皿形を呈する。規模は深さ 0.09m である。埋土は単層である。遺物の東側は調査区外であり、全容は不明である。遺物は須恵器無台杯・有台杯 (145)・杯類・杯蓋 (146)、土師器無台杯・鉢 (147)・長甕・小甕 (148)・鍋 (149) が出土している。

SK298 (図版 17、写真図版 27)

23AG13・14・18・19 グリッドに位置する。主軸方位は、N-58° -W である。平面形は楕円形で、断面形は皿形を呈する。規模は長軸 2.19m、短軸 1.33m、深さ 0.24m である。埋土は単層である。遺物は須恵器有台杯 (150・151)・杯蓋、土師器長甕・小甕 (152)・鍋が出土している。

SK333 (図版 17・41)

22AG17・22・23 グリッドに位置する。東側は調査区外に延びる。主軸方位は、N-31° -W である。断面形は皿形を呈する。規模は現存長軸 3.00m、深さ 0.46m である。埋土は 3 層である。遺物の東側が調査区外であ

り、全容は不明である。遺物は須恵器無台杯 (153)・有台杯・杯類・杯蓋 (154・155)・甕、土師器長甕・小甕が出土している。

SK335 (図版 9・17・42)

23AG8・9・14 グリッドに位置する。東側は調査区外に延びる。SK334 を切る。断面形は皿形を呈する。規模は長軸 1.54m、深さ 0.14～0.34m である。埋土は 2 層である。遺構の東側が調査区外であり、全容は不明である。遺物は須恵器無台杯、土師器長甕 (156)・小甕が出土している。

SK336 (図版 16・40、写真図版 27)

17AQ2・3・7・8 グリッドに位置する。西側は攪乱に切られる。断面形は皿形を呈する。規模は長軸 1.55m、深さ 0.21m である。埋土は 2 層である。遺物は須恵器無台杯 (157)、土師器長甕・小甕・鍋が出土した。

SK341 (図版 16・43・63、写真図版 28)

17AQ8・9・13・14 グリッドに位置する。主軸方位は、N-90° である。SE388、SX283 に切られる。平面形は楕円形で、断面形は皿形を呈する。規模は現存長軸 1.89m、現存短軸 1.25m、深さ 0.12～0.28m である。埋土は単層である。遺物は須恵器無台杯 (158)・杯蓋、土師器無台杯 (159)・有台杯 (160)・鉢 (161)、須恵器壺蓋 (162)・甕 (163)、土師器長甕 (164)・小甕 (165～169)・鍋、鉄滓が出土している。

SK346 (図版 16・42、写真図版 28)

17AQ12・13 グリッドに位置する。平面形は円形で、断面形は皿形を呈する。規模は長軸 0.94m、短軸 0.77m、深さ 0.23m である。埋土は単層である。遺物は須恵器無台杯 (170)・杯蓋 (171)・杯類、土師器無台杯・長甕・小甕 (172)・鍋、円筒形土製品 (634) が出土している。

SK350 (図版 16・43、写真図版 28)

17AQ13 グリッドに位置する。SB828-P435 を切る。平面形は円形で、断面形は台形を呈する。規模は長軸 0.65m、短軸 0.56m、深さ 0.24m である。埋土は単層である。遺物は須恵器無台杯・杯類・杯蓋、土師器長甕 (173)・小甕 (174)・鍋が出土している。

SK352 (図版 16・42、写真図版 28・29)

17AP23・24、18AP3 グリッドに位置する。主軸方位は、N-82° -W である。断面形は箱形を呈する。規模は深さ 0.27m である。埋土は 3 層である。遺物は須恵器杯類・杯蓋、土師器長甕 (175)・小甕 (176)・鍋が出土している。

SK353 (図版 15・43)

17AP22・23 グリッドに位置する。SK215 に切られる。平面形は楕円形で、断面形は台形を呈する。規模は短軸 0.94m、深さ 0.26m である。埋土は単層である。遺物は須恵器杯類・杯蓋 (177)、土師器鉢・長甕・小甕・鍋が出土している。

SK356 (図版 16・43、写真図版 29)

16AQ24・25、17AQ4・5 グリッドに位置する。主軸方位は N-84° -W である。平面形は楕円形で、断面形は皿形を呈する。規模は長軸 1.74m、短軸 1.46m、深さ 0.26m である。埋土は単層である。遺物は須恵器無台杯・杯蓋 (178)、土師器無台杯・長甕・小甕 (179)・鉢 (180)・鍋が出土している。

SK363 (図版 17・43、写真図版 29)

20AE15・20、20AF11・16 グリッドに位置する。東側は調査区外に延びる。断面形は皿形を呈する。規模は深さ 0.11m である。埋土は 5 層である。遺物は土師器長甕 (181)・小甕、粘土塊が出土している。

SK400 (図版 16・27・43)

17AQ12・13 グリッドに位置する。SX283 を切る。平面形は楕円形で、断面形は皿形を呈する。規模は現存短軸 0.78m、深さ 0.12m である。埋土は単層である。遺物は須恵器無台杯 (182)、土師器長甕・小甕が出土している。

SK413 (図版 11・13・44、写真図版 5・29・30)

16AM12 グリッドに位置する。断面形は皿形を呈する。規模は深さ 0.07m である。埋土は単層である。土色が地山と見分けがつきにくかったため、わずかな炭化物や遺物出土範囲で遺構プランの認定を行った。遺物は須恵器無台杯 (183)、鳥形製品 (626) が出土している。

SK418 (図版 11・14・44、写真図版 5・30)

17AL19・20・24・25 グリッドに位置する。主軸方位は N-79° -W である。平面形は円形で、断面形は皿形を呈する。規模は長軸 2.30m、短軸 2.12m、深さ 0.06m である。埋土は単層である。土色が地山と見分けがつきにくかったため、褐色粒子や遺物出土範囲で遺構プランの認定を行った。南東側で検出された SK419 から鳥形製品を含む遺物が、南西側の SK488 では須恵器の大型甕がつぶれた状態で出土している。このように似たような非日常的な状況を示しているため、両者とは関係があると考えられる。遺物は鳥形製品 (625a) が出土している。

SK419 (図版 14・45、写真図版 5・6・30～32)

17AM21・22、18AM1・2・6・7 グリッドに位置する。SX486 に切られる。主軸方位は N-10° -W である。平面形は不定形で、断面形は皿形を呈する。規模は長軸 3.28m、深さ 0.15m である。埋土は 2 層で、褐色粘土質シルトやにぶい黄褐色粘土質シルトが主体であり、地山と区別がつきにくい。そのため、わずかな炭化物や遺物出土範囲で、遺構プランの認定を行った。前述のとおり北西側の SK418・488 とは状況が似ているため、何かしら関係があると考えられる。

遺物は須恵器無台杯 (184～187)・有台杯 (188)・杯蓋 (189～192)・高杯 (193・194)・環状瓶 (195)・長頸瓶 (196)・壺 (197)・鉢 (198)・壺・瓶類、土師器鍋形鉢 (199)・小甕 (200～204)、鳥形製品 (625b・627～630)、鉄製錫杖頭 (696)・鉄鐸 (697・698)・刃物と考えた鉄製品 (709) がほぼ完形の状態でまとまって出土している。

SK444 (図版 16・23・46)

17AQ10・15、17AR6・11 グリッドに位置する。主軸方位は N-74° -W である。SI65、P449 を切り、SK443 に切られる。平面形は方形で、断面形は皿形を呈する。規模は現存長軸 2.04m、深さ 0.22m である。埋土は単層である。遺物は須恵器無台杯 (205)・有台杯 (206)・杯類・杯蓋、土師器杯・鉢、須恵器壺・瓶類・壺蓋・甕、土師器長甕・小甕 (207)・鍋、鉄製品釘 (711・712)、鉄滓が出土している。

SK455 (図版 12・16・27・46、写真図版 12・14・32)

17AP14・15・19・20 グリッドに位置する。SI451 を切る。平面形は円形で、断面形は皿形を呈する。規模は長軸 2.20m、短軸 2.08m、深さ 0.11～0.26m である。埋土は単層である。遺物は須恵器無台杯 (208～210)・有台杯 (211)・杯類・杯蓋 (212～214)・甕、黒色土器短頸壺、土師器無台杯・長甕 (215～217)・小甕 (218)・鍋、台石 (680) が出土している。

SK462 (図版 12・16・44)

17AP18 グリッドに位置する。主軸方位は N-50° -W である。SD397 に切られる。断面形は台形を呈する。規模は長軸 1.05m、深さ 0.19m である。埋土は単層である。遺物は須恵器無台杯・有台杯 (222)・杯蓋・甕、土師器長甕・小甕・鍋、鉄滓が出土している。

SK466 (図版 15・47)

17AO17～19・22～24、18AO2～4・8 グリッドに位置する。平面形は円形で、断面形は皿形を呈する。規模は現存長軸 4.86m、短軸 4.44m、深さ 0.40m である。埋土は単層である。遺物は須恵器無台杯 (223)・杯類・杯蓋 (224)・壺蓋、土師器長甕・小甕・鍋、鉄製品、鉄滓が出土している。

SK470 (図版 12・15・44)

17AO12・13・17・18 グリッドに位置する。平面形は円形で、断面形は皿形を呈する。規模は現存長軸

1.58m、短軸 1.40m、深さ 0.29m である。埋土は単層である。遺物は須恵器無台杯 (225)・有台杯 (226)、土師器長甕・小甕・鍋が出土している。

SK472 (図版 12・15・46、写真図版 32)

16AP16・17・21・22 グリッドに位置する。平面形は円形で、断面形は台形を呈する。規模は長軸 1.54m、現存短軸 1.38m、深さ 0.29m である。埋土は単層である。遺物は須恵器無台杯 (227)・有台杯 (228・229)・杯蓋、土師器無台杯 (230)、黒色土器碗 (231)、須恵器甕 (232・233)、土師器長甕 (234)・小甕 (235)・鍋、鉄製品、鉄滓が出土している。

SK488 (図版 14・48、写真図版 5・32・33)

17AL22～24、18AL2～4 グリッドに位置する。平面形は円形で、断面形は皿形を呈する。規模は長軸 3.29m、短軸 2.75m、深さ 0.28m である。埋土は 3 層である。前述したが、北東側の SK418、南東側の SK419 とは状況が似ていることから、何か関係があると考え。遺物は須恵器無台杯 (236)・有台杯・杯蓋・長胴瓶 (237)・横瓶 (238)・甕 (239)、鉄鐸の舌 (702) が出土している。

SK499 (図版 11・14・46、写真図版 33)

17AM11 グリッドに位置する。主軸方位は N-14° -E である。平面形は楕円形で、断面形は皿形を呈する。規模は長軸 1.27m、短軸 0.86m、深さ 0.09m である。埋土は単層である。遺物は須恵器壺・瓶類、土師器長甕 (240)、鳥形製品 (625b) の一部が出土している。

SK530 (図版 17・47)

22AG25、22AH21、23AG5、23AH1 グリッドに位置する。主軸方位は N-10° -E である。SK529 を切る。平面形は不定形で、断面形は皿形を呈する。規模は長軸 1.35m、短軸 1.09m、深さ 0.31m である。埋土は 2 層である。遺物は須恵器無台杯 (241)・杯蓋、土師器鉢・長甕・小甕が出土している。

SK532 (図版 17・49、写真図版 34)

22AH11・12・16～18・21～23 グリッドに位置する。主軸方位は N-74° -W である。SK546・584、SD537・538 を切り、SX476 に切られる。平面形は楕円形で、断面形は皿形を呈する。規模は長軸 4.04m、短軸 2.67m、深さ 0.22m である。埋土は単層である。遺物は須恵器無台杯 (242・243)・杯蓋・甕、土師器鉢・長甕・小甕、鉄滓が出土している。

SK533 (図版 11・14・49、写真図版 34)

17AM16～18・22 グリッドに位置する。主軸方位は N-85° -W である。SD380 に切られる。平面形は楕円形で、断面形は皿形を呈する。規模は長軸 2.63m、短軸 1.09m、深さ 0.18m である。埋土は単層である。遺物は土師器長甕 (244) が出土している。

SK543 (図版 11・14・48、写真図版 34・35)

17AM12・13 グリッドに位置する。主軸方位は N-51° -W である。平面形は不定形で、断面形は台形を呈する。規模は長軸 1.68m、深さ 0.22m である。埋土は単層である。遺物は土師器壺蓋 (245)・短頸壺 (246)・長甕・小甕 (247)・鍋 (248)、焼礫・編み物石 (691) が出土している。特に小甕 (247) は逆位の状態で検出された。

SK546 (図版 17・50、写真図版 34・35)

22AH6～8・11～13・16・17 グリッドに位置する。主軸方位は N-48° -E である。SK502・532、P551 に切られる。平面形は楕円形で、断面形は皿形を呈する。規模は長軸 4.05m、短軸 3.10m、深さ 0.26m である。埋土は単層である。遺物は須恵器無台杯 (249)・有台杯 (250)・杯蓋 (251・252)、土師器長甕 (253～255)・小甕 (256)・鍋、鉄滓が出土している。

SK547 (図版 17・18・47)

22AH13 グリッドに位置する。主軸方位は N-64° -W である。平面形は楕円形で、断面形は皿形を呈する。規模は長軸 1.08m、短軸 0.77m、深さ 0.10m である。埋土は単層である。遺物は須恵器有台杯 (257)、土師

器長甕・小甕が出土している。

SK553 (図版 17・18・51、写真図版 35)

21AH23・24、22AH2～4・7・8 グリッドに位置する。主軸方位は N-66° -E である。P639 を切る。平面形は楕円形で、断面形は皿形を呈する。規模は長軸 4.23m、短軸 2.30m、深さ 0.15m である。埋土は単層である。遺物は須恵器無台杯 (258～260)・杯類・杯蓋、土師器無台杯・長甕 (261)・小甕・鍋、鉄製品が出土している。

SK562 (図版 17・49)

21AH22・23 グリッドに位置する。主軸方位は N-83° -E である。平面形は楕円形で、断面形は皿形を呈する。規模は長軸 2.46m、短軸 1.42m、深さ 0.10m である。埋土は単層である。遺物は須恵器無台杯、土師器長甕・小甕・鍋が出土している。

SK576 (図版 11・14・49)

17AM2 グリッドに位置する。平面形は円形で、断面形は皿形を呈する。規模は径 0.56m、深さ 0.09m である。埋土は単層である。遺物は須恵器無台杯 (262) が出土している。

SK581 (図版 18・51)

22AH25 グリッドに位置する。平面形は円形で、断面形は皿形を呈する。規模は長軸 0.88m、短軸 0.84m、深さ 0.25m である。埋土は 2 層である。遺物は須恵器無台杯・甕、土師器無台碗 (263)・長甕・小甕が出土している。

SK584 (図版 18・51、写真図版 35・36)

22AH18・19・23・24 グリッドに位置する。主軸方位は N-83° -W である。SK532 に切られる。平面形は楕円形で、断面形は皿形を呈する。規模は現存長軸 2.91m、現存短軸 2.44m、深さ 0.30m である。埋土は単層で、炭化物を多量に含む。竪穴建物の可能性も考えられたが、付属施設が検出できなかったため、土坑とした。遺物は古墳時代の土師器甕 (1・2)、須恵器無台杯 (264)・有台杯・甕、土師器無台碗 (265)・鉢 (266)・長甕・小甕が出土している。

SK585 (図版 18・52)

22AH13・14・19 グリッドに位置する。主軸方位は N-44° -E である。平面形は楕円形で、断面形は皿形を呈する。規模は長軸 2.01m、短軸 1.42m、深さ 0.07m である。埋土は単層である。遺物は須恵器無台杯・杯類・杯蓋、土師器長甕・小甕 (267) が出土している。

SK589 (図版 12・15・50、写真図版 36)

16AP16・17・22 グリッドに位置する。平面形は円形で、断面形は皿形を呈する。規模は長軸 1.28m、深さ 0.17m である。埋土は単層である。遺物は須恵器無台杯 (268・269)・有台杯 (270)・杯蓋 (271)、土師器長甕 (272)・小甕 (273)、鉄滓が出土している。

SK602 (図版 16・51)

17AP20・25、17AQ16・21 グリッドに位置する。主軸方位は N-50° -W である。平面形は不定形で、断面形は皿形を呈する。規模は長軸 0.92m、短軸 0.71m、深さ 0.04m である。埋土は単層である。遺物は須恵器無台杯 (274)・有台杯、土師器小甕が出土している。

SK616 (図版 15・52・58、写真図版 36)

18AN2・3・7 グリッドに位置する。主軸方位は N-42° -E である。SK779 を切る。断面形は皿形を呈する。規模は長軸 3.34m、深さ 0.18m である。埋土は単層である。遺物は須恵器無台杯・甕、土師器長甕・小甕 (275)・鍋が出土している。

SK617 (図版 15・52)

17AN19・23・24 グリッドに位置する。主軸方位は N-38° -E である。断面形は皿形を呈する。規模は長軸 2.25m、深さ 0.14m である。埋土は単層である。遺物は土師器長甕 (276)・小甕が出土している。

SK620 (図版 12・15・53)

16AO19・20・24・25 グリッドに位置する。断面形は皿形を呈する。規模は深さ 0.10m である。埋土は単層である。遺物は須恵器無台杯、土師器長甕・鍋が出土している。

SK624 (図版 18・52、写真図版 36)

22AH9 グリッドに位置する。SK630 を切る。平面形は円形で、断面形は皿形を呈する。規模は長軸 0.60m、短軸 0.50m、深さ 0.16m である。埋土は 2 層である。遺物は須恵器杯類、土師器長甕(277)・小甕が出土している。

SK631 (図版 18・53、写真図版 37)

22AH24・25、23AH4・5 グリッドに位置する。主軸方位は N-26° -W である。平面形は楕円形で、断面形は皿形を呈する。規模は現存長軸 2.68m、短軸 2.06m、深さ 0.10m である。埋土は単層である。遺物は須恵器無台杯 (278)・有台杯・杯蓋 (279)・壺・瓶類・甕、土師器有台杯 (280)・長甕・小甕・鍋が出土している。

SK647 (図版 17・18・54、写真図版 37)

21AH13・18 グリッドに位置する。主軸方位は N-45° -E である。SK643 に切られる。平面形は楕円形で、断面形は台形を呈する。規模は長軸 2.16m、短軸 1.52m、深さ 0.28m である。埋土は 2 層である。遺物は須恵器無台杯、土師器無台椀 (281)・長甕・小甕・鍋 (282) が出土している。

SK654 (図版 18・54、写真図版 37)

22AH9 グリッドに位置する。主軸方位は N-44° -E である。SD652 を切り、SK663 に切られる。平面形は楕円形で、断面形は半円形を呈する。規模は現存長軸 1.07m、短軸 0.76m、深さ 0.34m である。埋土は単層である。遺物は須恵器無台杯、土師器長甕 (283)・小甕 (284) が出土している。特に長甕 (283) が正位の状態で検出され、完形ではないが一個体に復元できた。遺構の時期は出土遺物の年代観から 8 世紀中葉頃と考えられる。

SK658 (図版 18・55、写真図版 38)

21AI16・17 グリッドに位置する。主軸方位は N-76° -E である。SK648 に切られる。平面形は長方形で、断面形は台形を呈する。規模は長軸 2.13m、現存短軸 1.40m、深さ 0.40m である。埋土は 3 層である。遺物は須恵器無台杯、土師器長甕 (285)・小甕・甕が出土している。

SK668 (図版 18・55、写真図版 38)

22AI11～13・16～18 グリッドに位置する。平面形は楕円形で、断面形は皿形を呈する。規模は現存長軸 3.40m、短軸 2.48m、深さ 0.20m である。埋土は単層である。遺物は須恵器無台杯 (286)・甕、土師器長甕・小甕が出土している。

SK674 (図版 18・54、写真図版 38)

21AJ13・14 グリッドに位置する。主軸方位は N-51° -W である。平面形は楕円形で、断面形は皿形となる。規模は長軸 2.13m、短軸 1.48m、深さ 0.19m である。埋土は単層である。遺物は須恵器杯蓋 (287)、土師器無台椀 (288) が出土している。

SK680 (図版 18・53、写真図版 38)

23AI9・10・14・15 グリッドに位置する。主軸方位は N-54° -W である。平面形は楕円形で、断面形は皿形を呈する。規模は長軸 0.91m、短軸 0.71m、深さ 0.10m である。埋土は単層である。遺物は須恵器有台杯(289)・折縁杯 (290)・杯蓋、土師器小甕・鍋が出土している。

SK689 (図版 18・55、写真図版 39)

22AJ15 グリッドに位置する。平面形は不明で、断面形は皿形を呈し、規模は長軸 0.6m 以上、短軸 0.96m、深さ 0.09m である。埋土は単層である。遺物は須恵器有台杯 (291) が出土している。

SK690 (図版 18・56、写真図版 39)

21AI21、22AI1・2 グリッドに位置する。主軸方位は N-63° -W である。平面形は楕円形で、断面形は皿形を呈する。規模は長軸 1.92m、短軸 1.10m、深さ 0.16m である。埋土は単層である。遺物は須恵器無台杯・

有台杯 (292)・横瓶 (293)・甕、土師器長甕・小甕が出土している。

SK691 (図版 18・56、写真図版 39)

21AI22、22AI2 グリッドに位置する。SK648 に切られる。平面形は円形で、断面形は皿形を呈する。規模は長軸 0.90m、短軸 0.84m、深さ 0.10m である。埋土は単層である。遺物は須恵器有台杯 (294)、土師器長甕が出土している。

SK698 (図版 18・56、写真図版 39)

21AK11・16 グリッドに位置する。平面形は円形で、断面形は皿形を呈する。規模は長軸 1.18m、短軸 1.06m、深さ 0.10m である。埋土は単層である。遺物は須恵器有台杯 (295)、土師器長甕が出土している。

SK699 (図版 18・56、写真図版 39)

21AK11 グリッドに位置する。主軸方位は N-36° -W である。平面形は楕円形で、断面形は皿形を呈する。規模は長軸 0.77m、短軸 0.45m、深さ 0.03m である。埋土は単層である。遺物は須恵器無台杯・折縁杯 (296) が出土している。

SK700 (図版 18・56、写真図版 40)

21AH24・25 グリッドに位置する。平面形は円形で、断面形は皿形を呈する。規模は現存長軸 1.11m、短軸 1.04m、深さ 0.27m である。埋土は単層である。遺物は須恵器無台杯 (297)・甕、土師器長甕・鍋が出土している。

SK706 (図版 18・56、写真図版 40)

22AJ17・18 グリッドに位置する。平面形は円形で、断面形は皿形を呈する。規模は長軸 0.55m、短軸 0.51m、深さ 0.09m である。埋土は単層である。遺物は須恵器甕、土師器鍋 (298) が出土している。

SK708 (図版 13・56)

19AJ24 グリッドに位置する。主軸方位は N-55° -E である。平面形は楕円形で、断面形は皿形を呈する。規模は長軸 1.32m、短軸 0.83m、深さ 0.07m である。埋土は単層である。遺物は須恵器有台杯 (299) が出土している。

SK721 (図版 14・57、写真図版 40)

19AL7・12 グリッドに位置する。平面形は円形で、断面形は皿形を呈する。規模は長軸 0.90m、短軸 0.80m、深さ 0.13m である。埋土は単層である。遺物は須恵器杯蓋 (300)、土師器長甕・小甕が出土している。

SK722 (図版 14・57、写真図版 40)

19AL3・8 グリッドに位置する。主軸方位は N-0° である。平面形は長方形で、断面形は皿形を呈する。規模は長軸 0.76m、短軸 0.64m、深さ 0.14m である。埋土は単層である。遺物は土師器台付鉢 (301) が出土している。

SK723 (図版 14・57)

19AL10・15 グリッドに位置する。主軸方位は N-14° -W である。平面形は楕円形で、断面形は皿形を呈する。規模は長軸 0.88m、短軸 0.55m、深さ 0.13m である。埋土は単層である。遺物は須恵器壺・瓶類 (302) が出土している。

SK741 (図版 14・57)

18AL18・19 グリッドに位置する。平面形は円形で、断面形は皿形を呈する。規模は長軸 0.51m、短軸 0.50m、深さ 0.11m である。埋土は単層である。遺物は土師器無台碗 (303) が出土している。

SK746 (図版 11・14・57)

17AL3 グリッドに位置する。平面形は円形で、断面形は皿形を呈する。規模は長軸 0.74m、短軸 0.66m、深さ 0.07m である。埋土は単層である。遺物は須恵器有台杯 (304)・横瓶が出土している。

SK781 (図版 14・58、写真図版 41)

18AM3・4 グリッドに位置する。主軸方位は N-4° -E である。平面形は楕円形で、断面形は皿形を呈する。

規模は長軸 0.74m、短軸 0.53m、深さ 0.19m である。埋土は単層である。遺物は須恵器無台杯・杯蓋 (305) が出土している。遺構の時期は出土遺物の年代観から 8 世紀末～9 世紀初頭頃と考えられる。

SK785 (図版 14・15・58、写真図版 41)

18AN6 グリッドに位置する。平面形は円形で、断面形は皿形を呈する。規模は長軸 0.60m、短軸 0.52m、深さ 0.15m である。埋土は単層である。遺物は須恵器長頸瓶 (306) が出土している。遺構の時期は出土遺物の年代観から 8 世紀中葉～後葉頃と考えられる。

SK786 (図版 14・58)

18AM9 グリッドに位置する。主軸方位は N-17° -W である。平面形は楕円形で、断面形は皿形を呈する。規模は長軸 0.57m、短軸 0.40m、深さ 0.10m である。埋土は単層である。遺物は須恵器杯蓋が出土している。

SK796 (図版 12・59)

15AP16・17・21 グリッドに位置する。主軸方位は N-40° -E である。SX415 に切られる。平面形は不明であるが、断面形は皿形を呈する。規模は現存長軸 1.00m、深さ 0.21m である。埋土は 2 層である。遺物は焼成粘土塊が出土した。

SK802 (図版 11・14・59、写真図版 41・42)

17AL10・15、17AM6・11 グリッドに位置する。主軸方位は N-41° -W である。平面形は楕円形で、断面形は皿形を呈する。規模は長軸 0.63m、短軸 0.45m、深さ 0.14m である。埋土は単層である。遺物は須恵器杯蓋 (307・308)、黒色土器杯蓋 (309) が出土している。特に杯蓋 (307・308) は逆位で重なった状態で検出された。遺構の時期は出土遺物の年代観から 8 世紀末～9 世紀初頭頃と考えられる。

5) 焼 土

焼土は 25 基検出された。7 基は竪穴建物のカマド、3 基は竪穴状遺構とした SX に伴うものと考えた。ここでは、検出時に竪穴建物のカマドと想定したが、明確な竪穴部を伴っていなかった残りの焼土を単体の遺構として記述する。簡易的な炉であることも想定できるが、壁面や底面の酸化が弱いものも多い。

焼土 374 (図版 16・60、写真図版 42)

16AQ21 グリッドに位置する。主軸方位は N-75° -E である。平面形は楕円形で、断面形は皿形を呈する。規模は長軸 0.46m、短軸 0.36m、深さ 0.06m である。埋土は 2 層で、1・2 層ともに炭化物を多量に含む。壁面や底面の酸化は弱い。遺物は須恵器無台杯 (310)、土師器長甕・小甕 (311) が出土している。

焼土 379 (図版 12・16・60)

17AP4 グリッドに位置する。主軸方位は N-55° -W である。平面形は不定形で、断面形は皿形を呈する。規模は長軸 0.30m、短軸 0.17m、深さ 0.07m である。埋土は 2 層で、1 層に焼土塊や炭化物を多量に含む。壁面や底面の酸化痕跡は弱い。遺物は出土していない。

焼土 387 (図版 16・60)

17AQ7 グリッドに位置する。平面形は円形で、断面形は皿形を呈する。規模は長軸 0.26m、短軸 0.25m、深さ 0.08m である。埋土は 2 層で、1・2 層ともに炭化物を多量に含む。壁面や底面の酸化痕跡は弱い。遺物は土師器小甕・鍋が出土している。

焼土 441 (図版 16・60)

17AQ9 グリッドに位置する。平面形は円形で、断面形は皿形を呈する。規模は長軸 0.28m、短軸 0.28m、深さ 0.06m である。埋土は単層で、焼土塊を含む。底面や壁面の酸化は見られない。遺物は出土していない。

焼土 446 (図版 16・60)

17AQ10 グリッドに位置する。主軸方位は N-1° -E である。SK443 に切られ平面形は不明であるが、断面形は皿形を呈する。規模は長軸 0.30m、深さ 0.06m である。埋土は単層で、焼土塊を多く含む。底面や壁面の酸化は弱い。遺物は出土していない。

焼土 447 (図版 16・60)

17AQ5・10 グリッドに位置する。平面形は円形で、断面形は皿形を呈する。規模は長軸 0.24m、短軸 0.20m、深さ 0.05m である。埋土は単層で、焼土塊を多く含む。底面や壁面の酸化は弱い。遺物は出土していない。

焼土 454 (図版 16・60、写真図版 42)

17AP23・24 グリッドに位置する。平面形は楕円形で、断面形は皿形を呈する。規模は長軸 0.51m、短軸 0.32m、深さ 0.10m である。埋土は単層で、焼土塊を多く含む。底面や壁面の酸化は弱い。遺物は土師器長甕 (312) が出土している。

焼土 588 (図版 16・60、写真図版 42)

16AQ21、17AQ1 グリッドに位置する。平面形は楕円形で、断面形は皿形を呈する。規模は現存長軸 0.36m、短軸 0.28m、深さ 0.05m である。埋土は 3 層で、焼土塊を多く含む。底面と壁面が被熱し、酸化している。遺物は出土していない。

焼土 594 (図版 16・60)

16AP25 グリッドに位置する。平面形は円形で、断面形は皿形を呈する。規模は現存長軸 0.24m、短軸 0.22m、深さ 0.03m である。埋土は単層で、焼土塊を含む。底面が被熱し酸化している。遺物は出土していない。

焼土 810 (図版 16・60、写真図版 42)

17AQ8 グリッドに位置する。主軸方位は N-45° -W である。平面形は不定形で、断面形は皿形を呈する。規模は長軸 0.54m、短軸 0.52m、深さ 0.10m である。埋土は 4 層で、焼土塊を多く含む。底面や壁面が被熱し、酸化している。遺物は出土していない。

焼土 814 (図版 16・60)

17AQ7・8 グリッドに位置する。平面形は円形で、断面形は皿形を呈する。規模は長軸 0.40m、短軸 0.35m、深さ 0.08m である。埋土は 3 層で、2 層に焼土塊を含む。壁面が被熱し酸化している。遺物は出土していない。

焼土 818 (図版 16・60)

17AQ10 グリッドに位置する。平面形は円形で、断面形は皿形を呈する。規模は長軸 0.34m、短軸 0.30m、深さ 0.04m である。埋土は 2 層で、1 層に焼土塊を含む。底面や壁面の酸化は弱い。遺物は出土していない。

6) 性格不明遺構**SX3** (図版 21、写真図版 43)

23AJ22、24AI10、24AJ1 ~ 3・6 ~ 8・11 ~ 13 グリッドに位置する。SD55 に切られる。北西側の立ち上がりは明瞭ではなかったが、平面形は楕円形で、断面形は台形を呈する。規模は現存短軸 4.94m、深さ 0.42m である。埋土は 2 層である。竪穴状の落ち込みが検出されたが、カマドや床面が確認できないことから、竪穴状遺構と考えた。遺物は須恵器無台杯・有台杯・杯蓋 (313 ~ 315)、土師器無台碗・無台杯 (316)、須恵器横瓶・甕、土師器長甕・小甕・鍋 (317)、火打ち石、鉄製品が出土している。

SX31 (図版 20、写真図版 43)

22AM10・15・20、22AN6・11・16 グリッドに位置する。主軸方位は N-38° -W である。平面形は楕円形で、断面形は皿形を呈する。規模は長軸 4.48m、短軸 2.24m、深さ 0.21m である。埋土は 3 層である。遺物は 2・3 層を中心に須恵器無台杯・甕、黒色土器杯類・碗 (318)、土師器無台杯・長甕 (319)・小甕 (320) が出土している。

SX37 (図版 20・60)

21AO2・3・7・8 グリッドに位置する。平面形は円形で、断面形は皿形を呈する。規模は長軸 1.85m、短軸 1.65m、深さ 0.25m である。埋土は単層である。遺物は須恵器無台杯 (321)・有台杯 (322)、黒色土器杯類・碗、土師器無台杯・長甕・小甕・鍋が出土している。

SX38 (図版 20・61)

21AN16・17・21～23 グリッドに位置する。主軸方位は N-69° -W である。平面形は楕円形で、断面形は皿形を呈する。規模は長軸 3.45m、現存短軸 1.72m、深さ 0.19m である。埋土は 2 層である。1 層に粘性の強い白色の粘土が確認出来るが、性格は不明である。遺物は須恵器無台杯 (323)、黒色土器杯、土師器小甕が出土している。

SX62 (図版 22)

24AK、24AL、24AM グリッドに位置する。平面形は不定形で、断面形は皿形を呈する。規模は西側が攪乱に切られるが長軸は 15m 以上と考えられ、短軸 2.98m、深さ 0.12m である。埋土は単層である。遺物は須恵器無台杯 (324)・有台杯・杯蓋 (325・326)、黒色土器無台杯、須恵器甕 (327)、土師器長甕・小甕・鍋、砥石 (653) が出土している。

SX63 (図版 16・61、写真図版 43・44)

17AP、17AQ、18AQ グリッドに位置する。SE278 に切られる。主軸方位は N-90° である。平面形は方形で、断面形は台形を呈する。規模は長軸 4.02m、短軸 3.70m、深さ 0.23m である。埋土は単層である。竪穴状の落ち込みが検出されたが、カマドや床面、柱穴が確認できないことから、竪穴状遺構と考える。遺物は須恵器無台杯 (328～337)・有台杯 (338～340)・杯蓋 (341～346)・高杯 (347)・壺・瓶類、黒色土器無台杯、須恵器壺蓋・甕 (348)、土師器無台碗・無台杯・鉢・有台杯・長甕・小甕 (349～351)・鍋、砥石 (660・661)、鉄鐸 (700)・鉄製品 (724)、粘土塊が出土している。

SX64 (図版 16・62、写真図版 44)

17AQ3・7～9・12・13 グリッドに位置する。遺構の北西部分は攪乱に切られる。SI65、SB828-P435・422 を切り、SX283 に切られる。主軸方位は N-42° -E である。平面形は長方形で、断面形は台形を呈する。規模は長軸 3.33m、深さ 0.22m である。埋土は 4 層である。検出時は竪穴状の落ち込みが確認できたが、床面や柱穴は検出できなかったため、竪穴状遺構と考えた。出土遺物に鉄製品や鉄滓などがあり、鍛冶関連遺構の可能性もある。また、東辺やや北寄りの IV 層で焼土 816 が検出された。焼土 816 の埋土は 5 層で、1・4 層に焼土を多く含む。鍛冶炉の可能性も想定されるが、底面や壁面の酸化は弱い。3 層からは石列 381 や焼土 811 が検出されている。石列 381 には楕円形や不整形の搬入礫が使用されているが、掘り込みなどは確認できなかった。焼土 811 は単層で、底面の酸化は弱い。遺物は SX64 から須恵器無台杯 (352・353)・有台杯 (354・355)・杯蓋・壺・瓶類、土師器無台碗 (356)・鉢 (357)・長甕 (358～361)・小甕 (362～364)・鍋 (365～368)、黒色土器碗類・短頸壺、鉄製品、碗形鍛冶滓 (643)、焼土 811 から土師器長甕、焼成粘土塊、焼土 816 から須恵器杯類が出土している。

SX66 (図版 15・60、写真図版 45)

19AO4・5・9・10 グリッドに位置する。主軸方位は N-18° -E である。平面形は不定形で、断面形は皿形を呈する。規模は長軸 3.22m、現存短軸 2.25m、深さ 0.42 m である。埋土は 2 層である。遺物は須恵器無台杯 (369)・有台杯 (370～372)・杯蓋、黒色土器無台杯、土師器無台杯 (373)、須恵器甕、土師器長甕・小甕・鍋が出土している。

SX70 (図版 16、写真図版 45)

19AP グリッドに位置する。主軸方位は N-74° -E である。平面形は方形で、断面形は台形を呈する。規模は長軸 5.88m、短軸 5.12m、深さ 0.24m である。埋土は 3 層である。遺物は須恵器無台杯 (374・375)・有台杯 (376・377)、横瓶 (378)・長頸瓶 (379)・壺蓋 (380)・甕、土師器無台碗・鉢・長甕・小甕・鍋、刀子 (706)、鉄滓、編み物石 (688) が出土している。

SX124 (図版 16、写真図版 45)

18AP、18AQ、19AP、19AQ グリッドに位置する。平面形は不定形で、断面形は台形を呈する。規模は長

軸 10m 以上、短軸 3.30m、深さ 0.18m である。埋土は単層である。遺物は須恵器無台杯 (381～385)・有台杯 (386・387)・杯蓋 (388)、土師器鉢 (389)、黒色土器壺蓋 (390)、須恵器壺・瓶類・甕 (391)、土師器無台碗・無台杯・長甕・小甕・鍋、砥石 (655)、鉄製品、椀形鍛冶滓 (644)、炉壁が出土している。

SX125 (図版 16・62、写真図版 45)

16AP、16AQ、17AP、17AQ グリッドに位置する。検出時は広範囲の遺物分布と石列が認められた。しかし遺構のプランがつかめず、石列に掘り込みも認められなかったため、この石列 831 を含めた遺物集中範囲を SX125 とした。遺物は須恵器無台杯 (392～395)・有台杯 (396～399)・杯蓋 (400～402)・壺蓋、黒色土器杯蓋 (405)、土師器無台杯 (403)・有台杯 (404)・鉢 (406)・長甕 (407)・小甕 (408～412)・甕 (3)・鍋 (413)、須恵器甕 (414)、砥石 (652)、磨石、鉄製品、椀形鍛冶滓 (641) が出土している。

SX240 (図版 19・61、写真図版 45)

23AM11 グリッドに位置する。主軸方位は N-71° -E である。平面形は不定形で、断面形は皿形を呈する。規模は長軸 1.30m、短軸 0.88m、深さ 0.05m である。埋土は 2 層である。カマドの可能性があるが、竪穴建物は検出できなかった。3 トレンチに位置し、第 1 次調査で削平された可能性がある。遺物は須恵器無台杯 (415) が出土している。

SX283 (図版 16・63、写真図版 46・47)

17AQ7～9・11～14・17～19 グリッドに位置する。多くの遺構と重複しているため、新旧関係は別表 1 に記載した。主軸方位は N-58° -W である。平面形は方形で、断面形は台形を呈する。規模は現存長軸 4.68m、現存短軸 4.00m、深さ 0.29m である。埋土は 2 層である。検出時は竪穴状の落ち込みが確認できたが、床面や柱穴は検出できなかったため、竪穴状遺構と考える。出土遺物に鉄製品や鉄滓などがあるため、鍛冶関連遺構の可能性もある。また東辺中央に焼土 819 が検出された。焼土 819 の埋土は 2 層で、1 層に焼土塊を含む。鍛冶炉の可能性も想定されるが、底面や壁面の酸化は弱い。遺物は SX283 から須恵器無台杯 (416～419)・有台杯 (420・421)・杯類・杯蓋 (422)・稜椀 (423)、土師器無台杯 (424～426)・鉢 (427)、須恵器横瓶・壺蓋・長頸瓶 (428)・甕、黒色土器杯、土師器長甕・小甕 (429・430)・鍋、鉄製品、鉄滓が、焼土 819 から須恵器甕、土師器長甕・小甕、砥石・編み物石 (690) が出土している。

SX365 (図版 17)

23AG14 グリッドに位置する。平面形は楕円形で、断面形は皿形を呈する。規模は長軸 0.9m 以上、短軸 0.68m、深さ 0.32m である。埋土は単層である。遺物は黒色土器高杯 (431) が出土している。

SX382 (図版 16・63)

17AQ9 グリッドに位置する。平面形は円形で、断面形は皿形を呈する。規模は長軸 0.46m、深さ 0.06m である。埋土は単層である。遺物は出土していない。

SX406 (図版 16、写真図版 47)

16AP25、16AQ21・22、17AP4・5、17AQ1・2・6 グリッドに位置する。断面形は皿形となる。規模は深さ 0.11m である。埋土は単層である。検出時は竪穴建物と想定したが、平面プランがはっきりせず、床面や柱穴を伴わないことから、竪穴状遺構の可能性もある。遺物は須恵器無台杯・杯類・杯蓋、土師器長甕・小甕 (432)・鍋が出土している。

SX407 (図版 16・64、写真図版 47)

16AQ6・7・11～13・16～18 グリッドに位置する。SK422 を切る。主軸方位は N-55° -W である。平面形は楕円形で、断面形は台形となる。規模は長軸 5.16m、深さ 0.39m である。埋土は 2 層である。遺構の北側は調査区外のため全容は明らかでない。2 層直上に搬入礫を用いた集石がみられ、炉の可能性はあるが被熱してはいない。遺物は須恵器無台杯・杯類・杯蓋 (433)・高杯 (434)、土師器無台杯・長甕 (435)・小甕・鍋 (436)、羽口が出土している。

SX411 (図版 11、写真図版 47)

15AM15、15AN11 グリッドに位置する。主軸方位は N-79° -W である。平面形は不定形で、断面形は皿形となる。規模は現存長軸 1.96m、短軸 1.01m、深さ 0.12m である。埋土は 2 層である。遺物は須恵器無台杯(437)、土師器鉢(438)が出土している。

SX415 (図版 12・64、写真図版 47)

15AP16・17・21・22、16AO5、16AP1・2 グリッドに位置する。SK796 を切る。主軸方位は N-38° -E である。平面形は楕円形で、断面形は皿形となる。規模は長軸 3.88m、深さ 0.10m である。埋土は単層である。底面で破碎した焼礫がまとまって出土(208点、約 18kg)したが、性格は不明である。遺物は須恵器無台杯(439～441)・有台杯(442)・壺・瓶類・甕(443・444)、土師器長甕・鍋、焼礫が出土している。

SX416 (図版 12・15・64、写真図版 48)

16AO5・10 グリッドに位置する。平面形は円形か楕円形と推定され、断面形は皿形を呈する。規模は長軸 0.9m 以上、短軸 1.57m、深さ 0.16m である。埋土は単層である。SX415 同様に破碎した焼礫がまとまって出土(170点、約 6.7kg)した。遺物は須恵器杯蓋(445)、土師器小甕(446)、焼礫が出土している。

SX421 (図版 12・65、写真図版 48)

15AP17・18・22～24、16AP3・4 グリッドに位置する。東側は調査区外に延びる。SD420、P417 に切られ、平面形は不明、断面形は皿形を呈する。規模は長軸 1.6m 以上、短軸 6.7m 以上、深さ 0.22m である。埋土は単層である。遺構の西側に集石がみられ、炉の可能性が考えられるが被熱してはいない。遺物は須恵器無台杯(447)・有台杯(448)・杯類・杯蓋・高杯(449)・壺・瓶類・甕(450)、土師器長甕・小甕・鍋、円面硯(638)、砥石、鉄滓が出土している。

SX425 (図版 16・64、写真図版 48)

17AQ7・8・11～13 グリッドに位置する。北西側は攪乱で切られる。P436 を切る。断面形は台形を呈する。規模は長軸・短軸ともに 2.85m 以上、深さ 0.55m である。埋土は 2 層である。2 層直上から炭化した鋏と思われる木製品が出土したが、脆弱であったため、取り上げには至っていない。遺物は須恵器無台杯(451～455)・有台杯(456)・杯類・杯蓋・壺蓋(459)・壺・瓶類・甕、土師器無台杯(457)・有台杯(458)・鉢・長甕(460)・小甕(461～464)・鍋、鉄滓が出土している。

SX469 (図版 12・16、写真図版 48・49)

16AP6～8・11～25、17AP1～5 グリッドに位置する。平面形は方形で、断面形は皿形を呈する。規模は長軸 6.8m 以上、現存短軸 7.59m、深さ 0.26m である。埋土は単層である。検出時は竪穴状遺構と考えたが、掘り込みは浅い。遺物は須恵器無台杯(465～469)・有台杯(470)・杯類・杯蓋(471・472)、土師器無台杯(473)・杯類・鉢、黒色土器椀(474)、須恵器高杯(475)・壺蓋(476)・壺(477)・甕、土師器長甕(478・479)・小甕(480・481)・鍋(482)、磨石(676)、鉄製品、鉄滓が出土している。

SX509 (図版 17、写真図版 49)

22AG14・15・19・20・24・25、22AH16・21 グリッドに位置する。SD480 に切られる。西側は調査区外に延びるため、平面形は不明、断面形は皿形を呈する。規模は長軸 3.15m 以上、短軸 4.2m 以上、深さ 0.34m である。埋土は 2 層である。遺物は須恵器無台杯(490)・有台杯・杯類・杯蓋(491)、土師器無台杯・鉢、須恵器甕、土師器長甕・小甕(492)が出土している。

SX613 (図版 12・15)

16AO21・22、17AO1～3・6 グリッドに位置する。主軸方位は N-38° -E である。平面形は楕円形と推定され、断面形は皿形を呈する。規模は長軸 4.00m、短軸 1.95m 以上、深さ 0.20m である。埋土は単層である。遺物は須恵器無台杯・有台杯(493)・壺・瓶類・甕、土師器長甕・小甕・鍋が出土している。

SX623 (図版 18・65)

22AH19・20 グリッドに位置する。主軸方位はN-72°-Eである。西側はSK584に切られるため、平面形は不明、断面形は皿形を呈する。規模は長軸2.4m以上、短軸0.98m、深さ0.09mである。埋土は単層である。遺物は須恵器無台杯・杯類、土師器無台杯、須恵器壺・瓶類・甕、土師器長甕・小甕・鍋が出土している。

7) 溝

SD397 (図版 16・66、写真図版 50)

17AP12・13・17～19・24 グリッドに位置する。SK462を切る。断面形は皿形を呈する。規模は短軸0.22m以上、深さ0.10mである。埋土は単層である。遺物は須恵器無台杯(497)・有台杯・杯蓋、黒色土器杯、須恵器壺・瓶類、土師器長甕・小甕・鍋が出土している。

SD420 (図版 12・16・27・66、写真図版 50・51)

16AP、17AP、17AQ グリッドに位置する。北側は調査区外に延びる。SI451、SX421を切る。断面形は台形を呈する。規模は短軸0.58～2.26m、深さ0.18～0.47mである。埋土は2層である。北から東に向かって緩やかにカーブしており、東に行くほど幅が狭くなる。溝の向きから、SB829の周溝であるSD357と同一である可能性もあるが、遺構の重複が激しく、不明瞭だったため、単独の遺構として扱っている。遺物は須恵器無台杯(498～504)・有台杯(505～513)・杯類・杯蓋(514～516)・壺蓋(518)、土師器無台杯、黒色土器鉢・短頸壺(517)・碗類、須恵器鉢(519)・壺・瓶類・甕(520)、土師器長甕(521・522)・小甕(523・524)・鍋、敲石(662)、砥石(658)・軽石製品(668)、鉄製品、鉄滓が出土している。

SD515 (図版 17・18・66、写真図版 51・59)

23AH6・7・11～15 グリッドに位置する。西側は調査区外に延びる。SK540、P539を切り、SX476に切られる。断面形はU字形を呈する。規模は短軸0.75m、深さ0.33mである。埋土は3層である。遺物は須恵器無台杯(531・532)・有台杯・杯類・杯蓋(533・534)・鉢、土師器無台碗(535・536)・無台杯、須恵器壺蓋・壺・瓶類・甕、黒色土器鉢・短頸壺、土師器長甕・小甕(537・538)・鍋、鉄製品、鉄滓が出土している。

SD525 (図版 9・17・18・66、写真図版 51・59)

23AG5、23AH1～4・9 グリッドに位置する。東側は調査区外に延びる。SK511、SX476に切られる。断面形は皿形を呈する。規模は短軸0.60m、深さ0.08～0.32mである。埋土は単層である。遺物は須恵器無台杯(539)・杯類・杯蓋・壺・瓶類・甕、土師器長甕・小甕、軽石製品(671)が出土している。

SD531 (図版 17・66、写真図版 51)

23AH11～13 グリッドに位置する。東側は調査区外に延びる。断面形はU字形を呈する。規模は短軸0.47m、深さ0.20mである。埋土は単層である。遺物は須恵器無台杯(540)・有台杯・杯蓋、土師器長甕・小甕、鉄滓が出土している。

SD537 (図版 17・49、写真図版 34)

22AH16～18 グリッドに位置する。SK532に切られる。主軸方位はN-79°-Wである。断面形はU字形を呈する。規模は長軸3.87m、短軸0.40m、深さ0.23mである。埋土は単層である。遺物は土師器長甕・小甕・鍋(541)が出土している。

SD538 (図版 17・18・49・66、写真図版 34・51)

22AH16・17・21～24 グリッドに位置する。SK532、SX476に切られる。主軸方位はN-77°-Wである。断面形は皿形を呈する。規模は長軸5.75m、現存短軸1.47m、深さ0.25mである。埋土は単層である。遺物は須恵器無台杯(542)・有台杯・杯類・甕、土師器長甕・小甕・鍋が出土している。

SD592 (図版 12・15・65・66、写真図版 49・51)

17AO13・14・19 グリッドに位置する。SX605を切る。断面形は台形を呈する。規模は現存短軸0.50m、深さ0.20～0.32mである。埋土は単層である。遺物は須恵器無台杯・有台杯・杯蓋(543)・壺・瓶類・甕、土

師器長甕・小甕（544）が出土している。

SD606（図版11・12、写真図版52）

14AM、14AN、14AO、15AOグリッドに位置する。東側と西側は調査区外に延びる。断面形は皿形・台形を呈する。規模は短軸0.36～2.20m、深さ0.36mである。埋土は4層である。東側の調査区端は攪乱で明瞭ではないが、埋土の堆積状況が異なるため別遺構の可能性はある。遺物は須恵器無台杯、土師器長甕、東側調査区端から鉄滓が付着した焼礫（683）、鉄製品が出土している。

SD673（図版18・66、写真図版52）

22A114・15・19・20・24・25グリッドに位置する。SK703を切る。主軸方位はN-16°-Eである。断面形は皿形を呈する。規模は長軸4.17m、短軸1.05m、深さ0.09mである。埋土は単層である。遺物は須恵器無台杯・杯類・杯蓋（547）、土師器長甕・鍋が出土している。

8) ピット

古代のピットは280基検出し、柱痕が認められるものや遺物が多く出土したものを掲載した。集中している範囲は調査区の北東側と南西側で、北東側では竪穴建物や掘立柱建物が隣接する。各ピットから出土した土器は春日編年でIV1期～V期にあたり、おおむね8世紀後半～9世紀初頭とみられる。記述が煩雑になるのを避けるため、以下、個々のピットについての記述は別表1に譲り省略する。

B 中世の遺構

中世の遺構は溝4条で、Ⅲ層で検出した。調査区南東部に存在している。遺構埋土の土色はにぶい黄褐色、褐色、灰黄褐色が主体である。

1) 溝

SD47（図版22、写真図版56）

24AK、24AL、24AMグリッドに位置する。西側は調査区外に伸びる。断面形は皿形となる。規模は短軸0.62m、深さ0.12mである。埋土は単層である。溝の向きが一致するため、SD54と同一遺構の可能性はある。遺物は土師器長甕、珠洲焼片口鉢（606）が出土している。

SD49（図版21）

26AJ、27AJグリッドに位置する。南側は調査区外に伸びる。断面形は皿形となる。規模は短軸0.35～0.62m、深さ0.11mである。埋土は単層である。溝の向きが一致するため、SD226と同一遺構である可能性がある。遺物は出土していない。

SD54（図版21・22）

24AI、24AJ、24AKグリッドに位置する。断面形は皿形となる。規模は短軸0.94m、深さ0.17mである。埋土は2層である。溝の向きが一致するため、SD47と同一遺構の可能性はある。遺物は須恵器無台杯（494）、土師器長甕・小甕（495）・鍋が出土している。

SD226（図版21、写真図版56）

24AJ、25AJグリッドに位置する。断面形は皿形となる。規模は短軸0.68m、深さ0.10mである。埋土は単層である。溝の向きが一致するため、SD49と同一遺構の可能性はある。遺物は土師器小甕、珠洲焼甕（607）が出土している。

C 近世の遺構

近世の遺構は井戸2基・土坑23基・性格不明遺構3基・ピット3基・溝13条で、調査区の全域にまばらに分布している。検出面はⅢ層である。土坑のうち埋土が黒色シルト土主体の16基（SK1・2・8～13・15・16・52・478・544・545・556・600）は墓坑と考える。土壌を採取して篩選別を行い、得られた資料を第2表に示

した。その結果も含めて銭貨や焼骨片・炭化物・焼成粘土塊・焼土塊などが多く出土した10基（SK1・2・8～11・478・544・556・600）は、火葬墓の可能性も考えられるが、遺構底面などに被熱痕跡はなく硬化も見られなかった。平面形は方形で皿形や箱形の断面形状を呈するものが多いが、表土直下のⅢ層で検出される遺構もありSK12・13などは非常に浅い。

1) 井 戸

SE6（図版21・70、写真図版56）

26AJ4・9グリッドに位置する。主軸方位はN-36°-Wである。平面形は円形で、断面形はU字形となる。規模は長軸0.92m、短軸0.89m、深さ0.71mである。埋土は6層である。遺物は土師器長甕、銭貨が出土している。SE20の埋土と土質・色調ともに類似しているため近世の遺構とした。

SE20（図版20・70、写真図版56）

20AN24, 21AN3・4グリッドに位置する。主軸方位はN-53°-Eである。平面形は円形で、断面形は箱形となる。規模は長軸1.25m、短軸1.10m、深さ1.36mである。埋土は4層である。遺物は土師器長甕、近世陶器碗（608）・播鉢（609）、砥石、火打ち石（678）、粘土塊が出土している。

2) 土 坑 ・ 墓 坑

SK1（図版21・70、写真図版57）

25AI9・14・15グリッドに位置する。主軸方位はN-57°-Wである。平面形は楕円形で、断面形は皿形となる。規模は長軸1.48m、短軸1.02m、深さ0.42mである。埋土は2層である。埋土に焼土塊や焼骨片が含まれることから墓坑と考える。遺物は土師器長甕・小片、銭貨（728）、鉄製品、木製数珠玉（750～752）、焼成粘土塊が出土している。

SK2（図版21・71）

24AI25グリッドに位置する。主軸方位はN-28°-Eである。平面形は円形で、断面形は皿形となる。規模は長軸0.54m、短軸0.44m、深さ0.07mである。埋土は単層である。埋土に焼土塊や焼骨片が含まれることから墓坑と考える。遺物は出土していない。

SK7（図版21）

26AJ20・25、26AK16・21グリッドに位置する。主軸方位はN-29°-Wである。断面形は皿形となる。規模は長軸2.06m、深さ0.13mである。埋土は2層で焼骨片や炭化物が含まれることから墓坑と考える。遺物は近世陶磁器が出土している。

SK8（図版22・70、写真図版57）

24AL1・6グリッドに位置する。主軸方位はN-67°-Eである。平面形は長方形で、断面形は皿形となる。規模は現存長軸1.94m、短軸1.00m、深さ0.19mである。埋土は2層である。埋土に焼土塊や焼骨片が含まれることから墓坑と考える。遺物は銭貨（727）、鉄製品、焼成粘土塊が出土した。

SK9（図版22・70）

24AL11グリッドに位置する。主軸方位はN-82°-Eである。平面形は楕円形で、断面形は皿形となる。規模は長軸1.14m、短軸0.76m、深さ0.10mである。埋土は2層である。埋土に焼土塊や焼骨片が含まれることから墓坑と考える。遺物は焼成粘土塊が出土している。

SK10（図版19・70、写真図版57）

22AM21, 23AM1グリッドに位置する。主軸方位はN-8°-Wである。平面形は長方形で、断面形は皿形となる。規模は長軸2.46m、短軸1.39m、深さ0.32mである。埋土は3層である。埋土に焼骨片が含まれることから墓坑と考えられるが、遺構底面や壁面に被熱痕跡は見られず、硬化などは確認できなかった。遺物は土師器長甕・小甕、近世磁器染付皿（610）、銭貨（730）、鉄製品、木製数珠玉（753・754）、焼成粘土塊が出土している。

SK11 (図版 19・70)

21AL8 グリッドに位置する。主軸方位は N-69° -W である。平面形は楕円形で、断面形は皿形となる。規模は長軸 1.00m、短軸 0.63m、深さ 0.15m である。埋土は 2 層である。埋土に焼骨片が含まれることから墓坑と考える。遺物は出土していない。

SK12 (図版 19・71)

21AL3・8 グリッドに位置する。主軸方位は N-20° -W である。平面形は円形で、断面形は皿形となる。規模は長軸 0.91m、短軸 0.82m、深さ 0.07m である。埋土は単層である。埋土に焼骨片が含まれることから墓坑と考える。遺物は出土していない。

SK13 (図版 19・71)

22AM8・9 グリッドに位置する。主軸方位は N-82° -W である。平面形は方形で、断面形は皿形となる。規模は長軸 0.74m、短軸 0.60m、深さ 0.10m である。埋土は 2 層である。埋土に焼土塊や焼骨片が含まれることから墓坑と考える。遺物は鉄製品が出土した。

SK14 (図版 19・71)

20AM6 グリッドに位置する。SD380 に切られる。主軸方位は N-40° -E である。平面形は円形で、断面形は皿形となる。規模は長軸 0.91m、深さ 0.13m である。埋土は単層である。遺物は出土していない。

SK15 (図版 20・72、写真図版 57)

21AN19・20・24・25 グリッドに位置する。主軸方位は N-77° -W である。平面形は楕円形で、断面形は台形となる。規模は長軸 0.85m、短軸 0.63m、深さ 0.17m である。埋土は 3 層である。埋土に歯を含む焼骨片がみられることから墓坑と考える。また、今回の調査では唯一、遺構の底面で底板が検出された。遺物は石製数珠玉 (650)、釘 (717・718) が出土している。

SK16 (図版 15・72)

18AN14・15 グリッドに位置する。主軸方位は N-54° -W である。平面形は円形で、断面形は台形となる。規模は長軸 1.06m、短軸 0.98m、深さ 0.39m である。埋土は 2 層に分層されるが、黒褐色シルト主体であり墓坑と考える。遺物は銭貨 (729・731) が出土している。

SK19 (図版 20・71、写真図版 58)

20AO22・23、21AO2・3 グリッドに位置する。SK48 を切る。主軸方位は N-86° -W である。平面形は長方形で、断面形は箱形となる。規模は長軸 2.93m、短軸 1.67m、深さ 0.50m である。埋土は 6 層である。遺物は須恵器甕、土師器長甕、肥前磁器皿 (611)・徳利 (612)・近世陶磁器が出土している。

SK26 (図版 20・71、写真図版 58)

21AO3 ~ 5・8 ~ 10 グリッドに位置する。東側は調査区外に伸びる。SK36 を切る。断面形は台形となる。規模は短軸 1.40m、深さ 0.48m である。埋土は 4 層である。遺物は須恵器無台杯・杯類・甕、土師器長甕が出土している。

SK284 (図版 17・72)

23AG19・24 グリッドに位置する。主軸方位は N-58° -E である。平面形は円形で、断面形は皿形となる。規模は長軸 0.76m、短軸 0.75m、深さ 0.05m である。埋土は単層である。遺物は須恵器無台杯・杯蓋、土師器小甕が出土している。

SK478 (図版 21・72)

24AI6・7・11・12 グリッドに位置する。主軸方位は N-59° -W である。平面形は楕円形で、断面形は皿形となる。規模は長軸 1.98m、短軸 1.55m、深さ 0.05m である。埋土は黒色シルトの単層である。焼骨片や炭化物などはわずかであるが墓坑と考える。遺物は鉄製品が出土している。

SK544 (図版 18・72)

21AH25、22AH5 グリッドに位置する。SK545 を切る。主軸方位は N-2° -E である。平面形は楕円形で、断面形は皿形となる。規模は長軸 1.20m、深さ 0.21m である。埋土は 2 層で焼骨片が含まれることから、墓坑と考える。遺物は近世陶磁器、銭貨、鉄製品が出土している。

SK545 (図版 18・72)

21AH24・25 グリッドに位置する。SK544 に切られる。平面形は楕円形で、断面形は皿形となる。規模は短軸 0.96m、深さ 0.13m である。埋土は 2 層に分層されるが、黒色シルト主体であり墓坑と考える。遺物は鉄製品が出土している。

SK556 (図版 18・72、写真図版 58)

21AI11・12・16・17 グリッドに位置する。主軸方位は N-11° -W である。平面形は楕円形で、断面形は皿形となる。規模は長軸 1.45m、短軸 1.07m、深さ 0.26m である。埋土は 3 層である。焼骨片が含まれることから墓坑と考える。遺物は銭貨、鉄製品が出土している。

SK600 (図版 12・72、写真図版 58・59)

14AN20 グリッドに位置する。主軸方位は N-7° -E である。平面形は楕円形で、断面形は箱形となる。規模は長軸 1.10m、短軸 0.70m、深さ 0.61m である。埋土は 6 層に分層され、黒色シルト主体である。墓坑と考えるが、非常に深く、他の墓坑とは断面形状が明らかに異なる。遺物は鉄製品が出土している。

3) 性格不明遺構

SX476 (図版 17・18・47、写真図版 59)

22AH、23AG、23AH グリッドに位置する。多くの遺構と重複しており、新旧関係は別表 1 に記載した。断面形は皿形となる。規模は短軸 6.47m、深さ 0.16m である。埋土は単層である。遺物は須恵器無台杯 (483・484)・有台杯 (485～488)・杯類・杯蓋・甕、土師器無台碗・無台杯・長甕・小甕・鍋が出土している。

SX482 (図版 17・72)

23AH6・7 グリッドに位置する。主軸方位は N-69° -W である。平面形は楕円形で、断面形は皿形となる。規模は長軸 2.20m、短軸 0.85m、深さ 0.13m である。埋土は単層である。遺物は須恵器無台杯・有台杯 (489)、土師器無台杯・長甕・小甕、粘土塊が出土している。

4) 溝

SD25 (図版 20、写真図版 59)

20AN、20AO、20AP グリッドに位置する。西側は攪乱に切られ、東側は調査区外へ延びる。西側は幅が狭く浅いが、東側は幅が広く非常に深くなり別遺構の可能性もある。断面は台形で、埋土は 2 層である。遺物は須恵器有台杯・甕類、土師器長甕・近世陶磁器、軽石製品・搬入礫が出土している。

SD55 (図版 21・72)

24AI、24AJ グリッドに位置する。SX3 を切るが、両端は第 1 次調査によって削平される。断面形は皿形で、埋土は単層である。遺物は須恵器無台杯・有台杯、土師器長甕・小甕、近世陶磁器、煙管の雁首 (726)・鉄製品が出土している。

SD343 (図版 17・72)

23AG13・14 グリッドに位置する。主軸方位は N-71° -W である。断面形は U 字形となる。規模は現存長軸 1.05m、短軸 0.31m、深さ 0.22m である。埋土は単層である。遺物は土師器小甕・甌 (496) が出土している。

第V章 遺 物

第1節 概 要

今回の調査では土器・陶磁器・土製品・石器・石製品・金属製品・鍛冶関連遺物・木製品・自然遺物が出土している。その量は、第2次調査でコンテナ（内寸54.5×33.6×10.0cm）187箱、第3次調査で246箱と水槽（内寸1.6×1.0×0.6m）2箱である。全体の内訳は、古代（古墳時代を含む）土器288箱、中近世陶磁器14箱、土製品6箱、石器・石製品83箱、金属製品・鍛冶関連遺物12箱、木製品4箱と水槽2槽、歯などを含む自然遺物26箱で古墳時代～近世の遺物がある。古代土器が圧倒的に多く古墳時代及び中近世の土器・陶磁器の出土量は少量で、土製品・石器・石製品・鍛冶関連遺物などの帰属時期はおおむね古代と考える。なお、金属製品・木製品・自然遺物の大半は古代と近世の遺構から出土している。また、接合資料はその帰属判断が難しいが、遺構出土資料が含まれる場合には遺構出土遺物として扱い、複数の遺構資料が含まれる場合には、遺構の切り合い関係や破片数・破片の大きさで帰属を決めている。接合関係は観察表（別表2～7）に記載したが、土器・土製品は実測図に出土地点すべてを示した。

掲載遺物のうち、土器については各時代の遺構出土資料を優先し、第IV章の遺構順に記載している。その他の遺物については、量が少ないため種別・器種ごとに記載した。各遺物の属性・情報については観察表にまとめたが、特に注意される点や補足が必要なものは本文に記した。各項目の注意点は、別表2の最初に示している。

第2節 土 器（図版6・7・73～108、写真図版60～91）

出土した全土器・陶磁器の総重量は422,215gである。そのうち、時代ごとの土器が占める割合は重量比で古墳時代0.06%（263g）、古代99.00%（418,011g）、中世0.02%（64g）、近世0.92%（3,877g）である。古代土器については各種別の割合は須恵器43.5%（181,800g）、土師器55.7%（232,829g）、黒色土器0.80%（3,382g）である。土器は奈良時代（8世紀後半）が最も多く、平安時代（9世紀前半）が次に続く。古代土器の小グリッド別重量分布図を見ると、土師器・須恵器の分布は遺構と重なり調査区北東側と南西側で出土量が多い。また、黒色土器は調査区南西側では少なく、調査区北東側でやや多く出土している（図版6・7）。古墳時代の土器は6点出土し、全て図化した。帰属時期は全て前期である。出土地は試掘調査（第1次調査2トレンチ）で1点、ほかは調査区南西側及び北東側の古代遺構から出土した。中世と近世の土器・陶磁器は当期の遺構が分布する調査区南東側に散在している。

A 記述の方法

土器は時代順に遺構出土、包含層出土に分けて記述した。土器の法量や胎土などの詳細な情報は別表2に記載した。古代の時期区分及び年代観については、春日真実氏による編年〔春日1999・2005〕に従った。調整技法及び実測図の表現方法については、山三賀Ⅱ遺跡〔坂井ほか1989〕の報告書を参考に以下のとおりとした。

ロクロ回転を利用したナデをロクロナデ、利用しないものをナデとした。

ロクロ回転を利用した削りをロクロケズリ、利用しないものをケズリとした。

ロクロ回転を利用した刷毛目をカキメ、利用しないものをハケメとした。

ロクロ成形による底部の切り離しは回転ヘラ切りと回転糸切りがある。記述の際には「回転」を省略した。

須恵器甕や土師器長甕などの外面に見られる叩板の痕跡をタタキメ、内面の当て具の痕跡を当て具痕とした。小破片のため径の復元が困難な場合は、実測図の中心線と左右の線の間隔をあけた。

色調については『新版標準土色帖』〔小山・竹原 1967〕に従い、土器外面の平均的な色調を観察表に記載した。

本資料の須恵器胎土及び編年的位置付けなどは、春日真実氏にご教示頂いた。須恵器の胎土については〔春日 2019〕に準拠し、以下のとおりとした。

A 群：大型の石英・長石などを多く含む粗い胎土。阿賀北地域の窯跡群産に特徴的な胎土。

B 群：白色小粒子を多く含むきめ細かい胎土。器面に黒色の吹き出しや斑点が見られる。佐渡小泊窯跡群産に特徴的な胎土。

C 群：小型の石英・長石を少量含む粘土質の胎土。新津丘陵窯跡群産に特徴的な胎土。

D 群：A～C 群以外のもの。

B 古代土器の分類（第 6～8 図）

〔春日 2019〕を参考に、種別ごとに器種を分類した。器形による分類はアルファベット、細分する場合は算用数字、法量による分類はローマ数字を使用し、器種ごとに組み合わせて表記した。

須 恵 器

無台杯 杯のうち高台が付かないもの。底部切り離しはヘラ切りで、後にナデを加えるものが多い。糸切りは 1 点のみ確認した (469)。底部の形態により、丸底を A 類、平底を B 類とした。また口径 14cm 以上を I 類、口径 12cm 以上 14cm 未満を II 類、口径 12cm 未満を III 類とした。

有台杯 杯のうち高台が付くもの。器高指数 35 以下を A 類、器高指数 36 以上を B 類とした。また外面に沈線が施文される、金属器を模倣したものを X 類とした。さらに口径 15cm 以上を I 類、口径 13cm 以上 15cm 未満を II 類、口径 11cm 以上 13cm 未満を III 類、口径 11cm 未満を IV 類とした。

杯蓋 有台杯に伴う蓋である。口端部径 14.0cm 以上を I 類、口端部径 11.0cm 以上 14.0cm 未満を II 類、口端部径 11.0cm 未満を III 類とした。

鉢 口縁部が内湾する鉄鉢形鉢 (64・198) と、頸部くびれて口縁部が外傾する鉢 (519) がある。

稜椀 腰部に強い稜線が入る椀である。出土量は少ない。

折縁杯 阿賀北地域で主にみられる有台器種で、口縁端部が折縁状となる。

高杯 脚部が長いもの (193・194) と短いもの (449) がある。

横瓶 俵型の胴部に短く外反する口縁部が付く。

長頸瓶 算盤玉状に肩が張る胴部に長い頸部が付く。大型 (379)・中型 (196)・小型 (306・428) がある。

環状瓶 胴部が環状で 1 か所に口頸部を付す瓶。鳥足を模した脚が 3 本付く。1 点のみ出土した (195)。

甗 完形品が 1 点ある (197)。口縁部は段をもち、高台が付く。

短頸壺 球胴に短い口縁部が付く壺。出土量は少ない。

壺蓋 短頸壺に伴う蓋である。口端部が外傾または直立するもの (380・459) と内側に屈曲するもの (528) がある。

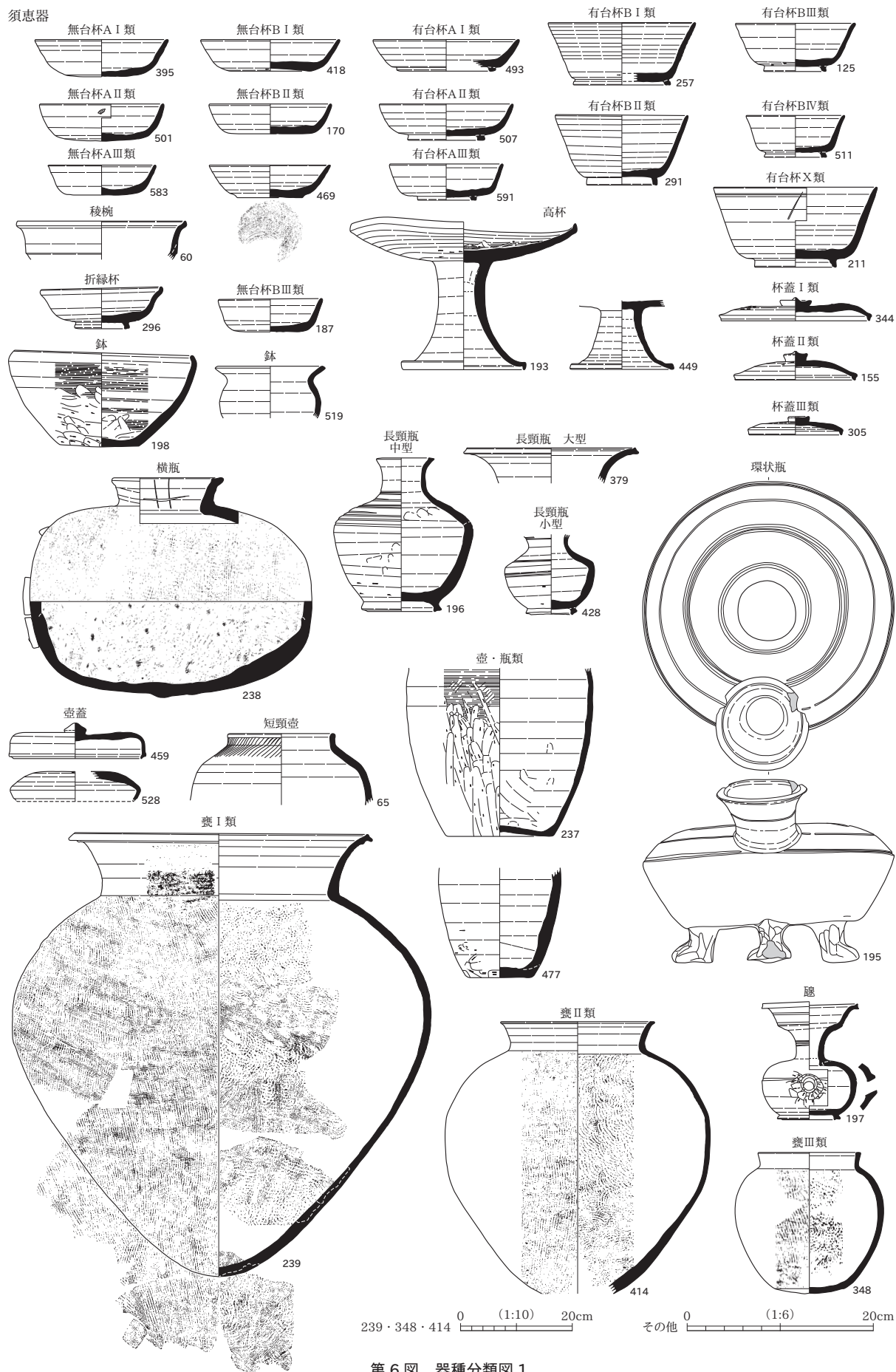
壺・瓶類 口頸部が残存していないなどで壺か瓶か判別できないものを壺・瓶類とした (237・477)。

甕 口径 38cm 以上の I 類 (大型)、口径 22～38cm の II 類 (中型)、口径 22cm 未満の III 類 (小型) がある。I 類の口縁部には波状文が施され、II 類・III 類は無文である。

土 師 器

無台杯 須恵器無台杯と器形や製作技法が同じもの。須恵器無台杯と同様に口径 12～13cm 程度のものが多いが、口径 10cm 未満の小型で深身のものもある (426・457)。前者には、内外面が赤彩されたものもある (597)。

有台杯 須恵器有台杯と器形や製作技法が同じもの。内外面が赤彩されたもの (160) もある。出土量は少ない。



第6図 器種分類図1

無台椀 ロクロ成形の椀である。

鉢 口縁部が外傾する A 類と、くの字状に外傾する B 類がある。A・B 類とも非ロクロ成形とロクロ成形があるが、出土量が少ないため細分はしていない。小型の鉢を C 類とした。台付と台が付かないものがある (266・301)。

高杯 全形が残る個体は無い。1 点のみ確認した (568)。

盤 ロクロ成形で杯よりも浅い。内外面に赤彩が施されたもの (86)。

短頸壺・壺蓋 外面と高台内面は赤彩され、体部にはミガキが施される (245・246)。

長甕 山三賀Ⅱ遺跡〔坂井ほか 1989〕の分類を参考に、非ロクロ成形を A 系、ロクロ成形を B 系、ロクロ成形で平底を C 系とした。また口縁部形態により以下のように細分した。

- 1 類：口縁端部が丸いもの
- 2 類：口縁端部に面をもつもの
- 3 類：口縁端部をつまみ上げるもの

長甕 A 系は全形が残存する資料はないが、長胴で平底と丸底の器形がある。口縁部形態は 1・2 類が確認できる。平底の底部外面には木葉痕が残るものがある (69・361 など)。A2 類としたが口縁部はロクロナデ、丸底で胴部は主にハケメを施す「西古志型甕」〔坂井 1990・春日 1999〕がごく少数存在する (358)。長甕 B 系は長胴で丸底の器形で、胴部上半はカキメ調整、下半はタタキ成形する (240・244 など)。長甕 C 系は口縁部が水平方向に強く屈曲する。口縁部はロクロナデ、胴部上半はカキメ、下半はハケメやケズリを施し、タタキ成形は用いない。

球胴甕 非ロクロ成形で丸底になる甕で、いわゆる「佐渡型甕」である (114)。

小甕 非ロクロ成形を A 系、ロクロ成形を B 系とし、口径により細分した。口径 17cm 以上を I 類、口径 12～17cm を II 類、口径 10～12cm を III 類とした。小甕 A 系は長甕と同様に口縁部形態は 1・2 類とも確認できる。小甕 B 系の底部切り離しは糸切り・ヘラ切りがある。口縁部が水平方向に強く屈曲する小甕は確認されなかったが、西古志型が少数存在し、A 系の 2 類にした (537)。

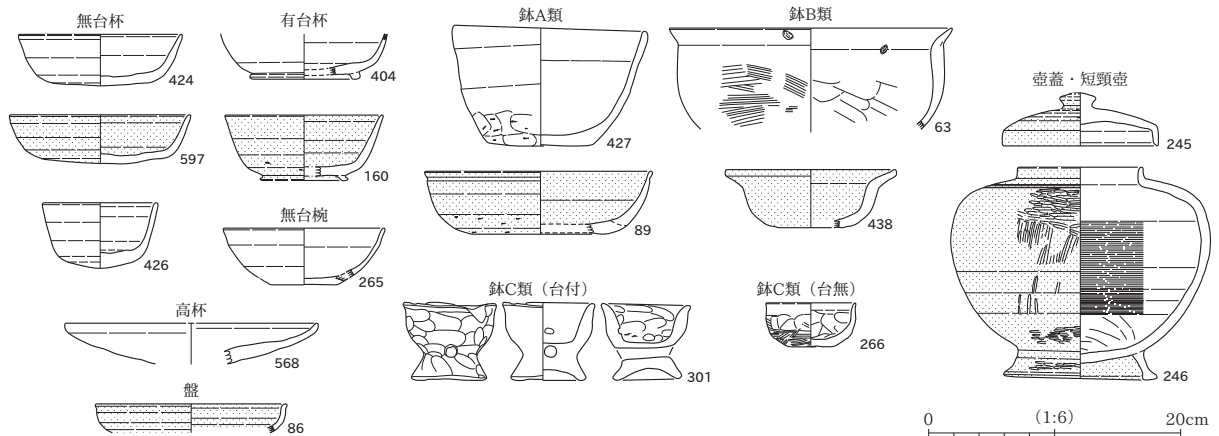
鍋 分類の基準は小甕と同様である。鍋 A 系は長甕と同様に口縁部形態は 1 類のみで、底部は平底が 1 点ある (413)。鍋 B 系は口縁部形態 2・3 類のほかに、口縁端部が肥厚するもの (4 類)、口縁端部が受け口状のもの (5 類) がある。口縁部が水平方向に強く屈曲する鍋は確認されなかったが、西古志型が少数存在し、A 系の 2 類にした (365)。

甌 口縁部 (496) と把手 (605) が出土している。ロクロ成形でタタキメが残る。

黒色土器

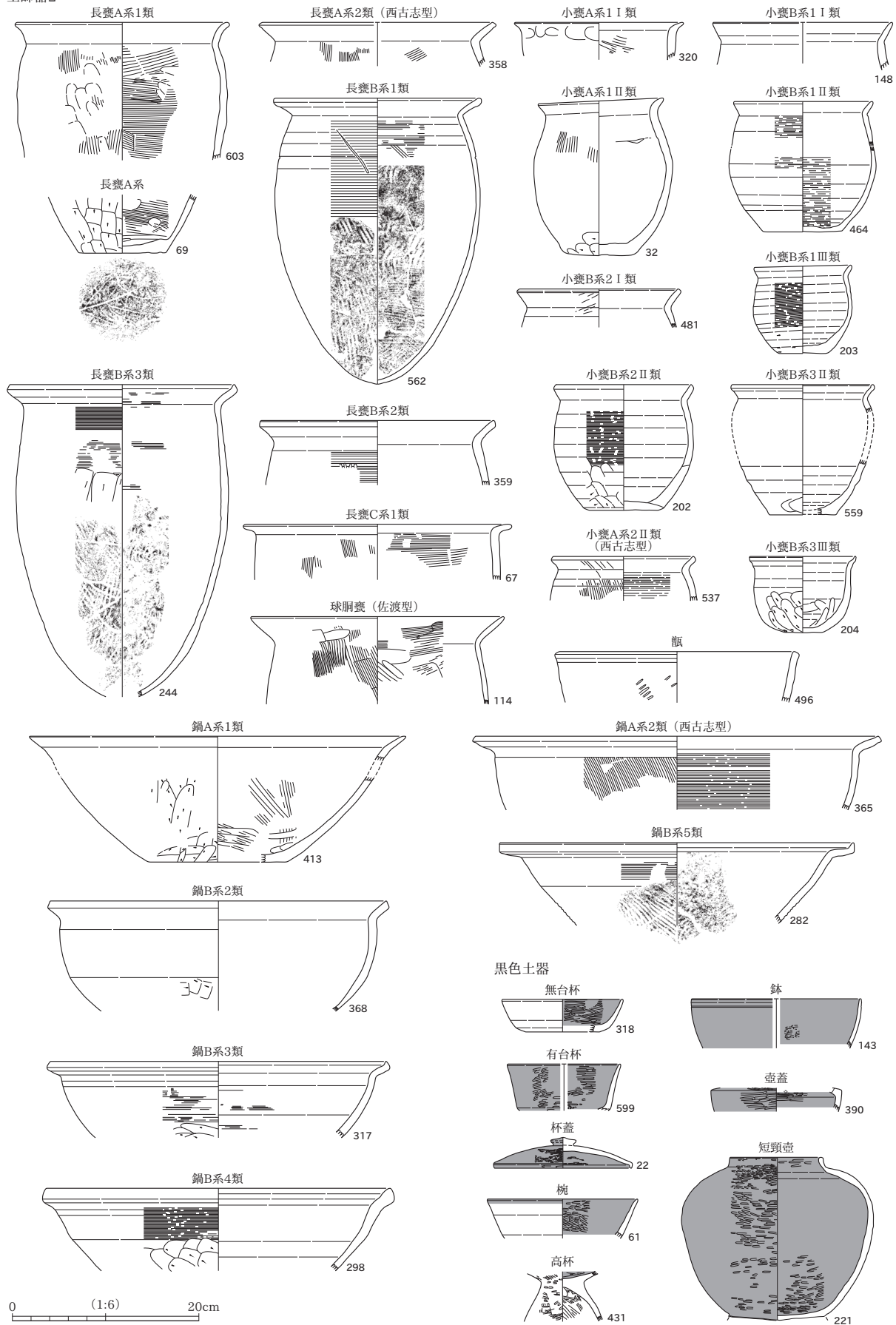
無台杯・有台杯・杯蓋・鉢・椀・高杯のほかには壺蓋・短頸壺がある。高杯以外はロクロ成形で丁寧なミガキが施され黒色処理される。

土師器 1



第7図 器種分類図2

土師器2



第8圖 器種分類圖3

C 土器各説

1) 古墳時代の土器

SK584 (図版 73、写真図版 61) 甕の口縁部 (1) と底部 (2) を図示した。1・2 は粗砂粒を多く含む粗い胎土で、同一個体の可能性が高い。2 は底径が小さい平底である。

SX125 (図版 73、写真図版 61) 3 は口縁部が「く」の字状に外反する甕で、口縁端部は丸い。器面は磨耗している。

SX299 (図版 73、写真図版 61) 4 は小型器台で、口縁部と脚部の破片から図上復元した。口縁～体部は強い稜をもち外反する。脚部には円形の透かしが 2 か所確認できる。内外面とも赤彩されるが脚部内面には認められない。新潟シンポジウム編年〔日本考古学協会新潟大会実行委員会 1993〕の 6～7 期、滝沢規朗氏による編年〔滝沢 2019〕の 3～4 段階に相当すると考える。

SX406 (図版 73、写真図版 61) 5 は 3 と同様の口縁部形態の甕で、胴上半部に最大径をもつと推測される。

包含層 (図版 73、写真図版 61) 6 は甕の底部で、2 と同様に底径が小さい平底である。

1・3・5 の甕口縁端部は丸く、2・6 は底径の小さな平底であることから、1～6 はいずれも新潟シンポジウム編年の 6～8 期頃に収まると考える。

2) 古代の土器

SI65 (図版 73・74、写真図版 61) 須恵器無台杯 (7～13)・有台杯 (14～16)・杯蓋 (17～19)・稜椀 (20)、黒色土器鉢 (21)・杯蓋 (22)、須恵器横瓶 (23・24)、土師器小甕 (25) を図示した。7 は無台杯 A II 類、8・9・11 は B II 類である。10 は無台杯 A III 類で口縁部内面にはススが付着し、器面は全体的に使用により磨滅している。11 の底部内面には「(」のヘラ書きがある。14・16 は有台杯 A III 類、15 は A II 類で、14 の底部外面にはヘラ書きの一部が確認できる。16 の口縁部内外面には漆が部分的に付着する。17・18 は杯蓋 II 類で、17 の内面はロクロナデの後にナデを加える。20 の稜椀は口縁部を欠くが、口径 20cm 程度と推測する。21 は黒色土器鉢で、底部外面にも丁寧なミガキが施される。22 は黒色土器杯蓋で、摘みは擬宝珠形であり、内外面とも丁寧なミガキが施される。23・24 は横瓶で、23 の外面にはカキメが施され、内面には同心円文当て具痕と閉塞痕が残る。24 は口縁部内面に自然釉がかかる。25 は小甕 B 系 1 II 類で、胴部内面はカキメ、外面はハケメが施される。頸部と胴部の境界に緩い段があり、東北地方北部における土師器の特徴に類似している〔加藤 2004〕。

7・8・12 の無台杯は大型で底部に厚みがあり、IV 1 期に比定される。9～11・13 は小ぶりの無台杯、14～16 は小型の有台杯、17～19 は摘み径・口端部径とも小さい杯蓋で、IV 2・3 期に比定される。15・17 の出土地点は SB828-SD357 と重複しており、本来の帰属は SB828-SD357 であった可能性が考えられる。また 14・18・19・21・22 も出土位置が SX283 と近く、本来の帰属は SX283 であったと考えられる。

SI65 は多くの遺構と重複しており、新旧関係は最も古い遺構である。SI65 出土土器の所属時期は IV 1 期で、IV 2・3 期に比定される土器は SI65 と重複する遺構の所属であったと考えられる。

SI103 (図版 74、写真図版 61・62) 竪穴部出土土器は須恵器無台杯 (26・27)・甕 (28)・横瓶 (29・30)、土師器小甕 (31・32) を図示した。26 は無台杯 B II 類、27 は A II 類で、どちらも IV 2 期に比定される。28 は須恵器甕 III 類の可能性もある。29 は閉塞部がみられない側面部の破片であり、片面閉塞の横瓶と考える。30 は横瓶の胴部片であるが、胴部の上下の判別がつかない。31 は小甕 B 系で、底部切り離しは静止糸切りである。32 は小甕 A 系 1 II 類で、被熱のため器面全体が荒れている。外面の色調は全体的に橙色であるが、内容物が吹きこぼれた範囲は浅黄橙色に変色している。

焼土 114 出土土器は須恵器無台杯 (33)・有台杯 (34) を図示した。33 は無台杯 B II 類で、大型で底部は厚いことから IV 1 期に比定される。34 は有台杯 A II 類で、やや細い高台が底部中央側に付くことから、IV 2 期の所産と考える。

SI103 のカマドである焼土 114 からIV 2 期の有台杯 (34) が、また竪穴部から小甕 A 系 (32) が出土していることから、IV 1 ~IV 2 期と考える。

SI108 (図版 74、写真図版 62) 竪穴部出土土器は須恵器無台杯 (35)・有台杯 (36・37)、土師器長甕 (38)・小甕 (39) を図示した。35 は無台杯 B III 類で、杯部下半の内外面ともウロコ状の打ち欠きの痕跡がある。底部外面はロクロケズリされる。36 は有台杯 A II 類で、口径が大きく太い高台が付き、IV 1 期に比定される。38 は長甕 A 系の底部である。39 は小甕 A 系 I II 類で、被熱のため外面の器壁が剥落している。

焼土 211 出土土器は土師器長甕 B 系 2 類 (40) を図示した。胴部外面はカキメが施される。

SI108 出土土器は 35 の無台杯のように底部外面にロクロケズリが入る古い要素も見られるが、SI103 の有台杯 34 よりも古相を呈する有台杯 (36) があることから、IV 1 期の所産と考える。

SI181 (図版 75、写真図版 62) 竪穴部出土土器は須恵器有台杯 (41)・横瓶 (42)、土師器小甕 (43)・鍋 (44) を図示した。41 の有台杯は高台がやや細く、SI103 の 34 と似ていることからIV 2 期の所産と考える。42 の横瓶は口縁端部を欠く。43 は小甕 B 系 I II 類で、胴部内外面はカキメが施される。44 は鍋 A 系 1 類で胴部外面はケズリ、内面はハケメが施され、胴部外面にススが付着する。

主柱穴は 4 基あり、P81 のみ土器が出土し、土師器小甕 (45) を図示した。B 系で磨耗のため判然としないが、底部外面はナデ調整である。

SI181 出土土器はやや細い高台が付く有台杯 (41)、鍋 A 系 1 類 (44) があることから、IV 1 ~IV 2 期の所産と考える。

SI207 (図版 75、写真図版 62・91) 須恵器杯蓋 (46)・短頸壺 (47)、土師器小甕 (48) を図示した。46 は杯蓋 I 類で、摘みはボタン状で口端部の屈曲は強い。内面には「V」字状のヘラ書きがある。胎土は D 群で、信濃川左岸の窯跡群産と推測され、IV 2 期の所産と考える。47 は短頸壺で、胴部外面はロクロナデ後ケズリ、内面はカキメ後ケズリが施される。48 は小甕 A 系 I II 類で、内外面ともハケメが施される。

SI207 は図示できる資料が少ないため所属時期の決め手に欠けるが、46 の杯蓋と小甕 A 系 I II 類 (48) があることから、IV 1 ~IV 2 期の所産と考える。

SI451 (図版 75 ~ 77、写真図版 62 ~ 64・91) 多数の遺物が出土した。須恵器無台杯 (49 ~ 56)・有台杯 (57・58)・杯蓋 (59)・稜椀 (60)、黒色土器椀 (61)、土師器鉢 (62・63)、須恵器鉢 (64)・短頸壺 (65)・甕 (66)、土師器長甕 (67 ~ 70)・小甕 (71・72) を図示した。49・50・53・56 は無台杯 B II 類、51・52・55 は A II 類、54 は B I 類である。49・50 は底部外面にヘラ書きがあり、49 は漢字の草冠に似ており、50 は「×」である。56 の底部外面には墨書文字の一部が確認できるが、字体は不明である。57 は有台杯 X 類、58 は A I 類で、57 は口縁部外面に浅い沈線が 2 条施文され、杯部下半外面はロクロケズリされる。58 の底部内面は使用により磨滅している。59 は杯蓋 I 類で、口端部は強く屈曲する。摘みは低い擬宝珠形である。60 は稜椀で、口端部はつまみ上げる。61 は椀で、内面は黒色処理され丁寧なミガキが施される。62 は鉢で、胴部下半~底部外面はロクロケズリされ、内外及び底面まで赤彩される。63 は土師器鉢 B 類で、非ロクロ成形である。口縁部内外面に種子圧痕がある。64 は口縁部が内湾する須恵器鉄鉢形鉢で、底部外面にはヘラ書きがある。焼成時の歪みが認められる。胎土は D 群で、信濃川左岸の窯跡群産と推測される。65 は短頸壺で、口頸部外面にはタタキメが残る。66 は II 類の中型甕で、口縁端部は面をもちわずかに内傾する。67 は長甕 C 系 1 類で、口縁部は水平方向に強く屈曲し、胴部内外面はハケメが施される。68・69 は長甕 A 系の底部で、外面に木葉痕が残る。70 は長甕 B 系 2 類で、胴部外面はカキメ及びハケメ、内面はカキメ後にナデとハケメが施される。71 は小甕 B 系 2 II 類、72 は小甕 B 系の底部で、底部外面はナデ調整である。

SI451 出土土器は、口径・底径とも大きめの須恵器無台杯 (49 ~ 56)、金属器模倣の須恵器有台杯 X 類 (57)、口径が 15cm を超える有台杯 A I 類 (58) があることから、IV 1 期の所産と考える。

SI453 (図版 77、写真図版 64) 須恵器有台杯 (73)・杯蓋 (74)・壺蓋 (75) を図示した。73 は有台杯 A II 類で、

杯部は内湾気味に立ち上がり、太い高台が付くことからIV 1 期に比定される。74 は杯蓋で、口端部は強く屈曲する。75 は壺蓋で、胎土 D 群で信濃川左岸の窯跡群産と推測される。口縁部～天井部には細い沈線が 4 条施文され、自然釉がかかる。74 は SI451 の 59 よりも小ぶりで新しい様相であるが、有台杯 A II 類の 73 があることから、SI453 の所属時期はIV 1 期と考える。

SB251 (図版 77、写真図版 64) SB251 は 8 基の柱穴で構成されており、この内 6 基の柱穴から土器が出土した。P149 出土の須恵器有台杯 (76) を図示した。口縁部片であるが A III 類と推測される。

雨落ち溝と推測される遺構が 4 基あり、SK68 出土の須恵器無台杯 (77)・杯蓋 (78)・甕 (79・80)、SK106 出土の須恵器杯蓋 (81)、SD153 出土の須恵器甕 (82) を図示した。77 は無台杯 B I 類で底部の厚みは無く、杯部は直線的に開く。78 は摘みを欠くが杯蓋 I 類であろう。口端部は強く屈曲する。80 は II 類の中型甕で、口縁端部は面をもつ。81 は口端部の屈曲は弱くはつきりしない。胎土は D 群で信濃川左岸の窯跡群産と推測される。82 の外面は平行タタキメ、内面には同心円文当て具痕が残る。

SB251 出土土器は A III 類と推測される有台杯 (76)、口端部の屈曲が弱い杯蓋 (81) があることから、IV 2・3 期の所産と考える。SK68 出土土器はIV 1～IV 2 期の所産と考える。

SB252 (図版 77、写真図版 64) SB252 は 11 基の柱穴で構成されており、この内 6 基の柱穴から土器が出土した。P191 出土の須恵器有台杯 A III 類 (83) を図示した。高台は内端接地で華奢である。周溝 SD468 出土の須恵器有台杯 (84・85)、土師器盤 (86) を図示した。84 は有台杯 X 類で、口縁部外面に沈線が 1 条施文される。85 は有台杯 A III 類と推測され、高台は細い。86 は盤で、胎土は精良、内外面とも赤彩される。

雨落ち溝と推測される遺構が 4 基あり、SK136 出土の須恵器甕 (87) を図示した。87 の外面は平行タタキメ、内面には同心円文当て具痕が残る。

SB252 出土土器は、高台が細い有台杯 A III 類 (83・85) があることから、IV 2・3 期の所産と考える。

SB828 (図版 77、写真図版 64・65) SB828 は 14 基の柱穴で構成されており、この内 12 基の柱穴から土器が出土した。P366 出土の須恵器有台杯 (88)、P383 出土の土師器鉢 (89)、P450 出土の黒色土器碗 (90)、P452 出土の土師器鉢 (91) を図示した。88 は底径が小さく、B IV 類と推測される。89 は口縁部外面に沈線が 1 条施文され、胴部下半～底部外面はロクロケズリされる。内外面とも赤彩される。90 は口縁部外面に沈線が 1 条施文される。91 は口縁部外面に沈線が 1 条施文され、内外面とも赤彩される。周溝 SD357 出土は須恵器杯蓋 (92)、黒色土器杯蓋 (93)、土師器長甕 (94) を図示した。杯蓋 92 は口端部径 14.6cm とやや小ぶりである。93 の杯蓋は内外面とも黒色処理され、丁寧なミガキが施される。94 は長甕 C 系の底部で、胴部外面に縦方向のハケメが施される。

SB828 出土土器はIV 1 期に比定されるものがある (89・91・94)。これはIV 1 期の SI65 の上に SB828 が築かれているため、SI65 の土器が SB828 の柱穴や溝に混入した結果と考えられる。よって SB828 の所属時期は、小型の有台杯 (88) や小ぶりの杯蓋 (92) があることから、IV 2・3 期と考える。

SB829 (図版 77、写真図版 65) SB829 は 9 基の柱穴で構成されており、この内 4 基の柱穴から土器が出土した。SB829-P160 出土の須恵器無台杯 (95) を図示した。A II 類か B II 類であろう。

SE278 (図版 78、写真図版 65) 須恵器無台杯 (96・97)・有台杯 (98・99)・杯蓋 (100)、土師器鉢 (101)・小甕 (102) を図示した。96・97 は無台杯 B II 類で、97 の底部外面にはヘラ書きがある。98 は有台杯 X 類で、口径 20cm の大型品である。口縁部外面に細く浅い沈線が 2 条施文される。99 は有台杯の底部で、A II 類と推測される。SI103-焼土 114 の 34 と似た器形である。100 は杯蓋で、摘みは小さなボタン状である。101 は鉢の底部で胎土は精良、切り離しは糸切りである。102 は小甕 B 系の底部で、切り離しはヘラ切りである。

SE278 出土土器は SI451 出土土器よりも須恵器無台杯が小ぶりとなり (96・97)、杯蓋の摘みが小さい (100) など新しい様相が見られることから、IV 2・3 期の所産と考える。

SE388 (図版 78、写真図版 65) 須恵器無台杯 (103)・有台杯 (104)・杯蓋 (105) を図示した。103 は無台杯

AⅡ類で、口縁部内面及び底部外縁は使用痕が顕著である。104は有台杯AⅢ類である。105は杯蓋Ⅰ類で摘みは擬宝珠形、口端部は強く屈曲する。

SE388出土土器は105がやや古い要素をもつが、小ぶりの無台杯(103)・有台杯AⅢ類(104)があることからⅣ2・3期の所産と考える。

SK29(図版78、写真図版65) 須恵器壺蓋(106)を図示した。口端部は欠損し、天井部に自然釉が厚くかかる。

SK30(図版78、写真図版65) 黒色土器碗(107)を図示した。磨耗のため判然としないが、底部外面はケズリが施される。

SK32(図版78、写真図版65) 須恵器無台杯(108)を図示した。BⅡ類で底部外面にはヘラ書き「一」がある。口径12.6cmと小ぶりで、底部は厚みがあることからⅣ2期の所産と考える。

SK48(図版78、写真図版65) 須恵器無台杯(109)、土師器小甕(110・111)を図示した。109は平底の無台杯で、外面にヘラ書きがある。110は小甕A系ⅠⅡ類で、頸部と胴部の境界に段があり、底部はないものの東北地方北部における土師器の特徴〔加藤2004〕に類似する可能性がある。111は小甕B系ⅠⅡ類で、胴部内面に楕円形の刻線がある。

SK53(図版78、写真図版65) 須恵器無台杯(112)・杯蓋(113)、土師器長甕(114)・小甕(115)を図示した。112は無台杯AⅡ類で、厚みがあることからⅣ1期に比定される。113は杯蓋Ⅱ類で、摘みは低いボタン状、口端部の屈曲は弱いことからⅤ期に比定される。114は球胴形のいわゆる「佐渡型甕」〔坂井ほか1989〕である。口縁部は「く」の字状に外反し、口縁部内面と胴部外面にはハケメ、胴部内面はハケメとナデが施される。115は小甕B系Ⅱ類で、底部外面はナデ調整である。

SK53出土土器はⅣ1期の無台杯(112)もあるが、113の杯蓋や114の佐渡型甕があることから、Ⅴ期の所産と考える。

SK74(図版78、写真図版66) 須恵器壺蓋(116)、土師器長甕(117)を図示した。116は壺蓋で、口端部は欠損する。117は長甕B系Ⅱ類で器面はやや磨耗している。

SK79(図版79、写真図版66) 須恵器有台杯(118)、土師器小甕(119)を図示した。118は有台杯Ⅹ類で、口縁部外面に浅い沈線が1条施文される。119は小甕A系の底部で、磨耗のため底部外面の調整痕は不明である。

SK85(図版79、写真図版66) 土師器小甕(120)を図示した。B系の底部で、器面は磨耗している。

SK90(図版79、写真図版66) 須恵器無台杯(121)・壺蓋(122)、土師器長甕(123)を図示した。121は無台杯AⅡ類である。122は壺蓋で外面に自然釉がかかる。123は長甕C系の底部で切り離しはヘラ切り後ナデである。

SK104(図版79、写真図版66) 須恵器有台杯(124)を図示した。底径6.0cmと小さく、BⅣ類と推測される。

SK107(図版79、写真図版66) 須恵器有台杯(125)を図示した。BⅢ類で杯部外面にヒダスキ痕が残る。Ⅴ期の所産と考える。

SK118(図版79、写真図版66) 須恵器短頸壺(126)を図示した。胴部外面には自然釉が厚くかかる。

SK131(図版79、写真図版66) 須恵器無台杯(127)・横瓶(128)を図示した。127は無台杯BⅡ類である。128は横瓶で、閉塞部付近の破片である。

SK139(図版79、写真図版66) 土師器小甕B系ⅠⅡ類(129)を図示した。口縁部内外面はロクロナデ、胴部内外面はカキメが施される。

SK145(図版79、写真図版66) 須恵器有台杯(130)・甕(131)を図示した。130は有台杯AⅡ類と推測される。131は甕で、底部付近の破片である。

SK146(図版79、写真図版66) 須恵器無台杯(132)を図示した。平底で内外面ともヒダスキ痕が残る。

SK166(図版79、写真図版66) 須恵器無台杯(133)を図示した。平底でⅤ期の所産と考える。

SK182(図版79、写真図版66) 須恵器甕(134)を図示した。底部付近の破片で、内外面とも自然釉がかかる。

SK215 (図版 79、写真図版 66) 土師器小甕 B 系 (135) を図示した。被熱のため外面は剥落している。

SK220 (図版 79、写真図版 66) 須恵器有台杯 (136)・壺・瓶類 (137)、土師器小甕 (138) を図示した。136 は底部を欠くが有台杯 A Ⅲ類であろう。137 は器種が判別できないため壺・瓶類とした。138 は小甕 B 系で胴部外面に墨書があるが、文字か記号か判別できず人面の可能性がある。

SK228 (図版 80、写真図版 66) 土師器長甕 (139) を図示した。C 系の胴上部の破片で、頸部はハケメ後ロクロナデが施される。西古志型甕である。接合せず図示していないが同一個体の口縁部小片がある。端部は外側だけやや面取りされる。胎土には海綿骨針を含む。

SK281 (図版 80、写真図版 66) 須恵器無台杯 (140・141)・杯蓋 (142)・黒色土器鉢 (143) を図示した。140 は無台杯 A Ⅱ類、141 は B Ⅱ類である。142 の杯蓋は口端部径 13.1cm と小ぶりである。143 の黒色土器鉢は口縁部外面に浅い沈線が 2 条施文される。

SK281 出土土器は無台杯が口径 13.4～13.5cm と小ぶりで (140・141)、杯蓋 (142) の口端部の屈曲が弱いことから、IV 2・3 期の所産と考える。

SK282 (図版 80、写真図版 66) 須恵器有台杯 (144) を図示した。小破片のため判然としないが、高台が太く底径も大きいので、口径 15cm を超える大型品の可能性がある。

SK285 (図版 80、写真図版 67) 須恵器有台杯 (145)・杯蓋 (146)、土師器鉢 (147)・小甕 (148)・鍋 (149) を図示した。145 の有台杯は底部に厚みがある。146 の杯蓋は口径 19cm と大型である。147 は鉢の底部で内外面とも赤彩される。148 は小甕 B 系 1 Ⅰ類で、口径 19cm と大型である。149 は鍋の把手で、先端は欠損している。SK285 出土土器は IV 1 期の所産と考える。

SK298 (図版 80、写真図版 67) 須恵器有台杯 (150・151)、土師器小甕 (152) を図示した。150 は有台杯 X 類で、口縁部外面に浅い沈線が 1 条施文される。151 は有台杯 B Ⅳ類で、底部内面には自然釉がかかり、降灰している。152 は小甕 B 系 3 Ⅱ類で、口縁部内面にはコゲが帯状に付着する。SK298 出土土器は IV 2・3～V 期の所産と考える。

SK333 (図版 80、写真図版 67) 須恵器無台杯 (153)・杯蓋 (154・155) を図示した。153 は無台杯 B Ⅱ類である。154 は摘みを欠くが杯蓋 Ⅰ類であろう。外面にはヒダスキ痕が残る。155 は杯蓋 Ⅱ類で、摘みは低い擬宝珠形、口端部は猫足状を呈する。胎土 D 群で、関川左岸の窯跡群産と推測される。SK333 出土土器は IV 2・3 期の所産と考える。

SK335 (図版 80、写真図版 67) 土師器長甕 (156) を図示した。B 系で丸底である。

SK336 (図版 80、写真図版 67) 須恵器無台杯 (157) を図示した。B Ⅱ類で IV 2・3 期の所産と考える。

SK341 (図版 80・81、写真図版 67) 須恵器無台杯 (158)、土師器無台杯 (159)・有台杯 (160)・鉢 (161)、須恵器壺蓋 (162)・甕 (163)、土師器長甕 (164)・小甕 (165～169) を図示した。158 は無台杯 B Ⅱ類である。159 は無台杯の底部で、丸底で大型である。160 は須恵器有台杯 B Ⅲ類に相当する器形である。磨耗しているが丁寧な作りで、内外面とも赤彩される。161 は土師器鉢 A 類で、口縁部外面に浅い沈線が 1 条施文される。162 は須恵器壺蓋で、外面には自然釉が部分的にかかる。163 は須恵器甕 Ⅲ類である。164 は長甕 B 系 2 類である。165 は小甕 A 系 1 Ⅱ類、166・167 は A 系 1 Ⅲ類である。167 は口縁部の屈曲がかなり緩い。168 は小甕 B 系 2 Ⅱ類で、胴部内外面はロクロナデで仕上げる。169 は小甕 B 系 3 Ⅱ類で、被熱のため胴部外面の器面が剥落している。胴部内面はケズリが施される。

SK341 出土土器は赤彩土器有台杯 (160) の器形や小甕 B 系 3 類 (169) など新しい要素をもつ土器も見られるが、底径が大きい丸底の土師器無台杯 (159) や小甕 A 系 (165～167) があることから、主体となる時期は IV 1 期と考える。

SK346 (図版 81、写真図版 67) 須恵器無台杯 (170)・杯蓋 (171)、土師器小甕 (172) を図示した。170 は無台杯 B Ⅱ類である。171 は杯蓋 Ⅰ類で摘みは低平なボタン状、口端部の屈曲は緩い。172 は小甕 B 系 2 Ⅱ類で、

口縁部内面にコゲ、外面にはススが付着する。SK346 出土土器はIV 2・3期の所産と考える。

SK350 (図版 81、写真図版 67) 土師器長甕 (173)・小甕 (174) を図示した。173 は長甕 B 系 2 類で、胴部内外面はカキメが施される。174 は小甕 B 系 1 II 類で、口縁～胴部の調整はロクロナデである。

SK352 (図版 81、写真図版 67) 土師器長甕 (175)・小甕 (176) を図示した。175 は長甕 B 系 1 類で、胴部外面はハケメ後カキメが施される。176 は小甕 A 系 1 II 類で、口縁部は短く屈曲は緩い。いずれも IV 1 期に比定される。

SK353 (図版 81、写真図版 67) 須恵器杯蓋 I 類 (177) を図示した。摘みは扁平で径が 3.8cm と大きく、口端部の屈曲がしっかりしていることから III 2 期の所産と考える。

SK356 (図版 81、写真図版 67) 須恵器杯蓋 (178)、土師器小甕 (179)・鉢 (180) を図示した。178 は摘みを欠くが杯蓋 I 類であろう。179 は小甕 A 系 1 II 類で、胴部内外面は細かいハケメが施される。180 は非ロクロ成形の鉢 B 類で、口縁部外面に沈線が 1 条施文される。

SK363 (図版 81、写真図版 67) 土師器長甕 B 系 2 類 (181) を図示した。胴部中央の外面はカキメ後ケズリが施される。IV 1 期の所産と考える。

SK400 (図版 81、写真図版 67) 須恵器無台杯 B I 類 (182) を図示した。口径は大きい器高は低く、杯部は直線的に開くことから、IV 2・3 期の所産と考える。

SK413 (図版 81、写真図版 67) 須恵器無台杯 (183) を図示した。底部の縁辺を打ち欠いている。胎土 B 群で、底部外面はヘラ切り後ロクロケズリされる。IV 3 期頃の所産と考える。

SK419 (図版 82～84、写真図版 60・68～70) 須恵器無台杯 (184～187)・有台杯 (188)・杯蓋 (189～192)・高杯 (193・194)・環状瓶 (195)・長頸瓶 (196)・壺 (197)・鉢 (198)、土師器鉢 (199)・小甕 (200～204) を図示した。184 は無台杯 A II 類、185 は B II 類、186・187 は B III 類である。184 は内面全体と外面の一部にススと油煙が付着する。185 は内面の一部に油煙が付着する。188 は有台杯 B I 類としたが、口縁部外面に強い稜線が 1 本入り、金属器を意識していると思われる。189～191 は杯蓋 I 類、192 は II 類である。190・192 の摘みはボタン状で中央が少し突出し、189・191 は擬宝珠形である。いずれも径が小さく華奢であり、口端部の屈曲も短く緩い。193・194 は高杯で、長い脚部に盤状の杯部が付く。どちらも杯部内面はロクロナデの後、中央から外側へ直線的に中心をずらしながらナデ調整を加える。195 は SK419 中央部から出土した横型の須恵器環状瓶で鳥足を模した脚が付く。完形であるが、口頸部下の胴部外周面と脚部が破損して出土した。器高 19.7cm、外径 27.1cm、内径 6.4cm である。環状の胴部に高さ 4.8cm、径 10.2cm の口頸部と、高さ 3.8cm、径 3.1cm、足裏の長さ 4.5cm、幅 5.0cm 前後の脚 3 本が付けられる。脚部は水かきが表現されていることから水鳥を模していると考えられ、全て外側を向くように接合される。いずれの脚も接合部は丁寧にナデられているため胴部から剥がれていない。右後ろ足の第 4 趾 (第 1 趾は表現されていない) 先端の割れ口には 7.2mm の粉殻圧痕が認められる。口頸部は胴部から外側へ斜めに延び、開いた口縁部は水平ではなく傾き 2 か所欠けている。口頸部中央に浅い 1 条、胴部には 2 条の沈線が認められる。胴部は粘土の接合痕跡などから板状の粘土帯を円環状に成形して接合する名村の III 類である〔名村 2017〕。4 枚の粘土帯のうち 1 枚は L 字状に折り曲げ円環状につなぎ (内周面と底部)、残りの粘土帯は外周面、その上部、さらに頂部の順に貼り合わせ断面がやや歪んだ五角形を呈する。内外面のロクロナデ成形により接合部分が不明瞭であるが、外周面には部分的にタタキ痕が残る。頂部の最後の粘土帯の接合部は口頸部より 90 度傾く。口頸部の接合をするためにヘラで径 5.0～5.5cm の楕円形の孔が開けられるが、その痕跡は口頸部を接合した後の整形もされず生々しく残る。胎土は A 群で 5～8mm 大の白い長石が目立つ。重量は約 4.0kg を測り、容量は 2.2ℓ である (口頸部を含めると 2.3ℓ)。196 は中型の長頸瓶ではほぼ完形に復元できるが、意図的に割っている可能性がある。197 は壺で、口端部はつまみ上げて面をもち、口縁部と頸部の境界は有段である。胴部中央の円形の孔 (径 1.3cm) は、胴部をロクロナデで仕上げた後に粘土を足して盛り上げてから削り出して作られており、外側に少し突出している。底部

には高台が付く。胎土はD群で、信濃川左岸の窯跡群産と推測される。ほぼ完形品であるが頸部の根本から割れており、196と同様に意図的に割っている可能性がある。198は鉄鉢形鉢で、外面はカキメ後ケズリが施される。199は鉢B類で、鍋形鉢である。器面は全体的に磨耗している。200・202は小甕B系2Ⅱ類、201はB系1Ⅱ類、203はB系1Ⅲ類としたがいずれも口端部の面取りはしっかりしていない。204は小甕B系3Ⅲ類で内面にコゲのようなものが付着するが、204以外の小甕はスス・コゲの付着が無く煮炊きには使用されなかったようだ。

SK419出土土器はⅣ1期に比定されるSI451出土土器に比べて杯類が小型化していることから、Ⅳ2・3期の所産と考える。

SK444(図版84、写真図版70) 須恵器無台杯(205)・有台杯(206)、土師器小甕(207)を図示した。205は無台杯BⅡ類である。206は有台杯AⅡ類で高台が底部の外縁よりに付く。207は小甕B系1Ⅱ類で、口縁部内面にコゲが帯状に付着する。SK444出土土器はⅣ1期の所産と考える。

SK455(図版85、写真図版71・91) 須恵器無台杯(208～210)・有台杯(211)・杯蓋(212～214)、土師器長甕(215～217)・小甕(218)を図示した。208は無台杯BⅠ類、209はAⅡ類、210はBⅡ類である。209は内外面に「十」字状のヒダスキ痕が残る。210は杯部内面にへら書きがある。211は有台杯X類で、口縁部外面に沈線が1条施文される。また杯部外面及び底部外面にはへら書きがある。213は杯蓋Ⅰ類で、摘みは低いボタン状である。214の摘みは径の小さな擬宝珠形である。215は長甕A系1類で7世紀頃の可能性がある。216は長甕A系の底部で外面に木葉痕が残る。217は長甕B系2類で、胴部外面はカキメ、内面はロクロナデが施される。218は小甕B系1Ⅱ類で、内外面ともロクロナデで仕上げる。

口径は大きい器高が低い無台杯(208～210)、有台杯X類(211)、ボタン状の低い摘みが付く杯蓋(213)があることから、SK455の所属時期はⅣ2期と考える。

SK460(図版85、写真図版71・91) 須恵器無台杯(219・220)、黒色土器短頸壺(221)を図示した。219は無台杯AⅡ類、220はBⅡ類である。220は底部外面にアルファベット「R」か漢数字の「九」のようなへら書きがある。221の短頸壺は内外面とも黒色処理され、丁寧なミガキが施される。底部外面及び高台は剥落している。SK460出土土器はⅣ2期の所産と考える。

SK462(図版85、写真図版70) 須恵器有台杯X類(222)を図示した。外面には浅い沈線が2条施文される。

SK466(図版85、写真図版70) 須恵器無台杯(223)・杯蓋(224)を図示した。223は無台杯BⅠ類である。224は摘みを欠くがⅠ類であろう。口端部の屈曲は弱い。

SK470(図版86、写真図版71) 須恵器無台杯(225)・有台杯(226)を図示した。225は無台杯BⅡ類でⅣ2・3期の所産と考える。226の有台杯は焼成不良で器面は磨耗している。

SK472(図版86、写真図版71) 須恵器無台杯(227)・有台杯(228・229)、土師器無台杯(230)、黒色土器碗(231)、須恵器甕(232・233)、土師器長甕(234)・小甕(235)を図示した。227は無台杯BⅡ類である。有台杯228・229は底部を欠くがそれぞれBⅠ類・AⅢ類と推測される。230は土師器無台杯で、底部付近の外面はケズリが施される。231は碗で、内外面とも黒色処理される。底部外面にもミガキが施されるが磨耗している。232はⅠ類の大型甕で、外面には沈線と波状文が交互に施文される。233はⅢ類の小型甕である。234は長甕B系2類である。235は小甕B系1Ⅱ類で、口縁部内面にコゲが帯状に付着する。SK472出土土器は小ぶりの無台杯(227)・有台杯(229)があることから、Ⅳ2・3期の所産と考える。

SK488(図版86・87、写真図版72・73・91) 須恵器無台杯(236)・長胴瓶(237)・横瓶(238)・甕(239)を図示した。236は無台杯AⅡ類でⅣ2・3期の所産と考える。237は壺・瓶類で、底部内外面には爪形圧痕と思われる痕跡が数か所ある。238の横瓶はほぼ完形で、胴部の長さは30.1cmである。両面閉塞で、口縁部内面の中央には漢字の草冠のようなへら書きがある。239はⅠ類の大型甕である。廃棄された状態で出土し(破片数1,650片、総重量は30,165g)、小破片は接合できなかつたため胴部を部分的に欠くが底部まで復元した。胎土

はA群である。外反する口縁部の端部は上方と横に摘まれ、直下に突帯が1条巡る。突帯下には6条の波状文が一部重なるものの、下、上の順で2段施される。外面は平行タタキメの後、胴部には横位に全周しないカキメ状のハケメが何度も広範囲に施され、底部には縦位にハケメが認められる。タタキメ凹部の木目方向から工具の刻みが斜めであったことが推測される。ハケメ一単位の最大幅と木目は、胴部で2.5cmに12条、底部では4.7cmに22条であり、胴部の幅が狭いため同一工具か否かは明瞭でない。また、ハケメの新旧は不明である。内面は、口頸部にカキメ状のハケメが施され、胴部から底部には同心円状の当て具痕がみられる。胴部の最大径より下にはハケメが縦・横・斜位に施されるが、底部に向かうほど縦位が目立つ。胴・底部で同一工具を使用し、ハケメの最大幅3.5cmで木目は16条である。さらに、口頸部から胴部にかけての屈曲した接合部分の外面には、布の圧痕が最大幅7.0cmほどみられる。布そのものか圧痕に貼り付けた粘土が剥落した部分などで観察され、ほぼ全周に布が巻かれていたようである。接合か補修の際に乾燥を防ぐために使用された痕跡と考える。布目圧痕のある須恵器は、上越市の滝寺古窯跡群〔小田ほか2006〕や加茂市鬼倉遺跡〔伊藤2001〕、新潟市道正遺跡などでも出土している。新潟市岡崎遺跡の土師器小甕に認められる布圧痕などから土器製作時の布の活用が指摘されている〔新潟市文化財センター2023〕。なお、実測図断面の内側ラインから3Dモデルを作成して計測した口縁部までの容量は約190ℓである。

SK499 (図版88、写真図版74) 土師器長甕B系3類(240)を図示した。胴上半部の内面は磨耗のため調整は不明であるが、胴下半部の内面はハケメと当て具痕がわずかにみられる。V期の所産と考える。

SK530 (図版88、写真図版74) 須恵器無台杯(241)を図示した。AⅡ類でIV2・3期の所産と考える。

SK532 (図版88、写真図版74) 須恵器無台杯(242・243)を図示した。242はAⅢ類で胎土B群で、243はAⅢ類で胎土C群である。いずれもロクロ回転方向は左で、V期の所産と考える。

SK533 (図版88、写真図版74) 土師器長甕B系3類(244)を図示した。胴外面上半部はカキメとケズリが施され、下半部にはタタキメと内面上半部はカキメが施され下半部には当て具痕が残る。V期の所産と考える。

SK543 (図版88、写真図版74) 土師器壺蓋(245)・短頸壺(246)・小甕(247)・鍋(248)を図示した。245の摘みは擬宝珠形で口端部はやや面をもつ。内面の一部は還元され褐灰色を呈する。246は口縁部内面の一部が還元され褐灰色を呈する。肩部には沈線が2条施文され、肩部及び底部付近は横方法のミガキ、胴部中位は縦方向のミガキが施される。245・246とも外面は赤彩される。247は小甕B系Ⅲ類で、底部切り離しは糸切りである。外面にはわずかにススが付着している。248は鍋B系4類で、胴上半部はロクロナデ、下半部外面はケズリ・タタキメ、内面には当て具痕が残る。SK543出土土器はIV2・3～V期の所産と考える。

SK546 (図版89、写真図版74・75) 須恵器無台杯(249)・有台杯(250)・杯蓋(251・252)、土師器長甕(253～255)・小甕(256)を図示した。249は無台杯BⅡ類でIV2・3期に比定される。250は口縁部を欠くが有台杯BⅣ類と推測され、胎土B群でV期に比定される。251は杯蓋Ⅱ類と推測される。252は杯蓋Ⅱ類で、摘みは小さな擬宝珠形、口端部の屈曲はかなり緩い。251・252ともIV2・3期に比定される。253は長甕B系2類でロクロナデ・カキメの後にハケメやケズリが施される。254・255は長甕B系1類で、255の胴部内面はロクロナデが施される。256は小甕B系Ⅱ類で口縁端面がわずかに窪む。SK546出土土器は249～252や256のように新しい要素をもつ土器が出土していることから、IV2・3～V期の所産と考える。

SK547 (図版89、写真図版75) 須恵器有台杯(257)を図示した。BⅠ類で胎土はD群、信濃川左岸の窯跡群産と推測される。底部外面はロクロケズリされる。

SK553 (図版89、写真図版75) 須恵器無台杯(258～260)、土師器長甕(261)を図示した。258は無台杯BⅠ類で、杯部は直線的に開く。259は無台杯BⅡ類、260はAⅡ類である。260の内外面にはヒダスキ痕が残る。261は長甕B系2類である。SK553出土土器はIV2期の所産と考える。

SK576 (図版89、写真図版75) 須恵器無台杯(262)を図示した。BⅡ類で胎土はB群、V期に比定される。

SK581 (図版89、写真図版75) 土師器無台碗(263)を図示した。内外面とも磨耗している。

SK584 (図版 89、写真図版 75) 須恵器無台杯 (264)、土師器無台碗 (265)・鉢 (266) を図示した。264 は無台杯 B Ⅲ類で胎土 C 群であるが、ロクロ回転方向は左である。V 期に比定される。265 は無台碗で底部外面はナデ調整である。266 は小型の鉢 C 類で、台は付かない。非ロクロ成形で内面はナデ、外面はナデとハケメが施される。

SK585 (図版 90、写真図版 75) 土師器小甕 B 系 2 Ⅱ類 (267) を図示した。胴部内外面は磨耗している。

SK589 (図版 90、写真図版 75) 須恵器無台杯 (268・269)・有台杯 (270)・杯蓋 (271)、土師器長甕 (272)・小甕 (273) を図示した。268 は無台杯 A Ⅰ類、269 は B Ⅰ類である。270 は有台杯 A Ⅱ類で高台が底部の外縁近くに付く。271 は杯蓋で外面にヒダスキ痕が残る。口端部の屈曲は弱い。272 は磨耗が著しくハケメは残存していないが長甕 C 系 1 類とした。273 は小甕 B 系 1 Ⅰ類で、口縁部内面にコゲが帯状に付着している。SK589 出土土器は 271 がやや新しい様相であるが、主体となるのは IV 1 期と考える。

SK602 (図版 90、写真図版 75) 須恵器無台杯 (274) を図示した。B Ⅱ類で胎土は D 群、信濃川左岸の窯跡群産と推測される。外面にヒダスキ痕が残る。底部の外縁は使用により磨滅している。

SK616 (図版 90、写真図版 75) 土師器小甕 (275) を図示した。A 系 1 Ⅱ類で口縁部は短い。被熱のため器面は全体的に剥落しており、胴部内面と底部外面の調整は不明である。

SK617 (図版 90、写真図版 76) 土師器長甕 A 系 1 類 (276) を図示した。内外面ともヨコナデとハケメが施される。

SK624 (図版 90、写真図版 76) 土師器長甕 (277) を図示した。B 系 1 類で外面にはタタキメが残る。

SK631 (図版 90、写真図版 76) 須恵器無台杯 (278)・杯蓋 (279)、土師器有台杯 (280) を図示した。278 は無台杯 B Ⅱ類で IV 2・3 期に比定される。279 は杯蓋 Ⅱ類で胎土は B 群、V 期の所産と考える。280 は土師器有台杯で、内面には漆が付着する。

SK647 (図版 90、写真図版 76) 土師器無台碗 (281)・鍋 (282) を図示した。281 の器面は内外面とも磨耗している。282 は鍋 B 系 5 類で、胴部内面は磨耗しているが下半部に当て具痕が残る。VI 期の所産と考える。

SK654 (図版 90、写真図版 76) 土師器長甕 (283)・小甕 (284) を図示した。283 は長甕 B 系 2 類でタタキ成形、丸底である。284 は小甕 B 系で底部内面にカキメがらせん状に施される。

SK658 (図版 91、写真図版 76) 土師器長甕 (285) を図示した。B 系 2 類で胴部外面はタタキメの後に部分的にナデが施される。

SK668 (図版 91、写真図版 76) 須恵器無台杯 (286) を図示した。B Ⅱ類で IV 2・3 期の所産と考える。

SK674 (図版 91、写真図版 76) 須恵器杯蓋 (287)、土師器無台碗 (288) を図示した。287 は杯蓋 Ⅱ類で、摘みは小さなボタン状である。288 は無台碗で内外面ともススが付着する。287・288 は V 期の所産と考える。

SK680 (図版 91、写真図版 76) 須恵器有台杯 (289)・折縁杯 (290) を図示した。289 の底部外面にはヘラ書きがある。290 の内面には「キ」字状のヒダスキ痕が残る。底径の小さな有台杯 (289) と折縁杯 (290) があることから、SK680 の所属時期は IV 2・3 期と考える。

SK689 (図版 91、写真図版 76) 須恵器有台杯 (291) を図示した。B Ⅱ類で内外面とも器面が剥落するように割れている。胎土は B 群で、V 期の所産と考える。

SK690 (図版 91、写真図版 76) 須恵器有台杯 (292)・横瓶 (293) を図示した。292 は有台杯 A Ⅱ類で、底径がやや小さいことから IV 2 期の所産と考える。293 は横瓶で、内面の当て具痕の中に木目がみられる。

SK691 (図版 91、写真図版 76) 須恵器有台杯 B Ⅱ類 (294) を図示した。胎土 B 群で、V 期の所産と考える。

SK698 (図版 91、写真図版 76) 須恵器有台杯 (295) を図示した。底部外面はロクロケズリされ、ヒダスキ痕のような痕跡がある。底径が大きく高台が太いことから、Ⅲ期頃の所産と考える。

SK699 (図版 91、写真図版 77) 須恵器折縁杯 (296) を図示した。高台及び内面は磨滅している。IV 2・3 期の所産と考える。

SK700 (図版 91、写真図版 77) 須恵器無台杯 (297) を図示した。B Ⅲ類で胎土 C 群だが、ロクロ回転方向は

左である。V期の所産と考える。

SK706 (図版 91、写真図版 77) 土師器鍋 B 系 4 類 (298) を図示した。胴部外面の上半はカキメ、下半はケズリが施される。VI期の所産と考える。

SK708 (図版 91、写真図版 77) 須恵器有台杯 (299) を図示した。高台の大きさと底部周縁を打ち欠いて円板状にしている。底径が小さいことからIV 2・3期の所産と考える。

SK721 (図版 91、写真図版 77) 須恵器杯蓋 (300) を図示した。I 類でIV 1期の所産と考える。

SK722 (図版 91、写真図版 77・91) 土師器鉢 C 類 (301) を図示した。手づくね成形で台が付く。底部には径10mmの円形の孔が水平方向に貫通する。内面には種子の圧痕があり、全面ナデ調整である。

SK723 (図版 92、写真図版 77) 須恵器壺・瓶類 (302) を図示した。口縁部は有稜で内外面に自然釉がかかる。礎である可能性も考えられる。

SK741 (図版 92、写真図版 77) 土師器無台碗 (303) を図示した。器面は内外面とも磨耗している。

SK746 (図版 92、写真図版 77) 須恵器有台杯 (304) を図示した。深身の有台杯 B II類と推測される。

SK781 (図版 92、写真図版 77) 須恵器杯蓋 III類 (305) を図示した。内面に重ね焼きの痕跡がある。摘みはボタン状で、IV 2・3期の所産と考える。

SK785 (図版 92、写真図版 77・91) 須恵器長頸瓶 (306) を図示した。小型で高台は剥落している。肩部上の外面に沈線 2 条とヘラ書き「×」が施される。

SK802 (図版 92、写真図版 77) 須恵器杯蓋 (307・308)、黒色土器杯蓋 (309) を図示した。307・308 は杯蓋 I 類で、口端部の屈曲は弱い。309 の杯蓋は内外面とも黒色処理され、丁寧なミガキが施される。SK802 出土土器はIV 2・3期の所産と考える。

焼土 374 (図版 92、写真図版 77) 須恵器無台杯 (310)、土師器小甕 (311) を図示した。310 は無台杯 B I 類である。311 は小甕 B 系 I II類で、胴部内外面はカキメが施される。

焼土 454 (図版 92、写真図版 77) 土師器長甕 (312) を図示した。B 系 I 類で、胴部外面はケズリが施される。

SX3 (図版 92、写真図版 77) 須恵器杯蓋 (313～315)、土師器無台杯 (316)・鍋 (317) を図示した。313・314 は杯蓋 I 類で、313 は口端部径と摘み径が大きくIV 1期に比定される。314 は歪みが著しく、天井部には自然釉が全く認められない部分があり、重ね焼きの痕跡かもしれない。IV 2・3期に比定される。315 は杯蓋 II 類で、V期に比定される。316 は土師器無台杯である。317 は鍋 B 系 3 類でIV 2・3～V期の所産と考える。

SX31 (図版 92、写真図版 77) 黒色土器杯 (318)、土師器長甕 (319)・小甕 (320) を図示した。318 は杯で、内面は丁寧なミガキが施され黒色処理される。319 は長甕 B 系の底部で、内外面とも磨耗しているがタタキメと当て具痕がわずかに残る。320 は小甕 A 系 I I 類で、口縁部外面は指おさえて仕上げている。

SX37 (図版 92、写真図版 78) 須恵器無台杯 (321)・有台杯 (322) を図示した。321 は無台杯で平底である。322 は有台杯 A II類で、やや小ぶりであることからIV 2・3期の所産と考える。

SX38 (図版 92、写真図版 78) 須恵器無台杯 (323) を図示した。厚みのある平底である。

SX62 (図版 92・93、写真図版 78) 須恵器無台杯 (324)・杯蓋 (325・326)・甕 (327) を図示した。324 は無台杯 A II類で口縁部内外面に油煙が付着する。IV 1～IV 2期の所産である。325 は杯蓋 I 類でIV 2・3期、326 は小さな摘みが付くことからV期の所産と考える。327 は甕の胴下半部の破片である。

SX63 (図版 93・94、写真図版 78・79・91) 須恵器無台杯 (328～337)・有台杯 (338～340)・杯蓋 (341～346)・高杯 (347)・甕 (348)、土師器小甕 (349～351) を図示した。328・333・335 は無台杯 B II類、329～332・334・336・337 は A II類である。332 は内外面にヒダスキ痕が残る。334 のヘラ書きはアルファベット「R」か漢数字「九」のように見え、SK460 の 220 のヘラ書きに似ている。330 は身が深いことから III 期、328・329・331～334 はIV 1期、335～337 は小ぶりであることからIV 2・3期に比定される。338・339 は有台杯 A II類で、338 はIV 2期、339 はIV 1期に比定される。340 は有台杯 B III類でV期の所産と考

える。底部外面には「×」のヘラ書きがある。341～344は杯蓋Ⅰ類、345はⅡ類である。341はⅣ2・3期、342～344はⅣ1期、345はⅤ期の所産と考える。346の杯蓋は内面に3点の記号墨書「○」が並ぶ。347は高杯で内面はロクロナデの後にナデ調整を加える。348はⅢ類の小型甕で、口縁部は直立する。底部外面は指頭押圧とナデ調整で仕上げ、ヘラ書き「×」が認められる。349は小甕A系ⅠⅡ類で、胴部内外面はハケメとナデ調整である。350は小甕B系2Ⅱ類で、口縁部内面にコゲが帯状に付着する。351は小甕A系の底部で底部外面はケズリが施される。

SX63出土土器は340・341・345のようにⅣ2・3～Ⅴ期の資料があるが、主体となる時期はⅣ1期と考える。

SX64 (図版94・95、写真図版79・80) 須恵器無台杯(352・353)・有台杯(354・355)、土師器無台碗(356)・鉢(357)・長甕(358～361)・小甕(362～364)・鍋(365～368)を図示した。352は無台杯AⅡ類で、Ⅳ2・3期に比定される。353は底径の小さな平底の無台杯である。354は有台杯AⅡ類で杯部外面下半はロクロケズリされており、Ⅳ1期の所産と考える。355は有台杯AⅢ類でⅣ2・3期に比定される。356は無台碗でⅤ期以降のものである。357は鉢B類で非ロクロ成形である。358は長甕C系2類で西古志型である。359・360は長甕B系2類で、359の胴部外面にはタタキメが残る。360は内外面とも残存部はロクロナデで仕上げている。361は長甕A系の底部で、外面には木葉痕が残る。362は小甕A系の底部で、胴部～底部外面はケズリが施される。363は小甕A系ⅠⅡ類で、胴部外面は被熱のため器面が剥落している。364は小甕B系ⅠⅡ類で、胴部内面はカキメとナデが施される。365は鍋C系2類で西古志型である。胴部外面はハケメ、内面はカキメが施される。366～368は鍋B系2類で、366・368の胴部は膨らみがあるが、367は膨らみが無く直線的に開く器形である。

SX64出土土器はⅣ1期の資料があるが(354)、主体となる時期はⅣ2・3期と考える。356はⅤ期以降のもので、混入かもしれない。

SX66 (図版95、写真図版80) 須恵器無台杯(369)・有台杯(370～372)、土師器無台杯(373)を図示した。370・371は有台杯AⅡ類で370はⅣ1期、371はⅣ2期に比定される。372は有台杯BⅢ類で、胎土B群でⅤ期に比定される。373は無台杯で、内外面とも赤彩痕がわずかに確認できる。

SX66出土土器は372がⅤ期に比定されるが、主体となる時期はⅣ1期と考える。

SX70 (図版95・96、写真図版80・81) 須恵器無台杯(374・375)・有台杯(376・377)・横瓶(378)・長頸瓶(379)・壺蓋(380)を図示した。374は無台杯BⅠ類、375はAⅡ類で、375の外面にはヒダスキ痕が残る。376は有台杯X類で、外面に3条の沈線が施文される。377は有台杯AⅡ類で、小ぶりであることからⅣ2期の所産と考える。378は横瓶で閉塞痕が残る。胴部外面には自然釉が筋状にかかる。379は大型の長頸瓶で、内外面に自然釉がかかる。380は壺蓋で口端部は外傾し、外面に自然釉がかかる。

SX70出土土器の主体となる時期はⅣ1期と考える。

SX124 (図版96、写真図版81) 須恵器無台杯(381～385)・有台杯(386・387)・杯蓋(388)、土師器鉢(389)、黒色土器壺蓋(390)、須恵器甕(391)を図示した。381・384は無台杯BⅡ類、382はAⅡ類である。381の内外面にはヒダスキ痕が残る。385は厚みのある無台杯底部である。386・387は有台杯AⅡ類で、どちらもⅣ1期に比定される。388は杯蓋Ⅰ類でⅣ2・3期の所産と考える。389は鉢で、口縁部外面に浅い沈線が1条施文される。内外面とも赤彩されるがかなり磨耗している。390は壺蓋で内外面とも黒色処理され、推定径4mmの円形の孔が1か所ある。391は須恵器甕で底部付近の破片である。

SX124出土土器はⅣ2・3期に比定されるものもある(384・388)が、主体となる時期はⅣ1期と考える。

SX125 (図版96～98、写真図版81・82・91) 須恵器無台杯(392～395)・有台杯(396～399)・杯蓋(400～402)、土師器無台杯(403)・有台杯(404)、黒色土器杯蓋(405)、土師器鉢(406)・長甕(407)・小甕(408～412)・鍋(413)、須恵器甕(414)を図示した。392・394は無台杯AⅡ類、393はBⅡ類、395はAⅠ類である。392はⅣ1期に比定され、口縁部内外面にはススと油煙が部分的に付着する。393の底部外面にはヘラ

書きがある。395の底部外面には墨書があるが、判然としない。底部は厚みがあり、Ⅲ期に比定される。396は有台杯AⅡ類でⅣ1期、397の底部外面にはヘラ書き「一」がありAⅢ類でⅣ2・3期と考える。398は有台杯BⅣ類で、Ⅴ期に比定される。399は有台杯X類で、口縁部外面に沈線が1条施文される。内外面とも著しく磨耗している。400・401は杯蓋Ⅰ類、402はⅡ類である。400はⅣ1～Ⅳ2期、401・402は低いボタン状の摘みが付くことからⅣ2・3期に比定される。403は土師器無台杯で、胎土は精良で丁寧な作りである。404は土師器有台杯で、高台の一部にススが附着する。405は黒色土器杯蓋で口端部内外面～天井部内面は黒色処理され、ミガキが施される。406は鉢A類で、胴部は内湾気味に立ち上がり、口縁部外面に浅い沈線が1条施文される。407は長甕C系1類で、胴部外面は縦方向のハケメが施される。408・409は小甕A系の底部で、408は胴部下半～底部外面にケズリが施される。409の底部外面はナデ調整である。410は小甕B系1Ⅱ類、411はB系3Ⅱ類で、411の胴部外面は被熱のため剥落している。胴部内面はハケメが施される。412は小甕B系の底部で、底部の切り離しはヘラ切りである。器面は全体的に磨耗している。413は鍋A系1類で、平底である。胴部下半～底部外面はケズリが施される。414はⅡ類の中型甕で、外面と胴部下半の内面には自然釉がかかる。

SX240(図版98、写真図版81) 須恵器無台杯BⅡ類(415)を図示した。口径12.4cmと小ぶりであることからⅣ2・3期の所産と考える。

SX283(図版98・99、写真図版83) 須恵器無台杯(416～419)・有台杯(420・421)・杯蓋(422)・稜椀(423)、土師器無台杯(424～426)、土師器鉢(427)、須恵器長頸瓶(428)、土師器小甕(429・430)を図示した。416は無台杯BⅡ類、417・419はAⅡ類、418はBⅠ類である。418は底部外面に板目圧痕が残る。416～418はⅣ1期、419はⅣ2・3期に比定される。420は有台杯X類で、杯部外面には細い沈線が2条施文される。421は有台杯AⅢ類で、打ち欠きによるものか底部には径6mmの円形の痕跡が認められる。Ⅳ2・3期に比定される。422は杯蓋Ⅰ類で、摘みはシャープな作りの擬宝珠形で、口端部は強く屈曲する。423は稜椀で、口縁部と稜線の下に沈線が施文される。424～426は土師器無台杯で、424はⅣ2・3期に比定される。425は杯部外面下半～底部外面はロクロケズリされ、内外面とも赤彩される。Ⅳ2・3期に比定される。426は小型で深身である。427はロクロ成形の土師器鉢A類で、胴部中位に稜をもつ。428は小型の長頸瓶で、底部外面にはヘラ書きがある。429は小甕B系2Ⅱ類、430は小甕A系1Ⅱ類で、430は被熱のため器面が荒れている。

SX283出土土器はⅣ1期に比定されるものがある(416～418・420・422・423)が、主体となる時期はⅣ2・3期と考える。

SX365(図版99、写真図版83) 黒色土器高杯(431)を図示した。杯部内面は黒色処理される。Ⅳ1期の所産と考える。

SX406(図版99、写真図版83) 土師器小甕(432)を図示した。B系1Ⅱ類で、胴部外面は被熱のため器面が剥落している。

SX407(図版99、写真図版83) 須恵器杯蓋(433)・高杯(434)、土師器長甕(435)・鍋(436)を図示した。433は杯蓋Ⅰ類で摘みは低平な擬宝珠形、口端部径が小さいことからⅣ2期の所産と考える。434は高杯の脚部で、胎土D群で関川左岸の窯跡群産と推測される。435は長甕B系2類、436は鍋B系2類で、436の胴部内面はカキメが施される。

SX411(図版99、写真図版83) 須恵器無台杯(437)、土師器鉢(438)を図示した。437は底部の縁辺を打ち欠いている可能性がある。底部はやや薄く、Ⅳ2・3期に比定される。438は鉢で、口縁部は外反する。ロクロ成形で内外面とも赤彩されるが全体的に磨耗している。

SX415(図版99、写真図版83) 須恵器無台杯(439～441)・有台杯(442)・甕(443・444)を図示した。439・441は無台杯BⅡ類で、440は底部外面にヘラ書きがある。442は有台杯AⅡ類で、Ⅳ1期に比定される。443はⅠ類の大型甕で、口縁部外面に波状文が施される。444はⅡ類の中型甕である。

SX416 (図版 99、写真図版 83) 須恵器杯蓋 (445)、土師器小甕 (446) を図示した。445 は杯蓋Ⅱ類で摘みは小さなボタン状で、Ⅴ期に比定される。446 は小甕 B 系 1 Ⅱ類で、口縁部内面にコゲが帯状に付着し、外面には吹きこぼれによるものか帯状にコゲがついている。

SX421 (図版 99・100、写真図版 84) 須恵器無台杯 (447)・有台杯 (448)・高杯 (449)・甕 (450) を図示した。447 は無台杯 B Ⅱ類で、底部外面にヘラ書きがある。448 は有台杯 A Ⅱ類で、Ⅳ 2 期の所産と考える。449 は高杯で、脚部が短いタイプである。450 はⅠ類の大型甕で、長い口頸部の外面には波状文が施される。

SX425 (図版 100・101、写真図版 84・91) 須恵器無台杯 (451～455)・有台杯 (456)、土師器無台杯 (457)・有台杯 (458)、須恵器壺蓋 (459)、土師器長甕 (460)・小甕 (461～464) を図示した。451・453・455 は無台杯 B Ⅱ類、452 は A Ⅱ類、454 は B Ⅲ類である。451・452 は底部外面にヘラ書きがある。452 のヘラ書きは SI451 の 49 に似ている。454 は杯部外面下半にケズリが施され、底部外面はロクロケズリされる。455 は底部内面に漢数字「七」のようなヘラ書きがある。456 は有台杯 A Ⅱ類で、太い高台が付く。457 は小型で深身の土師器無台杯で、底部外面は直線的なケズリが施される。458 は土師器有台杯で、磨耗が著しく高台は剥離している。459 は壺蓋で、天井部はヘラ切り後ロクロナデが施される。460 は長甕 A 系 1 類で、胴部外面は縦方向、内面は横方向のハケメが施される。461・462 は小甕 A 系 1 Ⅱ類で、462 の胴部外面は被熱のため器面が荒れている。463 は小甕 B 系、464 は B 系 1 Ⅱ類で、どちらも底部外面の調整はナデである。

SX425 出土土器はⅣ 1 期の所産と考える。

SX469 (図版 101、写真図版 85・91) 須恵器無台杯 (465～469)・有台杯 (470)・杯蓋 (471・472)、土師器無台杯 (473)、黒色土器碗 (474)、須恵器高杯 (475)・壺蓋 (476)・壺 (477)、土師器長甕 (478・479)・小甕 (480・481)・鍋 (482) を図示した。465 は無台杯 A Ⅱ類、466～469 は B Ⅱ類で、465～467 はⅣ 1 期に比定される。468・469 はⅣ 2・3 期で、469 の底部切り離しは糸切りである。470 は有台杯 A Ⅱ類で、Ⅳ 1 期に比定される。471 は杯蓋Ⅰ類で、口端部の屈曲は弱い。472 も口端部の屈曲が弱く、471・472 はⅣ 2・3 期に比定される。473 は無台杯で、胎土は精良で内外面とも赤彩される。474 は黒色土器碗で、口縁部外面には沈線が 1 条施文される。475 は高杯で、脚部が短いタイプと推測する。476 は小型の壺蓋で、外面にはヘラ書きがある。477 は口頸部が残存していないため、壺・瓶類とした。器壁は厚く、底面の調整は明瞭でない。内面の一部に、黒色の付着物が認められる。478 は長甕 B 系 2 類で、口縁端部はわずかに窪む。479 は長甕 C 系 1 類で、器面は全体的に磨耗している。480 は小甕 B 系 1 Ⅱ類、481 は B 系 2 Ⅰ類で、どちらも口縁部内面にコゲが帯状に付着する。

SX469 出土土器はⅣ 1 期のものもある (465～467・470) が、主体となる時期はⅣ 2・3 期と考える。

SX476 (図版 102、写真図版 85) 須恵器無台杯 (483・484)・有台杯 (485～488) を図示した。483・484 は無台杯 B Ⅱ類で、483 は口縁部がかなり外傾しておりⅥ期まで下ることも考えられる。486 は有台杯 A Ⅲ類、485 も口縁部を欠くが A Ⅲ類と推測される。487 は有台杯 B Ⅰ類で、杯部内外面には部分的にススと油煙が付着する。484～488 はⅣ 2・3 期の所産と考える。

SX482 (図版 102、写真図版 85) 須恵器有台杯 (489) を図示した。B Ⅰ類で、Ⅳ 2 期に比定される。

SX509 (図版 102、写真図版 85) 須恵器無台杯 (490)・杯蓋 (491)、土師器小甕 (492) を図示した。490 は無台杯 A Ⅲ類、491 は杯蓋Ⅱ類で、どちらもⅤ期に比定される。492 は小甕 B 系 1 Ⅱ類で、胴部内面は被熱のため器面が荒れている。

SX613 (図版 102、写真図版 85) 須恵器有台杯 (493) を図示した。A Ⅰ類で口径が大きく、高台は底部の外側に付く。Ⅲ期の所産と考える。

SD54 (図版 102、写真図版 85) 須恵器無台杯 (494)、土師器小甕 (495) を図示した。494 は無台杯 A Ⅱ類で、Ⅳ 2・3 期の所産と考える。495 は小甕 B 系 1 Ⅰ類で、胴部外面はロクロナデで仕上げる。

SD343 (図版 102、写真図版 85) 土師器甌 (496) を図示した。ロクロ成形で外面にはタタキメが残る。

SD397 (図版 102、写真図版 85) 須恵器無台杯 (497) を図示した。B II類でV期の所産と考える。底部外面にはヘラ書きと思われる刻線がある。

SD420 (図版 102・103、写真図版 86・87・91) 須恵器無台杯 (498～504)・有台杯 (505～513)・杯蓋 (514～516)、黒色土器短頸壺 (517)、須恵器壺蓋 (518)、鉢 (519)・甕 (520)、土師器長甕 (521・522)・小甕 (523・524) を図示した。498は無台杯 B I類、499・501・502は A II類、500は B II類で、いずれも IV 1期の所産と考える。501の口縁部外面には粉圧痕がある。506は有台杯 B I類、507・508・510は A II類で、506は IV 2・3期、507・510は IV 1期に比定される。508はかなり太い高台が底部の外縁付近に付き、III期の所産と考える。底部外面には記号墨書「○」が4点並び、SX63の346と似ている。509・512は有台杯 B III類、511は B IV類で、いずれも IV 2・3期に比定される。513は X類で SD420 を中心に広範囲から出土し、図上復元している。口径が大きく深身であり IV 1期と考える。514・515は杯蓋 I類で IV 1期、516は II類で IV 2・3期に比定される。517は黒色土器短頸壺で、胴部内面の器面は剥落している。518は須恵器壺蓋で摘みは小さな擬宝珠形である。天井部には沈線が2条施文される。519は頸部がくびれ口縁部が外傾する鉢である。520は II類の中型甕である。521・522は長甕 B系 2類である。523は小甕 B系 3 II類で、口縁部内面にコゲが帯状に付着し、胴部内面に粉圧痕がある。524は小甕 B系の底部で、切り離しはヘラ切りである。

SD420からは IV 1期と IV 2・3期の2時期の土器が出土していることから、IV 1～IV 2・3期の間、溝が機能していたと推測される。

SD477 (図版 104、写真図版 87) 須恵器無台杯 (525・526)・有台杯 (527)・壺蓋 (528・529)、土師器長甕 (530) を図示した。525は無台杯 B III類、526は B II類で、どちらも胎土 B 群で V期に比定される。527の高台は剥離しているが、有台杯 A III類と推測される。底部の割れ口は砥面のように平滑で、砥石として再利用されていたと推測される。時期は IV 2・3期に比定される。528・529は壺蓋で、528の口端部は内側に屈曲する。529は胎土 B 群で V期に比定される。530は長甕 B系 2類である。

SD515 (図版 104、写真図版 87・91) 須恵器無台杯 (531・532)・杯蓋 (533・534)、土師器無台碗 (535・536)・小甕 (537・538) を図示した。531・532は無台杯 B II類で胎土 B 群である。どちらも V期に比定されるが、531は底部外面がロクロケズリされており古相を呈する。534は杯蓋 I類で、IV 2・3～V期の所産と考える。535・536の無台碗は VI期に比定され、535の口縁部内外面にはススが付着する。537は小甕 A系 2 II類で、西古志型である。胴部外面はハケメ、内面はカキメが施される。538は小甕 B系 3 II類で、底部外面はナデ調整で粉圧痕が残る。

SD525 (図版 104、写真図版 87) 須恵器無台杯 (539) を図示した。胎土 B 群で V期に比定される。

SD531 (図版 104、写真図版 87) 須恵器無台杯 (540) を図示した。B II類で V期に比定される。底部外面にはヘラ書きがある。底部外縁は使用により磨滅している。

SD537 (図版 104、写真図版 87) 土師器鍋 (541) を図示した。B系 2類で、器面はかなり磨耗している。胴部外面下方はケズリが施され、口縁部外面に粉圧痕がある。VI期の所産と考える。

SD538 (図版 104、写真図版 87) 須恵器無台杯 (542) を図示した。A II類で IV 2・3期に比定される。

SD592 (図版 104、写真図版 87) 須恵器杯蓋 (543)、土師器小甕 (544) を図示した。543は摘みを欠くが杯蓋 II類であろう。V期の所産と考える。544は小甕 B系 2 II類で、口縁部内面にコゲが帯状に付着する。

SD651 (図版 104、写真図版 87) 須恵器無台杯 (545) を図示した。口縁部を欠くが B III類と推測され、V期に比定される。

SD652 (図版 104、写真図版 87) 546は底部中央を欠くため、器種は不明である。底部内面は平らで、底面は高台が付くように見えるため、須恵器有台杯 X類の可能性もある。外面には細かい沈線が3条施文され、やや歪んでいる。胎土 B 群で V期の所産と考える。

SD673 (図版 104、写真図版 87) 須恵器杯蓋 II類 (547) を図示した。歪みが著しい。V期の所産と考える。

- P183 (図版 105、写真図版 88) 須恵器無台杯 (548) を図示した。B II 類である。
- P184 (図版 105、写真図版 88) 須恵器無台杯 (549) を図示した。口縁部を欠くが B II 類と推測される。
- P212 (図版 105、写真図版 88) 須恵器無台杯 (550) を図示した。549 と同様に B II 類と推測される。
- P393 (図版 105、写真図版 88) 須恵器無台杯 (551)・杯蓋 (552) を図示した。551 は無台杯 B I 類で、IV 1 期に比定される。底部外面には「×」のようなヘラ書きがある。552 は杯蓋 I 類で、IV 2・3 期に比定される。
- P414 (図版 105、写真図版 88) 須恵器無台杯 (553)・有台杯 (554) を図示した。553 は無台杯 B II 類で、IV 2・3 期に比定される。554 は有台杯 B III 類で、V 期に比定される。
- P434 (図版 105、写真図版 88) 土師器小甕 (555) を図示した。B 系 3 II 類で、胴部はやや下膨れである。
- P437 (図版 105、写真図版 88) 須恵器無台杯 A III 類 (556) を図示した。杯部外面はケズリが施され、底部外面はロクロケズリされる。
- P448 (図版 105、写真図版 88) 須恵器杯蓋 (557) を図示した。大型で、天井部に沈線が 2 条施文される。高杯である可能性も考えられる。
- P489 (図版 105、写真図版 88) 土師器無台椀 (558)・小甕 (559) を図示した。559 は小甕 B 系 3 II 類で、底部外面の調整はナデである。558・559 はどちらも V 期の所産と考える。
- P528 (図版 105、写真図版 88) 土師器小甕 B 系 3 III 類 (560) を図示した。全体的に磨耗しているため内外面ともスス・コゲみられない。IV 2・3～V 期の所産と考える。
- P551 (図版 105、写真図版 88) 土師器長甕 (561・562) を図示した。561・562 は長甕 B 系 1 類で、561 は胴上半内外面ともカキメ、下半外面はケズリ、内面は縦方向のハケメが施される。562 の胴部外面にはヘラ書きがある。561・562 は IV 1 期の所産と考える。
- P587 (図版 105、写真図版 88) 須恵器短頸壺 (563) を図示した。焼成時、口縁部に乗せていた壺蓋が破損してずれてしまったためか、外面の自然釉が部分的に口縁部までかかる。
- P590 (図版 105、写真図版 88) 土師器長甕 (564) を図示した。A 系の底部で、外面には木葉痕が残る。
- P610 (図版 106、写真図版 88・91) 須恵器無台杯 (565・566) を図示した。565・566 は無台杯 A II 類で、どちらも IV 1 期の所産と考える。565 の底部外面にはヘラ書き「×」がある。
- P628 (図版 106、写真図版 88) 土師器小甕 (567) を図示した。B 系 3 II 類で、胴部下半～底部外面はケズリが施される。IV 2・3 期の所産と考える。
- P716 (図版 106、写真図版 88) 土師器高杯 (568) を図示した。ロクロ成形で、盤状の杯部である。
- P718 (図版 106、写真図版 89) 須恵器甕 (569) を図示した。口頸部を欠くが、II 類の中型と推測する。内面の当て具痕には柁目状の木目がみられる。
- P815 (図版 106、写真図版 89) 土師器小甕 A 系 1 III 類 (570) を図示した。胴部外面は縦方向のハケメが施される。

包 含 層

須恵器 (図版 106・107、写真図版 89～91) 無台杯 (571～587)・有台杯 (588～591)・杯蓋 (592～596)・壺蓋 (600)・甕 (601) を図示した。572・573 は無台杯 B I 類、571・574・578・579・581 は A II 類、575～577・580・584～586 は B II 類、582・583 は A III 類である。571～574・576・578 は IV 1 期、575・577・579・580～583・585・586 は IV 2・3 期に比定される。584・587 は V 期である。573 の内面には漆が付着する。578 の内外面にはヒダスキ痕が残る。582 の底部外面には「×」のヘラ書きがある。588 は有台杯 A II 類で、IV 1 期に比定される。底部外面には漢字の「六」または「大」のような墨書文字がある。589 は有台杯 B IV 類、590 は B III 類、591 は A III 類で、いずれも IV 2・3 期に比定される。593 は杯蓋 I 類で IV 1 期に比定され、内面には「×」と「」のヘラ書きがある。592・594・595 は杯蓋 I 類で IV 2・3 期、596 は II 類で V 期に比定される。600 は壺蓋で天井部はロクロケズリされ、自然釉がかかる。601 は II 類の中

型甕である。

土師器 (図版 107、写真図版 90) 無台杯 (597・598)・長甕 (602・603)・小甕 (604)・甌 (605) を図示した。597 は無台杯で内外面とも赤彩され、IV 1 期に比定される。598 は無台杯で IV 1 期に比定される。602・603 は長甕 A 系 1 類である。604 は小甕 B 系 2 II 類で口縁部の屈曲が緩い。605 は胴部から剥がれた甌の把手で、指で胴部に張り付けた時の痕跡が残る。剥がれた面には胴部のタタキメの転写が認められる。外面下部に付着したススは剥がれた面にも認められ、使用時に付着したものではないかもしれない。

黒色土器 (図版 107、写真図版 90) 有台杯 (599) を図示した。内外面ともミガキが施され、黒色処理される。

3) 中世の陶器

SD47 (図版 108、写真図版 90) 珠洲焼片口鉢 (606) を図示した。吉岡康暢氏による編年〔吉岡 1994〕の III 期であろう。

SD226 (図版 108、写真図版 90) 珠洲焼甕 (607) を図示した。胴上半部の破片である。

4) 近世の土器・陶磁器

SE20 (図版 108、写真図版 90) 陶器碗 (608)・播鉢 (609) を図示した。608 の内面は鉄釉で、19 世紀の会津本郷焼の可能性はある。609 の内外面は鉄釉で、肥前系の可能性はある。

SK10 (図版 108、写真図版 90) 磁器皿 (610) を図示した。見込に圏線と意匠不明の文様を描く。高台に砂粒が付着し中国産の可能性はある。

SK19 (図版 108、写真図版 90) 磁器皿 (611)・德利 (612)・碗 (613)、陶器播鉢 (614) を図示した。611～613 は肥前系である。611 は見込蛇ノ目釉剥ぎで、高台は一部無釉である。染付で内面に草花文を描き、18 世紀初頭のものである。612 は染付で外面に圏線と草花文を描く。613 は見込にコンニャク印判による五弁花文を施文し、外面は圏線と丸文を描く。裏銘は崩れているが方形枠に福である。612・613 は 18 世紀のものである。614 は須佐唐津で、内外面とも鉄釉である。

SD21 (図版 108、写真図版 90) 磁器染付皿 (615) を図示した。肥前系で、輪花皿である。外面は圏線と唐草文、内面は圏線と草花文を描く。18 世紀のものである。

SD25 (図版 108、写真図版 90) 磁器染付碗 (616)、陶器皿 (617)・德利 (618)・播鉢 (619) を図示した。616 は産地不明で、見込に意匠不明の文様がある。青の発色からコバルトの可能性はある。617 は見込に重ね焼きの目痕が残る。瀬戸・美濃焼の可能性はある。618 は在地の松郷屋焼で、19 世紀のものである。619 は越中瀬戸焼の可能性はある。

包含層 (図版 108、写真図版 90) 陶器皿 (620)、磁器染付碗 (621)、青磁香炉 (622)、陶器播鉢 (623)、土師質焙烙 (624) を図示した。620～623 は肥前系で、18 世紀代のものである。620 は見込蛇ノ目釉剥ぎで、畳付に砂目が付着する。621 はくらわんか碗で、外面は圏線と草花文を描く。622 は太鼓型香炉である。623 は見込に砂の重ね焼き痕が残る、内面には卸目が放射状に入る。624 は口縁部に推定径 5.5mm の円形の孔が 1 か所ある。

第3節 土製品 (図版 109～112、写真図版 60・92～94)

古代と近世の遺構を中心に総重量 2,573.3g 出土した。最も多いのは篩選別作業で得られた焼成粘土塊である (第 2 表)。SK1 (1,433.0g) や SK9 (403.0g) など近世の火葬墓と考える土坑からの出土が多く、古代の遺構からは 236.3g 出土している。図化したのは 14 点で、内訳は鳥形製品の体部 2 点 (接合しない頸部あり) と脚部 2 点 (1 足)・頭部 2 点、紡錘車 1 点、土錘 2 点、円筒形土製品 4 点、円面硯 1 点である。また、図化していないが近世の遺構からは土人形 2 点、泥面子 4 点が出土している。なお、625a・626 は鳥の体部を模しており、器としての機能のほかにオブジェなど置物としての利用も考えられるため鳥形製品と呼称し土製品として扱った。

出土した鳥形製品はすべて須恵器質であるため、小片では須恵器と区別することが難しい。

鳥形製品 (図版 109～111、写真図版 60・92～94) 625 は体部 (a) と接合しない頸部 (b) に分かれる。体部片の多くは SK418 から、頸部境界の接合した小破片及び頸部は SK418 周辺の遺構 (SK499・SK419・SK740) を中心に広範囲から出土している。首の付け根辺りを上 (背) 部からの衝撃によって破碎されている。上下 (背腹) の一部と尾部右側を欠く。ロクロ成形で胸部は閉塞され、後方は尾状に整形され外面には一部タタキメが残る。水掻きが表現された脚部は丁寧にケズリが施され体部に接合され、前方から左右側面には断面三角形の隆帯によって羽の輪郭が表現されている。また、ごく細い沈線によって羽が丁寧に描かれ、胸部から頸部に竹管状工具の断面を押圧して径 6・7mm の輪が表現される。同時期の山形県から北陸地方の日本海側に分布する鳥形に特徴的な文様〔吉田 2004〕である。上 (背) 面全体に緑色の自然釉がかかり、頸部は後方半分に自然釉が認められる。背面全体に釉がかかるように窯の中に置かれ焼成されたと考える。頸部は、X 線 CT 画像 (立体・断面) によると、やや前方に傾くもののほぼ直立に接合する (写真図版 92)。626 は尾部から体部にかけての破片ですべて SK413 から出土した。ロクロ成形で、後方は尾状に整形され外面には一部タタキメが残るが下面は先端に向かってナデられている。尾の先端は、閉じるだけでなく内側に粘土を追加して長い尾を作り出している。尾の端部は連続したケズリによって作出され、上 (背) 面中央と左右側面からこの中央に向かって断面三角形の隆帯が貼り付けられる。その後、約 1mm 幅の連続した V 字状沈線によって羽が描かれる。627・628 は 1 足分の脚部である。湾曲した体部から剥がれた傾きから 627 は左足で 628 は右足であり、SK413 から南へ約 18m 離れた SK419 から出土した。接合はしないが白色凝灰岩の入る胎土や整形が酷似する 626 と同一個体と考える。両足とも水掻きが表現され、全面にナデ整形が行われる。足の両側縁はケズリによって直線的に仕上げられ、627 の踵は最終的に粘土を 6mm 分ほど足して長さを調整している。628 の裏面は工具で何度も同一方向に調整している痕跡が残る。629・630 は水鳥を模した鳥形製品の頭部である。629 は SK419 底面から横を向いた状態で出土した。上嘴の先端を欠くが完形である。全体的に縦方向のナデ・ケズリによって丁寧に整形され、ソケット状の端部先端は平坦に整えられる。頭頂には長さ 8mm、幅 2mm の楕円形の穴が開く。断面逆三角形の穴で 14mm の深さがある。何かを挿すためか焼成時の破裂を防ぐためか、目的は明瞭でない。目は径 8mm ほどの竹管状工具を押圧して表現される。鼻孔は長さ 7mm、幅 1mm で表現され、断面逆三角形の穴は深さ 4mm 程度である。嘴は幅 1mm 程度の沈線で描かれ、繋がる口角部分は幅約 2mm となり長さ約 6.5mm で表される。この部分は両側の高さが異なるため貫通していないが、いずれからも深く差し込まれている。また、X 線 CT 画像を撮影したところ中央部分が円柱状に淡い色であった。これは含有物や焼成程度の差異が反映した結果と考える。胎土は C 群で、隣接する SK418 出土の鳥形製品 (625a) に酷似する。ソケット状の端部は何か差し込むことを想定して作られたと考えられ、接合しない 625b の同一個体頸部が想定される。長さ 12.5cm、ソケット部の長さ 4.5cm・幅 2.8cm、重量 348.8g である。630 は SK419 の須恵器環状瓶 (195) のすぐ横で上を向いた状態で出土した。嘴を欠く。全体的に縦方向のナデによって仕上げられ、ソケット状の先端部は丸く整形されている。目は幅 1.0～1.3mm の細く先端の尖った工具で一筆書きによって描かれる。耳も同様の工具で表現されている。喉は押圧してくぼませている。また、X 線 CT 画像を撮影したが 629 と異なり一様に同色であった。胎土は A 群で、一緒に出土した須恵器環状瓶 (195) に酷似する。ソケット状の端部であり、環状瓶の口頸部に差し込まれていた可能性もある。長さ 14.4cm、ソケット部の長さ 4.4～5.0cm・付け根の幅 3.0cm、重量 344.3g である。

紡錘車 (図版 112、写真図版 94) 図化した 1 点のみの出土である (631)。SI451 から出土した。約半分を欠くが断面形態は台形を呈し、直径 5.4cm、中央の孔径は 0.87cm、厚さは 2.80cm である。磨耗の痕跡は認められない。

土錘 (図版 112、写真図版 94) すべて細身の管状土錘で 3 点出土し 2 点図化した。632 は P448 から出土し、約半分を欠くため長さは分からないが、径は 1.7cm で孔の径は 0.57cm である。633 は包含層から出土し、成

形時の指頭圧痕が全体に残る。欠損して長さは明瞭でないが、孔の径は0.3cmと632の約半分しかなく非常に細い。

円筒形土製品（図版112、写真図版94） 出土した4点すべてを図化した。634はSK346から出土した端部破片である。端部の径は11.0cmで外面はロクロナデ、内面には弧状の当て具痕が残る。635・636は包含層から出土した端部破片である。635は端部に面があるため底部と仮定した。全体像は明瞭でないが、筒にならず焼成前に縦方向に切り取られる。また、内面には端部から約6.5cm部分が断面三角形の帯状に大きく張り出し、その外面は段差を設けるためか厚さがほぼ半分になっている。用途なども分からないが上浦A遺跡（川上1997）に類例がある。内外面はロクロナデの後に横位のケズリが施され、その後外面はナデ、内面はハケメも認められる。636は端部が2.7cmほど斜めに内側へ傾斜して細くなる。内外面ともにロクロナデで、内面には一部に不定方向のナデが認められる。637はSK229から出土した小片であるが、径が小さく砂粒を多く含む胎土と、内外面ともにハケメの痕跡が明瞭に残る点など、他の円筒形土製品とは異なる。

円面硯（図版112、写真図版94） 図化した1点のみの出土である（638）。南北に約18m離れて出土した破片が接合したが、2/3ほどを欠く。長方形の透かしの間には、横向きの「日」が線刻される。硯面部分は自然釉による凹凸のままで磨滅がみられず、また墨痕もないことから少なくとも残存部には、使用した痕跡は認められない。

第4節 鍛冶関連遺物（図版112、写真図版94）

羽口・鉄滓・炉壁のほかに鍛冶関連と推定した遺構（SB251-SD153、SB252-SK71・76・132、SB829-P161、SK67・73・82・112・128）よりサンプリングした埋土の篩選別作業により検出した粒状滓・鍛造剥片を合わせ総重量3,273.2g出土した。内訳は羽口342g、鉄滓2,765.5g、炉壁106.3g、粒状滓3.0g、鍛造剥片56.4gである。羽口2点、鉄滓6点を図化した。

羽口（図版112、写真図版94） 14点出土し2点図化した。639は先端部の破片資料で、左側の一部を欠き先端から約3cmが残存する。身厚は2.5cm前後で、通風孔は直径1.9～2.0cm前後の円形を呈する。先端肩部が溶損して斜めになり、顎部にオリーブ灰色のガラス質滓が垂れる。胎土に粉殻の圧痕がみられる。640は細身の羽口小破片で、直径の4分の1程が残存する。外面は細かく発泡し、内側には通風孔表面の一部が残る。身厚は1.1cm程と薄い。

鉄滓（図版112、写真図版94） 641～644は椀形鍛冶滓。641は平面形が不整五角形を呈する。粒状の小塊が溶着したような外観で凹凸が多い。上面の一部は膜状に黒色ガラス質滓化する。底面の一部は滓が重層気味である。642は平面形が三角形を呈し、全体的に酸化土砂に覆われる。底面に炉床土らしき粘土が付着する。643は平面形が不整五角形を呈する。半分は分厚い酸化土砂に覆われているが、発泡の少ない緻密質な滓である。644は平面形が不整な五角形で、右側部が破面である。底面に炉床土らしき粘土が付着している。炉床土上面は平滑気味で、一部に工具痕らしき跡が残っている。上下で滓質が若干異なり、発泡が少ない滓の上により色調が暗く微細に発泡した滓が重層する。滓質は全体的に緻密である。645・646は鉄滓。片方の端部が破面である。645は3単位程の小塊が溶着した形状で、上半部は酸化土砂に覆われる。鍛造剥片らしき小片や木炭が付着している。646は比較的緻密な滓に、細かく発泡した小塊状の滓が溶着した形状。

第5節 石器・石製品（図版112～115、写真図版95～97）

研磨（磨耗）や敲打、二次加工などの痕跡が認められる礫のほかに、加工痕や使用痕のない搬入礫（軽石類含む）や被熱した焼礫もここで扱う。石錘、敲石、磨石類、砥石、台石、二次加工のある礫、編み物石、火打石、数珠

玉、基石がある。遺跡の時代は古墳時代、古代、中世、近世と多岐にわたるが主体は古代である。出土分布は図版7に示したとおりで古代の遺構密度に比例し、調査区北西部で特に多い傾向にあることから大半が古代に所属するものと考えられる。軽石類を除く搬入礫は3,369点(340.1kg)で、そのうち焼礫は2,804点(270.3kg)出土している。焼礫が最も多く、点数で搬入礫の83.1%を占める。特に、15AP21や16AO5グリッド周辺で検出されたSX415・416からは、破碎した焼礫がまとまって出土(SX415:208点(18.1kg)、SX416:170点(6.7kg))し注目される(図版64)。また、軽石類は543点(12.1kg)出土したうち97点(2.6kg)に磨耗痕跡が認められる。点数で約18%にあたる。以下、種別ごと図版掲載順に説明する。

数珠玉(図版112、写真図版95) 近世の土坑墓から出土した4点と調査区内の表採1点(650)である。647～649はSK52から、650はSK15から出土した。647は親玉である。649は水晶で、それ以外は石英製である。

砥石・敲石(図版112、写真図版95) 敲打痕と砥面が認められる。1点のみ出土した(652)。SX125で検出された石列831の周辺で出土した(図版62)。表裏面及び両側面に砥石としての使用痕が、上下端部と左側面に敲打痕が認められる。ホルンフェルス製。

砥石(図版112・113、写真図版95) 磨耗痕や明瞭な線状痕を有するものを一括した。28点(4.8kg)出土し9点図化した。653はSX62から出土し、上下端部と裏面を欠く。細かい擦痕が明瞭に残る。粘板岩製。654はSI65から出土し、上下端と左側面さらに裏面を欠く。凝灰岩製。655はSX124から出土し、表面と右側面に砥面が認められる。緑色凝灰岩製。656はSI451から出土し、上下両端を欠く。表面と左右両側面に砥面が認められ断面は方形を呈す。砂岩製。657は調査区北東側の包含層から出土し、被熱しており上下両端など大部分を欠く。割れ口以外には砥面が認められ、一部に線状痕も残る。砂岩製。658はSD420から出土し、表面のみ砥面が認められる。凝灰岩製。659は調査区南西側から出土し、下端と右側縁を欠く。表裏面と左側面に砥面が認められ、右側面には木葉化石が認められる。砂岩製。660はSX63から出土し下端部を欠く。断面は方形を呈し表面は使用により傾斜し中央部分は薄くなる。緑色凝灰岩製。661はSX63と約9m離れたSX125から出土したものが接合した。断面方形を呈し右上半を欠く。凝灰岩製。

敲石(図版113・114、写真図版95・96) わずかでも使用した痕跡があるもので、8点(2.9kg)出土し6点図化した。662はSD420から出土し、右側縁の一部と下端部にわずかな使用痕が認められるが、下端部の剥離痕は使用によるものではないかもしれない。流紋岩製。663は調査区北東側包含層から出土し、端部と側縁の一部にわずかな使用痕が認められる。流紋岩製。664はSX469から出土し、側縁に使用痕が認められる。玄武岩製。665はSI108から出土し、断面円形の棒状礫の破損した端部に使用痕が認められる。流紋岩製。666はSI451から出土し、断面楕円形の棒状礫の下半部を欠く。右側縁部に使用痕が認められる。流紋岩製。667は調査区北東側包含層から出土した棒状礫で、側縁の一部にわずかな使用痕が認められる。流紋岩製。

軽石類(図版114、写真図版96) 8点図化した。磨面が認められるもの(670・672・674)や中央部に未貫通の穿孔痕跡があるもの(669・673)がある。688・671は磨面が認められない。668はSD420から出土し、断面が楕円形を呈する。671はSD525から出土し、磨面は認められないが扁平である。669はSI451から出土した。一部を欠くが、平面は円形で全体的に磨面が認められる。中央部には断面V字状の穿孔痕がある。670はSK443から出土し、表裏面に磨痕が認められる。672は近世の溝SD25から出土し、片面のみ認められる磨面は平らである。673は一部を欠くが平面は円形を呈し、中央には断面U字状の穿孔痕がある。674は近世墓SK19から出土した。全体的に磨面が認められ一部が直線的に平らになっている。675は調査区北東部の包含層から出土し、下半部を欠く。全体に磨面はないが、中央部に表裏面からの穿孔痕が認められる。

磨石(図版114、写真図版97) SX469から出土し図化した1点のみである(676)。裏面と表面の一部に磨面が認められる。玢岩製。

石錘(図版114、写真図版97) 3点(0.3kg)出土し1点図化した。677は調査区南西部の包含層から出土し、全体的に磨耗している。軽石製。

火打石(図版115、写真図版97) 近世の井戸SE20から出土し図化した1点のみである(678)。断面は三角形を呈し、稜線には使用時の微細な剥離痕が認められる。チャート製。

二次加工のある礫(図版115、写真図版) 12点(264g)出土し、穿孔痕の認められる1点を掲載した。679は大部分を欠くが、おそらく中央部分に径約1.5cmで深さ0.5cmほどの断面V字状の穿孔痕跡がある。穿孔部分はそれほど磨耗していない。凝灰岩製。

台石(図版115、写真図版97) 掲載した2点(2,333g)のみの出土である。680は大部分を欠くが、表面には磨り面が残り、全体的に被熱して褐色を呈す。また、割れ面には木葉の化石が認められる。砂岩製。681は調査区南側の包含層から出土した。大部分を欠くが被熱しており、表裏面には使用した痕跡が認められる。凝灰岩製。

焼礫(図版115、写真図版97) 鉄滓が付着した2点を掲載した。682はSI608から出土した。下方を欠くが、一部わずかに敲いた痕跡が認められる。表面には縦5.0cm、横4.3cmの範囲に鉄滓が付着している。流紋岩製。683は大部分を欠く。割れ面には鉄滓が厚く付着し、表面は被熱により一部黒化している。流紋岩製。

編み物石(図版115、写真図版97) 長楕円形の礫で使用した痕跡がほとんど認められない長さが10cm前後のもの。これまで古墳時代の遺構などからまとまって出土し、編み物用の錘としての使用が指摘された礫〔渡辺1981a・b〕と推測した。156点(27.8kg)出土し12点図化した。116点が遺構から、40点が包含層から出土し、遺構密度に比例している(図版7)。最も多いのはSI451で17点、次いでSX469の8点、以下5点出土のSI65・SX283・SD420・SB252-SD468・P385が続く。P385からは693・694を含む5点の編み物石がまとまって出土した(図版68・写真図版54)。また、約20m離れたSI65とSX124から出土した資料が接合している。長さを基準に分類し、6.0～7.9cmをⅠ類、8.0～10.4cmをⅡ類、10.5～14.5cmをⅢ類とした。欠損して長さが分からない7点を除く149点の内訳は、Ⅰ類が35点(23.5%)、Ⅱ類が77点(51.7%)、Ⅲ類が37点(24.8%)である。684～687がⅠ類、688～691がⅡ類、692～695がⅢ類で、被熱しているものは5点認められた。特に691は被熱し中央付近の一部に黒色の物質が付着している。684・687・688・691～695が流紋岩、685・686・690が玄武岩、689が凝灰岩である。

第6節 金属製品(図版116・117、写真図版98～100)

鉄製品と銅製品が出土している。鉄製品は、錫杖頭や鉄鐸などの希少品のほか鉄鎌・刀子・紡錘車・鎌・釘を含む工具類がみられる。遺構内から1,823.6g、包含層からは2,826.5g(合計4,650.1g)出土し、古代の遺構から1,383.2g、近世の遺構から440.4gと古代が圧倒的に多い。銅製品は、近世の遺構から出土した煙管(726)と銭貨(727～731)のみである。鉄製品30点、銅製品6点を図化した。以下、種別ごとに記載する。

錫杖頭(図版116、写真図版98) 696は柄に輪をつけた鍛造鉄製の錫杖頭である。錆により、輪の付着方法は明瞭でない。遊環は、出土状況や取り上げ直後の写真、X線CT画像などを参考に復元実測した。残存長は約39cmで、輪と遊環の一部を欠く。柄の断面形は、輪より上部の先端部が一辺約6mmの方形、それより下は5.5～15.0mmの円形で下方ほど太くなる。柄の上端部に刻線や装飾はない。中ほどは錆が進行しやや空洞気味である。下端は長さ約4.7cmの袋穂で、左側面に合わせ目がある。輪は括れや蕨手形などが付かないシンプルな宝珠形であり、上部と下部は両側から柄の側面に取り付けられているようである。右側に1個、左側に2個の遊環が遺存する。遊環は直径約4.5cm、断面は直径3～4mmの円形である。なお、(公財)元興寺文化財研究所の初村武寛研究員から錫杖頭全体に有機質のものがみられ、布などが巻かれていた可能性が指摘されている。

鉄鐸・舌(図版116、写真図版98) 鉄鐸は4点、舌は可能性があるものも含め3点を確認し、すべて図化した。697は上部を欠く鐸身である。錫杖頭や環状瓶などと共にSK419から出土した。残存長8.9cmを測り、合わせ目は縦方向である。上部の合わせ目付近に直径約3mmの孔が1か所開く。下端の合わせ目は前後に約4mmずれが生じている。698は完形の鐸身。697と同じくSK419から出土した。長さ9.5cmを測る。合わせ目は

斜方向で、鐸身上部の背面に3×4mm程とやや横長の孔が1か所開く。X線CT画像では、上端右側面が折れ曲がって割れている様子が観察できる。699はほぼ完形の鐸身。SK419から約12m西に位置するSK758から出土した。錆の付着が薄く外形が分かりやすい資料である。長さ12.2cmと今回出土した鉄鐸の中で最も大きい。合わせ目は縦方向で、上部両側面に直径4mm前後の孔が開く。上端は斜めになっており、下端の合わせ目付近の角は一部欠損する。700は完形の鐸身である。調査区東側のSX63から出土した。長さは9.8cmで、他の鉄鐸と比べ細身で円筒形に近い形状を呈する。合わせ目は縦方向である。孔は確認できなかった。上端の形状は斜めで、下端の合わせ目は前後に約4mmずれる。厚い酸化土砂に覆われているが、遺存状態は比較的良好である。701は完形の鉄鐸の舌である。調査区東側、掘立柱建物に伴う可能性がある溝(SD828-SD357)から出土した。本体の長さは7.5cmで、やや尖らせた上端を蕨手状に巻いている。内部は錆びてほぼ空洞化している。断面形は一辺6mmの隅丸方形である。702は蕨手状に巻く上端の一部を欠くが、ほぼ完形の鉄鐸の舌である。須恵器甕などと共にSK488から出土した。本体の長さは10.1cmを測り、内部はほとんど空洞化している。断面形は8×9mmの隅丸方形を呈する。703は上端部を欠くが、上部が先細りやや湾曲する形状や大きさが701と類似することから、鉄鐸の舌と考える。本体の長さは7.3cmで、中央付近がやや空洞化している。断面形は一辺7mmの隅丸方形である。

鉄鏃 (図版117、写真図版99・100) 704は有頸有茎鏃である。かえしと茎部の先端がそれぞれ欠損する。鏃身の関部は深めの腸袂で、鏃身部の断面は両面丸みを帯びる両丸造である。かえしは前後方向にやや歪む。頸部は角関で、断面形は8×4mmの長方形を呈する。茎部は1cm程が残存し、断面形は一辺4mmの方形である。

紡錘車 (図版117、写真図版99・100) 705は鉄製紡錘車である。紡輪は完形で直径4.2cm、厚さ約7mmを測る。紡茎は直径4mmで、やや歪んでいるが長さ2cm程が紡輪に通った状態で遺存する。

刀子 (図版117、写真図版99・100) 706は3か所で折れているが完形品である。刀身の背と刃の両方に関をもつ両関形である。刀身は5.9cmを測り、柄の長さとはほぼ同じである。刃は研ぎ減りによるものかやや内湾する。707は両関形である。柄と刀身の先端をそれぞれ欠くが、残存部で刃5cm、柄6.3cmを測る。X線写真には、柄の一部に樹皮様のものを斜めに巻いていた痕跡が残る。708は2か所で折れているが完形とみられる。刀身の背は直線的、刃は曲線的な形状を呈し、無関形である。錆による変形か、X線画像では凹凸のある外形が写る。内部はやや空洞化している。709は刀身の一部で、SK419の北端から出土した。両端が欠損しており、残存部で長さ8.3cm、身幅2.2cmを測る。厚さ2mm弱と薄手である。

工具類 (図版117、写真図版99・100) 形状から、釘など工具類と推定されるものを一括した。710～716は古代、717・718は近世遺構からの出土である。710は釘で、上端を曲げてやや扁平な頭部を作っている。断面形は一辺3.5mmの方形を呈する。錆に覆われ不明確だが、先端は破面の可能性がある。711は先端を欠く階折釘と考える。錆の影響かX線画像では頭部の写りが不明瞭である。断面形は6.0×3.5mmの長方形で、全体的に扁平な形状を呈する。裏面に木炭片が多数付着している。712は頭部が欠損する釘で、上部の錆が剥落している。芯部に鉄が残る。断面形は一辺4mmの方形である。713は先端が尖る棒状の製品である。頭部が曲がらず、先端部を若干打ち伸ばす形状などから、工具類の可能性はある。体部から先端の芯部には鉄が残る。本体の断面形は5×4mmの長方形である。714は先端がV字状に屈曲した製品で、芯部は空洞化している。本体の断面形は、屈曲部で4.0×2.5mmの長方形である。折れ曲がった釘や工具類と推定される。715は左脚部を中ほどから欠く「コ」の字状の製品である。左脚部は後ろへ、右脚部は手前へ曲がっている。断面形は9×5mmの長方形で、扁平な形状である。内部は空洞化している。716は完形の鑿状製品である。断面形は11.0×0.6mmの長方形で、下端は刃状である。頭部は本来の形状か使用によるものか明瞭でないが、やや潰れている。717は先端を欠く釘である。上端を曲げて頭部を作っているが、頭部先端は破面にも見え、元々は巻頭だった可能性がある。断面形は先端破面で2.5×2.0mmの長方形である。木目が横方向の木質が付着している。718は完形の釘で、錆により不明瞭だが頭部は巻頭と思われる。断面形は一辺3.5mmの方形で、頭部付近に木目が横方向の木質が付着

している。

鎌(図版117、写真図版99・100) 719は完形の直刃鈍角鎌である。刃部は背側に向かって若干反り、身幅は柄付近で4cm前後、先端付近で3.5cm前後である。峰部は厚さ9mmと、720と比べ刃が幅広で分厚い。左端部を短く折り返している。720は3か所で折れているがほぼ完形の直刃鈍角鎌である。刃部の身幅は柄付近が3cm前後、先端付近が2cm前後と先細る形状を呈する。峰部の厚さは6mmを測る。36と同様に、左端部を短く折り返している。錆には折り返しと並行するように柄の痕跡が残る。刃部の基部には柄に沿って湾曲した薄い鉄板が遺存しており、鉄板の上から目釘を打ち込んでいる。

その他(図版117、写真図版99・100) 器種や用途が不明確なものを一括した。721は3点のうち2点が接合する製品である。棒状部は直径5～6mmで断面形は円形～楕円形を呈し、両端が欠損する。内部はやや空洞化している。接合しないもう1点は、先端が枝分かれした直径5mm程の丸棒に、湾曲した細い部品が付着した外観である。722は厚さ1～2mmの鉄板を渦巻状に巻いた製品である。上端付近の錆が層状に剥離し本体が露出している。下方へ向かうほど太くなる形状である。X線CT画像によると、内部は錆が進み一部変形や破損が生じているようである。723は接合しないが中央に長方形の孔が開いた隅丸長方形の薄板状の製品である。縦4.7cm、横は7cm弱程度と推定される。厚さは2～3mmと薄く、中央の長方形の孔は縦0.9cm、横は残存している部分で約2.7cmである。左側の角2か所に直径4mmの鋳状の突起がある。X線画像では左側短辺に台形の挟りがあるように見える。724は平面形が不整な台形を呈する。X線CT画像では、内部に気泡状の空隙が多数存在する様子が観察でき、下部以外は破面とみられる。下部は片面が斜めになっている。725は球体の不明品である。全体が錆に覆われ、ひび割れた外観をしている。X線CT画像によると内部は空洞である。

煙管(図版117、写真図版99) 726は火皿が欠損した雁首部である。直径1.2cmで、吸い口から火皿部に向かって右横に合わせ目がある。羅字の一部が残存している。SD55からの出土で、年代は近世に位置づけられる。

銭貨(図版117、写真図版99) 図化したものはいずれも近世の土坑や墓坑からの出土で、墓坑から出土したものは六道銭と推定される。727は全体の半分ほどが残存する新寛永通宝である。背側に「文」の字がある。728は文字が不鮮明だが寛永通宝とみられる。両面に炭化した植物繊維らしき付着物がある。遺存状態は良くない。729は完形の古寛永通宝である。730は4枚が固着している。文字面が表を向いている方は古寛永通宝で、反対側は裏面のため銭種不明である。一部に炭化した植物繊維状の付着物が確認できる。731は3枚が固着している。両端の銭は文字面が表を向いているため古寛永通宝と判別できるが、中の1枚は銭種不明である。一部に煤が付着し、周縁部の一部に欠けが見られる。

第7節 木製品(図版118～120 写真図版101～103)

総数55点出土した。内訳は箸状製品1点、小皿未成品1点、棒状製品2点、柱根5点、井戸側14点、数珠玉28点(完形)、不明品4点である。古代の井戸(SE278)や近世の墓坑(SK1・10など)を中心に、遺存状態の良好な19点を図化した。井戸側は丸木舟を転用したものが3点ある。木取りや器種の分類、実測図の表現等については荒川隆史氏にご教示頂いた。以下、種別ごとに記載する。

箸状製品(図版118、写真図版101) 1点出土した。732は下端欠損し上端は炭化している。

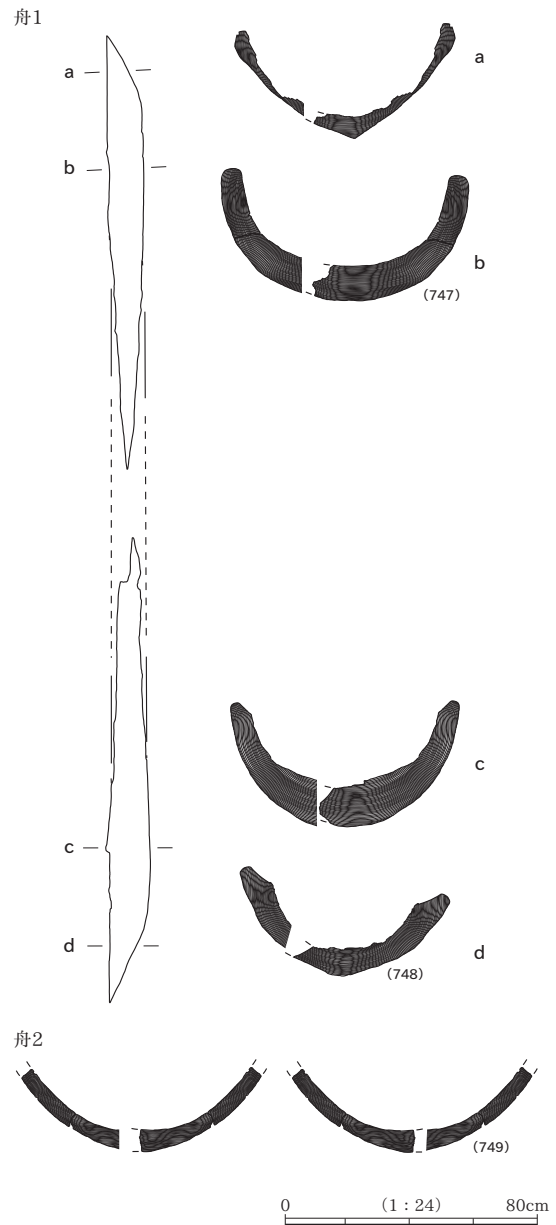
小皿未成品(図版118、写真図版101) 1点出土した。733は径9.4cmの円盤状を呈する。側面には全面に加工痕が認められる。

棒状製品(図版118、写真図版101) 2点出土した。734・735はいずれもSE278出土で下端は欠損し、735は一部折損している。

柱根(図版118、写真図版101) SB251を構成する柱穴から出土した柱根3点と、SI108-焼土211から出土した柱材1点を図化した。736はSB251-P152から出土した。木取りは芯持ミカン割である。737は

SB251-P178 から出土した。木取りは芯持ミカン割で下面は斜めに加工される。738 は SB251-P273 から出土した。木取りは芯持偏ミカン割である。仕口の部材を再利用したものと推測される。739 は柱材で木取りは芯去ミカン割である。遺存状態は良くない。

井戸側（図版 118～120、写真図版 101～103） 10 点として取り上げたが、整理の結果 14 点となった。そのうち腐食の進んだ小片を除く 10 点を図化した。740～745 は板材や角材の転用、747～749 は丸木舟の転用である。747・748 は丸木舟の先端（船首か船尾かは不明瞭）を下に向け、749 は舟の体部を用いて径約 70cm の円形に配置している（図版 33）。747（木柁①・②）と 748（木柁④）の間に 746（木柁③）を設置し、器壁の薄い 749 の外側には 740（木柁⑤）・741（木柁⑧）・743（木柁⑦）・744（木柁⑨・⑩）の板材等を置いて補強している。742・745（いずれも木柁③）は 746 の根元付近から出土した。740 は柁目角材で、上部は腐食しているが下端は V 字状に尖らせている。741 は板目角材で、上部は腐食しているが、貫孔の痕跡がわずかに残る。742～745 は板目材である。742 の上部は腐食し下端中央が一部欠損する。743・744 の下端には平坦にした際の加工痕が残る。745 の下端は V 字状に尖らせている。746 は平面を平らにした際の手斧痕（幅約 3.6cm）が認められ、その後先端が鋭い工具で突き刺した痕跡が一部に残る。747～749 は丸木舟を転用したもので、丸木舟本来の姿を復元して図化した。747 は木柁①と②が接合した。上端外面には断面 V 字状に稜線が入り、船首（か船尾）に近いと思われる。右舷から船底中央付近までが残存するが、下半は腐食している。内外面とも舟製作時の手斧痕（幅約 4cm）が残るが、上端内面は手斧痕の上から打ち割りが行われており、井戸側転用時の再加工と思われる。右舷側の破片（木柁②）は打ち割り後さらに加工を加えており、転用時の木柁①・②分割後、別々に再加工を行っている。外面の稜線付近では幅約 4cm の手斧痕の上に幅約 1.5cm の細長い加工痕が確認でき、舟製作時に 2 種類の工具を使用していたと推測される。748 は上端外面に 747 と同様の稜線があり舟の先端に近い部分と考える。左舷から船底中央付近までが残存し、下半は腐食している。上端には一辺約 4cm の方形の孔が 1 か所ある。井戸側転用時に分割され全形は残っていないが、艫綱を通すための孔と推測される。747 と同様に内外面とも舟製作時の手斧痕が残り、上端内面は手斧痕の上から打ち割りが行われている。井戸側転用時の再加工と考える。外面の稜線付近では手斧痕の上に重なる幅約 1cm の細長い工具痕が確認できる。747 と同様に舟製作時に 2 種類の工具を使用していたと思われる。749 は木柁⑥・1・2 が接合した。左舷から船底中央付近の破片で、船縁は残存していない。上半は腐食している。内外面とも舟製作時の手斧痕が残り、下端には井戸側転用時に分割された痕跡がある。接合の痕跡から 2 片に分割した後に井戸側へ転用するため再加工している事が推測できる。



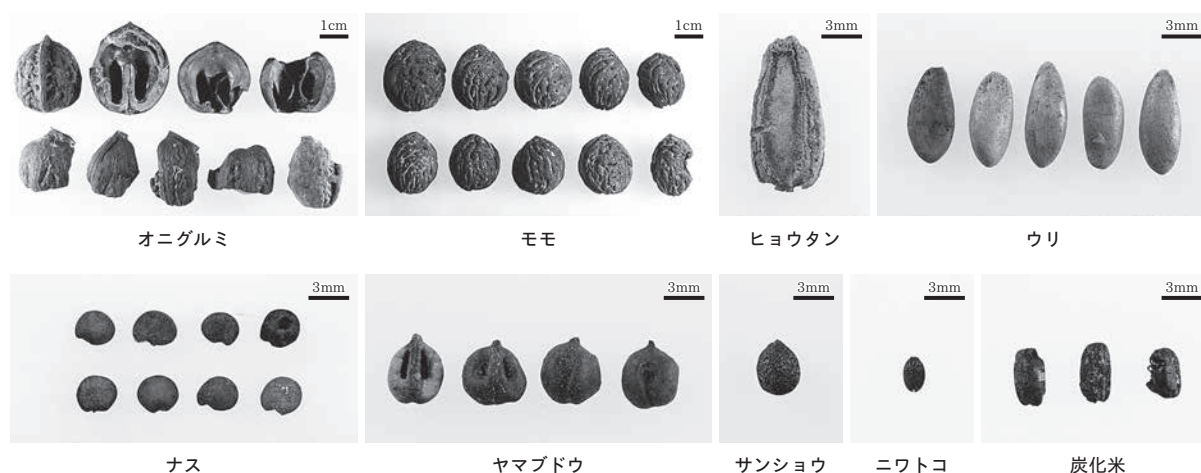
第9図 井戸側に転用された丸木舟の断面・模式図

747～749の製作時の痕跡や断面と傾き、器壁厚などを参考に、井戸側へ転用される前の丸木舟を推定復元すると第9図になる。747・748のどちらが船首・船尾かは不明瞭だが、同一の丸木舟の両端であろう(舟1)。残存していない断面は反転させて推定線とすると、幅約72～81cm(断面b・c)、深さ41～42cmの丸木舟が想定される。腐食で全体の長さは分からないが少なくとも234cm以上の舟であろう。749は器壁が薄く舟の断面がやや開くことから、別の丸木舟(舟2)と考える。両端が残っていないが、前述の舟(747・748)より浅い舟が想定され、SE278構築時に少なくとも2艘の舟を所有していたと考える。

数珠玉(図版118、写真図版101) 近世の墓坑SK1から完形22点と欠損品7点、SK10から完形6点が出土し、全て炭化している。大きさについて、SK1から出土した完形の数珠玉の平均値は長さ4.3mm、幅3.7mm、厚さ3.0mmで、SK10は長さ5.6mm、幅5.5mm、厚さ4.6mmであった。SK10の方が一回り大きい。各々平均的な大きさの数珠玉5点を図化した。750～752はSK1から、753・754はSK10から出土した。

第8節 その他

有機遺物など上記分類に含まれない遺物を一括した。古代・近世遺構から埋土を採取して篩選別作業を行った結果、種実(炭化種実も含む)・炭化米・焼骨・炭化物が多数検出された。篩選別によらない出土資料も含めた各遺構の出土量内訳は第2表のとおりであるが、任意の遺構かつ遺構内の埋土すべてを採取していないことと、採取した土壌の重量が不明瞭であるため、表の数値がすべてではない。炭化物はほぼすべての遺構から出土し、炭化米は近世の墓坑を中心に古代の遺構からも出土している(図版8)。特にSB251-SD153からは古代遺構出土炭化米の約半数がみられる。この遺構は、鍛冶関連施設の可能性があるSB251の雨落ち溝であり、101粒もの炭化米が出土している点は特筆される。また、SE278からは肉眼で判別可能な多くの大型植物遺存体(種実)が出土した(第10図)。周辺から畠跡は検出されていないが、調査区南東側で東西に延びる溝群が検出された(図版17・18)。畠跡と考えるこの溝群から種実は検出されていないが、SE278で出土したナスやウリなどごく普通の植物が栽培されていたと推察できる。また、近世の墓坑9基で骨様物質がみられた(第2表の「*」)。SK11出土の101.3gについて奈良貴史氏(新潟医療福祉大学自然人類学研究所教授)から「最大でも5mmに満たない哺乳類由来と思われる骨片が1.0g(約10点)確認された。すべて白色を呈し、かなりの高温で被熱している」という所見を得た。なお、種実については『原色日本植物種子写真図鑑』(石川1994)に基づき6倍ルーペを用いて同定を行った。



第10図 SE278 出土種実

第2表 篩選別資料一覧
古代遺構

遺構	重量 (g)					炭化米	粒(点)
	炭化物	種実	焼骨	昆虫	焼成粘土塊		
SI65	0.2	0.4				7.0	
SI103	0.4	0.5					
SI103-焼土114	15.5		0.4				
SI108-P203	1.2						
SI181-P81		0.9					
SI181-焼土830	5.5					2.6	
SI207-焼土823	0.2						
SI243	1.5						
SI451	0.2					35.0	
SI451-焼土820	0.8		0.3				
SI453	0.1						
SI453-焼土822	0.1						
SB251-SD153	11.7	0.9				0.1	101
SB252-SK71	9.6					2.2	9
SB252-SK76	4.5						
SB252-SK132	2.1						1
SB828-P326	0.1						
SB828-P328	0.1						
SB828-P384	0.3	0.1					
SB828-P442	0.2						
SB828-SD357	0.1					5.0	
SB829-P161	0.7						3
SE278	99.0	86.4 (オニグルミ, モモ, ヤマブドウ, ヒヨウタン, ナス, サンショウ, ニワトコ, ウリ)	0.8	0.7			37
SK67	14.6					17.7	
SK73	3.5						
SK82	1.4						27
SK84	14.9		0.1				
SK112	0.5					1.6	
SK128	2.7					0.3	4
SK182	3.2						
SK220	19.1					0.1	1
SK235	0.9	0.1					
SK242	49.9						
SK268	0.1						
SK281	1.6	0.5					
SK285	0.1						
SK346	2.1						
SK352	3.9						1
SK363	110.7	0.4 (ウリ)				114.0	5
SK413	0.1						
SK418	0.2						
SK419	2.7	0.3	0.2	0.2			
SK443	9.2	2.4					1
SK444	14.3						8
SK455	7.9						1
SK457	0.1						
SK466	1.0						
SK472	0.1						
SK488	0.8	0.4					
SK543	0.1						1
SK546	0.2						
SK562	0.1						
SK630	0.1						
SK631	0.1						
SK643	0.5						
SK658	3.0						
SK663	10.6		0.1				
SK708	0.1	0.1		0.1			1
SK720	4.4						
SK787	1.4						
SK796						4.0	
SX56	287.0	0.3	0.3				
SX63						1.6	
SX64	7.5	0.2				4.0	3
SX125	0.3						
SX240	1.3						
SX248	0.3						
SX283	0.2					12.0	1

遺構	重量 (g)					炭化米	粒(点)
	炭化物	種実	焼骨	昆虫	焼成粘土塊		
SX375	0.2						
SX377	2.3						
SX378	1.6	0.1					
SX382	0.1						
SX390	0.4						1
SX407	0.2						
SX421	0.1	0.5					
SX425	18.1	0.3	0.1				4
SX469	0.5						
SX605	166.9	0.2					
SD359	0.5						
SD397	0.2						
SD420	5.2	0.1	0.1				
SD515	0.2						
SD537	80.9	0.1					2
SD606	25.5	0.2					
SD664	0.1						1
SD665	0.2						
SD725	0.4		0.1				
SD731	0.1						
P110	70.5					29.1	2
P253	0.1						
P267	0.1						
P330	0.1						
P362	5.5	0.1					4
P427	0.4						
P459	1.8						
P503	0.6						
P542	0.8						
P551	1.0						
P632	1.4						
P728	2.1		0.8				
P729	2.8		0.8				
焼土374	0.3						
焼土379	0.1						
焼土441	0.2		0.1				
焼土454	0.1						
焼土588	0.4						
焼土594	0.2						
合計 (古代)	1,129.1	95.1	3.6	1.0	236.3	219	

近世遺構

遺構	重量 (g)					炭化米	粒(点)
	炭化物	種実	焼骨	昆虫	焼成粘土塊		
SE6		0.2					4
SE20	23.7	19.4 (モモ, ヤマブドウ, ウリ, サンショウ, ウメ)		0.3		1.0	9
SK1	266.2	0.3 (ヤマブドウ)	29.4*			1,433.0	965
SK7	144.2		1.3	0.1			
SK8	9.2	0.1	2.8			28.0	146
SK9			2.0			403.0	8
SK10	576.4	0.3 (ヤマブドウ)	7.2*	0.4		6.0	1,331
SK11	0.4	1.5	101.3*				55
SK12		0.2	29.9*				9
SK13	0.1	0.3	5.9*	0.1			
SK15	0.2	0.2	3.1(菌)	0.2			
SK16	0.1	0.1					2
SK19	4.2	1.4 (モモ)					7
SK52			0.1				
SK478	0.1	1.5 (ヤマブドウ)	0.5*				14
SK544	9.6	0.9	2.0*				114
SK545	1.0	0.2					38
SK556	7.2	0.1	0.3*				26
SK600	0.6		0.2*				3
SX476	0.1	4.1					
SX482						5.0	
SD380	4.0						
合計 (近世)	1,047.3	30.8	186.0*	1.1	1,876.0	2,731	

*は骨様物質を含む重量

第Ⅵ章 自然科学分析

第 1 節 概 要

遺跡は阿賀野川左岸に延びる自然堤防上に立地する。今回の調査では、古代の竪穴建物、掘立柱建物、井戸、土坑、溝、ピットなど多くの遺構が検出された。そこで、古代の植生や用材選択、各遺構の年代や水田跡の検討など、さまざまな目的で自然科学分析を行った。

調査区の基本土層はⅠ～Ⅴ層に分けられ(図版9)、おおむね以下のように捉えられる。Ⅰ層は現在の水田耕作土、Ⅱ層は主にほ場整備などに伴う改良土、Ⅲ層はにぶい黄褐色のシルト層で古代の遺物包含層及び中・近世の遺構確認面、Ⅳ層は黄褐色のシルト層で古代の遺物包含層及び遺構確認面、Ⅴ層は無遺物の基盤層である。Ⅲ・Ⅳ層は遺跡の東側を流れる阿賀野川由来の堆積土で、厚く堆積しているため土層の境界が明瞭でなく、分析にあたり各層の上位・下位で土壌を採取したものもある。詳細は後述するが、周辺の高植生を検討するため花粉分析を、古植生と用材選択を明らかにするために出土木材や炭化材の樹種同定を、水田跡を検討するため植物珪酸体分析を行った。また、特殊な祭祀遺構(SK419)をはじめとする遺構の年代に関する資料を得るために放射性炭素年代測定を行い、深掘した11トレンチ(以下、Tとする)から出土した立木の伐採年を検討する目的でウィグルマツチングを実施した。

第 2 節 花 粉 分 析

花粉分析は、一般に低湿地の堆積物を対象とした比較的広域な植生・環境の復原に応用されており、遺跡調査においては遺構内の堆積物などを対象とした局地的な植生の推定も試みられている。花粉などの植物遺体は、水成堆積物では保存状況が良好であるが、乾燥的な環境下の堆積物では分解されて残存していない場合もある。

A 試 料

分析試料は、深掘11T(21AJ9)Ⅹ層より採取された試料1点と、17AO1のⅢ層(上位・下位)、Ⅳ層(上位・下位)、Ⅴ層、23AJ16のⅢ・Ⅳ層(上位・下位)、26AJ21のⅢ・Ⅳ層、SD804(22AI4)の1層の計11点である(図版9・66)。深掘11Tでは、古代の地表面下約1.6mで立木が検出され、同層から採取した試料である。他の11点とは異なり、遺跡形成以前の古植生を検討するものである。

B 方 法

花粉の分離抽出は、中村〔1967〕の方法をもとに、以下の手順で行った。

- 1) 試料から1cm³を採量
- 2) 0.5%リン酸三ナトリウム(12水)溶液を加え15分間湯煎
- 3) 水洗処理の後、0.25mmの篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法で砂粒を除去
- 4) 25%フッ化水素酸溶液を加えて30分放置
- 5) 水洗処理の後、氷酢酸によって脱水し、アセトリシス処理(無水酢酸9:濃硫酸1のエルドマン氏液を加え1分間湯煎)を施す
- 6) 再び氷酢酸を加えて水洗処理

7) 沈渣にチール石炭酸フクシン染色液を加えて染色し、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作製

8) 検鏡・計数

検鏡は、生物顕微鏡によって300～1000倍で行った。花粉の分類は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節及び種の階級で分類し、複数の分類群にまたがるものはハイフン(－)で結んで示した。同定分類には所有の現生花粉標本と比較して行い、島倉〔1973〕、中村〔1980〕も参照した。イネ属については、チール石炭酸フクシン染色を施し、中村〔1974・1977〕を参考にして現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して同定した。なお、花粉分類では樹木花粉(AP)及び非樹木花粉(NAP)となるが非樹木花粉は草本花粉として示した。

C 結 果

(1) 分 類 群

産出した分類群は、樹木花粉26、樹木花粉と草本花粉を含むもの2、草本花粉13、シダ植物孢子2形態の計43分類群である。これらの学名と和名及び粒数を第3表に示し、周辺の植生を復原するために花粉総数を基数とする花粉ダイアグラムを第11・12図に示す。深掘11Tとそれ以外で採取した試料は、目的が異なるため、別々

第3表 花粉分析結果

Taxa (分類群)		17AO1					23AJ16			26AJ21		SD804	21AJ9
Scientific name (学名)	Japanese name (和名)	Ⅲ層上	Ⅲ層下	Ⅳ層上	Ⅳ層下	V層	Ⅲ層	Ⅳ層上	Ⅳ層下	Ⅲ層	Ⅳ層	1層	深掘X層
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
Arboreal pollen	樹木花粉												
<i>Picea</i>	トウヒ属												3
<i>Tsuga</i>	ツガ属		1										1
<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxylon</i>	マツ属複雑維管束亜属	1											32
<i>Pinus</i> subgen. <i>Haploxylon</i>	マツ属単維管束亜属												2
<i>Cryptomeria japonica</i>	スギ									1			43
Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceae	イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科												4
<i>Salix</i>	ヤナギ属												43
<i>Juglans</i>	クルミ属												7
<i>Pterocarya rhoifolia</i>	サワグルミ												27
<i>Alnus</i>	ハンノキ属		1	1	1	1				1			85
<i>Betula</i>	カバノキ属												10
<i>Carpinus-Ostrya japonica</i>	クマシデ属-アサダ	1											4
<i>Castanea crenata</i>	クリ												2
<i>Castanopsis</i>	シイ属												9
<i>Fagus</i>	ブナ属												9
<i>Quercus</i> subgen. <i>Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ亜属			1		1	1			2			61
<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属												6
<i>Ulmus-Zelkova serrata</i>	ニレ属-ケヤキ												6
<i>Celtis-Aphananthe aspera</i>	エノキ属-ムクノキ												3
<i>Ilex</i>	モチノキ属												2
<i>Aesculus turbinata</i>	トチノキ					1							13
<i>Vitis</i>	ブドウ属												1
<i>Tilia</i>	シナノキ属												1
Ericaceae	ツツジ科												1
<i>Syrax</i>	エゴノキ属												1
<i>Fraxinus</i>	トネリコ属												4
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉												
Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科							1			1		2
Leguminosae	マメ科												2
Nonarboreal pollen	草本花粉												
<i>Typha-Sparganium</i>	ガマ属-ミクリ属												1
Gramineae	イネ科					1							6
<i>Oryza</i>	イネ属	1			1					1			
Caryophyllaceae	ナデシコ科										1		
Cruciferae	アブラナ科			1			2				2		
Lactucoideae	タンポポ科	1											
Cyperaceae	カヤツリグサ科												19
<i>Nuphar</i>	コウホネ属												1
<i>Ranunculus</i>	キンポウゲ属												1
Apioidae	セリ亜科												1
Asteroidae	キク亜科												1
<i>Xanthium</i>	オナモミ属							1					1
<i>Artemisia</i>	ヨモギ属					1				2		2	8
Arboreal pollen	樹木花粉	2	2	2	1	3	1	0	0	4	0	0	380
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	4
Nonarboreal pollen	草本花粉	2	0	1	1	2	2	1	0	5	1	2	39
Total pollen	花粉総数	4	2	3	2	5	3	1	1	9	2	2	423
Pollen frequencies of 1cm ³	試料1cm ³ 中の花粉密度	1.8	0.7	1.2	1.1	3.2	1.6	0.7	0.4	4.5	0.8	1.4	1.1
		×10	×10	×10	×10	×10	×10	×10	×10	×10	×10	×10	×10 ⁴
Unknown pollen	未同定花粉	1	0	0	1	3	1	1	0	1	0	2	8
Fern spore	シダ植物孢子												
Monolate type spore	単条溝孢子	15	1	13	3	14	10	7	1	5		4	30
Trilate type spore	三条溝孢子	2				1	3			7	3		5
Total Fern spore	シダ植物孢子総数	17	1	13	3	15	13	7	1	12	3	4	35
Parasite eggs	寄生虫卵	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
Stone cell	石細胞	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
Digestion remains	明らかな消化残渣	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
Charcoal・woods fragments	微細炭化物・微細木片	(<+)	(<+)	(<+)	(<+)	(<+)	(<+)	(<+)	(<+)	(<+)	(<+)	(<+)	(<+)
微細植物遺体 (Charcoal・woods fragments)	(×10 ⁵)												
未分解遺体片													1.4
分解質遺体片		0.7	1.1	1.7	1.1	1.3	1.7	0.7	0.8	1.9	0.8	1.8	1.4
炭化遺体片 (微粒炭)													

のダイアグラムで示した。主要な分類群の顕微鏡写真を第13図に示した。同時に寄生虫卵についても観察したが検出されなかった。以下に産出した分類群を記載する。

〔樹木花粉〕

トウヒ属、ツガ属、マツ属複維管束亜属、マツ属単維管束亜属、スギ、イチイ科ーイヌガヤ科ーヒノキ科、ヤナギ属、クルミ属、サワグルミ、ハンノキ属、カバノキ属、クマシデ属ーアサダ、クリ、シイ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属ーケヤキ、エノキ属ームクノキ、モチノキ属、トチノキ、ブドウ属、シナノキ属、ツツジ科、エゴノキ属、トネリコ属

〔樹木花粉と草本花粉を含むもの〕

クワ科ーイラクサ科、マメ科

〔草本花粉〕

ガマ属ーミクリ属、イネ科、イネ属、ナデシコ科、アブラナ科、タンポポ亜科、カヤツリグサ科、コウホネ属、キンポウゲ属、セリ亜科、キク亜科、オナモミ属、ヨモギ属

〔シダ植物孢子〕

単条溝孢子、三条溝孢子

(2) 花粉群集の特徴

花粉構成と花粉組成の特徴を記載する。

1) 試料①～⑤ (17AO1 Ⅲ～Ⅴ層)

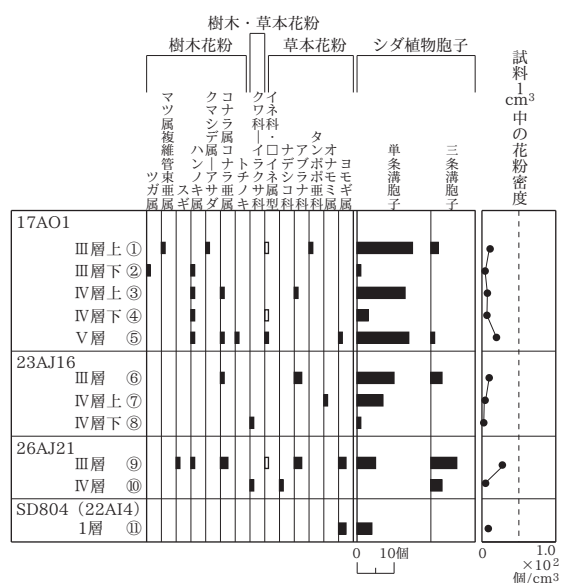
樹木花粉のハンノキ属が下部より継続して産出し、コナラ属コナラ亜属などが伴われる。上部では、ツガ属、マツ属複維管束亜属の針葉樹が産出する。シダ植物単条溝孢子がやや多く、草本花粉は、ほとんど検出されないが、イネ科、イネ属、アブラナ科、タンポポ亜科、ヨモギ属、シダ植物三条溝孢子がわずかに産出する。

2) 試料⑥～⑧ (23AJ16 Ⅲ・Ⅳ層)

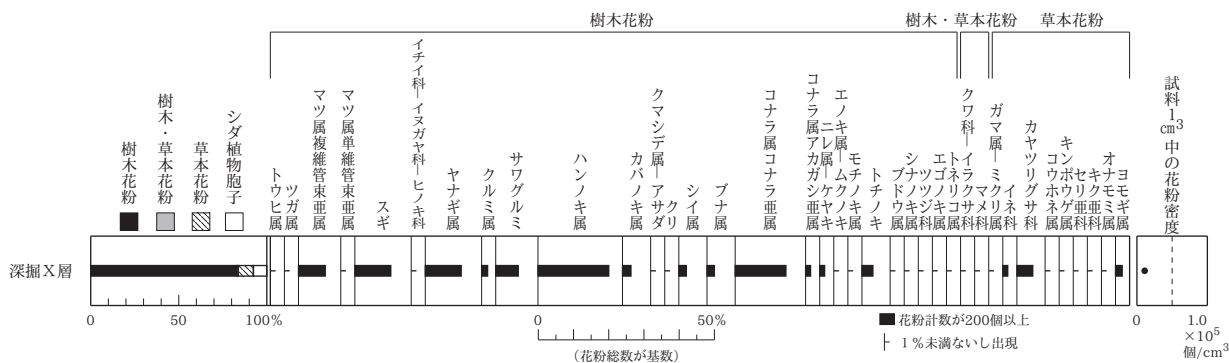
いずれの試料も花粉はほとんど検出されないが、シダ植物単条溝孢子が下部から上部に向かい増加傾向を示す。

3) 試料⑨、⑩ (26AJ21 Ⅲ・Ⅳ層)

試料⑨(Ⅲ層)では、コナラ属コナラ亜属、スギ、ハンノキ属の樹木花粉とアブラナ科、ヨモギ属、イネ属の草本花粉、シダ植物三条溝孢子、シダ植物単条溝孢子がわずかに産出する。試料⑩(Ⅳ層)では、クワ科ーイラクサ科、



第11図 花粉ダイアグラム① (試料①～⑤)



第12図 花粉ダイアグラム② (試料②)

ナデシコ科、シダ植物三条溝胞子が極わずかに産出する。

4) 試料⑩ (SD804 1層)

ヨモギ属の草本花粉、シダ植物単条溝胞子がわずかに産出する。

5) 試料⑫ (深掘 11T)

樹木花粉の占める割合が高く、83%を占める。ハンノキ属、コナラ属コナラ亜属、スギ、ヤナギ属、マツ属複維管束亜属、サワグルミの産出率が高く、トチノキ、ブナ属、シイ属などが伴われる。草本花粉では、カヤツリグサ科、ヨモギ属、イネ科が低率に産出し、コウホネ属が検出される。

D 花粉分析から推定される植生と環境

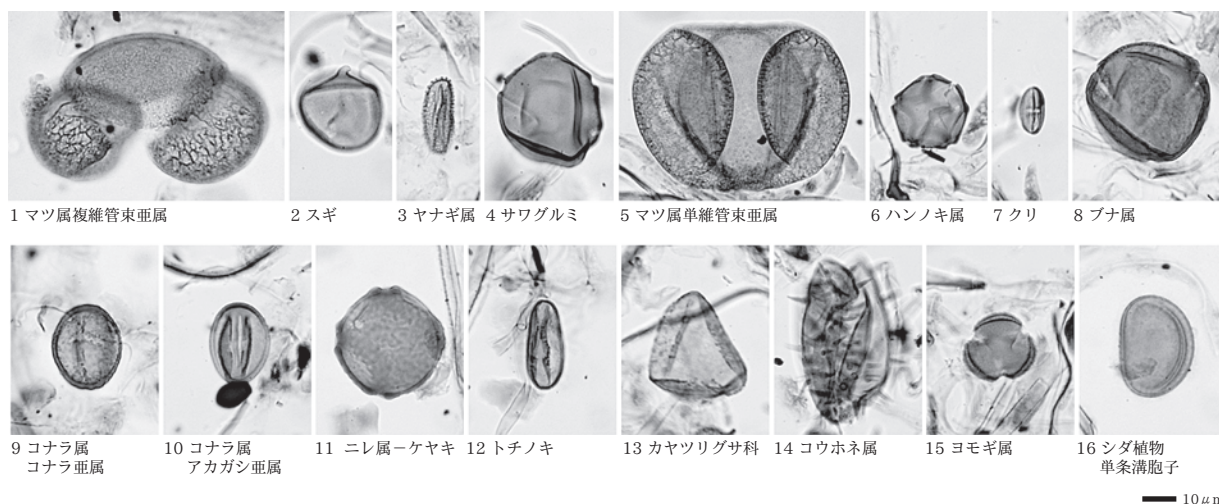
(1) 試料①～⑩ (Ⅲ～Ⅴ層)

いずれの試料も花粉密度が低い。花粉が集成する水成の環境ではなかったか、花粉などの有機質遺体の分解が行われる乾燥ないし乾湿を繰り返し土壌生成作用を受けて形成された堆積物と推定される。検出された花粉はほとんどが風媒花植物であり、少量でも検出されやすい種類である。17A01では、ハンノキ属がほぼ各層準から検出されることから、各時期を通じ近隣に生育していたと考えられる。草本では単条溝胞子が多く、シダ植物も周辺に生育していたとみなされる。SD804は分解を受ける乾湿を繰り返す環境であり、季節的ないし引水された時だけ滞水したとみられる。発掘調査の所見では畠の痕跡とみられており、花粉分析の結果はそのことを否定するものではない。

(2) 試料⑫ (深掘 11T)

ハンノキ属とヤナギ属を主にサワグルミ、クルミ属、トチノキが比較的多い。ハンノキ属は、生態上湿地林を形成するハンノキが考えられ、調査地にはこれらの樹木が生育する沼沢湿地の環境が示唆される。草本では、カヤツリグサ科、ガマ属ーミクリ属、コウホネ属の抽水植物を含む水生植物が検出されており、樹木同様、沼沢湿地の環境が示唆される。コナラ属コナラ亜属、スギ、マツ属複維管束亜属もやや多いことから、近隣の乾燥地には二次林要素のコナラやアカマツの樹木が生育し、これらにスギも加えた林分が地域の森林植生として分布していたとみなされる。他に森林要素としては、ブナ属やカバノキ属の落葉広葉樹、シイ属やコナラ属アカガシ亜属の照葉樹が検出されることから、コナラ属コナラ亜属(ミズナラ)も含め、ブナ属(ブナ)、カバノキ属が山地部に落葉広葉樹林として分布し、シイ属やコナラ属アカガシ亜属の照葉樹が山地や台地の縁辺の低地に近い部分に生育していたとみなされる。なお、イネ属が検出されないことから、周辺地域での水田耕作は確認できない。深掘 11T X層は稲作以前の層準である可能性がある。

以上のことから、調査地周辺はハンノキ属(ハンノキ)やヤナギ属を中心にサワグルミ、クルミ属、トチノキ



第 13 図 主な花粉の顕微鏡写真

の湿地性樹木に、少ないもののカヤツリグサ科、ガマ属ーミクリ属、コウホネ属の水生草本が生育する沼沢湿地であったと推定された。近隣の乾燥地にはコナラ属コナラ亜属（コナラなど）やマツ属複維管束亜属（アカマツ）の二次林要素の樹木が生育し、地域の森林としてもコナラ属コナラ亜属やマツ属複維管束亜属が地域の森林植生として分布していたと推測される。

第3節 植物珪酸体分析

植物珪酸体は、植物の細胞内に珪酸（ SiO_2 ）が蓄積したもので、植物が枯れたあともガラス質の微化石（プラント・オパール）となって土壤中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定及び古植生・古環境の推定などに応用されている〔杉山 2000〕。また、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査も可能である〔藤原・杉山 1984〕。

A 試料

分析試料は、17AO1 のⅢ層（上位・下位）、Ⅳ層（上位・下位）、Ⅴ層、23AJ16 のⅢ・Ⅳ層（上位・下位）、26AJ21 のⅢ・Ⅳ層、SX711（18AJ10）のⅠ層、SD804（22AI4）のⅠ層である（図版9・13・66）。

B 方法

植物珪酸体の抽出と定量は、ガラスビーズ法〔藤原 1976〕を用いて、次の手順で行った。

- 1) 試料を 105℃で 24 時間乾燥（絶乾）
- 2) 試料約 1g に対し直径約 40 μm のガラスビーズを約 0.02g 添加（0.1mg の精度で秤量）
- 3) 電気炉灰化法（550℃・6 時間）による脱有機物処理
- 4) 超音波水中照射（300W・42KHz・10 分間）による分散
- 5) 沈底法による 20 μm 以下の微粒子除去
- 6) 封入剤（オイキット）中に分散してプレパラート作成
- 7) 検鏡・計数

同定は、400 倍の偏光顕微鏡下で、主にイネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体を対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が 400 以上になるまで行った。これはほぼプレパラート 1 枚分の精査に相当する。試料 1g あたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率を乗じて、試料 1g 中の植物珪酸体個数を求めた。なお、植物珪酸体の生産量は植物種によって差異があることから、検出密度の評価は分類群によって異なる。そこで、主な分類群についてはこの値に試料の仮比重（1.0 と仮定）と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体 1 個あたりの植物体乾重）を乗じて、単位面積で層厚 1cm あたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる〔杉山 2000〕。

C 結果

検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を第 4 表及び第 14 図に示した。主要な分類群について顕微鏡写真を第 15 図に示す。

〔イネ科〕

イネ、キビ族型、ススキ属型（おもにススキ属）、ヨシ属、シバ属型、ススキ属型、ウシクサ族型（チガヤ属など）

〔イネ科ータケ亜科〕

メダケ節型（メダケ属メダケ節・リュウキュウチク節、ヤダケ属）、チマキザサ節型（ササ属チマキザサ節・チシマザサ

第4表 植物珪酸体一覧と含量

検出密度 (単位: ×100個/g)

分類群 (和名・学名)	17A01					23AJ16			26AJ21		SD804	SX711
	Ⅲ層上 ①	Ⅲ層下 ②	Ⅳ層上 ③	Ⅳ層下 ④	V層 ⑤	Ⅲ層 ⑥	Ⅳ層上 ⑦	Ⅳ層下 ⑧	Ⅲ層 ⑨	Ⅳ層 ⑩	1層 ⑪	1層 ⑬
イネ科 Gramineae (Grasses)												
イネ <i>Oryza sativa</i>	14	3	10	3		2	11	2	19	2		3
キビ族型 <i>Panicum</i> type	2		2						2			
ヨシ属 <i>Phragmites</i>	7	3	4	3		2	2		9	7		
シバ属型 <i>Zoysia</i> type									2			
ススキ属型 <i>Miscanthus</i> type	17	6	2	9	2	4	2	2	2	2	3	3
ウシクサ族型 <i>Andropogoneae</i> type	2		2	3	2	2	2					
タケ亜科 Bambusoideae (Bamboo)												
メダケ節型 <i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nipponoca lamus</i> type	2	3	6	12	9	4	9	2	5	5	3	
チマキザサ節型 <i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc. type	27	28	14	37	20	24	19	42	24	29	14	26
ミヤコザサ節型 <i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i> type	5	6	2	6	7	4	4	7	5	7	11	11
その他 Others	7	3	4	9	7	4	4	7	7	5	6	5
未分類等 Unknown	34	28	19	27	16	18	19	16	21	16	26	29
(海綿骨針) Sponge	2	3	2	9	7	2	2	2	5	2	6	5
植物珪酸体総数	117	80	65	109	63	64	72	78	96	73	63	77

おもな分類群の推定生産量 (単位: kg/m²・cm)

イネ <i>Oryza sativa</i>	0.41	0.09	0.29	0.09		0.06	0.32	0.06	0.56	0.06		0.09
ヨシ属 <i>Phragmites</i>	0.44	0.19	0.25	0.19		0.13	0.13		0.57	0.44		
ススキ属型 <i>Miscanthus</i> type	0.21	0.07	0.02	0.11	0.02	0.05	0.02	0.02	0.02	0.02	0.04	0.04
メダケ節型 <i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nipponocalamus</i>	0.02	0.03	0.07	0.14	0.10	0.05	0.10	0.02	0.06	0.06	0.03	
チマキザサ節型 <i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i>	0.20	0.21	0.11	0.28	0.15	0.18	0.14	0.32	0.18	0.22	0.11	0.20
ミヤコザサ節型 <i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i> type	0.02	0.02	0.01	0.02	0.02	0.01	0.01	0.02	0.02	0.02	0.03	0.03

節など)、ミヤコザサ節型 (ササ属ミヤコザサ節など)、その他

[イネ科-その他]

未分類等

メダケ節型、チマキザサ節型 (ササ属チマキザサ節、ササ属チシマザサ節など)、ミヤコザサ節型 (ササ属ミヤコザサ節など)、未分類等

[イネ科-その他]

未分類等

[その他]

海綿骨針

以下に、植物珪酸体の検出状況を記す。

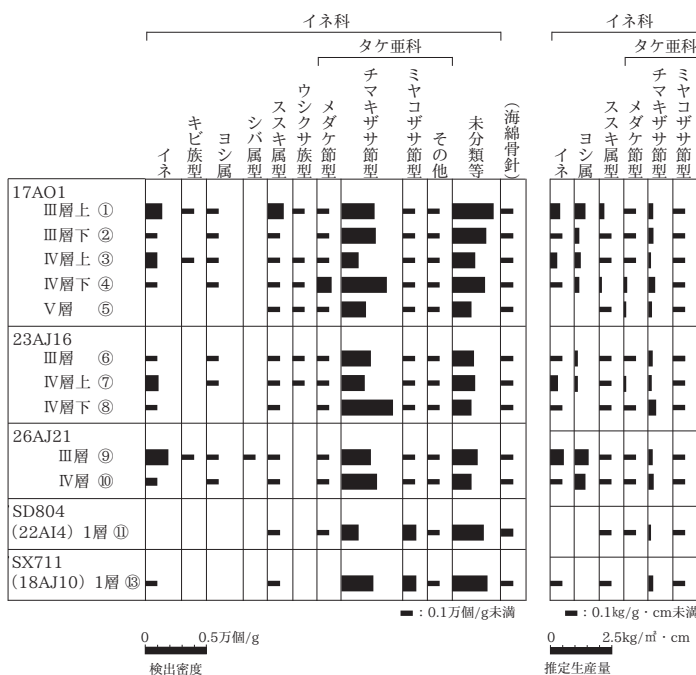
1) 試料①~⑤ (17A01 Ⅲ~V層)

Ⅲ層 (試料①・②) では、イネ、ヨシ属、ススキ属型、メダケ節型、チマキザサ節型、ミヤコザサ節型が、上位 (試料①) ではほかに

にキビ族型、ウシクサ族型が検出されているが、いずれも少量である。Ⅳ層 (試料③・④) では、イネ、ヨシ属、ススキ属型、ウシクサ族型、メダケ節型、チマキザサ節型、ミヤコザサ節型が、上位 (試料③) ではほかにキビ族型が検出されているが、いずれも少量である。Ⅴ層 (試料⑤) では、ススキ属型、ウシクサ族型、メダケ節型、チマキザサ節型、ミヤコザサ節型が検出されているが、いずれも少量である。各層で植物珪酸体以外に海綿骨針が検出されているが、いずれも微量である。

2) 試料⑥~⑧ (23AJ16 Ⅲ・Ⅳ層)

Ⅲ層 (試料⑥) では、イネ、ヨシ属、ススキ属型、ウシクサ族型、メダケ節型、チマキザサ節型、ミヤコザサ節型が検出されているが、いずれも少量である。Ⅳ層 (試料⑦・⑧) では、イネ、ススキ属型、メダケ節型、チ



第14図 植物珪酸体分析結果

マキザサ節型、ミヤコザサ節型が、上位（試料⑦）ではほかにヨシ属とウシクサ族型が検出されているが、いずれも少量である。各層で植物珪酸体以外に海綿骨針が検出されているが、いずれも微量である。

3) 試料⑨・⑩ (26AJ21 Ⅲ・Ⅳ層)

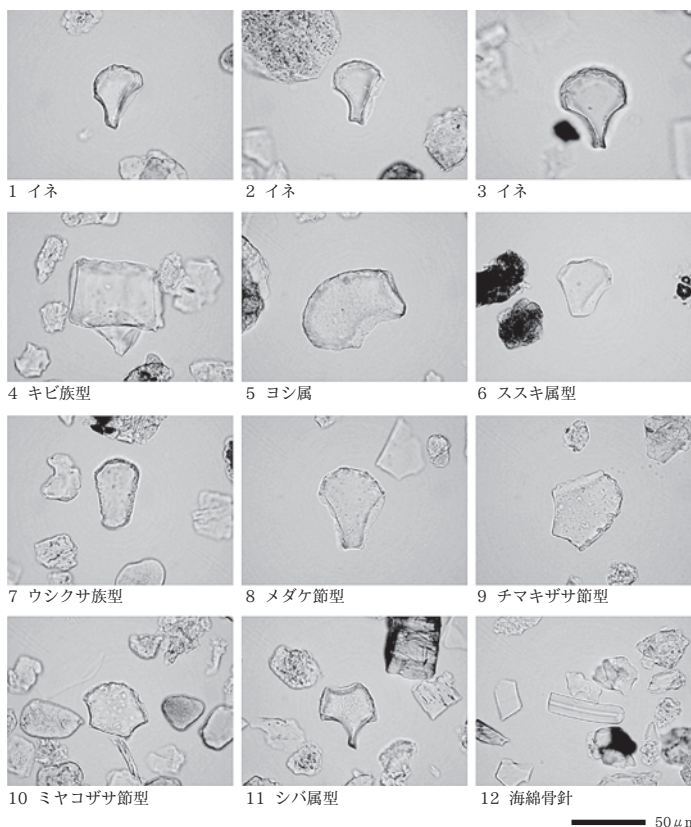
Ⅲ層（試料⑨）では、イネ、キビ族型、ヨシ属、シバ属型、ススキ属型、メダケ節型、チマキザサ節型、ミヤコザサ節型が検出されているが、いずれも少量である。Ⅳ層（試料⑩）では、イネ、ヨシ属、ススキ属型、メダケ節型、チマキザサ節型、ミヤコザサ節型が検出されているが、いずれも少量である。各層で植物珪酸体以外に海綿骨針が検出されているが、いずれも微量である。

4) 試料⑪ (SD804 1層)

ススキ属型、メダケ節型、チマキザサ節型、ミヤコザサ節型が検出されているが、いずれも少量である。植物珪酸体以外では海綿骨針が微量で検出されている。

5) 試料⑬ (SX711 1層)

イネ、ススキ属型、チマキザサ節型、ミヤコザサ節型が検出されているが、いずれも少量である。植物珪酸体以外では海綿骨針が微量で検出されている。



第15図 主な植物珪酸体の顕微鏡写真

D 植物珪酸体分析から推定される農耕と環境

植物珪酸体分析で稲作跡の探査や検証を行う場合、通常、イネの植物珪酸体が試料 1g あたり 5,000 個以上の密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している〔杉山 2000〕。なお近年の調査では、密度が 3,000 個 /g 程度あるいはそれ未満であっても水田遺構が検出された事例が報告されていることから、ここでは判断の基準を 3,000 個 /g として検討を行う。

今回の調査地では、17AO1 のⅢ・Ⅳ層、23AJ16 のⅢ・Ⅳ層、26AJ21 のⅢ・Ⅳ層、SX711 の 1 層でイネが検出されている。密度はそれぞれ 1,000 個 /g とやや低く、稲作跡の可能性の判断基準値には達していない。したがって、ここで検出されたイネは他所から混入したものと判断され、Ⅲ層、Ⅳ層及び SX711 の 1 層の時期は、調査地の近傍で稲作が行われていた可能性が考えられる。仮に調査地で稲作が行われていたとするならば、イネの密度が低い要因として、1) 稲作が行われていた期間が短かった、2) 稲の生産性が低かった、3) 畑稲作が行われていた^{※1}、4) 土層の堆積速度が速かった、5) 耕作土が流出した、6) 採取地点が畦畔など耕作面以外であった、などが考えられる。

SD804 の 1 層は、発掘調査の所見では畝の痕跡とみられている。植物珪酸体分析で同定される分類群のうち

※1 畑稲作（陸稲栽培）では、連作障害や地力の低下を避けるために輪作を行ったり、休閑期間をおく必要があるため、イネの密度は水田と比較してかなり低くなり、1,000 個 /g 程度である場合が多い。

栽培植物が含まれるものには、イネ以外にもムギ類、ヒエ属型（ヒエが含まれる）、エノコログサ属型（アワが含まれる）、キビ属型（キビが含まれる）、ジユズダマ属型（ハトムギが含まれる）、オヒシバ属（シコクビエが含まれる）、モロコシ属型、トウモロコシ属型などがあるが、これらの分類群はいずれも検出されなかった。このことから、植物珪酸体分析においては畠跡の可能性を積極的に肯定することはできない。ただし、イネ科栽培植物の中には検討が不十分なものもあるため、その他の分類群の中にも栽培種に由来するものが含まれている可能性が考えられる。これらの分類群の給源植物の究明については今後の課題としたい。なお、植物珪酸体分析で同定される分類群は主にイネ科植物に限定されるため、根菜類などの畑作物は分析の対象外となっている。

イネ以外の分類群では、各層ともチマキザサ節型が優勢であり、ススキ属型、ウシクサ族型、メダケ節型、ミヤコザサ節型が検出され、ヨシ属は少量である。こうしたことから、Ⅲ・Ⅳ層、SD804の1層、SX711の1層の堆積当時は、調査地周辺はササ属（チマキザサ節やミヤコザサ節など）、ススキ属、ウシクサ族（チガヤ属等）などが生育する比較的乾いた開けた環境であったと推定される。

ササ属のうち、チマキザサ節・チシマザサ節は日本海側に広く分布しており、積雪への適応性が高い。一方、ミヤコザサ節は積雪の少ない比較的乾燥したところに分布している。両者の分布境界はミヤコザサ線とよばれ、最大積雪約50cmの等深線とほぼ一致している〔室井1960、鈴木1996〕。このことに着目して、両者の推定生産量の比率から過去の積雪量の推定が試みられている〔杉山2000・2017など〕。調査地ではチマキザサ節型（ササ属チマキザサ節、ササ属チシマザサ節など）がやや優勢であることから、当時は最大積雪深が約50cmを超えていた可能性が考えられる。

第4節 動物遺存体同定

一般に日本の国土は、火山灰性の酸性土壤に広く覆われ、高温多湿というモンスーン気候ともあいまって動物遺存体の保存状態には恵まれていない。そのため、ほとんどの乾燥地遺跡では動物や植物性の遺物は分解されて残らず、遺跡で動物遺存体が出土するのは、おもに貝塚、石灰岩地帯の洞穴や岩陰などがであった。しかし、近年では湿地環境の遺跡や遺構からも多くの動物遺存体が発見されつつある。出土した動物遺存体の同定から、過去の人々の生業や食生活に関する情報を得ることができる。特に大部分が無機塩類（おもに炭酸カルシウム）からなる貝殻をもつ貝類は腐食に強く、土中でも残りやすいことから、その生態的情報を援用して当時のおもに水環境の復原や、種によっては水深を知ることができる。

A 試料と方法

分析試料は、17AP10のⅣ層で出土した骨と、SX425（17AQ12）の1層で出土した骨である。試料を肉眼及び双眼実体顕微鏡で観察し、形態的特徴及び現生標本との対比によって同定を行った。

B 結果

同定結果を第5表に示す。

1) 試料⑭（17AP10 Ⅳ層）

哺乳類の椎骨腰椎破片2点、不明破片2点が同定された。いずれも細片であるため、

科などの同定に至らなかった。なお、腰椎破片はいずれの試料も被熱によって白色を呈する。

2) 試料⑮（SX425 1層）

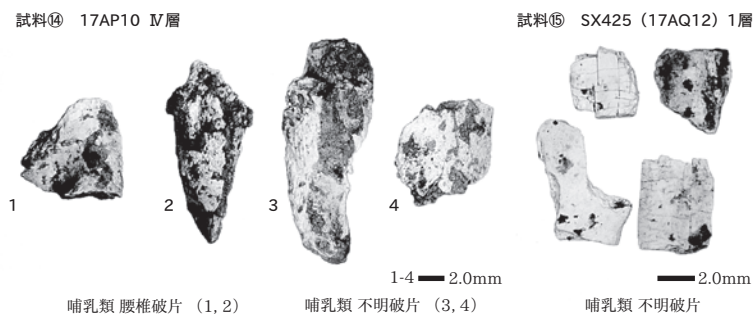
哺乳類の不明破片4点が同定された。いずれも細片であるため、科などの同定に至らなかった。なお、いずれの試料も被熱によって白色を呈する。

第5表 動物遺存体同定結果

試料 No.	遺構名	グリッド	層位	結果 (学名/和名)	部位	部分	左右	個数	備考
⑭	-	17AP10	Ⅳ	Mammalia	哺乳類	椎骨	腰椎	2	被熱白色変化
				Mammalia	哺乳類	不明	破片	2	被熱白色変化
⑮	SX425	17AQ12	1	Mammalia	哺乳類	不明	破片	4	被熱白色変化、石2

C 考 察

同定された動物遺存体はいずれも哺乳類の骨破片であった。試料⑭の椎骨腰椎破片は大きさや形状からニホンジカの可能性があるが、細片であることから断定はできない。いずれの試料も全て白色になるまでよく焼けており、強い火を受けた可能性が考えられる。これらの哺乳類は、食用とした後に炉や竈などの火中に投じたものが残存したか、二次的に投棄された可能性がある。なお、ニホンジカなどの野生動物は比較的近隣の森林より獲得されたと考えられる。



第16図 動物遺存体顕微鏡写真

第5節 花粉分析・寄生虫卵分析

花粉分析と寄生虫卵分析をあわせて行うことにより、当時の人々の生活域の確認、農耕における人糞施肥の有無、さらには便所遺構を確認することが可能である。ただし、花粉や寄生虫卵などの有機物遺体は、水成堆積物では保存状況が良好であるが、乾燥的な環境下の堆積物では分解されて残存していない場合もある。

A 試料と方法

分析試料は、SK624 (22AH9) 1層で出土した土師器長甕の体部破片1点である。内面に白色の付着物が観察される(第17図)。花粉・寄生虫卵の分離抽出は、中村〔1967〕の方法をもとに、以下の手順で行った。

- 1) 土器片の内容物で、色調の異なる部分を2か所掻き取る
 - 2) 0.5%リン酸三ナトリウム(12水)溶液を加え15分間湯煎
 - 3) 篩別により大きな砂粒や木片等を除去し、沈澱法を施す
 - 4) 25%フッ化水素酸を加え30分静置(2・3度混和)
 - 5) 水洗後サンプルを2分
 - 6) 2分したサンプルの一方にアセトリシス処理を施す
 - 7) 両方のサンプルを染色後グリセリンゼリーで封入しそれぞれ標本を作製
 - 8) 検鏡は、プレパラート作製後直ちに、生物顕微鏡(Nikon ECLIPSE Ci)によって300～1000倍で行う
- 基本的にアセトリシス処理を施したプレパラートで花粉分析、アセトリシス処理を施していないプレパラートで寄生虫卵分析を行う。

B 結 果

付着内容物の色調が異なるため、褐色部分を⑩-1、白っぽい部分を⑩-2として分析を実施した(第17図)。分析の結果、褐色部分の⑩-1、白っぽい部分の⑩-2のいずれの試料も密度が極めて低く、花粉、寄生虫卵および明らかな消化残渣、シダ植物胞子、石細胞、微粒炭などは検出されなかった。



第17図 土器内面の付着物(試料⑩)

C 考 察

SK624の1層より出土した土師器片に付着した内容物において、花粉分析と寄生虫卵分析を行ったところ、花粉、寄生虫卵および明らかな消化残渣は検出されなかった。分析の反応中もほとんど変化せず、有機物は含まれていなかったとみなされる。付着物は添加した試薬で溶解する無機質の結晶と思われる。

第6節 樹 種 同 定

A 試 料

試料は、遺構内から出土した炭化材13点(試料⑰～⑲)、柱根4点(試料⑳～㉓)、木製品や自然木など生材8点(試料㉔～㉗)の合計25点(㉔は2点あるため厳密には26点)である。柱材や自然木は、採取された木片を試料とした。

B 方 法

柱材や木製品のうち、試料⑳、㉔～㉗の5点は、木取りを観察した上で、剃刀を用いて横断面(木口)・放射断面(柾目)・接線断面(板目)の3断面について徒手切片を採取した。その他の試料については、剃刀を用いて採取された木片から3断面の徒手切片を採取した。切片をガム・クロラール(抱水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液)で封入してプレパラートとした。プレパラートは、生物顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察した。炭化材は、自然乾燥させた後、3断面の割断面を作製してアルミ合金製の試料台にカーボンテープで固定した。炭化材の周囲を樹脂でコーティングして補強し、走査型電子顕微鏡(低真空)で木材組織の種類や配列を観察した。各試料で観察された組織の特徴を現生標本及び独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類(分類群)を同定した。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東〔1982〕、Wheeler他〔1998〕、Richter他〔2006〕を参考にした。また、日本産木材の組織配列は、林〔1991〕や伊東〔1995・1996・1997・1998・1999〕を参考にした。

C 結 果

樹種同定結果を第6表に示す。木製品及び木材と炭化材は、針葉樹1分類群(スギ)、広葉樹9分類群(カツラ、サクラ属、カエデ属、モクレン属近似種、ヤナギ属、サワグルミ、マタタビ属、トネリコ属シオジ節、トネリコ属近似種)に同定された。各分類群の解剖学的特徴等を記す。

・スギ *Cryptomeria japonica* (L.f.) D. Don ヒノキ科スギ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞はほぼ晩材部に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はスギ型で、1分野に2～4個。放射組織は単列、1～10細胞高。

・カツラ *Cercidiphyllum japonicum* Sieb. et Zucc. カツラ科カツラ属

散孔材。道管はほぼ単独で散在し、年輪界付近で道管径を減少させる。道管の分布密度は高い。道管の穿孔板は階段穿孔板となる。放射組織は異性、1～2細胞幅、1～30細胞高。

・サクラ属 *Prunus* バラ科

散孔材。道管は単独または2～6個が放射方向や斜方向に複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管の穿孔板は単穿孔板、壁孔は交互状となる。道管の内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1～4細胞幅、1～30細胞高。

広義のサクラ属のうち、栽培種を除く落葉性のサクラ属と考えられる。

・カエデ属 *Acer* ムクロジ科

散孔材。道管は単独または2～3個が複合して散在し、年輪界に向かって道管径を漸減させる。道管の穿孔板は単穿孔板、壁孔は対列～交互状となる。道管の内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、1～5細胞幅、1～30細胞高。木繊維が木口面において不規則な紋様をなす。

・モクレン属近似種 cf. *Magnolia* モクレン科

散孔材。道管は単独または2～4個が放射方向に複合して散在する。道管の穿孔板は単穿孔板、壁孔は階段状～対列状となる。放射組織は異性、1～2細胞幅、1～40細胞高。

観察された特徴からモクレン属の可能性が高いが、土壌由来と考えられる微細な鉱物粒子が道管内や木繊維内に大量に付着し、それが組織観察の障害となっている。そのため、同定を確定することができず、近似種とした。

・ヤナギ属 *Salix* ヤナギ科

散孔材。道管は単独または2～3個が複合して散在し、年輪界付近で径を減少させる。道管の穿孔板は単穿孔板、壁孔は交互状となる。放射組織は異性、単列、1～15細胞高。

・サワグルミ *Pterocarya rhoifolia* Siebold et Zucc. クルミ科サワグルミ属

散孔材。道管は単独または2～3個が放射方向に複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。年輪界を挟んだ道管径の変化は比較的大きい。道管の穿孔板は単穿孔板、壁孔は交互状となる。放射組織は同性～異性、1～2細胞幅、1～20細胞高。

・マタタビ属 *Actinidia* マタタビ科

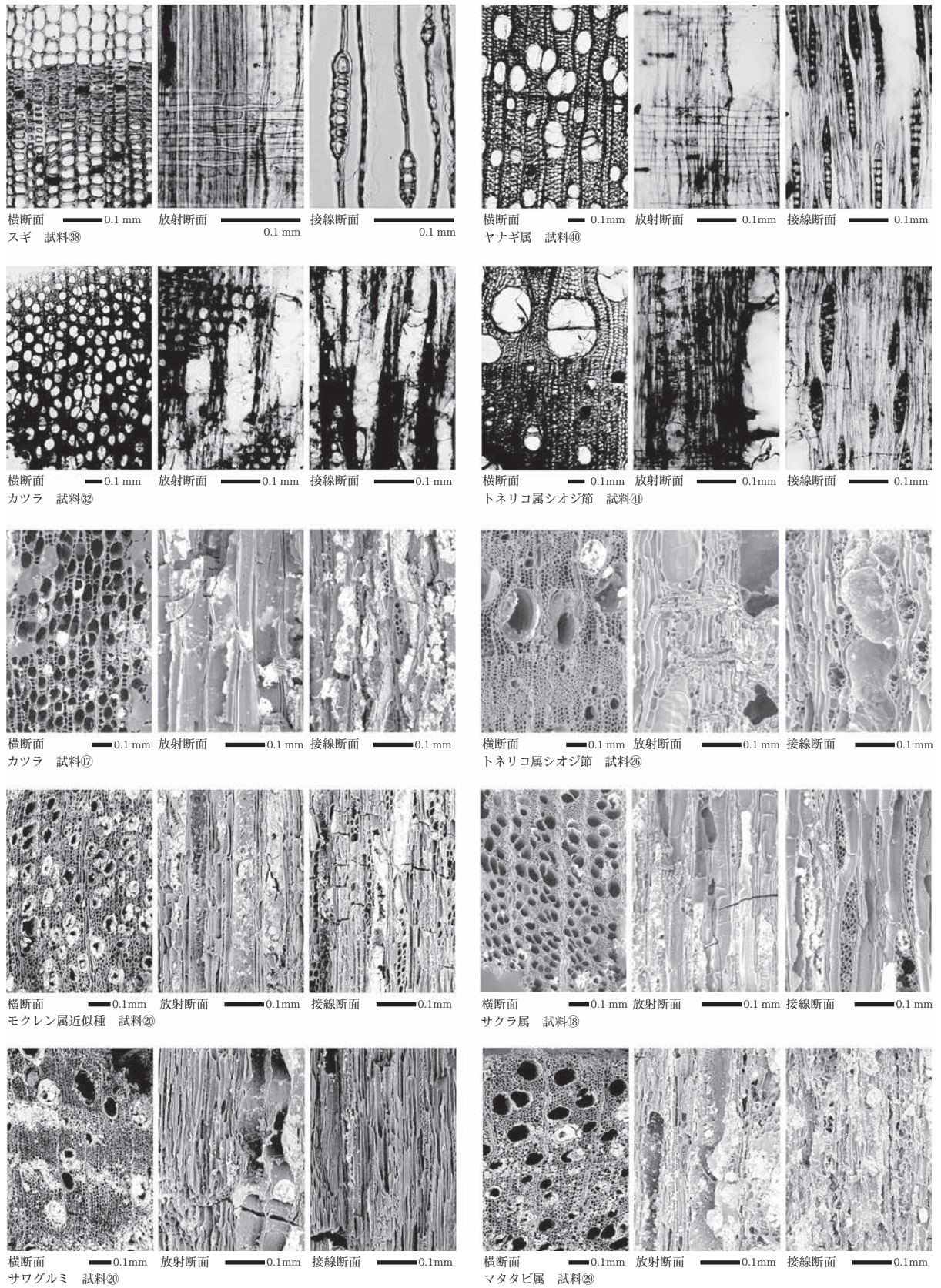
環孔材。道管はほぼ単独で配列する。孔圏部は1～4列、孔圏外への移行は緩やかで、道管は晩材部に向かって径を漸減させる。道管の穿孔板単穿孔板、壁孔は交互状となる。放射組織は異性、1～4細胞幅、1～40細胞高。

・トネリコ属シオジ節 *Fraxinus* sect. *Fraxinaster* モクセイ科

環孔材。孔圏部は1～2列、孔圏外で急激に道管径を減じたのち、厚壁の道管が単独または2個が放射方向に複合して配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管の穿孔板は単穿孔板、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、1～2細胞幅、1～20細胞高。

第6表 樹種同定結果

試料No.	遺構	グリッド	層位	時代	器種等	状態	木取り	樹種	備考(番号は掲載No.)
⑰	SK352	17AP23	2	古代		炭化材	破片	カツラ	
⑱	SK363	20AE15	5	古代		炭化材	破片	サクラ属	
⑲	SK419	18AM1	1	古代		炭化材	芯持材	トネリコ属近似種	
⑳	SK569	18AM10	1	古代		炭化材	破片	サワグルミ モクレン属近似種	炭化物集中
㉑	SK569	18AM10	1	古代		炭化材	破片	サクラ属	炭化物集中
㉒	SD826	17AO14	1	古代		炭化材	破片	トネリコ属シオジ節	
㉓	SX537	22AH16	1	古代		炭化材	破片	サクラ属	
㉔	SX658	21AI16	3	古代		炭化材	破片	カエデ属	
㉕	SX663	22AH9	1	古代		炭化材	破片	カエデ属	
㉖	P414	15AO11	1	古代		炭化材	破片	トネリコ属シオジ節	
㉗	P503	17AL20	1	古代		炭化材	破片	カエデ属	
㉘	P551	24AH12	1	古代		炭化材	破片	カエデ属	
㉙	P577	17AL14・19	1	古代		炭化材	小破片	マタタビ属	
㊱	P152	19AP8	1	古代	柱根	生材	—	スギ	
㊲	P178	18AP21	1	古代	柱根	生材	—	スギ	
㊳	SI108-焼土211	18AO3	1	古代	柱材	生木	破片(節近く)	カツラ	739
㊴	SB251-P273	18AP7	2	古代	柱根	生木	分割材	スギ	738
㊵	SE278	17AQ23	4	古代	棒状製品	生木	削出棒状	スギ	734
㊶	SE278	17AQ23	4	古代	棒状製品	生木	削出棒状	スギ	735
㊷	SE278	17AQ23	5	古代	箸状製品	生木	削出棒状	スギ	732
㊸	SE278	17AQ23	4	古代	小皿未成品	生木	板目	スギ	733
㊹	SE278	17AQ23	—	古代	井戸側	生木	板目	スギ	749
㊺	SE278	17AQ23	—	古代	板目材	生木	板目	スギ	742
㊻	—	19AJ11	IX	—		生材	—	ヤナギ属	深掘10T
㊼	—	17AO11	IX	—		生材	—	トネリコ属シオジ節	深掘7T



第 18 図 主な木材・炭化材の顕微鏡写真

・トネリコ属近似種 cf. *Fraxinus* モクセイ科

試料は小片で保存状態が悪い。道管径の変化から環孔材と考えられる。道管の穿孔板は単穿孔板、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、1～2細胞幅、1～30細胞高。

観察された特徴からトネリコ属の可能性があるが、観察範囲が狭く、道管配列の詳細も確認できなかったことから近似種とした。

D 考 察

木材・炭化材には10分類群が認められた。各分類群の特徴をみると、針葉樹のスギは適湿地に生育する常緑高木であり、木材は割裂性や耐水性が比較的高い。広葉樹のカツラは溪畔等に生育する落葉高木である。カツラの木材は木理が通直であり、割裂性が高く、加工は容易であるが、強度と保存性は低い。サクラ属は、二次林等に生育する落葉低木～高木であり、木材は重硬・緻密で強度が高い。カエデ属は、二次林や溪畔等に生育する落葉小高木～高木であり、木材は比較的重硬で強度が高い。広葉樹のモクレン属（近似種）、ヤナギ属、サワグルミ、シオジ節は、河畔や溪畔等に生育する落葉低木～高木である。シオジ節を含むトネリコ属の木材は重硬で強度が高いが、その他の3種類は軽軟で強度や耐朽性が低い。マタタビ属は、林縁部等に生育する落葉性のつる植物。木材は比較的靱性が高い。

器種別にみると、柱材4点のうち3点は耐水性の高い針葉樹のスギ、1点は広葉樹のカツラに同定されている。伊東・山田〔2012〕のデータベースによれば、古代の柱材はクリを中心とした広葉樹材の利用が多い。一方、スギについては、新保遺跡（五泉市）や上浦遺跡・沖ノ羽遺跡（いずれも旧新津市）で確認されている。本遺跡に近い地域にスギを用いた柱材の事例が多い結果は注目される。また、春日〔2008〕によれば、新潟県（主に中越地域）における古墳時代～中世の柱材では、時代が下るほどスギやクリの利用例が増加する傾向にあること、倉庫と考えられる掘立柱建物跡でクリの利用が多いこと、スギが集落内で特別な建物の柱材に利用された可能性があることなどが指摘されている。こうした指摘や材質の違いなどを考慮すれば、本遺跡においても用材の違いが建物の用途や機能を反映している可能性がある。

その他の木製品についてみると、板目材と井戸側はいずれも比較的大型な板目板材である。棒状製品2点は、削出棒状を呈しており、よく似ていることから、同一器種の可能性がある。箸状製品は、細い削出棒状の製品である。小皿未成品は、円形の板目板状を呈する。これらの木製品は、いずれもスギに同定され、加工性の高い木材の利用が推定される。伊東・山田〔2012〕のデータベースによれば、中越地域における古代の木製品ではスギの利用が多い傾向にある。今回の結果についても、スギを様々な用途に多用する一例といえる。

炭化材は、土坑（SK）、溝（SD）、ピット（P）など遺構から出土している。炭化していることから、人間による火の使用による炭化が推定されるが、用途・機能の詳細は不明である。これらの樹種は、全部で7種類の広葉樹（カツラ、サクラ属、カエデ属、モクレン属近似種、サワグルミ、マタタビ属、シオジ節）であり、遺構によって異なる。このうち、SK569ではサワグルミとモクレン属近似種が認められ、2種類が混在していることが推定される。一方、SK419では年代測定に用いた破片も含めて4～5片の炭化材片があるが、全て同一の分類群であった。樹芯に隋の残る破片もあり、小径木に由来する可能性がある。炭化材に確認された種類は、河畔林・溪畔林を構成する種類や、河畔の林縁部でマント群落を作るつる植物であり、遺跡周辺の河畔や沖積地を中心にこれらの広葉樹やつる植物が生育していたことが推定される。

深掘トレンチから出土した木材はシオジ節とヤナギ属に同定された。いずれも河畔林・溪畔林の構成種であり、IX層の時期の遺跡周辺に生育していたことが推定される。

第7節 放射性炭素年代測定・ウィグルマツチング

A 試料

試料は、SE278 (17AQ23) から出土した井戸側 2 点 (試料④②・④③)、SK472 (16AP22) の 1 層から出土した土師器片に付着した炭化物 (試料④④)、SK569 (18AM10) の 1 層から出土した炭化物 (試料④⑤)、SD826 (17AO14) の 1 層から出土した炭化物 (試料④⑥)、SB251-P273 (18AP7) の 1 層から出土した柱根 (試料④⑦)、SK419 (18AM1) の 2 層から出土した須恵器環状瓶 (195) 直下の炭化材 (試料④⑧) と、深掘 10T (19AJ11) の IX 層から出土した木材 1 点 (試料④⑨) の計 8 点である。なお、試料④⑨についてはウィグルマツチングを実施する。

試料④⑨には、炭化材が 4～5 片認められる。樹種同定作業で全て同一種であることが確認されたことから、同一個体に由来する可能性がある。年代測定試料は、最大片を抽出した。

試料④⑨は、横 (接線方向) が約 16cm、縦 (放射方向) が約 5.5cm の木片であり、最外部には樹皮が残る。実体顕微鏡で年輪を計数した結果、10 年分の年輪が確認された。内側から 1 年目 (内)、5 年目 (中)、10 年目 (外) の 3 点を採取して試料とした (第 19 図)。

B 方法

1) 化学処理

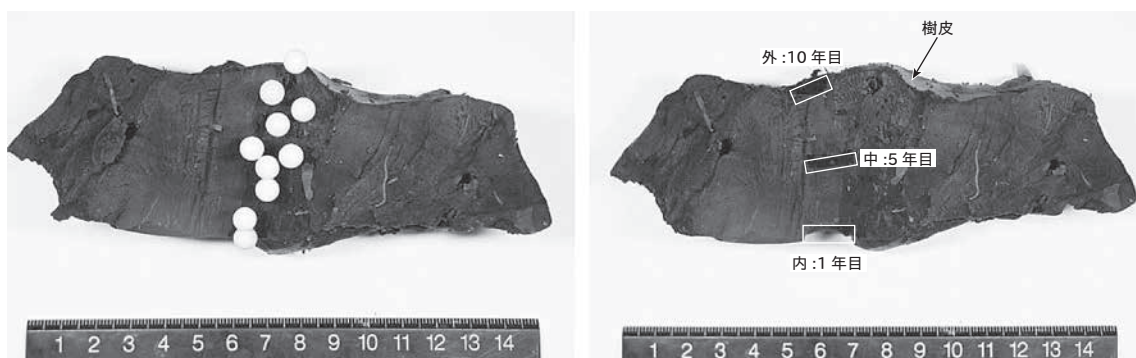
試料の付着物を取り除いた後、酸-アルカリ-酸 (AAA : Acid Alkali Acid) 処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA 処理における酸処理では、通常 1mol/ℓ (1M) の塩酸 (HCl) を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム (NaOH) 水溶液を用い、0.001M から 1M まで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が 1M に達した時には「AAA」、1M 未満の場合は「AaA」と表に記載した (第 7 表)。

化学処理後の試料を燃焼させ、二酸化炭素 (CO₂) を発生させ、真空ラインで二酸化炭素を精製する。精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト (C) を生成させる。グラファイトを内径 1mm のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

第 7 表 測定試料及び処理

試料番号	グリッド	出土遺構・層位	試料	前処理・調整	測定法
④②	17AQ23	SE278	木片	酸-アルカリ-酸処理 (AAA)	AMS
④③	17AQ23	SE278	木片	酸-アルカリ-酸処理 (AAA)	AMS
④④	16AP22	SK472 1層	炭化物	酸-アルカリ-酸処理 (AaA)	AMS
④⑤	18AM10	SK569 1層	炭化物	酸-アルカリ-酸処理 (AaA)	AMS
④⑥	17AO14	SD826 1層	炭化物	酸-アルカリ-酸処理 (AaA)	AMS
④⑦	18AP7	SB251-P273 1層	木片	酸-アルカリ-酸処理 (AaA)	AMS
④⑧	18AM1	SK419 2層	炭化物	酸-アルカリ-酸処理 (AAA)	AMS
④⑨-1	19AJ11	深掘10T IX層	木片	酸-アルカリ-酸処理 (AAA)	AMS
④⑨-2	19AJ11	深掘10T IX層	木片	酸-アルカリ-酸処理 (AAA)	AMS
④⑨-3	19AJ11	深掘10T IX層	木片	酸-アルカリ-酸処理 (AAA)	AMS

※AMS (Accelerator Mass Spectrometry) は加速器質量分析法



試料横断面の全景と採取位置 試料④⑨ (深掘11T)

左: 採取前の年輪計数状況 (白のピンは1年単位の年輪界を示す)

右: 試料採取後 (年輪数は、内側を1として計数)

第 19 図 ウィグルマツチング試料採取位置

2) 測定

加速器をベースとした¹⁴C-AMS専用装置を使用し、¹⁴Cの計数、¹³C濃度(¹³C/¹²C)、¹⁴C濃度(¹⁴C/¹²C)の測定を行う。測定では、米国立標準局(NIST)から提供されたシユウ酸(HOx II)を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

3) 算出

- (1) $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の¹³C濃度(¹³C/¹²C)を測定し、基準試料からのずれを千分偏差(‰)で表した値である。
- (2) ¹⁴C年代(Libby Age : yrBP)は、過去の大気中¹⁴C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年(0yrBP)として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期(5568年)を使用する[Stuiver and Polach 1977]。¹⁴C年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を結果表に示す。¹⁴C年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、¹⁴C年代の誤差($\pm 1\sigma$)は、試料の¹⁴C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。
- (3) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の¹⁴C濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の¹⁴C濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、¹⁴C年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差($1\sigma=68.3\%$)あるいは2標準偏差($2\sigma=95.4\%$)で表示される。グラフの縦軸が¹⁴C年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下1桁を丸めない¹⁴C年代値である。なお、較正曲線及び較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal20データベース[Reimer et al. 2020]を用い、OxCalv4.4較正プログラム[Bronk Ramsey 2009]を使用する。暦年較正年代は、¹⁴C年代に基づいて較正(calibrate)された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」・「cal BP」という単位で表される。
- (4) 暦年較正を高精度に行うための方法として、ウィグルマッチングが行われる。暦年較正曲線には過去の大气や海洋中における¹⁴C濃度の変動を反映した起伏が表れる。この起伏はウィグル(wiggle)と呼ばれ、¹⁴C年代に対応する暦年代の絞り込みを困難にする原因の一つとなっている。このウィグルを利用して暦年代を求めるのがウィグルマッチングである。まず年輪を持つ測定対象から年輪によって相互の年代差を確認できるように複数の試料を採取し、各々の¹⁴C年代を求める。次に試料間の年代差と¹⁴C年代値の変動パターンを較正曲線に重ね合わせ、最外年輪の暦年代を算出する。こうすることで、単独の試料の¹⁴C年代に対して算出される暦年代よりも範囲を絞り込むことが可能となる場合がある。ウィグルマッチングの計算に用いる¹⁴C年代値は、暦年較正の場合と同様 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下1桁を丸めない¹⁴C年代値で、算出される最外年輪の暦年代は1標準偏差($1\sigma=68.3\%$)あるいは2標準偏差($2\sigma=95.4\%$)の範囲で表示される。ウィグルマッチングのグラフとして第21・22図を示しており、第21図の縦軸は確率密度、第22図の縦軸は¹⁴C年代と確率密度、横軸は第21・22図とも最外年輪の暦年代を表す。なお、ウィグルマッチングの結果は、1測定試料に含まれる年輪数、試料の間隔の取り方など、試料の状況によって異なる可能性がある。また測定結果の重ね合わせに用いる較正曲線や較正プログラムの種類によっても結果が異なってくる可能性がある。このため、年代値の利用にあたっては試料採取の状況、使用した較正曲線とプログラムの種類とバージョンを確認する必要がある。ウィグルマッチングの計算にはIntCal20較正曲線[Reimer et al. 2020]、OxCalv4.4較正プログラム[Bronk Ramsey et al. 2001・Bronk Ramsey 2009]を使用し、結果を第8表に示した。ウィグルマッチングによる最外年輪の暦年代は較正された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」(または「cal BP」)という単位で表される(第9表)。

C 結 果

加速器質量分析法 (AMS : Accelerator Mass Spectrometry) によって得られた ^{14}C 濃度について同位体分別効果の補正を行い、放射性炭素 (^{14}C) 年代および暦年代 (較正年代) を算出した。

10 試料の ^{14}C 年代測定結果と暦年較正結果 (較正曲線) を第 8 表と第 20 図に、また、木材のウィグルマツチングの結果を第 9 表と第 21・22 図に示す。第 21 図は較正プログラムによるウィグルマツチングの結果、第 22 図はそのデータに基づき、木材最外年輪の暦年代範囲の中で特に確率密度の高い年代頃に最外年輪を合わせた場合のマツチング図である。

D 考 察

土層の堆積年代を検討する目的で、加速器質量分析法 (AMS) による放射性炭素年代測定ならびにウィグルマツチングを行った。その結果、SE278 の井戸側 (試料㉔) は、補正 ^{14}C 年代が 1260 ± 20 年 BP、 2σ の暦年較正值は 673 cal AD ~ 778 cal AD (80.9%)、787 cal AD ~ 827 cal AD (14.5%) で、別の井戸側 (試料㉓) では、補正 ^{14}C 年代が 1340 ± 20 年 BP、 2σ の暦年較正值は 649 cal AD ~ 689 cal AD (70.8%)、742 cal AD ~ 774 cal AD (24.7%) であった。SK472 の土師器片に付着した炭化物 (試料㉒) は、補正 ^{14}C 年代が 1710 ± 20 年 BP、 2σ の暦年較正值は 255 cal AD ~ 285 cal AD (21.9%)、326 cal AD ~ 412 cal AD (73.6%) であった。SK569 の炭化物 (試料㉑) は、補正 ^{14}C 年代が 1310 ± 20 年 BP、 2σ の暦年較正值は 660 cal AD ~ 708 cal AD (46.4%)、726 cal AD ~ 775 cal AD (49.0%) で、SD826 の炭化物 (試料㉐) は、補正 ^{14}C 年代が 1280 ± 20 年 BP、 2σ の暦年較正值は 668 cal AD ~ 775 cal AD (95.4%) であった。P273 の柱根 (試料㉏) は、補正 ^{14}C 年代が 1260 ± 20 年 BP、 2σ の暦年較正值は 672 cal AD ~ 777 cal AD (87.3%)、791 cal AD ~

第 8 表 測定結果

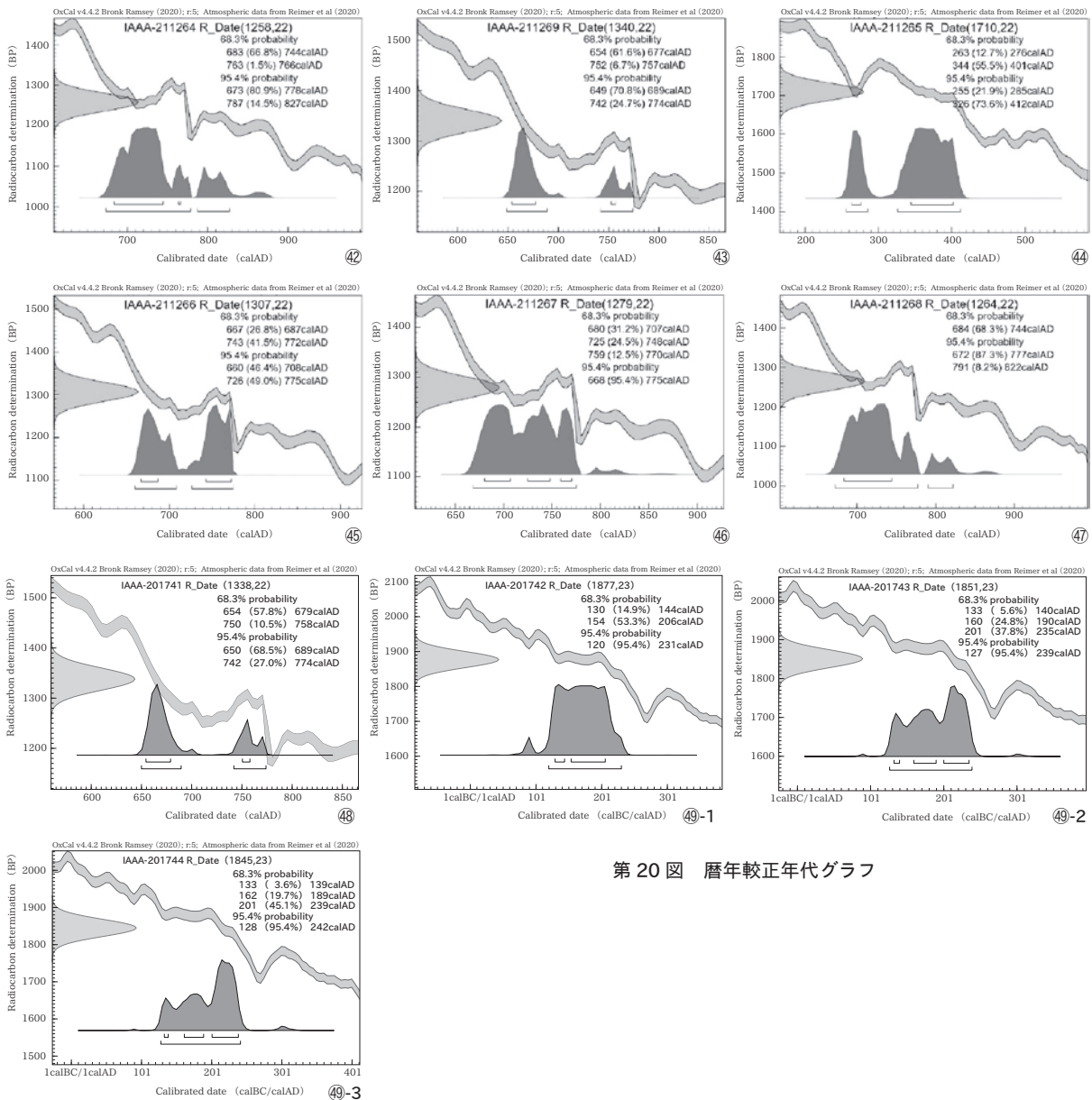
試料番号	測定No. (IAAA-)	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (年BP)	^{14}C 年代 (年BP)	暦年代 (西暦)	
					1 σ (68.3%確率)	2 σ (95.4%確率)
㉔	211264	-23.82 \pm 0.23	1258 \pm 22	1260 \pm 20	683 calAD - 744 calAD (66.8%) 763 calAD - 766 calAD (1.5%)	673 calAD - 778 calAD (80.9%) 787 calAD - 827 calAD (14.5%)
㉓	211269	-25.36 \pm 0.28	1340 \pm 22	1340 \pm 20	654 calAD - 677 calAD (61.6%) 752 calAD - 757 calAD (6.7%)	649 calAD - 689 calAD (70.8%) 742 calAD - 774 calAD (24.7%)
㉒	211265	-25.40 \pm 0.22	1710 \pm 22	1710 \pm 20	263 calAD - 276 calAD (12.7%) 344 calAD - 401 calAD (55.5%)	255 calAD - 285 calAD (21.9%) 326 calAD - 412 calAD (73.6%)
㉑	211266	-24.53 \pm 0.22	1307 \pm 22	1310 \pm 20	667 calAD - 687 calAD (26.8%) 743 calAD - 772 calAD (41.5%)	660 calAD - 708 calAD (46.4%) 726 calAD - 775 calAD (49.0%)
㉐	211267	-25.50 \pm 0.23	1279 \pm 22	1280 \pm 20	680 calAD - 707 calAD (31.2%) 725 calAD - 748 calAD (24.5%) 759 calAD - 770 calAD (12.5%)	668 calAD - 775 calAD (95.4%)
㉏	211268	-27.58 \pm 0.20	1264 \pm 22	1260 \pm 20	684 calAD - 744 calAD (68.3%)	672 calAD - 777 calAD (87.3%) 791 calAD - 822 calAD (8.2%)
㉍	201741	-24.87 \pm 0.21	1388 \pm 22	1340 \pm 20	654 calAD - 679 calAD (57.8%) 750 calAD - 758 calAD (10.5%)	650 calAD - 689 calAD (68.5%) 742 calAD - 774 calAD (27.0%)
㉌-1	201742	-28.25 \pm 0.20	1877 \pm 23	1880 \pm 20	130 calAD - 144 calAD (14.9%) 154 calAD - 206 calAD (53.3%)	120 calAD - 231 calAD (95.4%)
㉌-2	201743	-28.22 \pm 0.20	1851 \pm 23	1850 \pm 20	133 calAD - 140 calAD (5.6%) 160 calAD - 190 calAD (24.8%) 201 calAD - 235 calAD (37.8%)	127 calAD - 239 calAD (95.4%)
㉌-3	201744	-28.61 \pm 0.20	1845 \pm 23	1850 \pm 20	133 calAD - 139 calAD (3.6%) 162 calAD - 189 calAD (19.7%) 201 calAD - 239 calAD (45.1%)	128 calAD - 242 calAD (95.4%)

BP : Before Physics (Present), AD : 紀元

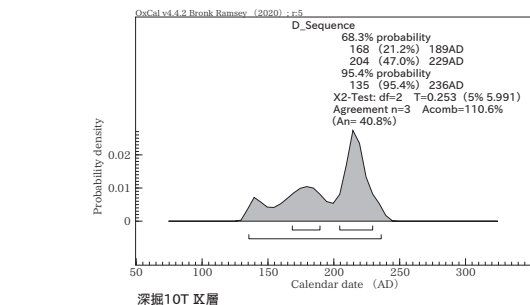
第 9 表 ウィグルマツチング結果

試料番号	測定No. (IAAA-)	採取位置 (最外年輪から)	暦年較正用年代 (年BP)	暦年代 (西暦)	
				1 σ (68.3%確率)	2 σ (95.4%確率)
㉌-1	201742	10年輪	1877 \pm 23	159 calAD - 180 calAD (21.2%) 195 calAD - 220 calAD (47.0%)	126 calAD - 227 calAD (95.4%)
㉌-2	201743	6年輪	1851 \pm 23	163 calAD - 184 calAD (21.2%) 160 calAD - 190 calAD (24.8%)	130 calAD - 231 calAD (95.4%)
㉌-3	201744	1年輪	1845 \pm 23	168 calAD - 189 calAD (21.2%) 204 calAD - 229 calAD (47.0%)	135 calAD - 236 calAD (95.4%)
		最外年輪年代		168 calAD - 189 calAD (21.2%) 204 calAD - 229 calAD (47.0%)	135 calAD - 236 calAD (95.4%)

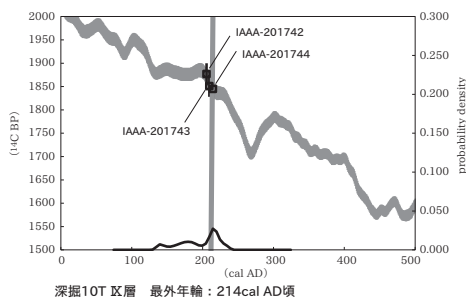
822 cal AD (8.2%) であった。また、SK419 の須恵器環状瓶 (195) 直下の炭化材 (試料④⑧) は、補正 ^{14}C 年代が 1340 ± 20 年 BP、 2σ の暦年較正值は 650 cal AD ~ 689 cal AD (68.5%)、742 cal AD ~ 774 cal AD (27.0%) であった。さらに深掘 10T のⅨ層出土木材 (試料④⑨) の最外年輪の暦年代は、ウィグルマッチングによって 214 cal AD 頃と推定された。



第20図 暦年較正年代グラフ



第21図 ウィグルマッチングによる木材最外年輪の暦年較正年代グラフ



第22図 木材のウィグルマッチング (第21図のグラフに表れたピークを最外年輪とみなした場合)

第Ⅶ章 総 括

第1節 遺構について

A 竪穴建物について

曾我墓所遺跡では9軒の竪穴建物が検出され、出土遺物から8世紀中葉から末期と考えられる。ここでは、県内で検出された同時期の竪穴建物と比較しながら本遺跡の竪穴建物について検討する。

1) 新潟県内の竪穴建物

新潟県内において、古代(8世紀以降)の竪穴建物が検出されたのは53遺跡、総軒数は327軒である(第23図)。しかし、遺存状況や火床の有無などで建物と認定しない場合もあり、実数は前後する可能性がある。

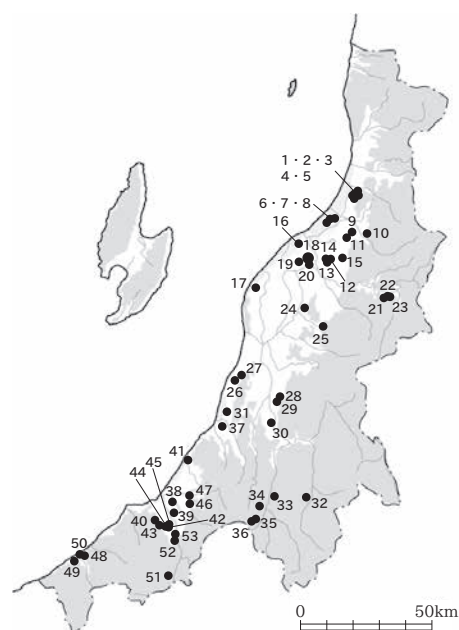
新潟県の古代の竪穴建物を検討した論考として〔春日1996・2016・2017、山崎2017・2019〕などがある。その形態的特徴や差異については〔山崎2017〕に詳しく、竪穴建物の構造(規模・柱穴配置・カマド位置・排水溝・周溝)に着目し、7世紀～11世紀の建物の特徴を明らかにしている。さらに、県内の竪穴建物数が8世紀に最多となり、10世紀以降は激減することを示している〔山崎2019〕。しかし、地域ごとに若干の差異があるため、7世紀が最多で8世紀以降に減少が始まる高田平野など当てはまらない地域もある。

2) 曾我墓所遺跡の竪穴建物

検出された9軒の竪穴建物のうち時期の分かる遺物が出土しているものは7軒である。これらは、おおむね8世紀中葉から末期と考えられ、規模・柱穴配置・カマド構造に特徴がみられる(第24図・第10表)。竪穴建物の規模と柱穴配置は〔山崎2019〕で示された分類を用いて以下のように表記した。規模は「小型(～25m²)」、「中型(25～40m²)」、「大型(40～60m²)」、「特大(60m²～)」で、柱穴配置は「多主柱」、「4本主柱」、「少主柱」、「無柱」、「側柱」である。

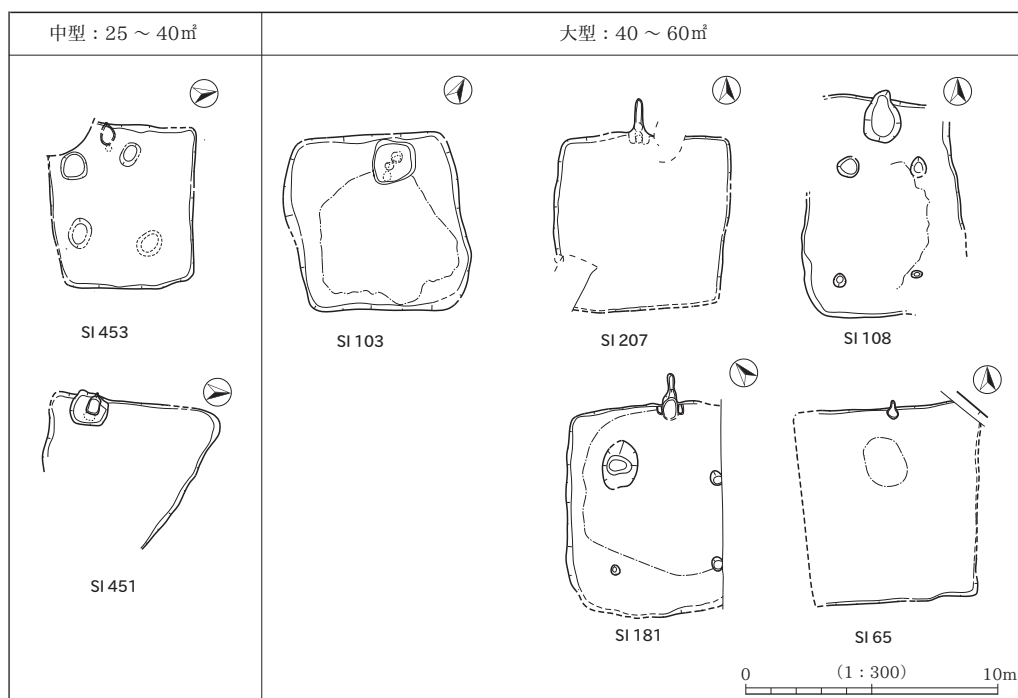
まず規模であるが、8世紀前葉から小型の竪穴建物が増加し、中葉に大型・特大はほぼ確認できなくなるため、8世紀前葉～中葉に竪穴建物が小型化するというひとつの面期を想定する

(山崎2017)。本遺跡の竪穴建物は中型2軒(SI451・453)、大型5軒(SI65・103・108・181・207)と中・大型で占められ、8世紀中葉～末期に県内で一般的に検出される竪穴建物の傾向とは異なる。柱穴配置については、県内の8世紀後葉～9世紀初頭の竪穴建物は4本主柱・少主柱・無柱・側柱が確認でき、小型で無柱の竪穴建物が主体となる。また、柱穴配置が不明瞭な竪穴建物も8世紀後半以降に増加する〔山崎2017・2019〕。本遺跡の竪穴建物は、中型で4本主柱が1軒(SI453)、無柱1軒(SI451)、大型で4本主柱が2軒(SI108・181)、無



No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名
1	坂町宮ノ腰B	19	白水	37	下沖北
2	坂町宮ノ腰C	20	上郷A	38	津倉田
3	田島	21	上野東	39	子安
4	田屋	22	大坂上道	40	蛇谷
5	坂町宮ノ腰D	23	向大浦	41	木崎山
6	金港	24	道下	42	北新田
7	山三賀II	25	南中五輪峠	43	岩ノ原
8	二本松東山	26	奈良崎	44	台の上
9	松橋	27	八幡林	45	狐宮
10	坂ノ沢CII	28	土用木西	46	十二浦
11	空毛	29	上条	47	古町B
12	柄日本	30	金塚	48	小出越
13	村前東A	31	寺前	49	須沢角地
14	山口	32	金屋	50	六反田南
15	横峯B	33	馬場上	51	関川谷内
16	山本戸	34	大剱野谷内田B	52	栗原
17	四十石	35	相吉	53	倉田
18	曾我墓所	36	天狗寺		

第23図 県内の古代(8世紀以降)における竪穴建物検出遺跡



第 24 図 竪穴建物分類図 (第 10 表と対応)

柱 1 軒 (SI103)、不明 2 軒 (SI65・207) で、中・大型の 4 本主柱及び無柱竪穴建物が主体である。県内で同様の竪穴建物は、上越市北新田遺跡〔金内ほか 2008〕や同市津倉田遺跡〔笹沢 1999〕など上越地域に偏る。北新田遺跡 (9 世紀中葉) では小型の竪穴建物、津倉田遺跡 (7 世紀中葉～8 世紀初頭) では小・中型の竪穴建物が多く検出されている。柱穴配置は

第 10 表 竪穴建物一覧

NO.	遺構名	規模・面積 (㎡)	平面形	柱穴配置	カマド位置	備考	
1	SI453	中型 (25～40㎡)	37.05	長方形	4本主柱	西辺南寄り	
2	SI451		(27.66)	不整形	無柱	西辺南寄り	
3	SI103	大型 (40～60㎡)	46.76	方形	無柱	北辺北寄り	
4	SI207		47.70	長方形	不明	北辺中央	カマド長煙道 柱穴不明
5	SI108		52.40	長方形	4本主柱	北辺中央	柱穴4基検出
6	SI181		(52.26)	長方形	4本主柱	北辺中央	柱穴4基検出 カマド長煙道
7	SI65		53.18	長方形	不明	北辺中央	柱穴不明

共通するものの、上越地域とは異なり本遺跡の竪穴建物は 8 世紀中葉～末期に属する中・大型で 4 本主柱及び無柱の竪穴建物が多い点が指摘できる。最後にカマドの設置位置であるが、県内では各時期をとおしてカマドの設置位置は、竪穴建物の南側及び東側が優位である〔山崎 2019〕。一方、本遺跡では北側及び西側にカマドが付属し、県内の一般的な竪穴建物のカマドの位置とは異なる。これは、風向きなどの影響を避けようとしたことと、竪穴建物の配置に規制があったためと考えられる。なお、SI65・SI108 は明瞭ではないが、SI181 と SI207 には長煙道のカマドが構築されており、同様の竪穴建物は、県内では頸城や魚沼を中心に 13 遺跡 42 軒が確認できる〔山崎 2017〕。その中で本遺跡の竪穴建物の時期に近いのは、十日町市馬場上遺跡〔菅沼 2003〕の第 44 号住居と南魚沼市金屋遺跡〔飯坂ほか 2006〕の 04SI39 の 2 例に限られる。どちらも魚沼地域に所在し 9 世紀前半に位置付けられている。カマドが長煙道なのか判断が難しい山三賀Ⅱ遺跡〔坂井ほか 1989〕の SI7・SI280 を除けば、阿賀北周辺地域で長煙道カマドが付属する竪穴建物の検出例は、本遺跡が初めてとなる。長煙道カマドは東北地方に多く分布し、山形県米沢市西谷地 b 遺跡〔水戸部ほか 2015〕、同市馳上遺跡〔草野ほか 2017〕、福島県会津坂下町花畑遺跡〔吉田ほか 2014〕などがある。また、県内で古代の北方系土器が出土した遺跡が阿賀北地域でいくつか確認されており、旧豊栄市松影 A 遺跡〔加藤 2001〕(沼垂地域)、新発田市馬見坂遺跡〔関 2001〕(沼垂地域)、旧神林村砂山Ⅵ遺跡〔加藤 2004〕(岩船地域) などがある。長煙道カマドの分布から、本遺跡への導入には、魚沼・上越地域の影響が考えられる。また、北方系土器は本遺跡でもわずかに出土しているが、長煙道カマドとの関係については今後の課題としたい。

県内で、小型で無柱の竪穴建物が主流になる 8 世紀中葉～9 世紀初頭に、本遺跡では中・大型で 4 本主柱及

び無柱の竪穴建物が主体となり長煙道カマドが構築される。このような周辺の遺跡との違いは、上越・魚沼地域や東北地方などからの影響が推測される。また、カマドの設置位置が北側及び西側に偏っている点も、県内の傾向と異なり本遺跡独自の様相と捉えられる。

B 建物遺構とその変遷について

1) 建物遺構について

本遺跡の調査区北東側では、竪穴建物のほかに掘立柱建物や性格不明遺構とした竪穴状遺構が多く検出され、建物の変遷を提示することが可能ではないかと考えた。しかし、遺構の重複が著しく遺構からは春日編年Ⅳ1～Ⅳ2・3期〔春日1999・2019〕の土器が混在して出土するため、各遺構の時期は明瞭でない。ここでは、確実な遺構の切り合いによる新旧関係を基に、第七章第2節で提示した出土土器の年代から判断した各遺構の主体となる時期を参考に建物の変遷を考えた。第25・26図には遺構と遺物との関係を明確にするため、遺構内出土遺物の出土位置と実測図を示したが、平面図上に番号がないものは小グリッドで取り上げた遺物である。以下、簡単にまとめた。

SI65（第25図）他の遺構との重複が著しく、断面から重複するほとんどの遺構より古い。床と捉えた硬化面に近い位置で出土した7・8から春日Ⅳ1期とした。

SI103（第25図）SI108を切るカマド（焼土114）から出土した33・34や、床面に置かれた状態で出土した32から春日Ⅳ1～Ⅳ2期と判断した。

SI108（第25図）SI103に切られる。硬化面上から出土した36から春日Ⅳ1期とした。

SI181（第25図）カマド（焼土830）から出土した44や硬化面上から出土した42から、春日Ⅳ1～Ⅳ2期とした。

SI207（第25図）出土遺物が少なく図化できた遺物は46～48のみである。カマド（焼土823）近くから出土した46や床面上から出土した47から遺構の時期を春日Ⅳ1～Ⅳ2期と判断した。

SI451（第25図）出土した土器の復元率が高く、法量や形態に違いがほとんど見られず一括性が高い土器群と判断し、遺構の時期を春日Ⅳ1期とした。

SI453（第25図）図化できた遺物は少ないが、出土土器の法量や形態に差が見られないため混入はないと考え、遺構の時期を春日Ⅳ1期と判断した。

SB251（第25図）図化できたものは76～82のみである。小片であるが法量及び形態から、遺構の時期を春日Ⅳ2・3期とした。

SB252（第26図）柱穴（P191）から出土した83や周溝（SD468）から出土した84～86の土器法量及び形態から、遺構の時期を春日Ⅳ2・3期とした。

SB829（第26図）柱穴からの遺物の出土は少なく、図化できたものは95のみである。春日Ⅳ1期の土器より小ぶりなため、遺構の時期を春日Ⅳ2・3期と判断した。

SB828（第26図）ほかの遺構との重複が著しく、周溝と考えるSD357はSI65（Ⅳ1期）より新しい。出土した92・93から遺構の時期を春日Ⅳ2・3期と判断した。

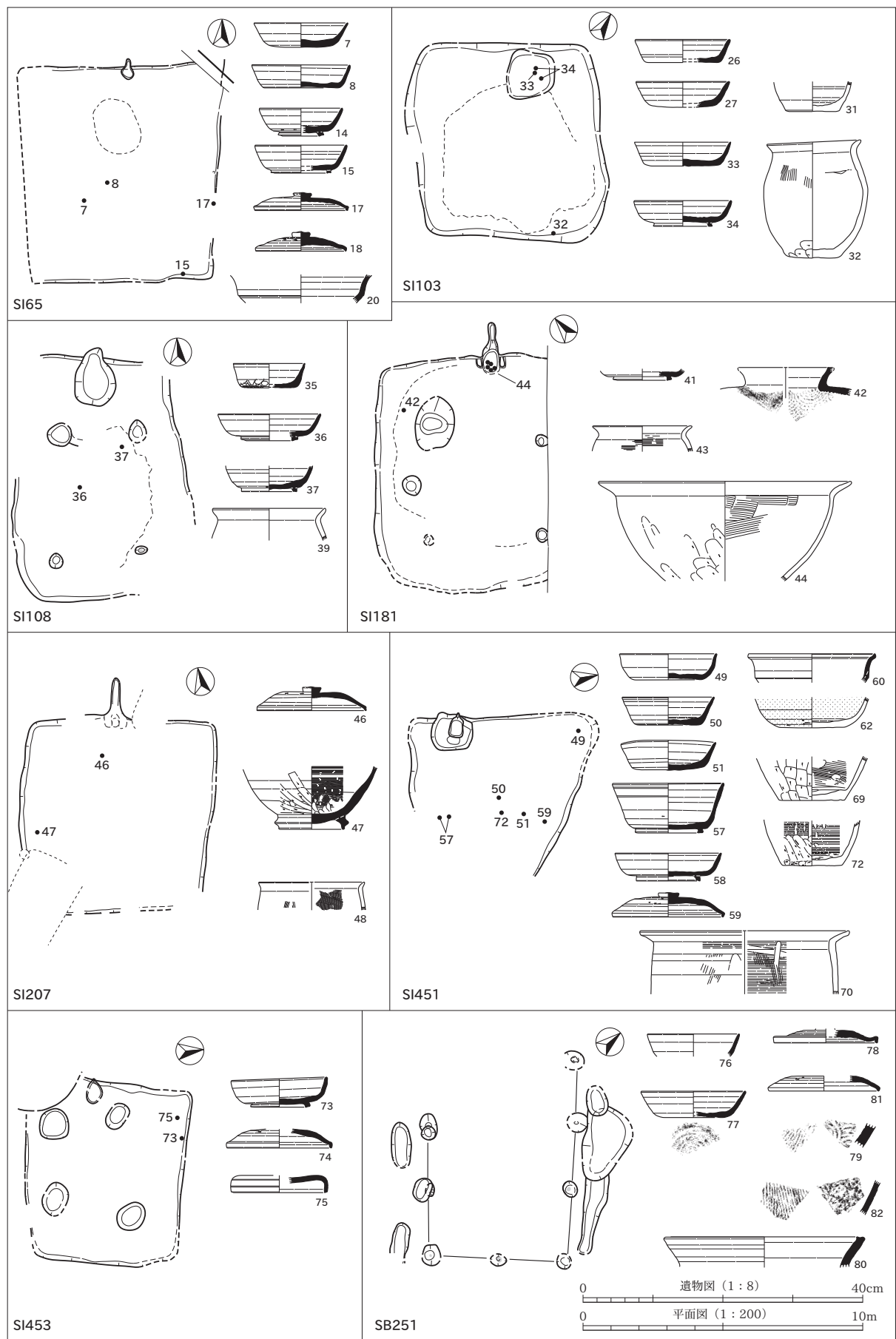
SD420（第26図）出土土器は多く、SD357同様に方形を囲むようにL字状を呈することから両者は同一遺構もしくは同時期に機能していたと考え、春日Ⅳ2・3期と判断した。

SX63（第26図）竪穴状の掘り込みを確認したため建物遺構とした。出土土器から春日Ⅳ1～2期と判断した。

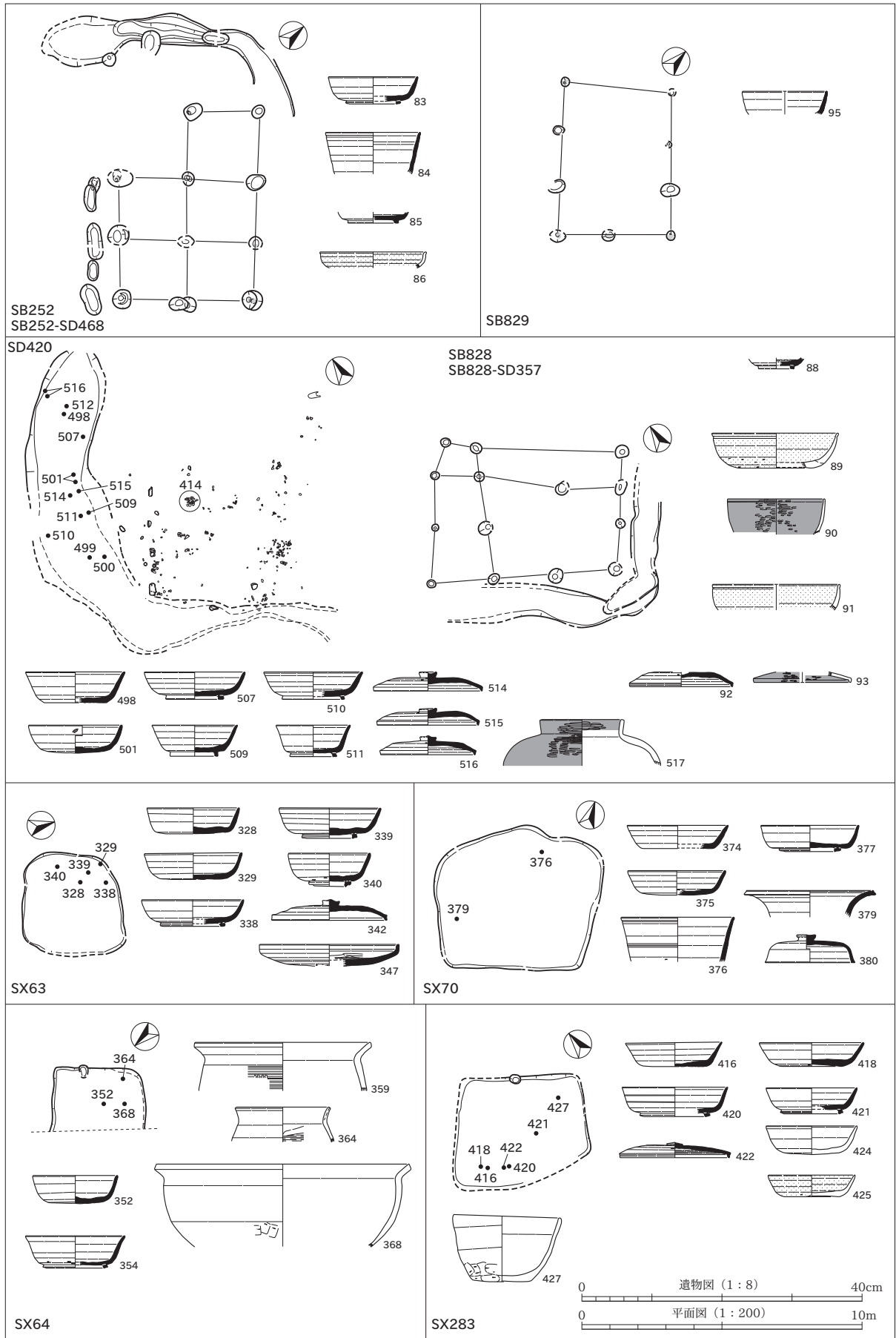
SX64（第26図）竪穴状の掘り込みを確認したため建物遺構とした。出土土器から春日Ⅳ2・3期と判断した。

SX70（第26図）竪穴状の掘り込みを確認したため建物遺構とした。出土土器から春日Ⅳ1期と判断した。

SX283（第26図）竪穴状の掘り込みを確認したため建物遺構とした。ほかの遺構との重複が著しく、断面などから重複するほとんどの遺構より新しい。出土土器から春日Ⅳ2・3期と判断した。



第 25 図 建物出土遺物の整理 1



第 26 図 建物出土遺物の整理 2

2) 建物遺構の変遷

上記で判断した建物の時期を基に、本遺跡における建物遺構の変遷を検討する。中・大型の竪穴建物で構成されるⅠ期、周溝もしくは区画溝で囲まれた掘立柱建物が構築され、調査区北西側の祭祀遺構（SK413・418・419など）が残されるⅡ期、小・中型の竪穴建物から構成されるⅢ期、調査区南西側の土坑群及び畝状小溝で構成されるⅣ期に分けられる。春日編年〔春日1997〕に従えば、Ⅰ期は春日編年Ⅳ1～2期、Ⅱ・Ⅲ期は春日編年Ⅳ2・3期、Ⅳ期は春日編年Ⅴ期に位置づけられる。さらに、Ⅰ・Ⅱ期は出土土器と遺構の新旧関係から、それぞれⅠa・Ⅰb期、Ⅱa・Ⅱb期に細分した（第27図）。調査区北西側にある鳥形製品や須恵器環状瓶が出土した祭祀遺構は、伴出した土器からⅡ期に構築された可能性が高い。また、県内初となる鉄製錫杖頭（696）や鉄鐸（697～700）などの特殊遺物も出土しており、この時期に調査区内の一部が祭祀的に利用されていた可能性を示している。以下、時期ごとに遺構構成や空間利用について記す。なお、建物遺構が検出されたⅠ～Ⅲ期を扱うこととしⅣ期は省略した。

Ⅰa期（春日編年Ⅳ1期）：SI65・SI108・SI451・SI453、SX63・SX70

中・大型の竪穴建物（SI65・108・451・453）が主体で、小型の竪穴状遺構（SX63・70）が同時併存する。カマドは、中・大型の竪穴建物にのみ構築される。建物の主軸は、SI65・108及びSX70が南北方向、SI451・453が東西方向で、それぞれおおよそ一致している。SI451とSI453は、近接しているため、同時併存ではなく建て替えの可能性はある。

Ⅰb期（春日編年Ⅳ1～2期）：SI103・SI181・SI207

遺構の新旧関係と土器の年代観から、Ⅰa期に所属する遺構よりも若干新しいと考えた。長煙道カマドが付属する大型のSI181・207はこの時期に所属し、同規模だが煙道がないSI103が同時併存する。建物の主軸方向はすべて一致しない。

Ⅱa期（春日編年Ⅳ2・3期）：SB252・SB828、SE278、SD420

区画溝もしくは周溝が付属する掘立柱建物2棟（SB252・828）が主軸を揃えて隣接し、両者の中間には井戸（SE278）が構築されている。SB252は総柱建物で、周溝としたSD468は、建物を部分的に囲うだけであり区画溝の可能性もある。また、SB828も遺構の重複により一部柱穴が欠損するが柱穴配置から総柱建物の可能性がある。付属するSD357は、その北西側で確認されたSD420に繋がって同一遺構とも考えられる。調査区外に伸びる可能性もあるため全容は明瞭でないが、現状ではコの字状に巡っており遺構密度が低い空閑地を囲む区画溝と考えることもできる（第26図）。空閑地としたSB828の北西側は、石列381・831や須恵器甕（414）など遺物がまとまって出土したSX125があり（図版62）、儀礼的な空間を意図的に設けていた可能性がある。

Ⅱb期（春日編年Ⅳ2・3期）：SB251・SB829

SB829-P160は、Ⅱa期のSB252-P179より新しいことが断面で判断できる。また、SB829はSB251とはP149が重複しているため、短期間での建て直しが想定できる。Ⅱa期を特徴づけるSB828は当期まで継続する可能性もあるが、遺構の新旧関係や出土遺物で判断することはできなかった。

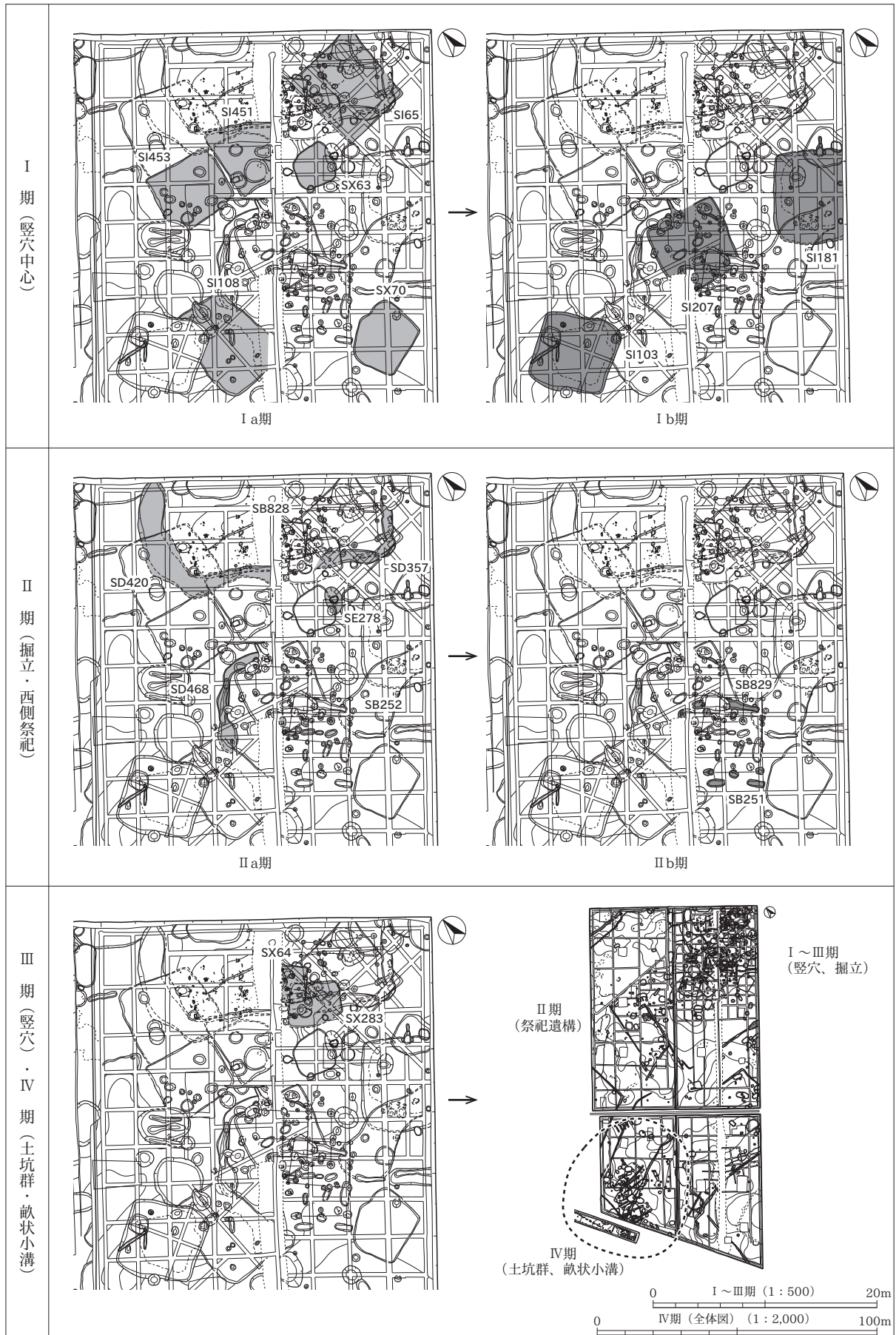
なお、調査区北西側には出土した土器の年代からⅡ期と考えられるSK413やSK418・SK419などの祭祀遺構がある。以上から、この時期にSB828-SD357・SD420・SX125を含めた調査区北側の特異な空間利用がうかがえる。

Ⅲ期（春日編年Ⅳ2・3～）：SX64・SX283

重複関係からSX283はSB828-SD357より新しく出土土器の時期も矛盾がないことからこの時期とした。Ⅰ期と異なり、大型の竪穴建物は検出されず小・中型の竪穴状遺構のみで構成される。Ⅱ期には調査区内に区画溝で囲まれた掘立柱建物が構築されたが、この時期になり再び竪穴状遺構が構築されることが特徴である。

3) 小 結

竪穴建物を中心とした建物遺構の変遷について時期ごとに図示した第27図を概観してまとめとする。



第 27 図 建物遺構の変遷

I期（春日編年IV1～2期）は中・大型の竪穴建物が主体で、小型の竪穴状遺構が存在する。県内では、8世紀前葉からは小型の竪穴建物が増加し、小・中型の竪穴建物が主体となる〔山崎2017・2019〕ため、中・大型の竪穴建物が主体で小型の竪穴状遺構が付随する建物構成が本遺跡の特徴と言える。II期（春日編年IV2・3期）は、区画溝で囲まれたSB252・SB828を中心とする掘立柱建物と、SK413・SK418・SK419などの祭祀に関連すると考えられる遺構が同時に存在する時期である。同じくII期と考えられるSB251・SB829はSB251と重複関係にあり、短期間で建物が建て替えられたと想定される。北西側に儀礼的な空間を設けていた可能性があるSB828は、日常生活以外の用途に使用されていた可能性があり、この時期に祭祀遺物が多く出土していることも含めて調査区内での空間利用の一端を示すものとして注目される。III期（春日編年IV2・3～）は再び竪穴状遺構（SX64・SX283）が構築される時期で、建物規模はI期よりも小型化する。

以上から、短期間ではあるが中・大型の竪穴建物主体のI期から小・中型主体のIII期に移り変わる過程で、区画溝で囲まれた掘立柱建物や祭祀遺構が構築されるII期を間に挟むことが明らかになった。遺跡は、成立期から竪穴建物を主体とする集落構成を維持するが、その間に建物構造が掘立柱建物で、祭祀に関連する可能性のある遺構が構築される点に特異な状況を見出すことができる。

第2節 遺物について

A 古代土器について

1) 編年的位置づけ

曾我墓所遺跡からは春日編年III～VI期の土器が出土した。III期とVI期の土器はごく少数であり、主体となるのはIV期である。V期に入ると土器の量は漸減し、VI期に遺跡は廃絶したと推測される。新潟県内の主要遺跡との並行関係については第11表に示した。重複している遺構が多いため遺構一括資料が無く、ひとつの遺構から複数時期の土器が出土するという状況であった。そのため、第11表に示したのは遺構の新旧関係と出土した土器の様相から判断した時期変遷である。以下では本遺構のI～IV期の土器様相について概観し（第28図）、その変遷について検討する。

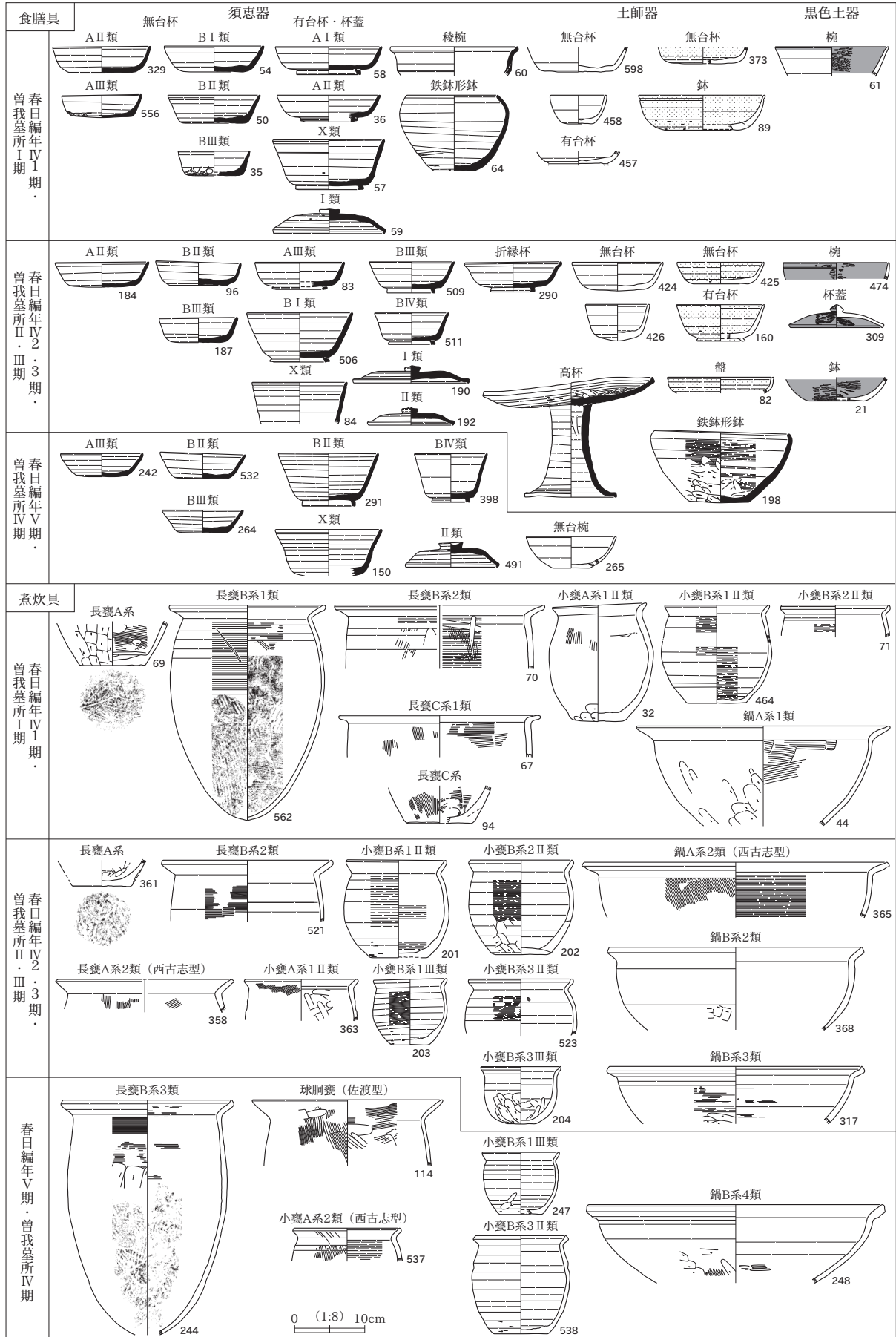
曾我墓所I期：春日編年IV1期

SI103・SI108・SI451・SI453・SX63・SX70・SX425出土土器が該当する。須恵器無台杯はAⅡ類・AⅢ類、BⅠ～BⅢ類がある。無台杯AⅡ類、BⅡ類とも口径12.5～13.8cm、器高3.5cm以上のものが多く、底部は厚い（50・53・56・451など）。無台杯AⅢ類・BⅢ類の底部外面はロクロケズリされる（35・454・556）。須恵器有台杯はAⅠ類・AⅡ類・X類がある。口径が15cmを超えるAⅠ類は1点のみで、AⅡ類が主流である。AⅡ類は口径14cmを超え、器高は4cm程度で高台・底部ともに厚みがある（36・339・456など）。金属器模倣の有台杯X類は大型で深身の器形である。仏具的器種は稜椀と鉄鉢形鉢がある（図版76-60・64）。

土師器及び黒色土器は食膳具が少数ながら存在する。土師器無台杯は須恵器無台杯と同様の器形のもの（159・

第11表 編年対照表

春日編年	本書	曾我墓所遺跡 主な遺構	信濃川右岸地域 〔伊藤2019〕	阿賀北地域 〔笹澤2019〕	信濃川左岸地域 〔丸山2019〕
春日1999					
IV1期	曾我墓所I期	SI103・SI108・SI451・ SI453・SX63・SX70・ SX425	馬越遺跡II河川3、中田 遺跡SK10	山三賀II遺跡SI14・ SI502B・SK39	八幡林遺跡H地区SD01、 梯子谷窯跡SI86、江添D 遺跡SD22
IV2・3期	曾我墓所II・III期	SX64・SX283・SX469・ SB251・SB252・SB828・ SD420・SE278・SE388・ SK419・SK488	菅免遺跡SX6・SX10、 新保北遺跡SK22・ SK14・SK83・SX7	山三賀II遺跡SI15・ SI339・SI4・SI6・SI7、 丸山A遺跡9・27a～c・ 17・36号土坑	下ノ西遺跡IVSK1053、 梯子谷窯跡SI41、八幡林 遺跡I地区III層、四十石遺 跡SX71
V1期	曾我墓所IV期	SK546・SD515・SK532・ SK543・SX509	細池寺道上遺跡VI2区 SE98、小丸山遺跡SE7	山三賀II遺跡SI360・ SI1100、丸山A遺跡11・ 31号土坑	下ノ西遺跡I SE201、浦 反甫東SD1085、上町遺 跡SX73



第 28 図 土器の変遷

598)と、口径10cm未満で深身のものがある(457)。土師器有台杯は小破片のため器形は不明である(458)。赤彩された土師器は無台杯(373・597)、鉢(62・89・91)がある。黒色土器は椀があり(61)、ロクロ成形で丁寧なミガキが施される。

長甕はA系・B系・C系が揃う。長甕A系は全形が残る資料は無いが、口縁部は緩く外反し、長胴・平底の器形と推測される(69・603)。長甕B系は口縁端部が丸い1類が主流である。長甕C系は口縁部が水平方向に強く屈曲し、胴部はハケメ調整で平底である(67・94)。小甕はA系1類、B系1・2類がある。小甕A系1類は口縁部が短いものが多い(32・48・461・462など)。ほぼ完形の32は長胴で、器壁は全体的に厚い。小甕B系は長甕と同様に、口縁端部が丸い1類が主流である。底部外面はナデ調整が多い(72・464など)。鍋は出土量が少なく、様相は不明である。図示できたものはA系1類のみである(44)。

貯蔵具の出土量は少ないが、横瓶・長頸瓶・短頸壺・壺蓋・甕は曾我墓所Ⅰ～Ⅲ期を通じて存在する。甕Ⅱ類の66は口縁端面が内傾し、古相を呈する。

曾我墓所Ⅱ・Ⅲ期：春日編年Ⅳ2・3期

土器編年で細分できる可能性があるため、本遺跡の時期もⅡ・Ⅲ期とした。

SX64・SX283・SX469・SB251・SB252・SB828・SD420・SE278・SE388・SK419・SK488出土土器が該当する。食膳具は曾我墓所Ⅰ期に比べて小型化し、法量分化により新たな細別器種が増加する。

須恵器無台杯はAⅡ類・BⅡ類・BⅢ類があり、口径14cmを超えるⅠ類は見られなくなる。AⅡ類・BⅡ類とも法量は口径12cm台、器高3.5cm未満のものが多くなる。BⅢ類の底部外面にロクロケズリは施されず、ヘラ切り後未調整が主体となる。須恵器有台杯はAⅠ類・AⅡ類が見られなくなり、AⅢ類が主流となる。大型で深身のBⅠ類、小型で深身のBⅢ類・BⅣ類が組成に加わる。杯蓋は口端部径14cm未満のⅡ類が出現する。杯蓋Ⅰ類・Ⅱ類とも径の小さなボタン状の摘みが多くなり、口端部の屈曲は弱くなる。折縁杯と高杯が新たに組成に加わる。

土師器無台杯は当該期においても組成するが、曾我墓所Ⅰ期に比べて小型化している。赤彩された土師器では無台杯・有台杯・盤があり、無台杯は曾我墓所Ⅰ期に比べて小型化している(425)。有台杯は須恵器有台杯BⅢ類に相当する器形(160)で、盤は器壁が薄く丁寧なつくりである(86)。黒色土器は椀のほかに杯蓋・鉢がある。

長甕A系は西古志型が1点確認できるなど少数ながら存在するが、主流はB系2類である。口縁部が水平方向に強く屈曲するC系は見られなくなる。小甕は長甕と同様にB系が主流となり、A系は少数となる。小甕の口縁部形態は1～3類まであり、バリエーションに富む。小甕はⅠ～Ⅲ類の3法量が確認できるが、Ⅰ類は破片資料が少数あるにすぎない。Ⅱ類の数量が最多であることから、Ⅱ類の使用頻度が高かったと推測される。底部の切り離しは糸切りのほかにヘラ切りがある。鍋は、西古志型のA系2類(365)、B系2類・3類があるが、主流はB系2類である。

貯蔵具の様相は曾我墓所Ⅰ期とそれほど変わらず、横瓶・長頸瓶・短頸壺・壺蓋・甕は曾我墓所Ⅰ期に引き続き組成する。祭祀遺構SK419からは臚と環状瓶が出土したが、県内のこの時期の遺跡からの出土例は無く、特殊なケースと思われる。このほかに黒色土器短頸壺(221)や壺・瓶類(477)がある。

阿賀北地域において春日編年Ⅳ2期並行の時期は「食膳具全体における金属器指向が強まる時期で、当地域の食膳具組成上の大きな画期」とされている〔笹澤2019〕。本遺跡では須恵器有台杯Ⅹ類をはじめ、折縁杯・鉄鉢形鉢・高杯など金属器指向の器種が多数見られることから、阿賀北地域と同様の傾向にあると言えるだろう。

曾我墓所Ⅳ期：春日編年Ⅴ1期

SK543・SK546・SD515・SK532・SX509出土土器が該当する。SK543・SK546・SD515出土土器には曾我墓所Ⅱ・Ⅲ期のものが含まれる。当期は、建物等ではなく土坑や溝が中心で、本遺跡の衰退期と考えられる。

当該期から佐渡小泊窯跡群産の須恵器(胎土分類B群)が出現する。須恵器無台杯は曾我墓所Ⅱ・Ⅲ期よりも小型化が進み、丸底のA類ではAⅡ類が見られなくなり、AⅢ類のみとなる。平底B類は曾我墓所Ⅱ・Ⅲ期と

同様に B II 類と B III 類の 2 法量がある。須恵器有台杯は大型の B I 類と小型の A III 類・B III 類が欠落するが、B II 類と B IV 類は存続する。須恵器杯蓋は有台杯 I 類の消失と連動して I 類が姿を消し、II 類のみとなる。摘みは頂部が窪んだボタン状が多くなり、全体的に粗雑な作りとなる。折縁杯は出土していないが、稜碗が 1 点確認できる。曾我墓所 II・III 期で見られた鉄鉢形鉢及び高杯は出土していない。

曾我墓所 II・III 期まで存続した赤彩された土師器と黒色土器の食膳具は見られなくなり、新たに土師器無台碗が組成に加わるが、その量は少ない。

長甕 A 系は姿を消し、長甕 B 系は口縁端部をつまみ上げる 3 類が出現する。また、球胴甕（佐渡型）もわずかにみられる。小甕は少数の西古志型がみられるものの小甕・鍋ともに B 系で占められる。煮炊具は全般的に口縁部形態の種類が曾我墓所 II・III 期に比べて減少する。

貯蔵具は出土例が少ないため様相は不明瞭である。SK543 から赤彩された土師器短頸壺と壺蓋が出土しているが、このような土器の出土は稀で、特殊なケースと思われる。

当該期の土器様相については、阿賀北地域において「法量分化による多種多様な器種構成が金属指向の器種を除き整理・淘汰される段階」とされている〔笹澤 2019〕。曾我墓所 II・III 期においては須恵器有台杯や杯蓋の細別器種が豊富に存在し、また赤彩された土師器・黒色土器の食膳具も少数ながら多数の器種が存在した。しかしその状況は曾我墓所 IV 期に入ると一変し、須恵器食膳具の細別器種及び赤彩された土師器・黒色土器の食膳具が減少し、新たに土師器無台碗が組成に加わる。こうした本遺跡の土器様相の変化は阿賀北地域において確認されている流れと同様の動きと捉えることができよう。

2) 遺構別器種構成比率と機能別構成比率

遺構出土土器を対象に口縁部残存率計測法〔宇野 1992〕を用いて器種構成比率・機能別構成比率を算出した（第 12・13 表）。器種構成比率は遺構全体の出土数に対する各器種の出土数の比率を示したものである。機能別構成比率は各器種を機能により食膳具・貯蔵具・煮炊具に分け、遺構別に 3 種の構成比率を示したものである。

計測方法は遺構別に土器を器種分類し、器種ごとに口縁部の残存率を 36 分割の同心円を用いて計測し、集計した。口縁部片のみで須恵器無台杯か有台杯か判別できない場合は、「無台杯か有台杯」として残存率を計測しておき、集計の際に各遺構の無台杯と有台杯の比率に応じてその数値を按分した。稜碗や折縁杯、高杯など出土が稀な器種は食膳具の「その他」としてカウントした。同様に壺・環状瓶は貯蔵具の「その他」、甌は煮炊具の「その他」に含めた。また小破片のため器種の判別ができないものは、「その他」として集計した。

口縁部を計測の対象とする口縁部残存率計測法では、胴部片や底部片があっても口縁部片が出土していないと数値が現れず、本来の土器組成を示していない場合がある。出土量の少ない貯蔵具は特にこの現象が生じやすい。こうした現象を回避するため、数値には現れない破片が存在する場合は、表中に「*」の印を記入した。

所属時期が特定でき、出土量がある程度まとまっている遺構の計測結果を第 12・13 表に示した。

器種構成比率

最も多く出土する器種は須恵器無台杯で、全体の 35～50% 程を占める場合が多い。その次に土師器小甕または長甕が続く。ただしすべての遺構にこの傾向が見られるわけではなく、後述するが遺構の性格によって器種の多寡には差があるようだ。須恵器無台杯と土師器小甕の出土量が多い事象は、日常的に調理し飲食するため、使用頻度が高く破損しやすい器種が多数出土するものと考えている。

機能別構成比率

SI451・SX63・SX70 は时期的に曾我墓所 I 期（春日 IV 1 期）でまとめられ、出土量が豊富で安定した数値である。いずれの遺構も食膳具が 70～80% と高い比率である。

曾我墓所 II・III 期（春日 IV 2・3 期）は SX64・SB251・SB252・SE278・SE388・SK419・SK488 がある。SK419・SK488・SX64 以外は食膳具が 77～95% と高い比率であり、SK419・SK488 以外は貯蔵具がすべて 0% である。曾我墓所 II・III 期に貯蔵具がまったく出土していないわけではないが、その出土量は少なく、食

第12表 器種構成比率（機能別構成比率）1

遺構時期	器種	SI65 IV1～IV2・3期		SI103 IV1期		SI108 IV1期		SI451 IV1期		SI453 IV1期		SX63 IV1期		SX70 IV1期		SI181 IV1～IV2期	
		口縁部 残存率 /36	比率 (残存率)	口縁部 残存率 /36	比率 (残存率)	口縁部 残存率 /36	比率 (残存率)	口縁部 残存率 /36	比率 (残存率)	口縁部 残存率 /36	比率 (残存率)	口縁部 残存率 /36	比率 (残存率)	口縁部 残存率 /36	比率 (残存率)	口縁部 残存率 /36	比率 (残存率)
土師器	無台椀	*	—	2	1.6%	1	1.4%	0	0.0%	0	0.0%	3	0.5%	2	1.8%	*	—
	無台杯	5	0.8%	0	0.0%	*	—	12	0.8%	3	1.3%	4	0.6%	0	0.0%	0	0.0%
	鉢	2	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	19	1.3%	2	0.9%	3	0.5%	2	1.8%	*	—
	有台杯	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.1%	0	0.0%	*	—	0	0.0%	0	0.0%
	その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	*	—
須恵器	無台杯	332	51.6%	87	68.0%	38	54.3%	698	48.9%	117	50.4%	382	61.2%	50	45.5%	34	52.3%
	有台杯	66	10.3%	11	8.6%	21	30.0%	126	8.8%	34	14.7%	46	7.4%	19	17.3%	4	6.2%
	杯蓋	115	17.9%	7	5.5%	*	—	114	8.0%	38	16.4%	111	17.8%	6	5.5%	8	12.3%
	鉢	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	30	2.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	その他	*	—	0	0.0%	0	0.0%	3	0.2%	0	0.0%	5	0.8%	0	0.0%	0	0.0%
黒色土器	鉢	*	—	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	椀	1	0.2%	0	0.0%	*	—	3	0.2%	0	0.0%	0	0.0%	*	—	0	0.0%
	杯蓋	13	2.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
食膳具	計	534	83.0%	107	83.6%	60	85.7%	1007	70.6%	194	83.6%	554	88.8%	79	71.8%	46	70.8%
須恵器	横瓶	5	0.8%	*	—	0	0.0%	*	—	0	0.0%	0	0.0%	*	—	*	—
	壺蓋	1	0.2%	0	0.0%	0	0.0%	20	1.4%	9	3.9%	6	1.0%	12	10.9%	0	0.0%
	壺・瓶類	4	0.6%	*	—	*	—	19	1.3%	*	—	*	—	7	6.4%	0	0.0%
	甕	*	—	*	—	*	—	14	1.0%	5	2.2%	17	2.7%	1	0.9%	*	—
	その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
土師器	短頸壺	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	壺蓋	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
黒色土器	短頸壺	*	—	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
貯蔵具	計	10	1.6%	0	0.0%	0	0.0%	53	3.7%	14	6.0%	23	3.7%	20	18.2%	0	0.0%
土師器	長甕	47	7.3%	1	0.8%	4	5.7%	103	7.2%	5	2.2%	13	2.1%	6	5.5%	3	4.6%
	小甕	50	7.8%	18	14.1%	6	8.6%	248	17.4%	15	6.5%	31	5.0%	5	4.5%	8	12.3%
	鍋	2	0.3%	2	1.6%	0	0.0%	16	1.1%	4	1.7%	3	0.5%	*	—	8	12.3%
	その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
煮炊具	計	99	15.4%	21	16.4%	10	14.3%	367	25.7%	24	10.3%	47	7.5%	11	10.0%	19	29.2%
須恵器	小片	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
土師器	小片	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
黒色土器	小片	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他	計	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
総計		643	100.0%	128	100.0%	70	100.0%	1427	100.0%	232	100.0%	624	100.0%	110	100.0%	65	100.0%

遺構時期	器種	SI207 IV1～IV2期		SX64 IV2・3期		SX283 IV1～IV2・3期		SX469 IV1～IV2・3期		SB251 IV2・3期		SB252 IV2・3期		SB828 IV1～IV2・3期		SD420 IV1～IV2・3期	
		口縁部 残存率 /36	比率 (残存率)	口縁部 残存率 /36	比率 (残存率)	口縁部 残存率 /36	比率 (残存率)	口縁部 残存率 /36	比率 (残存率)	口縁部 残存率 /36	比率 (残存率)	口縁部 残存率 /36	比率 (残存率)	口縁部 残存率 /36	比率 (残存率)	口縁部 残存率 /36	比率 (残存率)
土師器	無台椀	0	0.0%	6	1.2%	0	0.0%	0	0.0%	*	—	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	無台杯	3	4.2%	4	0.8%	36	4.0%	*	—	0	0.0%	0	0.0%	*	—	7	1.2%
	鉢	0	0.0%	2	0.4%	22	2.5%	*	—	2	10.0%	0	0.0%	11	6.5%	0	0.0%
	有台杯	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	6	9.5%	0	0.0%	0	0.0%
須恵器	無台杯	15	21.1%	164	33.5%	467	52.3%	137	34.4%	6	30.0%	5	7.9%	52	31.0%	207	35.3%
	有台杯	3	4.2%	40	8.2%	69	7.7%	50	12.6%	7	35.0%	14	22.2%	19	11.3%	128	21.8%
	杯蓋	44	62.0%	16	3.3%	97	10.9%	74	18.6%	4	20.0%	24	38.1%	38	22.6%	76	12.9%
	鉢	0	0.0%	0	0.0%	*	—	*	—	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	16	2.7%
	その他	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
黒色土器	鉢	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	椀	0	0.0%	1	0.2%	7	0.8%	3	0.8%	0	0.0%	*	—	3	1.8%	*	—
	杯蓋	0	0.0%	0	0.0%	2	0.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.2%	0	0.0%
食膳具	計	65	91.5%	233	47.6%	701	78.5%	264	66.3%	19	95.0%	49	77.8%	125	74.4%	434	73.9%
須恵器	横瓶	0	0.0%	*	—	*	—	*	—	0	0.0%	0	0.0%	2	1.2%	0	0.0%
	壺蓋	0	0.0%	0	0.0%	5	0.6%	29	7.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	18	3.1%
	壺・瓶類	*	—	*	—	3	0.3%	13	3.3%	0	0.0%	*	—	3	1.8%	13	2.2%
	甕	*	—	*	—	*	—	*	—	*	—	*	—	*	—	10	1.7%
	その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
土師器	短頸壺	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	壺蓋	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
黒色土器	短頸壺	0	0.0%	*	—	*	—	*	—	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	6	1.0%
貯蔵具	計	0	0.0%	0	0.0%	8	0.9%	42	10.6%	0	0.0%	0	0.0%	5	3.0%	47	8.0%
土師器	長甕	2	2.8%	129	26.3%	89	10.0%	31	7.8%	1	5.0%	7	11.1%	14	8.3%	34	5.8%
	小甕	3	4.2%	90	18.4%	86	9.6%	53	13.3%	*	—	7	11.1%	23	13.7%	70	11.9%
	鍋	*	—	37	7.6%	3	0.3%	8	2.0%	*	—	*	—	*	—	2	0.3%
	その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
煮炊具	計	5	7.0%	256	52.2%	178	19.9%	92	23.1%	1	5.0%	14	22.2%	37	22.0%	106	18.1%
須恵器	小片	1	1.4%	1	0.2%	2	0.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
土師器	小片	0	0.0%	0	0.0%	4	0.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.6%	0	0.0%
黒色土器	小片	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他	計	1	1.4%	1	0.2%	6	0.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.6%	0	0.0%
総計		71	100.0%	490	100.0%	893	100.0%	398	100.0%	20	100.0%	63	100.0%	168	100.0%	587	100.0%

第 13 表 器種構成比率（機能別構成比率）2

遺構 時期	器種	SE278 IV2・3期		SE388 IV2・3期		SK419 IV2・3期		SK488 IV2・3期		SK543 IV2・3～V期		SK546 IV2・3～V期		SD515 IV2・3～V期		SK532 V期		SX509 V期	
		口縁部 残存率 /36	比率 (残存率)	口縁部 残存率 /36	比率 (残存率)	口縁部 残存率 /36	比率 (残存率)	口縁部 残存率 /36	比率 (残存率)	口縁部 残存率 /36	比率 (残存率)	口縁部 残存率 /36	比率 (残存率)	口縁部 残存率 /36	比率 (残存率)	口縁部 残存率 /36	比率 (残存率)	口縁部 残存率 /36	比率 (残存率)
土師器	無台椀	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	10	11.0%	0	0.0%	2	7.4%
	無台杯	*	—	11	11.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	*	—	0	0.0%	0	0.0%
	鉢	*	—	0	0.0%	10	1.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	有台杯	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
須恵器	無台杯	70	54.3%	55	57.3%	123	21.1%	28	26.4%	0	0.0%	33	24.4%	42	46.2%	42	54.5%	10	37.0%
	有台杯	8	6.2%	8	8.3%	36	6.2%	6	5.7%	0	0.0%	*	—	0	0.0%	0	0.0%	*	—
	杯蓋	22	17.1%	18	18.8%	125	21.4%	2	1.9%	0	0.0%	20	14.8%	13	14.3%	4	5.2%	6	22.2%
	鉢	0	0.0%	0	0.0%	32	5.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	その他	0	0.0%	0	0.0%	70	12.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
黒色土器	鉢	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	椀	*	—	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	杯蓋	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
食膳具	計	100	77.5%	92	95.8%	396	67.9%	36	34.0%	0	0.0%	53	39.3%	65	71.4%	46	59.7%	18	66.7%
須恵器	横瓶	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	36	34.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	壺蓋	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	壺・瓶類	*	—	0	0.0%	34	5.8%	*	—	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	甕	*	—	*	—	0	0.0%	34	32.1%	0	0.0%	0	0.0%	*	—	*	—	*	—
	その他	0	0.0%	0	0.0%	67	11.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
土師器	短頸壺	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	26	27.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	壺蓋	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	4.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
黒色土器	短頸壺	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
貯蔵具	計	0	0.0%	0	0.0%	101	17.3%	70	66.0%	30	31.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
土師器	長甕	11	8.5%	2	2.1%	0	0.0%	0	0.0%	*	—	47	34.8%	*	—	17	22.1%	*	—
	小甕	17	13.2%	2	2.1%	86	14.8%	0	0.0%	39	41.5%	35	25.9%	19	20.9%	14	18.2%	9	33.3%
	鍋	0	0.0%	*	—	0	0.0%	0	0.0%	25	26.6%	*	—	7	7.7%	0	0.0%	0	0.0%
	その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
煮炊具	計	28	21.7%	4	4.2%	86	14.8%	0	0.0%	64	68.1%	82	60.7%	26	28.6%	31	40.3%	9	33.3%
須恵器	小片	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
土師器	小片	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
黒色土器	小片	1	0.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他	計	1	0.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
総計		129	100.0%	96	100.0%	583	100.0%	106	100.0%	94	100.0%	135	100.0%	91	100.0%	77	100.0%	27	100.0%

膳具が高率である傾向はIV 1 期から変わらず、むしろ微増している。SX64 は食膳具と煮炊具はほぼ同率で、ほかの遺構とは異なる。SK419 は貯蔵具の比率が高い。また SK488 はほかの遺構とは組成が大きく異なる。SK488 はほぼ完形の横瓶と甕が出土しているため貯蔵具が高率である一方、煮炊具はまったく出土していない。両遺構は祭祀遺構と推測され、このため土器組成はほかの遺構とは大きく異なると考えられる。

曾我墓所IV期（春日V期）はSK543・SK546・SD515（以上3基は春日IV2・3期含む）、SK532・SX509がある。SD515・SK532・SX509は貯蔵具が0%であるが、破片資料が少数出土しており貯蔵具がまったく伴わないわけではなさそうである。3遺構とも食膳具60～70%程、煮炊具30～40%程度で、曾我墓所I～III期の傾向と大きな差は無いようである。SK546は煮炊具が60.7%と食膳具よりも高く、ほかの遺構とは組成が異なる。SK543は赤彩された土師器の短頸壺と壺蓋が出土しており、土器埋納遺構である可能性が考えられる。

SK419・SK488・SK543のように、祭祀関連や土器埋納遺構の土器組成はほかと大きく異なっており、遺構の性格によって土器組成の傾向には違いが存在すると言えよう。

周辺遺跡の土器機能別構成比率を第14表にまとめた。春日IV1～IV2・3期においては、食膳具60～70%強、貯蔵具数%、煮炊具20～30%強という比率（馬越第6次調査河川3、中田SK10、新保北SK36・SK14）と、食膳具・煮炊具はほぼ同率の45～55%で、貯蔵具はごくわずかという比率（馬越SK39・SX21、沖ノ羽第19次調査5区東SK2、細池寺道上第44次調査2区SK411、萱免SX6）の二つのタイプが存在する。春日V期に入ると食膳具65～70%強、貯蔵具数%、煮炊具20～30%の比率（駒首潟SE2118、沖ノ羽第22次調査3区SK90、沖ノ羽第3次調査8下SK43）に加え、食膳具が90%を超える比率（小丸山SE7、駒首潟SK1266、沖ノ羽第3次調査7下SK134）も現れる。こうした傾向は春日眞実氏が新潟県内の土器の機能別構成比率を集成・考察された際に既に指摘されている（春日2015）。春日V1期の細池寺道上遺跡2区SE98は食膳具50.4%・貯蔵具2.5%・煮炊

第14表 周辺遺跡の土器機能別構成比率

所在	遺跡名	遺構名	時期	食膳具	貯蔵具	煮炊具	備考	文献
加茂市	馬越	河川3	IV1	77.6%	0.6%	21.8%		[伊藤2009]
加茂市	馬越	SK39	IV1	45.0%	0.0%	58.7%		[伊藤2005]
加茂市	馬越	SX21	IV1	45.0%	0.9%	54.1%		[伊藤2005]
五泉市	中田	SK10	IV1	62.8%	2.4%	34.8%		[長澤ほか2004]
新潟市	沖ノ羽	5区東SK2	IV	52.0%	0.0%	48.0%		[遠藤・澤野ほか2016]
新潟市	細池寺道上	2区SK411	IV2・3	56.6%	0.0%	43.4%		[立木・奈良ほか2017]
新潟市	萱免	SX6	IV3	54.3%	0.0%	45.7%	貯蔵具の破片有り	[立木ほか2009]
五泉市	新保北	SK36	IV2	74.6%	1.5%	23.9%		[野水ほか2003]
五泉市	新保北	SK14	IV3	74.0%	5.5%	20.5%		[野水ほか2003]
新潟市	小丸山	SE7	V1	100.0%	0.0%	0.0%	貯蔵具・煮炊具の破片有り	[小池・本間1995]
新潟市	駒首潟	SE2118	V	78.7%	7.4%	13.9%		[渡邊ほか2009]
新潟市	駒首潟	SK1266	V	94.3%	0.0%	5.7%		[渡邊ほか2009]
新潟市	沖ノ羽	3区SK90	V	66.7%	0.0%	33.3%		[遠藤・澤野ほか2016]
新潟市	細池寺道上	2区SE98	V1	50.4%	2.5%	47.1%		[立木・奈良ほか2017]
新潟市	沖ノ羽	7下SK134	V1	92.4%	0.0%	7.6%	貯蔵具の破片有り	[春日2003]
新潟市	沖ノ羽	8下SK43	V1	73.6%	4.1%	22.4%		[春日2003]

具47.1%で、萱免遺跡SX6等の比率に近い。

本遺跡では春日IV1～IV2・3期の遺構の多くが食膳具70%強、貯蔵具数%、煮炊具20%程の比率を示しており、春日IV期においてはこの比率が標準的と思われる。SX64は食膳具と煮炊具がほぼ同率で、馬越遺跡SX21等の比率に近い。SI207・SB251・SE388は食膳具が90%を超えているが、計測総数が少ないため、数値が偏っていることも考えられる。春日IV2・3～V期のSK546は食膳具よりも煮炊具の方が高率である。SK546は祭祀関連の遺構ではないため、ほかの遺構とは異なる機能があったのかもしれない。

3) 時期別食膳具種類別構成比率

第12・13表の数値を元に食膳具種類別構成比率を算出した(第29図)。

曾我墓所I期(春日IV1期): SI451・SX63・SX70で、土師器5%弱・須恵器95%強・黒色土器は0～2%という比率が多い。

曾我墓所II・III期(春日IV2・3期): SX64・SB251・SB252・SE278・SE388で、SX64は曾我墓所I期の傾向と同じ比率であるが、SB251・SB252・SE388は土師器が10%強とやや高い。一方SE278は須恵器100%である。これは遺構の性格の差であるのか、計測点数の少なさによる数値の偏りなのか判断は難しい。いずれにしても土師器に対して須恵器の比率が高い。

曾我墓所IV期(春日V期): 赤彩された土師器及び黒色土器の食膳具が消滅し、土師器無台碗が新たに組成に加わる。曾我墓所II～IV期(春日IV2・3～V期)はSK546・SD515、曾我墓所IV期(春日V期)はSK532・SX509で、SD515・SX509では土師器無台碗が少数見られるが、SK546・SK532のように土師器無台碗が出土していない遺構もある。土師器無台碗が出現しているがまだ定着していない春日V1期の様相を示していると考えられる。

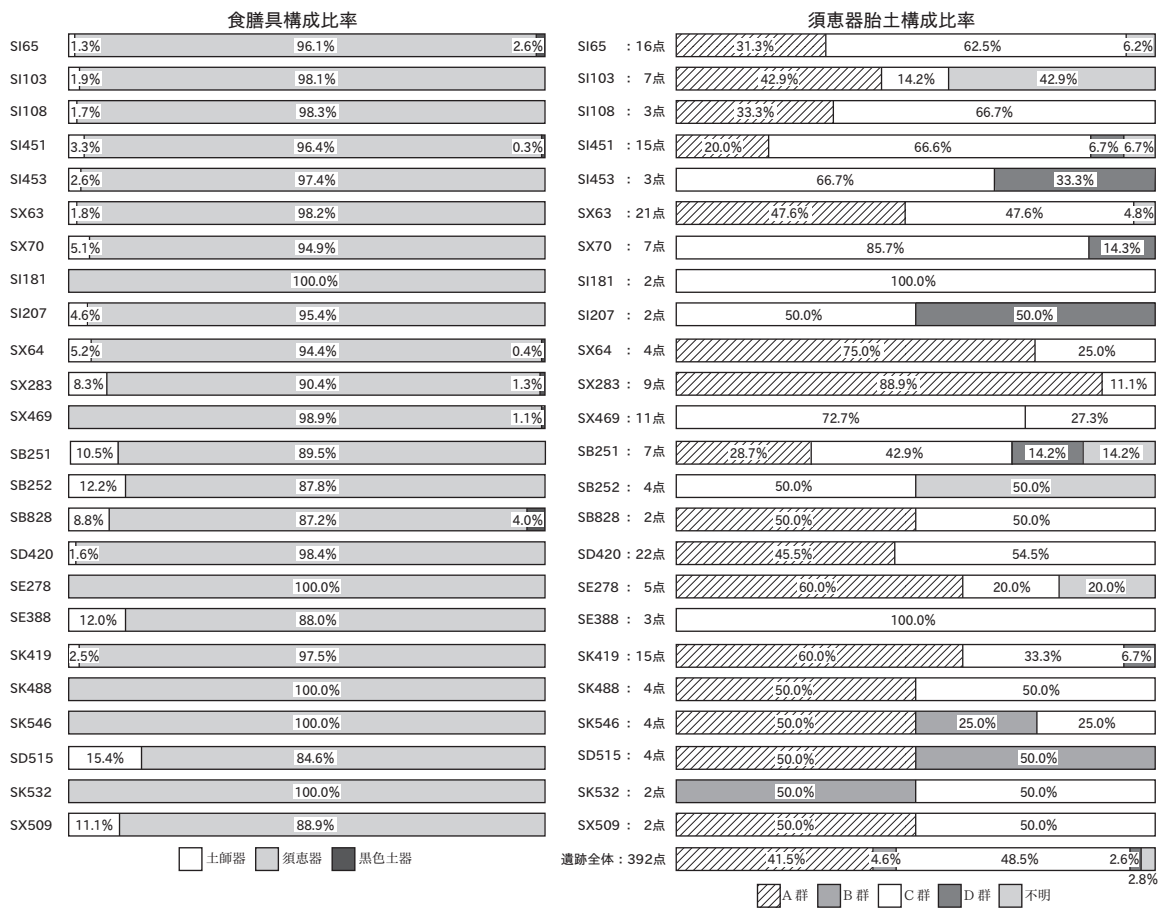
周辺遺跡の食膳具種類別構成比率を見ると(第14表)、馬越遺跡河川3及び沖ノ羽遺跡5区東SK2は土師器の比率がやや高いが、春日IV1～IV2・3期では須恵器食膳具が90%から100%と大多数を占める遺跡が多く(馬越SK39・SX21、中田SK10、細池寺道上2区SK411、萱免SX6、新保北SK36・SK14)、本遺跡もこの傾向に当てはまる。

春日V期はIV期までの須恵器が食膳具の大半を占める状況が変化し、土師器・黒色土器が定量出現する時期である(春日1999)。周辺遺跡の例では土師器の比率が20%以下の遺跡(小丸山遺跡SE7、駒首潟遺跡SK1266、沖ノ羽遺跡7下SK134・8下SK43)がある。このような比率は春日V期でも古相のV1期に位置付けられており、曾我墓所IV期の様相と共通している。

曾我墓所I～III期では赤彩された土師器の無台杯・有台杯・鉢などが定量存在する。このような赤彩された土師器はすべての遺跡で普遍的に存在するものではない、とされている(春日2001)。周辺地域での出土例として

第 15 表 周辺遺跡の食膳具種類別構成比率

所在	遺跡名	遺構名	時期	土師器	須恵器	黒色	備考	文献
加茂市	馬越	河川3	IV1	36.9%	61.9%	1.2%	赤彩土師器有り	[伊藤2009]
加茂市	馬越	SK39	IV1	0.0%	100.0%	0.0%		[伊藤2005]
加茂市	馬越	SX21	IV1	6.3%	93.7%	0.0%		[伊藤2005]
五泉市	中田	SK10	IV1	0.0%	100.0%	0.0%		[長澤ほか2004]
新潟市	沖ノ羽	5区東SK2	IV	32.1%	67.9%	0.0%	赤彩土師器有り	[遠藤・澤野ほか2016]
新潟市	細池寺道上	2区SK411	IV2・3	14.1%	85.9%	0.0%		[立木・奈良ほか2017]
新潟市	萱免	SX6	IV3	3.3%	96.7%	0.0%		[立木ほか2009]
五泉市	新保北	SK36	IV2	0.0%	100.0%	0.0%		[野水ほか2003]
五泉市	新保北	SK14	IV3	0.0%	100.0%	0.0%		[野水ほか2003]
新潟市	小丸山	SE7	V1	4.8%	95.2%	0.0%		[小池・本間1995]
新潟市	駒首湯	SE2118	V	49.4%	50.6%	0.0%		[渡邊ほか2009]
新潟市	駒首湯	SK1266	V	7.7%	92.3%	0.0%		[渡邊ほか2009]
新潟市	沖ノ羽	3区SK90	V	37.4%	61.3%	1.3%		[遠藤・澤野ほか2016]
新潟市	細池寺道上	2区SE98	V1	38.9%	59.4%	1.6%		[立木・奈良ほか2017]
新潟市	沖ノ羽	7下SK134	V1	0.0%	100.0%	0.0%		[春日2003]
新潟市	沖ノ羽	8下SK43	V1	20.6%	79.4%	0.0%		[春日2003]



第 29 図 食膳具種類別構成比率・須恵器の胎土構成比率

は長岡市八幡林遺跡 H 地区 SD01 [田中 1994]、加茂市馬越遺跡河川 3 などがある。八幡林遺跡は官衙関連遺跡、馬越遺跡は荘園関連の遺跡など、いずれも一般的集落とは異なる遺跡であり、本遺跡も有力者が関わった可能性が考えられる。

4) 須恵器の胎土構成比率

図化した須恵器全 392 点を対象に、第 V 章で設定した胎土 A ~ D 群に分類し、集計した (第 29 図)。

出土遺構別では、計測点数が少ない (5 点以下) 遺構は検討の対象から外した。春日 IV 1 ~ IV 2・3 期では A 群が高率 (SX283・SX469・SK419)、C 群が高率 (SI65・SI451・SX70)、A 群・C 群ほぼ同率 (SX63・SD420) の遺構に分かれるが、全体的に見ると A 群・C 群のどちらかに偏っているわけではなく、おおむね半々である。

春日V期以降はSK546・SD515(春日IV2・3期含む)、SK532・SX509がある。計測点数が5点に満たず安定した数値ではないが、B群が出現しているものの、A群・C群を超える程には至っていない状況である。

周辺遺跡の須恵器胎土構成比率について、報告書の記述を以下にまとめた。

加茂市馬越遺跡：馬越I期(春日IV期) A群4.8%、C群85.1%、D群10.1% ※食膳具対象

五泉市中田遺跡：SK10(春日IV1期) C群主体 ※食膳具対象

新潟市沖ノ羽遺跡：古代1-2期(春日IV期) C群主体 ※食膳具対象

新潟市萱免遺跡：SX6(春日IV2・3期) C群がほとんどで一部A群がある。B群は皆無。

新潟市小丸山遺跡：SE7(春日V1期) A群・C群主体でB群は見られない。

新潟市沖ノ羽遺跡：古代2-1期(春日V期) B群がC群を凌駕して主体となる。

新潟市沖ノ羽遺跡：7下SK134(春日V1期) A群6.7%、B群13.5%、C群79.8%、

新潟市沖ノ羽遺跡：8下SK43(春日V1期) A群15.0%、B群15.3%、C群55.8%、D群13.9%

阿賀野市柄目木遺跡〔佐藤ほか2010〕：(春日IV1～V期) A群51.7%、B群0.3%、C群48.0%

聖籠町山三賀II遺跡〔坂井ほか1989〕II～III期(春日IV1～IV2・3期) A群80%強、C群20%弱

春日IV期では信濃川右岸地域の遺跡はC群が主体で、阿賀北地域の遺跡ではA群が主体である。本遺跡はA群・C群はほぼ半々という傾向である。春日V期に入ると本遺跡ではB群が出現するが、A群・C群を超える程ではなく、春日V1期の小丸山遺跡SE7、沖ノ羽遺跡7下SK134・8下SK43と同様の傾向である。

本遺跡全体ではA群41.2%・B群4.6%・C群48.2%・D群2.6%・不明3.4%で、柄目木遺跡の比率に近い。本遺跡と柄目木遺跡は阿賀野川を挟んで信濃川右岸地域と阿賀北地域に分かれるが、直線距離は約5kmと近いため、土器様相に共通点が多いと思われる。

B 金属製品・鍛冶関連遺物について

本遺跡からは金属製品・鍛冶関連遺物が非常に多く出土した。金属製品は521点・総重量約3.4kg、鍛冶関連遺物は338点・総重量約3.2kgである。ここでは鍛冶関連遺物が多く出土した遺構のあり方から古代の集落内での鍛冶作業について考える。また、調査区南東側を中心に分布する近世の墓坑出土の金属製品についても若干触れる。

鍛冶関連遺物総重量の約87%は、居住域と考えた調査区北東部(以下北東部)から出土し、18APグリッドは総重量の約34%と突出している(図版8)。18APグリッド内のSB252-SK76・P71、SB829-P161、SK67・73・128は調査時から焼土なども多く認められ、炉壁や鉄滓のほか、粒状滓や鍛造剥片も出土している。各遺構の埋土を土壤洗浄して篩選別作業をした結果、総重量で粒状滓3.0g、鍛造剥片56.4gが確認された(第16表)。粒状滓や鍛造剥片の出土は、付近で鍛打作業を行った鍛冶炉が存在することを示唆する。焼土や硬化面が検出され鍛造剥片総重量の約97%が出土したSK67(第30図)、炉壁らしき焼土が周堤状に残るSB829-P161・SK128(第30図)などは鍛冶炉の可能性が高い。鍛冶関連遺物の出土が北東部にほぼ限定される分布状況は、鍛冶作業を行った位置を中心とした廃棄空間が想定される。同グリッドで検出された掘立柱建物SB251・252・829が鍛冶関連遺構に伴うかは判然とせず、関連遺構も不明確で鍛冶工房と判断し得なかった。

出土した鍛冶関連遺物は、羽口・椀形鍛冶滓を含む鉄滓・鍛造剥片・粒状滓など様々である。羽口は合計19点出土し、小片も図化している。羽口は炉の機能によって径の大きさや形状が異なり、製錬炉では内径(通風孔径)4～12cmの大口径、精錬鍛冶炉では3～6cmの中口径、鍛錬鍛冶炉では2～3cmの小口径が使用されることが多いとされる〔望月ほか2011〕。図化した639以外の羽口は640のように小片で内径が不明瞭であるが、内径を復元できた9点は1～3cmの小口径だった。また、椀形鍛冶滓は重量により1,001g以上を特大、501～1,000gを大、251～500gを中、126～250gを小、125g以下を極小、さらに、重量の重いものは不純物が多く含まれる精錬鍛冶滓、軽いものは鉄製品加工段階で発生する鍛錬鍛冶滓とされる〔望月ほか2011〕。本遺跡の

椀形鍛冶滓は、125g 以下の極小サイズに分類されるものがほとんどであった。出土した鍛冶関連遺物の総重量や、羽口と椀形鍛冶滓の大きさなどからも、本遺跡では主に鉄製品の製作や打ち直しといった鍛錬工程が行われていたと推測される。

鉄製品の原料は、本遺跡で製錬工程を行っていたとは考え難く、鉄素材を搬入して製品を製作していたものとする。周辺の製錬遺跡としては、遺跡から半径約 12km 圏内に笹神丘陵や新津丘陵の製鉄遺跡群が存在する。鉄滓の分析を行っていないため定かではないが、これらの遺跡群から砂鉄を原料とする鉄素材を搬入した可能性が考えられる。製錬の開始時期は明確ではないが、笹神丘陵では 8 世紀前半頃、新津丘陵では 8 世紀後半頃の開始とされ〔遠藤・澤野ほか 2016、坂井ほか 1989〕8 世紀後半を中心とする本遺跡も時期の範囲に収まる。

調査で出土した金属製品は、鉄製と銅製に大別される。出土金属製品総重量の約 99% を鍛造鉄製品が占め、銅製品は近世遺構からごく少量出土したのみである。鉄製品の小グリッドごとの重量分布を図版 8 に示した。古代に属する鉄製品は、鍛冶関連遺物と同様に北東部に集中するものの、そこから西方へ帯状に分布する。その中には錫杖頭などが出土した SK419 も含まれる。居住域と考える北東部では、釘を含む工具類・刀子・鎌など実用的な遺物が出土している。このような生活に利用した道具のほか、居住域では鍛冶作業も行っていたことから、鍛冶道具、製作・打ち直しをした製品、再利用するために持ち込んだ屑鉄なども含まれる可能性がある。SK419 からは環状瓶・仏鉢・鳥形製品などと共に錫杖頭・鉄鐸・鉄鐸の舌が出土し、これらは祭祀に用いた製品と考える。居住域出土の実用的な製品とは様相が異なり、集落で製作したものではなく持ち込んだものの可能性がある。なお、溝状遺構群が分布する南西部からは、鉄鏃（704）や紡錘車（705）が出土している。

調査区南東側を中心に近世の墓坑が検出され、鉄製釘が多数出土している（第 17 表）。実際に木棺（底板）が検出されたのは SK15 のみだが、ほかの墓坑にも木棺が使用されていた可能性がある。また、銅製品はごく少数で、煙管（726）・銭貨（727～731）が出土している。遺構から出土した銭貨 16 枚のうち、12 枚が近世墓坑からの出土で、六道銭として納めたものとする。

第 16 表 遺構別鍛冶関連遺物出土重量 (g)

遺構名	羽口	炉壁	鉄滓	粒状滓	鍛造剥片	鉄製品	焼成粘土塊
SB251-SD153	—	2.7	3.8	—	0.2	—	0.1
SB252-SK71	—	1.1	5.0	0.1	0.1	—	2.2
SB252-SK76	—	4.0	13.7	0.1	0.2	—	—
SB252-SK132	—	—	0.9	0.1	0.1	—	—
SB829-P161	—	0.9	22.5	0.1	0.3	—	—
SK67	—	14.1	365.7	1.4	54.6	1.1	17.7
SK73	—	—	0.7	—	0.1	—	—
SK82	—	—	—	0.6	—	—	—
SK112	12.3	38.0	19.3	0.1	—	—	—
SK128	—	19.1	127.3	0.5	0.8	—	0.3
合計	12.3	79.9	558.9	3.0	56.4	1.1	20.3

第 17 表 近世墓坑出土鉄製品及び釘頭部点数

遺構名	銭貨		鉄製品 (g)	工具類 (点)	釘頭部 (点)
	(枚)	(g)			
SK1	1	1.3	62.7	20	19
SK8	1	1.4	66.0	72 (±)	59
SK10	4	8.8	109.9	82 (±)	59
SK13	—	—	4.7	4	2
SK16	4	9.6	0.1	—	—
SK478	—	—	3.3	5	2
SK544	3	9.2	65.2	36	22
SK545	—	—	2.9	6	3
SK556	2	2.2	48.1	28	15
合計	15	32.5	362.9	99	181



SK67 炭化物検出状況 (南から)



SB829-P161 炭化物検出状況 (北西から)



SB829-P161 断面 (南東から)

第 30 図 鍛冶関連遺構

第3節 曾我墓所遺跡の位置づけ

A 祭祀の痕跡について

1) 祭祀遺物

第3次調査で調査区北西側を中心に非日常的な遺物が次々と出土した。SK413・SK418の須恵器質の鳥形製品、SK419の須恵器環状瓶と鉄製錫杖頭や鉄鐸、SK488の鉄鐸の舌などである。これらは、それぞれが全国的にも類例の少ない希少な祭祀遺物である。ここでは、本遺跡を特徴づける鳥形製品・須恵器環状瓶を主に扱い、遺跡の性格や位置づけを検討するため、本遺跡以外では、いつ頃のどのような遺跡・遺構で出土しているかまとめた(第31～34図・第18表)。ただし、9世紀代の鉄鐸が出土している石川県寺家遺跡〔石川県立埋蔵文化財センター1988ほか〕、9～12世紀代の鉄製錫杖頭・9世紀代の鉄鐸が出土している栃木県日光男体山山頂遺跡〔日光二荒山神社1963〕、5～9世紀代の鉄鐸が出土している福岡県沖ノ島〔第三次沖ノ島学術調査隊1979ほか〕は、祭祀遺跡として第33図に地点のみ示している。鉄製錫杖頭と鉄鐸・舌については特徴に触れ、必要な図のみ掲載した(第35図)。なお、個々の遺物については第V章で記載している。

鳥形製品 中空の胴体に翼や羽が表現され、基本的に2本(右馬之丞窯跡資料は3本)の脚が付き、鳥を写實的に象った陶製品で、鳥形土器・鳥形須恵器・鳥形土製品などと呼称される。実用品としての容器のほかにオブジェとしての機能も考えられるため、本報告では鳥形製品と呼称し土製品として扱った。なお、古墳時代に広島県・岡山県などでみられる鳥を抽象的に表現した鳥形瓶や、鳥を装飾的に用いる鳥形硯などは含めていない。この鳥形製品は北陸地方に分布が集中することが指摘され集成されている〔望月1997・植木2002・吉田2004〕が、新資料もあり今回改めて集成した(第31～33図・第18表)。完形品など形に分かる資料のほかに尾部・脚部の破片で「鳥形の可能性がある」と報告されているものも含めているため、鳥形製品ではない資料が含まれる可能性もある。また、本遺跡や石川県上徳山谷山西谷窯跡〔安中1999〕で出土した頭部(第32図23)も含めた。なお、実見していないが、富山県小杉流通業務団地内遺跡群No.18-C遺跡出土の第31図17は鳥形製品の頭部と考え、報告とは天地逆に掲載した。また、石川県戸水C遺跡出土の第32図22(左)は鳥形製品の尾部と考え、左へ90°回転させて掲載した。年代は基本的に報告書に準じたが、古墳時代後期と報告された第32図22(左)は同一個体と記載のあった同図右の報告に合わせている。

鳥形製品は、秋田県から石川県まで日本海側を中心に本遺跡を含め23遺跡から出土している。同一遺跡の別地点から出土しているものや、破片のため個体識別が難しいものもあり総点数は分からない。ひとつの遺跡から多く出土しないため、特殊容器と考え土器として報告される場合と土製品として扱われる場合がある。大きさや形状から「非日常的な特殊容器」〔望月1997〕や「律令祭祀具」〔望月・大橋1999〕、「非実用的容器」〔吉田2004〕などとされる。形態は第32図18が猛禽類とされる以外は、水鳥を模したと考えられるものが圧倒的に多い。また、従来の研究どおり須恵器の窯跡からの出土が多く、山形県では河川・溝などからの出土が目立つ。ほかに、工人集団の集落や移住した渡来人の集落とされる遺跡でも見られる。鳥形製品が出土する新津丘陵窯跡群、富山県射水丘陵窯跡群や石川県池崎窯跡などは同丘陵で製鉄も行われており、その強い関連が指摘され、「鳥の形を模した容器は、その起源が朝鮮にあり、日本で出土する鳥形須恵器は、渡来人の手によるものとの仮説も立てられている」という〔望月1998〕。時期は小杉流通業務団地内遺跡群No.18-C遺跡が8世紀前半と最も古い。本遺跡を含め8世紀後半～9世紀前半が最も多く、10世紀半ば以降のものは出土していない。

本遺跡の鳥形製品は本体2点(625a・b・626と同一個体脚部627・628)と頭部2点(629・630)である。本体は水鳥を模して非常に繊細な線刻で丁寧に表現されている。625aの胸部に見られる羽毛を表現したような円形の刺突文は第31図5・6に類似する。同様に羽毛を表現したと考えられる鋸歯状や格子状の沈線文はほとんどの個体に見られるが、ひとつとして同じものはない。また、本遺跡のものは第31図6や第32図18と同様

にほかの個体より大きい。脚部は本体を支えるよう大きく作られ、第31図13・17同様に水かきが表現されている。ほかに、刻みなどで指が表現されるもの(第31図16、第32図24)や刻みも表現されないもの(第32図25)がある。頭部は第32図23の頭部とは異なり挿入形を呈し、第31図17のNo.18遺跡出土の個体も同様の頭部と考えた。

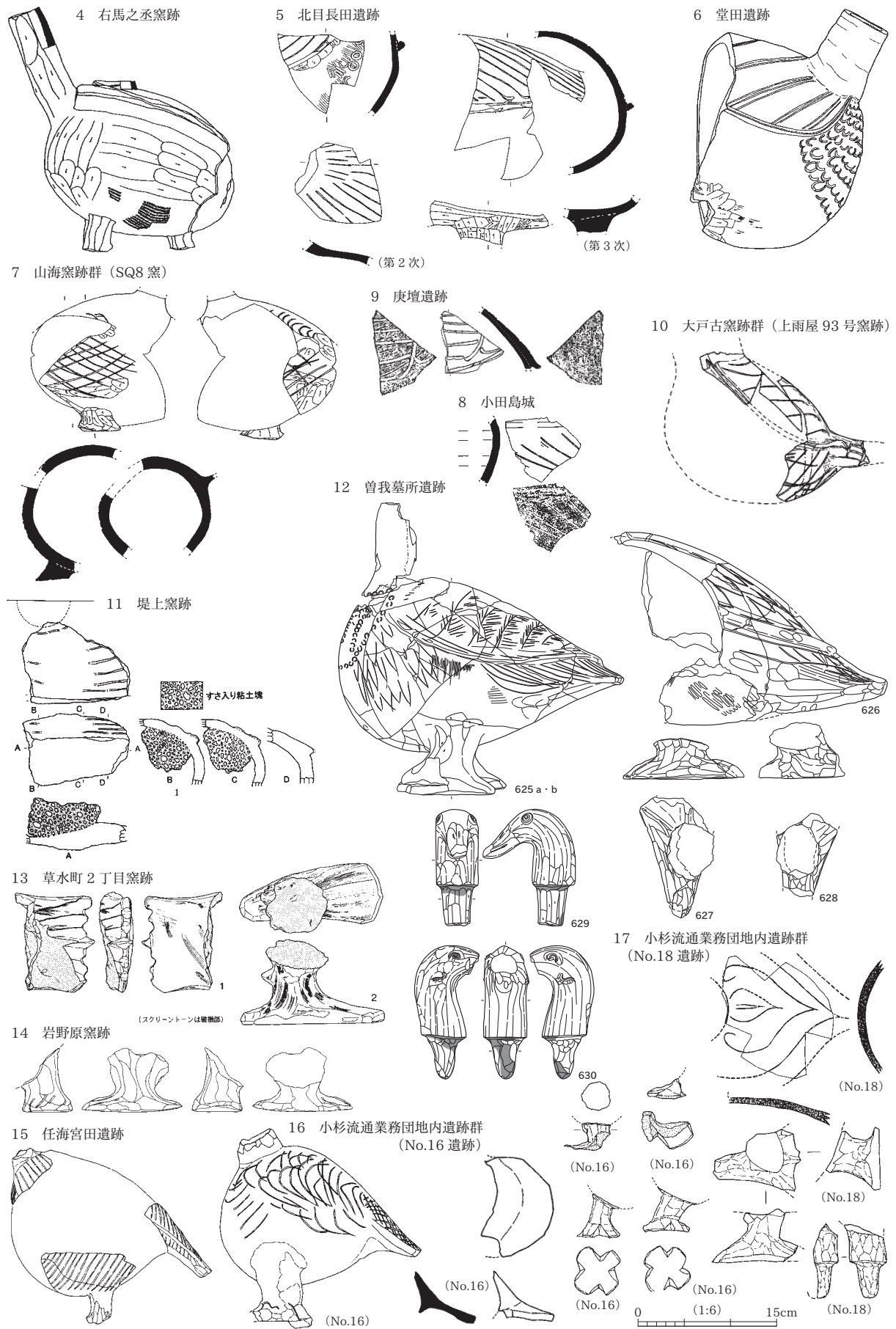
次に本遺跡の鳥形製品の出土状況であるが、625aは鳥形製品体部・脚部で明確な掘り込みが認められなかったSK418から出土した。SK419・499など広範囲から出土した接合しない頸部の625b同様に粉々になった小破片が広範囲に散っていた。特にSK419の2層から多く出土している。また、626は鳥形製品体部で浅い土坑SK413から出土した。脚部は、両足とも南へ約18m離れたSK419の2層から出土し、接合しないが第1次調査の試掘坑19Tからも体部の破片がみられる。今回の調査で出土したのは尾部側のみで、頭部側や破碎時に出るとされる小破片などはほとんど出土していない。このように異なる2点の鳥形製品の出土状況から以下のように推察する。625a・bはSK419で頸部と体部に割られた後、体部は西へ移動してさらに割られ、頸部破片は破碎した際に周囲に広く飛んだか、故意に散らしたのではないかと考える。626は出土部位が少ないが、調査区外で頭部と尾部に割られて、この場所に持ち込まれ体部と脚部を別々に廃棄したのではないかと考える。

第18表 鳥形製品・横型須恵器環状瓶・鉄製錫杖頭(古代)出土地一覧

No.	所在地	遺跡名	出土地	鳥形製品	横型須恵器環状瓶	鉄製錫杖頭(古代)	年代	備考	文献
1	青森県尾上町	李平下安原遺跡	143H(住居跡)覆土			○	8世紀後半～11世紀初頭		[青森県教育委員会1988]
2	岩手県宮古市	山口館跡	SI14覆土			○	9世紀後半～10世紀前半	三鈴鏡・鐘鈴とともに出土	[小山内・鳥居1999]
3	宮城県東松島市	矢本横穴墓群	11号墓		○		7世紀中葉～9世紀初頭頃		[宮城県東松島市教育委員会2010]
4	秋田県秋田市	右馬之丞窯跡	灰原	○			8世紀第3四半期	脚3本	[伊藤2001]
5	山形県遊佐町	北目長田遺跡(第2次調査)	SD1272	○			9世紀～10世紀	図は[吉田2004]より転載	[野尻・佐藤1996]
	山形県遊佐町	北目長田遺跡(第3次調査)	SG702(河川跡)	○			9世紀前半	図は[吉田2004]より転載	[伊藤・豊野1998]
6	山形県遊佐町	堂田遺跡	包含層	○			9世紀前半頃		[鈴木・川田1995]
7	山形県平田町	山海窯跡群	SQ8窯捨場	○			9世紀後半	図は[吉田2004]より転載	[名和・水戸1992]
8	山形県東根市	小田島城	3SG99(旧河川跡)	○			奈良～平安	図は[吉田2004]より転載	[高桑・菅原2004]
9	山形県南陽市	庚壇遺跡	遺構外	○			9世紀前半		[押切・須賀井2007]
10	福島県会津若松市	大戸古窯跡群	上雨屋93号窯	○			8世紀後葉	分布調査採集	[会津若松市教育委員会1994]
11	新潟県阿賀野市	堤上窯跡	—	○			9世紀代	表採	[小林2002]
12	新潟市江南区	曾我墓所遺跡	SK413・418・419ほか	○	○	○	8世紀後葉～9世紀初頭		[本書]
13	新潟市秋葉区	草水町2丁目窯跡	灰原	○			9世紀初頭頃	図以外の破片も出土	[渡邊1993]
14	新潟県長岡市	岩野原窯跡	7T灰原	○			9世紀前半		[山賀ほか2018]
15	富山県富山市	任海宮田遺跡	B6地区SD317(区画溝)ほか	○			8世紀後半～10世紀		[武田ほか2007]
16	富山県射水市	小杉流通業務団地内遺跡群(No.16遺跡)	1号窯灰層	○			8世紀前半		[上野ほか1984]
17	富山県射水市	小杉流通業務団地内遺跡群(No.18-C遺跡)	C地区(工人集落)	○			8世紀前半	右下の図は天地逆に掲載	[上野・久々ほか1982]
18	石川県七尾市	池崎窯跡	池崎1号窯灰原	○			9世紀中葉～後半		[土肥・近間1985]
19	石川県七尾市	能登国分寺跡	包含層	○			7世紀中葉～10世紀前葉		[土肥ほか1989]
20	石川県金沢市	末窯跡群	浅川3号窯灰原	○			8世紀後葉		[井越ほか1989]
21	石川県金沢市	末窯跡群	末2号窯灰原	○			8世紀後葉	図以外の破片も出土	[井越ほか1989]
22	石川県金沢市	戸水C遺跡(第9次)	包含層	○			9世紀～10世紀前葉	左へ90度回転して掲載	[橋本・大西ほか2000]
	石川県金沢市	戸水C遺跡(第11次)	包含層	○			9世紀～10世紀前葉		[大西・端2003]
23	石川県能美市	上徳山谷山西谷窯跡	灰原	○			8世紀後半～9世紀初頭頃		[安中1999]
	石川県小松市	額見町遺跡(A地区)	SI24	○			8世紀後半		[望月ほか2006]
24	石川県小松市	額見町遺跡(B地区)	包含層(渡来系移住者の集落)	○			8世紀後半		[望月ほか2007]
25	石川県小松市	二ツ梨一貫山窯跡	17号土師器焼成坑(2次床)	○			8世紀後半		[望月2002]
26	京都府京丹後市	阿婆田窯跡	C支群2号窯		○		8世紀中頃		[森1990・1991]
27	兵庫県豊岡市	荒木遺跡			○		8世紀前半頃～9世紀	図は[名村2020a]より転載	[名村2020a]
28	兵庫県加古川市	白沢3・5号窯跡	工房跡SD1		○		8世紀初頭		[森内・深江1999]
29	奈良県奈良市	歌姫西須恵器窯跡	11号地点1号窯		○		7世紀後半		[青木ほか2014]
30	石川県津幡市	加茂遺跡*	C区包含層	○			9世紀前葉～中葉	同一個体含め3点本書に掲載なし	[川畑ほか2021]

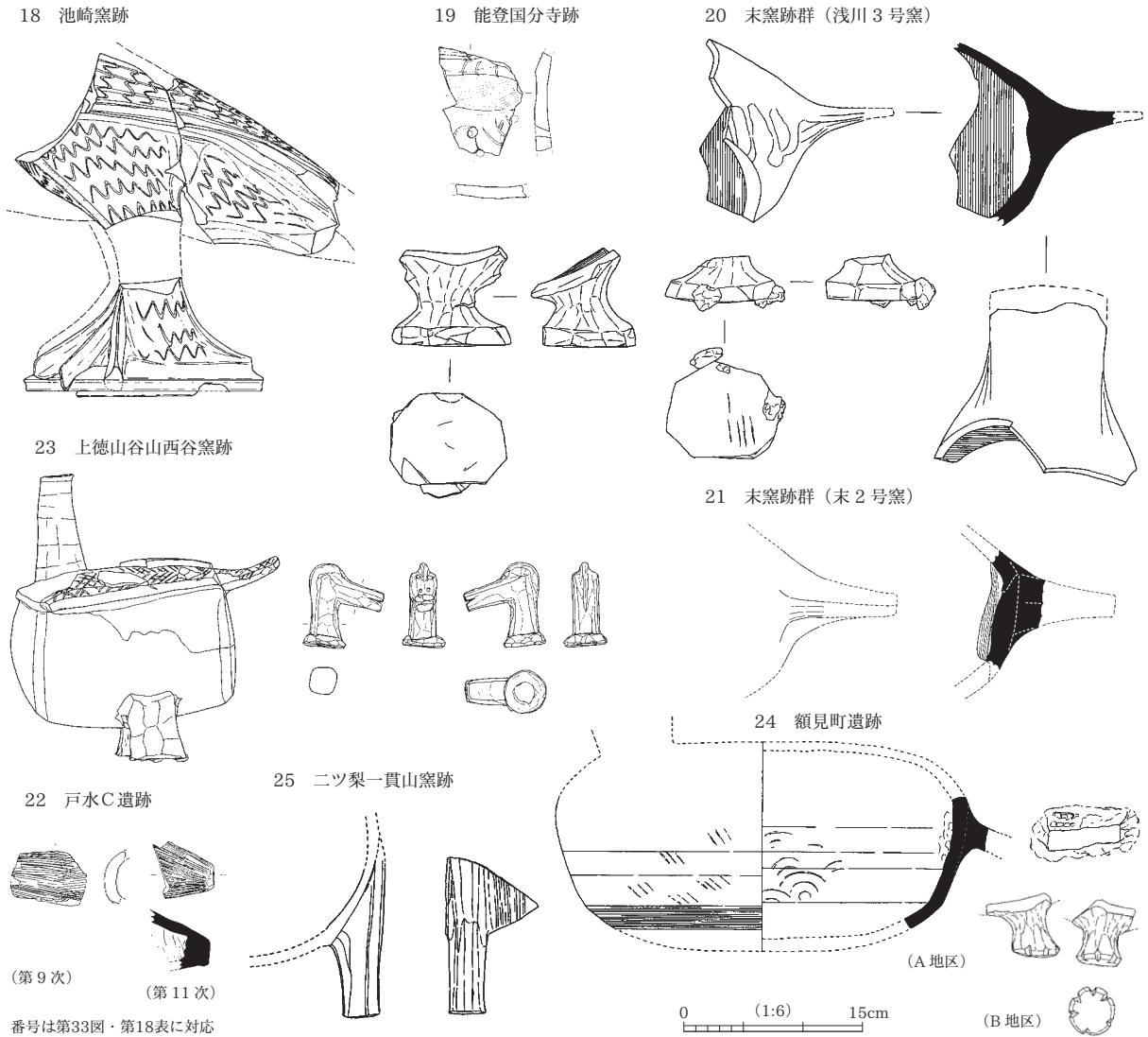
No.は第33図に対応

* 石川県加茂遺跡で、羽毛が線刻で表現された中空の鳥形製品頭部の出土例があることを集成後に確認している。



番号は第33図・第18表に対応

第31図 鳥形製品 1

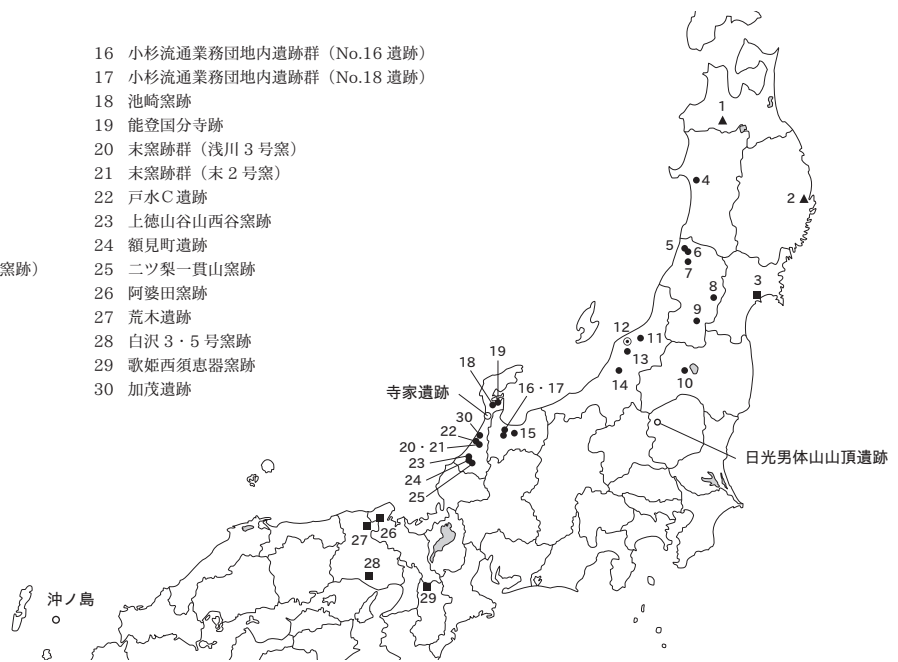


第32図 鳥形製品2

- | | |
|----------------------|----------------------------|
| 1 李平下安原 | 16 小杉流通業務団地内遺跡群 (No.16 遺跡) |
| 2 山口館跡 | 17 小杉流通業務団地内遺跡群 (No.18 遺跡) |
| 3 矢本横穴墓群 (11号墓) | 18 池崎窯跡 |
| 4 右馬之丞窯跡 | 19 能登国分寺跡 |
| 5 北目長田遺跡 | 20 末窯跡群 (浅川3号窯) |
| 6 堂田遺跡 | 21 末窯跡群 (末2号窯) |
| 7 山海窯跡群 (SQ8 窯) | 22 戸水C遺跡 |
| 8 小田鳥城 | 23 上徳山谷山西谷窯跡 |
| 9 庚壇遺跡 | 24 額見町遺跡 |
| 10 大戸古窯跡群 (上雨屋93号窯跡) | 25 ニツ梨一貫山窯跡 |
| 11 堤上窯跡 | 26 阿婆田窯跡 |
| 12 曾我墓所遺跡 | 27 荒木遺跡 |
| 13 草水町2丁目窯跡 | 28 白沢3・5号窯跡 |
| 14 岩野原窯跡 | 29 歌姫西須恵器窯跡 |
| 15 任海宮田遺跡 | 30 加茂遺跡 |

凡例

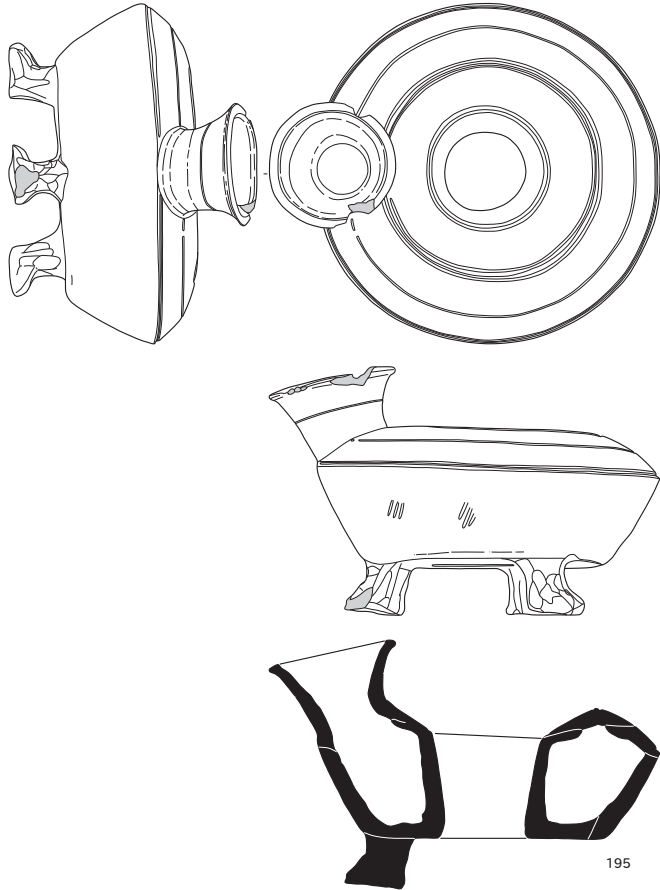
- 鳥形製品
- 横型須恵器環状瓶
- ▲ 鉄製錫杖頭 (古代)



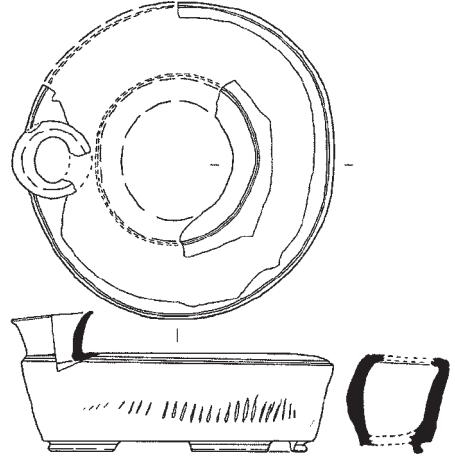
第33図 鳥形製品・横型須恵器環状瓶・鉄製錫杖頭 (古代) の出土遺跡

横型須恵器環状瓶 環状瓶は、環状の胴部の1か所に注口を持つ特異な形をしている。従来から広島県周辺の古墳などから出土する地域性の強い特殊な器形の須恵器とされ、有台と無台に分かれる。有台のものを「台付環状瓶」、無台のものは単に「環状瓶」と呼称され縦型の環状瓶の写真が掲載されている〔田辺1981〕。また、環状の胴部に注口部が付かない資料もあるため「環状形土器」とも呼称される〔青木2014〕。破片資料で判別できない場合もあるが、注口が付く個体が多く本遺跡資料(195)にも注口部があることから本書では環状瓶とした。

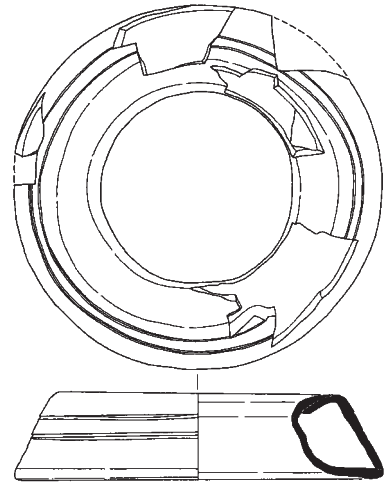
12 曾我墓所遺跡



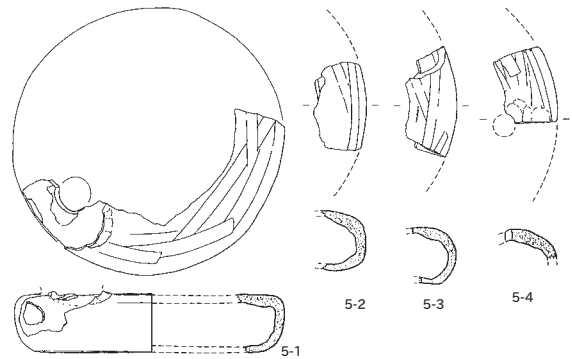
26 阿婆田窯跡



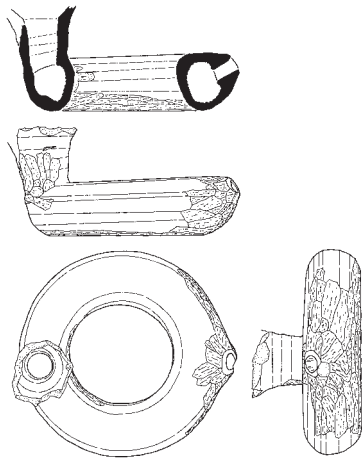
28 白沢3・5号窯跡



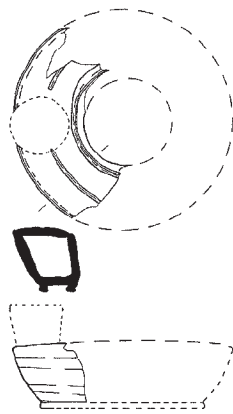
29 歌姫西須恵器窯跡



3 矢本横穴墓群(11号墓)



27 荒木遺跡



番号は第33図・第18表に対応

0 (1:6) 15cm

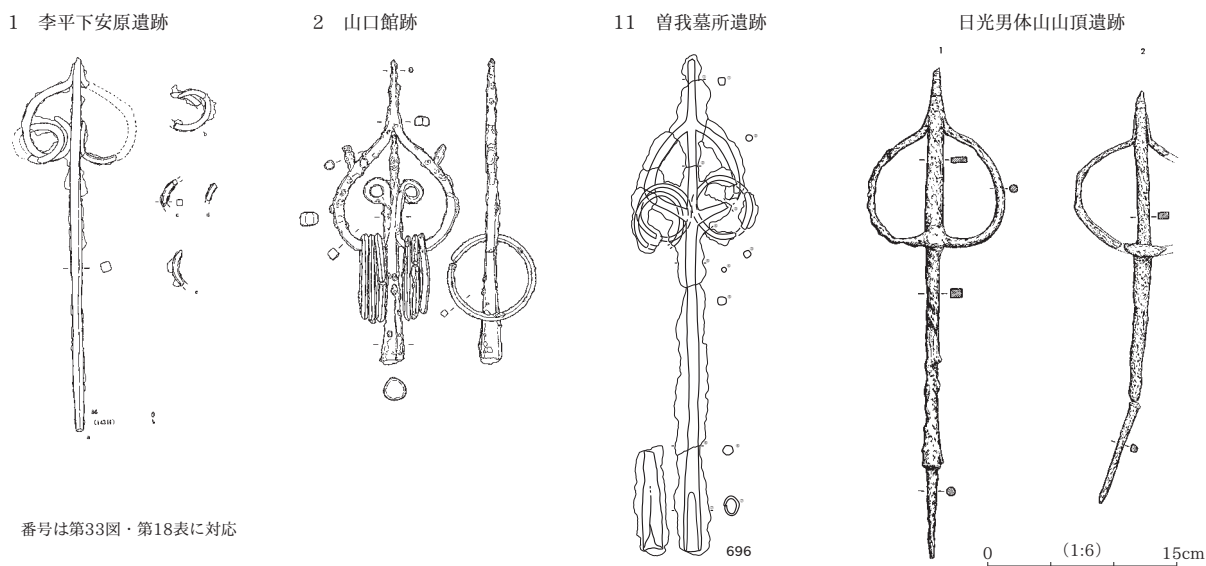
第34図 横型須恵器環状瓶

近年の資料増加によって、環状胴部の成形技法の変化により胴部の断面形態が円形から方形へと変わること、さらに8世紀以降には成形技術の変化とともに横型の環状瓶が製作され分布域が広がることが指摘されている〔青木2014・2016、名村2017b〕。8世紀以降に製作される環状瓶は、組み合わせ手法による成形や方形を呈する環状胴部の断面形で、横型のものも見られる。また、特異な形状の環状胴部については、「おそらく、粘土紐を貼り合せてまず長方形の板を作り、それを丸めて管を作ったのち、さらにそれを環状に成形した」ものであろうと推定され〔田中・田辺1977〕、その後、成形手法について具体的に言及された〔田辺1981〕。しかし、この手法以外に、粘土の「細長い板を複数枚作成し、これらを上下左右に貼りあわせ、断面方形でドーナツ状の胴部となるように成形する」という「組み合わせ手法」があることが報告された〔青木2014〕。名村はX線CTスキャンを利用した製作方法の分析〔名村2017a〕と、年代が推定できる遺跡出土の個体を中心とした断面形状や文様の変化の方向性から環状瓶の編年をしている〔名村2017b〕。その際、「粘土を引き伸ばし3枚の粘土帯を作り、そのうち1枚はL字状に折り曲げ、残りはそのまま円環状につなげて調整する」とした製作技術による分類のⅢ類が本遺跡例に類似する〔名村2017b〕。また、環状瓶は7世紀前半から8世紀半ばまでは確実に製作されていたと推測したうえで、7世紀と8世紀を境に見られる技術的な断絶は、制作目的の明らかな差異であろうとしている。そして、「仏教を中心とした奈良時代へと大きく文化が変化していく中で、古墳祭祀の一部が仏教的な祭祀の中に受け入れられていったことを示して」といって結論付けている〔名村2017b〕。

本遺跡資料(195)は、鳥形製品や鉄製錫杖頭・鉄鐸などとともにSK419から出土した横型の須恵器環状瓶である。ここでは、上記研究から成形技法もあわせて8世紀以降の製作であるとされる横型の須恵器環状瓶に限定して考えてみたい。兵庫県白沢3・5号窯跡のように明確な注口部を持たない個体(第34図28)や、宮城県矢本横穴墓群のように注口部の反対側にも注口を設けたと報告されている個体(第34図3)などを含めると全国で6例が確認されている(第33・34図・第18表)。本遺跡と宮城県矢本横穴墓(第34図3)、兵庫県荒木遺跡(第34図27)を除き窯跡からの出土である。外径や内径の大きさ、器高や高台の有無、さらに断面形状にも違いがみられ「横型須恵器環状瓶」のバリエーションの多さが際立つ。本遺跡資料の195は前方部が割れていたため環状胴部の内部が観察できた。X線CT画像などもあわせてみると、4枚の粘土板のうち1枚をL字状に折り曲げ貼り合わせて円環状にし、端を合わせて環状に仕上げる「組み合わせ手法」であることが分かる。断面形状は方形というより五角形を呈しているが名村のⅢ類に該当する。本遺跡資料(195)にはほかの個体にはない3本の鳥足を模した脚部が付くが、同一遺構の土器の年代から8世紀後半と考えられ、分布域・断面形態からも青木・名村の編年に合致する。

鉄製錫杖頭 本遺跡を特徴づける遺物のひとつである。古代の遺跡から出土している錫杖頭は、本遺跡のほかには青森県季平下安原遺跡〔青森県教育委員会1988〕と岩手県山口館跡〔小山内・鳥居1999〕、栃木県日光男体山山頂遺跡〔日光二荒山神社1963〕である(第33・35図・第19表)。「いうまでもなく錫杖は仏具の一種である」とされ〔三宅1963〕、現代でも使用されている。三宅は9～12世紀代と考えられる日光男体山山頂遺跡出土の34点(うち鉄製20点)の錫杖頭を輪の形態などで分類し、第一形式として「中心になる柄に宝珠形の輪を附着させたきわめて簡素な」錫杖頭2点を示している(第35図右)。また、輪の下部が柄に沿って上昇し蕨手状に巻き込むものを第二形式としており、出土品の多くがこの分類に含まれる。大和久は、錫杖頭に関して記載された仏典や文献を詳細に調べ、「この仏具が本来は音を発する杖として僧侶が携行する実用の道具であり、音を出す仕掛けは金属の輪と環の単純な組み合わせである」と、簡素から複雑化・多様化へという変化の方向性を示した。そして、三宅分類を参考にして柄と輪の関係で大きく第1～4類に分類、輪や下端部の形態的特徴で細分し編年案を示した〔大和久1989・1991〕。また、水澤も柄と輪の関係や鍛鉄・鋳造などの製作技法、下端部の形状も含めⅠ～Ⅳ類に分類し大和久とは逆に退化の方向性で捉えて編年している〔水澤2011〕。

本遺跡出土の鉄製錫杖頭(696)は、柄に輪を付着させるだけの簡素な鍛鉄製の錫杖頭で、遊環は左右で異なり1個と2個確認された。輪の形状などから三宅分類の第一形式、大和久分類の第1類、水澤分類のⅣ類に該



第35図 鉄製錫杖頭（古代）

当するが、下端部が袋穂形を呈している点はこの分類にも当てはまらない。柄の下端部の形状は、挿入形から袋穂形へという新旧の変化として捉えられている。696が同遺構SK419出土土器の年代から8世紀後半を下らないと考えると、大和久のいう複雑化の方向性で捉えられるのかもしれない。しかし、下端部の形状からは簡素な作りの古い錫杖頭の中でも新しい段階と考える。また、輪の付着方法は錆により明確にできなかった。李平下安原遺跡（第35図1）や日光男体山山頂遺跡（第35図右）のように柄に付着するのか、山口館跡（第35図2）に類似し、左右の輪が柄とともに上端で付着するのかは明瞭でない。

鉄鐸 鉄鐸は大陸からもたらされ古墳の副葬品として西日本を中心に分布するが、本遺跡のように古代に位置づけられる鉄鐸もある。いずれも鉄板を筒状に巻いた中に舌を下げ、振ることで音を鳴らす道具である。長野県諏訪神社などの伝世品は知られていたが、栃木県日光男体山山頂遺跡で初めて出土した〔日光二荒山神社1963〕。これまでの研究をふまえて「サナキまたはヌリデ（ヌデ）と呼ばれて神聖視され（中略）古くは神聖な神の憑代とも考えられた鐸」と、日本で古くから用いられてきた状況を述べている〔佐野1963〕。古代の鉄鐸は長野県で10世紀以降のものが多く出土しており、古代の鉄鐸出土遺跡の特徴とともに研究史を含め集成されている〔川崎2015〕。鉄鐸は時代が下ると大形化するとされるが〔原1996〕、川崎の集成によると古代では4～10cmの全長であり本遺跡の鉄鐸も当てはまる。そして、官衙関連遺跡からの出土は稀で、鉄鐸が一般集落の中における祭祀でも用いられると述べている。また、先行する時期の石川県寺家遺跡〔石川県立埋蔵文化財センター1988ほか〕や日光男体山山頂遺跡〔日光二荒山神社1963〕から出土している点を、律令期初頭には海外との交流にかかる国家的な祭祀や国衙にかかわる山岳祭祀としての性格を帯びていたと推測し、東アジア的視野で考えることが重要であると指摘している〔川崎2015〕。

なお、鉄鐸とは別に東北地方を中心に分布する錫杖状鉄製品に伴う筒形鉄製品がある〔井上2002・2006・2007〕。全長4cm前後で基本的に舌を持たないが、鉄鐸同様に振ることで音を鳴らす道具である。井上は古代の鉄製祭祀具について詳細に検討する中で、この錫杖状鉄製品に付属する筒形鉄製品の祖型が、日光男体山山頂遺跡や長野県で出土する鉄鐸である可能性が高いとしている〔井上2006〕。本遺跡からは鉄鐸4点（697～700）と舌3点（701～703）が出土した。そのうち2点の鉄鐸と鉄製錫杖頭がSK419から出土している。

2) 祭祀の場

非日常的な祭祀遺物が調査区の北西側を中心に出土した。それらはいくつかのまとまり（土坑）で捉えられ、さらにそれらの土坑が検出される東西約20m、南北約27mの範囲を当初は祭祀の場ではないかと考えた。中でも須恵器環状瓶を中心に甕や鉄製錫杖頭・鉄鐸などの遺物がまとまって出土したSK419、破砕された鳥形製

第 19 表 祭祀関連遺構出土遺物一覧

	須恵器										土師器					黒色土器			土製品	石製品	鉄製品					
	無台杯	有台杯	杯蓋	高杯	環状瓶	横瓶	長頸瓶	長胴瓶	壺蓋	罎	鉢	甕	無台杯	有台杯	鉢	長甕	小甕	鍋	椀	杯蓋	短頭壺	鳥形製品	焼礫	錫杖頭	鉄鐸	舌
SK413	1																				体・尾部					
SK418																					体・尾・脚部1対					
SK419	4	1	4	2	1	1			1	1				1		5					頭2・頸・脚部1対		1	2		1
SK488	1					1		1			1															1
SK499														1							頸部					
SK740																					頸部					
SK758																									1	
SB828	*	*	*			*					*	*	*	*	*	*	*	*	*	*			18			
SB828-SD357	*	*	*								*	*		*	*	*									1	
SD420	*	*	*					*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*			109			
SX64-石列381																						8				
SX125	*	*	*					*			*	*	*	*	*	*	*	*	*	*						
SX125-石列831																						8				
SX415	*	*									*								*			208				
SX416			*													*						170				

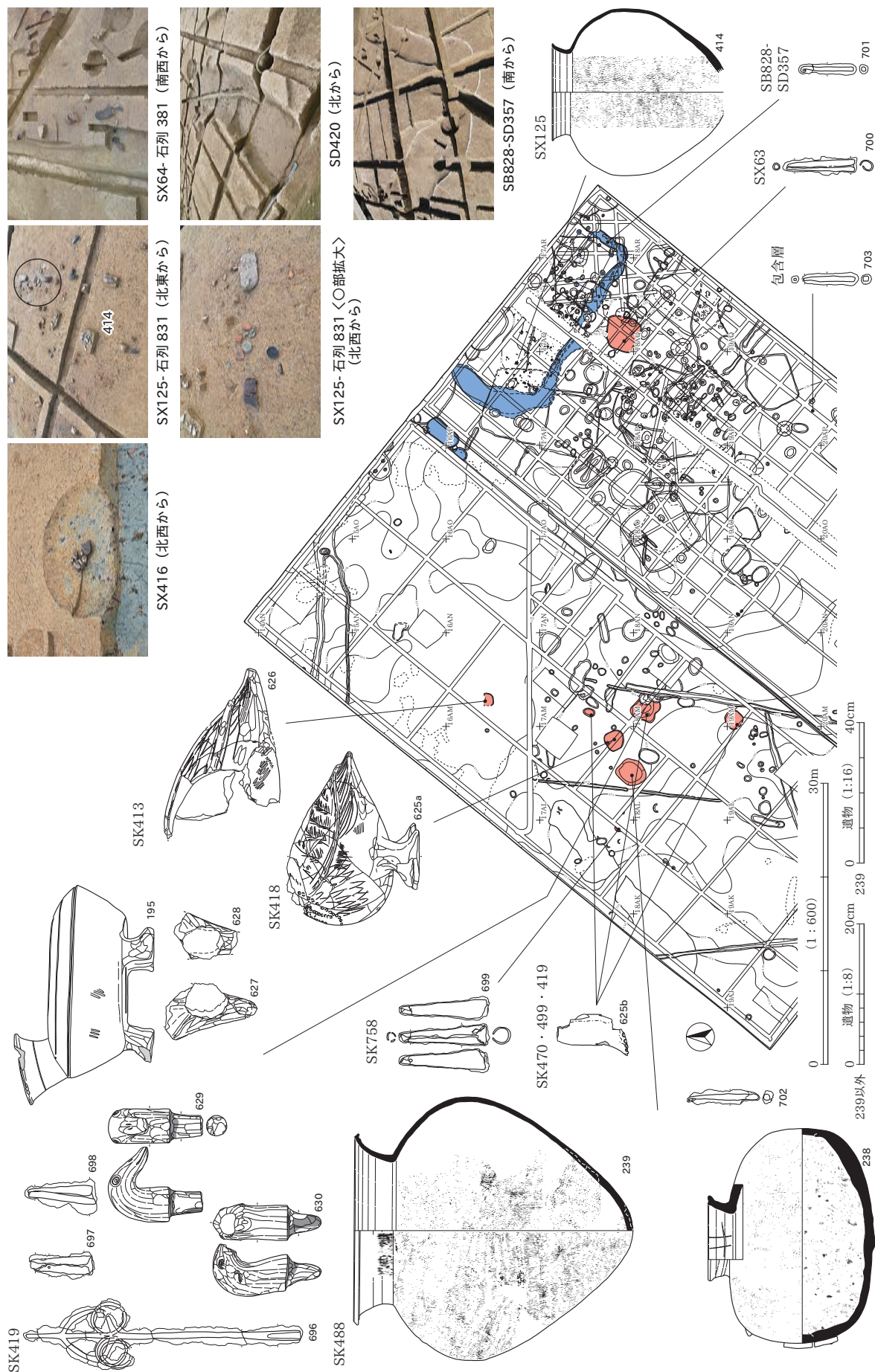
数字は点数、*は出土していることを示す

品が出土した SK413・SK418、須恵器大型甕・横瓶などが廃棄された SK488 が検出された東西約 10m、南北約 9m の範囲を中心的な場所と考えた。第七章第 1 節・第 2 節 A では、いずれの遺構も曾我墓所Ⅱ・Ⅲ（春日編年Ⅳ 2・3）期と位置づけた。この時期には、調査区北東側の居住域は大型の竪穴建物から溝で区画された掘立柱建物が建てられる。特に北側の SB828 に付属する SD357 からは鉄鐸の舌が出土しており、西側の SD420 に繋がる遺構の可能性もある。仮に同一遺構と考えた場合、掘立柱建物と区画溝（SD420）の間には南北を軸に配された石列が 2 基（SX64-石列 381、SX125-石列 831）確認されている。さらに各石列南端の中央にも石が置かれ、遺物が集中する SX125 からは器高約 50cm の須恵器甕が出土している（414）。また、SD420 の西側には焼礫集積遺構が 2 基（SX415・416）確認されている。居住域と考えた北東側で検出されたこれらの遺構から、北西側の一角だけでなく少し離れてはいるものの調査区北側がこの時期には祭祀の場だったのではないかと考えた（第 36 図）。なお、第三章で述べたとおり遺構のプランや掘り込みは非常に認識しにくく、遺物の有無や色調及び粘性などを総合的に判断して遺構検出をしている。そのため、SK418・419 のように土坑や性格不明遺構としたが明確な掘り込みが確認できかった遺構も多く、わずかに落ち込んだ自然地形の可能性もある。祭祀の場には土坑は 7 基、掘立柱建物 1 棟、区画溝 2 条、石列 2 基、性格不明遺構 3 基があり、出土遺物（石製品は焼礫のみ）の一覧は第 19 表に示した。なお、北東側の遺構出土遺物は総点数をカウントしていないため「*」で表記している。

SK419 では、上記の非日常的な祭祀遺物は日常的な遺物とともに出土している。中には灯りをとますために使われた須恵器無台杯（184・185）もあるが、この遺構から出土しなければ、日常の器として扱うであろう。須恵器有台杯は須恵器有台杯でしかない。SK419 の遺物が廃棄された状態をとどめていると仮定すると、この遺構から出土したまとまりにこそ意味があるのだと考える。何かを目的に持ち込まれ、何かが行われてこの場所に廃棄された痕跡である。この場所で何が行われたのか、出土遺物を詳細に見ても使用される場面や目的は明瞭でない。この場所自体の意味などを含め考えなければならない。

B 遺跡の性格と位置づけ

本遺跡で出土した遺物は、コンテナ（内寸 54.5×33.6×10.0cm）で 433 箱と水槽（内寸 1.6×1.0×0.6m）2 槽分に及ぶ。そのほとんどが古代の土器であり須恵器が特に多い。産地は阿賀北の窯跡群と新津丘陵窯跡とで 9 割以上を占める。8 世紀後半から 9 世紀初頭が主体であり、3 時期（曾我墓所Ⅰ、Ⅱ・Ⅲ、Ⅳ期）に分けられる（第七章第 2 節 A）。また、複数基検出された建物も切り合いによる新旧関係や出土遺物などから 4 期の変遷が想定された（第七章第 1 節 B）。大型の竪穴建物が複数建てられるⅠ期、溝で区画された掘立柱建物が建ち祭祀的な様



第36図 調査区北側の祭祀痕跡

相を帯びるⅡ期、小・中型の竪穴建物がわずかにみられるⅢ期、土坑と畝状小溝で構成されるⅣ期である。そして、Ⅱ期の祭祀的な様相は、鳥形製品や横型須恵器環状瓶、鉄製錫杖頭や鉄鐸などが出土した調査区北西側だけでなく、居住域と考えた北東側も含めた調査区北側の広範囲に及ぶと考えた。本遺跡の古代における最終段階は、調査区南側に広がる畝状の小溝が主体となる生産域と考えられ、明確な居住域は検出されていない。Ⅰ期からⅡ期へ移行する過程で居住域が調査区外へと移動したのではないかと考えられる。そして平安時代の始めころに衰退した後、中世では時期認定まではできない溝状遺構と遺物が調査区南側でごくわずかにみられる。近世になると、調査区南側を中心に井戸や土坑、調査区中央部では大規模な方形区画になる溝状遺構が複数基検出されている。土坑には、埋土に焼土と炭化物が非常に多く含まれ焼骨片や焼成粘土塊、数珠玉や銭貨が出土する墓坑が16基確認された。中には土坑底面に底板が検出されるものもあった（SK15）。墓坑は調査区北側でも検出されており（SK600）、南側だけでなく調査区全体が墓域の一部として利用されていた状況がうかがえる。

今回の調査で得られた圧倒的な物量と、当初から複数の竪穴建物が建てられていることから、阿賀野川沿いに立地する本遺跡は物流の拠点として機能していたと同時に人々が集う場所であったと考える。出土する土器の産地は阿賀北の窯跡群と新津丘陵窯跡が偏りなく見られ（第Ⅶ章第2節A）、土地利用の変遷からⅡ期に何らかの祭祀が行われたと想定される。祭祀の様子が最も明確に残るSK419で使われたのも阿賀北の窯跡群と新津丘陵窯跡で生産された土器・土製品である（1点のみ信濃川右岸の窯跡産と推定される須恵器甕（197）がある）。そこには横型須恵器環状瓶や鳥形製品も含まれ、鉄製錫杖頭と鉄鐸などが加わる。そして、SK418の鳥形製品の出土状況が割られたような状態を呈しているのに対し、SK419の横型須恵器環状瓶や灯明に使用された須恵器無台杯（184・185）、須恵器杯蓋（187・191・192）や鳥形製品の頭部（629・630）は割られずに出土している。判断が難しいが、中には190・193・198などのように割られた状態で出土した須恵器もあり、行われた祭祀の様相の違いを示している。

鳥形製品は、窯跡をはじめ官的な色彩をもつ消費遺跡や須恵器生産の工人集落などから多く出土するため、日本海側の秋田県から石川県まで分布する特殊な祭祀具と考える。横型須恵器環状瓶は、成形手法の変化から8世紀を境に広範囲に広まった器形であり、全国的に類例が少ないものの窯跡や埋葬施設、官衛的な施設が想定される遺跡から出土している。鉄製錫杖頭は現在でも使用される仏具の一種である。鉄鐸は、その位置づけが難しく古墳時代に大陸から伝えられた副葬品と、神聖な神の憑代としての祭祀具という側面がある。国内で古代の遺跡から出土する鉄鐸は、石川県寺家遺跡〔石川県立埋蔵文化財センター1988ほか〕、宮城県の多賀城関連遺跡として知られる東山遺跡〔宮城県多賀城跡調査研究所1989〕があり、10世紀以降は長野県で墓などの埋葬施設を中心に出土例が増加する。また、時期は明瞭でないが栃木県日光男体山山頂遺跡〔日光二荒山神社1963〕や福岡県沖ノ島〔第三次沖ノ島学術調査隊1979ほか〕などの祭祀遺跡がある。以上のように、遺跡を特徴づける各遺物は祭祀具であるとともに官衛的・仏教的な色彩をもつ。しかし、調査区からは官衛や寺院などが想定される明確な出土遺物はなく、「奈良時代後半から平安時代初頭に、官衛が関連する仏教を主体とした祭祀が日本海に近い物流拠点で行われたことを示す遺跡である」とまとめられるのかもしれない。

鳥形製品が出土した最北端に秋田県右馬之丞窯跡がある〔伊藤2001〕。秋田城の窯跡である可能性が指摘されており、秋田城は大陸の渤海国との交易も行われていたと推定される遺跡である〔秋田城跡調査事務所2014ほか〕。鳥形製品が大陸の工人によって伝えられた可能性が指摘され〔望月1998〕、長野県の鉄鐸を集成した川崎は、より理解を深めるためにも東アジア的視点が重要であると指摘している〔川崎2015〕。また、奈良・平安時代の祭祀について地方・地域社会における律令期祭祀の複雑さや多様性から「とくにこの時期の祭祀は大陸文化、半島文化を考えながら、前後の時代の祭祀の状況を考慮しながら、変革期であることを充分認識して遺跡・遺物を見ていく必要がある」と言うように〔椛山2004〕、ここで行われた祭祀は国内だけでなく大陸の文化も含めて考えることでさらに見えてくるのかもしれない。より広い視野が本遺跡を考える上で必要なのであろう。今後の課題としたい。

引用・参考文献

- ア 相澤裕子 2013 「下郷南遺跡第1・2次調査」『新潟市文化財センター年報』第2号 新潟市文化財センター
- 会津若松市教育委員会 1994 『会津大戸窯 大戸古窯跡群発掘調査報告書 遺物編』会津若松市文化財調査報告書第37号
- 青木 敬 2014 「第V章 考察 2 環状形土器の変遷と特質」『奈良山発掘調査報告Ⅱ -歌姫西須恵器窯の調査-』奈良文化財研究所学報第93冊 独立行政法人 国立文化財機構 奈良文化財研究所
- 青木 敬 2016 「寺院造営技術からみた白鳳」『國學院雑誌』第117巻第12号 國學院大学
- 青木 敬ほか 2014 『奈良山発掘調査報告Ⅱ -歌姫西須恵器窯の調査-』奈良文化財研究所学報第93冊 独立行政法人 国立文化財機構 奈良文化財研究所
- 青森県教育委員会 1988 『李平下安原遺跡発掘調査報告書 -主要地方道大鰐浪岡線道路改良事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書-』青森県埋蔵文化財調査報告書第111集
- 赤羽正春・高橋知之 1994 『横雲バイパス関係発掘調査報告書 上郷遺跡Ⅰ』新潟県埋蔵文化財調査報告書第62集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 秋田市教育委員会 1989 『秋田県秋田市 遺跡詳細分布調査報告書』
- 秋田城跡調査事務所 2014 『秋麻呂くん通信 古代秋田に集った人々』秋田市教育委員会
- 秋田城跡歴史資料館 2020 『秋麻呂くん通信 つながる海のみち～秋田城と日本海交流～』
- 朝岡政康・丹下昌之ほか 2009 『手代山北遺跡 第2・3次調査 -市道亀田南線建設事業に伴う手代山北遺跡第2・3次発掘調査報告書-』新潟市教育委員会
- 朝岡政康・諫山えりか 2003 『東田遺跡 卸売市場建設に伴う市道東8-273建設事業用地内発掘調査報告書』新潟市教育委員会
- 朝岡政康ほか 2010 『三王山遺跡Ⅱ 第4・7次調査 -新潟市立亀田中学校校舎・体育館改築工事に伴う三王山遺跡第2・4次発掘調査報告書-』新潟市教育委員会
- 浅川滋男ほか 1998 『先史日本の住居とその周辺』同成社
- 荒川隆史・加藤 学ほか 1999 『上信越自動車道関係発掘調査報告書Ⅴ 和泉A遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第93集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 安中哲徳 1999 『上徳山谷山西谷窯跡 -辰口丘陵公園第2園地整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書-』(財)石川県埋蔵文化財センター
- 飯坂盛泰ほか 2006 『関越自動車道関係発掘調査報告書 金屋遺跡2』新潟県埋蔵文化財調査報告書第155集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 家田順一郎 1987 『小丸山遺跡 小丸山遺跡緊急発掘調査報告書』横越村教育委員会
- 諫山えりか 2004 『新潟市山木戸遺跡 マンション等建設予定地内発掘調査報告書』新潟市教育委員会
- 石川県立埋蔵文化財センター 1988 『寺家遺跡発掘調査報告書』Ⅱ 能登海浜道関係埋蔵文化財調査報告書Ⅶ
- 石川茂雄 1994 『原色日本植物種子写真図鑑』石川茂雄図鑑刊行委員会
- 石川日出志ほか 1981 『上野林丘陵埋蔵文化財発掘調査報告書 横峯A遺跡 横峯B遺跡』安田町文化財調査報告5 新潟県安田町教育委員会
- 石田守之ほか 2009 『金港遺跡』聖籠町埋蔵文化財調査報告書第4集 新潟県聖籠町教育委員会
- 伊藤武士 2001 「右馬之丞窯跡」『秋田市史』第七巻 古代 史料編 秋田市
- 伊藤 元・豊野潤子 1998 『北目長田遺跡第3次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター報告書第56集 (財)山形県埋蔵文化財センター
- 伊藤秀和 2001 『鬼倉遺跡 -国道403号線道路改良工事に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書-』加茂市文化財調査報告(13) 新潟県加茂市教育委員会
- 伊藤秀和 2005 『馬越遺跡 -国道403号線道路改良工事に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書-』加茂市文化財調査報告(14) 新潟県加茂市教育委員会
- 伊藤秀和 2009 『馬越遺跡Ⅱ -一般国道403号交通連携事業に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書-』加茂市文化財調査報告(18) 新潟県加茂市教育委員会
- 伊藤秀和 2019 「第5章 古代 第2節 土器・木製容器 第3項 越後平野信濃川右岸」『新潟県の考古学Ⅲ』新潟県考古学会
- 伊藤廉倫 1993 『二本松東山遺跡発掘調査報告書』山武考古学研究所
- 井上雅孝 2002 「錫杖鉄製品の研究 -北東北における古代祭祀具の一形態-」『岩手考古』14 岩手考古学会

- 井上雅孝 2006 「古代鉄製祭祀具から見た蝦夷の信仰と儀礼 ―錫杖・三鈷鏡・鉄鐸・錫杖状鉄製品―」『立正史学』第99号 立正大学史学会
- 井上雅孝 2007 「古代蝦夷社会における古密教の受容と展開 ―錫杖状鉄製品の分析を中心に―」『原始・古代日本の祭祀』(株)同成社
- 猪狩俊哉・稲田健一・名村威彦・片平雅俊 2020 「環状瓶の新2例 ―ひたちなか市市毛本郷坪遺跡と日立市前原遺跡―」『茨城県考古学協会誌』第32号 茨城県考古学協会
- 今井さやかほか 2007 『日水遺跡 第3次調査 鍋田土地区画整理事業に伴う日水遺跡第3次発掘調査報告書』新潟市教育委員会
- 植木久美子 2002 「北陸の鳥形須恵器と円面硯 ―任海宮田遺跡出土資料の紹介―」『富山考古学研究 紀要第5号』(財)富山県文化振興財団 埋蔵文化財調査研究所
- 上野 章・久々忠義ほか 1982 『富山県小杉町・大門町 小杉流通業務団地内遺跡群 第3・4次緊急発掘調査概要』富山県教育委員会
- 上野 章ほか 1984 『富山県小杉町・大門町 小杉流通業務団地内遺跡群 第6次緊急発掘調査概要』富山県教育委員会
- 上野一久・春日真実 1997 『上郷遺跡Ⅱ 国道49号横雲バイパス関係発掘調査報告書』新潟県埋蔵文化財調査報告書第87集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 宇野隆夫 1992 「食器計量の意義と方法」『国立歴史民俗博物館研究報告』第40集 国立歴史民俗博物館
- 江口友子ほか 1999 『金塚遺跡 三仏生遺跡 割目A遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第92集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 遠藤恭雄・澤野慶子ほか 2016 『沖ノ羽遺跡Ⅵ 第19・22・24次調査 ―県営ほ場整備事業(担い手育成型) 満日地区に伴う沖ノ羽遺跡第12・15・17次発掘調査報告書―』新潟市教育委員会
- 遠藤恭雄ほか 2020 『砂崩前郷遺跡 第3次調査 ―市道砂崩南線建設事業に伴う砂崩前郷遺跡第2次発掘調査報告書―』新潟市教育委員会
- 大熊 孝 1996 「越後平野の治水と河川開発史」『第四紀研究』第35巻第3号 日本第四紀学会
- 大西 顕・端 猛ほか 2003 『金沢市 戸水C遺跡・戸水C古墳群(第11・12次)』金沢港埠頭用地整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センター
- 大家 健 2003 「中世 第三章 第二節「永禄六年北国下りの遺足」にみる中世の旅」『横越町史』通史編 横越町史編さん室・横越町
- 大矢雅彦・加藤泰彦 1984 『阿賀野川水害地形分類図・同説明書』建設省北陸地方建設局・阿賀野川工事事務所
- 大和久震平 1989 「古式の錫杖」『山岳修験』第5号 日本山岳修験学会
- 大和久震平 1990 『古代山岳信仰遺跡の研究』名著出版
- 大和久震平 1991 「古式錫杖の形式」『帝京短期大学紀要』8号 帝京短期大学
- 岡村 浩 2005 『小林存選集』横越町
- 小山内透・鳥居達人 1999 『山口館跡発掘調査報告書 宮古市道北部環状線道路改良工事関連発掘調査』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第310集 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- 尾崎高宏 2001 「新潟県における古代の鉄生産 ―鍛冶関連遺構の検討―」『研究紀要』第3号 (財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 押切智紀・須賀井明子 2007 『庚壇遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第161集 (財)山形県埋蔵文化財センター
- 小田由美子ほか 2006 『上信越自動車道関係発掘調査報告書ⅩⅥ 滝寺古窯群 大貫古窯群』新潟県埋蔵文化財調査報告書第149集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 小野本敦・阿部友晴ほか 2017 『柄目木遺跡Ⅲ』新潟県埋蔵文化財調査報告書第270集 新潟県教育委員会・(公財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 温故談話会 1891 『温故之栞』第16編
- 温故談話会 1892 『温故之栞』第32編
- カ 春日真実 1996 「越後における5世紀から8世紀の竪穴建物の変遷」『新潟考古学談話会会報』第16号 新潟考古学談話会
- 春日真実 1999 「第4章 古代 第2節 土器編年と地域性」『新潟県の考古学』新潟県考古学会編 高志書院
- 春日真実 2001 「第Ⅵ章 まとめ 2. 和島・出雲崎地域における7世紀末から10世紀の土器の変遷」『国道116号埋蔵文化財発掘調査報告書 梯子谷窯跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第104集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団

- 春日真実 2003 『磐越自動車道関係発掘調査報告書 沖ノ羽遺跡Ⅲ (C地区)』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実 2005 「越後における奈良・平安時代土器編年の対応関係について - 「今池編年」・「下ノ西編年」・「山三賀編年」の検討を中心に -」『新潟考古』第16号 新潟県考古学会
- 春日真実 2007 「越後における古代の煮炊具について」『新潟考古』第18号 新潟県考古学会
- 春日真実 2015 「土器・陶磁器の機能別比率 - 越後の古墳時代～古代を中心に -」『研究紀要』第8号 (公財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実 2016 「古代越後の竪穴・掘立柱併用建物」『三面川流域の考古学』第14号 奥三面を考える会
- 春日真実 2017 「古代越後の周溝付建物」『三面川流域の考古学』第15号 奥三面を考える会
- 春日真実 2019 「第5章 古代 第2節 土器・木製容器 第1項 土師器・須恵器の器種分類」『新潟県の考古学Ⅲ』新潟県考古学会
- 春日真実ほか 1996 『江内遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第76集 磐越自動車道関係発掘調査報告書 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実ほか 1997 『上郷遺跡Ⅱ』新潟県埋蔵文化財調査報告書第87集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実ほか 2002 『奈良崎遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第116集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 加藤 学 2001 『日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書 松影A遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第106集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 加藤 学 2004 「新潟県域における北方系の土師器甕 - 事例紹介と問題提起 -」『越後阿賀北地域の古代土器様相』新潟古代土器研究会
- 加藤 学ほか 2010 『村前東A遺跡 村前東B遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第223集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 加藤 学ほか 2011 『須沢角地遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第225集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 加藤 学ほか 2012 『柄目木遺跡Ⅱ』新潟県埋蔵文化財調査報告書第237集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 金内 元ほか 2008 『北前田遺跡Ⅰ 北新田遺跡Ⅰ』新潟県埋蔵文化財調査報告書第197集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 金内 元ほか 2011 『向大浦遺跡 上空野中丸遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第222集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 上町よろずこと編集委員 2011 『上町よろずこと』横越上町よろず研究会
- 亀田郷土地改良区 1976 『水と土と農民 亀田郷土地改良史』亀田郷土地改良区・新潟日報社
- 亀田町史編さん委員会 1988 『亀田の歴史』通史編上巻 亀田町
- 亀田町史編さん委員会 1990 『亀田の歴史』資料編 亀田町
- 亀田町文化財保護審議会 1982 『ふるさとの地名 亀田』亀田町教育委員会
- 鴨井幸彦・田中里志・安井 賢 2015 「暦年較正年代による新潟砂丘の形成年代の見直し」『第四紀研究』第54巻第3号 日本第四紀学会
- 川上貞雄 1982 『中の山遺跡』亀田町文化財調査報告書2 亀田町教育委員会
- 川上貞雄 1993 『山ん家遺跡 緊急発掘調査報告書』横越村文化財調査報告② 横越村教育委員会
- 川上貞雄 1996a 『金津丘陵製鉄遺跡群 居村B・D地区』新津市教育委員会
- 川上貞雄 1996b 『荒木前遺跡 第2次調査』亀田町文化財調査報告書第4集 亀田町教育委員会
- 川上貞雄 1997 『上浦A遺跡 新津市工業団地第2期工事地内発掘調査報告書』新津市文化財調査報告書 新津市教育委員会
- 川崎 保 2012 「鷹形須恵器についての一考察」『古代学研究』第193号 古代学研究会
- 川崎 保 2015 「古代信濃の鉄鐸についての一考察」『信濃』第67巻第10号 信濃史学会
- 川畑 誠ほか 2021 『津幡町 加茂遺跡Ⅱ』一般国道8号津幡北バイパスに係る埋蔵文化財発掘調査報告書2 石川県教育委員会・(公財)石川県埋蔵文化財センター
- 神田一正 2000 「原始・古代の横越」『横越町史』資料編 横越町史編さん室 横越町
- 神田勝郎 1997 『「中世」横越の風景 - 阿賀の舟旅をよむ -』神田勝郎

- 木村宗文 1993 「初期荘園の成立」『新津市史』通史編 上巻 新津市史編さん委員会
- 北村 亮ほか 1992 『北陸自動車道関係発掘調査報告書 木崎山遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第 28 集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 木村理恵 2019 「大甕の生産・流通の変遷について ―垂下形縁帯状口縁をもつ大甕を中心に―」『第 22 回 古代官衙・集落研究会報告書 官衙・集落と大甕』奈良文化財研究所研究報告第 23 冊 (独)国立文化財機構 奈良文化財研究所
- 桐原雅史ほか 2008 『大坂上道遺跡Ⅱ 猿額遺跡Ⅱ』新潟県埋蔵文化財調査報告書第 186 集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 久々忠義 1983 「水鳥を形どった須恵器 ―小杉流通業務団地内遺跡の調査から―」『埋文とやま』第 5 号 富山県埋蔵文化財センター
- 草野潤平 2017 『馳上遺跡 第 2～4・6 次発掘調査報告書』(公財)山形県埋蔵文化財センター
- 小池邦明・本間桂吉 1995 『新潟市小丸山遺跡 直り山団地建設事業用地内発掘調査報告書』新潟市教育委員会
- 小池義人ほか 1998 『関川谷内遺跡Ⅰ』新潟県埋蔵文化財調査報告書第 90 集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 小嶋芳孝 1997 「第 4 章 古代 第 1 節 金属製品」『石川県考古資料調査・集成事業報告書 祭祀具Ⅱ』石川考古学研究会
- 小嶋芳孝 2004 「錫杖状鉄製品と蝦夷の宗教」『アイヌ文化の成立』宇田川洋先生華甲記念論文集刊行実行委員会
- 後藤一雄 2003 「近世 第一章 第三節 沢海藩の成立と村々」『横越町史』通史編 横越町史編さん室・横越町
- 小林昌二編 1996 『越と古代の北陸』名著出版
- 小林 存 1952 『横越村誌』横越公民館
- 小林 弘 2002 「新潟県北蒲原郡豊浦町堤上窯跡採集の鳥形と須恵器」『新潟考古学談話会会報』第 24 号 新潟考古学談話会
- 小山正忠・竹原秀雄 1967 『新版標準土色帖』日本色研事業株式会社
- サ 酒井和男 1980 『三王山遺跡発掘調査報告書』亀田町教育委員会
- 酒井和男 2000 「第一章 横越町の遺跡概観」「第二章 考古資料」『横越町史』資料編 横越町史編さん室・横越町
- 坂井秀弥ほか 1982 『栗原遺跡 (第 4 次・第 5 次発掘調査概報)』新潟県教育委員会
- 坂井秀弥ほか 1983 『栗原遺跡 (第 6 次発掘調査概報)』新潟県教育委員会
- 坂井秀弥ほか 1984 『上新バイパス関係遺跡発掘調査報告Ⅰ 今池遺跡・下新町遺跡・子安遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第 35 集 新潟県教育委員会
- 坂井秀弥ほか 1989 『新新バイパス関係発掘調査報告書 山三賀Ⅱ遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第 53 集 新潟県教育委員会・建設省北陸地方建設局新潟国道工事事務所
- 坂井秀弥 1989 「第 2 章 旧国別における手工業生産の様相 4 越後における古代手工業生産の様相」『北陸の古代手工業生産』北陸古代手工業生産史研究会
- 坂井秀弥 1990 「新潟県三島郡与板町の製鉄遺跡」『新潟考古』第 1 号 新潟県考古学会
- 笹澤正史ほか 1999 『新潟県上越市上千原地区ほ場整備事業関連発掘調査報告書 津倉田遺跡』上越市教育委員会
- 笹澤正史 2019 「第 5 章 古代 第 2 節 土器・木製容器 第 2 項 阿賀北」『新潟県の考古学Ⅲ』新潟県考古学会
- 佐藤友子ほか 2010 『一般国道 49 号阿賀野バイパス関係発掘調査報告書Ⅲ 柄目木遺跡Ⅰ』新潟県埋蔵文化財調査報告書第 216 集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 佐藤 慎 2013 『倉田遺跡』妙高市埋蔵文化財調査報告書第 5 集 妙高市教育委員会
- 佐藤雅一 1995 『相吉遺跡』津南町文化財調査報告第 20 輯 新潟県中魚沼郡津南町教育委員会
- 佐藤雅一 2008 『大割野谷内田 A 遺跡 大割野谷内田 B 遺跡』津南町文化財調査報告第 53 輯 津南町教育委員会
- 佐藤雅一ほか 2008 『天狗寺遺跡』津南町文化財調査報告第 57 輯 津南町教育委員会
- 佐野大和 1963 「第四章 遺物 10 鈴鐸」『日光男体山 山頂遺跡発掘調査報告書』角川書店
- 澤野慶子 2020 「曾我墓所遺跡 ―阿賀野川沿いで見つかった古代の掘立柱建物と堅穴状遺構群―」『新潟市遺跡発掘調査速報会 2019』新潟市文化財センター
- 菅沼 亘ほか 2003 『馬場上遺跡発掘調査報告書』十日町市文化財発掘調査報告書第 22 集 新潟県十日町市教育委員会
- 嵯山林継 2004 「古代祭祀遺跡の展開」『季刊考古学』第 87 号 古代祭祀の世界 (株)雄山閣
- 鈴木 暁ほか 2012 『空毛遺跡 発掘調査報告書 経営体育成基盤整備事業 (佐々木南部郷 2 期地区) に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』新発田市埋蔵文化財調査報告第 43 集 新潟県新発田市教育委員会
- 鈴木俊成ほか 1988 『小出越遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第 51 集 新潟県教育委員会

- 鈴木良仁・川田嘉信 1995 『北目長田遺跡・櫛待遺跡・堂田遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター報告書第24集 (財)山形県埋蔵文化財センター
- 関 雅之 2001 「新潟県新発田市馬見坂遺跡出土の土師器 ―阿賀北地方の7世紀の土師器様相とその意義―」『北越考古』第12号 北越考古学会
- 曾我廣見 1973 『横越村の民俗』
- 曾我廣見 1984 『横越村地名考』 横越村
- タ 第三次沖ノ島学術調査隊 1979 『宗像 沖ノ島』I本文 II図版 III史料 宗像大社復興期成会
- 高桑 登・菅原哲文 2004 『小田島城跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター報告書第131集 (財)山形県埋蔵文化財センター
- 高野芳宏・村田晃一ほか 1989 『東山遺跡II』多賀城関連遺跡発掘調査報告書第13集 宮城県多賀城跡調査研究所・宮城県文化財保護協会
- 高橋健自 1911 「古式の錫杖」『考古学雑誌』第1巻第7号 考古学会
- 高橋 保ほか 1993 『八幡林遺跡』和島村埋蔵文化財調査報告書第2集 新潟県和島村教育委員会
- 高橋 保ほか 2008 『寺前遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第198集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 高橋 勉 1984 『栗原遺跡 第7次・第8次発掘調査報告書』 新井市教育委員会
- 高橋 勉 1989 『杉明遺跡発掘調査報告書』 新井市教育委員会
- 高橋保雄ほか 2006 『上野東遺跡 現明嶽遺跡1』新潟県埋蔵文化財調査報告書第160集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 高橋保雄ほか 2010 『山口遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第215集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 高橋保雄 2021 「道正遺跡・岡崎遺跡」『新潟市遺跡発掘調査速報会2020』 新潟市文化財センター
- 滝沢規朗 2019 「第4章 古墳時代 第2節 土器 第1項 前期」『新潟県の考古学III』 新潟県考古学会
- 武田健次郎ほか 2007 『任海宮田遺跡発掘調査報告II ―公害防除特別土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告VII―』富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告第34集 (財)富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所
- 龍田優子 2020 「新潟市 曾我墓所遺跡」『新潟県考古学会 2020年度秋季シンポジウム・第32回大会研究発表会発表要旨』 新潟県考古学会
- 龍田優子 2021a 「曾我墓所遺跡 ―阿賀野川沿いにある交通の要所―」『新潟市遺跡発掘調査速報会2020』 新潟市文化財センター
- 龍田優子 2021b 「新潟市 曾我墓所遺跡の調査成果」『新潟県考古学会 第33回大会 研究発表会発表要旨』 新潟県考古学会
- 龍田優子ほか 2015 『下新田遺跡 第6・8・9次調査 ―県営ほ場整備事業(経営体育成基盤整備型)道上地区に伴う第3・5・6次発掘調査報告書―』 新潟市教育委員会
- 田中久夫ほか 1996 「新潟砂丘の形成史」『第四紀研究』35(3) 日本第四紀学会
- 田中 琢・田辺昭三 1977 「作品解説」『日本陶磁全集』4 須恵器 中央公論社
- 田中 靖 1994 『八幡林遺跡』和島村埋蔵文化財調査報告書第3集 新潟県和島村教育委員会
- 田中 靖 2005 『八幡林遺跡IV』和島村埋蔵文化財調査報告書第16集 新潟県和島村教育委員会
- 田中 靖ほか 2007 『土用木西遺跡 新潟県長岡屋内プール建設に伴う埋蔵文化財報告書』 新潟県長岡市教育委員会
- 田辺昭三 1981 『須恵器大成』 角川書店
- 田畑 弘 1994 『道下・白地遺跡 大正川筋小規模河川改修事業及び道路新設事業埋蔵文化財緊急発掘調査報告書』田上町埋蔵文化財調査報告書第4集 田上町教育委員会
- 千葉英一 1977 『新潟県南蒲原郡下田村営前谷圃場整備地内埋蔵文化財緊急発掘調査報告書 南中赤坂遺跡・南中五輪峠遺跡・飯田五輪峠遺跡』下田村文化財調査報告書第7集 新潟県下田村教育委員会
- 立木宏明ほか 2009 『萱免遺跡 第2次調査 ―宅地造成に伴う萱免遺跡第2次発掘調査報告書―』 新潟市教育委員会
- 立木宏明・相澤(高野)裕子ほか 2014 『細池寺道上遺跡III 第26次調査 ―県営ほ場整備事業(担い手育成型)両新地区に伴う第12次発掘調査報告書―』 新潟市教育委員会
- 立木宏明・奈良佳子ほか 2017 『細池寺道上遺跡VI 第44次調査 ―県営ほ場整備事業(担い手育成型)両新地区に伴う細池寺道上遺跡第19次発掘調査報告書―』 新潟市教育委員会
- 立木宏明・奈良佳子ほか 2018 『細池寺道上遺跡VII 第46次調査 ―県営ほ場整備事業(担い手育成型)両新地区に伴う細池寺道上遺跡第21次発掘調査報告書―』 新潟市教育委員会

- 立木（土橋）由理子ほか 1999 『牛道遺跡 国道49号横雲バイパス関係発掘調査報告書Ⅲ』新潟県埋蔵文化財調査報告書第91集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 津野 仁 2017 「古代須恵器大甕の耐久 ―栃木県域の事例から―」『研究紀要』第25号 (公財)とちぎ未来づくり財団 埋蔵文化財センター
- 鶴巻康志 1998 『市道関係遺跡発掘調査報告書 山王遺跡第1・2次調査 松橋遺跡 岡塚館跡』新発田市埋蔵文化財調査報告書第19集 新潟県新発田市教育委員会
- 出越茂和ほか 1989 『金沢市末窯跡群』金沢市文化財紀要76 金沢市・金沢市教育委員会
- 土肥富士夫・近間 強 1985 『池崎窯跡 転作促進対策特別事業(転換水田整備事業)に係る埋蔵文化財緊急発掘調査報告書』七尾市埋蔵文化財調査報告第4集 七尾市教育委員会
- 土肥富士夫ほか 1989 『史跡 能登国分寺跡 ―第五・六・七次発掘調査報告書―』七尾市埋蔵文化財調査報告第10集 七尾市教育委員会
- 東京国立博物館・中日新聞社 1983 『韓国古代文化展 ―新羅千年の美―』中日新聞社
- 田海義正ほか 2015 『山口野中遺跡Ⅱ』新潟県埋蔵文化財調査報告書第258集 新潟県教育委員会・(公財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 時枝 務 1991 「日光男体山頂遺跡出土遺物の性格 ―新資料を中心として―」『MUSEUM』No.479 ミュージアム出版
- 栃木英道・大西 顕ほか 2000 『金沢市戸水C遺跡・戸水C古墳群(第9・10次)』(財)石川県埋蔵文化財センター
- 戸根与八郎ほか 2010 『北前田遺跡Ⅱ 野畔遺跡Ⅱ 諏訪前遺跡 北新田遺跡Ⅱ 中田原遺跡Ⅱ 岩ノ原遺跡Ⅱ』新潟県埋蔵文化財調査報告書第212集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 土橋由理子 2005 『蛇谷遺跡 炭山遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第151集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 土橋由理子ほか 2007 『一般国道49号線亀田バイパス関係発掘調査報告書Ⅰ 城所道下遺跡・武左衛門裏遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第177集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 土橋由理子ほか 2009 『一般国道49号線亀田バイパス関係発掘調査報告書Ⅱ 西郷遺跡・大蔵遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第200集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- ナ 長澤展生ほか 2004 『能代川関係発掘調査報告書Ⅵ 中田遺跡』五泉市文化財報告(13) 五泉市教育委員会
- 名村威彦 2017 「環状瓶の製作技術とその系譜」『広島大学大学院文学研究科考古学研究室紀要』第9号 広島大学大学院文学研究科考古学研究室
- 名村威彦・野島 永・津牧伸吉 2017 「広島大学考古学研究室所蔵遺物の紹介 ―環状瓶と鳥形瓶―」『広島大学大学院文学研究科考古学研究室紀要』第9号 広島大学大学院文学研究科考古学研究室
- 名村威彦 2020a 「古墳築造終焉後の環状瓶(上)」『京都府埋蔵文化財情報』第137号 (公財)京都府埋蔵文化財調査研究センター
- 名村威彦 2020b 「古墳築造終焉後の環状瓶(下)」『京都府埋蔵文化財情報』第138号 (公財)京都府埋蔵文化財調査研究センター
- 名和達朗・水戸弘美 1992 『山海窯跡群第2次 山楯7・8遺跡 山楯楯跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第172集 東北農政局 山形県教育委員会
- 新潟県寺院名鑑企画編集委員会編 1983 『新潟県寺院名鑑』新潟県寺院名鑑刊行会
- 新潟市 2007 『新 新潟歴史双書2 新潟市の遺跡』(株)文久堂
- 新潟市 2011 『新 新潟歴史双書6 新潟砂丘』(株)文久堂
- 新潟市合併町村史編集室 1986 『新潟市合併町村の歴史 中蒲原郡から合併した町村の歴史(下) ―鳥屋野・石山・曾野木・両川・大江山―』第4巻 新潟市合併町村史編集室
- 新潟市教育委員会 1987 『大江山地区の遺跡』新潟市文化財調査報告書
- 新潟市文化財センター 2021 「新潟県新潟市 曾我墓所遺跡」『文化財発掘出土情報2021.4』第479号 (株)ジャパン通信情報センター
- 新潟市文化財センター 2023 『2023年度 新潟市文化財センター 企画展1 展示解説パンフレット 新たに探る新潟市の遺跡 ―縄文時代の平遺跡と古代の岡崎・道正遺跡―』
- 日光二荒山神社 1963 『日光男体山 山頂遺跡発掘調査報告書』角川書店
- 日本考古学協会新潟大会実行委員会 1993 『東日本における古墳出現過程の再検討』
- 野尻 侃・佐藤義春 1996 『北目長田遺跡・榎待遺跡第2次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター報告書第31集 (財)山形県埋蔵文化財センター

- 野水晃子ほか 2003 『能代川関係発掘調査報告書Ⅰ 新保北遺跡』 五泉市教育委員会
- 野村忠司ほか 2009 『子安遺跡』 上越市教育委員会
- ハ 秦 繁治 1993 『古町 B 遺跡発掘調査報告書』 吉川町教育委員会
- 原 明芳 1996 「信濃の鉄鐸」『信州の人と鉄』 信濃毎日新聞社
- 兵庫県教育委員会 1994 『ひょうごの遺跡』 兵庫県埋蔵文化財情報 14 号
- 広沢 康・中川浩宣 2000 「中世の横越」『横越町史』資料編 横越町史編さん室・横越町
- 廣野耕造 1997 『笹山前遺跡・神明社裏遺跡・城山遺跡』 新潟市教育委員会
- 廣野構造・朝岡政康 1999 『大淵遺跡 宅地開発事業に伴う発掘調査報告書』 新潟市教育委員会
- 福田仁史 1999 「第 5 章 第 6 節 第 8 項 越後沢海藩主溝口政勝の墓」『新潟県の考古学』 新潟県考古学会
- 文化庁文化財部記念物課 2010 「第 VI 章 遺構の記録」『発掘調査のてびき - 集落遺跡発掘編 -』
- 帆刈喜久男 2000 「近世の横越」『横越町史』資料編 横越町史編さん室・横越町
- 帆刈喜久男 2003 「第四章 文化 第一節 第一項 横越の寺院」『横越町史』通史編 横越町史編さん室・横越町
- マ 丸山一昭 2019 「第 5 章 古代 第 2 節 土器・木製容器 第 4 項 島崎川・西川流域」『新潟県の考古学Ⅲ』 新潟県考古学会
- 水澤幸一 2011 「古式錫杖考 - 日光男体山山頂遺跡出土錫杖の位置付けをめぐる -」『経塚考古学論攷』 岩田書院
- 水戸部秀樹ほか 2015 『西谷地 b 遺跡 第 1・2 次発掘調査報告書』 (公財) 山形県埋蔵文化財センター
- 南 憲一 2003 「近世 第一章 第一節 新発田領の成立と村々」『横越町史』通史編 横越町史編さん室・横越町
- 南 憲一 2003 「近世 第三章 第三節 第一項 街道と継所」『横越町史』通史編 横越町史編さん室・横越町
- 宮城県多賀城跡調査研究所 1989 『東山遺跡Ⅱ』多賀城関連遺跡発掘調査報告書第 13 冊 宮城県文化財保護協会
- 宮城県東松島市教育委員会 2010 『矢本横穴墓群Ⅱ - 飛鳥・奈良時代における牡鹿地方の墓 -』 東松島市文化財調査報告書第 7 集
- 三宅敏之 1963 「第四章 遺物 3 錫杖頭 附仏像形杖頭」『日光男体山 山頂遺跡発掘調査報告書』 角川書店
- 宮本長二郎 1996 『日本原始の住居建築』 中央公論美術出版
- 宮本長二郎 2002 「古代末から中世の住居建築」『秋田県埋蔵文化財センター研究紀要』第 16 号 秋田県埋蔵文化財センター
- 望月精司 1997 「第 4 章 古代 第 4 節 特殊土製品」『石川県考古資料調査・集成事業報告書 祭祀具Ⅱ』 石川考古学研究会
- 望月精司 1998 『額見町遺跡 (額見町遺跡 A 地区) 串・額見地区土地区画整理事業関連埋蔵文化財発掘調査概要報告書 - 1 -』 石川県小松市教育委員会
- 望月精司・大橋由美子 1999 『額見町遺跡 (額見町遺跡 B 地区) 串・額見地区土地区画整理事業関連埋蔵文化財発掘調査概要報告書 - 2 -』 石川県小松市教育委員会
- 望月精司 2002 『二ツ梨一貫山窯跡 - 日本自動車博物館建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 -』 小松市教育委員会
- 望月精司ほか 2006 『額見町遺跡Ⅰ (A・D 地区の調査) - 串・額見地区産業団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 1 -』 小松市教育委員会
- 望月精司ほか 2007 『額見町遺跡Ⅱ (B 地区及び C 地区一部区域の調査) - 串・額見地区産業団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 2 -』 小松市教育委員会
- 望月精司ほか 2011 『額見町遺跡Ⅵ (製鉄・鍛冶関連遺物の報告)』 小松市教育委員会
- 森内秀造・深江英憲 1999 『兵庫県加古川市所在 白沢 3・5 号窯 - 山陽自動車道関係埋蔵文化財調査報告 XXIX -』 兵庫県文化財調査報告第 184 冊 兵庫県教育委員会
- 森 正 1990 「阿婆田窯跡群の発掘調査」『京都府埋蔵文化財情報』第 36 号 (財) 京都府埋蔵文化財調査研究センター
- 森 正 1991 「(1) 阿婆田窯跡群」『京都府遺跡調査概報』第 44 冊 (財) 京都府埋蔵文化財調査研究センター
- ヤ 柳内壽彦 1995 「鳥形須恵器 - 大戸窯跡群の表面採集遺物より -」『会津地域史研究ノート』
- 山賀和也ほか 2016 『上条遺跡 上条高畑土地区画整理事業及び医療法人立川メディカルセンター建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』 新潟県長岡市教育委員会
- 山賀和也ほか 2018 『岩野原窯跡 - 国営越後丘陵公園園路整備事業に伴う確認調査報告書 -』 新潟県長岡市教育委員会
- 山崎忠良 2005 『東原町遺跡 下沖北遺跡 23』新潟県埋蔵文化財調査報告書第 140 集 新潟県教育委員会・(財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 山崎忠良 2017 「新潟県の古代の竪穴建物について」『三面川流域の考古学』第 15 号 奥三面を考える会

- 山崎忠良 2019 「第5章 古代 第3節 集落 第2項 建物跡」『新潟県の考古学Ⅲ』新潟県考古学会
- 山本 肇ほか 1985 『金屋遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第37 新潟県教育委員会
- 横越町 2000 『横越町史』資料編 横越町史編さん室・横越町
- 横越町 2003 『横越町史』通史編 横越町史編さん室・横越町
- 吉井雅勇 1993 『坂町宮ノ腰 B 遺跡 カントリーエレベーター建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』荒川町埋蔵文化財発掘調査報告第1集 新潟県荒川町教育委員会
- 吉井雅勇 2000 『坂町宮ノ腰 D 遺跡 公共下水道最終処理施設建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』荒川町埋蔵文化財発掘調査報告第6集 新潟県荒川町教育委員会
- 吉井雅勇 2001 『田島遺跡 県営圃場整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ』荒川町埋蔵文化財発掘調査報告第7集 新潟県荒川町教育委員会
- 吉井雅勇 2003 『田屋遺跡・坂町宮ノ腰 C 遺跡 町道西大通線建設および県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ』荒川町埋蔵文化財発掘調査報告第10集 新潟県荒川町教育委員会
- 吉井雅勇 2007 「荒川町道端遺跡出土の楕円礫について ―古墳時代中後期の編物石錘の出土例―」『新潟考古学談話会会報』第33号 新潟考古学談話会
- 吉岡康暢 1994 『中世須恵器の研究』吉川弘文館
- 吉川俊久 2008 『三和中部第1地区ほ場整備事業地内発掘調査報告書 越中田遺跡・十二浦遺跡』上越市教育委員会
- 吉田江美子 2004 「鳥形須恵器について」『山形考古』第7巻第4号 山形考古学会
- 吉田博行ほか 2014 『花畑遺跡 会津坂下町内遺跡発掘調査報告書Ⅵ』福島県河沼郡会津坂下町教育委員会
- ワ 渡邊朋和ほか 1998 『金津丘陵製鉄遺跡群発掘調査報告書Ⅲ(分析・考察編)』新津市教育委員会
- 渡邊朋和 1993 「新津市草水町(くそうずちょう)2丁目窯跡」『新潟県考古学会連絡紙』第18号 新潟県考古学会
- 渡邊裕之 2005 『台の上遺跡 峪ノ上遺跡 五反田遺跡3』新潟県埋蔵文化財調査報告書第138集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 渡辺 誠 1981a 「もじり編み用木製錘の考古資料について」『考古学雑誌』第66巻第4号 日本考古学会
- 渡辺 誠 1981b 「編み物用錘具としての自然石の研究」『名古屋大学文学部研究論集 LXXX』名古屋大学文学部
- 渡辺ますみ 1991 『荒木前遺跡』亀田町文化財調査報告書第3集 亀田町教育委員会
- 渡辺ますみほか 1994 『緒立 C 遺跡発掘調査報告書』黒崎町教育委員会
- 渡辺ますみほか 2009 『駒首湯遺跡 第3・4次調査 ―大型小売店舗建設に伴う駒首湯遺跡第3・4次発掘調査報告書―』新潟市教育委員会
- 渡辺ますみほか 2012 『四十石遺跡 第2次調査(仮称) 新赤塚埋立処分地整備工事に伴う四十石遺跡第2次発掘調査報告書』新潟市教育委員会・新潟市文化財センター
- 渡邊美穂子 2001 『坂ノ沢 C 遺跡Ⅱ(平安時代編) 県営広域営農団地農道整備事業(北蒲原東部地区) 関係 発掘調査報告書』新発田市埋蔵文化財調査報告第23-2 新潟県新発田市教育委員会
- 第Ⅵ章**
- ア 阿部 永 1994 『日本の哺乳類』東海大学出版会 195p
- イ 伊東隆夫 1995 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ」『木材研究・資料』31 京都大学木質科学研究所 pp.81-181
- 伊東隆夫 1996 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ」『木材研究・資料』32 京都大学木質科学研究所 pp.66-176
- 伊東隆夫 1997 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ」『木材研究・資料』33 京都大学木質科学研究所 pp.83-201
- 伊東隆夫 1998 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ」『木材研究・資料』34 京都大学木質科学研究所 pp.30-166
- 伊東隆夫 1999 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ」『木材研究・資料』35 京都大学木質科学研究所 pp.47-216
- 伊東隆夫・山田昌久 2012 「木の考古学」『出土木製品用材データベース』海青社 444p
- カ 春日真実 2008 「越後における古墳時代～中世の柱材について」『新潟考古』19 新潟県考古学会 pp.43-74
- 金子清俊・谷口博一 1987 「線形動物・扁形動物」『新版臨床検査講座8 医動物学』医歯薬出版 pp.9-55
- 金原正明 1993 「花粉分析法による古環境復原」『新版古代の日本第10巻 古代資料研究の方法』木下正史編 角川書店 pp.248-262
- 金原正明 1999 「寄生虫」『考古学と自然科学2 考古学と動物学』同成社 pp.151-158
- 金原正明・金原正子 1992 「花粉分析および寄生虫」『藤原京跡の便所遺構―藤原京7条1坊―』奈良国立文化財研究所 pp.14-15
- 金原正明・金原正子 1993 「石棺内の花粉分析および消化管内残渣の分析」『斑鳩藤ノ木古墳第二・三次調査報告書』奈良県立橿原考古学研究所 pp.18-26

- 金原正明・福富恵津子・金原正子 2005 『糞石の基礎的研究』 日本文化財科学会 第22回 pp.118-119
- 金原正明・金原正子・松井章 2012 「寛永寺徳川将軍親族遺体に由来する環境考古学的分析」『東叡山寛永寺徳川将軍家御裏方霊廟第三分冊』寛永寺谷中徳川家近世墓所調査団編 吉川弘文館 pp.428-440
- 金原正明・金原正子 2013 「植生と農耕における土壌層分析の実証的研究」『日本文化財科学会第30回大会研究発表会要旨集』 pp.112-113
- 金原正明・金原正子 2015 「堆積物と植物遺体の総合的研究」『日本文化財科学会第32回大会研究発表会要旨集』 pp.146-147
- シ 島倉巳三郎 1973 「日本植物の花粉形態」『大阪市立自然科学博物館収蔵目録』第5集 大阪市立自然科学博物館 60p
- 島地 謙・伊東隆夫 1982 『図説 木材組織』 地球社 176p
- ス 杉山真二 2000 「植物珪酸体（プラント・オパール）」『考古学と植物学』辻誠一郎編 同成社 pp.189-213
- 杉山真二 2009 「植物珪酸体と古生態」『縄文時代の考古学3 人と植物の関わりあい④ 大地と森の中で—縄文時代の古生態系—』小杉康ほか編 同成社 pp.105-114
- 杉山真二 2017 「植物珪酸体分析による古環境推定—タケ亜科の植生変遷と気候および積雪量の変動—」『文化財学研究』2 文化財技術研究会編 pp.1-14
- 杉山真二・藤原宏志 1986 「機動細胞珪酸体の形態によるタケ亜科植物の同定—古環境推定の基礎資料として—」『考古学と自然科学』19 日本文化財科学会 pp.69-84
- 鈴木貞雄 1996 『タケ科植物の概説 日本タケ科植物図鑑』 聚海書林 pp.8-27
- ツ 辻誠一郎 1984 「栃木県南部、二ノ宮町における立川期の植物遺体群集」『第四紀研究』23 日本第四紀学会 pp.21-29
- ト 土質工学会編 1979 『土質試験法』 pp.2-5-1～2-5-23 pp.4-2-1～4-3-11
- ナ 中村 純 1967 『花粉分析』 古今書院 pp.82-102
- 中村 純 1974 「イネ科花粉について、とくにイネ (*Oryza sativa*) を中心として」『第四紀研究』13 日本第四紀学会 pp.187-193
- 中村 純 1977 「稲作とイネ花粉」『考古学と自然科学』10 日本文化財科学会 pp.21-30
- 中村 純 1980 「日本産花粉の標徴」『大阪自然史博物館収蔵目録』第13集 91p
- 中村俊夫 2000 「放射性炭素年代測定法の基礎」『日本先史時代の¹⁴C年代』日本先史時代の¹⁴C年代編集委員会編 日本第四紀学会 pp.3-20
- 中村俊夫 2003 「放射性炭素年代測定法と暦年代較正」『環境考古学マニュアル』 同成社 pp.301-322
- ハ 林 昭三 1991 「日本産木材」『顕微鏡写真集』 京都大学木質科学研究所
- フ 藤原宏志 1976 「プラント・オパール分析法の基礎的研究(1) —数種イネ科植物の珪酸体標本と定量分析法—」『考古学と自然科学』9 pp.15-29
- 藤原宏志・杉山真二 1984 「プラント・オパール分析法の基礎的研究(5) —プラント・オパール分析による水田址の探査—」『考古学と自然科学』17 pp.73-85
- マ 松井 章 2008 『動物考古学』 京都大学学術出版会 312p
- 松井 章・西本豊弘 1999 『考古学と動物学』 同成社 210p
- △ 室井 緯 1960 「竹笹の生態を中心とした分布」『富士竹類植物園報告』5 富士竹類植物園 pp.103-121
- B Bronk Ramsey, C. et al. 2001 'Wiggle matching' radiocarbon dates, *Radiocarbon*, 43 (2A) pp.381-389
- Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian Analysis of Radiocarbon dates, *Radiocarbon*, 51 (1), pp.337-360
- P Peter J.Warnock and Karl J.Reinhard 1992 Methods for Extraxting Pollen and Parasite Eggs from Latrine Soils.*Jounal of Archaeological Science*, 19, pp.231-245
- R Reimer, P.J. et al. 2020 The IntCal20 Northern Hemisphere Radiocarbon Age Calibration Curve (0-55cal kBP) *Radiocarbon*, 62 (4), pp.725-757
- Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E. (編) 2006 『針葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト』伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部 久・内海泰弘(日本語版監修) 海青社 70p
- [Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E. (2004) *IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification*]
- S Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion : Reporting of ¹⁴C data *Radiocarbon*, 19 (3) pp.355-363
- W Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E. (編) 1998 『広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト』伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩(日本語版監修) 海青社 122p
- [Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E. (1989) *IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification*]

別表1 遺構計測表

凡 例
 (1) 遺構名 縮略表の記載順は、SI→SB→SE→SK→樑柱→SS→SD→Pの順で、その番号順である。あわせて分期図版No.・個別図版No.・写真図版No.を明記し、索引としての役割をもたせてある。
 (2) 時代 遺構の帰属する時代は大きな区分に基づいた。遺構の分期及び項目・切り合い関係などは、本文IV章の記述に対応する。
 (3) 主軸方向 掘立柱建物、溝状遺構など、必要と思われるもののみ明示した。
 (4) 規模 上端・下端について計測した。溝状遺構については長軸が長きで、短軸が短である。規模の() 内数値は残存部からの推定値である。
 (5) 形態 平面形は現存状況の良いものだけを示した。断面形はセクション上の形状を基本とした。
 (6) 切り合い関係 分ける範囲で切り合う遺構名を記載した。重複関係の表示は、本遺構が切る遺構を(△)、本遺構が切られる遺構を(△)とした(新>古)。

古代遺構計測表

図版No.	写真図版No.	遺構	グリット	時代	主軸方向	規模 (m)				底面座標 (m)	形態		重複関係	遺物の有無	遺物図版No.	備考	
						長軸	短軸	長軸	短軸		平面	断面					分類
16・23・41・63	8・9	SI65	17AQ3・5・8・10・13・15・18・20・23・25, 17AR1・6・7・11・12・16・17・21・22	古代 IV	N-1・W	7.73	(6.88)	7.54	(6.72)	0.13~0.31	方形	凹形	1	>P488・489, <SB828・SD357・P287・360・366・372・376・383・442・450・452, SD388, SK281・444, SX64・283	○ 73・74・112・117		
15・23		SI65・竊土817	17AQ5	古代 IV	N-1・W	0.73	0.44	0.56	0.36	0.04	不定形	—	2		○	SI65カマド	
9		SI103	17AN25, 17AO21・22, 18AN4・5・9・10・14・15・20, 18AO1・3・6・8・11・13・16・17	古代 IV	N-30・W	6.98	6.70	6.58	6.48	0.24	方形	台形	2	>SI108, SI108-P203	○ 74	SI103カマド	
		SI103・竊土114	17AN25, 17AO21, 18AN5, 18AO1	古代 IV	N-10・E	(2.00)	1.84	(1.78)	1.48	0.16	方形	凹形	4		○ 74	SI103カマド	
15・24	9・10	SI108	18AO2・4・8・10・12~15・17~20・22~24, 19AO2~4	古代 IV	N-S	8.72	6.01	8.46	5.88	0.22~0.28	長方形	台形	2	<SI103, SB252・SD468	○ 74・112・114		
		SI108・竊土211	18AO3・4・8・9	古代 IV	N-7・E	2.05	1.44	1.60	0.92	0.31	楕円形	凹形	2		○ 74	SI108カマド	
		SI108-P123	18AO22・23	古代 IV	—	0.54	0.48	0.26	0.24	0.23	凹形	凹形	1		○		
		SI108-P200	18AO24	古代 IV	—	0.44	0.28	0.22	0.14	0.30	楕円形	台形	2		○		
		SI108-P203	18AO8・13	古代 IV	—	0.85	(0.83)	0.59	0.61	0.27	凹形	台形	2	<SI103	○		
		SI108-P204	18AO9・14	古代 IV	—	(0.82)	0.62	(0.42)	0.34	0.32	楕円形	凹形	3		○		
		SI181	18AQ3・4・7~20, 22~24, 18AR6・11	古代 IVb	N-39・E	8.43	(6.20)	8.24	(6.02)	0.30~0.40	長方形	台形	2	<SX249・250, P199	○ 75		
		SI181・竊土830	18AQ10, 18AR6	古代 IVb	—	—	—	—	—	0.21	—	—	7		○ 75		
16・25	10・11	SI181-P81	18AQ8・9・13・14	古代 IVb	—	1.96	1.40	0.80	(0.54)	0.29	楕円形	凹形	1		○ 75		
		SI181-P188	18AQ24	古代 IVb	—	0.52	(0.42)	0.32	0.33	0.28	2.81	凹形	2		○		
		SI181-P189	18AQ20	古代 IVb	—	(0.42)	0.40	0.28	0.18	0.30	2.81	凹形	2				
		SI181-P198	18AQ17	古代 IVb	—	(0.40)	(0.36)	(0.20)	(0.18)	0.34	2.92	凹形	1				
15・16・26・40	11・12	SI207	17AP18・19・22~25, 18AP1~10・12~15・18・19	古代 IV	N-13・E	7.12	6.70	6.86	6.50	0.22~0.34	方形	凹形	3	<SB251・SK68・106・SX130・P101・273, SB252・SD468・P140・169・191・216・257・270・276・458, SB829・P187・197, SK215・242	○ 75		
15・16・26	11・12	SI207・竊土823	17AP18・19・23・24	古代 IV	—	—	0.32	—	0.20	0.08	3.22	—	5		○	SI207カマド	
19・24	12	SI243	20AL24・25, 21AL4・5・9・10, 21AM1・6	古代 IV	N-66・W	4.92	3.12	4.62	2.94	0.15	2.52	長方形	凹形	2	<SK455・460, SD420	○ 75~77・112~115	
12・16・27	12~14	SI451	17AP3・5・8~10・13~15・18~20, 17AQ6・11	古代 IV	—	—	6.12	—	5.84	0.16~0.40	2.92~3.08	不定形	台形	2		○	
		SI451・竊土820	17AP13・14	古代 IV	N-75・W	0.87	0.46	0.54	0.39	0.10	3.17	不定形	凹形	5		○	SI451カマド
		SI451-SK821	17AP13・14・18・19	古代 IV	N-15・E	1.48	1.28	1.31	0.98	0.10	3.00	方形	凹形	1		○	
		SI453	17AO5・10・15~20, 17AP1~3・6~8・11~13・16~18	古代 IV	N-80・W	6.49	5.71	6.30	5.36	0.16~0.22	3.16	方形	凹形	1	>P597・598	○ 77	
12・15・27	14・15・49	SI453・竊土822	17AQ10	古代 IV	N-82・W	0.87	(0.55)	0.71	(0.43)	0.08	3.27	不定形	凹形	3		○	SI453カマド
		SI453-P461	17AP12	古代 IV	—	1.10	0.83	0.77	0.49	0.23	3.02	楕円形	凹形	1		○	
		SI453-P465	17AP7・8	古代 IV	—	1.10	0.90	0.80	0.56	0.11	3.13	楕円形	凹形	1		○	
		SI453-P471	17AO15, 17AP11	古代 IV	—	1.07	1.05	0.87	0.84	0.04	3.16	凹形	1		○		
		SI453-P475	17AO5・10, 17AP1・6	古代 IV	—	0.74	(0.70)	0.44	(0.38)	0.12	3.21	凹形	1		○		
		SI608	15AO4・9・10・14・15	古代 IV	—	—	2.72	—	2.20	0.48	2.93	—	9		○ 115		
12・26	15	SI608-P622	15AO9	古代 IV	—	0.45	0.35	0.22	0.16	0.20	2.75	楕円形	凹形	2		○	
		SI608-P773	15AO9	古代 IV	—	0.34	0.29	0.15	0.13	0.25	2.68	楕円形	凹形	1		○	
		SI608-P774	15AQ10	古代 IV	—	0.37	0.35	0.14	0.10	0.26	2.70	凹形	凹形	2		○	
		SB251	18AP, 19AP	古代 IV	N-47・W	7.18	4.72	—	—	—	—	長方形	凹形	1		○	3間×2間
		SB251-P95	18AP24・25	古代 IV	—	(0.54)	(0.51)	0.32	(0.30)	0.30	2.98	凹形	台形	—		○	
		SB251-P101	18AP13	古代 IV	—	—	0.70	(0.16)	(0.09)	0.52	2.79	凹形	凹形	2	>SI207	○	
		SB251-P149	18AP24, 19AP4	古代 IV	—	(0.53)	(0.44)	(0.12)	(0.10)	0.57	2.42	楕円形	凹形	3	>SX135	○ 77	
		SB251-P152	19AP3・8	古代 IV	—	0.74	(0.70)	0.35	0.34	0.66	2.50	凹形	台形	2		○ 118	
		SB251-P176	19AP2	古代 IV	—	0.40	0.31	0.11	0.10	0.37	2.51	楕円形	凹形	3	<SK166	○ 118	
15・16・28	15~17	SB251-P178	18AP21	古代 IV	—	—	(0.60)	0.19	0.20	0.89	2.21	楕円形	凹形	3		○	
		SB251-P256	18AP19	古代 IV	—	(0.60)	(0.49)	(0.39)	(0.35)	0.26	2.63	凹形	台形	2	>SK75, P254	○	
		SB251-P273	18AP7	古代 IV	—	—	(0.66)	(0.27)	(0.14)	0.76	2.25	凹形	凹形	3	>SI207, <P210	○ 118	
		SB251-SK106	18AP8・13・14	古代 IV	N-32・W	2.66	1.58	(2.22)	1.18	0.30	3.01	不定形	凹形	3	>SI207, SB252・P169, P185, <P219	○ 77	
		SB251-SX130	18AP14・19・20	古代 IV	N-60・W	(1.07)	0.75	(0.84)	0.44	0.19	2.99	楕円形	凹形	2		○ 77	
		SB251-SX134	19AP2・3・7・8	古代 IV	—	—	0.81	—	—	0.41	0.30	2.94	—	凹形	1	>SI207	○
		SB251-SX153	18AP21, 19AP1・2	古代 IV	N-54・W	1.59	0.61	1.43	0.38	0.10	3.08	楕円形	凹形	1		○	
		SB251-SX153	18AP21, 19AP1・2	古代 IV	N-54・W	(1.63)	0.72	(1.40)	0.44	0.17	3.07	溝	凹形	3		○ 77	

図版No.	写真図版 No.	遺構	グリット	時代	確認面	主軸方向	規模 (m)				深度	底面深 (m)	形態		重複関係	遺物の有無	遺物図版No.	備考	
							上端	下端	長軸	短軸			断面	分層					
15・16・29・30	17~20	SB252	17AP, 18AO, 18AP, 18AQ	古代 IV	N-48°-W	6.94	4.70	—	—	—	—	2.56	長方形	3	>SI207, P186	○		3間×2間	
		SB252-P140	18AP13・18	古代 IV	—	0.78	0.78	—	—	—	—	0.60	凹形	1	>SI207, <SB251-SK68	○			
		SB252-P169	18AP14	古代 IV	—	(0.58)	(0.24)	0.43	0.26	0.43	0.26	0.30	2.90	楕円形	1		○		
		SB252-P172	18AP19	古代 IV	—	0.68	0.64	0.18	0.14	0.54	0.54	0.47	2.76	凹形	2		○		
		SB252-P179	18AP15	古代 IV	—	—	(0.50)	0.20	0.18	0.47	0.73	2.45	楕円形	2	>SI207	○	77		
		SB252-P191	18AP12	古代 IV	—	0.91	(0.64)	0.30	(0.30)	—	—	0.66	2.58	楕円形	2	<P194	○		
		SB252-P202	18AP10・15, 18AQ6	古代 IV	—	—	—	—	—	—	—	0.66	2.58	楕円形	2	>SI207	○		
		SB252-P216	18AP4	古代 IV	—	0.69	0.56	0.47	0.40	0.45	0.45	2.73	楕円形	3	>SI207	○			
		SB252-P257	18AP10	古代 IV	—	(0.50)	(0.24)	0.33	0.27	0.33	0.33	2.78	楕円形	2	>SI207	○			
		SB252-P270	18AP2	古代 IV	—	0.68	0.54	0.33	0.27	0.33	0.33	2.71	楕円形	2	>SI207	○			
		SB252-P276	18AP8	古代 IV	—	0.50	(0.43)	0.20	(0.15)	0.34	0.34	2.71	楕円形	2	>SI207	○			
		SB252-P458	17AP23	古代 IV	—	0.52	0.41	0.25	0.22	0.14	0.22	2.74	楕円形	2		○			
		SB252-SK71	18AP17・18	古代 IV	N-54°-W	1.30	0.50	1.02	0.24	0.20	0.20	3.07	楕円形	1		○			
		SB252-SK76	18AP12・17	古代 IV	N-54°-W	0.94	0.44	0.80	0.22	0.09	0.09	3.09	楕円形	1		○			
		SB252-SK132	18AP12	古代 IV	—	(0.41)	(0.42)	0.11	(0.18)	0.11	0.11	3.16	楕円形	2		○	77		
SB252-SK136	18AP18・19・23・24	古代 IV	N-68°-W	1.14	0.60	0.82	0.30	0.15	0.15	3.03	楕円形	1		○	77				
SB252-SK137	18AP18	古代 IV	N-51°-W	0.72	0.36	0.62	0.24	0.12	0.12	3.03	楕円形	1		○					
SB252-SD468	17AQ25, 17API7・18・21~23, 18AO5・9・10, 18AP1	古代 IV	—	—	0.62~1.74	—	—	0.40~1.28	0.20	2.98~3.07	—	凹形	1	>SI108・207	○	77	2間×2間 (二面削付)		
16・31・33	20~22	SB828	17AQ, 17AR	古代 IV	N-55°-W	6.64	5.06	—	—	—	—	—	長方形	—		○			
		SB828-P286	17AR7・12	古代 IV	—	0.50	0.47	0.17	0.17	0.30	0.30	3.09	凹形	1		○			
		SB828-P287	17AR11・12	古代 IV	—	(0.56)	(0.35)	(0.21)	(0.06)	0.24	3.10	楕円形	1	>SI65	○				
		SB828-P326	17AQ4	古代 IV	—	0.32	0.32	0.18	0.16	0.09	0.09	3.57	凹形	2		○			
		SB828-P328	17AQ6	古代 IV	—	0.31	0.28	0.18	0.16	0.05	0.05	3.60	凹形	1		○			
		SB828-P360	17AR16	古代 IV	—	(0.47)	(0.46)	(0.21)	(0.20)	0.48	2.86	凹形	1	>SI65	○	77			
		SB828-P366	17AR16	古代 IV	—	0.34	0.34	0.10	0.09	0.42	2.91	凹形	1	>SI65	○	77			
		SB828-P372	17AQ9・14	古代 IV	—	(0.52)	0.48	(0.20)	0.14	0.31	3.10	凹形	1	>SI65	○				
		SB828-P376	17AQ9・10	古代 IV	—	0.37	0.35	0.15	0.15	0.06	0.06	3.44	凹形	1	>SI65	○	77		
		SB828-P383	17AQ14	古代 IV	—	0.44	0.34	0.21	0.19	0.40	2.92	楕円形	3	>SI65	○				
		SB828-P384	17AQ5	古代 IV	—	0.40	0.38	0.24	0.14	0.10	0.10	3.41	凹形	1		○			
		SB828-P435	17AQ13	古代 IV	—	0.31	0.27	0.18	0.15	0.48	2.73	凹形	3	<SK350, SX64	○				
		SB828-P442	17AQ8	古代 IV	—	0.26	0.26	0.08	0.08	0.12	3.22	凹形	1	>SI65, <SX64, SX64-樫+R16	○				
		SB828-P450	17AQ20	古代 IV	—	0.52	0.50	0.19	0.19	0.32	2.96	凹形	1	>SI65	○	77			
		SB828-P452	17AR6・11	古代 IV	—	(0.51)	(0.41)	(0.29)	(0.29)	0.33	2.73	楕円形	1		○	77			
SB828-SD357	17AQ13・14・18~20・24・25, 17AR8・12・13・16・17・21	古代 IV	—	—	1.10~1.46	—	—	0.88~1.06	0.15	3.16	—	凹形	1	>SI65, SK445, P347, <SE388, SX283, P362	○	77・116	3間×2間		
15・16・32	22・23	SB829	18AP, 19AP	古代 IV	N-50°-W	5.04	4.04	—	—	—	—	—	長方形	—		○			
		SB829-P148	18AP24・25	古代 IV	—	0.46	(0.42)	0.28	(0.20)	0.50	2.72	凹形	2		○				
		SB829-P149	18AP24, 19AP4	古代 IV	—	(0.53)	(0.44)	(0.14)	(0.10)	0.57	2.42	楕円形	3	>SX135	○				
		SB829-P151	18AP23	古代 IV	—	0.62	0.42	0.48	0.23	0.10	3.05	楕円形	1		○				
		SB829-P156	18AP17・18	古代 IV	—	0.40	(0.24)	0.23	0.20	0.38	2.80	凹形	3		○				
		SB829-P159	18AP20	古代 IV	—	0.33	0.30	0.06	0.04	0.33	2.76	凹形	2		○	77			
		SB829-P160	18AP14・15・19・20	古代 IV	—	0.66	0.46	0.28	0.18	0.35	2.85	楕円形	2		○	112			
		SB829-P161	18AP17	古代 IV	—	0.32	0.30	0.08	0.06	0.42	2.79	凹形	4		○				
		SB829-P187	18AP8	古代 IV	—	(0.28)	(0.27)	(0.14)	(0.10)	0.26	2.74	凹形	3	>SI207	○				
		SB829-P197	18AP14	古代 IV	—	(0.22)	(0.21)	0.09	0.05	0.18	2.93	凹形	1	>SI207	○				
		SE278	17AQ22・23, 18AQ2・3	古代 IV	N-30°-E	2.47	1.48	—	—	1.94	1.41	楕円形	7	>SX63	○	78・115・117~120	○	78	
		SE388	17AQ13・14	古代 IV	N-63°-W	1.02	(0.96)	(0.71)	(0.52)	0.86	2.60	楕円形	2	>SI65, SB828-SD357, SK341, SX283	○	78			
		SK22	22AN13	古代 IV	N-87°-W	0.88	0.85	0.10	0.07	0.64	3.37	凹形	1		○				
		SK29	22AM25, 22AN21	古代 IV	N-30°-E	1.20	1.12	0.98	0.92	0.29	2.96	凹形	2		○	78			
		SK30	22AM24・25	古代 IV	—	—	1.25	—	1.04	0.17	3.00	—	凹形	2		○	78		
SK32	22AN17・18・22・23	古代 IV	N-81°-W	2.64	1.55	2.42	1.36	0.23	2.95	楕円形	2		○	78					
SK33	22AN17	古代 IV	N-67°-W	0.50	0.48	0.37	0.32	0.15	3.01	凹形	1		○						
SK34	21AO7・8・12・13	古代 IV	N-53°-E	1.32	0.95	0.96	0.64	0.19	3.03	楕円形	1		○						
SK36	21AO3・8	古代 IV	—	—	0.90	—	—	0.55	3.08	—	凹形	1	<SK26	○					
SK39	21AO12・17	古代 IV	N-39°-W	0.64	0.54	0.49	0.40	0.15	3.05	凹形	1		○						
SK41	21AO8・9	古代 IV	N-43°-W	1.23	1.16	0.95	0.94	0.17	3.10	凹形	2		○						
SK44	22AN13	古代 IV	N-82°-W	0.35	0.30	0.17	0.12	0.10	3.05	凹形	1		○						
SK45	22AO6・7	古代 IV	N-38°-E	1.02	(0.70)	0.74	(0.40)	0.16	3.01	楕円形	1		○						
SK46	20AN22・23, 21AN2・3	古代 IV	—	—	1.20	—	—	0.86	3.07	—	凹形	1		○					
SK48	21AO3・4	古代 IV	N-74°-E	1.32	(1.06)	0.96	(0.80)	0.23	3.01	凹形	1	<SK19	○	78					

図版No.	写真図版 No.	遺構	グリッド	時代	軸認面	規模 (m)				深度	底面座標 (m)	形態		重複関係	遺物の有無	遺物図版No.	備考
						主軸方向		上端				下端					
						長軸	短軸	長軸	短軸		平面	断面					
19-22-35	24	SK53	23AM18-19-23-24	古代 IV	N-42-E	1.62	1.44	1.30	1.08	0.21	3.07	凹形	1		○ 78		
19-35		SK57	22AK8-9	古代 IV	N-42-E	1.36	1.13	1.18	0.98	0.10	3.15	凹形	1				
19-35		SK58	22AK16-17-21-23,23AK2	古代 IV	N-50-W	3.14	2.04	2.92	1.62	0.36	2.93	楕円形	2				
22		SK59	24AL3-4-8-9	古代 IV	N-65-W	3.14	2.64	2.92	2.44	0.25	3.18	凹形	1				
22-35		SK60	24AL4-5	古代 IV	N-21-E	1.30	1.10	1.08	0.80	0.10	3.22	凹形	1				
22-35		SK61	24AL21-22,25AL1-2	古代 IV	N-39-E	0.72	0.60	0.32	0.20	0.22	3.09	凹形	1				
15-35	25	SK67	18AP17-22	古代 IV	N-42-E	1.04	0.44	0.86	0.30	0.28	3.18	楕円形	1			○ 112	
15-35		SK72	18AQ25,18AP21,19AO5,19AP1	古代 IV	-	-	1.60	-	1.20	0.40	2.97	-	2				
16-36	25	SK73	18AP23	古代 IV	N-62-E	1.21	0.54	1.03	0.32	0.09	3.28	楕円形	1	>SK147		○ 78	
15-36		SK74	19AP11-12,16-17	古代 IV	N-27-W	1.80	1.58	1.00	0.90	0.39	2.98	凹形	1	<SD251-P256		○ 78	
16-36		SK75	18AP14-19	古代 IV	N-25-W	0.62	0.54	0.24	0.18	0.39	2.94	凹形	1				
16-36		SK77	18AP9	古代 IV	N-50-W	0.72	0.48	0.43	0.28	0.34	2.94	楕円形	1			○ 112	
16-36		SK78	18AP3-4-8-9	古代 IV	N-50-W	0.52	0.51	0.35	0.28	0.28	3.06	凹形	1			○ 79	
16-36	25	SK79	19AP5-10,19AQ1-6,7,11-12	古代 IV	-	-	1.48	-	1.02	0.17	3.12	-	1			○ 79	
16-36		SK82	18AQ23,19AQ3	古代 IV	N-24-E	0.88	0.60	0.78	0.50	0.08	3.31	楕円形	1				
20-36		SK83	20AO10-15,20AP6-11	古代 IV	N-S	1.49	1.48	1.08	0.84	0.25	2.98	凹形	1				
20-36		SK84	20AO10-14-15	古代 IV	N-S	1.11	1.05	0.76	0.68	0.27	2.98	凹形	2				
20-35		SK85	20AP2-7	古代 IV	N-40-E	2.18	1.28	1.64	0.94	0.15	3.11	楕円形	1			○ 79	
16-36		SK86	19AP23	古代 IV	N-50-W	0.64	0.58	0.26	0.22	0.29	3.02	凹形	1			○ 79	
16-36		SK87	19AP10-15	古代 IV	N-40-E	0.76	0.70	0.38	0.36	0.11	3.02	凹形	1			○ 79	
15-36		SK88	19AP12	古代 IV	N-2-W	0.72	0.72	0.42	0.38	0.20	3.13	凹形	1			○ 79	
16-37		SK89	18AQ16	古代 IV	N-85-E	0.74	0.70	0.52	0.46	0.17	3.16	凹形	1			○ 79	
15-37		SK90	19AN10,19AQ1-2,6-7	古代 IV	N-48-E	3.56	-	3.42	-	0.12	3.13	不定形	1			○ 79	
15-37		SK91	19AQ7-12	古代 IV	-	-	0.94	-	0.56	0.16	3.06	-	1			○ 79	
15-37		SK92	19AN8-9,13-14	古代 IV	N-46-W	2.04	1.42	1.72	1.24	0.13	3.06	楕円形	1	>SK127			
15-37		SK93	18AN24-25,19AN4-5,9-10	古代 IV	N-51-W	3.16	2.58	2.74	2.32	0.14	3.05	楕円形	1	>SK116			
16-37		SK94	18AP5,18AQ1	古代 IV	N-90°	0.63	0.55	0.34	0.30	0.16	3.21	凹形	1				
16-37		SK102	18AP15,18AQ6-11,16	古代 IV	N-25-W	2.18	1.70	1.40	0.96	0.39	3.00	楕円形	2			○ 79	
16-37		SK104	18AP15	古代 IV	N-18-E	0.77	0.71	0.40	0.26	0.19	3.13	凹形	2			○ 79	
16-38	25-26	SK107	18AP3-8-9	古代 IV	N-82-E	1.02	0.75	0.84	0.54	0.11	3.07	楕円形	1			○ 79	
14-15-38		SK112	19AN1-2	古代 IV	N-41-E	0.42	0.24	0.26	0.14	0.06	3.11	楕円形	- 2			○ 79	
14-15-38		SK113	19AN2	古代 IV	N-51-W	0.30	0.25	0.12	0.10	0.11	3.01	凹形	1			○ 79	
15-38		SK116	19AN4	古代 IV	-	-	0.64	-	0.30	0.15	3.05	-	1	<SK93			
15-38		SK117	19AO16	古代 IV	-	-	0.58	-	0.48	0.11	3.14	-	1			○ 79	
15-38		SK118	19AO14-15	古代 IV	N-83-W	0.38	0.34	0.14	0.14	0.09	3.12	凹形	1			○ 79	
15-38		SK119	19AO3	古代 IV	-	-	1.80	-	1.28	0.13	3.03	-	1				
15-38		SK121	18AO2-7	古代 IV	N-76-W	1.10	0.78	0.45	0.32	0.17	2.94	楕円形	1			○ 79	
15-38		SK126	18AO6-7	古代 IV	N-50-E	0.79	0.63	0.45	0.24	0.12	2.93	楕円形	1			○ 79	
15-38		SK127	19AN8-9	古代 IV	-	-	0.58	-	0.40	0.12	3.11	-	1	>SK182,<SK92			
15-38		SK128	18AP16-17	古代 IV	N-76-W	0.68	0.53	0.48	0.32	0.17	3.17	楕円形	3			○ 112	
16-38	26	SK131	17AP24-25,18AP4-5	古代 IV	N-34-W	1.34	0.88	0.20	0.18	0.23	3.01	楕円形	1			○ 79	
15-38		SK138	19AP2	古代 IV	N-32-W	0.84	0.60	0.74	0.34	0.12	3.04	楕円形	1			○ 79	
16-39		SK139	18AP25,18AQ21,19AQ1	古代 IV	N-50-W	1.66	1.62	1.42	1.40	0.16	3.01	凹形	1			○ 79	
16-39		SK143	18AQ18-23	古代 IV	N-29-E	1.08	0.82	0.64	0.44	0.13	3.03	楕円形	1			○ 79	
16-39		SK144	18AQ17-18	古代 IV	N-69-E	0.70	0.58	0.32	0.22	0.16	3.01	凹形	1			○ 79	
16-39	26	SK145	18AQ18-19-23-24	古代 IV	N-84-W	0.68	0.42	0.54	0.26	0.06	3.15	楕円形	1			○ 79	
15-39		SK146	19AP16-17-21-22	古代 IV	N-48-W	1.30	1.04	0.84	0.58	0.12	3.09	楕円形	1			○ 79	
15-39		SK147	19AP16-17-21-22	古代 IV	N-8-E	1.80	0.98	1.42	0.74	0.15	3.05	楕円形	1	<SK74		○ 79	
16-39		SK163	18AQ12-13	古代 IV	N-5-E	0.72	0.66	0.37	0.34	0.23	3.05	凹形	1			○ 79	
16-39		SK164	18AQ17-18	古代 IV	N-90°	0.52	0.50	0.22	0.14	0.15	3.08	凹形	1			○ 79	
15-39		SK166	18AP21	古代 IV	N-27-W	0.50	0.48	0.30	0.20	0.30	2.80	凹形	2	>SB251-P178		○ 79	
15-39		SK182	19AN3-4-8-9	古代 IV	N-72-E	1.10	0.70	0.38	0.28	0.10	3.08	楕円形	3	<SK127		○ 79	
21-39		SK209	24AJ9-10	古代 IV	N-23-W	1.60	0.70	1.16	0.22	0.41	3.15	楕円形	1			○ 79	
16-26	11	SK215	17AP22-23	古代 IV	N-82-W	1.80	1.20	0.90	0.50	0.40	2.86	楕円形	1	>SI207,SK353		○ 79,115	
21-39	26	SK220	17AP17	古代 IV	N-1-E	1.52	1.33	1.16	1.06	0.11	3.16	凹形	2			○ 79	
21-39		SK228	24AJ11-12,16-17	古代 IV	N-65-E	1.94	0.90	1.75	0.68	0.09	3.19	楕円形	1			○ 80	
21-39		SK232	24AJ8-12,13	古代 IV	N-48-E	2.50	1.22	2.10	0.98	0.12	3.06	楕円形	1			○ 80	
21-40		SK235	24AK6	古代 IV	N-24-W	0.54	0.46	0.38	0.34	0.08	3.12	凹形	1			○ 80	
19-22-40		SK236	24AM18-23	古代 IV	N-23-E	1.42	1.32	1.06	1.00	0.24	2.96	凹形	1			○ 80	
22-40		SK237	24AM1-2	古代 IV	N-50-W	0.75	0.68	0.48	0.42	0.17	2.88	凹形	1			○ 80	
15-16-26-40,11		SK242	18AP2-3,7-8	古代 IV	N-74-W	1.40	0.78	1.20	0.54	0.31	2.89	楕円形	3	>SI207		○ 80	

図版No.	写真図版 No.	遺構	グリット	時代	確認面	主軸方向	規模 (m)				深度	底面深 (m)	形態		重複関係	遺物 の有無	遺物図版No.	備考
							長軸	短軸	長軸	短軸			平面	断面				
16-40		SK265	17AP23・24	古代 IV	—	—	—	—	—	0.32	2.94	—	U字形	2	—	—	—	
16-40		SK268	17AP23, 18AP3	古代 IV	N-10-E	0.64	0.63	0.29	0.25	0.27	2.87	—	凹形	2	—	—	—	
16-40		SK277	18AQ1・2	古代 IV	—	—	—	—	—	0.50	3.02	—	楕円形	1	—	—	—	
16-40		SK279	18AQ4	古代 IV	N-10-W	1.23	1.02	0.95	0.74	0.26	3.12	—	楕円形	2	—	—	—	
16-40		SK280	17AQ23・24, 18AQ3・4	古代 IV	N-80-W	1.50	1.25	1.32	0.96	0.16	3.22	—	楕円形	2	—	—	—	
16-41-42	27	SK281	17ARI・2・6・8・11~13	古代 IV	—	—	—	—	—	0.08~0.17	3.35	—	凹形	1	>SI65, <P289	○ 80	—	
16-42		SK282	17ARI・3・14・18・19・23・24	古代 IV	—	—	—	—	—	0.15	3.29	—	凹形	1	>SK285	○ 80	—	
16-42	27	SK285	17AR8・13・14・18	古代 IV	—	—	—	—	—	0.09	3.35	—	凹形	1	<SK282	○ 80	—	
16-40		SK290	18AR6・11	古代 IV	N-50-W	0.99	(0.95)	0.84	(0.76)	0.18	3.13	—	凹形	1	—	—	—	
16-40		SK292	18AQ2・3	古代 IV	N-50-W	1.27	(1.23)	1.06	(0.98)	0.10	3.25	—	凹形	1	—	—	—	
17-41		SK298	22AG13・14・18・19	古代 IV	N-56-W	2.19	1.33	1.66	0.86	0.24	2.92	—	楕円形	1	—	—	—	
17-41		SK333	22AG17・22・23	古代 IVa	N-31-W	(3.00)	(2.37)	—	—	—	3.08	—	凹形	3	—	—	—	
9-17・42		SK334	23AG3・8・9	古代 IVb	N-31-W	1.54	—	1.04	—	—	3.02	—	凹形	2	<SK335	○ 80	—	
9-17・42		SK335	23AG8・9・14	古代 IVa	N-30-W	1.54	—	0.98	—	0.14~0.34	3.01	—	凹形	2	>SK334	○ 80	—	
16-40	27	SK336	17AQ2・3・7・8	古代 IV	N-40-E	1.55	—	1.14	—	0.21	3.13	—	凹形	2	<SE388, SX283	○ 80・81	—	
16-43-63	28	SK341	17AQ8・9・13・14	古代 IV	N-90°	(1.89)	(1.25)	1.61	1.03	0.12~0.28	3.16	—	楕円形	1	—	—	—	
16-42		SK346	17AQ12・13	古代 IV	N-45-E	0.94	0.77	0.45	0.37	0.23	3.03	—	凹形	1	—	—	—	
16-43	28	SK350	17AP23・24, 18AP3	古代 IV	N-71-E	0.65	0.56	0.42	0.31	0.24	3.12	—	凹形	1	>SB828-P435	○ 81	—	
16-42	28・29	SK352	17AP23・24, 18AP3	古代 IV	N-82-W	—	—	—	—	0.27	2.90	—	箱形	3	—	—	—	
15-43		SK353	17AP22・23	古代 IV	—	—	—	—	—	0.60	2.26	2.90	楕円形	1	<SK215	○ 81	—	
16-43	29	SK356	16AQ24・25, 17AQ4・5	古代 IV	N-84-W	1.74	1.46	(1.20)	(1.00)	0.26	3.24	—	楕円形	1	—	—	—	
17-43	29	SK363	20AE15・20, 20AF11・16	古代 IVb	—	—	—	—	—	0.11	2.98	—	凹形	5	—	—	—	
15-43		SK395	18AP6	古代 IV	N-33-W	0.71	0.63	0.45	0.34	0.24	2.93	—	凹形	1	—	—	—	
16-27-43		SK400	17AQ12・13	古代 IV	—	—	—	—	—	(0.78)	—	—	凹形	1	—	—	—	
12-15-43		SK401	17AQ3・8	古代 IV	—	—	—	—	—	(0.84)	—	—	凹形	1	>SX283	○ 81	—	
11-13-44	5・29・30	SK413	16AM12	古代 IV	N-73-W	0.90	(0.68)	0.64	(0.50)	0.13	3.10	—	楕円形	1	—	—	—	
11-14-44	5・30	SK418	17AL19・20・24・25	古代 IV	N-79-W	2.30	2.12	2.16	1.96	0.06	3.11	—	凹形	1	—	—	—	
14-45	5・6・30~32	SK419	17AM21・22, 18AM1・2・6・7	古代 IV	N-10-W	3.28	—	2.97	—	0.15	3.10	—	不定形	2	<SX486	○ 82~84・109・111・116	—	
16-44		SK422	16AP10, 16AQ6	古代 IV	—	—	—	—	—	(1.46)	—	—	凹形	1	<SX407	○ 85	—	
16-23-46		SK443	17AQ5・10, 17ARI・6	古代 IV	N-50-W	(2.30)	(1.83)	(1.50)	1.47	0.31	3.14	—	楕円形	1	>SK444, 棟上446	○ 114	—	
16-23-46		SK444	17AQ10・15, 17AR6・11	古代 IV	N-74-W	(2.04)	(1.36)	(1.18)	0.22	3.20	3.07	—	方形	1	>SI65, P449, <SK443	○ 84・117	—	
16-44		SK445	17ARI6・21	古代 IV	N-85-W	(1.00)	(0.78)	0.42	(0.40)	0.20	3.07	—	楕円形	1	<SB828-SD357	○ 86	—	
12-16-27-46	12・14・32	SK455	17AP14・15・19・20	古代 IV	N-55-W	2.20	2.08	1.80	1.78	0.11~0.26	2.91	—	凹形	1	>SI451	○ 85・115	—	
15-44		SK457	18AP6	古代 IV	—	—	—	—	—	0.31	2.89	—	凹形	1	—	—	—	
16-27	13・14・32	SK460	17AP15, 17AQ11	古代 IV	N-50-W	(1.60)	0.98	1.05	0.64	0.34	2.85	—	不定形	1	>SI451	○ 85	—	
12-16-44		SK462	17AP18	古代 IV	N-50-W	1.05	—	0.80	—	0.19	2.92	—	凹形	1	<SD397	○ 85	—	
15-47		SK466	17AQ17~19・22~24, 18AQ2~4・8	古代 IV	N-5-E	(4.86)	4.44	(4.47)	3.68	0.40	2.74	—	凹形	1	—	—	—	
12-15-44		SK470	17AQ12・13・17・18	古代 IV	N-33-W	(1.58)	1.40	0.86	0.83	0.29	2.84	—	凹形	1	—	—	—	
12-15-46	32	SK472	16AP16・17・21・22	古代 IV	N-4-E	1.54	(1.38)	(1.24)	1.04	0.29	2.98	—	凹形	1	—	—	—	
18-21-44		SK479	23AH23・24	古代 IV	N-56-E	1.06	0.99	0.73	0.61	0.13	3.19	—	凹形	1	—	—	—	
14-48	5・32・33	SK488	17AL22~24, 18AL2~4	古代 IV	N-14-E	3.29	2.75	2.49	2.10	0.28	2.90	—	凹形	3	—	—	—	
21-46		SK494	24AH3・4・9	古代 IV	N-61-E	(1.08)	0.87	(0.88)	0.67	0.08	3.26	—	楕円形	1	—	—	—	
21-46		SK495	24AH4	古代 IV	N-27-W	0.70	0.62	0.38	0.29	0.15	3.18	—	凹形	1	—	—	—	
21-46		SK496	23AH23, 24AH3	古代 IV	N-31-W	1.02	(0.71)	0.78	(0.53)	0.07	3.30	—	楕円形	1	—	—	—	
18-46		SK497	23AH13・14・18・19	古代 IV	N-47-E	1.27	1.01	0.99	0.65	0.16	3.10	—	楕円形	1	—	—	—	
11-14-46	33	SK499	17AM11	古代 IV	N-14-E	1.27	0.86	0.98	0.60	0.09	3.16	—	楕円形	1	—	—	—	
21-46		SK501	24AH14・15・19・20	古代 IV	N-4-W	1.56	1.28	1.24	(0.98)	0.12	3.22	—	楕円形	1	—	—	—	
17-47-50		SK502	22AH6・11	古代 IV	N-35-W	1.17	1.02	0.98	0.75	0.11	3.01	—	凹形	2	>SK546	○ 88	—	
17-46		SK508	23AH18	古代 IV	N-31-W	1.37	1.29	1.12	1.10	0.10	3.21	—	凹形	1	—	—	—	
17-47	59	SK511	22AH1・2	古代 IV	N-72-E	(0.76)	(0.74)	(0.44)	(0.36)	0.22	2.95	—	凹形	1	>SD525, <SX476	○ 88	—	
17-47		SK516	22AG25	古代 IV	N-35-W	(0.75)	(0.72)	(0.50)	(0.40)	0.20	2.76	—	凹形	1	—	—	—	
17-46		SK526	23AH7	古代 IV	N-31-W	0.51	0.47	0.25	0.15	0.25	2.85	—	凹形	1	—	—	—	
17-47		SK529	22AH21, 23AG5, 23AH1	古代 IV	N-30-E	(1.92)	—	(1.44)	—	0.27	2.84	—	凹形	1	<SK530	○ 88	—	
17-47		SK530	22AG25, 22AH21, 23AG5, 23AH1	古代 IV	N-10-E	1.35	1.09	0.74	0.55	0.31	2.83	—	不定形	2	>SK529	○ 88	—	
17-49	34	SK532	22AH11・12・16~18・21~23	古代 IV	N-74-W	4.04	2.67	3.84	2.40	0.22	3.00	—	楕円形	1	>SK546・584, SD537・538, <SX476	○ 88	—	
11-14-49	34	SK533	17AM16~18・22	古代 IV	N-85-W	2.63	1.09	2.48	0.92	0.18	3.10	—	楕円形	1	<SD380	○ 88	—	
17-47		SK534	23AH7	古代 IV	N-56-E	(0.74)	(0.63)	(0.50)	(0.38)	0.11	3.00	—	凹形	1	—	—	—	
17-50		SK540	23AG10, 23AH6	古代 IV	—	—	—	—	—	0.16	2.95	—	凹形	1	<SD515	○ 88	—	
11-14-48	34・35	SK543	17AM12・13	古代 IV	N-51-W	1.68	—	1.41	—	0.22	3.06	—	不定形	1	—	—	—	

図版No.	写真図版No.	遺構	グリッド	時代	軸認面	主軸方向	規模 (m)				底面深 (m)	形態	重複関係	遺物(有無)	遺物図版No.	備考
							上端	下端	長軸	短軸						
17-50	34-35	SK546	22AH6~8・11~13・16・17	古代Ⅳ	N-48-E	4.05	3.67	0.72	0.26	2.89	楕円形	<SK502・532・P551	○ 89			
17-18-47		SK547	22AH13	古代Ⅳ	N-64-W	1.08	0.77	0.57	0.10	3.05	楕円形	>P639	○ 89			
17-18-51	35	SK553	21AH23・24, 22AH2~4・7・8	古代Ⅳ	N-66-E	4.23	3.89	1.98	0.15	2.97	楕円形		○			
18-47		SK560	21AH13・14	古代Ⅳ	N-40-E	1.13	(0.92)	0.80	(0.64)	2.91	楕円形		○			
17-49		SK562	21AH22・23	古代Ⅳ	N-83-E	2.46	1.42	2.15	1.21	2.80	楕円形		○			
17-48		SK564	21AH16・17	古代Ⅳ	N-6-W	(1.10)	(0.77)	(0.58)	0.09	3.01	楕円形		○ 117			
18-48		SK566	21AH15・20, 21AH11・16	古代Ⅳ	N-90'	1.34	0.96	1.17	0.75	3.03	楕円形		○			
14-50		SK569	18AM9・10・14・15	古代Ⅳ	N-40'-E	2.50	—	1.87	1.12	0.26	3.03	楕円形		○		
18-48		SK570	21AH19・20	古代Ⅳ	N-1'-W	1.40	1.03	1.11	0.67	0.09	3.10	楕円形		○		
18-48		SK571	22AH7	古代Ⅳ	N-47-E	0.71	0.49	0.16	0.12	1.18	3.00	楕円形		○		
18-48		SK572	22AH13・18	古代Ⅳ	N-43-E	0.81	0.80	0.44	0.38	0.16	3.07	円形		○		
11-14-49		SK576	17AM2	古代Ⅳ	N-29-W	0.56	0.42	0.34	0.09	3.03	円形		○ 89			
18-49		SK580	22AH25	古代Ⅳ	N-17-W	(0.86)	0.70	0.51	0.48	0.13	3.01	円形		○		
18-51	35-36	SK584	22AH18・19・23・24	古代Ⅳ	N-73-E	(2.91)	(2.44)	2.02	0.30	2.84	楕円形	>SK623・SK632	○ 73・89			
18-52		SK585	22AH13・14・19	古代Ⅳ	N-44-E	2.01	1.42	1.69	1.01	0.07	3.06	楕円形		○ 90		
12-15-50	36	SK589	16AP16・17・22	古代Ⅳ	N-60-W	1.28	—	0.88	—	0.17	2.96	楕円形		○ 90		
15-51		SK593	17AP19・20・24・25	古代Ⅳ	N-49-W	1.24	1.20	0.90	0.87	0.28	2.84	円形		○		
16-51		SK602	17AP20・25, 17AQ16・21	古代Ⅳ	N-50-W	0.92	0.71	0.80	0.55	0.04	2.99	不定形		○ 90		
12-51		SK609	15AO10・15, 16AP11	古代Ⅳ	N-50'-W	(1.40)	—	0.67	—	0.30	3.12	—	○			
12-15-50		SK615	16AN10・15, 16AO11	古代Ⅳ	N-53-W	1.76	1.07	1.16	0.74	0.23	2.79	楕円形		○		
15-52-58	36	SK616	18AN2・3・7	古代Ⅳ	N-42-E	3.34	—	2.96	—	0.18	3.07	—	○ 90			
15-52		SK617	17AN19・23・24	古代Ⅳ	N-38-E	1.25	—	0.87	—	0.14	3.11	—	○ 90			
11-14-15-52		SK618	17AN6・7	古代Ⅳ	N-20-E	1.15	0.82	0.81	0.57	0.14	3.02	楕円形		○		
11-14-15-53		SK619	16AM25, 17AM4・5・10, 17AN1	古代Ⅳ	N-90'	2.50	2.24	2.03	1.80	0.14	2.98	円形		○		
12-15-53		SK620	16AO19・20・24・25	古代Ⅳ	N-44-E	—	—	—	—	0.10	3.12	—	○			
12-15-52		SK621	17AN3	古代Ⅳ	N-44-E	—	—	0.45	—	0.25	0.08	2.97	楕円形		○ 90	
18-52	36	SK624	22AH9	古代Ⅳ	N-35-E	0.60	0.50	0.35	0.28	0.16	2.92	円形	>SK630	○ 90		
18-52		SK625	23AH8・9・13・14	古代Ⅳ	N-65-E	1.55	1.28	1.09	1.18	0.10	3.18	楕円形		○		
18-52		SK626	22AH19・24	古代Ⅳ	N-10-W	—	(0.80)	—	(0.56)	0.15	2.97	楕円形		○		
18-52	36-37	SK630	22AH9・10	古代Ⅳ	N-26-W	(2.68)	2.06	(2.50)	1.86	0.10	3.09	楕円形	>SD652, <SK624	○ 90		
18-52	37	SK633	22AH10	古代Ⅳ	N-45-W	0.85	0.78	0.67	0.52	0.09	3.11	円形		○		
18-53		SK634	23AH5・10	古代Ⅳ	N-38-W	0.94	0.75	0.68	0.51	0.10	3.12	楕円形		○		
17-18-53		SK643	21AH13・18・19	古代Ⅳ	N-44-W	1.63	(1.52)	1.30	(1.05)	0.24	2.90	円形	>SK647	○		
17-18-54	37	SK648	21AH16・17・21・22	古代Ⅳ	N-54-E	2.16	1.52	1.83	1.05	0.28	2.80	楕円形	<SK643	○ 90		
18-54		SK653	22AH15, 22AH11・16	古代Ⅳ	N-51-W	2.76	1.89	2.23	1.61	0.21	2.95	長方形	>SK658・691	○		
18-54	37	SK654	22AH9	古代Ⅳ	N-44-E	(1.07)	0.76	(0.49)	0.34	0.34	2.75	楕円形半円形	>SD652, <SK663	○ 90		
13-18-53		SK657	20AH7	古代Ⅳ	N-35-W	(0.91)	(0.69)	(0.52)	(0.47)	0.20	2.91	楕円形		○ 91		
18-55	38	SK658	21AH16・17	古代Ⅳ	N-76-E	2.13	(1.40)	(1.60)	1.24	0.40	2.74	長方形	<SK648	○ 91		
13-18-55		SK661	21AJ2・3・7・8	古代Ⅳ	N-13-E	(2.64)	2.02	(2.24)	1.67	0.12	3.17	楕円形		○		
18-54	37	SK663	22AH4・5・9・10	古代Ⅳ	N-68-W	1.26	0.62	1.14	0.42	0.08	3.02	楕円形	>SK654, SD661・652	○		
18-55	38	SK668	22AH11~13, 16~18	古代Ⅳ	N-71-W	(3.40)	2.48	(3.10)	(1.97)	0.20	2.98	楕円形		○ 91		
18-54	38	SK674	21AJ13・14	古代Ⅳ	N-51-W	2.13	1.48	1.61	1.16	0.19	3.03	楕円形	>P695	○ 91		
18-53		SK676	22AH5, 22A11	古代Ⅳ	N-64-W	0.84	0.54	0.61	0.26	0.19	2.90	楕円形	<SD651, P694	○		
18-53		SK679	22AH4・5	古代Ⅳ	N-44-E	—	—	0.95	—	0.58	0.30	2.81	—	○ 91		
18-53	38	SK680	23AH9・10・14・15	古代Ⅳ	N-54-W	0.91	0.71	0.60	0.46	0.10	3.22	楕円形		○		
18-54		SK681	23AI5, 23AJ1	古代Ⅳ	N-2'-E	0.62	0.51	0.39	0.27	0.14	3.20	楕円形		○		
18-54		SK682	23AH4・5・9・10	古代Ⅳ	N-55-W	0.65	0.53	0.30	0.29	0.15	3.17	楕円形		○		
18-55		SK683	22AJ21, 23AJ1	古代Ⅳ	N-82-E	0.54	0.48	0.33	0.28	0.10	3.20	円形		○		
18-55		SK684	22AJ3	古代Ⅳ	N-2'-W	(0.70)	(0.46)	(0.42)	0.21	0.10	3.18	楕円形		○		
18-55		SK685	22AJ12・13	古代Ⅳ	N-61-W	0.57	0.51	0.46	0.39	0.11	3.18	円形		○		
18-55		SK686	22AJ24, 23A14	古代Ⅳ	N-59-W	0.93	0.74	0.48	0.42	0.16	3.10	楕円形		○		
18-55		SK687	23AH3・8	古代Ⅳ	N-47-W	1.08	1.04	0.95	0.78	0.10	3.13	円形		○		
18-55	39	SK689	22AJ15	古代Ⅳ	N-44-E	—	(0.96)	—	(0.80)	0.09	3.19	—	○ 91			
18-56	39	SK690	21AJ21, 22AJ1・2	古代Ⅳ	N-63-W	1.92	1.10	1.67	0.80	0.16	2.93	楕円形		○ 91		
18-56	39	SK691	21AJ22, 22AJ2	古代Ⅳ	N-40-E	0.90	0.84	0.66	0.56	0.10	2.98	円形	<SK648	○ 91		
18-56		SK692	22AJ8	古代Ⅳ	N-82-W	0.68	0.60	0.46	0.38	0.13	3.13	円形		○		
18-55		SK693	22AJ24・25, 23A14・5	古代Ⅳ	N-57-W	0.64	0.64	0.36	0.33	0.16	3.11	円形		○		
18-56		SK696	22AJ19・20	古代Ⅳ	N-80-W	1.37	(0.39)	(0.93)	(0.18)	0.20	2.91	楕円形七字形		○		

別 表

図版No.	写真図版No.	遺構	グリット	時代	軸感面	主軸方向		規模 (m)				底面深 (m)	重複関係	遺物の有無	遺物図版No.	備考
						長軸	短軸	長軸	短軸	長軸	短軸					
18-56	39	SK698	21AK11・16	古代 IV	N-54-W	1.18	0.86	0.74	0.10	2.99	凹形	1		○ 91		
18-56	39	SK699	21AK11	古代 IV	N-36-W	0.77	0.45	0.51	0.28	3.08	楕円形	1		○ 91		
18-56	40	SK700	21AH24・25	古代 IV	N-81-W	1.11	1.04	(0.72)	0.27	2.90	凹形	1		○ 91		
18-56		SK702	22AH15	古代 IV	N-85-W	0.60	0.52	0.31	0.22	3.18	凹形	1				
18-56		SK703	22AH15	古代 IV	N-75-W	(0.96)	(0.48)	(0.66)	(0.34)	3.02	長方形	1	<SD673			
18-56		SK704	22AH25, 21AI21, 22AH45, 22AI1	古代 IV	N-45-W	(1.17)	0.68	(0.85)	0.34	2.22	長方形	2		○		
18-56	40	SK706	22AJ17・18	古代 IV	N-16-E	0.55	0.51	0.37	0.36	0.09	3.21	凹形	1		○ 91	
13-56		SK707	18AK8	古代 IV	N-55-E	0.81	(0.45)	0.39	(0.19)	0.22	2.98	楕円形	1		○	
13-56		SK708	19AJ24	古代 IV	N-55-E	1.32	0.83	1.12	0.69	0.07	3.21	楕円形	1		○ 91	
13-56		SK709	19A8・9・13・14	古代 IV	N-1-W	1.36	1.21	1.11	1.06	0.10	3.07	凹形	1			
13-56		SK710	19AI6・10	古代 IV	N-58-W	(0.64)	0.59	(0.42)	0.41	0.11	2.93	凹形	1			
13-19-56		SK714	20AK12	古代 IV	N-20-E	0.54	0.43	0.32	0.24	0.11	3.02	楕円形	1			
14-56		SK715	19AK25, 19AL21	古代 IV	N-2-W	1.14	0.92	0.89	0.68	0.12	2.96	楕円形	1			
14-56		SK720	19AL10	古代 IV	N-6-W	0.78	0.76	0.54	0.49	0.13	3.01	凹形	1	>P738		
14-57	40	SK721	19AL7・12	古代 IV	N-50-W	0.90	0.80	0.68	0.60	0.13	2.95	凹形	1		○ 91	
14-57	40	SK722	19AL3・8	古代 IV	N-S	0.76	0.64	0.51	0.37	0.14	2.94	長方形	1		○ 91	
14-57		SK723	19AL10・15	古代 IV	N-14-W	0.88	0.55	0.77	0.36	0.13	3.06	楕円形	1		○ 92	
14-57		SK724	19AL20, 19AM16	古代 IV	N-65-W	0.56	0.54	0.35	0.33	0.13	2.97	凹形	1			
14-57		SK727	19AL6・7・11・12	古代 IV	N-90	1.54	1.29	1.26	1.14	0.14	2.95	楕円形	1			
14-57		SK739	18AM12・17	古代 IV	N-5-E	1.82	—	1.58	—	0.10	3.04	楕円形	1	<SD380		
14-57		SK740	18AM21, 19AL5, 19AM1	古代 IV	N-51-E	(1.94)	1.86	(1.71)	1.70	0.10	3.04	方形	1		○	
14-57		SK741	18AL18・19	古代 IV	N-80-W	0.51	0.50	0.32	0.24	0.11	3.02	凹形	1		○ 92	
11・14-57		SK745	16AL24	古代 IV	N-80-E	1.19	—	0.95	—	0.09	3.03	—	1		○	
11・14-57		SK746	17AL3	古代 IV	N-46-W	0.74	0.66	0.62	0.55	0.07	3.04	凹形	1		○ 92	
11・14-57		SK749	17AK8・13	古代 IV	N-11-W	0.70	0.49	0.55	0.08	3.07	楕円形	1				
11・14-57		SK750	17AK19・20	古代 IV	N-14-W	1.11	0.73	0.93	0.54	0.11	2.98	楕円形	1			
14-57		SK751	17AK24	古代 IV	N-87-W	0.45	—	0.32	—	0.08	3.02	—	1		○	
11・13-14-57		SK752	17AK19	古代 IV	N-45-E	0.68	0.61	0.52	0.51	0.12	2.99	凹形	1			
11・14-57		SK755	17AL1・6	古代 IV	N-41-E	0.54	—	0.24	—	0.11	3.01	—	1			
11・14-57		SK757	18AL3・4・9	古代 IV	N-15-E	2.20	1.50	2.05	1.31	0.13	2.91	楕円形	1		○ 116	
11・14-57	41	SK758	17AK25	古代 IV	N-39-E	0.82	—	0.49	—	0.13	2.91	—	1			
11・14-57		SK775	16AL15	古代 IV	N-29-W	0.40	0.40	0.25	0.22	0.13	2.95	凹形	1			
11・14-57		SK776	16AL17	古代 IV	N-66-E	0.75	0.61	0.59	0.42	0.15	3.00	楕円形	1			
12-15-58		SK778	17AN9・13・15・19・20	古代 IV	—	—	2.16	—	1.75	0.16	3.01	—	1			
14-15-58		SK779	18AM6・7	古代 IV	N-28-W	(0.65)	0.61	0.45	0.45	0.18	3.02	凹形	1	<SK616		
14-15-58	41	SK781	18AM3・4	古代 IV	N-4-E	0.74	0.53	0.51	0.31	0.19	3.03	楕円形	1		○ 92	
14-15-58		SK782	18AM4・5・9・10	古代 IV	N-2-W	0.94	0.65	0.76	0.43	0.21	3.03	楕円形	2			
14-58		SK783	18AM8	古代 IV	—	—	—	—	0.05	3.14	—	1				
14-15-58		SK784	18AN1・2	古代 IV	N-44-E	0.67	0.48	0.50	0.34	0.12	3.07	楕円形	1		○	
14-15-58	41	SK785	18AN6	古代 IV	N-37-E	0.60	0.52	0.40	0.35	0.15	3.08	凹形	1		○ 92	
14-58		SK786	18AM9	古代 IV	N-17-W	0.57	0.40	0.40	0.25	0.10	3.04	楕円形	1			
14-59		SK787	18AM13・14・18・19	古代 IV	N-76-W	1.92	1.40	1.56	1.10	0.20	3.05	楕円形	2			
11・14-58		SK788	17AM14・19	古代 IV	N-41-W	0.58	0.50	0.42	0.36	0.08	3.12	不定形	1			
14-59		SK789	18AM7・8・12・13	古代 IV	—	—	—	—	0.11	3.07	—	1				
14-15-58		SK790	18AN6・7	古代 IV	N-S	0.95	0.50	0.78	0.32	0.08	3.12	楕円形	1			
14-15-58		SK791	18AM10・15, 18AN6・11	古代 IV	N-52-E	1.21	0.70	0.97	0.50	0.11	3.08	楕円形	1			
11・14-59		SK792	17AM2・7	古代 IV	N-45-E	0.80	0.66	0.60	0.46	0.10	3.03	方形	1			
14-59		SK793	19AM1・2	古代 IV	N-6-E	0.96	—	0.71	—	0.13	3.03	楕円形	1	<SD380		
14-15-59		SK794	18AN11	古代 IV	N-51-E	0.87	0.77	0.60	0.54	0.16	3.04	凹形	1			
14-59		SK795	17AM24	古代 IV	N-43-W	0.76	0.65	0.50	0.41	0.18	3.04	凹形	1			
12-59		SK796	15AP16・17・21	古代 IV	N-40-E	(1.00)	—	(0.55)	(0.44)	0.21	3.06	—	2	<SX415		
11・14-59		SK797	17AM3・4	古代 IV	N-42-E	0.55	0.47	0.34	0.29	0.12	3.01	凹形	1			
11・14-59	41・42	SK800	17AM11・12・16・17	古代 IV	N-38-E	1.53	0.88	1.34	0.66	0.21	3.00	楕円形	1		○ 92	
16-60	42	焼土374	16AQ21	古代 IV	N-41-W	0.63	0.45	0.41	0.25	0.14	2.96	楕円形	1		○ 92	
16-60		焼土379	17AP4	古代 IV	N-55-W	0.30	0.17	0.22	0.07	0.07	3.37	不定形	2			
16-60		焼土387	17AQ7	古代 IV	N-60-W	0.26	0.25	0.12	0.12	0.08	3.17	凹形	2			
16-60		焼土441	17AQ9	古代 IV	N-30-W	0.28	0.28	0.20	0.19	0.06	3.31	凹形	1			
16-60		焼土446	17AQ10	古代 IV	N-1-E	0.30	—	—	—	0.06	3.40	—	1	<SK443		
16-60		焼土447	17AQ5・10	古代 IV	N-73-E	0.24	0.20	0.17	0.15	0.05	3.43	凹形	1			

図版No.	写真図版 No.	遺構	グリット	時代	確認面	主軸方向	規模 (m)				深度	底面座標 (m)	形態		重複関係	遺物の有無	遺物図版No.	備考
							長軸	短軸	長軸	短軸			断面	平面				
16・60	42	焼土454	17AP23・24	古代 IV	N-34-W	0.51	0.32	0.41	0.26	0.10	2.92	楕円形	凹形	1	○	92		
16・60	42	焼土588	16AQ21, 17AQ1	古代 IV	N-79-E	(0.36)	0.28	0.24	0.24	0.05	3.36	楕円形	凹形	3				
16・60	42	焼土594	16AP25	古代 IV	N-3-W	(0.24)	0.22	(0.16)	0.12	0.03	3.36	凹形	凹形	1				
16・60	42	焼土810	17AQ8	古代 IV	N-45-W	0.54	0.52	0.21	0.13	0.10	3.34	不定形	凹形	4				
16・60	42	焼土812	17AQ7	古代 IV	N-40-E	0.13	0.12	0.05	0.04	0.02	3.34	凹形	凹形	1				
16・60	42	焼土813	17AQ3	古代 IV	N-87-W	0.14	0.12	0.06	0.06	0.01	3.37	凹形	凹形	1				
16・60	42	焼土814	17AQ7・8	古代 IV	N-38-E	0.40	0.35	0.20	0.18	0.08	3.28	凹形	凹形	3				
16・60	42	焼土818	17AQ10	古代 IV	N-45-W	0.34	0.30	0.19	0.18	0.04	3.43	凹形	凹形	2				
16・60	42	焼土824	17AR6・7	古代 IV	N-82-W	0.59	0.40	0.37	0.20	0.10	3.42	楕円形	凹形	2	<SD55	○	92	
21	43	SX3	23AP22, 24AH10, 24AJ1~3, 6~8, 11~13	古代 IV	--	--	(4.94)	--	(4.46)	0.42	3.20	楕円形	凹形	2		○	92	
20	43	SX28	22AMI5~20	古代 IV	N-16-W	1.62	0.66	1.19	0.40	0.07	3.11	楕円形	凹形	1		○	92	
20	43	SX31	22AMI10・15・20, 22AN6・11・16	古代 IV	N-38-W	4.48	2.24	4.23	1.80	0.21	2.96	楕円形	凹形	3		○	92	
20・60	43	SX37	21AQ2・3・7・8	古代 IV	N-45-E	1.85	1.65	1.65	1.36	0.25	3.01	凹形	凹形	1		○	92	
20・60	43	SX38	21ANI6・17・21~23	古代 IV	N-69-W	3.45	(1.72)	3.02	(1.34)	0.19	2.96	楕円形	凹形	2		○	92	
20	43	SX43	21AQ13・18	古代 IV	--	--	0.94	--	0.75	0.10	3.12	--	--	2		○		
19・20	45	SX51	23AM8・9・12~15・17~20	古代 IV	N-85-E	4.75	(3.53)	3.50	2.80	0.42	2.90	不定形	凹形	2		○		
17・18	45	SX56	22AZ3・24, 23AJ2~4, 7~9・12~14・17・18	古代 IV	N-25-E	(6.90)	4.25	(6.70)	3.80	0.44	3.04	不定形	凹形	2		○		
22	45	SX62	24AK4・5・9・10・14・15, 24ALI~15, 24AM6・7・11・12	古代 IV	--	--	2.98	--	(2.50)	0.12	3.31	不定形	凹形	1		○	92・93・112	
16・61	43・44	SX63	17AP25, 17AQ16・17・21・22, 18AQ1・2	古代 IV	N-90°	4.02	3.70	3.83	3.53	0.23	3.24	方形	凹形	1	<SE278	○	93・94・113・116・117	
		SX64	17AQ3・7~9・12・13	古代 IV	N-42-E	3.33	--	3.15	--	0.22	3.28	長方形	凹形	4	>SI65, SB828-P435-442, <SX283	○	94・95・112	
16・62	44	SX64焼土811	17AQ8	古代 IV	N-60-E	0.28	0.25	0.18	0.16	0.04	3.34	凹形	凹形	1		○		
		SX64焼土816	17AQ8	古代 IV	N-53-W	(0.45)	(0.30)	(0.32)	0.19	0.09	3.40	楕円形	凹形	5	>SB828-P442	○		SX64コマド
		SX64石列381	17AQ3・7・8	古代 IV	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	○			
15・60	45	SX66	19AQ4・5・9・10	古代 IV	N-18-E	3.22	(2.25)	2.34	(1.65)	0.42	2.92	不定形	凹形	2		○	95	
16	45	SX70	19AP4・5・7~10・12~15・18~20	古代 IV	N-74-E	5.88	5.12	5.58	4.88	0.24	3.12	方形	凹形	3		○	95・96・115・117	
16	45	SX124	18AP19・20・24・25, 18AQ16~19・21~24, 19AP4・5, 19AQ1	古代 IV	--	--	3.30	--	3.11	0.18	3.12	不定形	凹形	1		○	96・112	
16・62	45	SX125	16AP14・15・18~20・23~25, 16AQ11~13・16~18・21~23, 17AP3~5・9・10, 17AQ1・2・6	古代 IV	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--		○	73・96~98・112	右列部分遺物分在範囲。
16・60	45	SX133	16AP19・23・24	古代 IV	--	--	--	--	--	--	--	--	--		○			
16・60	45	SX135	18AP24・25, 19AP4・5	古代 IV	N-45-W	(2.68)	0.63	(2.48)	0.32	0.12	3.12	不定形	凹形	1		○		
19・61	45	SX240	18AP23・24, 19AP3・4	古代 IV	N-44-E	2.20	(0.80)	1.94	(0.78)	0.14	3.03	楕円形	凹形	1	<SB251・829-P149	○		
20・62	45	SX247	23AM11	古代 IV	N-71-E	1.30	0.88	1.19	0.86	0.05	2.84	不定形	凹形	2		○	98	
20・62	45	SX248	23AM15・19・20・24	古代 IV	--	--	--	--	--	0.42	3.12	--	--	3	>SX248	○		壁面で検出
16・25	45	SX249	23AM20	古代 IV	N-37-E	0.72	--	0.14	0.08	0.15	3.09	--	--	1	<SX247	○		壁面で検出
16・25	45	SX250	19AQ3・4	古代 IV	--	--	--	--	--	0.26	3.26	--	--	3	>SI181	○		壁面で検出
16・63	45	SX274	18AQ5・9・10・15, 18AR1・6・11	古代 IV	N-24-W	3.68	(3.50)	3.30	(3.40)	0.18	3.30	凹形	凹形	1	>SI181	○		壁面で検出
16・63	45	SX283	17AQ7~9・11~14・17~19	古代 IV	N-86-W	(4.68)	(4.00)	(4.54)	(3.74)	0.29	3.26	方形	凹形	2	>SI65, SB828-P435, SK341, SX64, P448, <SE388, SK400	○	98・99・115	
17	47	SX289	17AQ8・9・13	古代 IV	N-53-W	0.38	0.32	0.22	0.19	0.07	3.38	凹形	凹形	2	<P295・297	○	73・112	SX283コマド
16	47	SX306	23AG19・20・24・25	古代 IV	N-40-E	2.55	2.00	2.30	1.70	0.27	2.78	凹形	凹形	1		○		
17・63	47	SX327	17AR12・13・17・18	古代 IV	N-31-W	(2.39)	--	(1.95)	--	0.12	3.21	楕円形	凹形	1		○		
17	47	SX365	23AG18・19・23・24	古代 IV	N-31-W	--	(0.68)	--	--	0.32	2.66	楕円形	凹形	1		○	99	
16・63	47	SX375	17AQ9	古代 IV	N-66-W	0.68	0.48	0.60	0.40	0.06	3.45	不定形	凹形	1		○		
16・63	47	SX377	17AQ10	古代 IV	N-10-W	(0.48)	0.35	0.27	0.17	0.07	3.42	楕円形	凹形	1		○		
16・63	47	SX378	17AQ14・15	古代 IV	N-65-W	(0.58)	0.38	(0.30)	0.22	0.21	3.25	楕円形	凹形	2		○		
16・63	47	SX382	17AQ9	古代 IV	N-35-E	0.46	--	0.32	--	0.06	3.41	凹形	凹形	1		○		
16・63	47	SX390	17AQ8・9・14	古代 IV	N-80-E	0.90	0.82	0.65	0.58	0.10	3.39	楕円形	凹形	3		○		
16・64	47	SX406	16AP25, 16AQ21・22, 17AP4・5, 17AQ1・2・6	古代 IV	--	--	--	--	--	0.11	3.22	--	--	1		○	73・99	
11	47	SX411	16AQ6・7・11~13・16~18	古代 IV	N-55-W	5.16	--	4.80	--	0.39	3.15	楕円形	凹形	2	>SK422	○	99	
12・64	47	SX415	15AM15, 15AN11	古代 IV	N-79-W	(1.96)	1.01	(1.74)	0.79	0.12	3.20	不定形	凹形	2		○	99	
12・15・64	48	SX416	15AP16・17・21・22, 16AO5, 16AP1・2	古代 IV	N-38-E	3.88	--	3.68	--	0.10	3.17	楕円形	凹形	1	>SK796	○	99	
12・65	48	SX421	16AO5・10	古代 IV	--	--	1.57	--	(1.15)	0.16	3.11	--	--	1		○	99	
16・64	48	SX425	17AQ7・8・11~13	古代 IV	--	--	--	--	--	0.22	3.08	--	--	2	<SD420, P417	○	99・100・112	
12・16	48・49	SX469	16AP6~8・11~25, 17AP1~5	古代 IV	--	--	--	--	--	0.55	2.62	--	--	2	>P436	○	100・101	
14・45	31	SX486	18AM2	古代 IV	--	--	--	--	--	(7.36)	3.03	方形	凹形	2	>SK419, <SX487	○	101・113・114	
14・45	31	SX487	18AM2・7	古代 IV	--	--	--	--	--	1.23	3.10	--	--	1	>SK486, <SD380	○		
				古代 IV	--	--	1.67	--	1.45	0.10	3.20	--	--	1		○		

図版No.	写真図版No.	遺構	グリット	時代	主軸方向	規模 (m)				深度	底面座標 (m)	形態		重複関係	遺物の有無	遺物図版No.	備考
						長軸	短軸	長軸	短軸			断面	平面				
17	49	SX509	22AG14・15・19・20・24・25, 22AH16・21	古代 IV	—	—	—	—	0.34	2.91	—	—	<SD480	○	102		
11・14		SX579	17AM7~9・12~14	古代 IV	N-62°-W	3.86	1.79	3.41	1.48	0.16	3.01	—	2	○			
12		SX601	15AN10・15	古代 IV	N-68°-E	0.34	0.34	0.27	0.08	0.08	3.05	—	2	○			
12・15・65	49	SX605	17AO8~10・13~15・19・20	古代 IV	N-60°-W	4.74	(2.72)	4.21	2.52	0.20	2.94	—	1	○	>SD826・827, <SD592		
12・65		SX611	16AO5	古代 IV	N-11°-W	0.60	0.46	0.44	0.38	0.08	3.14	—	1	○			
12・15		SX613	16AO21・22, 17AO1~3・6	古代 IV	N-38°-E	4.00	—	3.42	—	0.20	3.09	—	1	○	102		
18・65		SX623	22AH19・20	古代 IV	N-72°-E	—	0.98	—	0.82	0.09	3.01	—	1	○	<SK584		
18・65		SX660	22AH12・17	古代 IV	N-88°-W	0.81	0.32	0.66	0.18	0.08	3.05	—	1	○			
18・65		SX660	22AH9・10・14・15	古代 IV	N-41°-E	1.45	1.12	1.27	0.88	0.09	3.02	—	1	○			
18・65		SX688	21AB25, 21AK21, 22AK1	古代 IV	N-40°-E	1.75	1.39	1.22	1.15	0.12	3.06	—	1	○			
13	50	SX711	17A28, 17AK21~23, 18AJ4・5・8~10・13~15・17~19, 18AK1・2・6	古代 IV	N-41°-E	10.96	2.61	—	—	0.08	3.04	—	1	○			
13・14	50	SX712	17AK5・9・10・12~15・17~20・23, 17AL1・2・6・7・11	古代 IV	N-52°-E	9.73	2.65	—	—	0.08	3.12	—	1	○			
11・14		SX743	17AL3・4	古代 IV	—	—	0.84	—	(0.64)	0.05	3.11	—	1	○			
15・66		SD195	18AO14・18・19	古代 IV	N-32°-E	1.48	0.44	0.92	0.26	0.15	2.90	—	1	○			
17	50	SD338	23AG13・14	古代 IV	—	—	(0.46)	—	(0.24)	0.12	3.00	—	1	○			
16・66	50	SD359	17AG20・25	古代 IV	—	—	(0.40)	—	(0.17)	0.44	2.93	—	1	○	117		
16・66	50	SD397	17AP12・13・17~19・24	古代 IV	—	—	—	—	—	0.10	3.12	—	1	○	102		
12・16・27・66	50・51	SD420	16AP3・5・8~10・12~14・17~19・22~24, 17AP2~5・9・10, 17AQ6・11	古代 IV	—	—	0.58~2.26	—	0.38~2.00	0.18~0.47	2.78	—	2	○	102・103・113・114		
17・18・66	51・59	SD515	23AH6・7・11~15	古代 IV	—	—	0.75	—	0.26	0.33	2.88	—	3	○	>SK540, P539, <SK476		
17・66	51・59	SD523	22AH22, 23AH1・2・6・7・11	古代 IV	—	—	0.57	—	0.32	0.13	3.03	—	1	○	<SK476, P522		
9・17・18・66	51・59	SD525	23AG5, 23AH1~4・9	古代 IV	—	—	0.60	—	0.37	0.08~0.32	3.08	—	1	○	<SK511, SK476	104・114	
17・66	51	SD531	22AH11~13	古代 IV	—	—	—	—	0.22	0.20	2.92	—	1	○	104		
17・49	34	SD537	22AH16~18	古代 IV	N-79°-W	3.87	0.40	3.58	0.23	0.23	3.01	—	1	○	<SK532	104	
17・18・49・66	34・51	SD538	22AH16・17・21~24	古代 IV	N-77°-W	5.75	(1.47)	5.24	(1.03)	0.25	2.97	—	1	○	<SK532, SK476	104	
18・66		SD564	22AH8	古代 IV	—	—	—	—	—	0.13	2.97	—	1	○			
12・15・65・66	49・51	SD592	17AO13・14・19	古代 IV	—	—	(0.50)	(2.96)	(0.20)	0.20~0.32	2.76	—	—	○	>SK605	104・115	
11・12	52	SD606	14AM13~15・18~20・22~25, 14AN15~25, 14AO16・17・21~23, 15AO2~4	古代 IV	—	—	0.36~2.20	—	0.20~1.50	0.36	2.90	—	4	○			
12・66		SD612	16AO10, 16AP6	古代 IV	N-63°-W	2.64	0.44	2.44	0.20	0.18	3.00	—	1	○			
18・54・66	37・52	SD651	22AH4・5・9・10, 22AI1~4・6~8	古代 IV	—	—	0.42	—	0.24	0.23	2.89	—	—	○	>SK679, P694, <SK663	104	
18・54・66	52	SD652	22AH9・10, 22AI6・7	古代 IV	—	—	0.41	—	0.16	0.18~0.39	2.72	—	—	○	<SK630・663	104	
13・18		SD664	20AI14・15・19・20	古代 IV	N-10°-E	2.21	0.43	2.00	0.31	0.05	3.13	—	1	○			
13・18		SD665	20AI10・15・20, 20AI6・11	古代 IV	—	—	0.50	—	0.27	0.09	3.09	—	1	○			
13・18		SD666	20AI15, 20AI11~13	古代 IV	N-77°-W	(4.96)	0.80	(4.76)	0.57	0.06	3.14	—	1	○			
13・18		SD669	20AJ11・16	古代 IV	N-14°-E	3.10	0.45	2.91	0.26	0.08	3.09	—	1	○			
13・18		SD670	20AJ11・12・16・17	古代 IV	N-17°-E	(3.14)	0.39	(2.93)	0.22	0.08	3.09	—	1	○			
13・18		SD671	20AJ12・17	古代 IV	—	—	0.64	—	0.46	0.08	3.08	—	1	○			
18・66	52	SD673	22AH14・15・19・20・24・25	古代 IV	N-16°-E	4.17	1.05	3.97	0.78	0.09	3.17	—	—	○	>SK703	104	
18・66		SD677	22AH5	古代 IV	—	—	0.38	—	0.14	0.14	2.92	—	—	○	>P695		
12・66	52・53	SD678	22AH13~15, 22AI11・12	古代 IV	—	—	0.42	—	0.16	0.19	2.96	—	—	○			
14	53	SD725	19AK19~24・25, 19AL12~18, 19AM11	古代 IV	N-73°-E	14.96	0.50	14.85	0.31	0.18	2.90	—	—	○			
13・14		SD731	19AK10・15・20, 19AL6・11	古代 IV	N-14°-E	3.63	0.77	3.36	0.52	0.14	2.93	—	—	○	>P753		
18・66		SD761	21AI11・12	古代 IV	—	—	0.23	—	0.11	0.17	3.03	—	—	○	>P764・765		
11・14・15		SD777	17AM20, 17AN16・17	古代 IV	N-80°-E	3.19	0.90	2.96	0.55	0.12	3.11	—	—	○			
18・66		SD803	22AI8・9	古代 IV	—	—	0.43	—	0.15	0.29	2.87	—	—	○			
18・66		SD804	22AI3	古代 IV	—	—	0.57	—	0.26	0.22	2.93	—	—	○	>P806		
18・66		SD805	21AI23	古代 IV	—	—	—	—	—	0.15	3.01	—	—	○			
18・66		SD807	21AI23	古代 IV	—	—	0.41	—	0.22	0.19	2.93	—	—	○			
12・15・65	49	SD826	17AO14・15・19・20	古代 IV	N-55°-W	(3.37)	0.42	2.66	0.17	0.31	2.64	—	—	○	<SK605		
12・15・65	49	SD827	17AO9・14・15	古代 IV	N-47°-W	2.91	0.44	2.53	0.24	0.36	2.61	—	—	○	<SK605		
16		PI105	18AP5・10	古代 IV	—	(0.56)	0.44	0.15	0.15	0.20	3.04	—	—	○			
16・67	53	PI110	18AP23・24	古代 IV	N-45°-W	0.43	0.31	0.08	0.06	0.40	2.74	—	—	○			
15		PI115	18AN18	古代 IV	—	0.50	0.46	0.24	0.20	0.14	3.00	—	—	○			
15		PI122	19AN8	古代 IV	—	(0.38)	(0.30)	(0.16)	(0.12)	0.25	2.97	—	—	○			
16		PI141	18AQ18	古代 IV	—	(0.30)	(0.30)	(0.16)	(0.12)	0.15	3.05	—	—	○			
16		PI142	18AQ18	古代 IV	—	(0.36)	(0.32)	(0.20)	(0.14)	0.14	3.05	—	—	○			
16		PI150	18AP23	古代 IV	—	0.42	0.40	0.18	0.16	0.12	3.01	—	—	○			
15		PI155	18AP22, 19AP2	古代 IV	—	0.46	0.42	0.18	0.18	0.13	2.99	—	—	○			

図版No.	写真図版 No.	遺構	グリット	時代	確認面	主軸方向	規模 (m)				深度	底面座標 (m)	形態		重複関係	遺物の有無	遺物図版No.	備考
							長軸	短軸	長軸	短軸			断面	分層				
16		P158	18AP20・25	古代 IV	-	-	(0.48)	0.46	0.30	0.22	0.20	2.94	凹形	凹形	1			
16		P162	18AP14	古代 IV	-	-	(0.40)	-	(0.24)	-	0.12	3.10	-	-	1			
16・67	53	P165	18AQ22	古代 IV	-	-	(0.62)	(0.50)	(0.20)	(0.20)	0.47	2.78	楕円形 U字形	U字形	2			
16		P168	18AP10	古代 IV	-	-	0.52	0.44	0.19	0.13	0.23	3.02	楕円形 U字形	U字形	1			
16		P170	18AP13	古代 IV	-	-	0.22	0.19	0.13	0.08	0.12	3.05	凹形	凹形	1			>P186
16		P171	18AP10, 18AQ6	古代 IV	-	-	0.36	0.35	0.13	0.12	0.14	3.11	凹形	凹形	1			
16		P173	19AP10, 19AQ6	古代 IV	-	-	0.40	(0.38)	0.22	(0.22)	0.15	2.94	凹形	凹形	1			
16		P174	18AP23・24	古代 IV	-	-	0.41	-	0.12	0.10	0.43	2.77	凹形	凹形	1			
15		P175	18AO1	古代 IV	-	-	0.36	0.29	0.30	0.08	0.10	2.95	凹形	-	1			
16		P177	18AP4	古代 IV	-	-	0.33	0.29	0.16	0.11	0.23	2.94	凹形	凹形	1			
15		P183	18AO13・14	古代 IV	-	-	(0.42)	(0.29)	(0.24)	(0.19)	0.18	2.92	楕円形	凹形	3			○ 105
16・67	53	P184	19AP3	古代 IV	-	-	0.68	0.65	0.16	0.14	0.75	2.38	凹形	凹形	3			○ 105
16・67	53	P185	18AP8・13	古代 IV	-	-	(0.62)	(0.48)	(0.34)	(0.20)	0.62	2.52	楕円形	凹形	3			<SB251-SK68
16・67	53	P186	18AP13	古代 IV	-	-	-	0.48	(0.32)	0.21	(0.58)	(2.60)	-	-	3			>SB252-P140, P170
15・67		P190	18AP17	古代 IV	-	-	(0.51)	0.48	0.18	0.18	0.42	2.72	凹形	凹形	2			
16		P192	18AP12・13・17・18	古代 IV	-	-	0.72	0.56	0.36	0.34	0.22	2.94	楕円形	凹形	1			
16・67		P193	18AQ6・7・11・12	古代 IV	-	-	0.72	0.59	0.22	0.18	0.24	3.03	楕円形	凹形	3			
16・67		P194	18AP10・15	古代 IV	-	-	0.65	0.52	0.18	0.17	0.32	2.90	凹形	凹形	2			>SB252-P202
15		P196	18AP12	古代 IV	-	-	(0.52)	(0.42)	0.26	0.18	0.18	3.00	楕円形	凹形	1			>S1181
16		P199	18AQ19	古代 IV	-	-	0.44	0.35	0.20	0.13	0.24	3.05	凹形	凹形	1			
16		P201	18AQ8・13	古代 IV	-	-	0.35	0.20	0.12	0.13	0.24	3.05	凹形	凹形	1			
15		P205	19AO5	古代 IV	-	-	0.34	(0.30)	0.10	0.06	0.17	3.00	凹形	凹形	1			
19		P206	22AM12	古代 IV	-	-	0.47	0.36	0.24	0.15	0.13	3.00	楕円形	凹形	1			
15		P208	18AN4・5	古代 IV	-	-	0.76	0.46	0.36	0.24	0.25	2.83	楕円形	凹形	1			>SB251-P273
15・67		P210	18AP7・12	古代 IV	-	-	-	-	-	-	0.28	2.95	-	-	1			○ 105
15・24・67	53	P212	18AO8・13・14	古代 IV	-	-	(0.94)	(1.02)	(0.50)	(0.37)	0.16	3.07	楕円形 U字形	凹形	1			
15		P218	17AP22・23	古代 IV	-	-	0.76	(0.63)	0.50	(0.37)	0.16	3.07	楕円形	凹形	1			
16・67	54	P219	18AP14	古代 IV	-	-	(0.63)	0.50	(0.20)	0.19	0.35	2.80	楕円形 U字形	凹形	3			>SB251-SK68
15		P221	18AO1	古代 IV	-	-	0.49	0.45	0.27	(0.18)	0.38	2.51	凹形	凹形	1			○ 118
20・67		P222	22AN22	古代 IV	-	-	0.54	(0.44)	0.20	0.18	0.23	2.71	凹形	凹形	2			
20		P223	22AM15, 22AN11	古代 IV	-	-	0.73	0.64	0.35	0.32	0.17	2.72	楕円形	凹形	1			
20		P224	22AM15, 22AN11	古代 IV	-	-	0.80	0.74	0.44	0.38	0.15	2.72	凹形	凹形	1			
20		P225	21AN22, 22AN2	古代 IV	-	-	0.76	(0.65)	(0.36)	0.28	0.15	2.67	凹形	凹形	1			
21		P227	24AJ16	古代 IV	-	-	(0.60)	(0.38)	(0.34)	(0.12)	0.21	3.09	楕円形	凹形	1			
21		P229	24AJ11	古代 IV	-	-	(0.48)	(0.32)	(0.28)	(0.18)	0.20	3.08	凹形	凹形	1			
21		P230	24AJ7	古代 IV	-	-	(0.52)	(0.48)	(0.32)	(0.27)	0.14	3.12	凹形	凹形	1			
20		P231	25AJ16	古代 IV	-	-	0.20	0.18	0.14	0.10	0.07	3.26	凹形	凹形	1			
20		P233	21AN21, 22AN1	古代 IV	-	-	0.40	0.14	0.10	0.09	0.20	2.62	楕円形 U字形	凹形	1			
20		P234	21AN21	古代 IV	-	-	0.60	0.48	0.22	0.15	0.18	2.63	楕円形	凹形	1			
15		P238	18AO18	古代 IV	-	-	0.45	0.38	0.24	0.20	0.20	2.89	凹形	凹形	1			
15		P239	18AO18	古代 IV	-	-	0.46	0.36	0.30	0.24	0.17	2.83	凹形	凹形	1			
19・22		P241	18AO9	古代 IV	-	-	0.55	0.52	0.25	0.19	0.31	2.84	凹形	凹形	1			
16・67		P246	23AM22	古代 IV	-	-	0.47	0.42	0.28	0.22	0.06	2.86	凹形	凹形	2			
15・67		P253	18AP1	古代 IV	-	-	1.29	1.03	0.54	0.42	0.61	2.60	凹形	凹形	4			>P393
16・67	54	P254	18AP18・19	古代 IV	-	-	0.47	-	-	-	0.14	2.91	凹形	凹形	2			<SB251-P256
16・30		P258	18AP9・10	古代 IV	-	-	(0.46)	(0.35)	(0.25)	(0.21)	0.35	2.66	楕円形	凹形	2			
16		P259	18AQ2	古代 IV	-	-	0.36	0.35	0.25	0.23	0.08	3.26	凹形	凹形	1			
16		P260	17AQ21, 18AQ1	古代 IV	-	-	0.74	0.62	0.49	0.44	0.09	3.24	楕円形	凹形	1			
16		P263	18AP20	古代 IV	-	-	-	(0.23)	-	(0.16)	0.16	3.01	-	-	1			
16		P264	18AP20	古代 IV	-	-	0.36	0.34	0.28	0.26	0.07	3.10	凹形	凹形	1			
16		P266	17AP23	古代 IV	-	-	(0.34)	-	-	-	0.19	2.98	-	-	1			
16・33		P267	17AQ22, 18AQ2	古代 IV	-	-	0.82	0.67	0.40	0.30	0.33	2.98	楕円形	凹形	1			
15		P269	18AP1・2	古代 IV	-	-	(0.60)	(0.52)	(0.22)	(0.21)	0.22	2.93	凹形	凹形	1			
16・68		P271	18AP4	古代 IV	-	-	0.30	0.29	0.18	0.15	0.15	2.91	凹形	凹形	2			
16・68	54	P272	18AP18	古代 IV	-	-	(0.40)	(0.38)	(0.12)	(0.11)	0.25	2.84	凹形	凹形	3			
16		P275	18AP4	古代 IV	-	-	0.44	0.40	0.15	0.13	0.23	2.87	凹形	凹形	1			
16		P288	17AR19	古代 IV	-	-	-	(0.45)	0.29	0.25	0.11	3.20	凹形	凹形	1			>SK281
16・41	27	P289	17AR7・8・12・13	古代 IV	-	-	-	(0.81)	-	-	0.34	3.19	-	-	2			>SK299
17		P295	23AG24・25	古代 IV	-	-	(0.43)	0.38	0.29	0.24	0.06	3.05	凹形	凹形	1			
17		P296	23AG24	古代 IV	-	-	-	-	-	-	0.18	2.91	-	-	1			>SK299
17		P297	23AG19	古代 IV	-	-	-	(0.43)	-	(0.22)	0.18	2.91	-	-	1			

図版No.	写真図版No.	遺構	グリット	時代	確認面	主軸方向	規模 (m)				深度	底面座標 (m)		重複関係	遺物の有無	遺物図版No.	備考
							上端	下端	長軸	短軸		長軸	短軸				
17		P300	21AF23	古代 IV		-	-	(0.20)	-	(0.14)	0.10	3.11	凹形	-	1		
17		P301	21AF23	古代 IV		-	-	(0.14)	-	(0.10)	0.05	3.18	凹形	-	1		
17		P302	21AF23	古代 IV		-	-	(0.25)	-	(0.14)	0.32	2.96	凹形	-	1		
17		P303	21AF19	古代 IV		-	-	-	-	-	0.20	3.04	-	-	1		
17		P304	21AF24	古代 IV		-	-	(0.17)	-	(0.08)	0.12	3.11	-	-	1		
16		P305	17AR18	古代 IV		-	-	0.31	0.24	0.13	0.12	3.19	楕円形	凹形	1		
17		P307	21AF24	古代 IV		-	-	-	-	(0.12)	0.16	3.09	-	-	1		
17		P308	21AF24	古代 IV		-	-	(0.10)	(0.09)	0.07	3.18	-	-	1			
17		P309	21AF24	古代 IV		-	-	0.20	0.20	0.15	0.14	3.09	凹形	-	1		
17		P310	21AF24	古代 IV		-	-	0.25	0.20	0.16	0.12	3.06	凹形	-	1		
17		P311	21AF24・25, 22AF4・5	古代 IV		-	-	0.25	0.23	0.15	0.15	3.14	凹形	-	1		
17		P312	22AF4	古代 IV		-	-	0.20	0.18	0.05	0.04	2.83	凹形	-	1		
17		P313	22AF3	古代 IV		-	-	(0.20)	-	(0.16)	0.10	3.13	凹形	-	1		
17		P314	22AF4	古代 IV		-	-	-	-	(0.14)	0.12	3.13	-	-	1		
17		P315	22AF5	古代 IV		-	-	0.19	0.18	0.11	0.10	3.05	凹形	-	1		
17		P316	22AF5	古代 IV		-	-	0.20	0.18	0.12	0.09	3.13	凹形	-	1		
17		P317	22AF5	古代 IV		-	-	0.29	0.23	0.20	0.20	3.14	凹形	-	1		
17		P318	22AF5	古代 IV		-	-	0.28	0.22	0.19	0.15	3.10	凹形	-	1		
17		P319	22AF9	古代 IV		-	-	(0.24)	-	(0.17)	0.16	3.15	-	-	1		
17		P320	22AF10	古代 IV		-	-	0.34	0.27	0.25	0.15	3.10	楕円形	-	1		○
17		P321	22AF10・15	古代 IV		-	-	0.40	0.27	0.29	0.19	3.11	楕円形	-	1		○
17		P322	22AF9・14	古代 IV		-	-	0.25	-	0.17	-	3.18	-	-	1		
17		P323	22AF15, 22AG11	古代 IV		-	-	0.30	0.22	0.23	0.14	3.13	楕円形	-	1		
17		P324	22AG16	古代 IV		-	-	0.32	0.31	0.22	0.18	3.09	凹形	-	1		
17		P325	22AG21	古代 IV		-	-	0.44	0.26	0.24	0.14	3.12	楕円形	-	1		○
16		P329	17AR12	古代 IV		-	-	0.37	0.35	0.16	0.15	3.14	方形	凹形	1		
16		P330	17AQ3・4・8・9	古代 IV		-	-	1.00	-	0.86	-	3.41	-	-	1		○
16		P331	17AQ9	古代 IV		-	-	(0.47)	-	0.39	0.07	3.42	-	-	1		○
16		P332	17AR13	古代 IV		-	-	(0.29)	(0.28)	(0.17)	(0.15)	3.13	凹形	凹形	1		○
17		P340	23AG18・19・23・24	古代 IV		-	-	(0.21)	-	(0.16)	0.28	2.78	-	-	1		○
17		P344	23AG9	古代 IV		-	-	(0.35)	-	(0.20)	0.21	2.80	-	-	1		○
17		P345	23AG2	古代 IV		-	-	0.53	0.45	0.38	0.29	3.03	楕円形	凹形	1		○
17	68	P347	17AQ19・20	古代 IV		-	-	(0.71)	(0.46)	(0.44)	(0.27)	2.28	3.00	楕円形 U字形	2	<SB828-SD357	
15		P349	17AF21・22	古代 IV		-	-	0.94	0.46	0.67	0.17	3.27	楕円形 U字形	1		○	
16	63	P351	17AQ18・19	古代 IV		-	-	(0.31)	(0.25)	(0.14)	(0.12)	3.00	楕円形 U字形	1		○	
16		P361	17AQ25, 17AR21	古代 IV		-	-	2.27	(0.76)	2.00	(0.66)	3.26	楕円形	凹形	1		○
16	31	P362	17AR17	古代 IV		-	-	(0.70)	(0.37)	(0.53)	(0.19)	3.13	楕円形	凹形	1	>SB828-SD357	
16	68	P364	17AR16	古代 IV		-	-	(0.44)	-	(0.24)	0.31	3.04	-	-	1		○
16		P367	17AQ19・24	古代 IV		-	-	(0.66)	-	(0.52)	0.11	3.22	-	-	1		○
16		P368	17AQ19	古代 IV		-	-	0.60	0.51	0.31	0.21	3.03	楕円形	凹形	1		○
16		P373	17AR16・17	古代 IV		-	-	(0.60)	(0.43)	(0.24)	(0.20)	3.12	楕円形	凹形	1		○
16	68	P385	17AQ12	古代 IV		-	-	0.52	0.48	0.27	0.26	3.12	凹形	凹形	1		○ 115
16	68	P386	17AQ18	古代 IV		-	-	(0.62)	0.50	0.45	0.40	2.86	楕円形	箱形	2		○
16	68	P391	17AQ8・13	古代 IV		-	-	(0.52)	(0.48)	(0.21)	(0.15)	2.53	凹形	凹形	1		○
15		P392	18AO14	古代 IV		-	-	(0.42)	(0.37)	(0.21)	(0.16)	2.83	凹形	凹形	1		○
15	68	P393	18AO5, 18AP1	古代 IV		-	-	-	0.66	-	0.32	2.86	-	-	1	<P253	○ 105
15		P394	18AP1・2	古代 IV		-	-	(0.57)	-	0.43	-	2.97	楕円形	台形	1		○
15	68	P399	18AO5	古代 IV		-	-	(0.53)	(0.30)	(0.28)	(0.54)	2.63	凹形	凹形	1		○
12		P414	15AO11・12	古代 IV		-	-	0.80	0.71	0.68	0.55	3.18	楕円形	凹形	1		○ 105
12	65	P417	15AP17	古代 IV		-	-	1.00	0.75	0.80	0.61	3.20	楕円形	凹形	1		>SX421
16	68	P424	17AQ13	古代 IV		-	-	(0.54)	(0.48)	(0.34)	(0.34)	2.56	凹形	箱形	3		○
16	68	P427	17AQ13・14	古代 IV		-	-	(0.46)	(0.42)	(0.19)	(0.14)	2.62	凹形	箱形	2		○
12	15・68	P434	17AN3	古代 IV		-	-	0.55	-	0.33	-	3.22	-	-	1		○ 105
16	68	P436	17AQ11・12	古代 IV		-	-	(0.32)	(0.24)	(0.24)	(0.26)	3.05	-	-	1	<SX425	○
16		P437	17AQ7	古代 IV		-	-	0.30	0.22	0.13	0.09	2.70	楕円形	凹形	1		○ 105
16		P438	17AQ7	古代 IV		-	-	(0.35)	(0.30)	(0.19)	(0.14)	2.59	楕円形	凹形	1		○
16		P439	17AQ7・12	古代 IV		-	-	(0.17)	(0.17)	(0.09)	(0.08)	2.58	凹形	凹形	1		○
16	68	P440	17AQ12	古代 IV		-	-	0.27	0.23	0.08	0.07	2.55	凹形	凹形	3		○
16	23・68	P448	17AQ14・15・19・20	古代 IV		-	-	(1.07)	(0.62)	(0.62)	(0.34)	3.05	楕円形	台形	1	<SI65, SX283	○ 105・112
16	23	P449	17AQ10	古代 IV		-	-	0.58	0.50	0.37	0.27	2.77	凹形	凹形	3	>SI65, SK444	○
12	16・68	P456	17AF9・10	古代 IV		-	-	1.20	(1.05)	0.97	(0.73)	2.99	凹形	凹形	1		○

図版No.	写真図版No.	遺構	グリット	時代	確認面	主軸方向	規模 (m)				底面深縁 (m)	分層	重複関係	遺物の有無	遺物図版No.	備考
							長軸	短軸	長軸	短軸						
12・15		P459	17AP6・11	古代 IV	—	—	0.52	0.29	0.47	0.28	0.07	2	○			
16		P463	17AP24	古代 IV	—	—	—	—	—	0.28	0.21	1	○			
16		P464	17AP23	古代 IV	—	—	—	—	—	0.19	0.14	1	○			
12・15		P467	17AO10, 17AP6	古代 IV	—	—	0.99	0.66	0.44	0.20	3.08	1	○			
12・68		P473	17AP11	古代 IV	—	—	0.70	0.65	0.38	0.26	2.92	1	○			
15		P474	17AO24・25	古代 IV	—	—	1.19	0.96	0.81	0.15	3.02	1	○			
11・14・15・68	54	P489	17AN1	古代 IV	—	—	0.52	0.40	0.25	0.17	3.07	1	○	105		
14・44		P503	17AL20	古代 IV	—	—	0.31	0.30	0.16	0.15	0.06	1	○			
17		P512	23AH2	古代 IV	—	—	0.30	0.27	0.16	0.14	0.23	2	○			
17		P518	22AH22	古代 IV	—	—	0.57	0.50	0.34	0.24	0.10	1	○			
17・66	51	P522	22AH22	古代 IV	—	—	0.24	0.24	0.09	0.08	0.17	1	○	>SD523		
14		P527	17AM23・24	古代 IV	—	—	0.65	0.54	0.50	0.37	0.06	1	○			
11・14		P528	17AM18・19	古代 IV	—	—	0.87	0.70	0.80	0.65	0.10	1	○		105	
17・68		P539	23AH12	古代 IV	—	—	0.36	—	—	—	0.43	2	○	<SD515		
17		P541	22AH18	古代 IV	—	—	0.54	0.47	0.39	0.29	0.07	1	○			
18・69		P542	22AH13・18	古代 IV	—	—	0.44	0.40	0.16	0.16	0.42	2	○			
18・69		P548	22AH3・4	古代 IV	—	—	0.78	0.66	0.46	0.35	0.25	2	○			
17		P550	22AH2	古代 IV	—	—	0.44	0.39	0.28	0.22	0.07	1	○			
17・50	35・54	P551	22AH12	古代 IV	—	—	0.70	0.51	0.34	0.32	0.25	1	○	>SK546	105	
17		P552	22AH12	古代 IV	—	—	0.22	0.20	0.11	0.10	0.13	2	○			
17・69		P555	21AH22・23, 22AH2・3	古代 IV	—	—	0.51	0.51	0.14	0.10	0.26	2	○			
15		P557	18AO10	古代 IV	—	—	0.37	0.30	0.16	0.15	0.13	1	○			
12・15		P558	17AO19	古代 IV	—	—	0.37	0.32	0.15	0.13	0.09	1	○			
12・15		P559	17AO14	古代 IV	—	—	0.46	0.40	0.21	0.20	0.37	1	○			
17		P563	21AH17	古代 IV	—	—	0.39	0.39	0.26	0.23	0.08	1	○			
17		P565	21AH12	古代 IV	—	—	0.58	0.50	0.44	0.28	0.08	1	○			
17		P567	22AH8	古代 IV	—	—	0.67	—	—	—	0.18	1	○			
18		P568	22AH13	古代 IV	—	—	0.45	0.42	0.18	0.17	0.16	1	○			
17		P573	22AH7・12	古代 IV	—	—	—	—	—	—	0.18	1	○			
17		P574	22AH8・13	古代 IV	—	—	0.54	0.44	0.26	0.18	0.28	1	○			
17		P575	22AH12	古代 IV	—	—	0.34	0.27	0.23	0.16	0.09	1	○			
11・14		P577	17AL14・19	古代 IV	—	—	0.43	0.38	0.23	0.21	0.15	2	○			
11・14		P578	17AL15・20	古代 IV	—	—	0.34	0.32	0.20	0.20	0.18	2	○			
18		P582	22AE3	古代 IV	—	—	0.35	0.35	0.20	0.19	0.22	1	○			
18		P583	22AH8	古代 IV	—	—	0.56	0.51	0.22	0.24	0.12	1	○			
12・15		P586	16AP12	古代 IV	—	—	1.16	0.88	0.70	0.48	0.19	1	○			
12・16・69	55	P587	16AP23・24	古代 IV	—	—	0.98	0.88	0.72	0.54	0.13	1	○	105		
12・16・69	55	P590	16AP18・19	古代 IV	—	—	1.28	0.94	0.72	0.54	0.18	1	○	105		
15・69		P591	18AO10, 18AP6	古代 IV	—	—	0.50	0.45	0.14	0.11	0.59	2	○			
12・15・27	14	P597	17AP11	古代 IV	—	—	0.36	0.35	0.16	0.15	0.46	1	○	<SI453		
12・15・27	14	P598	17AP11	古代 IV	—	—	0.39	0.35	0.17	0.17	0.46	1	○	<SI453		
16・69		P599	17AP5・10, 17AQ1・6	古代 IV	—	—	0.52	0.48	0.28	0.21	0.45	1	○		117	
16		P603	17AP13	古代 IV	—	—	0.62	0.51	0.07	0.07	0.26	1	○			
12・15		P604	16AQ25	古代 IV	—	—	0.36	0.26	0.06	0.04	0.20	1	○			
11・69		P610	14AM14	古代 IV	—	—	0.40	—	—	—	0.24	1	○		106	
11・14・15		P627	17AN11	古代 IV	—	—	—	—	—	—	0.12	1	○			
14		P628	17AL21	古代 IV	—	—	—	—	—	—	0.18	1	○		106	
17		P629	22AH12	古代 IV	—	—	0.42	0.40	0.28	0.21	0.10	1	○			
17		P632	22AH7・12	古代 IV	—	—	0.41	0.38	0.28	0.21	0.15	1	○			
17		P638	22AH3	古代 IV	—	—	0.79	0.48	0.10	0.10	0.25	1	○			
18・51		P639	22AH3・4	古代 IV	—	—	—	—	—	—	0.18	1	○	<SK553		
18		P640	22AH4	古代 IV	—	—	0.36	—	—	—	0.05	1	○			
18		P641	22AH4	古代 IV	—	—	0.44	0.20	0.20	0.15	0.19	1	○			
18		P642	23AH8・9	古代 IV	—	—	0.88	0.62	0.74	0.34	0.17	1	○			
17・18		P644	22AH24	古代 IV	—	—	0.62	0.44	0.41	0.28	0.21	1	○			
17		P645	22AH8	古代 IV	—	—	0.52	0.42	0.24	0.16	0.17	1	○			
18		P650	22AH8	古代 IV	—	—	0.51	0.48	0.27	0.27	0.19	1	○			
18・69		P655	22AH5	古代 IV	—	—	0.37	0.33	0.20	0.16	0.18	2	○			
18		P656	22AH14・15	古代 IV	—	—	0.46	0.40	0.24	0.20	0.11	1	○			
18・65		P659	22AH15	古代 IV	—	—	0.42	0.42	0.14	0.14	0.19	1	○			
13・18		P662	21A3・8	古代 IV	—	—	0.58	0.51	0.35	0.27	0.10	1	○			

図版No.	写真図版No.	遺構	グリット	時代	確認面	主軸方向	規模 (m)				底面深 (m)	重複関係	遺物の有無	遺物図版No.	備考
							上端		下端						
							長軸	短軸	長軸	短軸					
13・18		P667	20A19・10・14・15	古代 IV		—	0.60	0.50	0.40	0.28	0.07				
18		P675	22A19・14	古代 IV		—	(0.38)	(0.24)	0.10	0.06	0.30				
18・53		P694	22AH4	古代 IV		—	(0.39)	(0.34)	(0.16)	(0.14)	0.25		<SD651		
18・69		P695	22AH5	古代 IV		—	(0.52)	(0.50)	(0.23)	(0.19)	0.39		<SK676,SD677		
17・18		P697	22AH3	古代 IV		—	—	0.29	—	0.15	0.22				
13		P713	18AK13	古代 IV		—	0.36	(0.31)	0.18	(0.14)	0.16				
19・69	55	P716	20AK25	古代 IV		—	0.45	0.45	0.24	0.23	0.16				106
13		P717	18AJ21	古代 IV		—	0.32	0.27	0.16	0.12	0.14				106
19・69	55	P718	20AK20	古代 IV		—	0.40	0.38	0.16	0.16	0.14				106
19		P719	20AL21	古代 IV		—	0.35	(0.34)	(0.16)	0.13	0.12				
14・69		P728	19AL8	古代 IV		—	0.43	0.36	0.12	0.11	0.37				
14・69		P729	19AL8・9	古代 IV		—	0.62	0.57	0.07	0.07	0.35				
14		P730	19AL13	古代 IV		—	0.66	0.49	0.50	0.31	0.16				
14		P732	19AL10	古代 IV		—	0.64	—	0.42	0.26	0.11				
14		P733	19AL10, 19AM6	古代 IV		—	(0.62)	0.43	(0.44)	0.25	0.23				
14		P734	19AL3・4	古代 IV		—	0.90	0.44	0.61	0.27	0.12				
14・69		P735	19AK15	古代 IV		—	(0.39)	(0.38)	(0.20)	(0.18)	0.18		<SD731		
14		P736	19AL7	古代 IV		—	0.29	0.28	0.19	0.16	0.07				
14		P737	19AL10	古代 IV		—	0.27	0.14	0.26	0.14	0.07				
14・69		P738	19AL10	古代 IV		—	(0.41)	(0.30)	(0.15)	(0.15)	0.22		<SK720		
14		P742	18AL6	古代 IV		—	0.88	—	0.61	—	0.12				
11・14		P744	16AL24, 17AL4	古代 IV		—	0.46	—	0.24	—	0.12				
11・14		P747	16AL23	古代 IV		—	0.41	—	0.34	—	0.08				
11・14		P748	17AL3	古代 IV		—	0.40	—	0.25	—	0.08				
11・14		P753	17AK19	古代 IV		—	—	(0.22)	—	(0.11)	0.12				
13		P754	17AJ20, 17AK16	古代 IV		—	0.40	—	0.23	—	0.11				
11・14		P756	17AL1・6	古代 IV		—	0.37	—	0.20	—	0.10				
18・66		P764	21AH2	古代 IV		—	0.55	—	0.35	0.33	0.21		<SD761		
18・66		P765	21AH2	古代 IV		—	0.73	—	0.50	0.28	0.19		<SD761		
11・14		P801	17AL18	古代 IV		—	0.34	0.31	0.23	0.17	0.15				
18・69	55	P806	22AL3	古代 IV		—	—	0.40	—	0.24	0.16				
16・69	55	P815	17AQ8・13	古代 IV		—	0.50	0.39	0.34	0.19	0.24				106

中世遺構計測表

図版No.	写真図版No.	遺構	グリット	時代	確認面	主軸方向	規模 (m)				底面深 (m)	重複関係	遺物の有無	遺物図版No.	備考	
							上端		下端							深度
							長軸	短軸	長軸	短軸						
22	56	SD47	24AK10・15,24AL6~15,24AM6・11・12	中世 III		—	—	0.62	—	0.48	0.12				108	
21		SD49	26AJ7・12・17・22,27AJ2・7	中世 III		—	—	0.35~0.62	—	0.26	0.11					
21・22		SD54	24AE0・25,24AJ12~19・21・22,24AK11	中世 III		—	—	0.94	—	0.40	0.17					
21	56	SD226	24AJ22,25AJ2・7・12・17	中世 III		—	—	0.68	—	0.40	0.10					108

近世遺構計測表

図版No.	写真図版 No.	遺構	グリッド	時代	確認面	主軸方向		規模 (m)				深度	底面座標 (m)		形態		重複関係	遺物の有無	遺物図版No.	備考
						長軸	短軸	長軸	短軸	長軸	短軸		長軸	短軸	平面	断面				
21-70	SE6	26A14・9		近世Ⅲ	N-36°-W	0.92	0.89	0.42	0.71	2.66	0.71	2.66	U字形	6						
20-70	SE20	20AN24,21AN3・4		近世Ⅲ	N-63°-E	1.25	1.10	0.66	0.49	(1.36)	0.49	(1.36)	凹形	4					108・115	
21-70	SK1	25AI9・14・15		近世Ⅲ	N-57°-W	1.48	1.02	0.84	0.42	3.20	0.42	3.20	箱形	2					117・120	墓坑
21-71	SK2	24AI25		近世Ⅲ	N-38°-E	0.54	0.44	0.48	0.34	3.55	0.07	3.55	凹形	1						墓坑
21	SK7	26AJ20・25,26AK16・21		近世Ⅲ	N-29°-W	2.06	—	1.92	—	3.32	—	3.32	—	2						墓坑
22-70	SK8	24AI1・6		近世Ⅲ	N-67°-E	(1.94)	1.00	(1.73)	0.68	0.19	0.36	0.19	3.36	長方形	2				117	墓坑
22-70	SK9	24AI11		近世Ⅲ	N-82°-E	1.14	0.76	0.84	0.48	0.10	0.35	0.10	3.52	箱形	2					墓坑
19-70	SK10	22AM21,23AM1		近世Ⅲ	N-8°-W	2.46	1.39	1.96	1.06	0.32	1.06	0.32	3.07	長方形	3				108・117・120	墓坑
19-70	SK11	21AI3		近世Ⅲ	N-69°-W	1.00	0.63	0.80	0.46	0.15	0.33	0.15	3.30	箱形	2					墓坑
19-71	SK12	21AI3・8		近世Ⅲ	N-20°-W	0.91	0.82	0.82	0.59	0.07	0.33	0.07	3.33	凹形	1					墓坑
19-71	SK13	22AM8・9		近世Ⅲ	N-82°-W	0.74	0.60	0.56	0.48	0.10	0.34	0.10	3.49	方形	2					墓坑
19-71	SK14	20AM6		近世Ⅲ	N-40°-E	0.91	—	0.46	0.37	0.13	0.37	0.13	3.13	凹形	1					墓坑
20-72	SK15	21AN19・20・24・25		近世Ⅲ	N-77°-W	0.85	0.63	0.70	0.46	0.17	0.46	0.17	3.14	箱形	3				112・117	墓坑 底版あり
15-72	SK16	18AN14・15		近世Ⅲ	N-54°-W	1.06	0.98	0.60	0.52	0.39	0.52	0.39	2.98	凹形	2				117	墓坑
20-71	SK19	20AO22・23,21AO2・3		近世Ⅲ	N-86°-W	2.93	1.67	2.63	1.44	0.50	3.02	0.50	3.02	長方形	6				>SK48	
20-71	SK26	21AO3・6・8・10		近世Ⅲ	—	—	1.40	—	0.90	0.48	2.84	—	—	4				>SK36		
19-71	SK50	23AM7		近世Ⅲ	N-9°-W	0.66	0.36	0.32	0.18	3.18	0.22	3.18	長方形	2						
22-72	SK52	24AK6・7		近世Ⅲ	N-39°-E	0.66	—	0.32	0.30	0.28	0.28	0.32	3.22	凹形	1				112	墓坑
17-72	SK284	23AG19・24		近世Ⅲ	N-58°-E	0.76	0.75	1.78	1.44	0.05	3.09	0.05	3.09	凹形	1					
21-72	SK478	24AI6・7・11・12		近世Ⅲ	N-59°-W	1.98	1.55	1.78	1.44	0.05	3.25	0.05	3.25	箱形	1					墓坑
18-72	SK544	21AH25,22AH5		近世Ⅲ	N-2°-E	1.20	—	0.80	0.63	0.21	3.13	0.21	3.13	箱形	2				>SK545	
18-72	SK545	21AH24・25		近世Ⅲ	—	—	0.96	(1.33)	(0.68)	0.13	3.22	(0.68)	0.13	3.22	箱形	2			>SK544	
18-72	SK556	21AI1・12・16・17		近世Ⅲ	N-11°-W	1.45	1.07	0.89	0.58	0.26	3.10	0.26	3.10	箱形	3					墓坑
12-72	SK600	14AN20		近世Ⅲ	N-7°-E	1.10	0.70	0.73	0.54	0.61	2.51	0.61	2.51	箱形	6					墓坑
13-18	SK672	20AI3・17~19・22~24		近世Ⅲ	—	—	3.29	—	3.09	0.15	3.05	—	—	2						墓坑
20	SK42	22AN13・14・18・19		近世Ⅲ	N-39°-E	2.75	—	2.48	—	0.24~0.44	2.90	—	—	2						墓坑
17・18・47	SX476	22AH21~24,23AG5・10,23AH1~4・6~9・11~13・16・17		近世Ⅲ	—	—	6.47	—	6.19	0.16	3.17	—	—	1				>SK511・532,SD515・523・525・538, >SD477	102	
17-72	SX482	23AH6・7		近世Ⅲ	N-69°-W	2.20	0.85	1.93	0.44	0.13	3.19	0.13	3.19	箱形	1				102	
15-72	SD17	18AN4・5,18AO1		近世Ⅲ	N-85°-W	3.02	0.30	2.91	0.18	0.09	3.34	—	—	1						
15-72	SD18	18AN5・10,18AO1		近世Ⅲ	N-39°-E	1.95	0.27	1.79	0.16	0.05	3.35	—	—	1						
19-20	SD21	21AM19・20,21AN16~19・23・24,22AN3・4・9・14		近世Ⅲ	—	—	0.50	—	0.29	0.13	3.26	—	—	1					108	
20	SD25	20AN18~20,20AO16~20・23~25,20AP16・21		近世Ⅲ	—	—	—	—	—	0.62	0.25~0.84	—	—	2					108・114	
21-72	SD55	24AI14・15,24AJ3・4・6~9・11		近世Ⅲ	—	—	—	—	—	0.28	0.20	—	—	1					117	
17	SD293	23AG14・19		近世Ⅲ	—	—	—	—	—	0.64	2.68	—	—	4					>SD338	
17-72	SD343	23AG13・14		近世Ⅲ	N-71°-W	(1.05)	0.31	0.58	0.12	0.22	2.89	—	—	1					102	
11・14・19・45・59	SD380	17AM13・18・22・23,18AM2・3・7・8・12・17・22,19AM2・6・7・11・12・16・21,20AL10,20AM1・6・11		近世Ⅲ	—	—	0.66	—	0.35	0.18	3.03	—	—	1					>SK14・533・739・793, SX487	
17~19	SD477	21AJ23・24,22AH19・20・22~25,22AI5・8~14・16~18,22AJ1~6,22AK1・2,23AH1~3		近世Ⅲ	—	—	—	—	—	0.20~1.20	0.13	—	—	2					>SX476	104
17-72	SD480	21AG25,22AG5・10・15・20・25,23AG5		近世Ⅲ	—	—	—	—	—	0.38	2.83	—	—	1					>SX509	
11・14	SD490	16AI23,17AL2・3・7・8・12・17・22,18AL2・7・12・17・21・22		近世Ⅲ	—	—	0.30	—	0.22	0.18	3.00	—	—	1						
9・13・17~19	SD492	20AI19・20・22~24,20AI9~13・16,20AK6~8,21AH5・8~10・12・13,21AI1~3・6		近世Ⅲ	—	—	0.38	—	0.28	0.10~0.46	3.07	—	—	1						
13・18	SD493	18AI8・13・14・18・19・23・24,19AI4・9・14・18・19・22~24,20AH15・20,20AI4・5・7~9・11~13・16		近世Ⅲ	—	—	0.44	—	0.28	0.08	3.05	—	—	1						
19	P5	22AK23・24,23AK3・4		近世Ⅲ	—	—	0.34	0.27	0.28	0.09	3.38	—	—	1						
19	P23	22AMI		近世Ⅲ	—	—	0.22	0.20	0.12	0.10	0.39	—	—	2						
17	P294	23AG24		近世Ⅲ	—	—	—	—	—	0.16	2.94	—	—	1						

別表

別表2 土器観察表

出土位置：図版にすべて記載してあるため、ここでは主たる遺構名・グリッドのみ記した。

胎土：普=普通、精=精緻。

含有物：胎土内に含まれる鉱物などについて記した。石=石英粒、長=長石粒、雲=金雲母あるいは黒雲母、チ=チャート、焼=焼土粒、白=白色凝灰岩、角=角閃石、海=海綿骨針。

分類：第V章に記した。

色調：『新版 標準土色帖』（小山・竹原1967）の土色名のみ記した。

製作痕・手法：特徴的な手法のみを記し、網羅的な記載は行っていない。底部の「糸切り」「ヘラ切り」はいずれも回転台を用いたものである。回転方向は回転台の回転方向を表す。

残存率：36分割の残存率を示した。

図版No.	写真図版No.	報告書No.	出土位置		層位	種別	器種	分類	法量 (cm)			胎土		色調	製作痕・手法			残存率	付着物等		備考		
			遺構	グリッド					口径	底径	器高	状態・含有物	分類		外面	内面	底部		回転	口縁		外面	内面
73	61	1	SK584	22AH18	1	土師器	甕		19.0			普	石・長	にぶい褐	ヨコナデ	ヨコナデ		4	スス		2と同一カ		
73	61	2	SK584	22AH18	1	土師器	甕			2.4		粗	石・長・角	灰白	ハケメ	ナデ		36			1と同一カ		
73	61	3	SX125	17AQ1	1	土師器	甕		19.0			粗	長・雲・チ	にぶい橙	ナデ	ナデ		7					
73	61	4	SX299	23AG24	1	土師器	器台		(10.0)			普	石・白	明赤褐	ミガキ	ミガキ、ナデ		1			受部内外面・脚部外面赤彩		
73	61	5	SX406	16AQ21	1	土師器	甕		21.6			普	石・長・雲	灰白	ヨコナデ、ハケメ			8					
73	61	6		24AK25	IV	土師器	甕			3.4		普	石・焼	灰黄	ケズリカ	ナデカ			36		第1次調査2T		
73	61	7	SI65	17AQ19	1	須恵器	無台杯	AII	13.3	9.2	3.5	普	石・白	C 灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	3	36			
73	61	8	SI65	17AQ15	1	須恵器	無台杯	BII	13.9	10.4	3.3	普	石・長・白	A 灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナデ	右	30	36		焼成やや不良	
73	61	9	SI65	17AQ20	1	須恵器	無台杯	BII	12.0	9.6	3.3	普	石・白	C 灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ロクロナデ、ナデ	右	14	15			
73	61	10	SI65	17AQ20	1	須恵器	無台杯	AIII	11.8	7.8	3.7	精	石・白・海	C 灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	18	20		霏み有り	
73	61	11	SI65	17AR6	1	須恵器	無台杯	BII	13.0	9.2	3.2	普	石・白	C 灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		7	10		底部内面にヘラ書き焼成不良	
73	61	12	SI65	17AQ10	1	須恵器	無台杯			9.8		普	石・長・白	A ^c 灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナデ	左		14			
73	61	13	SI65	17AQ15	1	須恵器	無台杯			8.8		普	石・長	C 灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナデ	右		10			
73	61	14	SI65	17AQ18・19	1	須恵器	有台杯	AIII	11.8	5.2	4.0	普	石・長・白	C 灰	ロクロナデ、ロクロケズリ	ロクロナデ	ヘラ切り後ロクロナデ	左	10	14		底部外面にヘラ書き	
73	61	15	SI65	17AR21	1	須恵器	有台杯	AII	13.0	8.6	4.0	普	石・白	A 赤灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		7	13			
73	61	16	SI65	17AQ10	1	須恵器	有台杯	AIII	11.8	7.8	3.9	普	石・白	C 灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	14	35	漆	漆	
73	61	17	SI65	17AR17	1	須恵器	杯蓋	II	13.2		2.6	普	石	C 灰	ロクロナデ	ロクロナデ後ナデ			12		自然軸		
73	61	18	SI65	17AQ18	1	須恵器	杯蓋	II	12.8		2.8	普	石・白	A 褐灰	ロクロナデ、ロクロケズリ	ロクロナデ			右	14			
73	61	19	SI65	17AQ19	1	須恵器	杯蓋					普	石・長・白	A 灰	ロクロナデ、ロクロケズリ	ロクロナデ			右				
73	61	20	SI65	17AQ15	1	須恵器	稜椀					普	石・白	C 灰	ロクロナデ	ロクロナデ							
73	61	21	SI65	17AQ19	1		鉢			8.0		精	石・長・海	黒	ミガキ	ミガキ	ミガキ			10		内外面黒色処理	
73	61	22	SI65	17AQ15・19、17AR16	1		杯蓋		14.7		3.3	精	石・長・海	暗灰	ミガキ	ミガキ			6			内外面黒色処理	
74	61	23	SI65	17AR11	1	須恵器	横瓶					普	石・長・白	A 灰白	カキメ	同心円当て具痕、ロクロナデ、ナデ					自然軸		
74	61	24	SI65	17AQ14	1	須恵器	横瓶		10.8			普	石・白	C 褐灰	ロクロナデ	ロクロナデ			5		自然軸		
74	61	25	SI65	17AQ15	1	土師器	小甕	BII	15.0			普	石・白・角	にぶい褐	ロクロナデ、ハケメ、ナデ	ロクロナデ、カキメ、ハケメ			7	スス	コゲ	東北系カ	
74	61	26	SI103	18AO6	1	須恵器	無台杯	BII	(13.4)	10.0	3.3	粗	長・白	C 灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		2	6			
74	61	27	SI103	18AN9	1	須恵器	無台杯	AII	13.2	10.0	3.7	粗	石・白・角	A 灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		5	5			
74	61	28	SI103	18AO8	1	須恵器	甕					普	長・白	不明	灰赤	ナデ後カキメ、タタキメ後カキメ	ロクロナデ、当て具痕						
74	62	29	SI103	18AO13	1	須恵器	横瓶					普	石・長・白	不明	暗灰	タタキメ、ハケメ	当て具痕						
74	61	30	SI103	18AO6	1	須恵器	横瓶					精	チ・白	不明	灰白	タタキメ、カキメ	当て具痕				自然軸		
74	62	31	SI103	18AO2	1	土師器	小甕	B		7.8		普	石・長・チ・白	淡橙	ロクロナデ	ロクロナデ	静止糸切り			9			
74	62	32	SI103	18AO1・6~8・12	1	土師器	小甕	AII	13.4	7.5	16.9	普	石・長・白・角	橙	ヨコナデ、ハケメ、ケズリ	ヨコナデ、ナデ			12	29	スス	コゲ	
74	62	33	SI103-横土114	18AO1	2	須恵器	無台杯	BII	13.6	10.6	3.4	普	石・長・白	A にぶい黄橙	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナデ	右	30	36			
74	62	34	SI103-横土114	18AO1	1	須恵器	有台杯	AII	13.6	8.2	3.7	普	石・長・白	A 褐灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナデ	右	7	15			
74	62	35	SI108	18AO18	1	須恵器	無台杯	BIII	(10.2)	8.0	3.5	普	石・長・白	A 灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロケズリ	左	1	27	自然軸	自然軸	内外面一部打ち欠き
74	62	36	SI108	18AO18	1	須恵器	有台杯	AII	14.6	6.6	3.8	普	長・チ・白	C 灰	ロクロナデ	ロクロナデ			5	3			
74	62	37	SI108	18AO14	1	須恵器	有台杯			7.8		普	長・チ・白	C 灰白	ロクロナデ、ロクロケズリ	ロクロナデ	ヘラ切り	右		17			
74	62	38	SI108	18AO19	1	土師器	長甕	A		9.4		粗	石・長・雲・チ・白・角	淡橙	ナデ	ケズリ	無調整			9			
74	62	39	SI108	18AO9	1	土師器	小甕	AII	16.0			普	石・角	にぶい橙		ヨコナデ			3	スス	コゲ	外面器面剥落	
74	62	40	SI108-横土211	18AO8	2	土師器	長甕	B2	17.8			普	長・チ・白・角	浅黄橙	ロクロナデ、カキメ	ロクロナデ			4				
75	62	41	SI181	18AQ10	1	須恵器	有台杯			7.1		普	長・白・海	C 灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り			7			
75	62	42	SI181	18AQ8	1	須恵器	横瓶		(12.2)			普	石・長・白	C 灰白	ロクロナデ、タタキメ後カキメ	ロクロナデ、当て具痕							
75	62	43	SI181	18AR11	1	土師器	小甕	BII	14.0			普	石・長・白	橙	ロクロナデ、カキメ	ロクロナデ、カキメ			4		コゲ		
75	62	44	SI181-横土830	18AQ10	2	土師器	鍋	A1	36.0			粗	石・長・チ・白・角	灰白	ナデ、ケズリ	ナデ、ハケメ			6	スス			
75	62	45	SI181-P81	18AQ8	1	土師器	小甕	B		7.7		精	石・長・白・角	にぶい橙	ロクロナデ	ナデ	ナデ			10	スス		
75	62	46	SI207	17AP22	1	須恵器	杯蓋	I	15.5		3.4	普	石・長・海	D 褐灰	ロクロナデ、ロクロケズリ	ロクロナデ		右	36			内面にヘラ書き	
75	62	47	SI207	18AP7	1	須恵器	短頸壺			9.0		普	石・白	C 灰	ロクロナデ後ケズリ	カキメ、ケズリ	ロクロケズリ	右	19	自然軸			
75	62	48	SI207	17AP23	1	土師器	小甕	AII	(15.0)			普	石・雲・角	にぶい橙	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ			2	スス	コゲ		
75	62	49	SI451	17AP4	1	須恵器	無台杯	BII	13.9	9.7	3.8	普	石・白	C 灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナデ	右	12	26		自然軸	底部外面にヘラ書き
75	62	50	SI451	17AP15	1	須恵器	無台杯	BII	13.1	9.2	4.0	普	石・長・白	A 灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナデ	右	5	36			底部外面にヘラ書き

図版 No.	写真 No.	報告書 No.	出土位置		層位	種別	器種	分類	法量 (cm)			胎土		色調	製作痕・手法			残存率 口縁 底部	付着物等		備考				
			遺構	グリッド					口径	底径	器高	状態・含有物	分類		外面	内面	底部		回	口縁		外面	内面		
75	63	51	SI451	17AP10	1	須恵器	無台杯	A II	13.5	10.3	4.3	普	石・白	A	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	30	36	自然釉		歪み著しい	
75	63	52	SI451	17AP10	1	須恵器	無台杯	A II	13.8	10.0	4.1	普	石・白	C	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り, 板目痕	右	21	29				焼成不良
75	63	53	SI451	17AP4	1	須恵器	無台杯	B II	13.2	8.7	3.8	普	石・白	A	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り, 板目痕	右	27	36				
75	63	54	SI451	17AP20	1	須恵器	無台杯	B I	14.2	9.0	3.7	普	長・白・海	C	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	19	22				
75	63	55	SI451	17AP10	1	須恵器	無台杯	A II	13.6	9.3	3.4	普	白	C	灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナデ	右	22	30				
75	63	56	SI451	17AP15	1	須恵器	無台杯	B II	13.7	8.9	3.8	普	石・長・白	C	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナデ	右	23	36				底部外面に墨書
76	63	57	SI451	17AP20	1	須恵器	有台杯	X	15.8	9.5	7.1	普	石・長・白	C	灰	ロクロナデ, ロクロケズリ	ロクロナデ, ナデ	ヘラ切り後ロクロナデ	左	23	36	自然釉			金属器模倣
76	63	58	SI451	17AP14・20	1	須恵器	有台杯	A I	15.1	9.0	4.0	普	石・白・海	C	灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	6	22				
76	63	59	SI451	17AQ6	1	須恵器	杯蓋	I	15.7		3.5	普	石・長・白	C	灰	ロクロナデ, ロクロケズリ	ロクロナデ, ナデ		右	20					焼成不良
76	63	60	SI451	17AP20	1	須恵器	稜碗		18.0			精	石・白	不明	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ		左	3					
76	63	61	SI451	17AP20	1		黑色 碗		16.0			精	石・角		浅黄橙	ヨコナデ	ミガキ			3					内面と口縁部外面黒色処理
76	63	62	SI451	17AP9・10	1	土師器	鉢			9.3		普	石・白・角		浅黄橙	ロクロナデ, ロクロケズリ	ロクロナデ	ロクロケズリ	左	21					内外面赤彩
76	63	63	SI451	17AP5	1	土師器	鉢	B	22.4			普	石・雲・角		にぶい橙	ヨコナデ, ハケメ	ヨコナデ, ナデ			4		スス			口縁部内外面に種子圧痕
76	63	64	SI451	17AP14	1	須恵器	鉢		12.9	5.8	10.8	普	石・長・白	D	暗灰	ロクロナデ, ロクロケズリ	ロクロナデ		左	30	15	自然釉	自然釉		底部外面にヘラ書き焼け歪み有り 鉄鉢形鉢
76	64	65	SI451	17AP10	1	須恵器	短頸壺		11.6			普	石・長・白	C	灰白	ロクロナデ, タタキメ	ロクロナデ			16		自然釉			
76	64	66	SI451	17AP20	1	須恵器	甕	II	24.0			普	石・白	C	灰白	ロクロナデ, タタキメ	ロクロナデ, 当て具痕			8		自然釉	自然釉		
76	64	67	SI451	17AP10	1	土師器	長甕	C1	28.0			普	石・雲・角		浅黄橙	ロクロナデ, ハケメ	ロクロナデ, ハケメ			5		スス			
76	64	68	SI451	17AP4	1	土師器	長甕	A		8.2		普	石・長・雲・角・海		橙		ナデ	木葉痕		14		スス			
76	64	69	SI451	17AP20	1	土師器	長甕	A		9.4		普	石・長・雲・角・海		にぶい橙	ケズリ	ハケメ, ナデ	木葉痕		36		スス			
76	64	70	SI451	17AP15	1	土師器	長甕	B2 (29.7)				普	石・雲・角		浅黄橙	カキメ, ハケメ, ロクロナデ, ナデ	ロクロナデ, カキメ後ナデ, ハケメ			1		スス			
77	64	71	SI451	17AP20	1	土師器	小甕	B2 II	15.2			普	石・雲・角		にぶい橙	ロクロナデ, カキメ	ロクロナデ			8		スス			
77	64	72	SI451	17AP15	1	土師器	小甕	B		8.6		普	石・長・雲・角		灰白	カキメ, ナデ, ケズリ	カキメ, ナデ, 指頭押圧	ナデ		36		スス			
77	64	73	SI453	17AP1	1	須恵器	有台杯	A II	13.6	8.5	4.3	普	石・長	C	灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り, ロクロナデ	右	21	26	繊維状付着物			
77	64	74	SI453	17AP1	1	須恵器	杯蓋		14.8			普	石・長・白	C	灰白	ロクロナデ, ロクロケズリ	ロクロナデ		右	3					焼成不良
77	64	75	SI453	17AP1	1	須恵器	壺蓋		13.0			普	石・長・角	D	灰オリーブ	ロクロナデ	ロクロナデ			9		自然釉			天井部に沈線2条
77	64	76	SB251-P149	19AP4	1	須恵器	有台杯		13.0			普	石・白・角	C	灰	ロクロナデ, ロクロケズリ	ロクロナデ			4					
77	64	77	SB251-SK68	18AP13	1	須恵器	無台杯	B1 (14.8)	9.2	3.8		普	白	A	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		2	12				
77	64	78	SB251-SK68	18AP13	1	須恵器	杯蓋		14.6			粗	長・チ・白	A	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ			21		自然釉			
77	64	79	SB251-SK68	18AP14	1	須恵器	甕					普	石・白	不明	暗灰	タタキメ	当て具痕								
77	64	80	SB251-SK68	18AP8	1	須恵器	甕	II	28.0			普	石・白	C	灰	ロクロナデ	ロクロナデ			3					
77	64	81	SB251-SK106	18AP8	1	須恵器	杯蓋		15.6			普	石・長・白	D	灰	ロクロナデ, ロクロケズリ	ロクロナデ			4					
77	64	82	SB251-SD153	19AP1	1	須恵器	甕					普	石・チ・白	C	灰白	タタキメ	同心円当て具痕								
77	64	83	SB252-P191	18AP12	1	須恵器	有台杯	A III (12.6)	6.7	3.9		普	長・白・海	C	灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		1	11				
77	64	84	SB252-SD468	18AO5	1	須恵器	有台杯	X	13.4			精	石・長	C	灰	ロクロナデ	ロクロナデ			9					
77	64	85	SB252-SD468	18AO5	1	須恵器	有台杯			7.0		普	石・長・海	不明	灰	ロクロナデ	ロクロナデ, ナデ	ヘラ切り後ロクロナデ	左	15					
77	64	86	SB252-SD468	17AP22	1	土師器	盤		15.0			精	石・長		浅黄橙	ロクロナデ	ロクロナデ			6					内外面赤彩
77	64	87	SB252-SK136	18AP24	1	須恵器	甕					普	石・長・白	不明	黄灰	タタキメ	同心円当て具痕								
77	64	88	SB828-P366	17AR16	1	須恵器	有台杯			5.0		普	石・長・白	C	灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ナデカ		9					
77	64	89	SB828-P383	17AQ14	1	土師器	鉢		17.9	10.6	5.0	普	石・白・角		橙	ロクロナデ, ロクロケズリ	ロクロナデ	ロクロケズリ	左	5	18				内外面赤彩
77	64	90	SB828-P450	17AQ20	1		黑色 碗		14.0			普	石・角・海		灰	ミガキ	ミガキ			3					内外面黒色処理
77	64	91	SB828-P452	17AR11	1	土師器	鉢		(18.0)			普	石・白		浅黄橙	ロクロナデ	ロクロナデ			2					内外面赤彩
77	65	92	SB828-SD357	17AQ19	1	須恵器	杯蓋		14.6			普	石・長・白・海	A	灰	ロクロナデ, ロクロケズリ	ロクロナデ			19					
77	65	93	SB828-SD357	17AQ20・25	1		黑色 杯蓋		(13.8)			精	石・白		黒	ミガキ	ミガキ			2					内外面黒色処理
77	65	94	SB828-SD357	17AR17	1	土師器	長甕	C		9.4		普	石・白・角		橙	ハケメ	ハケメ, ナデ	ナデ		9		スス			
77	65	95	SB829-P160	18AP20	1	須恵器	無台杯		(12.0)			普	石・長・白	C	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ			2					焼成不良
78	65	96	SE278	17AQ22	3	須恵器	無台杯	B II	12.0	8.2	3.5	普	石・長	A	青灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	27	36				
78	65	97	SE278	17AQ23	6	須恵器	無台杯	B II	13.7	8.2	3.5	普	石・長・海	C	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ, ナデ			7	9				底部外面にヘラ書き
78	65	98	SE278	17AQ22	5	須恵器	有台杯	X (20.0)				普	石・長	不明	灰	ロクロナデ	ロクロナデ			2					焼成やや不良
78	65	99	SE278	17AQ22	3	須恵器	有台杯			8.0		精	石・長・白	A	灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り, ロクロナデ		5					
78	65	100	SE278	17AQ23	3	須恵器	杯蓋					精	石・長・白	A	灰	ロクロナデ, ロクロケズリ	ロクロナデ								
78	65	101	SE278	17AQ22	3	土師器	鉢			9.0		精	石・長・角		橙	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	左	36		スス			
78	65	102	SE278	17AQ23	3	土師器	小甕	B		8.0		粗	石・長・雲		淡赤橙	ロクロナデ, ロクロケズリ	ロクロナデ, カキメ	ヘラ切り	右	24		スス			

別 表

図版 No.	写真 図版 No.	報告 書 No.	出土位置		層位	種別	器種	分類	法量 (cm)			胎土		色調	製作痕・手法			残存率		付着物等		備考			
			遺構	グリッド					口径	底径	器高	状態・含有物	分類		外面	内面	底部	回転	口縁	底部	外面		内面		
																								右	左
78	65	103	SE388	17AQ13	1	須恵器	無台杯	AⅡ	12.4	8.6	3.8	普	石・長・白	C	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	34	36			内外面使用痕著 焼成やや不良	
78	65	104	SE388	17AQ13	1	須恵器	有台杯	AⅢ	12.6	7.2	3.4	精	石・長・雲	C	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ		6	7				
78	65	105	SE388	17AQ13	1	須恵器	杯蓋	I	17.3		3.6	普	石・長	C	赤褐色	ロクロナデ、ロクロナズリ	ロクロナデ、ナデ		右	13					
78	65	106	SK29	22AM25	2	須恵器	壺蓋		(11.4)			精	長・白	C	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ							自然釉	
78	65	107	SK30	22AM25	1	黒色	鉢			8.4		精	石・長・雲・白・角・海		にぶい橙	ロクロナデ、ロクロナズリ	ロクロナデ後ミガキ	ケズリカ			14				内面黒色処理
78	65	108	SK32	22AN17・22	2	須恵器	無台杯	BⅡ	12.6	9.1	3.0	普	石・長・白	C	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナデ		16	36			底部外面にヘラ書き	
78	65	109	SK48	21A04	1	須恵器	無台杯			10.6		普	石・長・白	不明	灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナデ			7				底部外面にヘラ書き
78	65	110	SK48	21A03・4	1	土師器	小甕	AⅡ	14.0			普	石・長・白		明赤褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ナデ			23	スス	コゲ		東北系カ	
78	65	111	SK48	21A03	1	土師器	小甕	BⅡ	16.0			普	石・長・白・角		にぶい橙	ロクロナデ	ロクロナデ			15				胴部内面に刻線カ	
78	65	112	SK53	23AM23	1	須恵器	無台杯	AⅡ	13.2	9.6	3.5	普	石・白	A	褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	36	36				
78	65	113	SK53	23AM23	1	須恵器	杯蓋	Ⅱ	13.3		2.9	粗	石・長・白	A	褐色	ロクロナデ、ロクロナズリ	ロクロナデ			36					
78	65	114	SK53	23AM19・23	1	土師器	球胴甕		27.0			粗	石・長・白・角・海		灰黄褐色	ヨコナデ、ナデ、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ、ナデ			3	スス			佐渡型	
78	65	115	SK53	23AM19	1	土師器	小甕	BⅡ	13.2	6.6	(13.5)	普	石・長・白・角		浅黄褐色	ロクロナデ、カキメ、ケズリカ	ナデ	ナデ		10	24	スス			
78	66	116	SK74	19AP12	1	須恵器	壺蓋		(12.0)			普	石・白	C	灰	ロクロナデ、ロクロナズリ	ロクロナデ			1					
78	66	117	SK74	19AP16	1	土師器	長甕	B2	24.0			普	石・長・白・角		浅黄褐色	ロクロナデ	ロクロナデ			3					
79	66	118	SK79	19AQ6	1	須恵器	有台杯	X	16.4			普	石・白	C	灰	ロクロナデ	ロクロナデ			4				痕著 焼成やや不良	
79	66	119	SK79	19AQ6・7	1	土師器	小甕	A		10.6		普	石・長・白・角		にぶい橙	ナデ	ハケメ				12				
79	66	120	SK85	20AP7	1	土師器	小甕	B		10.7		精	石・白		浅黄褐色	ロクロナデ	ロクロナデ				5				
79	66	121	SK90	19AO1	1	須恵器	無台杯	AⅡ	13.6	10.2	3.7	粗	石・白	C	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		8	10				
79	66	122	SK90	19AO1	1	須恵器	壺蓋		(11.6)			粗	石・白	A	灰	ロクロナデ、ロクロナズリ	ロクロナデ			1				自然釉	
79	66	123	SK90	19AO1	1	土師器	長甕	C		8.9		普	石・長・白・角		浅黄褐色	ケズリ	ナデ	ヘラ切り後ナデ			27				
79	66	124	SK104	18AP15	1	須恵器	有台杯			6.0		精	石・長	C	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り			7				
79	66	125	SK107	18AP8	1	須恵器	有台杯	BⅢ	12.8	6.6	5.2	粗	石・長・白	A	灰白	ロクロナデ、ロクロナズリ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	18	36			外面ヒダスキ痕	
79	66	126	SK118	19AO15	1	須恵器	短頸壺		10.0			普	石・長・白	A	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ			14				自然釉	
79	66	127	SK131	17AP24、18AP5	1	須恵器	無台杯	BⅡ	12.2	7.2	3.7	普	石・長・白	C	灰	ロクロナデ	ロクロナデ			8	6				
79	66	128	SK131	18AP5	1	須恵器	横瓶					粗	石・長・白	C	灰白	タタキメ後カキメ	ロクロナデ、ナデ								
79	66	129	SK139	18AQ21、19AQ1	1	土師器	小甕	BⅡ	15.8			普	長・白		にぶい橙	ロクロナデ、カキメ	ロクロナデ、カキメ			10	スス	コゲ			
79	66	130	SK145	18AQ19	1	須恵器	有台杯			8.2		普	長・雲・白・角	C	灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り			10				
79	66	131	SK145	18AQ19	1	須恵器	甕					普	石・白	C	灰白	タタキメ	当て具痕								
79	66	132	SK146	19AO20	1	須恵器	無台杯			9.5		普	石・白	A	灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	28				内外面ヒダスキ痕	
79	66	133	SK166	18AP21	2	須恵器	無台杯			9.6		普	石・長・白・海	A	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り			8				
79	66	134	SK182	19AN3	1	須恵器	甕					普	白	C	灰白	タタキメ	当て具痕							自然釉	
79	66	135	SK215	17AP23	1	土師器	小甕	B		7.0		普	石・長・白		にぶい橙	ロクロナデ	ロクロナデ			5	スス			自然釉	
79	66	136	SK220	17AP17	1	須恵器	有台杯		12.8			普	白	C	灰	ロクロナデ	ロクロナデ			5					
79	66	137	SK220	17AP17	1	須恵器	壺・瓶類			9.0		粗	長・白	C	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り			7				
79	66	138	SK220	17AP17	1	土師器	小甕	B		7.0		普	石・長・白・角		浅黄褐色	ロクロナデ	カキメ、ロクロナデ	ナデ			11				外面に墨書
80	66	139	SK228	24AJ11	1	土師器	長甕	AⅡ				精	雲・角・白・海		橙	ロクロナデ、ハケメ	ハケメ							西古志型	
80	66	140	SK281	17AR11・17	1	須恵器	無台杯	AⅡ	(13.5)	9.0	3.4	粗	石・長・白	A	青灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	1	11				焼成やや不良
80	66	141	SK281	17AR7	1	須恵器	無台杯	BⅡ	13.4	10.0	3.2	普	石・白	C	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		5	8				
80	66	142	SK281	17AR13	1	須恵器	杯蓋		13.1			普	石・白	C	灰	ロクロナデ、ロクロナズリ	ロクロナデ		右	7				自然釉	
80	66	143	SK281	17AR7	1	黒色	鉢		(18.0)			精	石・長		灰	ロクロナデ	ロクロナデ、ミガキ			2				内外面黒色処理	
80	66	144	SK282	17AR18	1	須恵器	有台杯			(9.0)		普	白・海	C	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ロクロナデ		1				焼成やや不良	
80	67	145	SK285	17AR13	1	須恵器	有台杯			7.2		普	石・白	A	にぶい橙	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り、ロクロナデ			9				焼成不良
80	67	146	SK285	17AR13	1	須恵器	杯蓋		19.0			普	石・白	C	灰	ロクロナデ	ロクロナデ			5				自然釉	
80	67	147	SK285	17AR13	1	土師器	鉢			8.0		普	石・長・角・海		浅黄褐色	ロクロナデ、ロクロナズリ	ロクロナデ		左	5				内外面赤彩	
80	67	148	SK285	17AR13	1	土師器	小甕	BⅠ	(19.0)			普	石・長		にぶい橙	ロクロナデ	ロクロナデ			1				コゲ	
80	67	149	SK285	17AR13	1	土師器	鉢					普	石・長・角		浅黄褐色	ナデ	ナデ							把手	
80	67	150	SK298	23AG13	1	須恵器	有台杯	X	15.0			普	石・白	A	灰	ロクロナデ	ロクロナデ			10					
80	67	151	SK298	23AG13	1	須恵器	有台杯	BⅣ	10.3	5.8	4.1	普	石・白	A	灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	10	23	自然釉	自然釉		
80	67	152	SK298	23AG14	1	土師器	小甕	BⅢ	15.8			普	石・長・白		灰白	ロクロナデ、カキメ	ロクロナデ			6				コゲ	
80	67	153	SK333	22AG17	1	須恵器	無台杯	BⅡ	(12.8)	9.8	3.3	普	石・長・白	A	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		2	22				
80	67	154	SK333	22AG22	1	須恵器	杯蓋		17.4			普	石・白	C	灰白	ロクロナデ、ロクロナズリ	ロクロナデ		右	10				外面ヒダスキ痕	
80	67	155	SK333	22AG22	1	須恵器	杯蓋	Ⅱ	12.8		3.1	普	石・白	D	灰白	ロクロナデ、ロクロナズリ	ロクロナデ		右	23					
80	67	156	SK335	23AG9	1	土師器	長甕	B				普	石・長・角		橙	タタキメ	ハケメ、指頭押圧				36				
80	67	157	SK336	17AQ3	1	須恵器	無台杯	BⅡ	(13.9)	9.8	3.5	普	石・白	C	灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		2	4				
80	67	158	SK341	17AQ13	1	須恵器	無台杯	BⅡ	(13.8)	9.8	3.3	普	石・海	C	明青灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナデ	右	1	9				
80	67	159	SK341	17AQ13	1	土師器	無台杯			10.0		普	石・白・海		橙	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	12					
80	67	160	SK341	17AQ13	1	土師器	有台杯		12.4	7.0	5.2	普	石・長・白		橙	ロクロナデ	ロクロナデ、ロクロナズリ		左	12	18			内外面赤彩	
80	67	161	SK341	17AQ14	1	土師器	鉢	A	20.0																

図版 No.	写真 図版 No.	報告 書 No.	出土位置		層位	種別	器種	分類	法量 (cm)			胎土		色調	製作痕・手法			残存率 口縁 底部	付着物等		備考			
			遺構	グリッド					口径	底径	器高	状態・含有物	分類		外面	内面	底部		回転	外面		内面		
																							外面	内面
80	67	163	SK341	17AQ14	1	須恵器	甕	Ⅲ	21.8			普	石・白	C	灰	ロクロナデ、 タタキメ	ロクロナデ、 当て具痕		5		自然釉	自然釉		
81	67	164	SK341	17AQ13	1	土師器	長甕	B2	22.0			普	石・白・角		橙	ロクロナデ、 カキメ	ロクロナデ		6					
81	67	165	SK341	17AQ13	1	土師器	小甕	A1Ⅱ (14.2)				普	石・長・白		灰白	ヨコナデ、ナ デ	ヨコナデ、ナ デ		2					
81	67	166	SK341	17AQ14	1	土師器	小甕	A1Ⅲ	12.0			普	石・角・海		橙	ヨコナデ、指 頭押圧	ヨコナデ、ハ ケメ		5					
81	67	167	SK341	17AQ13	1	土師器	小甕	A1Ⅲ	11.8			普	石・長・角		褐灰	ヨコナデ、ハ ケメ	ヨコナデ、ナ デ		4	スス	コゲ			
81	67	168	SK341	17AQ13	1	土師器	小甕	B2Ⅱ	15.0			普	石・長・チ		にぶい橙	ロクロナデ	ロクロナデ		8	スス	コゲ			
81	67	169	SK341	17AQ14	1	土師器	小甕	B3Ⅱ	16.0			普	石・長		にぶい橙	ロクロナデ	ロクロナデ、 ケズリ		4	スス	コゲ	胴部外面の 器面剥落		
81	67	170	SK346	17AQ12	1	須恵器	無台杯	BⅡ	13.0	8.6	3.2	普	石・白・海	A	灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナ デ	右	5	16			焼成やや不 良
81	67	171	SK346	17AQ12	1	須恵器	杯蓋	I	14.2		1.3	普	石・長	C	灰	ロクロナデ、 ロクロナズリ	ロクロナデ		左	12		自然釉		
81	67	172	SK346	17AQ12	1	土師器	小甕	B2Ⅱ	15.6			普	石・長・海		明褐灰	ロクロナデ	ロクロナデ		5	スス、 コゲ	コゲ			
81	67	173	SK350	17AQ13	1	土師器	長甕	B2	25.0			普	石・長・角		浅黄橙	ロクロナデ、 カキメ	ロクロナデ、 カキメ		5					
81	67	174	SK350	17AQ13	1	土師器	小甕	B1Ⅱ	16.0			普	石・角・海		橙	ロクロナデ	ロクロナデ		5	スス				
81	67	175	SK352	17AP23・24	1	土師器	長甕	B1	22.0			普	石・雲・角		橙	ロクロナデ、 ハケメ後カキ メ	ロクロナデ、 カキメ		4					
81	67	176	SK352	17AP23・24	1	土師器	小甕	A1Ⅱ (12.6)				普	石・雲・角		にぶい黄 橙	ヨコナデ、ハ ケメ、ナデ	ヨコナデ、ハ ケメ		2	スス	コゲ			
81	67	177	SK353	17AP22	1	須恵器	杯蓋	I	15.0		2.7	普	石・白	C	灰	ロクロナデ、 ロクロナズリ	ロクロナデ		右	29				
81	67	178	SK356	16AQ24	1	須恵器	杯蓋		14.6			普	石・長・海	C	青灰	ロクロナデ、 ロクロナズリ	ロクロナデ、 ナデ		右	4				
81	67	179	SK356	16AQ24	1	土師器	小甕	A1Ⅱ	16.0			普	石・雲・角		にぶい橙	ヨコナデ、ハ ケメ	ヨコナデ、ハ ケメ		7	スス	コゲ			
81	67	180	SK356	16AQ24、 17AQ4	1	土師器	鉢	B (28.0)				普	石・雲		浅黄橙	ヨコナデ、ナ デ、指頭押圧	ヨコナデ、ハ ケメ		1					
81	67	181	SK363	20AE15	1	土師器	長甕	B2	21.7			普	石・長・雲・ 角		にぶい赤 褐	ロクロナデ、 カキメ後ケズ リ	ロクロナデ		10					
81	67	182	SK400	17AQ13	1	須恵器	無台杯	BⅠ (14.2)		8.0	3.2	普	石・白	C	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	1	8			焼成不良
81	67	183	SK413	16AM12	1	須恵器	無台杯			8.3		普	白	B	灰白	ロクロナズリ	ロクロナデ	ヘラ切り後ロ クロナズリ	左	25				打ち欠き
82	60・ 68	184	SK419	18AM1	2	須恵器	無台杯	AⅡ	13.2	9.6	3.6	普	石・白	C	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	35	36	スス、 油煙	スス、 油煙	焼成不良
82	60・ 68	185	SK419	18AM1	2	須恵器	無台杯	BⅡ	12.0	7.7	4.0	普	石・白	C	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	29	36		油煙	焼成不良
82	68	186	SK419	18AM2	1	須恵器	無台杯	BⅢ	11.8	8.4	3.2	普	白	C	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ロ クロナデ、ナ デ	右	31	36			焼成不良 種実痕カ (内面底部)
82	68	187	SK419	18AM1	2	須恵器	無台杯	BⅢ	11.0	8.0	3.6	普	石・長・白	C	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	36	36			
82	60・ 68	188	SK419	18AM1・2	2	須恵器	有台杯	BⅠ	15.1	8.6	8.0	普	長・白	A	暗灰	ロクロナデ、 ロクロナズリ	ロクロナデ、 ナデ	ヘラ切り後ロ クロナデ	右	36	36		自然釉	
82	60・ 70	189	SK419	18AM2	2	須恵器	杯蓋	I	17.0		3.4	普	石・長・白	A	灰	ロクロナデ、 ロクロナズリ	ロクロナデ		右	29		自然釉		
82	70	190	SK419	18AM2	2	須恵器	杯蓋	I	16.4		2.5	普	白	A	灰	ロクロナデ、 ロクロナズリ	ロクロナデ		右	23		自然釉		意図的に破 砕カ
82	70	191	SK419	18AM1	2	須恵器	杯蓋	I	16.6		4.6	普	石・長・白	A	灰	ロクロナデ、 ロクロナズリ	ロクロナデ		左	36				
82	70	192	SK419	18AM1	2	須恵器	杯蓋	Ⅱ	12.0		2.6	普	石・白	A	灰	ロクロナデ	ロクロナデ		36		自然釉			
82	60・ 68	193	SK419	18AM1	2	須恵器	高杯		24.0	13.0	16.4	普	石・長・白	A	灰白	ロクロナデ、 ロクロナズリ	ロクロナデ、 ナデ		左	32	34			やや歪み有 り
82	60・ 68	194	SK419	18AM2	1	須恵器	高杯		24.0	13.0	17.1	普	石・白	A	灰	ロクロナデ、 ロクロナズリ	ロクロナデ、 ナデ		左	36	32			歪み有り
83	60・ 69	195	SK419	18AM1・2	2	須恵器	横型 環状瓶		10.2	18.2	19.7	普	石・長・白	A	灰	ロクロナデ	ロクロナデ	タタキメ、ナ デ		35	36			鳥足を模し た脚が3本 付く・脚部 に刷圧痕 製作工程明 瞭
84	60・ 70	196	SK419	18AM1	2	須恵器	長頸瓶		5.0	7.2	16.5	普	石・白	A	灰	ロクロナデ、 ナデ、ロクロ ナズリ	ロクロナデ、 ナデ	ロクロナズ リ、ロクロナ デ	左	36	36	自然釉	自然釉	割れ方特徴 的
84	60・ 70	197	SK419	18AM1	2	須恵器	甕		10.2	6.7	12.7	普	石・白	D	灰	ロクロナデ、 ケズリ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	36	36	自然釉	自然釉	割れ方特徴 的
84	60・ 70	198	SK419	18AM1・2・ 6・7	1	須恵器	鉢		19.0	8.5	10.4	普	石・長・白	C	灰白	ロクロナデ、 カキメ後ケズ リ	ロクロナデ、 カキメ、ナデ	ロクロナズ リ	34	36			焼成不良 鉄鉢形鉢	
84	70	199	SK419	18AM1	1	土師器	鉢	B	25.2	10.7	12.9	普	石・長・雲・ チ・白・角		橙	ロクロナデ、 ケズリ	ロクロナデ、 指頭押圧	ナデ	10	36			全体的に磨 耗 銅形鉢	
84	70	200	SK419	18AM2	2	土師器	小甕	B2Ⅱ	16.5	(9.8)	14.6	普	石・チ・白・ 角		にぶい橙	ロクロナデ、 ケズリ	ロクロナデ、 カキメ		19	1				
84	70	201	SK419	18AM1	2	土師器	小甕	B1Ⅱ	14.0	8.2	14.0	普	石・長・白		浅黄橙	ロクロナデ、 カキメ、ロク ロナズリ	ロクロナデ、 カキメ		右	26	18			
84	70	202	SK419	18AM2	2	土師器	小甕	B2Ⅱ	14.5	7.4	13.5	普	石・雲・白・ 角		灰白	ロクロナデ、 カキメ、ナデ、 ケズリ	ロクロナデ	ナデ	10	28				
84	60・ 70	203	SK419	18AM1	1	土師器	小甕	B1Ⅲ	10.3	5.3	9.5	普	石・白・角		浅黄橙	ロクロナデ、 カキメ、ロク ロナズリ	ロクロナデ	糸切り	右	27	36			
84	70	204	SK419	18AM1	2	土師器	小甕	B3Ⅲ	11.3	4.1	8.2	普	石・長・白・ 海		橙	ロクロナデ、 ケズリ	ロクロナデ、 ナデ	ナデ	4	36		コゲカ		
84	70	205	SK444	17AQ15	1	須恵器	無台杯	BⅡ	13.6	8.0	3.9	普	石・白	C	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	7	8				
84	70	206	SK444	17AQ10	1	須恵器	有台杯	AⅡ	14.2	9.0	3.9	普	石・白・海	A	灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	3	5				
84	70	207	SK444	17AQ15	1	土師器	小甕	B1Ⅱ	13.0			普	石・長・雲・ 角		にぶい橙	ロクロナデ	ロクロナデ		4		スス	コゲ		
85	71	208	SK455	17AP15・20	1	須恵器	無台杯	BⅠ	14.0	10.5	3.3	普	石・長・白	A	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	35	36			焼成不良
85	71	209	SK455	17AP20	1	須恵器	無台杯	AⅡ	13.2	8.7	4.0	普	石・長・白・ 海	A	青灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナ デ	右	23	25			内外面ヒダ スキ痕
85	71・ 91	210	SK455	17AP20	1	須恵器	無台杯	BⅡ	13.8	9.2	3.6	普	石・白	A	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	29	36			杯部内面に ヘラ書き 焼成不良

別 表

図版 No.	写真 図版 No.	報告 書 No.	出土位置		層位	種別	器種	分類	法量 (cm)			胎土		色調	製作痕・手法			残存率		付着物等		備考			
			遺構	グリッド					口径	底径	器高	状態・含有物	分類		外面	内面	底部	回転	口径	底径	外面		内面		
																								口径	底径
85	71	211	SK455	17AP14・20	1	須恵器	有台杯	X	17.5	8.6	8.6	普	石・白・海	C	赤灰	ロクロナデ, ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	右	14	31			杯部・底部 外面にヘラ 書き	
85	71	212	SK455	17AP14	1	須恵器	杯蓋		16.6			普	石・長	C	灰	ロクロナデ, ロクロナデ	ロクロナデ		右	6		自然軸			
85	71	213	SK455	17AP15	1	須恵器	杯蓋	I	14.4		2.9	普	石・白	C	灰	ロクロナデ, ロクロナデ	ロクロナデ後 中央ナデ		右	29		自然軸			
85	71	214	SK455	17AP20	1	須恵器	杯蓋					普	石・長・白	C	灰	ロクロナデ, ロクロナデ	ロクロナデ		右			自然軸			
85	71	215	SK455	17AP20	1	土師器	長甕	A1	27.0			普	石・雲・白		にぶい黄 橙	ヨコナデ, ハケメ	ヨコナデ, ハケメ			3					
85	71	216	SK455	17AP15・20	1	土師器	長甕	A		7.6		普	石・長・海		橙	ハケメ	ハケメ, ナデ	木葉痕		9					
85	71	217	SK455	17AP20	1	土師器	長甕	B2	21.6			普	石・白・角		浅黄橙	ロクロナデ, カキメ	カキメ, ロク ロナデ			4					
85	71	218	SK455	17AP14・19	1	土師器	小甕	B1II	16.0			普	石・長・角		浅黄橙	ロクロナデ	ロクロナデ		6		スス	コゲ			
85	71	219	SK460	17AP15	1	須恵器	無台杯	AII	13.3	7.1	3.6	普	石・長・白	A	青灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナ デ	右	9	36				
85	71 91	220	SK460	17AP15	1	須恵器	無台杯	BII	(12.4)	8.0	3.7	普	石・長・白	A	灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	1	36			底部外面に ヘラ書き	
85	71	221	SK460	17AP15	1	黒色	短頸壺		10.0	(10.2)	(17.8)	精	石・長・白・ 海		黒	ミガキ	ミガキ			35				内外面黒色 処理 高台 剥落	
85	70	222	SK462	17AP18	1	須恵器	有台杯	X	(18.0)			精	石・長	C	灰	ロクロナデ	ロクロナデ			2					
85	70	223	SK466	17AO24	1	須恵器	無台杯	B I	(14.0)	10.0	3.0	普	石・白	C	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	2	7			焼成不良	
85	70	224	SK466	17AO22	1	須恵器	杯蓋		14.2			普	石・白	A	灰白	ロクロナデ, ロクロナデ	ロクロナデ		右	4					
86	71	225	SK470	17AO13	1	須恵器	無台杯	BII	13.0	8.6	3.4	普	石・白	C	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		6	14			焼成やや不 良	
86	71	226	SK470	17AO13	1	須恵器	有台杯			9.6		普	石・長・白	C	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り, ロ クロナデ		4				焼成不良	
86	71	227	SK472	16AP22	1	須恵器	無台杯	BII	12.8	8.5	3.5	普	石・白	C	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナ デ		7	15				
86	71	228	SK472	16AP22	1	須恵器	有台杯		16.0			普	石・長	C	灰	ロクロナデ	ロクロナデ			4					
86	71	229	SK472	16AP22	1	須恵器	有台杯		12.0			普	石・白	C	青灰	ロクロナデ	ロクロナデ			5					
86	71	230	SK472	16AP22	1	土師器	無台杯		12.4	8.4	4.2	普	石・雲・チ		浅黄橙	ロクロナデ, ケズリ	ロクロナデ	ナデ		19	35	スス			
86	71	231	SK472	16AP22	1	黒色	椀			8.0		精	石・海		灰	ミガキ	ミガキ			6				内外面黒色 処理	
86	71	232	SK472	16AP22	1	須恵器	甕	I	61.0			普	石・長・白	A	灰	ロクロナデ	ロクロナデ			7		自然軸	自然軸	口縁部外面 に波状文	
86	71	233	SK472	16AP22	1	須恵器	甕	III	20.0			普	石・長	A	青灰	ロクロナデ	ロクロナデ			4		自然軸	自然軸		
86	71	234	SK472	16AP22	1	土師器	長甕	B2	23.4			普	石・長・角		浅黄橙	ロクロナデ	ロクロナデ			5					
86	71	235	SK472	16AP22	1	土師器	小甕	B1II	14.0			普	石・角・海		にぶい褐	ロクロナデ, カキメ	ロクロナデ, カキメ			4		スス	コゲ		
86	72	236	SK488	17AL23・24	3	須恵器	無台杯	AII	12.5	8.3	3.2	普	石・長・白	A	青灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ロ クロナデ	右	28	36				
86	72	237	SK488	17AL22・23, 18AL3	3	須恵器	壺・ 瓶類			11.6		普	石・長・海	C	灰	タタキメ, カ キメ, ケズリ	ロクロナデ, ナデ	ケズリ, 内外 爪の痕跡カ			15				底部内面に ヒダスキ痕カ
86	72 91	238	SK488	17AL23, 18AL3	3	須恵器	横瓶		11.5		23.6	普	石・白	C	灰	ロクロナデ, タタキメ, カ キメ	ロクロナデ, タタキメ, カ キメ	当て具痕			36		自然軸	自然軸	口縁部内面 にヘラ書き
87	73	239	SK488	17AL23	2	須恵器	甕	I	54.8		79.8	普	石・長・白	A	灰白	ロクロナデ, タタキメ	ロクロナデ, タタキメ			34				口縁部外面 に波状文 頸部布痕	
88	74	240	SK499	17AM11	1	土師器	長甕	B3	21.0		(30.0)	普	石・長・雲・ 白		橙	ロクロナデ, タタキメ	ロクロナデ, ハケメ, 指頭 押圧			5					
88	74	241	SK530	22AH1	1	須恵器	無台杯	AII	12.0	7.5	3.4	普	石・白	C	青灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	13	29	自然軸	自然軸		
88	74	242	SK532	22AH23	1	須恵器	無台杯	AIII	11.6	7.4	3.3	普	石・白	B	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	17	22				
88	74	243	SK532	22AH23	1	須恵器	無台杯	AIII	11.2	7.8	3.6	普	石・白	C	灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り, ナ デ	左	17	36				
88	74	244	SK533	17AM17	1	土師器	長甕	B3	24.0			普	石・長・雲・ 焼・白・角		浅黄橙	ロクロナデ, カキメ, ケズ リ, タタキメ	カキメ後ロク ロナデカ, カ キメ, 当て具 痕, ロクロナ デ, ハケメ			19					
88	74	245	SK543	17AM12・13	1	土師器	壺蓋		12.2		4.2	普	石・長・角・ 海		橙	ロクロナデ, ロクロナデ	ロクロナデ		右	4				外面赤彩 (一部残存) 246とセツ ト 内面わ ずかに還元	
88	74	246	SK543	17AM12	1	土師器	短頸壺		10.0	12.2	16.9	普	石・長・海		橙	ロクロナデ, ミガキ	ロクロナデ, カキメ, ナデ	ヘラ切り		23	20			外面赤彩 245とセツ ト 口縁一 部還元	
88	74	247	SK543	17AM12	1	土師器	小甕	B1III	10.9	6.2	8.9	普	石・長・角・ 海		灰白	ロクロナデ, ナデ, ロク ロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	15	18				
88	74	248	SK543	17AM13	1	土師器	鍋	B4	41.8			粗	石・長・雲・ 角		橙	ロクロナデ, ケズリ, タタ キメ	ロクロナデ, 当て具痕			27					
89	74	249	SK546	22AH8	1	須恵器	無台杯	BII	12.4	8.8	3.1	普	石・白	A	灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り, ナ デ	右	13	36				
89	74	250	SK546	22AH12	1	須恵器	有台杯			5.6		普	白	B	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	33					
89	74	251	SK546	22AH12	1	須恵器	杯蓋		13.9			普	白	C	灰白	ロクロナデ, ロクロナデ	ロクロナデ		右	6				焼成不良	
89	74	252	SK546	22AH12	1	須恵器	杯蓋	II	11.7		3.1	普	石・白	A	灰	ロクロナデ, ロクロナデ	ロクロナデ		右	16					
89	75	253	SK546	22AH7・12・ 13	1	土師器	長甕	B2	21.8			普	石・長・雲・ 角		浅黄橙	ロクロナデ, カキメ, ハケ メ, ナデ, ケ ズリ, タタキ メ	ロクロナデ, カキメ, ハケ メ, ナデ, 当 て具痕			9		スス			
89	74	254	SK546	22AH17	1	土師器	長甕	B1	20.6			普	石・長・焼・ 角・海		橙	ロクロナデ	カキメ			4					
89	75	255	SK546	22AH7・8・ 12	1	土師器	長甕	B1	19.0			普	石・長・焼・ 白・角		橙	ロクロナデ, カキメ, ナデ	カキメ, ロク ロナデ			13		スス			
89	74	256	SK546	22AH12	1	土師器	小甕	B2II	15.4			普	石・長・角		橙	ロクロナデ, カキメ	カキメ			9		スス	コゲ		
89	75	257	SK547	22AH13	1	須恵器	有台杯	B I	15.7	10.3	6.7	普	白	D	灰	ロクロナデ, ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	右	4	14				
89	75	258	SK553	22AH3	1	須恵器	無台杯	B I	14.4	9.2	4.0	普	石・白	C	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		6	10			焼成やや不 良	

図版 No.	写真 No.	報告 書 No.	出土位置		層位	種別	器種	分類	法量 (cm)			胎土		色調	製作痕・手法				残存率 口縁 底面	付着物等		備考		
			遺構	グリッド					口径	底径	器高	状態・含有物	分類		外面	内面	底部	回転		外面	内面			
89	75	259	SK553	22AH2~4	1	須恵器	無台杯	BII	12.3	8.4	3.4	普	石・白	C	灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	9	20			
89	75	260	SK553	22AH2・3・8	1	須恵器	無台杯	AII	13.0	10.0	3.8	普	石・長・白	A	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り, ナ デ	右	20	23			焼成や不良 内外面ヒダスキ痕
89	75	261	SK553	22AH2	1	土師器	長甕	B2	20.0			普	石・長・雲・ 焼		浅黄橙	ロクロナデ, カキメ	ロクロナデ			3				
89	75	262	SK576	17AM2	1	須恵器	無台杯	BII	12.0	8.8	3.3	普	石・白	B	灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	14	20			
89	75	263	SK581	22AH25	1	土師器	無台碗		(14.0)			普	石・チ・白		橙	ロクロナデ	ロクロナデ			2				
89	75	264	SK584	22AH18	1	須恵器	無台杯	BIII	11.4	7.0	3.3	普	石・白	C	灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナ デ	左	33	36			やや歪み
89	75	265	SK584	22AH18	1	土師器	無台碗		(12.6)	5.2	(4.5)	普	石・長		にぶい橙	ロクロナデ	ロクロナデ	ナデ		2	30			
89	75	266	SK584	22AH19	1	土師器	鉢	C	7.0	4.0	3.5	普	石・白・角・ 海		灰白	ヨコナデ, ナ デ, ハケメ	ヨコナデ, ナ デ			5	12			
90	75	267	SK585	22AH14	1	土師器	小甕	B2II	15.0			普	石・長・白・ 角		橙	ロクロナデ	ロクロナデ, カキメ			5		スス		
90	75	268	SK589	16AP17	1	須恵器	無台杯	A I	14.0	10.4	3.9	普	石・白	C	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	17	36			焼成不良
90	75	269	SK589	16AP17	1	須恵器	無台杯	B I	14.0	8.6	3.2	普	石・長・白	A	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		5	10			
90	75	270	SK589	16AP17	1	須恵器	有台杯	AII	14.4	9.0	4.0	普	石・長・白	A	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ			9	5			焼成や不良
90	75	271	SK589	16AP17	1	須恵器	杯蓋		14.2			普	石・白	A	青灰	ロクロナデ, ロクロナズリ	ロクロナデ		右	26				外面ヒダスキ キ痕
90	75	272	SK589	16AP17	1	土師器	長甕	C1	23.0			普	石・長・雲		橙	ロクロナデ	ロクロナデ			5				
90	75	273	SK589	16AP17	1	土師器	小甕	B1 I	17.0			普	石・長・チ		明褐色	ロクロナデ, カキメ	ロクロナデ, カキメ			6		スス	コゲ	
90	75	274	SK602	17AP20	1	須恵器	無台杯	BII	12.8	9.5	3.7	普	石・白	D	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	29	36			外面ヒダスキ キ痕
90	75	275	SK616	18AN3	1	土師器	小甕	AII	12.0	6.6	15.0	普	石・長・雲・ 海		にぶい赤 褐	ハケメ, ケズ リ				4	24		スス	
90	76	276	SK617	17AN24	1	土師器	長甕	A1	(24.8)			普	石・長・雲・ 角		灰白	ヨコナデ, ハ ケメ	ヨコナデ, ハ ケメ			1				
90	76	277	SK624	22AH9	1	土師器	長甕	B1	21.0			普	石・長・雲・ 白・角		浅黄橙	ロクロナデ, タタキメ, カ キメ	ロクロナデ, カキメ			8				
90	76	278	SK631	22AH25	1	須恵器	無台杯	BII	13.8	10.6	3.1	普	石・長・白	A	灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		3	14			
90	76	279	SK631	22AH25, 23AH5	1	須恵器	杯蓋	II	12.0		3.0	普	石・白	B	灰白	ロクロナデ, ロクロナズリ	ロクロナデ		左	26				
90	76	280	SK631	23AH4・5	1	土師器	有台杯			7.2		精	石・長・白		橙	ロクロナデ	ロクロナデ			4		漆		
90	76	281	SK647	21AH13	2	土師器	無台碗		(14.0)			普	石・長		橙	ロクロナデ	ロクロナデ			1				
90	76	282	SK647	21AH13・18	1	土師器	鍋	B5	38.0			粗	石・長・雲・ 焼・角		浅黄橙	ロクロナデ, ケズリ, タタ キメ, カキメ	ロクロナデ, 当て具痕			17		スス		
90	76	283	SK654	22AH9	1	土師器	長甕	B2	22.0		(33.0)	普	石・長・雲・ 白		にぶい橙	ロクロナデ, カキメ, タタ キメ	ロクロナデ, 当て具痕			12	27	スス		
90	76	284	SK654	22AH9	1	土師器	小甕	B		6.4		普	石・長・雲・ 角		にぶい赤 橙	ケズリ	カキメ	ナデ			17			537と同一 個体カ
91	76	285	SK658	21A116・17	1	土師器	長甕	B2	22.0			普	石・長・雲・ 角・海		にぶい橙	ロクロナデ, カキメ, タタ キメ, ナデ	ロクロナデ, 当て具痕			5		スス		
91	76	286	SK668	22A12	1	須恵器	無台杯	BII	(13.0)	10.0	3.2	普	石・白	C	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	1	18			焼成不良
91	76	287	SK674	21AJ13	1	須恵器	杯蓋	II	12.6		2.3	普	石・白	A	灰	ロクロナデ, ロクロナズリ	ロクロナデ			14		自然軸		
91	76	288	SK674	21AJ13	1	土師器	無台碗		14.0			精	石・長・雲・ 角		灰褐	ロクロナデ	ロクロナデ			3		スス		
91	76	289	SK680	23A114	1	須恵器	有台杯			6.6		普	石・長・白	A	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り, ロ クロナデ	右	32				底部外面に ヘラ書き
91	76	290	SK680	23A115	1	須恵器	折縁杯		13.6	6.2	4.3	普	石・長・白	A	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	24	33			内面ヒダスキ キ痕
91	76	291	SK689	22AJ15	1	須恵器	有台杯	BII	14.1	7.4	7.6	普	石・白	B	灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ロ クロナデ	左	23	36			焼成不良 内外で剥落 するように 割れている
91	76	292	SK690	22A11	1	須恵器	有台杯	AII	13.4	7.3	4.1	普	石・長・白	A	灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	6	33			
91	76	293	SK690	22A11	1	須恵器	横瓶					普	白	不明	褐灰	タタキメ, カ キメ	当て具痕							
91	76	294	SK691	22A12	1	須恵器	有台杯	BII	14.4	8.0	6.5	普	白	B	灰	ロクロナデ, ロクロナズリ	ロクロナデ	ヘラ切り後ロ クロナデ	左	5	22			
91	76	295	SK698	21AK11	1	須恵器	有台杯			10.4		普	白	C	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナズリ	右	23				外面ヒダスキ キ痕カ
91	77	296	SK699	21AK11	1	須恵器	折縁杯		12.9	5.9	4.5	普	石・長・白	A	灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	15	36			
91	77	297	SK700	21AH24	1	須恵器	無台杯	BIII	11.5	7.5	3.6	普	石・白	C	灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り, ナ デ	左	22	36			
91	77	298	SK706	22AJ18	1	土師器	鍋	B4	37.0			普	石・長・白・ 角		橙	ロクロナデ, カキメ, ケズ リ	ロクロナデ			5				
91	77	299	SK708	19AJ24	1	須恵器	有台杯			6.4		普	石・白	C	灰白		ロクロナデ	ヘラ切り後ロ クロナデ	右	36		自然軸	打ち欠き	
91	77	300	SK721	19AL7	1	須恵器	杯蓋	I	15.2		2.7	普	石・白	C	灰	ロクロナデ, ロクロナズリ	ロクロナデ, ナデ		右	35		自然軸	内面種子混 入痕カ	
91	77	301	SK722	19AL8	1	土師器	鉢	C	7.1	5.5	6.2	普	石・長・雲・ 白・角		にぶい黄 橙	ナデ	ナデ			23	32			内面種子圧 痕
92	77	302	SK723	19AL15	1	須恵器	壺・瓶 類		11.4			普	石・白	C	黒褐	ロクロナデ	ロクロナデ			5		自然軸	自然軸	
92	77	303	SK741	18AL18	1	土師器	無台碗		13.9			普	石・長・雲		灰白	ロクロナデ	ロクロナデ			3				
92	77	304	SK746	17AL3	1	須恵器	有台杯			8.6		普	石・白	A	灰	ロクロナデ	ロクロナデ, ナデ	ヘラ切り		23		自然軸		
92	77	305	SK781	18AM3	1	須恵器	杯蓋	III	9.9		2.0	普	白	A	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ			36		自然軸	自然軸	
92	77	306	SK785	18AN6	1	須恵器	長頸瓶					普	石・白	A	灰	ロクロナデ, ロクロナズリ	ロクロナデ	ヘラ切り	右			自然軸	胴部外面に ヘラ書き, 高台ハガレ	
92	77	307	SK802	17AL10	1	須恵器	杯蓋	I	15.3		3.6	普	石・長・白	A	青灰	ロクロナデ, ロクロナズリ	ロクロナデ		右	33				
92	77	308	SK802	17AL10	1	須恵器	杯蓋	I	14.3		3.0	普	石・白	C	灰白	ロクロナデ, ロクロナズリ	ロクロナデ		右	35		自然軸	自然軸	
92	77	309	SK802	17AL10	1	黒色	杯蓋		13.0		3.3	精	白		暗灰	ミガキ	ミガキ			6				内外面黒色 処理
92	77	310	焼土 374	16AQ21	1	須恵器	無台杯	B I	14.0	9.6	3.1	普	石・長・白・ 角	C	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	7	17			焼成不良
92	77	311	焼土 374	16AQ21	1	土師器	小甕	B1II	15.0			普	石・長・白		浅黄橙	ロクロナデ, カキメ	ロクロナデ, カキメ			4		コゲ		
92	77	312	焼土 454	17AP23	1	土師器	長甕	B1	(19.0)			普	石・長・角		にぶい橙	ケズリ, ロク ロナデ	ロクロナデ, カキメ			1				

別表

図版No.	写真図版No.	報告書No.	出土位置		層位	種別	器種	分類	法量 (cm)			胎土		色調	製作痕・手法			残存率	付着物等		備考			
			遺構	グリッド					口径	底径	器高	状態・含有物	分類		外面	内面	底部		口縁	底部		外面	内面	
92	77	313	SX3	24AJ7	1	須恵器	杯蓋	I	18.3		2.8	粗	石・長・白	A	褐灰	ロクロナデ, ロクロケズリ	ロクロナデ		18					
92	77	314	SX3	24AJ6	1	須恵器	杯蓋	I	14.3		1.8	普	石・長・白	A	褐灰	ロクロナデ, ロクロケズリ	ロクロナデ		36	自然軸	外面に重ね焼き痕			
92	77	315	SX3	24AJ8	1	須恵器	杯蓋	II	13.3		2.7	粗	石・長・白	A	灰	ロクロナデ, ロクロケズリ	ロクロナデ	右	13					
92	77	316	SX3	24AJ11	1	土師器	無台杯		13.2	7.4	3.4	普	石・長・海		にぶい橙	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	7	30	スス		
92	77	317	SX3	24AJ2・8・12	1	土師器	鍋	B3	36.0			普	石・長・白・角		橙	ロクロナデ, カキメ, ケズリ	ロクロナデ, カキメ		3					
92	77	318	SX31	22AN11	1	黒色	椀		12.8	8.0	3.5	精	石・白・雲・角		灰白	ロクロナデ	ロクロナデ後ミガキ	ケズリ	4	5		内面黒色処理		
92	77	319	SX31	22AM15	2	土師器	長甕	B				普	石・長・角		にぶい橙	タタキメ	当て具痕				スス			
92	77	320	SX31	22AM15, 22AN11	2	土師器	小甕	A1 I	18.0			普	石・白・角		浅黄橙	ヨコナデ, 指おさえ	ナデ, ハケメ		8					
92	78	321	SX37	21AO7	1	須恵器	無台杯			9.0		普	長・白	C	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナデ		9		焼成不良		
92	78	322	SX37	21AO7	1	須恵器	有台杯	A II	13.4	8.9	3.4	普	長・白・角	C	灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ロクロナデ		8	14			
92	78	323	SX38	21AN22	2	須恵器	無台杯			10.6		普	石・長・白	C	にぶい橙	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナデ	右	7		焼成不良		
92	78	324	SX62	24AL7	1	須恵器	無台杯	A II	13.6	9.4	3.4	普	石・長・白	C	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナデ	右	13	18	油煙	油煙	焼成不良
92	78	325	SX62	24AL8	1	須恵器	杯蓋	I	14.6		2.4	精	石・長	C	灰	ロクロナデ, ロクロケズリ	ロクロナデ, ナデ		25		自然軸			
92	78	326	SX62	24AL1	1	須恵器	杯蓋					普	石・長	C	褐灰	ロクロナデ, ロクロケズリ	ロクロナデ, ナデ							
93	78	327	SX62	24AL8	1	須恵器	甕					粗	石・長・白	A	灰	タタキメ, カキメ	当て具痕					自然軸		
93	78	328	SX63	17AQ21	1	須恵器	無台杯	B II	13.0	10.4	3.7	普	長・白	C	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナデ	右	14	36			
93	78	329	SX63	17AQ16	1	須恵器	無台杯	A II	13.8	9.4	3.8	普	石・長・白・海	C	青灰	ロクロナデ	ロクロナデ, 直線的ナデ	ヘラ切り後ナデ	右	9	23			
93	78	330	SX63	17AQ16・17・21・22	1	須恵器	無台杯	A II	13.8	10.0	4.2	普	石・長・白・角	C	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナデ		18	18			
93	78	331	SX63	17AQ21	1	須恵器	無台杯	A II	13.8	10.0	3.7	粗	石・白	C	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	5	15			
93	78	332	SX63	17AQ16・21	1	須恵器	無台杯	A II	12.7	9.0	3.7	普	石・長	A ^か C	褐灰	ロクロナデ, ナデ	ロクロナデ, ナデ	ヘラ切り	右	18	36		内外面にヒダスキ痕	
93	78	333	SX63	17AQ17	1	須恵器	無台杯	B II	13.2	9.0	3.6	普	白	C	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ, ナデ	ヘラ切り	右	17	36			
93	78	334	SX63	17AQ16	1	須恵器	無台杯	A II	12.4	8.6	3.6	普	石・長・白	A	青灰	ロクロナデ	ロクロナデ, ナデ	ヘラ切り後ナデ		18	21		底部外面にヘラ書き	
93	78	335	SX63	17AP25	1	須恵器	無台杯	B II	(13.4)	9.8	3.3	普	石・長・白・海	C	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ, ナデ	ヘラ切り後ナデ		2	14			
93	78	336	SX63	17AQ16	1	須恵器	無台杯	A II	12.8	9.6	3.9	粗	石・長・白・角	A	褐灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		16	14			
93	78	337	SX63	17AQ17・22	1	須恵器	無台杯	A II	12.2	7.8	3.7	普	石・長・白	A	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		8	13			
93	78	338	SX63	17AQ16・17	1	須恵器	有台杯	A II	14.2	8.1	3.8	粗	石・長・白	A	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		6	14			
93	79	339	SX63	17AQ16	1	須恵器	有台杯	A II	14.3	6.6	4.4	普	石・長・白	C	褐灰	ロクロナデ, ロクロケズリ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	4	22			
93	79	340	SX63	17AQ21	1	須恵器	有台杯	B III	11.8	4.4	4.7	普	長・白	C	灰	ロクロナデ, ロクロケズリ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	14	36		底部外面にヘラ書き	
93	79	341	SX63	17AQ21	1	須恵器	杯蓋	I	17.5		4.6	普	石・長・白	A	褐灰	ロクロナデ	ロクロナデ		7		自然軸			
93	79	342	SX63	17AQ16・21	1	須恵器	杯蓋	I	16.2		3.0	普	長・白	A	灰	ロクロナデ, ロクロケズリ	ロクロナデ		10		自然軸			
93	79	343	SX63	17AQ21	1	須恵器	杯蓋	I	15.8		3.7	粗	石・白	A	灰白	ロクロナデ, ロクロケズリ	ロクロナデ		左	6				
93	79	344	SX63	17AQ16・21	1	須恵器	杯蓋	I	16.0		2.5	普	石・長	A	褐灰	ロクロナデ, ロクロケズリ	ロクロナデ		右	28		自然軸		
93	79	345	SX63	17AQ17・21・22	1	須恵器	杯蓋	II	13.3		3.2	普	石・長・白	A	褐灰	ロクロナデ, ケズリ	ロクロナデ			17				
93	79	346	SX63	17AQ16	1	須恵器	杯蓋		15.8			普	石・白	A	灰	ロクロナデ, ロクロケズリ	ロクロナデ		8			内面に墨書		
93	79	347	SX63	17AQ16	1	須恵器	高杯		19.8			普	石・長・白	C	褐灰	ロクロナデ, ロクロケズリ	ロクロナデ, ナデ		右	5			焼成不良	
94	79	348	SX63	17AQ17・21・22	1	須恵器	甕	III	18.0	12.4	25.3	普	石・長・白	C	灰	ロクロナデ, タタキメ, カキメ, ケズリ	ロクロナデ, 当て具痕, ナデ	ナデ, 指頭押		17	12		焼成やや不良 底部外面にヘラ書き	
94	79	349	SX63	17AQ22	1	土師器	小甕	A1 II	13.0			普	石・長・雲・角		にぶい橙	ヨコナデ, ハケメ, ナデ	ヨコナデ, ハケメ, ナデ		6		スス	コゲ		
94	79	350	SX63	17AQ21	1	土師器	小甕	B2 II	14.0			普	石・長・雲		にぶい橙	ロクロナデ	ロクロナデ		6		スス	コゲ		
94	79	351	SX63	17AQ16	1	土師器	小甕	A		6.1		普	石・雲・角		にぶい黄橙	ハケメ, ケズリ, ナデ	ハケメ, ナデ	ナデ		36		スス		
94	79	352	SX64	17AQ8	1	須恵器	無台杯	A II	12.0	8.0	4.0	精	石・白	C	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナデ	右	19	36			
94	79	353	SX64	17AQ8	1	須恵器	無台杯			7.0		普	石・長・白	A	にぶい褐	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	17			焼成やや不良	
94	79	354	SX64	17AQ8	1	須恵器	有台杯	A II	14.0	8.2	4.6	普	石・白	A	灰	ロクロナデ, ロクロケズリ	ロクロナデ, ナデ	ヘラ切り	左	14	11			
94	79	355	SX64	17AQ3	1	須恵器	有台杯	A III	12.5	7.2	4.0	普	石・長・白	A	灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		8	9			
94	80	356	SX64	17AQ7	1	土師器	無台碗		14.0			普	石		浅黄橙	ロクロナデ	ロクロナデ		4		スス			
94	80	357	SX64	17AQ7	1	土師器	鉢	B	(28.0)			普	石・雲・角		浅黄橙	ヨコナデ, ナデ	ヨコナデ, ハケメ, ナデ		1					
94	80	358	SX64	17AQ8	2	土師器	長甕	A2	(24.6)			普	石・白		浅黄橙	ロクロナデ, ハケメ	ロクロナデ, ハケメ		2			西古志型		
94	80	359	SX64	17AQ8	2	土師器	長甕	B2	25.0			普	石・長・白		橙	ロクロナデ, カキメ, タタキメ	ロクロナデ		5					
94	80	360	SX64	17AQ8・12	2	土師器	長甕	B2	23.8			普	石・長・白・角		浅黄橙	ロクロナデ	ロクロナデ		8		スス			
94	80	361	SX64	17AQ7・8	2	土師器	長甕	A		8.0		普	石・雲・角		浅黄橙		ナデ	木葉痕, ケズリ		27			外面の器面剥落	
94	80	362	SX64	17AQ8	1	土師器	小甕	A		6.0		普	石・長・白・角・海		にぶい橙	ケズリ	ハケメ, ナデ	ケズリ		36		スス		
94	80	363	SX64	17AQ7	2	土師器	小甕	A1 II	16.0			普	石・雲・角		浅黄橙	ヨコナデ, ハケメ	ヨコナデ, ナデ		5			コゲ	外面の器面剥落	
94	80	364	SX64	17AQ8	2	土師器	小甕	B1 II	13.0			普	石・長・白・角		にぶい橙	ロクロナデ	ロクロナデ, カキメ, ナデ		7		スス	コゲ		
95	80	365	SX64	17AQ13	1	土師器	鍋	A2	43.2			普	石・白・角		浅黄橙	ロクロナデ, ハケメ	ロクロナデ, カキメ		3		スス		西古志型	

図版 No.	写真 図版 No.	報告 書 No.	出土位置		層位	種別	器種	分類	法量 (cm)			胎土		色調	製作痕・手法			残存率 口縁 底部	付着物等		備考			
			遺構	グリッド					口径	底径	器高	状態・含有物	分類		外面	内面	底部		回転	外面		内面		
																							外面	内面
95	80	366	SX64	17AQ7	1	土師器	鍋	B2	40.0			普	石・長・白・ 角	浅黄橙	ロクロナデ, カキメ, ケズリ	ロクロナデ		4	スス					
95	80	367	SX64	17AQ7	1	土師器	鍋	B2	(39.6)			普	石・長・雲・ 角	橙	ロクロナデ	ロクロナデ		2						
95	80	368	SX64	17AQ13	1	土師器	鍋	B2	36.0			普	石・白	橙	ロクロナデ, ケズリ, カキメ	ロクロナデ		7	スス					
95	80	369	SX66	19AO9	2	須恵器	無台杯			9.0		普	長・白	A 灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナ デ	左	11					
95	80	370	SX66	19AO9	1	須恵器	有台杯	AII	14.4	7.8	4.3	普	石・長	A にぶい黄 橙	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		14	18		焼成不良		
95	80	371	SX66	19AO9	1	須恵器	有台杯	AII	13.9	7.0	4.1	粗	石・長・白	A 灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	10	21				
95	80	372	SX66	19AO10	1	須恵器	有台杯	BIII	12.5	6.8	4.9	精	石・長	B 黄灰	ロクロナデ, ロクロケズリ	ロクロナデ	ヘラ切り後口 クロナデ	左	27	36				
95	80	373	SX66	19AO9	2	土師器	無台杯			9.8		精	石・長・雲・ 角	浅黄橙	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナ デ		16			内外面わず かに赤彩		
95	80	374	SX70	19AP13	1	須恵器	無台杯	BI	14.3	10.2	3.4	普	石・長	C 灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		5	11		焼成不良		
95	80	375	SX70	19AP9・10・ 14	1	須恵器	無台杯	AII	13.8	10.0	3.5	普	石・長・白	C 灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナ デ	右	6	16		外面ヒダスキ 痕		
95	80	376	SX70	19AP9	1	須恵器	有台杯	X	16.0			普	石・白	C 灰	ロクロナデ, ロクロケズリ	ロクロナデ		左	10			口縁わずかに 歪み有り		
95	80	377	SX70	19AP13	1	須恵器	有台杯	AII	13.9	7.1	3.7	普	長・白	C 灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	5	4				
96	81	378	SX70	19AP13	1	須恵器	横瓶					普	石・長・白	C 褐灰	ロクロナデ, タタキメ, カ キメ	ロクロナデ, ナデ					自然軸			
96	80	379	SX70	19AP18	1	須恵器	長頸瓶	大	18.0			普	長・白	C 灰白	ロクロナデ	ロクロナデ			7		自然軸	自然軸		
96	80	380	SX70	19AP9・13	1	須恵器	壺蓋		12.6		4.0	普	石・長	D 灰	ロクロナデ	ロクロナデ			12		自然軸			
96	81	381	SX124	18AP20	1	須恵器	無台杯	BII	12.9	10.0	3.4	精	長・白	A 灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	11	19		内外面ヒダ スキ痕		
96	81	382	SX124	18AQ22	1	須恵器	無台杯	AII	13.6	9.0	3.6	普	石・長・白	A 灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナ デ	右	9	18				
96	81	383	SX124	18AQ18	1	須恵器	無台杯			9.0		普	長・白・角	A 褐灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナ デ	左	36			焼成やや不 良		
96	81	384	SX124	18AQ18	1	須恵器	無台杯	BII	(13.2)	9.4	3.7	普	石・長	A 灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナ デ	右	2	14				
96	81	385	SX124	18AQ24	1	須恵器	無台杯			9.5		普	石・長・白	A 灰白	ロクロナデ	ロクロナデ, ナデ	ヘラ切り	右	25					
96	81	386	SX124	18AQ18	1	須恵器	有台杯	AII	(14.4)	7.8	4.3	普	長・角	C 褐灰	ロクロナデ, ロクロケズリ	ロクロナデ	ヘラ切り		2	3				
96	81	387	SX124	18AP20	1	須恵器	有台杯	AII	14.2	7.2	3.9	精	長・白	C 灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後口 クロナデ	右	14	36				
96	81	388	SX124	18AP20	1	須恵器	杯蓋	I	14.8		2.1	普	石・長	C 褐灰	ロクロナデ, ロクロケズリ	ロクロナデ, ナデ			9		自然軸			
96	81	389	SX124	19AQ1	1	土師器	鉢		16.5	10.6	4.0	精	石・長・チ・ 白・角		にぶい橙	ロクロナデ, ロクロケズリ	ロクロナデ	ロクロケズリ	左	6	20		内外面赤彩 (磨耗)	
96	81	390	SX124	18AQ22	1	黒色	壺蓋					精	石・長		暗灰	ミガキ	ミガキ					円孔1か所 内外面黒色 処理		
96	81	391	SX124	18AQ18	1	須恵器	甕					普	石・長・チ・ 白	C 灰白	タタキメ	当て具痕					自然軸			
96	81	392	SX125	16AP20・24	1	須恵器	無台杯	AII	13.3	9.0	3.6	粗	石・長・チ・ 白	A 灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	18	36	スス, 油煙	スス, 油煙		
96	81	393	SX125	17AQ6	1	須恵器	無台杯	BII	13.4	9.5	3.1	普	石・長・白	A 灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナ デ	右	6	10			底部外面に ヘラ書き	
96	81	394	SX125	16AP24	1	須恵器	無台杯	AII	13.0	9.2	3.6	普	石・長・白	A 灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		5	8				
96	81	395	SX125	16AP25, 17AQ1	1	須恵器	無台杯	AI	14.2	8.0	4.0	精	石・長・白	C 灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	8	20			底部外面墨 痕	
97	81	396	SX125	16AP24, 17AQ6	1	須恵器	有台杯	AII	13.8	7.5	3.8	粗	石・長・チ・ 白	A 灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	16	36				
97	81・ 91	397	SX125	16AP24・25, 17AP5	1	須恵器	有台杯	AIII	11.8	5.9	3.9	普	石・白	A 灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	21	36			底部外面に ヘラ書き	
97	82	398	SX125	16AP25, 16AQ21	1	須恵器	有台杯	BIV	(10.3)	5.2	6.9	粗	石・長・白	A 褐灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	2	36	自然軸	自然軸		
97	82	399	SX125	16AP24	1	須恵器	有台杯	X	19.4			精	石・長	不明	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ			3				
97	82	400	SX125	16AQ17	1	須恵器	杯蓋	I	14.1		3.6	普	石・白	A 黄灰	ロクロナデ, ロクロケズリ	ロクロナデ			17					
97	82	401	SX125	16AP24	1	須恵器	杯蓋	I	14.6		1.7	粗	石・長・チ・ 白	A オリーブ 灰	ロクロナデ, ロクロケズリ	ロクロナデ			19					
97	82	402	SX125	16AP25	1	須恵器	杯蓋	II	13.4		2.3	粗	石・長・白	A 灰白	ロクロナデ, ロクロケズリ	ロクロナデ			3					
97	82	403	SX125	16AP23	1	土師器	無台杯		15.0			精	石・長		浅黄橙	ロクロナデ	ロクロナデ			3				
97	82	404	SX125	16AP19・24, 17AP5	1	土師器	有台杯			8.4		普	石・長・角		灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	27	スス			
97	82	405	SX125	16AP24	1	黒色	杯蓋		11.2		2.5	普	石・長・白・ 角・海		橙	ミガキ	ミガキ	天井部ヘラ切 り	左	30				外面一部・ 内面黒色処 理
97	82	406	SX125	17AQ1	1	土師器	鉢	A	19.4	15.3	7.7	粗	石・長・チ・ 白・角		にぶい橙	ロクロナデ, 沈線	ロクロナデ			4	4			
97	82	407	SX125	16AQ21, 17AQ1	1	土師器	長甕	C1	25.0			普	石・長・雲・ 白		橙	ロクロナデ, ハケメ	ロクロナデ, ハケメ			6				
97	82	408	SX125	17AQ6	1	土師器	小甕	A		7.5		粗	石・長・チ・ 白・角		橙	ケズリ	ハケメ	ケズリ			36			
97	82	409	SX125	17AQ1	1	土師器	小甕	A		8.7		普	石・長・チ・ 白		にぶい橙	ケズリ	ハケメ, 指頭 押圧	ナデ			36	スス	コゲ	
97	82	410	SX125	16AP25	1	土師器	小甕	BII	16.0			普	石・長・雲・ チ・白		にぶい橙	ロクロナデ, カキメ	ロクロナデ, カキメ			10			コゲ	
97	82	411	SX125	17AP5, 17AQ1	1	土師器	小甕	B3II	13.8			普	石・長・雲・ 角		にぶい橙	ロクロナデ	ロクロナデ, ハケメ			13		スス	コゲ	
97	82	412	SX125	16AP19	1	土師器	小甕	B		6.2		普	石・長・白・ 角・海		橙	ロクロナデ, ケズリ	ロクロナデ	ヘラ切り			36			
97	82	413	SX125	16AQ21・22	1	土師器	鍋	A1	(42.0)	15.0	(13.5)	普	石・長・雲・ 白・角		橙	ケズリ, ナデ	ハケメ, ナデ	ケズリ			1	6		
98	82	414	SX125	16AP20・24・ 25, 17AP5	1	須恵器	甕	II	27.4			普	石・長・白	A 褐灰	ロクロナデ, タタキメ	ロクロナデ, 当て具痕			17		自然軸	自然軸		
98	81	415	SX240	23AM11	2	須恵器	無台杯	BII	12.4	8.5	3.6	粗	石・長・白	A 灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナ デ	右	30	36				
98	83	416	SX283	17AQ12	2	須恵器	無台杯	BII	13.7	9.0	3.5	普	石・長・白	A 灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	12	36			焼成不良	
98	83	417	SX283	17AQ12	1	須恵器	無台杯	AII	13.4	9.0	3.4	普	石・白・海	A 青灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	25	36			内外面ヒダ スキ痕	
98	83	418	SX283	17AQ12	2	須恵器	無台杯	BI	14.8	8.4	3.4	普	石・長・白	A 灰白	ロクロナデ, ロクロケズリ	ロクロナデ	ロクロナデ, 板目圧痕	左	14	36			焼成不良	
98	83	419	SX283	17AQ14	1	須恵器	無台杯	AII	12.2	9.0	3.9	普	石・長・白	A 灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	21	36				

別 表

図版 No.	写真 図版 No.	報告 書 No.	出土位置		層位	種別	器種	分類	法量 (cm)			胎土		色調	製作痕・手法			残存率	付着物等		備考			
			遺構	グリッド					口径	底径	器高	状態・含有物	分類		外面	内面	底部		回転	外面		内面		
98	83	420	SX283	17AQ17	2	須恵器	有台杯	X	15.0	8.8	4.2	普	石・長	C	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ		5	8		焼成不良		
98	83	421	SX283	17AQ13	1	須恵器	有台杯	AIII	12.9	7.9	3.7	普	石・長	A	灰赤	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	13	15		底部に何かの使用痕		
98	83	422	SX283	17AQ17	1	須恵器	杯蓋	I	15.6		2.2	普	石・長・白	A	灰	ロクロナデ、 ロクロナズリ	ロクロナデ、 ナデ		右	27				
98	83	423	SX283	17AQ13・14	1	須恵器	稜碗		(14.6)			普	石・長・白	A	灰	ロクロナデ	ロクロナデ		1					
98	83	424	SX283	17AQ18	2	土師器	無台杯		12.8	7.8	4.1	普	石・白	橙		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	6	8			
98	83	425	SX283	17AQ14	1	土師器	無台杯		12.3	8.0	3.1	普	石・雲・白・ 角	明赤褐	ロクロナデ、 ロクロナズリ	ロクロナデ	ロクロナズリ	右	8	36		内外面赤彩		
98	83	426	SX283	17AQ14	1	土師器	無台杯		9.0	5.2	5.2	精	石・長・チ・ 角	橙		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	9	36			
98	83	427	SX283	17AQ14	1	土師器	鉢	A	15.3	8.4	9.6	普	石・長・チ・ 海		にぶい橙	ロクロナデ、 ケズリ	ロクロナデ		13	36	スス	コゲ	口縁歪み	
99	83	428	SX283	17AQ8	1	須恵器	長頸瓶			4.5		普	石・長・白	A	褐灰	ロクロナデ、 ロクロナズリ	ロクロナデ	ヘラ切り後ロ クロナデ	右	36	自然軸		底部外面に ヘラ書き	
99	83	429	SX283	17AQ14	1	土師器	小甕	B2II	(15.0)			普	石・長		にぶい黄 橙	ロクロナデ、 カキメ	ロクロナデ、 カキメ		1	スス	コゲ			
99	83	430	SX283	17AQ14	1	土師器	小甕	A1II	13.8			普	石・長		にぶい黄 橙	ヨコナデ、ハ ケメ	ヨコナデ、ハ ケメ		6	スス	コゲ			
99	83	431	SX365	23AG14・20	1	黒色	高杯					普	石・角	灰白		ハケメ、ミガ キ	ハケメ、ケズ リ					内面黒色処 理		
99	83	432	SX406	16AQ21	1	土師器	小甕	B1II	15.6			普	石・長・チ		にぶい褐		ロクロナデ、 カキメ		8	スス	コゲ			
99	83	433	SX407	16AQ12	1	須恵器	杯蓋	I	14.2		3.0	普	石・長・白	A	灰白	ロクロナデ、 ロクロナズリ	ロクロナデ		右	28			焼成不良	
99	83	434	SX407	16AQ18	1	須恵器	高杯			9.4		普	石・長・海	D	黒	ロクロナデ	ロクロナデ			7				
99	83	435	SX407	16AQ18	1	土師器	長甕	B2	22.0			普	石・長・角		浅黄橙	ロクロナデ	ロクロナデ		4					
99	83	436	SX407	16AQ17	1	土師器	鍋	B2	(34.0)			普	石・長		にぶい橙	ロクロナデ	ロクロナデ、 カキメ		1					
99	83	437	SX411	15AN11	1	須恵器	無台杯			9.2		普	白	A	灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナ デ	右	23			打ち欠きカ	
99	83	438	SX411	15AN11	1	土師器	鉢		13.4	5.0	4.6	普	石・長・角		浅黄橙	ロクロナデ	ロクロナデ		4	5			内外面赤彩 (磨耗)	
99	83	439	SX415	15AP21	1	須恵器	無台杯	BII	(13.4)	9.6	3.6	普	石・長・白	C	灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナ デ	1	8			底部外面に ヘラ書き	
99	83	440	SX415	15AP21	1	須恵器	無台杯			10.0		普	石・長・白・ 海	C	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		6			底部外面に ヘラ書き	
99	83	441	SX415	15AP21	1	須恵器	無台杯	BII	(13.4)	9.6	3.2	精	石・長・白	C	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	1	6				
99	83	442	SX415	15AP21	1	須恵器	有台杯	AII	13.4	7.5	4.2	普	石・白	A	灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	12	11		やや歪み	
99	83	443	SX415	15AP21	1	須恵器	甕	I	45.8			普	石・白	A	黄灰	ロクロナデ	ロクロナデ		右	3	自然軸	自然軸	口縁部外面 に波状文	
99	83	444	SX415	15AP22	1	須恵器	甕	II	27.0			普	石・白	A	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ		5		自然軸			
99	83	445	SX416	16AO5	1	須恵器	杯蓋	II	13.0		3.4	普	石・長・白	A	黄灰	ロクロナデ、 ロクロナズリ	ロクロナデ		右	27				
99	83	446	SX416	16AO5	1	須恵器	小甕	B1II	(14.0)			普	石・長・角		にぶい橙	ロクロナデ	ロクロナデ		2	スス	コゲ			
99	84	447	SX421	15AP23	1	須恵器	無台杯	BII	12.3	8.4	3.8	普	石・長・白・ 海	C	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	3	9			底部外面に ヘラ書き	
99	84	448	SX421	15AP24	1	須恵器	有台杯	AII	13.2	7.8	4.2	普	石・長・白	A	黄灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	4	18				
99	84	449	SX421	15AP22	1	須恵器	高杯			11.2		普	石・白	A	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ			10			焼成不良	
100	84	450	SX421	15AP17・22・ 23	1	須恵器	甕	I	38.8			普	石・白	A	灰白	ロクロナデ、 タタキメ、カ キメ	ロクロナデ、 当て具痕		4	自然軸	自然軸		口縁部外面 に波状文	
100	84	451	SX425	17AQ7	1	須恵器	無台杯	BII	13.5	7.7	4.1	普	石・白	C	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナ デ	右	14	36		底部外面に ヘラ書き 焼成不良	
100	84	452	SX425	17AQ12	1	須恵器	無台杯	AII	13.6	9.8	3.8	普	石・白	C	灰	ロクロナデ	ロクロナデ、 ナデ	ヘラ切り	右	18	20		底部外面に ヘラ書き	
100	84	453	SX425	17AQ12	1	須恵器	無台杯	BII	13.8	8.0	4.2	普	石・長・白	C	灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	13	18			
100	84	454	SX425	17AQ12	1	須恵器	無台杯	BIII	11.0	7.2	3.7	普	石・長・白・ 海	A	灰白	ロクロナデ後 中心部直線的 ナデ	ロクロナズリ、 ナデ	ロクロナズリ	右	27	36		焼成やや不 良	
100	84	455	SX425	17AQ12	1	須恵器	無台杯	BII	13.7	9.4	3.2	普	石・長・雲	A	灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	16	19		底部内面に ヘラ書き	
100	84	456	SX425	17AQ6	1	須恵器	有台杯	AII	14.3	8.8	4.3	普	石・長・白	C	灰	ロクロナデ、 中心のみ直線 ナデ	ロクロナデ	ヘラ切り、ロ クロナデ	右	9	18			
100	84	457	SX425	17AQ7	1	土師器	無台杯		7.8	4.5	4.1	普	石・長・雲・ 角	灰白		ロクロナデ	ロクロナデ	直線的ケズリ	6	36				
100	84	458	SX425	17AQ12	1	土師器	有台杯					普	石・白	浅黄橙	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り					高台剥離		
100	84	459	SX425	17AQ12	1	須恵器	壺蓋		13.7		3.8	普	石・白	A	灰	ロクロナデ後 ヘラ切り後ロ クロナデ	ロクロナデ後 中央のみナデ		4		自然軸			
100	84	460	SX425	17AQ12	1	土師器	長甕	A1	18.0			普	石・角	明褐灰	ヨコナデ、ハ ケメ、ナデ	ヨコナデ、ハ ケメ		3						
100	84	461	SX425	17AQ7	1	土師器	小甕	A1II	16.0			普	石・雲・角	にぶい赤 橙	ヨコナデ、ハ ケメ	ヨコナデ、ハ ケメ		3	スス	コゲ				
100	84	462	SX425	17AQ12	1	土師器	小甕	A1II	13.6			普	石・雲・白	にぶい橙	ヨコナデ、ハ ケメ	ヨコナデ、ハ ケメ		5	スス	コゲ				
100	84	463	SX425	17AQ12	1	土師器	小甕	B		9.6		普	石・白・角	にぶい黄 橙	カキメ、ケズ リ	カキメ、ナデ	ナデ	右	36	スス				
101	84	464	SX425	17AQ12	1	土師器	小甕	B1II	14.8	8.4	(14.0)	普	石・雲・白・ 角	にぶい黄 橙	ロクロナデ、 カキメ	ロクロナデ、 カキメ	ナデ	5	36	スス				
101	85	465	SX469	17AP2	1	須恵器	無台杯	AII	13.4	8.0	4.0	普	石・長・白・ 海	A	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	6	36		焼成不良	
101	85	466	SX469	16AP12	1	須恵器	無台杯	BII	12.7	8.4	3.5	普	石・白・海	A	灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	12	18			
101	85	467	SX469	16AP23	1	須恵器	無台杯	BII	13.6	10.1	3.3	普	石・白	A	青灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ後 中央のみナデ	ヘラ切り	右	15	36		
101	85	468	SX469	17AP3・4	1	須恵器	無台杯	BII	13.8	9.7	3.1	普	石・白	A	灰褐	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		14	24			
101	85	469	SX469	16AP22	1	須恵器	無台杯	BII	13.0	7.0	3.5	普	石・長・白	A	灰	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	左	9	23		焼成やや不 良	
101	85	470	SX469	16AP17・23	1	須恵器	有台杯	AII	14.1	8.7	4.0	普	石・白	A	青灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリカ、ロ クロナデ	右	27	36			
101	85	471	SX469	16AP13・22・ 23、17AP3	1	須恵器	杯蓋	I	14.4		2.9	普	石・長・白	A	灰	ロクロナデ、 ロクロナズリ	ロクロナデ		右	8				
101	85	472	SX469	16AP22・23、 17AP3	1	須恵器	杯蓋		14.0			普	石・白	A	灰	ロクロナデ後 中心部直線的 ナデ	ロクロナデ		右	16	自然軸			
101	85	473	SX469	16AP17	1	土師器	無台杯			7.0		精	石・白	橙	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	21			内外面赤彩		
101	85	474	SX469	16AP23	1	黒色	碗		15.0			普	石・白	灰	ミガキ	ミガキ		3				内外面黒色 処理		
101	85	475	SX469	17AP3	1	須恵器	高杯					普	石・長	C	灰白	ロクロナデ	ナデ							

図版 No.	写真 図版 No.	報告 書 No.	出土位置		層位	種別	器種	分類	法量 (cm)			胎土		色調	製作痕・手法			残存率		付着物等		備考	
			遺構	グリッド					口径	底径	器高	状態・含有物	分類		外面	内面	底部	回転	口縁	底部	外面		内面
101	85・91	476	SX469	16AP21	1	須恵器	壺蓋		7.8		2.9	精	石・長	C	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ		29	自然軸		外面にヘラ書き	
101	85	477	SX469	16AP23	1	須恵器	壺・瓶類			6.8		普	石・白	C	灰	ロクロナデ、ロクロケズリ、ケズリ後ナデ	ロクロナデ		右	21		黒色付着物	
101	85	478	SX469	16AP23	1	土師器	長甕	B2	(25.0)			普	石・長・白・角		橙	ロクロナデ、カキメ	ロクロナデ、カキメ		1	スス			
101	85	479	SX469	16AP17	1	土師器	長甕	C1	23.0			普	石・長・雲・角		にぶい赤橙	ロクロナデ	ロクロナデ		3				
101	85	480	SX469	16AP11	1	土師器	小甕	B1 II	13.0			普	石・長・チ・角		にぶい橙	ロクロナデ、カキメ	ロクロナデ		6	スス	コゲ		
101	85	481	SX469	16AP23	1	土師器	小甕	B2 I	17.0			普	石・長・白・角		橙	ハケメ後ロクロナデ	ロクロナデ		4		コゲ		
101	85	482	SX469	16AP23	1	土師器	鍋	B2	(40.0)			普	石・長・白		にぶい橙	ロクロナデ	ロクロナデ		2				
102	85	483	SX476	23AH6	1	須恵器	無台杯	B II	12.8	6.6	3.1	普	白	B	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	5	36		打ち欠きカ
102	85	484	SX476	23AH1	1	須恵器	無台杯	B II	(12.0)	9.4	3.0	普	白・海	C	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ、ナデ	ヘラ切り	右	2	12		焼成不良
102	85	485	SX476	23AH7	1	須恵器	有台杯			7.3		普	石・長・白	A	灰	ロクロナデ、ロクロケズリ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	15			
102	85	486	SX476	23AH7	1	須恵器	有台杯	A III	12.4	7.4	4.0	普	白	C	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ		6	5	自然軸	自然軸	
102	85	487	SX476	23AH6	1	須恵器	有台杯	B I	(15.8)	11.0	7.9	普	石・長・白	A	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ		1	5	スス	コゲ	
102	85	488	SX476	23AH12	1	須恵器	有台杯			7.4		普	石・長・白	A	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り、ロクロケズリ後ロクロナデ		3			貼付高台一部剥離
102	85	489	SX482	23AH7	1	須恵器	有台杯	B I	(16.0)	11.1	(6.8)	普	石・長・白	C	灰	ロクロナデ、ロクロケズリ	ロクロナデ、ナデ	ロクロケズリ後ロクロナデ	左	2	13		
102	85	490	SX509	22AG25	2	須恵器	無台杯	A III	11.2	7.8	3.6	普	白	C	灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	4	35		打ち欠きカ
102	85	491	SX509	22AG25	1	須恵器	杯蓋	II	12.9		3.6	普	石・白	A	灰	ロクロナデ、ロクロケズリ	ロクロナデ		左	7			
102	85	492	SX509	22AG25	1	土師器	小甕	B1 II	16.2			普	石・長・雲		橙	ロクロナデ、カキメ	ロクロナデ		3	スス	コゲ		
102	85	493	SX613	17AO2	1	須恵器	有台杯	A I	15.6	10.6	3.4	粗	石・白	A	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ		5	5			
102	85	494	SD54	24AJ16	1	須恵器	無台杯	A II	(12.2)	7.6	3.4	粗	石・長・白	A	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	1	8		
102	85	495	SD54	24AK11	1	土師器	小甕	B1 I	(18.0)			精	長・チ・白		にぶい橙	ロクロナデ	ロクロナデ、カキメ		1				
102	85	496	SD343	23AG13	1	土師器	甌		25.0			普	石・長・白・角		にぶい橙	ロクロナデ、タタキメ	ロクロナデ		4				
102	85	497	SD397	17AP18	1	須恵器	無台杯	B II	13.4	9.6	3.4	普	石・長・白	A	青灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	15	14		底部外面にヘラ書きカ
102	86	498	SD420	16AP9	2	須恵器	無台杯	B I	14.1	8.8	4.4	普	石・長・白	C	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナデ	右	7	20		
102	86	499	SD420	16AP18	1	須恵器	無台杯	A II	13.2	9.7	3.6	普	石・長・白・海	C	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナデ	右	29	36		
102	86	500	SD420	16AP18	1	須恵器	無台杯	B II	12.5	8.7	3.4	普	石・長・白	A	青灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	18	36		コゲ
102	86・91	501	SD420	16AP13	1	須恵器	無台杯	A II	13.2	8.0	4.0	普	石・長・白	A	灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	21	24		口縁外面に糊圧痕
102	86	502	SD420	16AP5	1	須恵器	無台杯	A II	13.8	8.2	3.6	普	石・長・海	C	青灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナデ	左	8	15		
102	86	503	SD420	16AP13	1	須恵器	無台杯		13.6	9.8	3.0	普	石・長・白	C	緑灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	8	34		
102	86	504	SD420	16AP23、17AP10	1	須恵器	無台杯		12.6	9.8	3.3	普	石・長・白	A	灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	12	22		底部内面に漆カ
103	86	505	SD420	16AP4	2	須恵器	有台杯			8.8		普	石・長・白	C	灰	ロクロナデ	ロクロナデ、不整方向ナデ	ヘラ切り後ロクロナデ	右	18		自然軸	
103	86	506	SD420	16AP18	1	須恵器	有台杯	B I	15.0	7.4	7.0	普	石・長・白	A	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ、ナデ	ヘラ切り後ナデ	右	6	17		
103	86	507	SD420	16AP4	1	須恵器	有台杯	A II	14.2	8.0	3.9	普	石・長・白	A	灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	9	21		
103	86・91	508	SD420	17AP3	1	須恵器	有台杯	A II	14.3	8.1	4.8	普	石・長・白	A	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロケズリ	右	16	34		底部外面に記号「〇」焼成やや不良
103	86	509	SD420	16AP13	1	須恵器	有台杯	B III	12.2	6.8	4.4	普	石・長・白	A	灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	22	32		
103	86	510	SD420	16AP12・17	1	須恵器	有台杯	A II	14.0	8.9	3.9	普	石・長・白	C	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り、ロクロナデ	右	25	34		
103	86	511	SD420	16AP13	1	須恵器	有台杯	B IV	10.5	6.7	4.5	普	石・長・白	A	灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	4	21		
103	86	512	SD420	16AP9	2	須恵器	有台杯	B III	11.5	7.0	4.1	普	石・長・白	A	灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ロクロナデ	右	15	35		
103	86	513	SD420	16AP18	1	須恵器	有台杯	X	16.0	9.6	8.5	精	石・長・白	C	灰	ロクロナデ	ロクロナデ		7	3			
103	86	514	SD420	16AP13	1	須恵器	杯蓋	I	15.4		2.7	普	石・長・白	A	灰	ロクロナデ、ロクロケズリ	ロクロナデ		右	5			
103	86	515	SD420	16AP13	1	須恵器	杯蓋	I	14.4		2.4	普	石・長・白	C	灰	ロクロナデ、ロクロケズリ	ロクロナデ		左	17		自然軸	
103	86	516	SD420	16AP4	1	須恵器	杯蓋	II	13.4		2.7	普	石・長・白	C	灰白	ロクロナデ、ロクロケズリ	ロクロナデ		右	10		自然軸	内面中央部磨耗(使用痕)
103	86	517	SD420	16AP23	1	黒色	短頸壺		10.3			精	石・長		黒	ミガキ	ミガキ		5			内面の器面剥落 内外面黒色処理	
103	87	518	SD420	16AP8・13	1	須恵器	壺蓋		11.4		3.6	普	石・長・白	C	灰	ロクロナデ、ロクロケズリ	ロクロナデ		右	8		自然軸	天井部に沈線2条
103	87	519	SD420	17AQ6	1	須恵器	鉢		11.2			精	石・白	C	灰	ロクロナデ	ロクロナデ		15		自然軸	自然軸	
103	87	520	SD420	16AP9	2	須恵器	甕	II	25.2			普	石・白	C	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ、板材利用同心円状当て具痕		10				
103	87	521	SD420	16AP13	1	土師器	長甕	B2	24.0			普	石・長・チ		橙	ロクロナデ、カキメ	ロクロナデ		9				
103	87	522	SD420	16AP13	1	土師器	長甕	B2	23.0			普	石・長		灰白	ロクロナデ、カキメ、ハケメ	ロクロナデ		3				
103	87	523	SD420	17AP3・4	1	土師器	小甕	B3 II	14.6			普	石・長・雲・角		にぶい橙	ロクロナデ、カキメ	ロクロナデ		8	スス	コゲ	内面に糊圧痕	
103	87	524	SD420	16AP9	2	土師器	小甕	B		6.6		普	石・長・雲		明褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	24	スス	コゲ	
104	87	525	SD477	23AG5	1	須恵器	無台杯	B III	11.8	8.2	3.1	普	白	B	青灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	31	36		植物痕カ
104	87	526	SD477	23AH1	1	須恵器	無台杯	B II	12.0	7.4	2.9	普	白	B	灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	5	36		
104	87	527	SD477	23AH2	1	須恵器	有台杯		(12.0)			普	白	C	青灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	2				高台剥離 破面、磁石として利用カ
104	87	528	SD477	23AG5	1	須恵器	壺蓋		(12.4)			普	石・白	A	灰白	ロクロナデ、ロクロケズリ	ロクロナデ		左			自然軸	
104	87	529	SD477	22AI16	1	須恵器	壺蓋		11.4			普	白	B	灰	ロクロナデ、ロクロケズリ	ロクロナデ		左	7		自然軸	自然軸

別 表

図版No.	写真 図版 No.	報告 書 No.	出土位置		層位	種別	器種	分類	法量 (cm)			胎土		色調	製作痕・手法			残存率 口縁 底面	付着物等		備考				
			遺構	グリッド					口径	底径	器高	状態・含有物	分類		外面	内面	底部		回転	外面		内面			
104	87	530	SD477	22A117	1	土師器	長甕	B2	24.0			普	石・白・焼・	にぶい	橙	ロクロナデ	ロクロナデ		3						
104	87	531	SD515	23AH13	1	須恵器	無台杯	BII	13.4	8.0	3.8	普	石・白	B	灰黄褐	ロクロナデ, ロクロケズリ	ロクロナデ	ロクロケズリ	右	6	13				
104	87	532	SD515	23AH13	1	須恵器	無台杯	BII	12.1	7.6	3.8	普	白	B	青灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	28	36				
104	87	533	SD515	23AH14	2	須恵器	杯蓋		16.6			普	石・白	A	灰白	ロクロナデ, ロクロケズリ	ロクロナデ		左	8		自然釉			
104	87	534	SD515	23AH13	1	須恵器	杯蓋	I	(14.6)		(2.8)	普	石・白	A	灰白	ロクロナデ, ロクロケズリ	ロクロナデ		右	2			焼成不良		
104	87	535	SD515	23AH14	2	土師器	無台碗		13.8			精	石・長・チ		橙	ロクロナデ	ロクロナデ		5		スス				
104	87	536	SD515	23AH12	1	土師器	無台碗		11.9	5.0	3.3	普	石・長・白		橙	ロクロナデ	ロクロナデ		6	16					
104	87	537	SD515	23AH13	1	土師器	小甕	A2II	15.0			普	石・長・白・ 海		橙	ハケメ、ロク ロナデ	ロクロナデ, カキメ		3				284と同一 個体カ 西 古志型		
104	87- 91	538	SD515	23AH13	1	土師器	小甕	B3II	12.8	7.6	14.0	普	石・長・白・ 角		橙	ロクロナデ, ロクロケズリ	ロクロナデ	ナデ	右	12	36	スス	コゲ	底部外面に 刷圧痕	
104	87	539	SD525	23AG5	1	須恵器	無台杯			7.9		普	白	B	灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	13					
104	87	540	SD531	23AH13	1	須恵器	無台杯	BII	12.2	9.0	3.7	普	白	C	灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り、ロ クロナデ、ナ デ	右	11	18			底部外面に ヘラ書き	
104	87	541	SD537	22AH17・18	1	土師器	鍋	B2	36.8			粗	石・長・白		灰白	ロクロナデ, ケズリ	ロクロナデ		6		スス、 コゲ		外面に刷圧 痕		
104	87	542	SD538	22AH23	1	須恵器	無台杯	AII	13.6	10.0	3.4	粗	石・長・白	A	灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	3	27		自然釉			
104	87	543	SD592	17AO14・19	1	須恵器	杯蓋		13.2			普	石・長・白	C	灰	ロクロナデ, ロクロケズリ	ロクロナデ		右	4				内面墨痕カ	
104	87	544	SD592	17AO14	1	土師器	小甕	B2II	15.0			普	石・長		にぶい	橙	ロクロナデ, カキメ	ロクロナデ		3		スス	コゲ		
104	87	545	SD651	22A16	1	須恵器	無台杯			7.4		普	白	C	灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り、ロ クロナデ、ナ デ、ハケメカ	左	36					
104	87	546	SD652	22AH10	1	須恵器	有台 杯カ	Xカ	15.2			普	石・長・白・ 海	B	灰	ロクロナデ	ロクロナデ		8			自然釉	金属器横徹 歪み有り		
104	87	547	SD673	22A120	1	須恵器	杯蓋	II	13.2		2.7	普	白	C	灰	ロクロナデ, ロクロケズリ	ロクロナデ		右	23				歪み有り (口径12~ 14cm)	
105	88	548	P183	18AO13	1	須恵器	無台杯	BII	(13.4)	9.6	3.0	粗	石・長・チ・ 白	C	にぶい	黄橙	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	1	3	スス			
105	88	549	P184	19AP3	1	須恵器	無台杯			8.4		普	石・白・海	C	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナ デ		9					
105	88	550	P212	18AO13	1	須恵器	無台杯			8.0		普	長・白	C	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナ デ	右	9					
105	88	551	P393	18AP1	1	須恵器	無台杯	BI	(14.0)	10.4	3.6	普	石・長・白	C	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	1	10			底部外面に ヘラ書き	
105	88	552	P393	18AP1	1	須恵器	杯蓋	I	14.2		3.2	普	石・長・白	A	灰	ロクロナデ, ロクロケズリ	ロクロナデ		右	3					
105	88	553	P414	15AO12	1	須恵器	無台杯	BII	13.2	8.8	3.2	普	石・長・白	A	灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナ デ	10	19					
105	88	554	P414	15AO11・12	1	須恵器	有台杯	BIII	11.8	6.9	4.5	普	石・長・白	A	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	3	8			焼成やや不 良	
105	88	555	P434	17AN3	1	土師器	小甕	B3II	12.4	8.0	13.1	普	石・長・雲		浅黄橙	ロクロナデ	ロクロナデ		4	14	スス				
105	88	556	P437	17AQ7	1	須恵器	無台杯	AIII	11.2	8.7	3.3	普	石・長・白	A	灰白	ロクロナデ, ケズリ	ロクロナデ	ロクロケズリ	左	15	36				歪み有り
105	88	557	P448	17AQ20	1	須恵器	杯蓋		21.0			普	石・長・白	C	灰白	ロクロナデ, ロクロケズリ	ロクロナデ	後 不定方向ナ デ	右	6		自然釉		天井部に沈 線2条	
105	88	558	P489	17AN1	1	土師器	無台碗		(13.9)	5.8	(3.5)	普	石・長・白		淡橙	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	2	7					
105	88	559	P489	17AN1	1	土師器	小甕	B3II	(15.0)	7.2	(14.0)	普	石・長・角		にぶい	橙	ロクロナデ, ナデ	ロクロナデ	ナデ	2	28	スス			
105	88	560	P528	17AM18	1	土師器	小甕	B3III	10.0	6.0	(12.0)	普	石・長・焼・ 白・角		浅黄橙	ロクロナデ	ロクロナデ		28	36					
105	88	561	P551	22AH12	1	土師器	長甕	B1	22.0			普	石・雲・焼・ 白・角		橙	ロクロナデ, カキメ、ケズ リ	ロクロナデ, カキメ、ハケ メ		16						
105	88	562	P551	22AH12	1	土師器	長甕	B1	22.0		30.6	普	石・長・焼・ 白・角		橙	ロクロナデ, カキメ、タタ キメ	ロクロナデ, カキメ後ロク ロナデ、当て 具痕、ハケメ		20					体部外面に ヘラ書き	
105	88	563	P587	16AP23	1	須恵器	短頸壺		11.0			普	石・白	C	灰	ロクロナデ, カキメ	ロクロナデ, カキメ		21		自然釉				
105	88	564	P590	16AP19	1	土師器	長甕	A				普	石・長・海		にぶい	橙	ナデ	木葉痕							
106	88- 91	565	P610	14AM14	1	須恵器	無台杯	AII	12.8	9.0	3.8	普	石・長・白	C	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ロ クロナデ、ナ デ	右	28	32			底部外面に ヘラ書き	
106	88	566	P610	14AM14	1	須恵器	無台杯	AII	13.3	8.9	3.8	普	石・白	C	橙	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	25	36			焼成不良	
106	88	567	P628	17AL21	1	土師器	小甕	B3II	(13.8)	4.3	(9.0)	普	石・長・角・ 海		橙	ロクロナデ, ケズリ	ロクロナデ, カキメ	ケズリ	左	1	36	スス			
106	88	568	P716	20AK25	1	土師器	高杯		(20.0)			普	石・長・白		浅黄橙	ロクロナデ	ロクロナデ		2						
106	89	569	P718	20AK20	1	須恵器	甕					普	白	C	灰	カキメ、タタ キメ	ロクロナデ, 当て具痕							内面当て具 板状から作 り出し	
106	89	570	P815	17AQ13	1	土師器	小甕	A1III	12.0			普	石・長・角		橙	ハケメ後ヨコ ナデ、ハケメ	ヨコナデ、ハ ケメ		6		スス	コゲ			
106	89	571		17AQ16	IV	須恵器	無台杯	AII	13.8	10.2	4.0	普	石・長・白・ 軽石	C	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナ デ	右	36	36				
106	89	572		25A12	III	須恵器	無台杯	BI	14.0	9.1	3.7	普	石・長・白	A	明オリ一 平灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	14	28				
106	89	573		19AL18	IV ~ V	須恵器	無台杯	BI	14.0	9.2	3.8	精	石・長	C	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	7	13			漆	第1次調査 15T	
106	89	574		18AN23・24	IV	須恵器	無台杯	AII	13.4	9.8	3.5	普	石・長・白	C	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナ デ	右	4	18				
106	89	575		16AP15	IV	須恵器	無台杯	BII	13.6	10.6	3.8	普	石・長・白	C	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナ デ	右	6	15				
106	89	576		17AP20	IV	須恵器	無台杯	BII	13.8	9.0	4.0	普	石・長・チ	C	灰白	ロクロナデ, ロクロケズリ	ロクロナデ	ロクロケズリ	左	6	13				焼成不良
106	89	577		21AO5・13	IV	須恵器	無台杯	BII	13.4	10.0	3.5	普	石・長・白	C	褐灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナ デ	右	7	8				底部外面に ヘラ書き
106	89	578		16AQ18	IV	須恵器	無台杯	AII	(13.2)	8.4	3.9	普	長・白	C	灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナ デ	右	2	12				内外面ヒダ スキ痕
106	89	579		18AR6	IV	須恵器	無台杯	AII	13.0	8.8	3.2	普	石・長・白	C	灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナ デ	3	15					
106	89	580		17AO17	IV	須恵器	無台杯	BII	13.2	10.0	3.6	普	石・長・白	C	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナ デ	右	5	5				
106	89	581		18AP4・9	IV	須恵器	無台杯	AII	12.4	9.4	3.0	普	石・長・白	C	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ, ナデ	ヘラ切り後ナ デ	右	12	12				

図版 No.	写真 図版 No.	報告 書 No.	出土位置		層位	種別	器種	分類	法量 (cm)			胎土		色調	製作痕・手法				残存率	付着物等		備考				
			遺構	グリッド					口径	底径	器高	状態・含有物	分類		外面	内面	底部	回転		口縁	底部		外面	内面		
																									外面	内面
106	89	582		19AO20・25	IV	須恵器	無台杯	AIII	11.8	6.7	3.5	精	石・長	C	にぶい赤褐	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナデ	右	8	36			底部外面にヘラ書き		
106	89	583		18AP21	IV	須恵器	無台杯	AIII	11.4	7.6	3.3	普	石・長・白	A	褐灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナデ	右	25	36					
107	89	584		24AL1	III	須恵器	無台杯	BII	(12.8)	7.6	3.3	精	長・白・角	B	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	2	21			焼成不良		
107	89	585		19AP25, 19AQ16	IV	須恵器	無台杯	BII	12.0	8.0	3.5	普	石・長・白	C	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナデ	右	11	12			焼成不良		
107	89	586		17AQ5	IV	須恵器	無台杯	BII	13.0	10.0	3.0	普	石・長・白	C	灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナデ	左	12	13					
107	89	587		23AK10	IV	須恵器	無台杯			8.4		精	長・白・海	B	灰	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左		36					
107	89・91	588		17AQ16	IV	須恵器	有台杯	AII	14.2	7.8	4.3	普	石・白	C	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	24	36			底部外面に墨書 焼成や不良		
107	89	589		18AO10・22	IV	須恵器	有台杯	BIV	10.4	5.2	5.1	精	長・白	C	灰	ロクロナデ, ロクロケズリ	ロクロナデ	ロクロナデ		5	11					
107	89	590		25AK12	III	須恵器	有台杯	BIII	11.5	7.8	4.4	粗	石・長・白	A	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ロクロナデ	右	25	36					
107	89	591		25AI24	IV	須恵器	有台杯	AIII	12.0	6.2	3.9	普	長・白	C	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ロクロナデ	右	36	18			底部外面にヘラ書き		
107	90	592		19AP13	IV	須恵器	杯蓋	I	19.2		4.5	普	石・長・白	C	灰白	ロクロナデ, ロクロケズリ	ロクロナデ, ナデ		右	9				焼成不良		
107	90・91	593		23AK5	III	須恵器	杯蓋	I	16.1		3.5	精	石・長・白	C	褐灰	ロクロナデ, ロクロケズリ, ナデ	ロクロナデ, ナデ		右	13				内面にヘラ書き		
107	90	594		23AL1	IV	須恵器	杯蓋	I	14.8		3.6	粗	石・長・白	A	灰白	ロクロナデ, ロクロケズリ	ロクロナデ		右	15						
107	90	595		18AO17・18, 19AO2	IV	須恵器	杯蓋	I	14.6		2.6	普	長・白	C	灰	ロクロナデ, ロクロケズリ	ロクロナデ, ナデ			3						
107	90	596		20AO21	IV	須恵器	杯蓋	II	13.0		2.5	普	石・長・白	A	赤灰	ロクロナデ, ロクロケズリ	ロクロナデ			16			自然釉			
107	90	597		26AI4	IV	土師器	無台杯		14.2	9.5	3.9	普	石・長・角		浅黄橙	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナデ	右	31	36			内外面赤彩		
107	90	598		17AP24・25, 18AQ15	IV	土師器	無台杯			10.7		普	石・長・白・角		にぶい橙	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右		28					
107	90	599		18AM15	IV	黒色	有台杯		(12.0)			普			黄灰	ミガキ	ミガキ			2				内外面黒色処理		
107	90	600		18AP8, 19AP11・16	IV	須恵器	壺蓋		(11.4)			普	石・長・白	A	褐灰	ロクロナデ, ロクロケズリ	ロクロナデ		右	1			自然釉			
107	90	601		16AP7	IV	須恵器	甕	II	28.0			普	長・白	C	黒褐	ロクロナデ	ロクロナデ			4						
107	90	602		17AQ7	IV	土師器	長甕	A1	24.0			粗	石・長・チ・白		にぶい橙	ヨコナデ, ハケメ	ヨコナデ, ハケメ			19			スス			
107	90	603		17AQ16	IV	土師器	長甕	A1	22.4			普	石・長・雲・角・海		にぶい橙	ヨコナデ, ハケメ, ナデ, ケズリ	ヨコナデ, ハケメ, ナデ			13			スス			
107	90	604		17AP10	IV	土師器	小甕	B2II	14.0			普	石・長・チ・白		にぶい橙	ロクロナデ, カキメ	ロクロナデ, カキメ			5			スス			
107	90	605		22AL23	I・II	土師器	甗					普	石・長・雲		浅黄橙	指頭圧痕							スス	把手剥がれた面にスス		
108	90	606	SD47	24AL6	1	珠洲焼	片口鉢					精	石・長		灰	ロクロナデ	ロクロナデ, 卸目									
108	90	607	SD226	25AJ7	1	珠洲焼	甕					精	石・白		灰	平行タタキメ	当て具痕									
108	90	608	SE20	21AN4	2	陶器	碗			7.0		精			にぶい橙	ロクロナデ, ロクロケズリ	目痕	削り出し高台		13			鉄釉			
108	90	609	SE20	21AN4	3	陶器	播鉢		37.2			精			にぶい橙	ロクロ成形	ナデ成形, 卸目			6			鉄釉	鉄釉	肥前カ	
108	90	610	SK10	23AM1	1	磁器	皿			7.4		精			灰白	文様あり, 圏線	圏線, 文様あり	高台に砂		4					染付, 中国産カ 614 と同時期カ	
108	90	611	SK19	21AO2	6	磁器	皿			4.2		精			灰白	ナデ成形	ナデ成形, 蛇の目軸刺ぎ文様有り	高台一部無軸		36					肥前染付 (波佐見)	
108	90	612	SK19	21AO3	2	磁器	德利					精			灰白	圏線, 草花文									肥前染付	
108	90	613	SK19	21AO2	3	磁器	碗			5.0		精			灰白	丸文, 圏線	見込: 圏線, コンニャク印判(五弁花文)	銘: 福高台に砂		15					肥前染付	
108	90	614	SK19	21AO2	2	陶器	播鉢		(37.0)			精	白		明赤褐	ナデ成形	ナデ成形, 卸目			2			鉄釉	鉄釉	須佐唐津	
108	90	615	SD21	21AN16	1	磁器	輪花皿		13.6	(8.4)	4.4	精			灰白	唐草文, 圏線	草花文, 圏線	高台内: 圏線		3	1				肥前染付	
108	90	616	SD25	20AO25	1	磁器	碗			3.2		精			灰白	ナデ成形	ナデ成形	見込: 文様あり		6					コバルトカ	
108	90	617	SD25	20AO20		陶器	皿			3.0		精			にぶい黄橙			削り出し高台		14			灰釉	灰釉	瀬戸・美濃焼カ	
108	90	618	SD25	20AN19	1	陶器	德利					精			灰黄	ナデ成形	ナデ成形						鉄釉	鉄釉	松郷屋焼	
108	90	619	SD25	20AO25	1	陶器	播鉢		(38.4)			精			灰白	ナデ成形	ナデ成形, 卸目			2			鉄釉	鉄釉	越中瀬戸カ	
108	90	620		24AK18	I・II	陶器	皿			4.2		精			灰白	ロクロ成形, ケズリ	蛇ノ目軸刺ぎ	砂目高台		36					銅緑釉, 肥前(内野山)	
108	90	621		21AN14	I・II	磁器	碗			9.9	3.6	4.6	精		灰白	草花文, 高台: 圏線				16	24				染付, くらわんか碗, 肥前	
108	90	622		22AN5	I・II	青磁	香炉			7.2			精		灰白						9					太鼓型香炉, 肥前 (波佐見)
108	90	623		22AN5	I・II	陶器	播鉢			13.4		精	石・長		にぶい橙	ロクロ成形	卸目	削り出し高台		17			鉄釉		肥前	
108	90	624		21AL24	I・II	土器	焙烙		(25.2)	(23.4)		精	石・長・雲		にぶい橙	ロクロナデ	ロクロナデ			2	2					

別表3 土製品観察表

図版 No.	写真図版 No.	報告 No.	出土位置		層位	器種	法量 (mm)			重量 (g)	胎土状態・含有物	色調	製作痕・手法			残存率		付着物		備考		
			遺構	グリッド			長さ	幅	厚さ				外面	内面	底部	口縁	底部	外面	内面			
																					外面	内面
109	92	625a	SK418	17AL19・20・24・25	1	鳥形製品(体)	(235.0)/235.0	195.0/308.0	10.0	2500.0	普石・長	灰	ロクロナデ, カキメ, ナデ, ケズリ, タタキメ	ロクロナデ					自然軸		須恵器質 閉塞部あり	
109	92	625b	SK419・499・740	17AM11, 18AM2, 19AM1	1, IV	鳥形製品(首)	(102.0)	58.0	7.0	79.0	普石・長	灰白	ロクロナデ, ケズリ	ロクロナデ					自然軸	自然軸	須恵器質 外面に丸い模様あり	
110	93	626	SK413	16AM12	1	鳥形製品(体)	208.0/230.0	(193.0)/264.0	18.0	1646.0	普石・長	灰	ロクロナデ, カキメ, タタキメ, ナデ	ロクロナデ, 指頭押圧, ナデ							須恵器質	
111	93	627	SK419	18AM1	2	鳥形製品(左足)	(129.0)	79.0	46.0	230.0	普石・長	灰	ナデ		ケズリ, 板目圧痕						須恵器質 靱圧痕, 指紋あり 蹠足を表現 内趾と中趾の一部欠損 後趾の先端一部剥離	
111	93	628	SK419	18AM1	2	鳥形製品(右足)	(90.0)	65.0	60.0	181.0	普石・長	灰白	ナデ		ナデ, 板目圧痕				自然軸		須恵器質	
111	94	629	SK419	18AM1	2	鳥形製品(頭)	126.0	46.0	100.0	348.8	普石・長・白	灰白	ナデ, ケズリ	ナデ, ケズリ							須恵器質 焼成やや不良 背側が黒化	
111	94	630	SK419	18AM1	2	鳥形製品(頭)	144.0	49.0	69.0	344.3	普石・白	灰白	ナデ	ナデ							須恵器質	
112	94	631	SI451	17AP10	1	紡錘車	54.0	(36.0)	28.0	45.5	普石・雲	黄灰										
112	94	632	P448	17AQ20	1	土鉢	(38.0)	17.0	16.5	8.7	普石・角	灰白									古代	
112	94	633	22AN10	22AN10	IV	土鉢	46.0	14.5	13.5	7.9	普石・長・雲	黒褐	指頭押圧									
112	94	634	SK346	17AQ12	1	円筒形土製品	110.0	173.0	-	86.6	普石・長・海	橙									外面磨耗のため調整不明	
112	94	635		22AM9・14	I・II, III	円筒形土製品	128.0	149.0	-	108.4	精石・長・雲・白	橙	ナデ, ケズリ	ロクロケズリ, ハケメ, ヘラナデ					13/36			
112	94	636		17AQ8	IV	円筒形土製品	109.0	170.0	-	96.2	普石・長・チ・白	橙	ヨコナデ, ナデ	ヨコナデ, ナデ					5/36			全体的に磨耗
112	94	637	SX299	23AG24	2	円筒形土製品	-	-	-	11.0	普石・長・海	黄灰	ハケメ	ハケメ								
112	94	638	SK220, SX421	15AP24, 16AP4, 17AP17	1	円面硯	台径 112.0	上部径 83.0	器高 31.0	73.7	普石・白	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	台部 11/36	上部 17/36		自然軸	自然軸		

別表4 鍛冶関連遺物観察表

図版 No.	写真図版 No.	報告 No.	出土位置		層位	器種	法量 (mm)			重量 (g)	備考	
			遺構	グリッド			長さ	幅	厚さ			
112	94	639	SI108	18A08・9	1	羽口	76.0	68.0	49.5	102.0	胎土に靱殻含む 身厚25mm前後 通風孔15~20mm前後(楕円形)	
112	94	640	SK77	18AP9	1	羽口	(25.5)	(19.5)	13.0	6.0		
112	94	641	SX125	16AP24	1	椀形鍛冶滓	71.5	67.0	26.0	127.0	平面形不整五角形	
112	94	642	SK128	18AP17	2	椀形鍛冶滓	51.0	54.0	23.0	53.0	滓質気泡多い 平面形不整三角形	
112	94	643	SX64	17AQ13	1	椀形鍛冶滓	53.0	58.0	30.0	99.0	平面形不整五角形 滓質緻密	
112	94	644	SX124	19AQ1	1	椀形鍛冶滓	70.0	57.0	35.5	153.0	滓質緻密	
112	94	645	SK67	18AP22	1	鉄滓	36.5	27.5	16.0	11.0		
112	94	646	SB829-P161	18AP17	1	鉄滓	40.0	27.0	17.0	20.0	滓質気泡多い	

別表5 石器・石製品観察表

図版 No.	写真図版 No.	報告 No.	出土位置		層位	器種	法量 (cm)			重量 (g)	遺存状況	石材	備考
			遺構	グリッド			長さ	幅	厚さ				
112	95	647	SK52	24AK6	1	数珠玉(親玉)	1.2	1.2	1.1	2.0	完形	石英	近世
112	95	648	SK52	24AK6	1	数珠玉	0.9	0.9	0.7	1.0	完形	石英	近世
112	95	649	SK52	24AK6	1	数珠玉	0.7	0.7	0.6	0.5	完形	水晶	近世
112	95	650	SK15	21AN24	2	数珠玉	0.4	0.4	0.3	0.06	完形	石英	近世
112	95	651	表採	表採	-	数珠玉	1.0	1.0	0.8	1.0	完形	石英	近世
112	95	652	SX125	16AP19	1	砥石+砥石	24.4	12.5	4.4	2,032.9	完形	ホルンフェルス	
112	95	653	SX42・62	22AN18, 24AM6	1	砥石	13.9	7.5	3.3	353.5	上下・裏面欠損	凝灰岩	
112	95	654	SI65	17AQ19	1	砥石	6.1	3.8	0.9	15.0	上下・裏面欠損	凝灰岩	
112	95	655	SX124	19AP4	1	砥石	5.8	3.9	2.0	36.0	上端欠損	凝灰岩	
113	95	656	SI451	17AP20	1	砥石	10.8	7.9	8.3	1,016.0	上端欠損	砂岩	
113	95	657		17AP10	IV	砥石	10.8	11.7	7.4	1,223.0	上端欠損	砂岩	被熱
113	95	658	SD420	16AP13	1	砥石	7.7	8.3	5.4	427.5	完形	凝灰岩	
113	95	659		21AK11	IV	砥石	12.4	7.9	6.2	609.0	下端・裏面欠損	砂岩	木炭化石痕
113	95	660	SX63	17AQ21	1	砥石	7.2	3.7	2.3	61.0	下端欠損	緑色凝灰岩	
113	95	661	SX63・125	17AP4, 17AQ16	1	砥石	13.7	5.4	2.9	277.0	上部右側面欠損	凝灰岩	
113	96	662	SD420	16AP8	2	砥石	10.5	5.2	3.3	199.2	ほぼ完形	凝灰岩	
113	96	663		17AR18	IV	砥石	11.0	3.25	3.8	218.5	完形	凝灰岩	
113	96	664	SX469	16AP22	1	砥石	9.5	4.4	3.2	212.0	完形	玄武岩	
114	96	665	SI108	18AO9	1	砥石	10.0	6.9	5.7	521.0	完形	凝灰岩	
114	96	666	SI451	17AP15	1	砥石	10.2	7.7	5.4	593.5	下端欠損	凝灰岩	
114	96	667		17AQ13	IV	砥石	18.5	6.4	4.4	586.5	完形	凝灰岩	
114	96	668	SD420	16AP9	2	軽石製品	7.5	6.2	4.0	89.5	完形	軽石	
114	96	669	SI451	17AP10	1	軽石製品	6.3	6.4	2.5	47.5	完形	軽石	磨耗 中央に径1.0cm, 断面V字のくぼみ
114	96	670	SK443	17AR6	1	軽石製品	6.4	3.7	2.0	27.5	完形	軽石	磨耗
114	96	671	SD525	23AH1	1	軽石製品	6.3	4.2	1.6	23.5	完形	軽石	
114	96	672	SD25	20AO25	1	軽石製品	4.8	5.6	3.8	44.5	完形	軽石	磨耗
114	96	673		17AO15	IV	軽石製品	10.6	8.6	3.6	131.0	右側下端欠損	軽石	磨耗 中央に径1.0cm, 深さ1.7cmの断面U字状のくぼみ
114	96	674	SK19	21AO3	2	軽石製品	6.0	5.3	3.5	38.0	完形	軽石	磨耗
114	96	675		17AP19	IV	軽石製品	3.0	4.6	2.2	11.7	下端欠損	軽石	表面からの穿孔痕
114	97	676	SX469	16AP24	1	磨石	10.1	7.0	6.7	692.0	完形	珩岩	
114	97	677		23AH1	III	石鉢	14.1	8.5	4.3	230.0	ほぼ完形	軽石	
115	97	678	SE20	21AN4	3	火打石	5.3	2.6	2.3	28.5	完形	チャート	
115	97	679		17AR21	IV	加工礫	4.0	4.15	2.3	32.4	上下端欠損	礫岩	表面に径1.5cm, 断面V字状のくぼみ

図版 No.	写真図版 No.	報告 No.	出土位置		層位	器種	法量 (cm)			重量 (g)	遺存状況	石材	備考
			遺構	グリッド			長さ	幅	厚さ				
115	97	680	SK455	17AP19	1	台石	10.3	10.2	9.5	1,022.0	一部のみ	砂岩	被熱、木炭化石痕
115	97	681	24AK15	17AP19	IV	台石	11.1	14.2	6.7	1,311.0	一部のみ	凝灰岩	被熱
115	97	682	SI608	15AO4	1	焼磔	18.9	11.1	7.2	1,772.0	下端欠損	流紋岩	被熱で部分的に赤化 鉄滓付着
115	97	683	SD592	17AO19	1	焼磔	14.0	13.1	12.9	2,600.0	一部のみ	流紋岩	被熱で部分的に赤化 鉄滓付着
115	97	684	SK215	17AP23	1	編み物石	8.5	3.6	3.2	118.0	完形	流紋岩	
115	97	685	SI451	17AP15	1	編み物石	8.5	2.8	2.7	103.0	完形	玄武岩	
115	97	686		17AP8	IV	編み物石	7.7	3.6	3.0	119.5	完形	玄武岩	
115	97	687	SI451	17AP10	1	編み物石	7.2	3.3	3.3	111.0	完形	流紋岩	
115	97	688	SX70	19AP13	1	編み物石	11.5	4.7	4.6	339.0	完形	流紋岩	
115	97	689		18AN16	IV	編み物石	11.6	4.0	2.8	194.0	完形	凝灰岩	
115	97	690	SX283	17AQ13	2	編み物石	10.0	4.4	3.3	234.0	完形	玄武岩	
115	97	691	SK543	17AM12	1	編み物石	10.2	5.0	3.1	230.5	完形	流紋岩	被熱、付着物あり
115	97	692	SE278	17AQ22	3	編み物石	13.9	5.6	3.3	375.0	完形	流紋岩	
115	97	693	P385	17AQ12	1	編み物石	13.0	5.3	4.6	352.0	完形	流紋岩	
115	97	694	P385	17AQ12	1	編み物石	12.6	4.9	4.9	337.5	完形	流紋岩	
115	97	695		19AO2	IV	編み物石	13.6	6.0	3.5	406.0	完形	流紋岩	

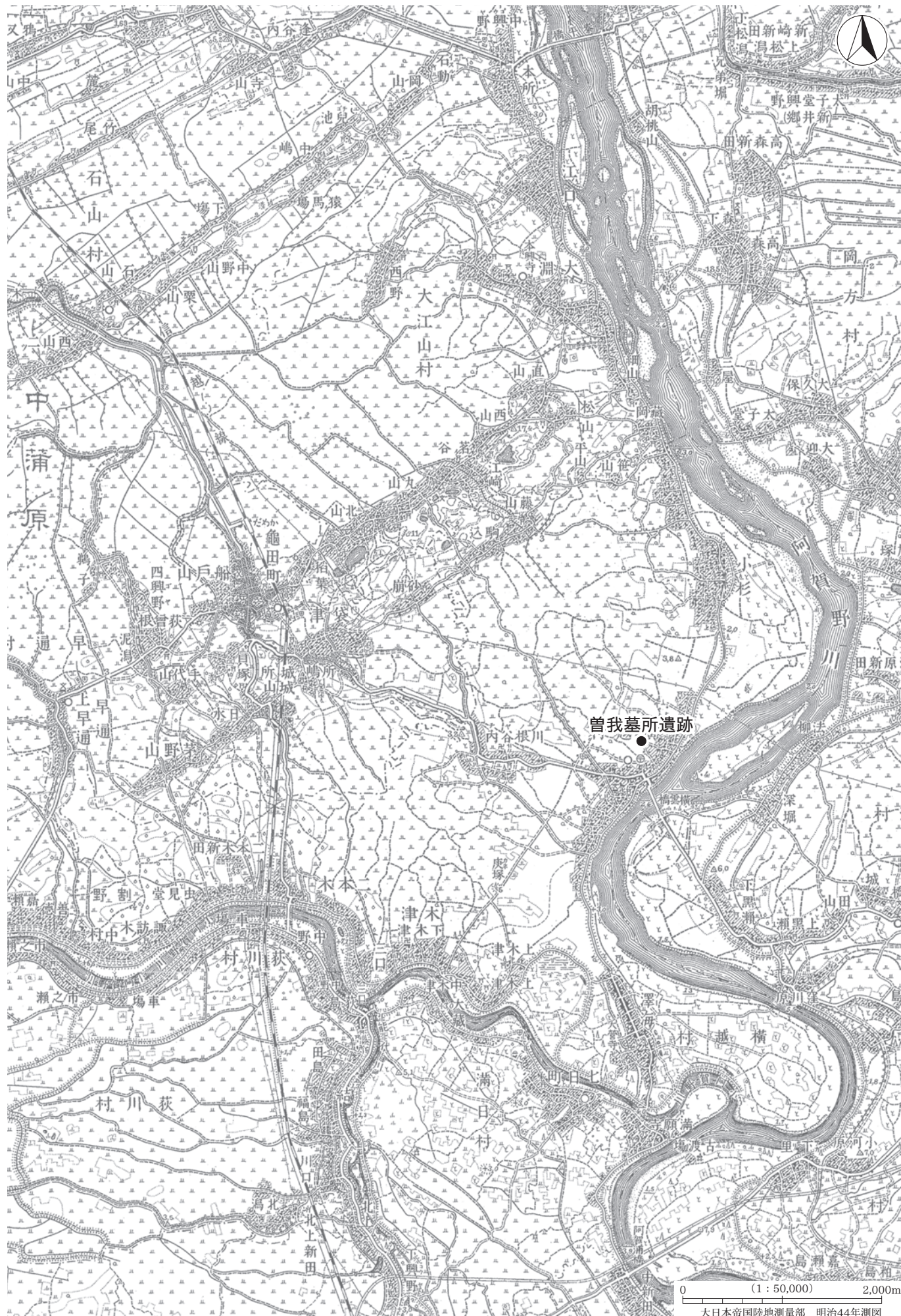
別表 6 金属製品観察表

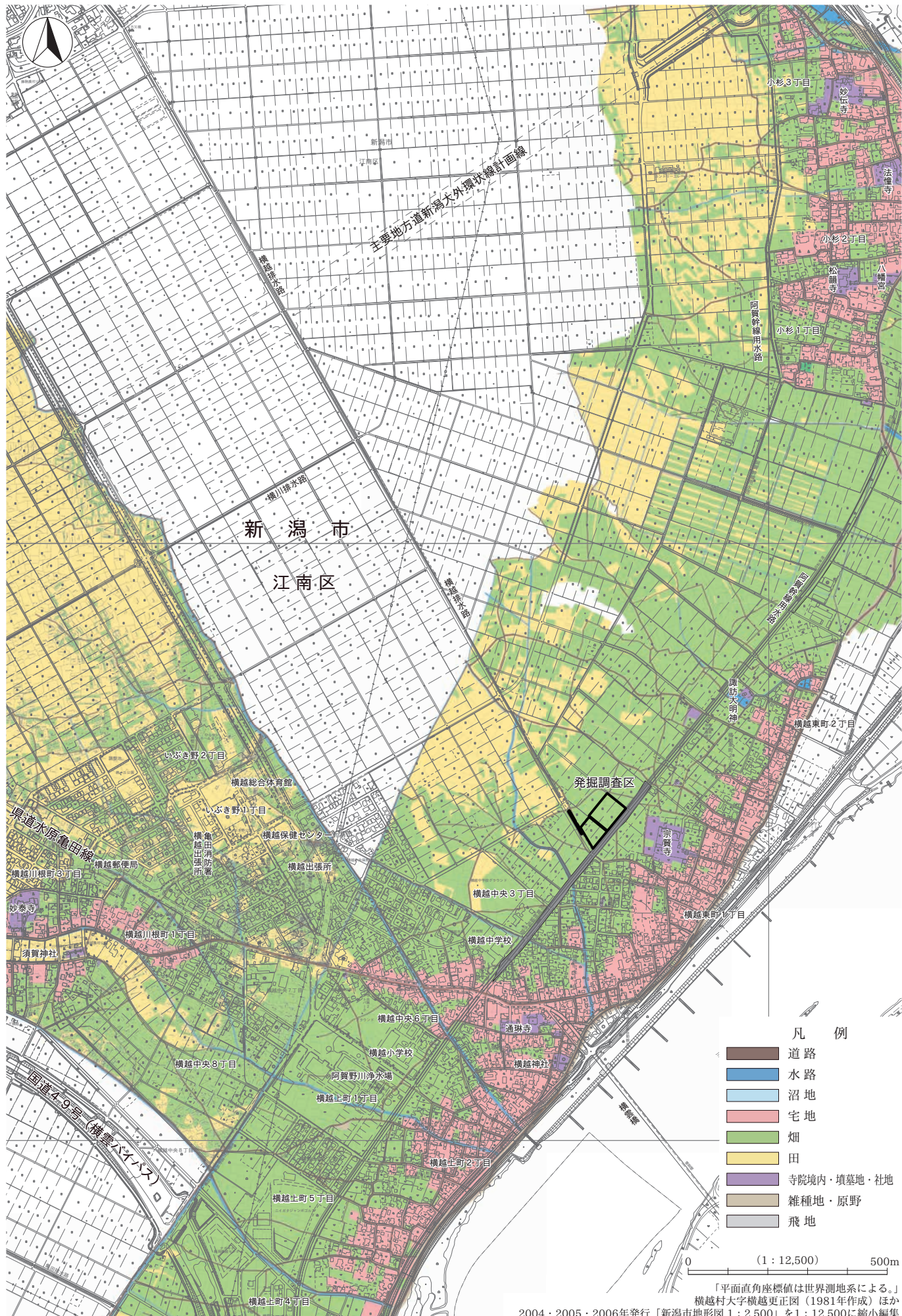
図版 No.	写真図版 No.	報告 No.	出土位置		層位	器種	素材	法量 (mm)			重量 (g)	備考
			遺構	グリッド				長さ	幅	厚さ		
116	98	696	SK419	18AM1	2	鉄錫杖頭	鉄	398.0	87.0	33.0	298.9	3点
						鉄錫杖頭 (右側遊環部)	鉄	-	-	-	8.4	
						鉄錫杖頭 (左側遊環部)	鉄	53.0	23.0	14.0	14.9	
116	98	697	SK419	18AM1	2	鉄鏢	鉄	92.5	39.0	32.0	65.8	
116	98	698	SK419	17AM21	2	鉄鏢	鉄	102.5	51.5	34.0	115.7	
116	98	699	SK758	17AK25	1	鉄鏢	鉄	130.5	32.0	32.0	97.2	
116	98	700	SX63	17AQ21	1	鉄鏢	鉄	106.0	23.5	17.0	53.0	
116	98	701	SB828-SD357	17AR16	1	鉄鏢の舌	鉄	82.5	17.0	15.0	25.0	
116	98	702	SK488	18AL3	3	鉄鏢の舌	鉄	(103.0)	22.0	15.5	38.0	
116	98	703		19AP22	IV	鉄鏢の舌	鉄	(80.0)	19.0	18.0	31.7	
117	99-100	704	SK564	21AH16	1	鉄鏢	鉄	(75.5)	(40.0)	9.0	24.5	
117	99-100	705		22AH23	-	紡錘車	鉄	47.0	48.5	コマ15.5 軸長(22.0)	38.5	第1次調査7T
117	99-100	706	SX70	19AP9	1	刀子	鉄	126.5	16.5	8.0	21.0	
117	99-100	707		17AQ1	IV	刀子	鉄	(116.0)	29.0	17.0	35.6	
117	99-100	708	P599	17AP5・10, 17AQ1・6	1	刀子	鉄	98.0	18.0	16.0	17.5	
117	99-100	709	SK419	17AM21	2	刃物カ	鉄	(88.0)	26.0	5.0	28.8	
117	99-100	710		17AO18	IV	釘カ	鉄	48.5	18.0	9.0	7.6	
117	99-100	711	SK444	17AQ15	1	釘	鉄	(77.0)	25.5	10.0	17.0	
117	99-100	712	SK444	17AQ10	1	釘	鉄	(72.0)	13.0	10.0	8.0	中央部に鉄残存
117	99-100	713	SI65	17AQ20	1	釘	鉄	63.0	16.0	10.0	10.5	中央部に鉄残存
117	99-100	714	SD359	17AQ25	1	釘カ	鉄	(48.0)	16.0	12.0	11.5	
117	99-100	715		18AN1	IV	コの字型金具、留め具カ	鉄	60.7	(60.8)	10.0	23.0	
117	99	716	SE278	17AQ22	1	楔カ	鉄	50.0	24.0	20.0	27.6	
117	99-100	717	SK15	21AN24	1	釘	鉄	(26.0)	12.0	7.0	1.8	
117	99-100	718	SK15	21AN25	2	釘	鉄	44.0	13.5	7.0	2.3	
117	99-100	719		19AP3	IV	鎌	鉄	211.0	54.5	16.0	393.0	
117	99-100	720		18AO22	IV	鎌	鉄	248.0	69.0	28.0	355.5	柄の痕跡あり
117	99-100	721		18AK4	IV	不明	鉄	(87.5)	(17.0)	(6.0)	14.0	接合しない同一個体
117	99-100	722	SI65	17AQ15	1	不明	鉄	(88.0)	22.0	10.0	39.0	
117	99-100	723		17AN11	IV	不明	鉄	(6.6)	(4.8)	3.0	18.0	
117	99-100	724	SX63	17AQ16	1	不明	鉄	59.0	31.0	14.0	42.0	
117	99-100	725		18AP18	III	不明	鉄		径25.0~26.0		17.0	球体
117	99	726	SD55	24AI15	1	煙管の雁首	銅	(56.0)	12.0	11.5	9.4	
117	99	727	SK8	24AL6	2	銭貨	銅	9.5	22.5	1.5	1.4	寛永通宝 (新寛永)
117	99	728	SK1	25AI14	2	銭貨	銅	20.5	21.5	1.5	1.3	寛永通宝
117	99	729	SK16	18AN15	1	銭貨	銅	23.0	23.0	1.0	2.3	古寛永
117	99	730	SK10	22AM21	3	銭貨	銅	26.0	25.5	5.0	8.8	4枚重なる 1枚目は寛永通宝 (古寛永)
117	99	731	SK16	18AN15	1	銭貨	銅	25.5	25.5	3.5	7.3	3枚重なる 上下は古寛永で中は不明

別表 7 木製品観察表

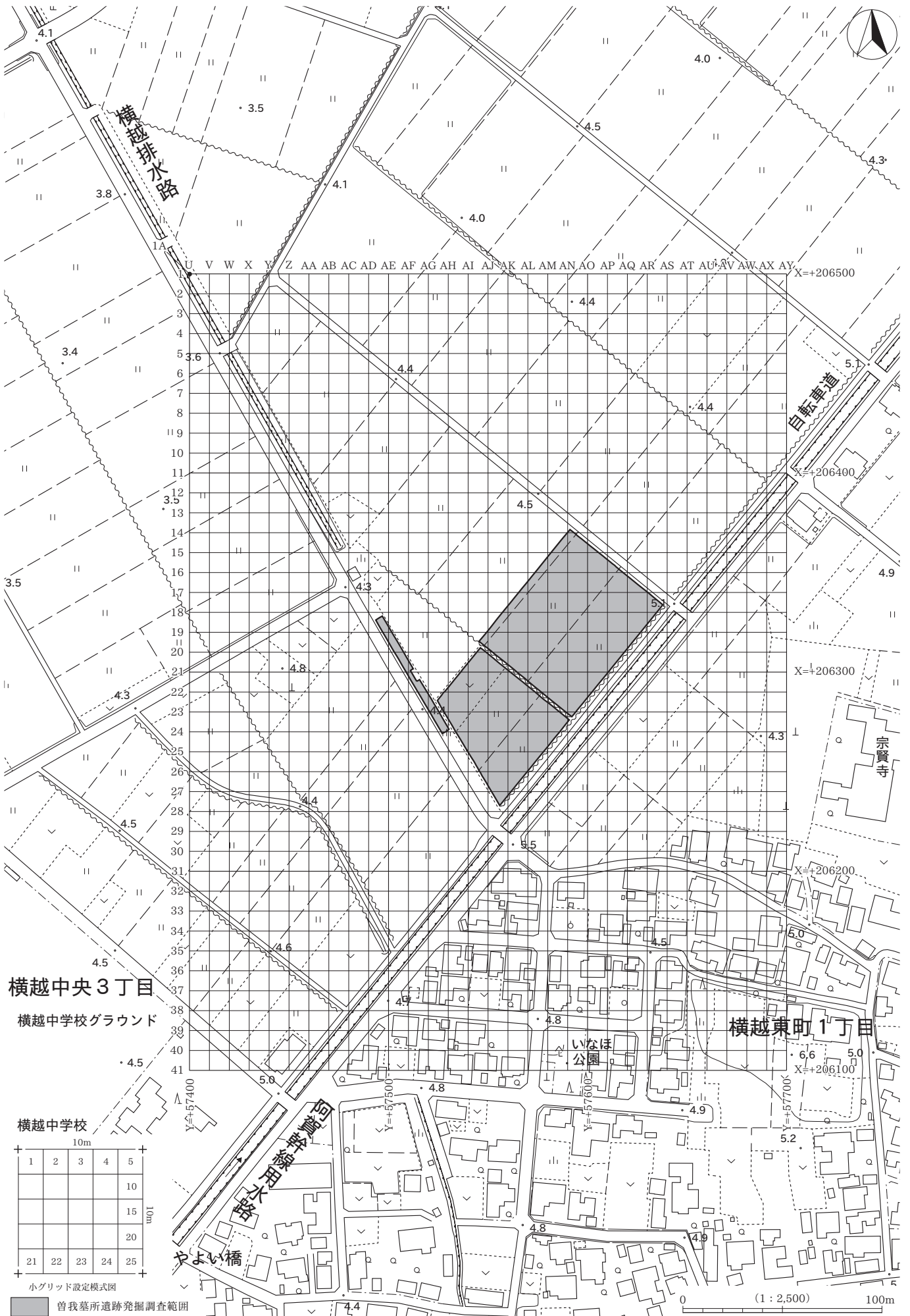
図版 No.	写真図版 No.	報告 No.	出土位置		層位	器種	樹種	木取り	法量 (cm)			備考
			遺構	グリッド					長さ	幅・径	厚さ	
118	101	732	SE278	17AQ23	5	箸状製品	スギ		(17.7)	1.0	1.0	下端欠損, 上端炭化
118	101	733	SE278	17AQ23	4	小皿未成品	スギ	板目	9.4	9.3	2.4	
118	101	734	SE278	17AQ23	4	棒状製品	スギ	板目	(49.2)	2.0	1.2	下端欠損, 一部折損
118	101	735	SE278	17AQ23	4	棒状製品	スギ	板目	(43.0)	1.5	1.4	下端欠損, 一部折損
118	101	736	SB251-P152	19AP8	1	柱根		芯持ミカン割	41.0	18.8	13.6	
118	101	737	SB251-P178	18AP21	2	柱根		芯持ミカン割	(67.1)	21.0	9.5	
118	101	738	SB251-P273	18AP7	2	柱根	スギ	芯持偏ミカン割	61.4	26.2	15.7	仕口の部材を再利用カ
118	101	739	SI108-焼土211	18AO3	1	柱材	カツラ	芯去ミカン割	18.8	6.1	6.8	
118	101	740	SE278	17AQ23	-	井戸側		板目	(62.0)	14.4	2.6	
118	101	741	SE278	17AQ23	-	井戸側		板目	(71.9)	11.8	3.3	板目角材の再利用
118	101	742	SE278	17AQ23	-	井戸側	スギ	板目	(44.0)	10.8	1.6	
119	102	743	SE278	17AQ23	-	井戸側		板目	(74.0)	21.2	4.8	
119	102	744	SE278	17AQ23	-	井戸側		板目	(57.2)	20.5	2.0	
119	102	745	SE278	17AQ23	-	井戸側		板目	(52.2)	18.6	2.3	
119	102	746	SE278	17AQ23	-	井戸側		板目	(92.2)	23.7	5.7	
119	102	747	SE278	17AQ23	-	井戸側	スギ		(141.1)	51.8	39.8	丸木舟1転用
120	103	748	SE278	17AQ23	-	井戸側	スギ		(156.5)	45.1	40.8	丸木舟1転用
120	103	749	SE278	17AQ23	-	井戸側	スギ	板目	(126.6)	(40.6)	(24.3)	丸木舟2転用
120	103	750	SK1	25AI14	2	数珠玉	-	-	0.5	0.5	0.4	
120	103	751	SK1	25AI14	2	数珠玉	-	-	0.4	0.6	0.4	
120	103	752	SK1	25AI14	2	数珠玉	-	-	0.4	0.5	0.4	
120	103	753	SK10	22AM21	3	数珠玉	-	-	0.6	0.6	0.5	
120	103	754	SK10	22AM21	3	数珠玉	-	-	0.6	0.6	0.4	

圖 版







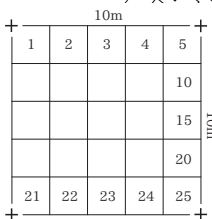


横越中央3丁目

横越中学校グラウンド

横越東町1丁目

横越中学校

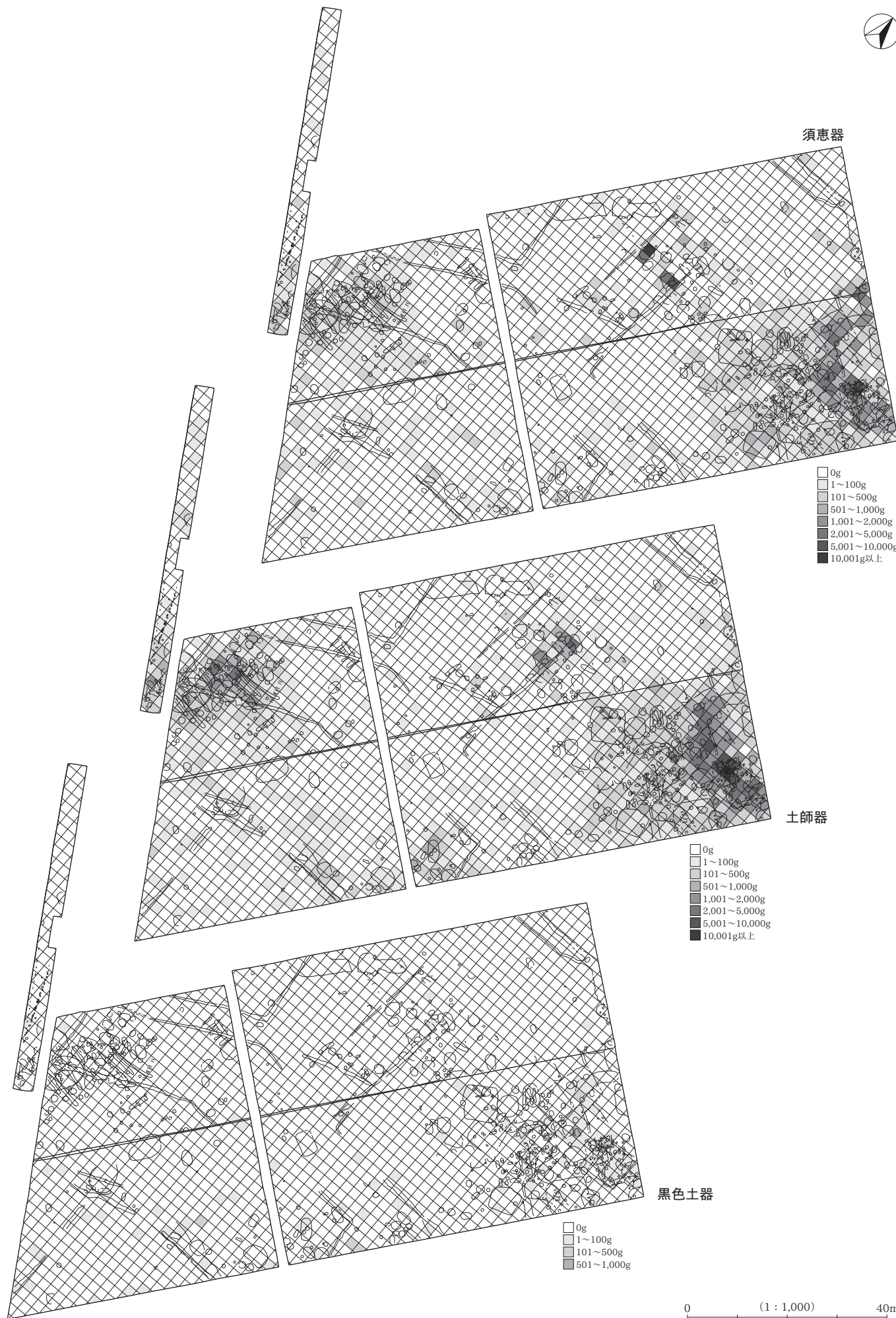


小グリッド設定模式図

■ 曽我墓所遺跡発掘調査範囲

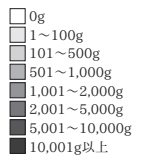


0 (1:400) 20m





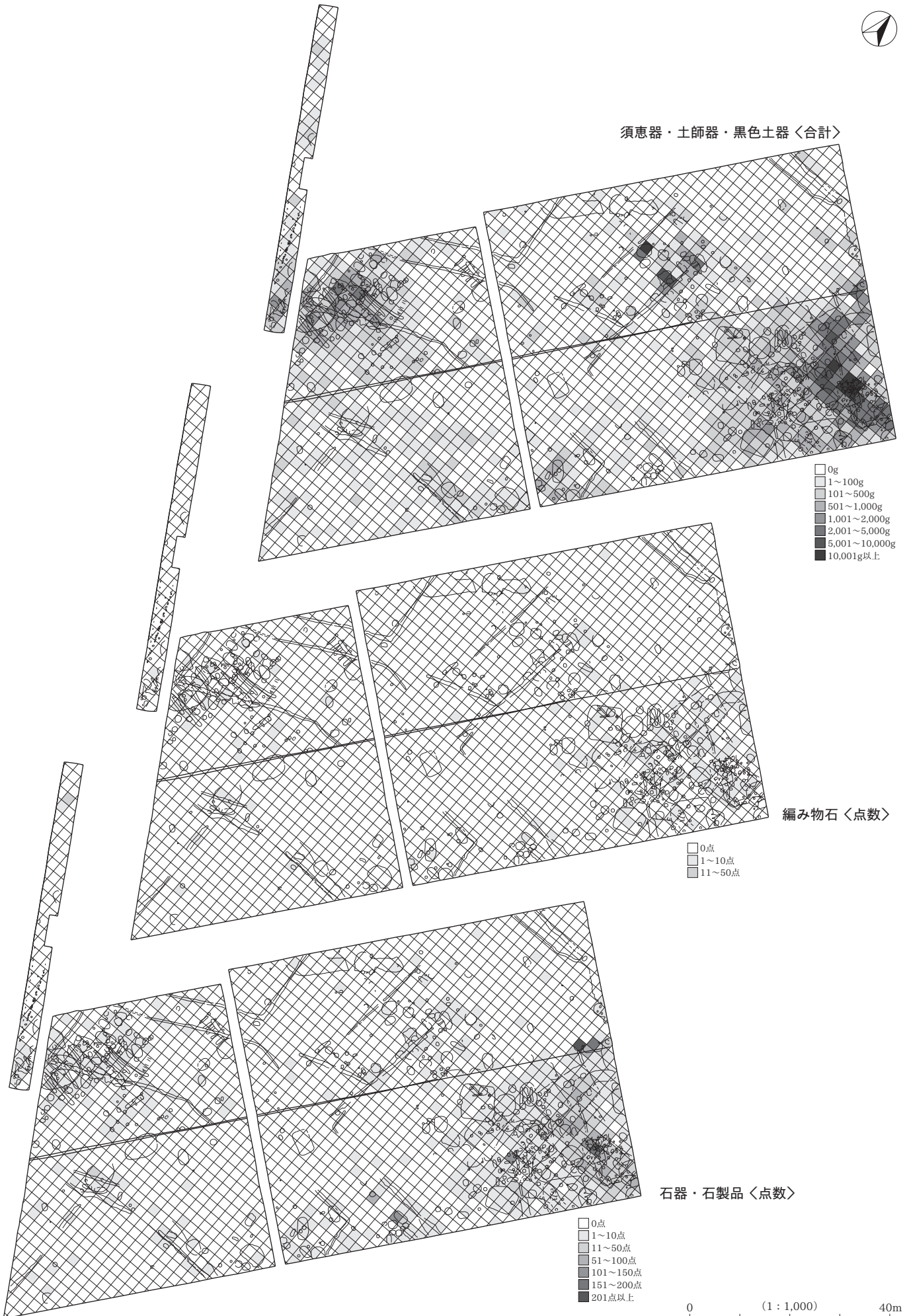
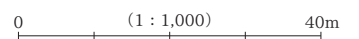
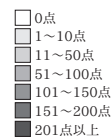
須恵器・土師器・黒色土器 <合計>



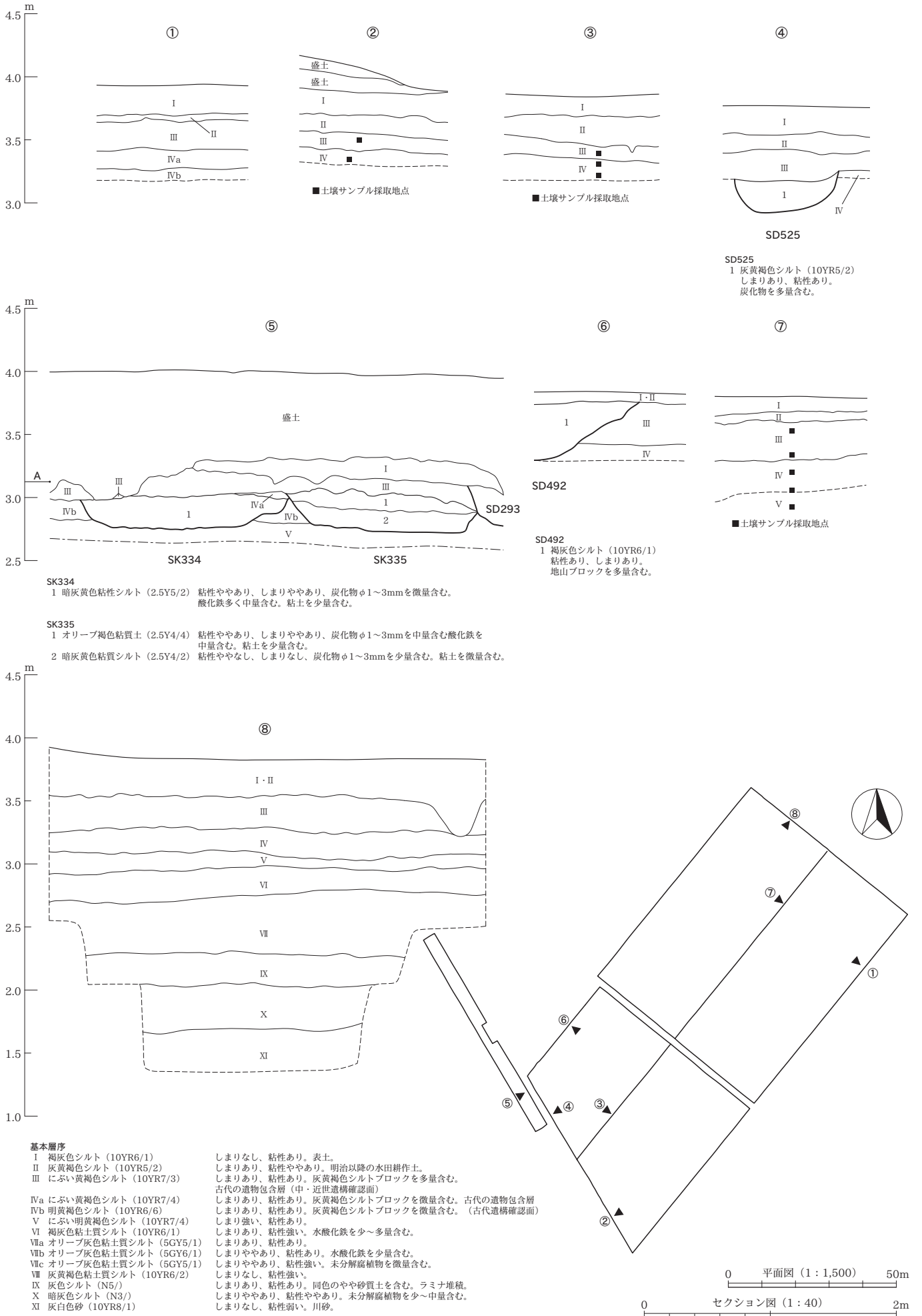
編み物石 <点数>

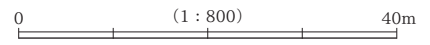
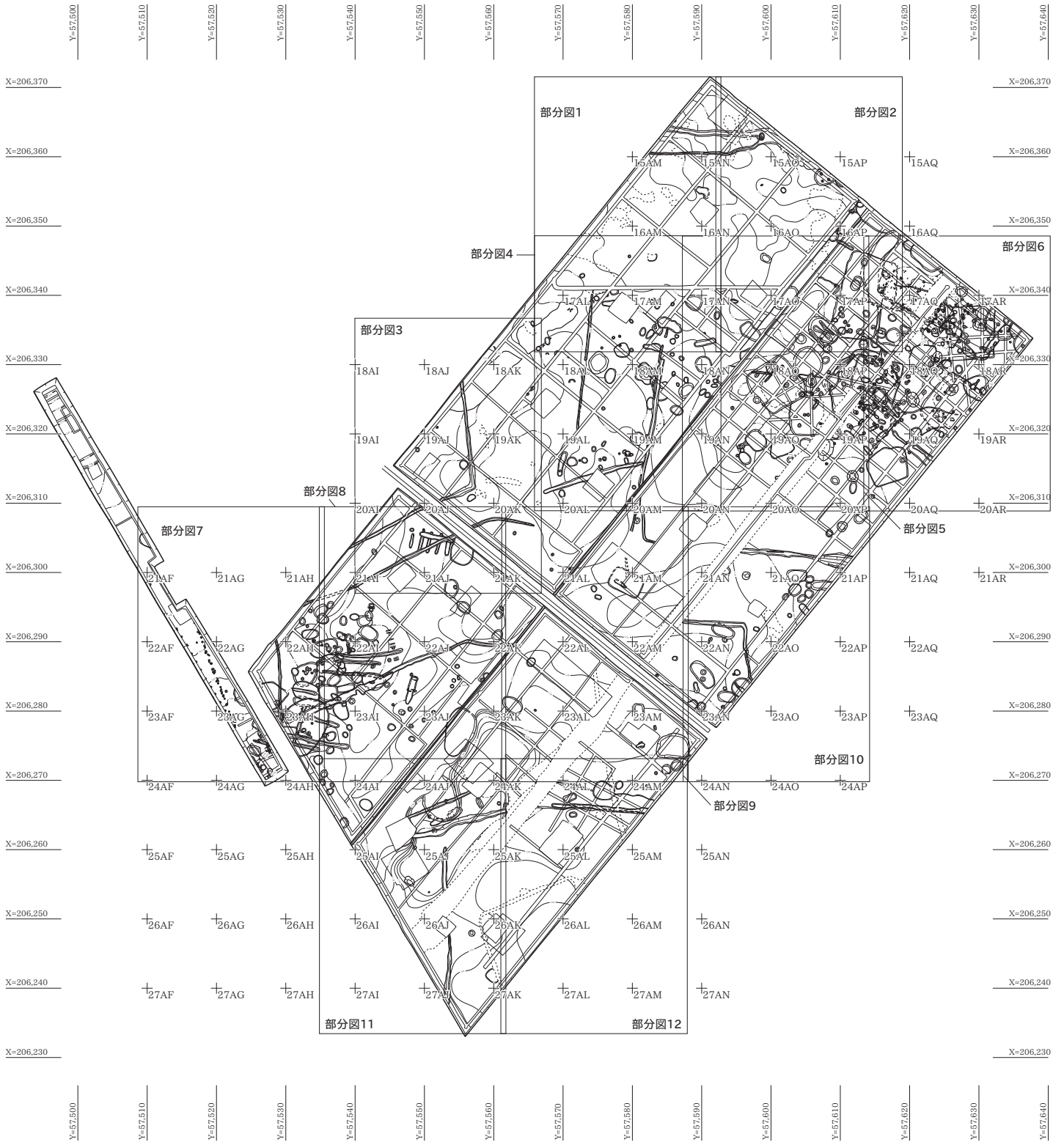


石器・石製品 <点数>

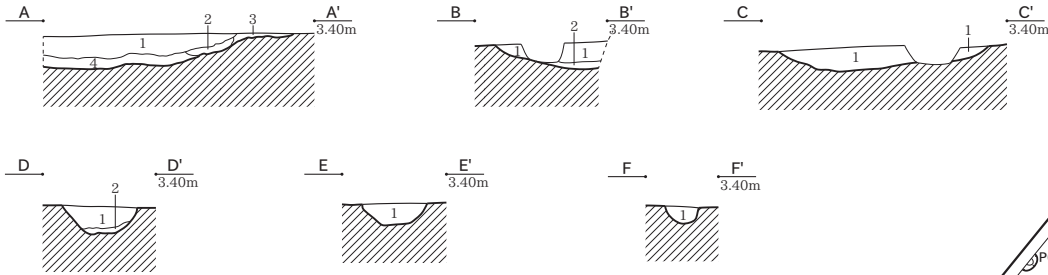






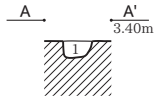


SD606



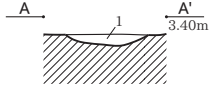
- SD606**
- 1 にぶい黄褐色シルト (10YR7/2) 粘性あり、しまりあり。炭化物φ1~2mmを少量含む。
 - 2 にぶい黄褐色シルト (10YR4/3) 粘性あり、しまりあり。炭化物φ1~2mmを中量含む。
 - 3 明黄褐色シルト (2.5YR6/6) 粘性あり、しまりあり。
 - 4 黄褐色シルト (2.5YR5/2) 粘性あり、しまりあり。

SD490



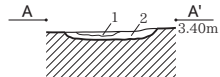
- SD490**
- 1 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性強い、しまりあり、炭化物を少量含む。

SD777



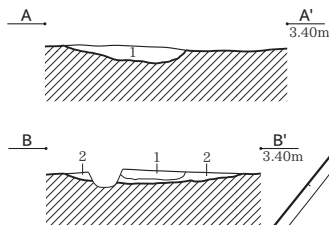
- SD777**
- 1 にぶい黄褐色シルト (10YR7/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SX411



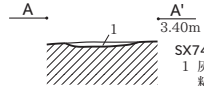
- SX411**
- 1 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。
 - 2 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり。

SX579

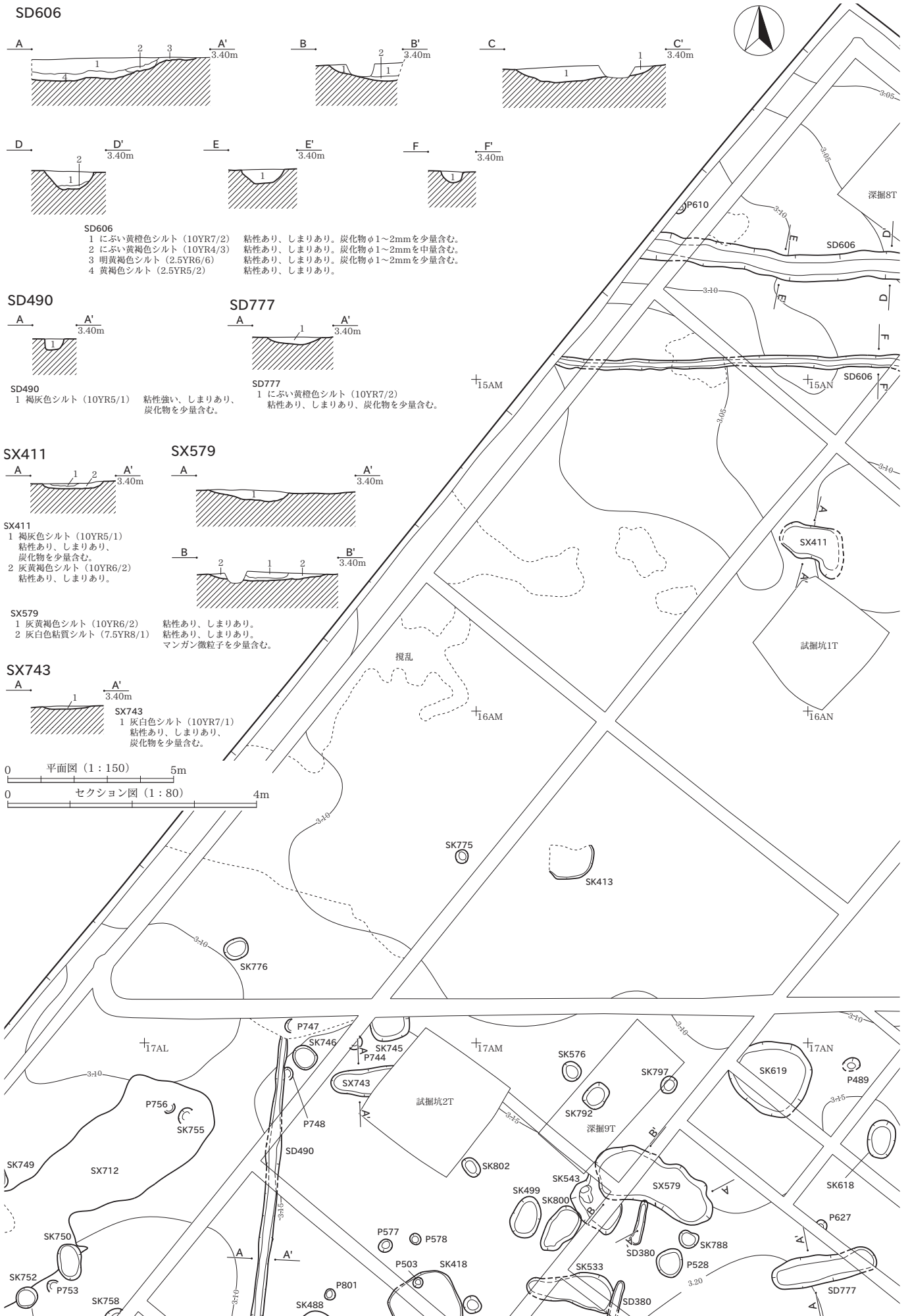
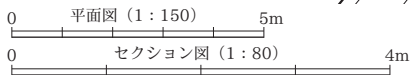


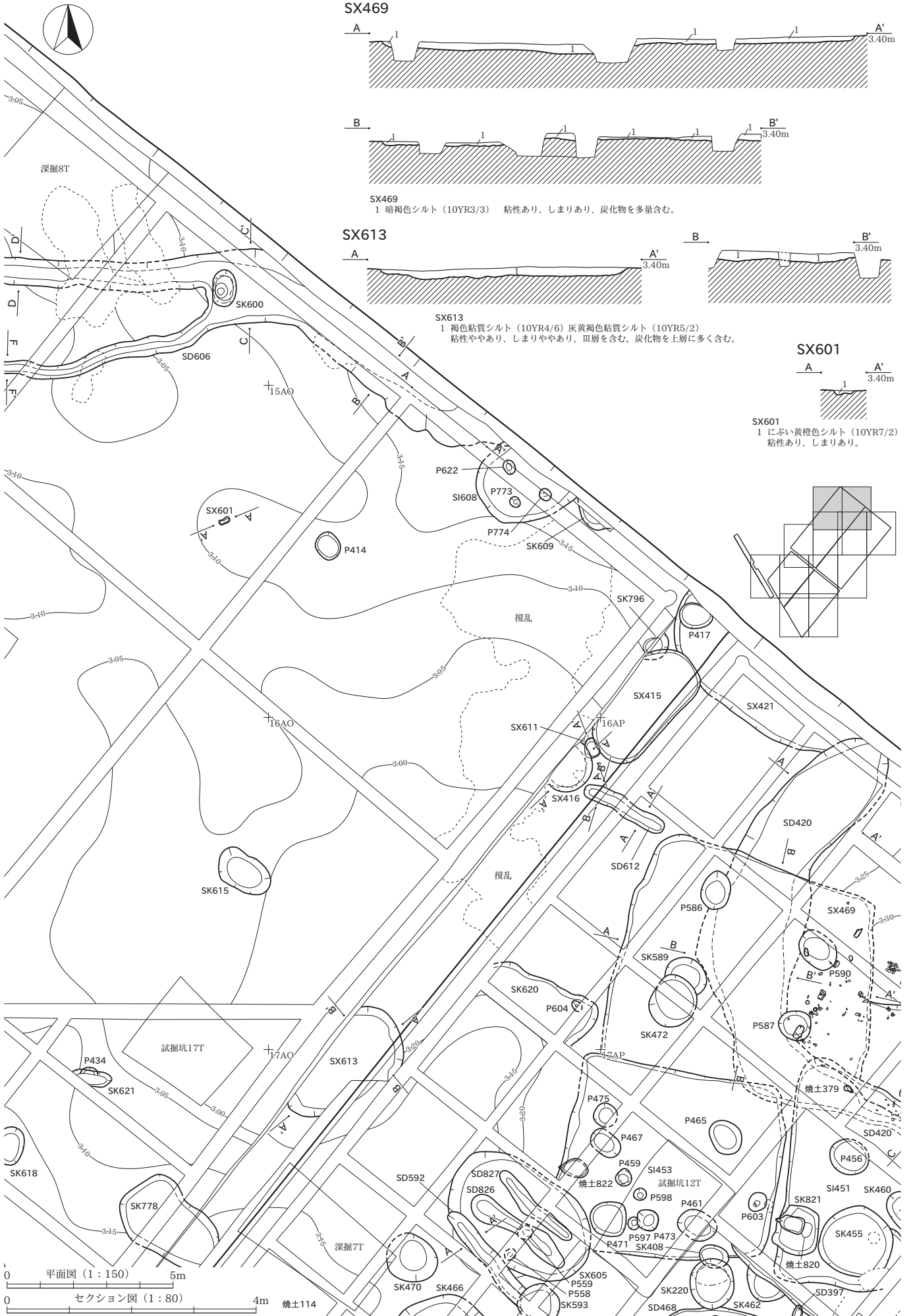
- SX579**
- 1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり。
 - 2 灰白色粘質シルト (7.5YR8/1) 粘性あり、しまりあり。マンガン微粒子を少量含む。

SX743

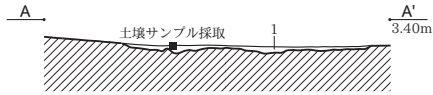


- SX743**
- 1 灰白色シルト (10YR7/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。



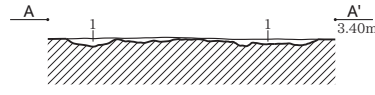


SX711



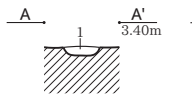
SX711
1 明黄褐色シルト (2.5Y7/6) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ1~2mmを少量含む。

SX712



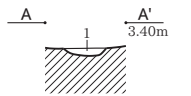
SX712
1 にぶい黄橙色シルト (10YR7/2) 粘性あり、しまりあり。

SD492



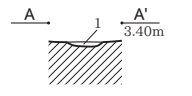
SD492
1 褐灰色シルト (10YR6/1) 粘性あり、しまりあり、地山ブロックを多量含む。

SD493



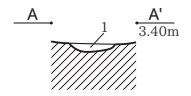
SD493
1 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物・地山ブロックを多量含む。

SD664



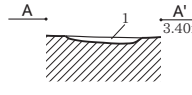
SD664
1 にぶい黄褐色砂 (10YR5/3) 粘性なし、しまりなし。

SD665



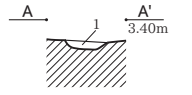
SD665
1 にぶい黄褐色砂 (10YR5/3) 粘性なし、しまりなし。

SD666



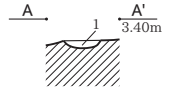
SD666
1 褐灰色砂 (10YR5/1) 粘性なし、しまりなし。

SD669



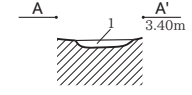
SD669
1 にぶい黄褐色砂 (10YR5/3) 粘性なし、しまりなし。

SD670



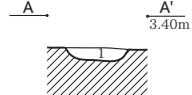
SD670
1 にぶい黄褐色砂 (10YR5/3) 粘性なし、しまりなし。

SD671

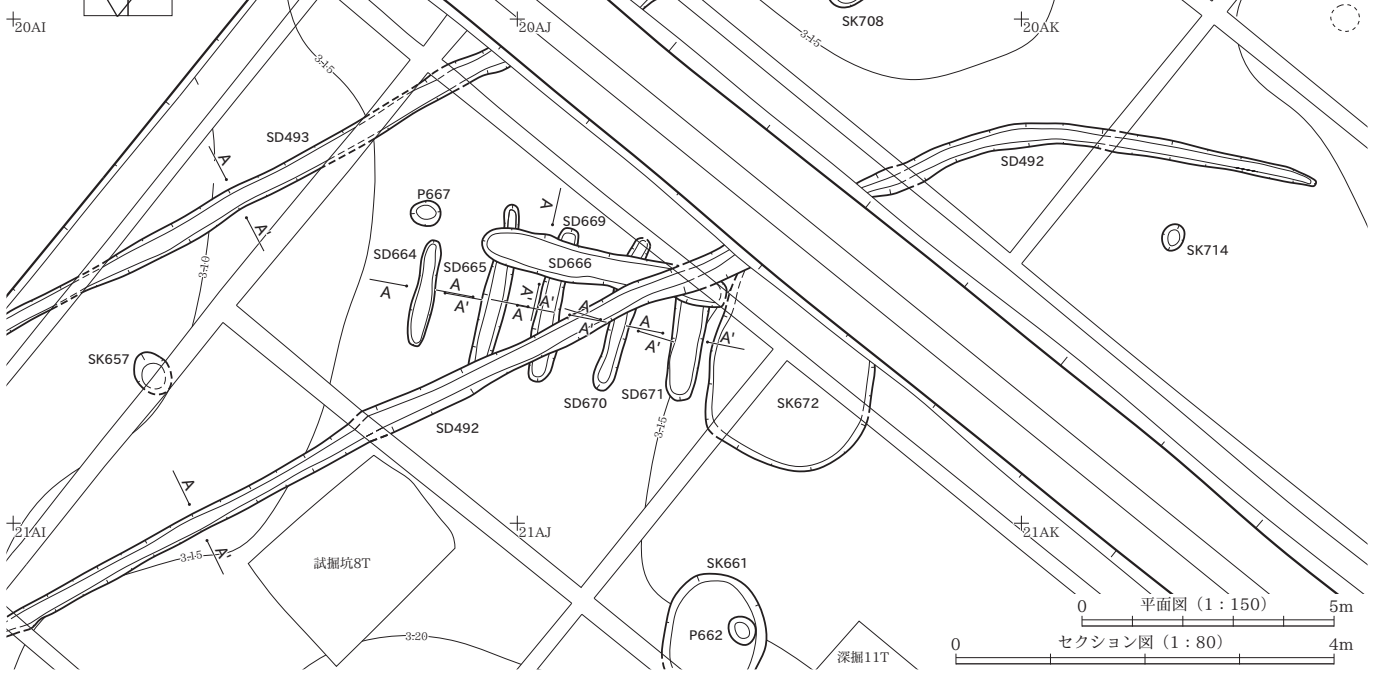
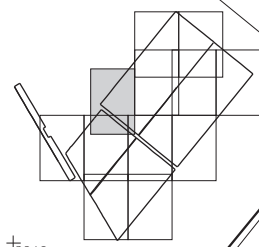


SD671
1 にぶい黄褐色砂 (10YR5/3) 粘性なし、しまりなし。

SD731



SD731
1 褐灰色シルト (10YR6/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。



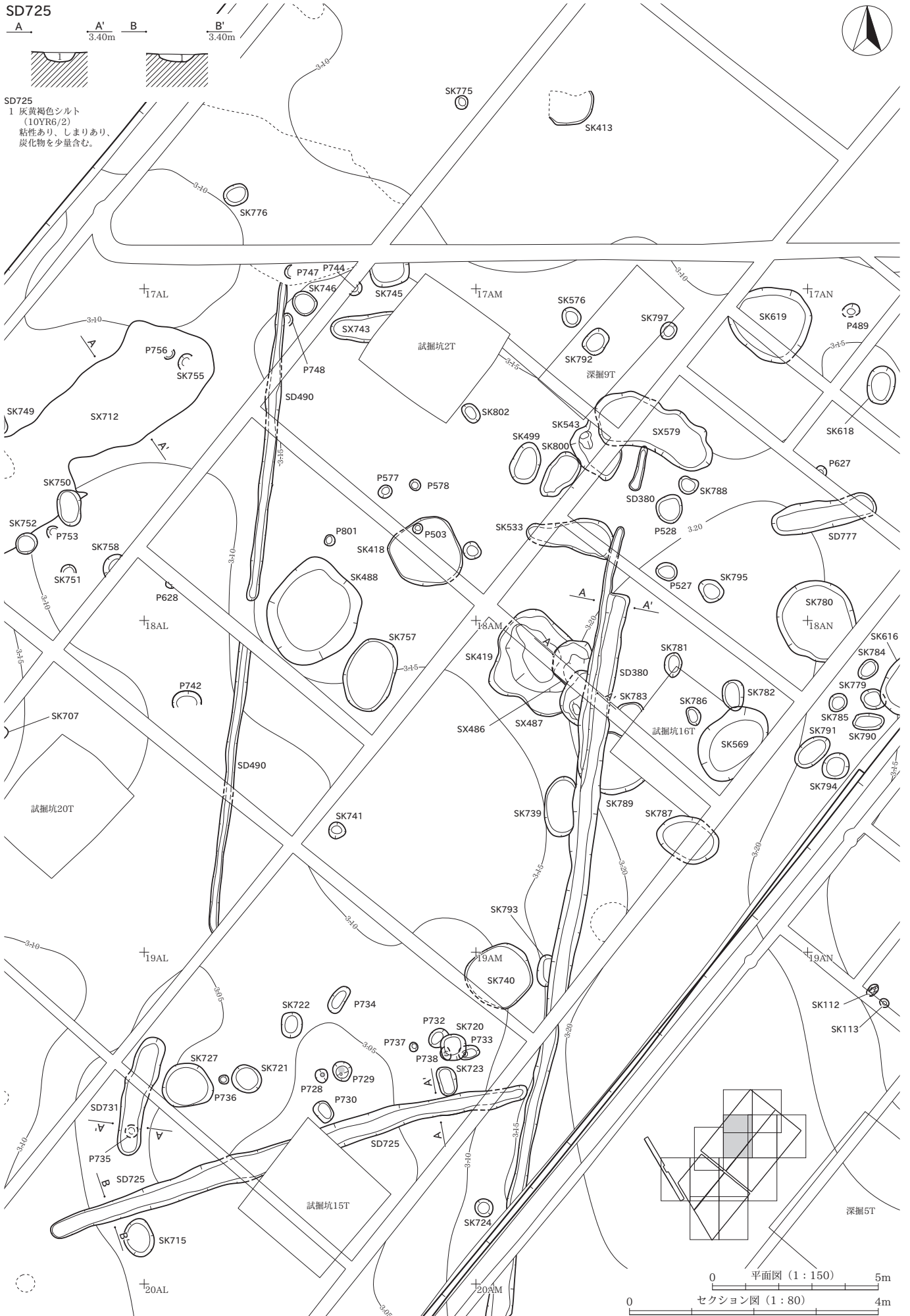
SD725

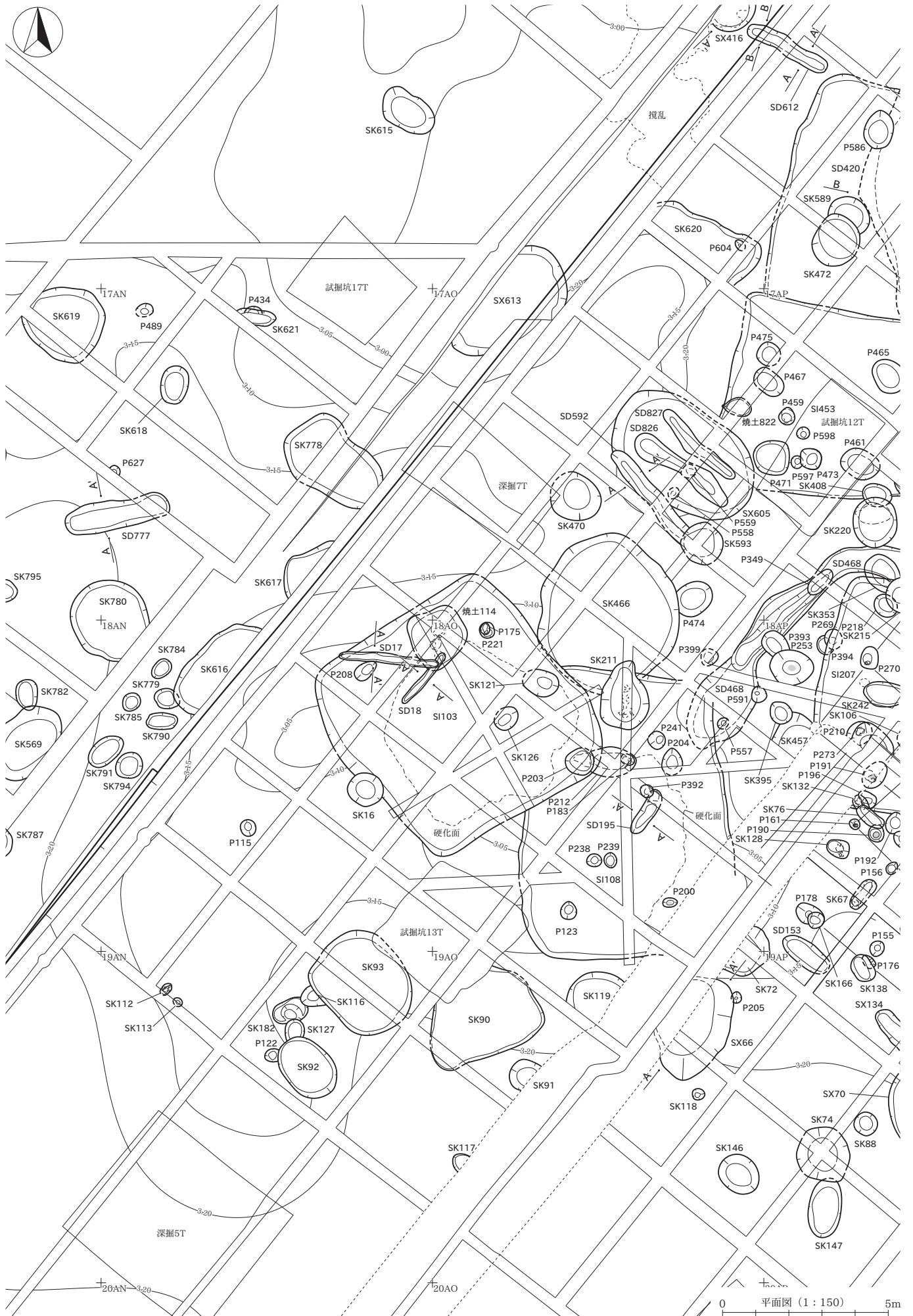
A A' B B' 3.40m 3.40m



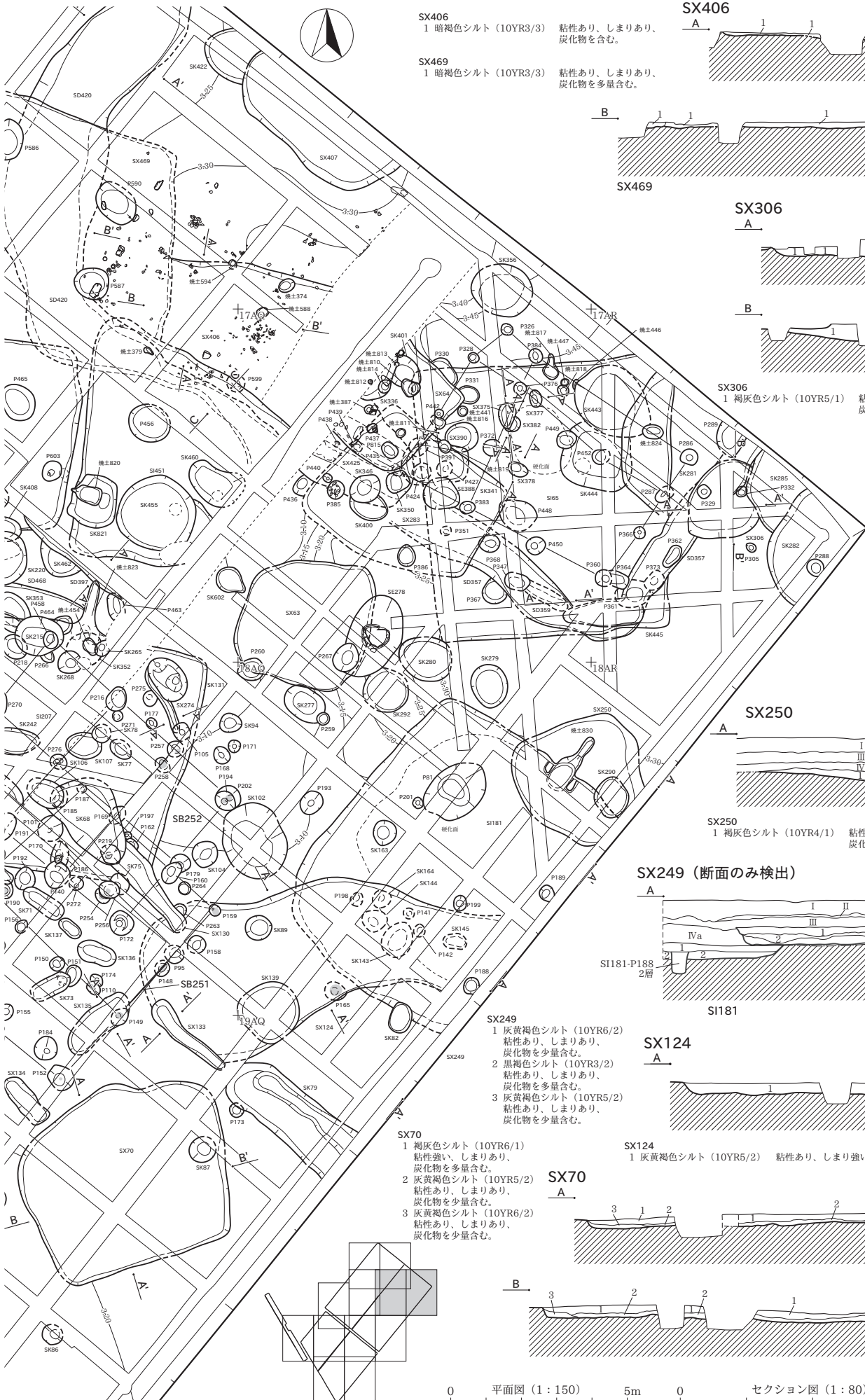
SD725

1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。



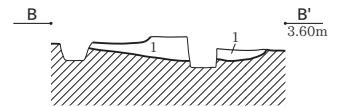
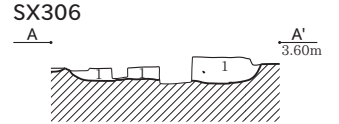
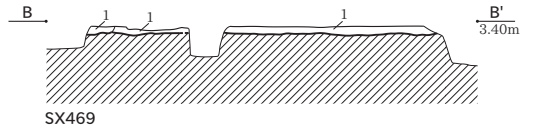
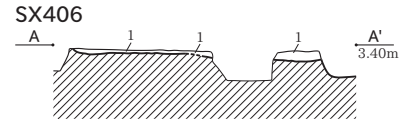


0 平面図 (1:150) 5m

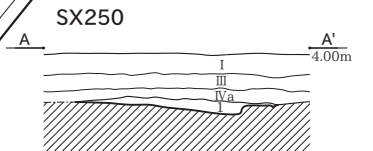


SX406
1 暗褐色シルト (10YR3/3) 粘性あり、しまりあり、炭化物を含む。

SX469
1 暗褐色シルト (10YR3/3) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。

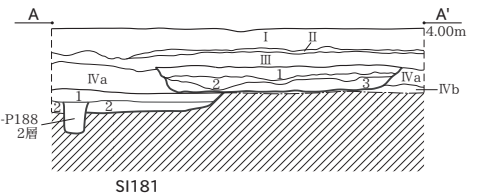


SX306
1 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。

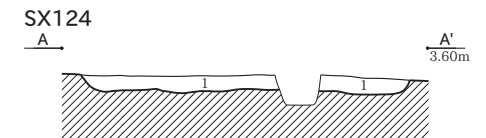


SX250
1 褐灰色シルト (10YR4/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SX249 (断面のみ検出)

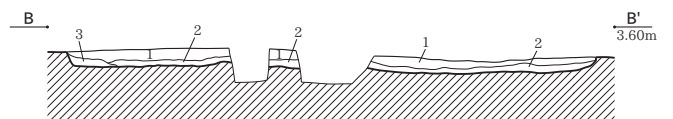
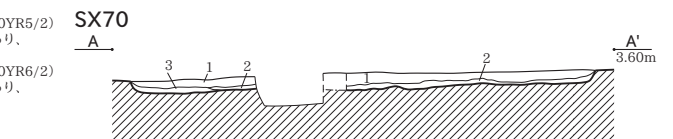


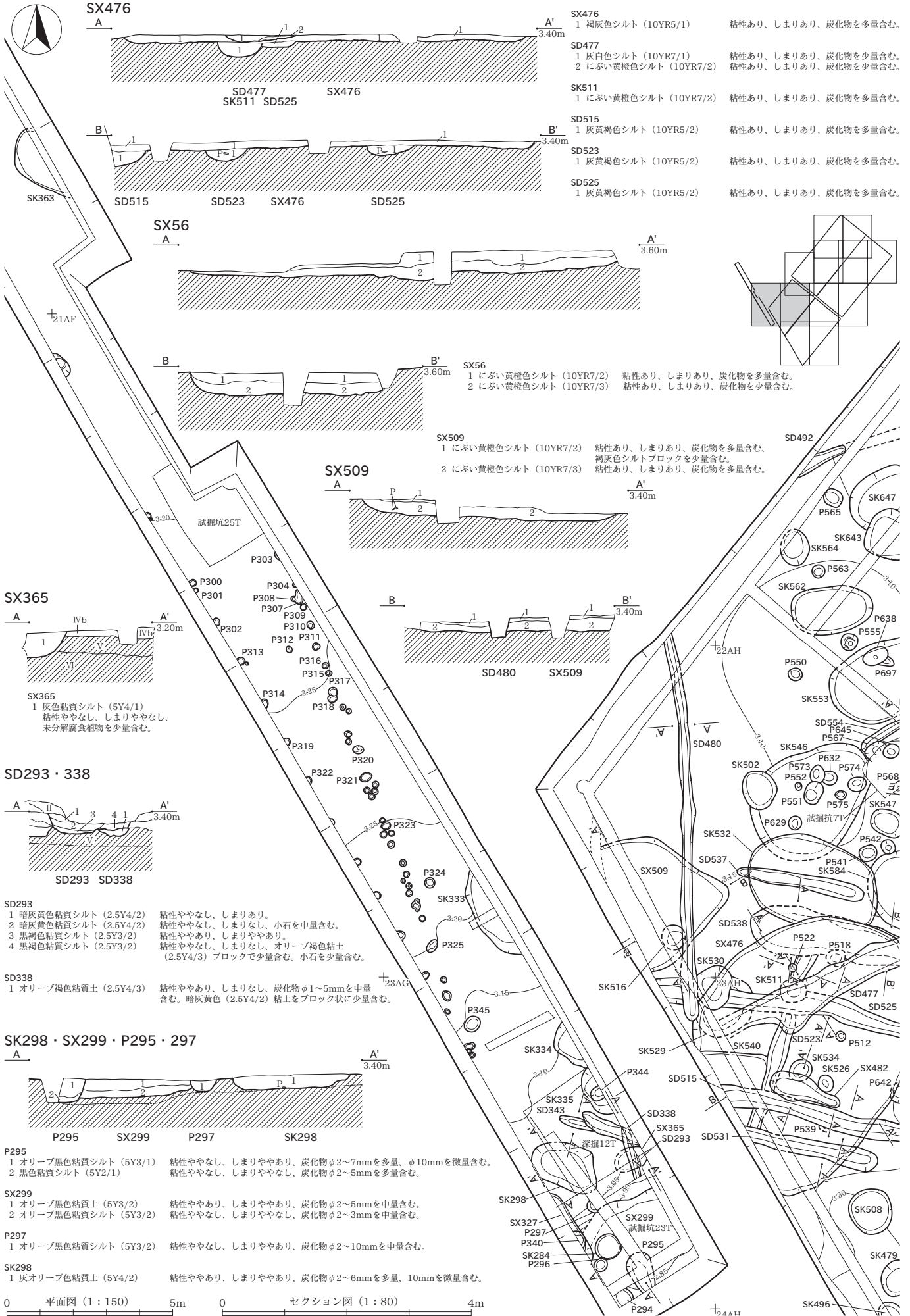
SX249
1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。
2 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。
3 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。



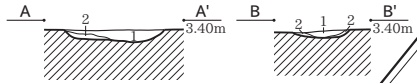
SX124
1 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性あり、しまり強い、炭化物を多量含む。

SX70
1 褐灰色シルト (10YR6/1) 粘性強い、しまりあり、炭化物を多量含む。
2 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。
3 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。



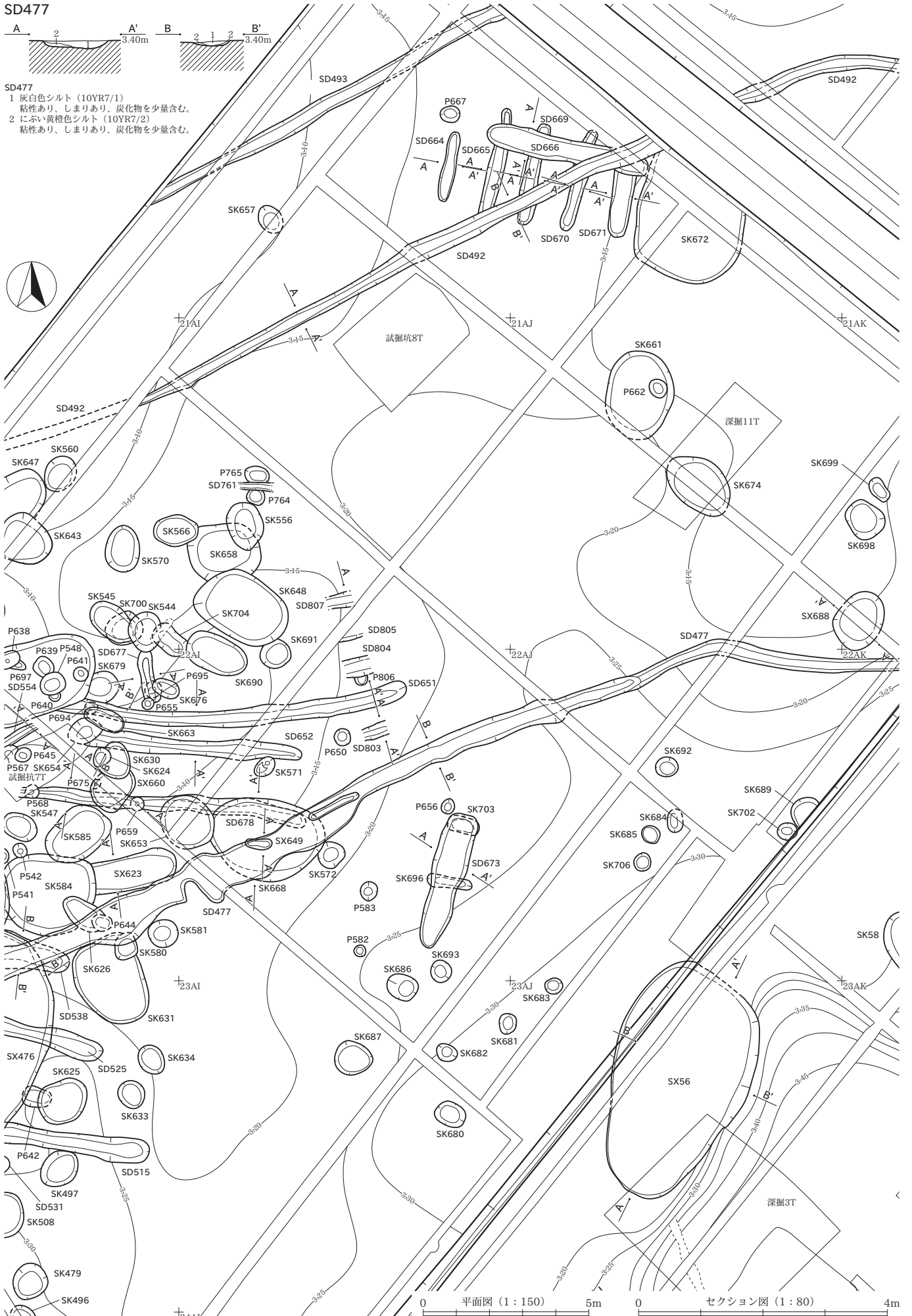


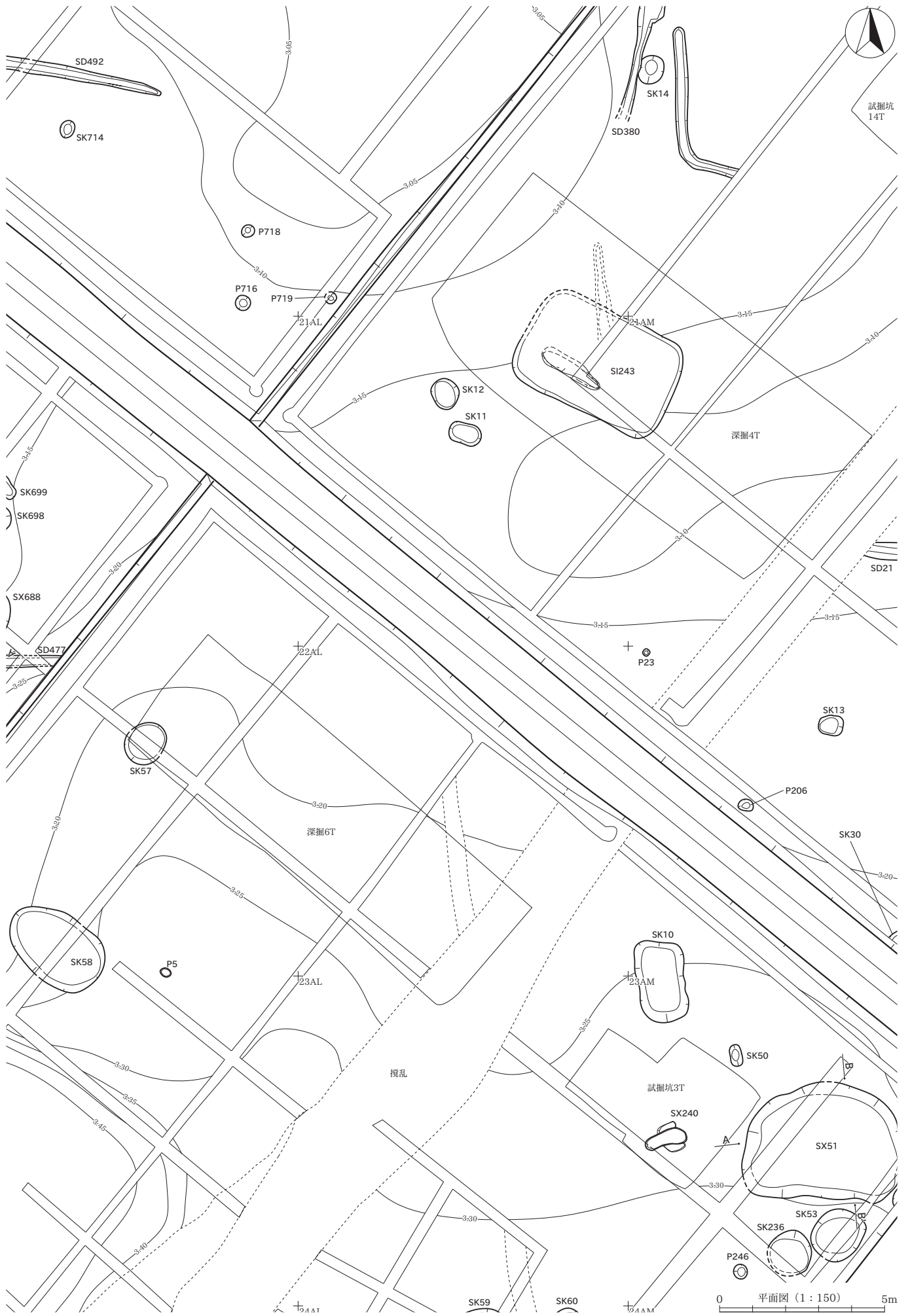
SD477

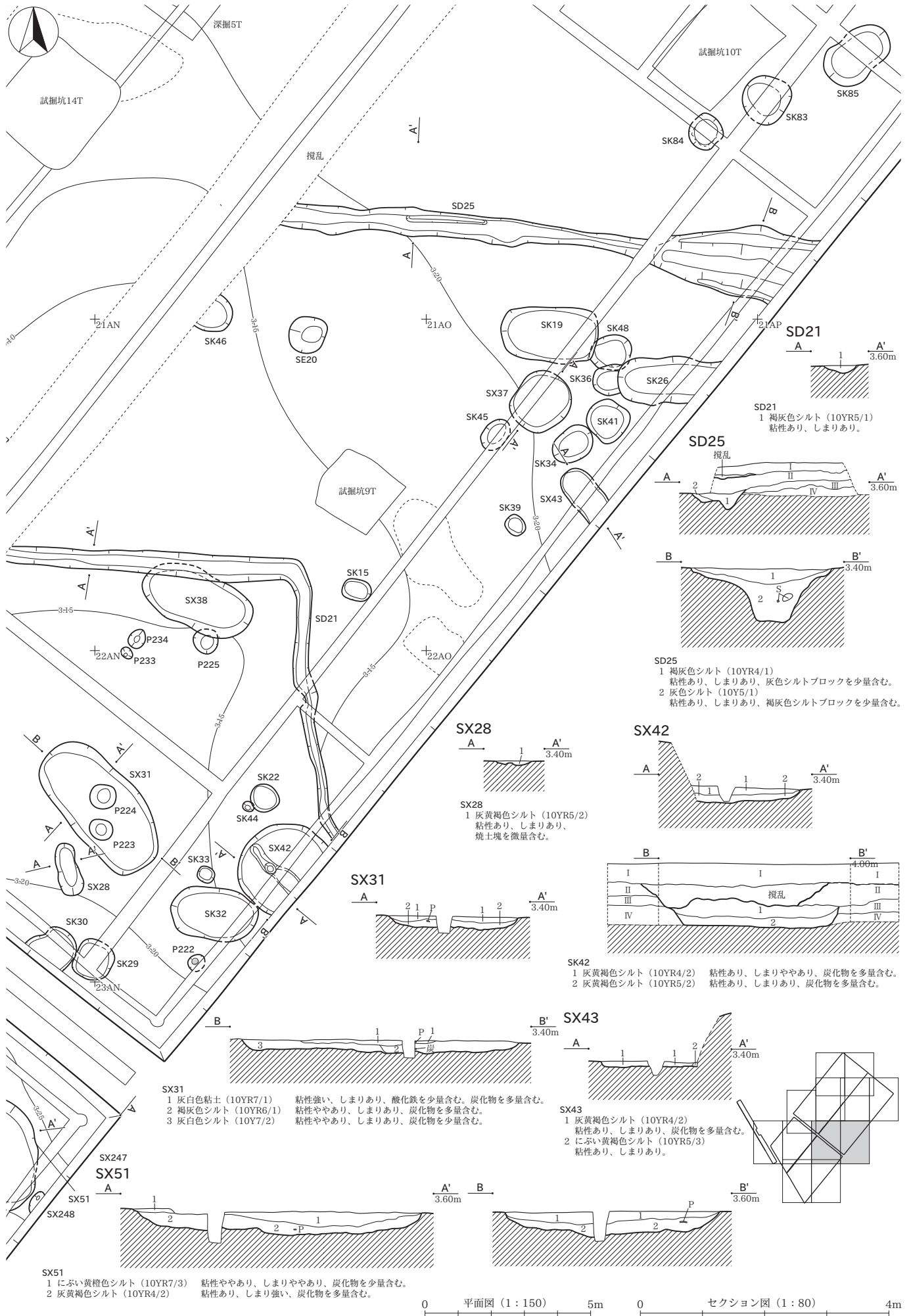


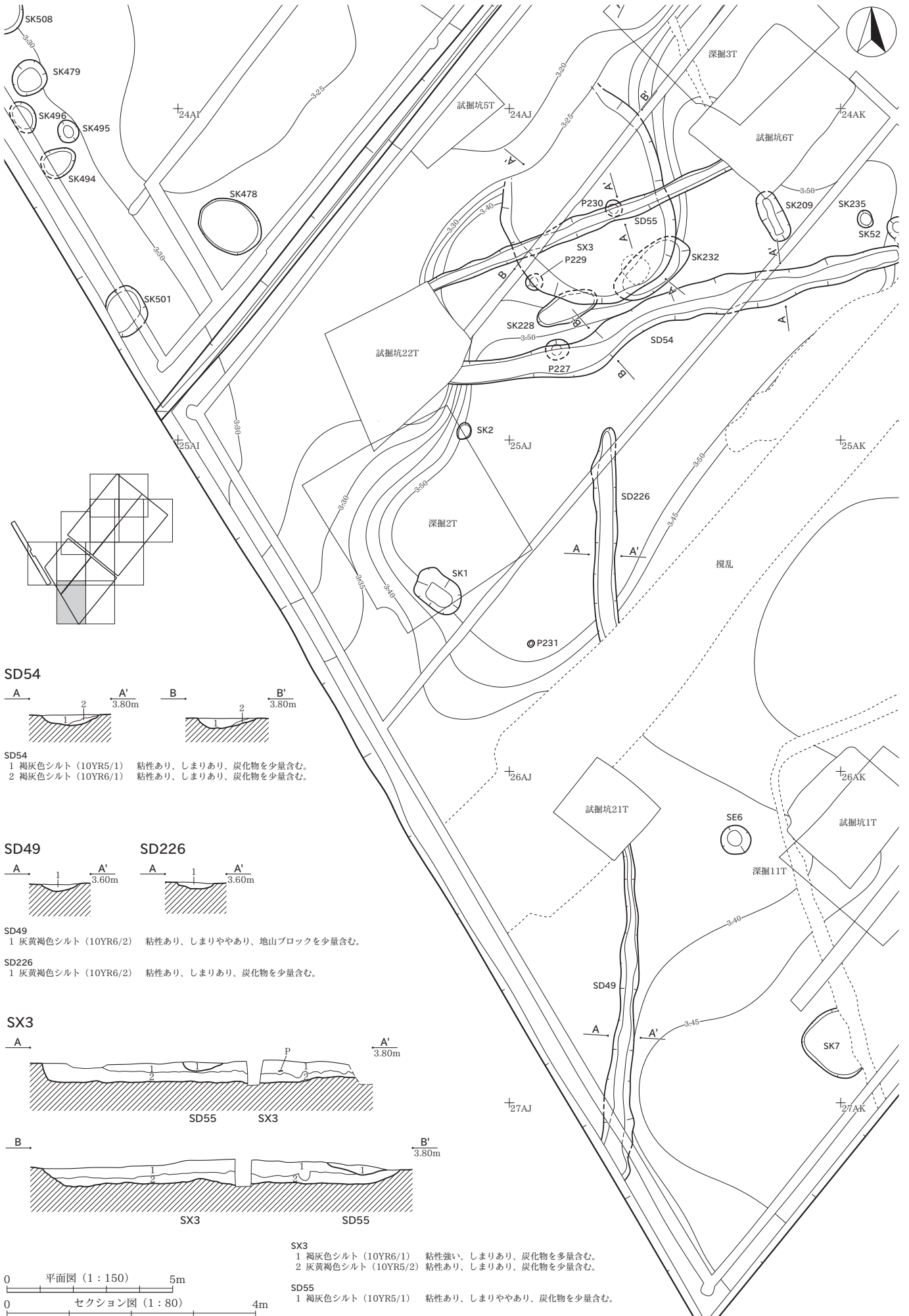
SD477

- 1 灰白色シルト (10YR7/1)
粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。
- 2 にぶい黄褐色シルト (10YR7/2)
粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

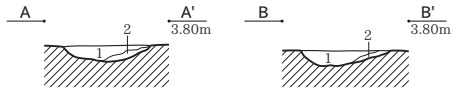






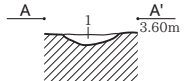


SD54



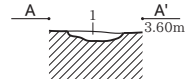
SD54
 1 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。
 2 褐灰色シルト (10YR6/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SD49



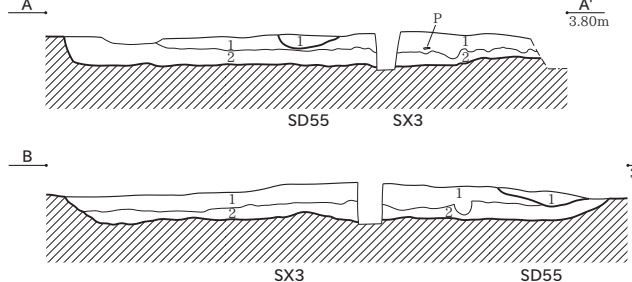
SD49
 1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりややあり、地山ブロックを少量含む。

SD226



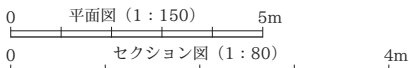
SD226
 1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

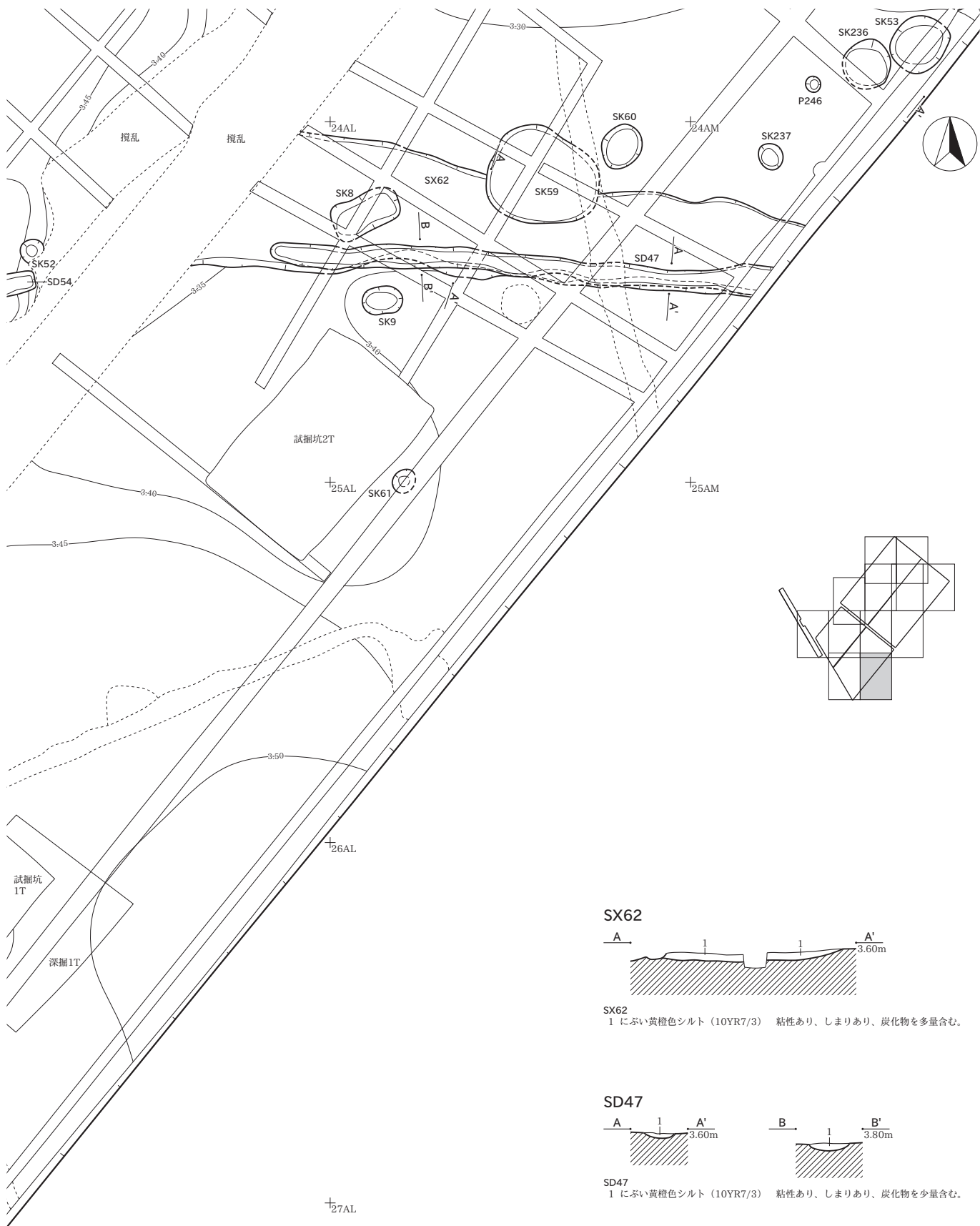
SX3



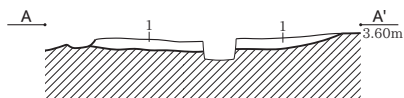
SX3
 1 褐灰色シルト (10YR6/1) 粘性強い、しまりあり、炭化物を多量含む。
 2 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SD55
 1 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性あり、しまりややあり、炭化物を少量含む。



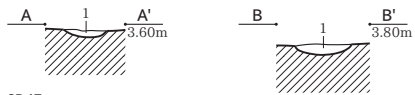


SX62

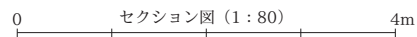
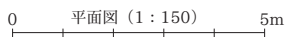


SX62
1 にぶい黄橙色シルト (10YR7/3) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。

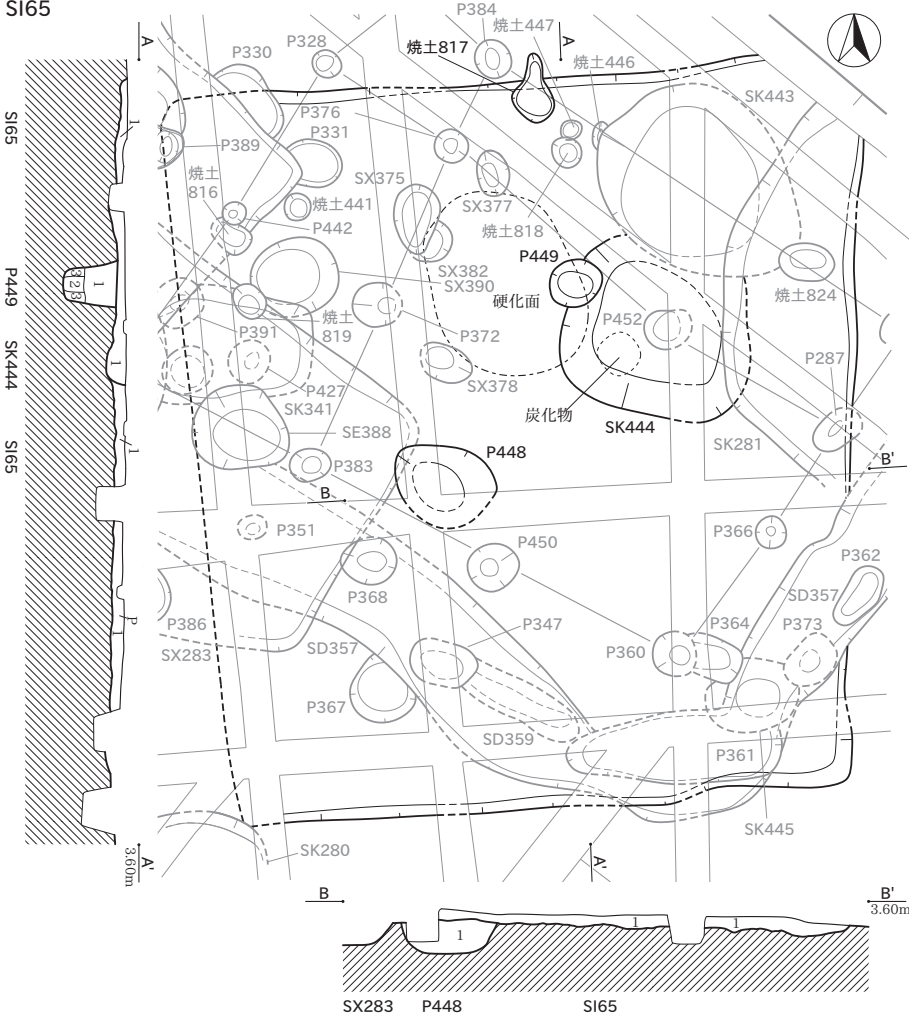
SD47



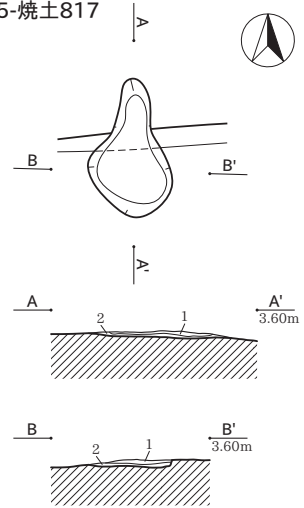
SD47
1 にぶい黄橙色シルト (10YR7/3) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。



SI65



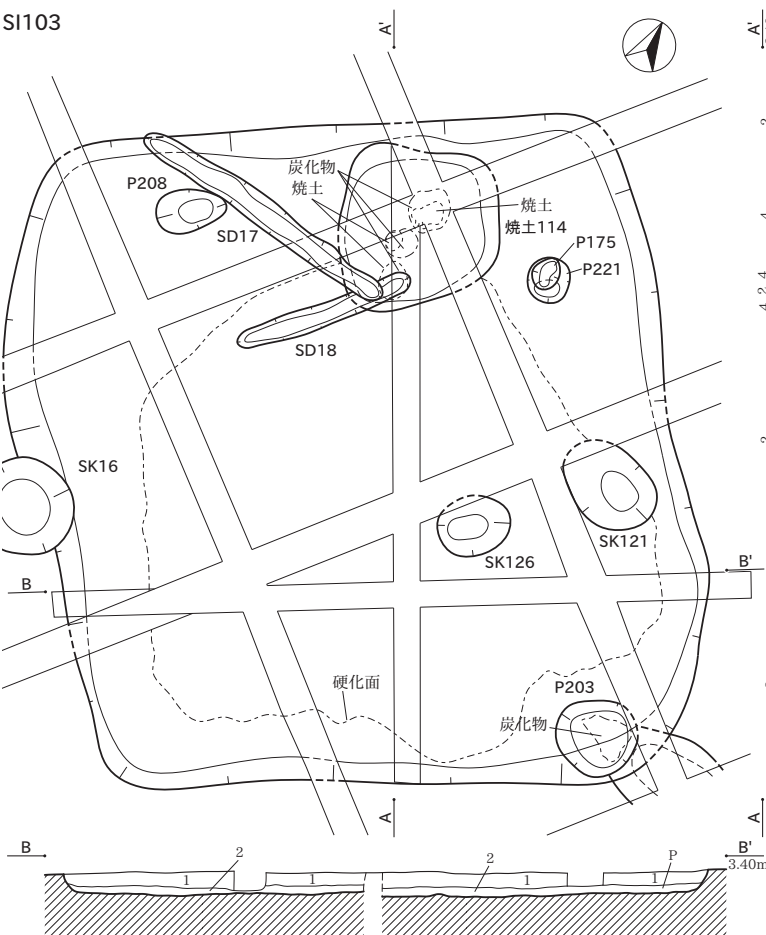
SI65-焼土817



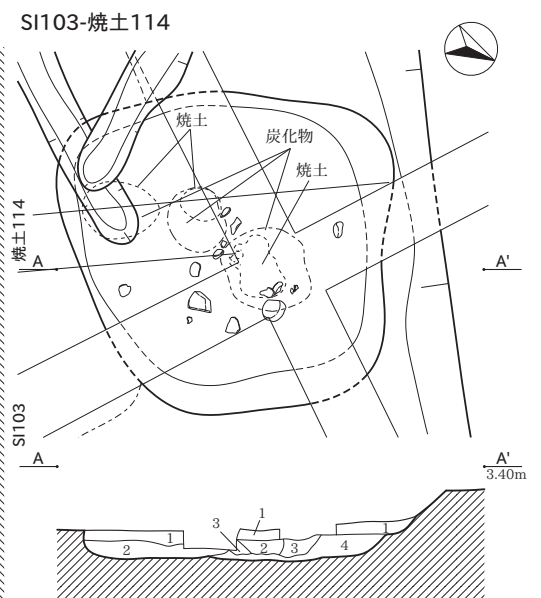
SI65-焼土817
 1 明赤褐色焼土 (5YR5/6)
 2 にぶい黄褐色シルト (10YR5/3) 焼土を多量含む。

- SI65
 1 暗褐色シルト (10YR3/3) 粘性あり、しまりあり、炭化物を含む。
- SK444
 1 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性あり、しまりあり。
- P448
 1 褐褐色シルト (10YR4/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物含む。
- P449
 1 暗褐色シルト (10YR3/3) 粘性あり、しまりあり、炭化物を含む。
 2 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性あり、しまりあり。
 3 暗褐色シルト (10YR3/3) 粘性あり、しまりあり。

SI103

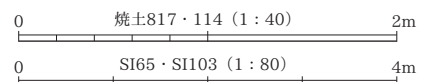


SI103-焼土114

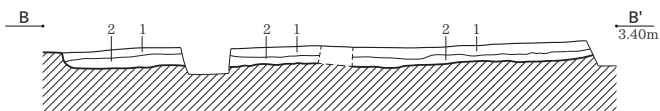
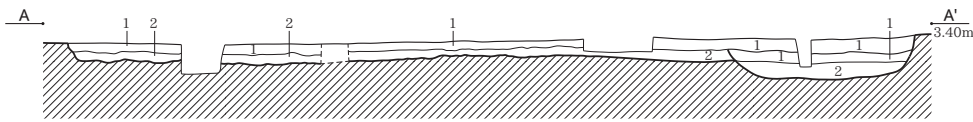
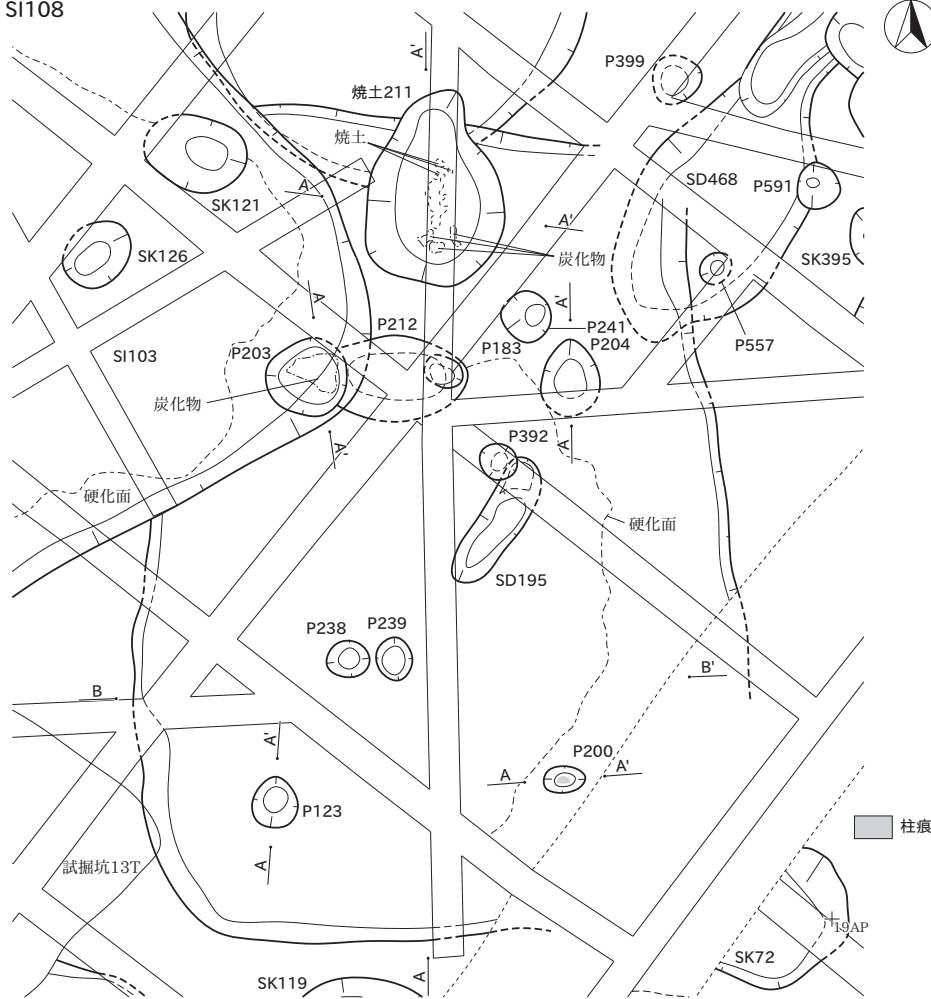


SI103-焼土114
 1 褐灰色シルト (10YR4/1) 粘性強い、しまりあり、炭化物を含む。明赤褐色焼土 (5YR5/6) を多量含む。
 2 褐灰色シルト (10YR4/1) 粘性強い、しまりあり、炭化物を多量含む。焼土を少量含む。
 3 灰色シルト (7.5Y4/1) 粘性強い、しまりややあり、炭化物を含む。
 4 灰色シルト (7.5Y5/1) 粘性強い、しまりあり、炭化物を少量含む。

SI103
 1 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性強い、しまりあり、炭化物を含む。
 2 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性強い、しまりあり、炭化物を多量含む。

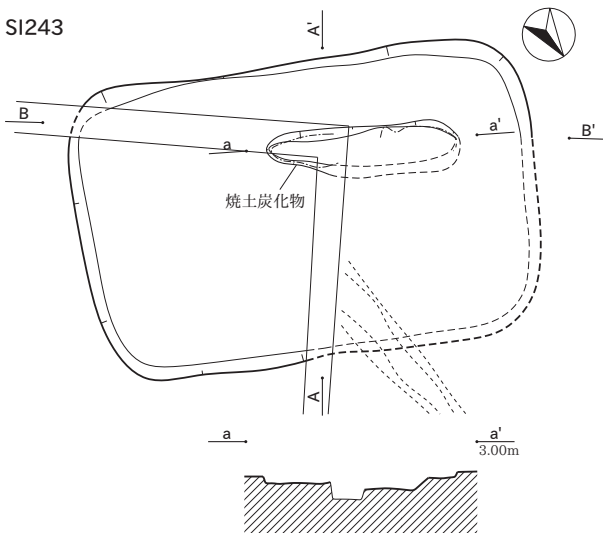


SI108

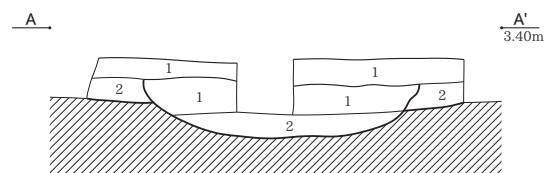


- SI108
 1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。
 2 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SI243

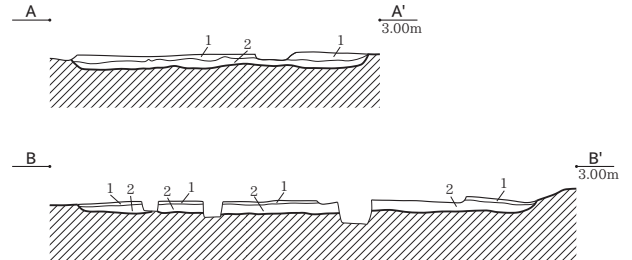


SI108-焼土211



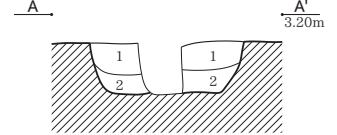
- SI108-焼土211
 1 褐灰色シルト (10YR6/1) 粘性強い、しまりあり、炭化物を少量含む。
 2 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性強い、しまりあり、炭化物を多量含む。

SI243



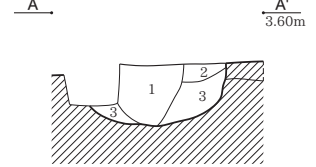
- SI243
 1 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。
 2 褐灰色シルト (10YR6/1) 粘性あり、しまり強い。

SI108-P203



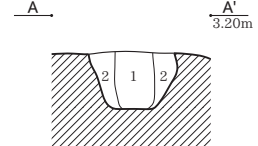
- SI108-P203
 1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。
 2 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を板状に多量含む。

SI108-P204



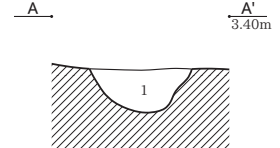
- SI108-P204
 1 灰色粘土 (10Y6/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。柱痕。
 2 褐灰色シルト (10YR6/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。
 3 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SI108-P200



- SI108-P200
 1 灰色粘土 (10Y6/1) 粘性強い、しまりややあり、炭化物を少量含む。柱痕。
 2 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。

SI108-P123

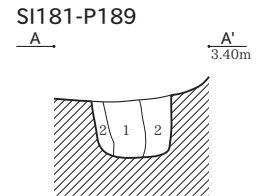
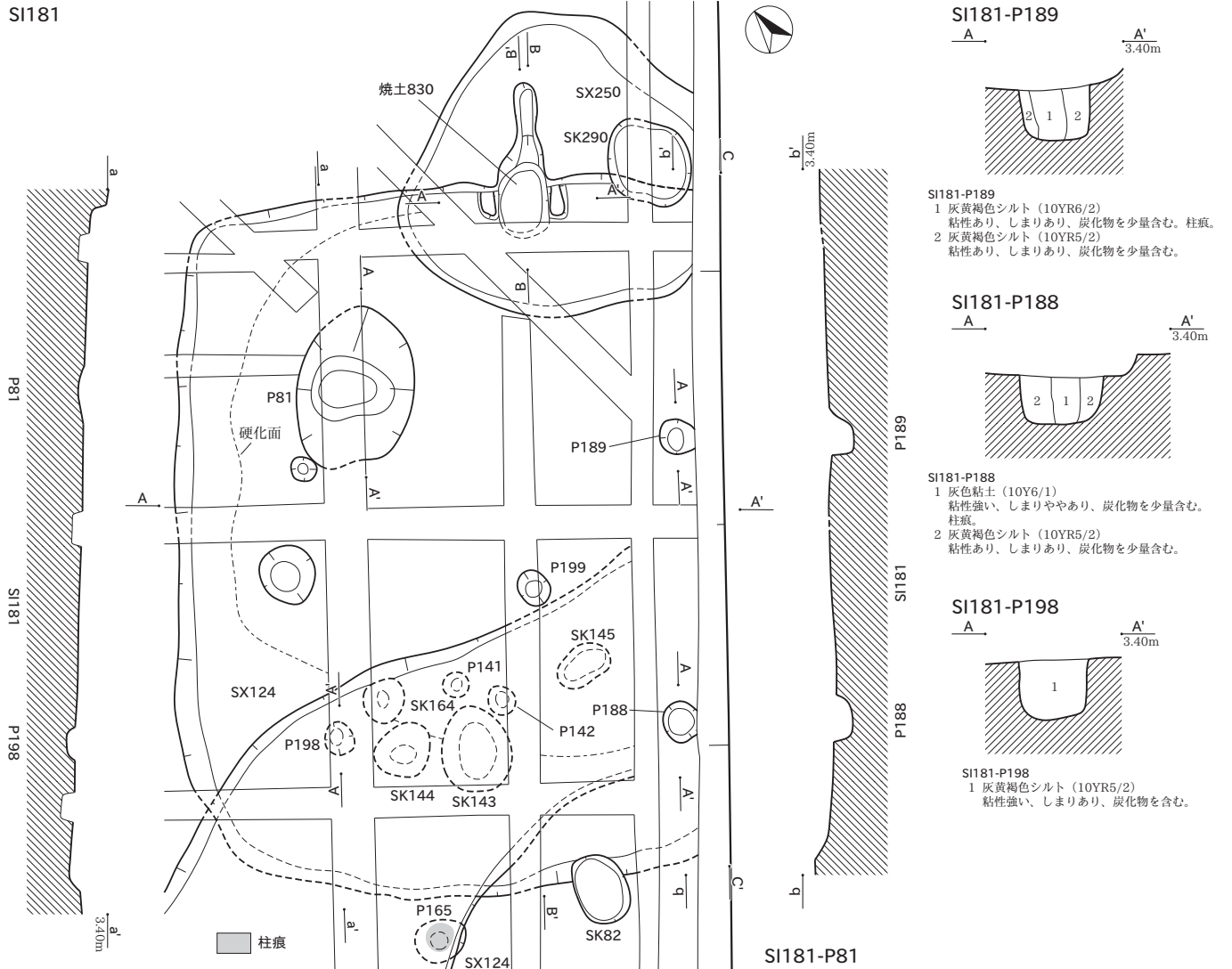


- SI108-P123
 1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。

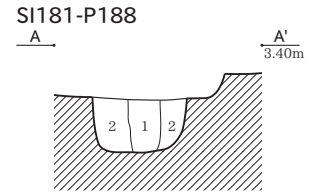
0 焼土211・P123・P200・P203・P204 (1:40) 2m

0 SI108・SI243 (1:80) 4m

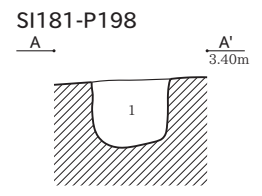
SI181



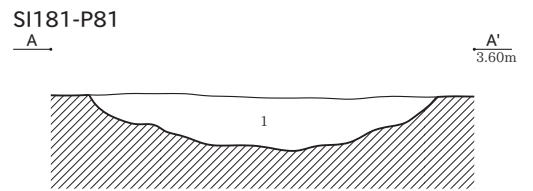
SI181-P189
 1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。柱痕。
 2 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。



SI181-P188
 1 灰色粘土 (10Y6/1) 粘性強い、しまりややあり、炭化物を少量含む。柱痕。
 2 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

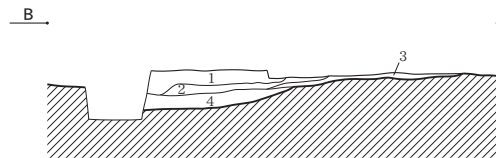
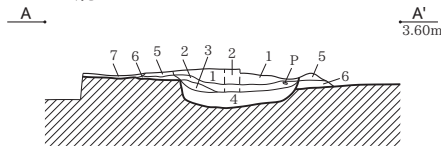


SI181-P198
 1 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性強い、しまりあり、炭化物を含む。



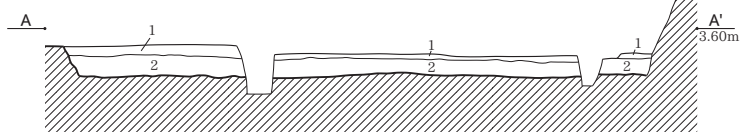
SI181-P81
 1 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。

SI181-焼土830

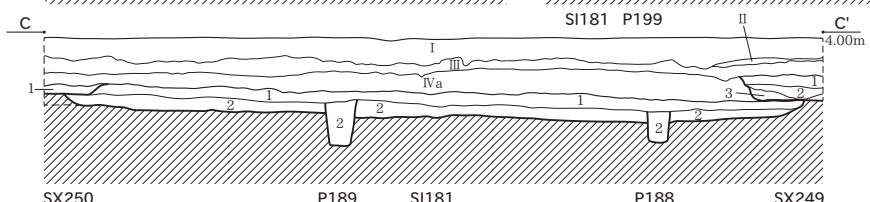
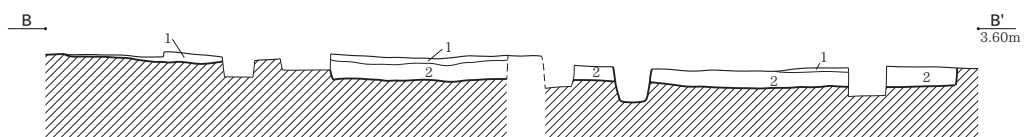


SI181-焼土830
 1 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性強い、しまりあり、炭化物を含む。
 2 黒褐色シルト (10YR2/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。焼土を多量含む。
 3 にぶい黄褐色シルト (10YR6/3) 粘性あり、しまり強い。
 4 にぶい黄褐色シルト (10YR6/4) 粘性あり、しまりあり、炭化物を含む。
 5 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性あり、しまり強い。
 6 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。
 7 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性あり、しまりあり。

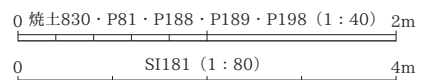
SI181



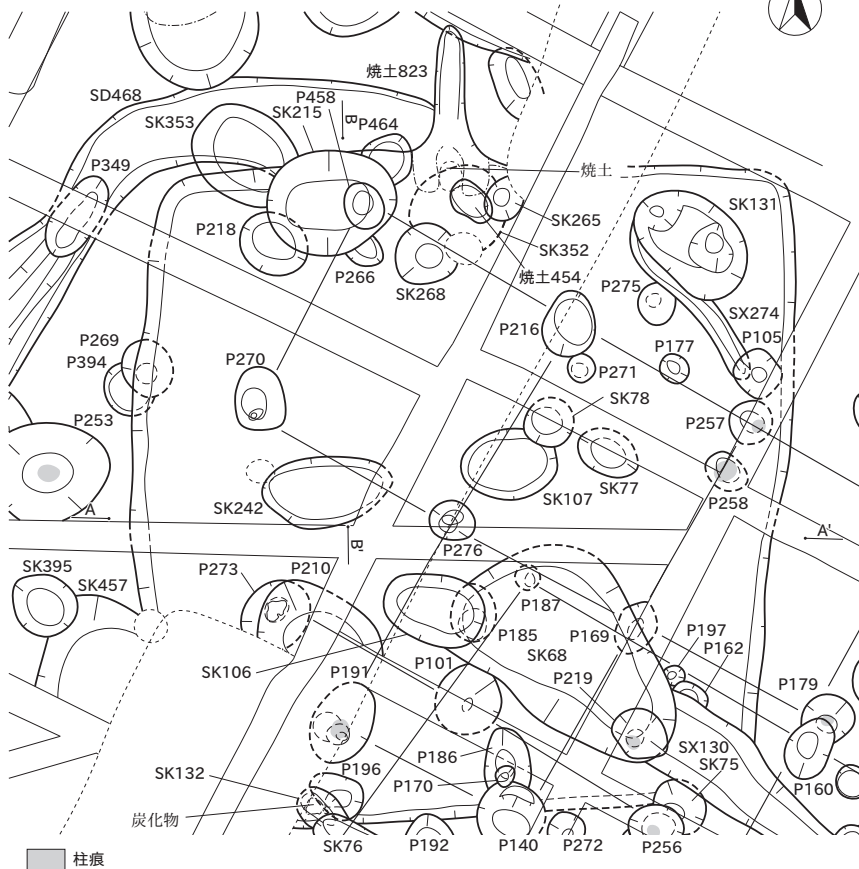
SI181
 1 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性強い、しまりあり、炭化物を含む。
 2 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりややあり、炭化物を少量含む。



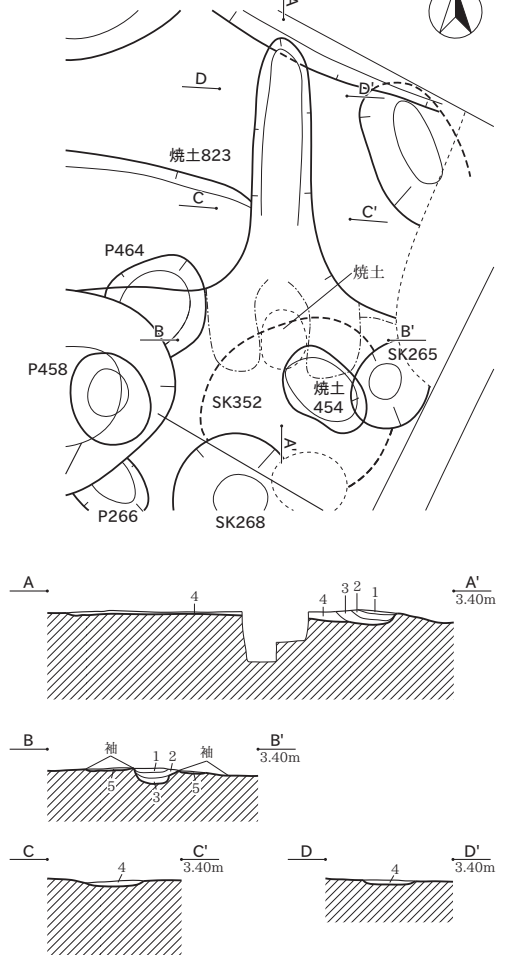
SX249
 1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。
 2 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。
 3 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。



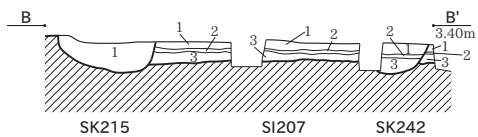
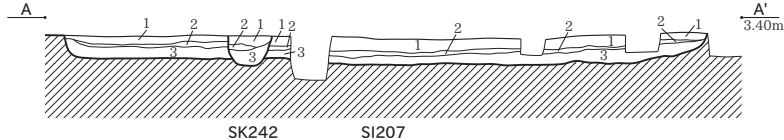
SI207



SI207-焼土823



SI207



SK242
 1 にぶい黄褐色シルト (10YR7/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。
 2 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。
 3 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SI207-焼土823

1 にぶい黄褐色シルト (10YR6/3) 粘性あり、しまりあり、焼土を多量含む。
 2 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。
 3 にぶい黄褐色シルト (10YR5/3) 粘性あり、しまりあり。
 4 褐灰色シルト (10YR6/1) 粘性あり、しまりあり。
 5 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、白色粘土を少量含む。

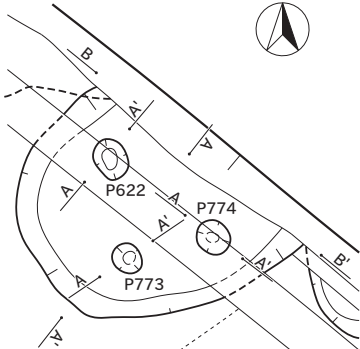
SI207

1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。
 2 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性あり、しまり強い、炭化物を多量含む。床面。
 3 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。掘り方。

SK215

1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

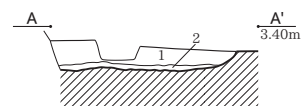
SI608



SI608

1 灰褐色粘質シルト (7.5YR5/2) ややしみに欠ける。炭化物φ3~5mmを多量に含む。
 2 灰褐色粘質シルト (7.5YR6/2) 強くしまる。炭化物φ2~3mmを比較的多く含む。
 3 灰褐色粘質シルト (7.5YR6/2) 強くしまる。多量の炭化物φ1~2mmと少量の焼土粒子φ1cmを含む。マンガン粒子φ1~5mmが多い。しまりに欠ける。マンガン粒子φ2mmを多量に含む。
 4層と同質。
 4 灰褐色粘質シルト (7.5YR6/2) 強い粘性をもつか軟質、マンガン粒子φ3mmを少量含む。
 5 灰褐色粘質シルト (7.5YR6/2) 硬質で強い粘性をもつ。マンガン粒子φ3mmを少量含む。
 6 灰白色粘質シルト (5Y7/1) 強い粘性をもつ。マンガン粒子φ3mmを少量含む。
 7 灰白色粘質シルト (5Y7/1) 硬質で強い粘性をもつ。マンガン粒子φ3mmを少量含む。
 8 灰褐色粘質シルト (7.5YR6/2) 砂の含有量が多く軟質、マンガン微粒子φ1mmを多く含む。
 9 灰白色粘質シルト (5Y7/1) やや粘性に欠ける軟質。

SI608-P622



SI608-P622

1 灰黄色シルト (2.5Y6/2) 粘性あり、しまり弱い。
 2 にぶい黄色シルト (2.5Y6/3) 粘性強い、しまりあり、炭化物φ1~2mmを少量含む。

SI608-P773



SI608-P773

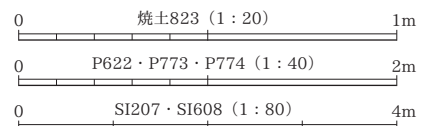
1 灰白色粘質シルト (7.5YR8/1) しまり強い、炭化物φ5mmを微量含む。

SI608-P774

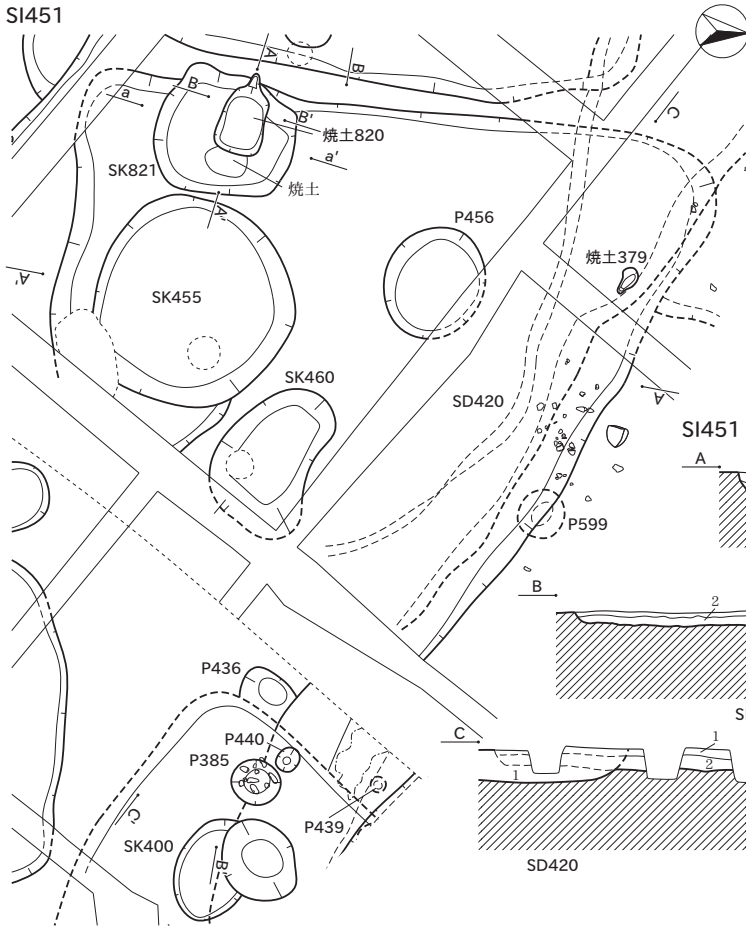


SI608-P774

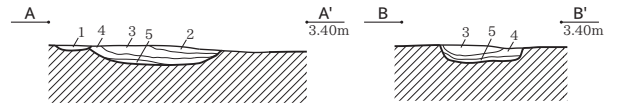
1 灰白色粘質シルト (N8/) 軟質で砂質化。
 2 灰白色 (7.5YR8/2) シルト粒子φ5mmを多く含む。



SI451



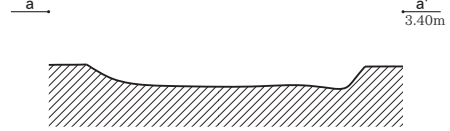
SI451-焼土820



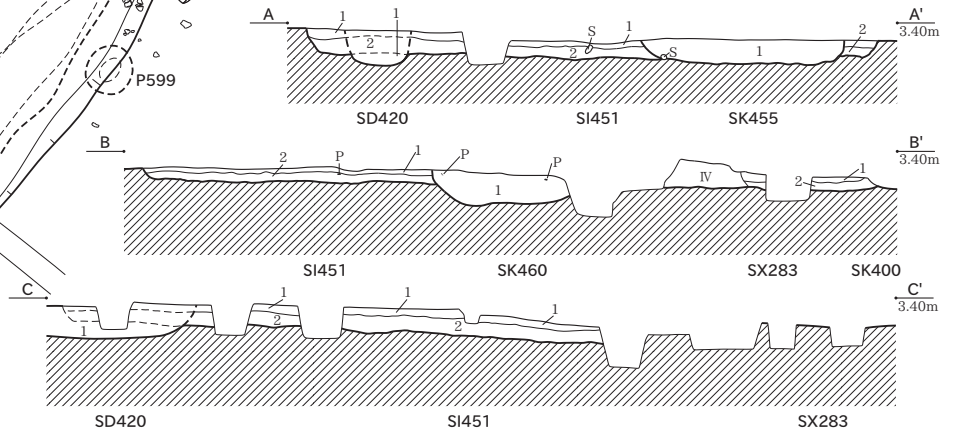
SI451-焼土820

- 1 褐灰色シルト (5YR4/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物・焼土を含む。
- 2 明赤褐色焼土 (5YR5/8) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。
- 3 オリーブ黒色シルト (5Y3/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を含む。
- 4 灰色シルト (5Y4/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物を含む。
- 5 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物・焼土を含む。

SK821



SI451



SI451

- 1 暗褐色シルト (10YR3/3) 粘性あり、しまりあり。
- 2 暗褐色シルト (10YR3/3) 粘性あり、しまりあり、炭化物を含む。

SK455

- 1 褐灰色シルト (10YR4/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物・焼土を多量含む。

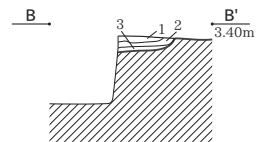
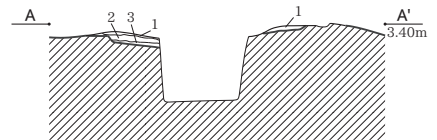
SK460

- 1 褐灰色シルト (10YR4/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物を含む。

SD420

- 1 におい黄褐色シルト (10YR7/2) 粘性あり、しまりあり。
- 2 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。

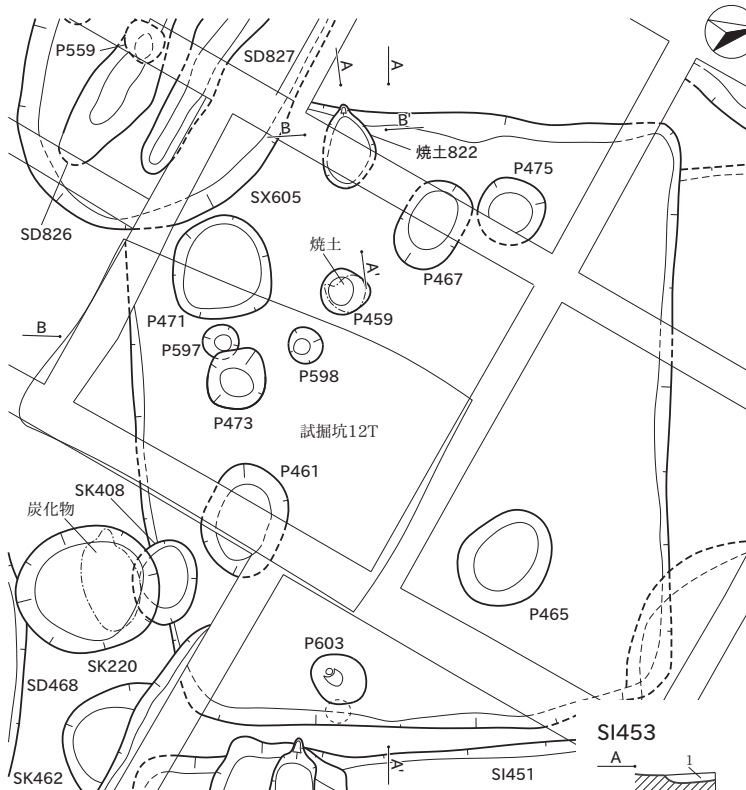
SI453-焼土822



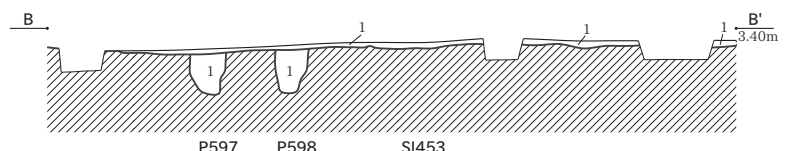
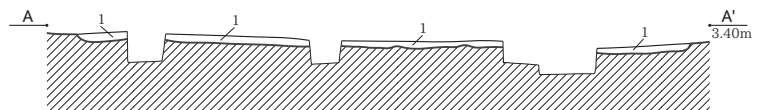
SI453-焼土822

- 1 暗褐色シルト (10YR3/3) 粘性あり、しまりあり、焼土を多量含む。
- 2 暗褐色シルト (10YR3/3) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。
- 3 オリーブ黒色シルト (5Y3/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を含む。

SI453



SI453



SI453
1 におい黄褐色シルト (10YR7/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

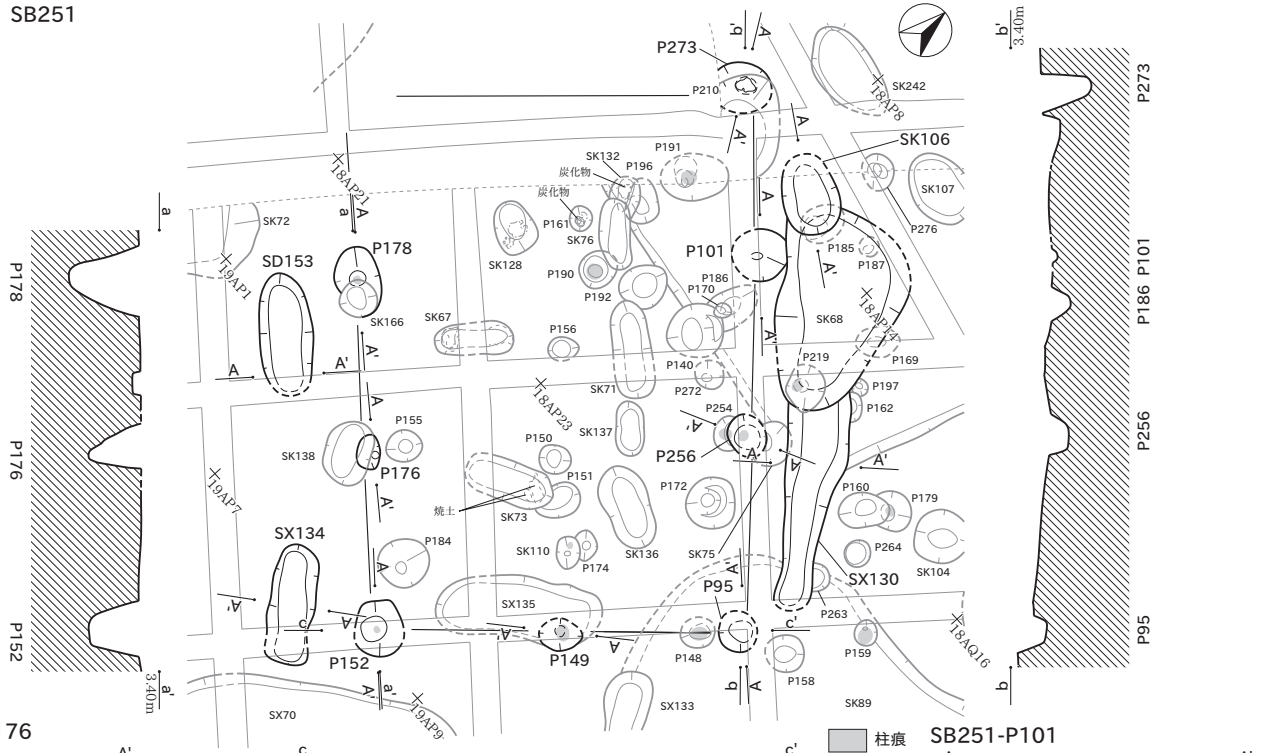
P597
1 褐灰色シルト (10YR4/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物を含む。

P598
1 暗褐色シルト (10YR3/3) 粘性あり、しまりあり、炭化物を含む。

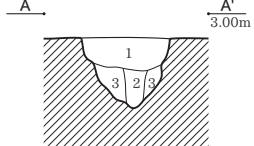
0 焼土820・焼土822・SK821 (1:40) 2m

0 SI451・SI453 (1:80) 4m

SB251



SB251-P176



SB251-P176

- 1 灰白色シルト (10YR7/1) 粘性あり、しまりあり。
- 2 褐灰色シルト (10YR6/1) 粘性強い、しまりあり、炭化物を少量含む。柱痕。
- 3 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SB251-P149

SB251-P149

- 1 灰色粘土 (10Y5/1) 粘性強い、しまりややあり、炭化物を少量含む。柱痕。
- 2 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性あり、しまり強い、炭化物を少量含む。
- 3 灰黄褐色粘土 (10YR5/2) 粘性あり、しまり強い。

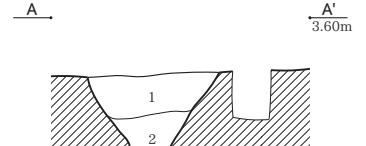
SB251-P152



SB251-P152

- 1 灰白色粘土 (10Y7/1) 粘性強い、しまりややあり、炭化物を少量含む。柱痕。
- 2 灰色粘土 (10Y6/1) 粘性強い、しまりあり、炭化物を少量含む。

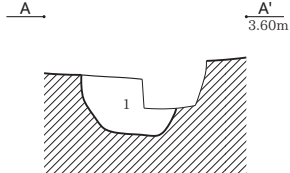
SB251-P101



SB251-P101

- 1 褐灰色シルト (10YR4/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。
- 2 褐灰色シルト (10YR6/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

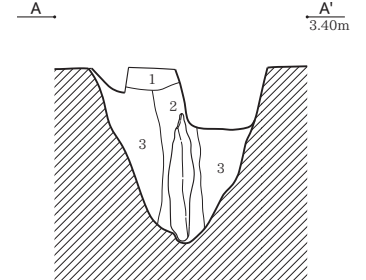
SB251-P95



SB251-P95

- 1 褐灰色シルト (10YR4/1) 粘性強い、しまり強い、炭化物を多量含む。

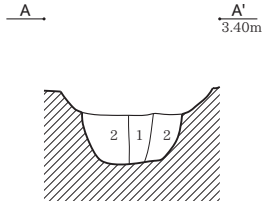
SB251-P178



SB251-P178

- 1 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。
- 2 灰白色粘土 (10Y7/1) 粘性強い、しまりややあり、炭化物を少量含む。柱痕。
- 3 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

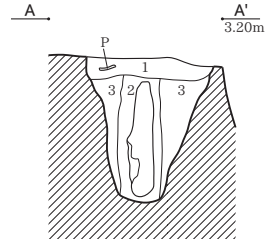
SB251-P256



SB251-P256

- 1 褐灰色シルト (10YR6/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。柱痕。
- 2 灰白色シルト (10YR7/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

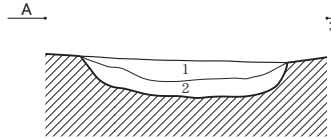
SB251-P273



SB251-P273

- 1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。
- 2 灰白色粘土 (10YR7/1) 粘性強い、しまりややあり、炭化物を少量含む。
- 3 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。

SB251-SK106



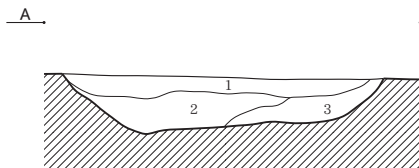
SB251-SK106

- 1 にぶい黄褐色シルト (10YR7/3) 粘性あり、しまり強い、炭化物を多量含む。
- 2 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまり強い、炭化物を多量含む。

SB251-P256

- 1 褐灰色シルト (10YR6/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。柱痕。
- 2 灰白色シルト (10YR7/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

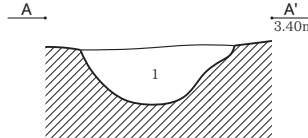
SB251-SK68



SB251-SK68

- 1 にぶい黄褐色シルト (10YR7/3) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。
- 2 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性強い、しまりややあり、炭化物を少量含む。
- 3 褐灰色シルト (10YR4/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。

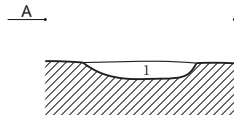
SB251-SX130



SB251-SX130

- 1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまり強い、炭化物を多量含む。

SB251-SX134

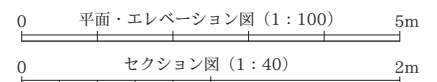


SB251-SX134

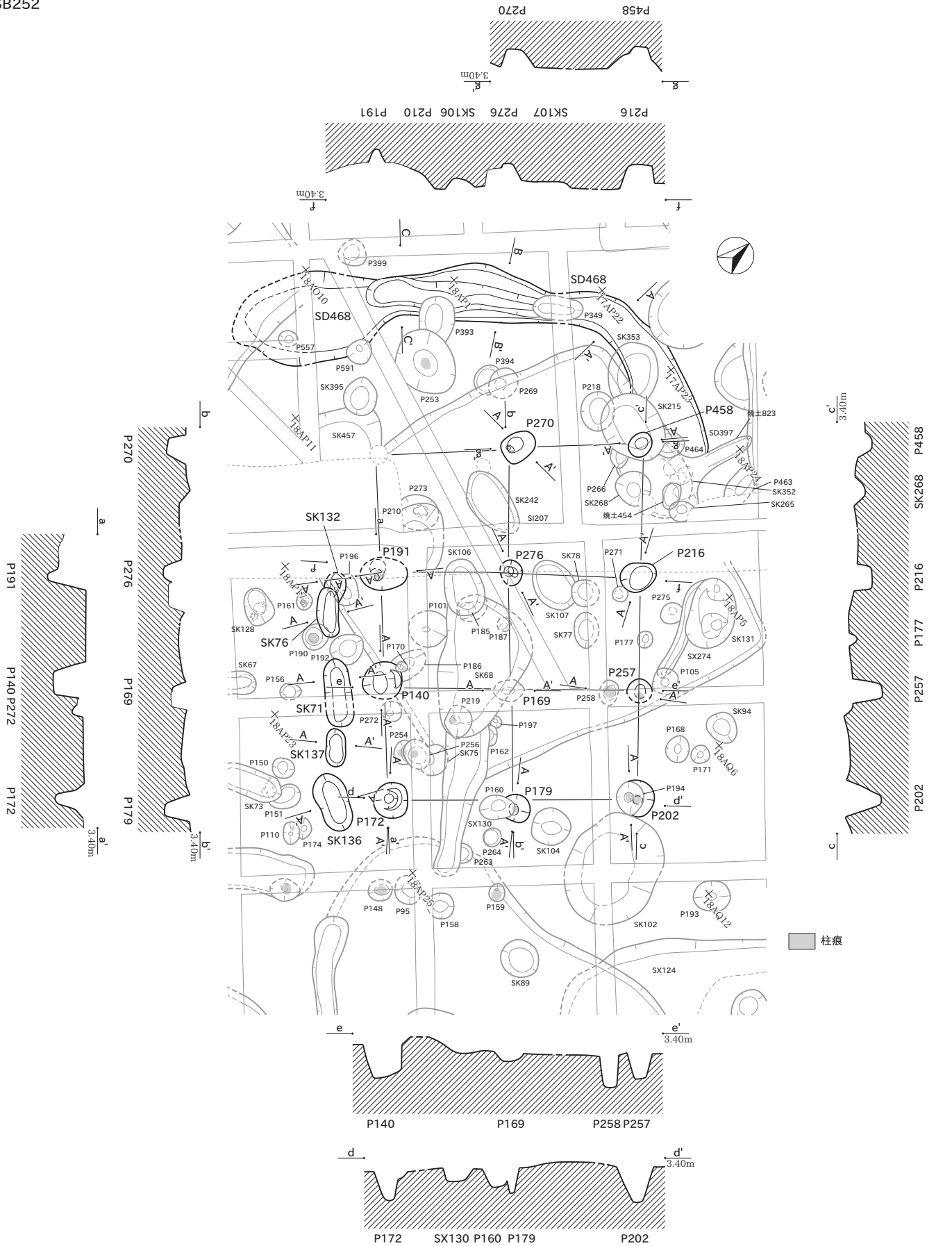
- 1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまり強い、炭化物を多量含む。

SB251-SK68

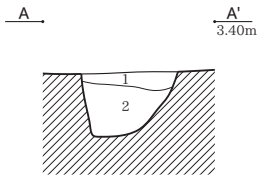
- 1 にぶい黄褐色シルト (10YR7/3) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。
- 2 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性強い、しまりややあり、炭化物を少量含む。
- 3 褐灰色シルト (10YR4/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。



SB252

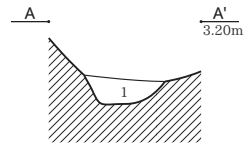


SB252-P270



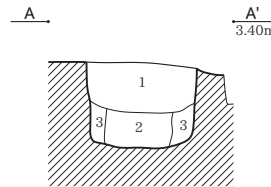
SB252-P270
 1 灰黄褐色シルト (10YR6/2)
 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。
 2 灰黄褐色シルト (10YR5/2)
 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SB252-P458



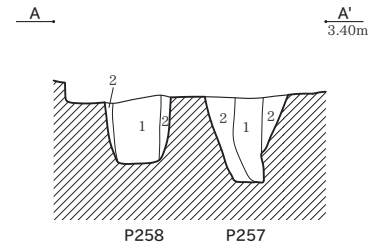
SB252-P458
 1 褐灰色シルト (10YR4/1)
 粘性あり、しまりあり、炭化物を含む。

SB252-P216



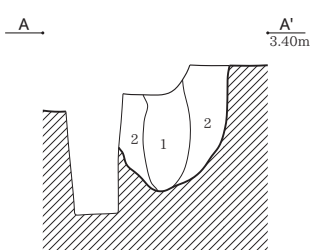
SB252-P216
 1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性強い、しまりあり、炭化物を少量含む。
 2 褐灰色シルト (10YR6/1) 粘性強い、しまりややあり、炭化物を少量含む。柱痕。
 3 灰白色シルト (10YR7/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SB252-P257



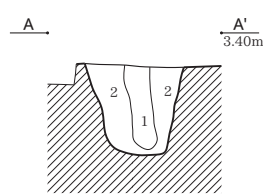
SB252-P257
 1 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性強い、しまりややあり、炭化物を多量含む。柱痕。
 2 灰白色シルト (10YR7/1) 粘性ややあり、しまりややあり、炭化物を少量含む。

SB252-P202



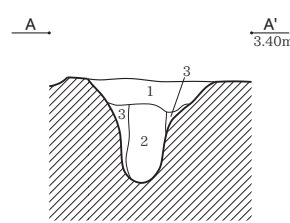
SB252-P202
 1 灰色粘土 (10YR6/1)
 粘性強い、しまりややあり、炭化物を少量含む。柱痕。
 2 にぶい黄褐色シルト (10YR6/4)
 粘性あり、しまり強い。

SB252-P179



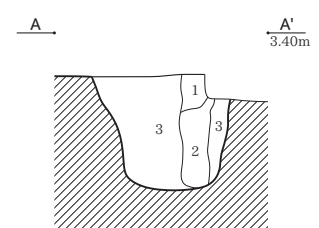
SB252-P179
 1 褐灰色粘土 (10YR4/1)
 粘性強い、しまり強い、炭化物を多量含む。柱痕。
 2 灰黄褐色シルト (10YR4/2)
 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SB252-P172



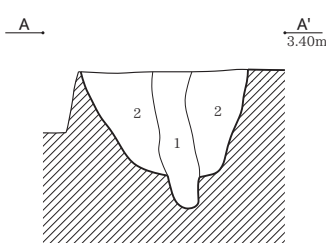
SB252-P172
 1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまり強い、炭化物を多量含む。柱痕。
 2 灰色粘土 (10Y6/1) 粘性強い、しまりややあり、炭化物を少量含む。
 3 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性あり、しまり強い、炭化物を少量含む。

SB252-P140



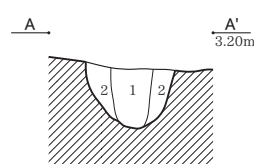
SB252-P140
 1 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。柱痕。
 2 灰色粘土 (10Y5/1) 粘性強い、しまりややあり、炭化物を多量含む。
 3 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性あり、しまり強い、炭化物を多量含む。

SB252-P191



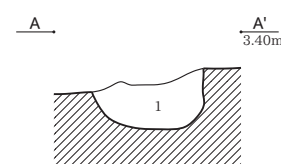
SB252-P191
 1 にぶい黄褐色シルト (10YR7/2)
 粘性ややあり、しまりあり。柱痕。
 2 灰黄褐色シルト (10YR5/2)
 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SB252-P276



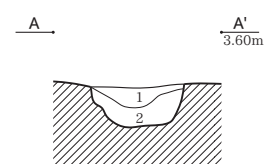
SB252-P276
 1 にぶい黄褐色シルト (10YR6/3)
 粘性あり、しまりあり。柱痕。
 2 にぶい黄褐色シルト (10YR7/3)
 粘性あり、しまりあり。

SB252-P169



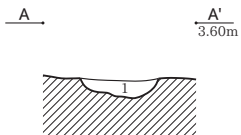
SB252-P169
 1 灰黄褐色粘土 (10YR6/2)
 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SB252-SK71



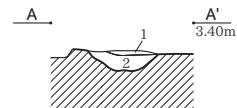
SB252-SK71
 1 黒色シルト (10YR2/1)
 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。焼土塊を少量含む。硬化面なし。
 2 灰黄褐色シルト (10YR6/2)
 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SB252-SK76



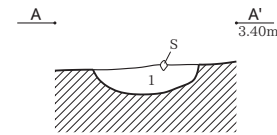
SB252-SK76
 1 灰色シルト (10YR5/1)
 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。

SB252-SK132



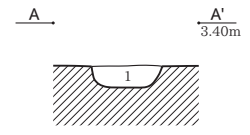
SB252-SK132
 1 黒褐色シルト (10YR3/1)
 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。
 2 褐灰色シルト (10YR5/1)
 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。

SB252-SK136



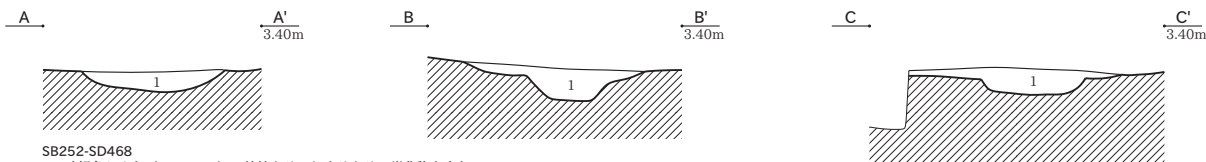
SB252-SK136
 1 にぶい黄褐色シルト (10YR6/3)
 粘性あり、しまり強い、炭化物を多量含む。

SB252-SK137



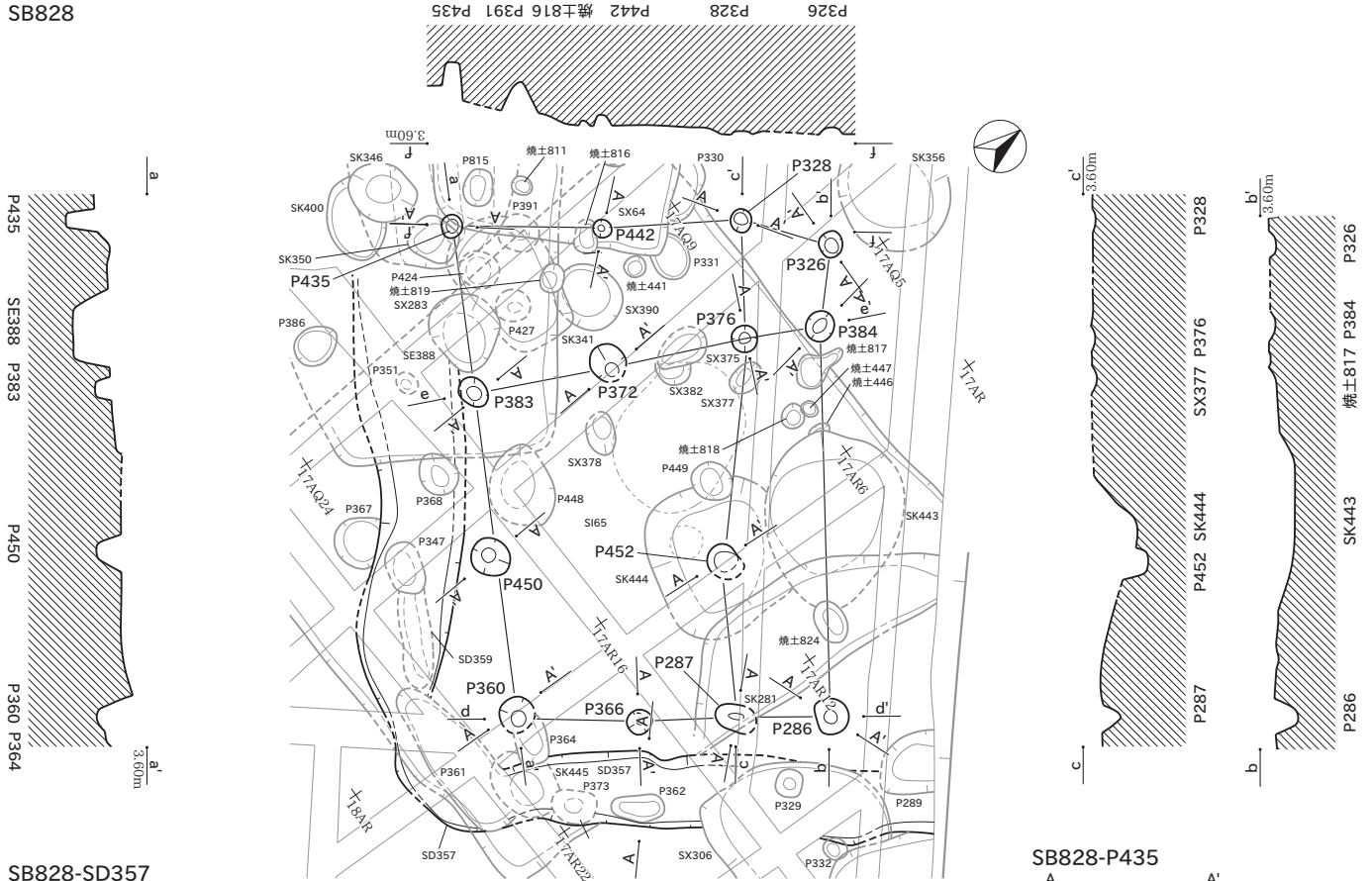
SB252-SK137
 1 にぶい黄褐色シルト (10YR6/3)
 粘性あり、しまり強い、炭化物を多量含む。

SB252-SD468

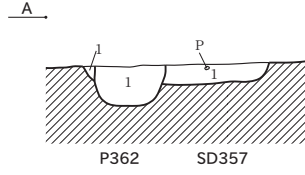


SB252-SD468
 1 暗褐色シルト (10YR3/3) 粘性あり、しまりあり、炭化物を含む。

SB828

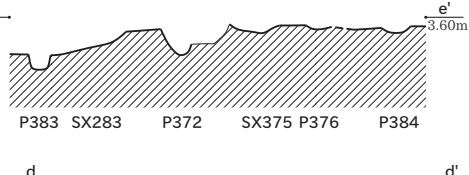


SB828-SD357



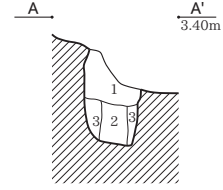
SB828-PSD357
1 褐色シルト (10YR6/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

P362
1 褐色シルト (10YR5/1) 粘性あり、しまりあり、灰黄褐色シルトブロックを多量含む。



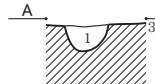
SB828-P383 SX283 P372 SX375 P376 P384

SB828-P435



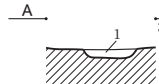
SB828-P435
1 にぶい黄褐色シルト (10YR6/3) 粘性あり、しまりあり、炭化物を含む。
2 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性あり、しまりあり。
3 暗褐色シルト (10YR3/3) 粘性あり、しまりあり、炭化物を含む。

SB828-P442



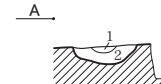
SB828-P442
1 暗褐色シルト (10YR3/3) 粘性あり、しまりあり、焼土を含む。

SB828-P328



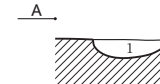
SB828-P328
1 褐色焼土 (5YR6/1) 粘性あり、しまりあり。

SB828-P326



SB828-P326
1 にぶい黄褐色シルト (10YR4/3) 粘性あり、しまりあり。
2 褐色焼土 (5YR6/6) 粘性あり、しまりあり、炭化物を含む。

SB828-P384



SB828-P384
1 褐色シルト (10YR4/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物・地山ブロックを少量含む。

SB828-P286



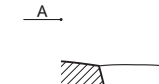
SB828-P286
1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SB828-P287



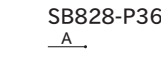
SB828-P287
1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SB828-P366



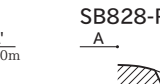
SB828-P366
1 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SB828-P360



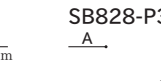
SB828-P360
1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。

SB828-P450



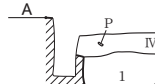
SB828-P450
1 褐色シルト (10YR4/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物を含む。

SB828-P383



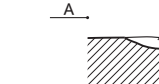
SB828-P383
1 にぶい黄褐色シルト (10YR5/3) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。
2 にぶい黄褐色シルト (10YR5/4) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。
3 にぶい黄褐色シルト (10YR6/3) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SB828-P372



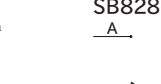
SB828-P372
1 にぶい黄褐色シルト (10YR6/3) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SB828-P376



SB828-P376
1 にぶい赤褐色シルト (5YR5/3) 粘性あり、しまりあり、灰黄褐色シルトブロックを多量含む。

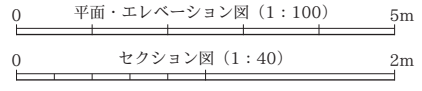
SB828-P452



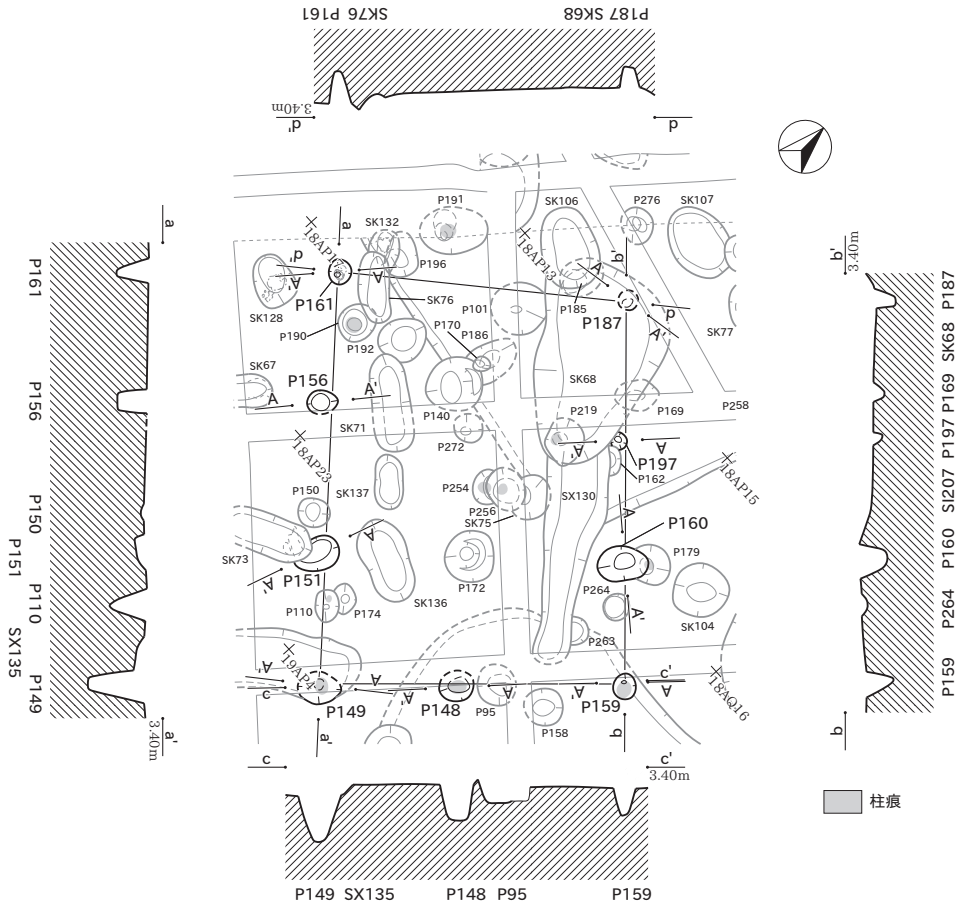
SB828-P452
1 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。柱痕。

SB828-P372

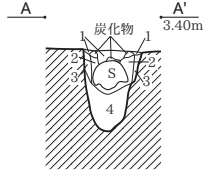
SB828-P372
1 にぶい黄褐色シルト (10YR6/3) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。



SB829



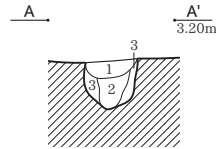
SB829-P161



SB829-P161

- 1 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。
- 2 褐灰色シルト (10YR6/1) 粘性強い、しまりあり、炭化物を多量含む。
- 3 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性強い、しまりあり、炭化物を少量含む。
- 4 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性強い、しまりあり、炭化物を少量含む。

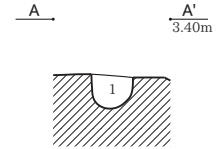
SB829-P187



SB829-P187

- 1 にぶい黄褐色シルト (10YR6/3) 粘性あり、しまり強い、炭化物を少量含む。
- 2 灰黄褐色粘土 (10YR4/2) 粘性強い、しまりややあり、炭化物を少量含む。柱痕。
- 3 にぶい黄褐色シルト (10YR6/4) 粘性あり、しまり強い。

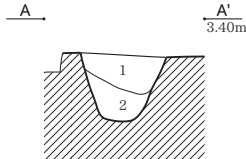
SB829-P197



SB829-P197

- 1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまり強い、炭化物を少量含む。

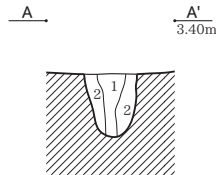
SB829-P160



SB829-P160

- 1 にぶい黄褐色シルト (10YR7/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。
- 2 にぶい黄褐色シルト (10YR6/3) 粘性あり、しまりあり、炭化物を板状に多量に含む。

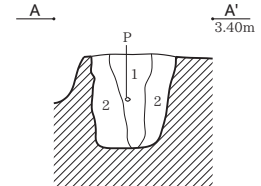
SB829-P159



SB829-P159

- 1 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性あり、しまりややあり、炭化物を多量含む。柱痕。
- 2 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性ややあり、しまり強い、炭化物を少量含む。

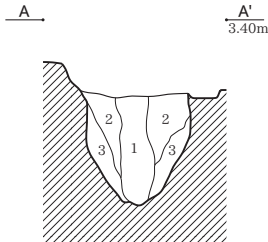
SB829-P148



SB829-P148

- 1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりややあり、炭化物を少量含む。
- 2 にぶい黄褐色シルト (10YR6/3) 粘性あり、しまり強い、炭化物を少量含む。

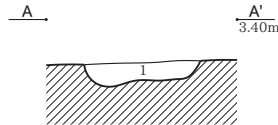
SB829-P149



SB829-P149

- 1 灰色粘土 (10Y5/1) 粘性強い、しまりややあり、炭化物を少量含む。柱痕。
- 2 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性あり、しまり強い、炭化物を少量含む。
- 3 灰黄褐色粘土 (10YR5/2) 粘性あり、しまり強い。

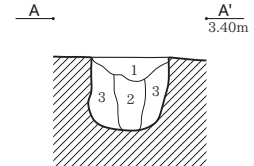
SB829-P151



SB829-P151

- 1 にぶい黄褐色シルト (10YR6/3) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SB829-P156



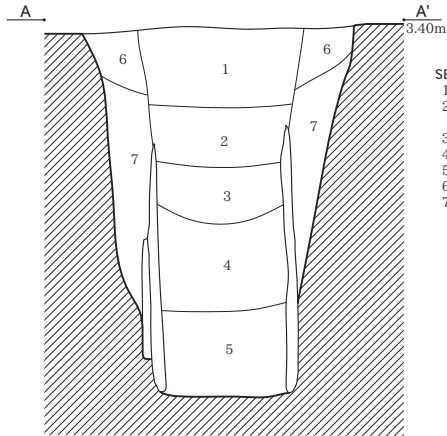
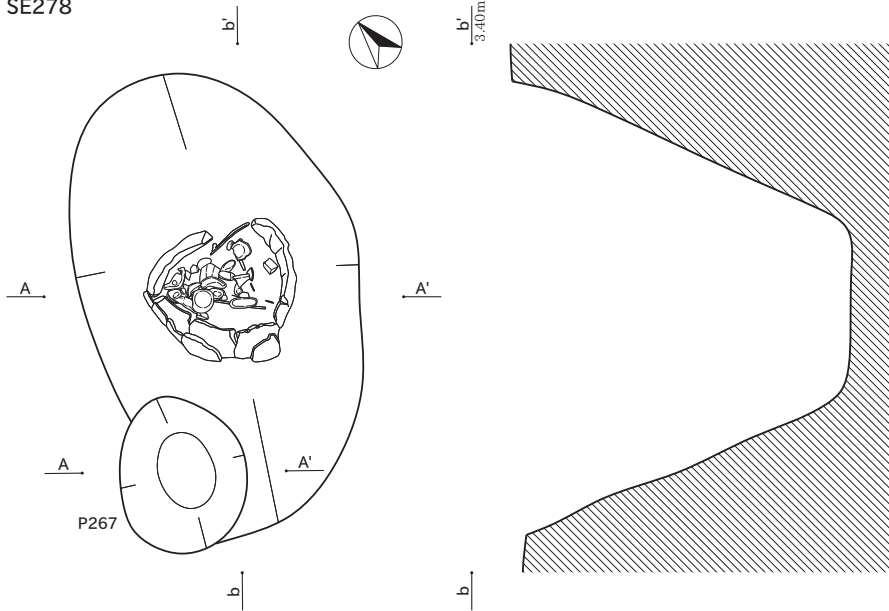
SB829-P156

- 1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまり強い、炭化物を多量含む。
- 2 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性あり、しまりややあり、炭化物を多量含む。柱痕。
- 3 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性あり、しまり強い。

0 平面・エレベーション図 (1 : 100) 5m

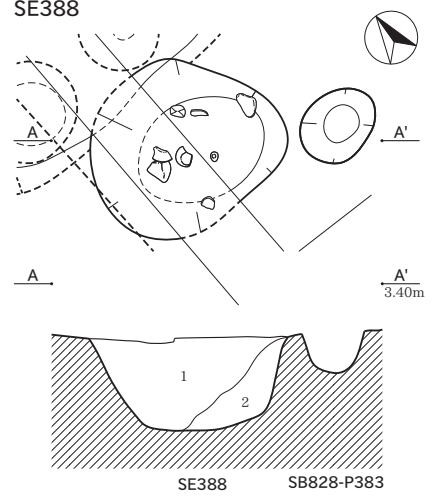
0 セクション図 (1 : 40) 2m

SE278

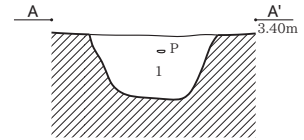


- SE278**
- 1 灰色粘土 (10Y5/1) 粘性強い、しまりややあり、炭化物を少量含む。
 - 2 灰色粘土 (10Y6/1) 粘性ややあり、しまりややあり、炭化物を少量含む。
 - 3 灰色粘土 (10Y4/1) 粘性強い、しまりややあり。
 - 4 灰色粘土 (7.5Y5/1) 粘性強い、しまりややあり。
 - 5 灰色粘土 (7.5Y4/1) 粘性強い、しまりややあり。
 - 6 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性あり、しまり強い。
 - 7 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性あり、しまり強い。

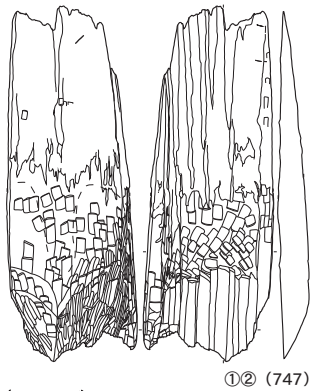
SE388



- SE388**
- 1 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。
 - 2 褐灰色シルト (10YR4/1) 粘性あり、しまり強い、炭化物を多量含む。



- P267**
- 1 褐灰色シルト (10YR6/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。



①② (747)



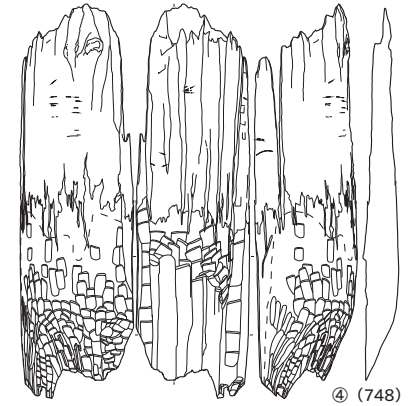
③ (742)



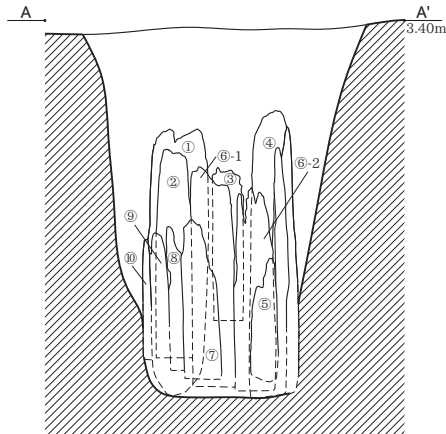
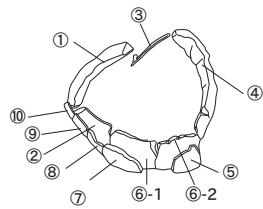
③ (746)



③ (745)



④ (748)



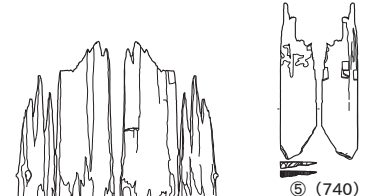
⑨⑩ (744)



⑧ (741)



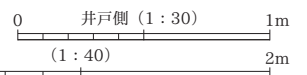
⑦ (743)



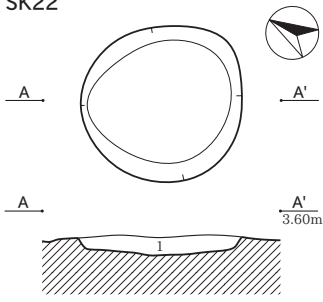
⑤ (740)



⑥-1・2 (749)

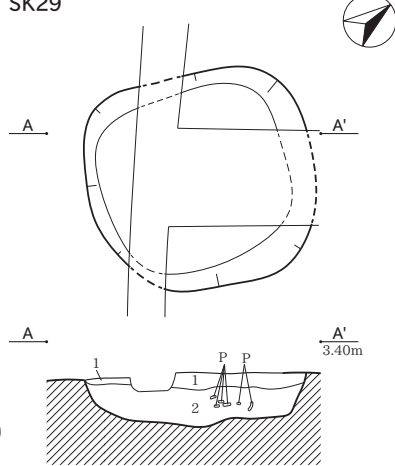


SK22



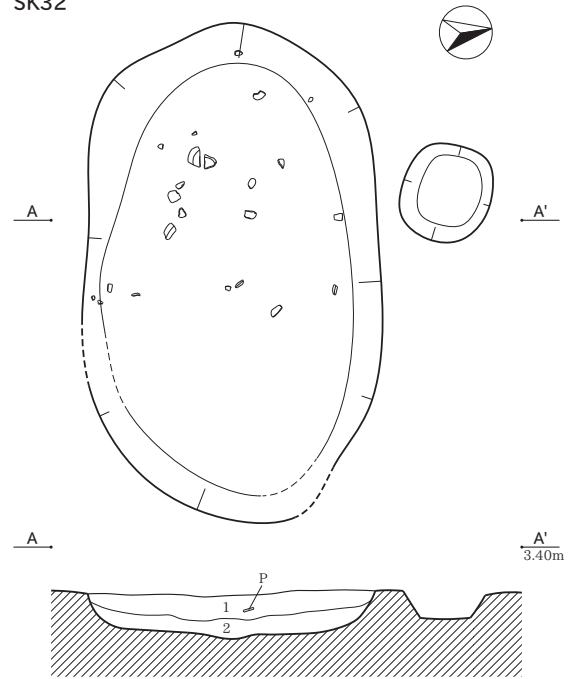
SK22
1 ぶい黄褐色シルト (10YR6/3)
粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。

SK29



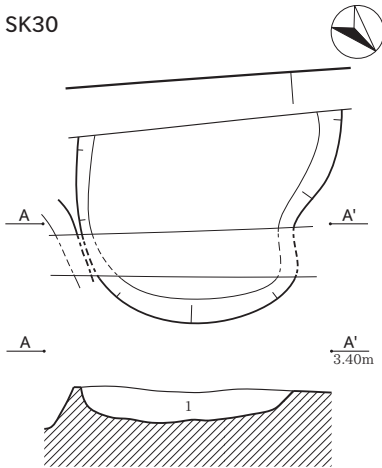
SK29
1 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。
2 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。

SK32



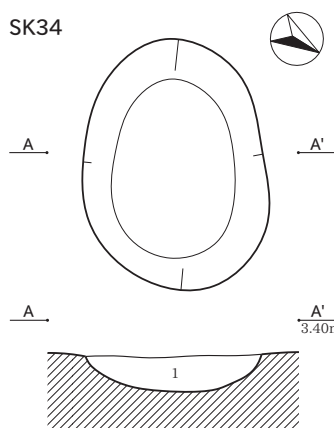
SK32
1 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物を多量含む。
2 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SK30



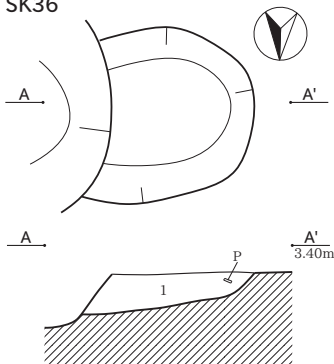
SK30
1 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。

SK34



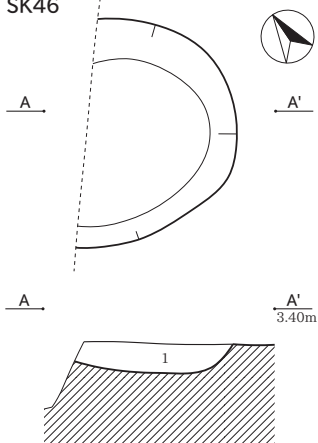
SK34
1 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。

SK36



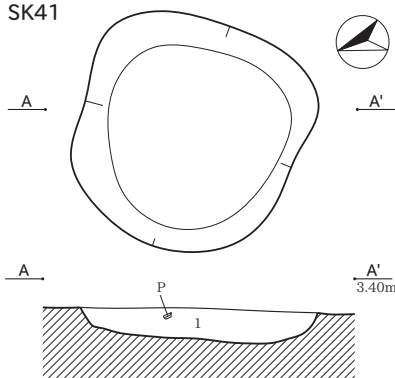
SK36
1 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。

SK46



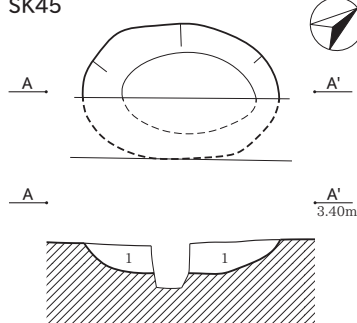
SK46
1 ぶい黄褐色シルト (10YR7/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SK41



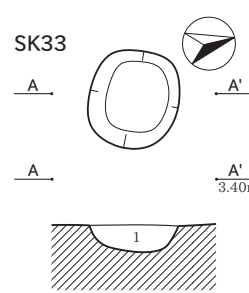
SK41
1 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。

SK45



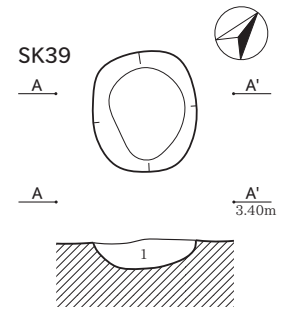
SK45
1 ぶい黄褐色シルト (10YR7/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SK33



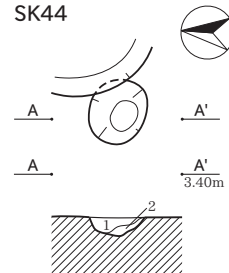
SK33
1 ぶい黄褐色シルト (10YR7/3) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。

SK39



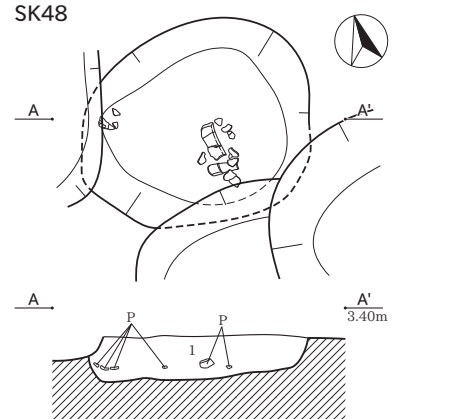
SK39
1 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SK44



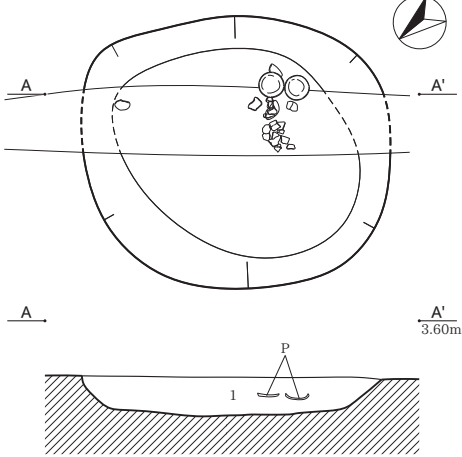
SK44
1 ぶい黄褐色シルト (10YR7/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。
2 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。

SK48



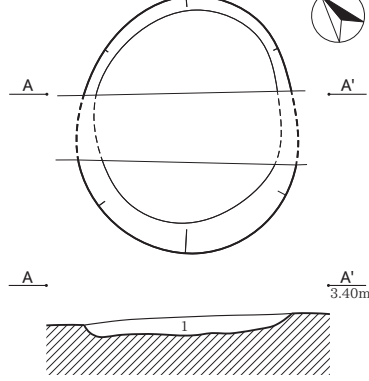
SK48
1 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。

SK53



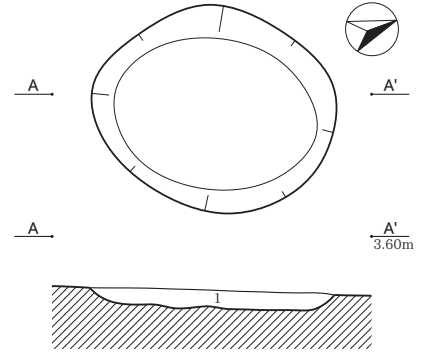
SK53
1 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。

SK57



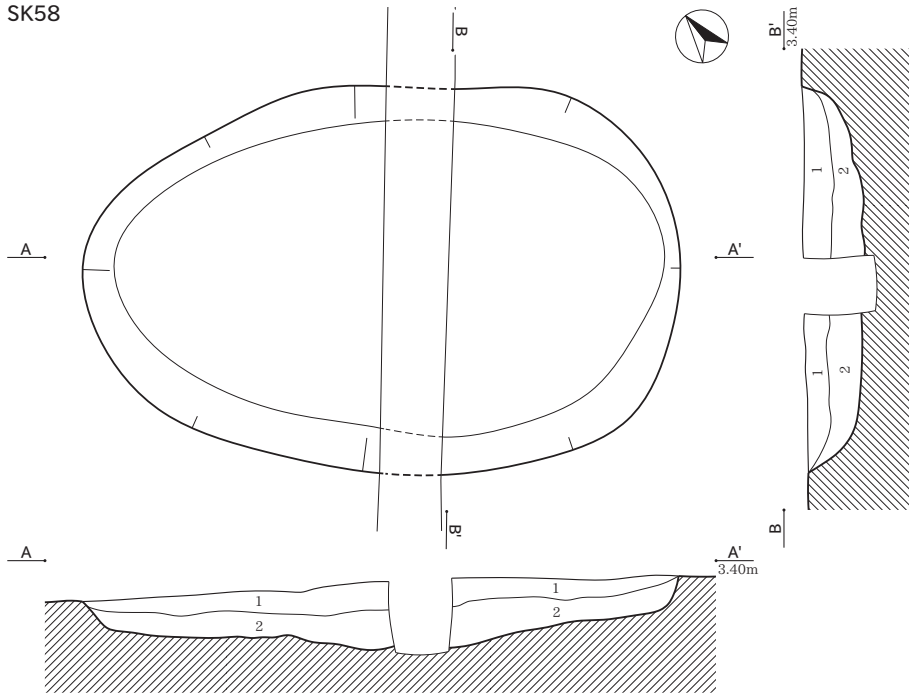
SK57
1 にぶい黄橙色シルト (10YR7/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SK60



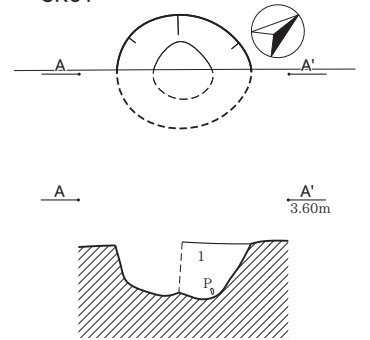
SK60
1 にぶい黄橙色シルト (10YR7/3) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物を多量含む。

SK58



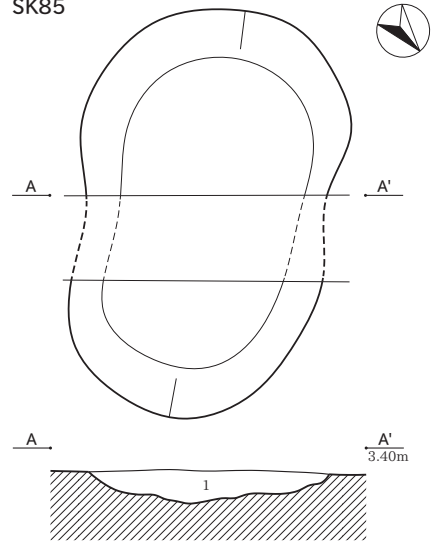
SK58
1 にぶい黄橙色シルト (10YR7/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。
2 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SK61



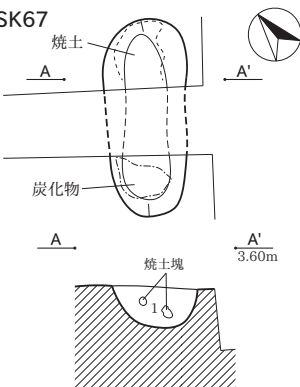
SK61
1 にぶい黄橙色シルト (10YR7/3) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SK85



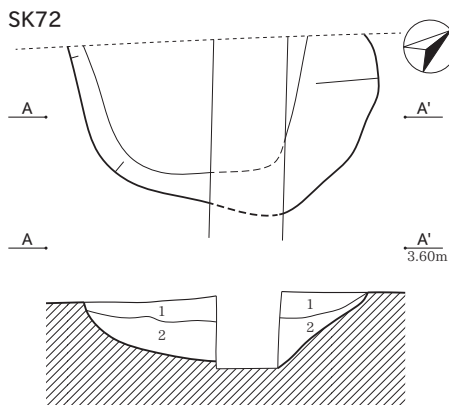
SK85
1 にぶい黄橙色シルト (10YR7/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SK67



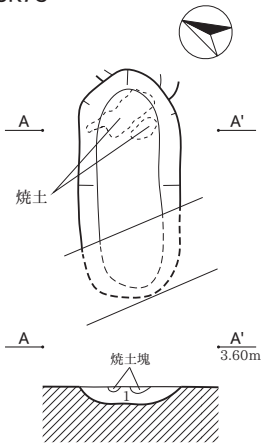
SK67
1 にぶい黄橙色シルト (10YR6/4) 粘性ややあり、しまり強い、炭化物を多量含む。焼土塊を多量含む。硬化面あり。

SK72



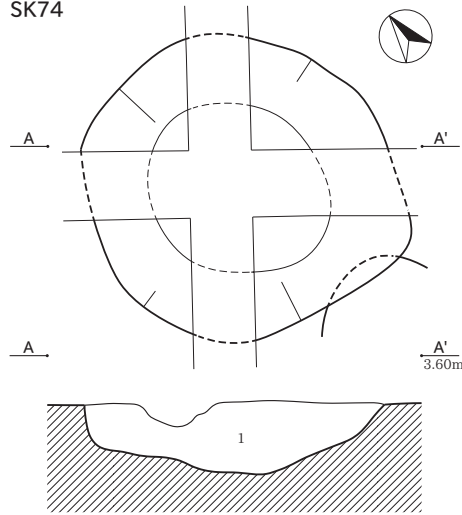
SK72
1 にぶい黄橙色シルト (10YR7/3) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。
2 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。

SK73



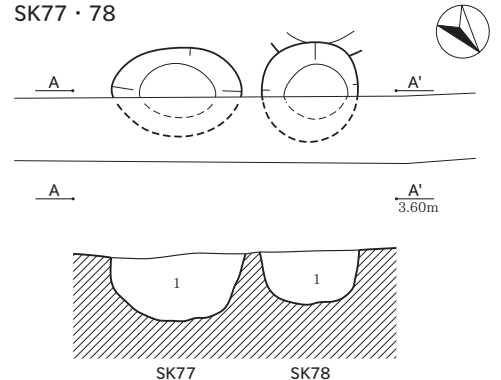
SK73
1 にぶい黄橙色シルト (10YR6/4)
粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。
焼土塊を少量含む。

SK74



SK74
1 にぶい黄橙色シルト (10YR7/3) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

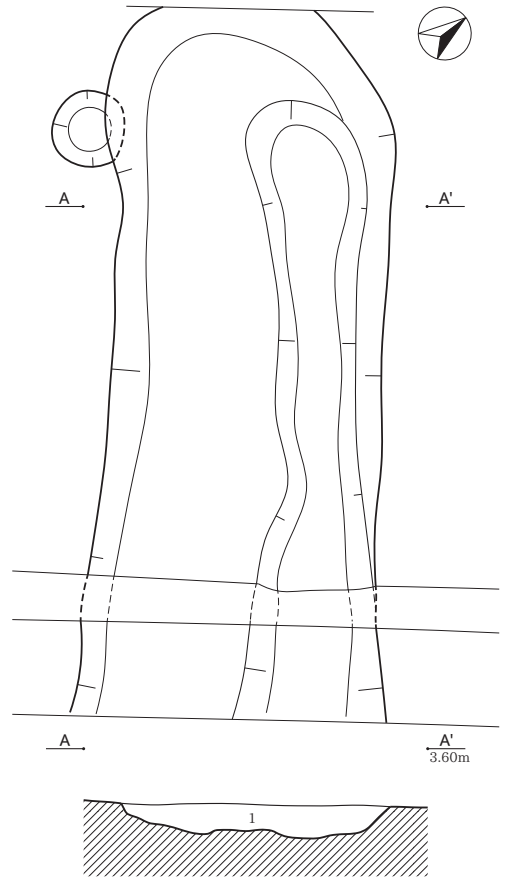
SK77・78



SK77
1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまり強い、炭化物を多量含む。

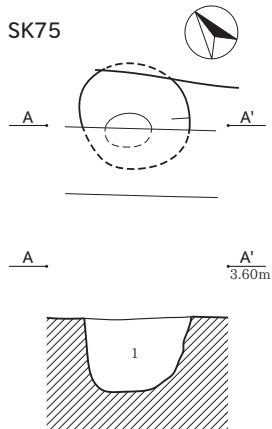
SK78
1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまり強い、炭化物を多量含む。

SK79



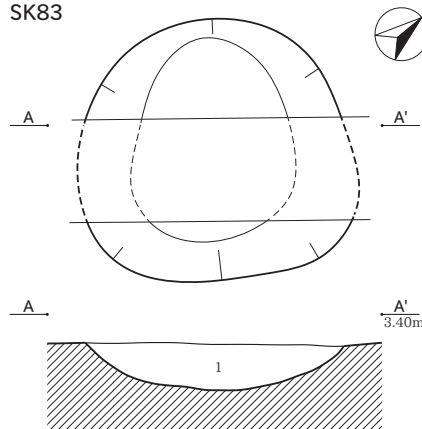
SK79
1 にぶい黄橙色シルト (10YR7/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SK75



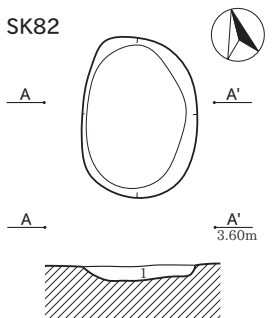
SK75
1 褐灰色シルト (10YR4/1)
粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。

SK83



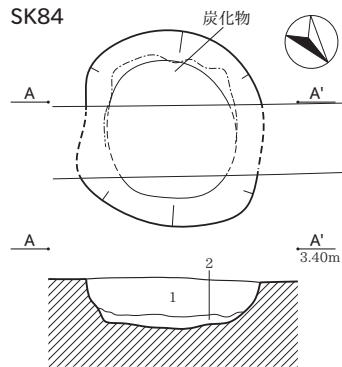
SK83
1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。

SK82



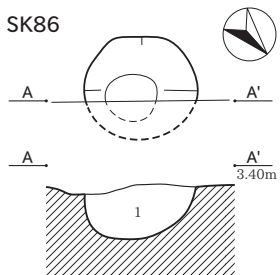
SK82
1 にぶい黄橙色シルト (10YR7/2)
粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SK84



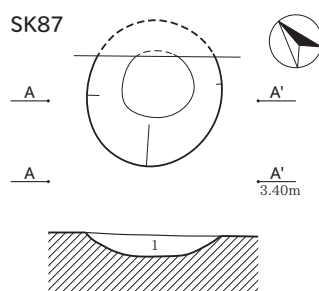
SK84
1 にぶい黄橙色シルト (10YR7/2)
粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。
2 にぶい黄橙色シルト (10YR6/3)
粘性あり、しまりあり、炭化物を板状に多量含む。

SK86



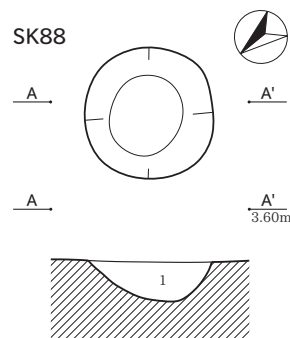
SK86
1 にぶい黄橙色シルト (10YR7/3)
粘性あり、しまり強い、炭化物を多量含む。

SK87



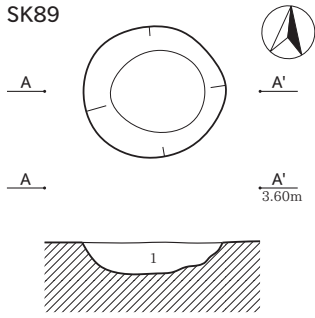
SK87
1 灰黄褐色シルト (10YR6/2)
粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。

SK88



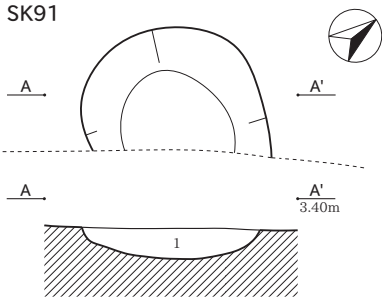
SK88
1 にぶい黄橙色シルト (10YR7/2)
粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SK89



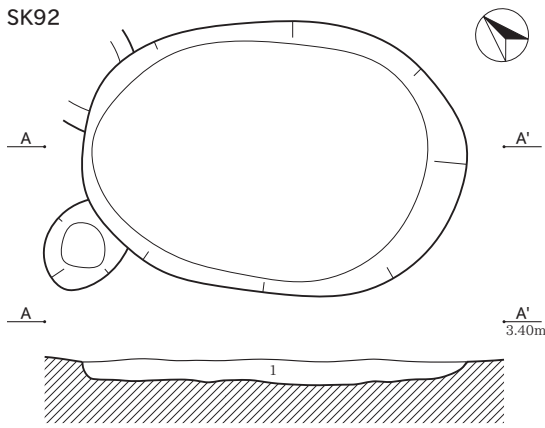
SK89 1 にぶい黄橙色シルト (10YR7/3) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。

SK91



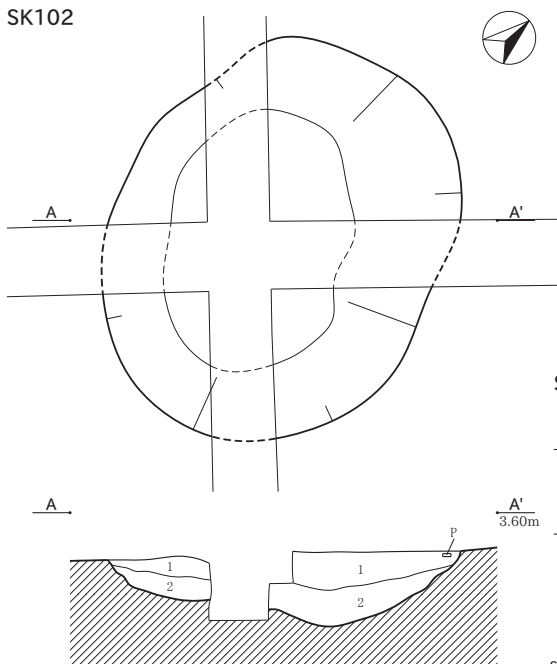
SK91 1 にぶい黄橙色シルト (10YR7/3) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。

SK92



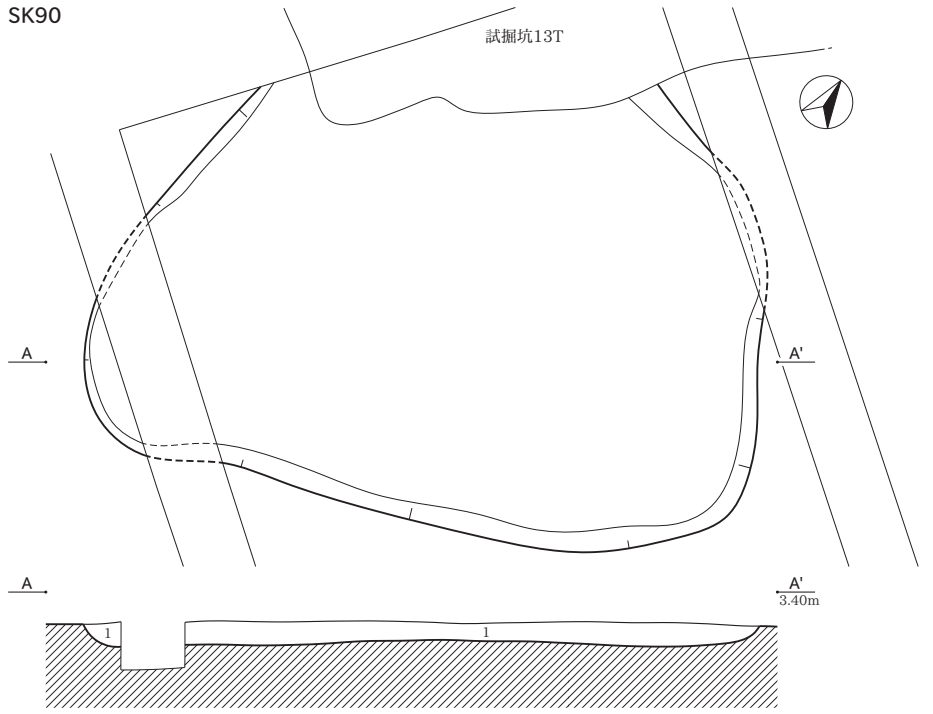
SK92 1 にぶい黄橙色シルト (10YR7/3) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。

SK102



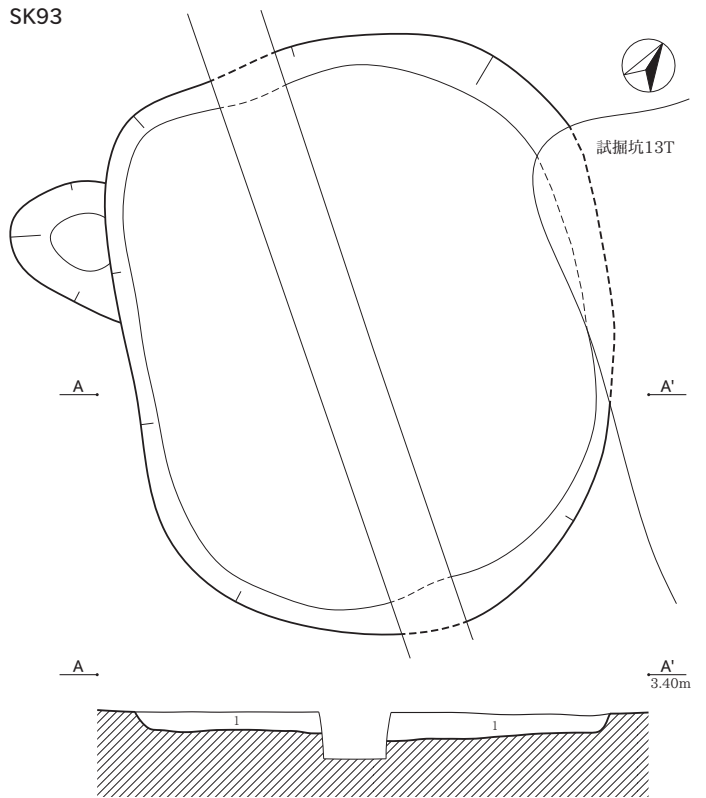
SK102 1 にぶい黄橙色シルト (10YR7/3) 粘性あり、しまり強い、炭化物を多量含む。 2 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまり強い、炭化物を多量含む。

SK90



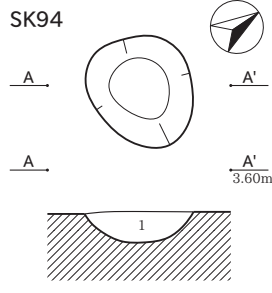
SK90 1 にぶい黄橙色シルト (10YR7/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SK93



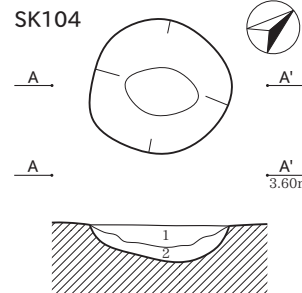
SK93 1 にぶい黄橙色シルト (10YR7/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SK94



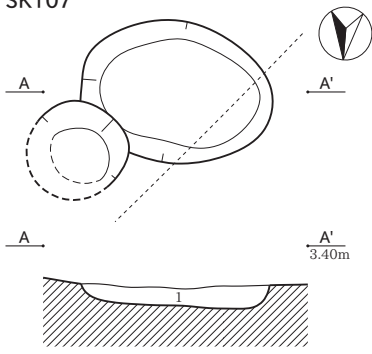
SK94 1 にぶい黄橙色シルト (10YR7/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SK104



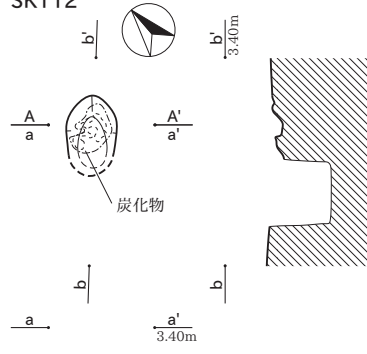
SK104 1 にぶい黄橙色シルト (10YR7/3) 粘性あり、しまり強い、炭化物を多量含む。 2 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまり強い、炭化物を多量含む。

SK107



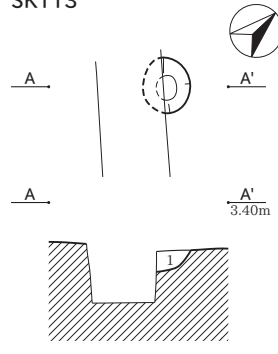
SK107
1 にぶい黄橙色シルト (10YR7/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SK112



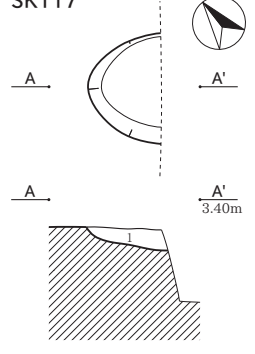
SK112
1 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性あり、しまり強い、炭化物を多量含む。
2 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SK113



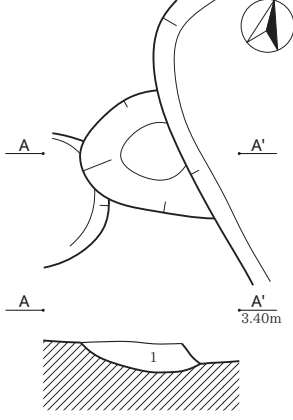
SK113
1 にぶい黄橙色シルト (10YR7/3) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。

SK117

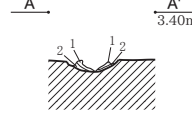


SK117
1 にぶい黄橙色シルト (10YR7/3) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。

SK116

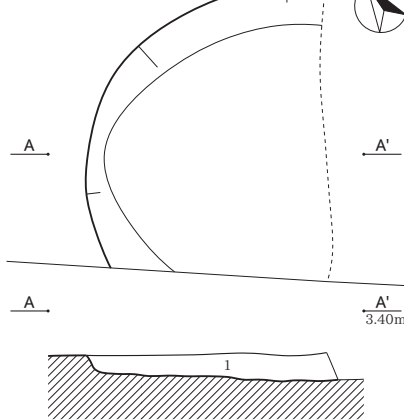


SK116
1 にぶい黄橙色シルト (10YR7/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。



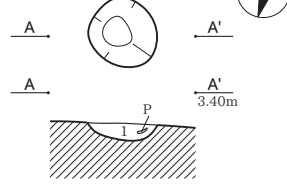
SK112
1 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性あり、しまり強い、炭化物を多量含む。
2 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SK119



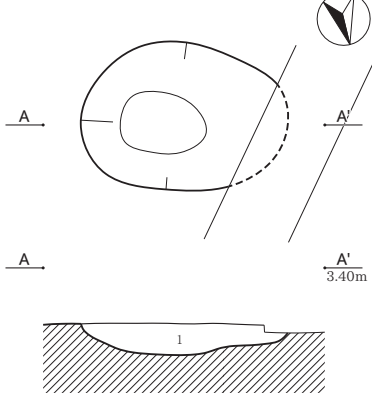
SK119
1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。

SK118



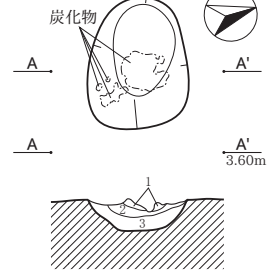
SK118
1 にぶい黄橙色シルト (10YR7/3) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SK121



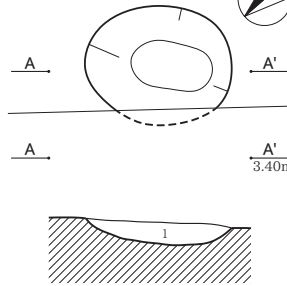
SK121
1 にぶい黄橙色シルト (10YR7/3) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SK128



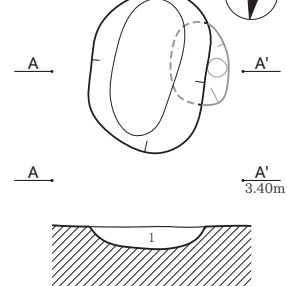
SK128
1 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。
2 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。
3 褐灰色シルト (10YR6/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SK126



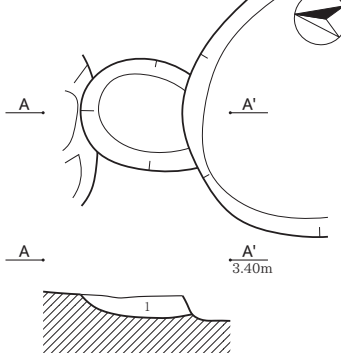
SK126
1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。

SK138



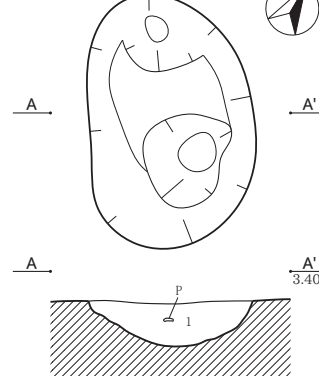
SK138
1 にぶい黄橙色シルト (10YR6/3) 粘性あり、しまり強い、炭化物を多量含む。

SK127



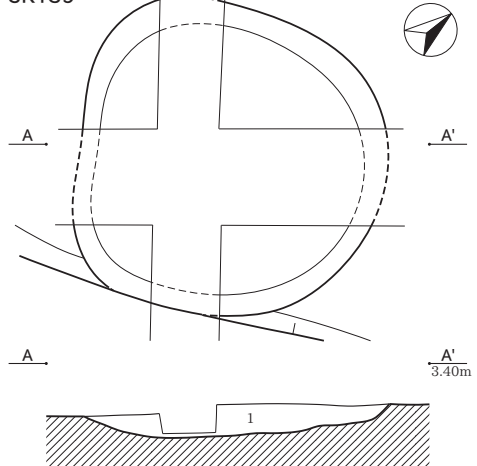
SK127
1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。

SK131

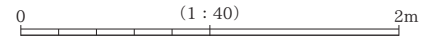


SK131
1 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性あり、しまり強い、炭化物を多量含む。

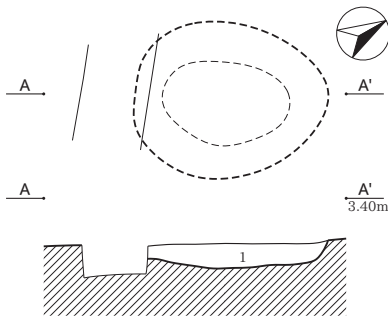
SK139



SK139
1 にぶい黄橙色シルト (10YR7/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

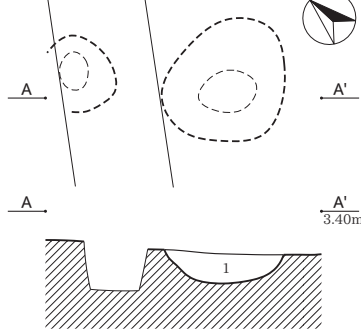


SK143



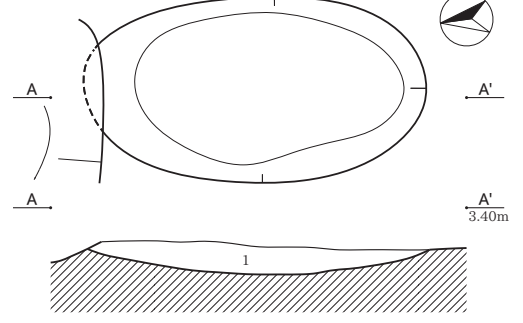
SK143
1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。

SK144



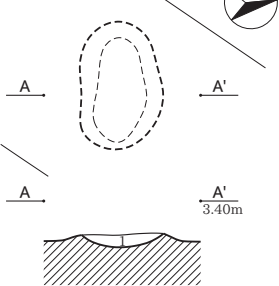
SK144
1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまり強い、炭化物を少量含む。

SK147



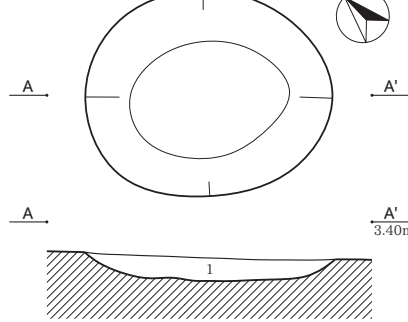
SK147
1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。

SK145



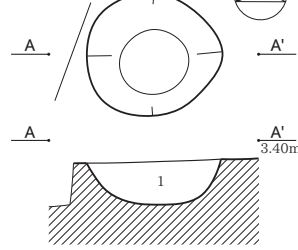
SK145
1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物を多量含む。

SK146



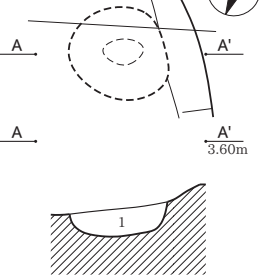
SK146
1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。

SK163



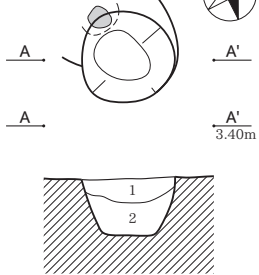
SK163
1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまり強い、炭化物を多量含む。

SK164



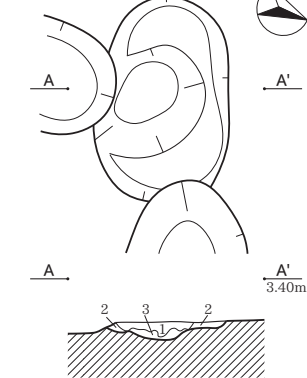
SK164
1 にぶい黄橙色シルト (10YR7/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SK166



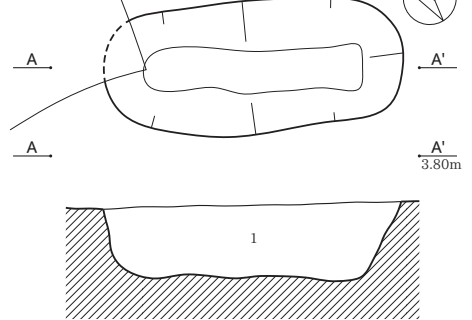
SK166
1 にぶい黄橙色シルト (10YR7/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。
2 にぶい黄橙色シルト (10YR6/3) 粘性あり、しまりあり、炭化物を板状に多量含む。

SK182



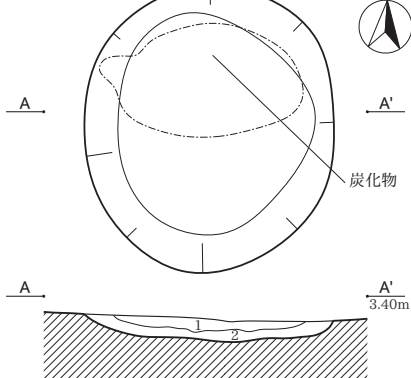
SK182
1 褐灰色シルト (10YR6/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。焼土塊を多量含む。
2 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。
3 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性あり、しまり強い、炭化物を少量含む。

SK209



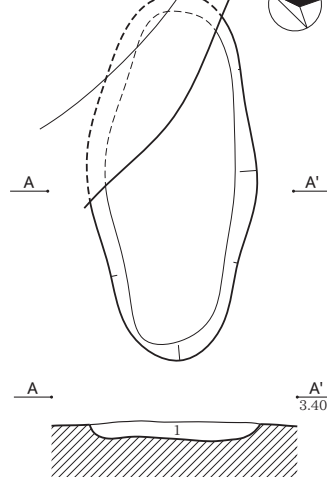
SK209
1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SK220



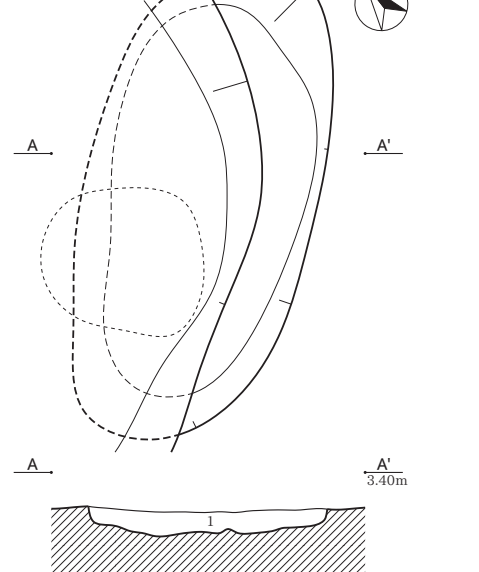
SK220
1 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性あり、しまり強い、炭化物を多量含む。焼土を多量含む。
2 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまり強い、炭化物を少量含む。

SK228

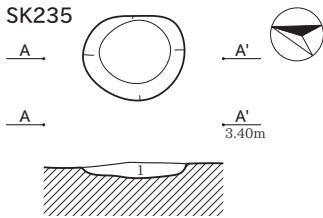


SK228
1 にぶい黄橙色シルト (10YR7/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

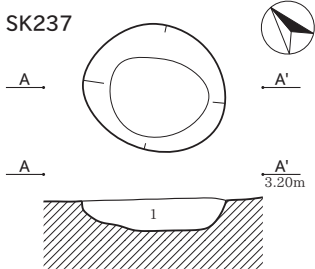
SK232



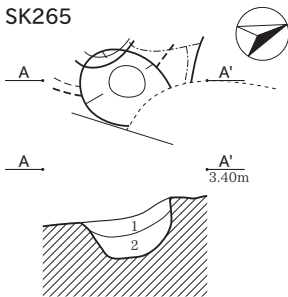
SK232
1 にぶい黄橙色シルト (10YR7/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。



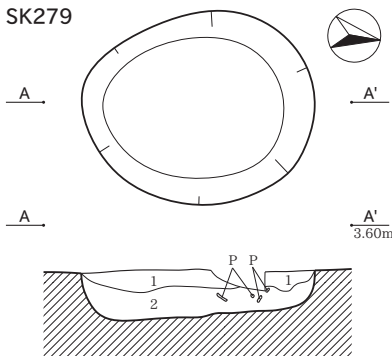
SK235
1 にぶい黄橙色シルト (10YR7/2)
粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。



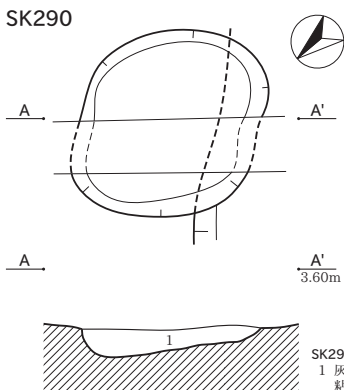
SK237
1 にぶい黄橙色シルト (10YR7/2)
粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。



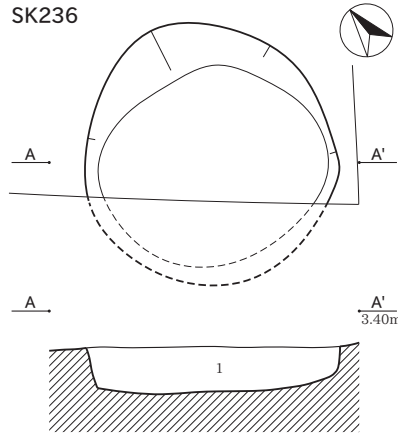
SK265
1 灰黄褐色シルト (10YR5/2)
粘性ややあり、しまりあり、炭化物を少量含む。
2 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性ややあり、しまりあり。



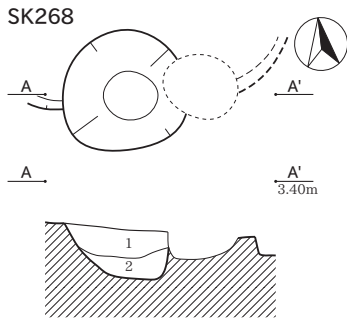
SK279
1 灰黄褐色シルト (10YR6/2)
粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。
2 褐灰色シルト (10YR5/1)
粘性あり、しまりあり、炭化物を少量、灰黄褐色シルト
ブロックを少量含む。



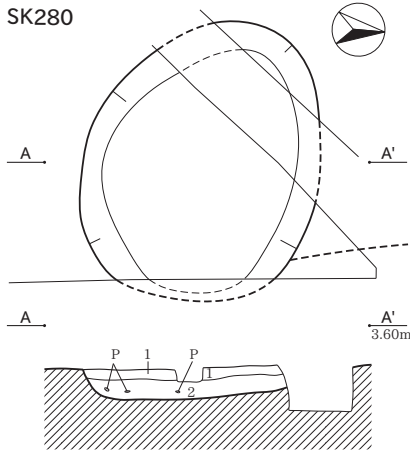
SK290
1 灰黄褐色シルト (10YR6/2)
粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。



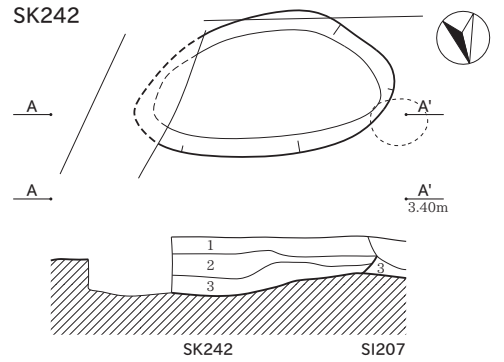
SK236
1 にぶい黄橙色シルト (10YR7/2) 粘性あり、しまりあり、
炭化物を少量含む。



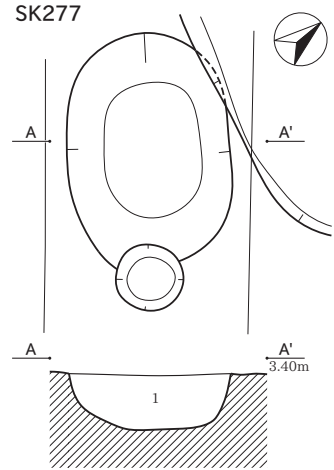
SK268
1 灰黄褐色シルト (10YR5/2)
粘性ややあり、しまりあり、炭化物を多量含む。
2 褐灰色シルト (10YR6/1)
粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。



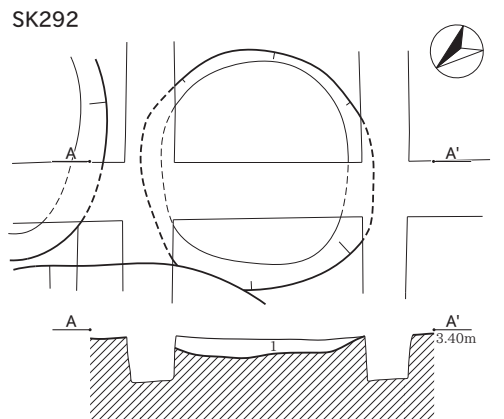
SK280
1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、
炭化物を多量含む。
2 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性あり、しまりあり、
炭化物を少量含む。



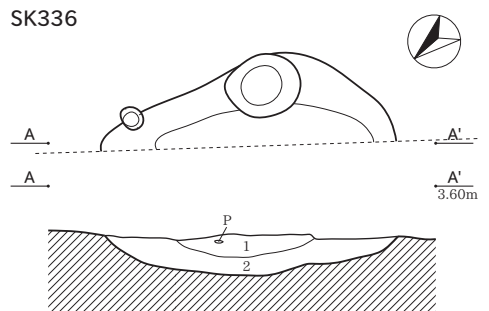
SK242
1 にぶい黄橙色シルト (10YR7/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。
2 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。
3 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。



SK277
1 灰黄褐色シルト (10YR5/2)
粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。

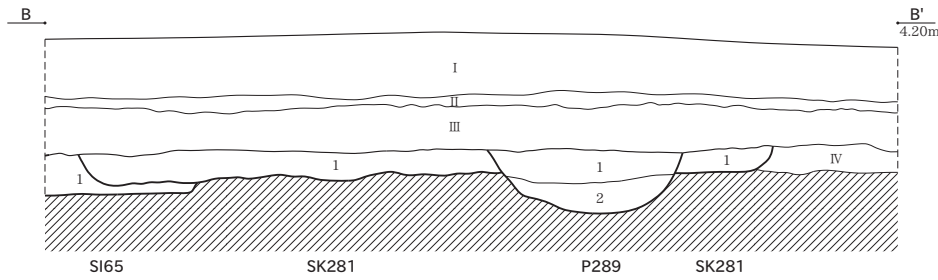
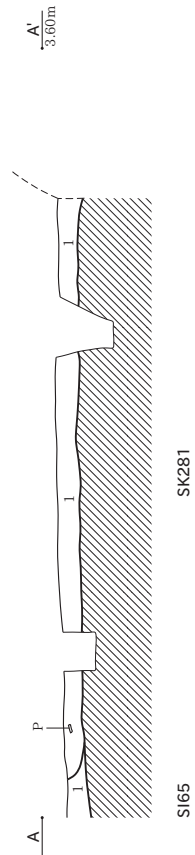
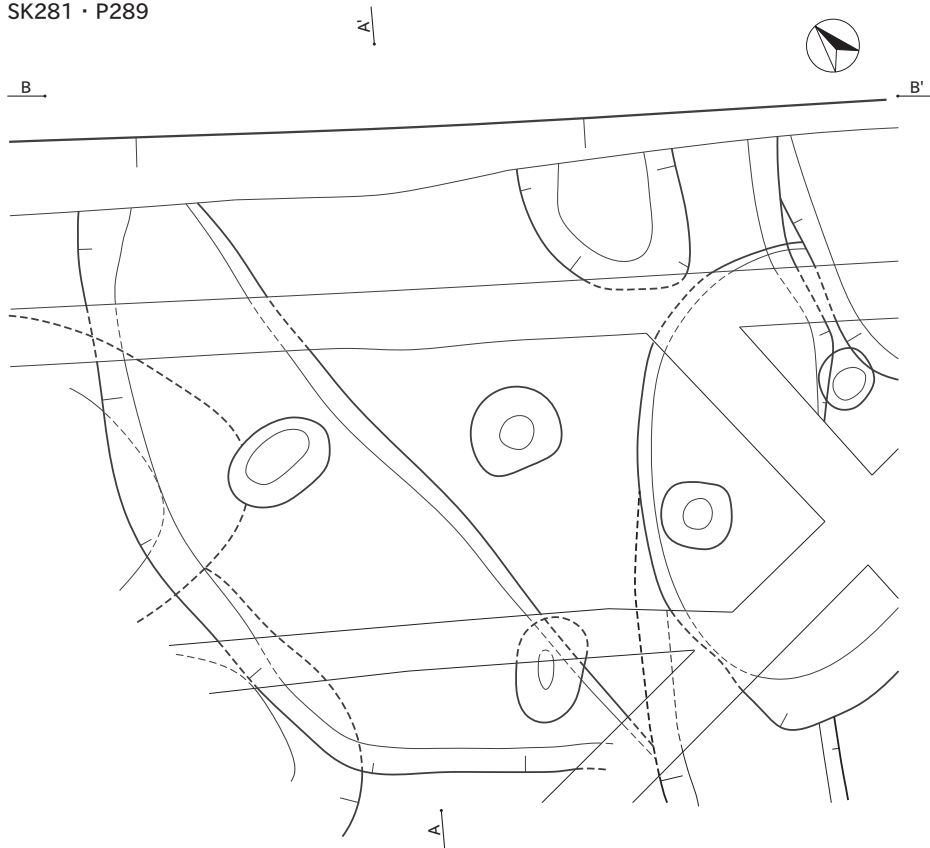


SK292
1 褐灰色シルト (10YR4/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。



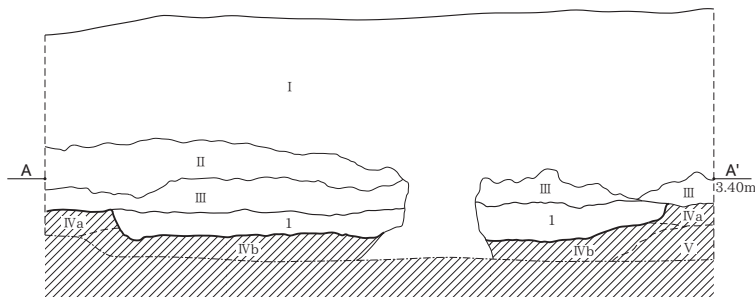
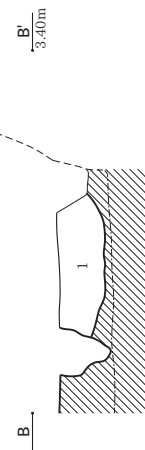
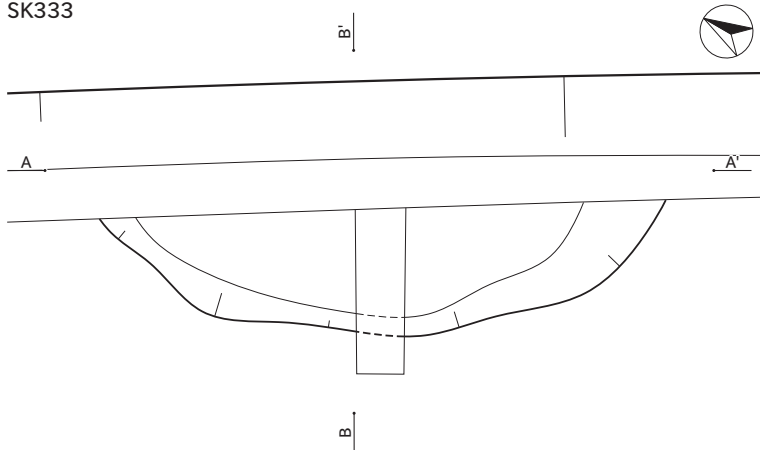
SK336
1 褐灰色シルト (10YR4/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物・焼土を少量含む。
2 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性あり、しまりあり。

SK281・P289



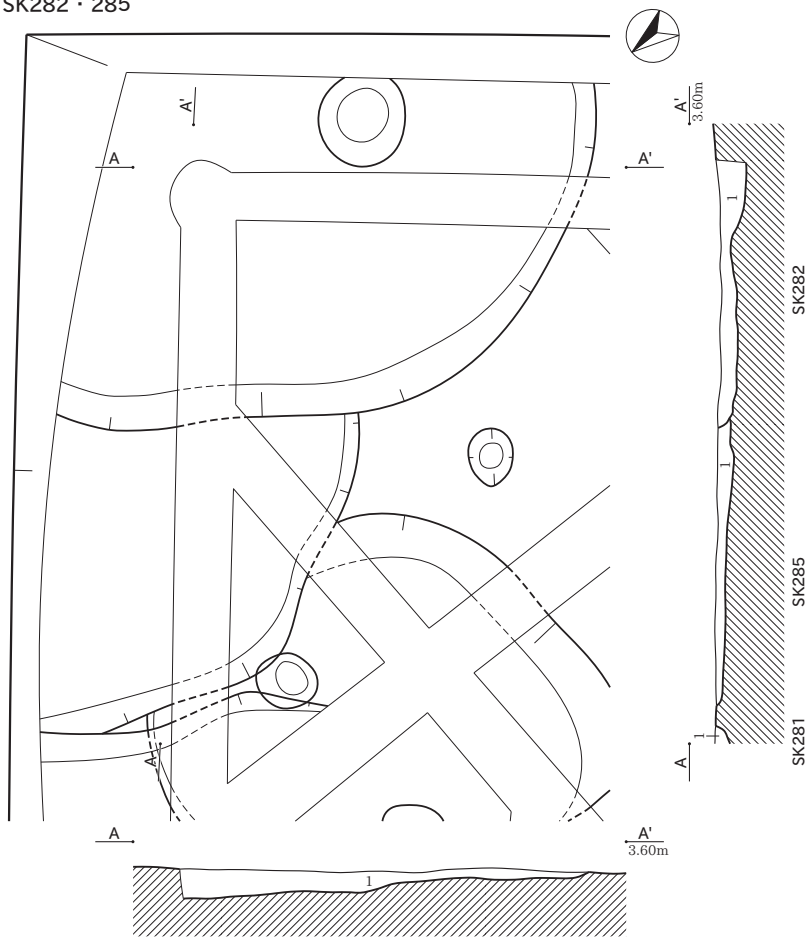
- SK281**
1 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。
- SI65**
1 暗褐色シルト (10YR3/3) 粘性あり、しまりあり、炭化物を含む。
- P289**
1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。
2 にぶい黄褐色シルト (10YR6/3) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。

SK333



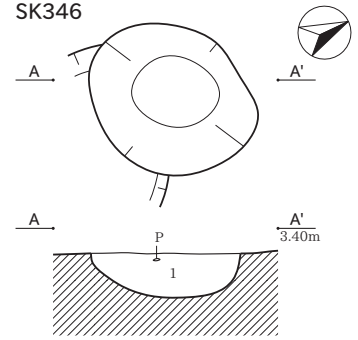
- SK333**
1 暗灰黄色粘質シルト (2.5Y4/2) 粘性ややあり、しまりややあり、炭化物φ2~5mmを少量含む。カリカリしている酸化鉄を多量含む。粘土を中量含む。

SK282・285



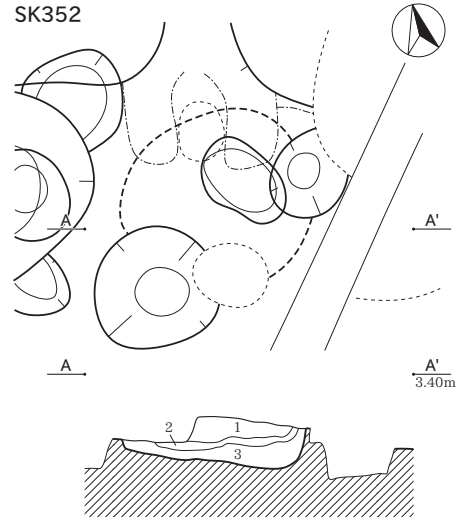
SK282
1 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。
SK285
1 にぶい灰黄褐色シルト (10YR5/3) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。

SK346



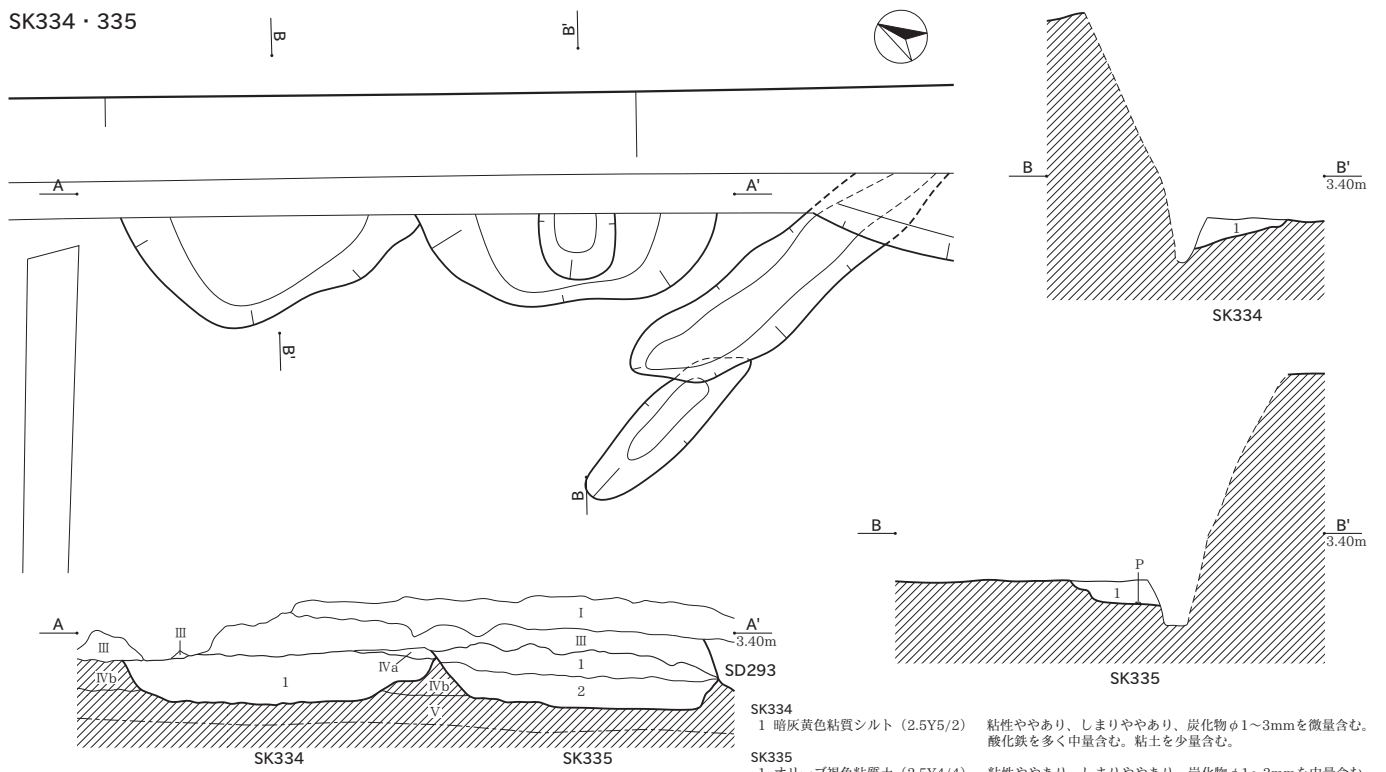
SK346
1 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。

SK352

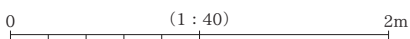


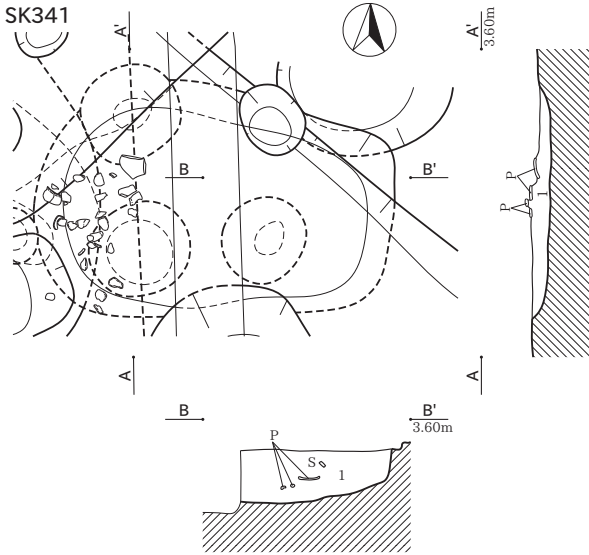
SK352
1 褐灰色シルト (10YR4/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物を含む。
2 黒色シルト (10YR2/1) 粘性ややあり、しまりややあり、炭化物を多量含む。
3 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物を含む。

SK334・335

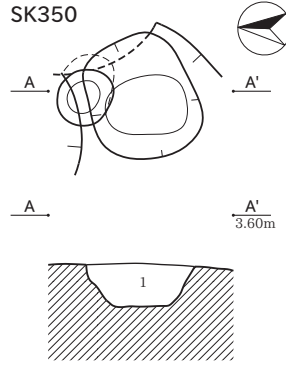


SK334
1 暗灰黄色粘質シルト (2.5Y5/2) 粘性ややあり、しまりややあり、炭化物φ1~3mmを微量含む。酸化鉄を多く中量含む。粘土を少量含む。
SK335
1 オリーブ褐色粘質土 (2.5Y4/4) 粘性ややあり、しまりややあり、炭化物φ1~3mmを中量含む。酸化鉄を中量含む。粘土を少量含む。
2 暗灰黄色粘質シルト (2.5Y4/2) 粘性ややなし、しまりなし、炭化物φ1~3mmを少量含む。粘土を微量含む。

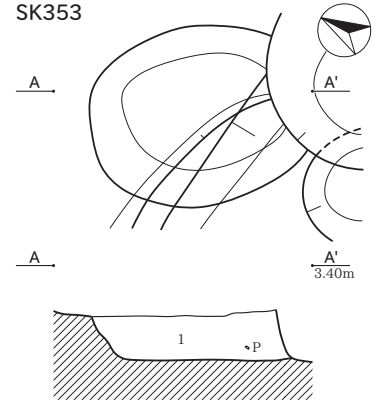




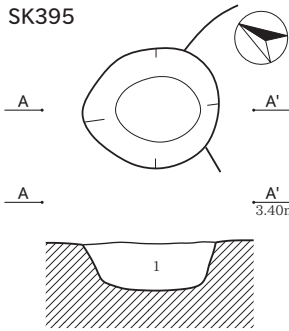
SK341
1 にぶい黄褐色シルト (10YR5/3) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。



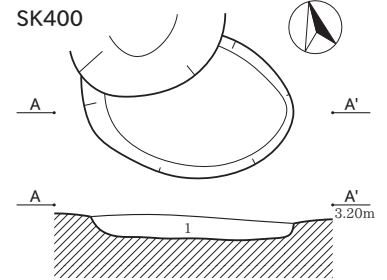
SK350
1 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。



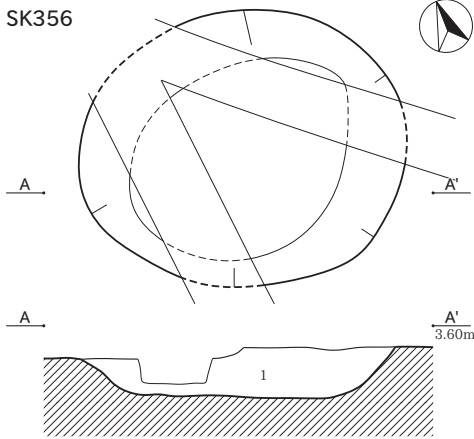
SK353
1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。



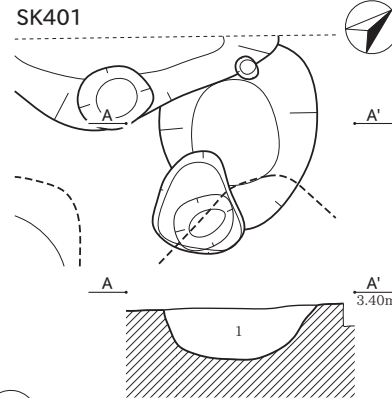
SK395
1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。



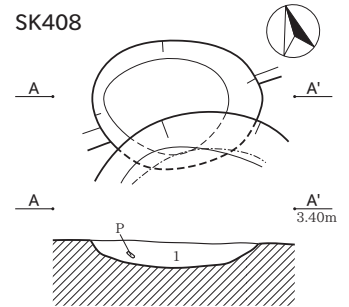
SK400
1 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。



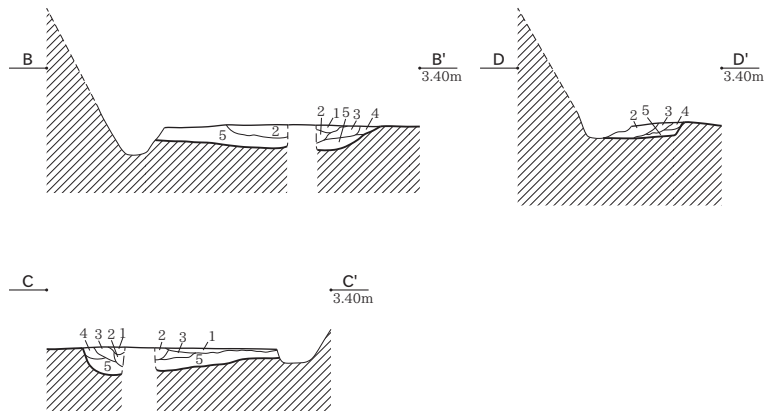
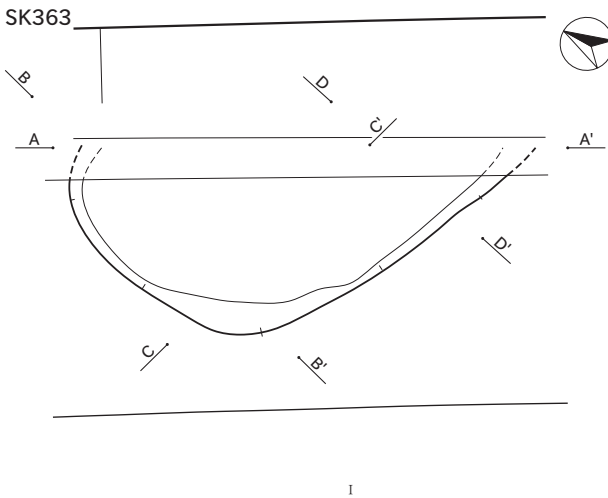
SK356
1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。



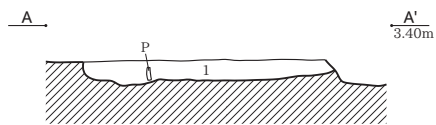
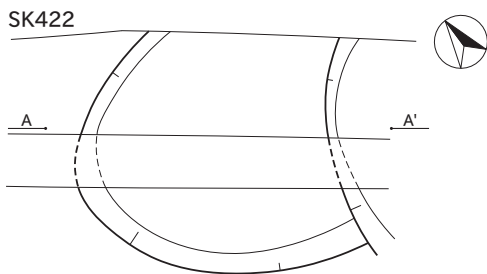
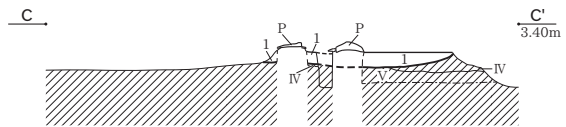
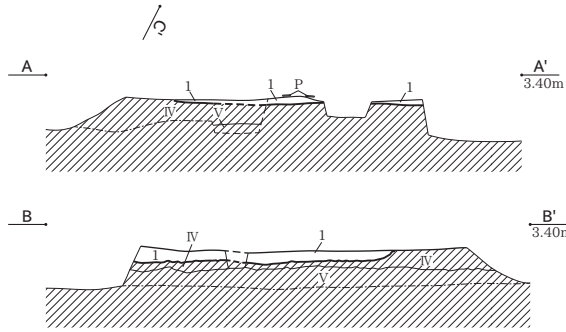
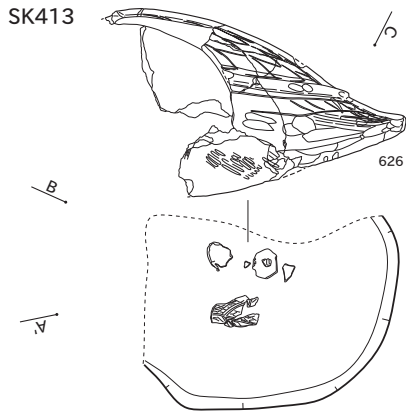
SK401
1 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物・焼土塊を少量含む。



SK408
1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

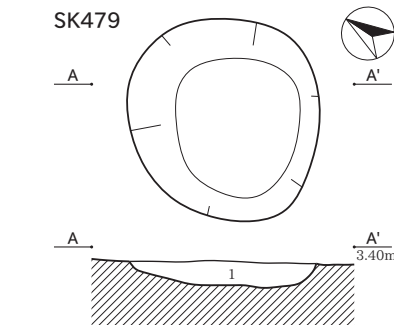


SK363
1 オリーブ褐色粘質シルト (2.5Y4/3) 粘性ややあり、しまりややなし、炭化物φ1~2mmをごく微量含む。酸化鉄を微量含む。
2 オリーブ黒色粘質土 (5Y2/2) 粘性なし、しまりあり、褐色 (7.5YR4/4) 焼土をブロック状に多量含む。炭層。
3 黒褐色粘質シルト (2.5Y3/2) 粘性ややなし、しまりややあり、炭化物φ5~10mmを多量含む。炭層。
4 黒褐色粘質土 (2.5Y3/2) 粘性ややあり、しまりややあり、炭化物φ1~2mmを少量含む。
5 オリーブ黒色粘質シルト (5Y3/2) 粘性ややなし、しまりあり、炭化物φ10mm大を微量含む。酸化鉄を多く含む。カリカリしている。



SK422

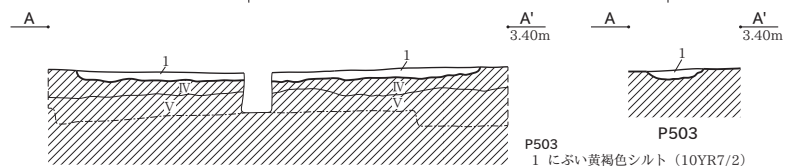
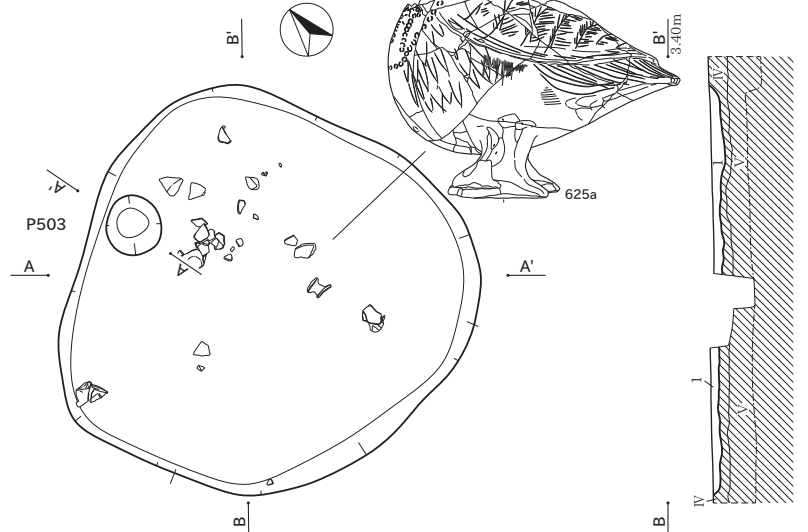
1 にぶい黄褐色シルト (10YR6/3) 粘性あり、しまりあり、炭化物を含む。



SK479

1 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。

SK418・P503



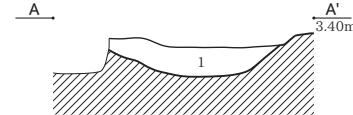
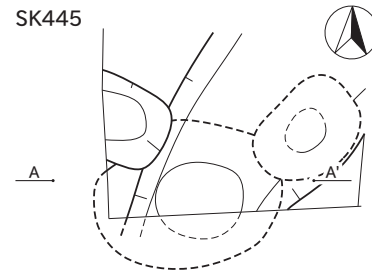
SK418

1 にぶい黄褐色粘質シルト (10YR5/4) 粘性ややなし、しまりややなし、褐色粒子を中量含む。II層含む。

P503

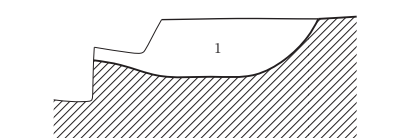
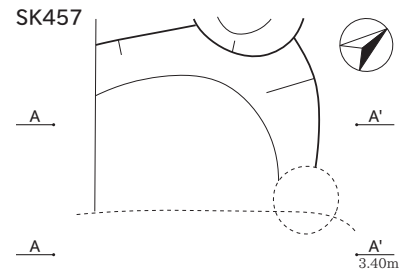
1 にぶい黄褐色シルト (10YR7/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物少量含む。

実測図
0 (1:8) 10cm



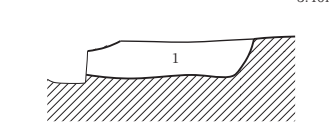
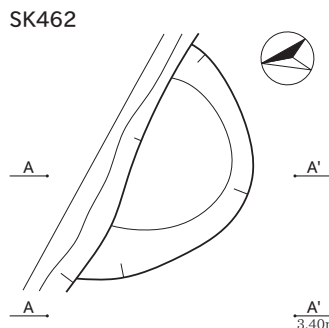
SK445

1 暗褐色シルト (10YR3/3) 粘性あり、しまりあり、炭化物を含む。



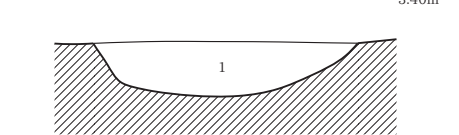
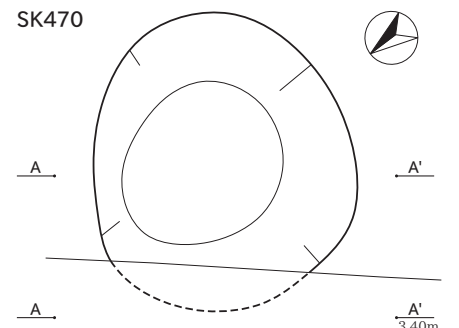
SK457

1 暗褐色シルト (10YR3/3) 粘性あり、しまりあり、炭化物を含む。



SK462

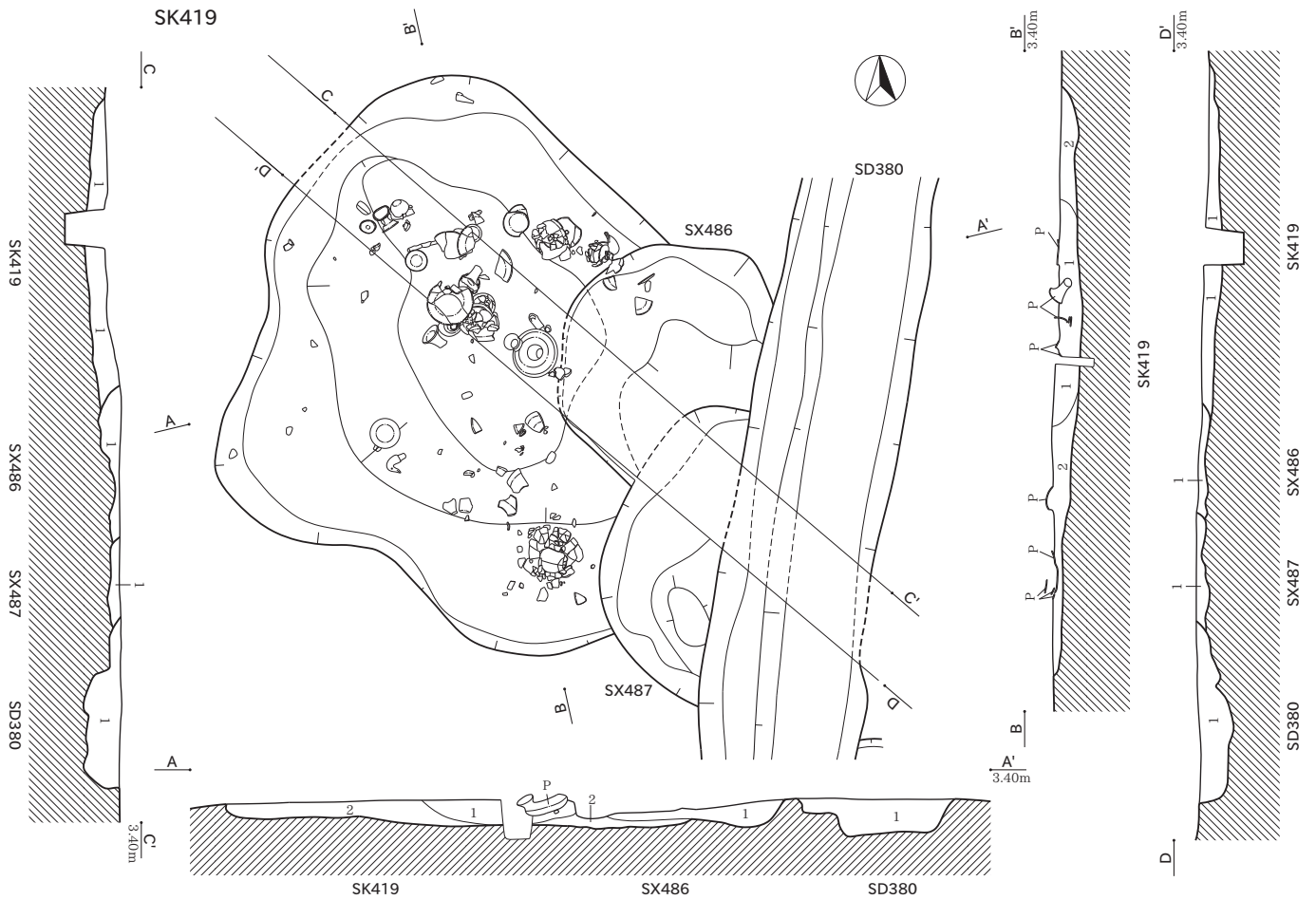
1 暗褐色シルト (10YR3/3) 粘性あり、しまりあり、炭化物を含む。



SK470

1 暗褐色シルト (10YR3/3) 粘性あり、しまりあり、炭化物を含む。

0 (1:40) 2m

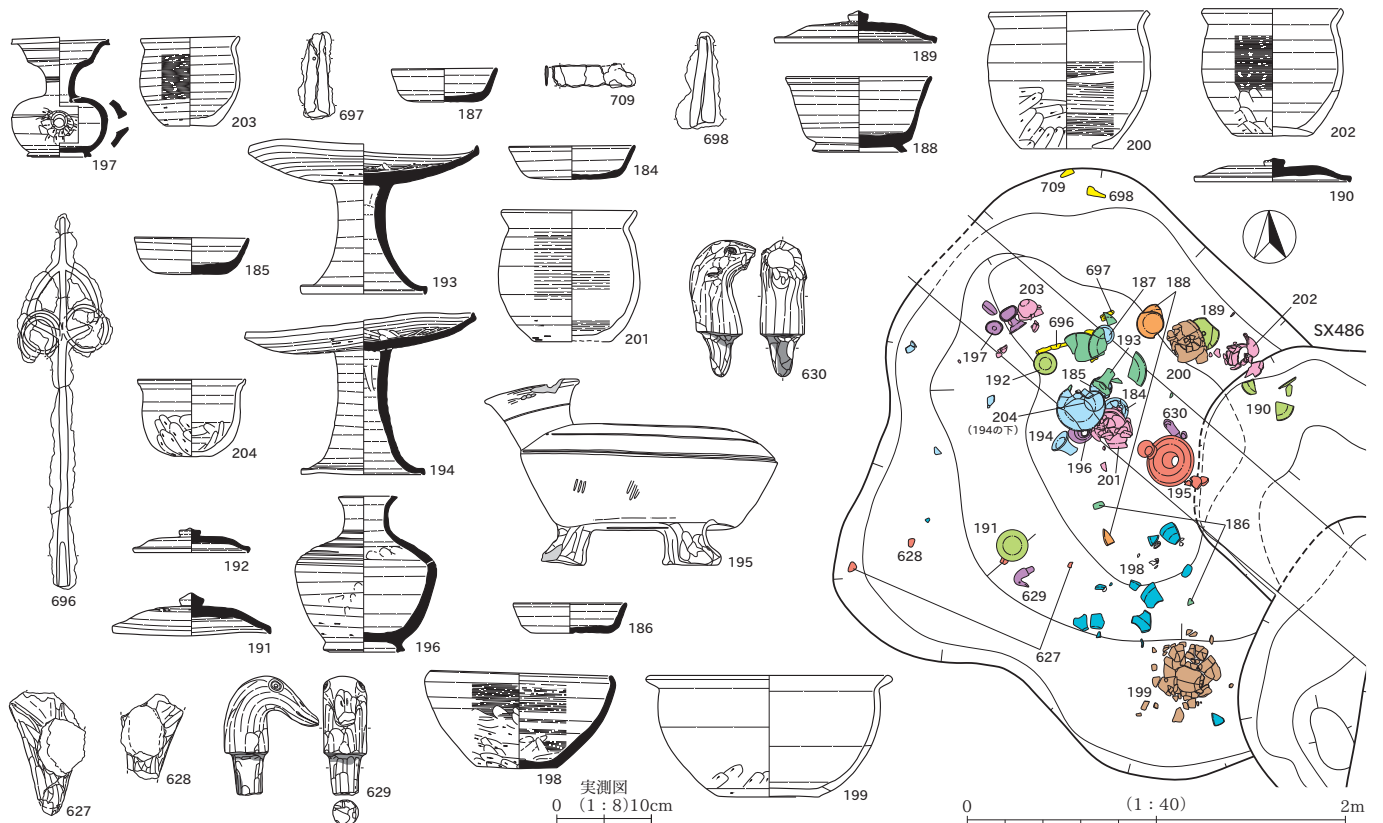


SK419
 1 褐色粘質シルト (10YR4/4) 粘性ややあり、しまりややあり、サビ(褐色粒子)を微量含む。II層黒色粒子を微量含む。
 2 にぶい黄褐色粘土質シルト (10YR5/4) 粘性ややあり、しまりややあり、炭化物を下層(底面)に含む。

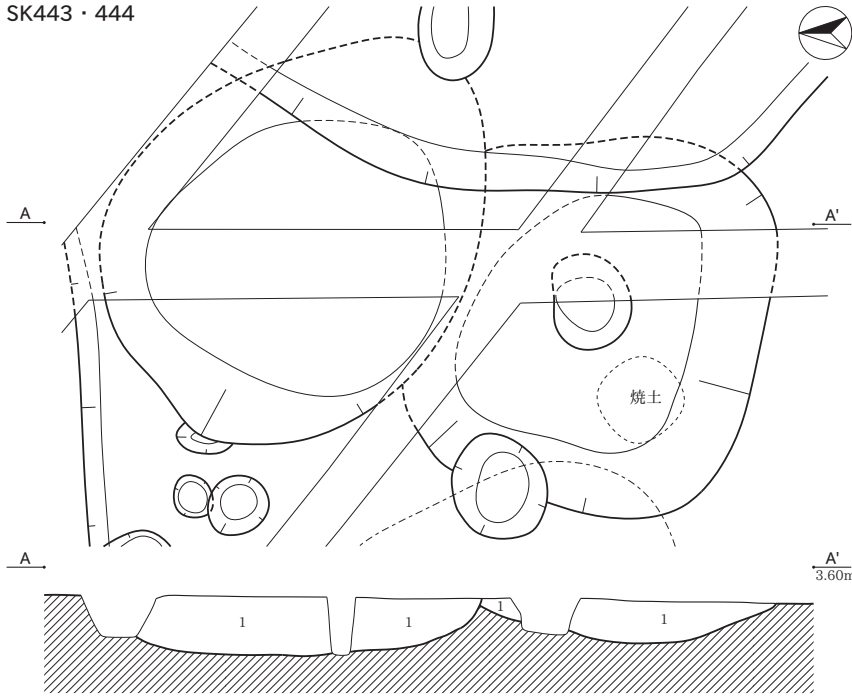
SX486
 1 暗灰黄色シルト (2.5Y4/2) 粘性なし、しまりややあり、炭化物をごく微量含む。II層(暗オリーブ褐色2.5Y3/3)を多量に含む。灰褐色シルトを多量に含む。黄褐色(2.5Y5/3)シルトがマール状に堆積。褐色粒子を多量に含む。
 2 灰オリーブ色粘土質シルト (5Y5/2) 粘性ややあり、しまりややあり、炭化物を少量含む。II層をマール状に含む。

SX487
 1 黄褐色シルト (2.5Y5/3) 粘性なし、しまりややあり、炭化物をごく微量含む。II層(暗オリーブ褐色2.5Y3/3粘質シルト)がブロック状に含まれる。褐色粒子が多量に含まれる。

SD380
 1 暗オリーブ褐色粘質シルト (2.5Y3/3) 粘性ややあり、しまりなし、オリーブ黒色(5Y3/2)粘質土をブロック状に中量含む。炭化物をごく微量含む(下層)。



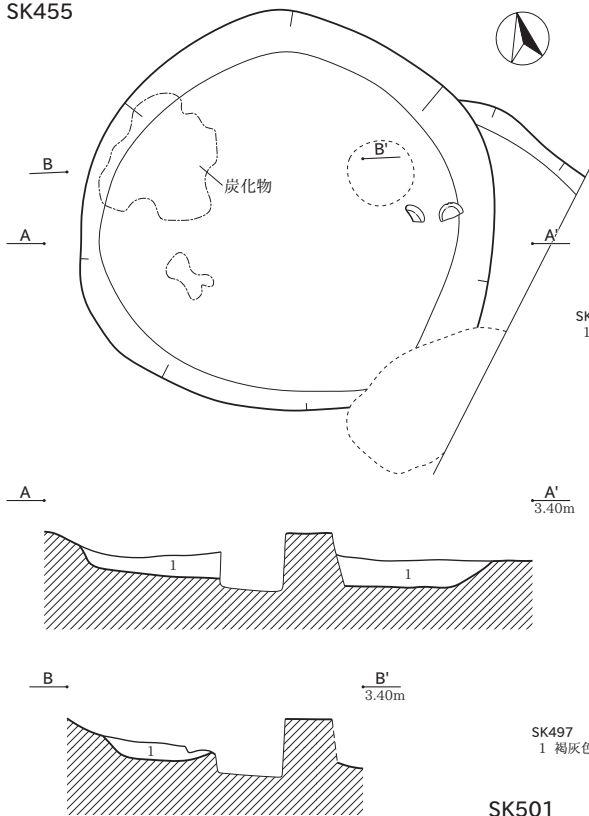
SK443・444



SK443
1 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。

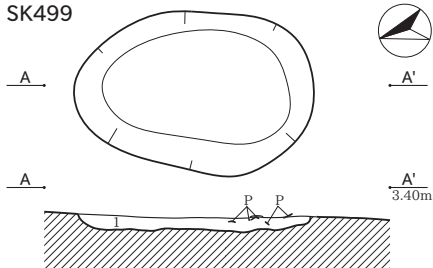
SK444
1 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性あり、しまりあり。

SK455



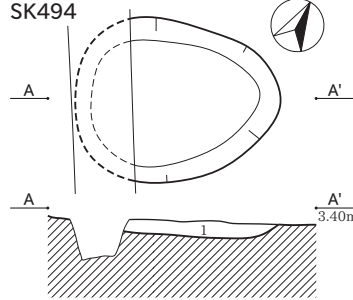
SK455
1 褐灰色シルト (10YR4/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物・焼土を多量含む。

SK499



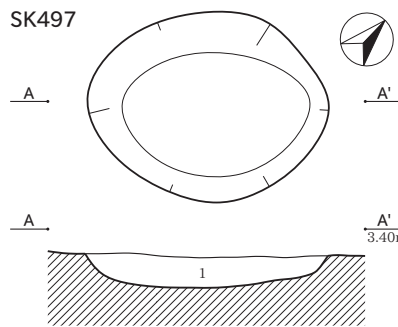
SK499
1 黄褐色粘質土 (10YR5/6) 粘性あり、しまりやなし、褐色粒子・黒色粒子を中量含む。

SK494



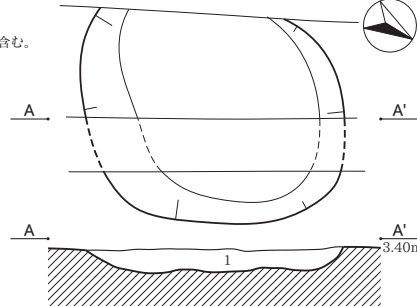
SK494
1 にぶい黄橙色シルト (10YR7/3) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SK497



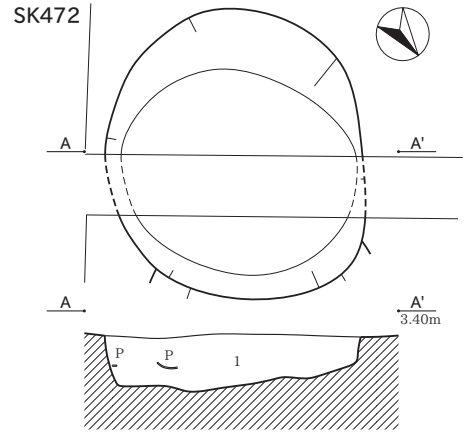
SK497
1 褐灰色シルト (10YR6/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物・地山ブロックを少量含む。

SK501



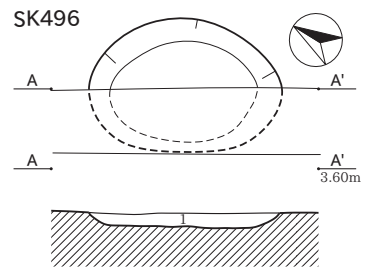
SK501
1 にぶい黄橙色シルト (10YR7/3) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SK472



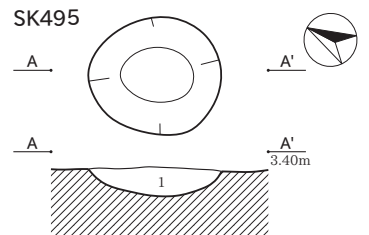
SK472
1 褐灰色シルト (10YR4/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物を含む。

SK496



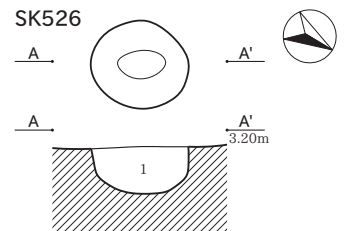
SK496
1 にぶい黄橙色シルト (10YR7/3) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SK495



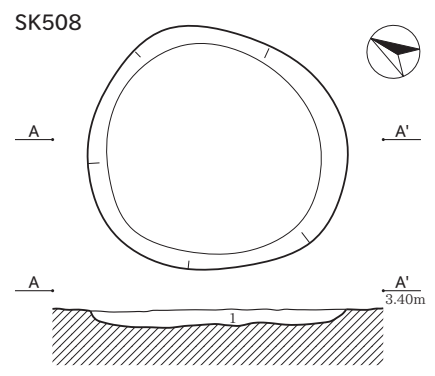
SK495
1 にぶい黄橙色シルト (10YR7/3) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SK526



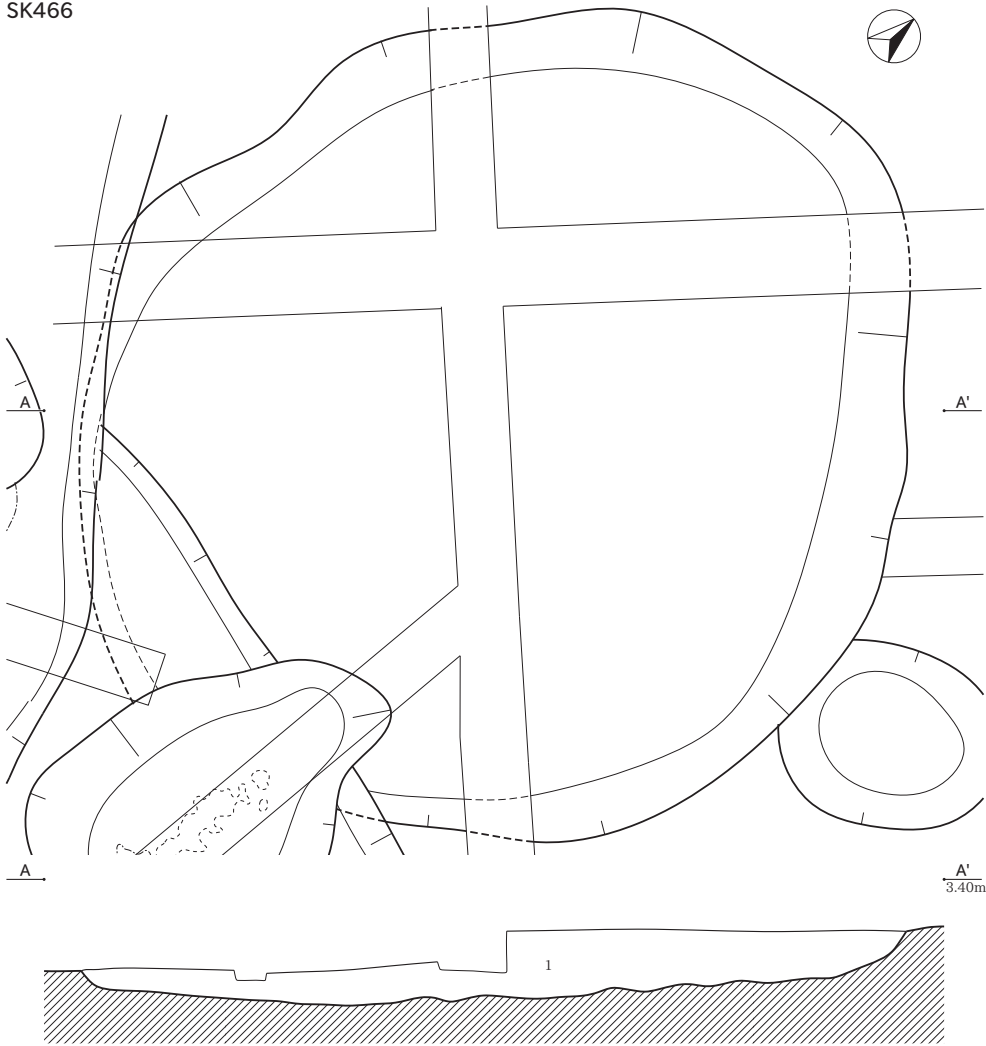
SK526
1 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SK508



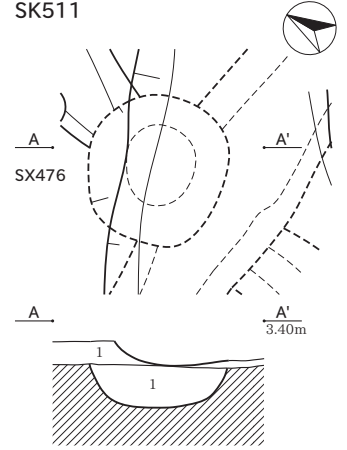
SK508
1 にぶい黄橙色シルト (10YR6/3) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SK466



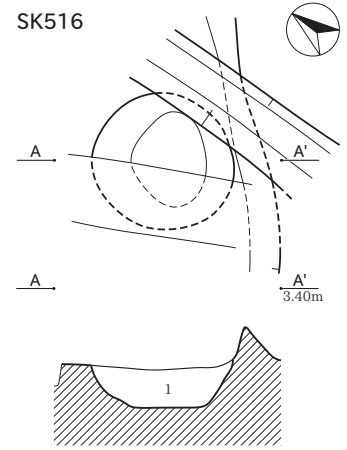
SK466
1 暗褐色シルト (10YR3/3) 粘性あり、しまりあり、炭化物を含む。

SK511



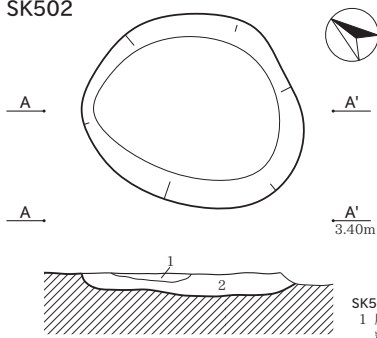
SX476 SK511
SK511
1 にぶい黄褐色シルト (10YR7/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。
SX476
1 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。

SK516



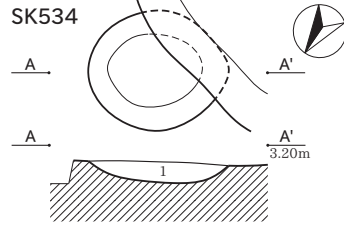
SK516
1 にぶい黄褐色シルト (10YR7/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SK502



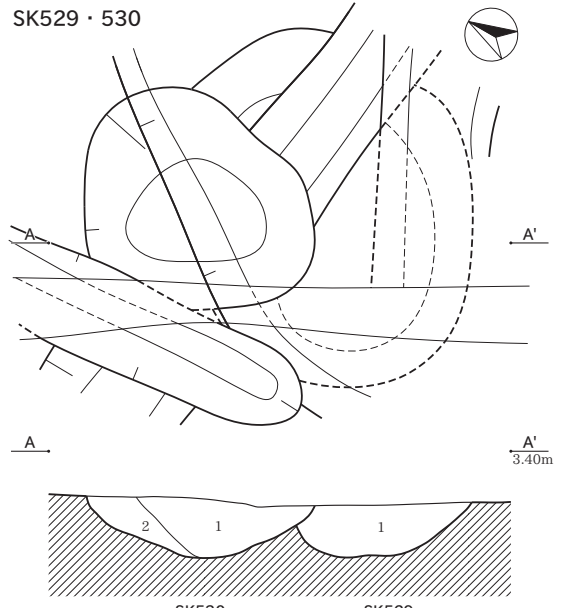
SK502
1 灰褐色シルト (7.5YR5/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。
2 にぶい黄褐色シルト (10YR7/3) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SK534



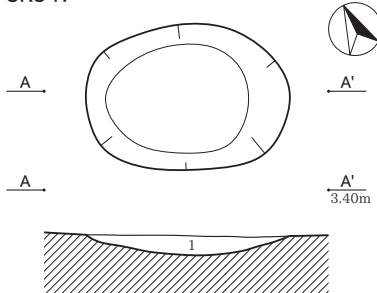
SK534
1 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SK529・530



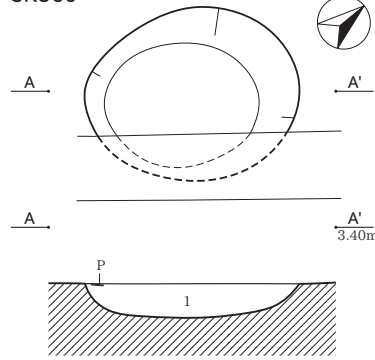
SK529
1 にぶい黄褐色シルト (10YR7/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。
SK530
1 褐灰色シルト (10YR4/1) 粘性あり、しまりあり、褐灰色シルトブロックを多量含む。
2 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SK547



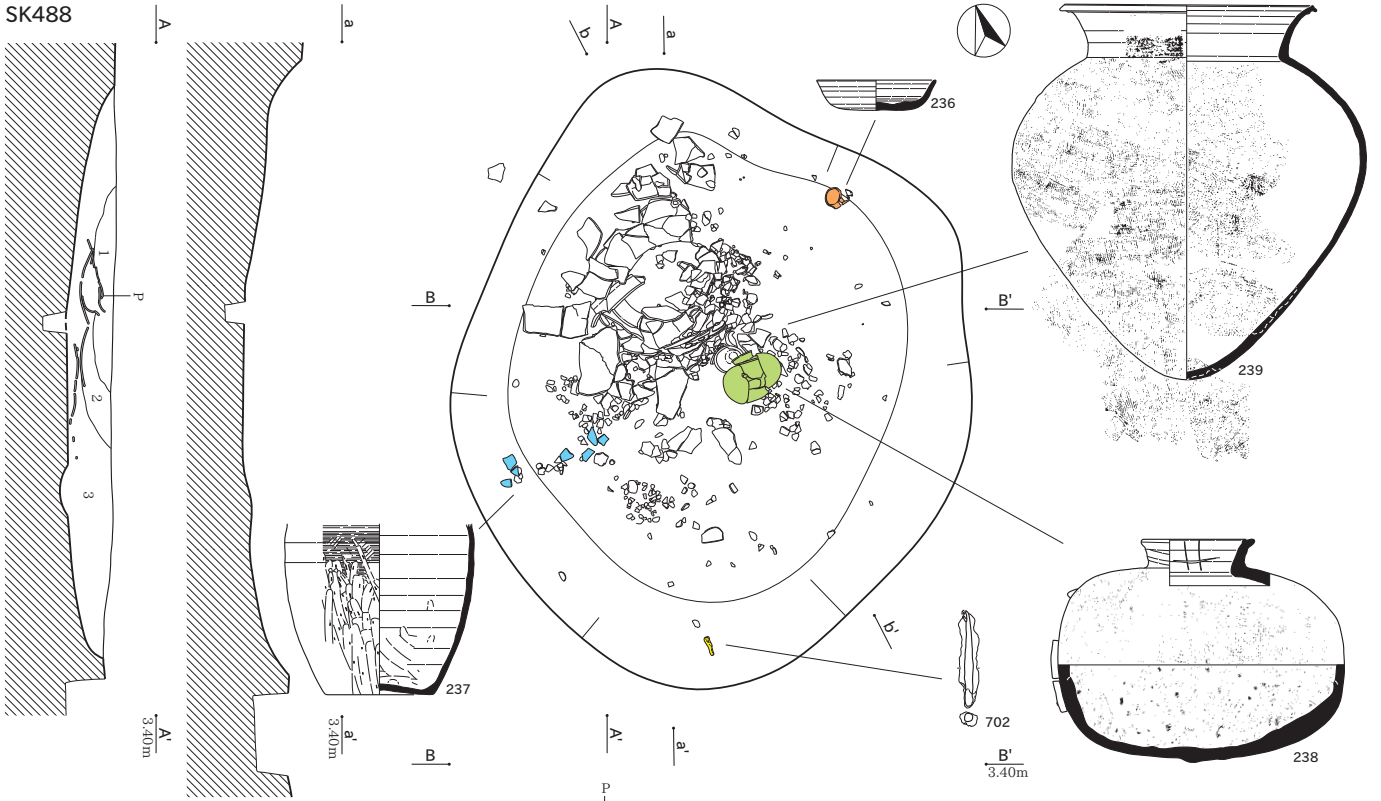
SK547
1 にぶい黄褐色シルト (10YR6/3) 粘性あり、しまりあり。

SK560



SK560
1 にぶい黄褐色シルト (10YR7/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

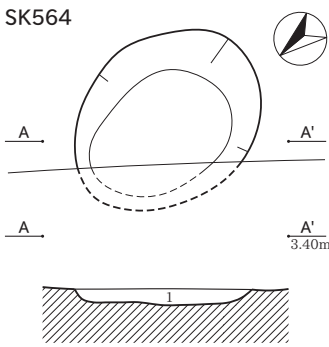
SK488



SK488

- 1 灰白色粘質シルト (7.5YR8/1) しまり強い。褐色 (7.5YR6/1) ~ 灰白色 (7.5YR8/1) 粘土がパイプ状に入る (以下3層まで同じ)。
- 2 灰白色粘質シルト (7.5YR8/1) しまり強いが、1層より劣る。
- 3 灰白色粘質シルト (7.5YR8/1) しまりをもつが、2層より劣る。

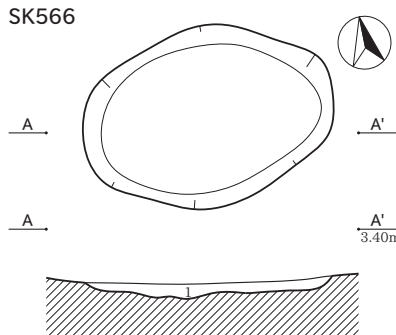
SK564



SK564

- 1 にぶい黄褐色シルト (10YR7/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

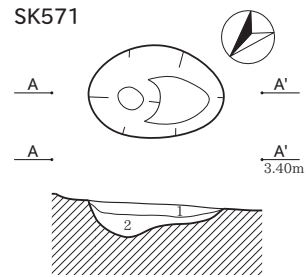
SK566



SK566

- 1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。

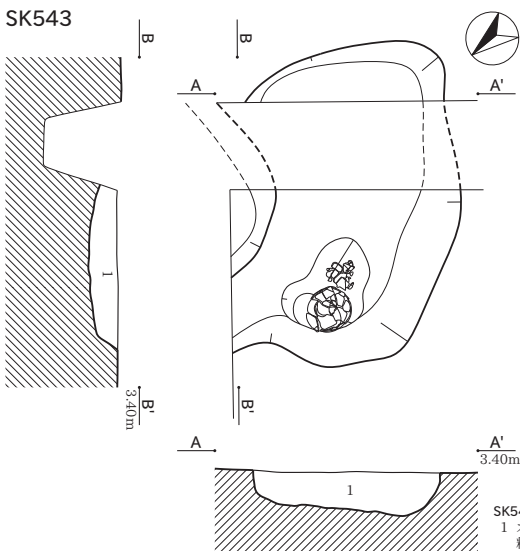
SK571



SK571

- 1 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。
- 2 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

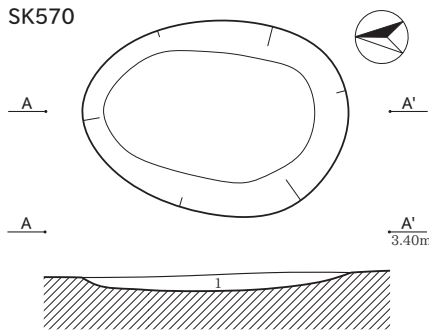
SK543



SK543

- 1 オリーブ褐色粘質シルト (2.5Y4/4) 粘性やなし、しまりややあり、サビ (褐色粒子) を中量含む。

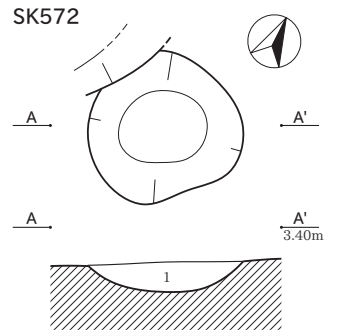
SK570



SK570

- 1 にぶい黄褐色シルト (10YR7/3) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SK572



SK572

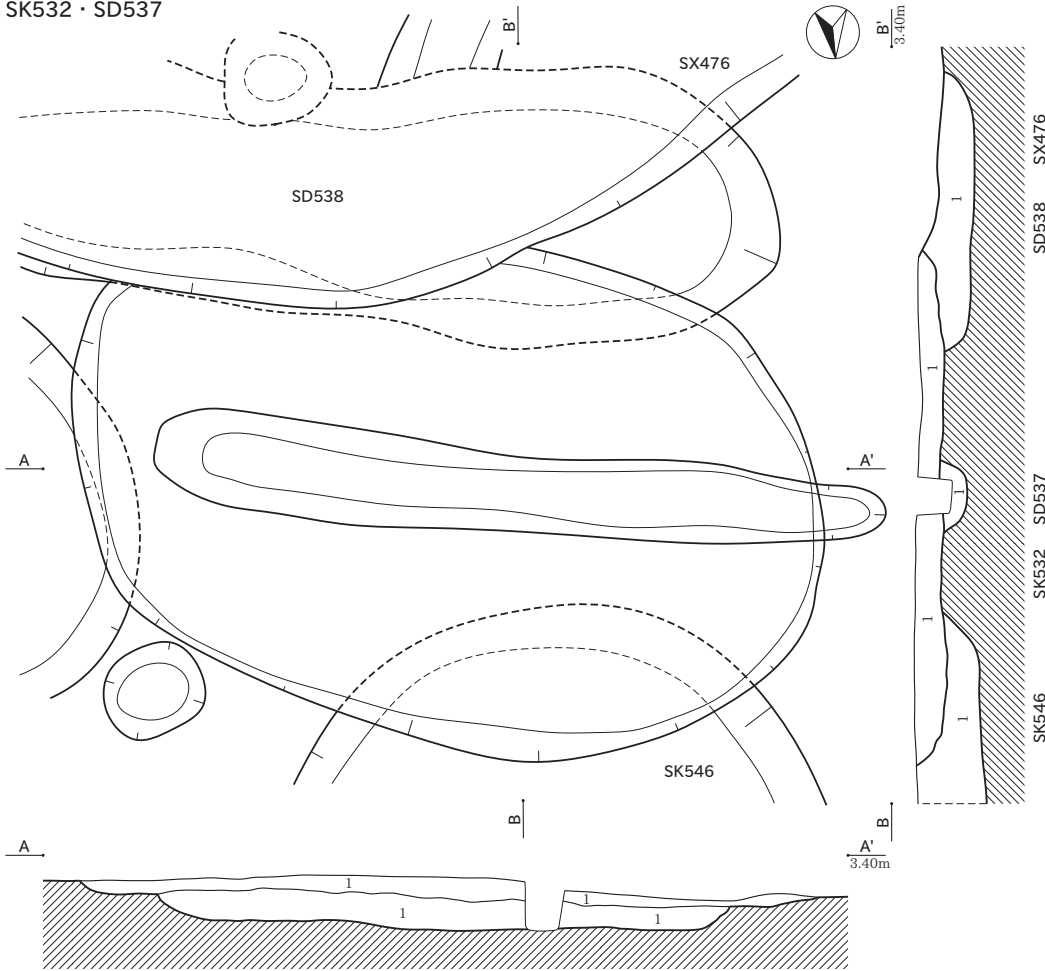
- 1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

実測図 (236~238・702) 0 (1:8) 10cm

実測図 (239) 0 (1:16) 20cm

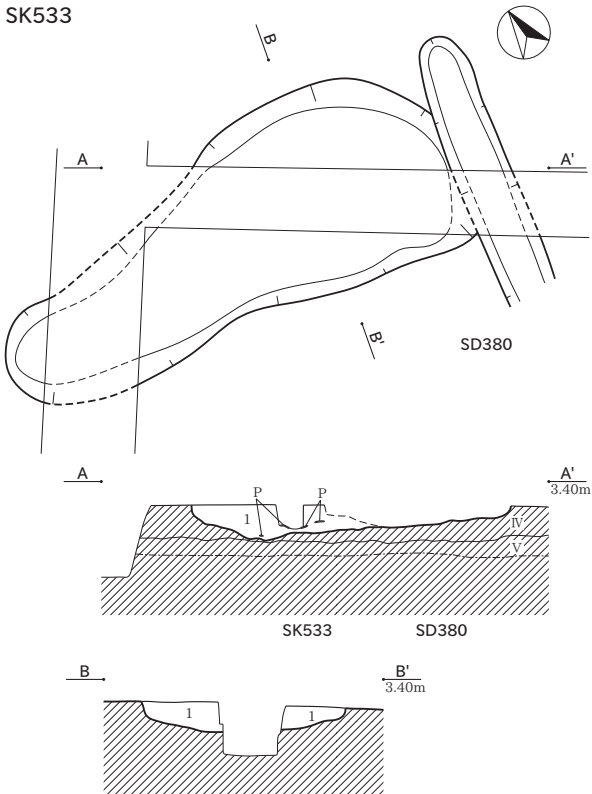
0 (1:40) 2m

SK532・SD537



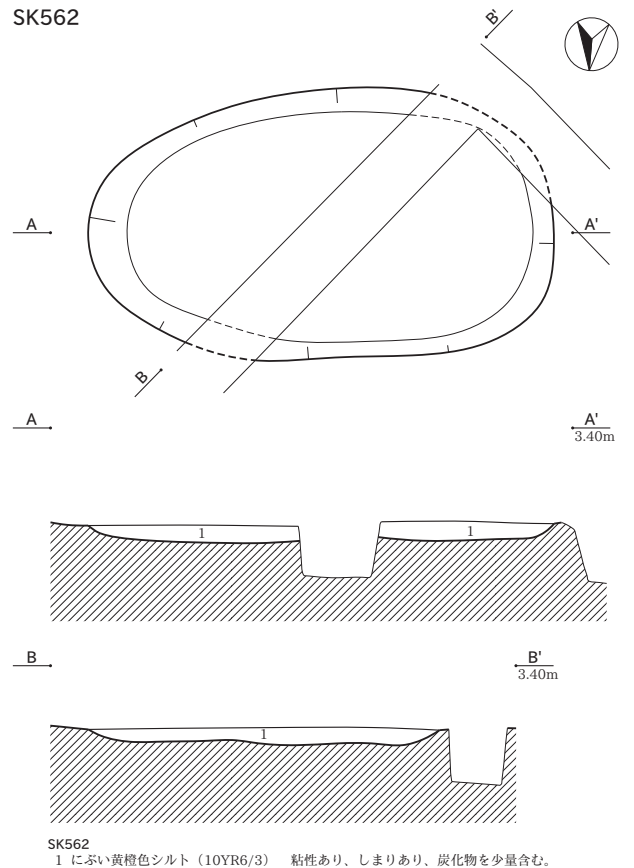
- SK532
1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。
- SD537
1 灰褐色シルト (7.5YR5/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物・焼土塊を多量含む。
- SD538
1 褐色シルト (10YR6/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。

SK533



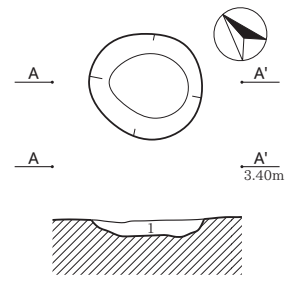
- SK533
1 にぶい黄褐色粘土質シルト (10YR5/4) 粘性ややあり、しまりややあり、II層含む。サビ(褐色粒子)を微量含む。

SK562



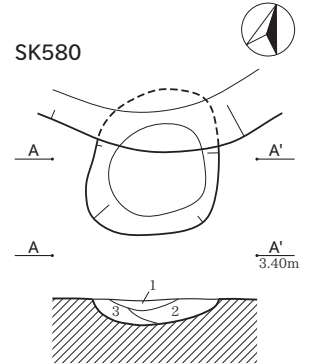
- SK562
1 にぶい黄褐色シルト (10YR6/3) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SK576



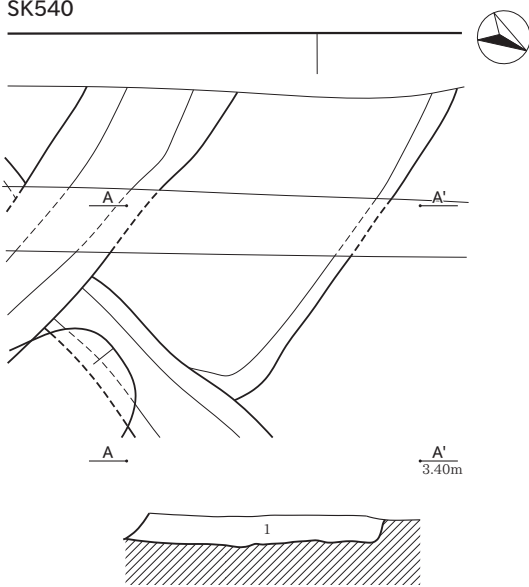
- SK576
1 褐色粘質土 (7.5YR4/6) 灰褐色粘質土 (7.5YR5/2) 粘性あり、しまりややあり、褐色 (7.5YR4/6) 粘土がまだらに混じる。褐色粒子をごく微量含む。

SK580



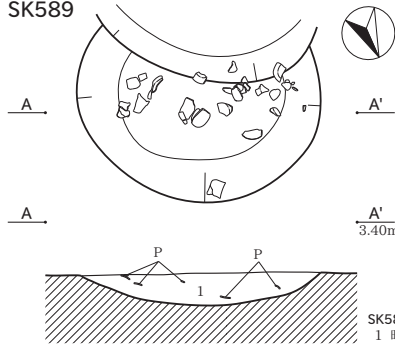
- SK580
1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。
2 灰褐色シルト (10YR5/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量、焼土塊を少量含む。
3 にぶい黄褐色シルト (10YR6/3) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SK540



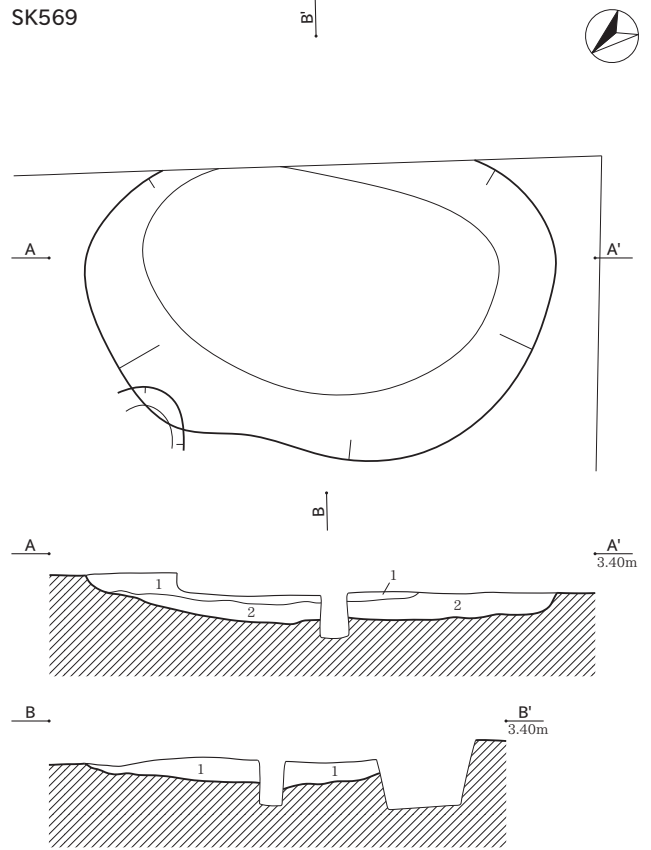
SK540
1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SK589



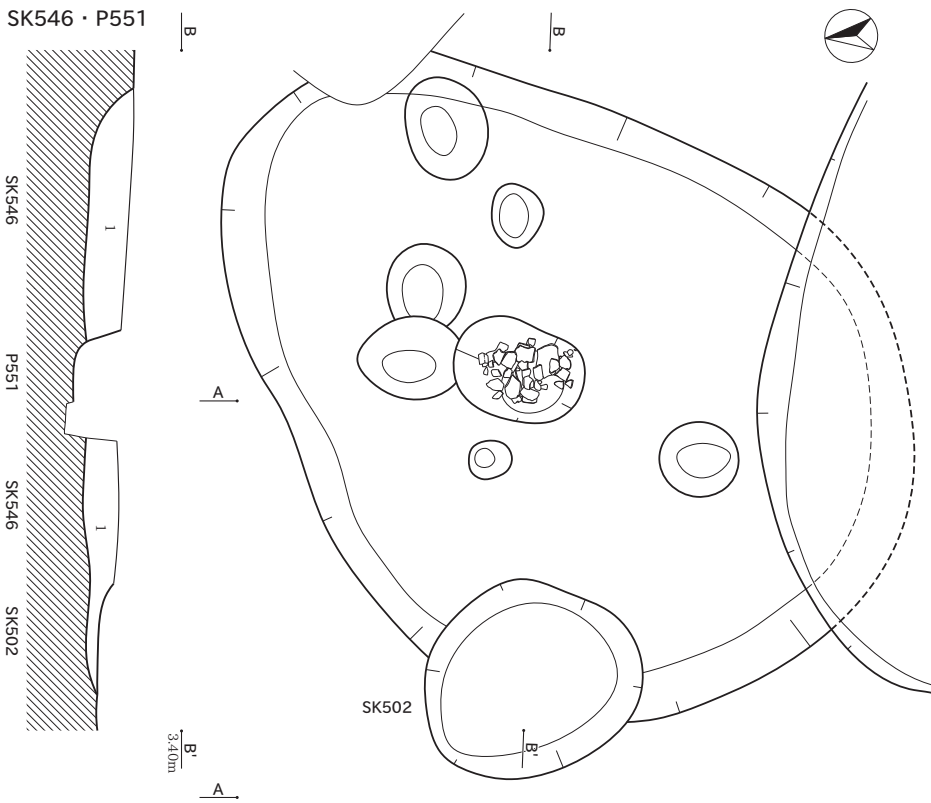
SK589
1 暗褐色シルト (10YR3/3) 粘性あり、しまりあり、炭化物を含む。

SK569



SK569
1 灰白色粘質シルト (7.5YR8/1~8/2) 炭化物φ1~5mmを比較的多く含む。マンガングリ子φ1~2mmを含む。
2 灰白色粘質シルト (7.5YR8/1~8/2) 炭化物を微量含む。マンガングリ子φ1~2mmを含む。

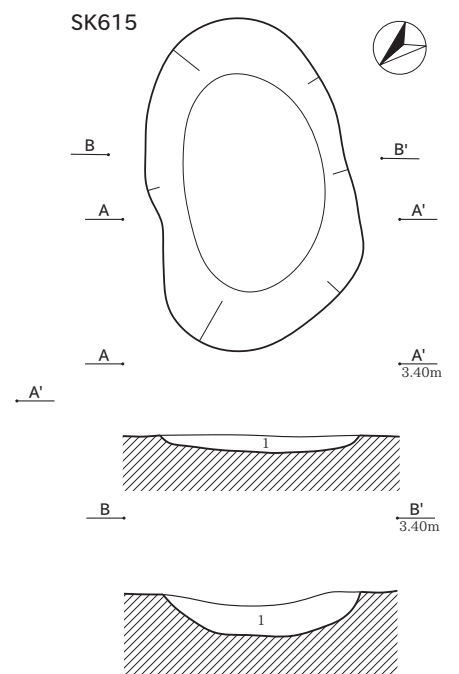
SK546・P551



SK546
1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。

P551
1 褐灰色シルト (10YR4/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。

SK615

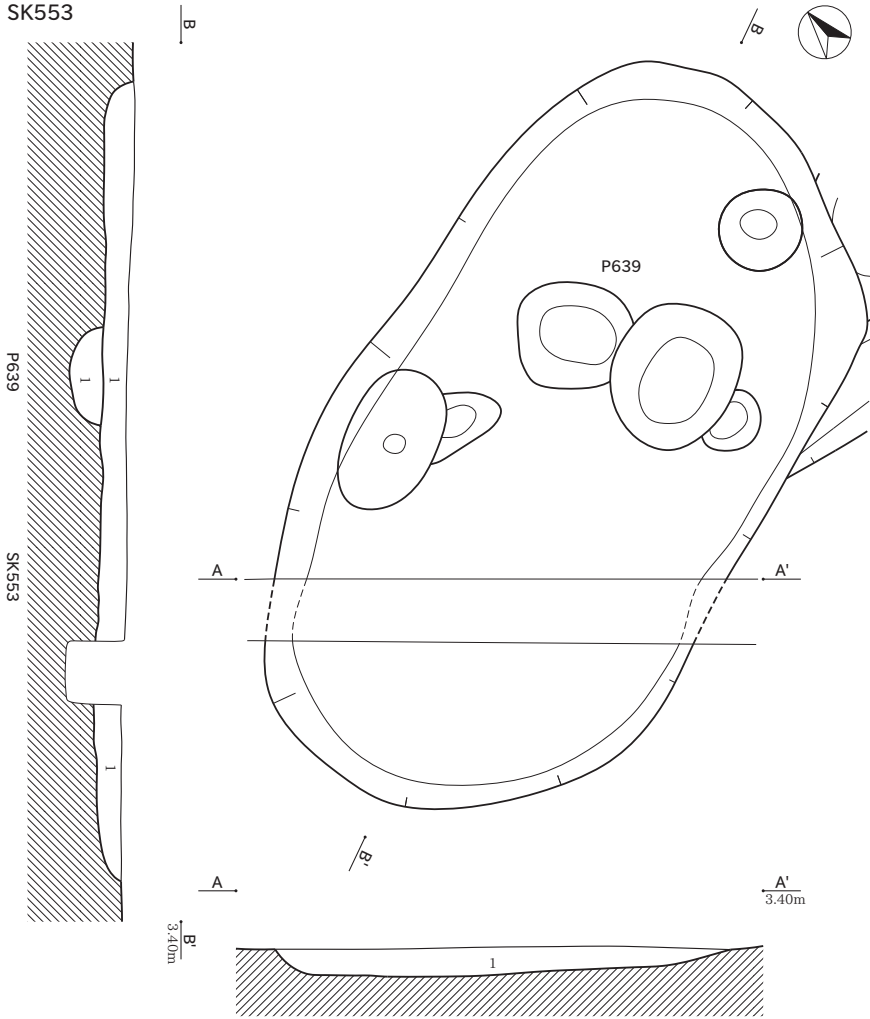


SK615
1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

3.40m

0 (1:40) 2m

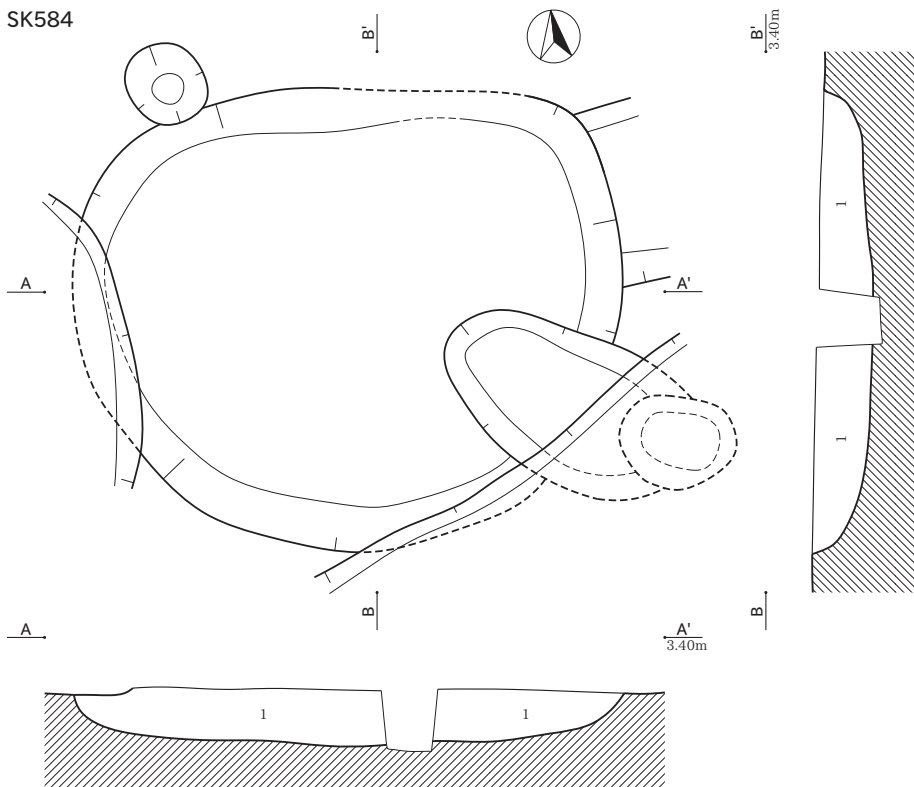
SK553



SK553
1 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。

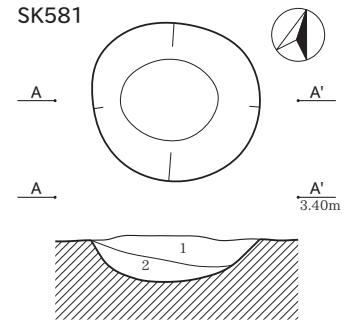
P639
1 褐灰色シルト (10YR6/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SK584



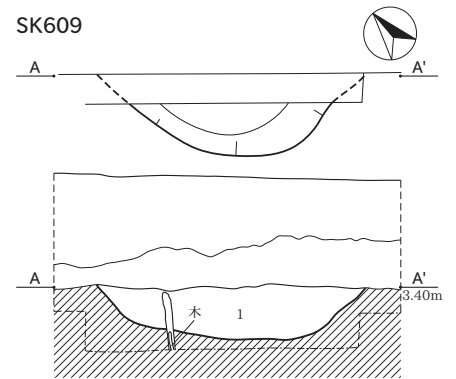
SK584
1 灰白色シルト (10YR7/1) 粘性強い、しまりあり、炭化物を多量含む。

SK581



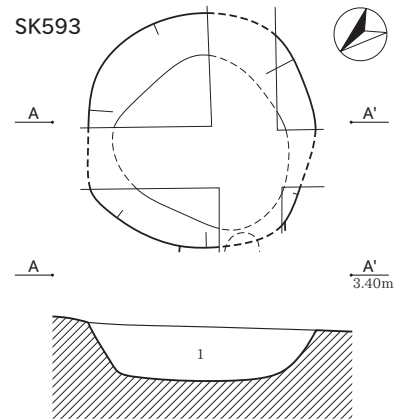
SK581
1 にぶい黄褐色シルト (10YR7/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。 焼土塊を少量含む。
2 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。 焼土塊を少量含む。

SK609



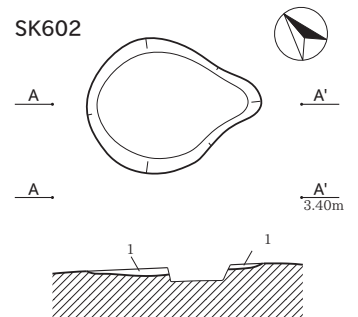
SK609
1 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。

SK593



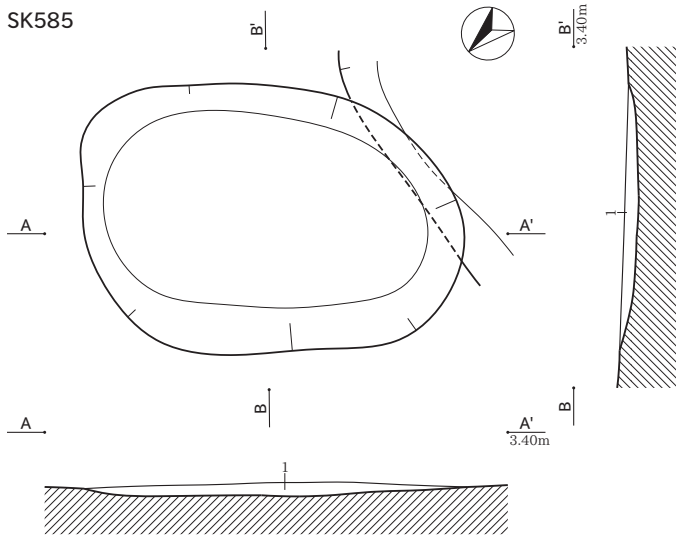
SK593
1 暗褐色シルト (10YR3/3) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。

SK602



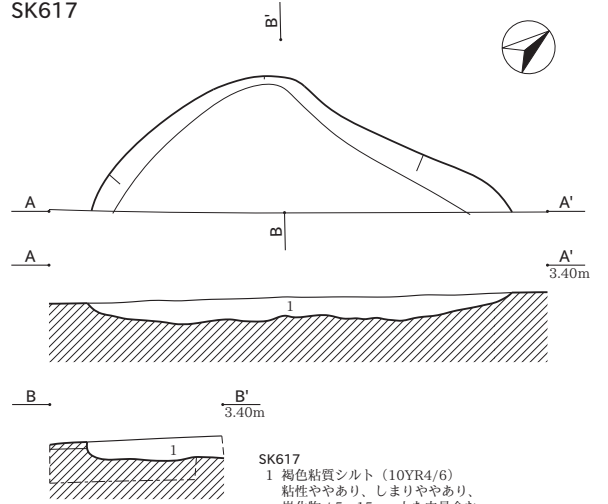
SK602
1 褐灰色シルト (10YR4/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物を含む。

SK585



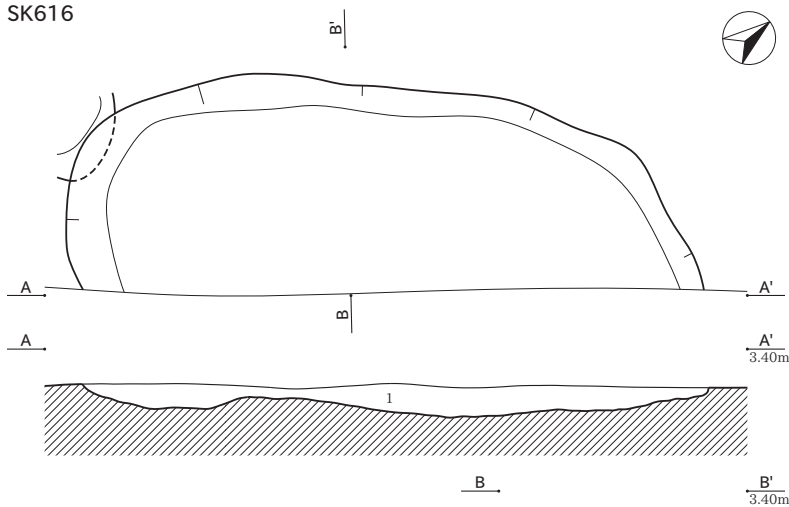
SK585
1 にぶい黄褐色シルト (10YR7/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SK617

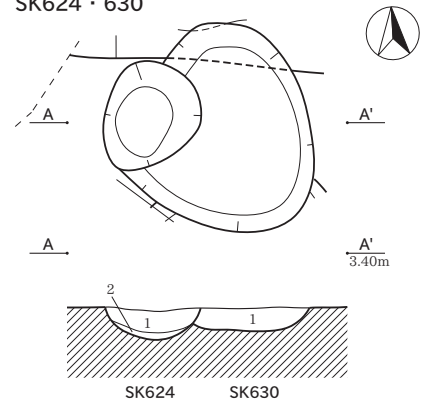


SK617
1 褐色粘質シルト (10YR4/6) 粘性ややあり、しまりややあり、炭化物φ5~15mm大を中量含む。

SK616



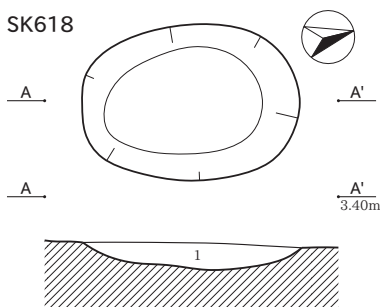
SK624・630



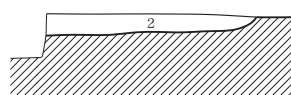
SK624
1 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。
2 にぶい黄褐色シルト (10YR7/3) 粘性あり。

SK630
1 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。

SK618

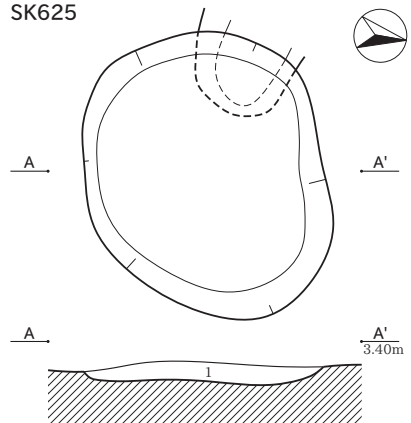


SK618
1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。



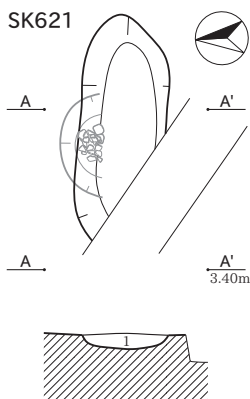
SK616
1 褐色粘質シルト (10YR4/6) 粘性ややなし、しまりややあり、炭化物φ5~15mmを中量含む。
2 にぶい黄褐色粘質シルト (10YR5/3) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ2mm大を少量含む。

SK625



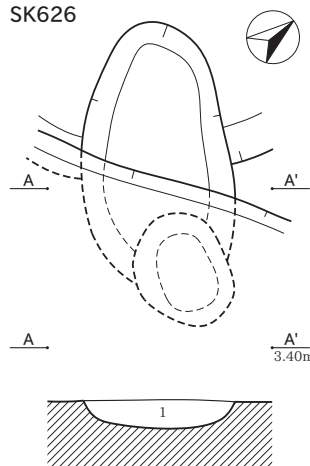
SK625
1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。

SK621



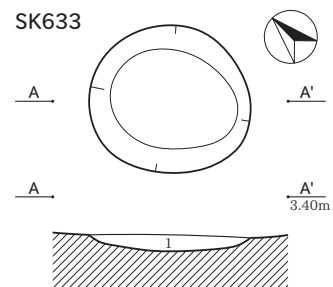
SK621
1 灰黄色シルト (2.5Y7/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ1~2mmを少量含む。

SK626

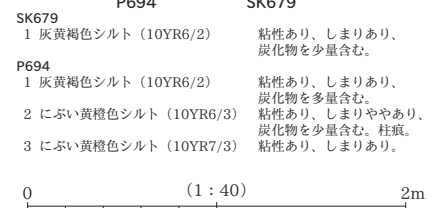
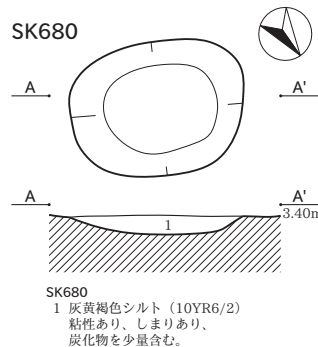
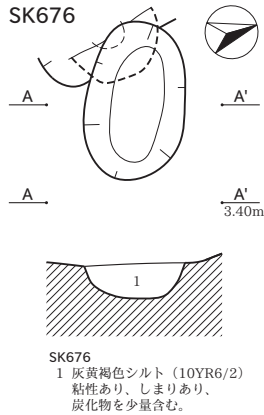
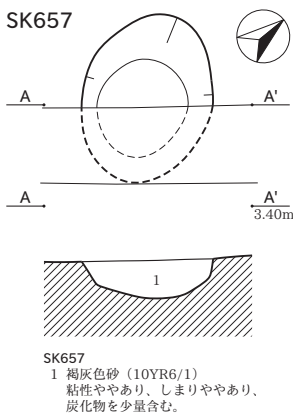
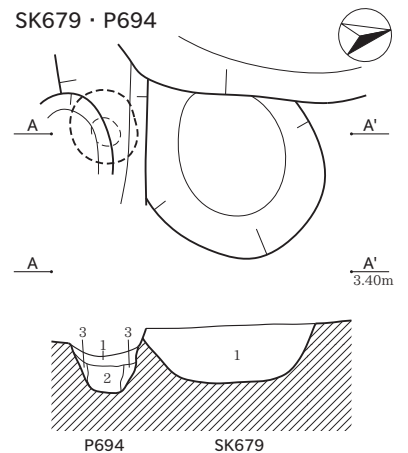
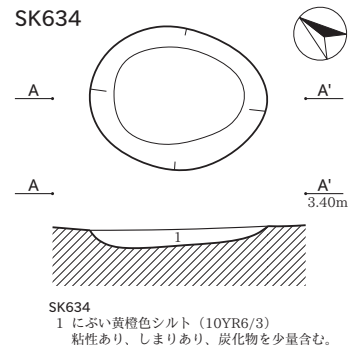
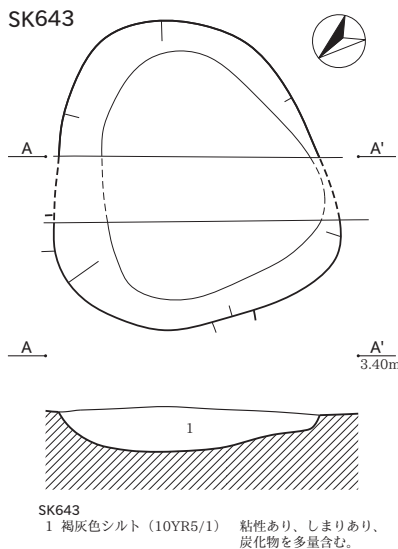
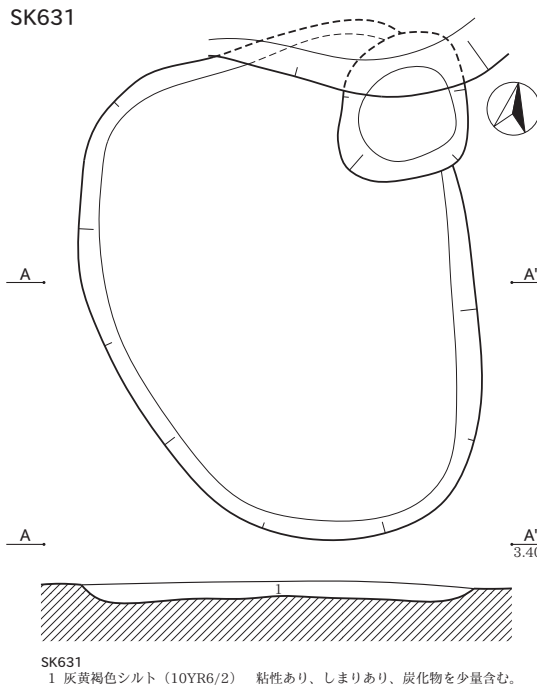
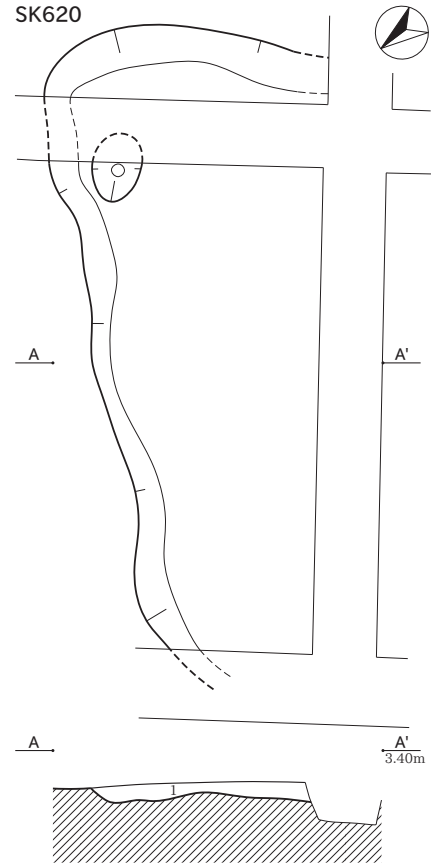
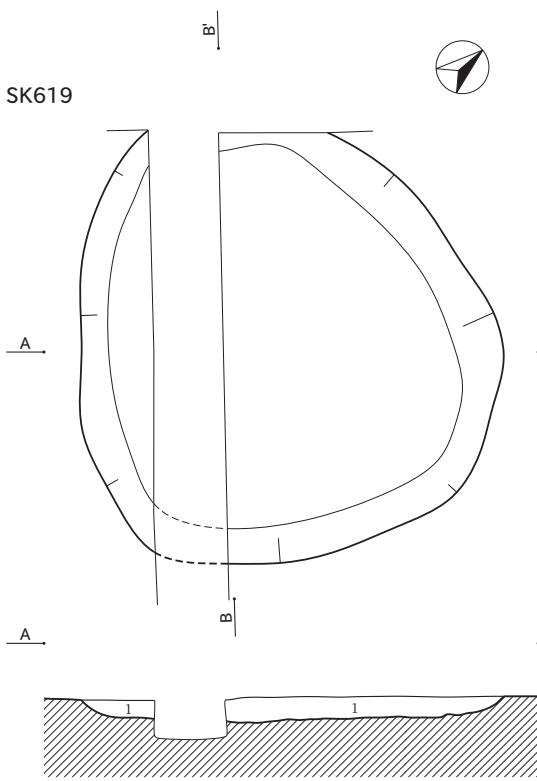


SK626
1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。

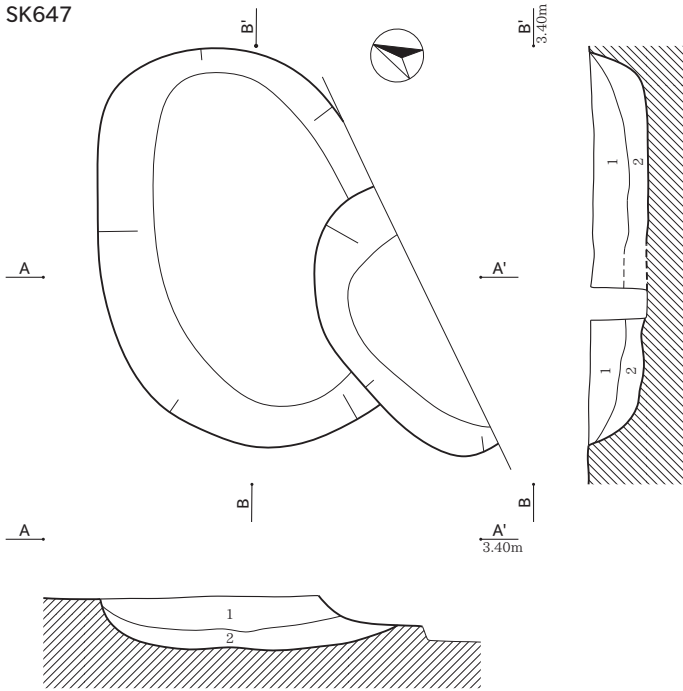
SK633



SK633
1 にぶい黄褐色シルト (10YR6/3) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

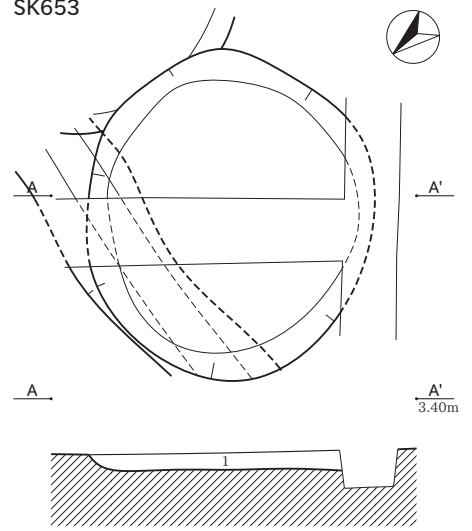


SK647



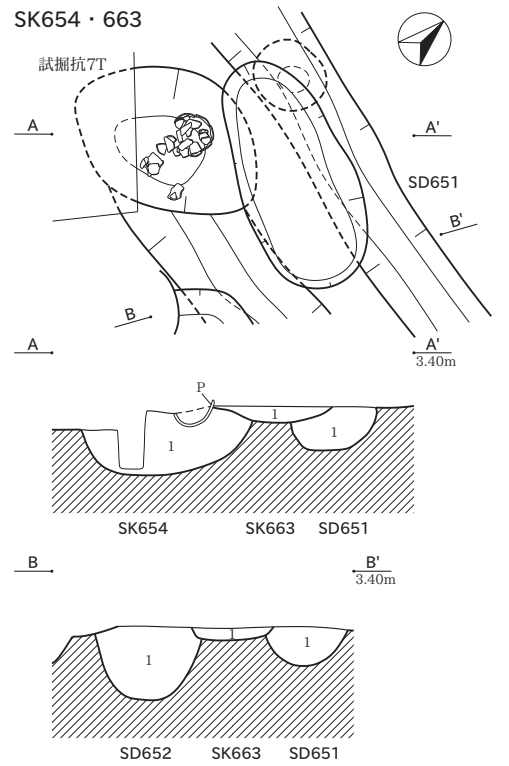
SK647
 1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。
 2 褐灰色シルト (10YR6/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。

SK653



SK653
 1 にぶい黄橙色シルト (10YR7/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SK654・663



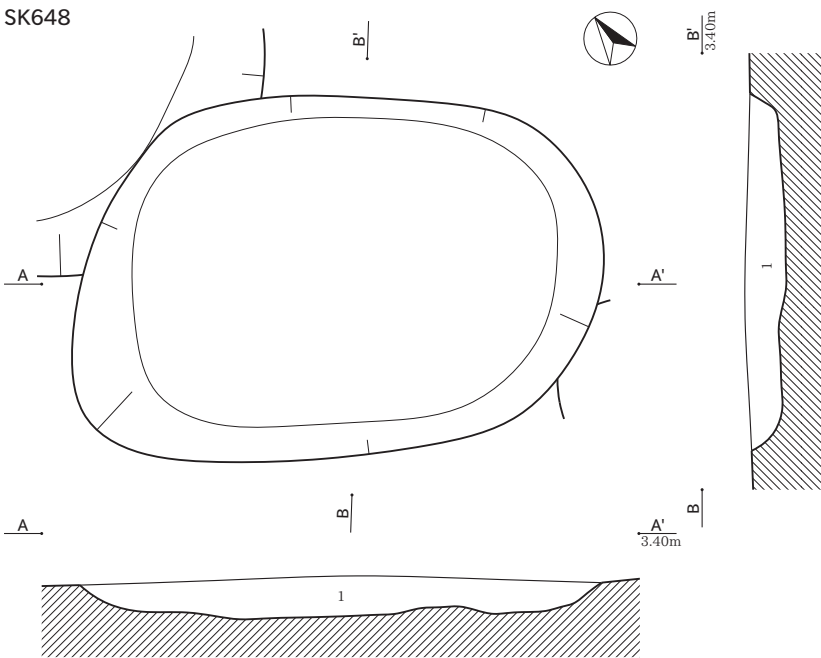
SK654
 1 にぶい黄橙色シルト (10YR6/3) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SK663
 1 褐灰色シルト (10YR6/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。

SD651
 1 にぶい黄橙色シルト (10YR7/3) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

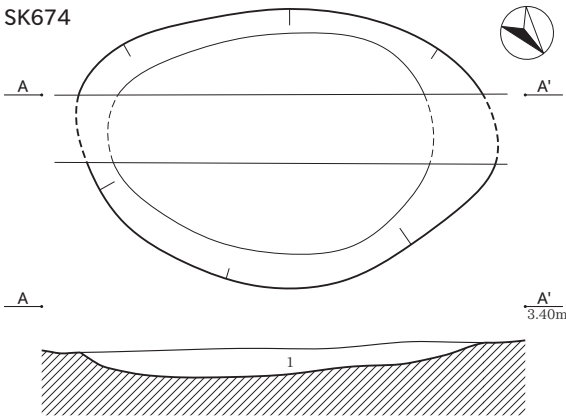
SD652
 1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SK648



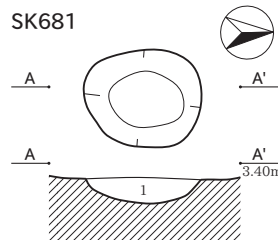
SK648
 1 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。

SK674



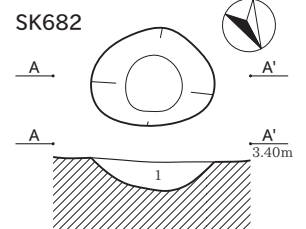
SK674
 1 にぶい黄橙色シルト (10YR6/3) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SK681



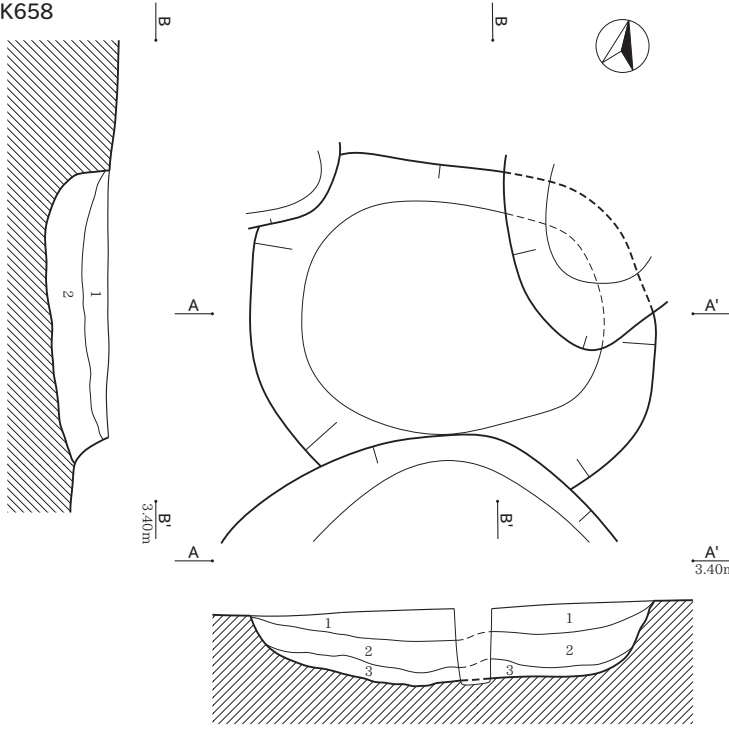
SK681
 1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SK682



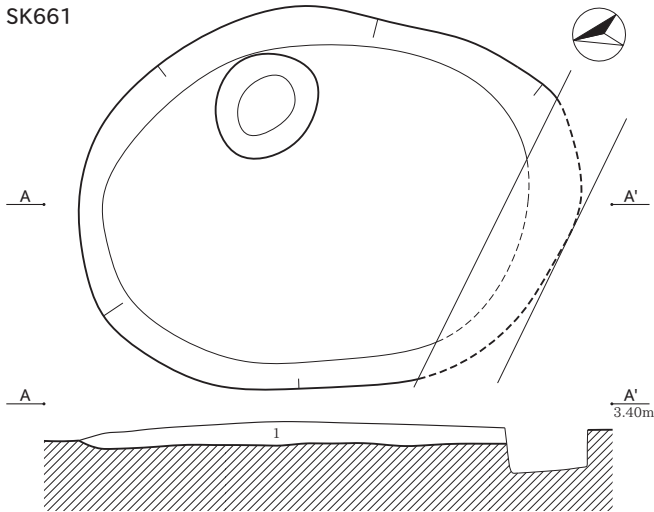
SK682
 1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SK658



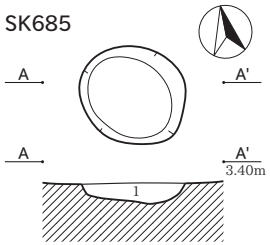
SK658
 1 にぶい黄褐色シルト (10YR7/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。
 2 褐灰色シルト (10YR6/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。
 3 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物・地山ブロックを多量、焼土塊を少量含む。

SK661



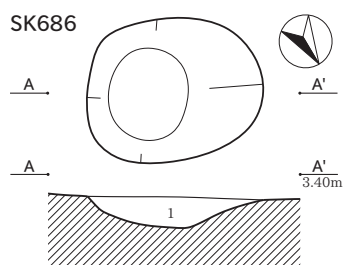
SK661
 1 褐灰色砂 (10YR5/1) 粘性なし、しまりなし。

SK685



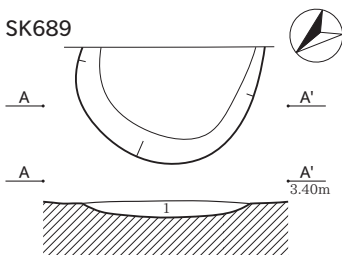
SK685
 1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SK686



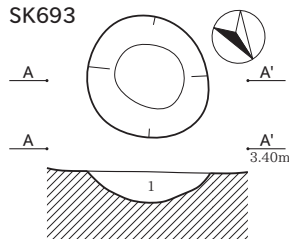
SK686
 1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SK689



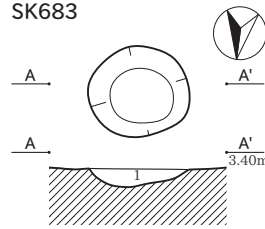
SK689
 1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SK693



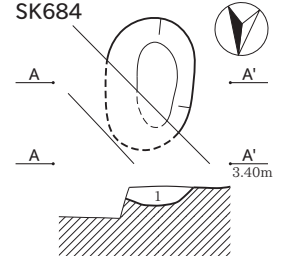
SK693
 1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SK683



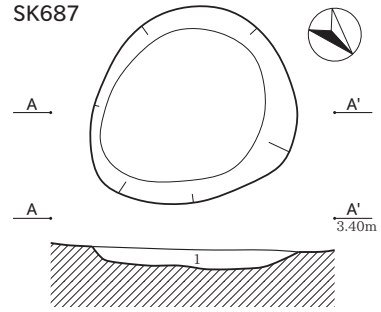
SK683
 1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SK684



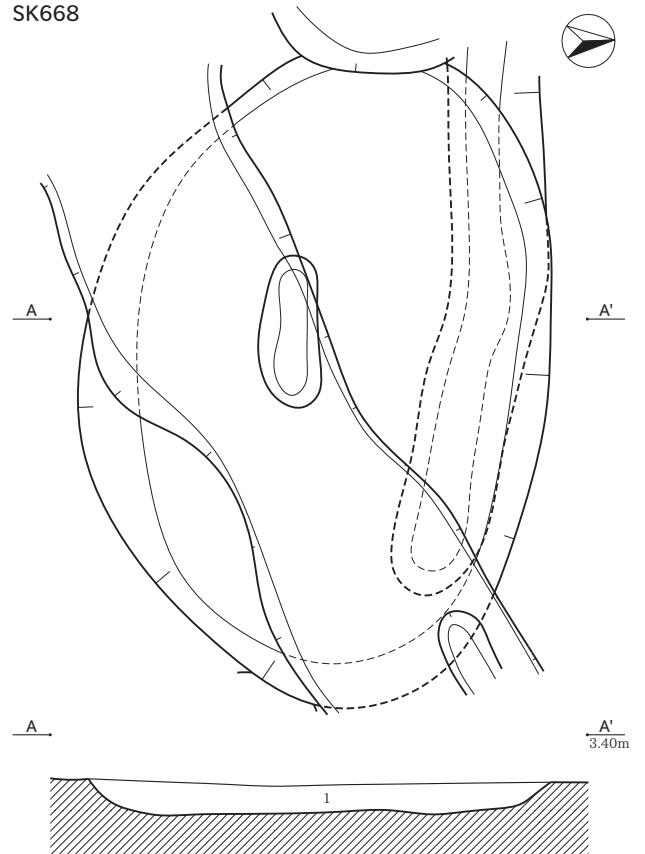
SK684
 1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SK687



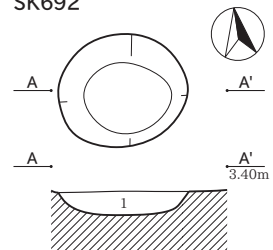
SK687
 1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SK668

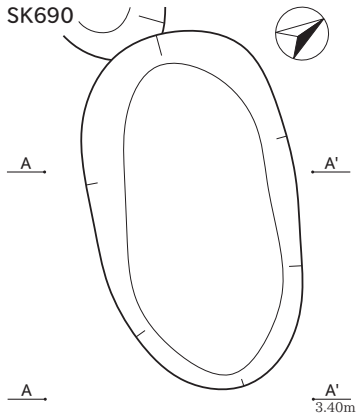


SK668
 1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

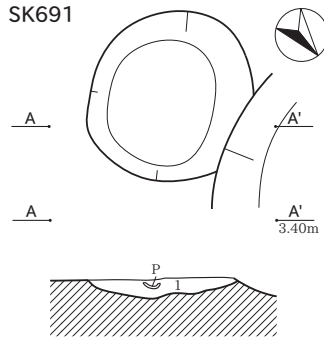
SK692



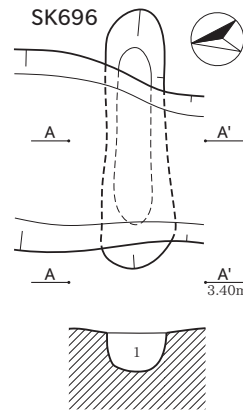
SK692
 1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。



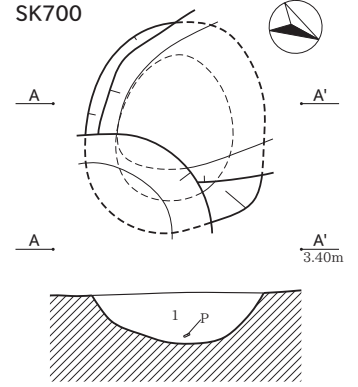
SK690
1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。



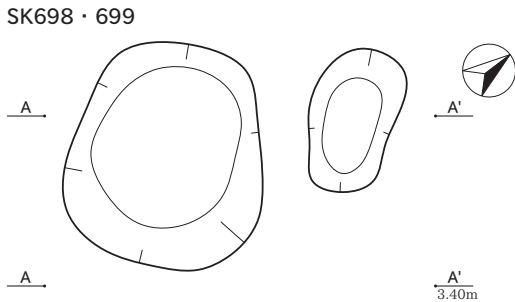
SK691
1 にぶい黄褐色シルト (10YR7/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。



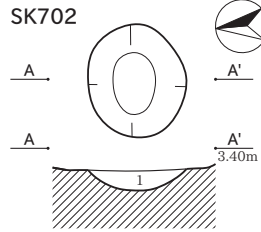
SK696
1 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性強い、しまりあり、炭化物を多量含む。



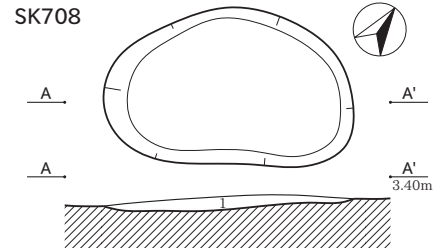
SK700
1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。



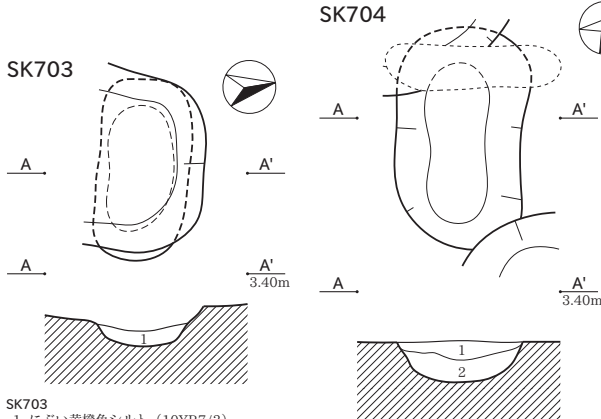
SK698 SK698 SK699
1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。
SK699
1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。



SK702
1 灰白色シルト (10YR8/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

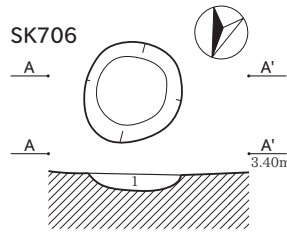


SK708
1 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性強い、しまりややあり、炭化物を多量、焼土塊を少量含む。

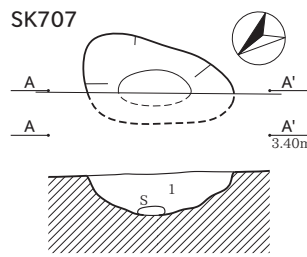


SK703
1 にぶい黄褐色シルト (10YR7/3) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

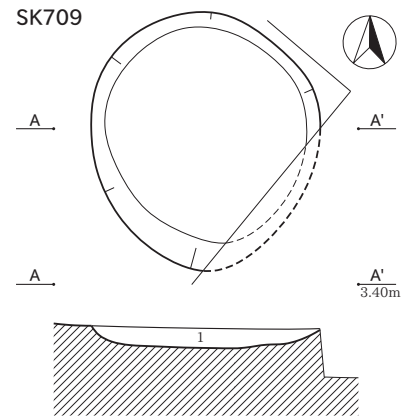
SK704
1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。
2 褐灰色シルト (10YR6/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。



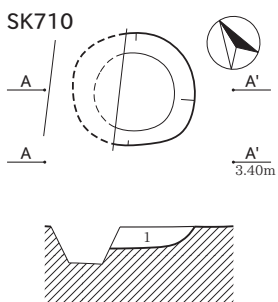
SK706
1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。



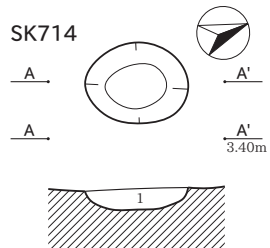
SK707
1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。



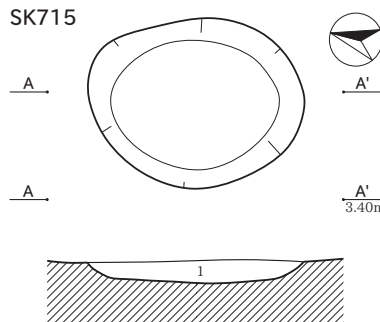
SK709
1 灰白色シルト (10YR7/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。



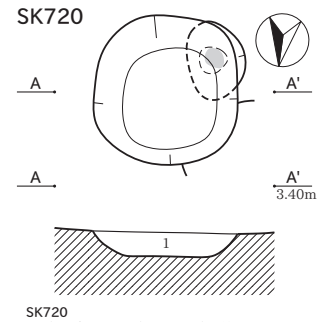
SK710
1 灰白色シルト (10YR7/1) 粘性あり、しまり強い、炭化物を少量含む。



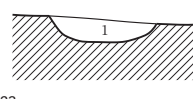
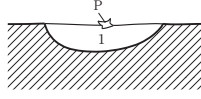
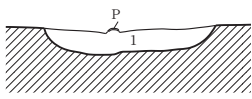
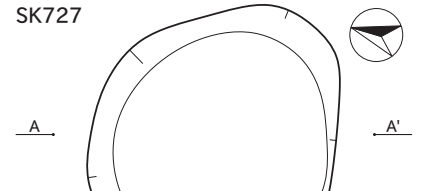
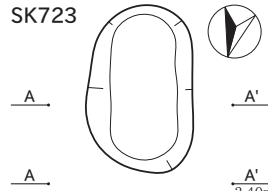
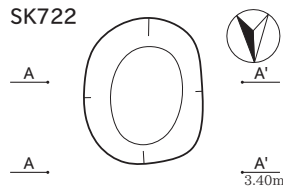
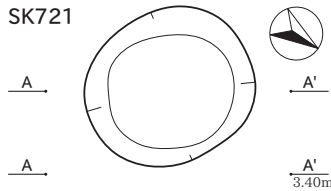
SK714
1 にぶい黄褐色シルト (10YR7/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。



SK715
1 灰白色シルト (10YR7/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。



SK720
1 褐灰色シルト (10YR6/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。

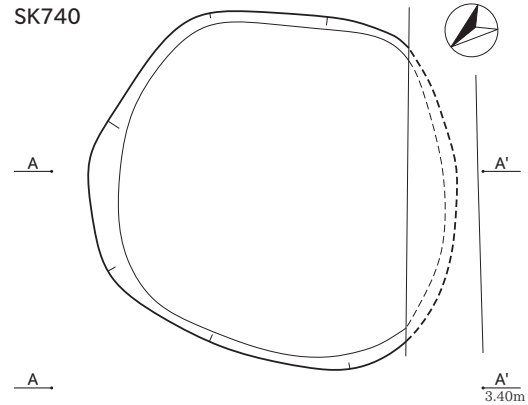
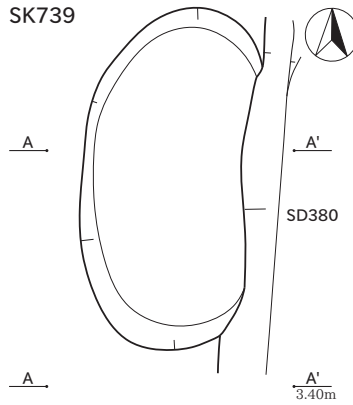
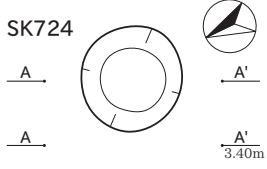


SK721
1 灰白色シルト (10YR7/1)
粘性あり、しまりあり。

SK722
1 灰白色シルト (10YR7/1)
粘性あり、しまりあり。

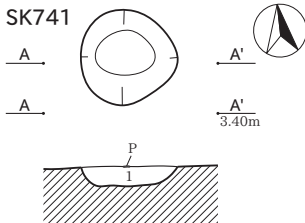
SK723
1 にぶい黄橙色シルト (10YR7/3)
粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。

SK727
1 にぶい黄橙色シルト (10YR7/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

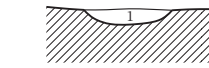
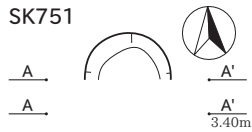


SK724
1 灰白色シルト (10YR7/1)
粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

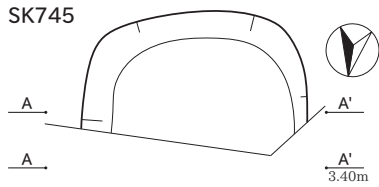
SK739
1 にぶい黄橙色シルト (10YR7/2) 粘性あり、しまりあり。



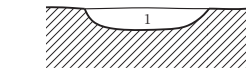
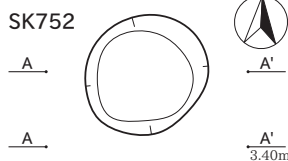
SK741
1 灰白色シルト (10YR7/1)
粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。



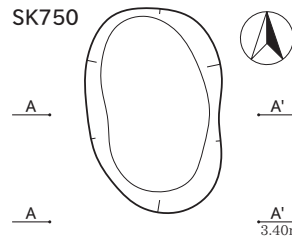
SK751
1 にぶい黄橙色シルト (10YR7/3)
粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。



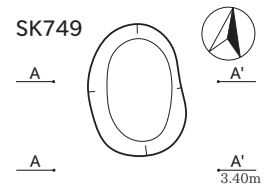
SK745
1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり。



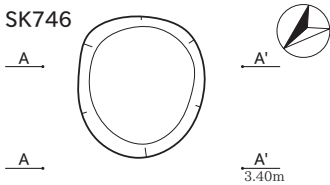
SK752
1 灰黄褐色シルト (10YR6/2)
粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。



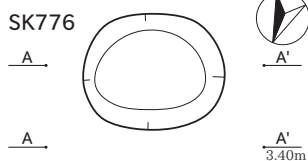
SK750
1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり。



SK749
1 にぶい黄橙色シルト (10YR7/2)
粘性あり、しまりあり。



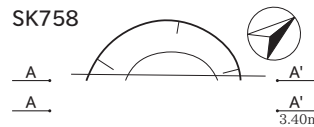
SK746
1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり。



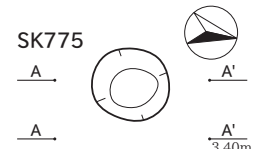
SK776
1 浅黄橙色粘質シルト (7.5YR8/3) 炭化物φ5mmを少量含む。



SK755
1 にぶい黄橙色シルト (10YR7/2)
粘性あり、しまりあり。

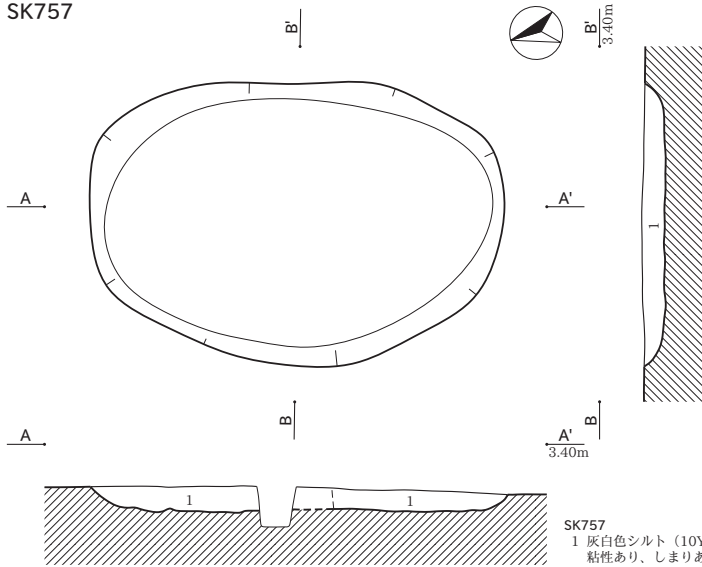


SK758
1 にぶい黄橙色シルト (10YR7/3)
粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

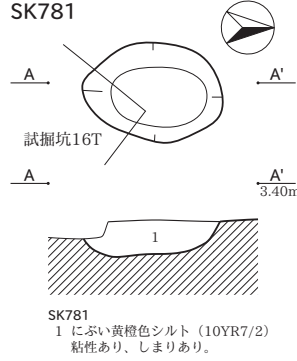


SK775
1 灰白色粘質シルト (N8/)
軟質。

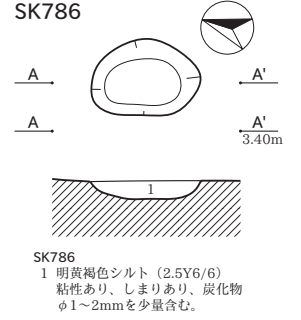
SK757



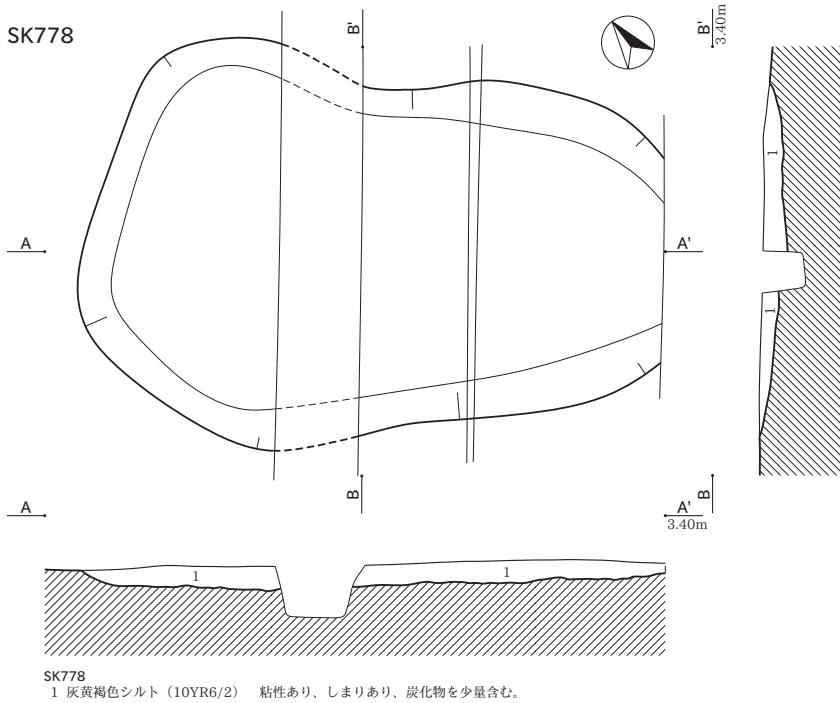
SK781



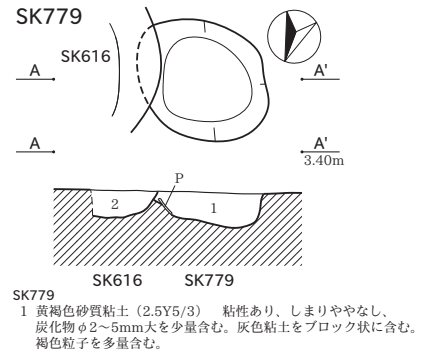
SK786



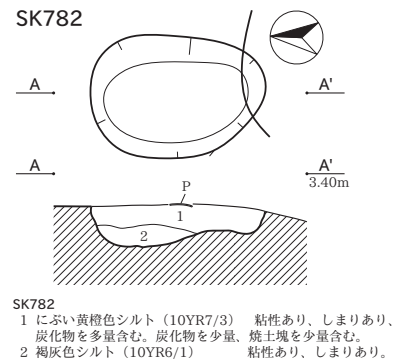
SK778



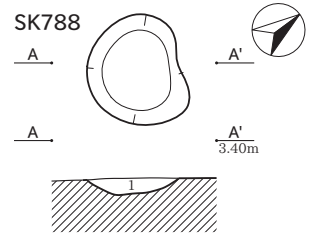
SK779



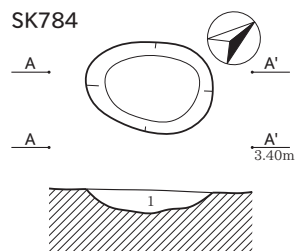
SK782



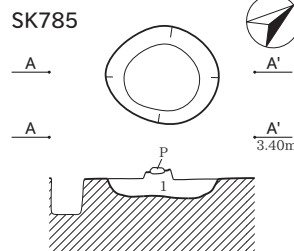
SK788



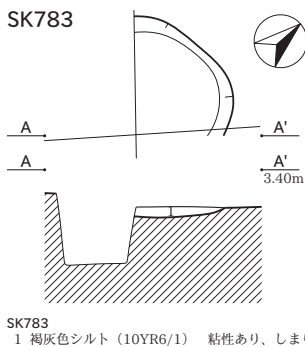
SK784



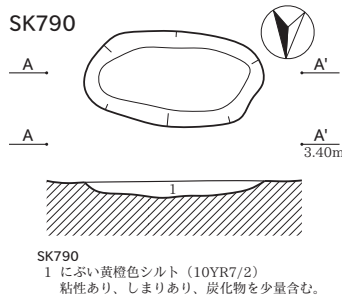
SK785



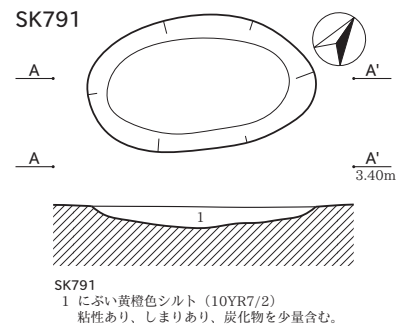
SK783



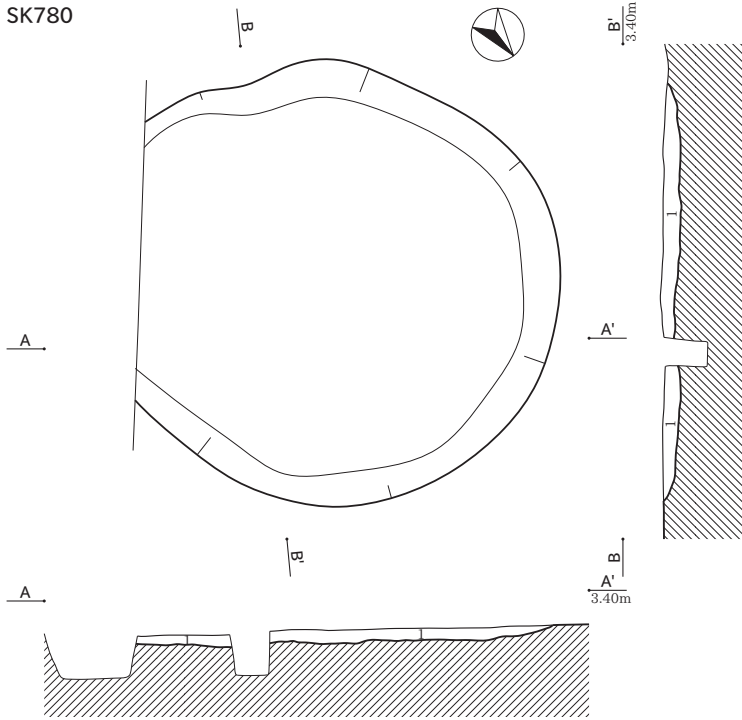
SK790



SK791

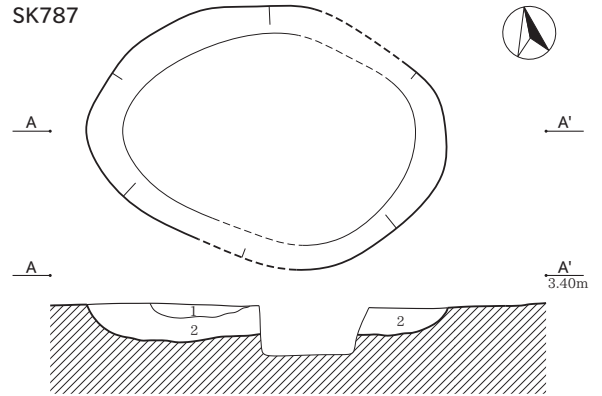


SK780



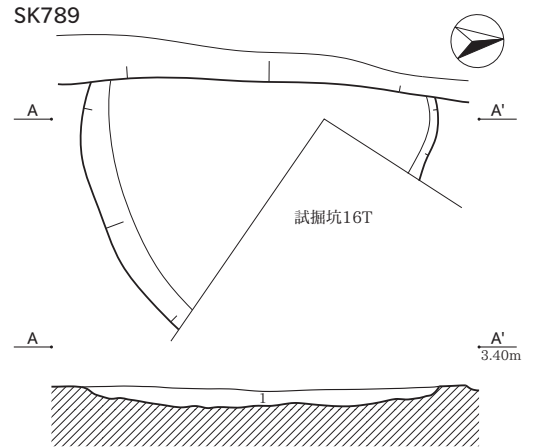
SK780
1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SK787



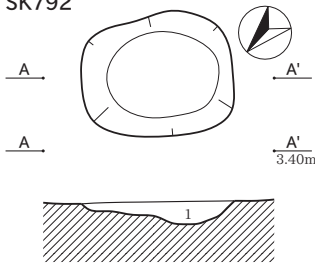
SK787
1 褐灰色シルト (7.5YR5/1) 粘性あり、しまりあり。炭化物を少量、焼土塊を少量含む。
2 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり。

SK789



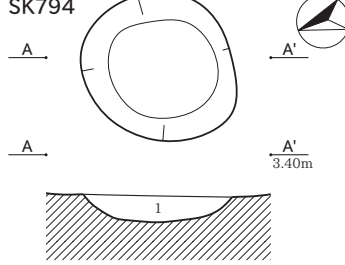
SK789
1 にぶい黄橙色シルト (10YR7/2) 粘性あり、しまりあり。

SK792



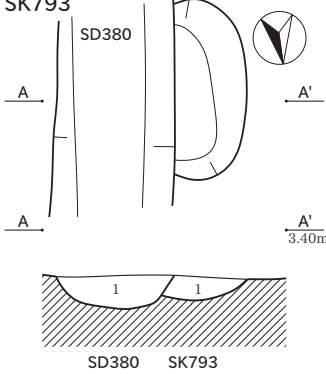
SK792
1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり。

SK794



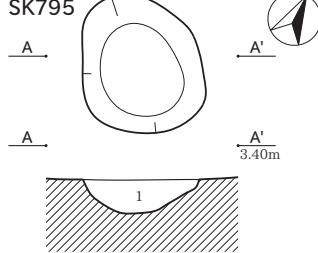
SK794
1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SK793



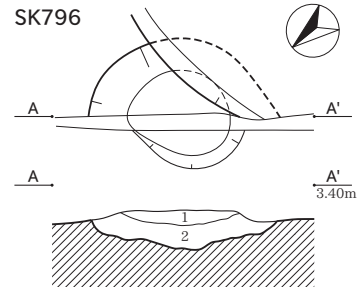
SK793
1 灰色シルト (5Y6/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SK795



SK795
1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。

SK796

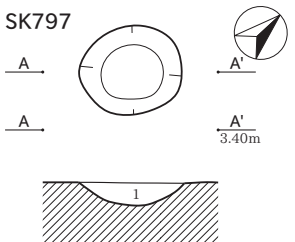


SK796
1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。
2 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性あり、しまりあり。

SD380 SK793

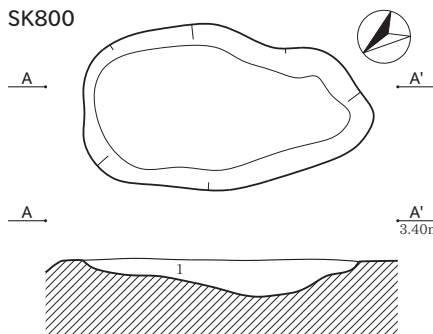
SK793
1 灰色シルト (5Y6/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SK797



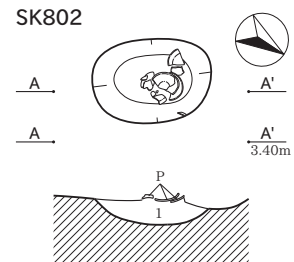
SK797
1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SK800

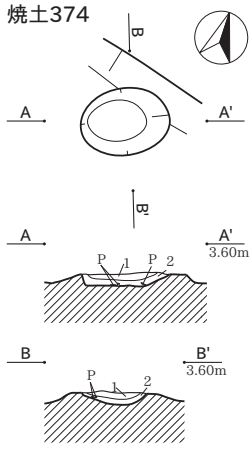


SK800
1 灰白色粘質シルト (7.5YR8/2) しまり強い、炭化物φ2mmを比較的多く含む。

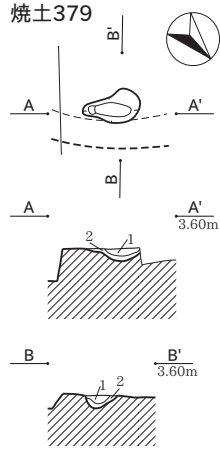
SK802



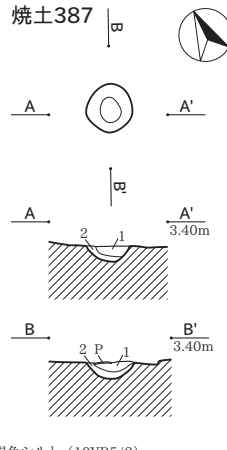
SK802
1 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性あり、しまりあり。



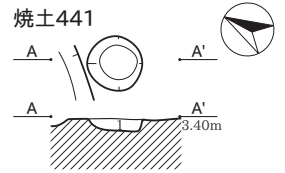
焼土374
1 にぶい黄褐色シルト (10YR5/3) 炭化物・焼土を多量含む。
2 にぶい黄褐色シルト (10YR5/3) 炭化物を含む。



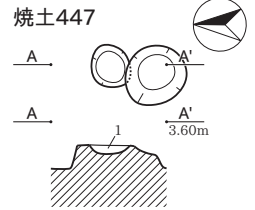
焼土379
1 にぶい黄褐色シルト (10YR5/3) 炭化物・焼土を多量含む。
2 にぶい黄褐色シルト (10YR6/3) 炭化物を含む。



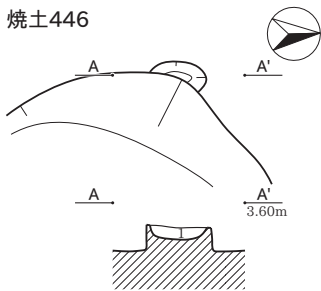
焼土387
1 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性あり、しまりあり、灰色焼土粒 (5Y6/1)・炭化物を多量含む。
2 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性あり、しまりあり、灰色焼土粒 (5Y6/1)・炭化物を多量含む。



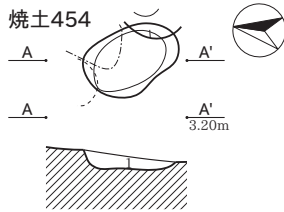
焼土441
1 暗褐色シルト (10YR3/3) 粘性あり、しまりあり、焼土を含む。



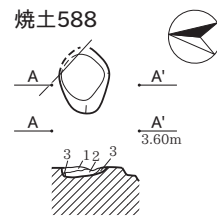
焼土447
1 暗褐色シルト (10YR3/3) 粘性あり、しまりあり、焼土を含む。



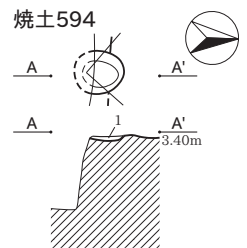
焼土446
1 暗褐色シルト (10YR3/3) 粘性あり、しまりあり、焼土を含む。



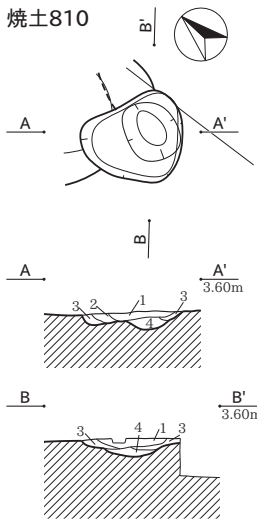
焼土454
1 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物・焼土を多量含む。



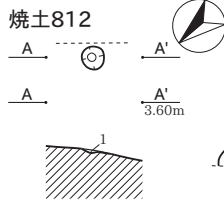
焼土588
1 暗褐色シルト (10YR3/3) 粘性あり、しまりあり、炭化物・焼土を多量含む。
2 橙色シルト (2.5YR7/6) 粘性あり、しまりあり。
3 橙色シルト (2.5YR6/6) 粘性あり、しまりあり。



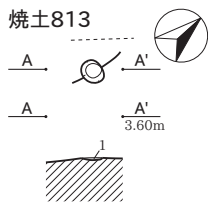
焼土594
1 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性あり、しまりあり、焼土を多量含む。



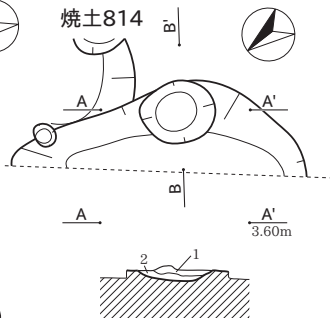
焼土810
1 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性あり、しまりあり、焼土 (5YR6/6)・炭化物を含む。
2 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性あり、しまりあり、焼土 (5YR6/1)・炭化物を多量含む。
3 褐灰色シルト (10YR4/1) 粘性あり、しまりあり。
4 橙色シルト (5YR6/6) 粘性あり、しまりあり。



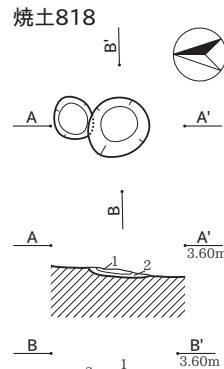
焼土812
1 赤褐色シルト (2.5YR4/6) 粘性あり、しまりあり。



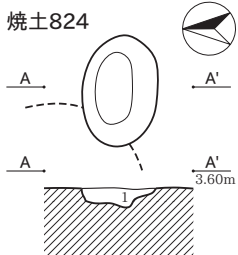
焼土813
1 赤褐色シルト (2.5YR4/6) 粘性あり、しまりあり。



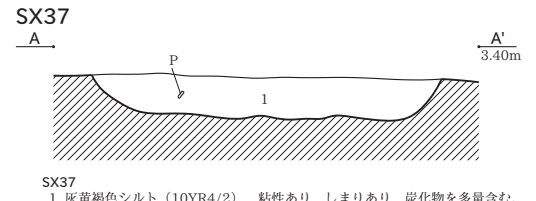
焼土814
1 灰色焼土 (5Y6/1) 粘性あり、しまりあり。
2 にぶい黄褐色シルト (10YR5/3) 粘性あり、しまりあり、焼土を含む。
3 にぶい黄褐色シルト (10YR5/3) 粘性あり、しまりあり、白色粘土を含む。



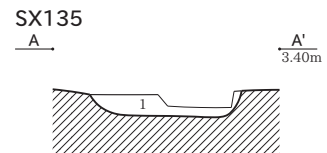
焼土818
1 赤褐色シルト (2.5YR4/6) 粘性あり、しまりあり。
2 にぶい赤褐色シルト (2.5YR4/4) 粘性あり、しまりあり。



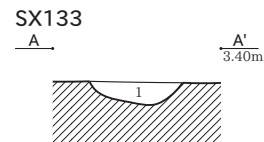
焼土824
1 灰褐色シルト (5YR4/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量、焼土塊を多量含む。



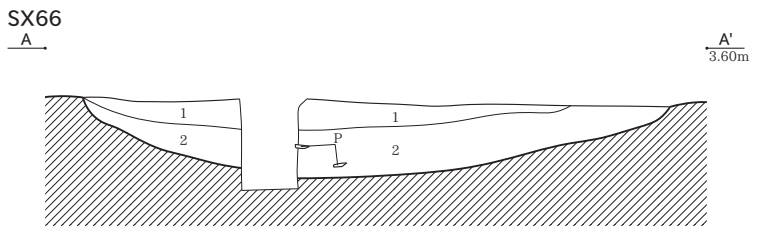
SX37
1 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。



SX135
1 にぶい黄褐色シルト (10YR6/3) 粘性あり、しまり強い、炭化物を多量含む。

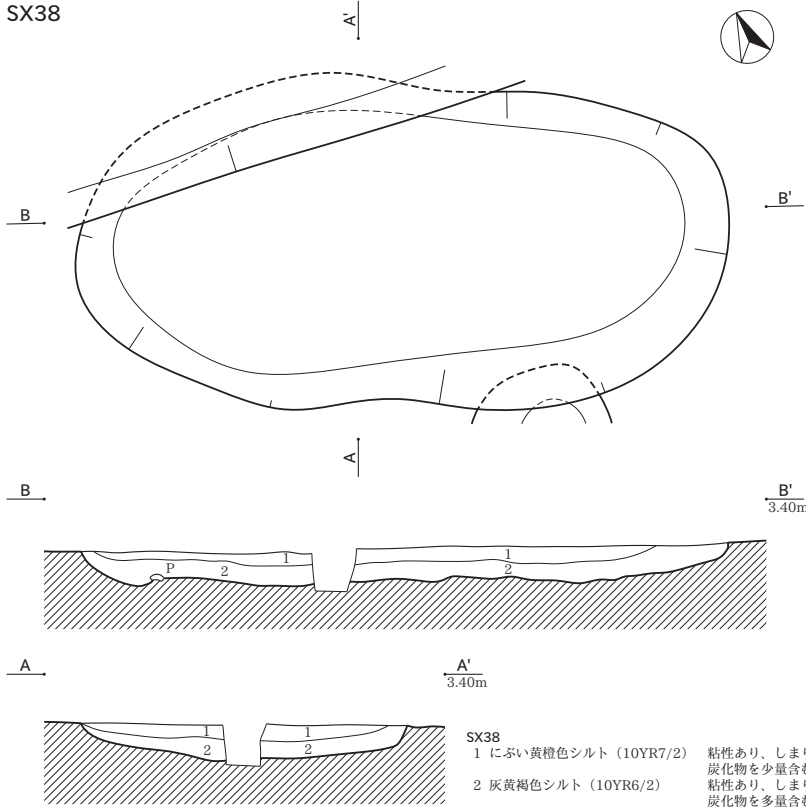


SX133
1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。



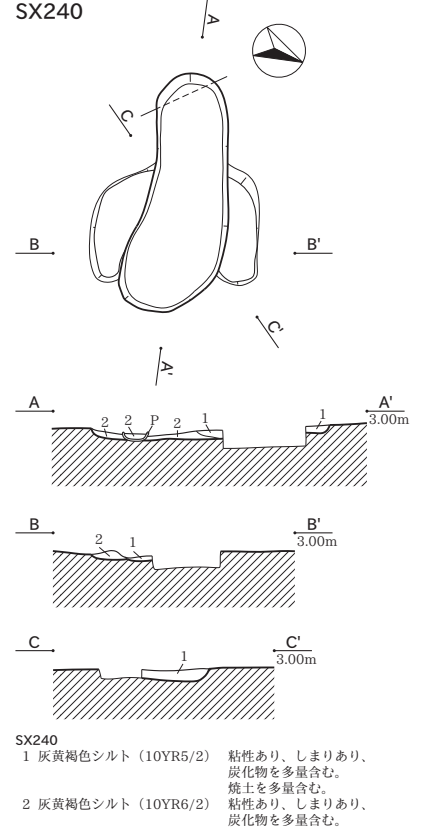
SX66
1 にぶい黄褐色シルト (10YR7/3) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。
2 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。

SX38



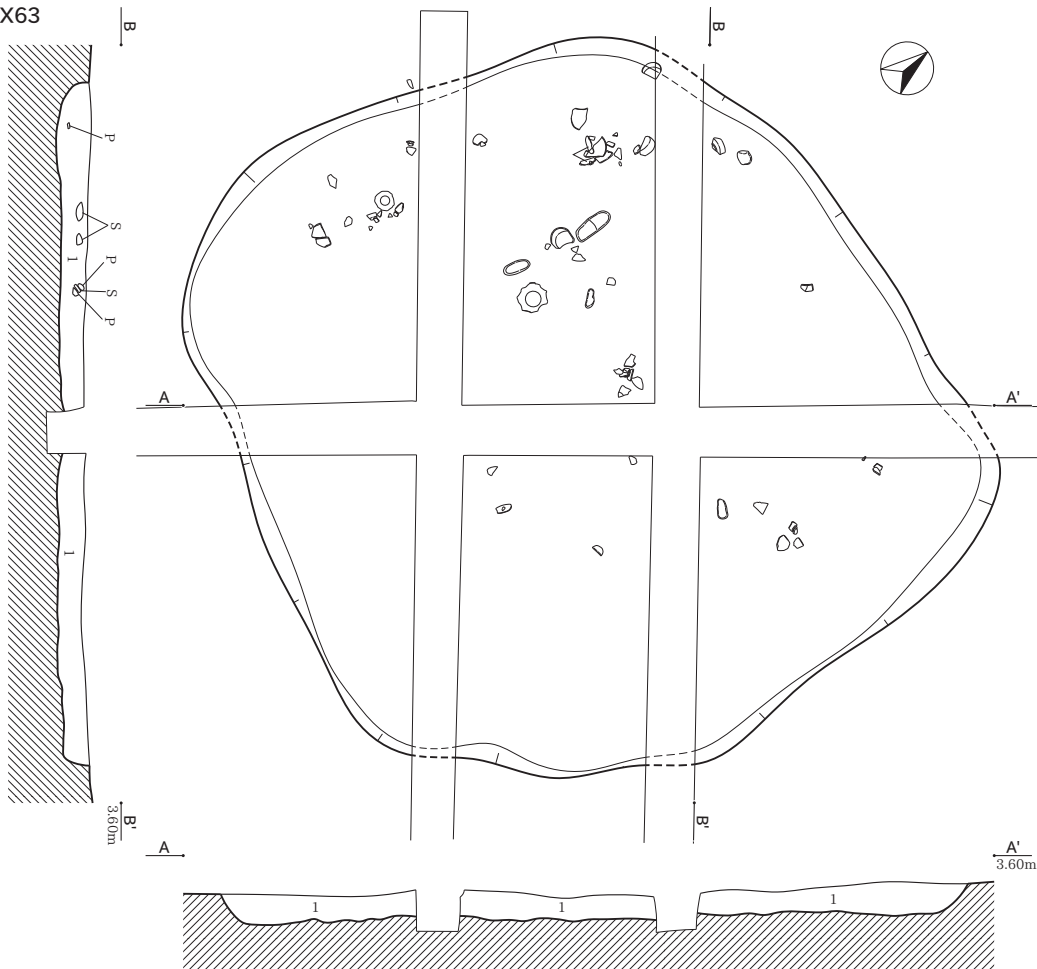
SX38
 1 にぶい黄褐色シルト (10YR7/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。
 2 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまり強い、炭化物を多量含む。

SX240

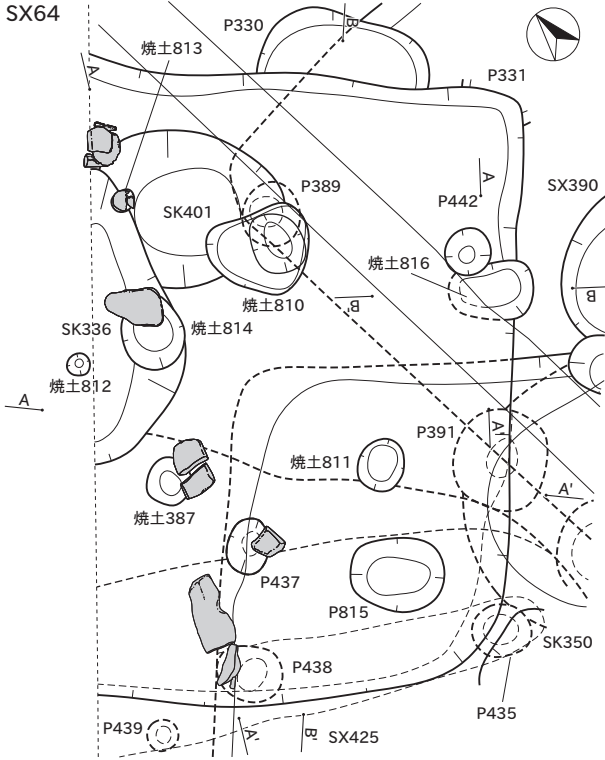


SX240
 1 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。焼土を多量含む。
 2 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。

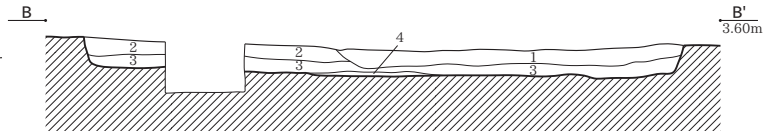
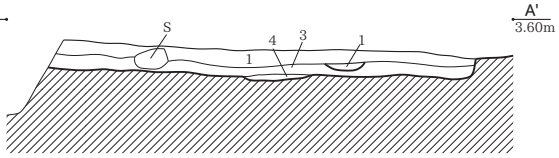
SX63



SX63
 1 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性ややあり、しまり強い、炭化物を多量含む。



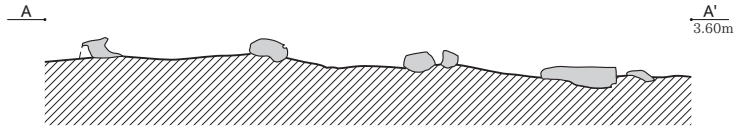
SX64



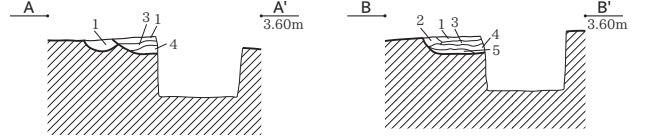
SX64

- 1 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物・地山ブロックを少量含む。
- 2 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物・地山ブロックを多量含む。
- 3 にぶい黄褐色シルト (10YR7/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物・地山ブロックを多量含む。
- 4 にぶい黄褐色シルト (10YR7/3) 粘性あり、しまりあり、地山ブロックを多量含む。

SX64-石列381



SX64-焼土816

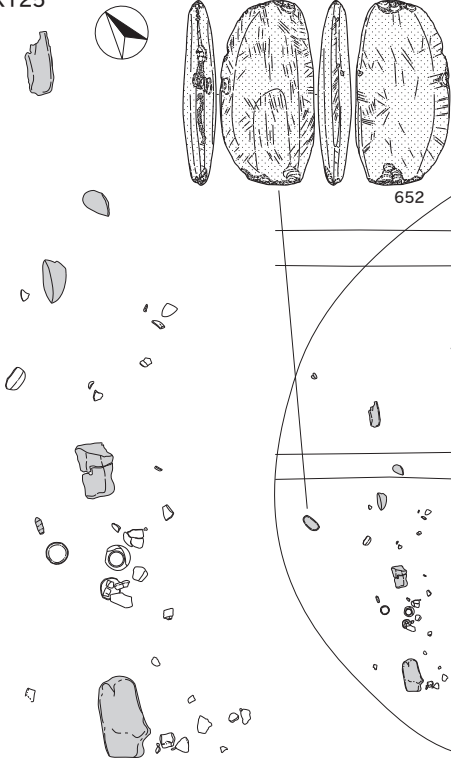


P442 焼土816

SX64-焼土816

- 1 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性あり、しまり強い、橙色焼土 (5YR6/6) を含む。
- 2 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物を含む。
- 3 にぶい黄褐色シルト (10YR7/3) 粘性強い、しまりあり。
- 4 橙色シルト (5YR6/6) 粘性あり、しまり強い、橙色焼土 (5YR6/6) 炭化物を含む。
- 5 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性あり、しまりあり。

SX125

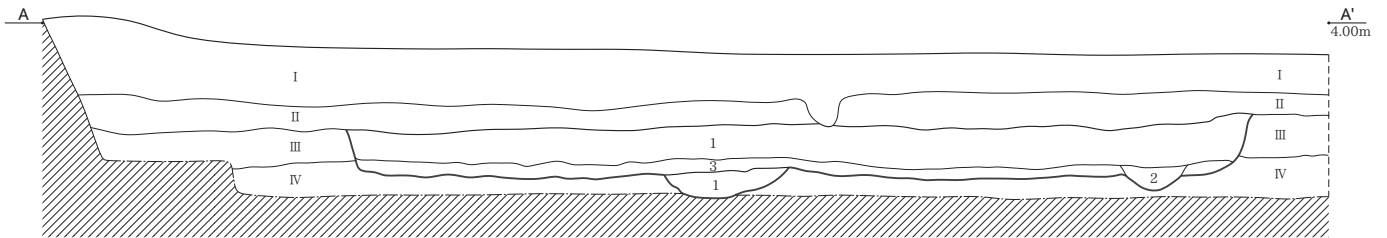


SX125推定範囲

SX125平面図 (1:100) 2m

遺物 (1:10) 20cm

SX247・248 (断面のみ検出)



SX248

SX247

SX247

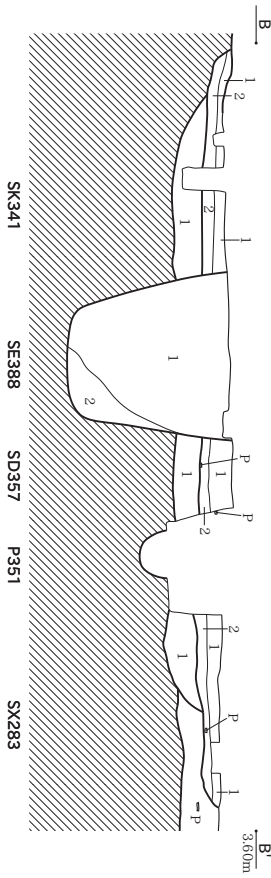
- 1 にぶい黄褐色シルト (10YR6/3) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。
- 2 にぶい黄褐色シルト (10YR5/3) 粘性あり、しまり強い、炭化物を少量含む。
- 3 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SX248

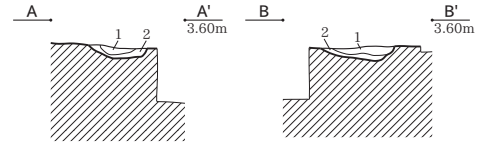
- 1 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性強い、しまりあり、炭化物を少量含む。焼土塊を多量含む。

(1:40) 2m

SX283



SX283-焼土819



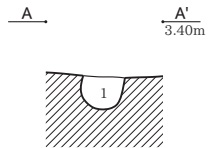
SX283-焼土819
 1 灰褐色焼土 (5Y6/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物を含む。
 2 にぶい黄褐色シルト (10YR5/3) 粘性あり、しまりあり。

SX283
 1 にぶい黄褐色シルト (10YR7/3) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。
 2 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性強い、しまりあり、炭化物を少量含む。掘り方。

SI65
 1 にぶい黄褐色シルト (10YR6/3) 粘性あり、しまりあり、床面。
 SB828-SD357
 1 褐灰色シルト (10YR6/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

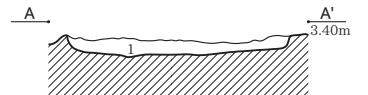
SE388
 1 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。
 2 褐灰色シルト (10YR4/1) 粘性あり、しまり強い、炭化物を多量含む。
 SK341
 1 にぶい黄褐色シルト (10YR5/3) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。

SX274



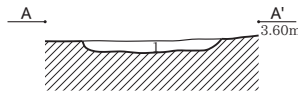
SX274
 1 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。

SX327



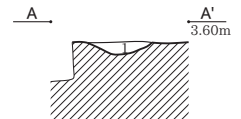
SX327
 1 暗オリーブ褐色粘質土 (2.5Y3/3) 粘性ややなし、しまりややあり、炭化物φ1~5mm大を中量、φ10~15mm大を微量含む。小石を少し含む。

SX375



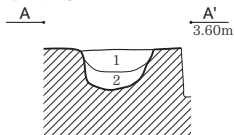
SX375
 1 にぶい赤褐色シルト (5YR5/3) 粘性あり、しまりあり、灰黄褐色シルトブロックを多量含む。

SX377



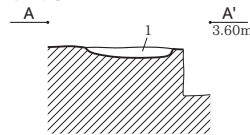
SX377
 1 にぶい赤褐色シルト (5YR5/3) 粘性あり、しまりあり、灰黄褐色シルトブロックを多量含む。

SX378



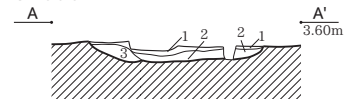
SX378
 1 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。
 2 にぶい黄褐色シルト (10YR6/3) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SX382

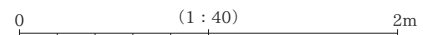


SX382
 1 褐灰色シルト (10YR4/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物・焼土を少量含む。

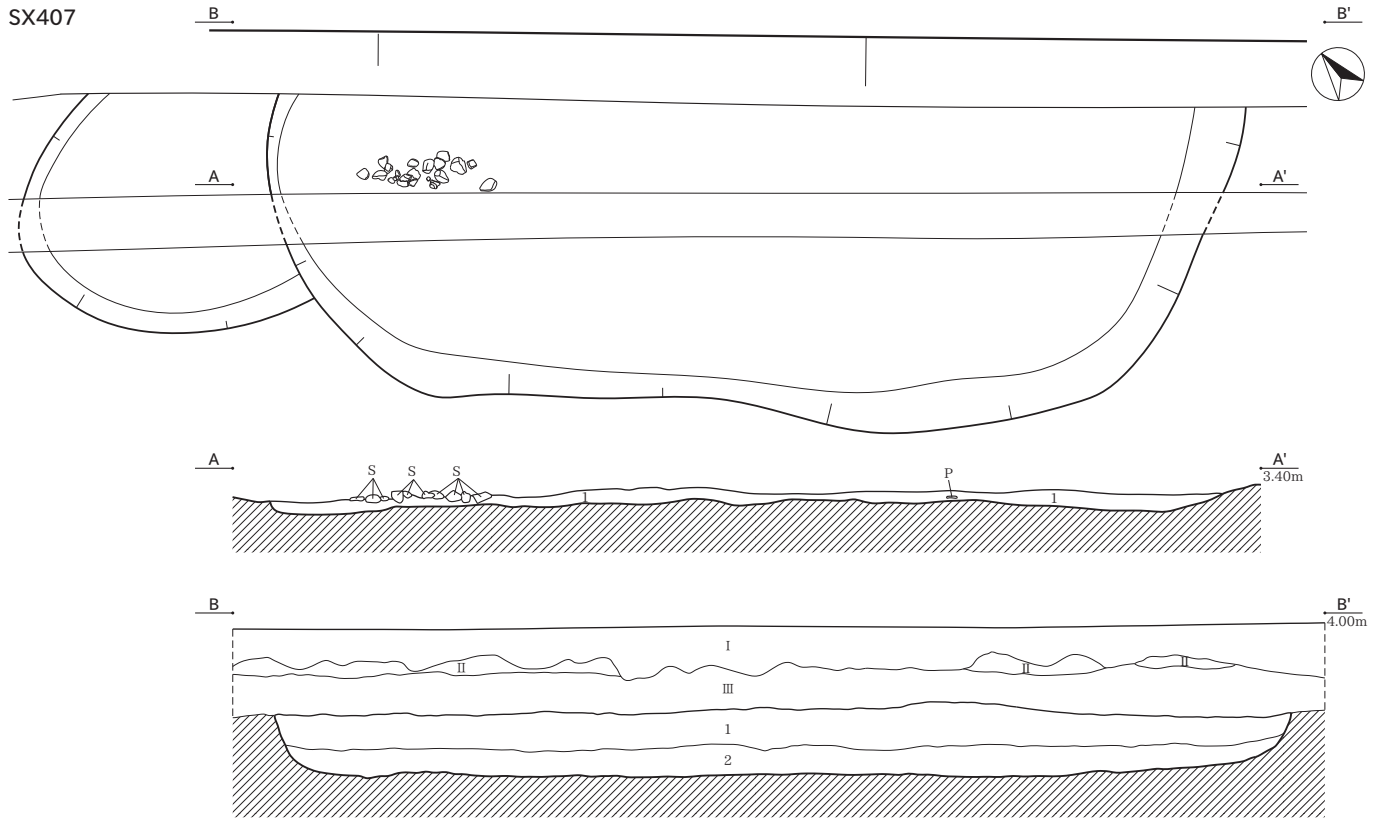
SX390



SX390
 1 明褐灰色シルト (7.5YR7/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。
 2 にぶい赤褐色シルト (5YR5/4) 粘性あり、しまり強い、炭化物を少量含む。
 3 灰褐色シルト (7.5YR6/2) 粘性あり、しまりあり。

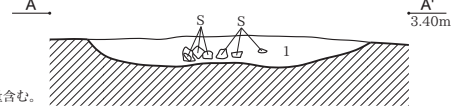


SX407



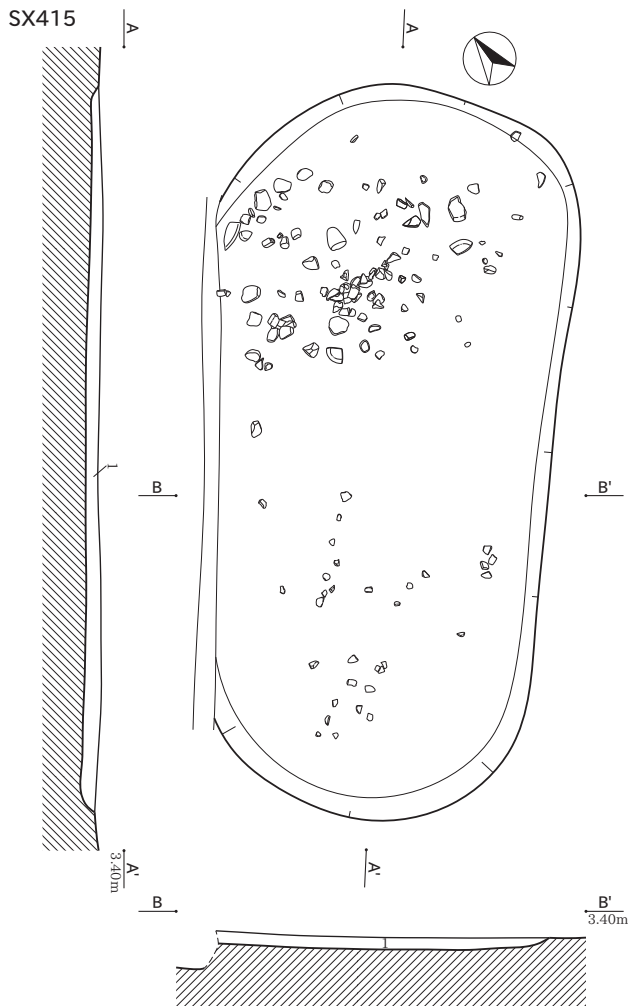
SX407
 1 にぶい黄褐色シルト (10YR6/3) 粘性あり、しまりあり、炭化物を含む。
 2 にぶい黄褐色シルト (10YR5/3) 粘性あり、しまりあり、炭化物を含む。

SX416



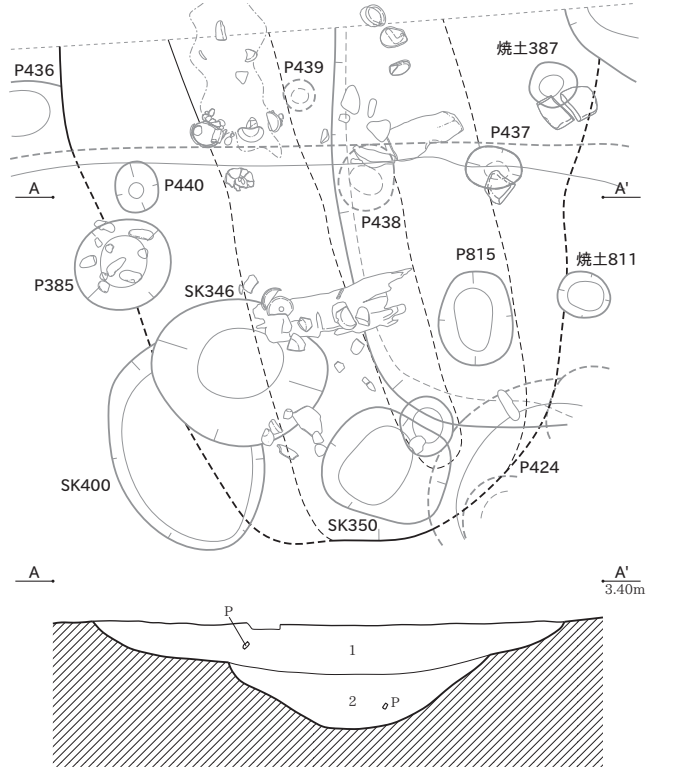
SX416
 1 にぶい黄褐色シルト (10YR6/3) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。

SX415



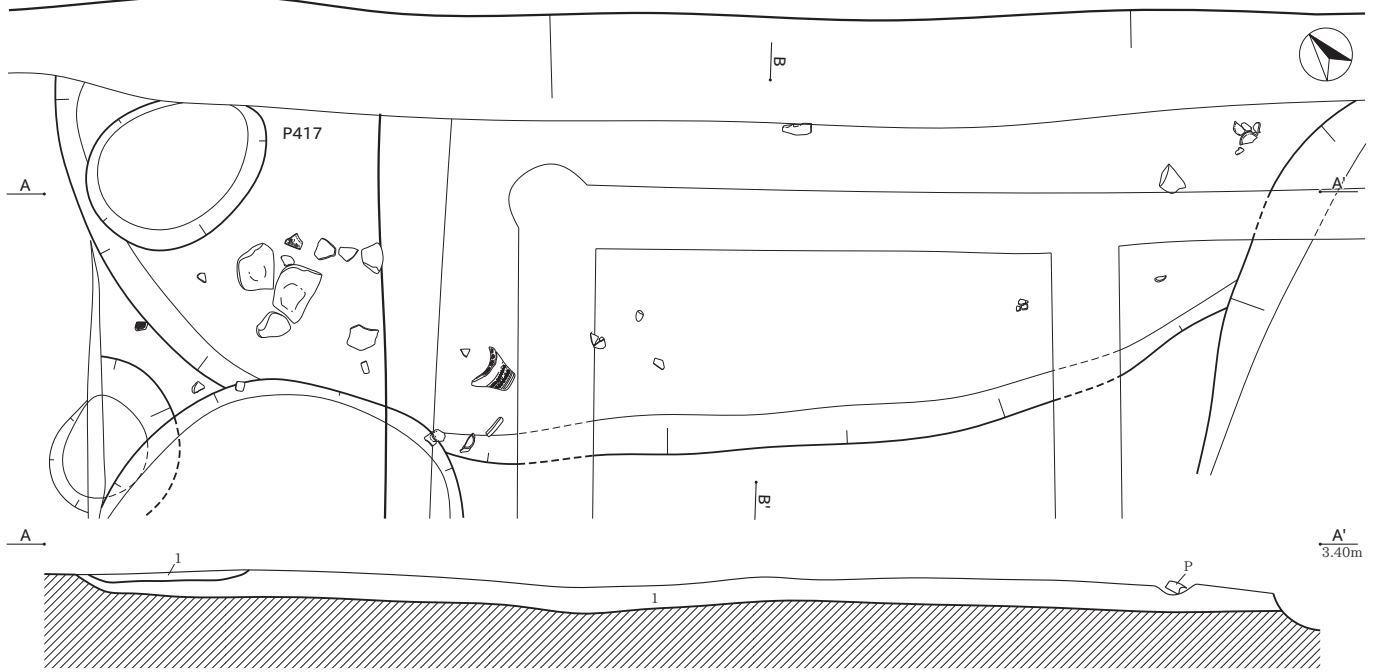
SX415
 1 にぶい黄褐色シルト (10YR7/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SX425



SX425
 1 暗褐色シルト (10YR3/3) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。
 2 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性あり、しまりあり。

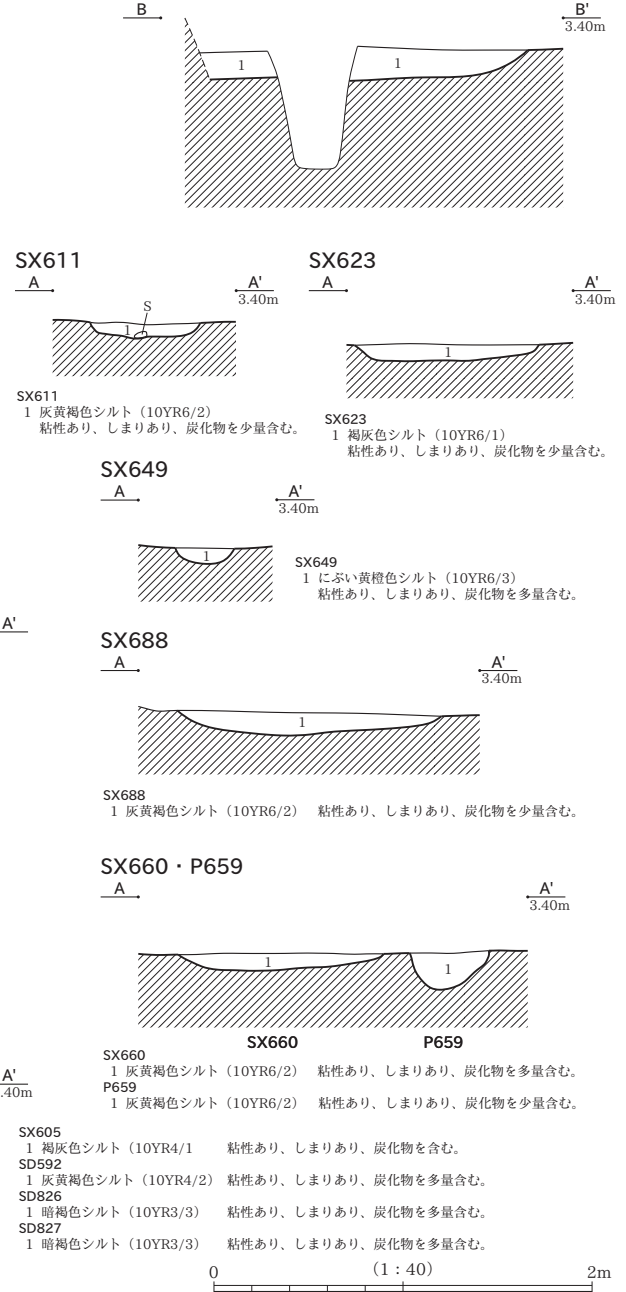
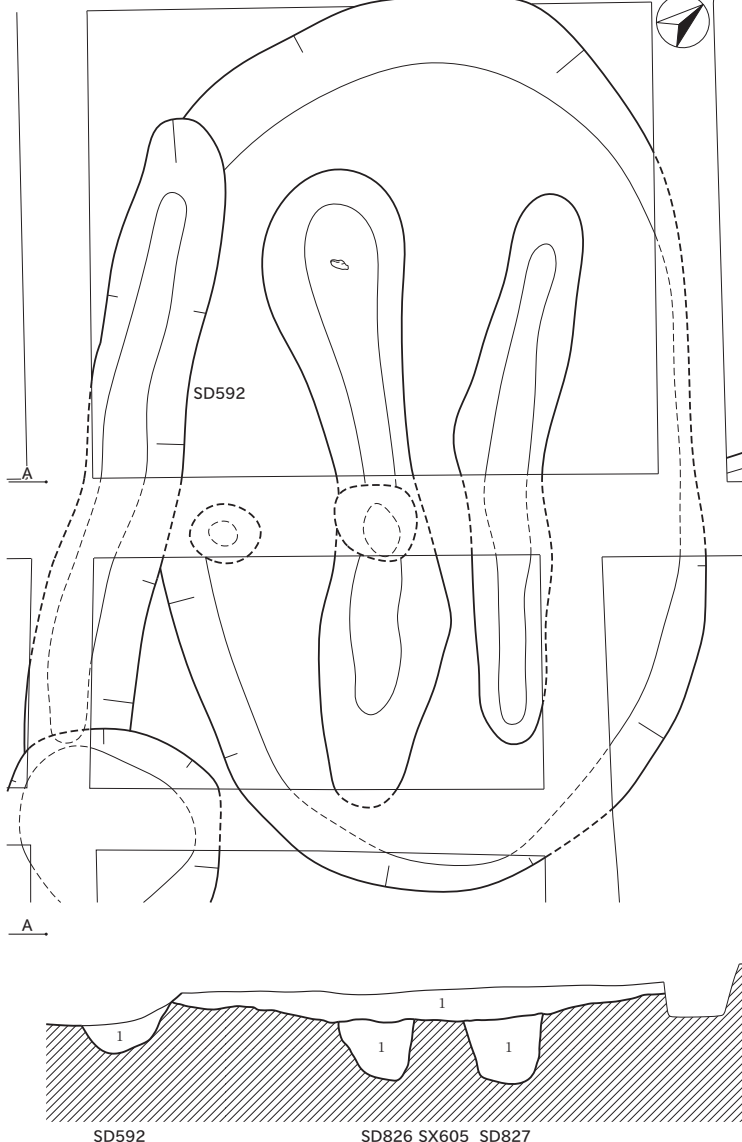
SX421

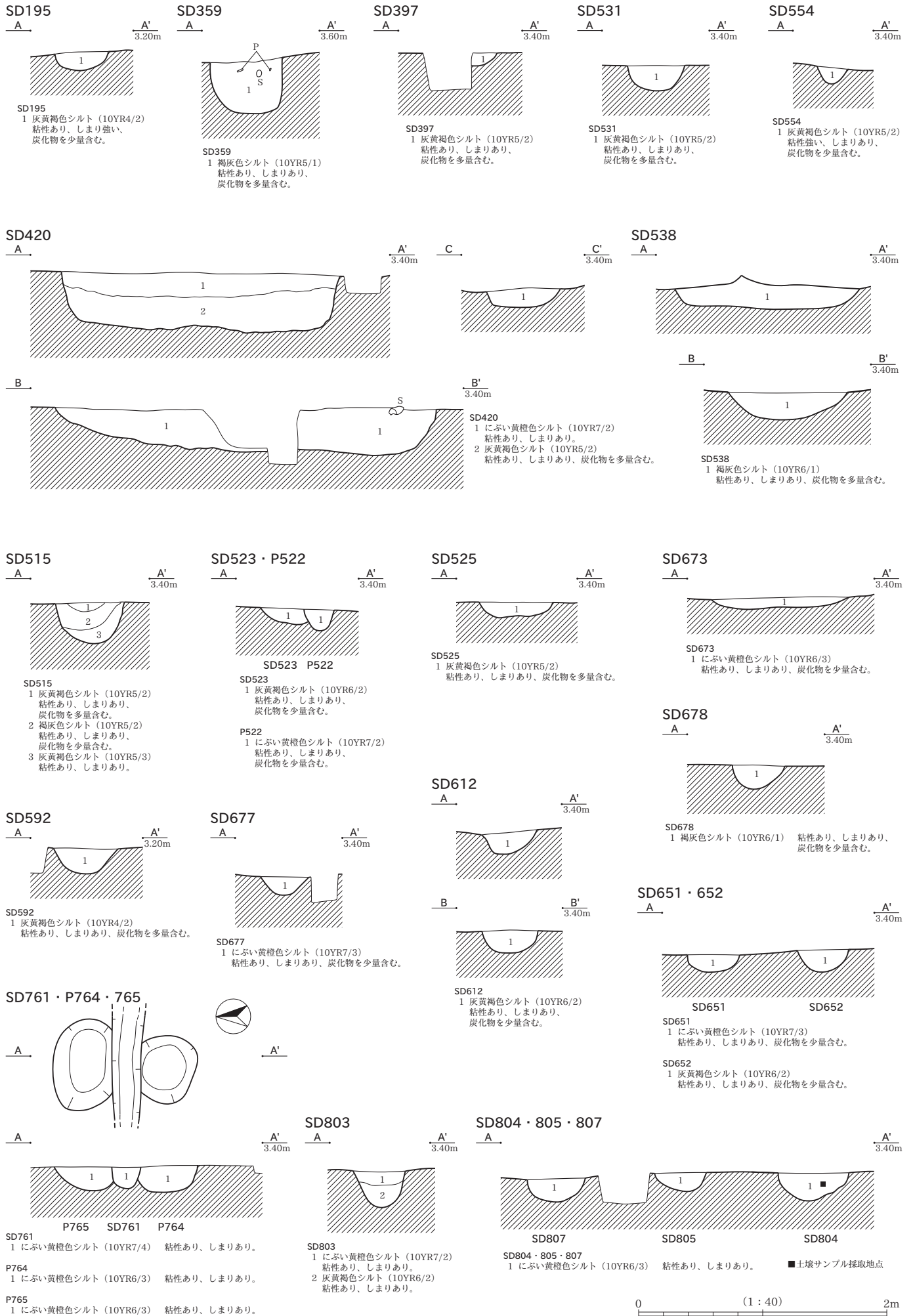


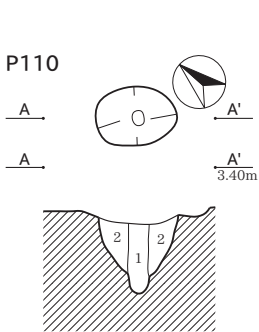
SX421
1 にぶい黄褐色シルト (10YR6/3) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物を少量含む。

P417
1 にぶい黄褐色シルト (10YR6/3) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

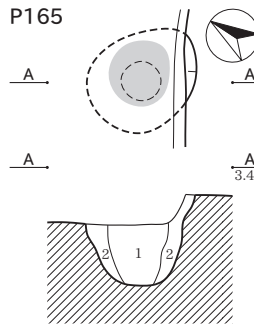
SX605・SD826・827



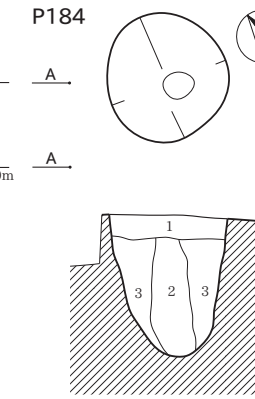




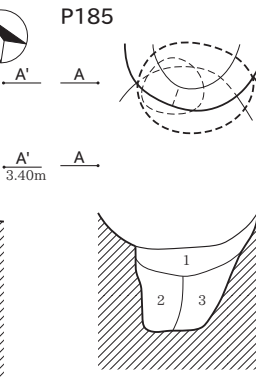
P110
 1 褐灰色粘土 (10YR5/1) 粘性強い、しまりややあり、柱痕。
 2 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性あり、しまり強い、炭化物を少量含む。



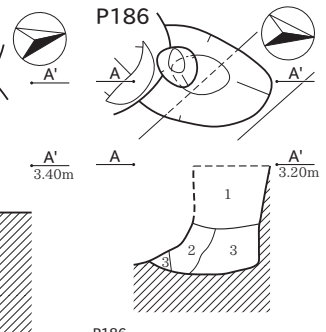
P165
 1 褐灰色粘土 (10YR4/1) 粘性強い、しまりややあり、炭化物を少量含む、柱痕。
 2 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性あり、しまり強い、炭化物を多量含む。



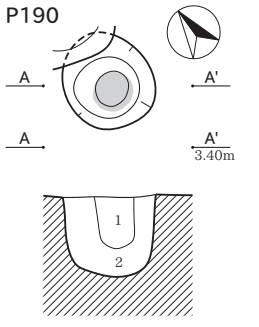
P184
 1 にぶい黄褐色シルト (10YR6/3) 粘性あり、しまり強い、炭化物を少量含む。
 2 灰色粘土 (10Y6/1) 粘性強い、しまりややあり、炭化物を少量含む、柱痕。
 3 にぶい黄褐色シルト (10YR6/4) 粘性あり、しまり強い。



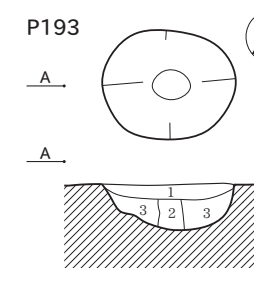
P185
 1 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。
 2 灰色粘土 (10Y6/1) 粘性強い、しまりややあり、炭化物を少量含む、柱痕。
 3 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性あり、しまり強い。



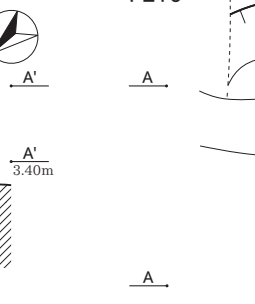
P186
 1 にぶい黄褐色シルト (10YR6/3) 粘性あり、しまり強い、炭化物を多量含む。
 2 灰黄褐色粘土 (10YR4/2) 粘性強い、しまりややあり、炭化物を少量含む、柱痕。
 3 にぶい黄褐色シルト (10YR6/4) 粘性あり、しまり強い。



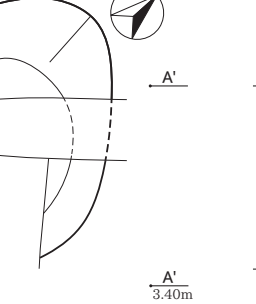
P190
 1 灰色粘土 (10Y6/1) 粘性強い、しまりややあり、炭化物を少量含む、柱痕。
 2 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。



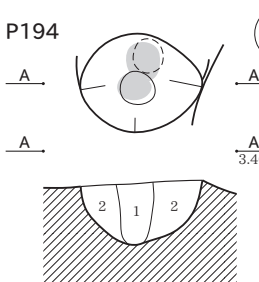
P193
 1 にぶい黄褐色シルト (10YR6/3) 粘性あり、しまり強い、炭化物を少量含む。
 2 灰色粘土 (10Y6/1) 粘性強い、しまりややあり、炭化物を少量含む、柱痕。
 3 にぶい黄褐色シルト (10YR6/4) 粘性あり、しまり強い。



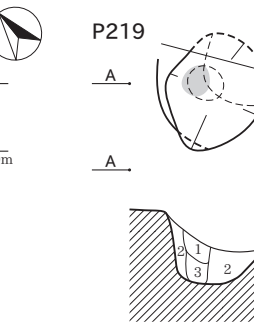
P210
 1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。



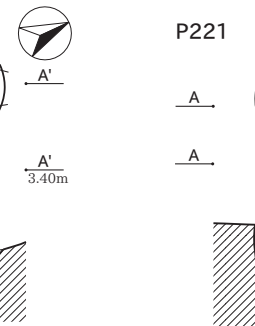
P212
 1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。



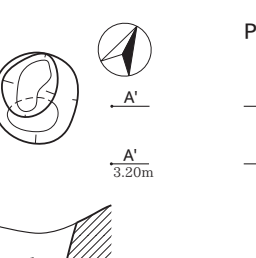
P194
 1 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む、柱痕。
 2 にぶい黄褐色シルト (10YR6/4) 粘性あり、しまり強い。



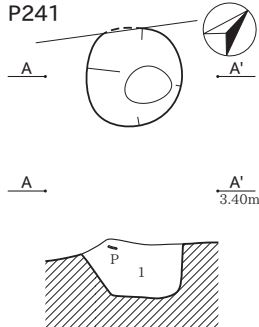
P219
 1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。
 2 にぶい黄褐色シルト (10YR6/3) 粘性あり、しまりあり。
 3 にぶい黄褐色シルト (10YR5/3) 粘性あり、しまりあり。



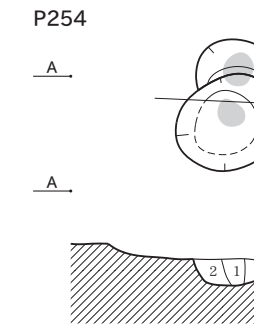
P221
 1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) しまりあり、粘性あり。炭化物を少量含む。



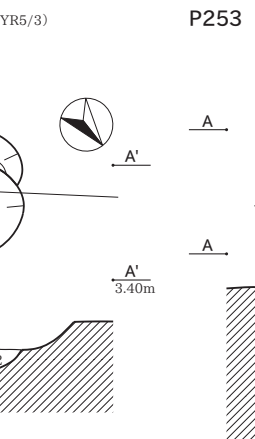
P222
 1 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性あり、しまりややあり、炭化物を少量含む、柱痕。
 2 褐灰色シルト (10YR6/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。



P241
 1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。

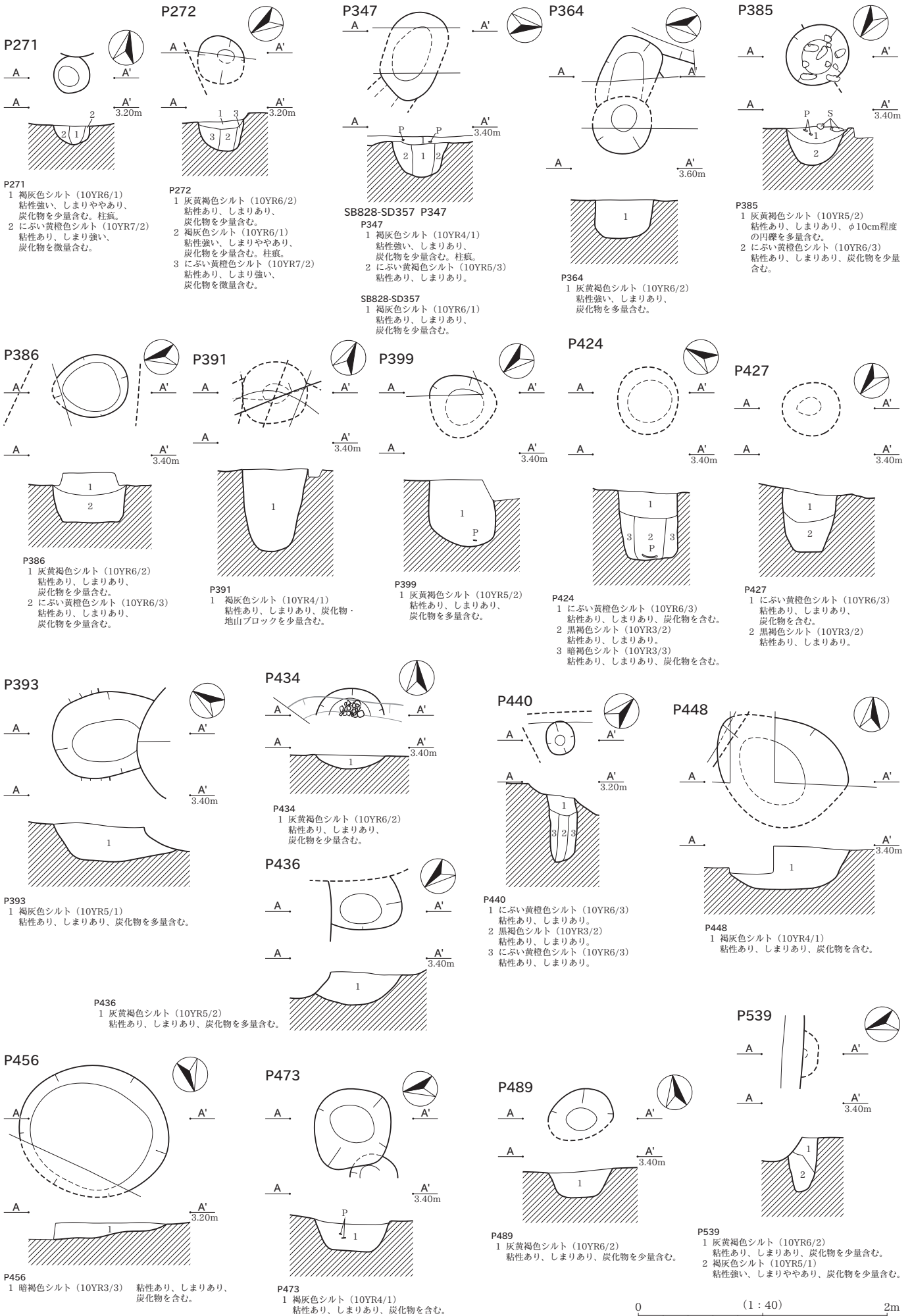


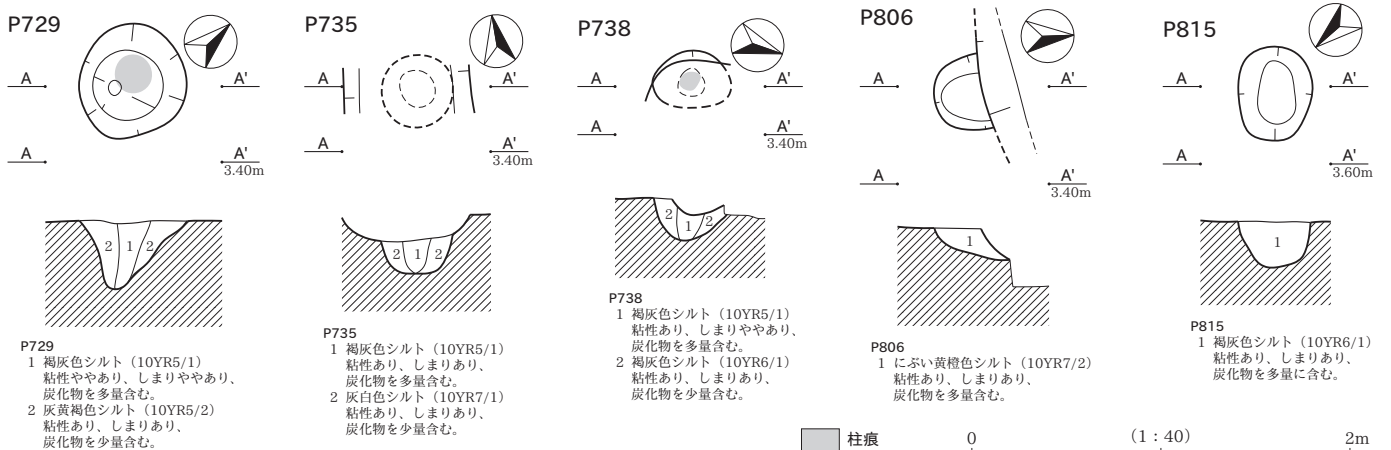
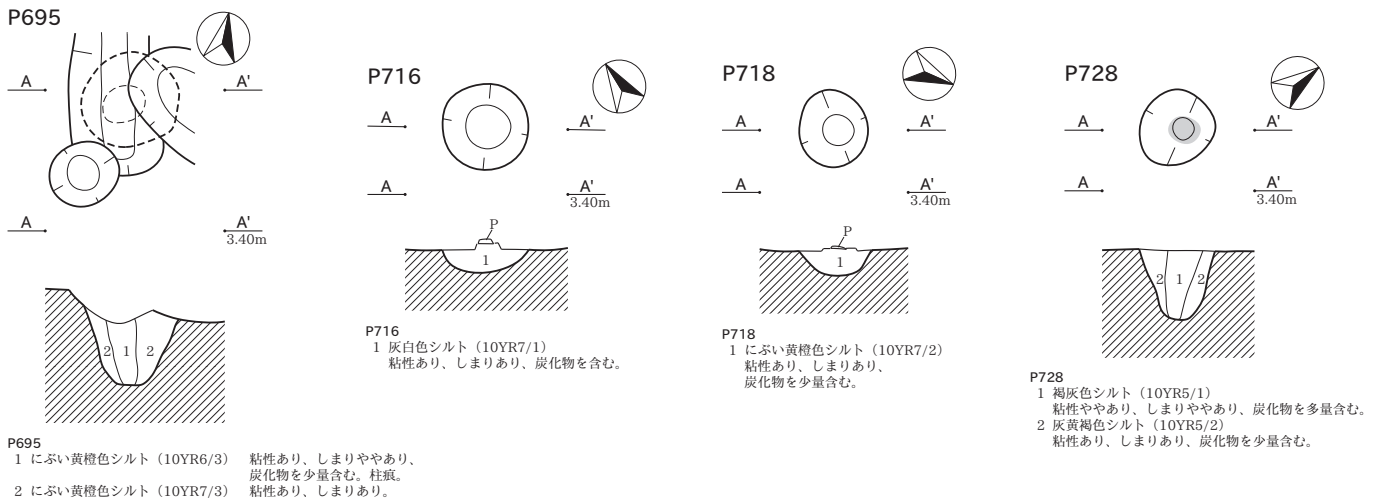
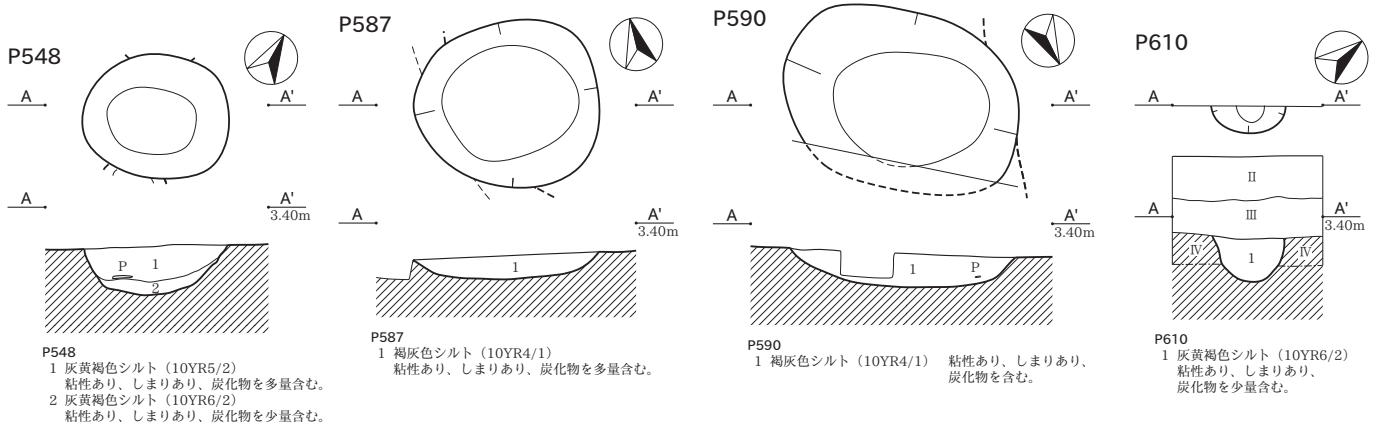
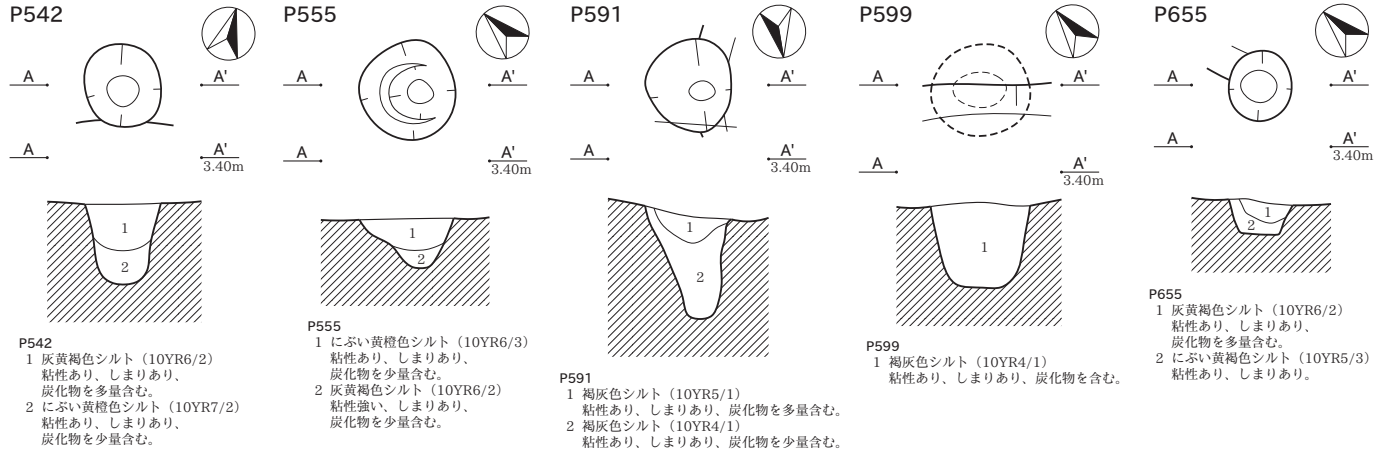
P254
 1 にぶい黄褐色シルト (10YR6/3) 粘性あり、しまりあり。
 2 にぶい黄褐色シルト (10YR6/4) 粘性あり、しまりあり。

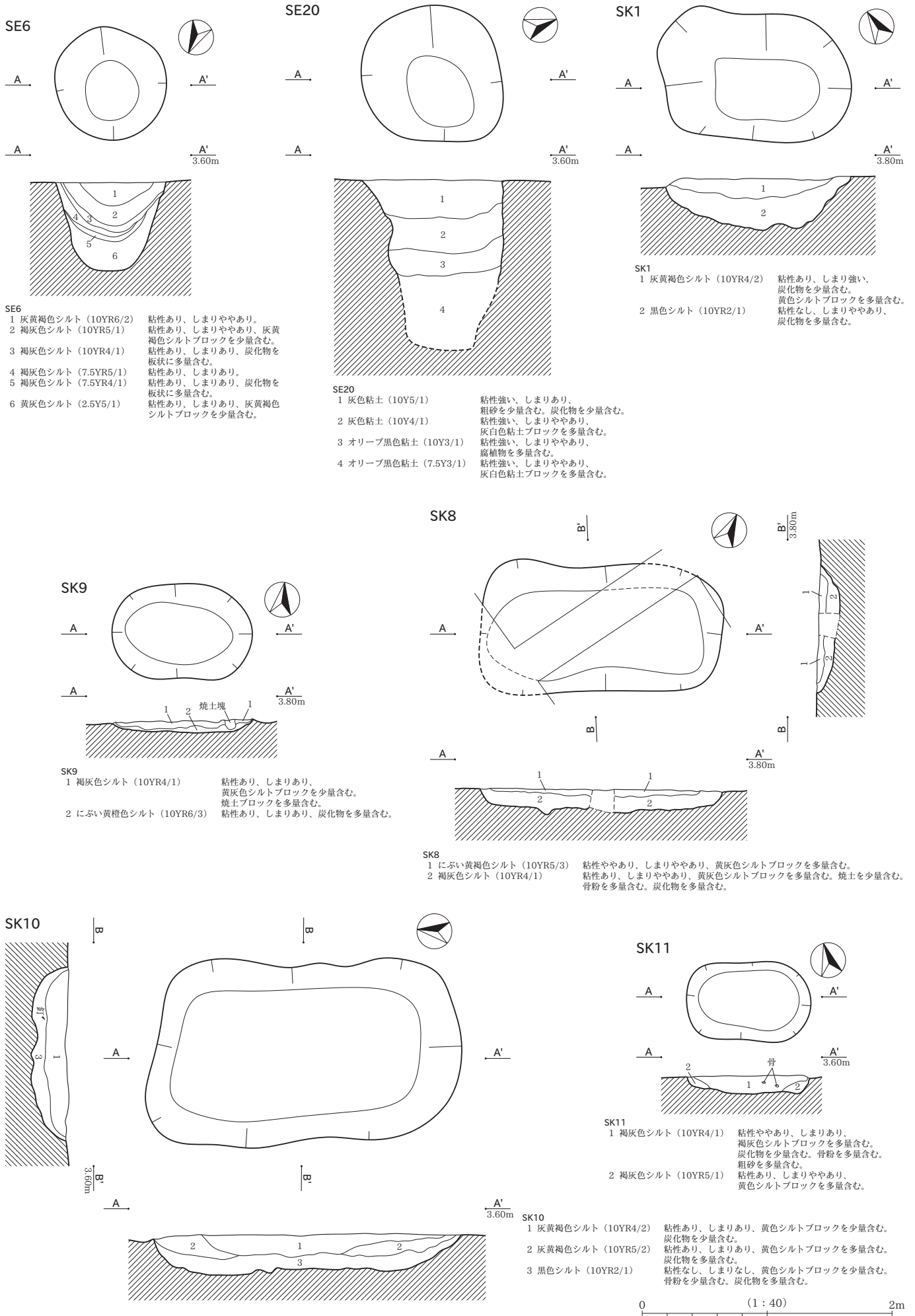


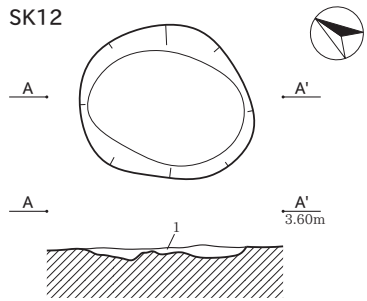
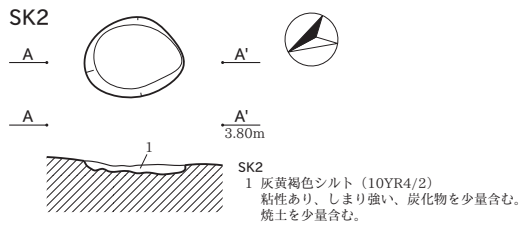
P253
 1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。
 2 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。
 3 にぶい黄褐色シルト (10YR6/3) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。
 4 にぶい黄褐色シルト (10YR6/4) 粘性あり、しまりあり。

柱痕

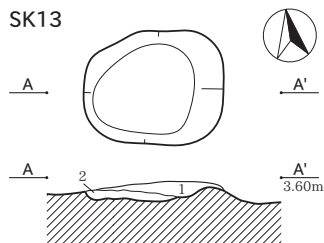




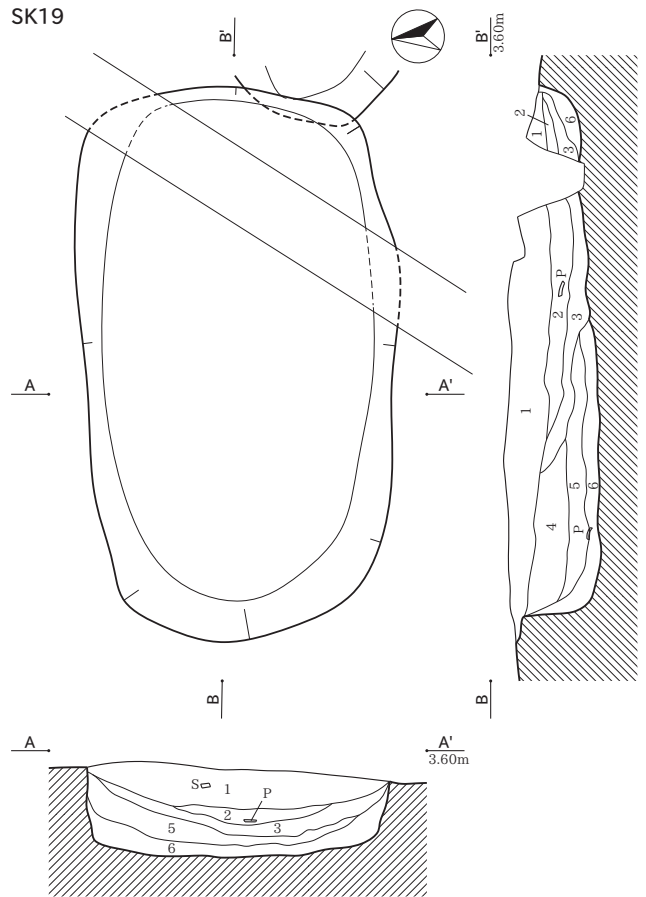




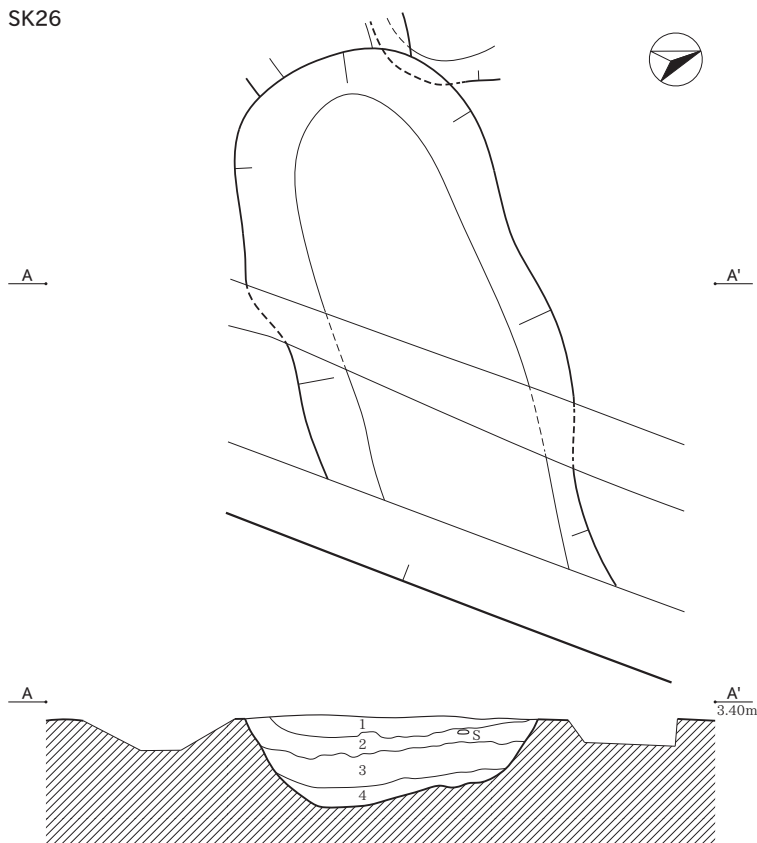
SK12
1 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性ややあり、しまりややあり、黄色粘土ブロックを少量含む。骨粉を多量含む。



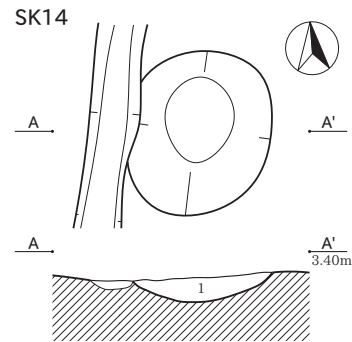
SK13
1 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性ややあり、しまりあり、黄色粘土ブロックを少量含む。
2 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性ややあり、しまりあり、黄色粘土ブロックを少量含む。



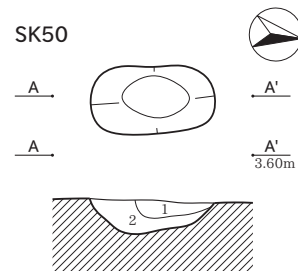
SK19
1 褐灰色シルト (10YR6/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。
2 褐灰色粘土 (10YR5/1) 粘性強い、しまりあり、炭化物を少量含む。灰色シルトブロックを少量含む。
3 褐灰色シルト (10YR4/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物を多量含む。灰色シルトブロックを少量含む。粗砂を多量含む。
4 黄灰色シルト (2.5Y6/1) 粘性あり、しまりあり、灰色シルトブロックを多量含む。
5 黄灰色粘土 (2.5Y5/1) 粘性強い、しまりあり、灰色粘土ブロックを少量含む。
6 黄灰色粘土 (2.5Y4/1) 粘性強い、しまりあり、灰色粘土ブロックを少量含む。



SK26
1 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物を微量含む。
2 褐灰色シルト (10YR6/1) 粘性あり、しまりあり、黄色粘土ブロックを多量含む。
3 褐灰色粘土 (10YR4/1) 粘性強い、しまりあり。
4 黒褐色粘土 (10YR3/1) 粘性強い、しまりあり、黄色シルトブロックを多量含む。

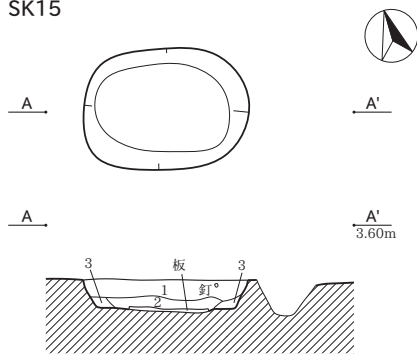


SK14
1 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性あり、しまりややあり、灰色シルトブロックを多量含む。



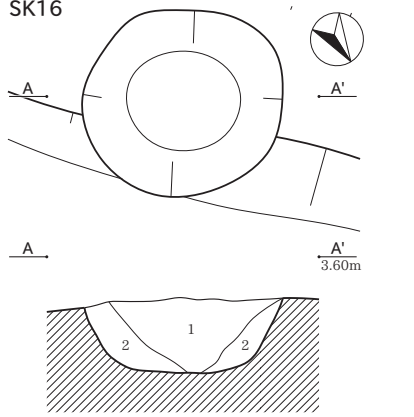
SK50
1 にぶい黄橙色シルト (10YR7/3) 粘性あり、しまりあり。
2 にぶい黄橙色シルト (10YR7/4) 粘性あり、しまりあり、地山ブロックを多量含む。

SK15



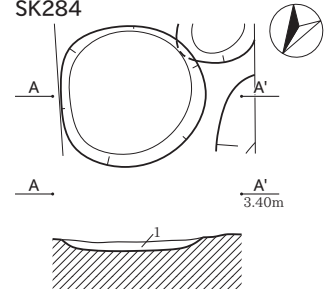
- SK15
 1 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性あり、しまりあり、黄色シルトブロックを多量含む。
 2 褐灰色粘土 (10YR4/1) 粘性強い、しまりあり。
 3 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性あり、しまりあり、褐灰色シルトブロックを多量含む。

SK16



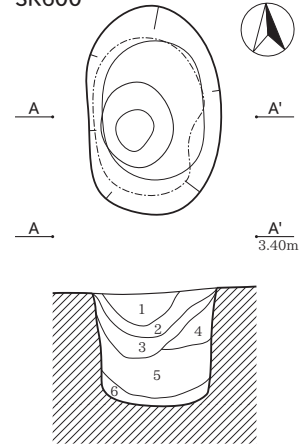
- SK16
 1 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性あり、しまりややあり、地山ブロックを多量含む。
 2 褐灰色シルト (10YR4/1) 粘性あり、しまりややあり、地山ブロックを多量含む。

SK284



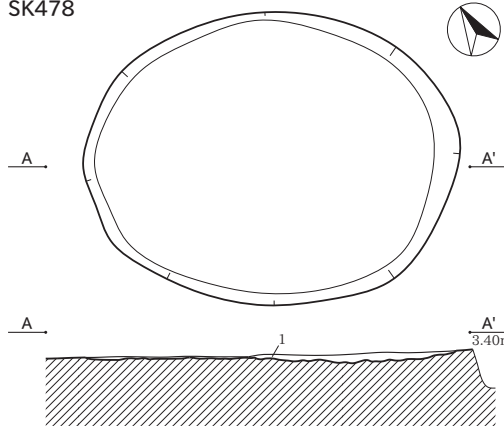
- SK284
 1 黒褐色粘質土 (10YR2/3) 粘性ややあり、しまりなし、炭化物を微量含む。

SK600



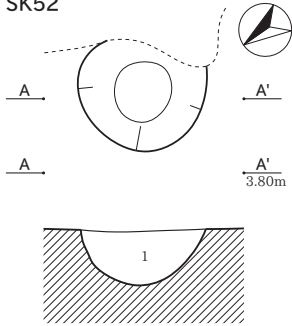
- SK600
 1 灰色シルト (7.5Y6/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。
 2 灰色シルト (7.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物を含む。
 3 黒色シルト (10YR1.7/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量に含む。
 4 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性あり、しまりあり、7.5Y6/1灰色土をブロック状に含む。
 5 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物を含む。
 6 灰色シルト (7.5Y6/1) 粘性あり、しまりあり、黒色粒子 (10YR1.7/1) を含む。

SK478



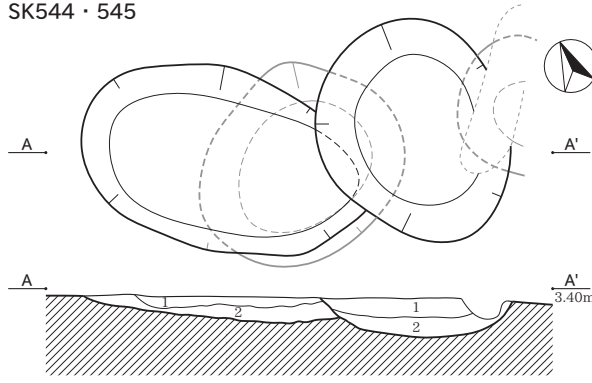
- SK478
 1 黒色シルト (10YR2/1) 粘性なし、しまりなし、炭化物を少量含む。

SK52



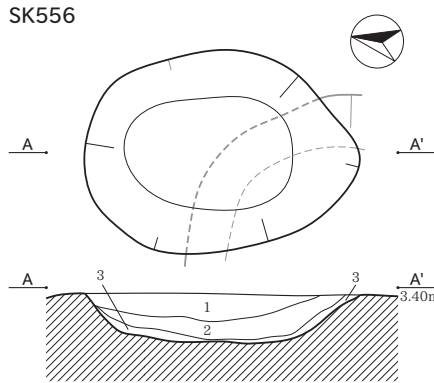
- SK52
 1 にぶい黄褐色シルト (10YR7/3) 粘性強い、しまりあり、地山ブロックを多量含む。

SK544・545



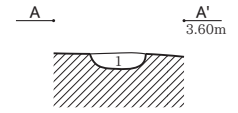
- SK544
 1 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。
 2 黒色シルト (10YR2/1) 粘性なし、しまりなし、炭化物を少量含む。
- SK545
 1 黒色シルト (10YR2/1) 粘性なし、しまりなし、炭化物を少量含む。
 2 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性なし、しまりあり、炭化物を少量含む。

SK556



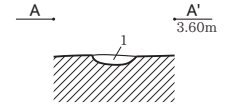
- SK556
 1 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性あり、しまり強い、炭化物を少量含む。黄色シルトブロックを多量含む。
 2 黒色シルト (10YR2/1) 粘性あり、しまりややあり、炭化物を多量含む。
 3 にぶい黄褐色シルト (10YR7/4) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SD17



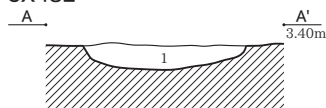
- SD17
 1 褐灰色シルト (10YR4/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SD18



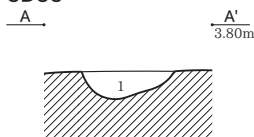
- SD18
 1 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

SX482



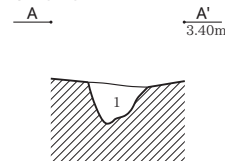
- SX482
 1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を多量含む。

SD55



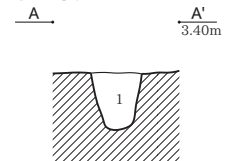
- SD55
 1 褐灰色シルト (10YR5/1) 粘性あり、しまりややあり、炭化物を少量含む。

SD343



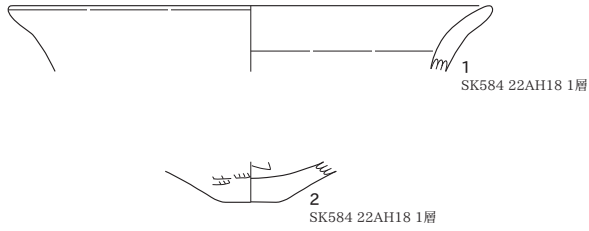
- SD343
 1 灰色粘質土 (5Y4/1) 粘性ややあり、しまりややなし、炭化物φ1~3mmを少量、φ5mm大をごく微量含む。オリブ黒色 (5Y3/1) 粘土をブロック状に中量含む。

SD480

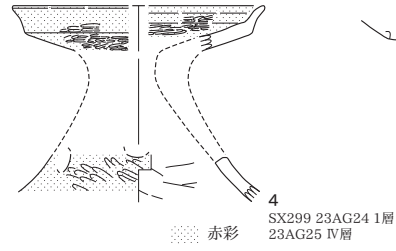


- SD480
 1 灰白色シルト (10YR7/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。

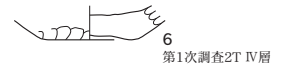
SK584 (1・2)



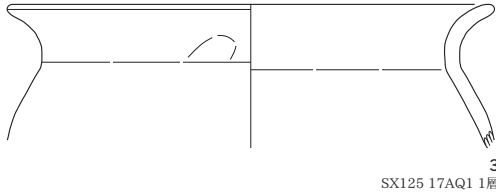
SX299 (4)



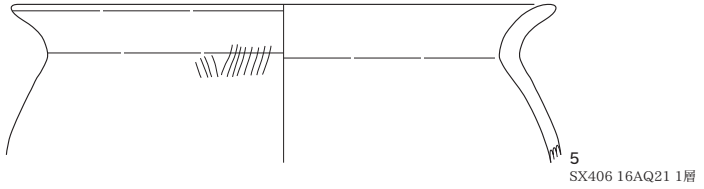
包含層 (6)



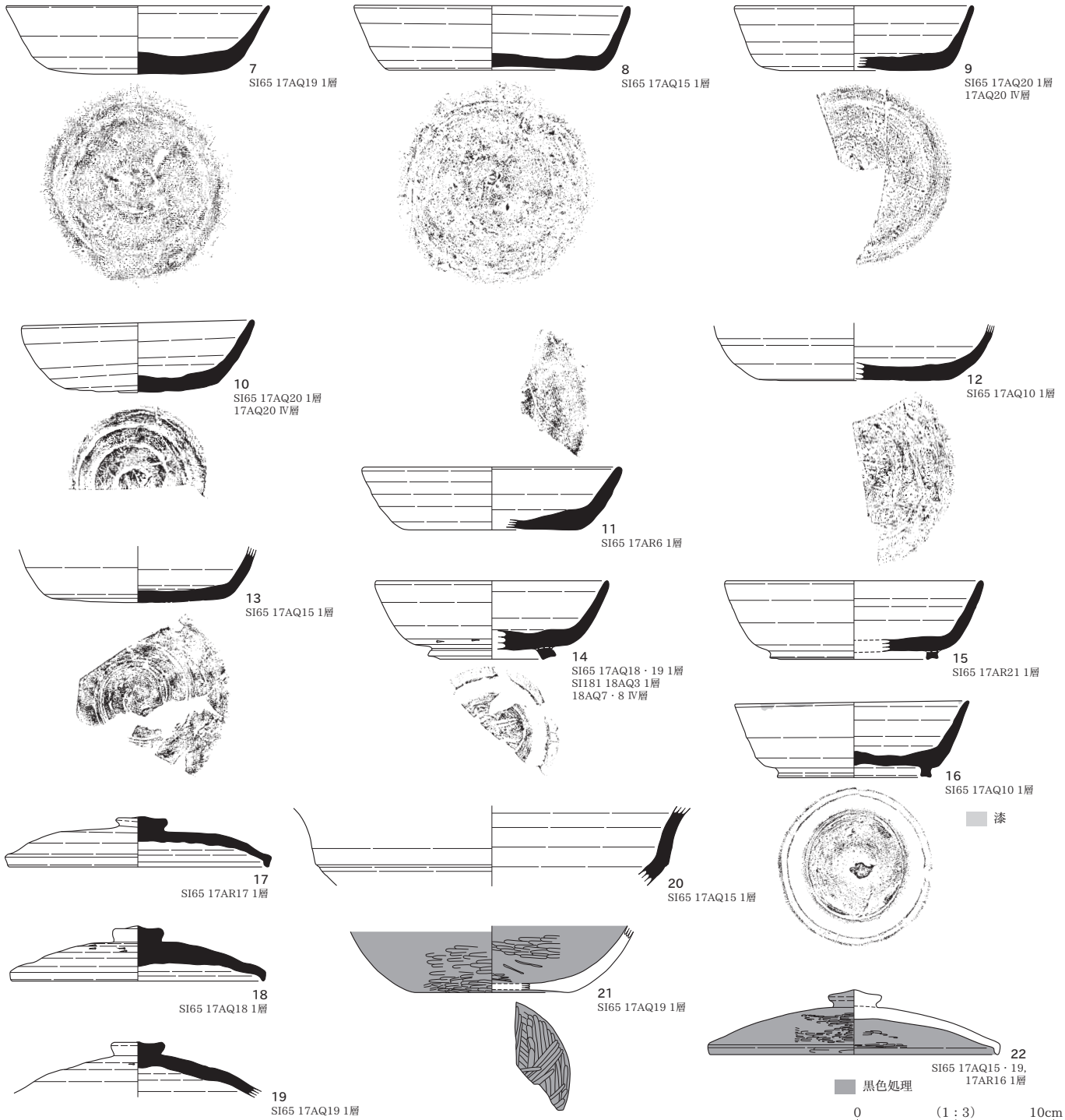
SX125 (3)



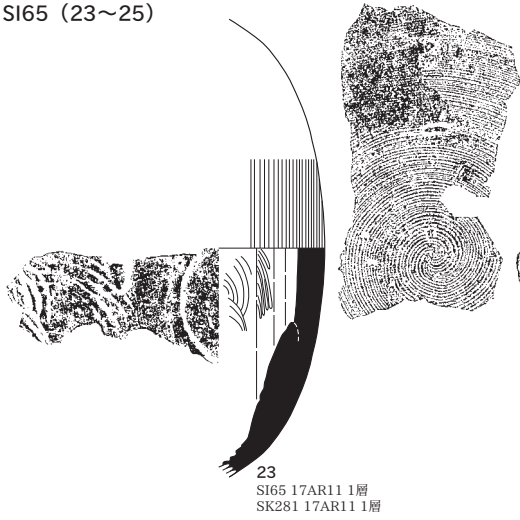
SX406 (5)



SI65 (7~22)



SI65 (23~25)

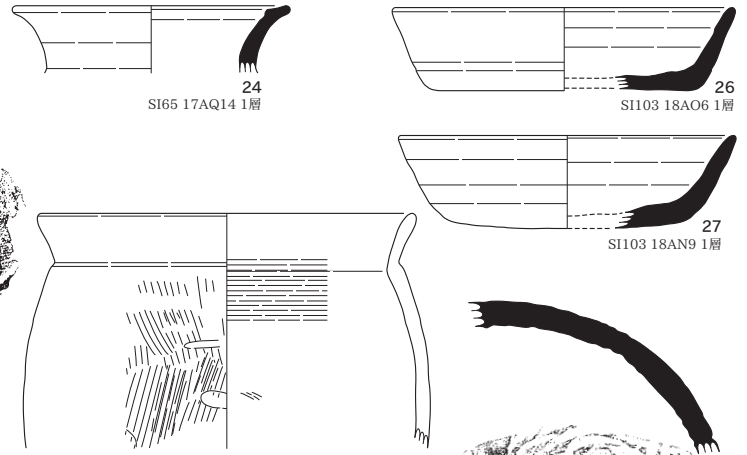


23
SI65 17AR11 1層
SK281 17AR11 1層

24
SI65 17AQ14 1層

25
SI65 17AQ15 1層

SI103 (26~32)

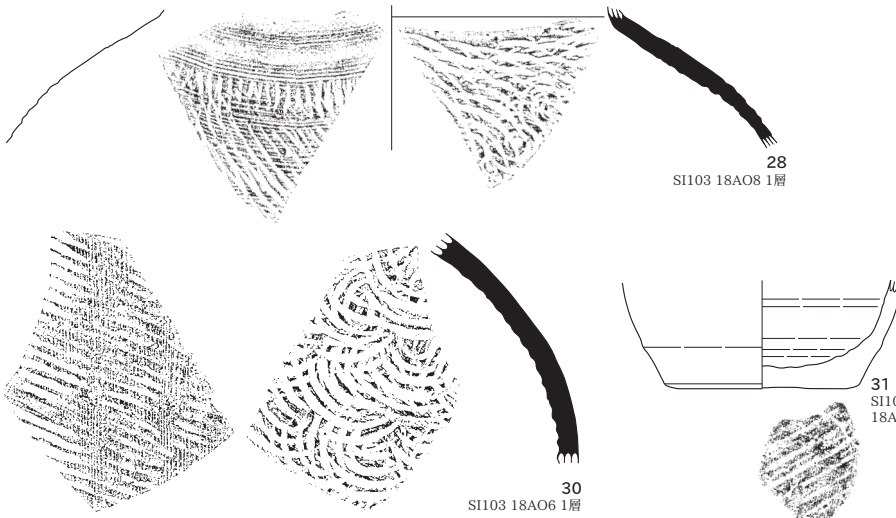


26
SI103 18AO6 1層

27
SI103 18AN9 1層

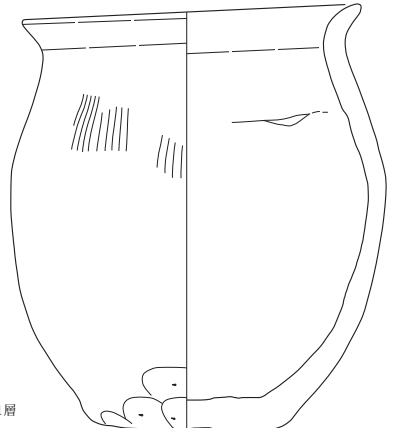
28
SI103 18AO8 1層

29
SI103
18AO13
1層



30
SI103 18AO6 1層

31
SI103
18AO2 1層



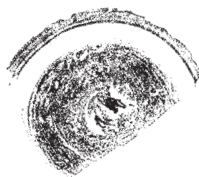
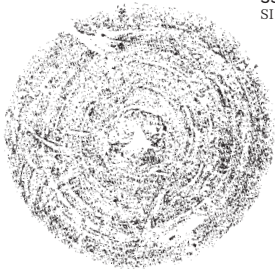
32
SI103
18AO1・6~8・
12 1層
SI103 18AO1 1層
18AO3・8・12 IV層

SI103-焼土114 (33・34)

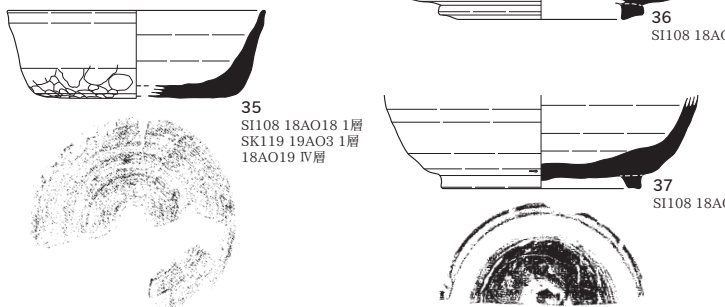


33
SI103-焼土114 18AO1 2層

34
SI103-焼土114 18AO1 1層



SI108 (35~39)

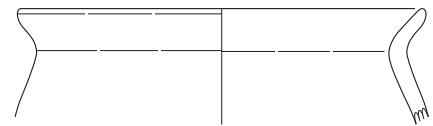


35
SI108 18AO18 1層
SK119 19AO3 1層
18AO19 IV層

36
SI108 18AO18 1層

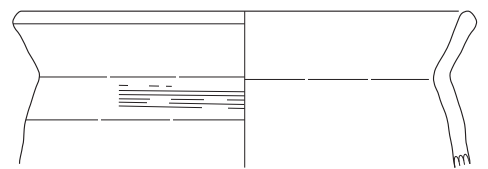
37
SI108 18AO14 1層

38
SI108 18AO19 1層
18AO15 IV層



39
SI108 18AO9 1層

SI108-焼土211 (40)

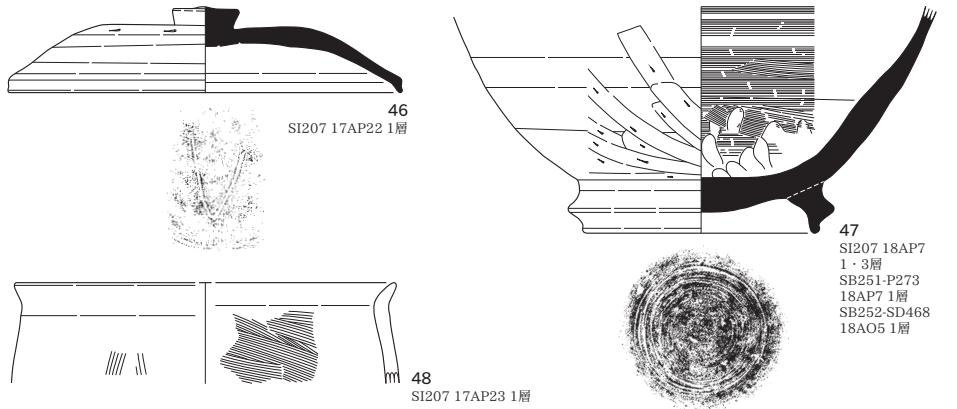


40
SI108-焼土211 18AO8 2層

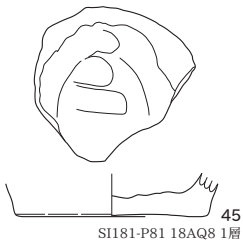
SI181 (41~44)



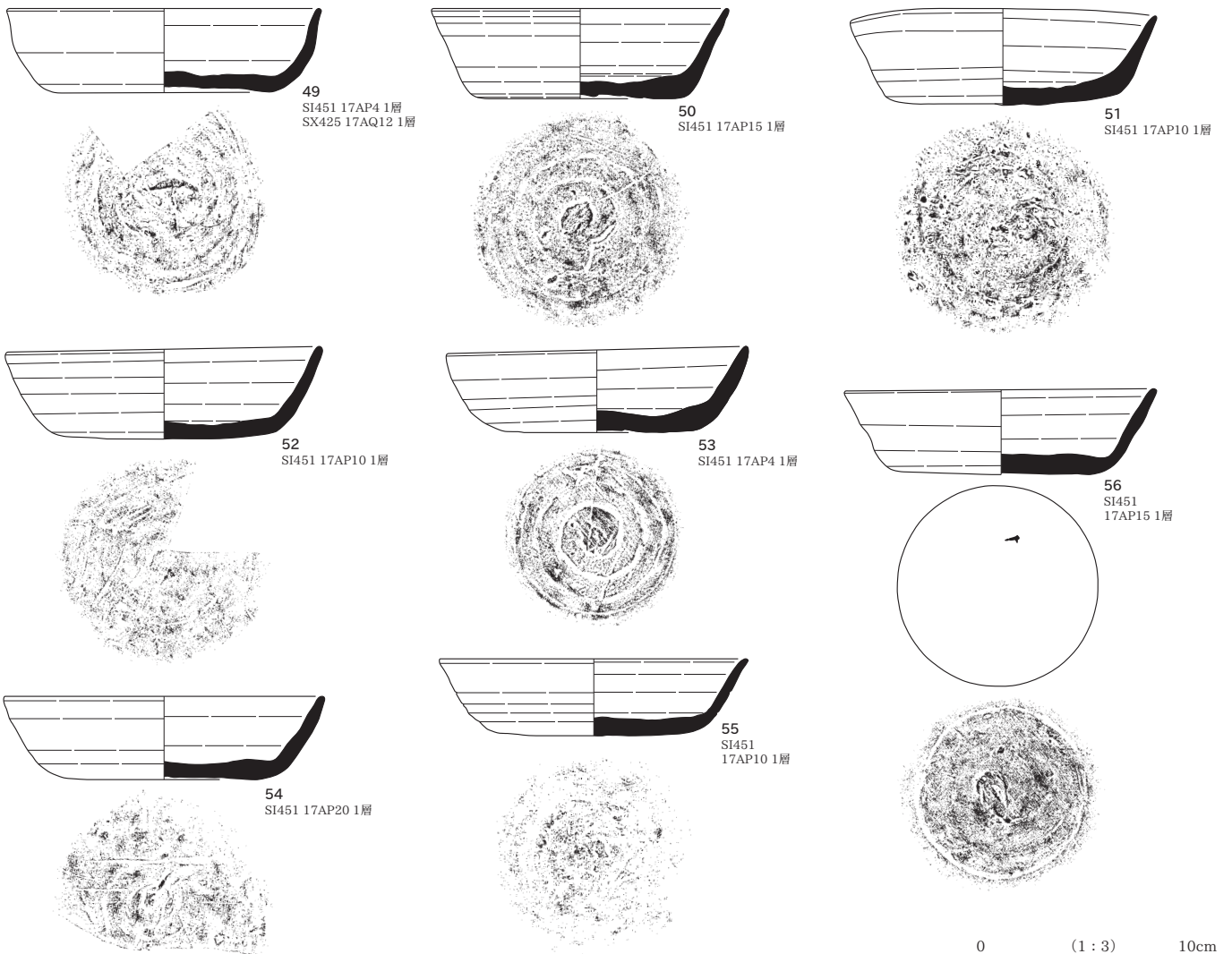
SI207 (46~48)



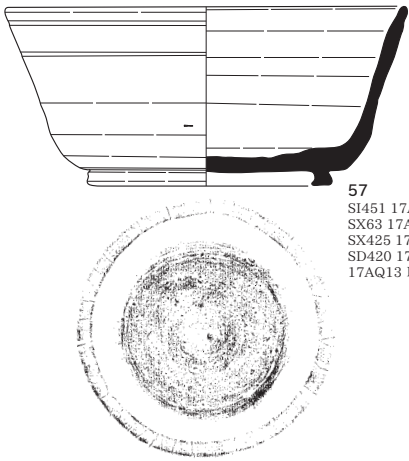
SI181-P81 (45)



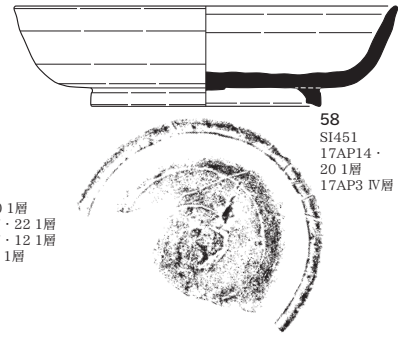
SI451 (49~56)



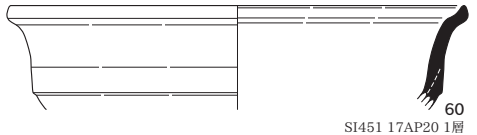
SI451 (57~70)



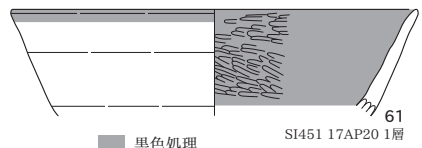
57
SI451 17AP20 1層
SX63 17AQ17・22 1層
SX425 17AQ7・12 1層
SD420 17AP3 1層
17AQ13 IV層



58
SI451 17AP14・20 1層
17AP3 IV層

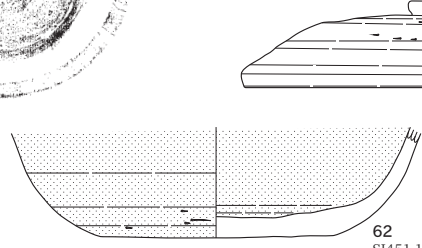


60
SI451 17AP20 1層



■ 黒色処理

61
SI451 17AP20 1層

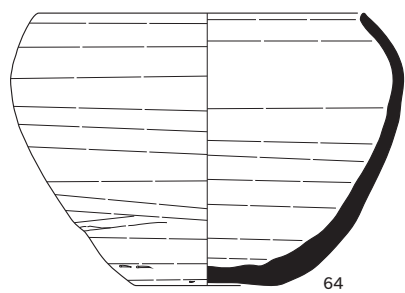


● 赤彩

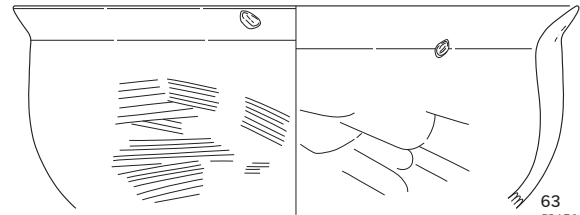
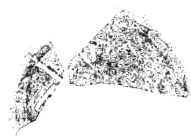
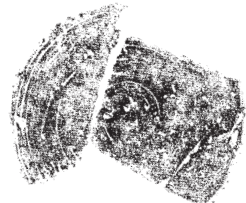
62
SI451 17AP9・10 1層



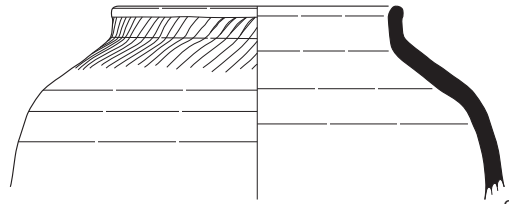
59
SI451 17AQ6 1層
SX63 17AQ16 1層
17AQ16 IV層



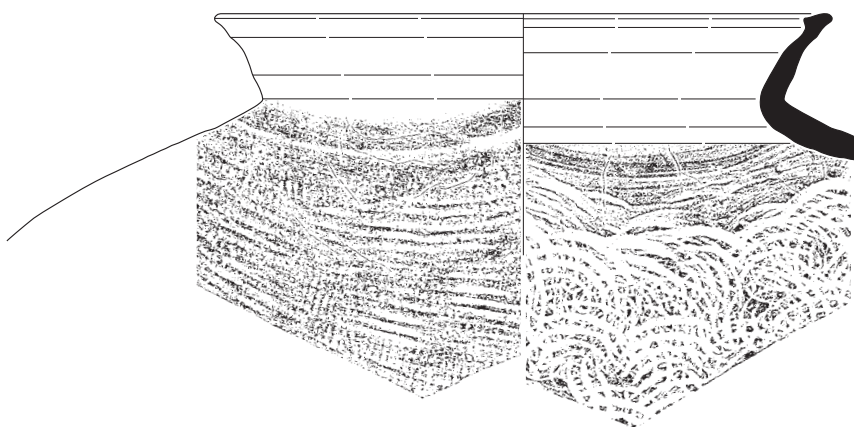
64
SI451 17AP14 1層
SK94 18AP5 1層
SK460 17AP15 1層
SK472 16AP10 1層
SD420 16AP8・9 2層
15AP22・23, 17AQ12・16・20 IV層
17AP15 カクラン



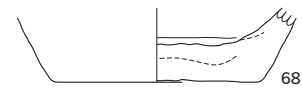
63
SI451 17AP5 1層



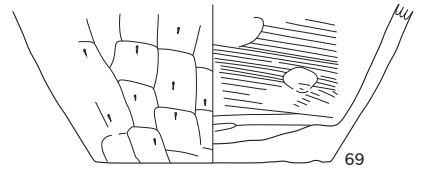
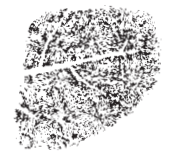
65
SI451 17AP10 1層
SB251-SK68 18AP13 1層
20AP6 IV層



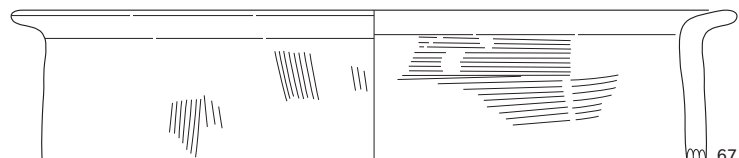
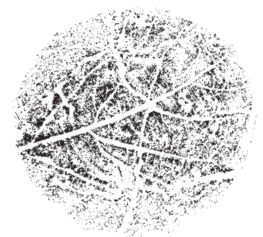
66
SI451 17AP20 1層



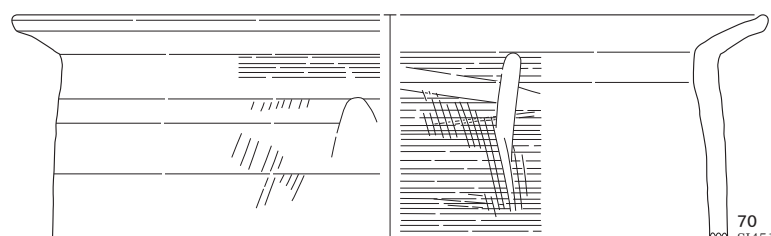
68
SI451 17AP4 1層



69
SI451 17AP20 1層
SX63 17AP20 1層



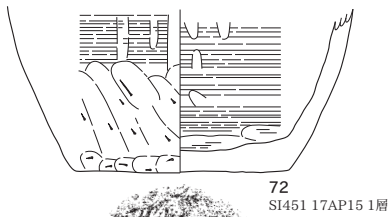
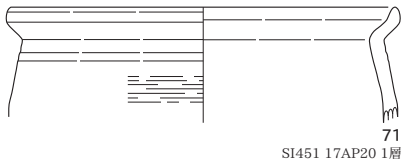
67
SI451 17AP10 1層



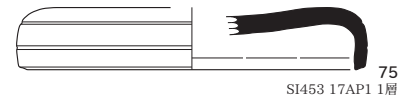
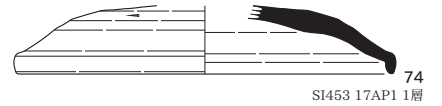
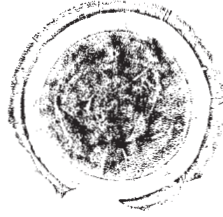
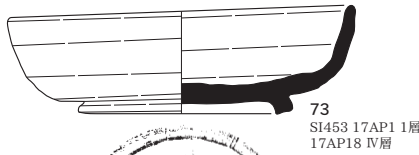
70
SI451 17AP15 1層

0 (1:3) 10cm

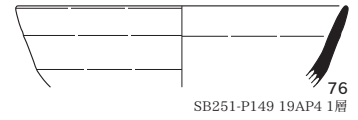
SI451 (71・72)



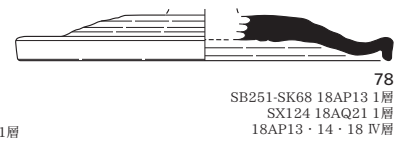
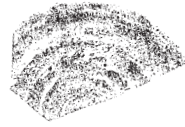
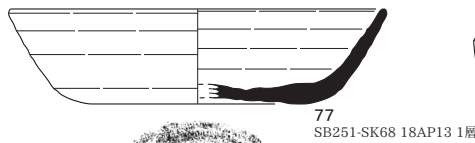
SI453 (73~75)



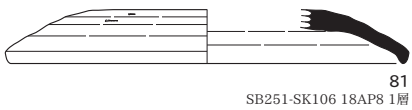
SB251-P149 (76)



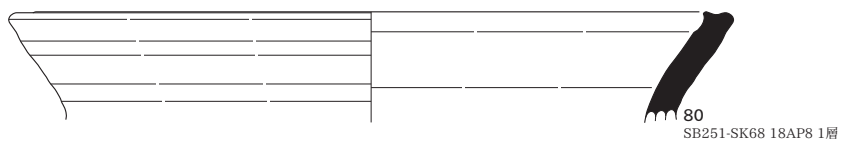
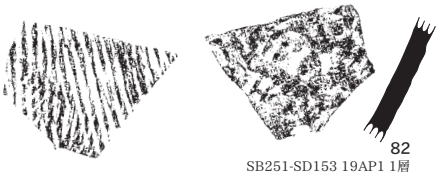
SB251-SK68 (77~80)



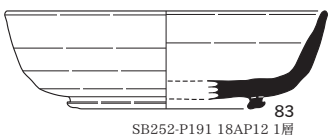
SB251-SK106 (81)



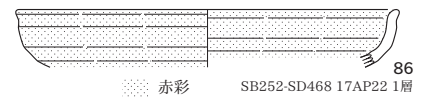
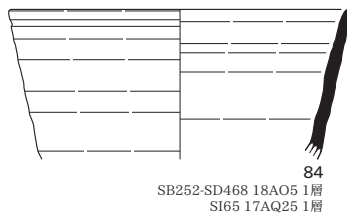
SB251-SD153 (82)



SB252-P191 (83)



SB252-SD468 (84~86)



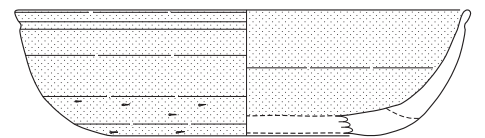
SB252-SK136 (87)



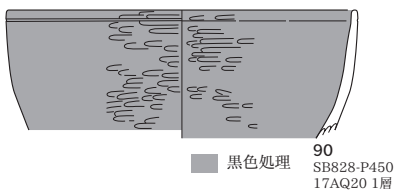
SB828-P366 (88)



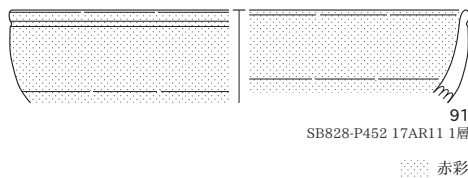
SB828-P383 (89)



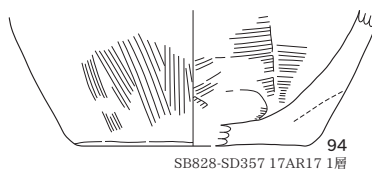
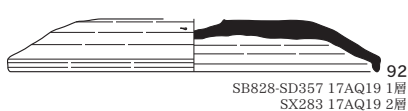
SB828-P450 (90)



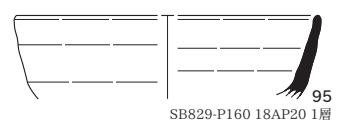
SB828-P452 (91)



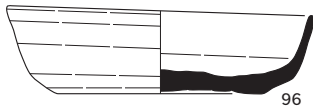
SB828-SD357 (92~94)



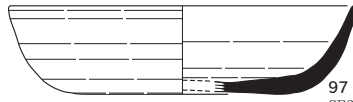
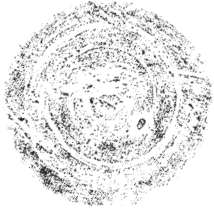
SB829-P160 (95)



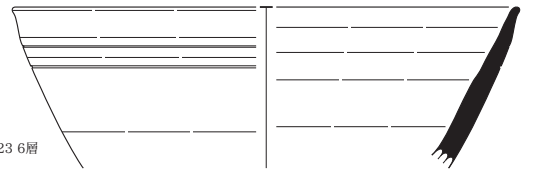
SE278 (96~102)



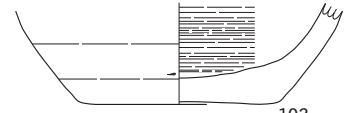
96
SE278 17AQ22 3層



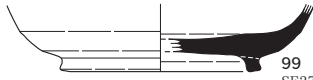
97
SE278 17AQ23 6層



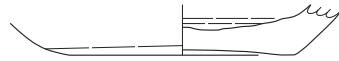
98
SE278 17AQ22 5層



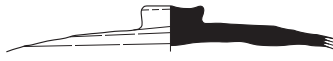
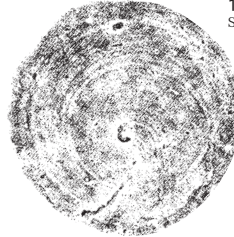
102
SE278 17AQ23 3層



99
SE278 17AQ22 3層

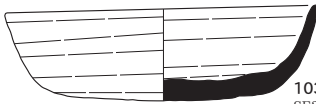


101
SE278 17AQ22 3層

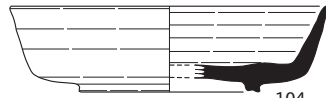
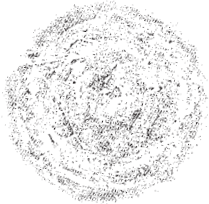


100
SE278 17AQ23 3層

SE388 (103~105)



103
SE388 17AQ13 1層
SX283 17AQ14 1層



104
SE388 17AQ13 1層

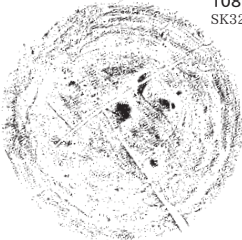


105
SE388 17AQ13 1層
SK350 17AQ13 1層
SK356 16AQ24 1層
SX283 17AQ13 2層

SK32 (108)



108
SK32 22AN17・22 2層



SK29 (106)



106
SK29 22AM25 2層

SK30 (107)

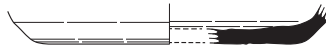


107
SK30 22AM25 1層

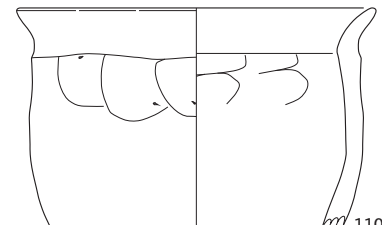


■ 黒色処理

SK48 (109~111)



109
SK48 21AO4 1層

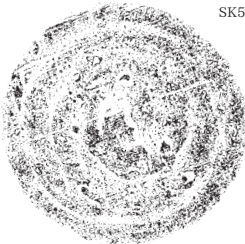


110
SK48 21AO3・4 1層
SK26 21AO4 3層

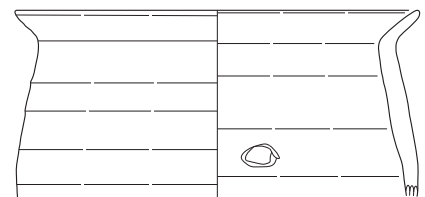
SK53 (112~115)



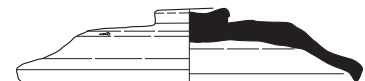
112
SK53 23AM23 1層



115
SK53 23AM19 1層
23AM18 IV層

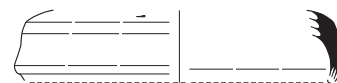


111
SK48 21AO3 1層

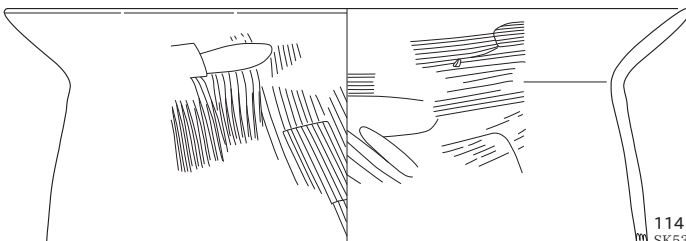


113
SK53 23AM23 1層

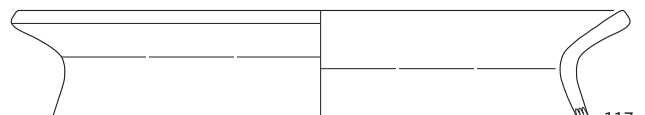
SK74 (116・117)



116
SK74 19AP12 1層

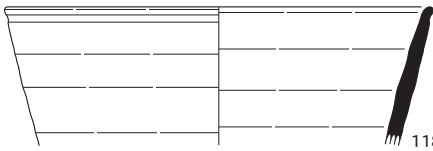


114
SK53 23AM19・23 1層

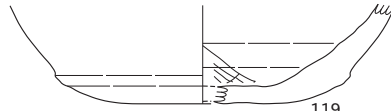


117
SK74 19AP16 1層

SK79 (118・119)

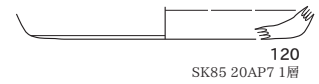


118
SK79 19AQ6 1層



119
SK79
19AQ6・7 1層

SK85 (120)

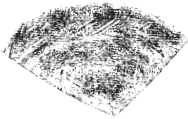


120
SK85 20AP7 1層

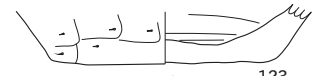
SK90 (121~123)



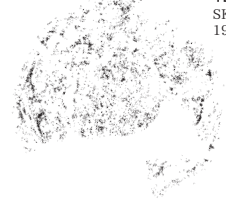
121
SK90 19AO1 1層



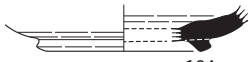
122
SK90 19AO1 1層



123
SK90 19AO1 1層
19AO6 IV層

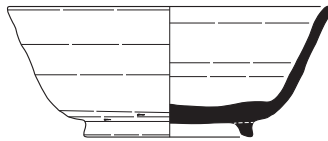


SK104 (124)

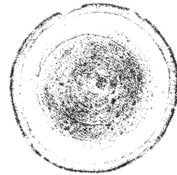


124
SK104 18AP15 1層

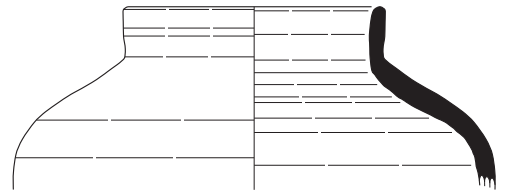
SK107 (125)



125
SK107 18AP8 1層

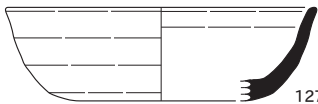


SK118 (126)

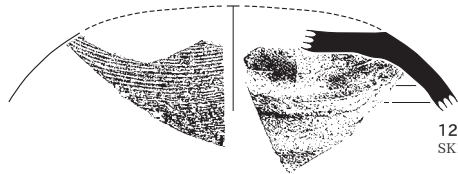


126
SK118 19AO15 1層
19AP3・13・19 IV層

SK131 (127・128)

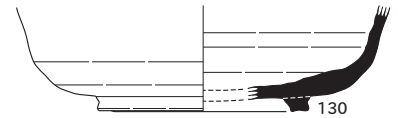


127
SK131 17AP24,18AP5 1層



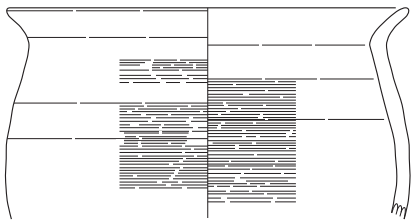
128
SK131 18AP5 1層

SK145 (130・131)



130
SK145 18AQ19 1層

SK139 (129)

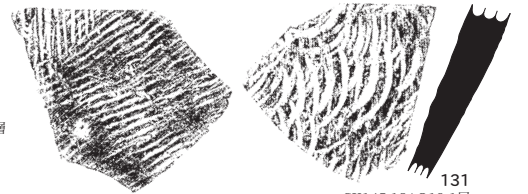
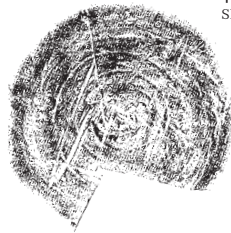


129
SK139 18AQ21,19AQ1 1層
SK79 19AQ1 1層
19AQ1 IV層

SK146 (132)



132
SK146 19AO20 1層



131
SK145 18AQ19 1層

SK215 (135)



135
SK215 17AP23 1層

SK182 (134)



SK166 (133)

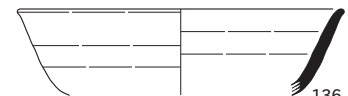


133
SK166 18AP21 2層



134
SK182 19AN3 1層

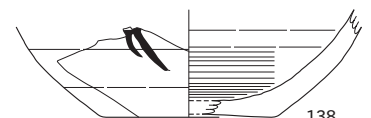
SK220 (136~138)



136
SK220 17AP17 1層

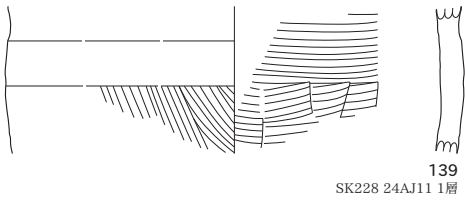


137
SK220 17AP17 1層
SK102 18AQ11 1層

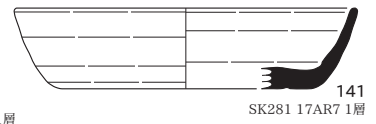
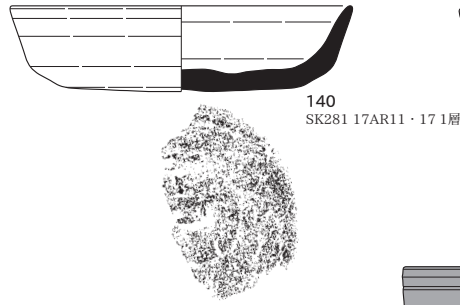


138
SK220 17AP17 1層
17AP18,18AQ17 IV層

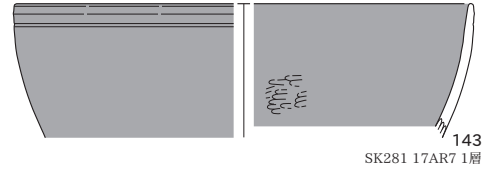
SK228 (139)



SK281 (140~143)

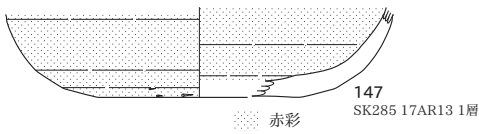
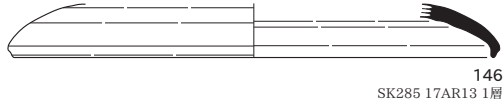


SK282 (144)

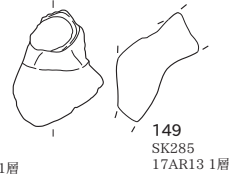
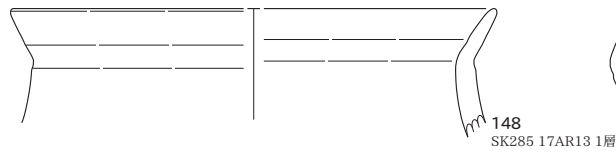


■ 黒色処理

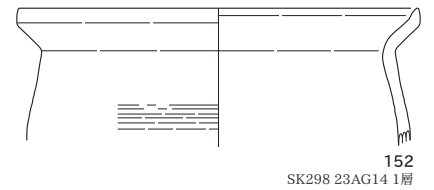
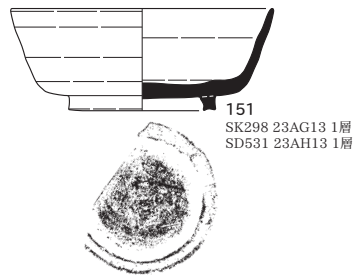
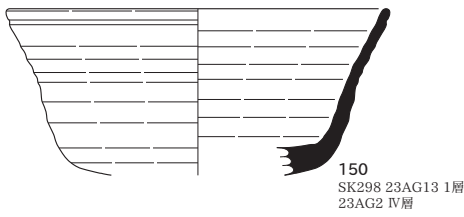
SK285 (145~149)



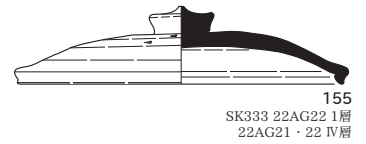
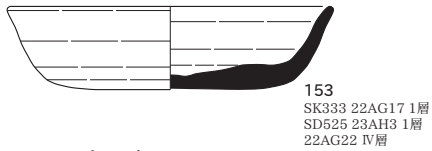
● 赤彩



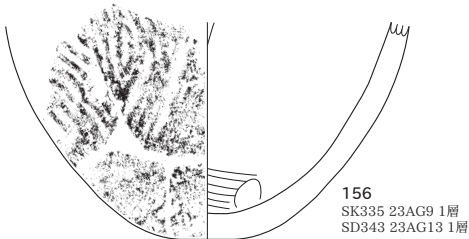
SK298 (150~152)



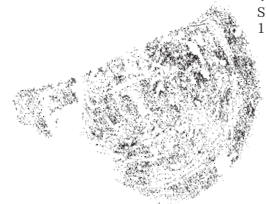
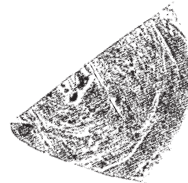
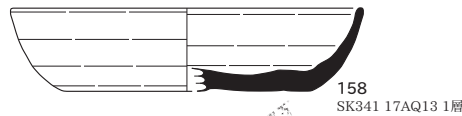
SK333 (153~155)



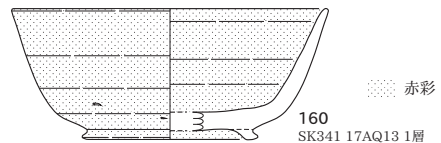
SK335 (156)



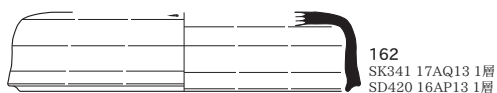
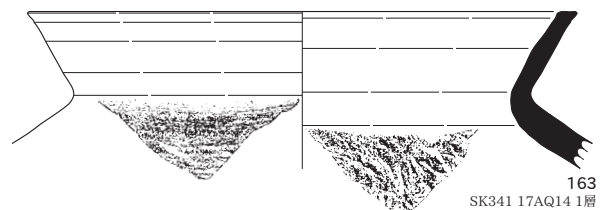
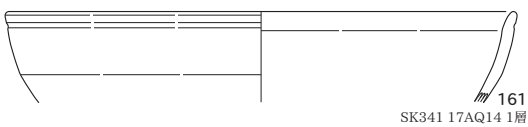
SK341 (158~163)



SK336 (157)

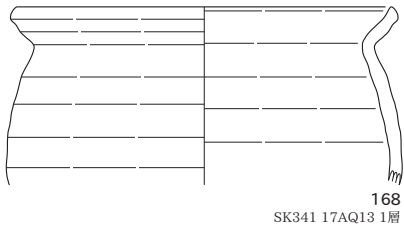
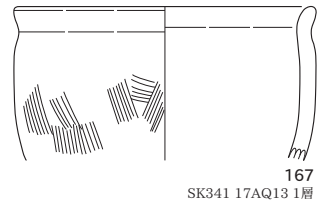
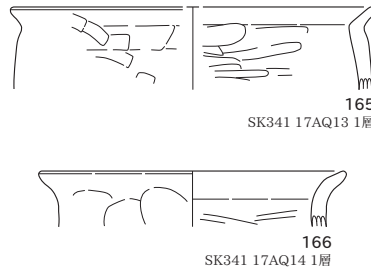
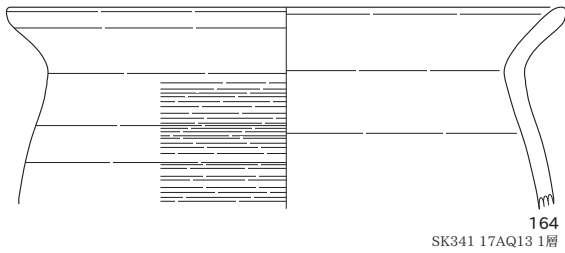


● 赤彩

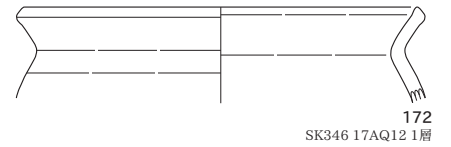
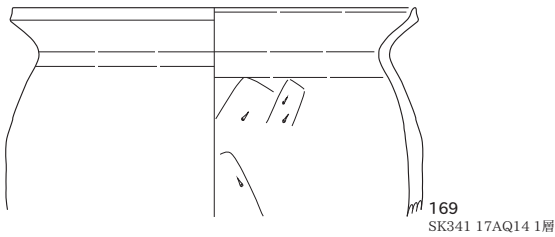


0 (1:3) 10cm

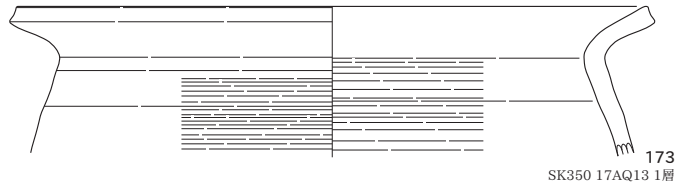
SK341 (164~169)



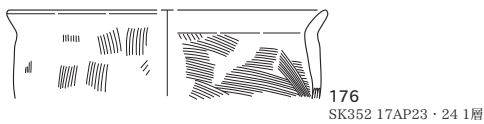
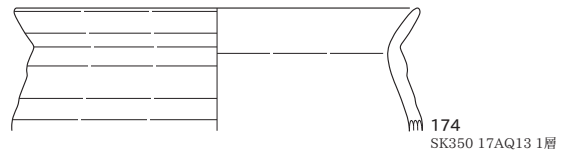
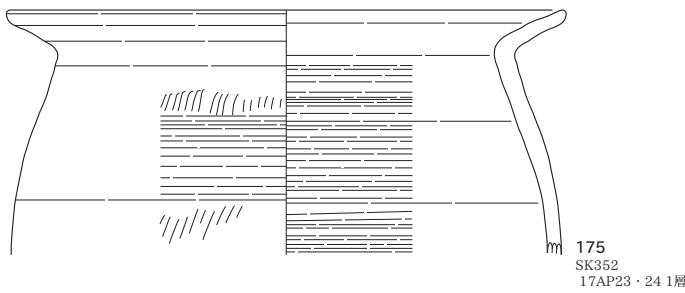
SK346 (170~172)



SK350 (173 · 174)



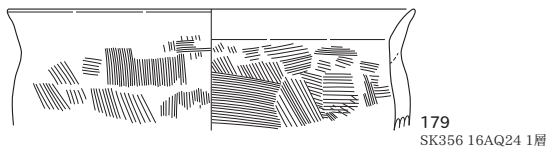
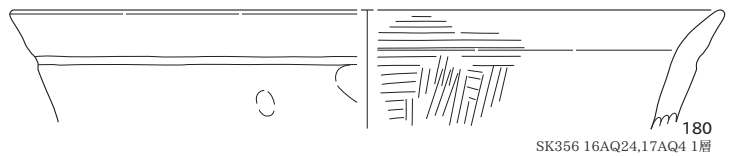
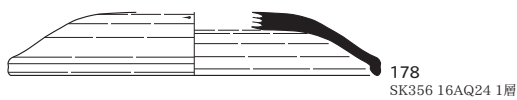
SK352 (175 · 176)



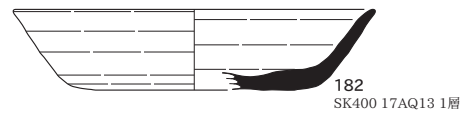
SK353 (177)



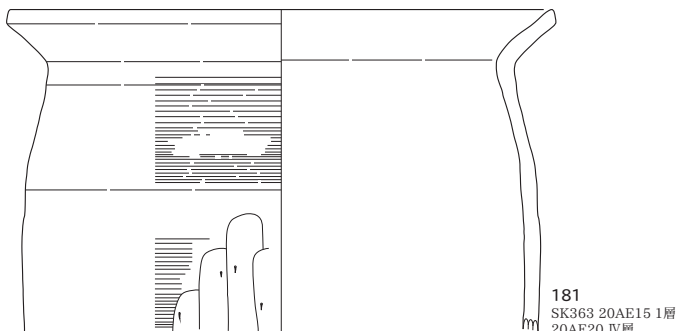
SK356 (178~180)



SK400 (182)



SK363 (181)



SK413 (183)



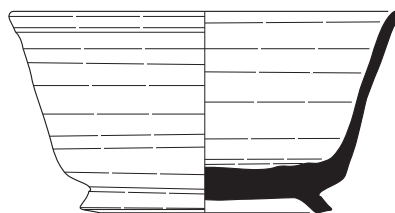
SK419 (184~194)



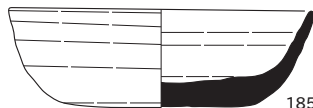
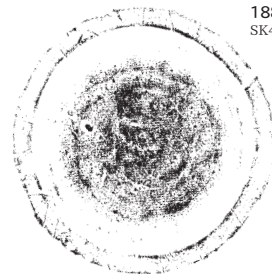
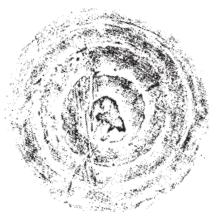
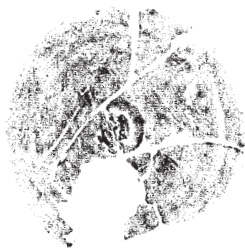
184
SK419 18AM1 2層



186
SK419 18AM2 1層
SK419 18AM1・2 2層
18AM2 IV層



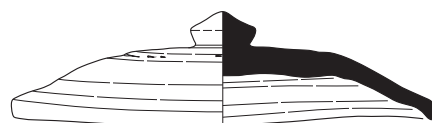
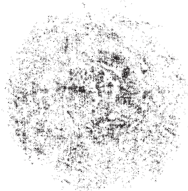
188
SK419 18AM1・2 2層



185
SK419 18AM1 2層



187
SK419 18AM1 2層



191
SK419 18AM1 2層



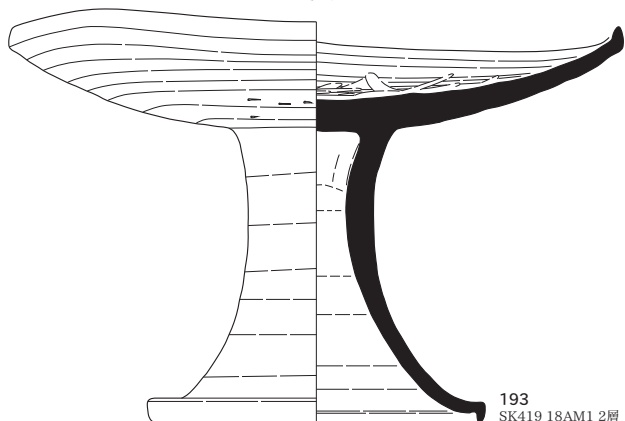
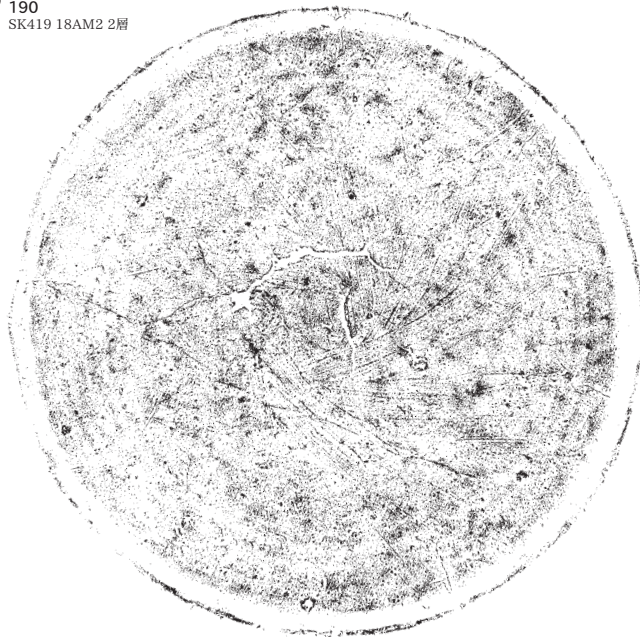
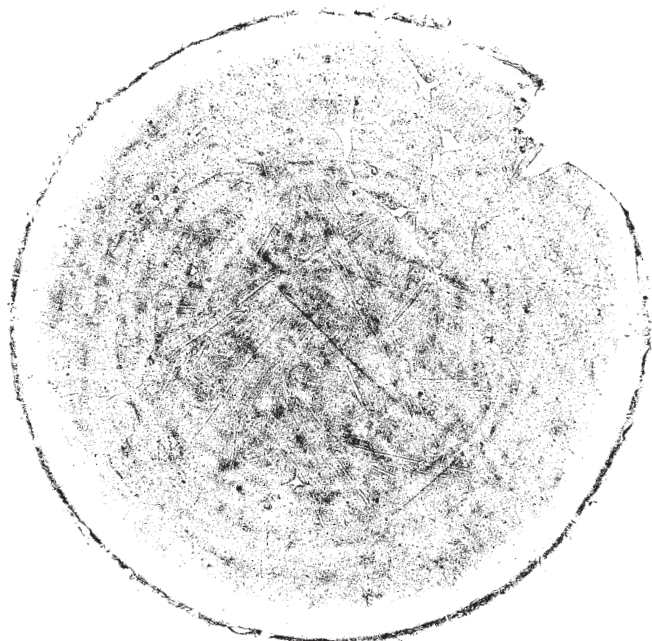
189
SK419 18AM2 2層



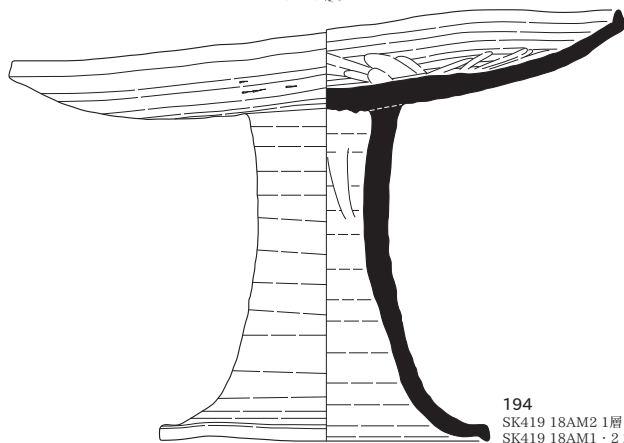
192
SK419 18AM1 2層



190
SK419 18AM2 2層

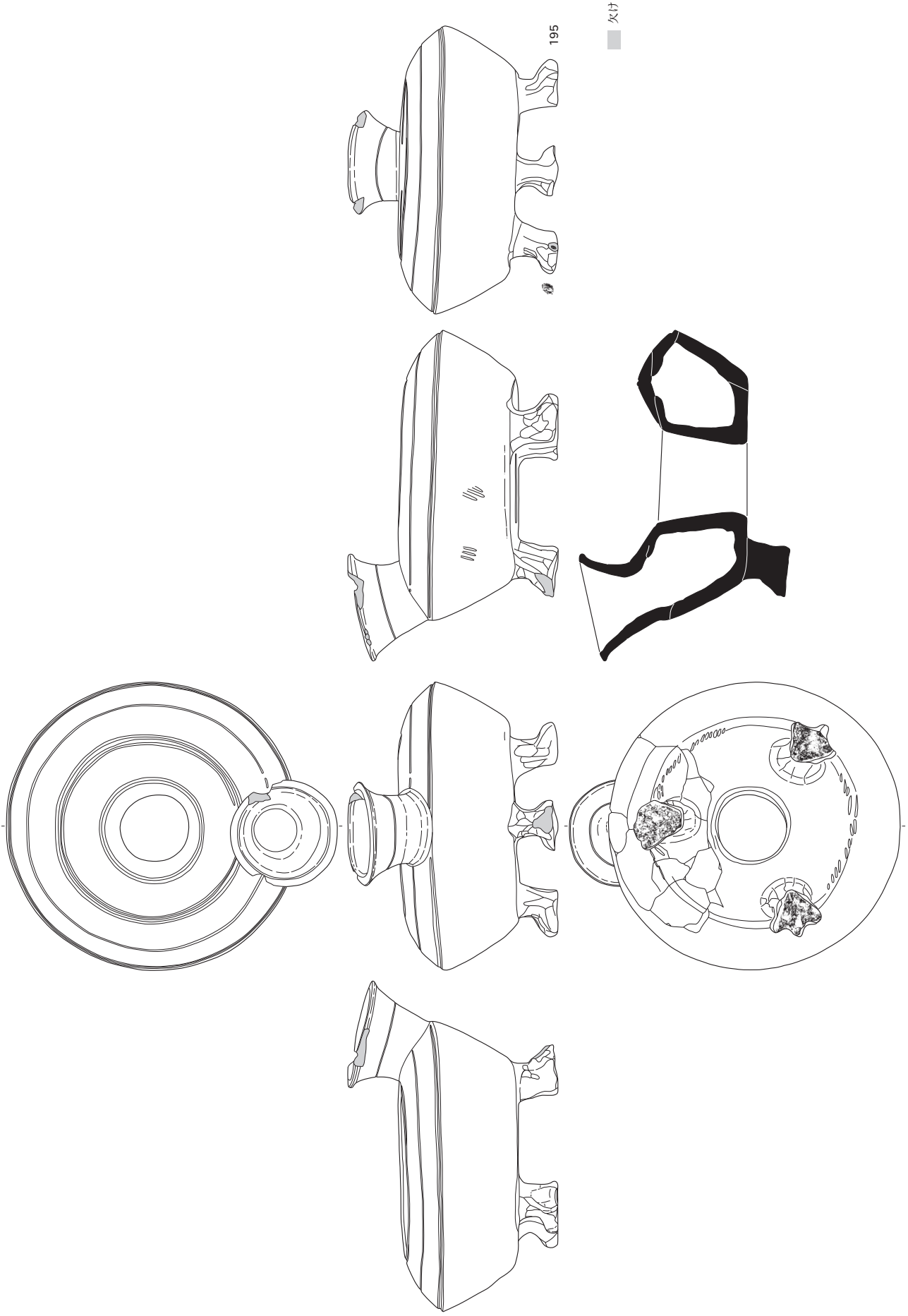


193
SK419 18AM1 2層

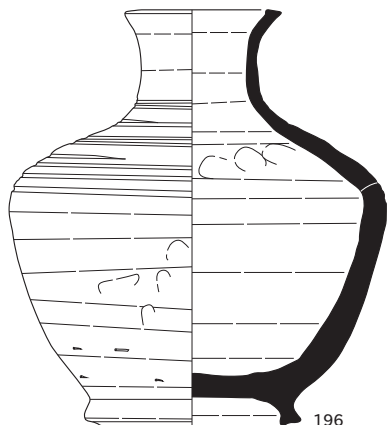


194
SK419 18AM2 1層
SK419 18AM1・2 2層

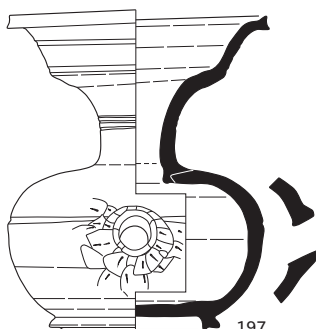
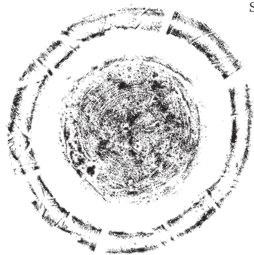
SK419 (195)



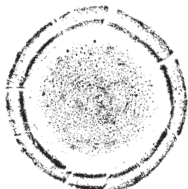
SK419 (196~204)



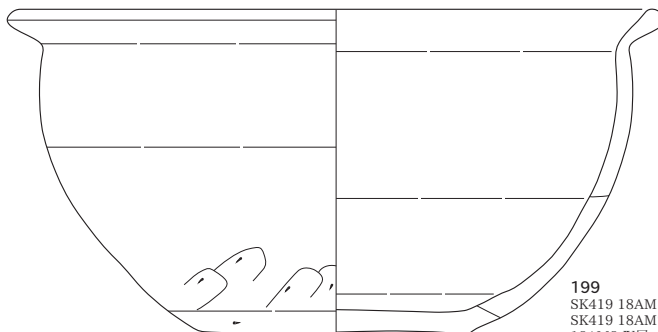
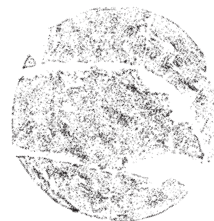
196
SK419 18AM1 2層



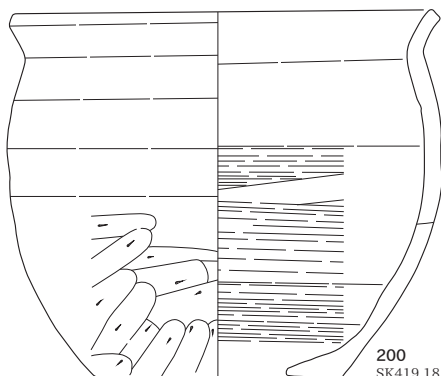
197
SK419 18AM1 2層



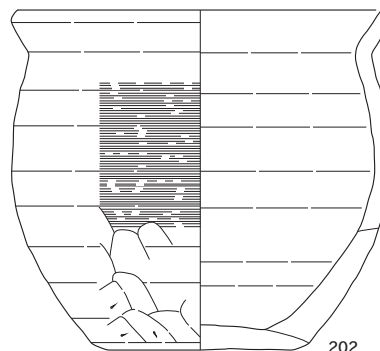
198
SK419 18AM1・2・6・7
1・2層
18AM8 4層



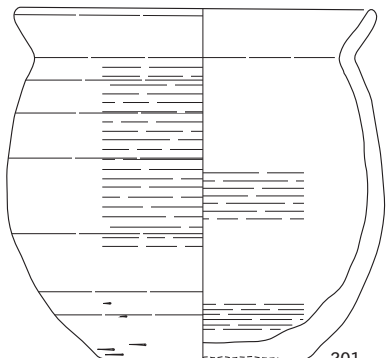
199
SK419 18AM1 1層
SK419 18AM7 2層
18AM8 4層



200
SK419 18AM2 2層



202
SK419 18AM2 2層

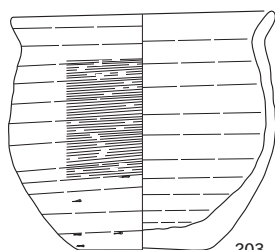


201
SK419 18AM1 2層

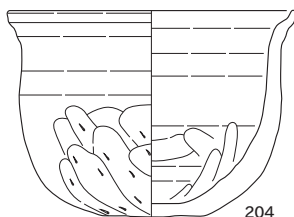
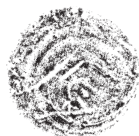
SK444 (205~207)



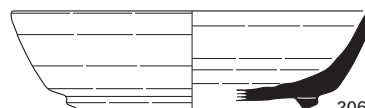
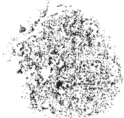
205
SK444 17AQ15 1層



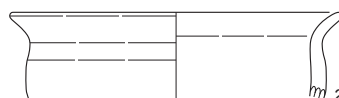
203
SK419 18AM1 1・2層



204
SK419 18AM1 2層



206
SK444 17AQ10 1層

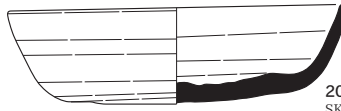
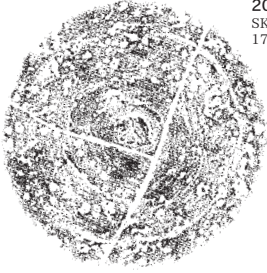


207
SK444 17AQ15 1層

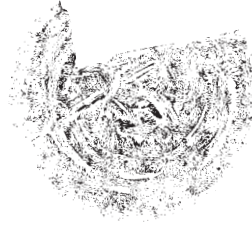
SK455 (208~218)



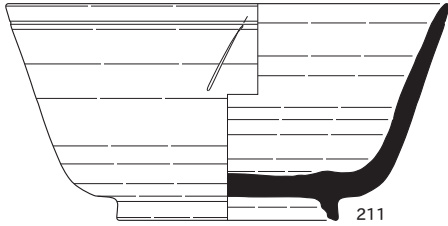
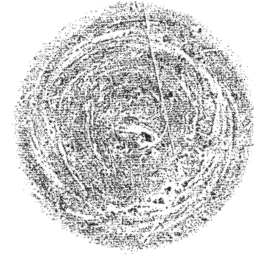
208
SK455
17AP15・20 1層



209
SK455
17AP20 1層
SI451
17AP20 1層



210
SK455
17AP20 1層



211
SK455 17AP14・20 1層
SI451 17AP4 1層
SI207 18AP3 1層
SK352 17AP23 1層
SD420 16AP18,17AP3 1層



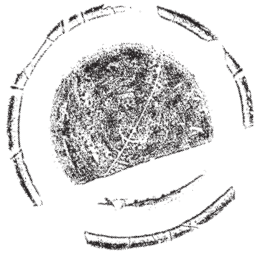
212
SK455 17AP14 1層



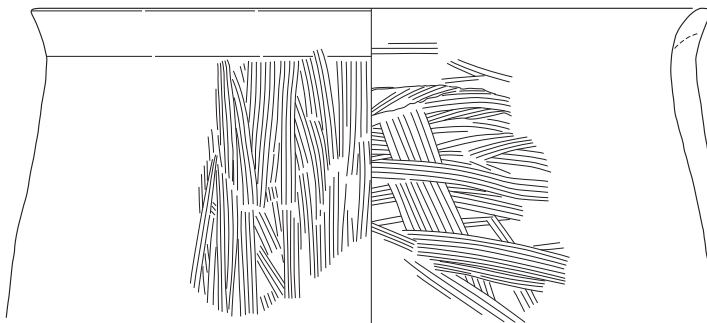
213
SK455 17AP15 1層



216
SK455
17AP15・20 1層



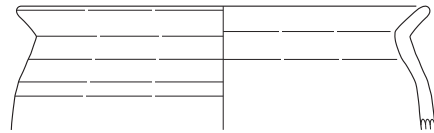
214
SK455 17AP20 1層



215
SK455 17AP20 1層



217
SK455 17AP20 1層

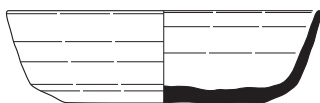
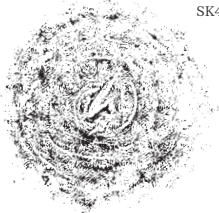


218
SK455 17AP14・19 1層

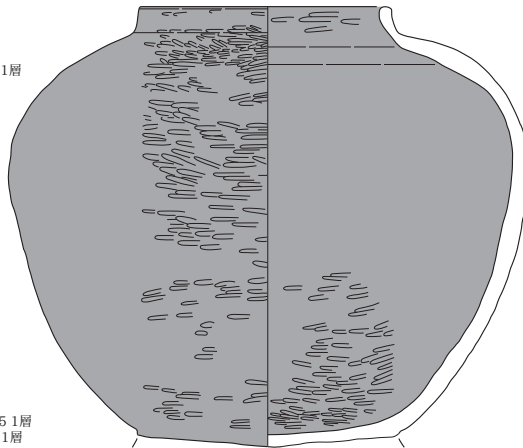
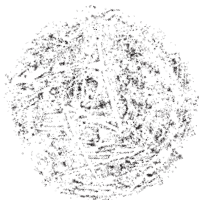
SK460 (219~221)



219
SK460 17AP15 1層



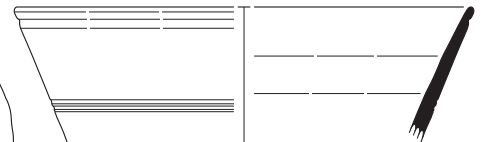
220
SK460 17AP15 1層
P590 16AP19 1層
17AP10 IV層



221
SK460 17AP15 1層
SI451 17AP15 1層
17AQ11 IV層
17AP15 カクラン

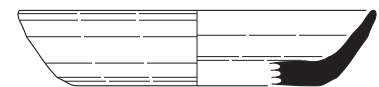
■ 黒色処理

SK462 (222)

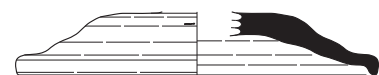


222
SK462 17AP18 1層

SK466 (223・224)

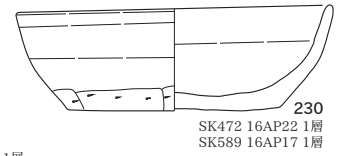
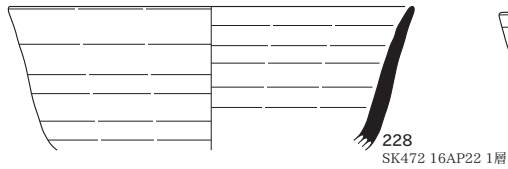
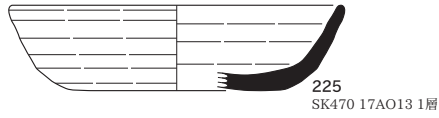


223
SK466 17AO24 1層

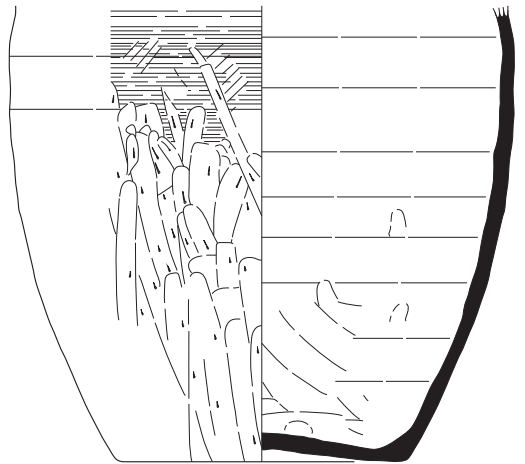
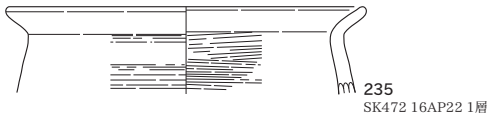
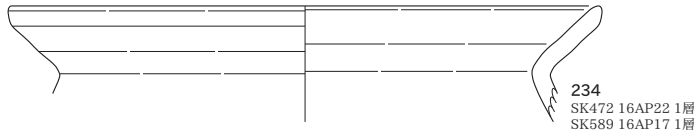
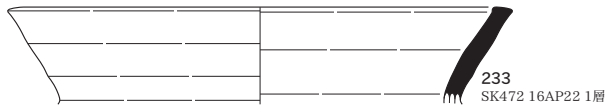
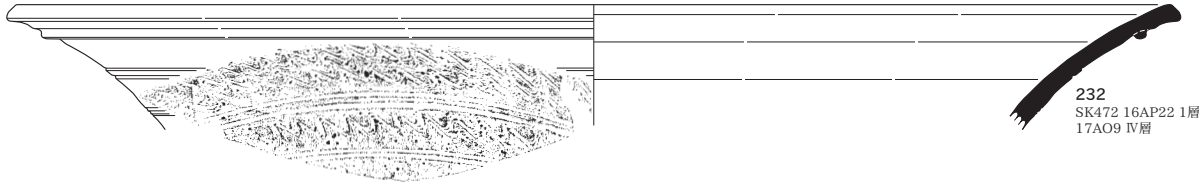
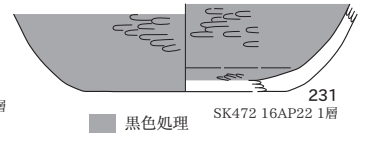
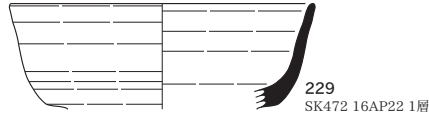
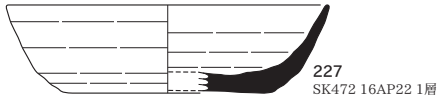


224
SK466 17AO22 1層

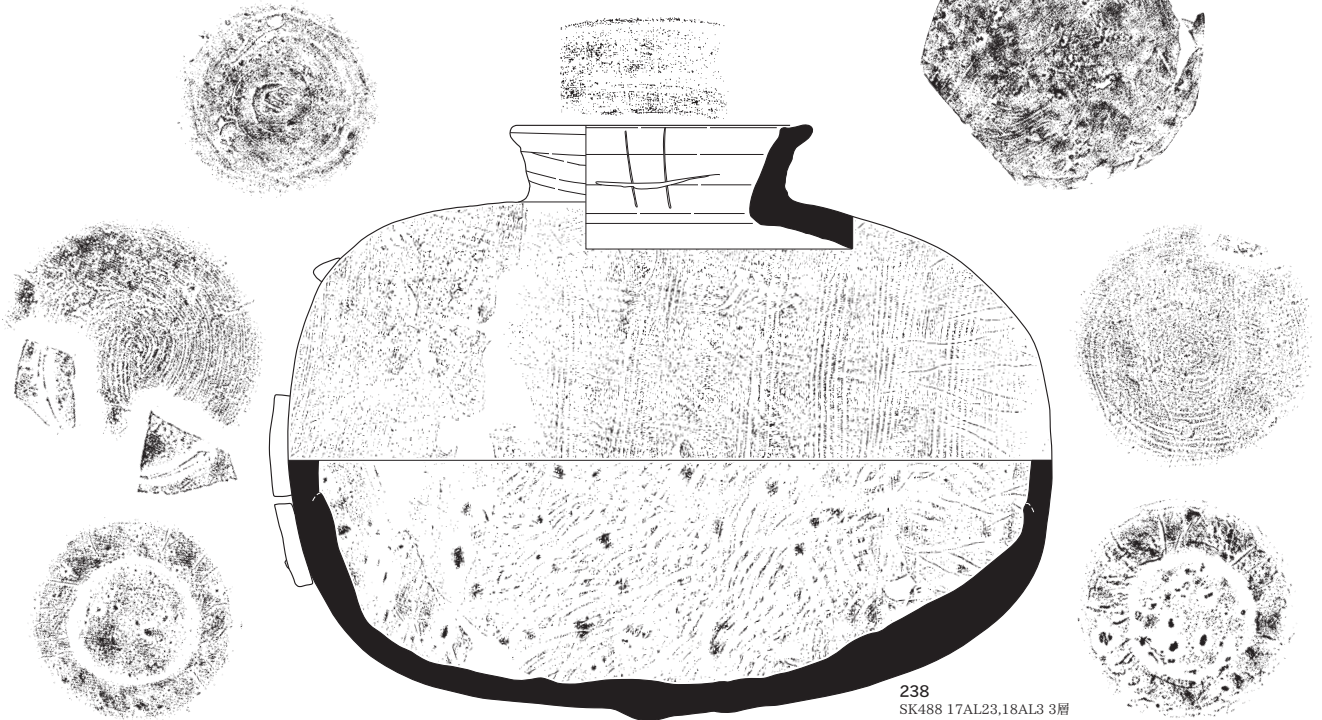
SK470 (225・226)



SK472 (227~235)



SK488 (236~238)



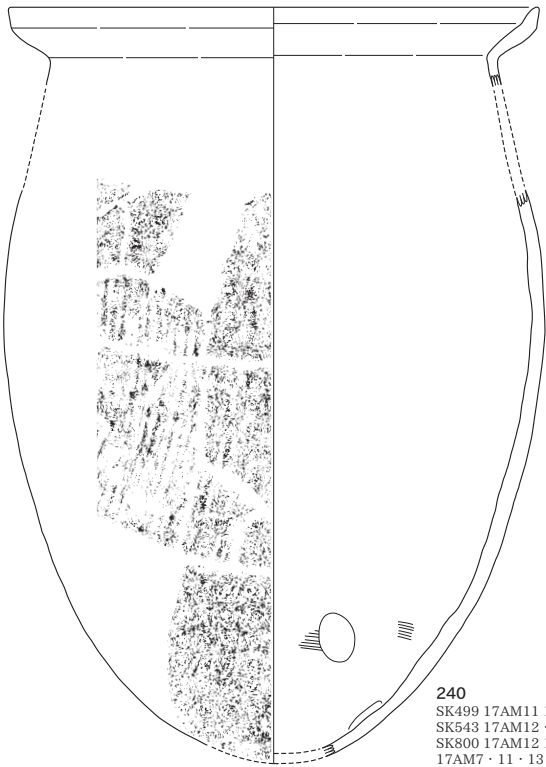
SK488 (239)



239
SK488 17AL23 2・3層
SK488 18AL3 3層
17AL23,18AL23 IV層

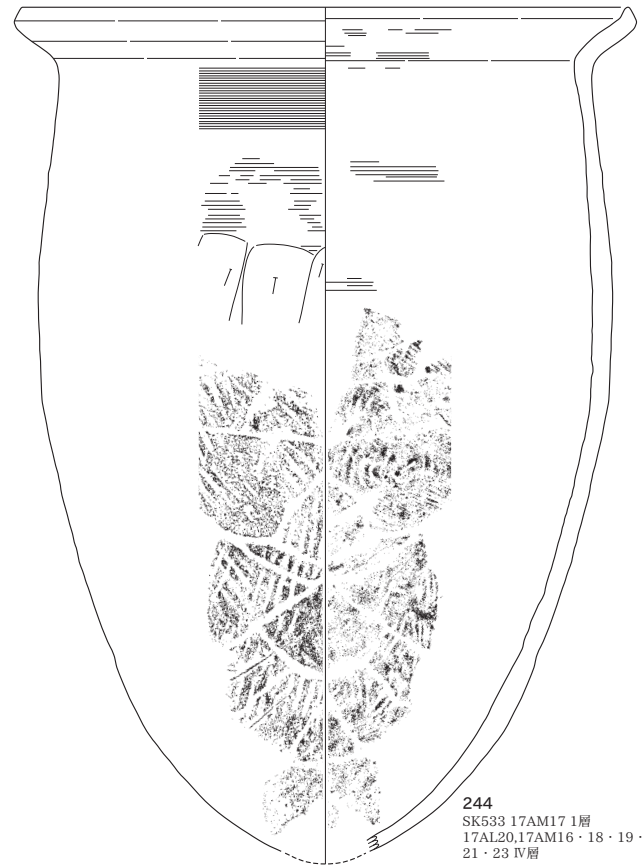
0 (1:5) 15cm
0 口縁部拓本 (1:6) 15cm

SK499 (240)



240
SK499 17AM11 1層
SK543 17AM12・13 1層
SK800 17AM12 1層
17AM7・11・13 IV層

SK533 (244)

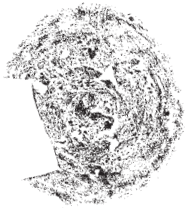


244
SK533 17AM17 1層
17AL20,17AM16・18・19・
21・23 IV層

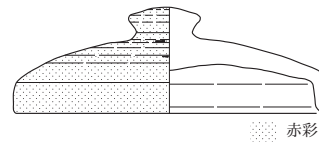
SK530 (241)



241
SK530 23AH1 1層
SK511 23AH2 1層
SX476 23AH1・7 1層



SK543 (245~248)



245
SK543 17AM12・13 1層
17AL19,17AM8・13・22・
23 IV層

赤彩

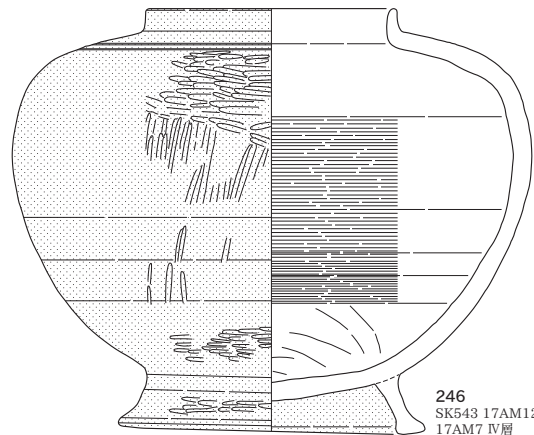
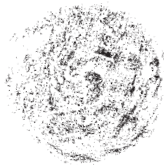
SK532 (242・243)



242
SK532 22AH23 1層
SD538 22AH22 1層
22AH23 III層

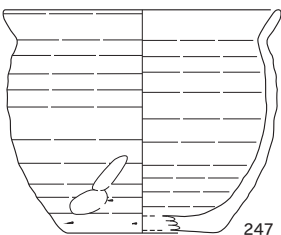


243
SK532 22AH23 1層
22AH17 IV層

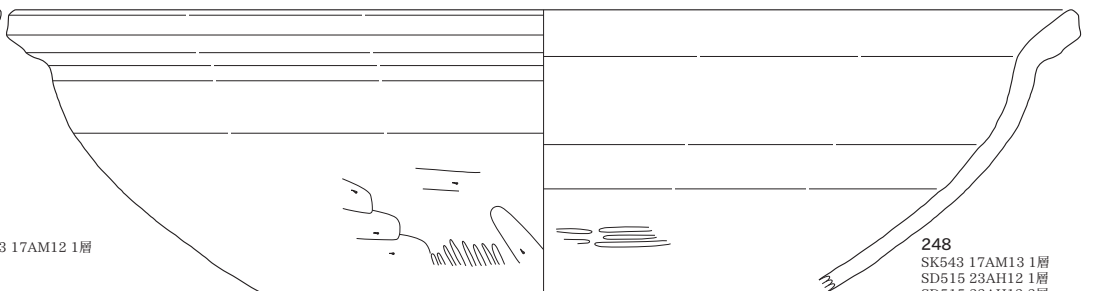


246
SK543 17AM12 1層
17AM7 IV層

赤彩



247
SK543 17AM12 1層

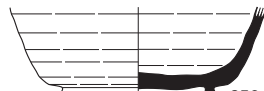
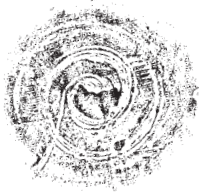


248
SK543 17AM13 1層
SD515 23AH12 1層
SD515 23AH13 2層
22AG20 III層
17AM8・13,17AL10 IV層

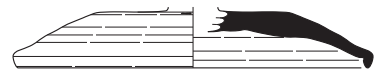
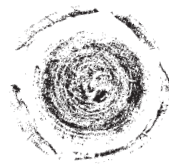
SK546 (249~256)



249
SK546 22AH8 1層
P650 22A18 1層



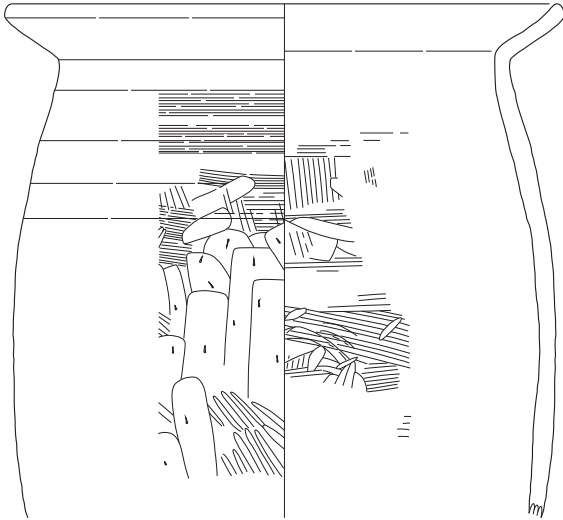
250
SK546 22AH12 1層
SK532 22AH17 1層
23AK22 IV層



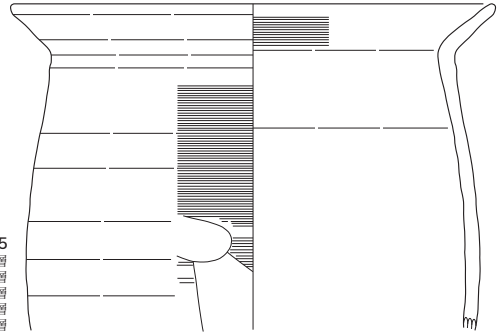
251
SK546 22AH12 1層



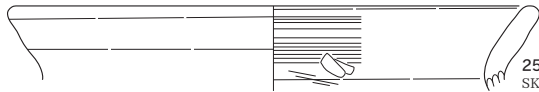
252
SK546 22AH12 1層
SK547 22AH13 1層
22A112 III層
22AH13 カクラン



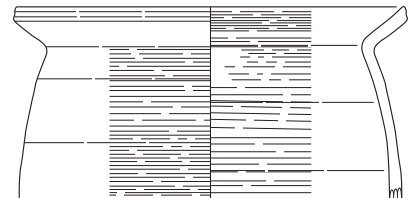
253
SK546 22AH7・12・13 1層
SK624 22AH9 1層
P548 22AH4 2層
P551 22AH12 1層



255
SK546 22AH7・8・12 1層
SK624 22AH9 1層
SX623 22AH19 1層
SD673 22A119 1層
P551 22AH12 1層



254
SK546 22AH17 1層



256
SK546 22AH12 1層

SK547 (257)



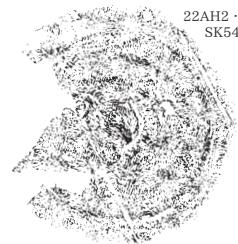
257
SK547 22AH13 1層
SX476 23AG10,
23AH7・12 1層
SD515 23AH7 1層
22AH13 カクラン



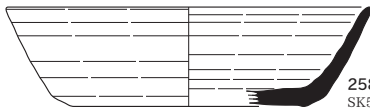
259
SK553 22AH2~4 1層
SK647 21AH13 1層
SK658 21AH16 1層
P644 22AH24 1層
21AH13,22AH3・5 III層
21AH9 IV層



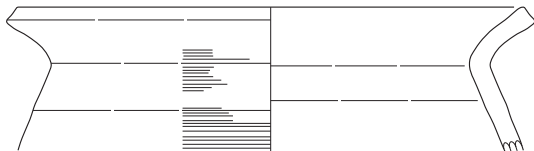
260
SK553
22AH2・3・8 1層
SK546 22AH8
1層



SK553 (258~261)

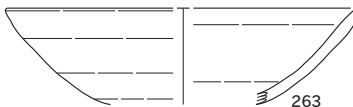


258
SK553 22AH3 1層

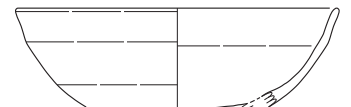


261
SK553 22AH2 1層

SK581 (263)



263
SK581 22AH25 1層



265
SK584
22AH18 1層



SK576 (262)



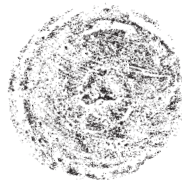
262
SK576 17AM2 1層
17AM7 IV層



SK584 (264~266)

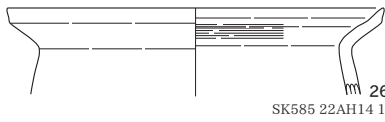


264
SK584 22AH18 1層
SD515 23AH12 1層
SD537 22AH18 1層

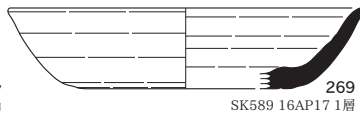


266
SK584 22AH19 1層

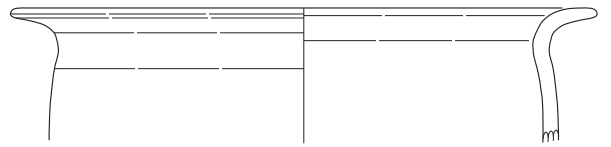
SK585 (267)



267
SK585 22AH14 1層

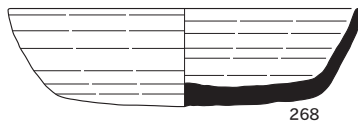


269
SK589 16AP17 1層

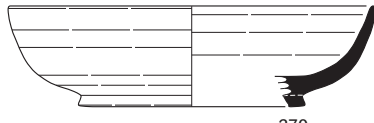


272
SK589 16AP17 1層

SK589 (268~273)



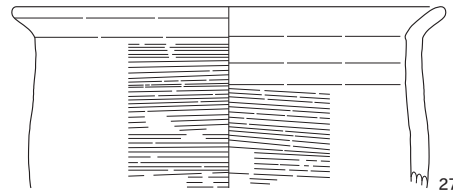
268
SK589 16AP17 1層



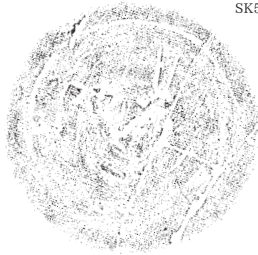
270
SK589 16AP17 1層



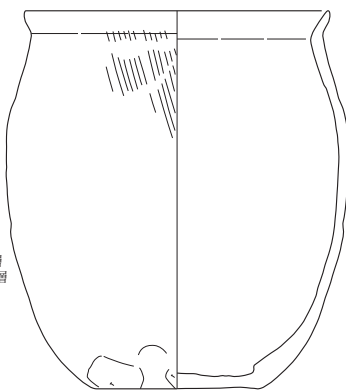
271
SK589 16AP17 1層
SK472 16AP22 1層
16AP16 IV層



273
SK589 16AP17 1層

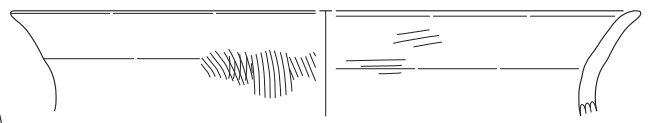


SK616 (275)



275
SK616 18AN3 1層

SK617 (276)

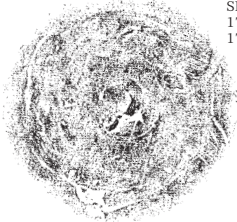


276
SK617 17AN24 1層
SK616 18AN3 1層

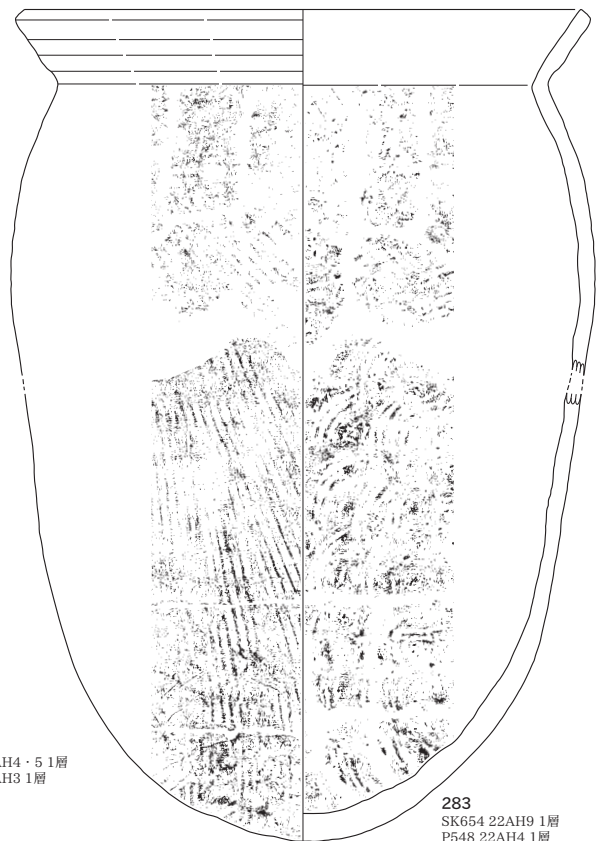
SK602 (274)



274
SK602
17AP20 1層
17AP20 IV層

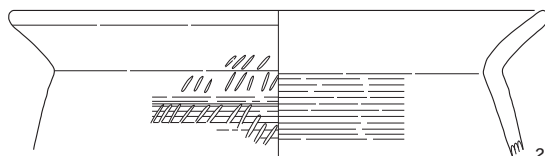


SK654 (283・284)



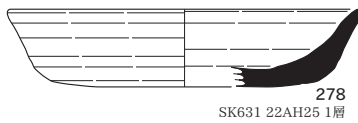
283
SK654 22AH9 1層
P548 22AH4 1層

SK624 (277)

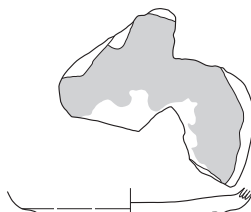


277
SK624 22AH9 1層
SD492 21AH10 1層

SK631 (278~280)



278
SK631 22AH25 1層



280
SK631 23AH4・5 1層
SX476 23AH3 1層

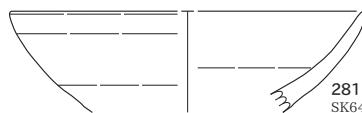


279
SK631 22AH25,23AH5 1層
22AI2 III層

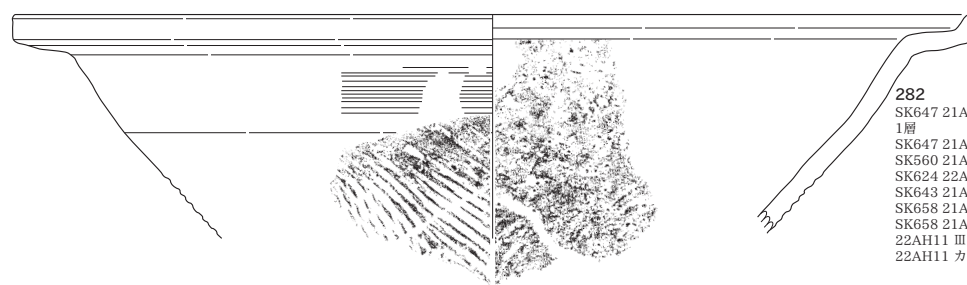


漆

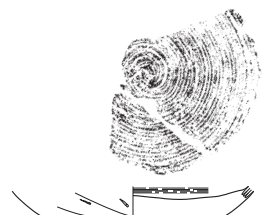
SK647 (281・282)



281
SK647 21AH13 2層

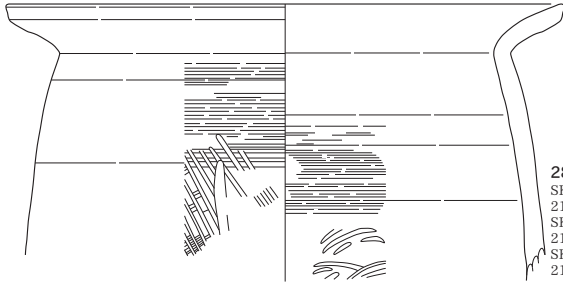


282
SK647 21AH13・18 1層
SK647 21AH13 2層
SK560 21AH14 1層
SK624 22AH9 1層
SK643 21AH18 1層
SK658 21AH17 1層
SK658 21AH16 2層
22AH11 III層
22AH11 カクラン



284
SK654 22AH9 1層
22AH9・14 カクラン

SK658 (285)



285
SK658
21A116・17 1層
SK643
21AH18 1層
SK648
21A121 1層

SK668 (286)

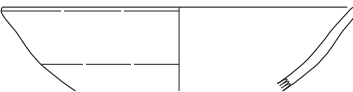


286
SK668 22A112 1層
SD477 22A110 1層
SD651 22A13 1層
22A112 Ⅲ層

SK674 (287・288)

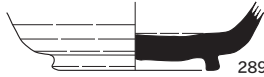


287
SK674 21AJ13 1層

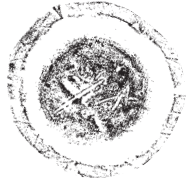


288
SK674 21AJ13 1層

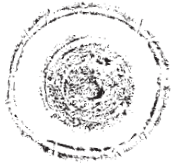
SK680 (289・290)



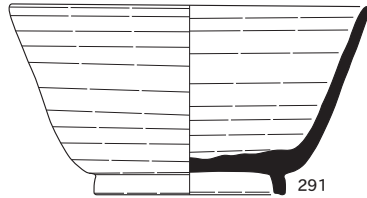
289
SK680 23A114 1層



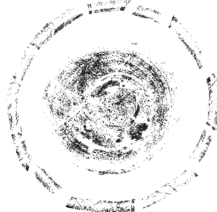
290
SK680 23A115 1層
SK631 22AH25 1層
SD477 22A11 1層
P650 22A18 1層



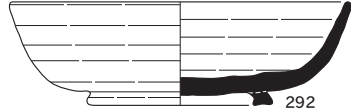
SK689 (291)



291
SK689 22AJ15 1層
22AJ15 Ⅳ層



SK690 (292・293)

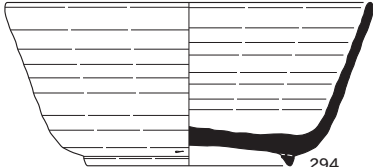


292
SK690 22A11 1層
SK668 22A112 1層
SK691 22A12 1層
SX623 22AH19 1層
SD651 22A16 1層
SD673 22A15 1層
22A12・18 Ⅲ層
22A125 Ⅳ層
22AH9 カクラン

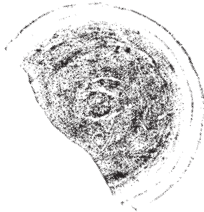


293
SK690 22A11 1層
23AH23 Ⅲ層
23AG25 Ⅳ層

SK691 (294)



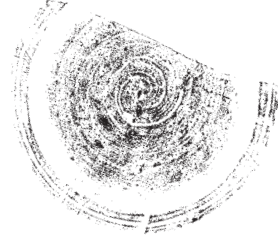
294
SK691 22A12 1層



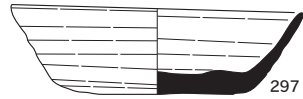
SK698 (295)



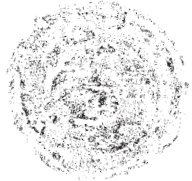
295
SK698 21AK11 1層



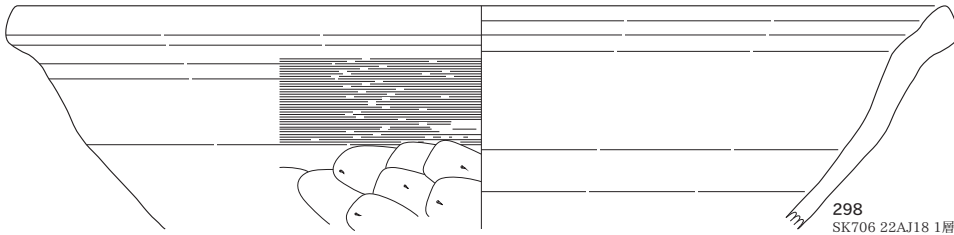
SK700 (297)



297
SK700 21AH24 1層
21AH24 Ⅲ層



SK706 (298)

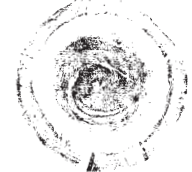


298
SK706 22AJ18 1層

SK708 (299)



299
SK708 19AJ24 1層

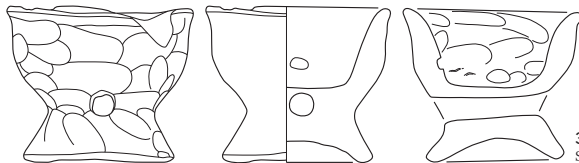


SK721 (300)

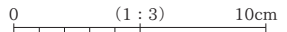


300
SK721 19AL7 1層
P736 19AL7 1層
19AL12 Ⅲ層

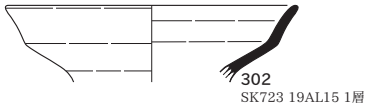
SK722 (301)



301
SK722 19AL8 1層

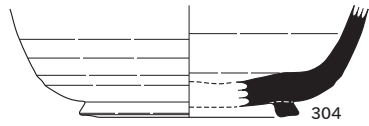


SK723 (302)



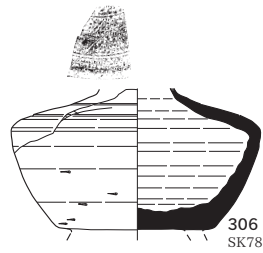
302
SK723 19AL15 1層

SK746 (304)



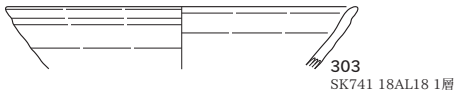
304
SK746 17AL3 1層
第1次調査18T III・IV層

SK785 (306)



306
SK785 18AN6 1層
18AN1 IV層
第1次調査16T IV層

SK741 (303)



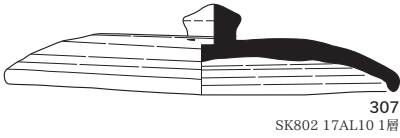
303
SK741 18AL18 1層

SK781 (305)



305
SK781 18AM3 1層

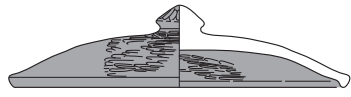
SK802 (307~309)



307
SK802 17AL10 1層

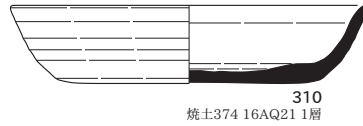


308
SK802 17AL10 1層

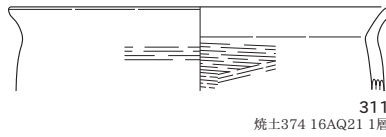


309
SK802 17AL10 1層
■ 黒色処理

焼土374 (310・311)

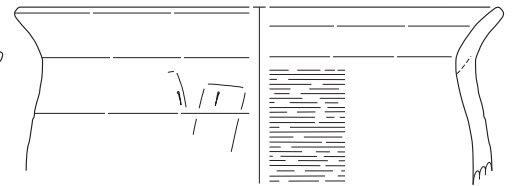


310
焼土374 16AQ21 1層



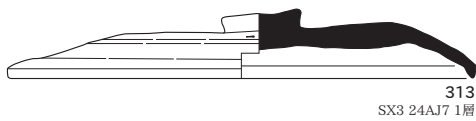
311
焼土374 16AQ21 1層

焼土454 (312)



312
焼土454 17AP23 1層

SX3 (313~317)



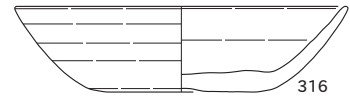
313
SX3 24AJ7 1層



314
SX3 24AJ6 1層



315
SX3 24AJ8 1層
SX3 24AJ12 2層
SD55 24AJ7 1層
24AJ1 III層



316
SX3 24AJ11 1層



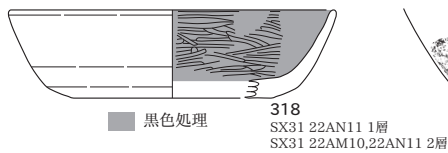
317
SX3 24AJ2・8・12 1層
SX56 23AJ3 1層
24AJ7 IV層

SX37 (321・322)

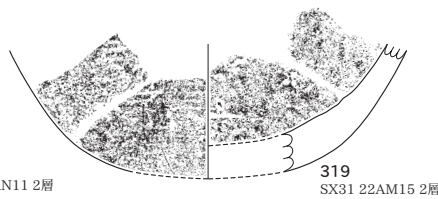


321
SX37 21AO7 1層

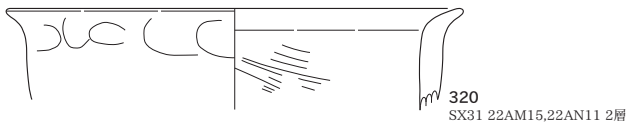
SX31 (318~320)



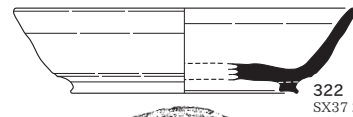
318
SX31 22AN11 1層
SX31 22AM10,22AN11 2層
■ 黒色処理



319
SX31 22AM15 2層



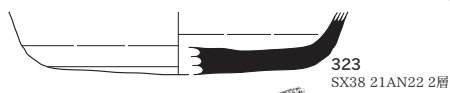
320
SX31 22AM15,22AN11 2層



322
SX37 21AO7 1層

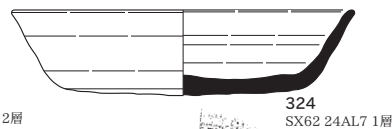


SX38 (323)



323
SX38 21AN22 2層

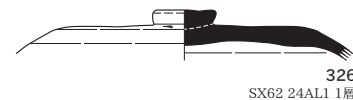
SX62 (324~326)



324
SX62 24AL7 1層

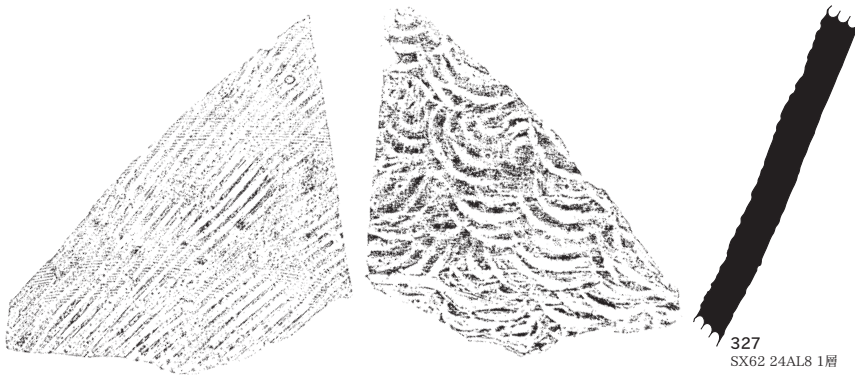


325
SX62 24AL8 1層

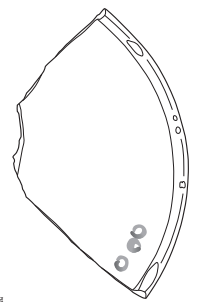
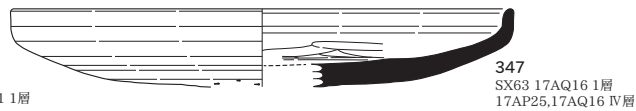
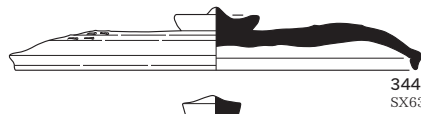
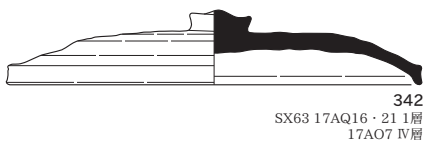
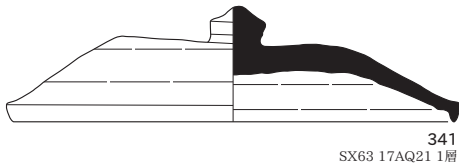
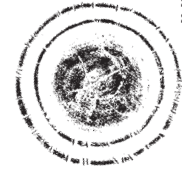
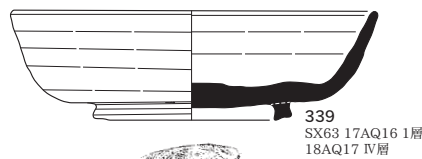
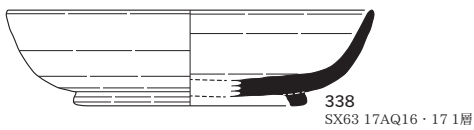
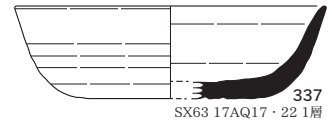
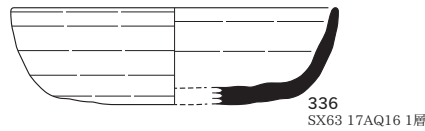
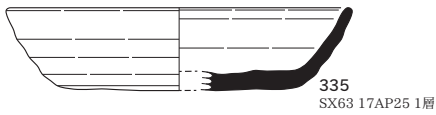
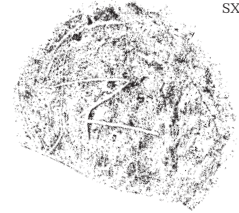
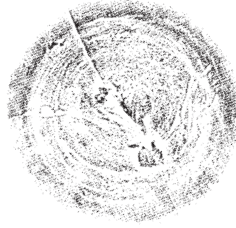
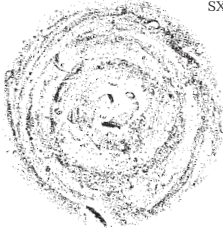
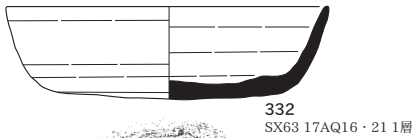
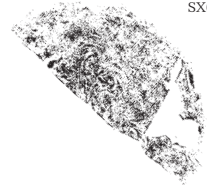
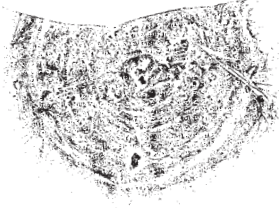
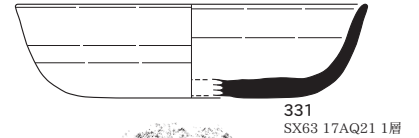
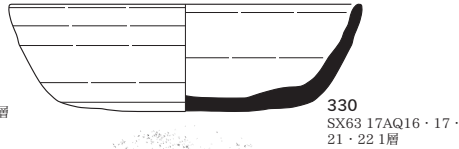
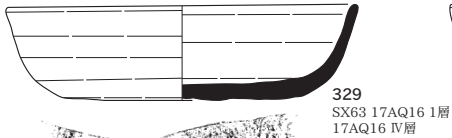
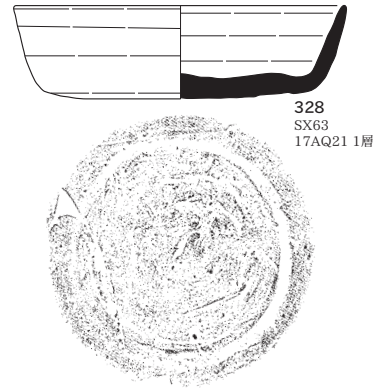


326
SX62 24AL1 1層

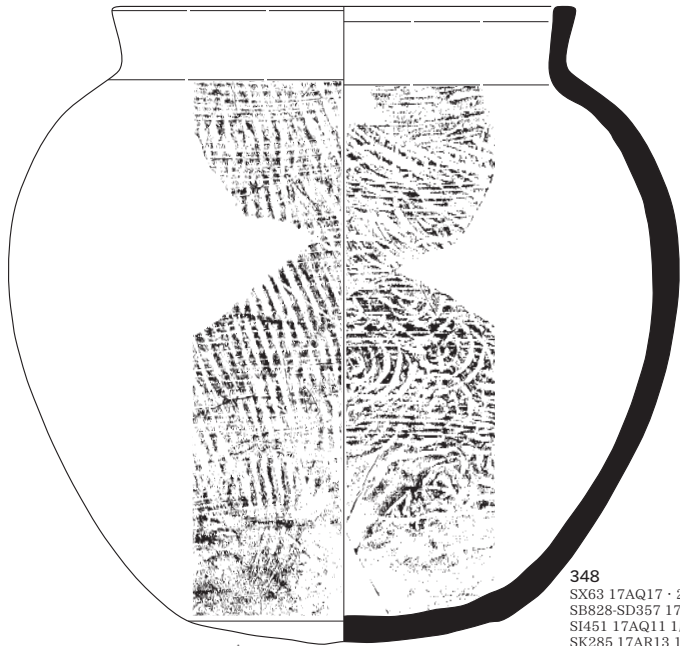
SX62 (327)



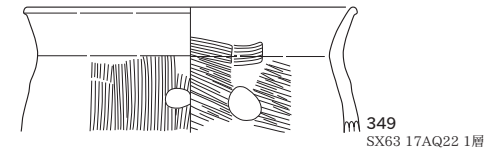
SX63 (328~347)



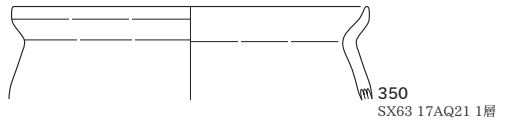
SX63 (348~351)



348
 SX63 17AQ17・21・22 1層
 SB828-SD357 17AR16 1層
 SI451 17AQ11 1層
 SK285 17AR13 1層
 SK341 17AQ13 1層
 SX64 17AQ7 2層
 SX283 17AQ13 1層
 SX283 17AQ19 2層
 SX421 15AP23 1層
 P424 17AQ13 3層
 15AP23,17AQ14・17・25,
 18AQ24,19AQ12 IV層



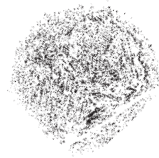
349
 SX63 17AQ22 1層



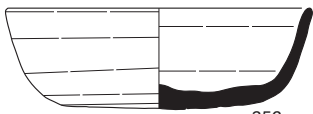
350
 SX63 17AQ21 1層



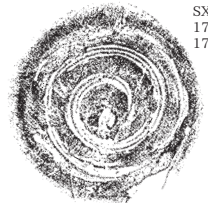
351
 SX63 17AQ16 1層



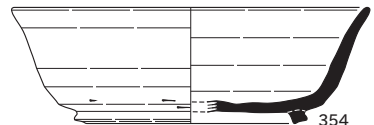
SX64 (352~364)



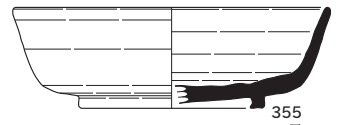
352
 SX64
 17AQ8 1層
 17AQ8 IV層



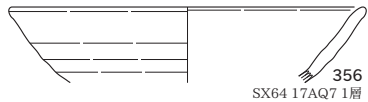
353
 SX64 17AQ8 1層



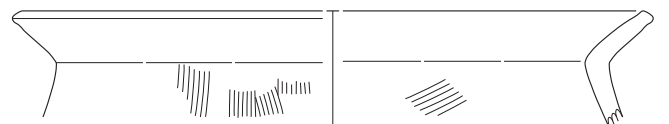
354
 SX64 17AQ8 1層



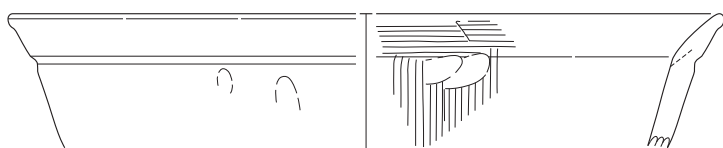
355
 SX64 17AQ3 1層



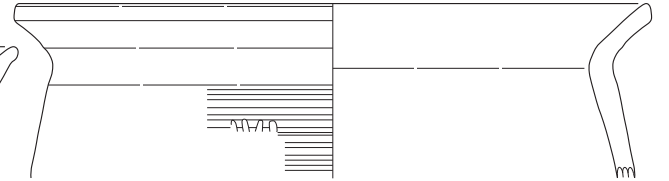
356
 SX64 17AQ7 1層



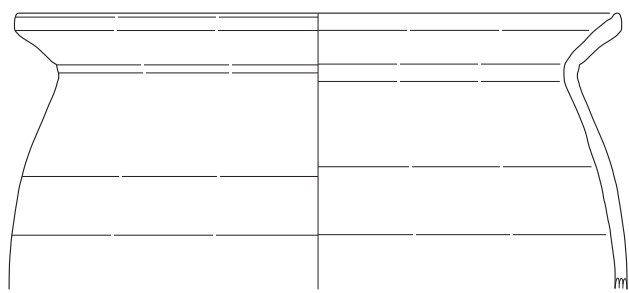
358
 SX64 17AQ8 2層



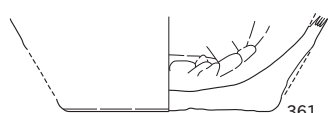
357
 SX64 17AQ7 1層



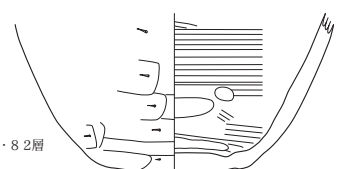
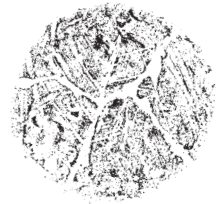
359
 SX64 17AQ8 2層



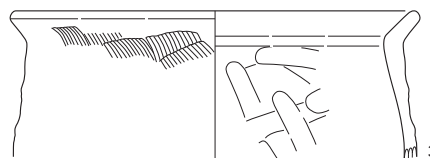
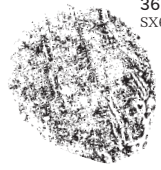
360
 SX64 17AQ8・12 2層



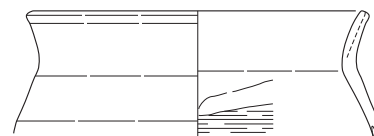
361
 SX64
 17AQ7・8 2層
 SI65
 17AQ20 1層



362
 SX64 17AQ8 1層

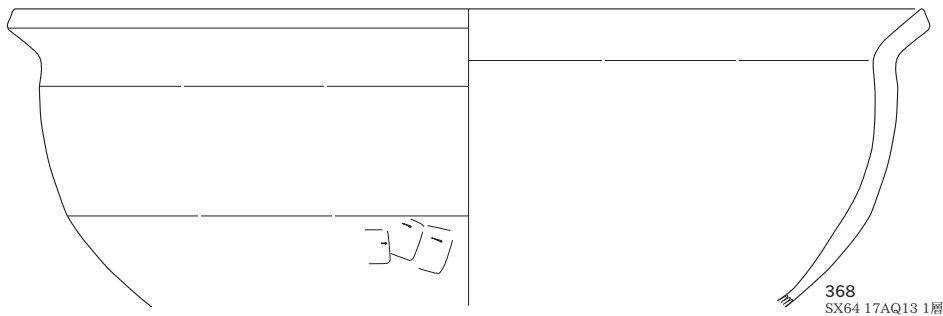
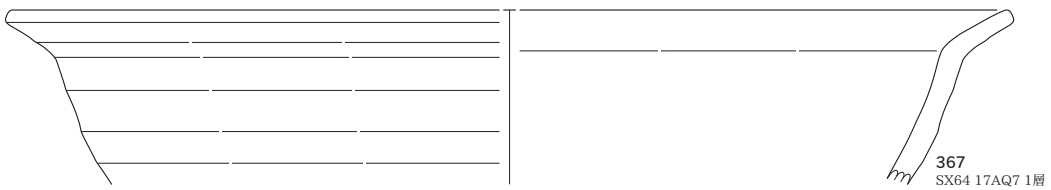
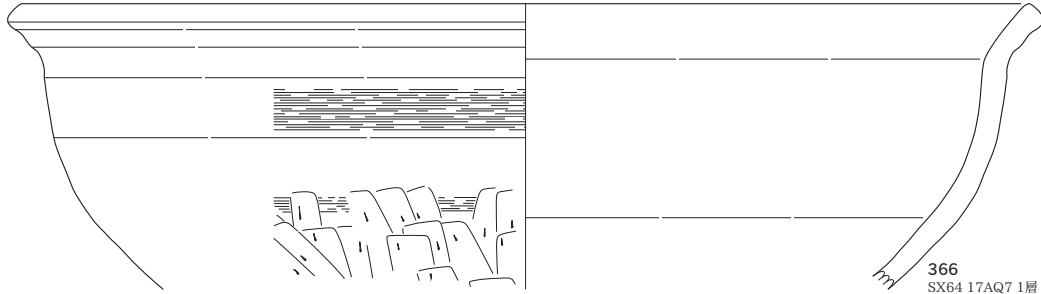
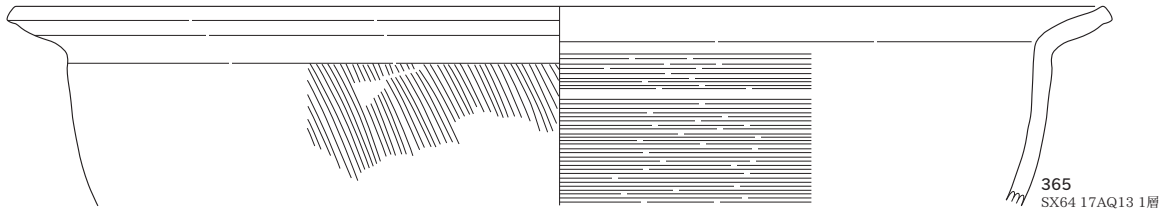


363
 SX64 17AQ7 2層

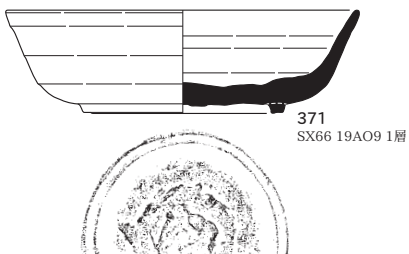
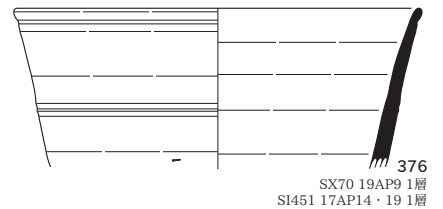
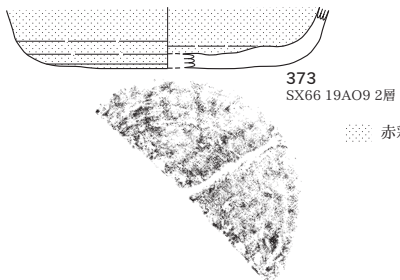
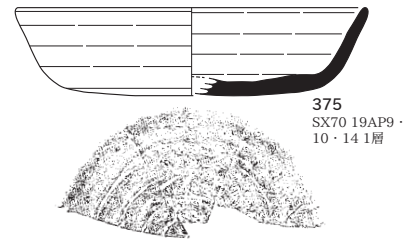
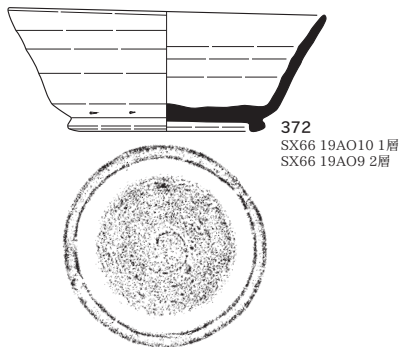


364
 SX64 17AQ8 2層

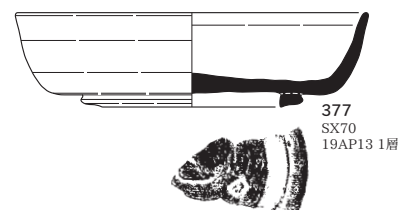
SX64 (365~368)



SX66 (369~373)



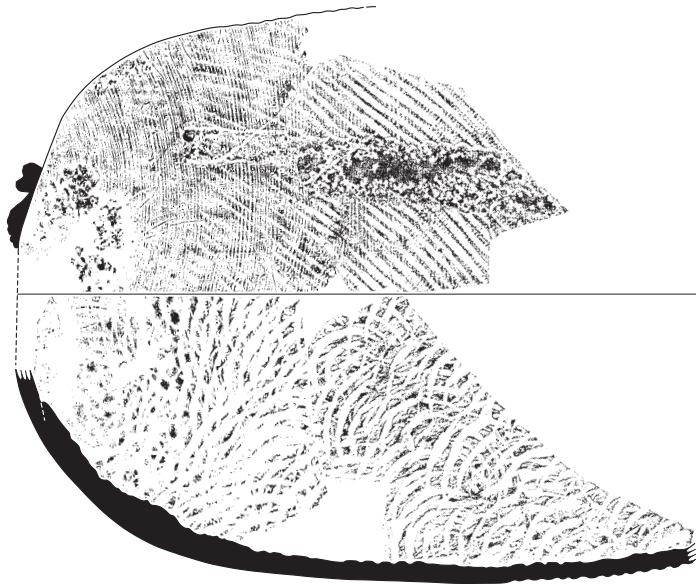
SX70 (374~377)



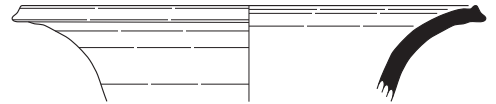
赤彩

0 (1:3) 10cm

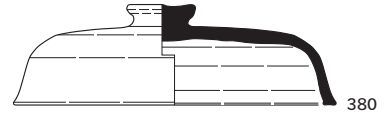
SX70 (378~380)



378
SX70 19AP13 1層
SX63 17AQ17・22 1層
17AP15・20,17AQ11,
18AQ5,19AP19 IV層

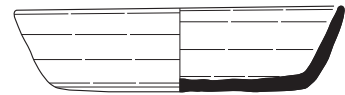


379
SX70 19AP18 1層

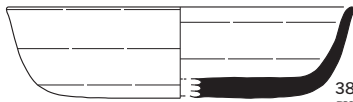
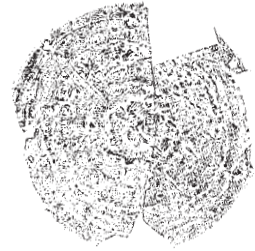


380
SX70 19AP9・13 1層
SX63 17AQ21 1層
18AP14 IV層

SX124 (381~391)



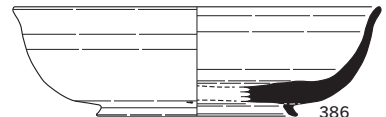
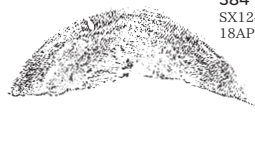
381
SX124 18AP20 1層
18AP18・22 IV層



382
SX124 18AQ22 1層



384
SX124 18AQ18 1層
18AP5 IV層



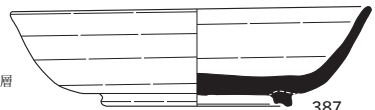
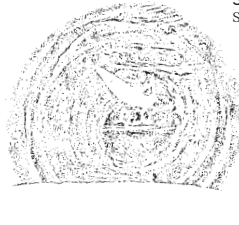
386
SX124 18AQ18 1層



383
SX124 18AQ18 1層
19AP7 IV層



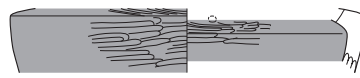
385
SX124 18AQ24 1層



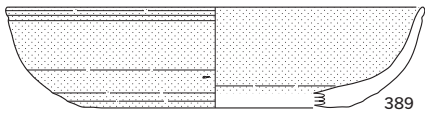
387
SX124 18AP20 1層
SI207 18AP7 1層
P210 18AP7 1層
18AP7・8・9・13・18・
19 IV層



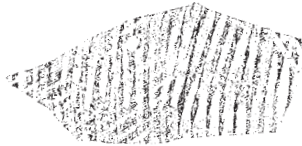
388
SX124 18AP20 1層
18AP19・23 IV層



390
SX124 18AQ22 1層
■ 黑色処理

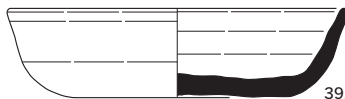


389
SX124 19AQ1 1層
19AO15,19AP1・6 IV層
● 赤彩

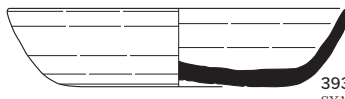


391
SX124 18AQ18 1層

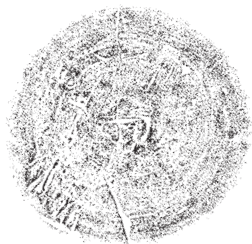
SX125 (392~395)



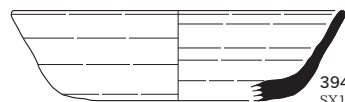
392
SX125
16AP20・24 1層



393
SX125 17AQ6 1層



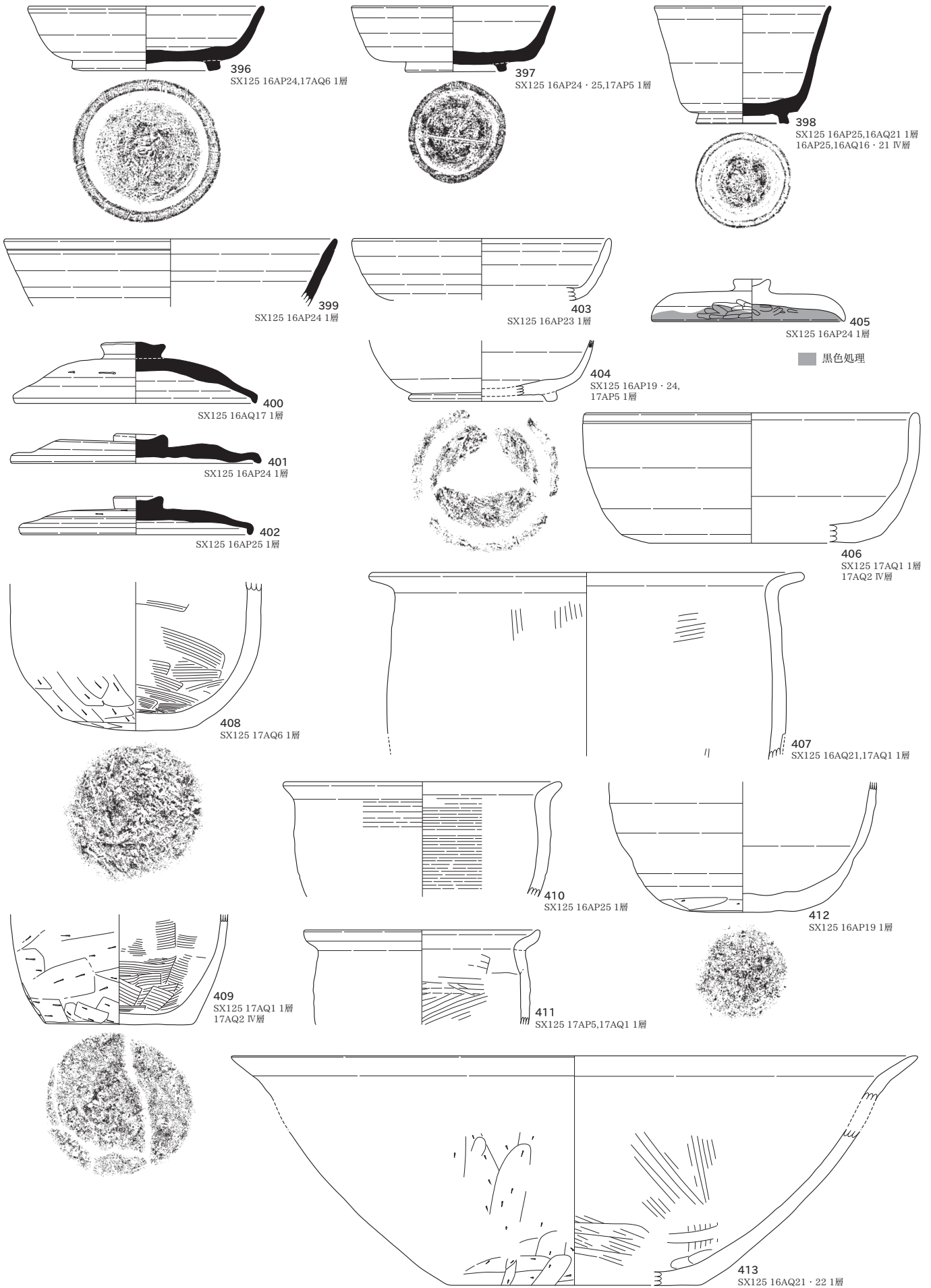
395
SX125 16AP25,
17AQ1 1層



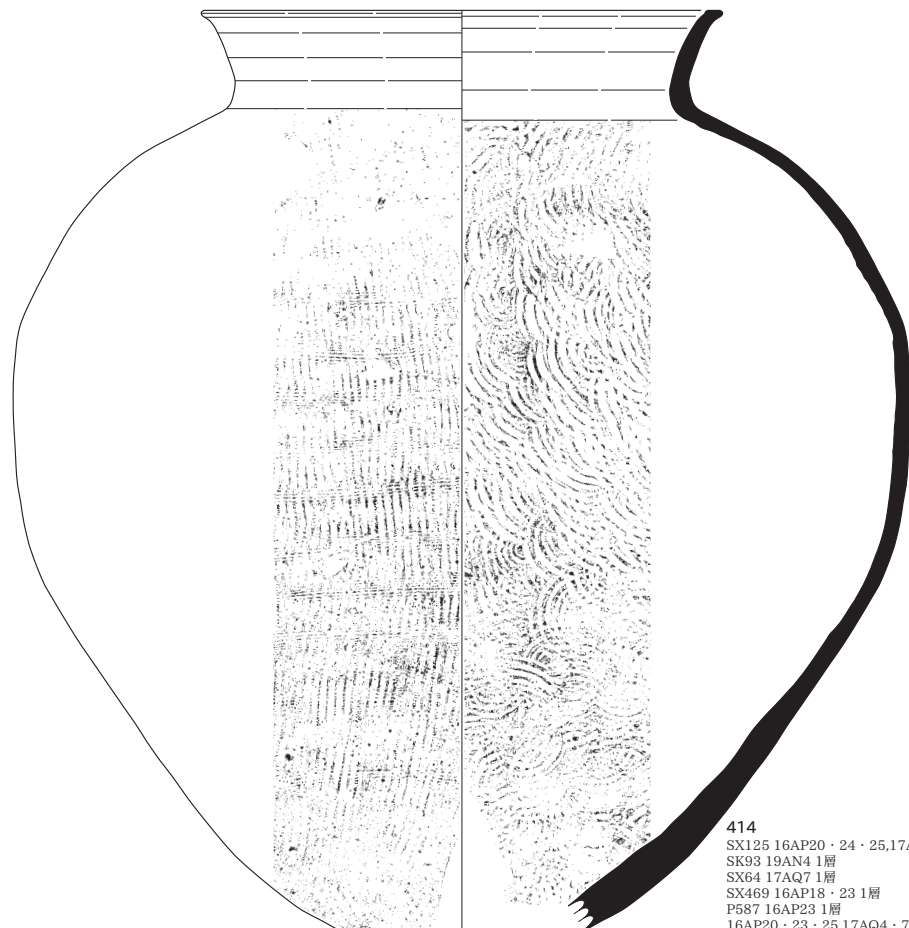
394
SX125 16AP24 1層



SX125 (396~413)

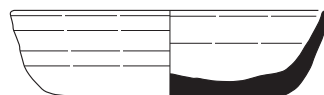


SX125 (414)

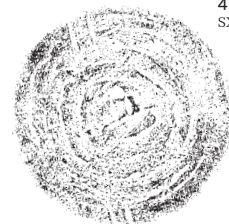


414
 SX125 16AP20・24・25, 17AP5 1層
 SK93 19AN4 1層
 SX64 17AQ7 1層
 SX469 16AP18・23 1層
 P587 16AP23 1層
 16AP20・23・25, 17AQ4・7~9 IV層

SX240 (415)



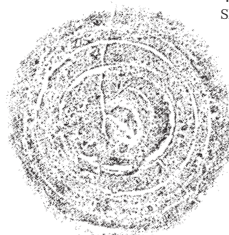
415
 SX240 23AM11 2層



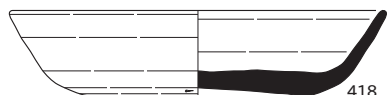
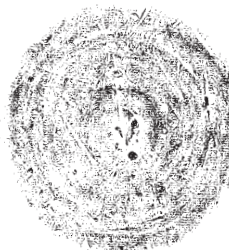
SX283 (416~427)



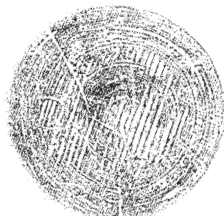
416
 SX283 17AQ12 2層



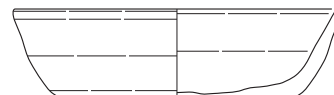
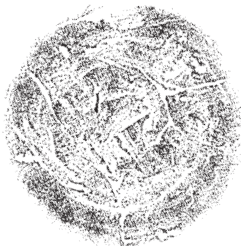
417
 SX283 17AQ12
 1・2層
 17AQ12 IV層



418
 SX283 17AQ12 2層



419
 SX283 17AQ14 1層



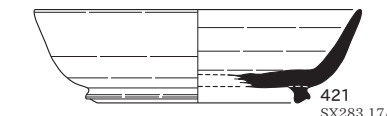
424
 SX283 17AQ18 2層



420
 SX283 17AQ17 2層



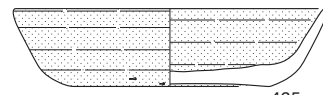
422
 SX283 17AQ17 1層



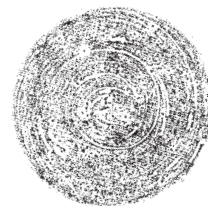
421
 SX283 17AQ13 1層



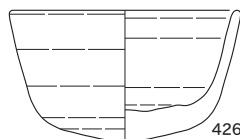
423
 SX283 17AQ13・14 1層



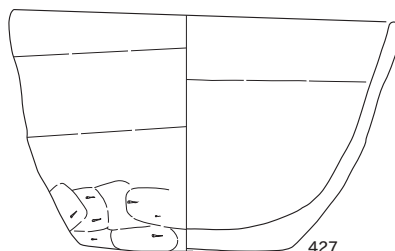
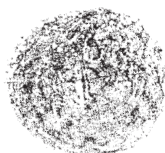
425
 SX283 17AQ14 1層



赤彩



426
 SX283 17AQ14 1層

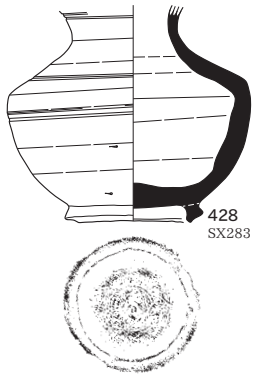


427
 SX283 17AQ14 1層

0 (414 1:4) 10cm

0 (その他 1:3) 10cm

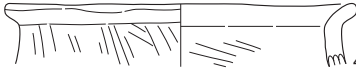
SX283 (428~430)



428
SX283 17AQ8 1層

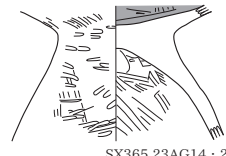


429
SX283 17AQ14 1層



430
SX283 17AQ14 1層

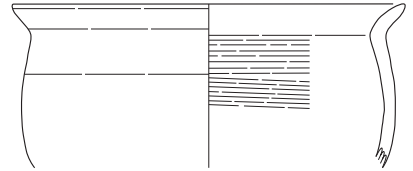
SX365 (431)



431
SX365 23AG14・20 1層

■ 黑色処理

SX406 (432)



432
SX406 16AQ21 1層

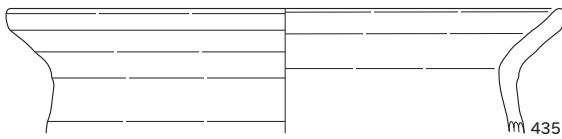
SX407 (433~436)



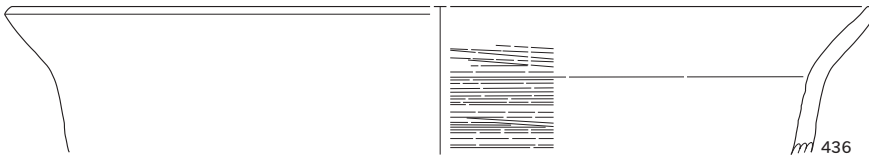
433
SX407 16AQ12 1層



434
SX407 16AQ18 1層



435
SX407 16AQ18 1層

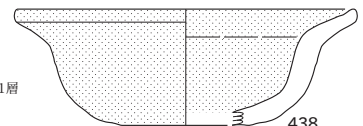
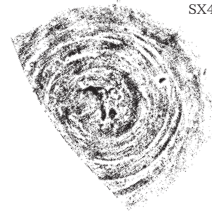


436
SX407 16AQ17 1層

SX411 (437・438)



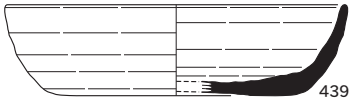
437
SX411 15AN11 1層



438
SX411 15AN11 1層

● 赤彩

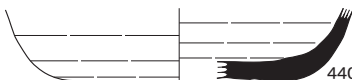
SX415 (439~444)



439
SX415 15AP21 1層



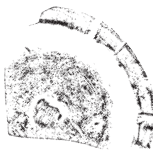
441
SX415 15AP21 1層



440
SX415 15AP21 1層



442
SX415 15AP21 1層



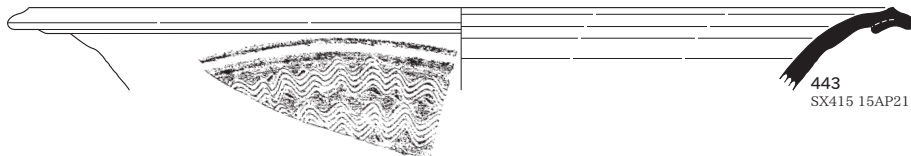
SX421 (447~449)



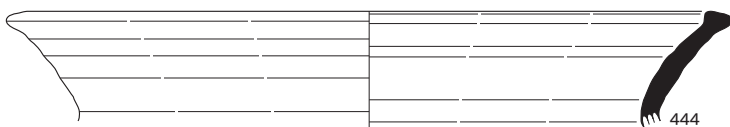
447
SX421 15AP23 1層



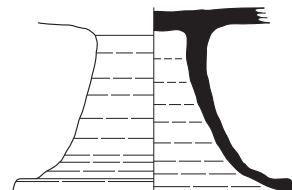
448
SX421 15AP24 1層
SX407 16AQ6 1層



443
SX415 15AP21 1層

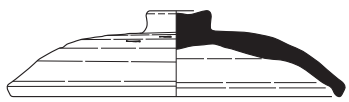


444
SX415 15AP22 1層



449
SX421 15AP22 1層
SK341 17AQ13 1層
SD420 16AP13 1層

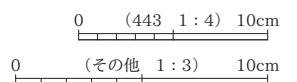
SX416 (445・446)



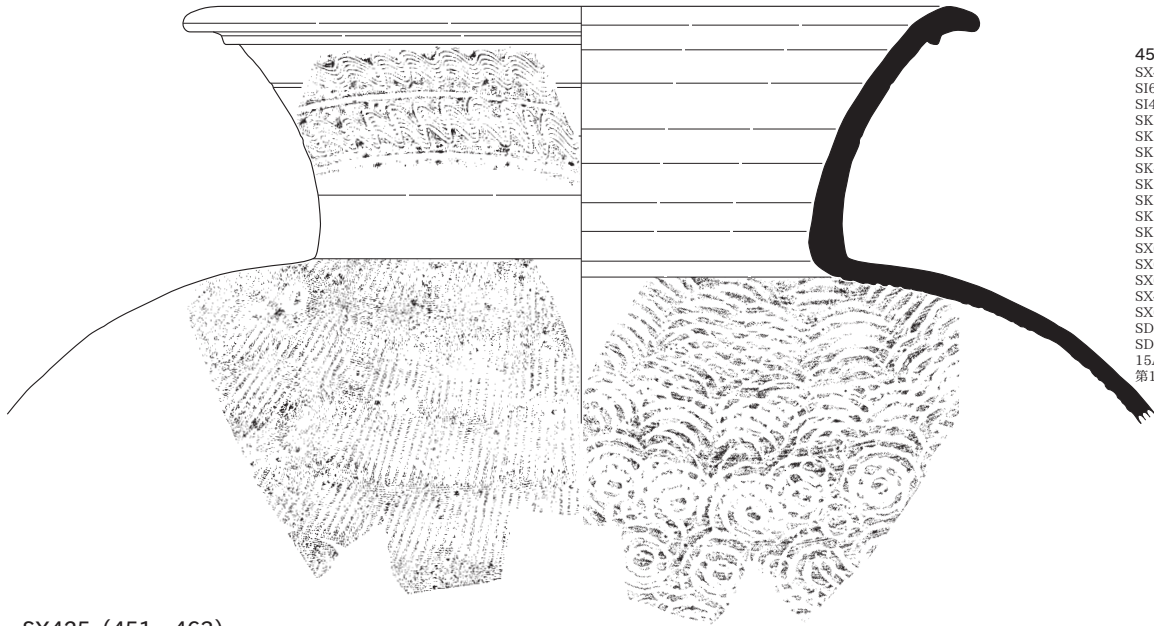
445
SX416 16AO5 1層



446
SX416 16AO5 1層

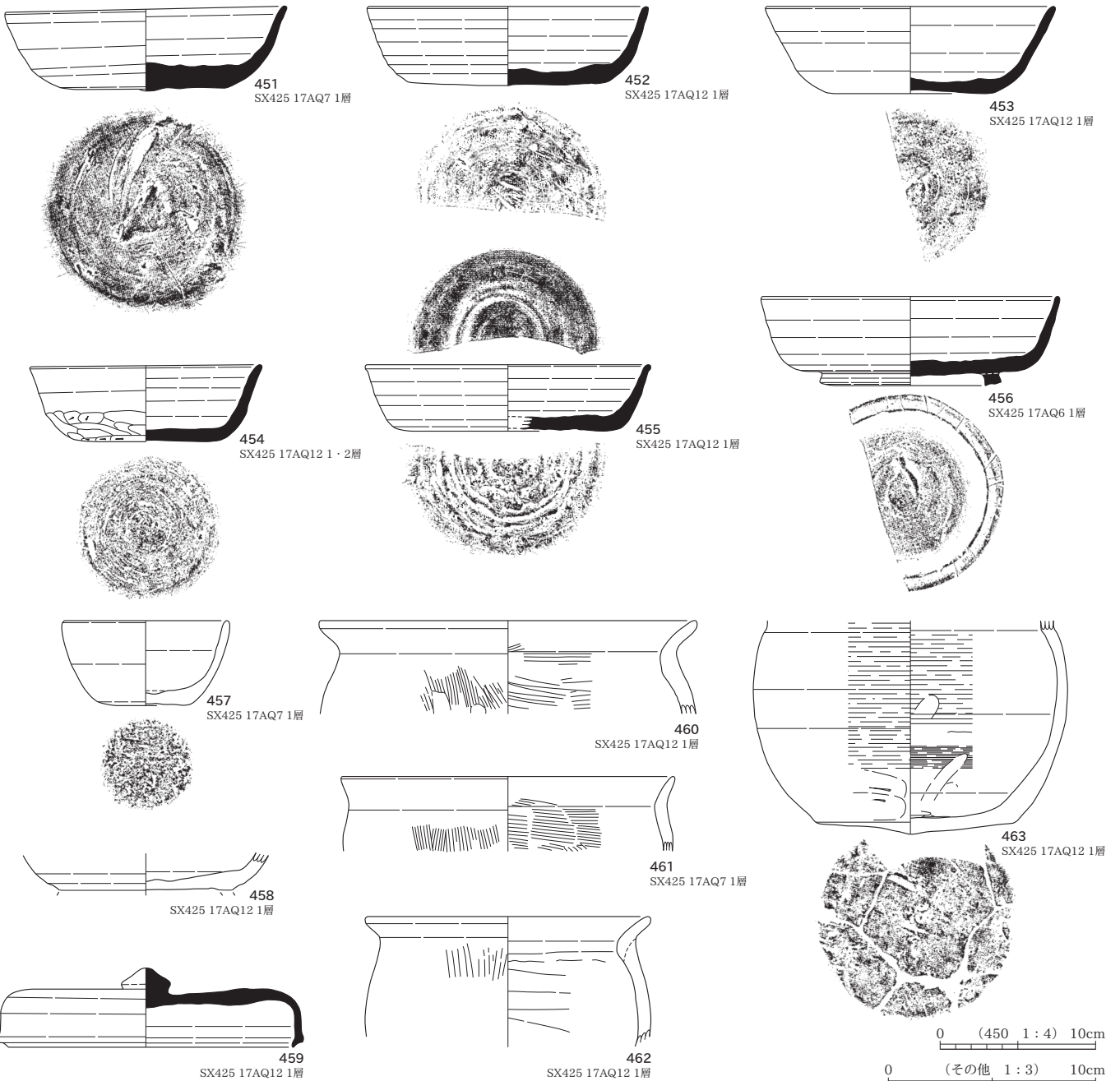


SX421 (450)



450
 SX421 15AP17・22・23 1層
 SI65 17AQ20,17AR16 1層
 SI451 17AP4 1層
 SK279 18AQ4 2層
 SK281 17AR7・12 1層
 SK341 17AQ14 1層
 SK444 17AQ15 1層
 SK779 18AN6 1層
 SK780 17AN21,18AM5,18AN1 1層
 SK784 18AN1 1層
 SK796 15AP16 1層
 SX63 17AQ21 1層
 SX64 17AQ8 1層
 SX64 17AQ13 2層
 SX415 15AP22 1層
 SX613 16AO22 1層
 SD420 16AP13 1層
 SD420 16AP4 2層
 15AO25,15AP11・22,18AN1 IV層
 第1次調査16T

SX425 (451~463)



451
SX425 17AQ7 1層

452
SX425 17AQ12 1層

453
SX425 17AQ12 1層

454
SX425 17AQ12 1・2層

455
SX425 17AQ12 1層

456
SX425 17AQ6 1層

457
SX425 17AQ7 1層

460
SX425 17AQ12 1層

463
SX425 17AQ12 1層

458
SX425 17AQ12 1層

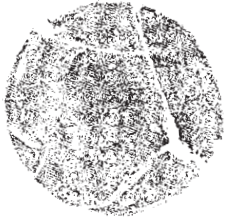
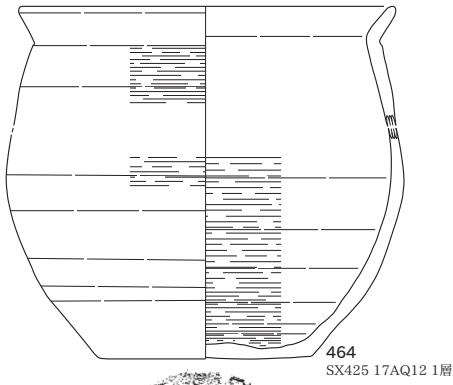
461
SX425 17AQ7 1層

459
SX425 17AQ12 1層

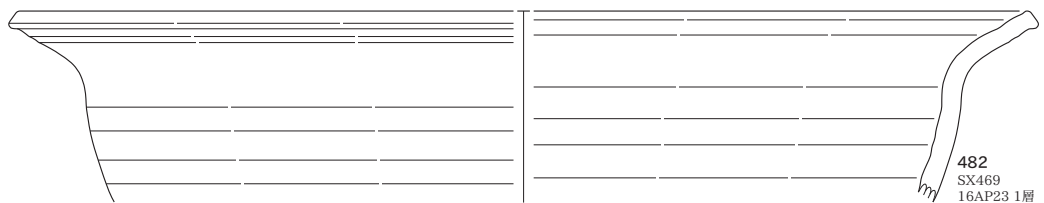
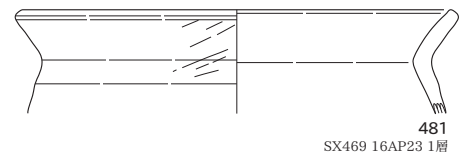
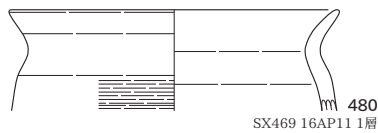
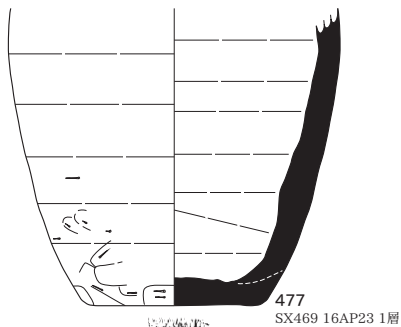
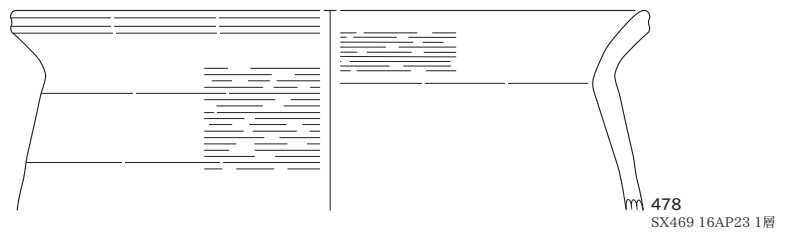
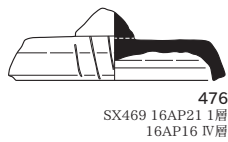
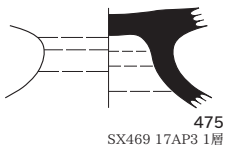
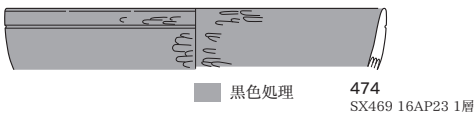
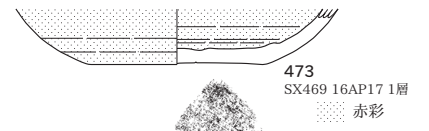
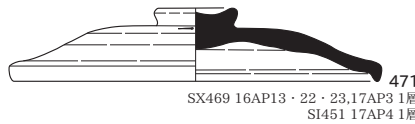
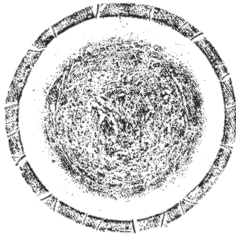
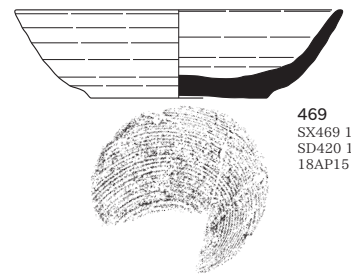
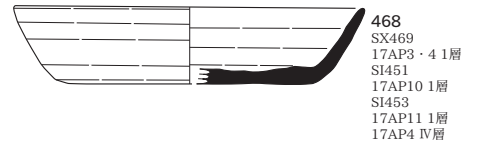
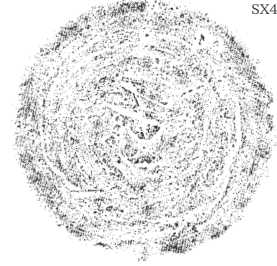
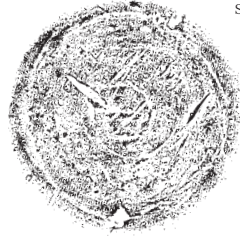
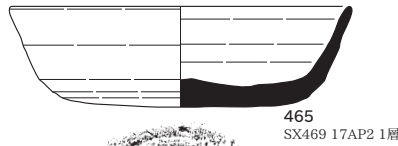
462
SX425 17AQ12 1層

0 (450 1:4) 10cm
 0 (その他 1:3) 10cm

SX425 (464)



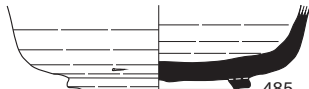
SX469 (465~482)



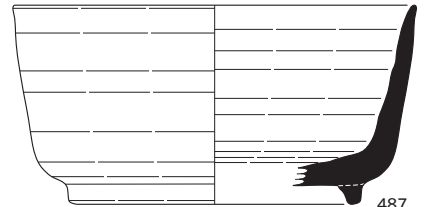
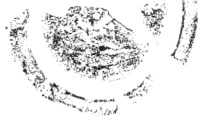
SX476 (483~488)



483
SX476 23AH6 1層
SD477 23AH2 1層



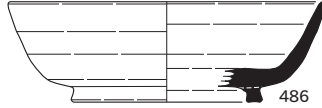
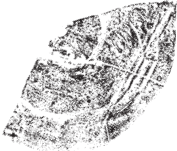
485
SX476 23AH7 1層
SX482 23AH7 1層



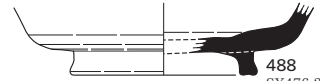
487
SX476 23AH6 1層



484
SX476 23AH1 1層



486
SX476 23AH7 1層
22AI22 Ⅲ層
23AH7 Ⅳ層

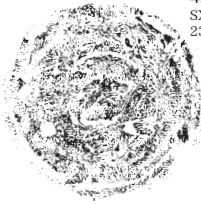


488
SX476 23AH12 1層

SX509 (490~492)

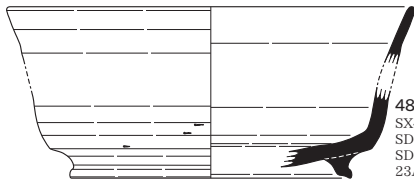


490
SX509 22AG25 2層
23AG5 Ⅲ層

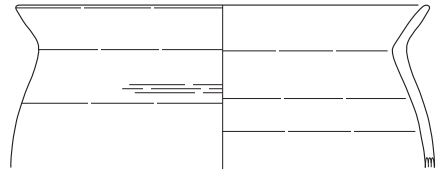


491
SX509 22AG25 1層
SD480 22AG20 1層
23AG18 Ⅳ層

SX482 (489)

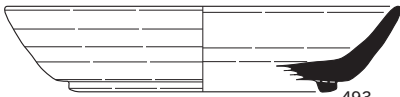


489
SX482 23AH7 1層
SD477 22AI16 1層
SD515 23AH13 1層
23AH13・14 Ⅲ層



492
SX509 22AG25 1層

SX613 (493)



493
SX613 17AO2 1層

SD54 (494・495)



494
SD54 24AJ16 1層



495

SD54 24AK11 1層

SD343 (496)



496

SD343 23AG13 1層
SK298 23AG13・14 1層

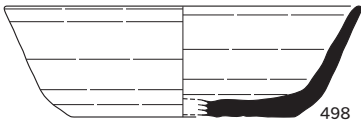
SD397 (497)



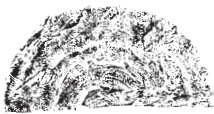
497
SD397 17AP18 1層



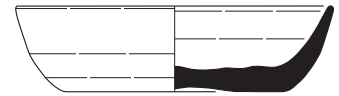
SD420 (498~504)



498
SD420 16AP9 2層



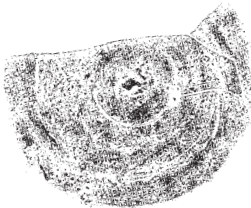
499
SD420 16AP18 1層



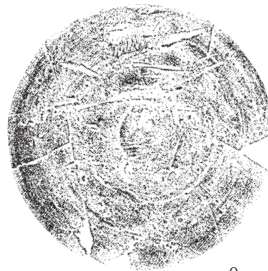
500
SD420 16AP18 1層



501
SD420 16AP13 1層



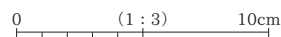
503
SD420 16AP13 1層
SK472 16AP22 1層
16AP18・22 Ⅳ層



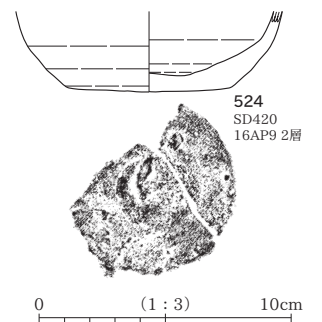
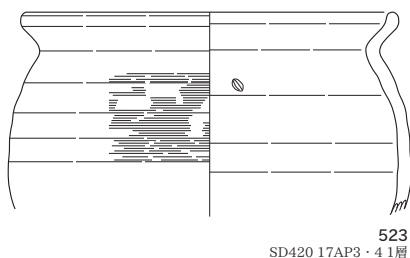
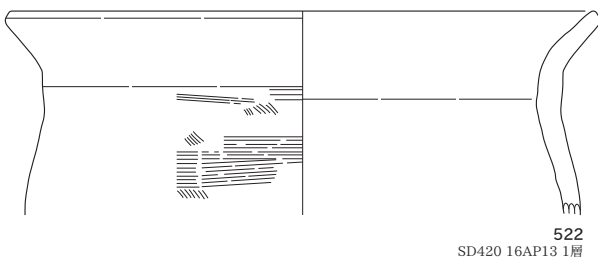
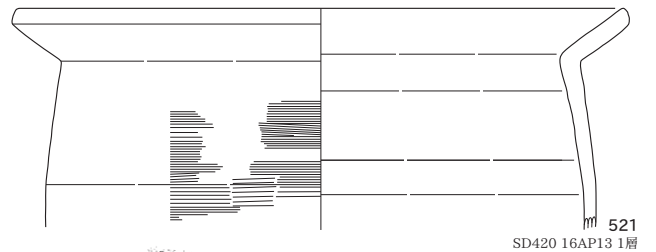
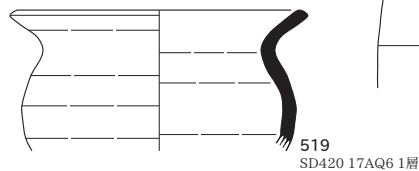
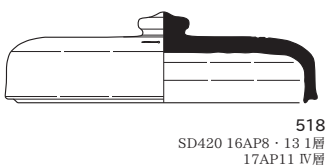
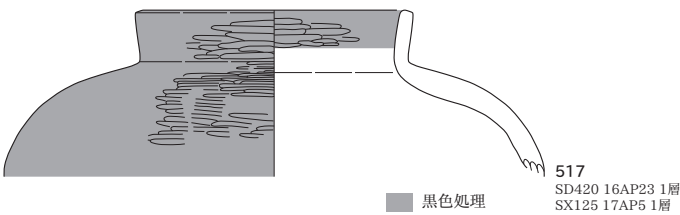
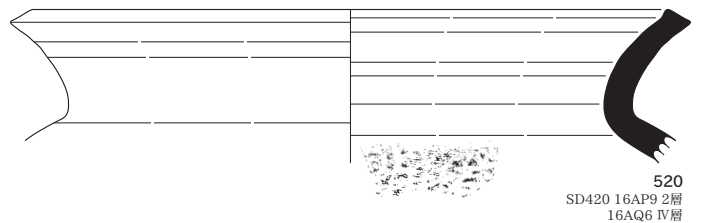
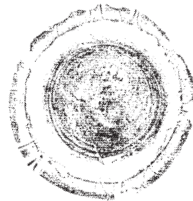
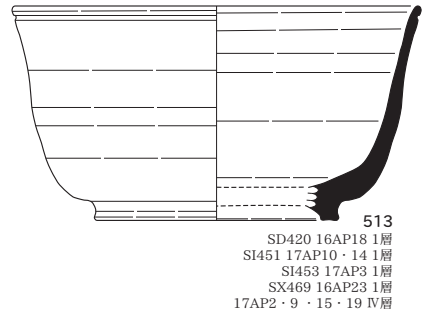
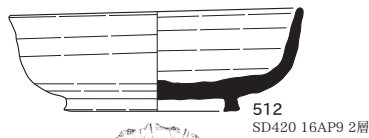
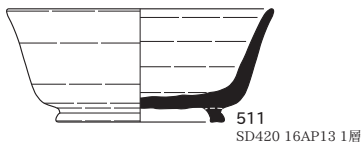
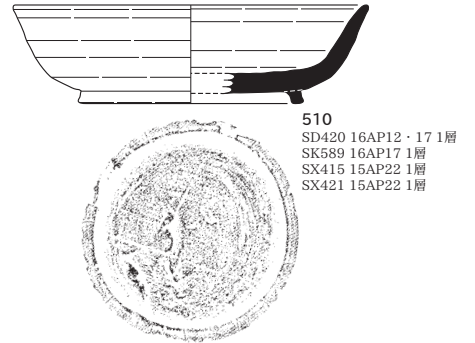
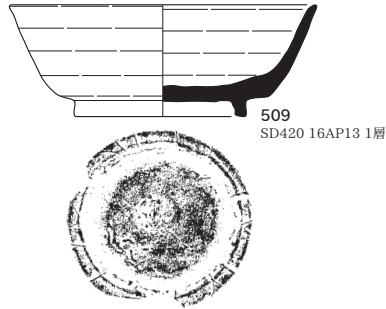
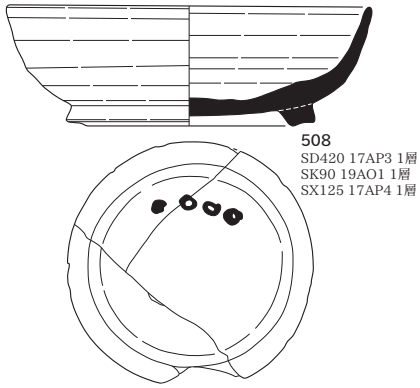
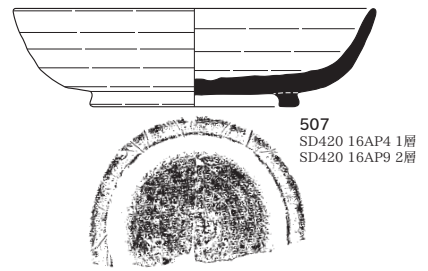
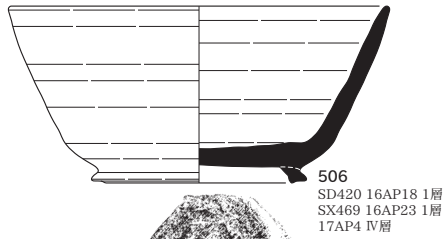
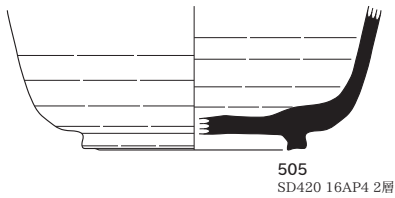
504
SD420 16AP23・17AP10 1層
P385 17AQ12 1層



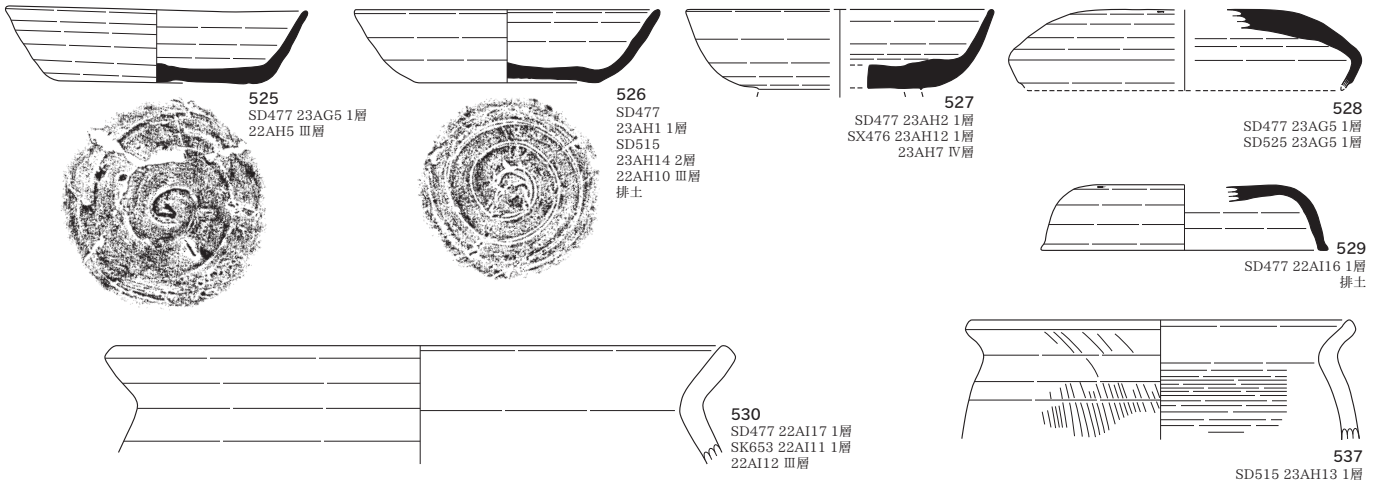
502
SD420 16AP5 1層



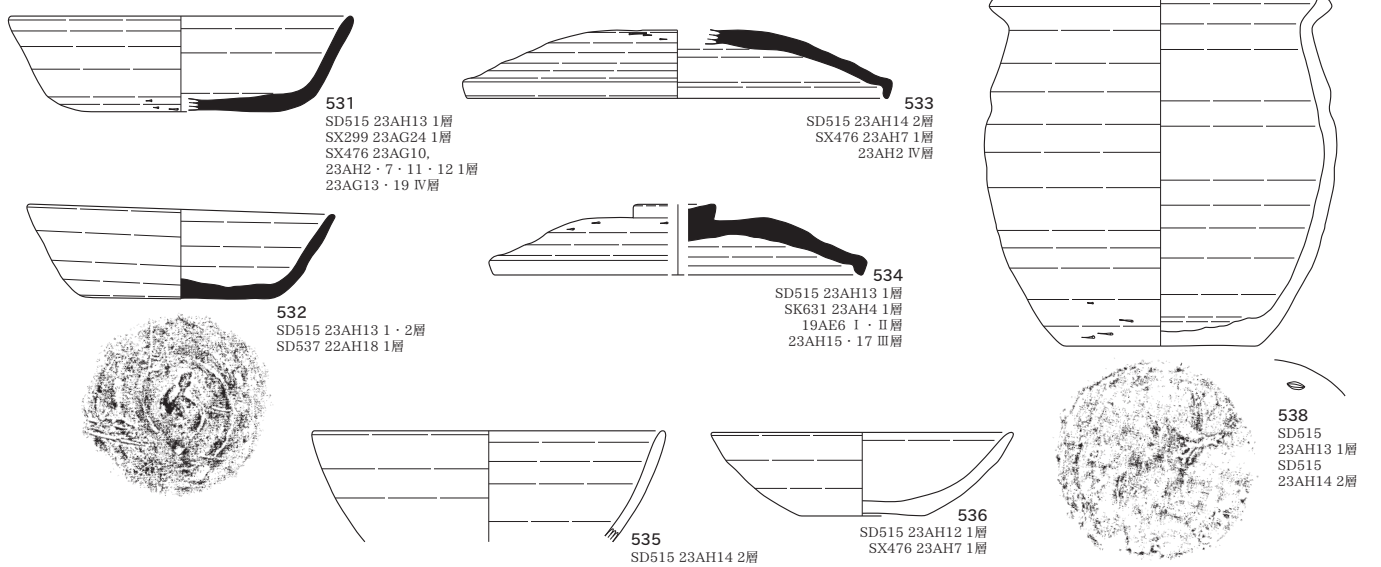
SD420 (505~524)



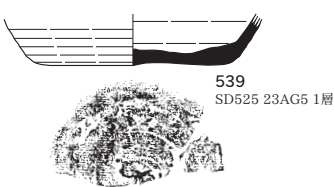
SD477 (525~530)



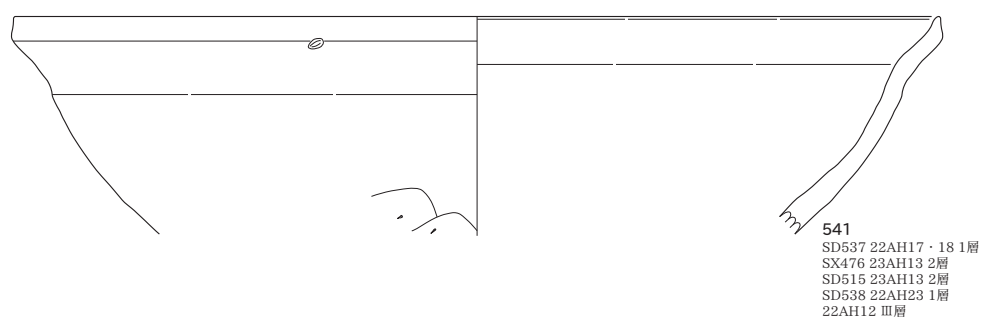
SD515 (531~538)



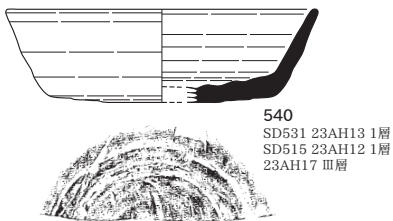
SD525 (539)



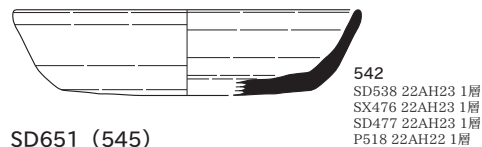
SD537 (541)



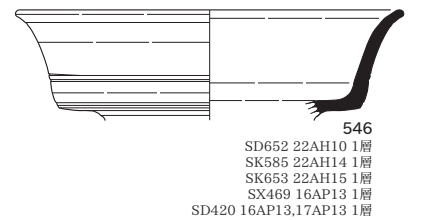
SD531 (540)



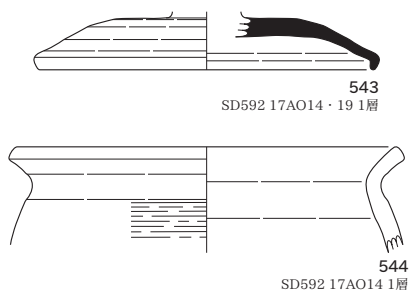
SD538 (542)



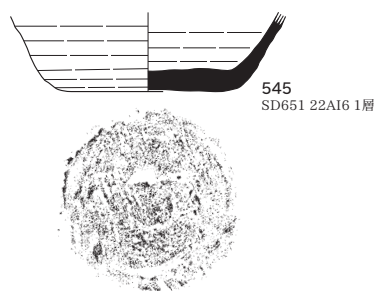
SD652 (546)



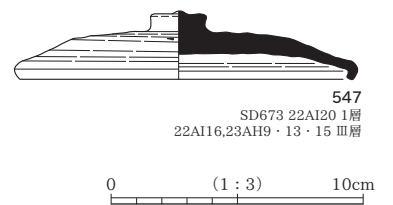
SD592 (543 · 544)



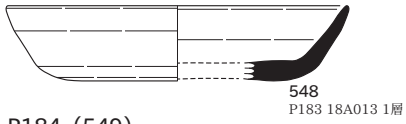
SD651 (545)



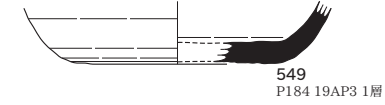
SD673 (547)



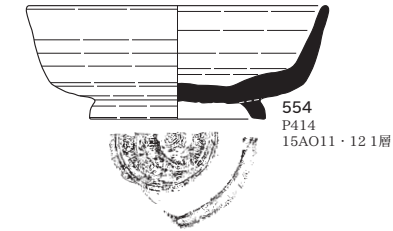
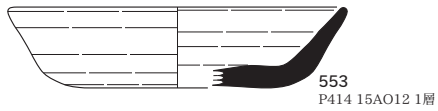
P183 (548)



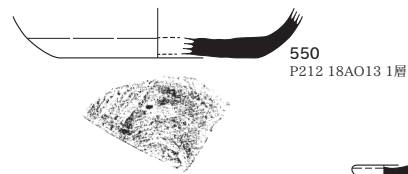
P184 (549)



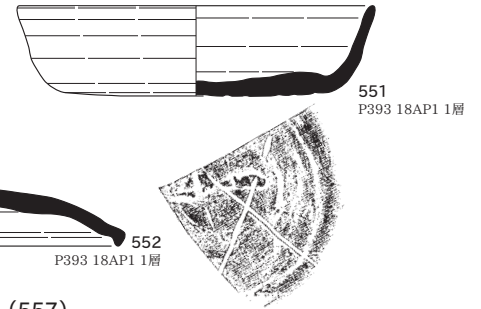
P414 (553 · 554)



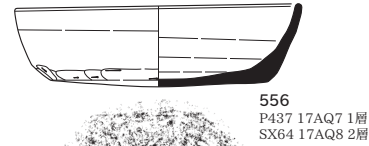
P212 (550)



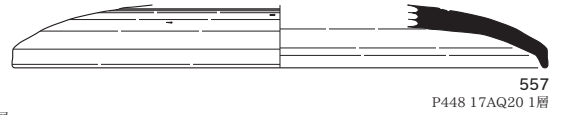
P393 (551 · 552)



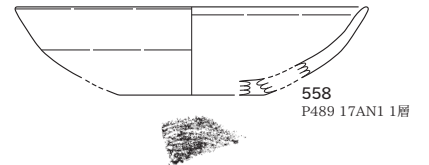
P437 (556)



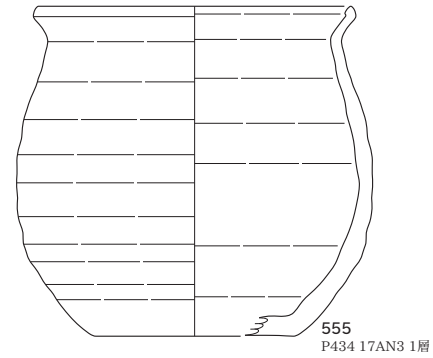
P448 (557)



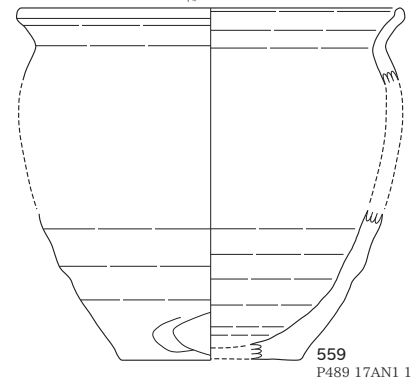
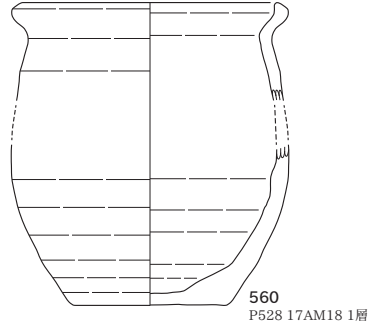
P489 (558 · 559)



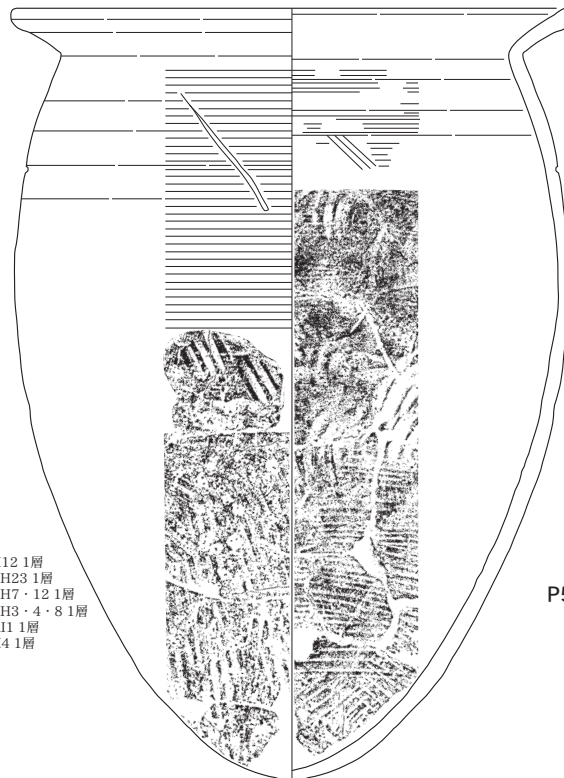
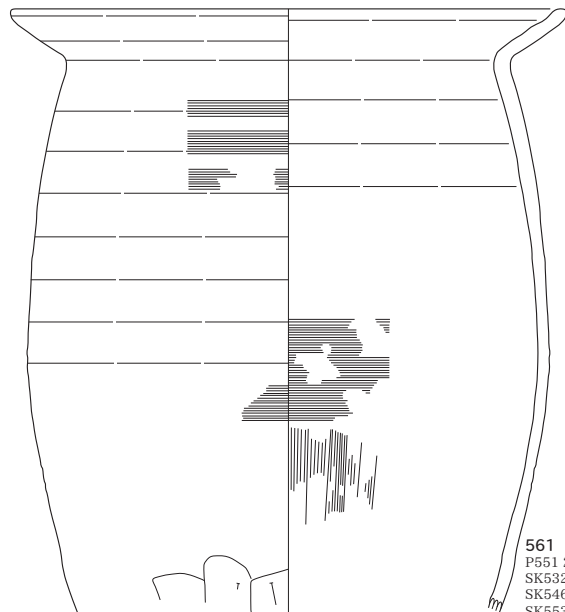
P434 (555)



P528 (560)



P551 (561 · 562)



P587 (563)



P590 (564)



P610 (565・566)



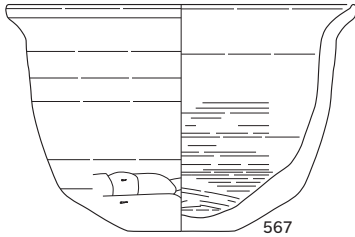
565
P610 14AM14 1層
14AM15 IV層
14AM14 カクラン



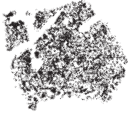
566
P610 14AM14 1層



P628 (567)



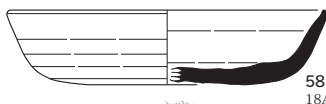
567
P628 17AL21 1層



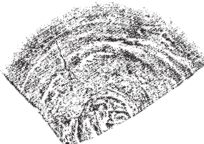
575
16AP15 IV層



578
16AQ18 IV層



581
18AP4・9 IV層



P716 (568)



568
P716 20AK25 1層

P718 (569)

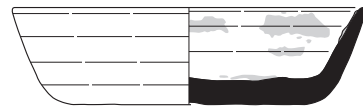
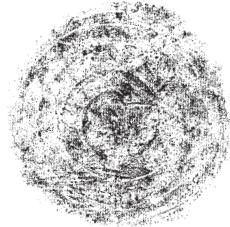


569
P718 20AK20 1層
SD492 20AK8 1層
P717 18AJ21 1層
15AP16,20AK7・15 IV層

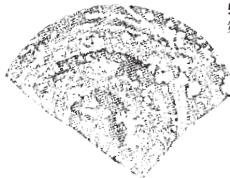
包含層 (571~583)



571
17AQ16 IV層



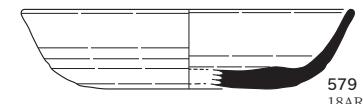
573
第1次調査15T IV~V層



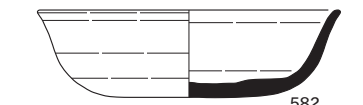
■ 漆



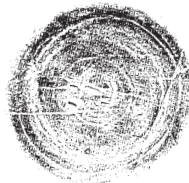
576
17AP20 IV層



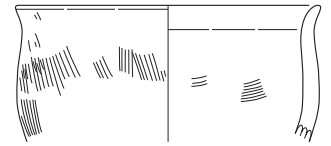
579
18AR6 IV層



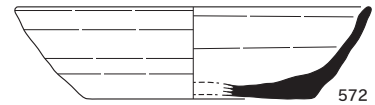
582
19AO20・25 IV層



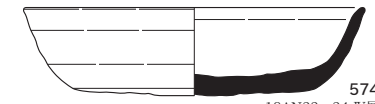
P815 (570)



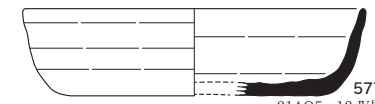
570
P815 17AQ13 1層



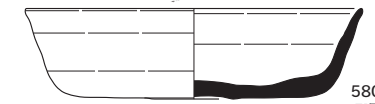
572
25AI2 III層



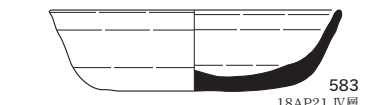
574
18AN23・24 IV層



577
21AO5・13 IV層



580
17AO17 IV層



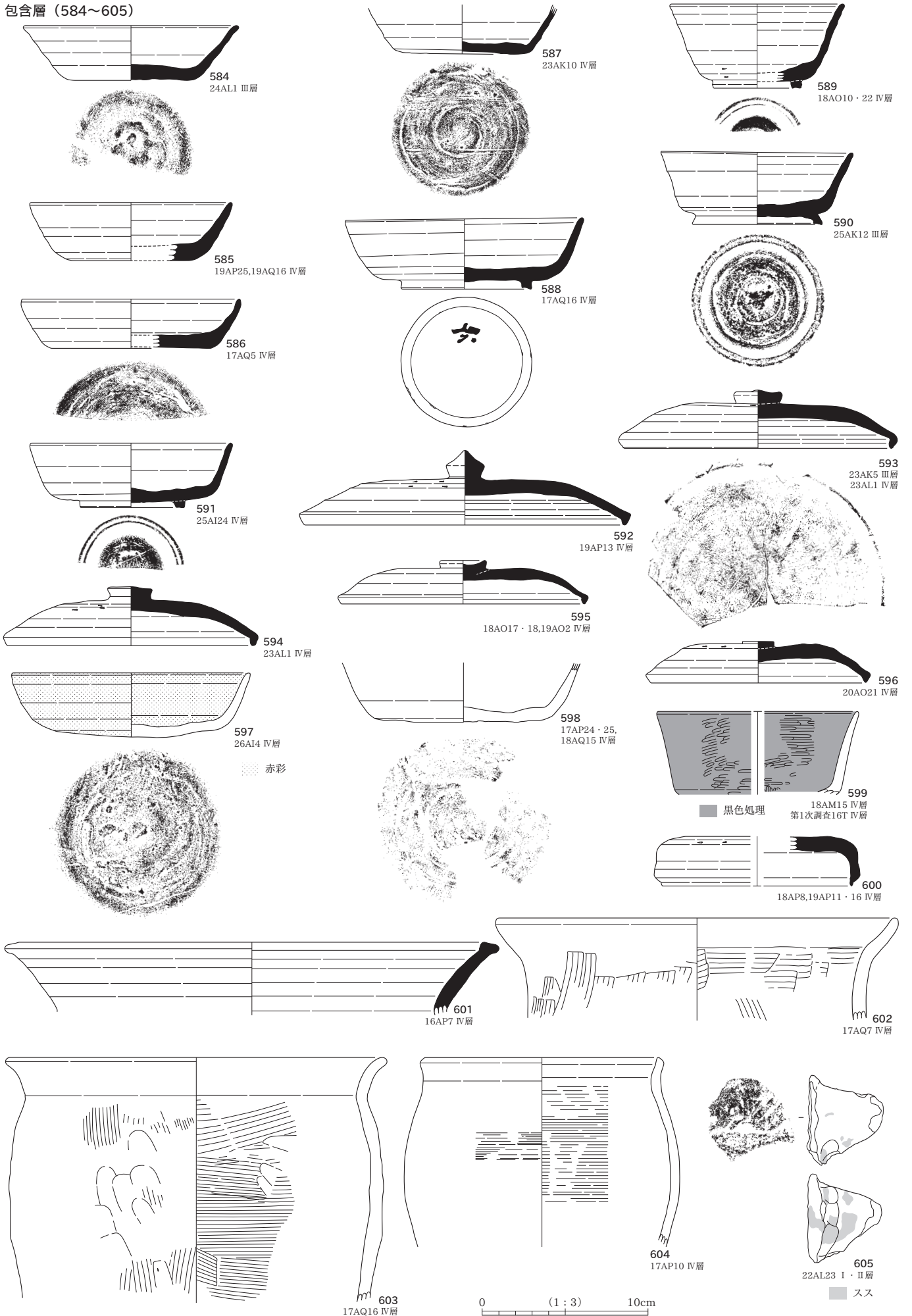
583
18AP21 IV層



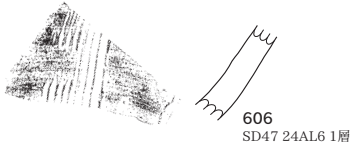
0 (569 1:4) 10cm

0 (その他 1:3) 10cm

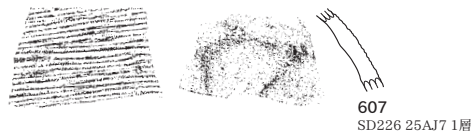
包含層 (584~605)



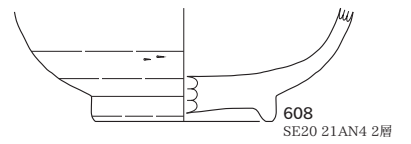
SD47 (606)



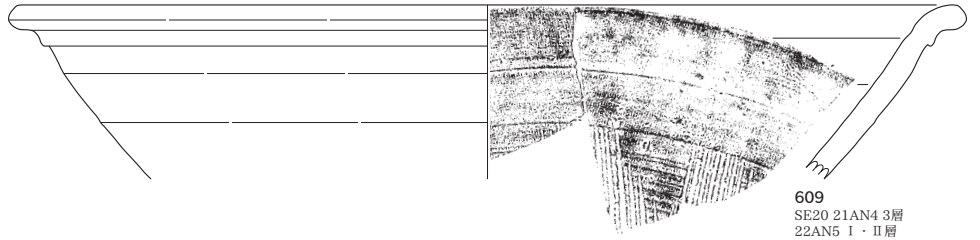
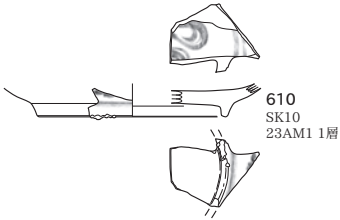
SD226 (607)



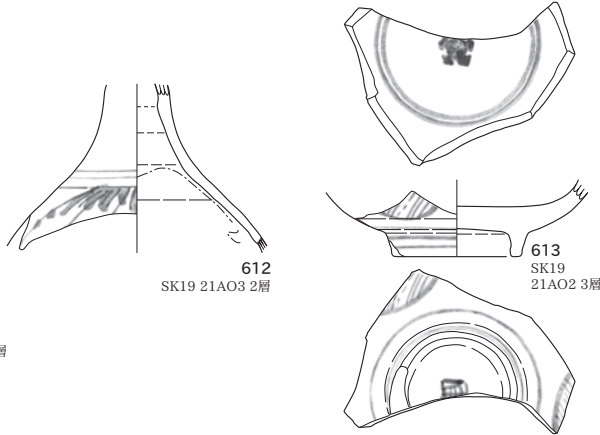
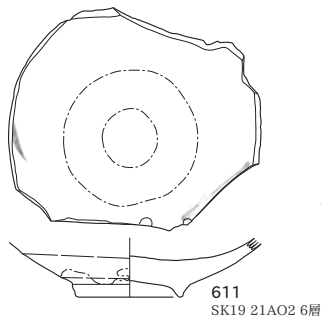
SE20 (608・609)



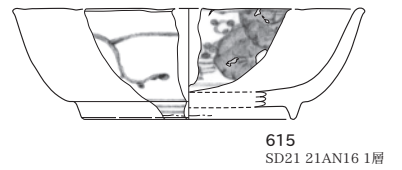
SK10 (610)



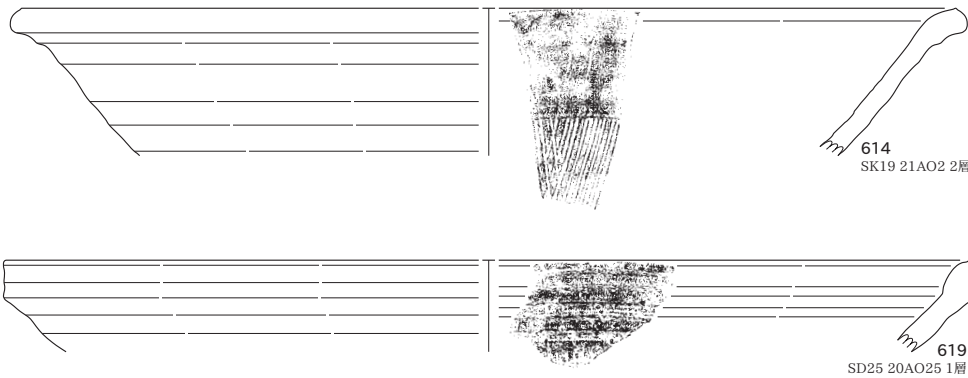
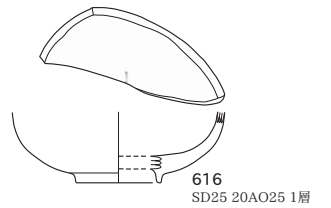
SK19 (611~614)



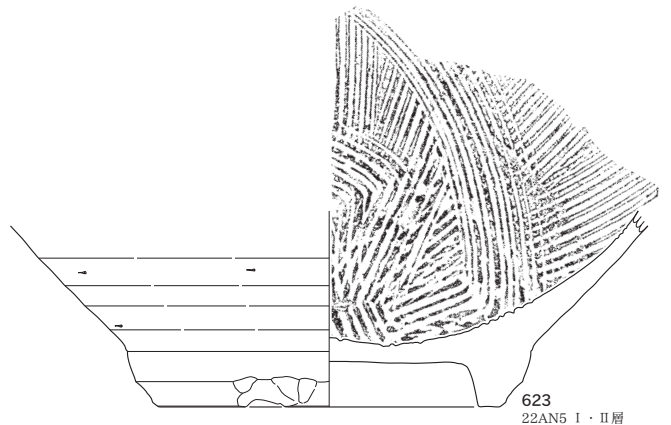
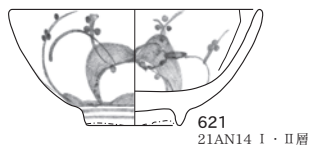
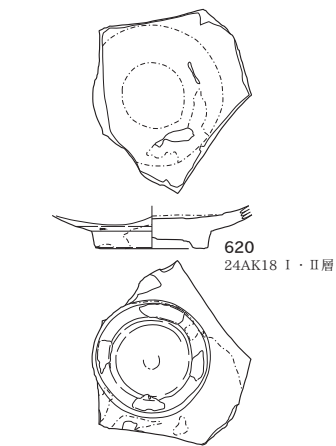
SD21 (615)

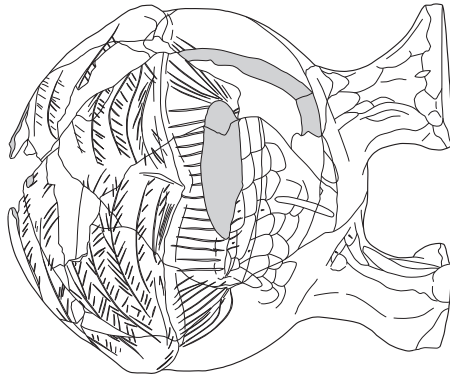
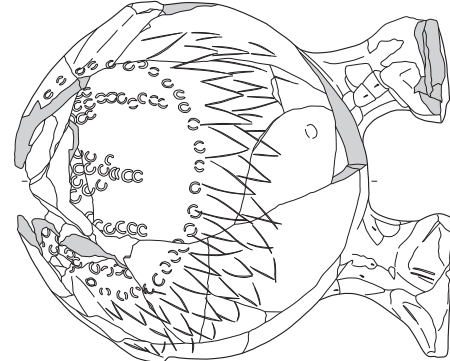
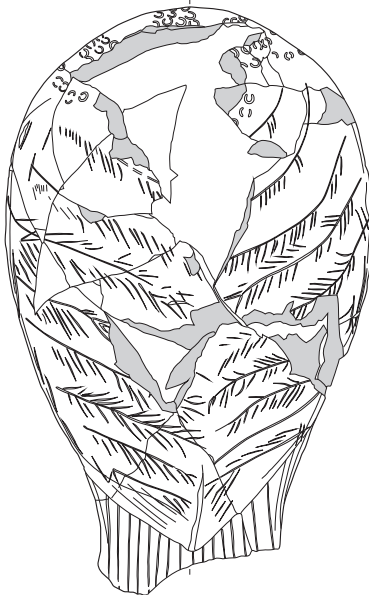
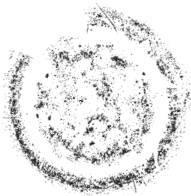
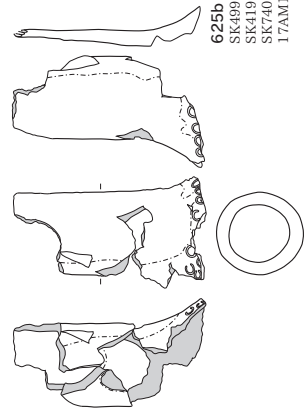


SD25 (616~619)

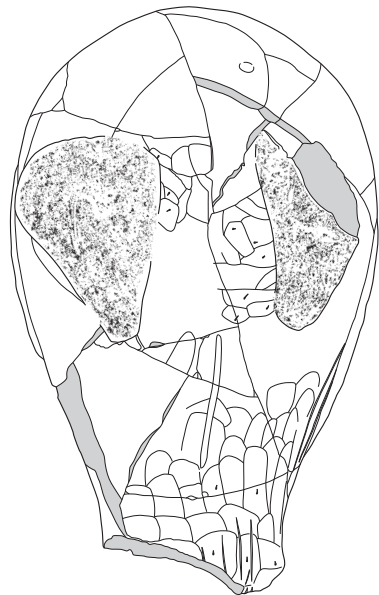
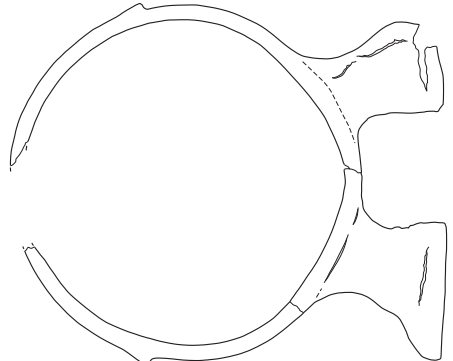
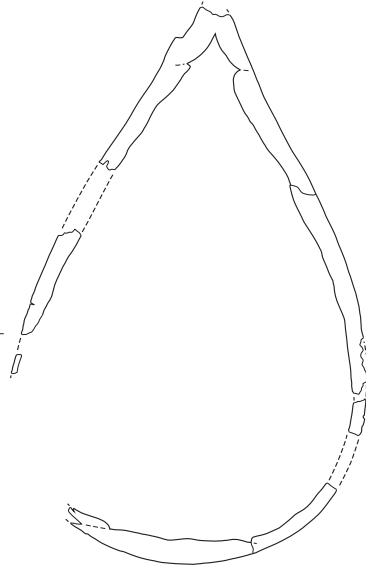


包含層 (620~624)

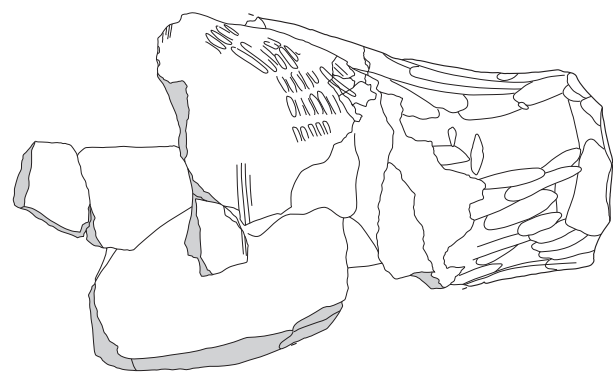
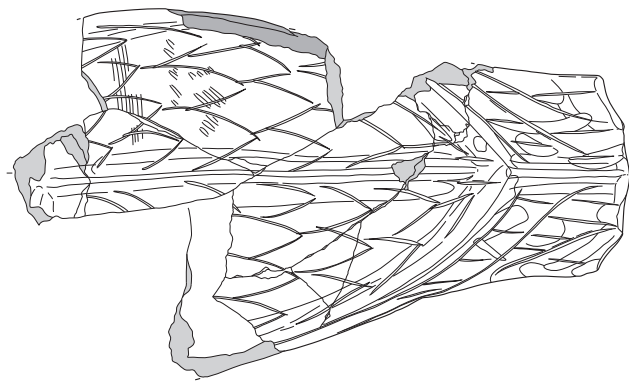
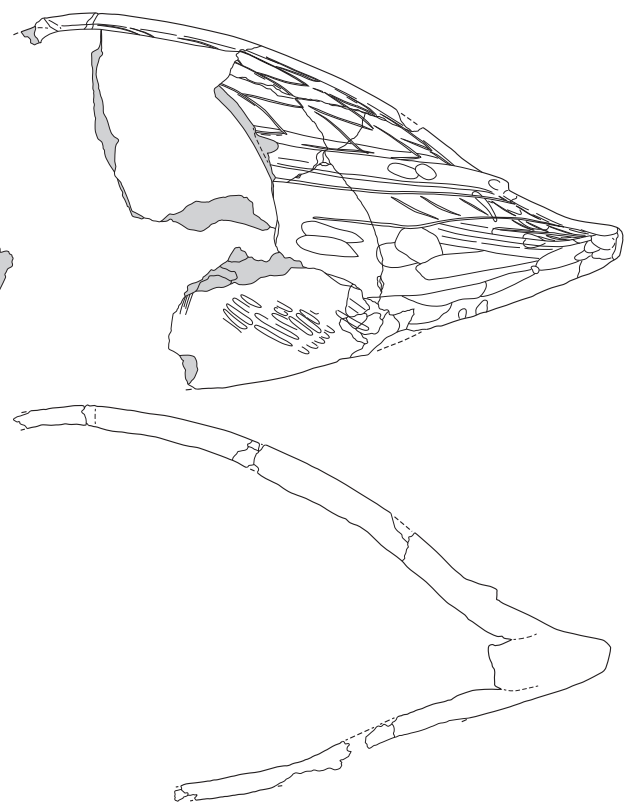
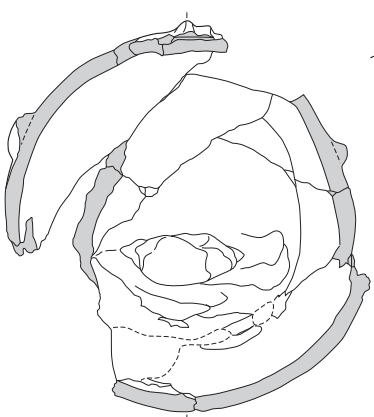




625a
SK418 17AL19・20・24・25 1層
SK419 18AM1 2層
SK419 18AM2 2層
SK740 19AM1 1層
SK486 18AM2 1層
17AM11, 18AL5 4層
18AM2 カクラン



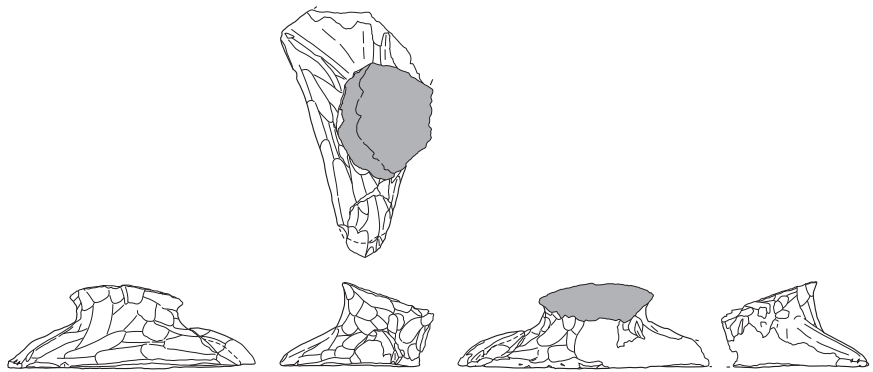
断面・欠け



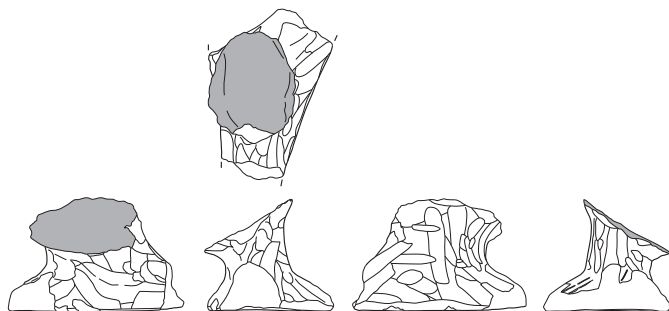
626
SK413 16AM12 TH

ハガレ
断面・欠け

0 (1:4) 10cm

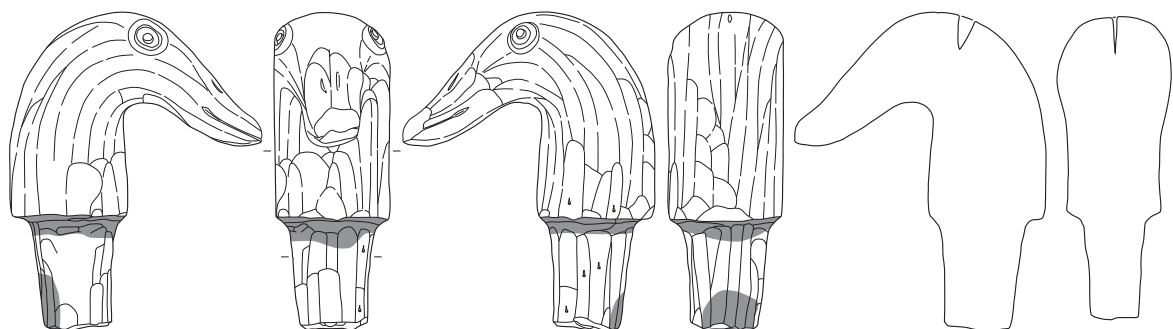


627
SK419 18AM1 2層

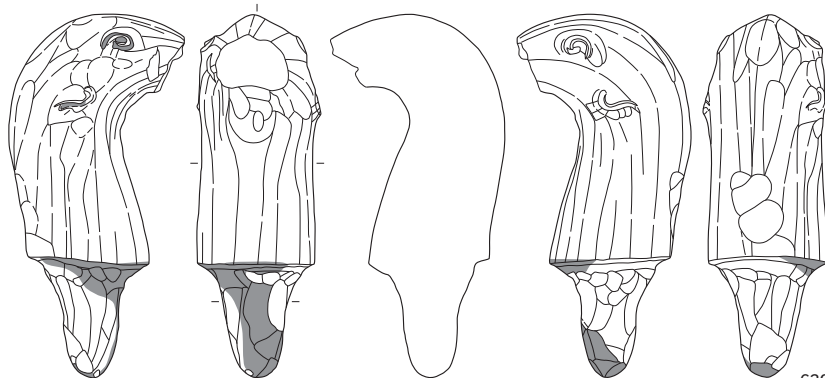
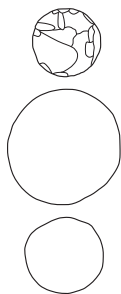


628
SK419 18AM1 2層

■ ハガレ

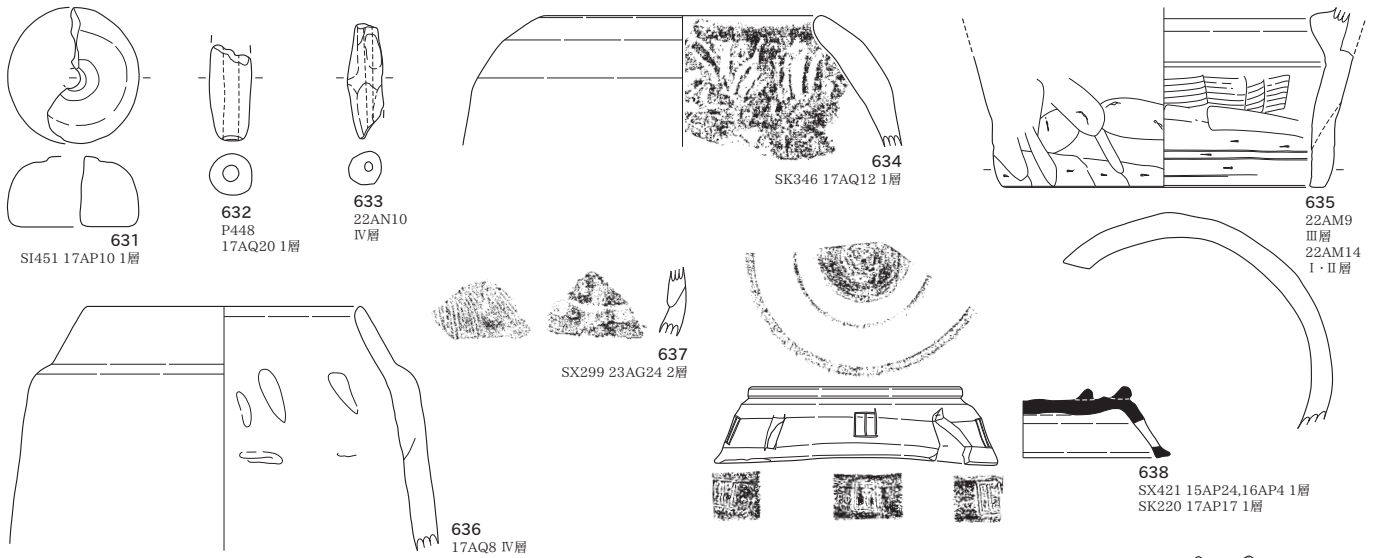


629
■ 磨耗 SK419 18AM1 2層

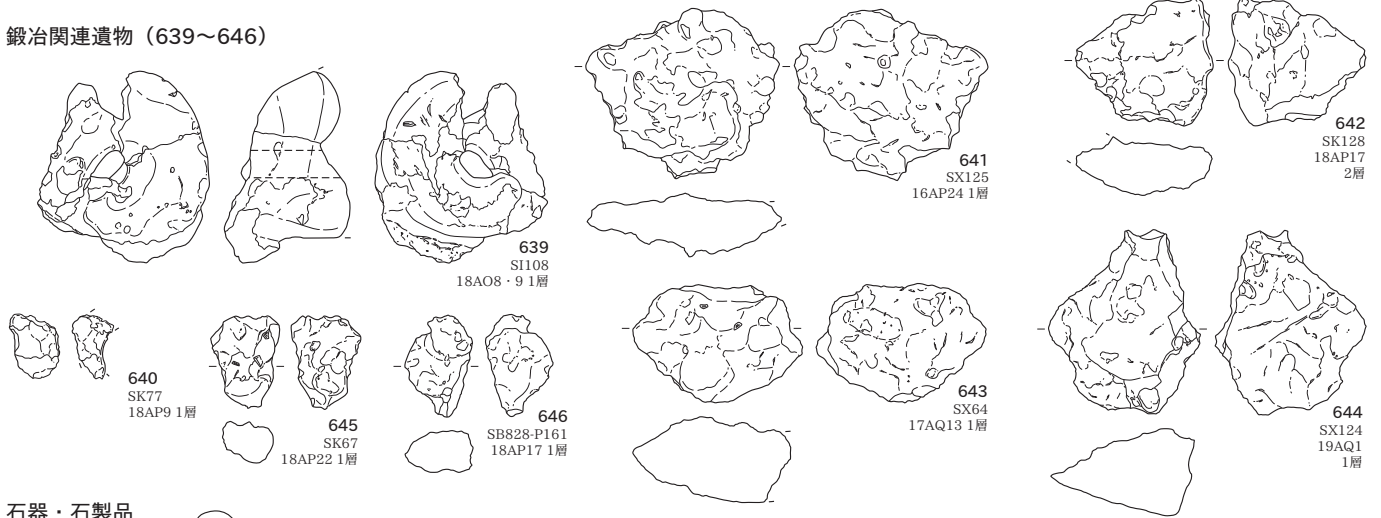


630
SK419 18AM1 2層
■ 磨耗

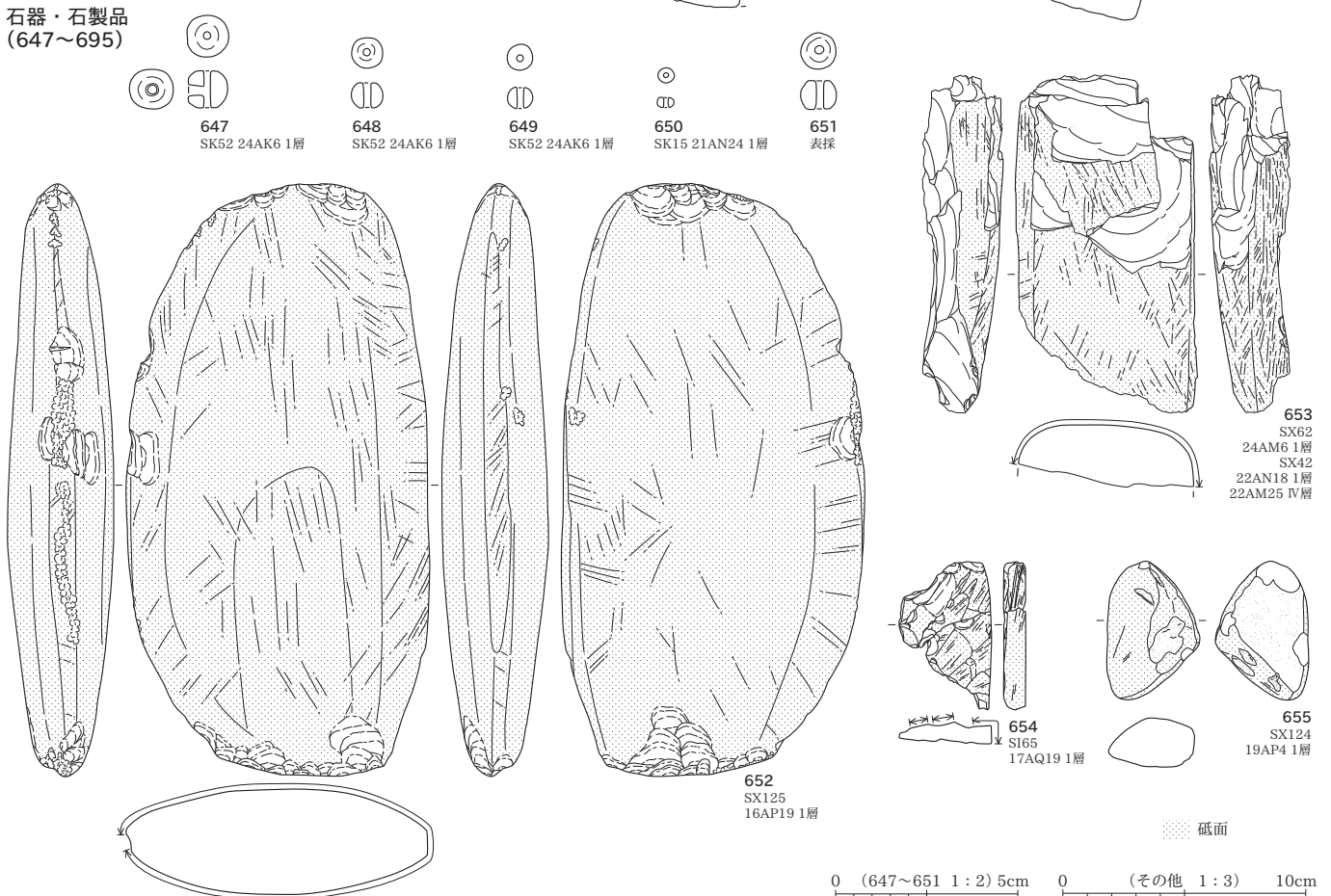
0 (627・628 1:4) 10cm
0 (629・630 1:3) 10cm

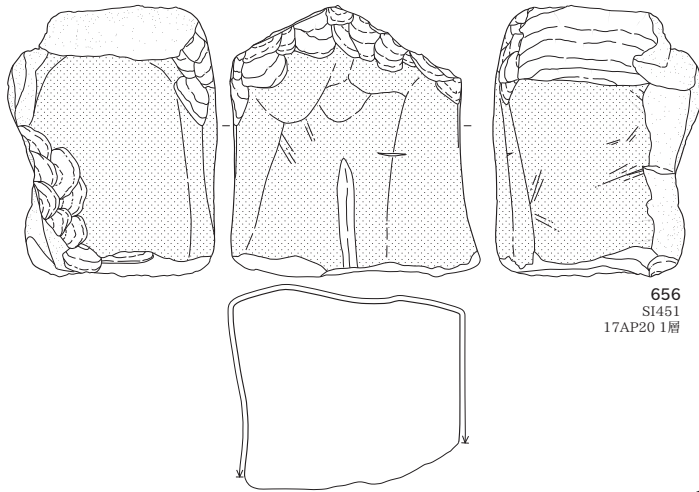


鍛冶関連遺物 (639~646)



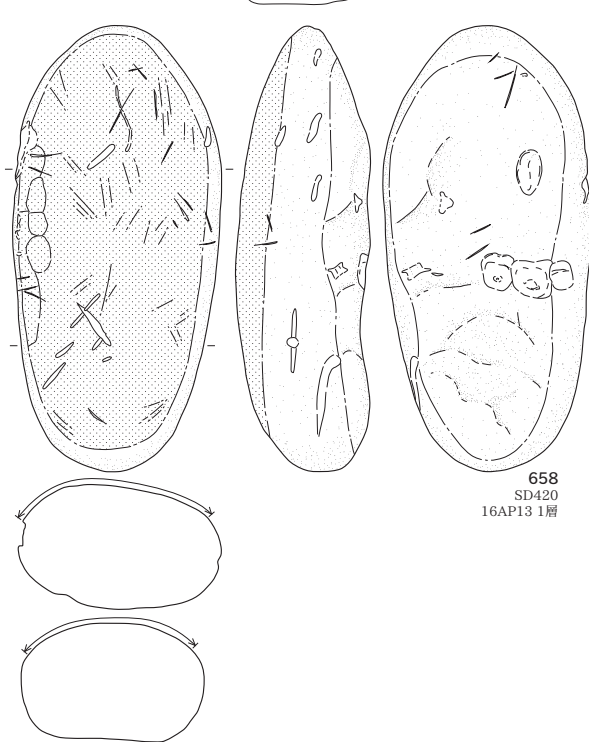
石器・石製品 (647~695)





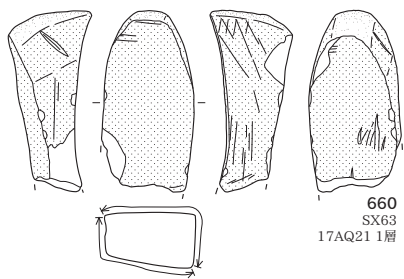
656
SI451
17AP20 1層

657
17AP10 IV層



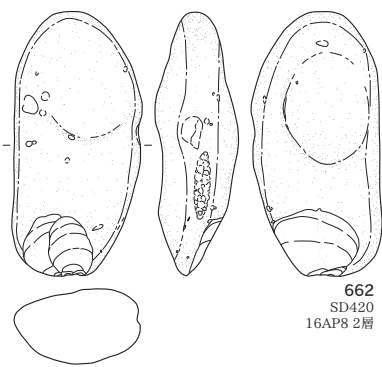
658
SD420
16AP13 1層

659
21AK11 IV層



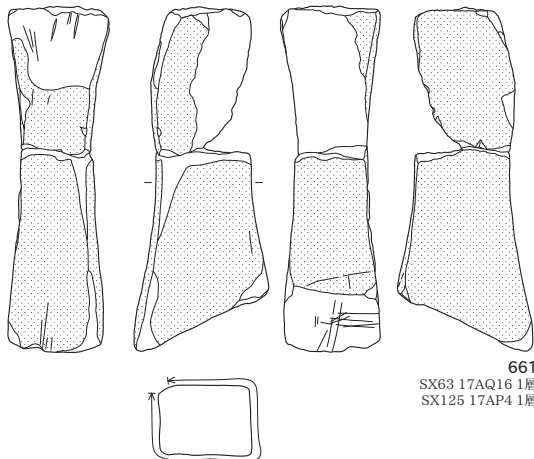
660
SX63
17AQ21 1層

661
SX63 17AQ16 1層
SX125 17AP4 1層



662
SD420
16AP8 2層

663
17AR18 IV層

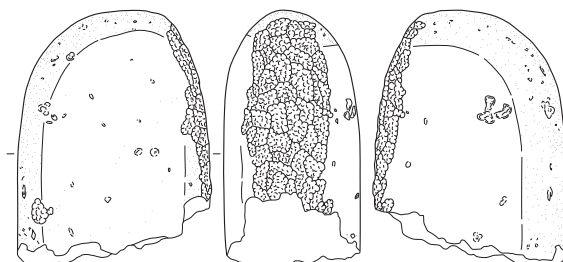


664
SX469
16AP22 1層

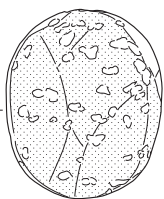
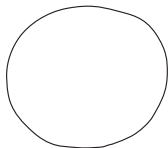
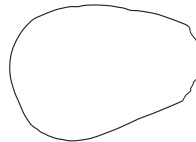
砥面



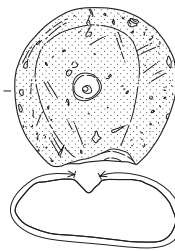
665
SI108
18AO9 1層



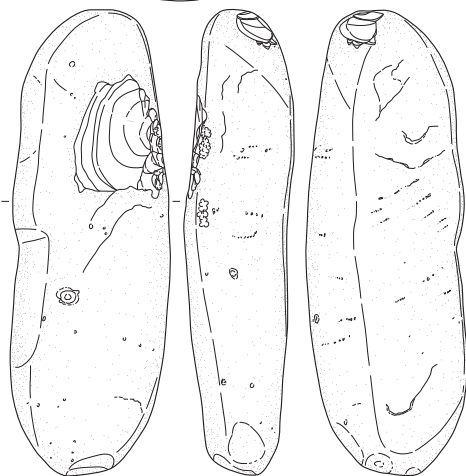
666
SI451
17AP15 1層



668
SD420
16AP9 2層



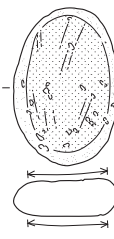
669
SI451
17AP10 1層



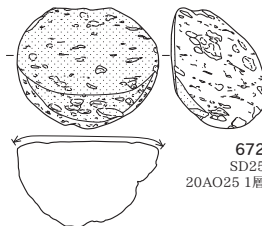
667
17AQ13 IV層



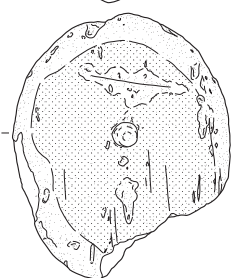
670
SK443
17AR6 1層



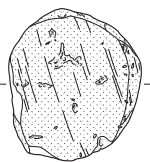
671
SD525
23AH1 1層



672
SD25
20AO25 1層



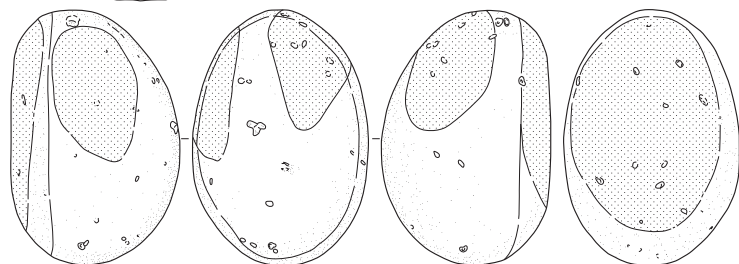
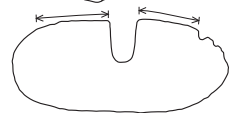
673
17AO15 IV層



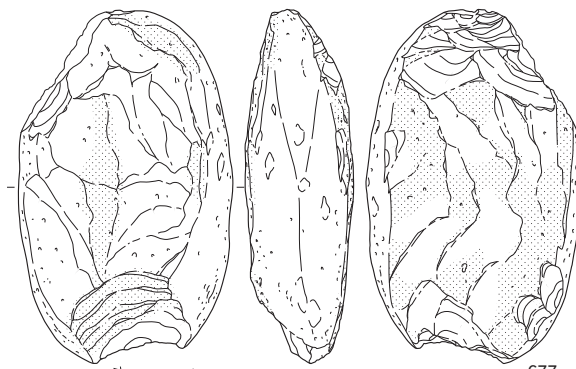
674
SK19
21AO3 2層



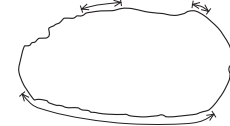
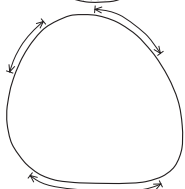
675
17AP19 IV層



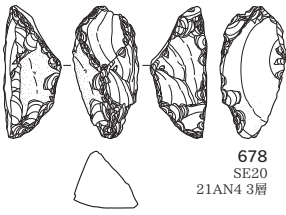
676
SX469
16AP24 1層



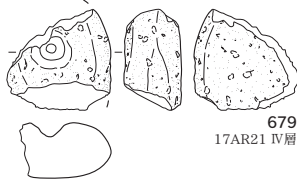
677
23AH1 III層



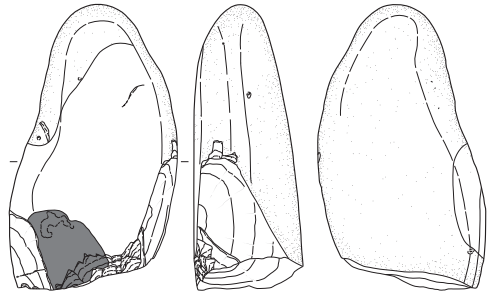
磨面



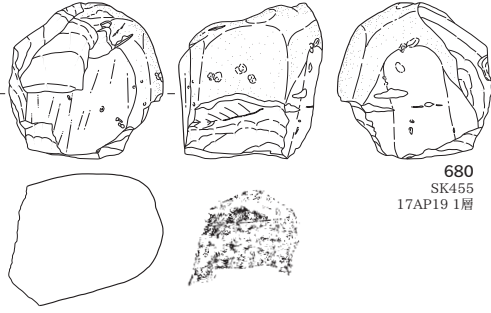
678
SE20
21AN4 3層



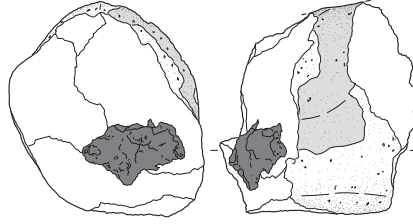
679
17AR21 IV層



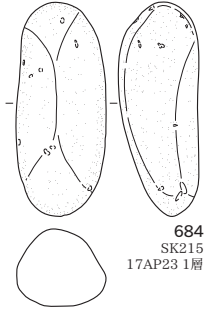
682
SI608
15AO4 1層
■ 付着物 (鉄滓)



680
SK455
17AP19 1層



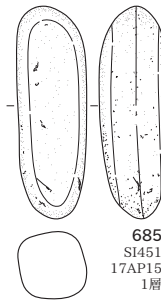
683
SD592 17AO19 1層
■ 被熱 (黒化)
■ 付着物 (鉄滓)



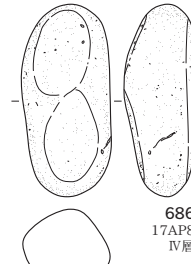
684
SK215
17AP23 1層



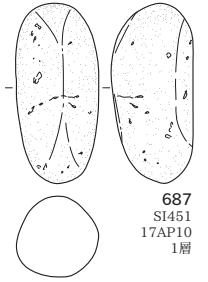
681
24AK15 IV層



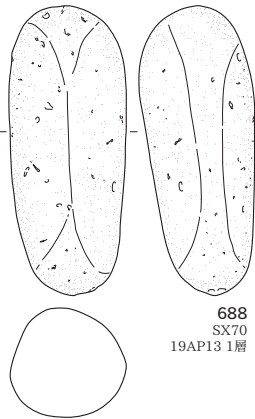
685
SI451
17AP15 1層



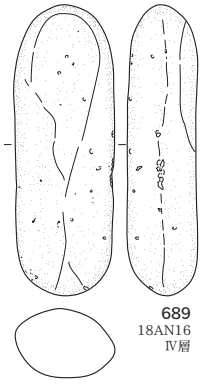
686
17AP8
IV層



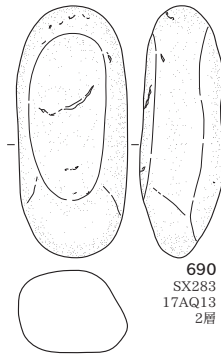
687
SI451
17AP10 1層



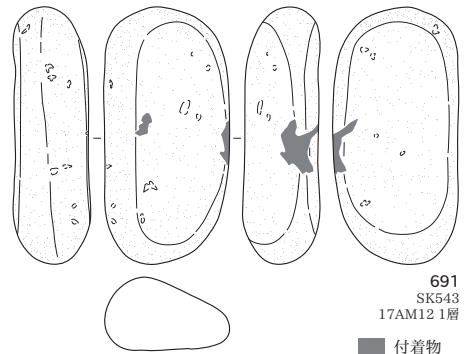
688
SX70
19AP13 1層



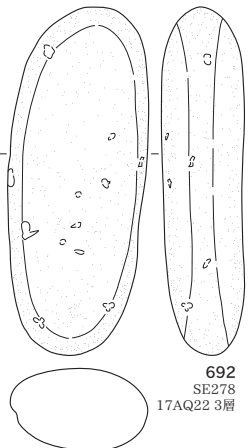
689
18AN16
IV層



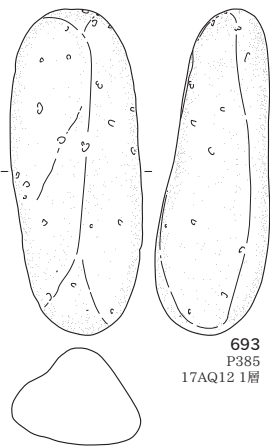
690
SX283
17AQ13 2層



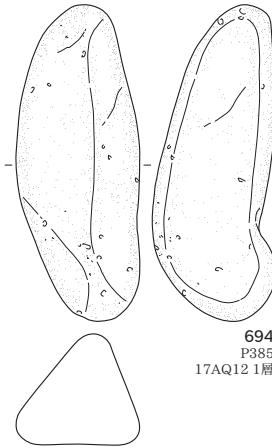
691
SK543
17AM12 1層
■ 付着物



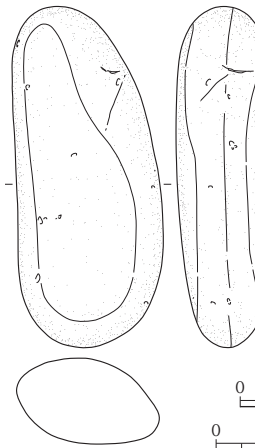
692
SE278
17AQ22 3層



693
P385
17AQ12 1層

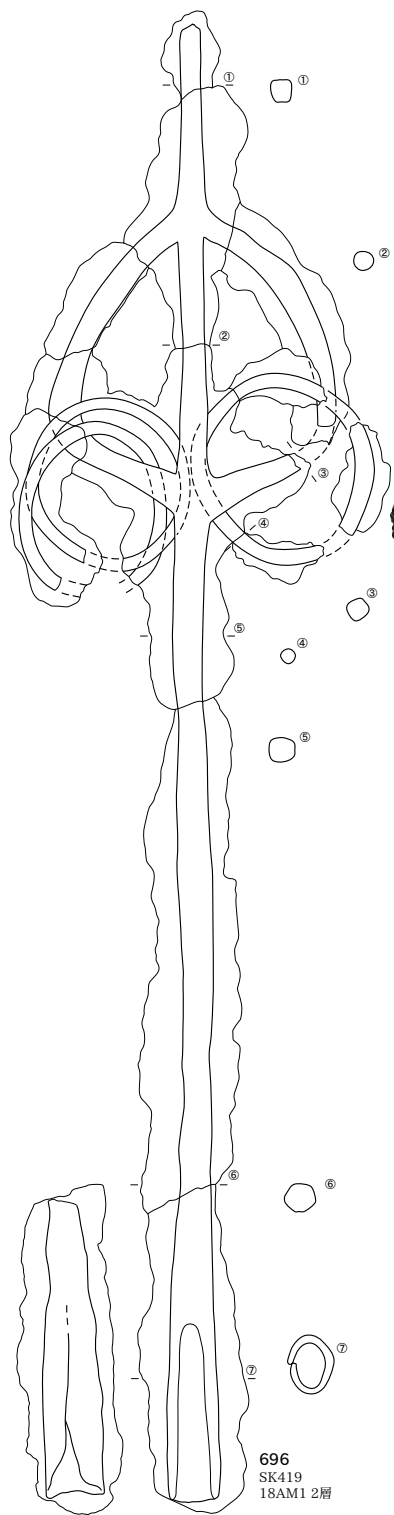


694
P385
17AQ12 1層

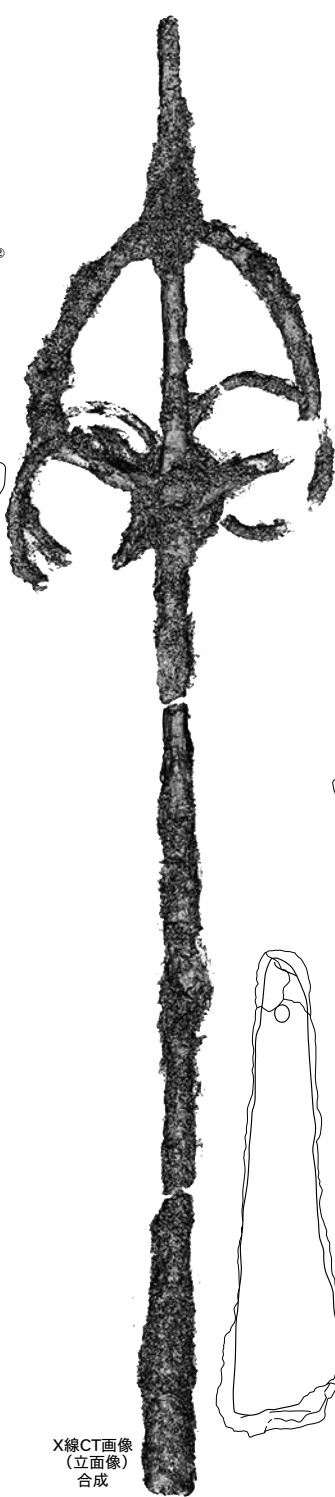


695
19AO2 IV層

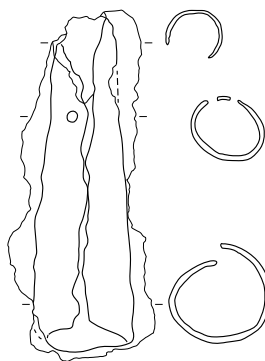
0 (680~682 1:5) 15cm
0 (その他 1:3) 10cm



696
SK419
18AM1 2層

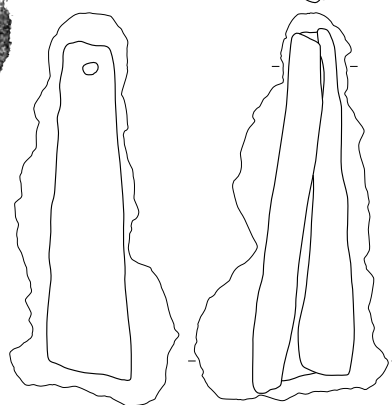


X線CT画像
(立面像)
合成



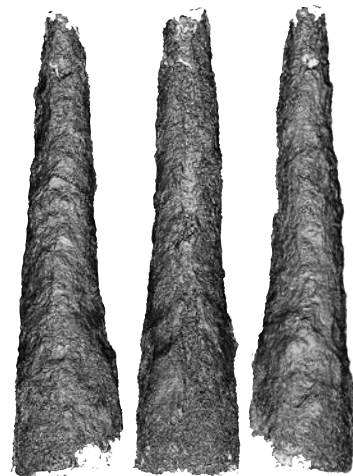
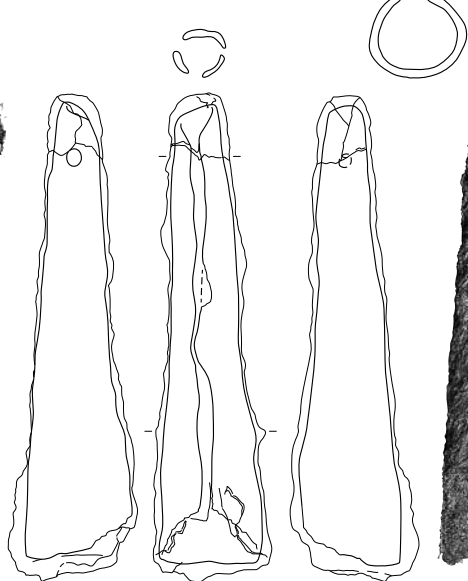
697
SK419
18AM1 2層

X線CT画像
(立面像)



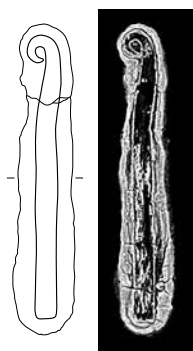
X線CT画像
(立面像)

698
SK419
17AM21 2層

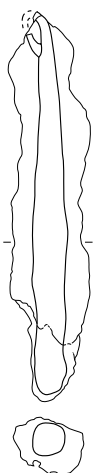


X線CT画像
(立面像)

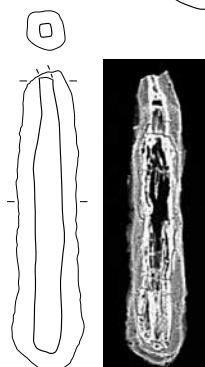
699
SK758
17AK25 1層



701
SB828-SD357
17AR16 1層
X線CT画像
(断面像)



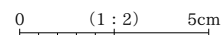
702
SK488
18AL3 3層
X線CT画像
(断面像)

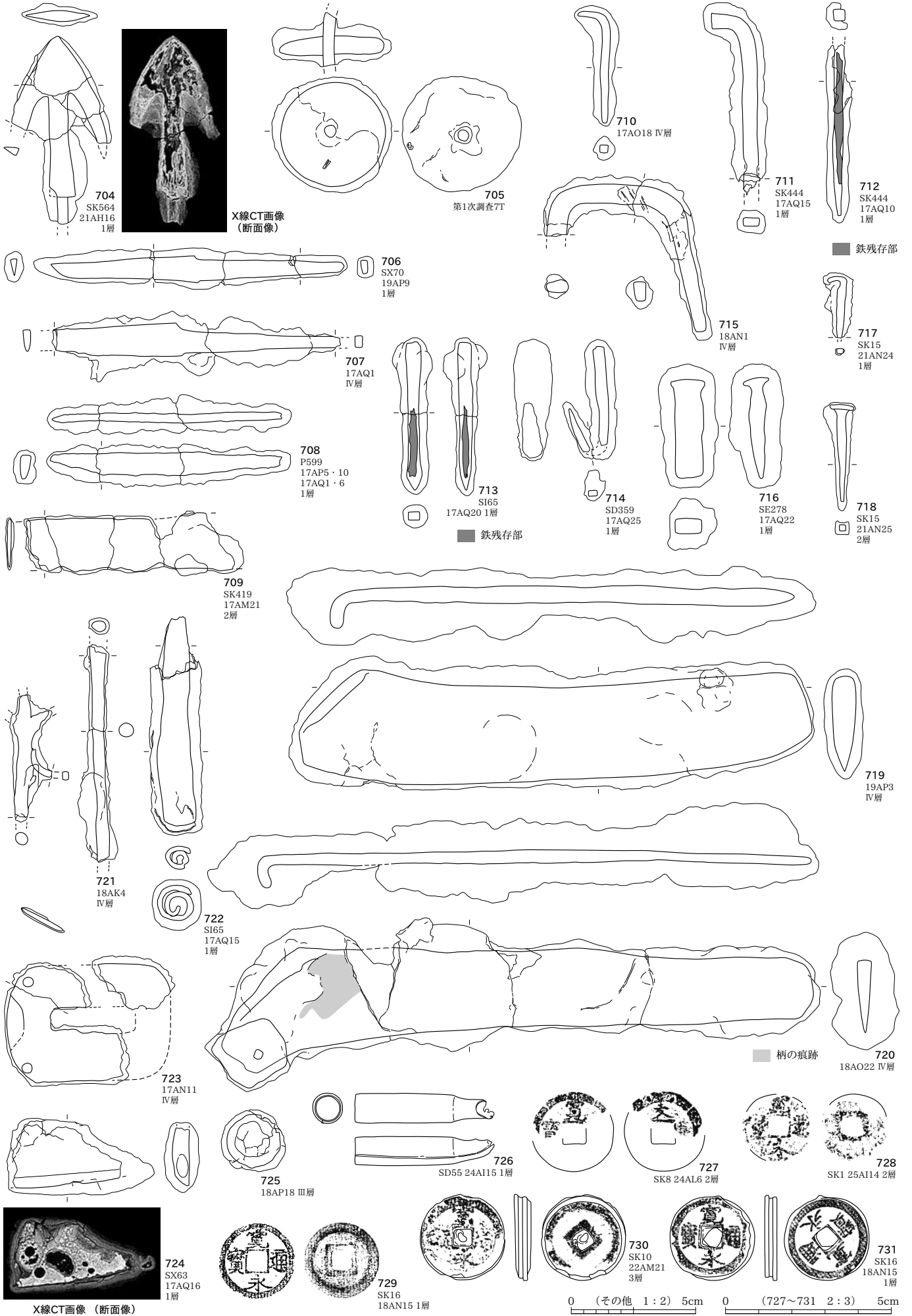


703
19AP22 IV層
X線CT画像
(断面像)



700
SX63
17AQ21 1層
X線CT画像
(立面像)

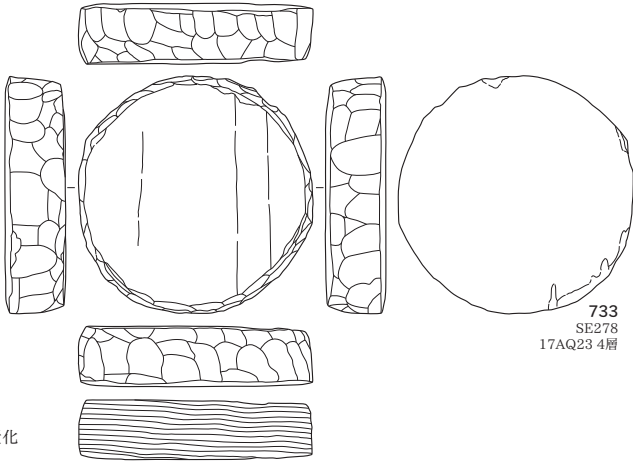




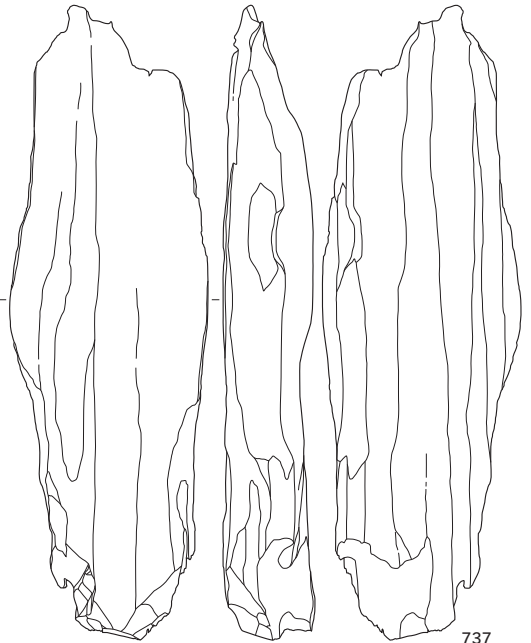


732
SE278
17AQ23 5層

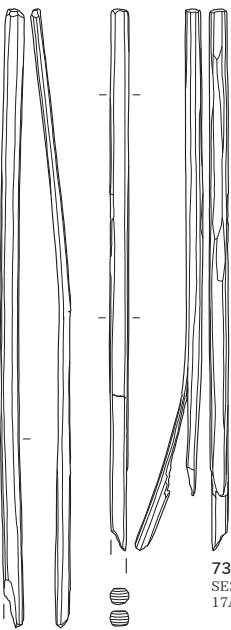
炭化



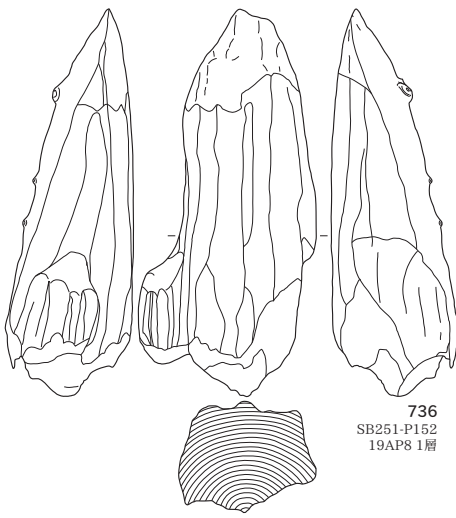
733
SE278
17AQ23 4層



737
SB251-P178
18AP21

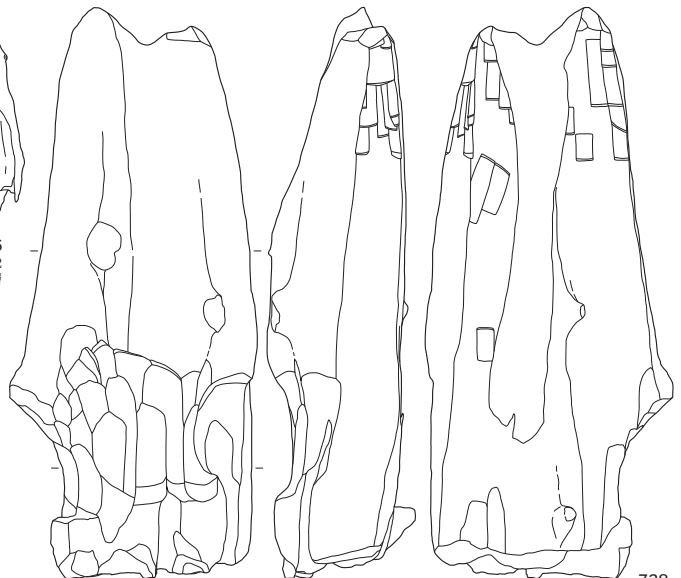


734
SE278
17AQ23
4層



736
SB251-P152
19AP8 1層

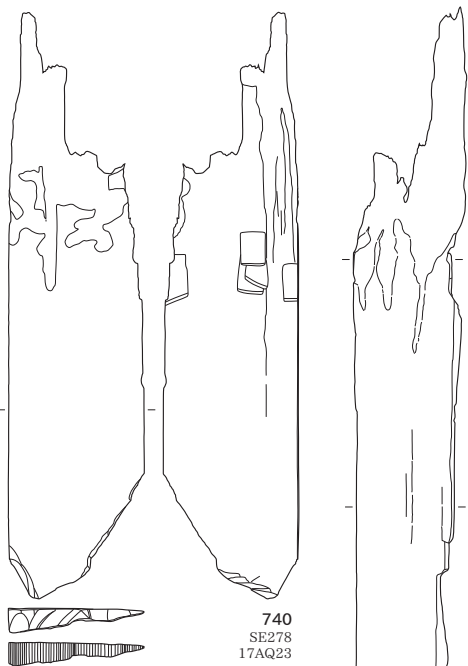
735
SE278
17AQ23 4層



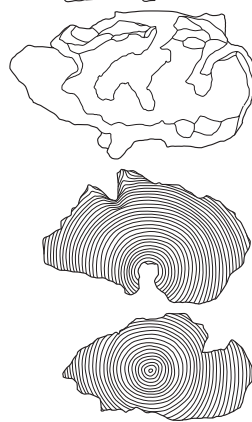
738
SB251-P273
18AP7



739
SI108-焼土211
18AQ3・4・
8・9
1層



740
SE278
17AQ23



742
SE278
17AQ23

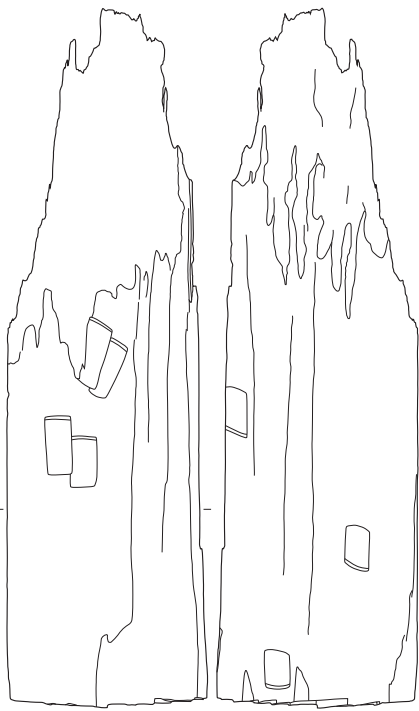


741
SE278
17AQ23

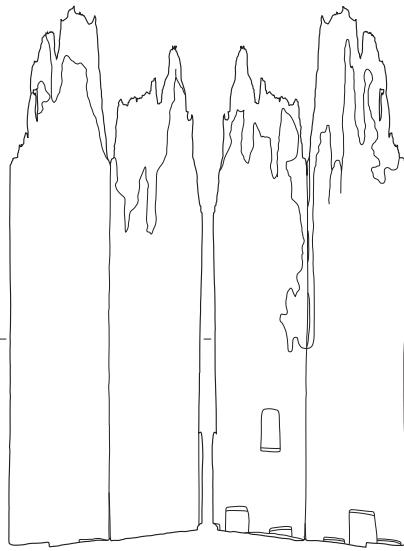
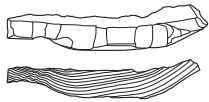
0 (732・733 1:3) 10cm

0 (734・735 1:6) 20cm

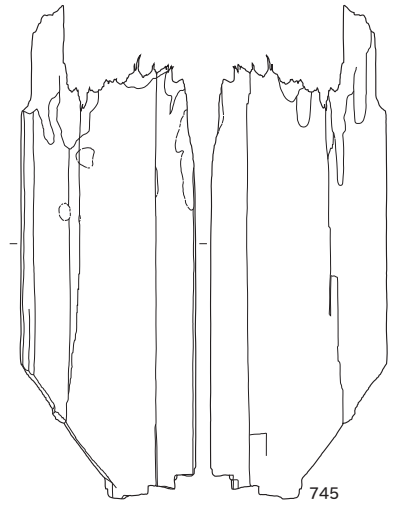
0 (その他 1:8) 20cm



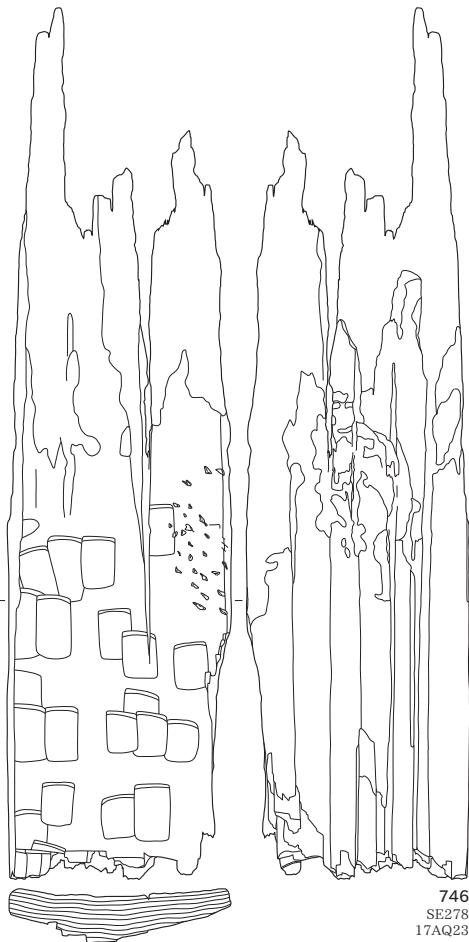
743
SE278
17AQ23



744
SE278
17AQ23



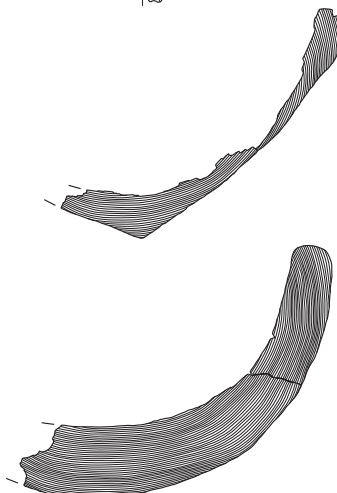
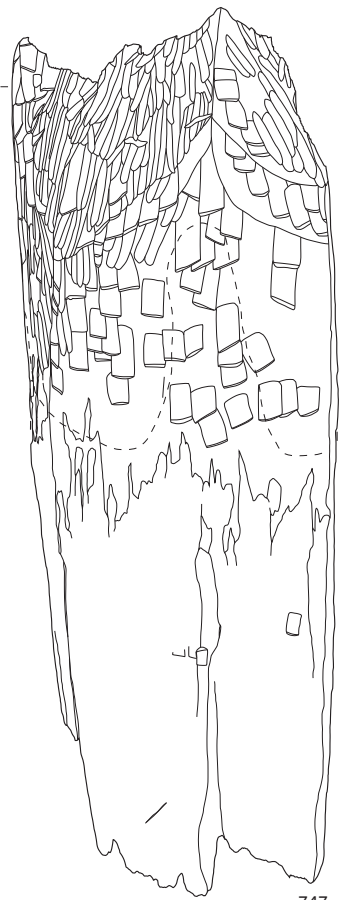
745
SE278
17AQ23



746
SE278
17AQ23



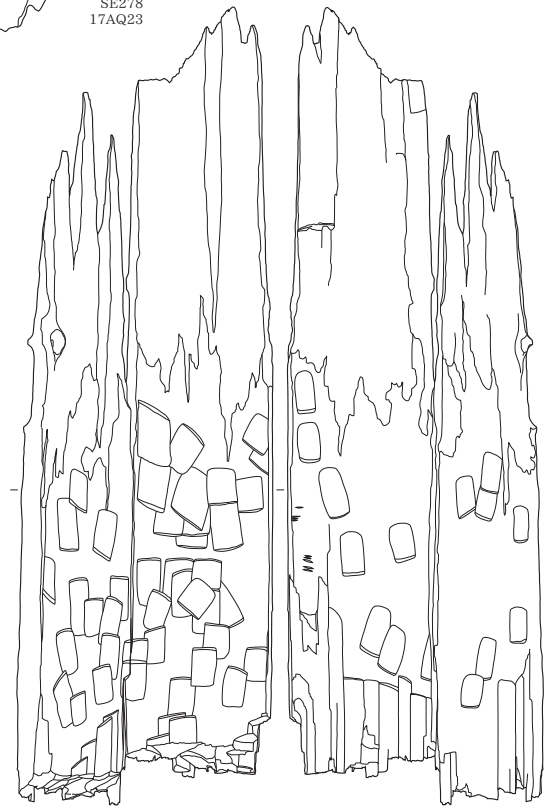
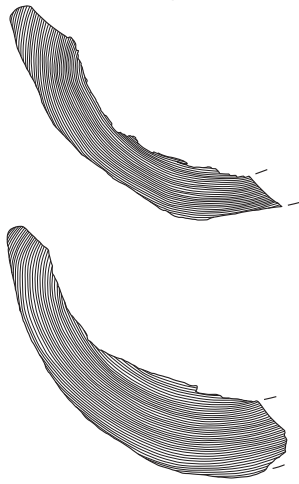
747
SE278
17AQ23



0 (747 1:12) 40cm
0 (その他 1:8) 20cm



748
SE278
17AQ23



749
SE278
17AQ23

- 00 750 SK1 25A114 2層
- 00 751 SK1 25A114 2層
- 00 752 SK1 25A114 2層
- 00 753 SK10 22AM21 3層
- 00 754 SK10 22AM21 3層

0 (その他 1:2) 5cm 0 (748・749 1:12) 40cm



曾我墓所遺跡周辺空中写真 1

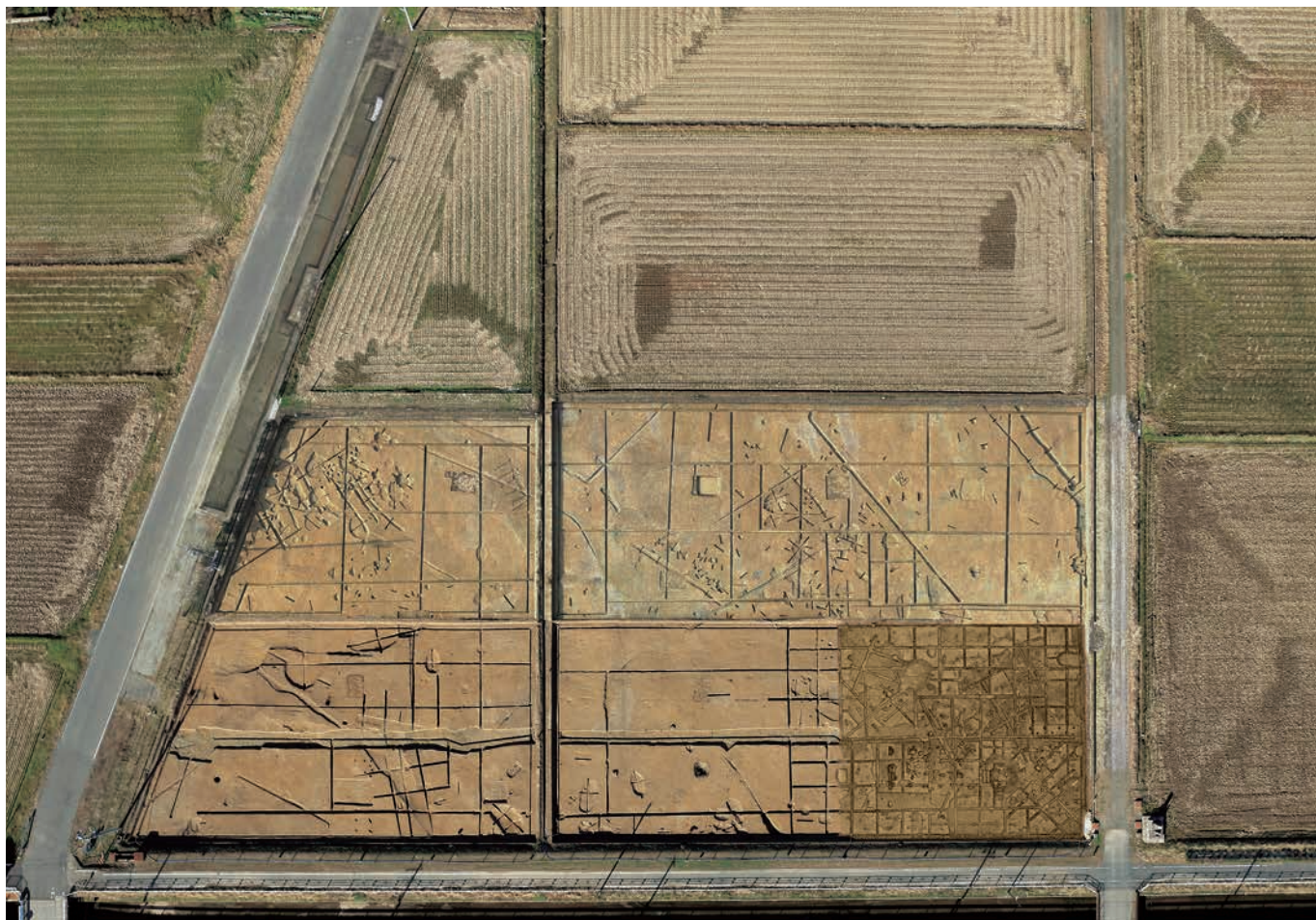
[米軍撮影 1948]



曾我墓所遺跡周辺空中写真 2 (北から)



曾我墓所遺跡周辺空中写真 3 (北西から)



曾我墓所遺跡 完掘（上が北西）



路線部分 完掘（上が北東）



竪穴建物・掘立柱建物集中区 完掘（上が北西）



溝状遺構集中区 完掘（上が西）



SK413・418・419・488 完掘（上が北西）



SK418・419 遺物出土（上が北東）



SK419 遺物出土 (北から)



SK419 遺物出土 (南から)



調査前風景（南西から）



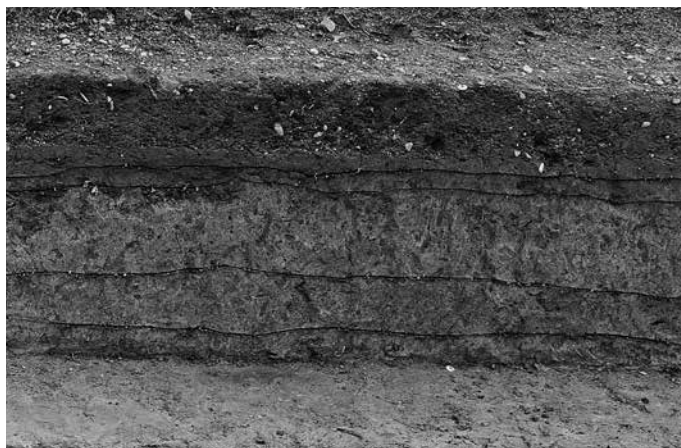
調査前風景（北東から）



調査前風景（北から）



調査前風景 路線区（西から）



基本層序①（北西から）



基本層序②（北西から）



基本層序③（北東から）



基本層序④（北東から）



基本層序⑤ (南西から)



基本層序⑥ (南東から)



基本層序⑦ (北西から)



基本層序⑧ (南西から)



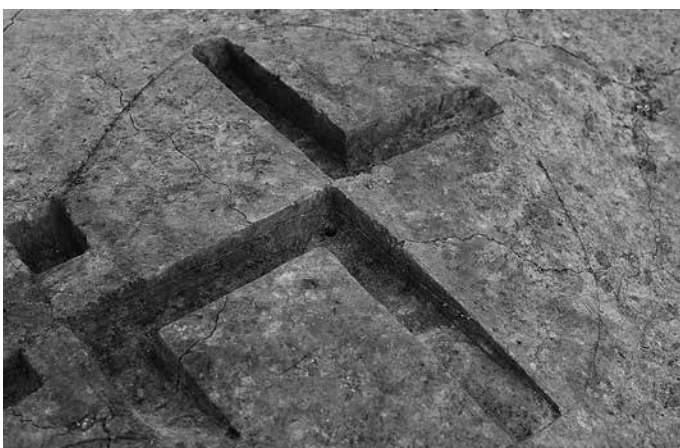
SI65 A-A' 土層断面 (西から)



SI65 B-B'・P448 土層断面 (南から)



SI65- 焼土 817 A-A' 土層断面 (西から)



SI65- 焼土 817 B-B' 土層断面 (北西から)



SI65 完掘 (南から)



SI103 A-A'・B-B' 土層断面 (東から)



SI103-焼土 114 土層断面 (北東から)



SI103 完掘 (南から)



SI108 A-A' 土層断面 (南東から)



SI108 B-B' 土層断面 (南から)



SI108-焼土 211 土層断面 (南から)



SI108-P123 土層断面 (東から)



SI108-P200 土層断面 (南から)



SI108-P203 土層断面 (西から)



SI108-P204 土層断面 (東から)



SI108 完掘 (南から)



SI181 A-A' 土層断面 (南西から)



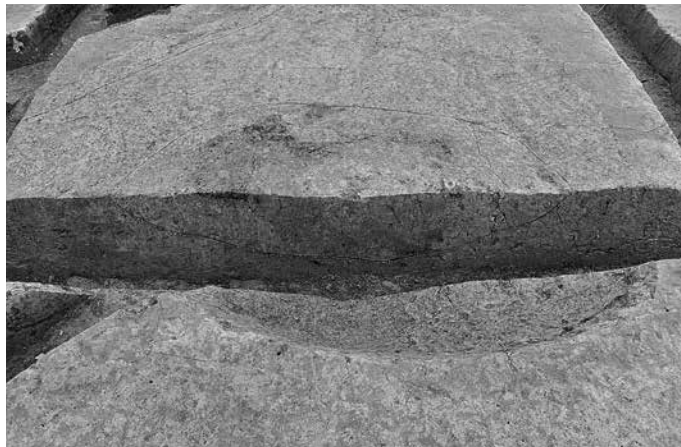
SI181 C-C' 土層断面 (北西から)



SI181-焼土 830 A-A' 土層断面 (南西から)



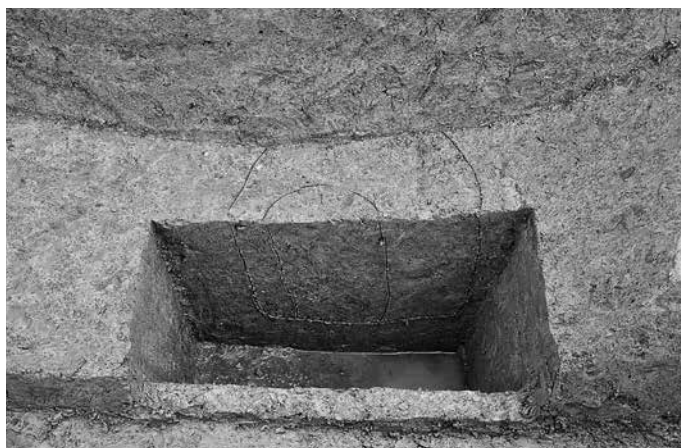
SI181-焼土 830 B-B' 土層断面 (南東から)



SI181-P81 土層断面 (西から)



SI181-P188 土層断面 (北西から)



SI181-P189 土層断面 (北西から)



SI181-P198 土層断面 (南東から)



SI181 完掘 (南西から)



SI207 A-A' · SK242 土層断面 (南から)



SI207 B-B' · SK215 土層断面 (北西から)



SI207-焼土 823 A-A' 土層断面 (北東から)



SI207- 焼土 823 B-B'・C-C' 土層断面 (南から)



SI207- 焼土 823 C-C'・SB252-SD468 土層断面 (南から)



SI207 完掘 (南から)



SI243 B-B' 土層断面 (北東から)



SI243 完掘 (北西から)



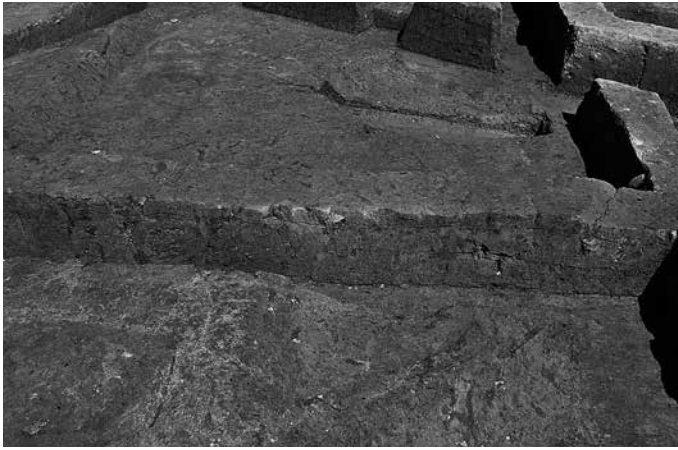
SI451 A-A' ① 土層断面 (北西から)



SI451 A-A' ② 土層断面 (北西から)



SI451 A-A' ③・SK455 土層断面 (北西から)



SI451 B-B' ① 土層断面 (南から)



SI451 B-B' ② · SK460 土層断面 (南から)



SI451 C-C' ① 土層断面 (南西から)



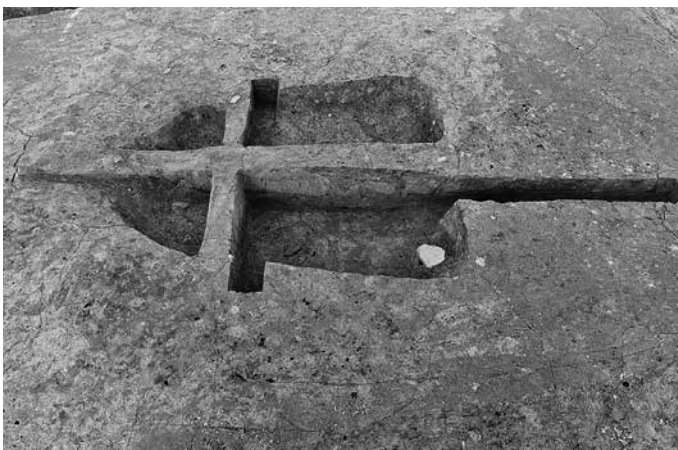
SI451 C-C' ② 土層断面 (南西から)



SI451 C-C' ③ 土層断面 (南西から)



SI451 遺物出土 (東から)



SI451-焼土 820 A-A' 土層断面 (南から)



SI451-焼土 820 B-B' 土層断面 (東から)



SI451・SK455・460 完掘（東から）



SI453 A-A' ① 土層断面（南から）



SI453 A-A' ② 土層断面（南から）



SI453 A-A' ③ 土層断面（南から）



SI453 B-B' ①・P597・598 土層断面（東から）



SI453 B-B' ② 土層断面（東から）



SI453- 焼土 822 A-A' 土層断面（南から）



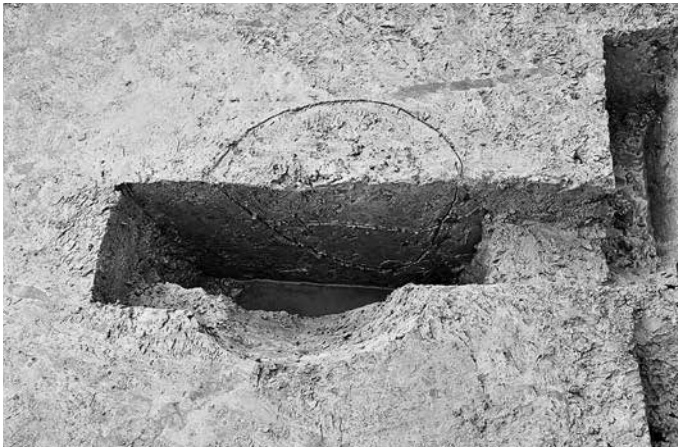
SI453- 焼土 822 B-B' 土層断面（東から）



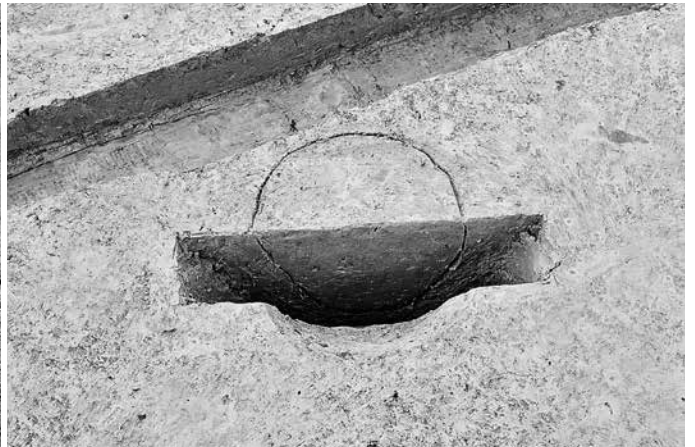
SI453 完掘 (東から)



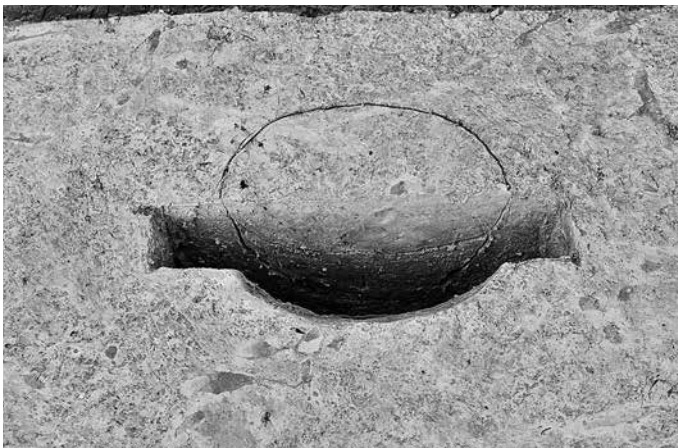
SI608 A-A' 土層断面 (北西から)



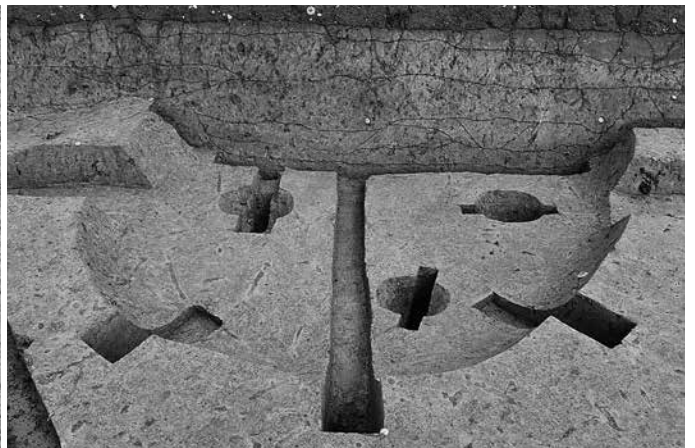
SI608-P622 土層断面 (南東から)



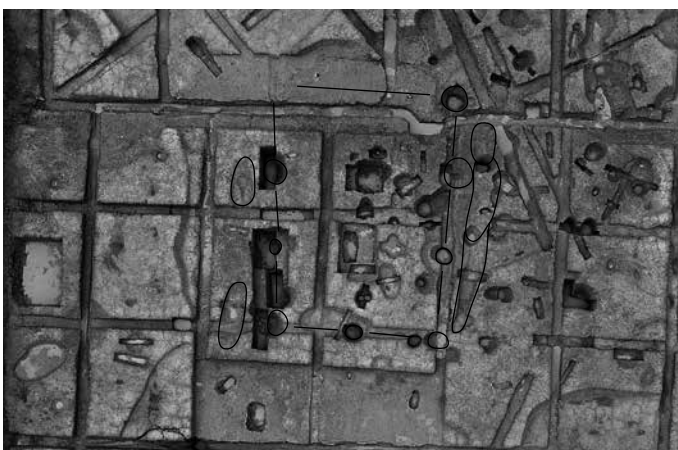
SI608-P773 土層断面 (南東から)



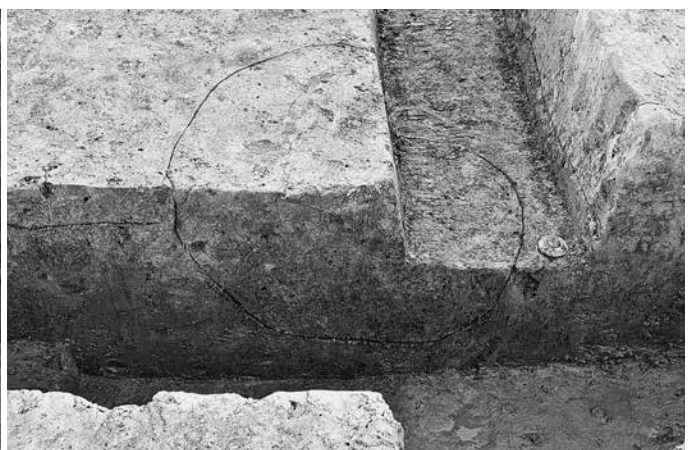
SI608-P774 土層断面 (南西から)



SI608 B-B' 土層断面・完掘 (南西から)



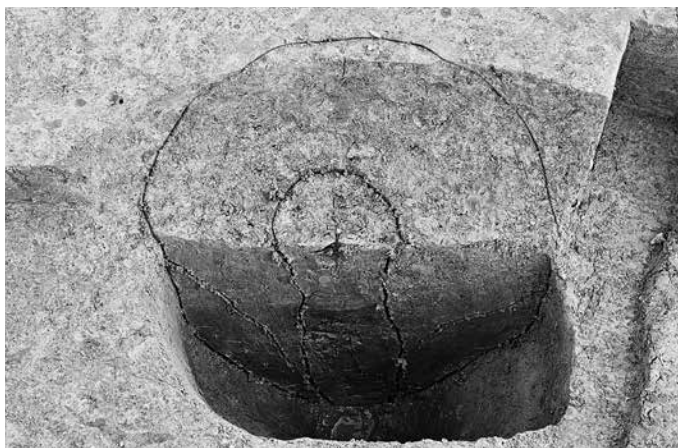
SB251 完掘 (上が北西)



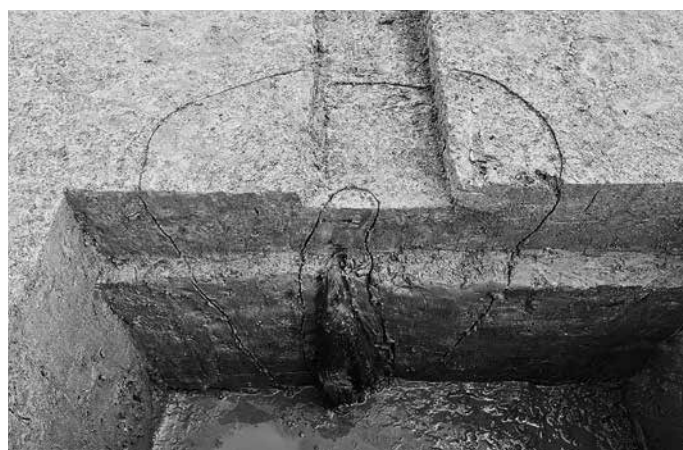
SB251-P95 土層断面 (北東から)



SB251-P101 土層断面 (南西から)



SB251-P149 土層断面 (北西から)



SB251-P152 土層断面 (南西から)



SB251-P176 土層断面 (南西から)



SB251-P178 土層断面 (南西から)



SB251-P256 土層断面 (北西から)



SB251-P273 土層断面 (南西から)



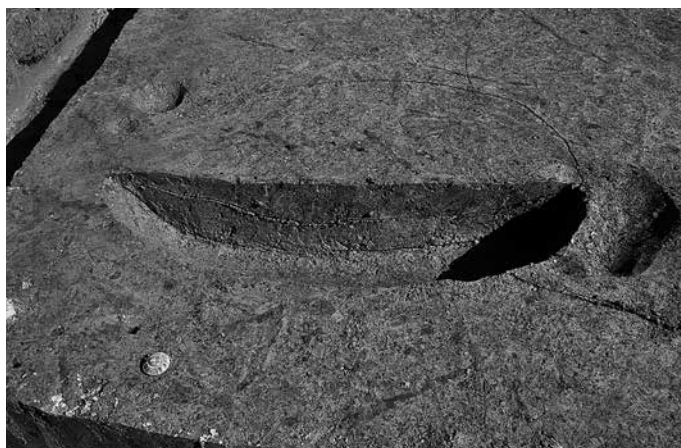
SB251-SD153 土層断面 (南東から)



SB251-SK68 土層断面 (南東から)



SB251-SK68 完掘 (南東から)



SB251-SK106 土層断面 (南西から)



SB251-SX130 土層断面 (南東から)



SB251-SX134 土層断面 (北西から)



SB252 完掘 (上が北西)



SB252-P140 土層断面 (南西から)



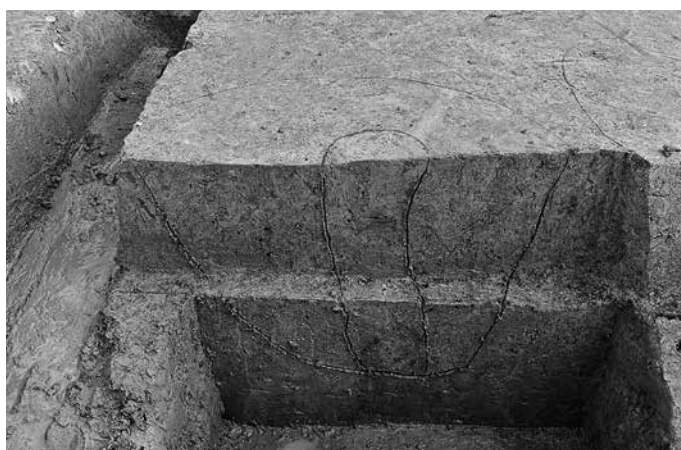
SB252-P169 土層断面 (南東から)



SB252-P172 土層断面 (南西から)



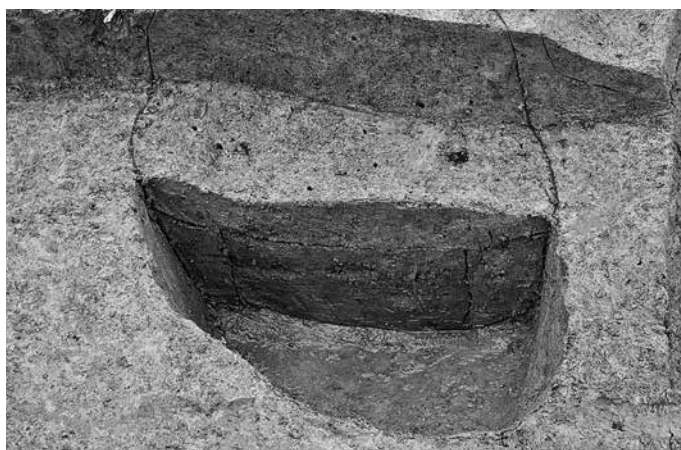
SB252-P179 土層断面 (南西から)



SB252-P191 土層断面 (北西から)



SB252-P202 土層断面 (南西から)



SB252-P216 土層断面 (北東から)



SB252-P257 土層断面 (南東から)



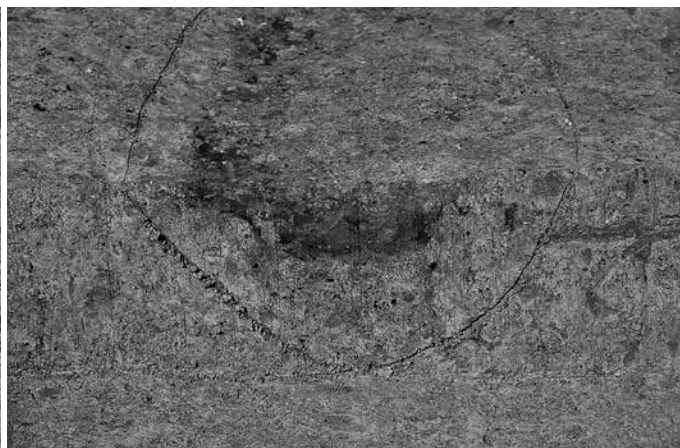
SB252-P270 土層断面 (南から)



SB252-P276 土層断面 (南西から)



SB252-P458 土層断面（北西から）



SB252-SK71 土層断面（南東から）



SB252-SK76 土層断面（南東から）



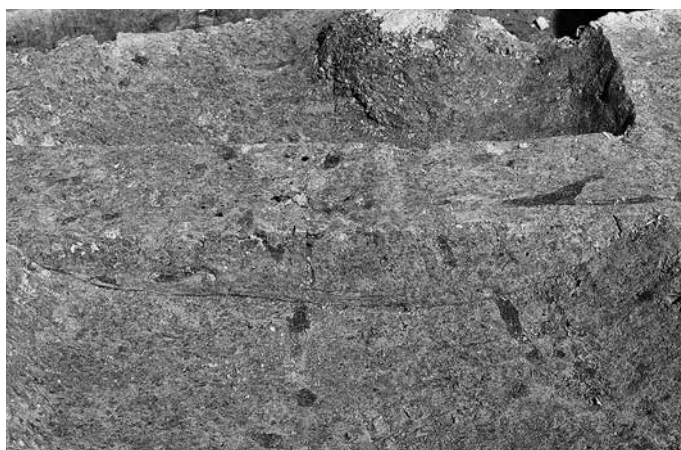
SB252-SK132 土層断面（北西から）



SB252-SK136 土層断面（北西から）



SB252-SK137 土層断面（南東から）



SB252-SD468 A-A' 土層断面（西から）



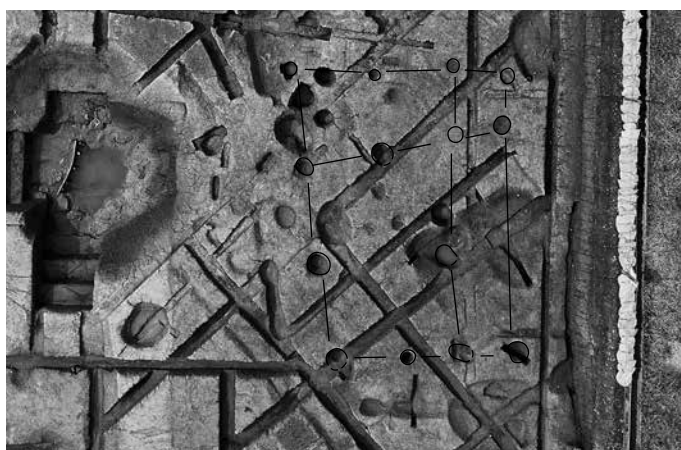
SB252-SD468 B-B' 土層断面（南西から）



SB252-SD468 C-C' 土層断面 (南西から)



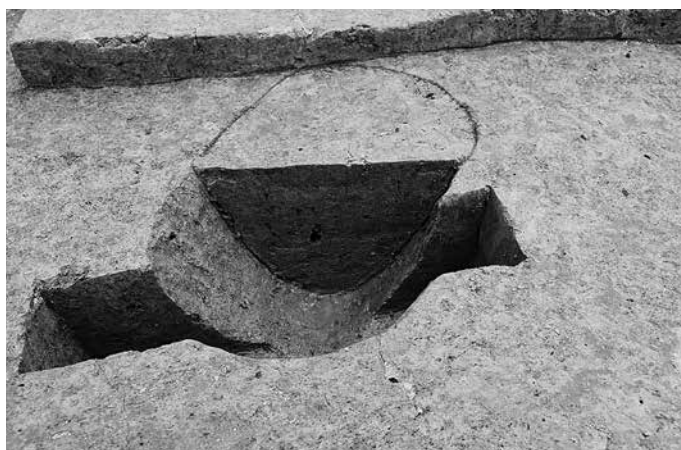
SB252-SD468 完掘 (北東から)



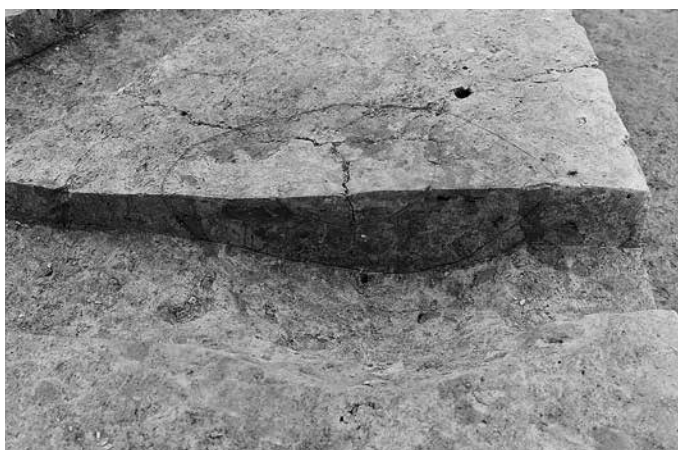
SB828 完掘 (上が北西)



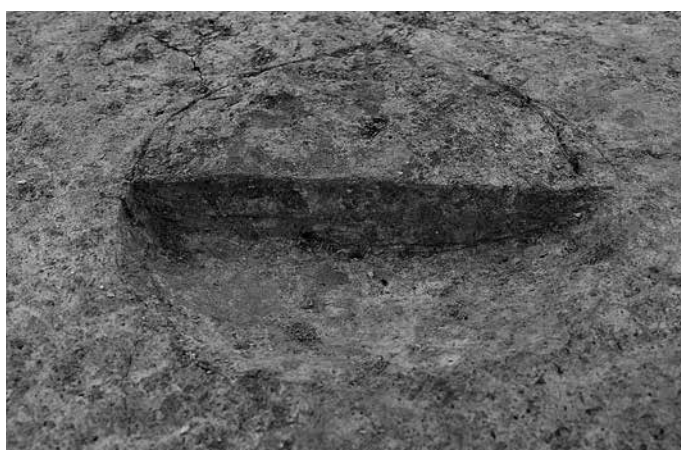
SB828-P286 土層断面 (南東から)



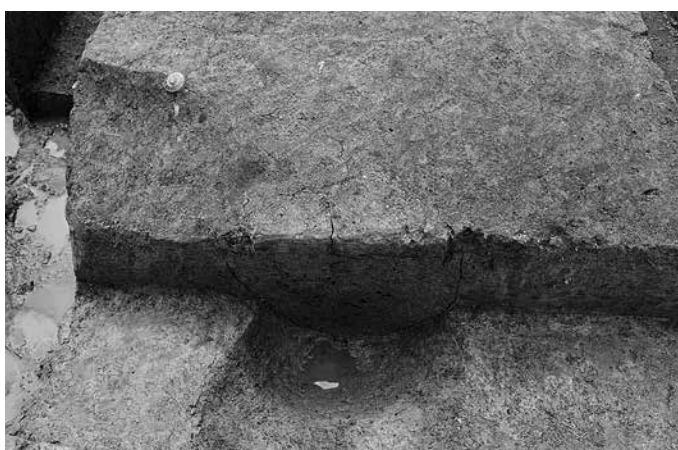
SB828-P287 土層断面 (南西から)



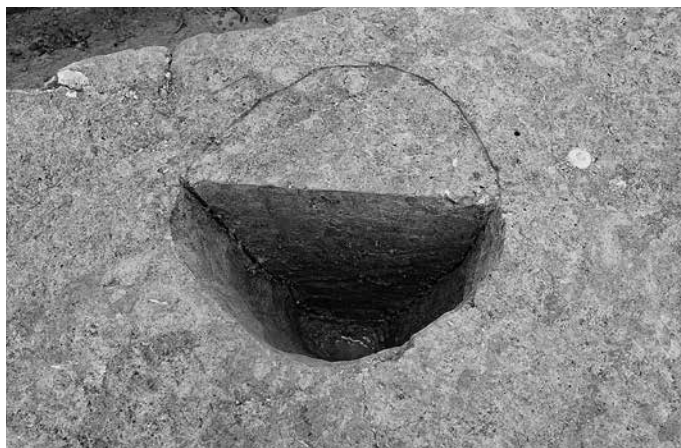
SB828-P326 土層断面 (北から)



SB828-P328 土層断面 (南東から)



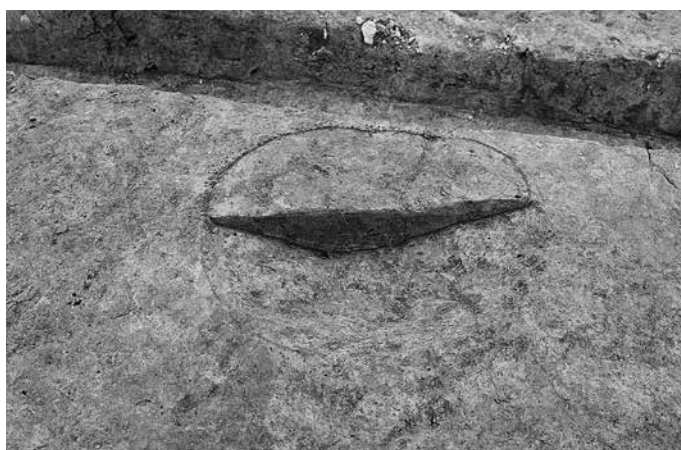
SB828-P360 土層断面 (東から)



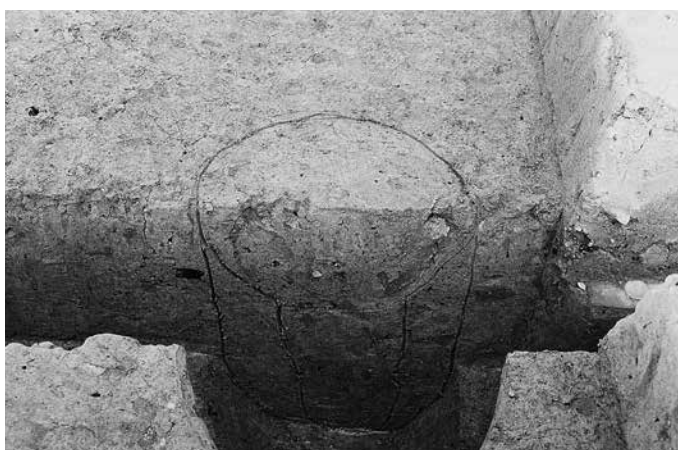
SB828-P366 土層断面 (南西から)



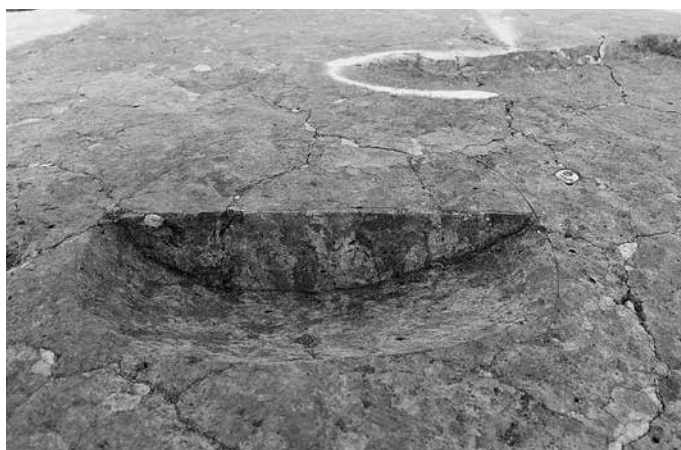
SB828-P372 土層断面 (東から)



SB828-P376 土層断面 (南西から)



SB828-P383 土層断面 (西から)



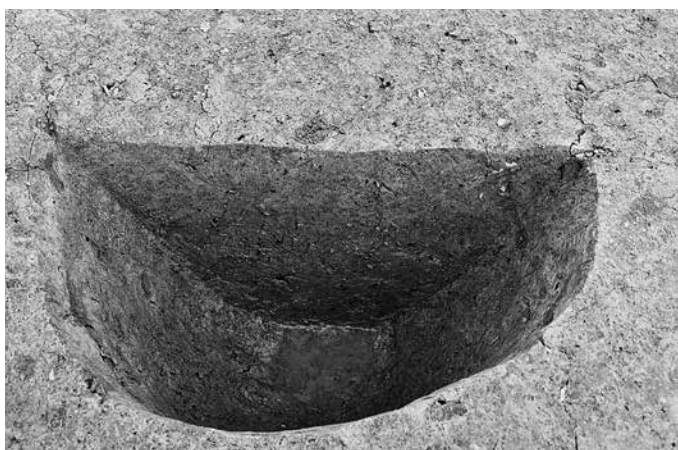
SB828-P384 土層断面 (南西から)



SB828-P435 土層断面 (西から)



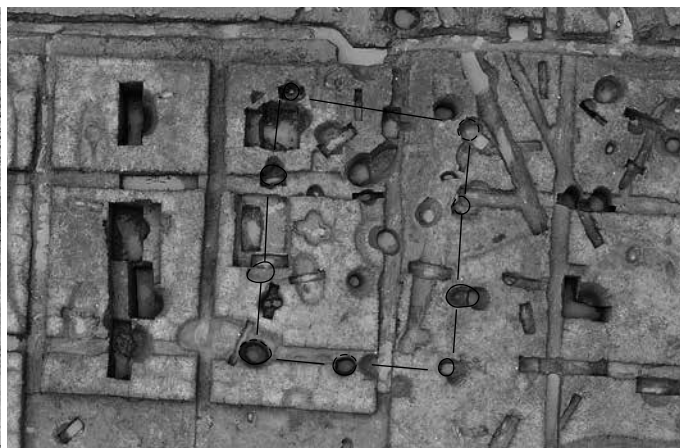
SB828-P442 土層断面 (南西から)



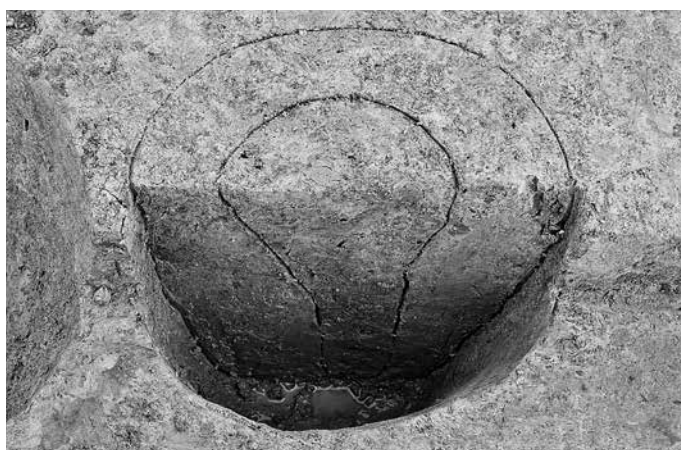
SB828-P450 土層断面 (西から)



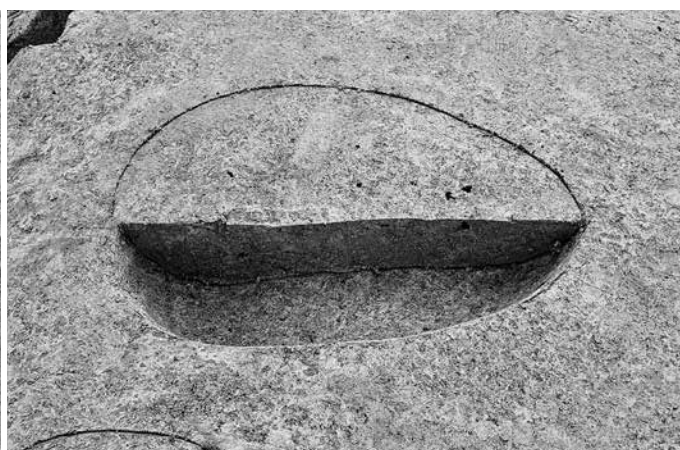
SB828-P452 土層断面(東から)



SB829 完掘(上が北西)



SB829-P148 土層断面(北西から)



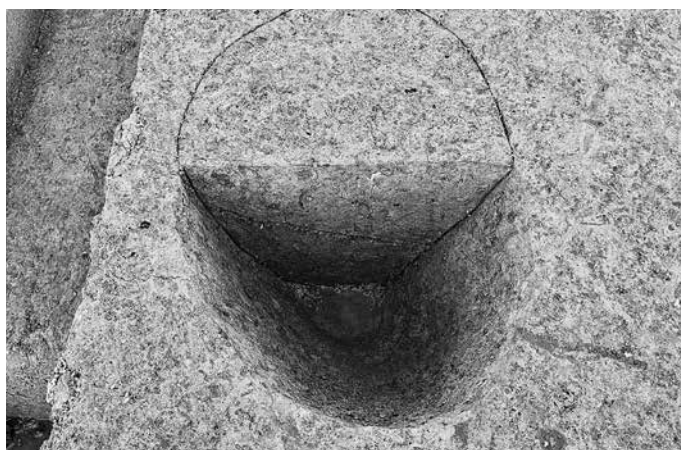
SB829-P151 土層断面(西から)



SB829-P156 土層断面(南東から)



SB829-P159 土層断面(北西から)



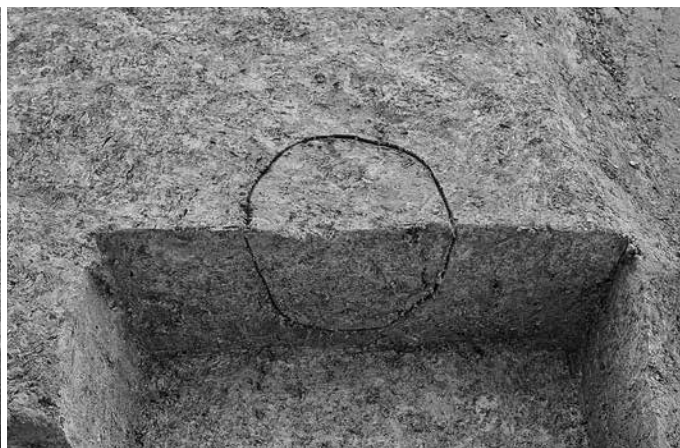
SB829-P160 土層断面(南西から)



SB829-P161 土層断面(北西から)



SB829-P187 土層断面 (南から)



SB829-P197 土層断面 (北西から)



SE278 土層断面 (南西から)



SE278 遺物出土 (南西から)



SE278 井戸側出土 (南西から)



SE278 井戸側内 土層断面 (南西から)



SE388 土層断面 (南西から)



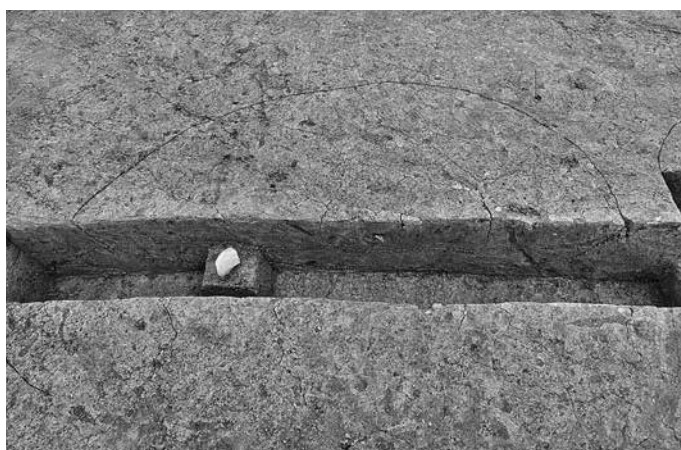
SE388 遺物出土・完掘 (南西から)



SK29 土層断面（南東から）



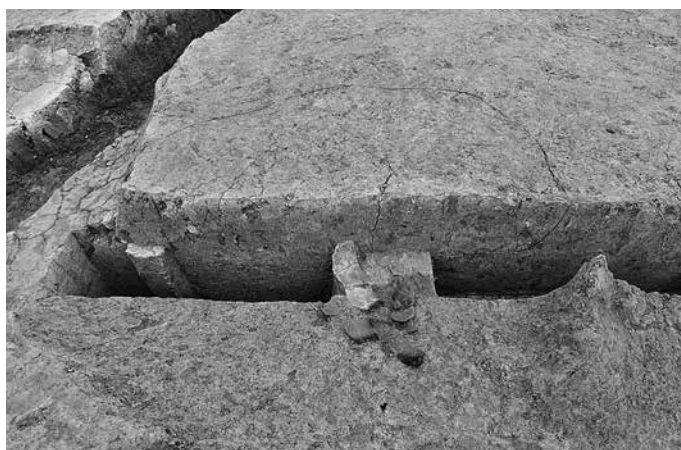
SK29 遺物出土・完掘（北東から）



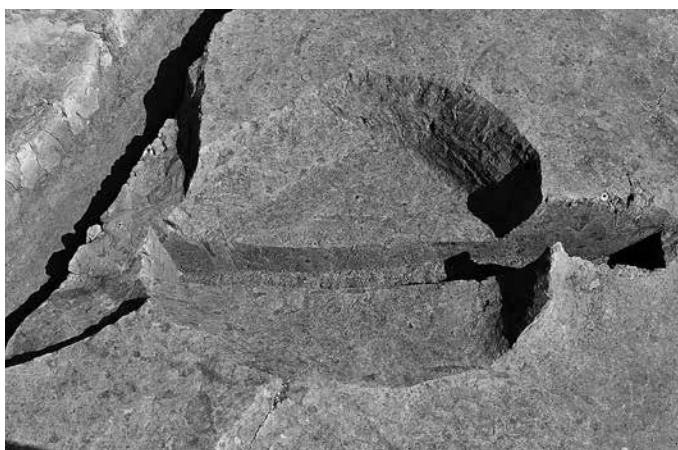
SK32 土層断面（東から）



SK32 遺物出土・完掘（北から）



SK48 土層断面（南から）



SK48 完掘（南から）



SK53 土層断面（北西から）



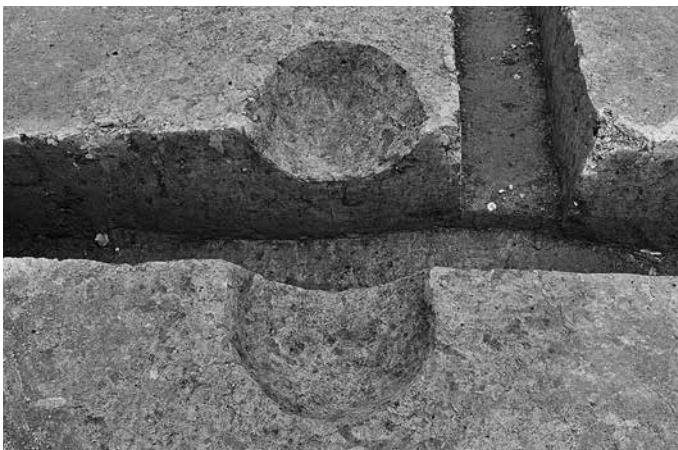
SK53 遺物出土・完掘（北西から）



SK67 土層断面（南西から）



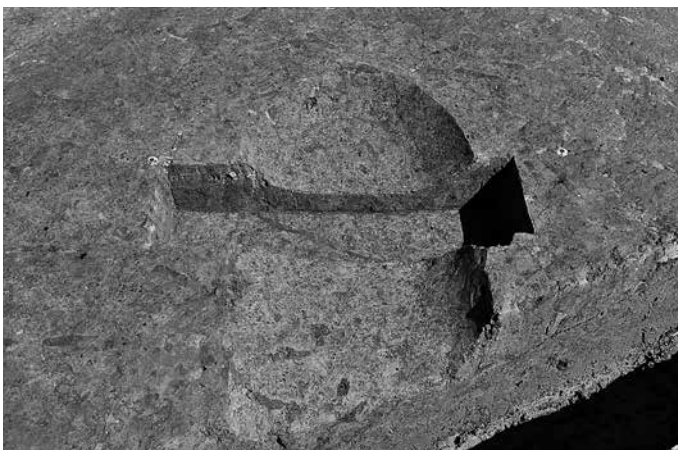
SK67 焼土検出（北西から）



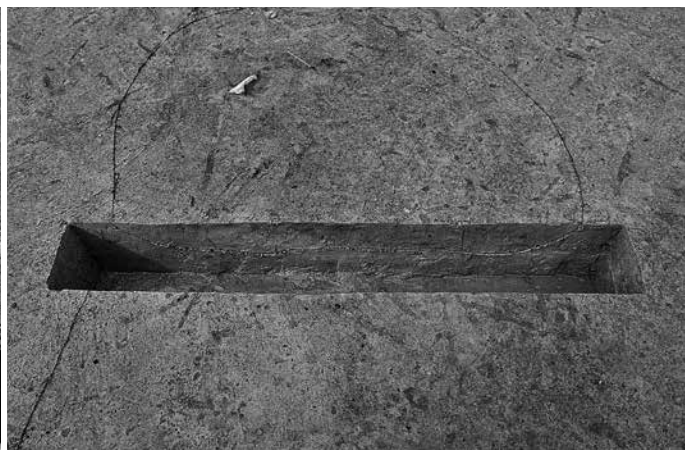
SK67 完掘（南西から）



SK73 土層断面（南西から）



SK73 完掘（南西から）



SK79 土層断面（南東から）



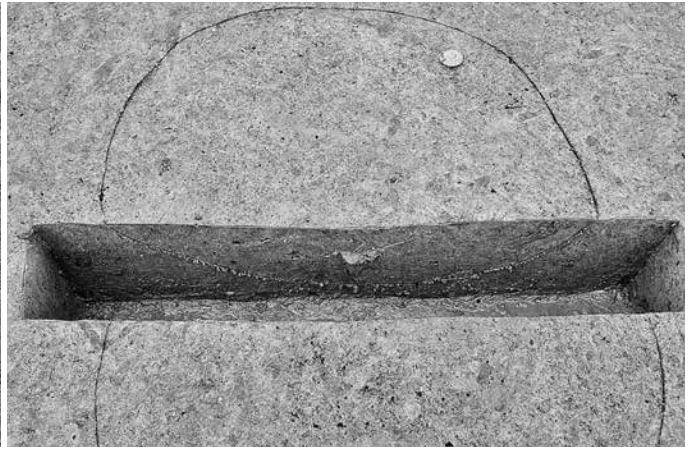
SK79 完掘（北西から）



SK107 土層断面（北から）



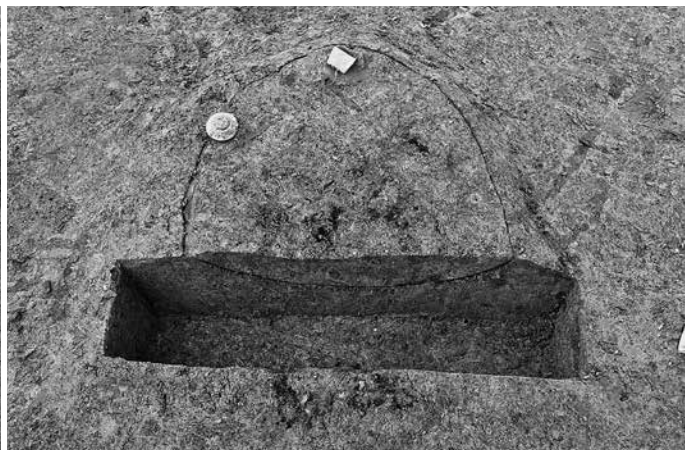
SK107 完掘 (北から)



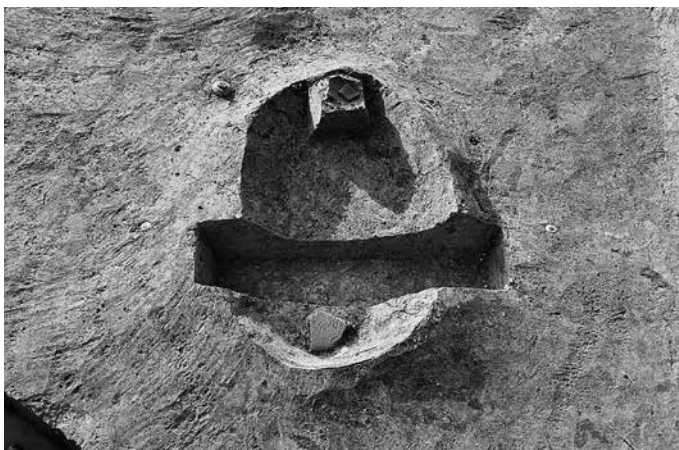
SK131 土層断面 (南から)



SK131 完掘 (南から)



SK145 土層断面 (東から)



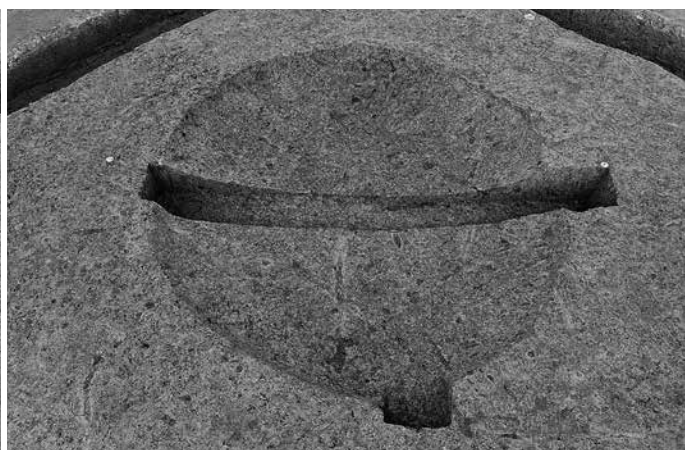
SK145 遺物出土・完掘 (東から)



SK220 土層断面 (南から)



SK220 炭化物検出 (南から)



SK220 完掘 (南から)



SK281 A-A' 土層断面 (南東から)



SK281 B-B' · P289 土層断面 (南西から)



SK281 完掘 (南西から)



SK285 土層断面 (南西から)



SK285 完掘 (南西から)



SK298 土層断面 (北東から)



SK298 完掘 (東から)



SK336 土層断面 (北西から)



SK341 A-A' 土層断面（東から）



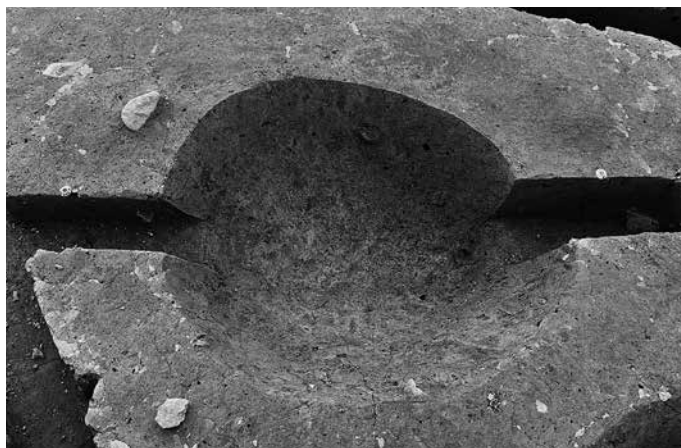
SK341 B-B' 土層断面（南から）



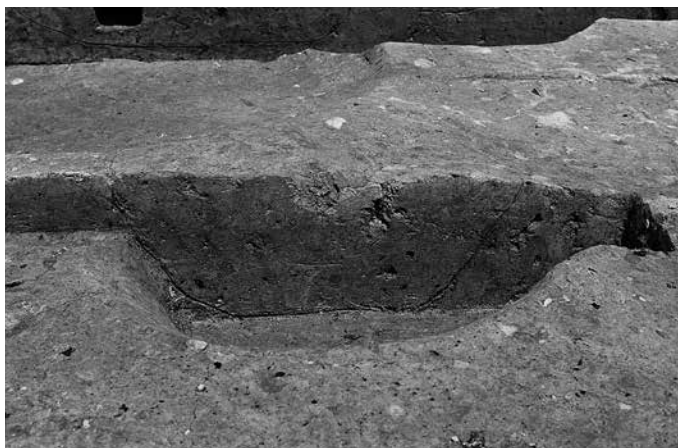
SK341 遺物出土・完掘（東から）



SK346 土層断面（南東から）



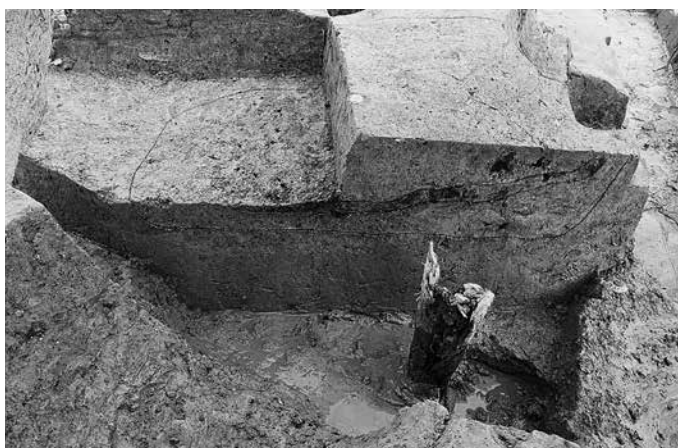
SK346 完掘（南東から）



SK350 土層断面（西から）



SK350 完掘（西から）



SK352 土層断面（南から）



SK352 完掘 (南から)



SK356 土層断面 (南西から)



SK356 完掘 (南西から)



SK363 A-A'・D-D' 土層断面 (南西から)



SK363 完掘 (南西から)



SK413 遺物出土 (北から)



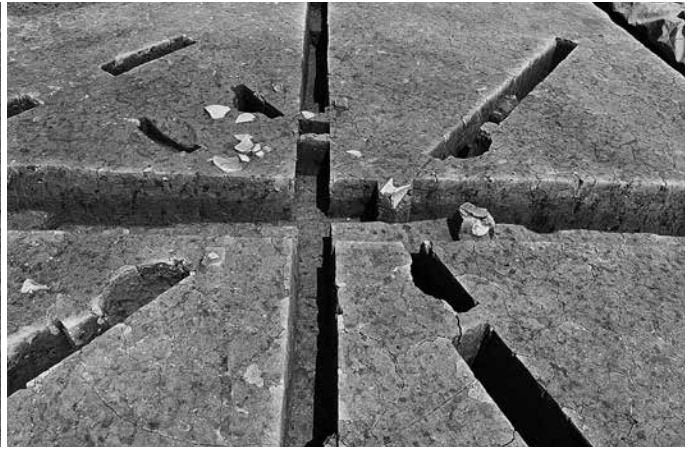
SK413 B-B' 土層断面 (南西から)



SK413 C-C' 土層断面 (北西から)



SK413 完掘 (南西から)



SK418 A-A' 土層断面 (南西から)



SK418 B-B' 土層断面 (南東から)



SK418 遺物出土 (西から)



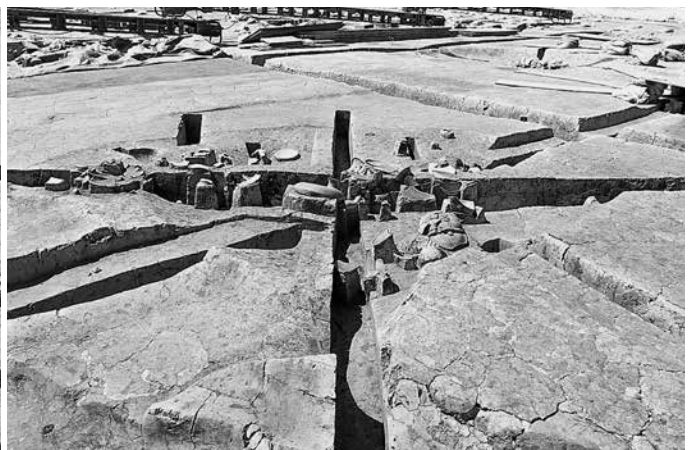
SK418 遺物出土 (南から)



SK418 完掘 (北東から)



SK419 A-A' 土層断面 (北から)



SK419 B-B' 土層断面 (北東から)



SK419 · SX486 · SD380 土層断面(南から)



SK419 · SX486 · 487 土層断面(南西から)



SK419 遺物出土(南東から)



SK419 遺物出土(北西から)



SK419 遺物出土(南から)



SK419 遺物(鳥足)出土(北西から)



SK419 遺物出土(北から)



SK419 遺物(鉄鐸・錫杖頭)出土(西から)



SK419 完掘 (東から)



SK455 A-A' 土層断面 (南西から)



SK455 完掘 (南西から)



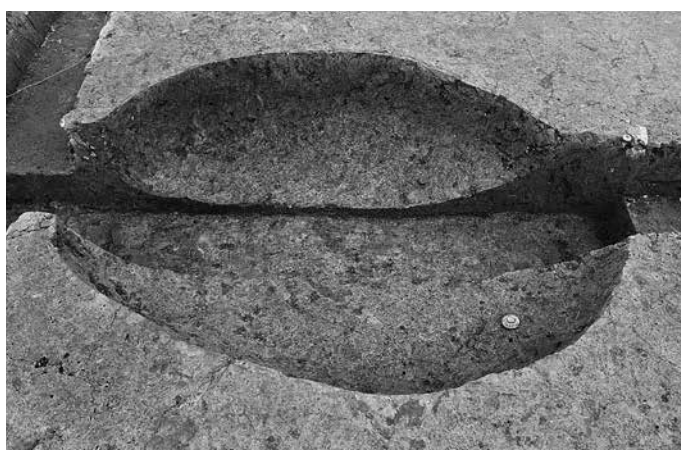
SK460 土層断面 (南西から)



SK460 完掘 (南西から)



SK472 土層断面 (北東から)



SK472 完掘 (北東から)



SK488 A-A' ① 土層断面 (南東から)



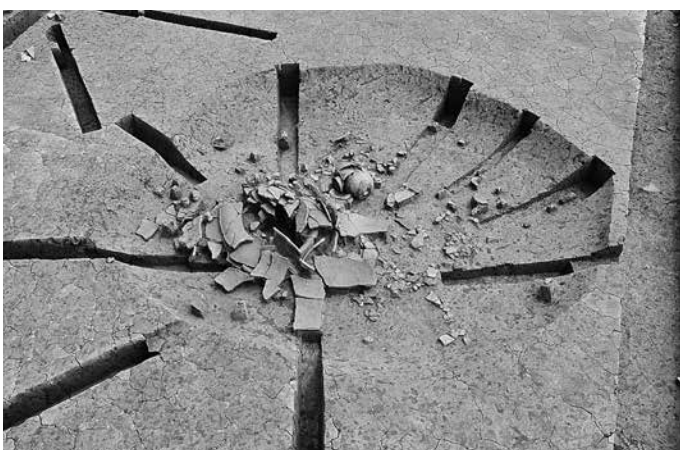
SK488 A-A' ② 土層断面 (北西から)



SK488 B-B' ① 土層断面 (南西から)



SK488 B-B' ② 土層断面 (南西から)



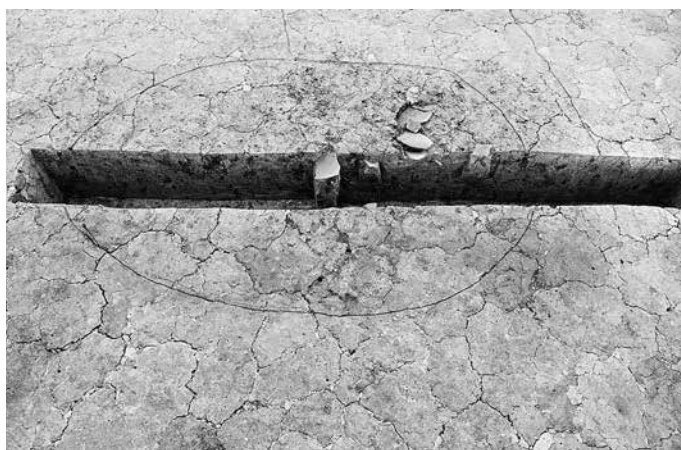
SK488 遺物出土 (西から)



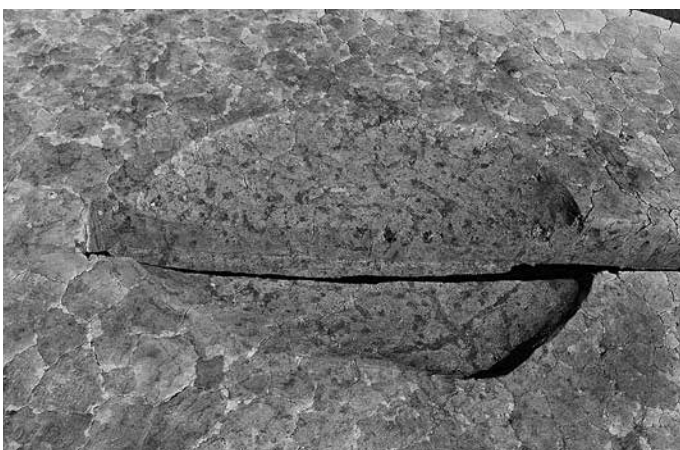
SK488 遺物出土 (西から)



SK488 完掘 (南西から)



SK499 土層断面 (北西から)



SK499 完掘 (北西から)



SK532 A-A' · SD537 土層断面 (北から)



SK532 B-B' · SK546 · SD537 · 538 土層断面 (西から)



SK532 完掘 (北から)



SK533 A-A' 土層断面 · SD380 完掘 (南西から)



SK533 B-B' 土層断面 (西から)



SK533 完掘 (南から)



SK543 B-B' 土層断面 (北東から)



SK543 遺物出土 (北から)



SK543 完掘 (北西から)



SK546・P551 A-A' 土層断面 (西から)



SK546・P551 B-B' 土層断面 (北から)



SK546・P551 完掘 (西から)



SK553 A-A' 土層断面 (南西から)



SK553 B-B' 土層断面 (北から)



SK553 完掘 (北から)



SK584 A-A' 土層断面 (南から)



SK584 完掘 (南から)



SK589 土層断面 (北から)



SK589 遺物出土 (北から)



SK616 A-A' 土層断面 (南東から)



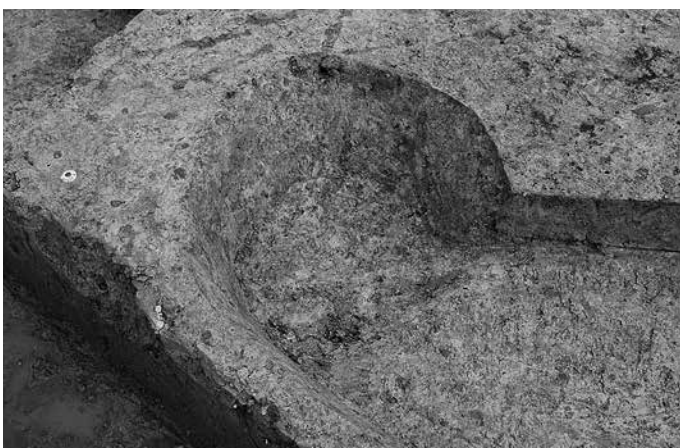
SK616 遺物出土 (北東から)



SK616 完掘 (南東から)



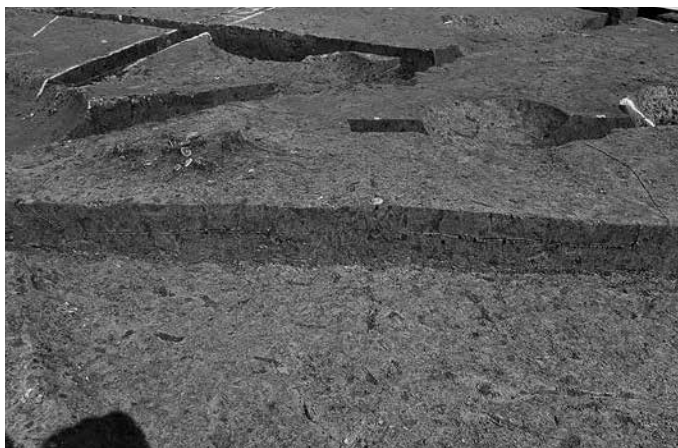
SK624・630 土層断面 (南から)



SK624 完掘 (南から)



SK630 完掘 (南から)



SK631 土層断面 (南から)



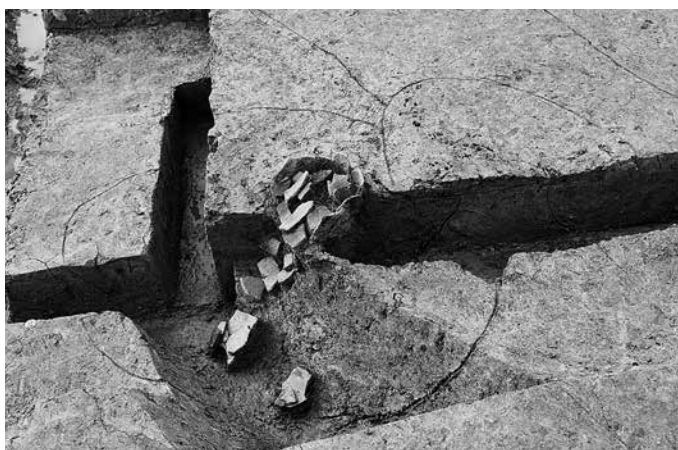
SK631 完掘 (南から)



SK647 B-B' 土層断面 (南東から)



SK647 完掘 (南東から)



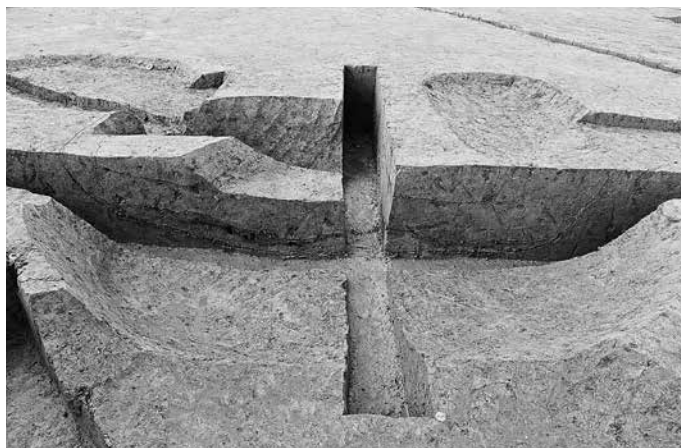
SK654・663・SD651 土層断面 (南東から)



SK654 土層断面 (南東から)



SK654 完掘 (南東から)



SK658 A-A' 土層断面 (南から)



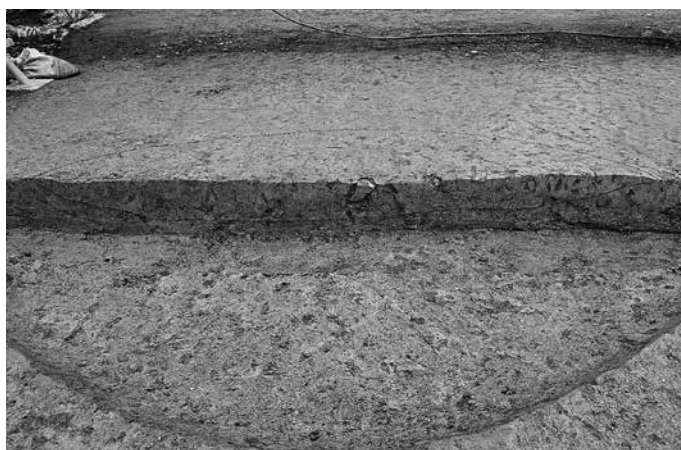
SK658 完掘 (南から)



SK668 土層断面 (東から)



SK668 完掘 (東から)



SK674 土層断面 (北東から)



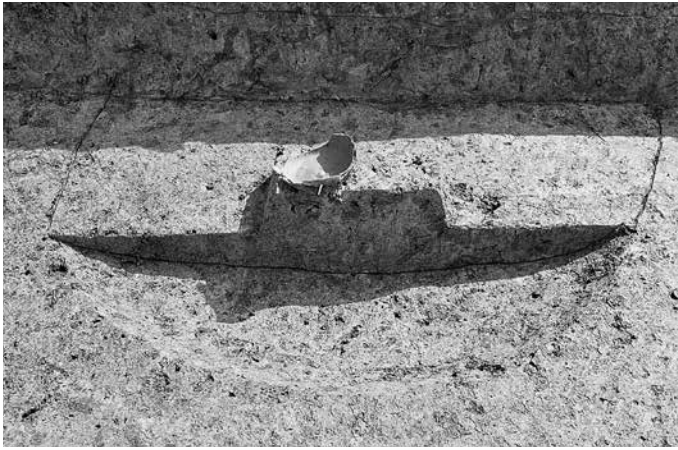
SK674 完掘 (北東から)



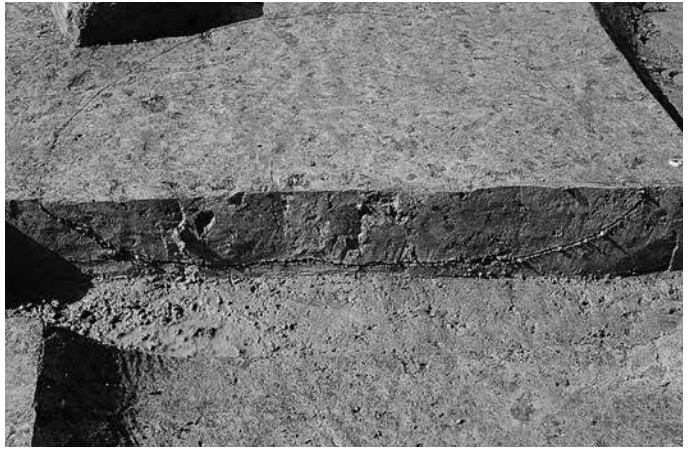
SK680 土層断面 (北東から)



SK680 完掘 (北東から)



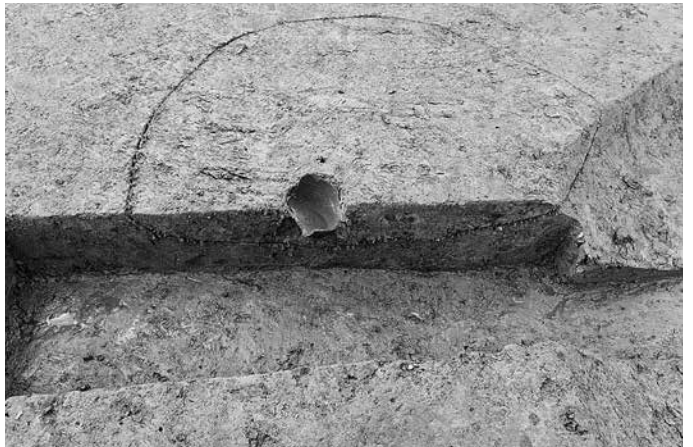
SK689 土層断面 (北西から)



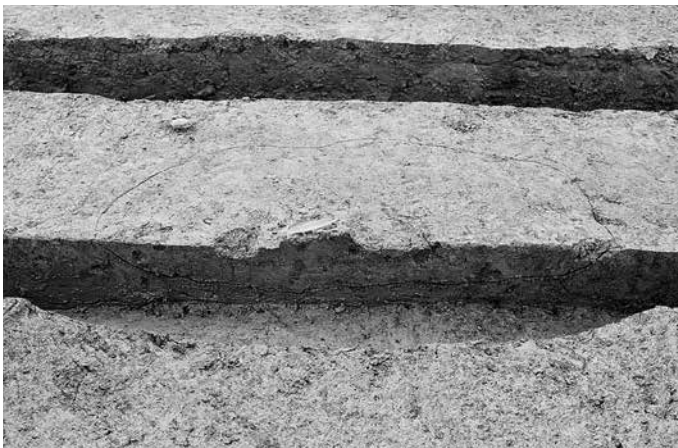
SK690 土層断面 (南東から)



SK690 完掘 (南東から)



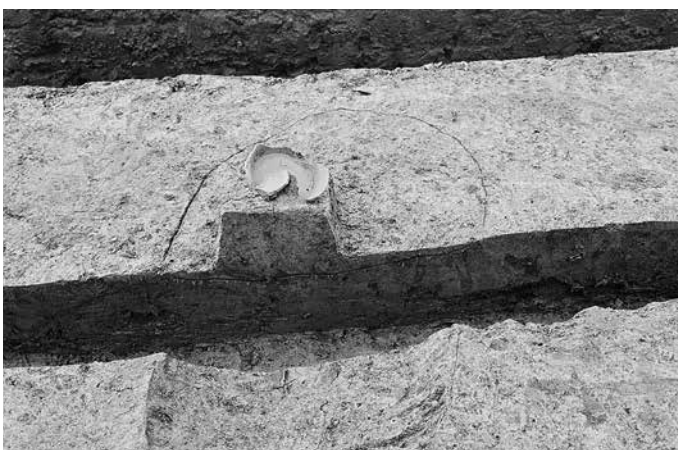
SK691 土層断面 (北東から)



SK698 土層断面 (南東から)



SK698 完掘 (南東から)



SK699 土層断面 (南東から)



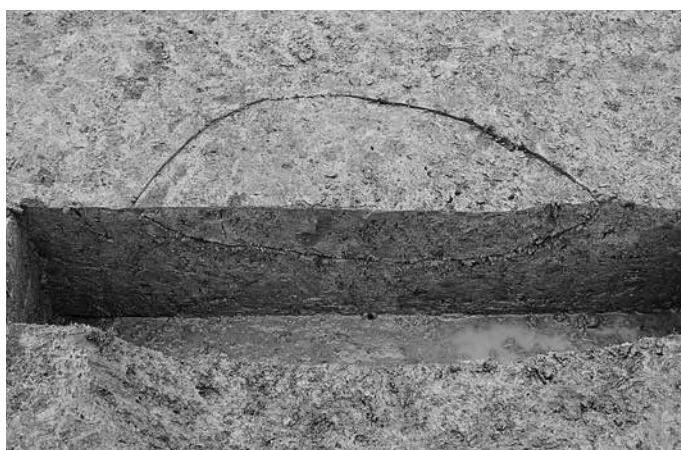
SK699 完掘 (南から)



SK700 土層断面 (北東から)



SK700 完掘 (北東から)



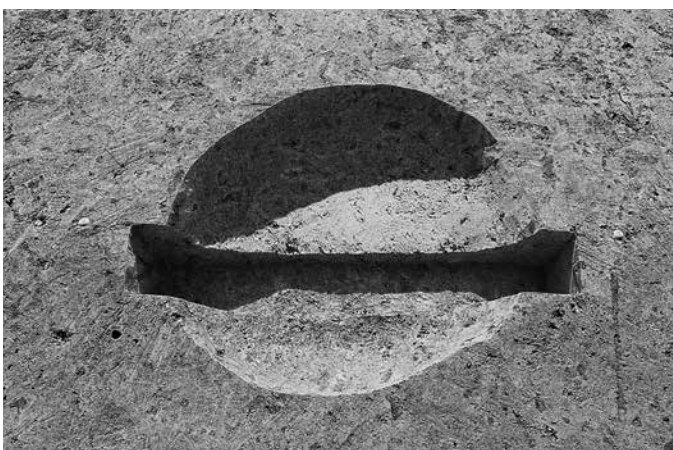
SK706 土層断面 (北から)



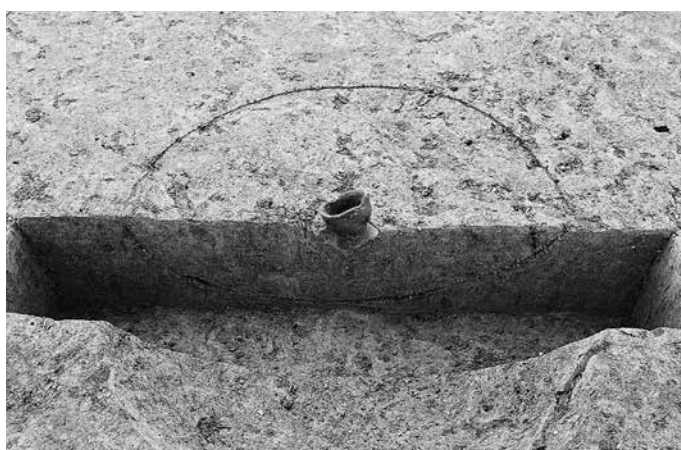
SK706 完掘 (北から)



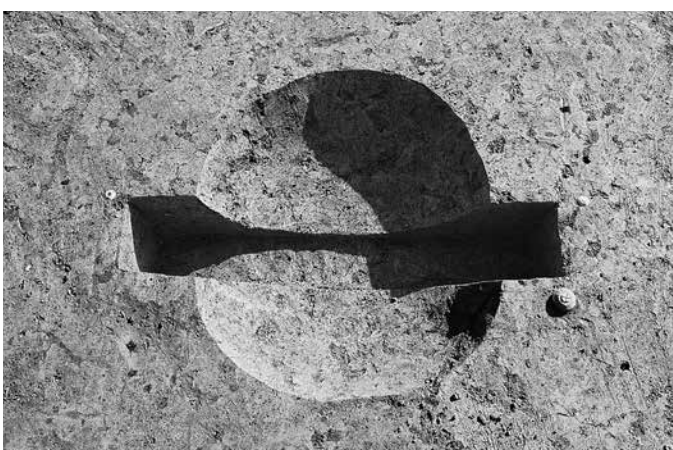
SK721 土層断面 (北東から)



SK721 完掘 (北東から)



SK722 土層断面 (北から)



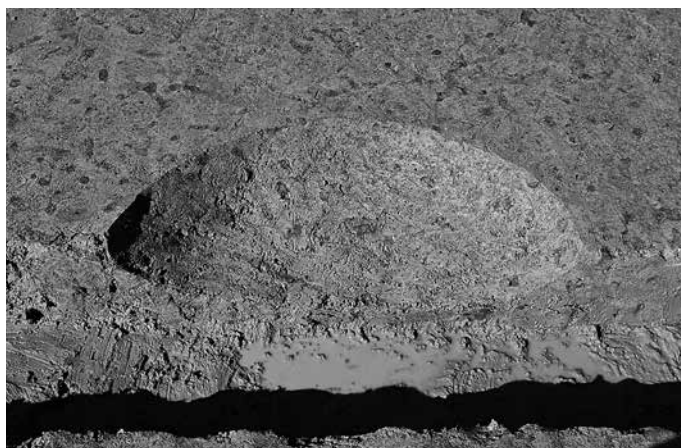
SK722 完掘 (北から)



SK758 土層断面 (南東から)



SK758 遺物出土 (南東から)



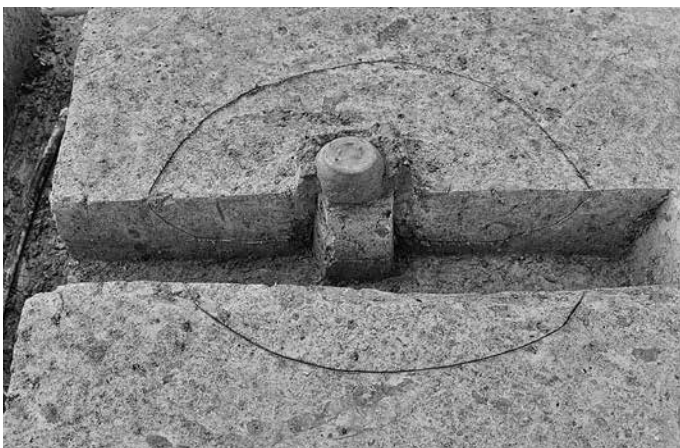
SK758 完掘 (南東から)



SK781 土層断面 (東から)



SK781 完掘 (東から)



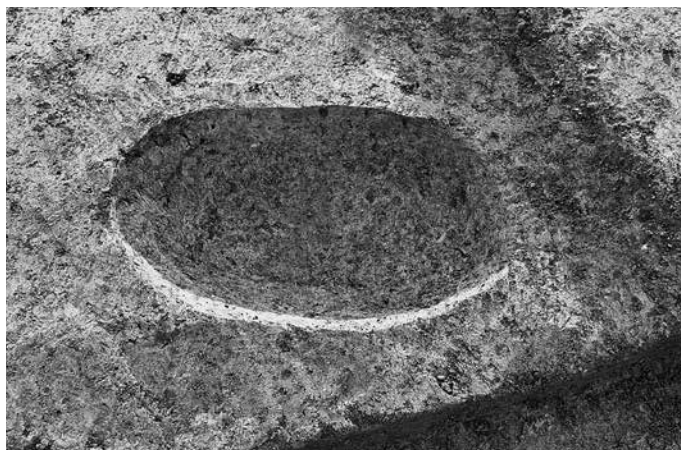
SK785 土層断面 (南東から)



SK785 完掘 (南東から)



SK802 土層断面 (北東から)



SK802 完掘 (北東から)



焼土 374 A-B' 土層断面 (南西から)



焼土 374 A-B 土層断面 (北東から)



焼土 454 土層断面 (東から)



焼土 454 完掘 (東から)



焼土 588 土層断面 (西から)



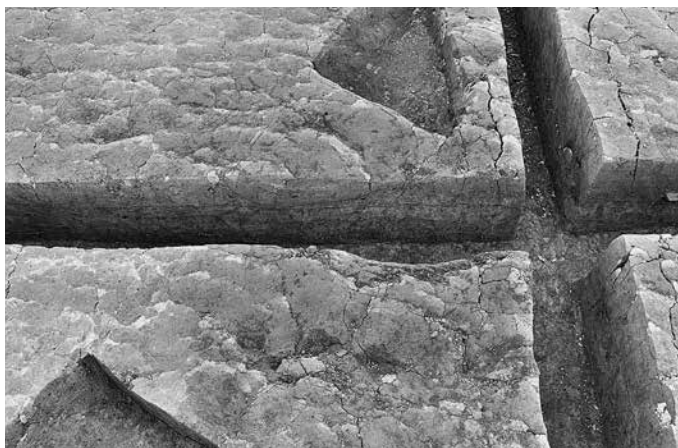
焼土 810 A-A' 土層断面 (南西から)



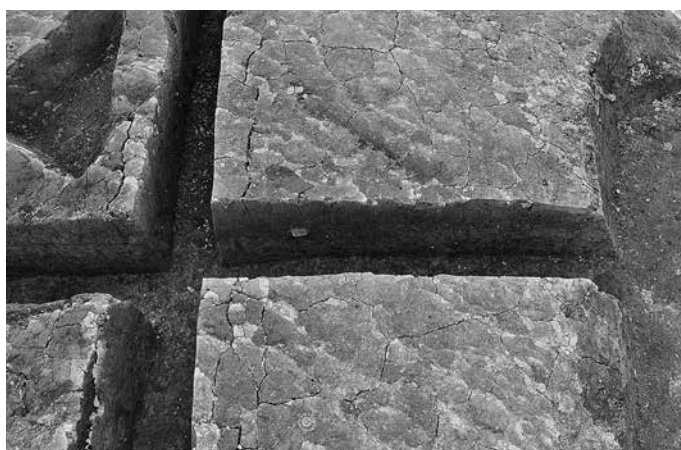
焼土 810 B-B' 土層断面 (南東から)



SX3 A-A' ① 土層断面 (北東から)



SX3 A-A' ② 土層断面 (北東から)



SX3 A-A' ③ 土層断面 (北東から)



SX3 遺物出土・完掘 (南東から)



SX31 A-A' 土層断面 (南東から)



SX31 B-B' 土層断面 (南から)



SX31 遺物出土・完掘 (南から)



SX63 A-A' · B-B' 土層断面 (南から)



SX63 完掘 (南東から)



SX64 A-A' ① 土層断面 (南西から)



SX64 A-A' ② 土層断面 (南西から)



SX64 B-B' ① 土層断面 (北西から)



SX64 B-B' ② 土層断面 (北西から)



SX64- 焼土 816 A-A' 土層断面 (北西から)



SX64- 焼土 816 B-B' 土層断面 (北東から)



SX64- 石列 381 検出・SX64 完掘 (北西から)



SX66 土層断面 (南東から)



SX70 A-A' 土層断面 (南西から)



SX70 完掘 (北から)



SX124 土層断面 (南西から)



SX125 遺物分布範囲 (北から)



SX240 A-A' 土層断面 (南から)



SX247・248 土層断面 (北西から)



SX249 土層断面 (北西から)



SX283 A-A' ① 土層断面 (南から)



SX283 A-A' ②・SB828-SD357 ① 土層断面 (南から)



SX283 A-A' ③・SD828-SD357 ② 土層断面 (南から)



SX283 B-B' ①・SE388 土層断面 (西から)



SX283 B-B' ② 土層断面 (西から)



SX283 B-B' ③ 土層断面 (西から)



SX283-焼土 819 A-A' 土層断面 (北西から)



SX283-焼土 819 B-B' 土層断面 (南西から)



SX283 遺物出土 (南から)



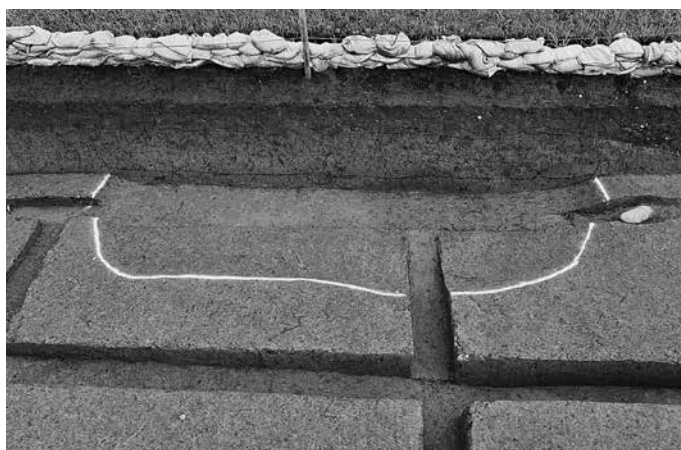
SX283 完掘 (南西から)



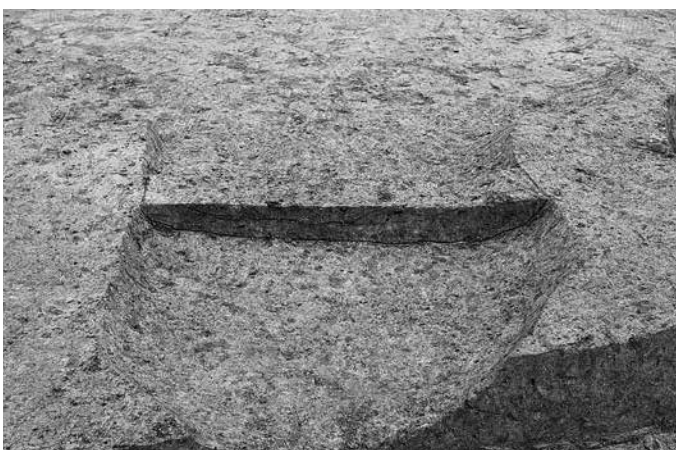
SX406 B-B' 土層断面 (南から)



SX406 完掘 (南から)



SX407 土層断面・完掘 (南西から)



SX411 土層断面 (北西から)



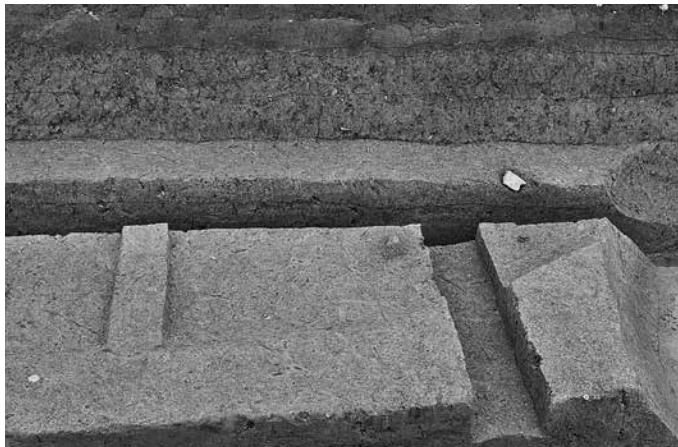
SX415 遺物出土 (北西から)



SX415 A-A' 土層断面 (北西から)



SX416 土層断面(北西から)



SX421 土層断面(南西から)



SX421 遺物出土・完掘(南西から)



SX425 土層断面(南東から)



SX425 炭化物検出(南東から)



SX425 完掘(南東から)



SX469 A-A' ① 土層断面(南から)



SX469 A-A' ② 土層断面(南から)



SX469 A-A' ③ 土層断面 (南から)



SX469 B-B' ① 土層断面 (西から)



SX469 B-B' ② · SI453 土層断面 (西から)



SX469 完掘 (南から)



SX509 A-A' 土層断面 (北東から)



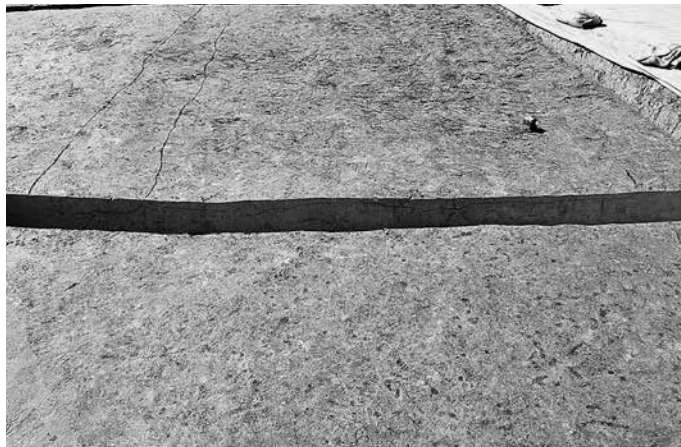
SX509 B-B' 土層断面 (北西から)



SX605 · SD592 · 826 · 827 土層断面 (南東から)



SX605 · SD592 · 826 · 827 完掘 (南東から)



SX711 土層断面 (北東から)



SX712 土層断面 (南西から)



SD338 土層断面・完掘 (南西から)



SD359 土層断面 (南から)



SD397 土層断面 (北西から)



SD420 A-A' 土層断面 (南西から)



SD420 B-B' 土層断面 (南から)



SD420 C-C' 土層断面 (南東から)



SD420 完掘 (北西から)



SD515 土層断面 (西から)



SD523・P522 土層断面 (北東から)



SD525 土層断面 (西から)



SD531 土層断面 (西から)



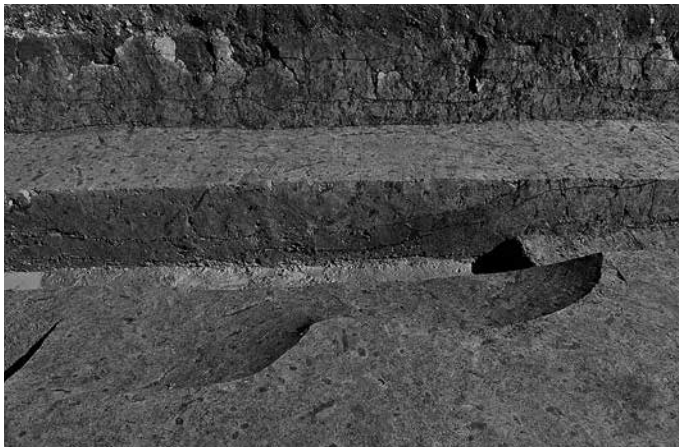
SD538 A-A' 土層断面 (西から)



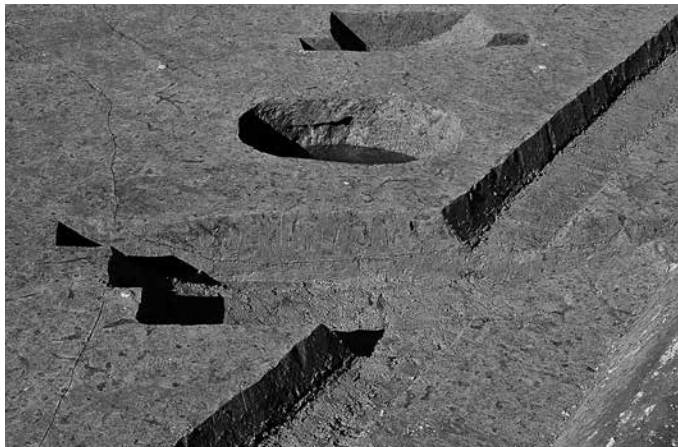
SD538 B-B' 土層断面 (西から)



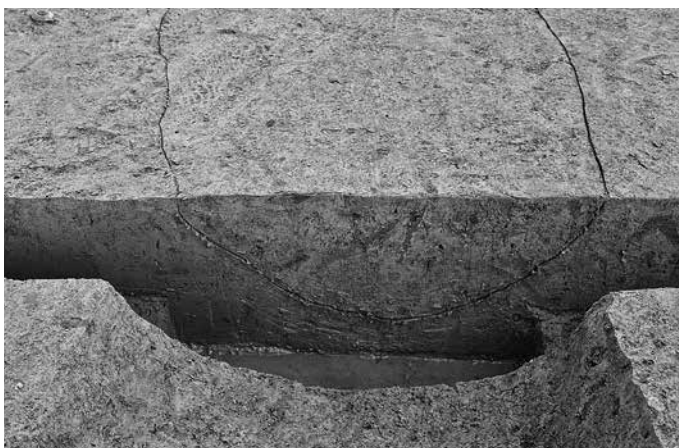
SD592 土層断面 (南東から)



SD606 A-A' 土層断面 (南西から)



SD606 C-C' 土層断面 (東から)



SD606 E-E' 土層断面 (西から)



SD606 完掘 (東から)



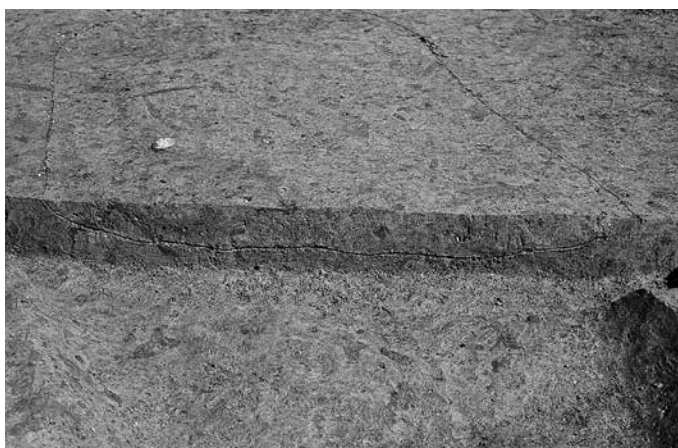
SD651 土層断面 (西から)



SD652 土層断面 (西から)



SD651・652・678 完掘 (西から)



SD673 土層断面 (南西から)



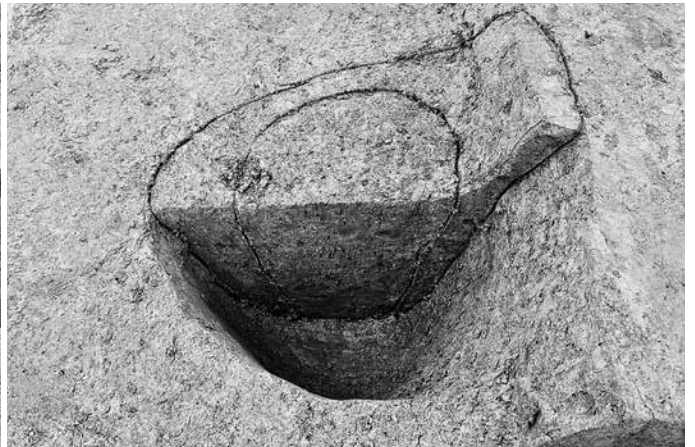
SD678 土層断面(東から)



SD725 A-A' 土層断面(南東から)



P110 土層断面(南西から)



P165 土層断面(南西から)



P184 土層断面(南西から)



P185 土層断面(東から)



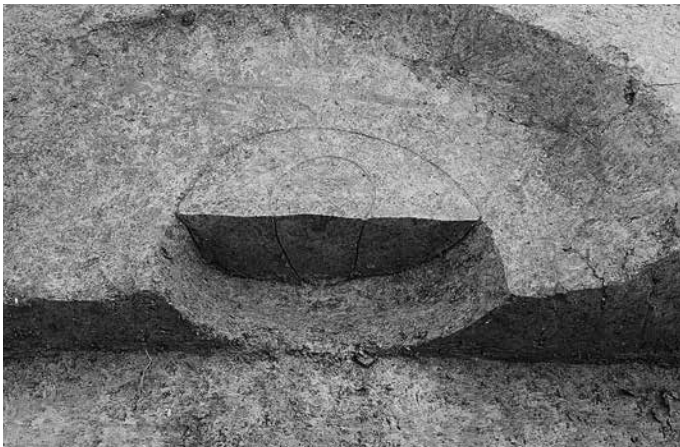
P186 土層断面(東から)



P212 土層断面(西から)



P219 土層断面(南東から)



P254 土層断面(北東から)



P272 土層断面(北西から)



P385 土層断面(北西から)



P434 土層断面(南から)



P448 土層断面(南から)



P489 土層断面(南から)



P551 遺物出土(西から)



P587 土層断面(南から)



P590 土層断面(北から)



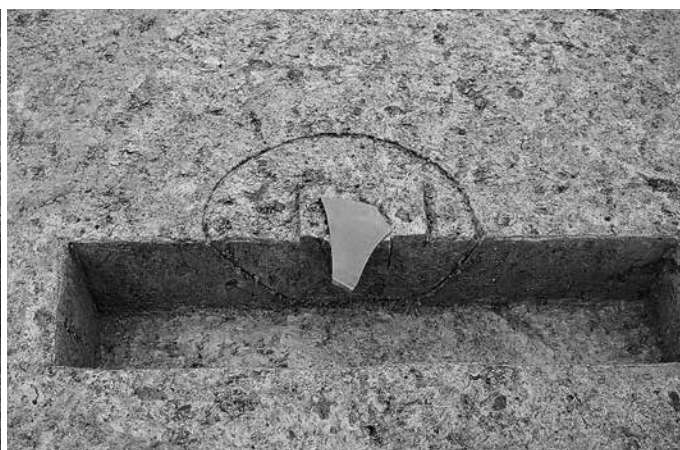
P610 土層断面(南東から)



P610 遺物出土・完掘(南東から)



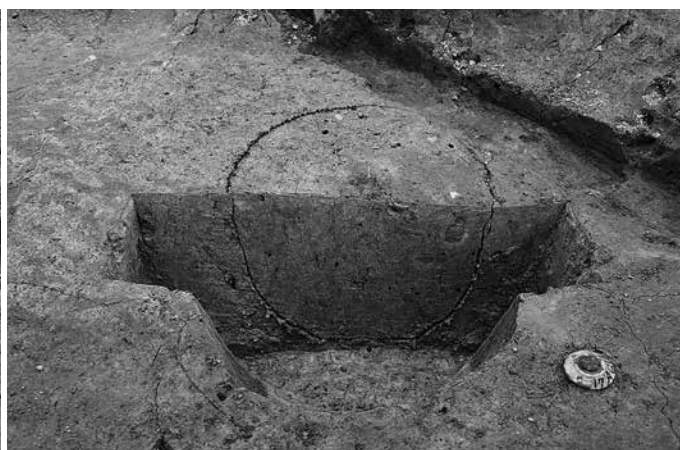
P716 土層断面(南から)



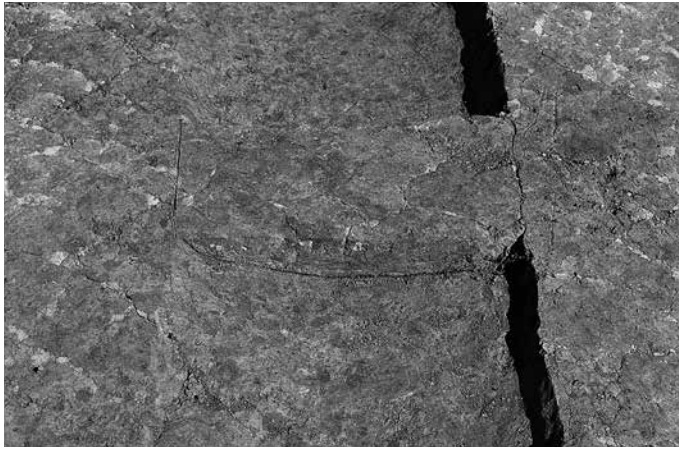
P718 土層断面(北東から)



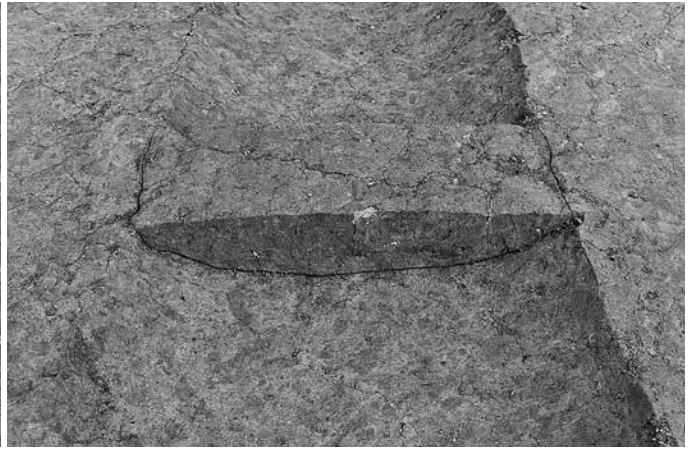
P806 土層断面(東から)



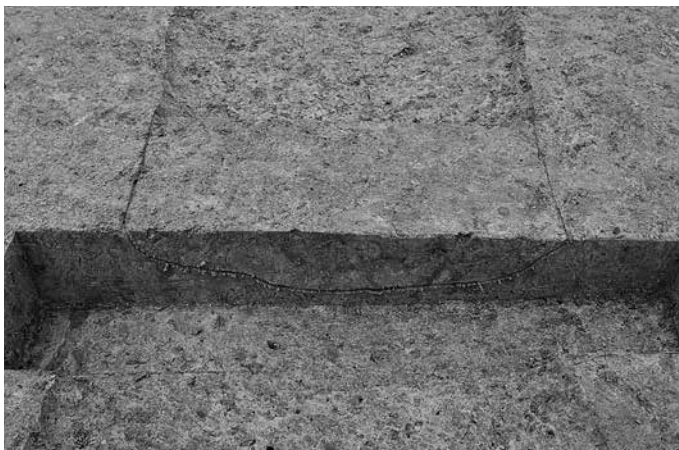
P815 土層断面(北西から)



SD47 A-A' 土層断面(西から)



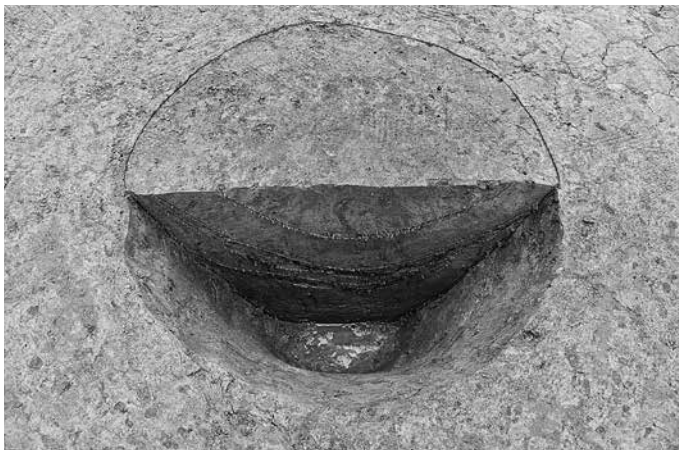
SD47 B-B' 土層断面(西から)



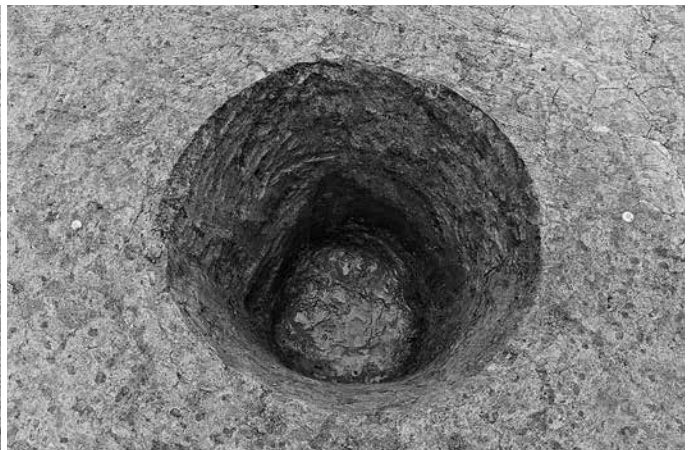
SD226 土層断面(南から)



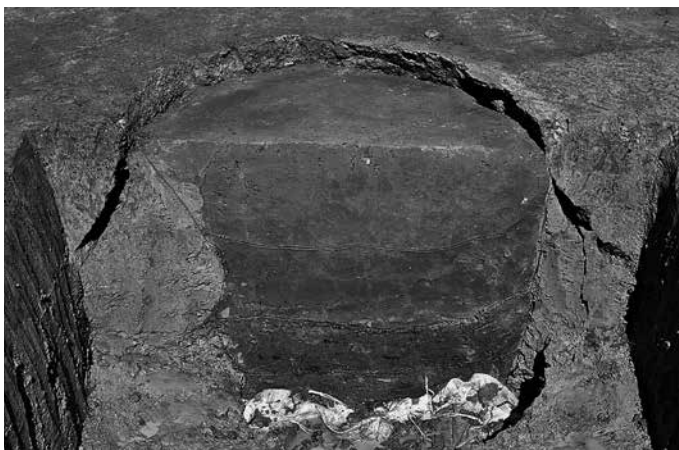
SD226 完掘(北から)



SE6 土層断面(北から)



SE6 完掘(北から)



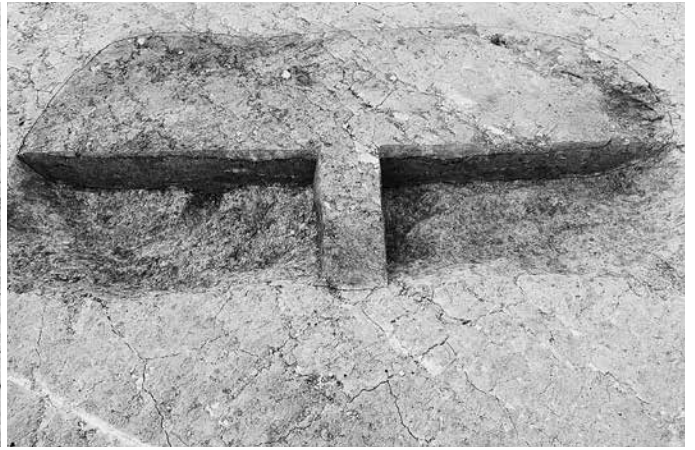
SE20 土層断面(南東から)



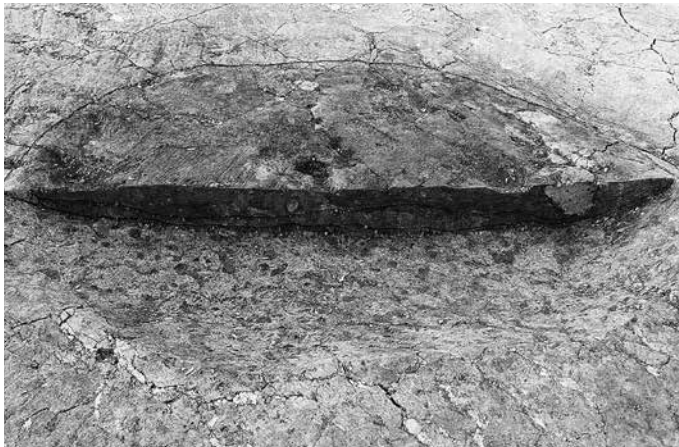
SE20 完掘(南東から)



SK1 土層断面(南西から)



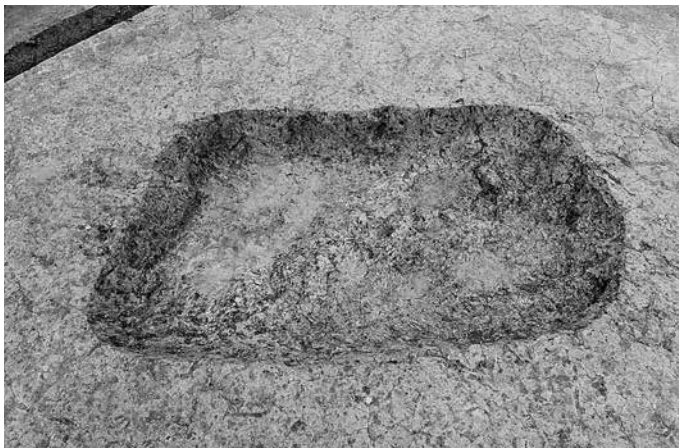
SK8 A-A' 土層断面(南から)



SK9 土層断面(南から)



SK10 A-A' 土層断面(西から)



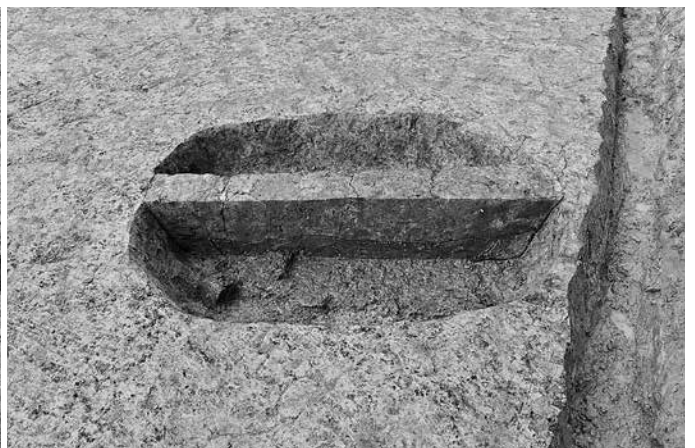
SK10 完掘(西から)



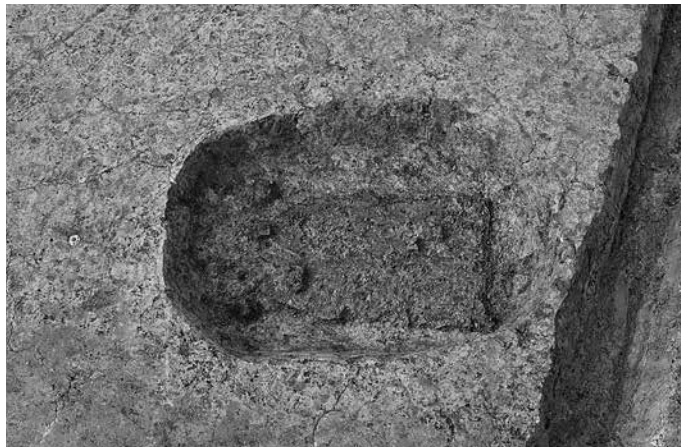
SK11 土層断面(南から)



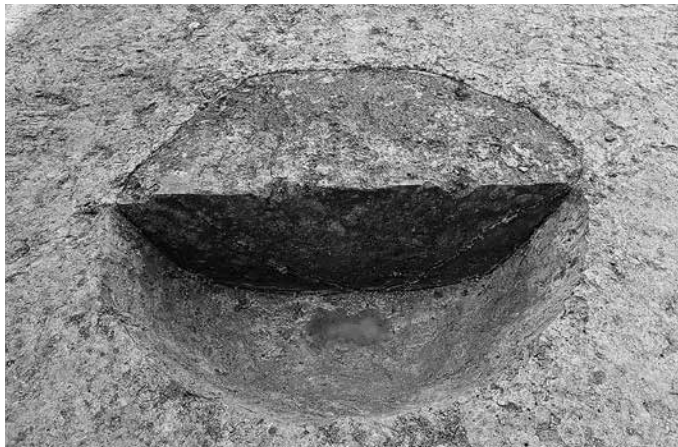
SK13 土層断面(南から)



SK15 土層断面(南から)



SK15 遺物出土・完掘 (南から)



SK16 土層断面 (北から)



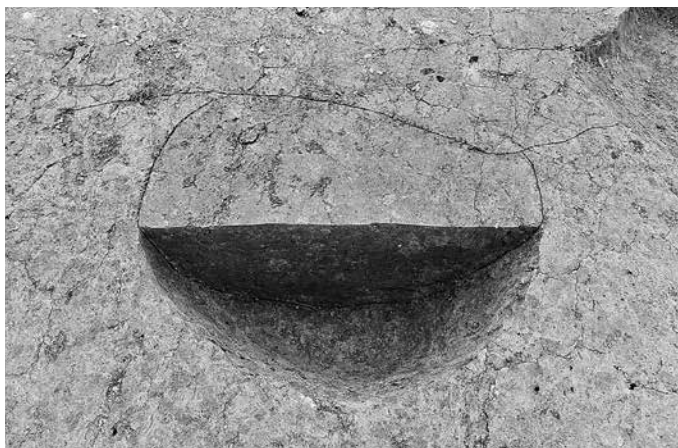
SK19 A-A' 土層断面 (西から)



SK19 B-B' 土層断面 (南から)



SK26 土層断面 (東から)



SK52 土層断面 (北西から)



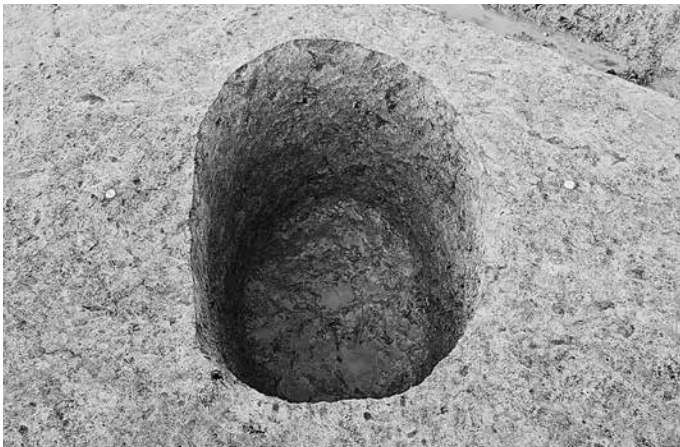
SK544・545 土層断面 (南西から)



SK556 土層断面 (西から)



SK600 土層断面(南から)



SK600 完掘(南から)



SX42 B-B' 土層断面・完掘(北西から)



SX476 A-A'・SK511・SD477・525 土層断面(南西から)



SX476 B-B'・SD515・523・525 土層断面(南東から)



SD25 A-A' 土層断面(東から)



SD25 B-B' 土層断面(西から)



SD25 完掘(西から)



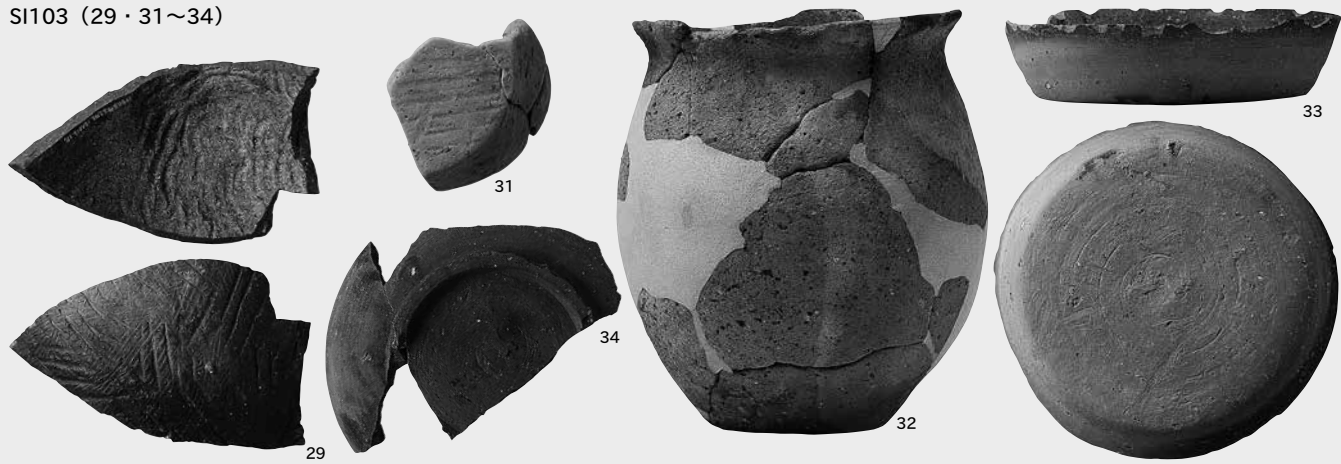
SK419 出土遺物



鳥形製品



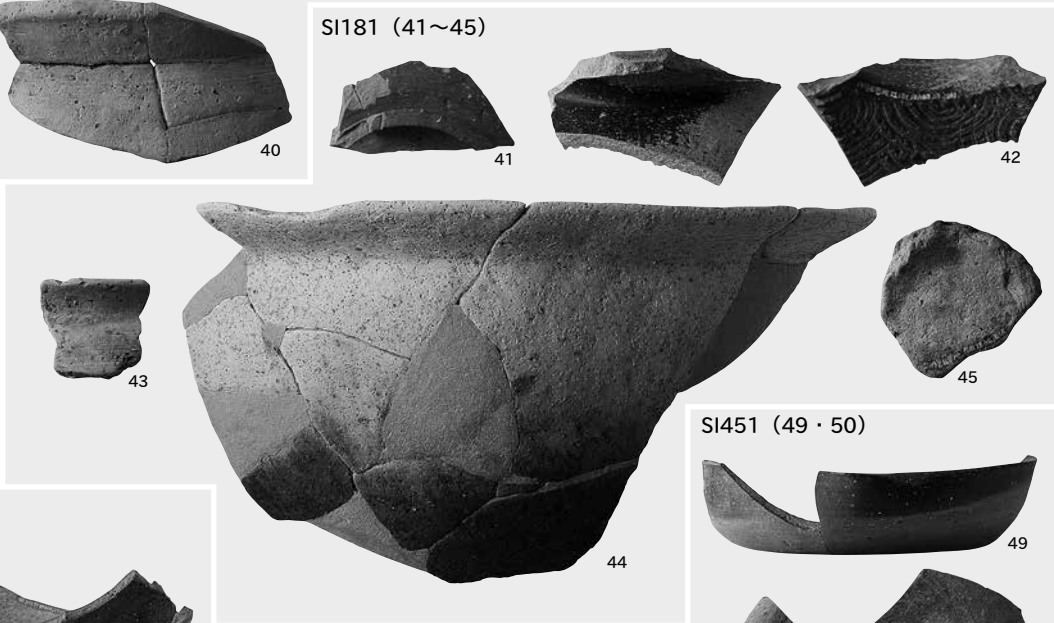
SI103 (29・31~34)



SI108 (35~40)



SI181 (41~45)



SI207 (46~48)



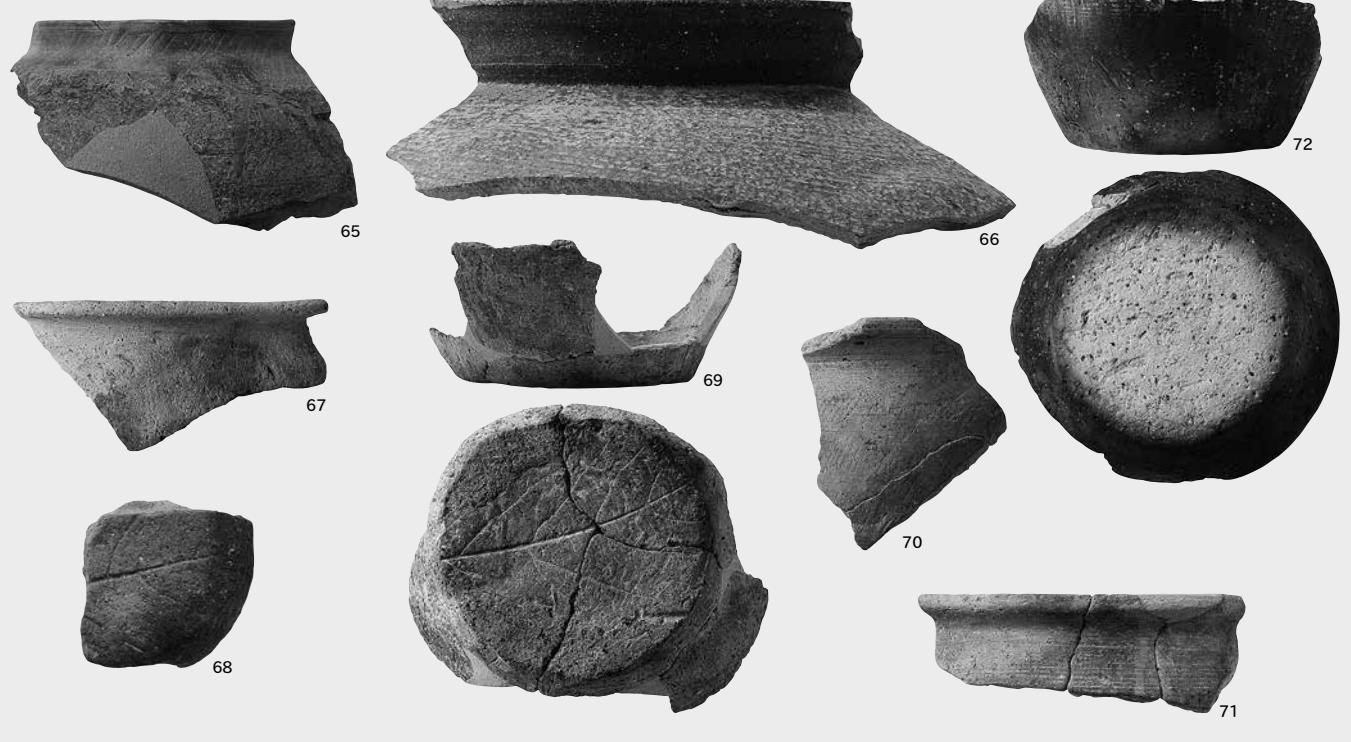
SI451 (49・50)



SI451 (51~64)



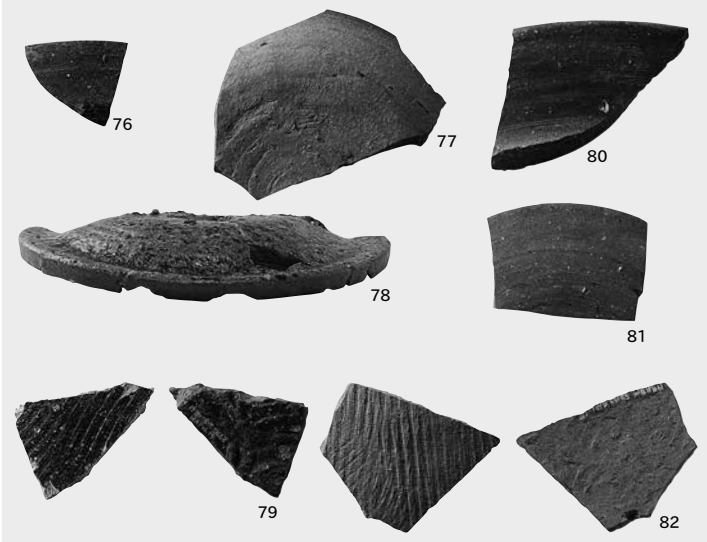
SI451 (65~72)



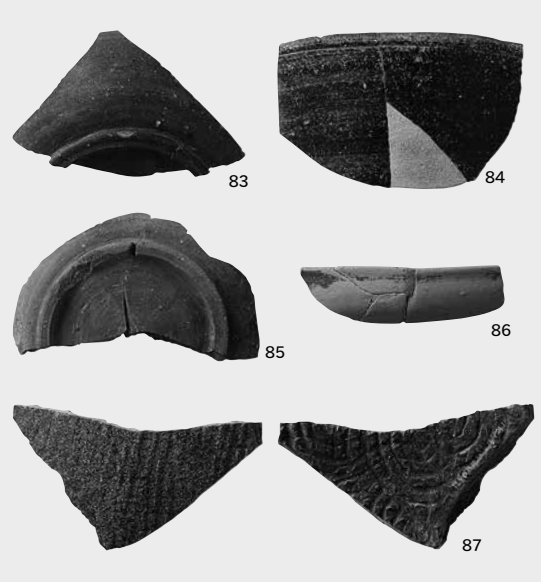
SI453 (73~75)



SB251 (76~82)



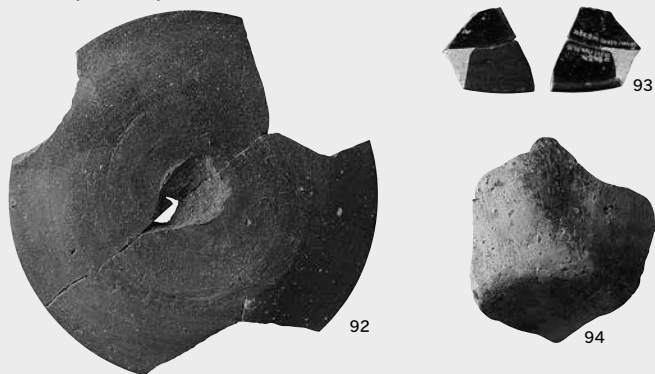
SB252 (83~87)



SB828 (88~91)



SB828 (92~94)



SB829 (95)



SE278 (96~102)



SE388 (103~105)



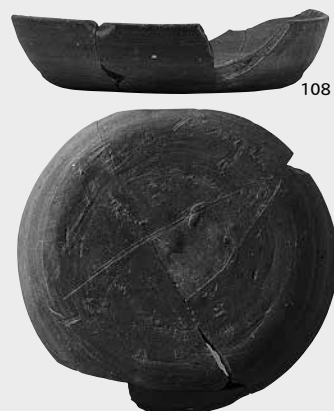
SK29 (106)



SK30 (107)



SK32 (108)

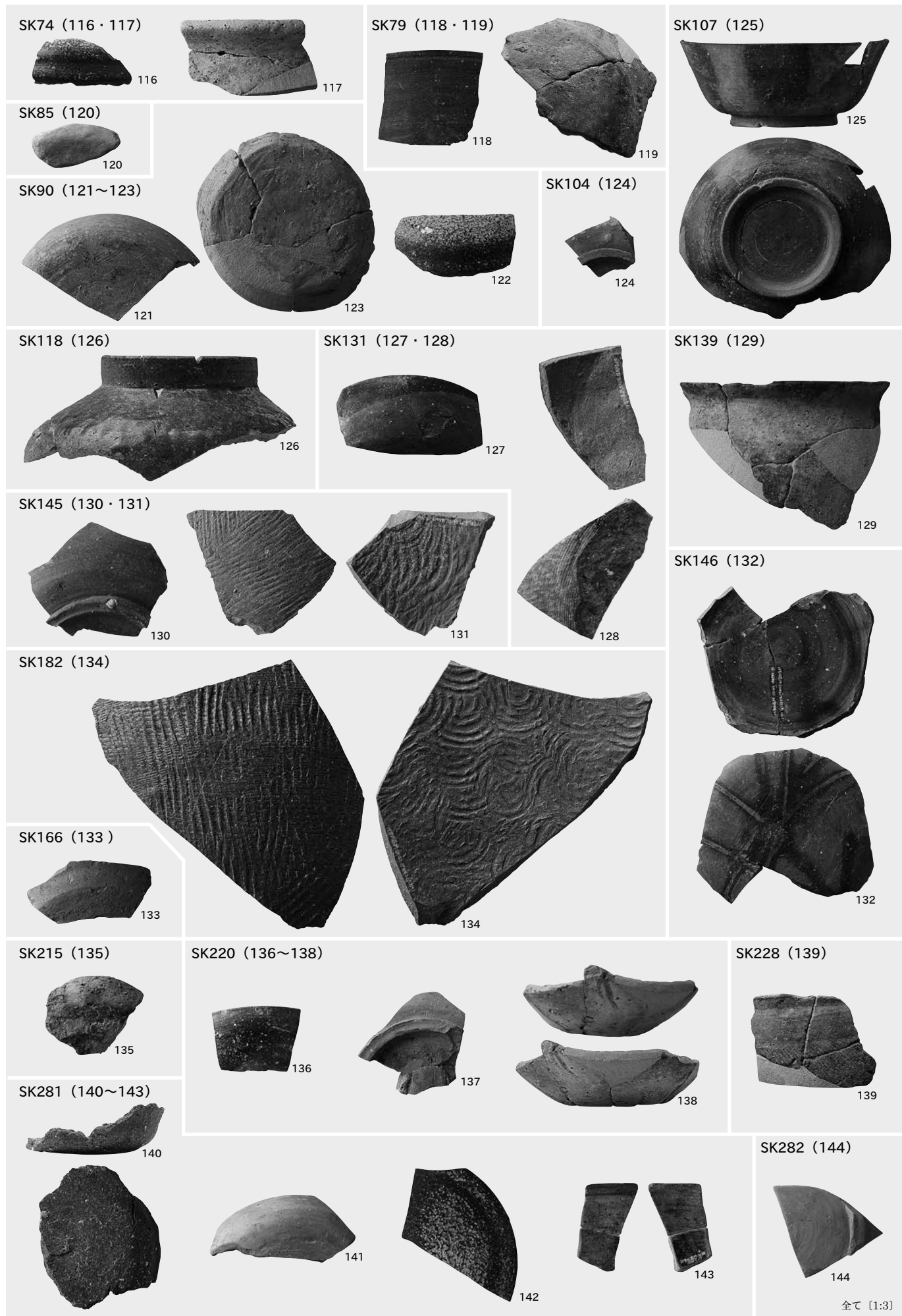


SK48 (109~111)

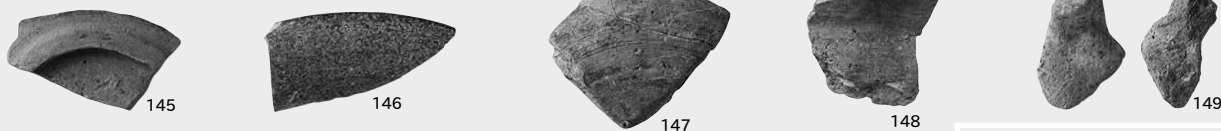


SK53 (112~115)

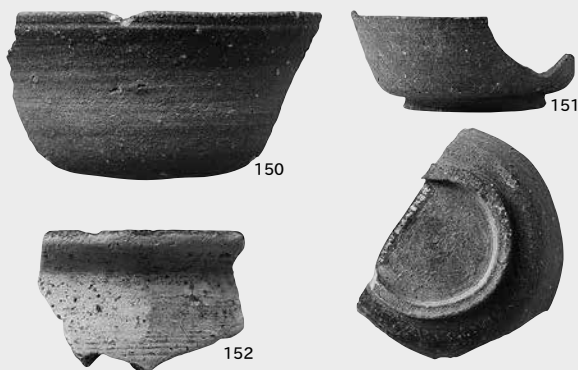




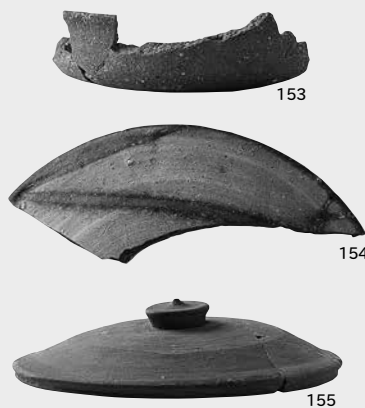
SK285 (145~149)



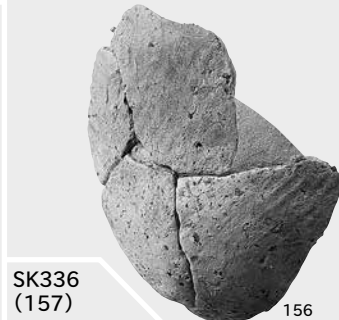
SK298 (150~152)



SK333 (153~155)



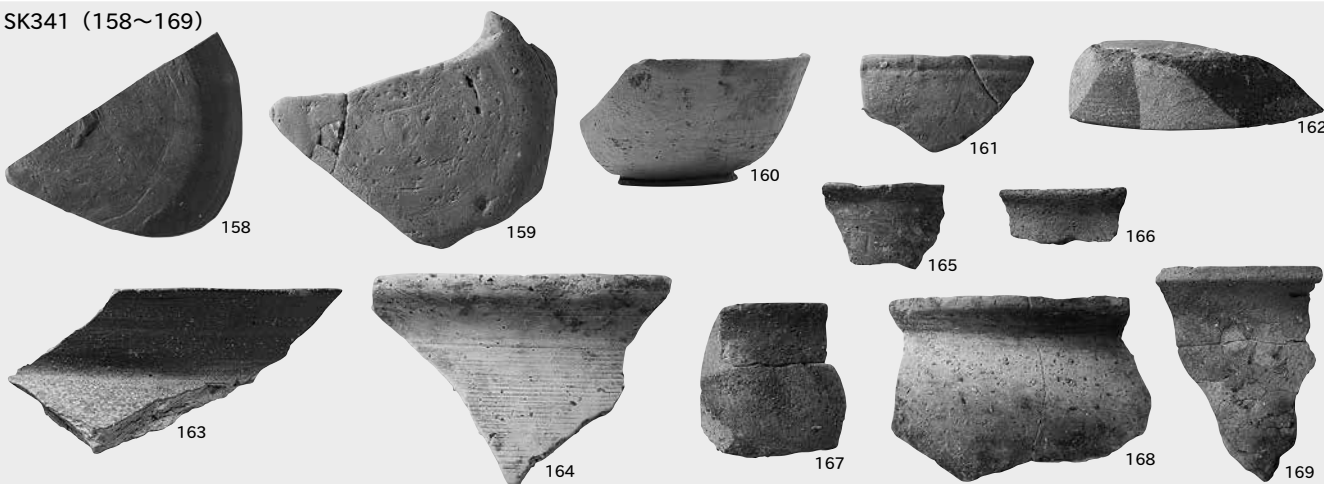
SK335 (156)



SK336 (157)



SK341 (158~169)



SK346 (170~172)



SK350 (173・174)



SK352 (175・176)



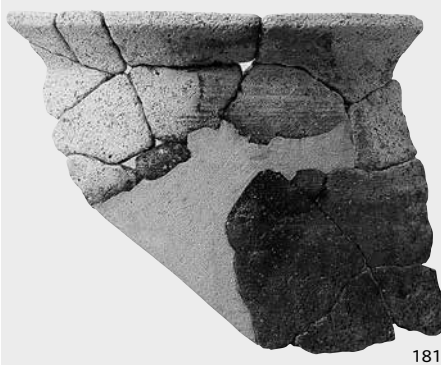
SK353 (177)



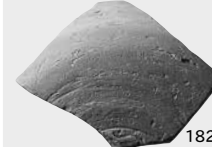
SK356 (178~180)



SK363 (181)



SK400 (182)



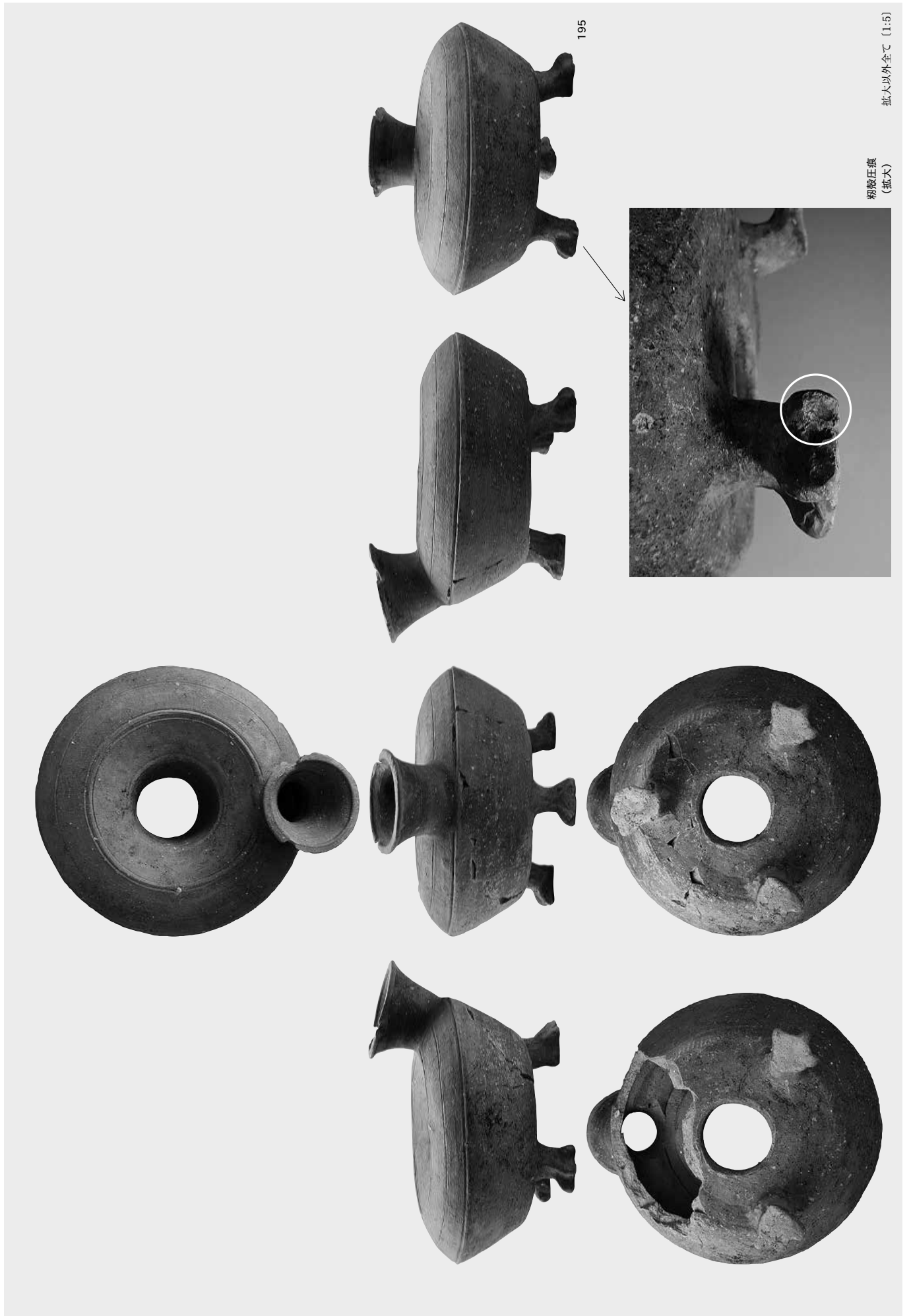
SK413 (183)



全て [1:3]

SK419 (184~188・193・194)





SK419 (189~192・196~204)



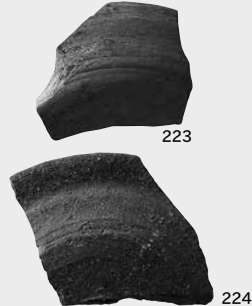
SK444 (205~207)



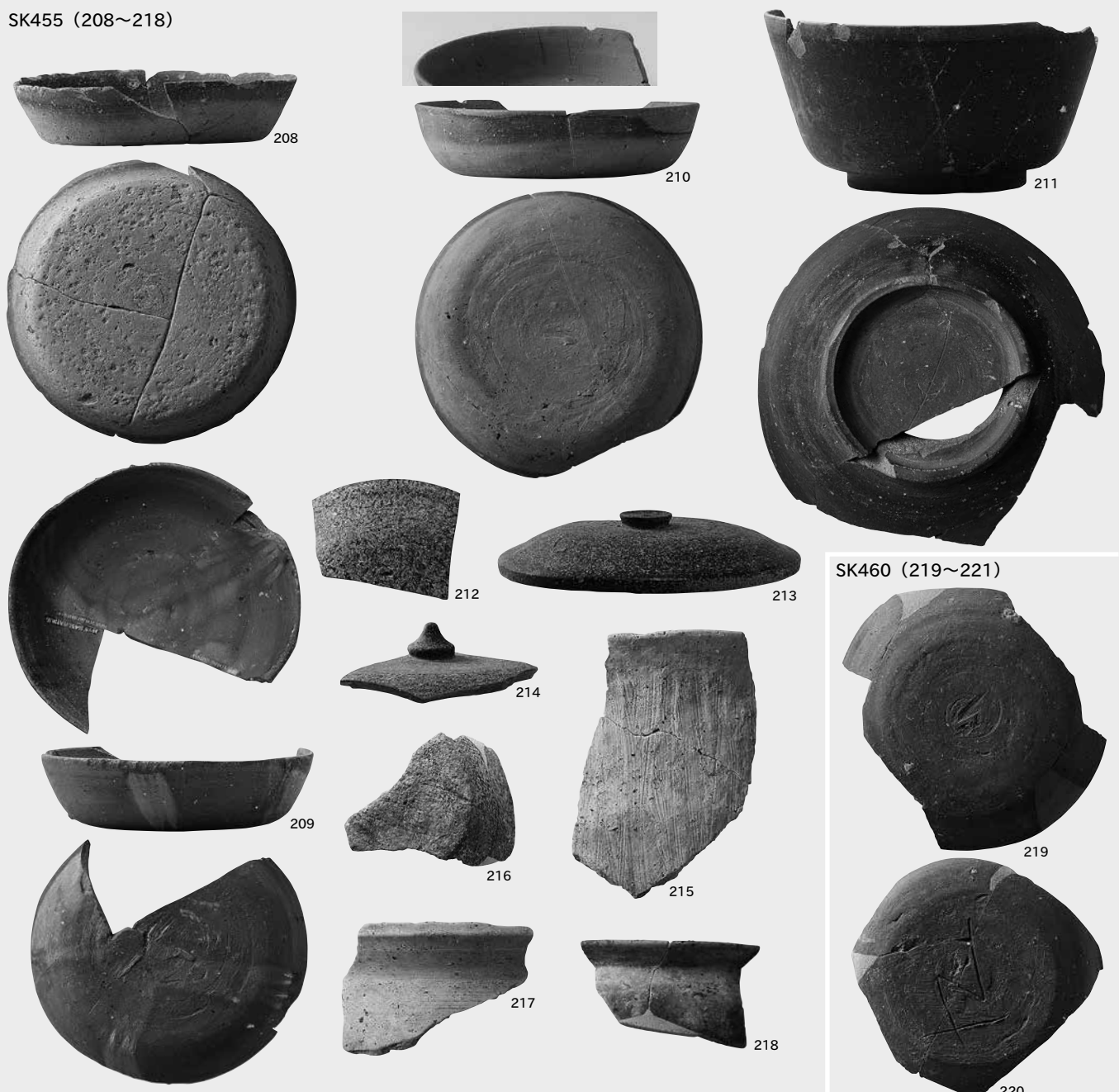
SK462 (222)



SK466 (223・224)



SK455 (208~218)



SK470 (225・226)



SK472 (227~235)



SK488 (236~238)



236



237



238



238

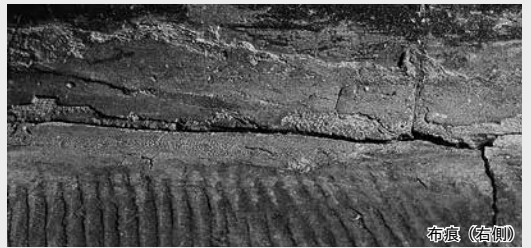
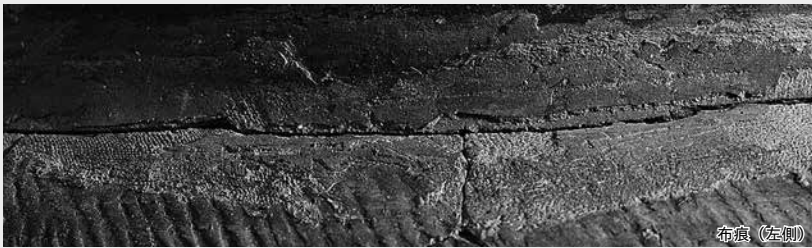
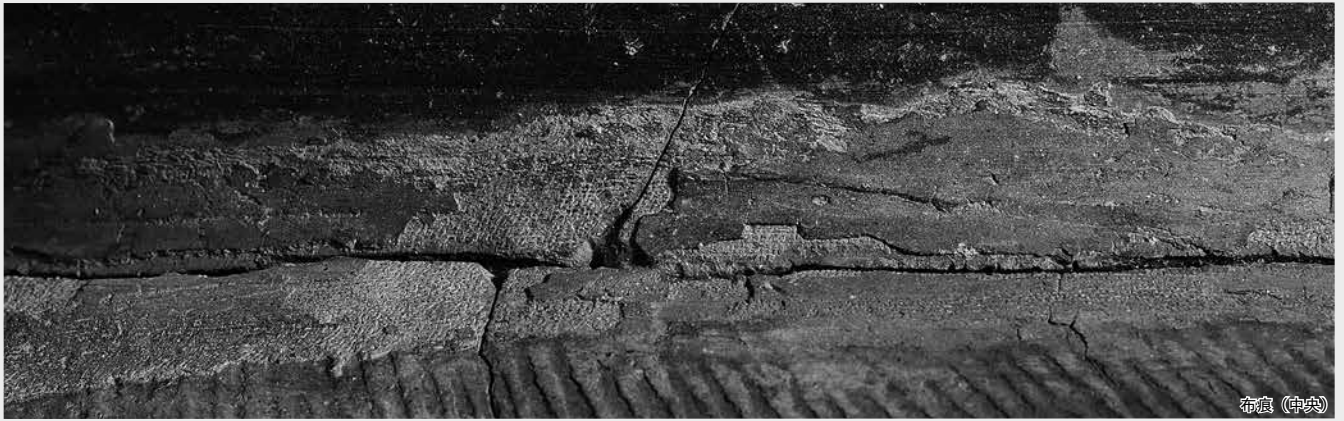


238



238 [1:4]
その他 [1:3]

SK488 (239)



[いずれも縮尺不同]



239

[1:5]

SK499 (240)



SK533 (244)



SK530 (241)



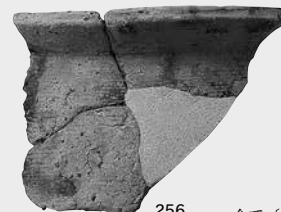
SK543 (245~248)



SK532 (242・243)



SK546 (249~252・254・256)



全て [1:3]

SK546 (253・255)



253



255

SK547 (257)



257

SK576 (262)



262

SK553 (258~261)



258



259



261



260

SK581 (263)



263

SK585 (267)



267

SK602 (274)



274

SK584 (264~266)



264



265



266

SK589 (268~273)



268



269



271



270

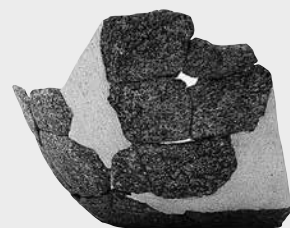


272

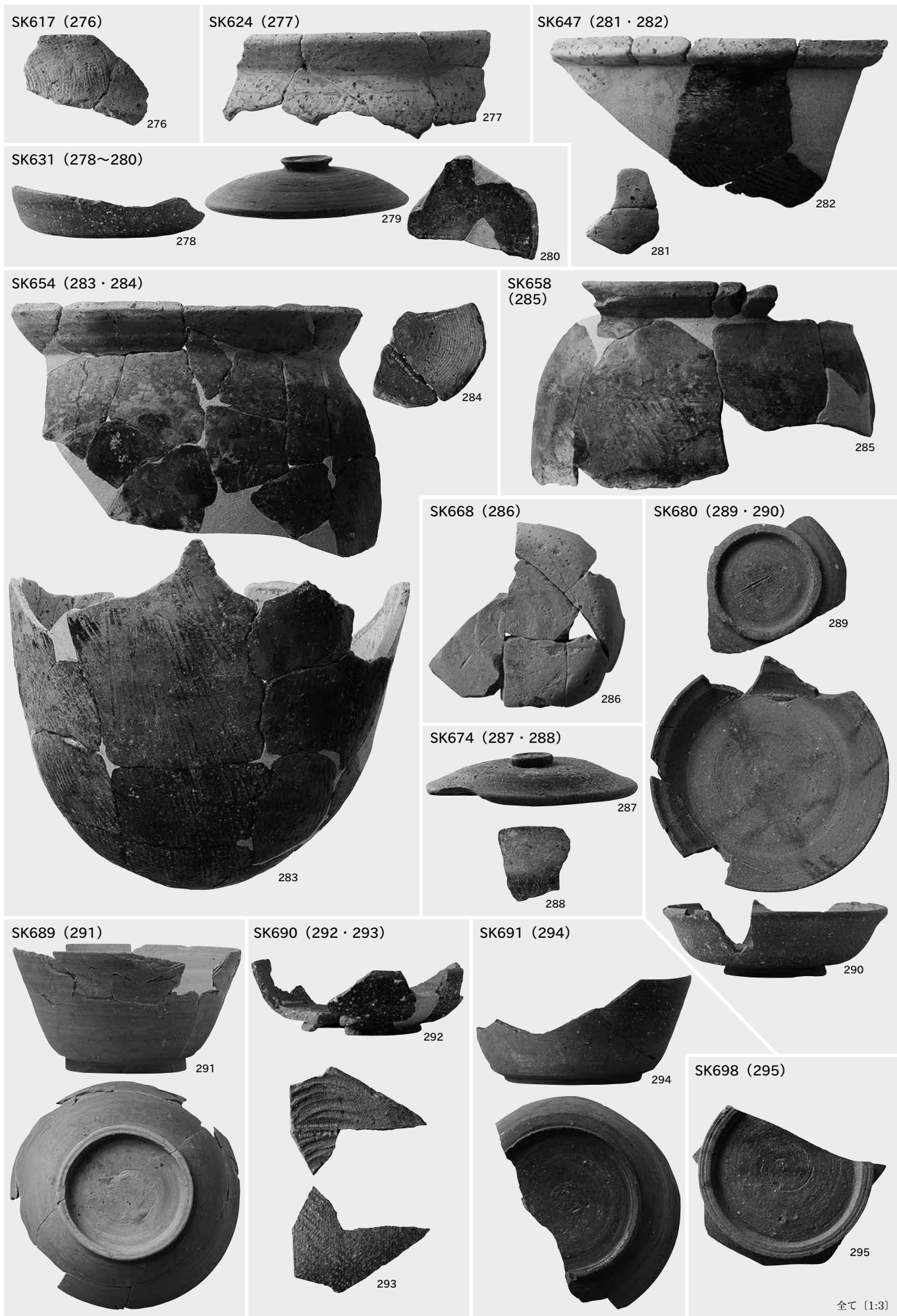


273

SK616 (275)

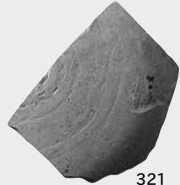


275





SX37 (321・322)

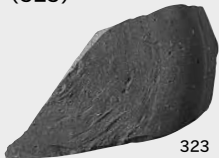


321



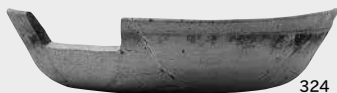
322

SX38 (323)



323

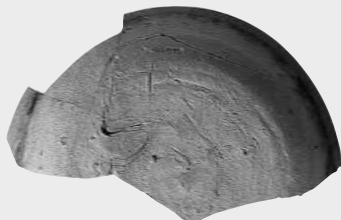
SX62 (324~327)



324



325

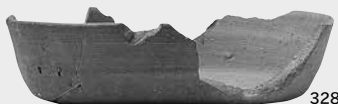


326



327

SX63 (328~338)



328



329



330



331



332



333



334



336



337



338



339



340



341



342



343

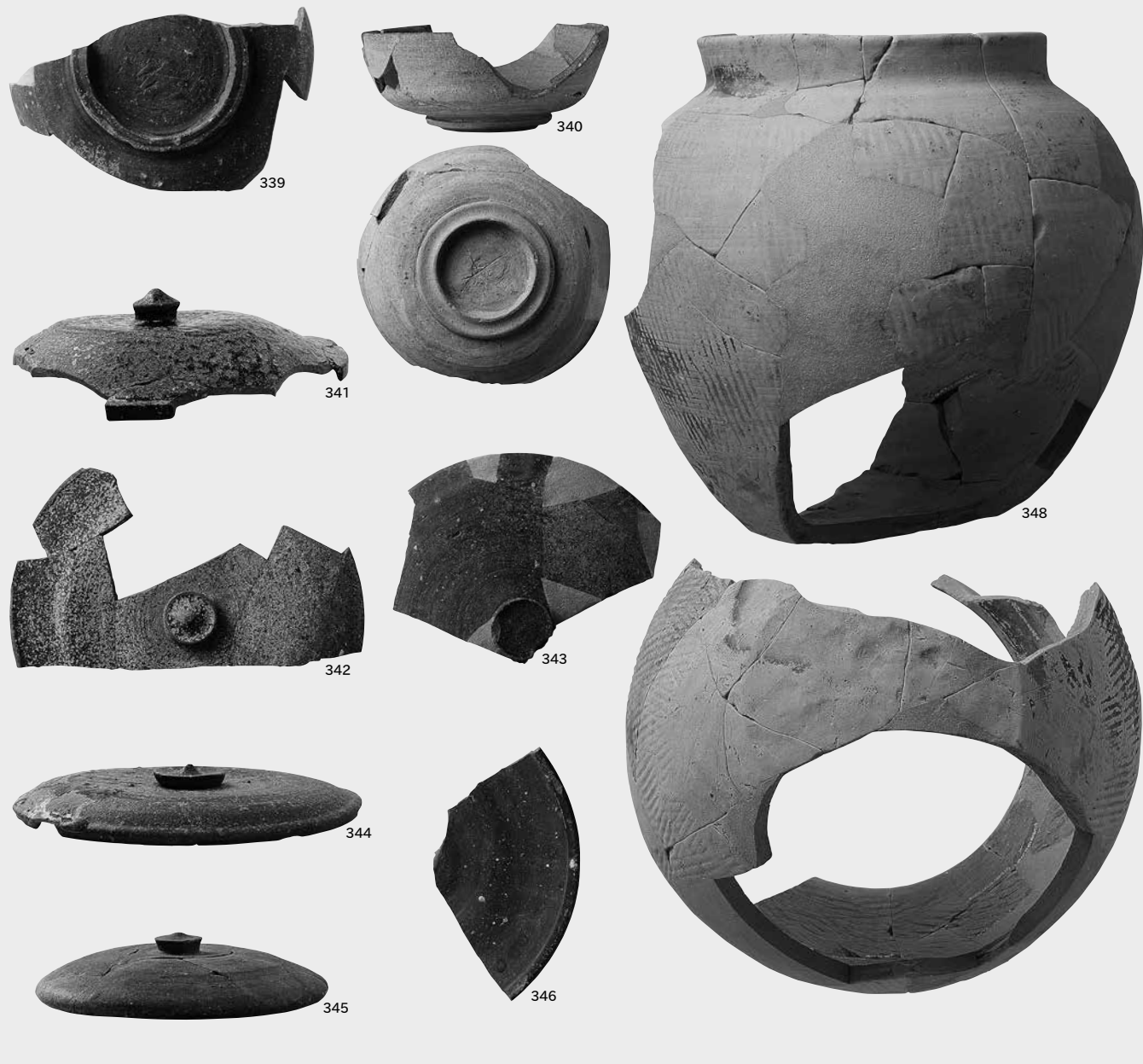


344



345

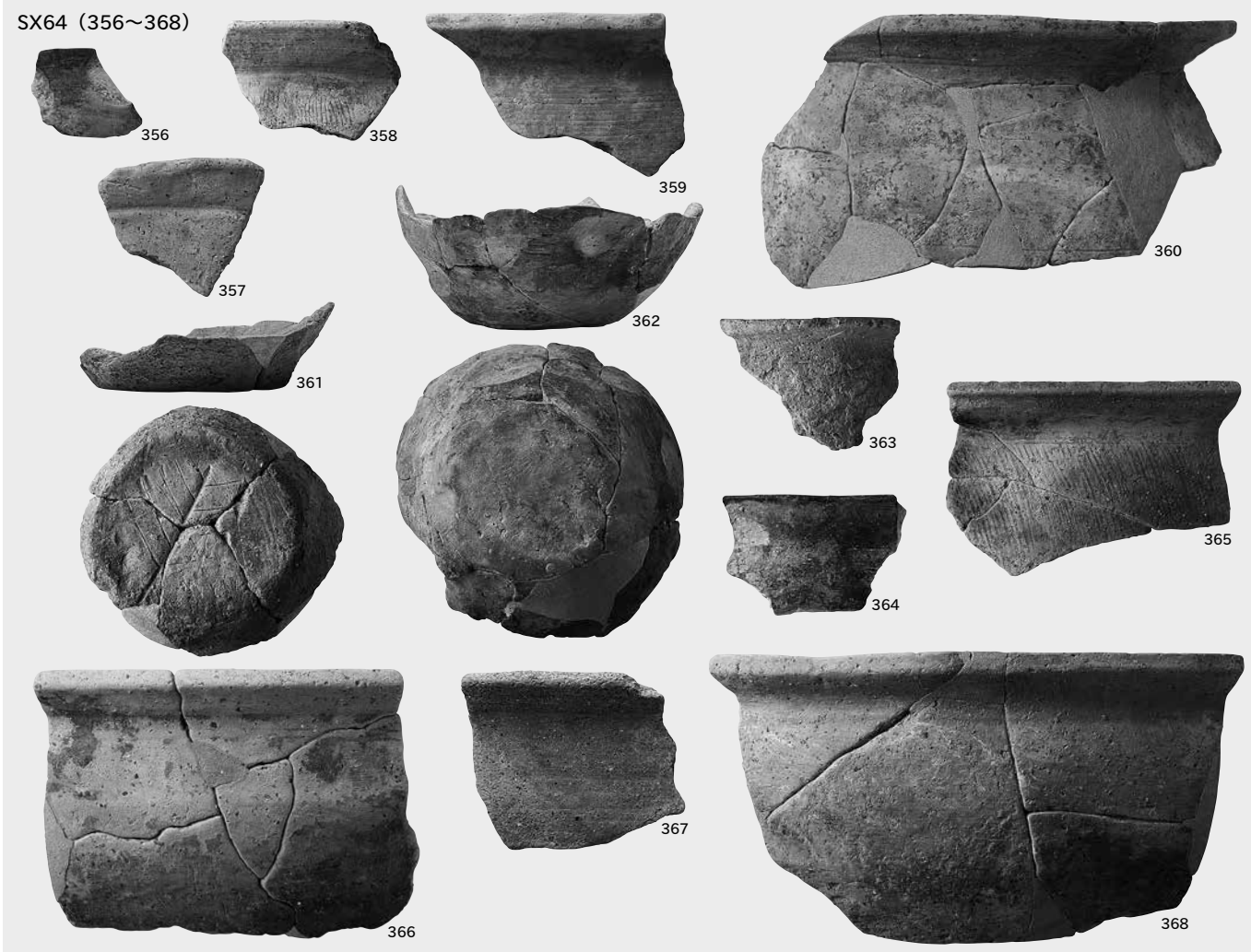
SX63 (339~351)



SX64 (352~355)



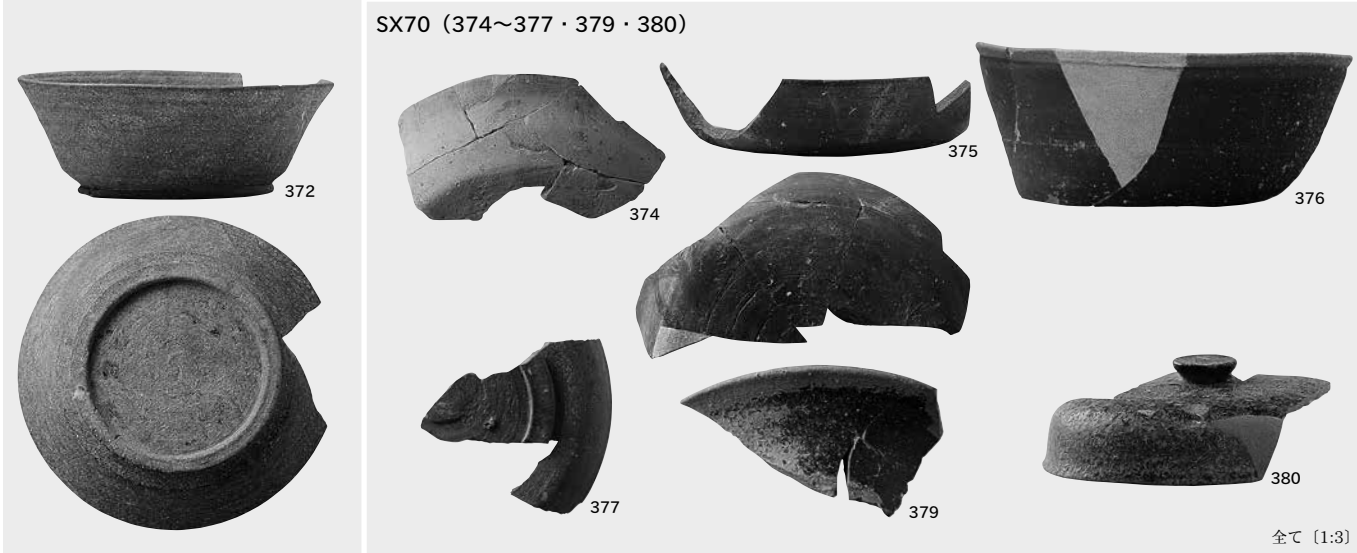
SX64 (356~368)



SX66 (369~373)



SX70 (374~377 · 379 · 380)



SX70 (378)



378

SX240 (415)



415



SX124 (381~391)



381



382



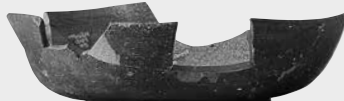
387



383



384



386



385



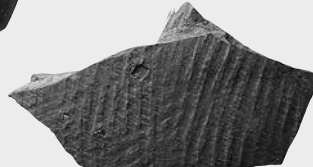
388



389



390



391

SX125 (392~397)



392



394



393



396



397



395



全て 1:3



SX283 (416~430)



SX365 (431)



SX406 (432)



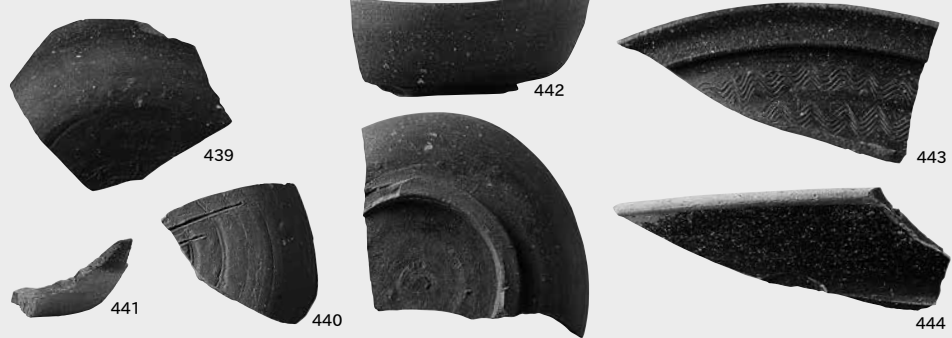
SX407 (433~436)



SX411 (437・438)



SX415 (439~444)

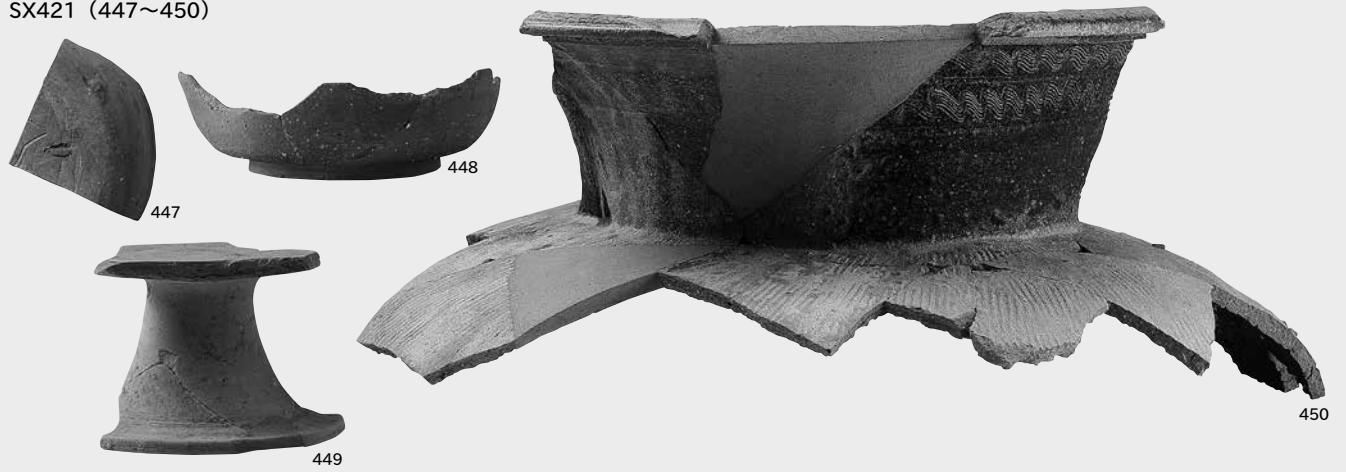


SX416 (445・446)



443 [1:4]
その他 [1:3]

SX421 (447~450)



SX425 (451~464)



450 [1:4]
その他 [1:3]

SX469 (465~482)



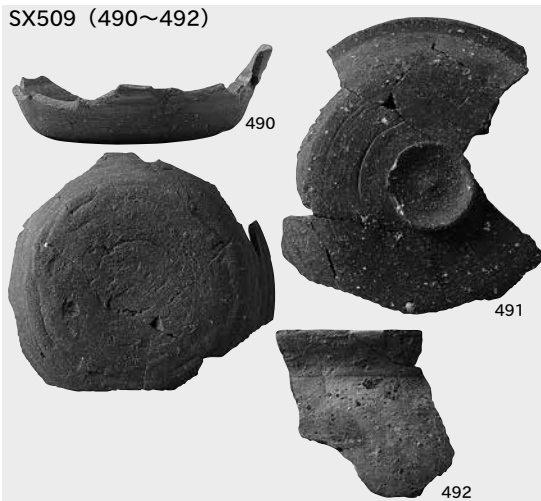
SX476 (483~488)



SX482 (489)



SX509 (490~492)



SD54 (494・495)



SD397 (497)



SX613 (493)



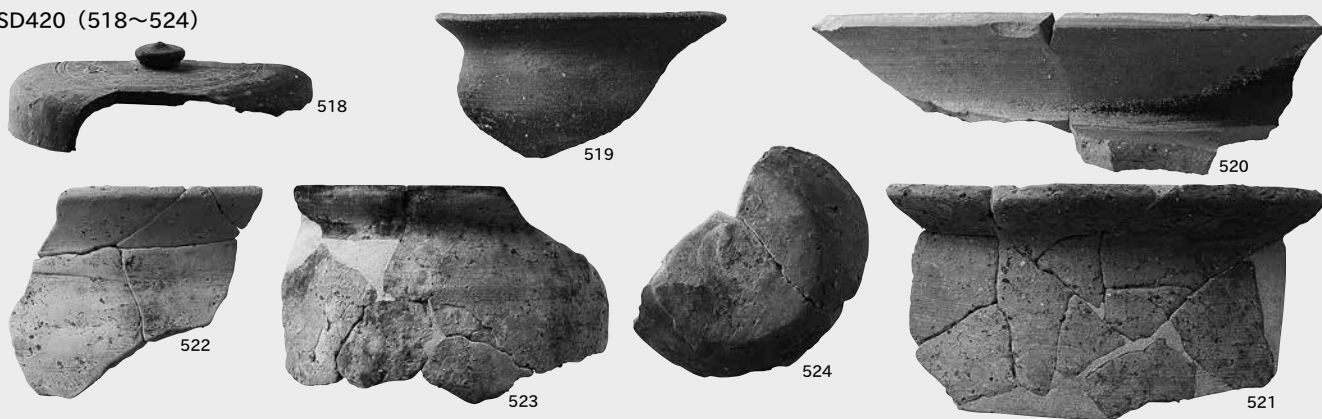
SD343 (496)



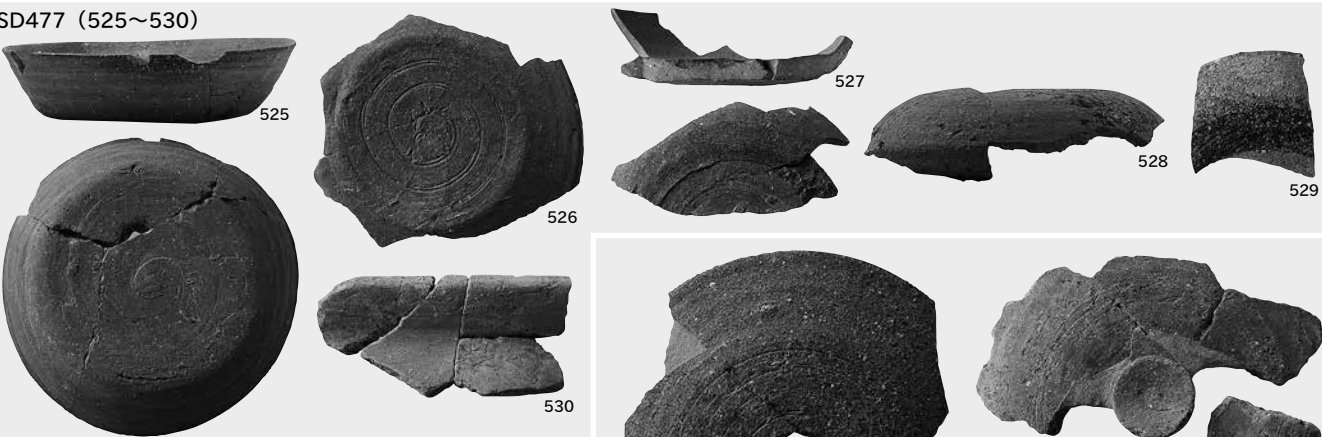
SD420 (498~517)



SD420 (518~524)



SD477 (525~530)



SD515 (531~538)



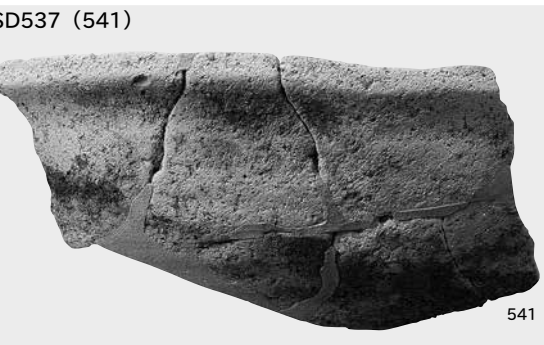
SD525 (539)



SD531 (540)



SD537 (541)



SD538 (542)



SD592 (543・544)



SD651 (545)

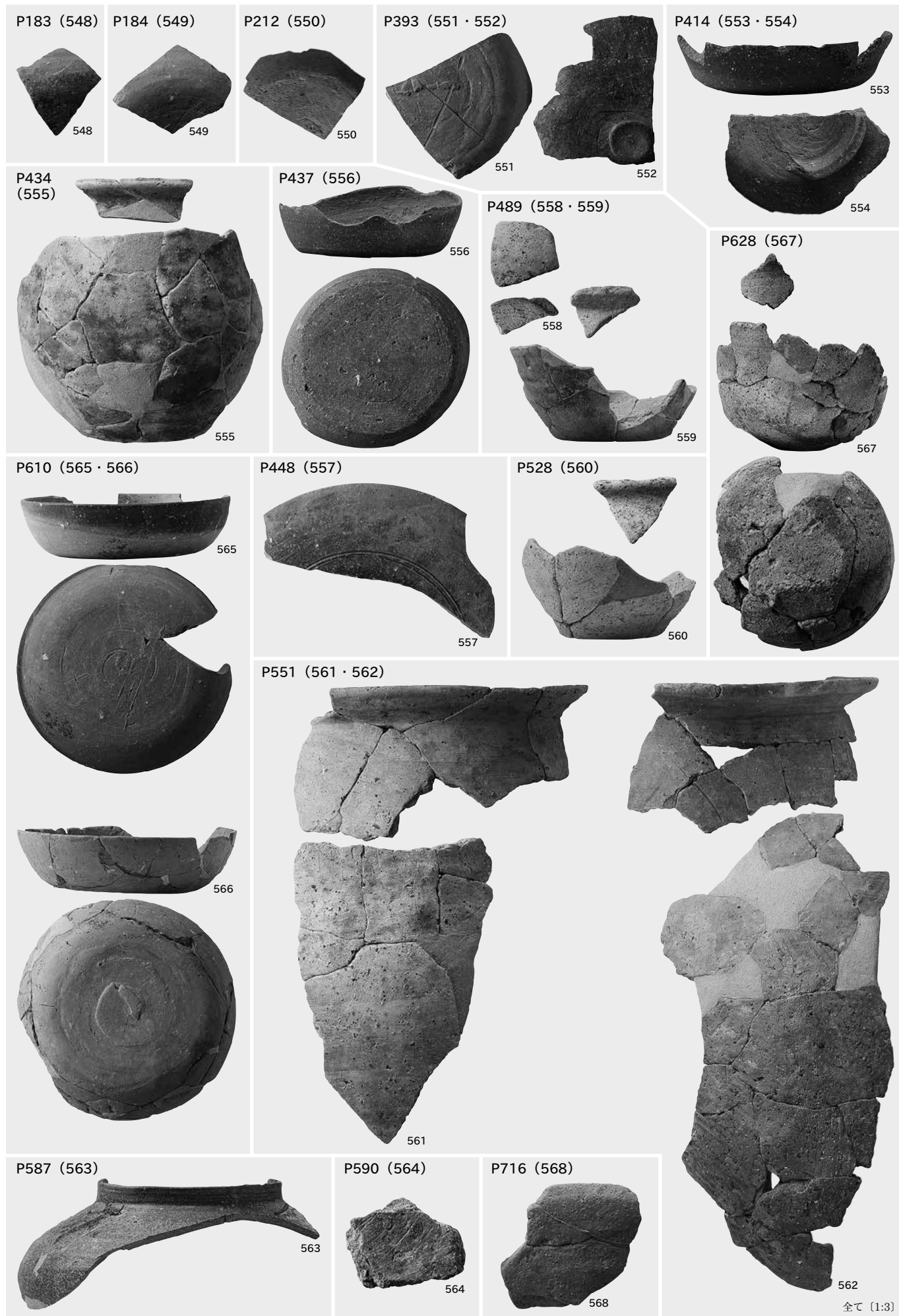


SD652 (546)



SD673 (547)





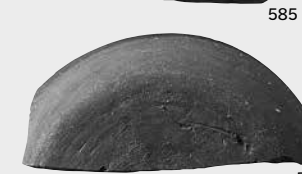
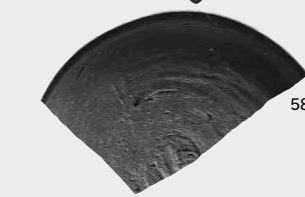
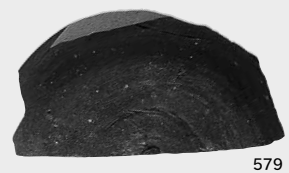
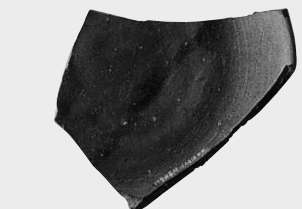
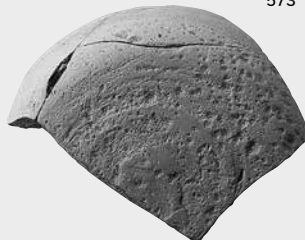
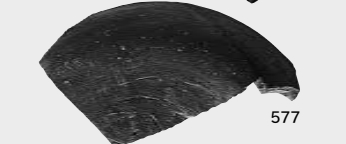
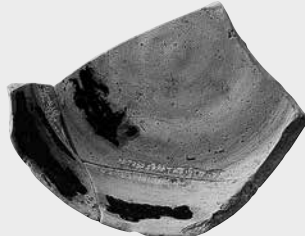
P718 (569)



包含層 (571~591)



P815 (570)



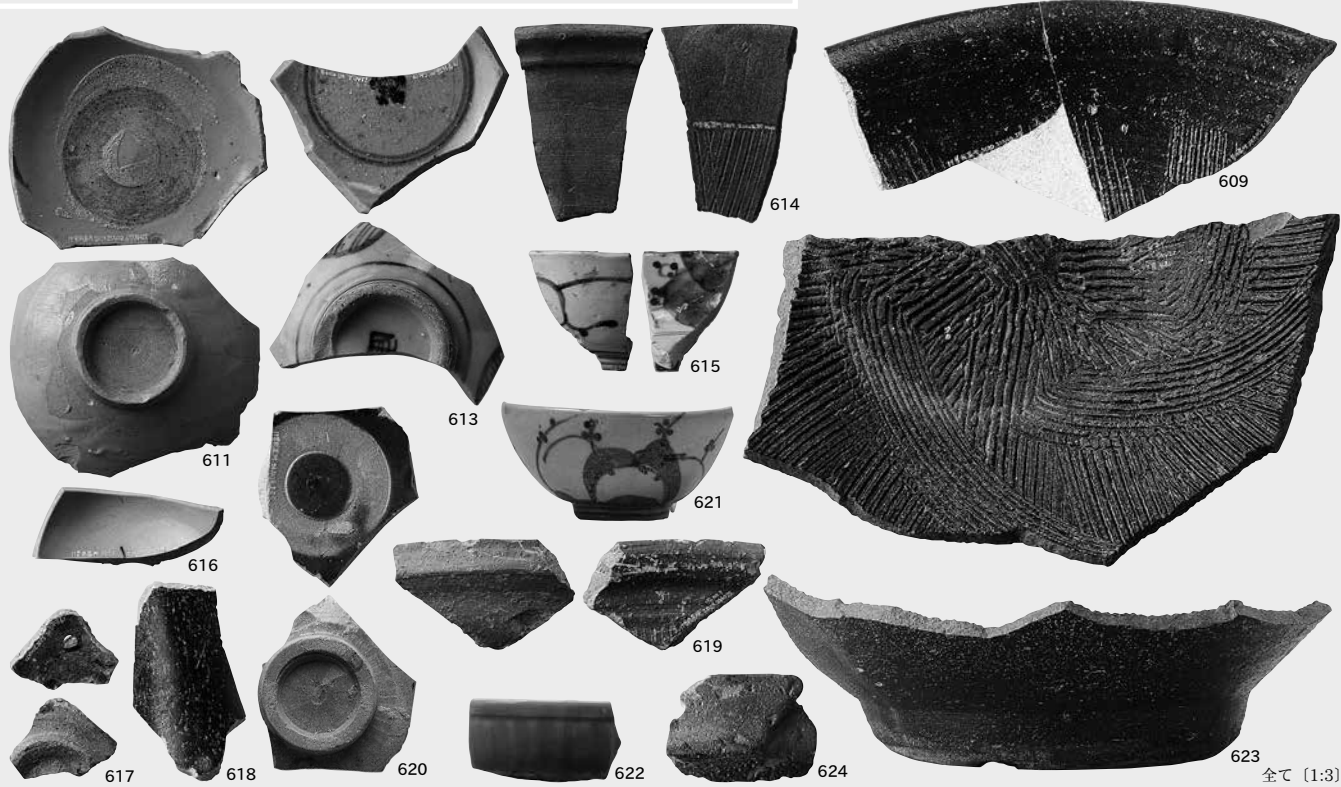
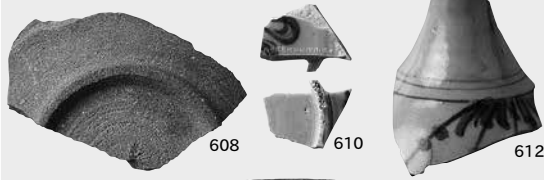
包含層 (592~605)



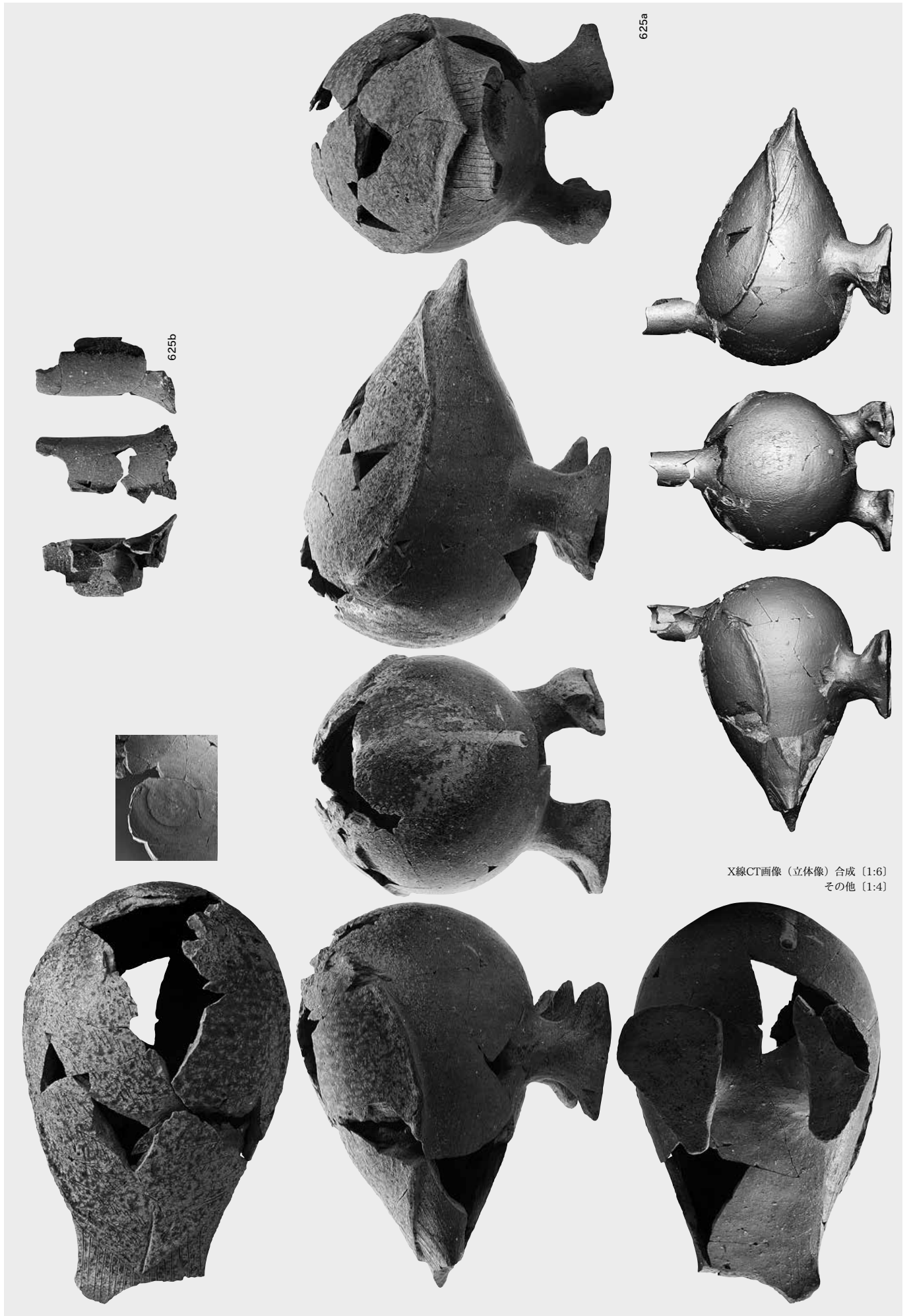
中世 (606・607)

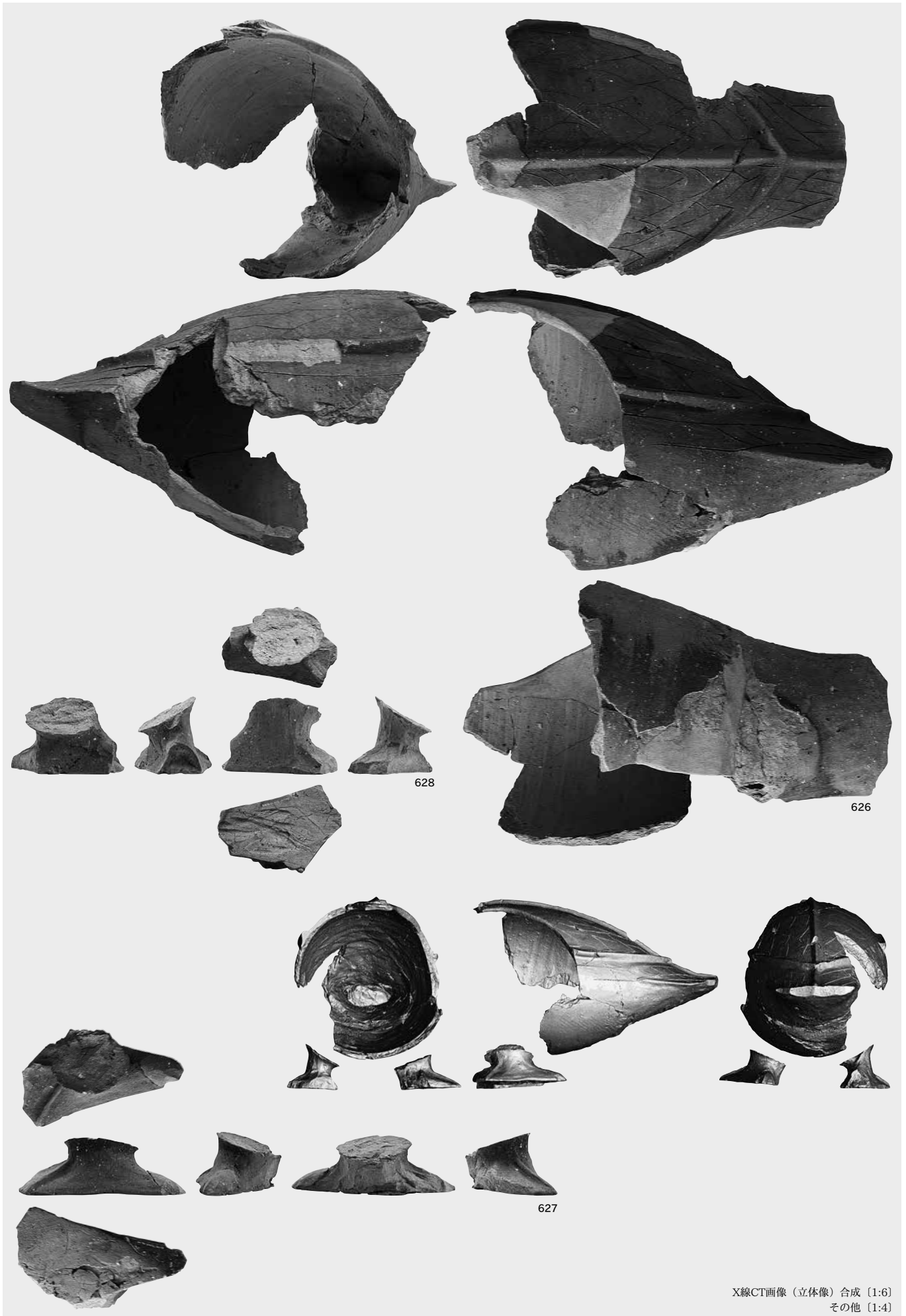


近世 (608~624)





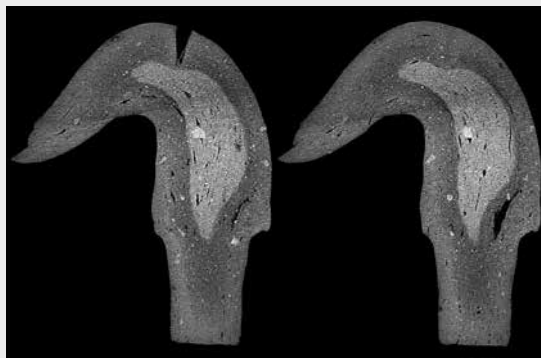




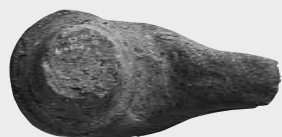
X線CT画像（立体像）合成 [1:6]
その他 [1:4]



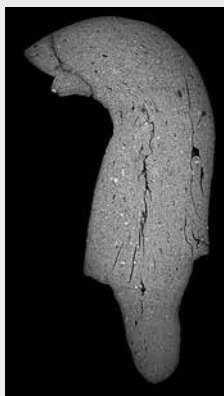
629



X線CT画像 (断面像)



630



X線CT画像 (断面像)



631



632



633



635



634



636



637



638



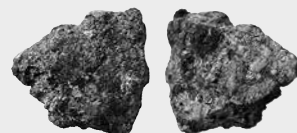
640



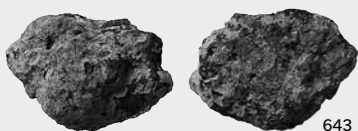
639



641



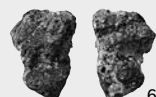
642



643



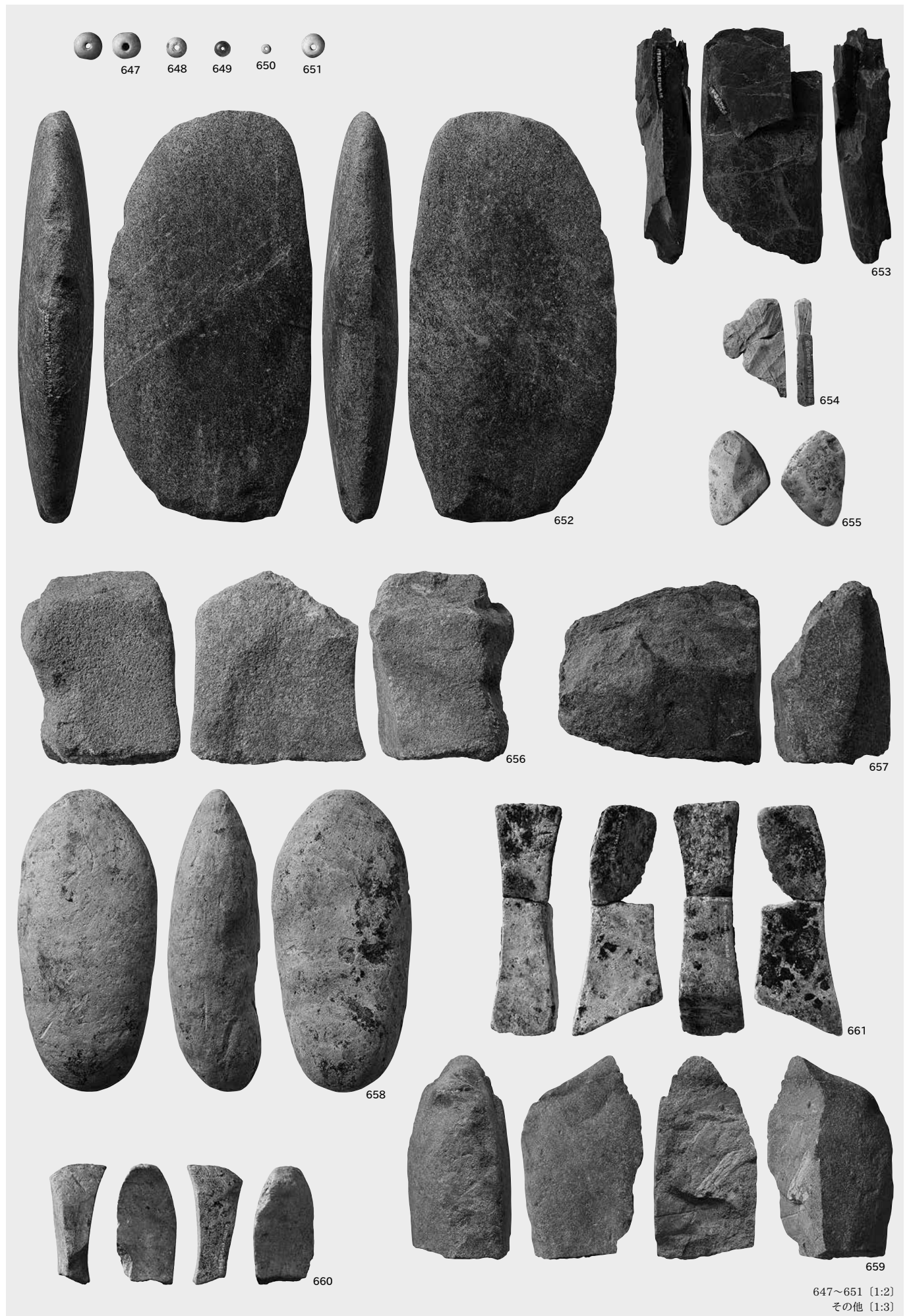
644



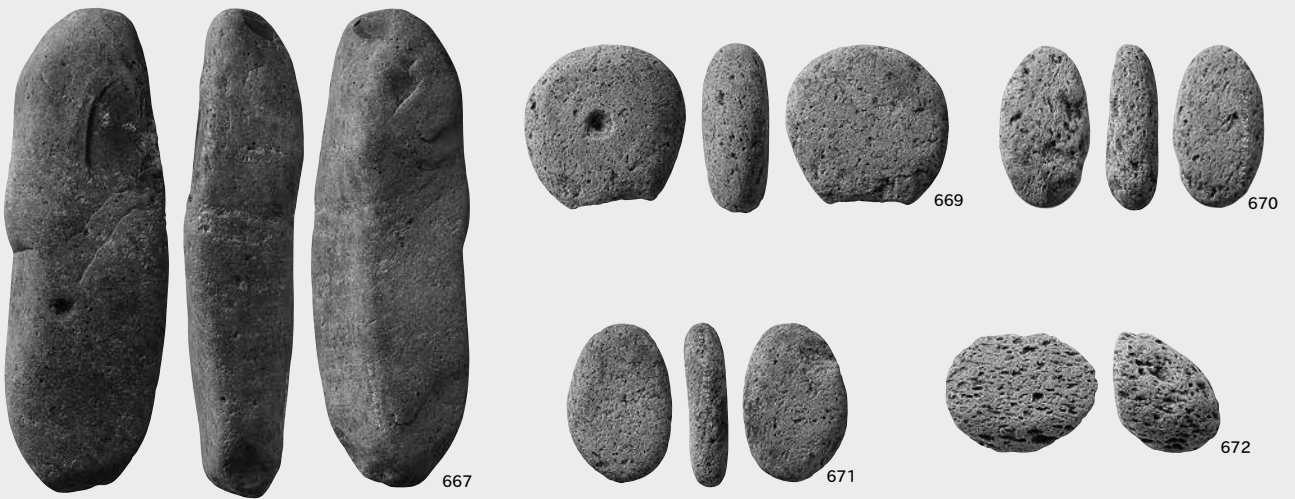
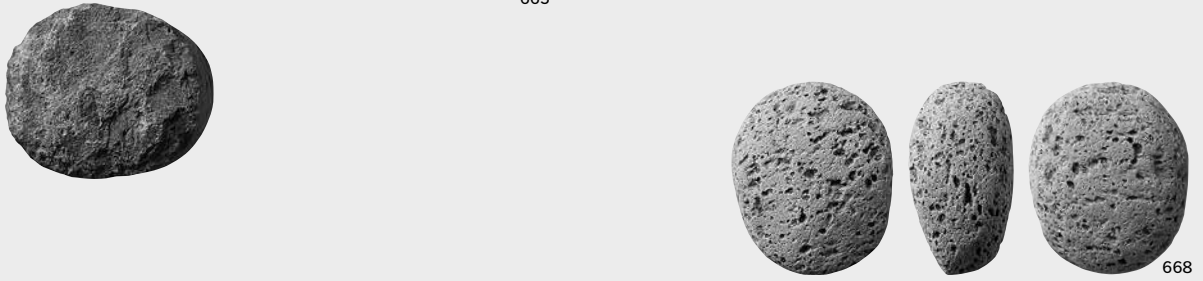
645

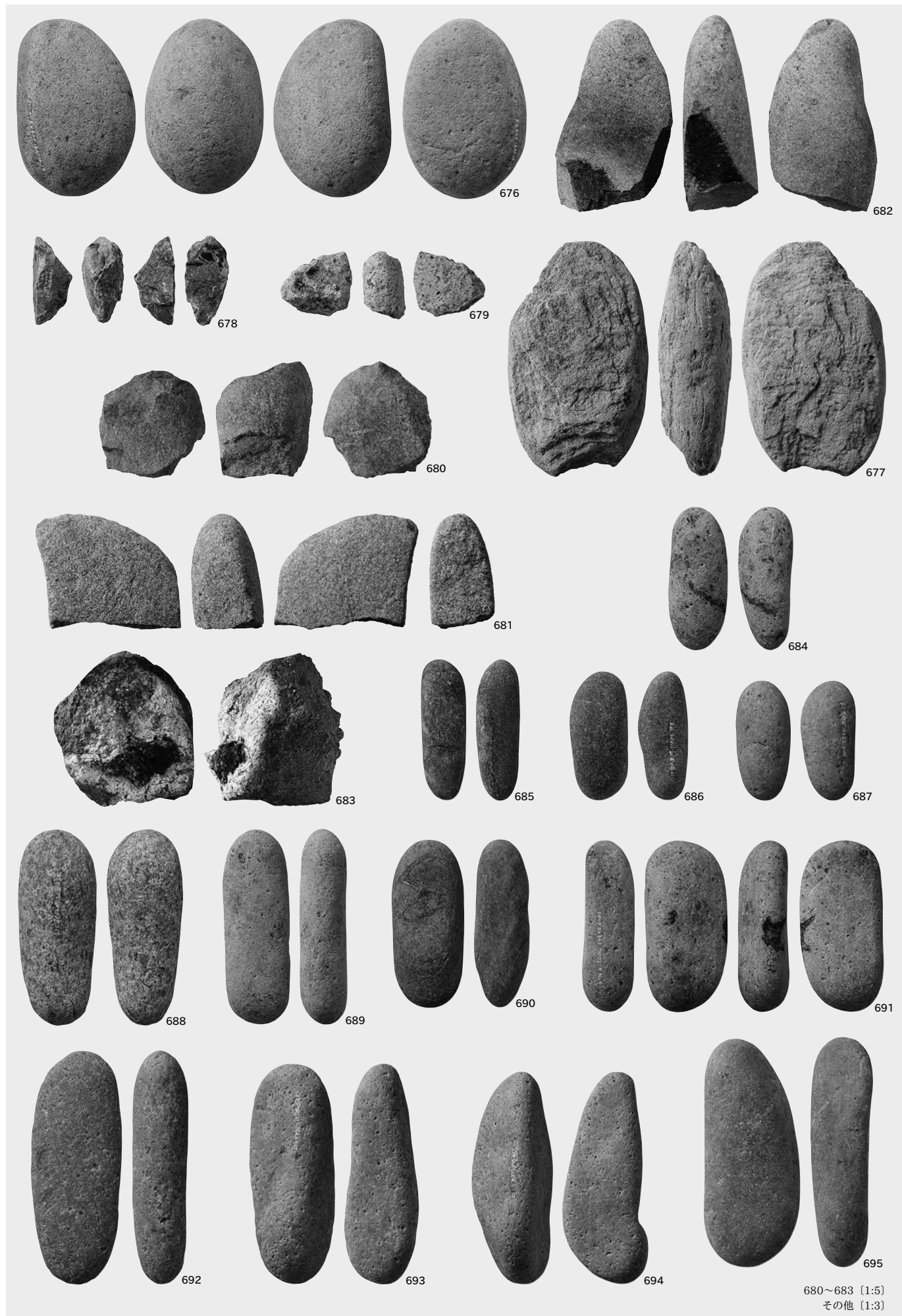


646

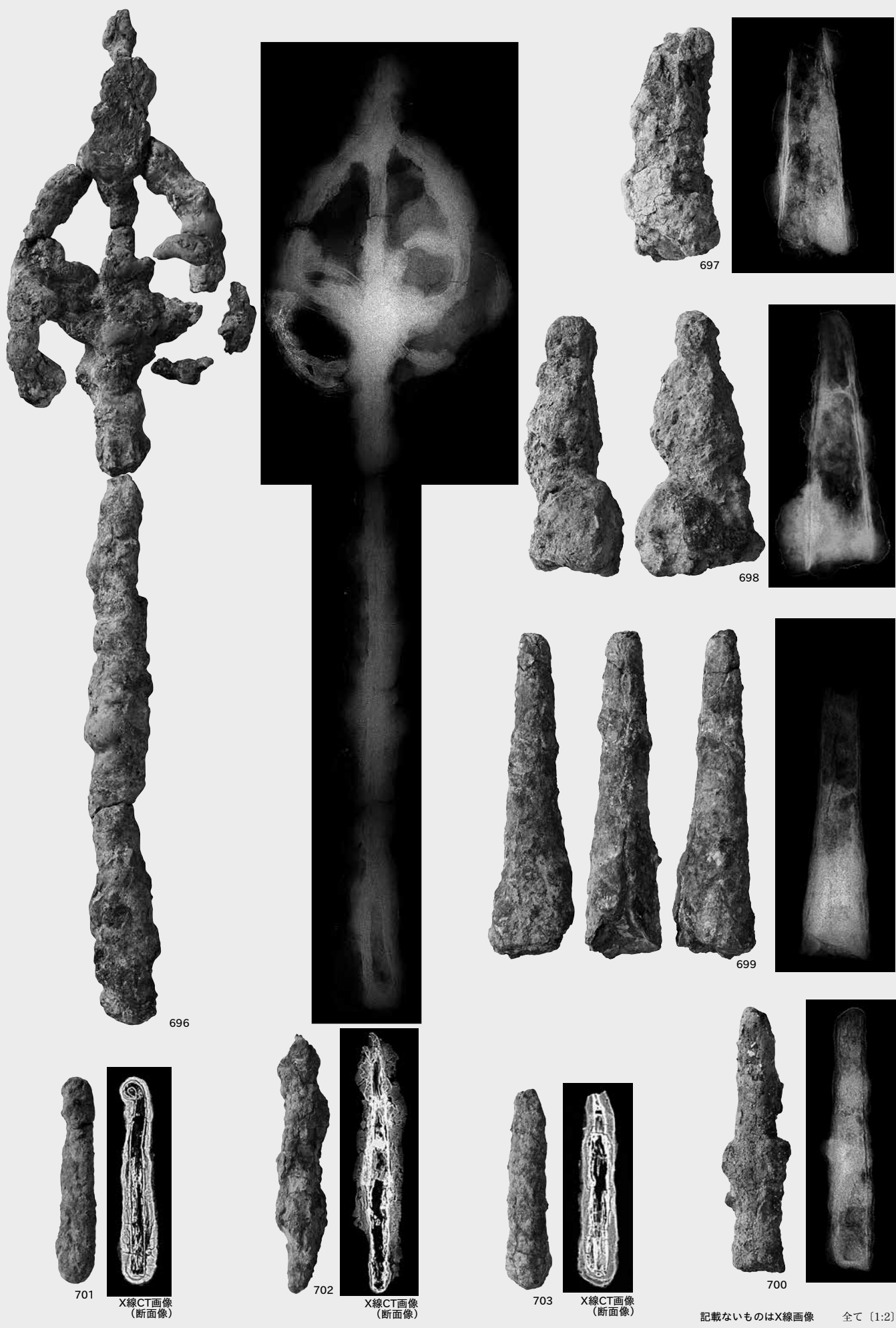


647~651 [1:2]
その他 [1:3]





680~683 [1:5]
その他 [1:3]



696

697

698

699

701

X線CT画像
(断面像)

702

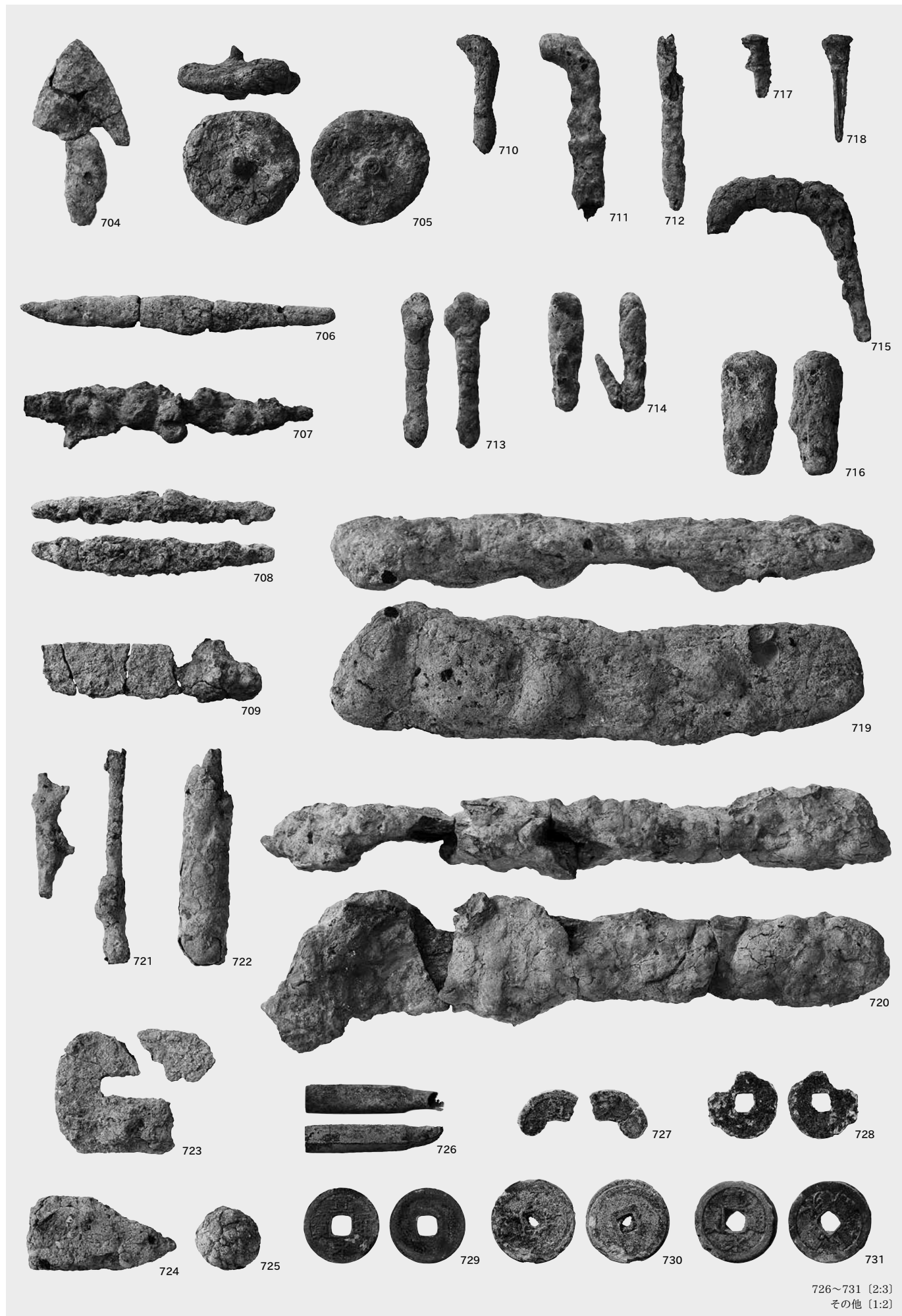
X線CT画像
(断面像)

703

X線CT画像
(断面像)

700

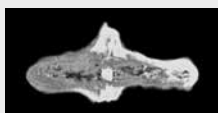
記載ないものはX線画像 全て [1:2]



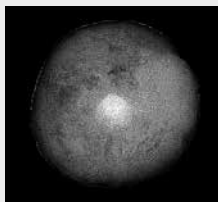
726~731 [2:3]
その他 [1:2]



704



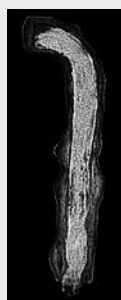
X線CT画像 (断面像)



705



710



711



712



717



718



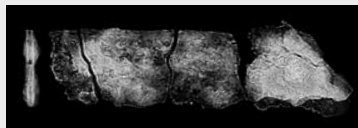
706



707



708



709



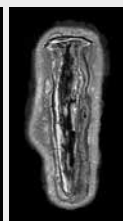
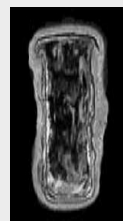
713



714



715

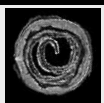


716

X線CT画像 (断面像)



721

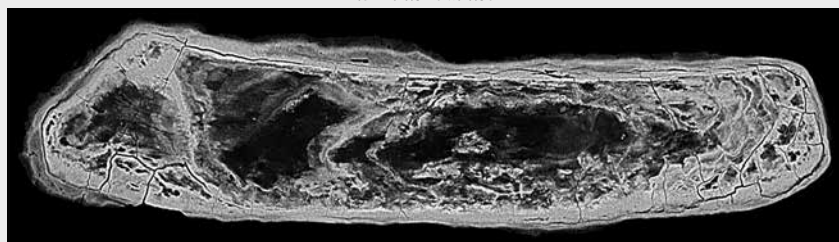


722

X線CT画像 (断面像)



X線CT画像 (断面像)

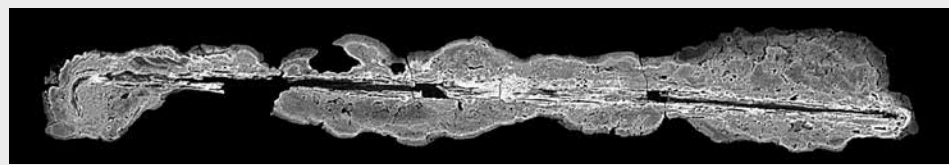


X線CT画像 (断面像)

719



723



X線CT画像 (断面像)



724

X線CT画像 (断面像)

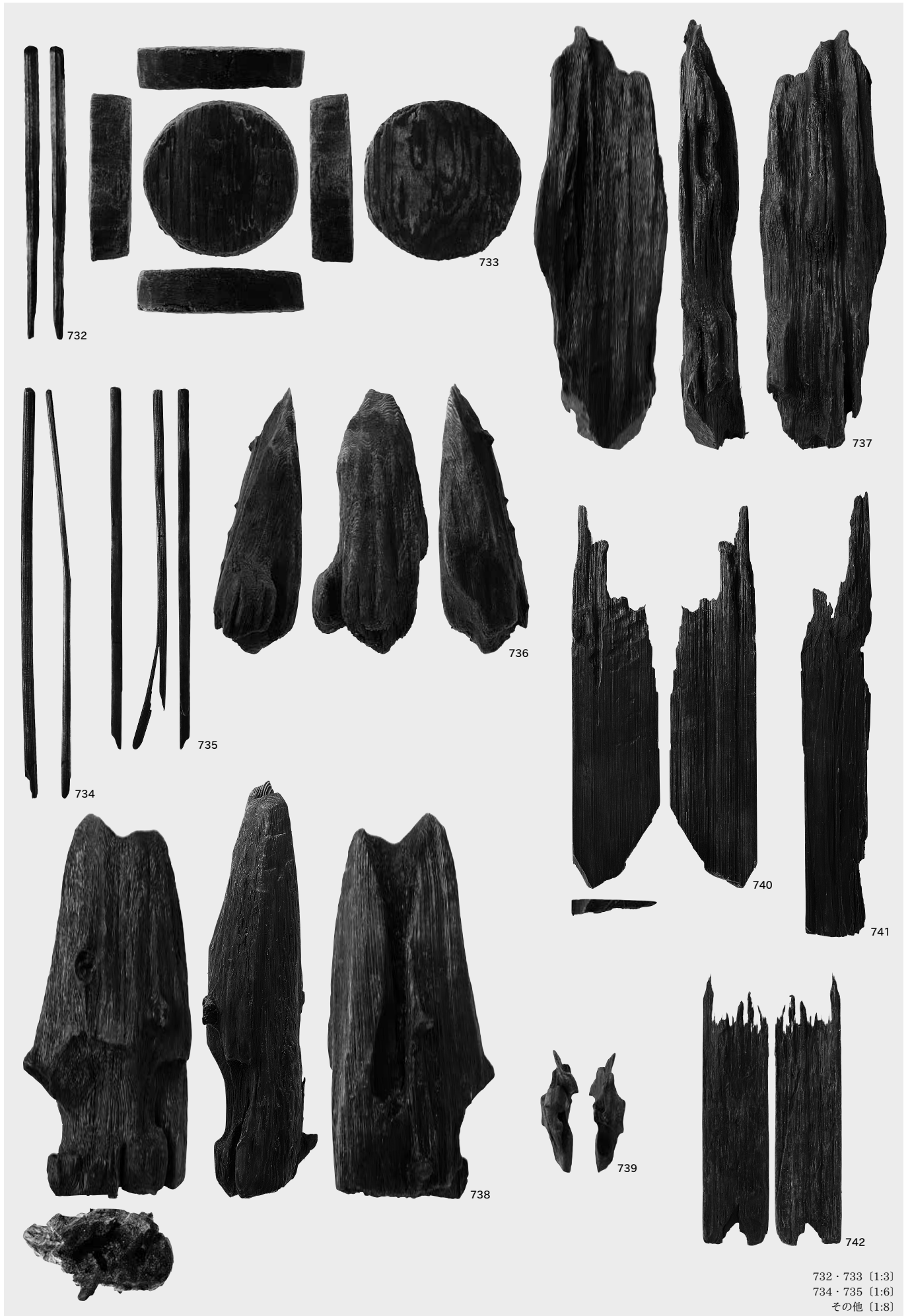


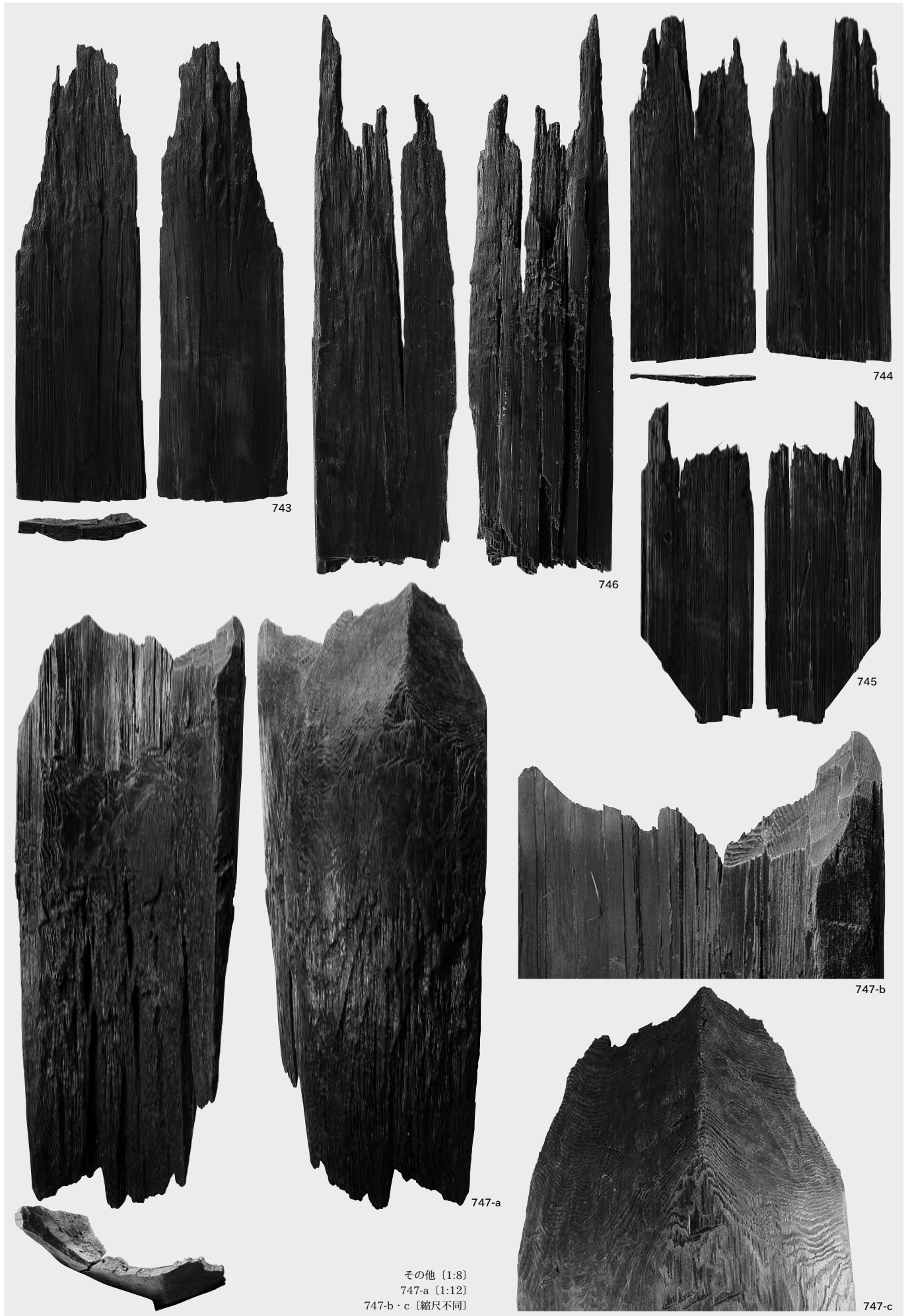
720



725

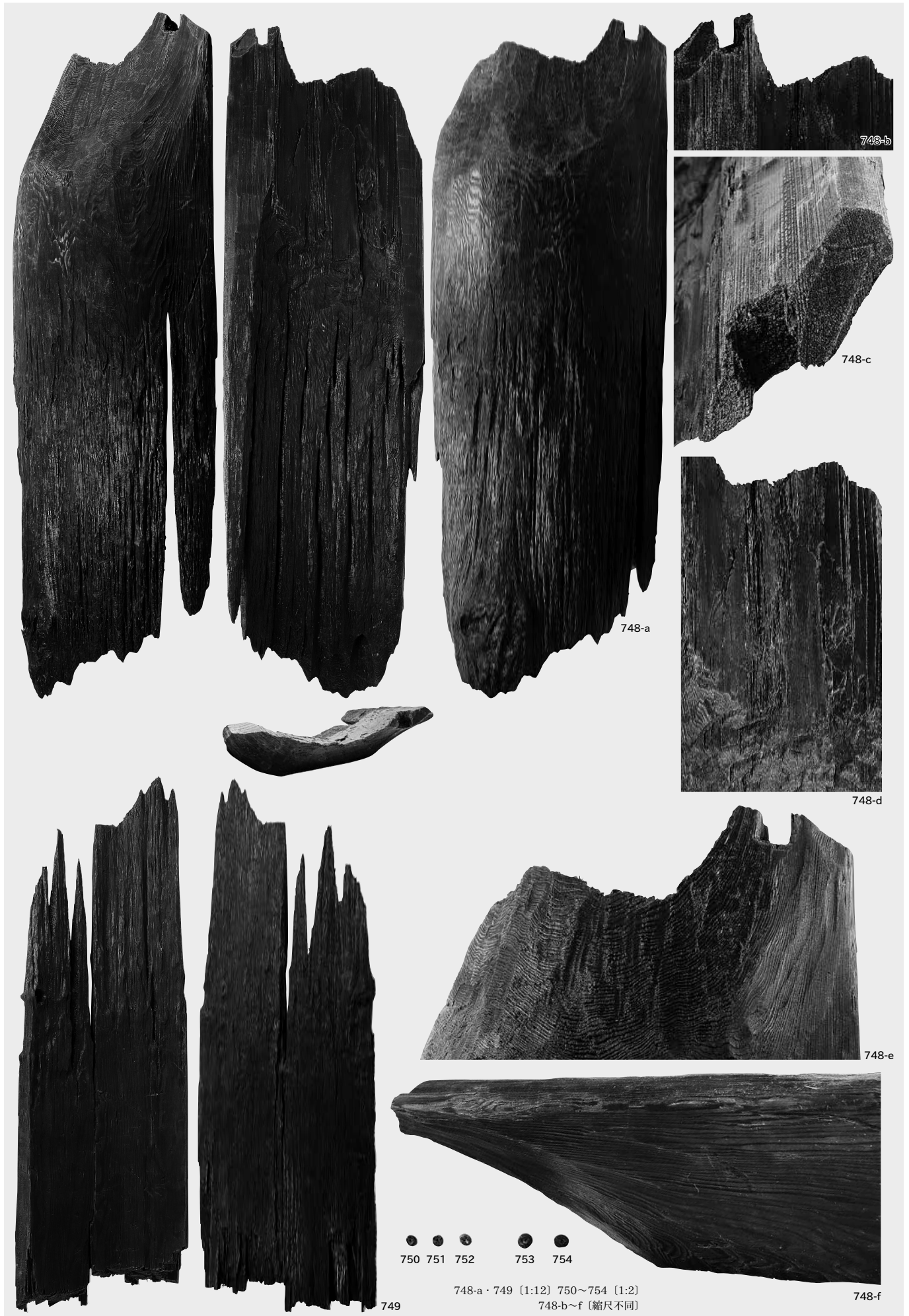
X線CT画像 (断面像)





その他 [1:8]
747-a [1:12]
747-b・c [縮尺不同]

747-c



750 751 752 753 754

748-a・749 [1:12] 750~754 [1:2]
748-b~f [縮尺不同]

報告書抄録

ふりがな	そがぼしよいせき だいに・さんじちようさ							
書名	曾我墓所遺跡 第2・3次調査							
副書名	－ 横越排水区雨水調整池築造工事に伴う曾我墓所遺跡第2・3次発掘調査報告書 －							
シリーズ名	新潟市埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号								
編著者名	龍田優子・西山美那（新潟市文化財センター）、高柳俊輔・中川晃子・脇本博康（株式会社吉田建設）、株式会社古環境研究所							
編集機関	新潟市文化スポーツ部歴史文化課 文化財センター							
所在地	〒950-1122 新潟県新潟市西区木場2748番地1 TEL 025-378-0480							
発行年月日	西暦2023年11月15日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
そがぼしよ 曾我墓所遺跡	にいがたけんにいがたし 新潟県新潟市 こうなんくまごし 江南区横越字 しもごう 下郷6052番 地ほか	15104	379	37° 51' 27" (第2次)	139° 09' 16" (第2次)	20190603～ 20191216 (第2次) 20200501～ 20201127 (第3次)	3,726.2 (第2次) 4,345.7 (第3次)	横越排水区雨水調整池築造工事に伴う本発掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
曾我墓所遺跡	集落遺跡	古墳時代、奈良時代、平安時代、中世、近世		竪穴建物・掘立柱建物・井戸・土坑・溝状遺構・性格不明遺構・ピット		土師器・須恵器・土製品・石製品・金属製品・木製品		鉄製鋤杖頭・鉄鐸・須恵器環状瓶・鳥形製品などが遺構からまとめて出土
要約	曾我墓所遺跡は、阿賀野川左岸の自然堤防上に立地し標高約3.8～4.5mを測る。周辺は水田であるが、東側は南北に延びる自然堤防上が住宅地となっている。調査は、横越排水区雨水調整池築造工事に伴い令和元（2019）・2年に実施した。発掘調査面積は8,071.9m ² である（2か年継続で調査している場所もあるため実際には7,198.7m ² ）。調査の結果、大量の遺物が出土し8世紀後半から9世紀初頭を最盛期とする奈良・平安時代の集落跡であることが分かった。調査区は、居住域と生産域・祭祀的な空間に分かれており、短期間に竪穴建物や掘立柱建物の建て替えをしていた様子がうかがえる。また、鉄製鋤杖頭・鉄鐸と鳥形製品や鳥足の付いた須恵器環状瓶などが8世紀後半の土器とともにまとめて出土した。							

曾我墓所遺跡 第2・3次調査

－ 横越排水区雨水調整池築造工事に伴う曾我墓所遺跡第2・3次発掘調査報告書 －

2023年11月14日印刷

2023年11月15日発行

編集 新潟市歴史文化課文化財センター
〒950-1122 新潟市西区木場2748番地1
TEL 025 (378) 0480

発行 新潟市教育委員会
〒951-8554 新潟市中央区古町通7番町1010番地
古町ルフル4階
TEL 025 (228) 1000

印刷・製本 株式会社ハイグラフィック
〒950-2022 新潟市西区小針1丁目11番8号
TEL 025 (233) 0321